2026年度
理工・生命科学部教養科目
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2026/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

英語科目【H3001】コミュニケーション・ストラテジー［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］春学期授業/Spring 1
英語科目【H3002】コミュニケーション・ストラテジー［太田　美智子］春学期授業/Spring 3
英語科目【H3003】コミュニケーション・ストラテジー［ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ］春学期授業/Spring 4
英語科目【H3004】コミュニケーション・ストラテジー［長谷川　秀子］秋学期授業/Fall 6
英語科目【H3005】コミュニケーション・ストラテジー［HUGO　L　DRAINVILLE］春学期授業/Spring 8
英語科目【H3006】コミュニケーション・ストラテジー［ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ］春学期授業/Spring 10
英語科目【H3007】コミュニケーション・ストラテジー［早舩　由紀見］春学期授業/Spring 12
英語科目【H3008】コミュニケーション・ストラテジー［ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ］秋学期授業/Fall 13
英語科目【H3010】コミュニケーション・ストラテジー［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］秋学期授業/Fall 15
英語科目【H3011】コミュニケーション・ストラテジー［永井　誠］春学期授業/Spring 17
英語科目【H3012】コミュニケーション・ストラテジー［川口　悠子］秋学期授業/Fall 19
英語科目【H3013】コミュニケーション・ストラテジー［早舩　由紀見］秋学期授業/Fall 21
英語科目【H3014】コミュニケーション・ストラテジー［ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ］春学期授業/Spring 22
英語科目【H3016】コミュニケーション・ストラテジー［ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ］秋学期授業/Fall 24
英語科目【H3017】コミュニケーション・ストラテジー［HUGO　L　DRAINVILLE］秋学期授業/Fall 26
英語科目【H3018】コミュニケーション・ストラテジー［太田　美智子］秋学期授業/Fall 28
英語科目【H3020】コミュニケーション・ストラテジー［ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ］秋学期授業/Fall 29
英語科目【H3022】コミュニケーション・ストラテジー［平賀　史子］春学期授業/Spring 31
英語科目【H3023】コミュニケーション・ストラテジー［KOPROWSKI　MARK］春学期授業/Spring 33
英語科目【H3024】コミュニケーション・ストラテジー［HUGO　L　DRAINVILLE］春学期授業/Spring 35
英語科目【H3026】コミュニケーション・ストラテジー［早舩　由紀見］春学期授業/Spring 37
英語科目【H3027】コミュニケーション・ストラテジー［早舩　由紀見］秋学期授業/Fall 38
英語科目【H3028】コミュニケーション・ストラテジー［染谷　昌弘］秋学期授業/Fall 39
英語科目【H3029】コミュニケーション・ストラテジー［染谷　昌弘］春学期授業/Spring 41
英語科目【H3030】コミュニケーション・ストラテジー［庭山　雄吉］春学期授業/Spring 43
英語科目【H3031】コミュニケーション・ストラテジー［庭山　雄吉］秋学期授業/Fall 45
英語科目【H3032】コミュニケーション・ストラテジー［永井　誠］秋学期授業/Fall 47
英語科目【H3033】コミュニケーション・ストラテジー［永井　誠］春学期授業/Spring 49
英語科目【H3035】コミュニケーション・ストラテジー［KOPROWSKI　MARK］秋学期授業/Fall 51
英語科目【H3036】コミュニケーション・ストラテジー［鈴木　幸］秋学期授業/Fall 53
英語科目【H3037】コミュニケーション・ストラテジー［HUGO　L　DRAINVILLE］秋学期授業/Fall 55
英語科目【H3039】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［花﨑　一夫］春学期授業/Spring 57
英語科目【H3040】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［柏原　俊樹］春学期授業/Spring 59
英語科目【H3041】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［宗像　俊輔］春学期授業/Spring 60
英語科目【H3043】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［渡邊　晶子］春学期授業/Spring 62
英語科目【H3045】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［HUGO　L　DRAINVILLE］春学期授業/Spring 63
英語科目【H3046】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［花﨑　一夫］春学期授業/Spring 65
英語科目【H3047】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［柏原　俊樹］春学期授業/Spring 66
英語科目【H3048】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］春学期授業/Spring .. 68
英語科目【H3050】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［今政　肇］春学期授業/Spring 70
英語科目【H3051】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［島田　顕］春学期授業/Spring 72
英語科目【H3052】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［小林　直樹］春学期授業/Spring 74
英語科目【H3053】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［中野　里美］春学期授業/Spring 75

英語科目【H3054】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ］春学期授業/Spring 77
英語科目【H3056】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［島田　顕］春学期授業/Spring 79
英語科目【H3057】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［城　俊雄］春学期授業/Spring 81
英語科目【H3058】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［小屋　多恵子］春学期授業/Spring 83
英語科目【H3059】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［平賀　史子］春学期授業/Spring 85
英語科目【H3060】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ］春学期授業/Spring 87
英語科目【H3062】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［花﨑　一夫］秋学期授業/Fall 89
英語科目【H3063】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［柏原　俊樹］秋学期授業/Fall 91
英語科目【H3064】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［宗像　俊輔］秋学期授業/Fall 92
英語科目【H3066】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［渡邊　晶子］秋学期授業/Fall 94
英語科目【H3068】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［ＨＵＧＯ　Ｌ　ＤＲＡＩＮＶＩＬＬＥ］秋学期授業/Fall 95
英語科目【H3069】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［花﨑　一夫］秋学期授業/Fall 97
英語科目【H3070】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［柏原　俊樹］秋学期授業/Fall 99
英語科目【H3071】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］秋学期授業/Fall ... 101
英語科目【H3073】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［今政　肇］秋学期授業/Fall 103
英語科目【H3074】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［島田　顕］秋学期授業/Fall 105
英語科目【H3075】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［小林　直樹］秋学期授業/Fall 107
英語科目【H3076】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［中野　里美］秋学期授業/Fall 108
英語科目【H3077】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ］秋学期授業/Fall 110
英語科目【H3079】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［島田　顕］秋学期授業/Fall 112
英語科目【H3080】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［城　俊雄］秋学期授業/Fall 114
英語科目【H3081】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［小屋　多恵子］秋学期授業/Fall 116
英語科目【H3082】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［平賀　史子］秋学期授業/Fall 118
英語科目【H3083】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ］秋学期授業/Fall 120
人文・社会・自然科学系【H3085】哲学入門［沖本　龍哉］秋学期授業/Fall 122
人文・社会・自然科学系【H3086】哲学入門［沖本　龍哉］春学期授業/Spring 123
人文・社会・自然科学系【H3087】哲学入門［美頭　千不美］春学期授業/Spring 124
人文・社会・自然科学系【H3088】言語学概論［小屋　多恵子］春学期授業/Spring 126
人文・社会・自然科学系【H3089】言語学概論［梨本　邦直］秋学期授業/Fall 128
人文・社会・自然科学系【H3090】日本文化論［横山　泰子］春学期授業/Spring 129
人文・社会・自然科学系【H3091】日本文化論［横山　泰子］春学期授業/Spring 130
人文・社会・自然科学系【H3092】アジア文化論［呉　暁林］秋学期授業/Fall 131
人文・社会・自然科学系【H3093】ヨーロッパ・アメリカ文化論［川口　悠子］春学期授業/Spring 133
人文・社会・自然科学系【H3094】アフリカ文化論［大形　いずみ］春学期授業/Spring 134
人文・社会・自然科学系【H3095】比較文化論［横山　泰子］秋学期授業/Fall 136
人文・社会・自然科学系【H3096】比較文化論［横山　泰子］秋学期授業/Fall 137
人文・社会・自然科学系【H3097】映像芸術［山口　雅敏］春学期授業/Spring 138
人文・社会・自然科学系【H3098】映像芸術［山口　雅敏］秋学期授業/Fall 139
人文・社会・自然科学系【H3099】音楽芸術［竹内　誠］秋学期授業/Fall 140
人文・社会・自然科学系【H3100】音楽芸術［竹内　誠］春学期授業/Spring 142
人文・社会・自然科学系【H3101】こころの働き［山本　晃輔］秋学期授業/Fall 144
人文・社会・自然科学系【H3102】パーソナリティ［伊藤　ひろみ］春学期授業/Spring 145
人文・社会・自然科学系【H3103】知的所有権［武生　昌士、安田　和史］秋学期授業/Fall 146
人文・社会・自然科学系【H3104】知的所有権［武生　昌士、安田　和史］春学期授業/Spring 147
人文・社会・自然科学系【H3105】社会科学の方法論［ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ］春学期授業/Spring 148
人文・社会・自然科学系【H3106】国際関係論［福島　亮］秋学期授業/Fall 150
人文・社会・自然科学系【H3107】基礎経済学［呉　暁林］春学期授業/Spring 152
人文・社会・自然科学系【H3108】応用経済学［王　娜］春学期授業/Spring 154
人文・社会・自然科学系【H3109】企業マネージメント［坂　裕和］春学期授業/Spring 156
人文・社会・自然科学系【H3110】現代政治学　［川口　悠子］秋学期授業/Fall 158
人文・社会・自然科学系【H3111】キャリアデザイン［斎藤　真一郎］秋学期授業/Fall 160
人文・社会・自然科学系【H3112】法学（日本国憲法）［押久保　倫夫］春学期授業/Spring 163
人文・社会・自然科学系【H3113】法学（日本国憲法）［押久保　倫夫］春学期授業/Spring 166
人文・社会・自然科学系【H3114】法と社会［押久保　倫夫］秋学期授業/Fall 169

人文・社会・自然科学系【H3115】 法と社会［押久保　倫夫］ 秋学期授業/Fall 171
人文・社会・自然科学系【H3116】 科学技術史［馬場　敏幸］ 春学期授業/Spring 173
人文・社会・自然科学系【H3117】 科学技術史［馬場　敏幸］ 秋学期授業/Fall 174
人文・社会・自然科学系【H3119】 先端技術・社会論［原　昌己］ 秋学期授業/Fall 175
人文・社会・自然科学系【H3120】 先端技術・社会論［原　昌己］ 春学期授業/Spring 176
人文・社会・自然科学系【H3121】 技術者倫理［詫間　直樹］ 秋学期授業/Fall 177
人文・社会・自然科学系【H3122】 情報倫理［笹原　和織］ 秋学期授業/Fall 179
人文・社会・自然科学系【H3123】 環境と資源［中嶋　吉弘］ 春学期授業/Spring 180
人文・社会・自然科学系【H3124】 環境と資源［中嶋　吉弘］ 秋学期授業/Fall 182
人文・社会・自然科学系【H3126】 宇宙と地球［石川　壮一］ 春学期授業/Spring 184
人文・社会・自然科学系【H3127】 宇宙と地球［石川　壮一］ 秋学期授業/Fall 185
人文・社会・自然科学系【H3128】 生命の起源と進化［田島　寛隆］ 秋学期授業/Fall 186
人文・社会・自然科学系【H3129】 生命の起源と進化［石黒　亮］ 春学期授業/Spring 187
人文・社会・自然科学系【H3130】 生命の起源と進化［田島　寛隆］ 春学期授業/Spring 188
人文・社会・自然科学系【H3131】 生物の多様性［青木　誠志郎、柴尾　晴信］ 春学期授業/Spring 189
人文・社会・自然科学系【H3132】 生物の多様性［柴尾　晴信］ 秋学期授業/Fall 191
人文・社会・自然科学系【H3133】 生物の多様性［青木　誠志郎］ 春学期授業/Spring 193
人文・社会・自然科学系【H3134】 物質科学と先端技術［尾池　秀章］ 春学期授業/Spring 195
選択語学系【H3176】 英語中級コミュニケーション［ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ］ 春学期授業/Spring 197
選択語学系【H3178】 英語中級コミュニケーション［KOPROWSKI　MARK］ 秋学期授業/Fall 199
選択語学系【H3179】 英語中級リーディング［長谷川　秀子］ 春学期授業/Spring 201
選択語学系【H3180】 英語中級リーディング［吉川　直澄］ 秋学期授業/Fall 203
選択語学系【H3182】 英語中級リーディング［宗像　俊輔］ 秋学期授業/Fall 204
選択語学系【H3186】 ビジネス英語［小林　直樹］ 秋学期授業/Fall 205
選択語学系【H3190】 基礎英語［染谷　昌弘］ 春学期授業/Spring 206
選択語学系【H3191】 基礎英語［島田　顕］ 秋学期授業/Fall 207
選択語学系【H3195】 英語資格試験準備講座［島田　顕］ 春学期授業/Spring 209
選択語学系【H3196】 英語資格試験準備講座［川口　悠子］ 春学期授業/Spring 211
選択語学系【H3199】 基礎ドイツ語Ⅰ［鈴木　淳子］ 春学期授業/Spring 213
選択語学系【H3200】 基礎ドイツ語Ⅰ［高橋　完治］ 春学期授業/Spring 214
選択語学系【H3208】 基礎フランス語Ⅰ［木下　晴美］ 春学期授業/Spring 215
選択語学系【H3209】 基礎フランス語Ⅰ［木下　晴美］ 春学期授業/Spring 216
選択語学系【H3211】 基礎フランス語ＩＩ［木下　晴美］ 秋学期授業/Fall 217
選択語学系【H3212】 基礎フランス語ＩＩ［木下　晴美］ 秋学期授業/Fall 218
選択語学系【H3218】 基礎スペイン語Ⅰ［塩﨑　公靖］ 春学期授業/Spring 219
選択語学系【H3219】 基礎スペイン語Ⅰ［渡辺　雅哉］ 春学期授業/Spring 220
選択語学系【H3220】 基礎スペイン語ＩＩ［塩﨑　公靖］ 秋学期授業/Fall 221
選択語学系【H3221】 基礎スペイン語ＩＩ［渡辺　雅哉］ 秋学期授業/Fall 222
選択語学系【H3231】 基礎中国語ＩＩ［渡辺　浩司］ 秋学期授業/Fall 223
選択語学系【H3236】 基礎朝鮮語Ⅰ［松本　ジュン］ 春学期授業/Spring 224
選択語学系【H3237】 基礎朝鮮語Ⅰ［松本　ジュン］ 春学期授業/Spring 226
選択語学系【H3238】 基礎朝鮮語ＩＩ［松本　ジュン］ 秋学期授業/Fall 228
選択語学系【H3239】 基礎朝鮮語ＩＩ［松本　ジュン］ 秋学期授業/Fall 229
リテラシー系【H3244】 文章作法［矢口　貢大］ 春学期授業/Spring 230
リテラシー系【H3245】 情報リテラシーと表現技術［山岸　昌夫］ 春学期授業/Spring 231
リテラシー系【H3246】 情報リテラシーと表現技術［岩城　敏］ 春学期授業/Spring 232
リテラシー系【H3247】 情報リテラシーと表現技術［若林　哲］ 春学期授業/Spring 233
リテラシー系【H3249】 情報リテラシーと表現技術［若林　哲］ 春学期授業/Spring 235
リテラシー系【H3250】 情報リテラシーと表現技術［今枝　佑輔］ 春学期授業/Spring 237
リテラシー系【H3251】 情報処理技法［東原　正智］ 秋学期授業/Fall 239
リテラシー系【H3252】 情報処理技法［陸名　雄一］ 秋学期授業/Fall 240
リテラシー系【H3253】 情報処理技法［三橋　秀生］ 秋学期授業/Fall 241
リテラシー系【H3254】 情報処理技法［坂田　繁洋］ 秋学期授業/Fall 242
リテラシー系【H3255】 情報処理技法［伊藤　賢太郎］ 秋学期授業/Fall 244
リテラシー系【H3256】 情報リテラシーと表現技術［山岸　昌夫］ 春学期授業/Spring 245
理系教養科目（数学系）【H3258】 線形代数学及び演習ＩＩ［杉山　健一］ 秋学期授業/Fall 246
理系教養科目（数学系）【H3263】 線形代数学及び演習Ⅰ［儀島　伸］ 春学期授業/Spring 247

理系教養科目（数学系）【H3264】線形代数学及び演習Ⅰ［礒島　伸］春学期授業/Spring 249
理系教養科目（数学系）【H3265】線形代数学及び演習Ⅰ［伊藤　賢太郎］春学期授業/Spring 251
理系教養科目（数学系）【H3267】線形代数学及び演習Ⅰ［本多　恭子］春学期授業/Spring 253
理系教養科目（数学系）【H3268】線形代数学及び演習Ⅰ［本多　恭子］春学期授業/Spring 254
理系教養科目（数学系）【H3269】線形代数学及び演習ⅠⅠ［杉山　健一］秋学期授業/Fall 255
理系教養科目（数学系）【H3271】線形代数学及び演習ⅠⅠ［木村　真琴］秋学期授業/Fall 256
理系教養科目（数学系）【H3273】線形代数学及び演習ⅠⅠ［木村　真琴］秋学期授業/Fall 257
理系教養科目（数学系）【H3274】線形代数学及び演習ⅠⅠ［三橋　秀生］秋学期授業/Fall 258
理系教養科目（数学系）【H3275】線形代数学及び演習ⅠⅠ［三橋　秀生］秋学期授業/Fall 259
理系教養科目（数学系）【H3276】線形代数学及び演習ⅠⅠ［礒島　伸］秋学期授業/Fall 260
理系教養科目（数学系）【H3277】線形代数学及び演習ⅠⅠ［礒島　伸］秋学期授業/Fall 261
理系教養科目（数学系）【H3278】線形代数学及び演習ⅠⅠ［伊藤　賢太郎］秋学期授業/Fall 262
理系教養科目（数学系）【H3280】線形代数学及び演習ⅠⅠ［本多　恭子］秋学期授業/Fall 263
理系教養科目（数学系）【H3281】線形代数学及び演習ⅠⅠ［本多　恭子］秋学期授業/Fall 264
理系教養科目（数学系）【H3290】微分積分学及び演習Ⅰ［寺杣　友秀］春学期授業/Spring 265
理系教養科目（数学系）【H3291】微分積分学及び演習Ⅰ［寺杣　友秀］春学期授業/Spring 266
理系教養科目（数学系）【H3292】微分積分学及び演習Ⅰ［伊藤　賢太郎］春学期授業/Spring 267
理系教養科目（数学系）【H3293】微分積分学及び演習Ⅰ［伊藤　賢太郎］春学期授業/Spring 268
理系教養科目（数学系）【H3294】微分積分学及び演習Ⅰ［伊藤　賢太郎］春学期授業/Spring 269
理系教養科目（数学系）【H3296】微分積分学及び演習ⅠⅠ［坂田　繁洋］秋学期授業/Fall 270
理系教養科目（数学系）【H3298】微分積分学及び演習ⅠⅠ［寺田　至］秋学期授業/Fall 271
理系教養科目（数学系）【H3299】微分積分学及び演習ⅠⅠ［寺田　至］秋学期授業/Fall 272
理系教養科目（数学系）【H3300】微分積分学及び演習ⅠⅠ［坂田　繁洋］秋学期授業/Fall 273
理系教養科目（数学系）【H3301】微分積分学及び演習ⅠⅠ［陸名　雄一］秋学期授業/Fall 274
理系教養科目（数学系）【H3302】微分積分学及び演習ⅠⅠ［坂田　繁洋］秋学期授業/Fall 275
理系教養科目（数学系）【H3303】微分積分学及び演習ⅠⅠ［髙澤　兼二郎］秋学期授業/Fall 276
理系教養科目（数学系）【H3304】微分積分学及び演習ⅠⅠ［髙澤　兼二郎］秋学期授業/Fall 277
理系教養科目（数学系）【H3305】微分積分学及び演習ⅠⅠ［伊藤　賢太郎］秋学期授業/Fall 278
理系教養科目（数学系）【H3306】微分積分学及び演習ⅠⅠ［伊藤　賢太郎］秋学期授業/Fall 279
理系教養科目（数学系）【H3307】微分積分学及び演習ⅠⅠ［伊藤　賢太郎］秋学期授業/Fall 280
理系教養科目（理科系）【H3308】物理学基礎Ⅰ［関　優也］春学期授業/Spring 281
理系教養科目（理科系）【H3309】物理学基礎Ⅰ［関　優也］春学期授業/Spring 282
理系教養科目（理科系）【H3310】物理学基礎Ⅰ［小鍋　哲］春学期授業/Spring 283
理系教養科目（理科系）【H3311】物理学基礎Ⅰ［加来　滋］春学期授業/Spring 284
理系教養科目（理科系）【H3312】物理学基礎Ⅰ［今枝　佑輔］春学期授業/Spring 285
理系教養科目（理科系）【H3313】物理学基礎Ⅰ［今枝　佑輔］春学期授業/Spring 287
理系教養科目（理科系）【H3315】物理学基礎Ⅰ［加来　滋］春学期授業/Spring 289
理系教養科目（理科系）【H3316】物理学基礎Ⅰ［小鍋　哲］春学期授業/Spring 290
理系教養科目（理科系）【H3317】物理学基礎Ⅰ［小鍋　哲］春学期授業/Spring 291
理系教養科目（理科系）【H3318】物理学基礎ⅠⅠ［今枝　佑輔］秋学期授業/Fall 292
理系教養科目（理科系）【H3319】物理学基礎ⅠⅠ［今枝　佑輔］秋学期授業/Fall 294
理系教養科目（理科系）【H3320】物理学基礎ⅠⅠ［小鍋　哲］秋学期授業/Fall 296
理系教養科目（理科系）【H3321】物理学基礎ⅠⅠ［加来　滋］秋学期授業/Fall 297
理系教養科目（理科系）【H3322】物理学基礎ⅠⅠ［今枝　佑輔］秋学期授業/Fall 298
理系教養科目（理科系）【H3323】物理学基礎ⅠⅠ［今枝　佑輔］秋学期授業/Fall 300
理系教養科目（理科系）【H3325】物理学基礎ⅠⅠ［加来　滋］秋学期授業/Fall 302
理系教養科目（理科系）【H3326】物理学基礎ⅠⅠ［小鍋　哲］秋学期授業/Fall 303
理系教養科目（理科系）【H3327】物理学基礎ⅠⅠ［小鍋　哲］秋学期授業/Fall 304
理系教養科目（理科系）【H3328】化学基礎Ⅰ［落合　剛］春学期授業/Spring 305
理系教養科目（理科系）【H3329】化学基礎Ⅰ［落合　剛］春学期授業/Spring 308
理系教養科目（理科系）【H3330】化学基礎Ⅰ［普神　敬悟］春学期授業/Spring 311
理系教養科目（理科系）【H3331】化学基礎Ⅰ［尾池　秀章］春学期授業/Spring 313
理系教養科目（理科系）【H3332】化学基礎Ⅰ［見附　孝一郎］春学期授業/Spring 314
理系教養科目（理科系）【H3333】化学基礎Ⅰ［普神　敬悟］春学期授業/Spring 316
理系教養科目（理科系）【H3334】化学基礎Ⅰ［島田　恵理子］春学期授業/Spring 318
理系教養科目（理科系）【H3335】化学基礎Ⅰ［大波　英幸］春学期授業/Spring 320
理系教養科目（理科系）【H3336】化学基礎Ⅰ［島田　恵理子］春学期授業/Spring 321

理系教養科目（理科系）【H3338】 化学基礎ＩＩ［落合　剛］ 秋学期授業/Fall 323
理系教養科目（理科系）【H3339】 化学基礎ＩＩ［落合　剛］ 秋学期授業/Fall 326
理系教養科目（理科系）【H3340】 化学基礎ＩＩ［普神　敬悟］ 秋学期授業/Fall 329
理系教養科目（理科系）【H3341】 化学基礎ＩＩ［尾池　秀章］ 秋学期授業/Fall 331
理系教養科目（理科系）【H3342】 化学基礎ＩＩ［見附　孝一郎］ 秋学期授業/Fall 332
理系教養科目（理科系）【H3343】 化学基礎ＩＩ［普神　敬悟］ 秋学期授業/Fall 334
理系教養科目（理科系）【H3344】 化学基礎ＩＩ［島田　恵理子］ 秋学期授業/Fall 336
理系教養科目（理科系）【H3345】 化学基礎ＩＩ［大波　英幸］ 秋学期授業/Fall 338
理系教養科目（理科系）【H3346】 化学基礎ＩＩ［島田　恵理子］ 秋学期授業/Fall 340
理系教養科目（理科系）【H3348】 科学実験Ｉ［加来　滋］ 春学期授業/Spring 342
理系教養科目（理科系）【H3349】 科学実験Ｉ［小鍋　哲］ 春学期授業/Spring 343
理系教養科目（理科系）【H3350】 科学実験Ｉ［加来　滋］ 秋学期授業/Fall 344
理系教養科目（理科系）【H3351】 科学実験Ｉ［加来　滋］ 秋学期授業/Fall 345
理系教養科目（理科系）【H3352】 物理学実験［吉野　理貴］ 秋学期授業/Fall 346
理系教養科目（理科系）【H3353】 科学実験Ｉ［吉野　理貴］ 春学期授業/Spring 347
理系教養科目（理科系）【H3354】 科学実験ＩＩ［尾池　秀章］ 春学期授業/Spring 348
理系教養科目（理科系）【H3355】 科学実験ＩＩ［大波　英幸］ 春学期授業/Spring 350
理系教養科目（理科系）【H3356】 科学実験ＩＩ［尾池　秀章］ 秋学期授業/Fall 352
理系教養科目（理科系）【H3357】 科学実験ＩＩ［尾池　秀章］ 秋学期授業/Fall 354
理系教養科目（理科系）【H3358】 化学実験［大波　英幸］ 秋学期授業/Fall 356
理系教養科目（理科系）【H3359】 科学実験ＩＩ［尾池　秀章］ 春学期授業/Spring 358
理系教養科目（理科系）【H3360】 科学実験ＩＩＩ［田島　寛隆］ 春学期授業/Spring 360
理系教養科目（理科系）【H3361】 科学実験ＩＩＩ［水澤　直樹、大森　楓河、大野　真］ 秋学期授業/Fall 361
理系教養科目（理科系）【H3362】 科学実験ＩＩＩ［水澤　直樹、大森　楓河、大野　真］ 春学期授業/Spring 362
理系教養科目（理科系）【H3363】 生物学実験［田島　寛隆］ 秋学期授業/Fall 363
理系教養科目（理科系）【H3364】 科学実験ＩＩＩ［水澤　直樹］ 秋学期授業/Fall 364
理系教養科目（理科系）【H3365】 科学実験ＩＩＩ［水澤　直樹］ 春学期授業/Spring 365
理系教養科目（理科系）【H3380】 生物学基礎Ｉ［石黒　亮］ 春学期授業/Spring 366
理系教養科目（理科系）【H3381】 生物学基礎Ｉ［水澤　直樹］ 春学期授業/Spring 367
理系教養科目（理科系）【H3382】 生物学基礎Ｉ［細谷　茂生］ 春学期授業/Spring 368
理系教養科目（理科系）【H3383】 生物学基礎Ｉ［石黒　亮］ 春学期授業/Spring 370
理系教養科目（理科系）【H3384】 生物学基礎ＩＩ［田島　寛隆］ 秋学期授業/Fall 371
理系教養科目（理科系）【H3385】 生物学基礎ＩＩ［水澤　直樹］ 秋学期授業/Fall 372
理系教養科目（理科系）【H3386】 生物学基礎ＩＩ［細谷　茂生］ 秋学期授業/Fall 373
理系教養科目（理科系）【H3387】 生物学基礎ＩＩ［石黒　亮］ 秋学期授業/Fall 375
英語科目【H3439】 アカデミック・リーディングＩ［村上　弥生］ 春学期授業/Spring 376
英語科目【H3440】 アカデミック・リーディングＩ［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］ 春学期授業/Spring 378
英語科目【H3442】 アカデミック・リーディングＩ［小畑　美貴］ 春学期授業/Spring 380
英語科目【H3443】 アカデミック・リーディングＩ［中野　里美］ 春学期授業/Spring 382
英語科目【H3444】 アカデミック・リーディングＩ［小林　直樹］ 春学期授業/Spring 383
英語科目【H3445】 アカデミック・リーディングＩ［ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ］ 春学期授業/Spring 384
英語科目【H3446】 アカデミック・リーディングＩ［ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ］ 春学期授業/Spring 385
英語科目【H3447】 アカデミック・リーディングＩ［小畑　美貴］ 春学期授業/Spring 386
英語科目【H3448】 アカデミック・リーディングＩ［吉川　直澄］ 春学期授業/Spring 388
英語科目【H3449】 アカデミック・リーディングＩ［今政　肇］ 春学期授業/Spring 390
英語科目【H3450】 アカデミック・リーディングＩ［乾　展子］ 春学期授業/Spring 392
英語科目【H3451】 アカデミック・リーディングＩ［尾関　裕子］ 春学期授業/Spring 394
英語科目【H3452】 アカデミック・リーディングＩ［安田　孝子］ 春学期授業/Spring 395
英語科目【H3454】 アカデミック・リーディングＩ［安田　孝子］ 春学期授業/Spring 397
英語科目【H3455】 アカデミック・リーディングＩ［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］ 春学期授業/Spring 399
英語科目【H3457】 アカデミック・リーディングＩ［鈴木　幸］ 春学期授業/Spring 401
英語科目【H3458】 アカデミック・リーディングＩ［ＨＵＧＯ　Ｌ　ＤＲＡＩＮＶＩＬＬＥ］ 春学期授業/Spring 403
英語科目【H3459】 アカデミック・リーディングＩＩ［村上　弥生］ 秋学期授業/Fall 404
英語科目【H3460】 アカデミック・リーディングＩＩ［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］ 秋学期授業/Fall 406
英語科目【H3462】 アカデミック・リーディングＩＩ［小畑　美貴］ 秋学期授業/Fall 408
英語科目【H3463】 アカデミック・リーディングＩＩ［中野　里美］ 秋学期授業/Fall 410
英語科目【H3464】 アカデミック・リーディングＩＩ［小林　直樹］ 秋学期授業/Fall 411

英語科目【H3465】アカデミック・リーディングＩＩ［ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ］秋学期授業/Fall . 412
英語科目【H3466】アカデミック・リーディングＩＩ［ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ］秋学期授業/Fall . 413
英語科目【H3467】アカデミック・リーディングＩＩ［小畑　美貴］秋学期授業/Fall 414
英語科目【H3468】アカデミック・リーディングＩＩ［吉川　直澄］秋学期授業/Fall 416
英語科目【H3469】アカデミック・リーディングＩＩ［今政　肇］秋学期授業/Fall 418
英語科目【H3470】アカデミック・リーディングＩＩ［乾　展子］秋学期授業/Fall 420
英語科目【H3471】アカデミック・リーディングＩＩ［尾関　裕子］秋学期授業/Fall 422
英語科目【H3472】アカデミック・リーディングＩＩ［安田　孝子］秋学期授業/Fall 423
英語科目【H3474】アカデミック・リーディングＩＩ［安田　孝子］秋学期授業/Fall 425
英語科目【H3475】アカデミック・リーディングＩＩ［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］秋学期授業/Fall 427
英語科目【H3477】アカデミック・リーディングＩＩ［鈴木　幸］秋学期授業/Fall 429
英語科目【H3478】アカデミック・リーディングＩＩ［ＨＵＧＯ　Ｌ　ＤＲＡＩＮＶＩＬＬＥ］秋学期授業/Fall . 431
英語科目【H3479】アカデミック・ライティング［小林　直樹］春学期授業/Spring 432
英語科目【H3480】アカデミック・ライティング［ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ］春学期授業/Spring 433
英語科目【H3481】アカデミック・ライティング［ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ］春学期授業/Spring .. 435
英語科目【H3482】アカデミック・ライティング［中野　里美］春学期授業/Spring 436
英語科目【H3483】アカデミック・ライティング［ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ］秋学期授業/Fall . 438
英語科目【H3484】アカデミック・ライティング［中野　里美］秋学期授業/Fall 440
英語科目【H3485】アカデミック・ライティング［ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ］秋学期授業/Fall 442
英語科目【H3486】アカデミック・ライティング［今政　肇］春学期授業/Spring 443
英語科目【H3487】アカデミック・ライティング［ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ］春学期授業/Spring 444
英語科目【H3488】アカデミック・ライティング［ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ］秋学期授業/Fall 446
英語科目【H3489】アカデミック・ライティング［今政　肇］秋学期授業/Fall 448
英語科目【H3490】アカデミック・ライティング［太田　美智子］春学期授業/Spring 449
英語科目【H3492】アカデミック・ライティング［尾関　裕子］春学期授業/Spring 450
英語科目【H3493】アカデミック・ライティング［ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ］秋学期授業/Fall 452
英語科目【H3494】アカデミック・ライティング［乾　展子］秋学期授業/Fall 454
英語科目【H3495】アカデミック・ライティング［ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ］春学期授業/Spring 455
英語科目【H3496】アカデミック・ライティング［太田　美智子］秋学期授業/Fall 457
英語科目【H3497】アカデミック・ライティング［乾　展子］春学期授業/Spring 458
英語科目【H3498】アカデミック・ライティング［尾関　裕子］秋学期授業/Fall 459
英語科目【H3499】アカデミック・ライティング［川口　悠子］春学期授業/Spring 461
英語科目【H3500】アカデミック・ライティング［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］春学期授業/Spring 463
英語科目【H3501】アカデミック・ライティング［村上　弥生］春学期授業/Spring 465
英語科目【H3502】アカデミック・ライティング［長谷川　秀子］春学期授業/Spring 467
英語科目【H3503】アカデミック・リーディングＩＩ［ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ］秋学期授業/Fall 469
英語科目【H3504】アカデミック・ライティング［ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ］秋学期授業/Fall 471
英語科目【H3505】アカデミック・ライティング［ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ］秋学期授業/Fall 473
英語科目【H3506】アカデミック・ライティング［ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ］秋学期授業/Fall 475
英語科目【H3507】アカデミック・ライティング［ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ］春学期授業/Spring 477
英語科目【H3508】アカデミック・ライティング［早舩　由紀見］春学期授業/Spring 479
英語科目【H3509】アカデミック・ライティング［ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ］春学期授業/Spring 480
英語科目【H3510】アカデミック・ライティング［尾関　裕子］春学期授業/Spring 482
英語科目【H3511】アカデミック・ライティング［早舩　由紀見］秋学期授業/Fall 484
英語科目【H3512】アカデミック・ライティング［川口　悠子］秋学期授業/Fall 485
英語科目【H3513】アカデミック・ライティング［川口　悠子］春学期授業/Spring 487
英語科目【H3514】アカデミック・ライティング［村上　弥生］秋学期授業/Fall 489
英語科目【H3516】アカデミック・ライティング［川口　悠子］秋学期授業/Fall 491
英語科目【H3517】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［吉川　直澄］春学期授業/Spring 493
英語科目【H3518】コミュニケーション・ストラテジー［鈴木　幸］春学期授業/Spring 495
英語科目【H3519】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［吉川　直澄］秋学期授業/Fall 497
英語科目【H3520】コミュニケーション・ストラテジー［鈴木　幸］秋学期授業/Fall 499
英語科目【H3521】アカデミック・ライティング［ＨＵＧＯ　Ｌ　ＤＲＡＩＮＶＩＬＬＥ］春学期授業/Spring .. 501
英語科目【H3522】アカデミック・ライティング［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］春学期授業/Spring 502
英語科目【H3523】コミュニケーション・ストラテジー［永井　誠］秋学期授業/Fall 504
英語科目【H3524】コミュニケーション・ストラテジー［鈴木　幸］春学期授業/Spring 506
英語科目【H3525】コミュニケーション・ストラテジー［平賀　史子］秋学期授業/Fall 508

英語科目【H3527】コミュニケーション・ストラテジー［ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ］秋学期授業/Fall 510
英語科目【H3528】アカデミック・ライティング［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］秋学期授業/Fall 512
英語科目【H3529】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［神　康介］春学期授業/Spring 514
英語科目【H3530】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［渡邊　晶子］春学期授業/Spring 516
英語科目【H3531】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［神　康介］秋学期授業/Fall 517
英語科目【H3532】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［渡邊　晶子］秋学期授業/Fall 519
英語科目【H3533】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［染谷　昌弘］春学期授業/Spring 520
英語科目【H3534】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［染谷　昌弘］秋学期授業/Fall 521
英語科目【H3535】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［城　俊雄］春学期授業/Spring 522
英語科目【H3536】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［城　俊雄］秋学期授業/Fall 524
英語科目【H3537】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［今政　肇］春学期授業/Spring 526
英語科目【H3538】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［今政　肇］秋学期授業/Fall 528
選択語学系【H3539】中級英語II［村上　弥生］秋学期授業/Fall 530
英語科目【H3540】アカデミック・リーディングＩ［ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ］春学期授業/Spring 532
選択語学系【H3542】基礎ドイツ語ＩＩ［鈴木　淳子］秋学期授業/Fall 534
選択語学系【H3543】基礎ドイツ語ＩＩ［高橋　完治］秋学期授業/Fall 535
選択語学系【H3546】基礎中国語Ｉ［呉　暁林］春学期授業/Spring 536
人文・社会・自然科学系【H3556】パーソナリティ［山本　晃輔］春学期授業/Spring 538
人文・社会・自然科学系【H3557】こころの働き［伊藤　ひろみ］秋学期授業/Fall 539
人文・社会・自然科学系【H3558】パーソナリティ［伊藤　ひろみ］春学期授業/Spring 540
人文・社会・自然科学系【H3559】こころの働き［伊藤　ひろみ］秋学期授業/Fall 541
人文・社会・自然科学系【H3560】パーソナリティ［山本　晃輔］春学期授業/Spring 543
人文・社会・自然科学系【H3561】こころの働き［山本　晃輔］秋学期授業/Fall 544
人文・社会・自然科学系【H3562】日本文化論［横山　泰子］春学期授業/Spring 545
人文・社会・自然科学系【H3563】比較文化論［横山　泰子］秋学期授業/Fall 546
人文・社会・自然科学系【H3564】日本文化論［追川　吉生］春学期授業/Spring 547
人文・社会・自然科学系【H3565】比較文化論［追川　吉生］秋学期授業/Fall 549
人文・社会・自然科学系【H3566】日本文化論［追川　吉生］春学期授業/Spring 551
人文・社会・自然科学系【H3567】比較文化論［追川　吉生］秋学期授業/Fall 553
リテラシー系【H3573】文章作法［矢口　貢大］春学期授業/Spring 555
英語科目【H3574】アカデミック・ライティング［ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ］春学期授業/Spring 556
英語科目【H3575】アカデミック・リーディングＩ［永井　誠］春学期授業/Spring 558
英語科目【H3576】アカデミック・ライティング［早舩　由紀見］春学期授業/Spring 560
英語科目【H3577】アカデミック・ライティング［早舩　由紀見］秋学期授業/Fall 561
英語科目【H3580】アカデミック・リーディングＩ［長谷川　秀子］春学期授業/Spring 562
英語科目【H3581】アカデミック・リーディングＩＩ［長谷川　秀子］秋学期授業/Fall 563
英語科目【H3582】アカデミック・リーディングＩ［吉川　直澄］春学期授業/Spring 565
英語科目【H3583】アカデミック・リーディングＩＩ［吉川　直澄］秋学期授業/Fall 567
英語科目【H3584】アカデミック・ライティング［太田　美智子］春学期授業/Spring 569
英語科目【H3585】アカデミック・ライティング［太田　美智子］秋学期授業/Fall 570
選択語学系【H3587】英語資格試験準備講座［吉川　直澄］春学期授業/Spring 571
選択語学系【H3588】基礎中国語Ｉ［蒋　剣波］春学期授業/Spring 572
選択語学系【H3589】基礎中国語ＩＩ［蒋　剣波］秋学期授業/Fall 574
選択語学系【H3590】英語資格試験準備講座［尾関　裕子］秋学期授業/Fall 576
英語科目【H3592】コミュニケーション・ストラテジー［ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ］春学期授業/Spring 578
英語科目【H3593】コミュニケーション・ストラテジー［ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ］春学期授業/Spring 580
英語科目【H3594】コミュニケーション・ストラテジー［ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ］春学期授業/Spring 582
英語科目【H3595】コミュニケーション・ストラテジー［ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ］秋学期授業/Fall 584
英語科目【H3596】コミュニケーション・ストラテジー［ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ］秋学期授業/Fall 586
英語科目【H3597】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［今政　肇］春学期授業/Spring 588
英語科目【H3598】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［村上　弥生］春学期授業/Spring 590
英語科目【H3599】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［長谷川　秀子］春学期授業/Spring 592
英語科目【H3600】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［神　康介］春学期授業/Spring 594
英語科目【H3601】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［今政　肇］秋学期授業/Fall 596
英語科目【H3602】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［村上　弥生］秋学期授業/Fall 598
英語科目【H3603】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［長谷川　秀子］秋学期授業/Fall 600

英語科目【H3604】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［神　康介］秋学期授業/Fall 601
理系教養科目（数学系）【H3605】線形代数学及び演習Ｉ［岩沢　美佐子］春学期授業/Spring 603
理系教養科目（数学系）【H3606】線形代数学及び演習Ｉ［岩沢　美佐子］春学期授業/Spring 605
理系教養科目（数学系）【H3607】線形代数学及び演習ＩＩ［岩沢　美佐子］秋学期授業/Fall 607
理系教養科目（数学系）【H3608】線形代数学及び演習ＩＩ［岩沢　美佐子］秋学期授業/Fall 608
理系教養科目（数学系）【H3609】微分積分学及び演習Ｉ［金沢　誠］春学期授業/Spring 609
理系教養科目（数学系）【H3610】微分積分学及び演習Ｉ［金沢　誠］春学期授業/Spring 610
理系教養科目（数学系）【H3611】微分積分学及び演習ＩＩ［金沢　誠］秋学期授業/Fall 611
理系教養科目（数学系）【H3612】微分積分学及び演習ＩＩ［金沢　誠］秋学期授業/Fall 612
理系教養科目（理科系）【H3613】物理学基礎Ｉ［佐藤　修一］春学期授業/Spring 613
理系教養科目（理科系）【H3614】物理学基礎Ｉ［佐藤　修一］春学期授業/Spring 614
理系教養科目（理科系）【H3615】物理学基礎ＩＩ［佐藤　修一］秋学期授業/Fall 615
理系教養科目（理科系）【H3616】物理学基礎ＩＩ［佐藤　修一］秋学期授業/Fall 616
選択語学系【H3617】基礎ドイツ語Ｉ［沼畑　向穂］春学期授業/Spring 617
選択語学系【H3618】基礎ドイツ語ＩＩ［沼畑　向穂］秋学期授業/Fall 619
選択語学系【H3620】基礎フランス語Ｉ［國末　薫］春学期授業/Spring 621
選択語学系【H3622】基礎フランス語ＩＩ［國末　薫］秋学期授業/Fall 622
選択語学系【H3625】基礎中国語Ｉ［渡辺　浩司］春学期授業/Spring 623
選択語学系【H3626】基礎中国語Ｉ［景　旻］春学期授業/Spring 624
選択語学系【H3628】基礎中国語ＩＩ［景　旻］秋学期授業/Fall 625
英語科目【H3630】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］春学期授業/Spring .. 626
リテラシー系【H3631】文章作法［矢口　貢大］秋学期授業/Fall 628
英語科目【H3632】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］秋学期授業/Fall ... 629
選択語学系【H3689】基礎中国語Ｉ［杉本　公子］春学期授業/Spring 631
選択語学系【H3690】基礎中国語II［杉本　公子］秋学期授業/Fall 632
選択語学系【H3704】中級英語I［KOPROWSKI　MARK］春学期授業/Spring 633
選択語学系【H3705】中級英語I［染谷　昌弘］春学期授業/Spring 635
選択語学系【H3706】中級英語I［小林　直樹］秋学期授業/Fall 636
選択語学系【H3707】中級英語I［染谷　昌弘］秋学期授業/Fall 637
選択語学系【H3708】中級英語II［梨本　邦直］春学期授業/Spring 638
選択語学系【H3709】中級英語II［村上　弥生］春学期授業/Spring 639
選択語学系【H3710】中級英語II［梨本　邦直］秋学期授業/Fall 641
英語科目【H3711】アカデミック・ライティング［ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ］秋学期授業/Fall 642
英語科目【H3712】アカデミック・リーディングＩ［ＨＵＧＯ　Ｌ　ＤＲＡＩＮＶＩＬＬＥ］春学期授業/Spring 644
英語科目【H3713】アカデミック・リーディングＩＩ［ＨＵＧＯ　Ｌ　ＤＲＡＩＮＶＩＬＬＥ］秋学期授業/Fall . 645
英語科目【H3714】アカデミック・リーディングＩ［ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ］春学期授業/Spring 646
英語科目【H3715】アカデミック・リーディングＩＩ［ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ］秋学期授業/Fall 648
英語科目【H3716】アカデミック・リーディングＩ［ＨＵＧＯ　Ｌ　ＤＲＡＩＮＶＩＬＬＥ］春学期授業/Spring 650
英語科目【H3717】アカデミック・リーディングＩＩ［ＨＵＧＯ　Ｌ　ＤＲＡＩＮＶＩＬＬＥ］秋学期授業/Fall . 651
選択語学系【H3718】基礎英語［小屋　多恵子］秋学期授業/Fall 652
英語科目【H3719】アカデミック・リーディングＩ［ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ］春学期授業/Spring 654
英語科目【H3720】アカデミック・リーディングＩＩ［ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ］秋学期授業/Fall 656
選択語学系【H3723】英語中級ライティング［KOPROWSKI　MARK］春学期授業/Spring 658
選択語学系【H3724】英語中級ライティング［ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ］秋学期授業/Fall 660
英語科目【H3725】アカデミック・ライティング［KOPROWSKI　MARK］秋学期授業/Fall 662
英語科目【H3726】アカデミック・ライティング［KOPROWSKI　MARK］春学期授業/Spring 664
英語科目【H3727】アカデミック・ライティング［宗像　俊輔］秋学期授業/Fall 666
英語科目【H3729】アカデミック・ライティング［小屋　多恵子］春学期授業/Spring 668
英語科目【H3730】アカデミック・ライティング［小屋　多恵子］秋学期授業/Fall 670
英語科目【H3731】アカデミック・ライティング［村上　弥生］秋学期授業/Fall 672
英語科目【H3732】アカデミック・ライティング［村上　弥生］春学期授業/Spring 674
英語科目【H3733】アカデミック・リーディングＩ［花﨑　一夫］春学期授業/Spring 676
選択語学系【H3734】英語資格試験準備講座［久保　佑輔］秋学期授業/Fall 677
英語科目【H3735】アカデミック・ライティング［ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ］春学期授業/Spring 679
英語科目【H3736】アカデミック・リーディングＩ［川口　悠子］春学期授業/Spring 681
英語科目【H3737】アカデミック・リーディングＩ［今政　肇］春学期授業/Spring 683
英語科目【H3744】アカデミック・リーディングＩＩ［川口　悠子］秋学期授業/Fall 685

英語科目【H3748】 アカデミック・リーディングＩＩ［花﨑　一夫］ 秋学期授業/Fall 687
英語科目【H3756】 アカデミック・リーディングＩＩ［今政　肇］ 秋学期授業/Fall 688
英語科目【H3757】 アカデミック・リーディングＩＩ［永井　誠］ 秋学期授業/Fall 690
選択語学系【H3765】 上級英語［ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ］ 秋学期授業/Fall 692
選択語学系【H3766】 上級スペイン語［日高　憲三］ 春学期授業/Spring 693
選択語学系【H3767】 上級ドイツ語［高橋　完治］ 春学期授業/Spring 695
選択語学系【H3768】 上級フランス語［國末　薫］ 春学期授業/Spring 696
選択語学系【H3769】 上級中国語［東　会娟］ 春学期授業/Spring 697
選択語学系【H3770】 上級朝鮮語［魏　聖銓］ 春学期授業/Spring 698
選択語学系【H3778】 ビジネス英語［早舩　由紀見］ 秋学期授業/Fall 700
選択語学系【H3779】 英語資格試験準備講座［宗像　俊輔］ 春学期授業/Spring 702
英語科目【H3782】 生命機能学基礎英語　Ｉ［豊岡　博子、山本　兼由、佐藤　勉、川岸　郁朗、竹田　哲也、廣野　雅文、水澤　直樹、曽和　義幸、西川　正俊］ 秋学期授業/Fall 704
英語科目【H3783】 生命機能学基礎英語　ＩＩ［山本　兼由、佐藤　勉、西川　正俊、廣野　雅文、豊岡　博子、水澤　直樹、曽和　義幸、竹田　哲也、金子　智行、川岸　郁朗］ 春学期授業/Spring 705
英語科目【H3785】 生命機能学英語　Ｉ［佐藤　勉、西川　正俊、廣野　雅文、水澤　直樹、曽和　義幸、川岸　郁朗、山本　兼由、金子　智行、豊岡　博子、竹田　哲也］ 秋学期授業/Fall 706
選択語学系【H3786】 生命機能学英語　ＩＩ［金子　智行、佐藤　勉、川岸　郁朗、曽和　義幸、水澤　直樹、廣野　雅文、山本　兼由、西川　正俊、豊岡　博子］ 春学期授業/Spring 708
選択語学系【H3787】 生命機能学英語　ＩＩＩ［豊岡　博子、廣野　雅文、曽和　義幸、金子　智行、金子　智行、川岸　郁朗、山本　兼由、佐藤　勉、西川　正俊、水澤　直樹］ 秋学期授業/Fall 710
理系教養科目（数学系）【H3789】 線形代数学演習Ｉ［杉山　健一］ 春学期授業/Spring 712
理系教養科目（数学系）【H3790】 線形代数学演習Ｉ［杉山　健一］ 春学期授業/Spring 713
理系教養科目（数学系）【H3791】 線形代数学演習Ｉ［木村　真琴］ 春学期授業/Spring 714
理系教養科目（数学系）【H3792】 線形代数学演習Ｉ［木村　真琴］ 春学期授業/Spring 715
理系教養科目（数学系）【H3793】 線形代数学演習Ｉ［三橋　秀生］ 春学期授業/Spring 716
理系教養科目（数学系）【H3794】 線形代数学演習Ｉ［三橋　秀生］ 春学期授業/Spring 718
理系教養科目（数学系）【H3796】 線形代数学演習Ｉ［高木　悟］ 秋学期授業/Fall 720
理系教養科目（数学系）【H3797】 線形代数学及び演習Ｉ［陸名　雄一］ 秋学期授業/Fall 722
理系教養科目（数学系）【H3798】 微分積分学演習Ｉ［坂田　繁洋］ 春学期授業/Spring 724
理系教養科目（数学系）【H3799】 微分積分学演習Ｉ［坂田　繁洋］ 春学期授業/Spring 725
理系教養科目（数学系）【H3800】 微分積分学演習Ｉ［寺田　至］ 春学期授業/Spring 726
理系教養科目（数学系）【H3801】 微分積分学演習Ｉ［寺田　至］ 春学期授業/Spring 727
理系教養科目（数学系）【H3802】 微分積分学演習Ｉ［坂田　繁洋］ 春学期授業/Spring 728
理系教養科目（数学系）【H3803】 微分積分学演習Ｉ［陸名　雄一］ 春学期授業/Spring 729
理系教養科目（数学系）【H3805】 微分積分学演習Ｉ［高木　悟］ 秋学期授業/Fall 730
理系教養科目（数学系）【H3806】 微分積分学及び演習Ｉ［陸名　雄一］ 秋学期授業/Fall 731
理系教養科目（数学系）【H3807】 入門数学［高木　悟］ 春学期授業/Spring 732
理系教養科目（理科系）【H3808】 入門物理学［鈴木　健夫］ 春学期授業/Spring 734
スポーツ健康科学系【H3810】 スポーツ健康科学実習Ｉ［高橋　正則］ 春学期授業/Spring 735
スポーツ健康科学系【H3811】 スポーツ健康科学実習Ｉ［高橋　正則］ 春学期授業/Spring 737
スポーツ健康科学系【H3812】 スポーツ健康科学実習Ｉ［谷内　花恵］ 春学期授業/Spring 739
スポーツ健康科学系【H3813】 スポーツ健康科学実習Ｉ［谷内　花恵］ 春学期授業/Spring 741
スポーツ健康科学系【H3814】 スポーツ健康科学実習Ｉ［植村　直己］ 春学期授業/Spring 743
スポーツ健康科学系【H3815】 スポーツ健康科学実習Ｉ［高橋　正則］ 秋学期授業/Fall 744
スポーツ健康科学系【H3816】 スポーツ健康科学実習Ｉ［高橋　正則］ 秋学期授業/Fall 746
スポーツ健康科学系【H3817】 スポーツ健康科学実習Ｉ［谷内　花恵］ 秋学期授業/Fall 748
スポーツ健康科学系【H3818】 スポーツ健康科学実習Ｉ［谷内　花恵］ 秋学期授業/Fall 750
スポーツ健康科学系【H3819】 スポーツ健康科学実習Ｉ［植村　直己］ 秋学期授業/Fall 752
スポーツ健康科学系【H3820】 スポーツ健康科学実習Ⅱ［植田　央］ 春学期授業/Spring 753
スポーツ健康科学系【H3821】 スポーツ健康科学実習Ⅱ［越智　英輔］ 春学期授業/Spring 754
スポーツ健康科学系【H3822】 スポーツ健康科学実習Ⅱ［植田　央］ 春学期授業/Spring 755
スポーツ健康科学系【H3823】 スポーツ健康科学実習Ⅱ［植田　央］ 春学期授業/Spring 756
スポーツ健康科学系【H3824】 スポーツ健康科学実習Ⅱ［越智　英輔］ 春学期授業/Spring 757
スポーツ健康科学系【H3825】 スポーツ健康科学実習Ⅱ［植田　央］ 秋学期授業/Fall 758
スポーツ健康科学系【H3826】 スポーツ健康科学実習Ⅱ［越智　英輔］ 秋学期授業/Fall 759
スポーツ健康科学系【H3827】 スポーツ健康科学実習Ⅱ［植田　央］ 秋学期授業/Fall 760

スポーツ健康科学系【H3828】スポーツ健康科学実習Ⅱ［植田　央］秋学期授業/Fall …… 761
スポーツ健康科学系【H3829】スポーツ健康科学実習Ⅱ［植田　央］秋学期授業/Fall …… 762
スポーツ健康科学系【H3830】スポーツ健康科学実習Ⅲ［越智　英輔］春学期授業/Spring …… 763
スポーツ健康科学系【H3831】スポーツ健康科学実習Ⅲ［高柿　健］春学期授業/Spring …… 764
スポーツ健康科学系【H3832】スポーツ健康科学実習Ⅲ［越智　英輔］春学期授業/Spring …… 765
スポーツ健康科学系【H3833】スポーツ健康科学実習Ⅲ［高田　佑輔］春学期授業/Spring …… 766
スポーツ健康科学系【H3834】スポーツ健康科学実習Ⅲ［植田　央］春学期授業/Spring …… 767
スポーツ健康科学系【H3835】スポーツ健康科学実習Ⅲ［越智　英輔］秋学期授業/Fall …… 768
スポーツ健康科学系【H3836】スポーツ健康科学実習Ⅲ［高柿　健］秋学期授業/Fall …… 769
スポーツ健康科学系【H3837】スポーツ健康科学実習Ⅲ［越智　英輔］秋学期授業/Fall …… 770
スポーツ健康科学系【H3838】スポーツ健康科学実習Ⅲ［高田　佑輔］秋学期授業/Fall …… 771
スポーツ健康科学系【H3839】スポーツ健康科学実習Ⅲ［植田　央］秋学期授業/Fall …… 772
スポーツ健康科学系【H3840】スポーツ健康科学実習Ⅳ［高柿　健］春学期授業/Spring …… 773
スポーツ健康科学系【H3841】スポーツ健康科学実習Ⅳ［高田　佑輔］春学期授業/Spring …… 774
スポーツ健康科学系【H3842】スポーツ健康科学実習Ⅳ［植村　直己］春学期授業/Spring …… 775
スポーツ健康科学系【H3843】スポーツ健康科学実習Ⅳ［植村　直己］春学期授業/Spring …… 776
スポーツ健康科学系【H3844】スポーツ健康科学実習Ⅳ［植田　央］春学期授業/Spring …… 777
スポーツ健康科学系【H3845】スポーツ健康科学実習Ⅳ［高柿　健］秋学期授業/Fall …… 778
スポーツ健康科学系【H3846】スポーツ健康科学実習Ⅳ［高田　佑輔］秋学期授業/Fall …… 779
スポーツ健康科学系【H3847】スポーツ健康科学実習Ⅳ［植村　直己］秋学期授業/Fall …… 780
スポーツ健康科学系【H3848】スポーツ健康科学実習Ⅳ［植村　直己］秋学期授業/Fall …… 781
スポーツ健康科学系【H3849】スポーツ健康科学実習Ⅳ［植田　央］秋学期授業/Fall …… 782
スポーツ健康科学系【H3850】スポーツ健康科学講義Ⅰ［高田　佑輔］春学期授業/Spring …… 783
スポーツ健康科学系【H3851】スポーツ健康科学講義Ⅰ［高田　佑輔］秋学期授業/Fall …… 784
スポーツ健康科学系【H3852】スポーツ健康科学講義Ⅱ［高田　佑輔］春学期授業/Spring …… 785
スポーツ健康科学系【H3853】スポーツ健康科学講義Ⅱ［高田　佑輔］秋学期授業/Fall …… 786
英語科目【H3854】アカデミック・ライティング［長谷川　秀子］秋学期授業/Fall …… 787
英語科目【H3855】アカデミック・ライティング［染谷　昌弘］秋学期授業/Fall …… 789
選択語学系【H3856】SAプログラム［加藤　友規、鳥飼　弘幸］秋学期授業/Fall …… 791
人文・社会・自然科学系【H3857】宗教と社会［立田　由紀恵］春学期授業/Spring …… 795
理系教養科目（理科系）【H3858】地学基礎［辻　忠恭］春学期授業/Spring …… 797
理系教養科目（理科系）【H3859】地学基礎［辻　忠恭］秋学期授業/Fall …… 798
理系教養科目（理科系）【H3860】入門化学［田　艶］春学期授業/Spring …… 799
理系教養科目（理科系）【H3861】入門生物学［齋藤　理佳］春学期授業/Spring …… 800
理系教養科目（数学系）【H3862】入門数学［高木　悟］春学期授業/Spring …… 802
理系教養科目（理科系）【H3863】物理学基礎Ⅰ［小鍋　哲］春学期授業/Spring …… 804
理系教養科目（理科系）【H3864】物理学基礎ⅠⅠ［小鍋　哲］秋学期授業/Fall …… 805
理系教養科目（理科系）【H3865】入門物理学［鈴木　健夫］春学期授業/Spring …… 806
理系教養科目（理科系）【H3866】生物学基礎Ⅰ［清水　隆］春学期授業/Spring …… 807
理系教養科目（理科系）【H3867】生物学基礎ⅠⅠ［清水　隆］秋学期授業/Fall …… 808
リテラシー系【H3868】情報リテラシーと表現技術［若林　哲］春学期授業/Spring …… 809
選択語学系【H3869】基礎ドイツ語コミュニケーション［高橋　完治］春学期授業/Spring …… 811
選択語学系【H3870】基礎ドイツ語コミュニケーション［高橋　完治］秋学期授業/Fall …… 812
選択語学系【H3871】中級ドイツ語リーディング［高橋　完治］春学期授業/Spring …… 813
選択語学系【H3872】中級ドイツ語コミュニケーション［鈴木　淳子］秋学期授業/Fall …… 814
選択語学系【H3873】中級ドイツ語コミュニケーション［高橋　完治］秋学期授業/Fall …… 815
選択語学系【H3874】中級ドイツ語ライティング［高橋　完治］秋学期授業/Fall …… 816
選択語学系【H3875】基礎ドイツ語コミュニケーション［鈴木　淳子］春学期授業/Spring …… 817
選択語学系【H3876】基礎フランス語コミュニケーション［ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ］春学期授業/Spring 818
選択語学系【H3877】中級フランス語リーディング［伊藤　玲子］春学期授業/Spring …… 819
選択語学系【H3878】基礎フランス語コミュニケーション［瀬谷　ｸﾞﾛﾝﾀﾞﾝ　アンヌオレリ］秋学期授業/Fall 820
選択語学系【H3879】中級フランス語コミュニケーション［ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ］秋学期授業/Fall 821
選択語学系【H3880】中級フランス語ライティング［國末　薫］秋学期授業/Fall …… 822
選択語学系【H3881】中級フランス語コミュニケーション［伊藤　玲子］秋学期授業/Fall …… 823
選択語学系【H3882】基礎フランス語コミュニケーション［木下　晴美］春学期授業/Spring …… 824
選択語学系【H3883】基礎スペイン語コミュニケーション［渡辺　雅哉］春学期授業/Spring …… 825
選択語学系【H3884】基礎スペイン語コミュニケーション［日高　憲三］秋学期授業/Fall …… 826

選択語学系【H3885】 中級スペイン語コミュニケーション［日高　憲三］ 秋学期授業/Fall 827
選択語学系【H3886】 中級スペイン語コミュニケーション［渡辺　雅哉］ 秋学期授業/Fall 828
選択語学系【H3887】 基礎スペイン語コミュニケーション［日高　憲三］ 春学期授業/Spring 829
選択語学系【H3888】 中級スペイン語リーディング［日高　憲三］ 春学期授業/Spring 830
選択語学系【H3889】 中級スペイン語ライティング［日高　憲三］ 秋学期授業/Fall 831
選択語学系【H3890】 基礎スペイン語Ⅰ［塩﨑　公靖］ 春学期授業/Spring 832
選択語学系【H3891】 基礎朝鮮語コミュニケーション［松本　ジュン］ 春学期授業/Spring 833
選択語学系【H3892】 基礎朝鮮語コミュニケーション［魏　聖銓］ 秋学期授業/Fall 835
選択語学系【H3893】 中級朝鮮語コミュニケーション［魏　聖銓］ 秋学期授業/Fall 836
選択語学系【H3894】 中級朝鮮語コミュニケーション［松本　ジュン］ 秋学期授業/Fall 838
選択語学系【H3895】 基礎朝鮮語コミュニケーション［魏　聖銓］ 春学期授業/Spring 839
選択語学系【H3896】 中級朝鮮語リーディング［魏　聖銓］ 春学期授業/Spring 841
選択語学系【H3897】 中級朝鮮語ライティング［魏　聖銓］ 秋学期授業/Fall 842
選択語学系【H3898】 基礎朝鮮語Ⅰ［松本　ジュン］ 春学期授業/Spring 843
選択語学系【H3899】 基礎中国語コミュニケーション［景　旻］ 春学期授業/Spring 845
選択語学系【H3900】 基礎中国語コミュニケーション［杉本　公子］ 春学期授業/Spring 847
選択語学系【H3901】 基礎中国語コミュニケーション［渡辺　浩司］ 春学期授業/Spring 848
選択語学系【H3902】 中級中国語コミュニケーション［杉本　公子］ 春学期授業/Spring 849
選択語学系【H3905】 基礎中国語コミュニケーション［呉　暁林］ 秋学期授業/Fall 850
選択語学系【H3906】 中級中国語コミュニケーション［景　旻］ 秋学期授業/Fall 851
選択語学系【H3907】 中級中国語コミュニケーション［杉本　公子］ 秋学期授業/Fall 852
選択語学系【H3908】 中級中国語コミュニケーション［渡辺　浩司］ 秋学期授業/Fall 853
選択語学系【H3909】 中級中国語リーディング［呉　暁林］ 秋学期授業/Fall 854
選択語学系【H3910】 中級中国語ライティング［呉　暁林］ 春学期授業/Spring 856
選択語学系【H3913】 SAプログラム［ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ］ 春学期授業/Spring 857

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this course is to enable students to negotiate everyday social and academic situations more confidently using a wider range of grammar and vocabulary to express themselves.
本コースの目的は、学生が日常の社会的および学術的な状況において、より幅広い文法と語彙を用いて、自信をもって伝えたいことを表現できるようにすることです。本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
Students will be able to communicate and elicit information in a range of everyday social and academic interactions. Students will acquire an awareness of basic techniques to facilitate communication cross-culturally.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Each unit of the textbook is themed, structures and vocabulary collocated with the theme is presented in a listening, then used as a basis for guided practice in group and pair work. Critical academic skills are introduced with a short reading and a short video based on the theme (which may be done outside the class). A discrete basic presentation skill is the introduced and a short discussion in groups enables students to practice the language and communication skills together, and for the teacher to give encouragement and feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Unit 1　Hobbies	Explanation of class structure, grading criteria and rules. Introduction to online content Introductions Verb+Infinitive
2	Unit 2　Clothes and Colors	Comparatives Asking Opinions
3	Unit 3　An active life	Verb + Noun Repetition &Showing Attention
4	Unit 4 Getting around	Indirect Questions Interrupting politely (Units 1-3 mini-test)
5	Unit 5 Personality	Simple Present vs Present Continuous Showing surprise
6	Unit 6 Cooking	Imperatives and Sequence Markers Showing understanding
7	Unit 7　Weather	Superlatives Asking to confirm understanding (Units 4-6 mini-test)
8	Unit 8　Everyday Activities	Past Continuous Apologising
9	Unit 9 Maths, History &Art	Adjectives ending -ed and -ing Softening opinions
10	Unit 10 A busy semester	Present Perfect Agreeing (units 7-9 mini-test)
11	Unit 11 Favors and requests	Polite Request forms Explaining Reasons
12	Unit 12 Before you travel	Obligation - Have to Asking follow up questions
13	WRAP-UP AND REVIEW	WRAP-UP AND REVIEW Activities targeted to review and practice most challenging language taught in the semester
14	FINAL REVIEW TEST	FINAL REVIEW TEST The review test will comprise questions testing students' understanding of grammar and language taught in units of the course and their listening and writing skills. The test is preceded by feedback and reflection on students' progress through the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Elements of units that are suitable may be assigned as written homework to be done outside class to reinforce the language taught in those units. This homework will be used to provide feedback to students and affect the participation quotient of the final grade.

【テキスト（教科書）】
Stretch 2 (Susan Stempelski, Oxford University Press,2014) ISBN 978-0-19-460313-3 c.￥3,200

【参考書】
Online resources are available after registration with an access code provided with the student textbook at www.oxfordlearn.com

【成績評価の方法と基準】
Mini Review Tests 45%
Final Review Test 35%
Participation 20%

【学生の意見等からの気づき】
More regular and targeted testing has been introduced. The Hoppii system will be used more extensively to present tasks.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to use a computer to access online resources and to access tests and quizzes on the Education Management System.

【Outline (in English)】
This course aims to provide students basic skills to negotiate everyday social and academic situations using all four core four skills ; listening, speaking, reading and writing. In addition, it aims to instill confidence in students to access content in English by developing viewing skills to process media in English, and to install confidence in students to express their opinions and ideas in English verbally by instilling fundamental presentation skills.
Students will be able to communicate and elicit information in a range of social and academic interactions. Students will acquire an awareness of basic techniques to facilitate communication cross-culturally. Students will acquire basic presentation techniques.
Each unit of the textbook is themed, structures and vocabulary collocated with the theme is presented in a listening, then used as a basis for guided practice in group and pair work. Critical academic skills are introduced with a short reading and a short video based on the theme (which may be done outside the class). A discrete basic presentation skill is the introduced and a short discussion in groups enables students to practice the language and communication skills together, and for the teacher to give encouragement and feedback.
GRADING CRITERIA
Mini Review Tests 45%
Final Review Test 35%
Participation 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

太田　美智子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum
effectiveness.
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.
At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of Class Rules. Get to know each other.
2	Unit 1	William's Notting Hill &She
3	Unit 2	Surreal,But Nice
4	Unit 3	A Goddess Is A Movie Star
5	Unit 4	Birthday Party
6	Exam&Summary	Wrap-up,Review
7	Unit 5	A Date With Anna
8	Unit 6	She's Gone
9	Unit 7	She's Back
10	Unit 8	Rude Awakening
11	Exam&Summary	Wrap-up,Review
12	Unit 9	Like Me Again
13	Unit 10	The Right Decision
14	Exam&Summary	Wrap-up,Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
You are expected to preview each lesson.

【テキスト（教科書）】
Notting Hill, Richard Curtis, Shohakusya, 2018, 2100yen

【参考書】
No references.

【成績評価の方法と基準】
Class work and participation 30%
Short reports 20%
Examinations 50%

【学生の意見等からの気づき】
Learning English through movies are effective. Let's study English together.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students.
The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.
You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.
At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.
You are expected to preview each lesson.
Grading:
Class work and participation 30%
Short reports 20%
Examinations 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
・英語で得た情報の内容を的確に把握できる。
・英語で得た情報の要旨を、英語で適切にまとめられる。
・自分の考えを英語で組み立て、（効果的に）発言できる。
・英語で効果的にコミュニケーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
英語のでグループワークのディスカッションができるようになることを目指して授業を行います。学生の主体的な参加や発言を歓迎します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introductions Make a 1st Learning Plan for Effective Communication Strategies	Explanation of syllabus & course introduction Learning plan Speaking fluency practice
第2回	Discussion skill #1	Speaking fluency practice Discussion Skill: How to ask Follow-up Questions
第3回	Discussion skill #2	Speaking fluency practice Discussion Skill: How to extend answers
第4回	Discussion skill #3	Speaking fluency practice Discussion Skill: Listening practice - How to make reactions in English
第5回	Discussion skill #4	Speaking fluency practice Discussion Skill: How to clarify politely in English
第6回	Discussion topic #1	Speaking fluency practice Discussion Topic: Explain one scientific observation or experiment that you were involved in, in English
第7回	Discussion topic #2	Speaking fluency practice Discussion Topic: Talk about your department and science courses in English
第8回	Discussion topic #3	Speaking fluency practice Discussion Topic: Talk about a recent science news article (not from a research journal) in English
第9回	Discussion topic #4	Speaking fluency practice Discussion Topic: Talk about which laboratory (and research project) most interests you right now, in English
第10回	Discussion Topics &Skills 1-4 Review Make a 2nd Learning Plan for Effective Communication Strategies	Speaking fluency practice Make a 2nd Learning Students will make a new study plan Review all four discussion topics and skills in class
第11回	Oral Examination #1 and Written Reflection	Students will be individually graded during group discussions. Students will reflect on their learning in writing
第12回	Make a 3rd Learning Plan for Effective Communication Strategies	Speaking fluency practice Students will revise, remake and implement their communication strategies learning plan
第13回	Oral Examination #2 and Written Reflection	Students will be individually graded during group discussions. Students will reflect on their learning in writing
第14回	Make a 4th Learning Plan for Effective Communication Strategies	Speaking fluency practice Students will make a final learning plan, based on their two oral examinations and in-class activities, for effectively communicating in English in the future

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。
・予習や準備が前提の授業なので、指定された箇所の予習や準備を必ずしてくること。
・授業の内容を振り返り、授業で学んだ新しい言い回しなどを復習すること。

【テキスト（教科書）】
Materials will be provided online by the professor.

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
宿題：20％
口頭試験：80％

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
自身のPCを毎回持参してください。

【その他の重要事項】
毎週の授業への出席は必須です。
・5回以上の理由のない欠席で成績は不合格（D）とします（当校の『履修の手引き』に記載の通り）。
・遅刻は2回で欠席1回分にカウントします。
・期日内の課題提出も必須です。予習をして来ない、授業中に違うことをやっている、授業中におけるアクティビティに参加しようとしない、など授業態度が著しく欠ける人は、評価の対象外、即ち不合格（D）となります。
・受講者の積極的な参加を期待し、特に授業中における積極的な発言を高く評価し授業への貢献度・平常点に加算していきます。
※授業計画や形式は参加者のレベルや進み具合等により、変更される場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
【Learning Objectives】
Students will be able to:
Correctly understand the content of information obtained in English.
Summarize the information effectively in English.
Construct their own thoughts in English and (effectively) express them.
Communicate effectively in English.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Homework: 20％
Oral Exam #1: 40%
Oral Exam #2: 40%
Your attendance to this class is mandatory.
Your contribution to the class will be evaluated by your participation in group discussion activities and in-class preparations.
For 5 or more unexcused absences, the final grade will be "D" as specified in the “Course Registration Guide” of our school.
Two instances of tardiness will be counted as one absence.
*The course outline may be subject to change depending on progress.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

長谷川　秀子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスでは，今までに学んできた英語（Input）を確認しつつ，場面に応じた語彙や表現を増やしながら，英語で自分の思っていることや，考えや意見を表現（Output）できるように練習していく。教科書ではNHK海外向け放送の英語ニュースを使いリスニング，リーディング，語彙，表現を学びながら現代の日本社会の出来事，経済，文化，科学の状況を見ていく。そして，教科書のユニットに関連したトピックについて各自が考えてライティングをしてスピーキング（ミニプレゼンテーション，プレゼンテーション）に繋げるようにする。インターナショナルバカロレアの方式を取り入れている。

【到達目標】
Output English を意識しながらも英語ニュースを使いながら耳を鍛え，それぞれの場面での語彙，表現が書くとき，話すときに使えるようになる。そして，英語を人前で話すことに慣れ，ミニプレゼンテーションができるようになることを目指していく。また，クラス内での相互のライティングやプレゼンテーションから内容理解，コメント，意見，質問などができるように発信型を目標としていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
クラス内での相互のライティングやプレゼンテーションを通し、内容理解，コメント，意見，質問などができることを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Self introduction How to use the textbook
Week 2	Unit 1 The Challenging of Teaching English (1)	Mini presentation/ Group work/ Writing
Week 3	Unit 1 The Challenging of Teaching English(2)	Mini presentation/ Group work/ Writing
Week 4	Unit 2 Students Keeping Memory of Shuri Castle Alive (1)	Mini presentation/ Group work/ Writing
Week 5	Unit 2 Students Keeping Memory of Shuri Castle Alive (2)	Mini presentation/ Group work/ Writing
Week 6	Unit 3 A bitter Taste for Healthy Fish (1)	Mini presentation/ Group work/ Writing
Week 7	Unit 3 A bitter Taste for Healthy Fish (2)	Mini presentation/ Group work/ Writing
Week 8	Unit 4 Robots Luring Diners Back (1)	Mini presentation/ Group work/ Writing
Week 9	Unit 4 Robots Luring Diners Back (2)	Mini presentation/ Group work/ Writing
Week 10	Unit 5 Toilet Designe Aim to Flush (1)	Mini presentation/ Group work/ Writing
Week 11	Unit 5 Toilet Designe Aim to Flush (2)	Mini presentation/ Group work/ Writing
Week 12	Unit 6 Teleworking Encourages Tokyo Exodus (1)	Mini presentation/ Group work/ Writing
Week 13	Unit 6 Teleworking Encourages Tokyo Exodus (2)	Mini presentation/ Group work/ Writing
Week 14	最終プレゼンテーション	Final Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.
教科書のユニットの予習，復習，課題など（詳細は初回の授業で説明予定）。

【テキスト（教科書）】
NHK NEWSLINE 5(Kinseido,2022 年)　山﨑達朗/Stella M. Yamazaki　￥2400

【参考書】
適宜、授業で紹介

【成績評価の方法と基準】
学期内　　平常点、ミニプレゼン、スクリプト　50%
期末試験（エッセイ、パワポを使ったプレゼン）　50%
計　100
During term mini presentation and scrip 50%
Term Exam Presentation using PowerPoint 50% Total 100%
試験の詳細はオリエンテーション、授業内、授業システムサイトで連絡。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
１．授業に積極的に参加し課題をこなすこと。提出物期限厳守。
２．知らない単語は自分で調べて来ること
３．時間厳守

【その他の重要事項】
★欠席・提出物や課題、試験について
平等な採点・成績をつけるためにも、特別な事情があった場合でも、期限までに適切な連絡がない場合には追試等の対応はできません。証明書をWebClassで提出すること。（病気の場合には医療機関などの診断書や領収書、交通遅延の場合は遅延証明書など）
試験やプレゼンテーション当日の予期せぬトラブルも必ずその日のうちに連絡すること。
★著作権について
学生自身の言葉、アイデアでない内容を書くときにはそれを明記し、指定された方法で参考文献に記すこと。引用の範囲を超えた剽窃とみなされた時点で単位は取得できない。

【Outline (in English)】
【Course Outline】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria/Policies】
Final grade will be calculated according to the following process: In-class activities, mini presentation and script submission (50%) , and Term Exam, presentation with PowerPoint and script submission (50%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
This course is designed to develop the following skills in English.
(1) to explain Japanese and world events in English
(2) to discuss cross-cultural communication
(3) to gather information in English
(4) to develop critical thinking skills and abilities

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Through a task-based approach, working in small teams, students learn to speak, to discuss, to express opinions in order to promote global thinking and communication skills in English. They acquire technical vocabulary, expressions and critical thinking with a personalized focus on their field of study.
Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Introduction to the course aims, goals, objectives, and evaluation criteria.
第2回	Strategic Language Learning	How to set language learning goals and track progress; Learning strategies to improve language learning; How to use technology and resources to support language learning.
第3回	Vocabulary Strategies 1	Context clues and inference; Using a bilingual dictionary effectively
第4回	Vocabulary Strategies 2	Using word parts (prefixes, suffixes, etc.) to infer meaning
第5回	Discourse Strategies 1	Discourse markers
第6回	Discourse Strategies 2	Cohesive devices
第7回	Interactional Strategies 1	Politeness, interruption, and turn-taking
第8回	Interactional Strategies 2	Clarification and confirmation
第9回	Comprehension Strategies	Reading strategies (inference through skimming, scanning, text structure); Listening strategies (context; gist and detail).
第10回	Speaking Strategies 1	Fillers and hesitation; Circumlocution and paraphrasing.
第11回	Speaking Strategies 2	Nonverbal communication; Pronunciation (intonation, rhythm, emphasis).
第12回	Writing Strategies	Brainstorm and outline; Editing and revising.
第13回	Class summary and preparation for final presentation	Summary of the contents covered; Feedback; Instructions and preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
第14回	Final evaluation	Online interviews

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Prior to each lesson, students are required to review the provided
documentation and complete a brief preparation task that will be
explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
A notebook is needed for in-class work, while for out-of-class assignments, students are required to use Word software or compatible open source software.

【Outline (in English)】
Course Outline:

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
Learning Objectives:
This course is designed to develop the following skills in English.
(1) to explain Japanese and world events in English
(2) to discuss cross-cultural communication
(3) to gather information in English
(4) to develop critical thinking skills and abilities
Learning activities outside of the classroom:
Prior to each lesson, students are required to review the provided
documentation and complete a brief preparation task that will be
explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.
Grading Criteria:
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
・choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrange of media
・write an effective summary paragraph
・write an analytical book report
・make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
・carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form.
During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades.
This class uses Google Classroom on which you will find a document with an explanation of class procedures. You are expected to read this document.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be ccovered.	Students will recieve guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.
Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】
You must have a dictionary: paper or electronic (NOT a phone). No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】
Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
A good dictionary is required. One example is:
Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Homework: 10%
Presentations: 60%
Class performance (effort, participation, use of English): 30%

【学生の意見等からの気づき】
Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice.
A document which clearly states class procedures and the obligations of students has been included with Week 1 materials on Google Classroom.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and Google Classroom. If the course is run face-to-face, it will use Google Classroom.
For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted on Google Classroom.
Students will need a Hosei University email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher and access Google Classroom. This address must not change during the semester.
Please make sure that the computer equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes
an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not.
You may not use a smartphone for this purpose

【その他の重要事項】
Note:
This is a 'No Smartphone' class. Your phone must be turned off, and in your bag. Your "Classwork (effort, participation)" grade will be affected if you persistently use / look at your phone.
This class promotes and relies on academic honesty. The use of translation and language-generating technology is considered to be plagiarism and is not allowed under any circumstances. Your course grade will be affected by ignoring this rule.
"Dictionary" means paper dictionary or electronic dictionary. Using a phone as a dictionary is not allowed.
A document which clearly states class procedures and the obligations of students has been included with Week 1 materials on Google Classroom.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
At the end of this course, students will be able to:
・choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrange of media
・write an effective summary paragraph
・write an analytical book report
・make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
・carry on a group discussion on a range of academic topics

Work to be done outside of class (preparation, etc.):
Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.
Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.
Grading Criteria:
Homework: 10%
Presentations: 60%
Class performance (effort, participation, use of English): 30%
This class has a strict "NO Smartphones" policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.
This class uses Google Classroom on which you will find a document with an explanation of class procedures. You are expected to read this document.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

早舩　由紀見

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
本授業では、タスクベースで学生が主体的に英語を使用し、英語表現を学び、それを応用して英語でコミュニケーションできる能力を身に付け、グローバル化した社会への対応力を養う。
具体的には以下を目標とする。
１）基礎的な会話力を身につける。
２）文法知識を定着させる。
３）基礎的な英語力を発展させ、自分の話したいことが話せるよう応用力を身につける。
毎回の授業で以下内容を実施し、目標を達成できるようにしていく。
・知識として持っている英単語や英語表現を実際に使用する
・文法の復習を行い、文法的に正しい文を話す
・教科書の各章のタスクをペアやグループで英語で対話しながら行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
タスクベースで英単語や英語表現に関するタスクを行いながら会話力を身につけます。
ペアワークやグループワークで、情報伝達、情報合成、ナレーション、問題解決、意思決定など様々なタスクを行い、自分の考えをまとめて話す練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Conveying information 1	Putting things in place Simple drawings
2	Conveying information 2	Spot the difference Taking out the garbage
3	Conveying information 3	Fantastic flags Daily scenes
4	Conveying information 4	Tom's accident The truth about me
5	Conveying information 5 Mid-term conversation test	Who are they? Group presentation
6	Synthesizing elements 1	Search for something in common Doing the dishes
7	Synthesizing elements 2	A fishy story Safe driving
8	Narrating stories 1	Storytelling with a cartoon
9	Narrating stories 2	Storytelling with a video
10	Solving problems 1	Find the odd one out Recognize the process
11	Solving problems 2	Complete the story Get a different perspective
12	Making decisions 1	Love match Super schools
13	Making decisions 2	Mad inventions Group members
14	End-term presentation	Presentation (individual)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・教科書の予習
・新しい語や表現を調べる
・授業で習った表現を復習する

【テキスト（教科書）】
Getting Things Done [Book 1] — Tasks for Connecting the Classroom with the Real World
タスクで教室から世界へ［ブック１］
三修社

【参考書】
必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度（課題への取り組み度合い、提出物）　70%
中間テスト 15%
期末テスト 15%

【学生の意見等からの気づき】
会話練習の時間を増やす。
学生の理解を確認しながら授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを使用する場合があります。

【その他の重要事項】
・理由なく、全授業の1/3以上の欠席、または5回以上欠席すると単位を取得できません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
【Learning Objectives】
Students will develop listening skills and apply them to acquire the ability to communicate in English.
【Learning activities outside of classroom】
- Preparation for the next class (text reading)
- Look up a dictionary for new vocabulary and expressions
【Grading Criteria / Policy】
Participation in class (in and out of class assignments) 70%
Mid-term exam 15%
End-of-term exam 15%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

LOWRI　E　HUMBERSTONE

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。この授業は、英語のスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングに
おける学生の正確さと自信を向上させることを目指しています。教科書とその提
起する問題をディスカッションの出発点として活用することで、この授業は学生
が新しい視点から物事を見ることを奨励し、英語を他の文化や意見と関わる手段
として利用することを目指しています。学生は同僚や講師から即座のクラス
フィードバックを期待でき、また、講師からメールでより詳細なフィードバック
を個別に受けることができます。

【到達目標】
Students will learn and develop academic reading, writing, speaking, and listening skills in English.
Students will discuss contemporary issues in English and express their opinions verbally and in writing.
Students will participate in discussions as a class.
Students will submit brief written assignments in English based on class topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
In this class we will complete activities from textbooks and discuss texts and topics the textbook introduces. This class prioritises active learning, such as debate and discussion. English will be used as the primary language in this class. Assignments may be submitted online or emailed to the sensei directly at
senseiemma22@gmail.com and students will receive written feedback on each assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Class introduction and theme overview	Assessment methods and grading Self introduction to the class
第2回	Chapter 1 Food and health	Unit 1 - Food and Culture
第3回	Chapter 1 Food and health	Unit 3 - Saving Lives (food and health problems)
第4回	Chapter 2 Technology	Unit 4 - Identity Theft
第5回	Chapter 2 Technology	Unit 6 - Artificial Intelligence
第6回	Chapter 3 Sports	Unit 7 - Professional Athletes
第7回	Chapter 3 Sports	Unit 9 - Cheating
第8回	Class discussion - Discussing the previous topics	Class discussion- which topics did you enjoy the most, and why? Which topics did you enjoy the least and why? Do you disagree with any of the attitudes and opinions presented in the textbook?
第9回	Chapter 4 Cultural diff erences	Unit 10 - Attitude and cultures
第10回	Chapter 4 Cultural diff erences	Unit 11 - Communication in diff erent cultures
第11回	Chapter 5 Society	Unit 14 - Immigration
第12回	Chapter 5 Society	Unit 15 - Gender Diff erences
第13回	Class overview and exam preparation	Review of key themes and skills. Explanation of exam format and rules and class study
第14回	FINAL EXAMINATION	Final test to make up 50% of grade. Class reflection, discussion and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assignments will be set from the textbook. Students are expected to research class themes before class and arrive in class with opinions to share. A minimum of three essays will be assigned over the semester, worth 30% of the final grade in total. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework and reviewing class materials.

【テキスト（教科書）】
Vantage Point, Eric Hirata
ISBN 9784863124035 (10-digit ISBN: 4863124031)
Available online from https://www.eltbooks.com/item_spec.php?item=1685001&lang=en

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
Assessment criteria:
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【Outline (in English)】
This class aims to improve students' accuracy and confidence in English
Speaking, Listening, Writing and Reading.　By using the textbook and issues it
raises as a starting point for discussion, this class encourages students to see

things from new perspectives and use the English language as a way to engage
with other cultures and opinions. Students can expect immediate class feedback
from their peers and the instructor, and can obtain more detailed feedback
privately from the instructor via email.
Assessment criteria:
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。 The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

【到達目標】
Students will be able to communicate and elicit information in a range of everyday social and academic interactions. Students will acquire an awareness of basic techniques to facilitate communication cross-culturally.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Each unit of the textbook is themed, structures and vocabulary collocated with the theme is presented in a listening, then used as a basis for guided practice in group and pair work. Critical academic skills are introduced with a short reading and a short video based on the theme (which may be done outside the class). A discrete basic presentation skill is the introduced and a short discussion in groups enables students to practice the language and communication skills together, and for the teacher to give encouragement and feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Unit 1　Hobbies	Explanation of class structure, grading criteria and rules. Introduction to online content Introductions Verb+Infinitive
2	Unit 2　Clothes and Colors	Comparatives Asking Opinions
3	Unit 3　An active life	Verb + Noun Repetition &Showing Attention
4	Unit 4 Getting around	Indirect Questions Interrupting politely (Units 1-3 mini-test)
5	Unit 5 Personality	Simple Present vs Present Continuous Showing surprise
6	Unit 6 Cooking	Imperatives and Sequence Markers Showing understanding
7	Unit 7　Weather	Superlatives Asking to confirm understanding (Units 4-6 mini-test)
8	Unit 8　Everyday Activities	Past Continuous Apologising
9	Unit 9 Maths, History &Art	Adjectives ending -ed and -ing Softening opinions
10	Unit 10 A busy semester	Present Perfect Agreeing (units 7-9 mini-test)
11	Unit 11 Favors and requests	Polite Request forms Explaining Reasons
12	Unit 12 Before you travel	Obligation - Have to Asking follow up questions
13	FINAL REVIEW TEST	FINAL REVIEW TEST The review test will comprise of questions testing students' understanding of grammar and language taught in units of the course and their listening and writing skills.
14	WRAP-UP AND QUIZ	WRAP-UP AND QUIZ Activities to reinforce language taught in the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Elements of units that are suitable may be assigned as written homework to be done outside class to reinforce the language taught in those units. This homework will be used to provide feedback to students and affect the participation quotient of the final grade.

【テキスト（教科書）】
Stretch 2 (Susan Stempelski, Oxford University Press,2014) ISBN 978-0-19-460313-3 c.￥3,200

【参考書】
Online resources are available after registration with an access code provided with the student textbook at www.oxfordlearn.com

【成績評価の方法と基準】
Mini Review Tests 45%
Final Review Test 35%
Participation 20%

【学生の意見等からの気づき】
More regular and targeted testing has been introduced.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to use a computer to access online resources and to access tests and quizzes on the Education Management System.

【Outline (in English)】
This course aims to provide students basic skills to negotiate everyday social and academic situations using all four core four skills ; listening, speaking, reading and writing. In addition, it aims to instill confidence in students to access content in English by developing viewing skills to process media in English, and to install confidence in students to express their opinions and ideas in English verbally by instilling fundamental presentation skills.
Students will be able to communicate and elicit information in a range of social and academic interactions. Students will acquire an awareness of basic techniques to facilitate communication cross-culturally. Students will acquire basic presentation techniques.
Each unit of the textbook is themed, structures and vocabulary collocated with the theme is presented in a listening, then used as a basis for guided practice in group and pair work. Critical academic skills are introduced with a short reading and a short video based on the theme (which may be done outside the class). A discrete basic presentation skill is the introduced and a short discussion in groups enables students to practice the language and communication skills together, and for the teacher to give encouragement and feedback.
GRADING CRITERIA
Mini Review Tests 45%
Final Review Test 35%
Participation 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

永井　誠

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
日常生活に関わる簡単な会話から始め、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明し、他者の説明を理解し、意見の交換ができるところまで、幅広いコミュニケーション能力の習得を目指す。また、異文化を理解し尊重し、自分の文化を他者に理解してもらう態度を身に着け、国際人として積極的に異文化交流ができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業活動は前半・後半と、二部に分ける。
前半では、(1)発音（聞く・話す）の練習、(2)疑問と応答のための文法練習、(3)リスニングにおいて[主語＋述語ペア]及びキーワード・キーフレーズを聞き取る練習を行う。(3)に関しては、後にスピーキングにおいて[主語＋述語ペア]を構築する練習に発展させる。
後半では、様々なパラグラフ構造の短い英文原稿を書き、口頭で発表し、他者と(1)Yes/No疑問文～応答、(2)Wh-疑問文～応答、(3)意見・コメント交換の会話活動を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、「Conclusion/Reasons」	授業の進め方、評価方法の説明。「結論・理由」型の発表～会話。
第2回	「Analysis」	「分析」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第3回	「Theory/Proof」	「理論・証明」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第4回	「Controversy」	「論争」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第5回	「Comparison/Contrast」	「比較」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第6回	「Classification」	「分類」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第7回	まとめとテスト(1)	第1～6回の発音・QA文法・SVリスニング練習の内容に関わる復習とテスト
第8回	「Instructions」	「指示」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第9回	「Chronological Order」	「歴史」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第10回	「Cause &Effect」	「原因と結果」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第11回	「Process」	「過程」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第12回	「Explanation」	「説明」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第13回	まとめとテスト(2)	第7～12回の発音・QA文法・SVリ文法練習の内容に関わる復習テスト
第14回	「Definition」	「定義」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習問題）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は4時間を標準とする。必ず復習をすること。また指示された事柄に関しては、予習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配布する。

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】
毎回のライティング（発表原稿）＆スピーキング実績：48％＋2回の筆記テスト（リスニングに基づく発音・QA文法・SV文法のテスト）：52％より評価する。

【学生の意見等からの気づき】
（変更ではなく継続）
アンケートにおいて、リスニング技能の習得のために①発音（子音・母音それぞれ）②主語＋述語の基本構造③複合文構造と、段階的に行ったのが有り難かったとの声が聞かれたので、継続する。
In the survey, respondents appreciated the step-by-step procedure of (1) pronunciation, (2) basic subject + predicate structure, and (3) compound structure and compound syntax, which will be continued.

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンまたはスマートフォン等、アップロードされた教材にアクセスできるもの。
Laptops and/or smartphones for student access to uploaded materials

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

The goal is for students to acquire a wide range of communication skills and an attitude of understanding and respecting different cultures so that they can actively engage in cross-cultural exchanges as international citizens.
The lesson time is divided into two parts.Part 1 includes (1) pronunciation practice, (2) grammar practice for interrogatives, and (3) understanding subject-predicate pairs. In the second part, the students will first do a writing and oral presentation activity, followed by the following activities: (1) Yes/No questions and answers, (2) Wh- questions and answers, and (3) comments on other students' presentations.
The standard amount of study outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. Be sure to review. Also, students are expected to do preparatory study for the topics indicated in the instructions.
Evaluation will be made from the following: writing&speaking at each session: 48%, and two written tests: 52%.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

川口　悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
・身近なテーマを手がかりに、日常会話コミュニケーション能力を身につける。
・論理的に自分の意見を述べ、相手の意見に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的な文法事項や単語などを確認しつつ、ペアやグループでの会話練習や発表などのアクティヴィティを中心に授業を進めていきます。随時小テストをおこない、学んだ表現などの定着を図ります。会話練習や発表にあたってはより適切な表現を提示するなどして、フィードバックを図ります。
語学の授業、とくにコミュニケーションの授業ですから、能力を高めるためには、受講生の皆さんが積極的に授業に参加してくれることが一番大切です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	イントロダクション	授業の進め方や予習の仕方について説明する
2回	辞書の使い方	今後の英語学習をより効果的にするために、辞書を有効に使う方法を学ぶ
3回	会話練習（1）Family	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
4回	会話練習（2）Friends	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
5回	会話練習（3）Culture	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
6回	会話練習（4）Education	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
7回	会話練習（5）Sports	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
8回	会話練習（6）Work	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
9回	会話テストおよび振り返り	これまで学んだ内容について、会話テストを通じて振り返りをおこなう
10回	発表準備（1）	発表の構成や語彙について学ぶ
11回	発表準備（2）	発表のアウトラインを作成し、ピアレビューをもとに推敲する
12回	発表準備（3）	発表の原稿を作成し、ピアレビューをもとに推敲する
13回	発表および振り返り	これまで学んだ内容について、発表を通じて振り返りをおこなう。また、クラスメートの発表にコメントをする
14回	ペーパーテスト	これまで学んだ内容について、ペーパーテストをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・指示された部分を丁寧に予習すること。語学の授業は予習が決定的に重要で、かつ予習をしていないと、ペア練習のパートナーに迷惑がかかります。
・音声教材を予習及び復習で活用すること。

【テキスト（教科書）】
資料を用意して配布します。購入の必要はありません。

【参考書】
綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）
佐藤誠司『Skyward 総合英語』および『Skyward 総合英語 スーパートレーニング』（桐原書店、2022年）
ほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
スピーキング・テスト　30%
ペーパーテスト　30%
発表　30%
授業参加　10%
＊スピーキング・テスト、期末テスト、発表のうち、どれか一つかそれ以上を欠席した場合、不合格とします。
＊正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき3回を上限とします。
＊30分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
＊教科書や辞書を持参していない場合、予習が不充分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともあります。
＊機械翻訳やAI（ChatGPT 等）が作成した文章や英訳・和訳を、自分で作成したものとして提出することは認めません。そのような行為が確認された場合は、当該の課題の成績を０点にするなど、厳格な対応を行います。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんが口を開きやすい、楽しい雰囲気を作るよう心がけます。また、発表の準備に時間をかけたいという意見があったので、準備にかける授業回数を増やしました。

【学生が準備すべき機器他】
授業には、かならずきちんとした辞書を持参してください。

【その他の重要事項】
授業の進行や受講生の皆さんの要望により、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
Preparation and repetitive exercise are crucial in studying language.
The final grade will be calculated based on a speaking test(30%), a final exam (30%), an oral presentation (30%), and class participation (10%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

早舩　由紀見

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
本授業では、タスクベースで学生が主体的に英語を使用し、英語表現を学び、それを応用して英語でコミュニケーションできる能力を身に付け、グローバル化した社会への対応力を養う。
具体的には以下を目標とする。
１）基礎的な会話力を身につける。
２）文法知識を定着させる。
３）基礎的な英語力を発展させ、自分の話したいことが話せるよう応用力を身につける。
毎回の授業で以下内容を実施し、目標を達成できるようにしていく。
・知識として持っている英単語や英語表現を実際に使用する
・文法の復習を行い、文法的に正しい文を話す
・教科書の各章のタスクをペアやグループで英語で対話しながら行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
タスクベースで英単語や英語表現に関するタスクを行いながら会話力を身につけます。
ペアワークやグループワークで、情報伝達、情報合成、ナレーション、問題解決、意思決定など様々なタスクを行い、自分の考えをまとめて話す練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Conveying information 1	Putting things in place Simple drawings
2	Conveying information 2	Spot the difference Taking out the garbage
3	Conveying information 3	Fantastic flags Daily scenes
4	Conveying information 4	Tom's accident The truth about me
5	Conveying information 5 Mid-term conversation test	Who are they? Group presentation
6	Synthesizing elements 1	Search for something in common Doing the dishes
7	Synthesizing elements 2	A fishy story Safe driving
8	Narrating stories 1	Storytelling with a cartoon
9	Narrating stories 2	Storytelling with a video
10	Solving problems 1	Find the odd one out Recognize the process
11	Solving problems 2	Complete the story Get a different perspective
12	Making decisions 1	Love match Super schools
13	Making decisions 2	Mad inventions Group members
14	End-term presentation	Presentation (individual)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・教科書の予習
・新しい語や表現を調べる
・授業で習った表現を復習する

【テキスト（教科書）】
Getting Things Done [Book 1] — Tasks for Connecting the Classroom with the Real World
タスクで教室から世界へ［ブック１］
三修社

【参考書】
必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度（課題への取り組み度合い、提出物）　70%
中間テスト 15%
期末テスト 15%

【学生の意見等からの気づき】
会話練習の時間を増やす。
学生の理解を確認しながら授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを使用する場合があります。

【その他の重要事項】
・理由なく、全授業の1/3以上の欠席、または5回以上欠席すると単位を取得できません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
【Learning Objectives】
Students will develop listening skills and apply them to acquire the ability to communicate in English.
【Learning activities outside of classroom】
- Preparation for the next class (text reading)
- Look up a dictionary for new vocabulary and expressions
【Grading Criteria / Policy】
Participation in class (in and out of class assignments) 70%
Mid-term exam 15%
End-of-term exam 15%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
The goal of this class is to enhance students skills of fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.
Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Family and leadership	Talking about lifestyle choices
3	Describing/ Manners	Students will have the opportunity to talk about some of their favorite things.
4	Ted Talk	Students will listen to a Ted Talk about communication strategies and write a report
5	The Past	Students will have the opportunity to tell stories from their childhood memories
6	Travel and Rules	Students will discuss living arrangements and thoughts about order and structure
7	Consolidation	Students will have the opportunity to create longer conversations based on the vocabulary and phrases from earlier chapters to create realistic conversations
8	Problems and Solutions	Students will discuss a variety of scenarios about their future.
9	Describing trends	Students will discuss trends, past and present and how they affect culture
10	VOA current news summary and opinion	Using the Voice of America app, students will review current news events and write a report using vocabulary from the text
11	DVD-harassment	DVD listening and creative writing practice with the theme of bullying
12	Friendship and marriage	Students will discuss dating and marriage customs and how the culture of romance is changing
13	Travel	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique.
14	Final conversation review	Partner based conversation to show consolidation of the second part of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
Most of the work done outside class will be summary writing tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】
Speak Now 3.
Oxford
ISBN:978-0-19-403017-5

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Mid-term assessment 30%
Final assessment 30%
Homework and weekly class assignments40%

【学生の意見等からの気づき】
There will be more emphasis on conversations based on daily life issues.

【学生が準備すべき機器他】
Notebook

【None】
None

【Outline (in English)】
The learning objectives of this class are to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, levelled classes for maximum effectiveness.
The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.
Learning activities outside this class will focus on watching video of TED talk lectures and preparing discussion and summary points. Also, regular homework-grammar and vocabulary practice from the review sections of the textbook.
This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.
Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.
Mid-term assessment 30%
Final assessment 30%
Homework and weekly class assignments40%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This class will be student centred, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.
Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Family and Leadership	Talking about lifestyle choices
3	Describing/ Manners	Students will have the opportunity to talk about some of their favorite things.
4	Ted Talk	Students will watch and listen to a Ted Talk about communication strategies and write a report
5	Younger days	Students will have the opportunity to tell stories from their childhood memories
6	Travel and Rules	Students will discuss living arrangements and thoughts order and structure
7	Consolidation	Students will have the opportunity to create and present longer conversations based on the first chapters of the book
8	Problems and Solutions	Students will discuss a variety of scenarios about their future
9	Describing trends	Students will discuss some trends in Japan, past and present, and how they affect culture
10	VOA current news, summary and opinion	Using the Voice of America app, students will review current news events and write a report using vocabulary from the text
11	Bullying	DVD listening and watching with a creative writing practice, focusing on a bullying theme
12	Marriage and Partnerships	Students will discuss marriage customs and how they are changing our ideas about couples
13	Exciting times	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique.
14	Final conversation	Partner based conversation/storytelling to show consolidation of the second part of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】All of the work done outside class will be Summary writing tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】
Speak Now 3.
Oxford.
ISBN: 978-0-19-403017-5

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Mid term assessment 30%
Final assessment 30%
Homework and weekly class assignments 40%

【学生の意見等からの気づき】
There will be more emphasis on talking about small everyday aspects of student life.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionary

【None】
None

【Outline (in English)】
The learning objectives of this class are to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, levelled classes for maximum effectiveness.
The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.
Learning activities outside this class will focus on watching video of TED talk lectures and preparing discussion and summary points. Also, regular homework-grammar and vocabulary practice from the review sections of the textbook.
This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.
Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.
Mid-term assessment 30%
Final assessment 30%
Homework and weekly class assignments40%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
This course is designed to develop the following skills in English.
(1) to explain Japanese and world events in English
(2) to discuss cross-cultural communication
(3) to gather information in English
(4) to develop critical thinking skills and abilities

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Through a task-based approach, working in small teams, students learn to speak, to discuss, to express opinions in order to promote global thinking and communication skills in English. They acquire technical vocabulary, expressions and critical thinking with a personalized focus on their field of study.
Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Introduction to the course aims, goals, objectives, and evaluation criteria.
第2回	Strategic Language Learning	How to set language learning goals and track progress; Learning strategies to improve language learning; How to use technology and resources to support language learning.
第3回	Vocabulary Strategies 1	Context clues and inference; Using a bilingual dictionary effectively
第4回	Vocabulary Strategies 2	Using word parts (prefixes, suffixes, etc.) to infer meaning
第5回	Discourse Strategies 1	Discourse markers
第6回	Discourse Strategies 2	Cohesive devices
第7回	Interactional Strategies 1	Politeness, interruption, and turn-taking
第8回	Interactional Strategies 2	Clarification and confirmation
第9回	Comprehension Strategies	Reading strategies (inference through skimming, scanning, text structure); Listening strategies (context; gist and detail).
第10回	Speaking Strategies 1	Fillers and hesitation; Circumlocution and paraphrasing.
第11回	Speaking Strategies 2	Nonverbal communication; Pronunciation (intonation, rhythm, emphasis).
第12回	Writing Strategies	Brainstorm and outline; Editing and revising.
第13回	Class summary and preparation for final presentation	Summary of the contents covered; Feedback; Instructions and preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
第14回	Final evaluation	Online interviews

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Prior to each lesson, students are required to review the provided
documentation and complete a brief preparation task that will be
explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
A notebook is needed for in-class work, while for out-of-class assignments, students are required to use Word software or compatible open source software.

【Outline (in English)】
Course Outline:

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
Learning Objectives:
This course is designed to develop the following skills in English.
(1) to explain Japanese and world events in English
(2) to discuss cross-cultural communication
(3) to gather information in English
(4) to develop critical thinking skills and abilities
Learning activities outside of the classroom:
Prior to each lesson, students are required to review the provided
documentation and complete a brief preparation task that will be
explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.
Grading Criteria:
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

太田　美智子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.
At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of Class Rules. Get to know each other.
2	Unit 1	William's Notting Hill &She
3	Unit 2	Surreal,But Nice
4	Unit 3	A Goddess Is A Movie Star
5	Unit 4	Birthday Party
6	Exam&Summary	Wrap-up,Review
7	Unit 5	A Date With Anna
8	Unit 6	She's Gone
9	Unit 7	She's Back
10	Unit 8	Rude Awakening
11	Exam&Summary	Wrap-up,Review
12	Unit 9	Like Me Again
13	Unit 10	The Right Decision
14	quiz	Exam &Summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
You are expected to preview each lesson.

【テキスト（教科書）】
Notting Hill, Richard Curtis, Shohakusya, 2018, 2100yen

【参考書】
No references.

【成績評価の方法と基準】
Class work and participation 30%
Short reports 20%
Examinations 50%

【学生の意見等からの気づき】
Learning English through movies are effective. Let's study English together.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students.
The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.
You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.
At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.
You are expected to preview each lesson.
Grading:
Class work and participation 30%
Short reports 20%
Examinations 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
・choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrange of media
・write an effective summary paragraph
・write an analytical book report
・make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
・carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form.
During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades.
This class uses Google Classroom on which you will find a document with an explanation of class procedures. You are expected to read this document.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be ccovered.	Students will recieve guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.
Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】
You must have a dictionary: paper or electronic (NOT a phone). No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】
Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
A good dictionary is required. One example is:
Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Homework: 10%
Presentations: 60%
Class performance (effort, participation, use of English): 30%

【学生の意見等からの気づき】
Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice.
A document which clearly states class procedures and the obligations of students has been included with Week 1 materials on Google Classroom.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and Google Classroom. If the course is run face-to-face, it will use Google Classroom.
For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted on Google Classroom.
Students will need a Hosei University email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher and access Google Classroom. This address must not change during the semester.
Please make sure that the computer equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes
an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not.
You may not use a smartphone for this purpose

【その他の重要事項】
Note:
This is a 'No Smartphone' class. Your phone must be turned off, and in your bag. Your "Classwork (effort, participation)" grade will be affected if you persistently use / look at your phone.
This class promotes and relies on academic honesty. The use of translation and language-generating technology is considered to be plagiarism and is not allowed under any circumstances. Your course grade will be affected by ignoring this rule.
"Dictionary" means paper dictionary or electronic dictionary. Using a phone as a dictionary is not allowed.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
At the end of this course, students will be able to:
・choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrange of media
・write an effective summary paragraph
・write an analytical book report
・make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
・carry on a group discussion on a range of academic topics
Work to be done outside of class (preparation, etc.):
Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.
Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.
Grading Criteria:
Homework: 10%
Presentations: 60%
Class performance (effort, participation, use of English): 30%
This class has a strict "NO Smartphones" policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.
This class uses Google Classroom on which you will find a document with an explanation of class procedures. You are expected to read this document.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

平賀　史子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the following:
(1) Students will develop the ability to use English language skills to communicate various topics.
(2) Students will acquire four language skills (Reading, Writing, Listening, and Speaking) in English communication more fluently and confidently.
(3) Students will develop the ability to think critically and express their opinions in discussions and short presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this course, students will work on activities individually or in small groups. They are expected to work collaboratively to do various tasks such as group discussion, researching, and presenting topics of interest. Students will develop basic knowledge and skills of writing accurate English sentences that enable them to write paragraphs with good vocabulary, grammar, content, and organization. Students also do presentations using YouTube. The instructor will provide ongoing support and feedback for students.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction / Orientation	Introduction of the course, Orientation, Warm-up activity.
2	Unit 3 Self-Introduction Paragraph – Reading, Writing, and Discussion	Explanation of YouTube presentation, skills-based work based on the textbook unit.
3	Unit 3 Self-Introduction Paragraph – Speech Practice	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
4	Unit 4 Descriptive Paragraph – Reading, Writing, and Discussion	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
5	Unit 4 Descriptive Paragraph – Reading, Writing, and Group Work	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
6	Unit 4 Descriptive Paragraph – Preparation for Assessment 1	YouTube presentation, group work, and researching topics of interest.
7	Assessment 1	Preparation and practice. Assessment 1.
8	Unit 7 Narrative Paragraph – Reading, Writing, and Discussion	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
9	Unit 7 Narrative Paragraph – Speech Practice	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
10	Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph – Reading, Writing, and Discussion	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
11	Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph – Reading, Writing, and Group Work	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
12	Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph – Preparation for Assessment 2	YouTube presentation, group work, and researching topics of interest.
13	Assessment 2	Preparation and practice. Assessment 2.
14	Course Review	Review of the course, make-ups, and goal setting.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Basic Steps to Academic Writing – From Paragraph to Essay
Author: Matthew A. Taylor and David E. Kluge
Publisher: Cengage Learning (2,850 yen + tax)
ISBN: 978-4-86312-209-3

【参考書】
Teacher will provide additional material.

【成績評価の方法と基準】
The final grade will be decided based on the following:
Assessment 1 (20%), Assessment 2 (20%), Reading Task (20%), Homework and YouTube presentation (20 %), In-class Participation/Self-Evaluation (20 %)

【学生の意見等からの気づき】
The instructor is willing to be available to take student concerns under consideration throughout the semester.

【学生が準備すべき機器他】
Students are required to bring either a smartphone, tablet, or laptop computer. Please make sure that it is fully charged before the class and can connect to the internet easily. Also, students are welcome to bring their dictionary (electric or book) in class.

【その他の重要事項】
３分の１以上または5回以上の理由なき欠席で、成績を不合格（E）とします
More than one-third or five total absences without a valid reason will result in a failing grade (E).

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be at least four hours for a class.
The final grade will be decided based on the following:
Assessment 1 (20%), Assessment 2 (20%), Homework (20%), Quizzes and YouTube presentation (20 %), In-class Participation/Self-Evaluation (20 %)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

KOPROWSKI　MARK

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.
Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.
Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course introduction and explanation	The teacher and students will have an opportunity to introduce and talk about themselves
第2回	Unit 1 Good to Meet You	-Key Vocabulary: Meeting someone for the first time -Speaking/Listening: Meeting someone new -Conversation Strategy 1: Meeting people -Conversation Strategy 2: Bouncing
第3回	Unit 2 It Runs in the Family	-Key Vocabulary: Physical and personality adjectives -Speaking/Listening: Family -Conversation Strategy 1: Getting time to think -Conversation Strategy 2: Asking for More information
第4回	Unit 3 School Daze	-Key vocabulary: School -Speaking/Listening: School life -Conversation Strategy 1: Agreeing -Conversation Strategy 2: Disagreeing
第5回	Unit 4 You Are What You Eat	-Key Vocabulary: Food -Speaking/Listening: Food and exercise -Conversation Strategy 1: Getting more information -Conversation Strategy 2: Getting more details
第6回	Unit 5 Shop Till You Drop	-Key Vocabulary: -Shopping Speaking/Listening: Going shopping -Conversation Strategy 1: Explaining -Conversation Strategy 2: Body language
第7回	MID-TERM EXAMINATION: Units 1-5 (speaking test)	-Prepare &practice for speaking test -10-minute speaking test (in small groups)
第8回	Unit 7 Friends	-Key vocabulary: Friends -Speaking/Listening: Friends -Conversation Strategy 1: Using tag questions -Conversation Strategy 2: Giving compliments
第9回	Unit 8 Road Trip	-Key Vocabulary: Travel -Speaking/Listening:: Travel -Conversation Strategy 1: Making suggestions -Conversation Strategy 2: Responding to suggestions
第10回	Unit 9 Blind Date	-Key vocabulary: Dating -Speaking/Listening: Dating -Conversation Strategy 1: Checking for understanding -Conversation Strategy 2: Summarizing
第11回	Unit 10 Job Hunting	-Key vocabulary: Work -Speaking/Listening: Work -Conversation Strategy 1: Changing direction -Conversation Strategy 2: Changing the topic
第12回	Unit 11 Let's Catch a Flick	-Key vocabulary: Movies -Speaking/Listening: Movies -Conversation Strategy 1: Sharing news -Conversation Strategy 2: Reacting to news
第13回	FINAL EXAMINATION (speaking): Units 6-11	-Prepare &practice for speaking test -10-minute speaking test (in small groups)

第14回	FINAL EXAMINATION (paper test): Units 1-11	Talk about summer break plans

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】
By the Way... : Strategies for Successful Conversation
Authors: Michael Hensley &Bill Burns
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

【参考書】
An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here: https://jisho.org/

【成績評価の方法と基準】
Class participation (speaking English, taking notes): 20%
Homework assignments: 20%
Mid-term (speaking) examination (Units 1-5): 20%
Final (speaking) examination (Units 7-11): 20%
Final (paper) examination (Units 1-11): 20%

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.
The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.
Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.
Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.
Class participation (speaking English, taking notes): 20%
Homework assignments: 20%
Mid-term examination (speaking test):20%
Final examination (paper test):20%
Final examination (speaking test): 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
This course is designed to develop the following skills in English.
(1) to explain Japanese and world events in English
(2) to discuss cross-cultural communication
(3) to gather information in English
(4) to develop critical thinking skills and abilities

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Through a task-based approach, working in small teams, students learn to speak, to discuss, to express opinions in order to promote global thinking and communication skills in English. They acquire technical vocabulary, expressions and critical thinking with a personalized focus on their field of study.
Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Introduction to the course aims, goals, objectives, and evaluation criteria.
第2回	Strategic Language Learning	How to set language learning goals and track progress; Learning strategies to improve language learning; How to use technology and resources to support language learning.
第3回	Vocabulary Strategies 1	Context clues and inference; Using a bilingual dictionary effectively
第4回	Vocabulary Strategies 2	Using word parts (prefixes, suffixes, etc.) to infer meaning
第5回	Discourse Strategies 1	Discourse markers
第6回	Discourse Strategies 2	Cohesive devices
第7回	Interactional Strategies 1	Politeness, interruption, and turn-taking
第8回	Interactional Strategies 2	Clarification and confirmation
第9回	Comprehension Strategies	Reading strategies (inference through skimming, scanning, text structure); Listening strategies (context; gist and detail).
第10回	Speaking Strategies 1	Fillers and hesitation; Circumlocution and paraphrasing.
第11回	Speaking Strategies 2	Nonverbal communication; Pronunciation (intonation, rhythm, emphasis).
第12回	Writing Strategies	Brainstorm and outline; Editing and revising.
第13回	Class summary and preparation for final presentation	Summary of the contents covered; Feedback; Instructions and preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
第14回	Final evaluation	Online interviews

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Prior to each lesson, students are required to review the provided
documentation and complete a brief preparation task that will be
explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
A notebook is needed for in-class work, while for out-of-class assignments, students are required to use Word software or compatible open source software.

【Outline (in English)】
Course Outline:

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
Learning Objectives:
This course is designed to develop the following skills in English.
(1) to explain Japanese and world events in English
(2) to discuss cross-cultural communication
(3) to gather information in English
(4) to develop critical thinking skills and abilities
Learning activities outside of the classroom:
Prior to each lesson, students are required to review the provided
documentation and complete a brief preparation task that will be
explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.
Grading Criteria:
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

早舩　由紀見

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
本授業では、タスクベースで学生が主体的に英語を使用し、英語表現を学び、それを応用して英語でコミュニケーションできる能力を身に付け、グローバル化した社会への対応力を養う。
具体的には以下を目標とする。
１）基礎的な会話力を身につける。
２）文法知識を定着させる。
３）基礎的な英語力を発展させ、自分の話したいことが話せるよう応用力を身につける。
毎回の授業で以下内容を実施し、目標を達成できるようにしていく。
・知識として持っている英単語や英語表現を実際に使用する
・文法の復習を行い、文法的に正しい文を話す
・教科書の各章のタスクをペアやグループで英語で対話しながら行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
タスクベースで英単語や英語表現に関するタスクを行いながら会話力を身につけます。
ペアワークやグループワークで、情報伝達、情報合成、ナレーション、問題解決、意思決定など様々なタスクを行い、自分の考えをまとめて話す練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Conveying information 1	Putting things in place Simple drawings
2	Conveying information 2	Spot the difference Taking out the garbage
3	Conveying information 3	Fantastic flags Daily scenes
4	Conveying information 4	Tom's accident The truth about me
5	Conveying information 5 Mid-term conversation test	Who are they? Group presentation
6	Synthesizing elements 1	Search for something in common Doing the dishes
7	Synthesizing elements 2	A fishy story Safe driving
8	Narrating stories 1	Storytelling with a cartoon
9	Narrating stories 2	Storytelling with a video
10	Solving problems 1	Find the odd one out Recognize the process
11	Solving problems 2	Complete the story Get a different perspective
12	Making decisions 1	Love match Super schools
13	Making decisions 2	Mad inventions Group members
14	End-term presentation	Presentation (individual)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・教科書の予習
・新しい語や表現を調べる
・授業で習った表現を復習する

【テキスト（教科書）】
Getting Things Done [Book 1] — Tasks for Connecting the Classroom with the Real World
タスクで教室から世界へ［ブック１］
三修社

【参考書】
必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度（課題への取り組み度合い、提出物）　70%
中間テスト 15%
期末テスト 15%

【学生の意見等からの気づき】
会話練習の時間を増やす。
学生の理解を確認しながら授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを使用する場合があります。

【その他の重要事項】
・理由なく、全授業の1/3以上の欠席、または5回以上欠席すると単位を取得できません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
【Learning Objectives】
Students will develop listening skills and apply them to acquire the ability to communicate in English.
【Learning activities outside of classroom】
- Preparation for the next class (text reading)
- Look up a dictionary for new vocabulary and expressions
【Grading Criteria / Policy】
Participation in class (in and out of class assignments) 70%
Mid-term exam 15%
End-of-term exam 15%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

早舩　由紀見

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
本授業では、タスクベースで学生が主体的に英語を使用し、英語表現を学び、それを応用して英語でコミュニケーションできる能力を身に付け、グローバル化した社会への対応力を養う。
具体的には以下を目標とする。
１）基礎的な会話力を身につける。
２）文法知識を定着させる。
３）基礎的な英語力を発展させ、自分の話したいことが話せるよう応用力を身につける。
毎回の授業で以下内容を実施し、目標を達成できるようにしていく。
・知識として持っている英単語や英語表現を実際に使用する
・文法の復習を行い、文法的に正しい文を話す
・教科書の各章のタスクをペアやグループで英語で対話しながら行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
タスクベースで英単語や英語表現に関するタスクを行いながら会話力を身につけます。
ペアワークやグループワークで、情報伝達、情報合成、ナレーション、問題解決、意思決定など様々なタスクを行い、自分の考えをまとめて話す練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Conveying information 1	Putting things in place Simple drawings
2	Conveying information 2	Spot the difference Taking out the garbage
3	Conveying information 3	Fantastic flags Daily scenes
4	Conveying information 4	Tom's accident The truth about me
5	Conveying information 5 Mid-term conversation test	Who are they? Group presentation
6	Synthesizing elements 1	Search for something in common Doing the dishes
7	Synthesizing elements 2	A fishy story Safe driving
8	Narrating stories 1	Storytelling with a cartoon
9	Narrating stories 2	Storytelling with a video
10	Solving problems 1	Find the odd one out Recognize the process
11	Solving problems 2	Complete the story Get a different perspective
12	Making decisions 1	Love match Super schools
13	Making decisions 2	Mad inventions Group members
14	End-term presentation	Presentation (individual)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・教科書の予習
・新しい語や表現を調べる
・授業で習った表現を復習する

【テキスト（教科書）】
Getting Things Done [Book 1] — Tasks for Connecting the Classroom with the Real World
タスクで教室から世界へ［ブック１］
三修社

【参考書】
必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度（課題への取り組み度合い、提出物）　70%
中間テスト 15%
期末テスト 15%

【学生の意見等からの気づき】
会話練習の時間を増やす。
学生の理解を確認しながら授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを使用する場合があります。

【その他の重要事項】
・理由なく、全授業の1/3以上の欠席、または5回以上欠席すると単位を取得できません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
【Learning Objectives】
Students will develop listening skills and apply them to acquire the ability to communicate in English.
【Learning activities outside of classroom】
- Preparation for the next class (text reading)
- Look up a dictionary for new vocabulary and expressions
【Grading Criteria / Policy】
Participation in class (in and out of class assignments) 70%
Mid-term exam 15%
End-of-term exam 15%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

染谷　昌弘

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「コミュニケーション・ストラテジー」２単位 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。
Communication Strategies (2 credits) for【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

【到達目標】
・日常生活でやりとりされる英語を聞いて理解できる。
・正確にディクテーションやシャドーイングができる。
・自分の身近なことについて、英語で意見が述べられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では主に日常的な会話を正確に聴き取り、さらにトピックに関連する内容を自分で作成して発表することを目的とする。テキストにある様々な場面に関する設問に解答しながら進めます。翌週の授業でディクテーションその他の小テストを行うことで、学習内容の定着を図ります。
課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は，対面とします。課題等の提出は、Web Classより行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	テキスト、授業の進め方、課題の提出の仕方、評価方法などについての解説をする。
2	Unit1: Asking and answering personal information Questions	personal information
3	Uni2: Describing people	people
4	Unit3: Asking and talking about special events	special events
5	Unit4: Asking and talking about school subjects	school subjects
6	Unit5: Asking and talking about a trip	trip
7	Unit6: Asking about and describing homes	homes
8	Unit7: Discussing and bargaining for consumer goods	consumer goods
9	Unit8: Asking about and describing jobs	jobs
10	Unit9: Asking for information and making excues	making excues
11	Unit10: Asking for and giving tour information	tour information
12	Unit11: Placing and taking orders for take-out food	orders for take-out food
13	Unit12: Asking and talking about stress and relaxation	stress and relaxation
14	Unit13: Asking and talking about news stories	news stories

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・本授業の準備・復習時間は各４時間を標準とします。
・授業前に指定された課題の準備をする。
・前回の授業で学習した内容を確認し、小テストに備える。
・前回の授業で学習したUnitを各自で視聴し直す。
・次週の授業のテーマを確認し、自分の意見・立場を考え、必要な情報を事前に調べておく。

【テキスト（教科書）】
Hear Me Out 2 David Nunan, Noriko Tomioka センゲージラーニング　2017 (￥2,200)
※教科書は教科書販売期間内に指定の場所で必ず購入して下さい。

【参考書】
英和・和英辞書を毎回必ず持参して下さい。（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
小テスト　50％
提出課題　30%
グループディスカッション、その他　20％

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムWeb Classを使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に、授業履修に関しての注意事項を説明します。必ず参加すること。

また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業に忘れずに持参すること。この教科書は、一般の本屋さんやアマゾンなどでは購入できませんので、必ず大学で購入して下さい。

【Outline (in English)】
Communication Strategies (2 credits) for【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
Goal
・To be able to understand daily English conversation.
・To be able to express your own idea of your familiar things.
・To be able to use appropriate word for expression according to the content of the each Unit.
Work to be done outside of classroom
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:Quiz (50%). Submission Assignment (30%). Group Discussion and others(20%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

染谷　昌弘

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「コミュニケーション・ストラテジー」２単位 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。
Communication Strategies (2 credits) for【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

【到達目標】
・日常生活でやりとりされる英語を聞いて理解できる。
・正確にディクテーションやシャドーイングができる。
・自分の身近なことについて、英語で意見が述べられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では主に日常的な会話を正確に聴き取り、さらにトピックに関連する内容を自分で作成して発表することを目的とする。テキストにある様々な場面に関する設問に解答しながら進めます。翌週の授業でディクテーションその他の小テストを行うことで、学習内容の定着を図ります。
課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は，対面とします。課題等の提出は、Web Classより行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	テキスト、授業の進め方、課題の提出の仕方、評価方法などについての解説をする。
2	Unit1: Asking and answering personal information Questions	personal information
3	Uni2: Describing people	people
4	Unit3: Asking and talking about special events	special events
5	Unit4: Asking and talking about school subjects	school subjects
6	Unit5: Asking and talking about a trip	trip
7	Unit6: Asking about and describing homes	homes
8	Unit7: Discussing and bargaining for consumer goods	consumer goods
9	Unit8: Asking about and describing jobs	jobs
10	Unit9: Asking for information and making excues	making excues
11	Unit10: Asking for and giving tour information	tour information
12	Unit11: Placing and taking orders for take-out food	orders for take-out food
13	Unit12: Asking and talking about stress and relaxation	stress and relaxation
14	Unit13: Asking and talking about news stories	news stories

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・本授業の準備・復習時間は各４時間を標準とします。
・授業前に指定された課題の準備をする。
・前回の授業で学習した内容を確認し、小テストに備える。
・前回の授業で学習したUnitを各自で視聴し直す。
・次週の授業のテーマを確認し、自分の意見・立場を考え、必要な情報を事前に調べておく。

【テキスト（教科書）】
Hear Me Out 2 David Nunan, Noriko Tomioka センゲージラーニング　2017 (￥2,200)
※教科書は教科書販売期間内に指定の場所で必ず購入して下さい。

【参考書】
英和・和英辞書を毎回必ず持参して下さい。（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
小テスト　50％
提出課題　30%
グループディスカッション、その他　20％

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムWeb Classを使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に、授業履修に関しての注意事項を説明します。必ず参加すること。

また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業に忘れずに持参すること。この教科書は、一般の本屋さんやアマゾンなどでは購入できませんので、必ず大学で購入して下さい。

【Outline (in English)】
Communication Strategies (2 credits) for【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
Goal
・To be able to understand daily English conversation.
・To be able to express your own idea of your familiar things.
・To be able to use appropriate word for expression according to the content of the each Unit.
Work to be done outside of classroom
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:Quiz (50%). Submission Assignment (30%). Group Discussion and others(20%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

庭山　雄吉

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
テキストの内容をただ暗記するのではなく、日常の場面で実践できる英語力を習得することを目指し、実用的な英語力を身につけ、自分自身の意見を英語で発信できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業は講義形式ではなく、基本的に学生が主体となる参加型の授業です。毎回、小グループに分かれ、ペアワーク、ロールプレイ、ディスカッションを行います。また、本授業では、プレゼンテーションも取り入れ、効果的なプレゼンテーションの実践について解説します。
・課題等についてのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業全体の概要説明 授業の進め方、予習、復習、Presentation、Role Playing、Class Activitiesについて解説。
2	Unit 2 Are you ready for your first job interview?	就職活動に関連する英語表現を習得します。
3	Unit 3 Do you exercise?	運動やストレッチに関連するた英語表現を習得します。
4	Unit 4 Are you afraid of the future?	世界の未来像について関連する英語表現を習得します。
5	Unit 5 What will happen to the global economy?	世界経済の見通しに関連する英語表現を習得します。
6	Unit 6 Have you ever been guilty of telling a white lie?	罪のない嘘に関連する英語表現を習得します。
7	Presentation	タイトルをはじめ詳細については2週間前までに授業内で伝達します。
8	Unit 7 Can you eat sushi?	すしや和食に関連する英語表現を習得します。
9	Unit 8 Hobby, habit, or addiction	趣味や習慣に関連する英語表現を習得します。
10	Unit 9 Can money buy happiness?	幸せの価値観に関連する英語表現を習得します。
11	Role Playing	詳細については2週間前までに授業内で伝達します。
12	Unit 10 Is it positive or negative peer pressure?	同調圧力や友人からの圧力に関連する英語表現を習得します。
13	Unit 14 What is the most effective way to study?	効果的な語学の学習方法に関連する英語表現を習得します。
14	総復習	これまで学習した重要表現、重要語句の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。
・Unitの会話文を熟読。
・テキストの巻末にあるGlossariesに記載された英単語を確認。
・UnitのCDを聞き発音を確認。
・Unitの内容について自分自身の意見を英語でまとめる。

【テキスト（教科書）】
マイケル・シェルマン、岩本典子、吉田宏予『REFLECTIONS:Talking about Things That Matter 話題別に学ぶ英語表現術』(南雲堂、2011）1,700円＋税

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・授業参加度（Class Activitiesへの取り組み）　20%
・Presentation　20%
・Role Playing 20%
・確認テスト　40%

【学生の意見等からの気づき】
・受講生が間違いを恐れず、英語で発言しやすい雰囲気をつくりたいと思います。
・授業内では、受講生どうしが英語で話し合える場をできるだけ多く提供したいと思います。
・受講生から希望があれば、授業終了後に授業内容や課題についてのフィードバックを行います。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書があれば望ましい。

【その他の重要事項】
・欠席は5回となった時点で単位取得不可となります。
・遅刻は2回で1回の欠席とします。
・授業開始から30分以上経過しての遅刻は欠席1回とします。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire broad communication skills, ranging from familiarity with daily conversation to the ability to explain topics of their own interest or field of study, while deepening their understanding of foreign cultures required of global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on students' future needs and interests, as well as on their ability to apply English to research and professional contexts. This course offers students an opportunity to learn practical communication skills in English through various activities such as pair work, role playing, and discussion. By the end of the course, students should be able to present their own opinions in practical English. Before and after each class meeting, students will be expected to spend approximately four hours understanding the course content. Grades will be based on class activities (20%), presentations (20%), role playing (20%), and examinations (40%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

庭山　雄吉

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
テキストの内容をただ暗記するのではなく、日常の場面で実践できる英語力を習得することを目指し、実用的な英語力を身につけ、自分自身の意見を英語で発信できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業は講義形式ではなく、基本的に学生が主体となる参加型の授業です。毎回、小グループに分かれ、ペアワーク、ロールプレイ、ディスカッションを行います。また、本授業では、プレゼンテーションも取り入れ、効果的なプレゼンテーションの実践について解説します。
・課題等についてのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業全体の概要説明 授業の進め方、予習、復習、Presentation、Role Playing、Class Activitiesについて解説。
2	Unit 2 Are you ready for your first job interview?	就職活動に関連する英語表現を習得します。
3	Unit 3 Do you exercise?	運動やストレッチに関連する英語表現を習得します。
4	Unit 4 Are you afraid of the future?	世界の未来像について関連する英語表現を習得します。
5	Unit 5 What will happen to the global economy?	世界経済の見通しに関連する英語表現を習得します。
6	Unit 6 Have you ever been guilty of telling a white lie?	罪のない嘘に関連する英語表現を習得します。
7	Presentation	タイトルをはじめ詳細については2週間前までに授業内で伝達します。
8	Unit 7 Can you eat sushi?	すしや和食に関連する英語表現を習得します。
9	Unit 8 Hobby, habit, or addiction	趣味や習慣に関連する英語表現を習得します。
10	Unit 9 Can money buy happiness?	幸せの価値観に関連する英語表現を習得します。
11	Role Playing	詳細については2週間前までに授業内で伝達します。
12	Unit 10 Is it positive or negative peer pressure?	同調圧力や友人からの圧力に関連する英語表現を習得します。
13	Unit 14 What is the most effective way to study?	効果的な語学の学習方法に関連する英語表現を習得します。
14	総復習	これまで学習した重要表現、重要語句の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。
・Unitの会話文を熟読。
・テキストの巻末にあるGlossariesに記載された英単語を確認。
・UnitのCDを聞き発音を確認。
・Unitの内容について自分自身の意見を英語でまとめる。

【テキスト（教科書）】
マイケル・シェルマン、岩本典子、吉田宏予『REFLECTIONS:Talking about Things That Matter 話題別に学ぶ英語表現術』(南雲堂、2011）
1,700円＋税

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・授業参加度（Class Activitiesへの取り組み）　20%
・Presentation　20%
・Role Playing 20%
・確認テスト　40%

【学生の意見等からの気づき】
・受講生が間違いを恐れず、英語で発言しやすい雰囲気をつくりたいと思います。
・授業内では、受講生どうしが英語で話し合える場をできるだけ多く提供したいと思います。
・受講生から希望があれば、授業終了後に授業内容や課題についてのフィードバックを行います。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書があれば望ましい。

【その他の重要事項】
・欠席は5回となった時点で単位取得不可となります。
・遅刻は2回で1回の欠席とします。
・授業開始から30分以上経過しての遅刻は欠席1回とします。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire broad communication skills, ranging from familiarity with daily conversation to the ability to explain topics of their own interest or field of study, while deepening their understanding of foreign cultures required of global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on students' future needs and interests, as well as on their ability to apply English to research and professional contexts. This course offers students an opportunity to learn practical communication skills in English through various activities such as pair work, role playing, and discussion. By the end of the course, students should be able to present their own opinions in practical English. Before and after each class meeting, students will be expected to spend approximately four hours understanding the course content. Grades will be based on class activities (20%), presentations (20%), role playing (20%), and examinations (40%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

永井　誠

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
日常生活に関わる簡単な会話から始め、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明し、他者の説明を理解し、意見の交換ができるところまで、幅広いコミュニケーション能力の習得を目指す。また、異文化を理解し尊重し、自分の文化を他者に理解してもらう態度を身に着け、国際人として積極的に異文化交流ができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業活動は前半・後半と、二部に分ける。
前半では、(1)発音（聞く・話す）の練習、(2)疑問と応答のための文法練習、(3)リスニングにおいて[主語＋述語ペア]及びキーワード・キーフレーズを聞き取る練習を行う。(3)に関しては、後にスピーキングにおいて[主語＋述語ペア]を構築する練習に発展させる。
後半では、様々なパラグラフ構造の短い英文原稿を書き、口頭で発表し、他者と(1)Yes/No疑問文～応答、(2)Wh-疑問文～応答、(3)意見・コメント交換の会話活動を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、「Conclusion/Reasons」	授業の進め方、評価方法の説明。「結論・理由」型の発表～会話。
第2回	「Analysis」	「分析」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第3回	「Theory/Proof」	「理論・証明」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第4回	「Controversy」	「論争」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第5回	「Comparison/Contrast」	「比較」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第6回	「Classification」	「分類」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第7回	まとめとテスト(1)	第1～6回の発音・QA文法・SVリスニング練習の内容に関わる復習とテスト
第8回	「Instructions」	「指示」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第9回	「Chronological Order」	「歴史」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第10回	「Cause &Effect」	「原因と結果」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第11回	「Process」	「過程」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第12回	「Explanation」	「説明」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第13回	まとめとテスト(2)	第7～12回の発音・QA文法・SVリ文法練習の内容に関わる復習テスト
第14回	「Definition」	「定義」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習問題）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は4時間を標準とする。必ず復習をすること。また指示された事柄に関しては、予習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配布する。

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】
毎回のライティング（発表原稿）＆スピーキング実績：48％＋2回の筆記テスト（リスニングに基づく発音・QA文法・SV文法のテスト）：52％より評価する。

【学生の意見等からの気づき】
（変更ではなく継続）
アンケートにおいて、リスニング技能の習得のために①発音（子音・母音それぞれ）②主語＋述語の基本構造③複合文構造と、段階的に行ったのが有り難かったとの声が聞かれたので、継続する。
In the survey, respondents appreciated the step-by-step procedure of (1) pronunciation, (2) basic subject + predicate structure, and (3) compound structure and compound syntax, which will be continued.

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンまたはスマートフォン等、アップロードされた教材にアクセスできるもの。
Laptops and/or smartphones for student access to uploaded materials

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

The goal is for students to acquire a wide range of communication skills and an attitude of understanding and respecting different cultures so that they can actively engage in cross-cultural exchanges as international citizens.
The lesson time is divided into two parts.Part 1 includes (1) pronunciation practice, (2) grammar practice for interrogatives, and (3) understanding subject-predicate pairs. In the second part, the students will first do a writing and oral presentation activity, followed by the following activities: (1) Yes/No questions and answers, (2) Wh- questions and answers, and (3) comments on other students' presentations.
The standard amount of study outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. Be sure to review. Also, students are expected to do preparatory study for the topics indicated in the instructions.
Evaluation will be made from the following: writing&speaking at each session: 48%, and two written tests: 52%.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

永井　誠

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
日常生活に関わる簡単な会話から始め、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明し、他者の説明を理解し、意見の交換ができるところまで、幅広いコミュニケーション能力の習得を目指す。また、異文化を理解し尊重し、自分の文化を他者に理解してもらう態度を身に着け、国際人として積極的に異文化交流ができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業活動は前半・後半と、二部に分ける。
前半では、(1)発音（聞く・話す）の練習、(2)疑問と応答のための文法練習、(3)リスニングにおいて[主語＋述語ペア]及びキーワード・キーフレーズを聞き取る練習を行う。(3)に関しては、後にスピーキングにおいて[主語＋述語ペア]を構築する練習に発展させる。
後半では、様々なパラグラフ構造の短い英文原稿を書き、口頭で発表し、他者と(1)Yes/No疑問文～応答、(2)Wh-疑問文～応答、(3)意見・コメント交換の会話活動を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、「Conclusion/Reasons」	授業の進め方、評価方法の説明。「結論・理由」型の発表～会話。
第2回	「Analysis」	「分析」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第3回	「Theory/Proof」	「理論・証明」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第4回	「Controversy」	「論争」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第5回	「Comparison/Contrast」	「比較」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第6回	「Classification」	「分類」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第7回	まとめとテスト(1)	第1～6回の発音・QA文法・SVリスニング練習の内容に関わる復習とテスト
第8回	「Instructions」	「指示」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第9回	「Chronological Order」	「歴史」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第10回	「Cause &Effect」	「原因と結果」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第11回	「Process」	「過程」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第12回	「Explanation」	「説明」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第13回	まとめとテスト(2)	第7～12回の発音・QA文法・SVリ文法練習の内容に関わる復習テスト
第14回	「Definition」	「定義」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習問題）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は4時間を標準とする。必ず復習をすること。また指示された事柄に関しては、予習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配布する。

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】
毎回のライティング（発表原稿）＆スピーキング実績：48％＋2回の筆記テスト（リスニングに基づく発音・QA文法・SV文法のテスト）：52％より評価する。

【学生の意見等からの気づき】
（変更ではなく継続）
アンケートにおいて、リスニング技能の習得のために①発音（子音・母音それぞれ）②主語＋述語の基本構造③複合文構造と、段階的に行ったのが有り難かったとの声が聞かれたので、継続する。
In the survey, respondents appreciated the step-by-step procedure of (1) pronunciation, (2) basic subject + predicate structure, and (3) compound structure and compound syntax, which will be continued.

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンまたはスマートフォン等、アップロードされた教材にアクセスできるもの。
Laptops and/or smartphones for student access to uploaded materials

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

The goal is for students to acquire a wide range of communication skills and an attitude of understanding and respecting different cultures so that they can actively engage in cross-cultural exchanges as international citizens.
The lesson time is divided into two parts.Part 1 includes (1) pronunciation practice, (2) grammar practice for interrogatives, and (3) understanding subject-predicate pairs. In the second part, the students will first do a writing and oral presentation activity, followed by the following activities: (1) Yes/No questions and answers, (2) Wh- questions and answers, and (3) comments on other students' presentations.
The standard amount of study outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. Be sure to review. Also, students are expected to do preparatory study for the topics indicated in the instructions.
Evaluation will be made from the following: writing&speaking at each session: 48%, and two written tests: 52%.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

KOPROWSKI　MARK

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.
Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.
Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course introduction and explanation	The teacher and students will have an opportunity to introduce and talk about themselves
第2回	Unit 1 Good to Meet You	-Key Vocabulary: Meeting someone for the first time -Speaking/Listening: Meeting someone new -Conversation Strategy 1: Meeting people -Conversation Strategy 2: Bouncing
第3回	Unit 2 It Runs in the Family	-Key Vocabulary: Physical and personality adjectives -Speaking/Listening: Family -Conversation Strategy 1: Getting time to think -Conversation Strategy 2: Asking for More information
第4回	Unit 3 School Daze	-Key vocabulary: School -Speaking/Listening: School life -Conversation Strategy 1: Agreeing -Conversation Strategy 2: Disagreeing
第5回	Unit 4 You Are What You Eat	-Key Vocabulary: Food -Speaking/Listening: Food and exercise -Conversation Strategy 1: Getting more information -Conversation Strategy 2: Getting more details
第6回	Unit 5 Shop Till You Drop	-Key Vocabulary: Shopping -Speaking/Listening: Going shopping -Conversation Strategy 1: Explaining -Conversation Strategy 2: Body language
第7回	MID-TERM (SPEAKING) EXAMINATION: UNITS 1-5	-Prepare &practice for speaking test -10 minute speaking test (in small groups)
第8回	Unit 7 Friends	-Key vocabulary: Friends -Speaking/Listening: Friends -Conversation Strategy 1: Using tag questions -Conversation Strategy 2: Giving compliments
第9回	Unit 8 Road Trip	-Key Vocabulary: Travel -Speaking/Listening:: Travel -Conversation Strategy 1: Making suggestions -Conversation Strategy 2: Responding to suggestions
第10回	Unit 9 Blind Date	-Key vocabulary: Dating -Speaking/Listening: Dating -Conversation Strategy 1: Checking for understanding -Conversation Strategy 2: Summarizing
第11回	Unit 10 Job Hunting	-Key vocabulary: Work -Speaking/Listening: Work -Conversation Strategy 1: Changing direction -Conversation Strategy 2: Changing the topic
第12回	Unit 11 Let's Catch a Flick	-Key vocabulary: Movies -Speaking/Listening: Movies -Conversation Strategy 1: Sharing news -Conversation Strategy 2: Reacting to news
第13回	FINAL (SPEAKING) EXAMINATION: UNTIS 7-11	-Prepare &practice for speaking test -10 minute speaking test (in small groups)
第14回	FINAL (PAPER) EXAMINATION: UNITS 1-11	Talk about spring break plans

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】
By the Way... : Strategies for Successful Conversation
Authors: Michael Hensley &Bill Burns
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

【参考書】
An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:
https://jisho.org/

【成績評価の方法と基準】
Class participation (speaking English, taking notes): 20%
Homework assignments: 20%
Mid-term (speaking) examination (Units 1-5): 20%
Final (speaking) examination (Units 7-11): 20%
Final (paper) examination (Units 1-11): 20%

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.
The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.
Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.
Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.
Class participation (speaking English, taking notes): 20%
Homework assignments: 20%
Mid-term examination (speaking test): 20%
Final examination (paper test): 20%
Final examination (speaking test): 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

鈴木　幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To build science vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.
日常生活に関わる簡単な英会話から時事英語・理工系英語に触れることで英語４技能を包括的に伸ばす：
・身近な問題や時事問題に対する自分の意見を論理的に述べることができる（Speaking &Writing）
・相手の質問・意見に対して応答できる（Listening &Speaking）
・理工系英語に慣れる（Reading &Writing）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this class, you students will study a specific topic each week, using the textbook and handouts. You will be expected to attend all lessons and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q&A, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・Guidance ・Critical Thinking and Discussion ① ・Lesson 1	・Orientation ・Let's give a self-introduction! ・化学に関する語句(1)
2	・Critical Thinking and Discussion ② ・Lesson 2	・Let's talk about memories! ・化学に関する語句(2)
3	・Critical Thinking and Discussion ③ ・Lesson 3	・Let's talk about home life! ・物理学に関する語句(1)
4	・Critical Thinking and Discussion ④ ・Lesson 4	・Let's talk about school life! ・物理学に関する語句(2) ・Speaking Quiz 1
5	・Critical Thinking and Discussion ⑤ ・Lesson 5	・Let's talk about plans! ・天文学に関する語句 ・Writing Quiz 1
6	・Critical Thinking and Discussion ⑥ ・Lesson 6	・Let's talk about foods! ・地球科学に関する語句
7	・Critical Thinking and Discussion ⑦ ・Lesson 7	・Let's talk about future! ・環境・資源に関する語句 ・Speaking Quiz 2
8	・Critical Thinking and Discussion ⑧ ・Lesson 8	・Let's talk about travel! ・生物に関する語句(1) ・Writing Quiz 2
9	・Critical Thinking and Discussion ⑨ ・Lesson 9	・Let's talk about entertainment! ・生物に関する語句(2)
10	・Critical Thinking and Discussion ⑩ ・Lesson 10	・Let's talk about health! ・生物に関する語句(3) ・Speaking Quiz 3
11	・Critical Thinking and Discussion ⑪ ・Lesson 11	・Let's talk about people! ・人体・医学に関する語句(1) ・Writing Quiz 3
12	・Critical Thinking and Discussion ⑫ ・Lesson 12	・Let's talk about society! ・人体・医学に関する語句(2)
13	Presentation	Let's give an end-of-term presentation!
14	Final Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

【テキスト（教科書）】
Sato, Seishi, 2016, A Shorter Course in Science and Technology Vocabulary, Nan'Un-Do. ￥700 (+ tax) ISBN9784523178002
佐藤誠司, 2016 『A Shorter Course in Science and Technology Vocabulary 5分間理工系英単語・熟語1000』　南雲堂.

【参考書】
アルク英辞郎on the web
https://eow.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class activities &Homework: 30%
Assignment: 20%
Quiz: 20%
Exam: 30%
There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】
I hope you students enjoy studying English.

【Outline (in English)】
【Course Outline】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To build science vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria/Policies】
Final grade will be calculated according to the following process: In-class activities &Homework (30%), Assignment (20%), Quiz (20%), and Exam (30%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
This course is designed to develop the following skills in English.
(1) to explain Japanese and world events in English
(2) to discuss cross-cultural communication
(3) to gather information in English
(4) to develop critical thinking skills and abilities

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Through a task-based approach, working in small teams, students learn to speak, to discuss, to express opinions in order to promote global thinking and communication skills in English. They acquire technical vocabulary, expressions and critical thinking with a personalized focus on their field of study.
Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Introduction to the course aims, goals, objectives, and evaluation criteria.
第2回	Strategic Language Learning	How to set language learning goals and track progress; Learning strategies to improve language learning; How to use technology and resources to support language learning.
第3回	Vocabulary Strategies 1	Context clues and inference; Using a bilingual dictionary effectively
第4回	Vocabulary Strategies 2	Using word parts (prefixes, suffixes, etc.) to infer meaning
第5回	Discourse Strategies 1	Discourse markers
第6回	Discourse Strategies 2	Cohesive devices
第7回	Interactional Strategies 1	Politeness, interruption, and turn-taking
第8回	Interactional Strategies 2	Clarification and confirmation
第9回	Comprehension Strategies	Reading strategies (inference through skimming, scanning, text structure); Listening strategies (context; gist and detail).
第10回	Speaking Strategies 1	Fillers and hesitation; Circumlocution and paraphrasing.
第11回	Speaking Strategies 2	Nonverbal communication; Pronunciation (intonation, rhythm, emphasis).
第12回	Writing Strategies	Brainstorm and outline; Editing and revising.
第13回	Class summary and preparation for final presentation	Summary of the contents covered; Feedback; Instructions and preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
第14回	Final evaluation	Online interviews

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Prior to each lesson, students are required to review the provided
documentation and complete a brief preparation task that will be
explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
A notebook is needed for in-class work, while for out-of-class assignments, students are required to use Word software or compatible open source software.

【Outline (in English)】
Course Outline:

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
Learning Objectives:
This course is designed to develop the following skills in English.
(1) to explain Japanese and world events in English
(2) to discuss cross-cultural communication
(3) to gather information in English
(4) to develop critical thinking skills and abilities
Learning activities outside of the classroom:
Prior to each lesson, students are required to review the provided
documentation and complete a brief preparation task that will be
explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.
Grading Criteria:
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

花﨑　一夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
リーディングでは、様々なリーディングスキルを活用しながら内容を効率よく把握する力を養成する。
リスニングでは、英語の音声の特徴を踏まえた上で、要点を把握・整理しながら聴くことが出来るようになる。
各種資格試験においても求められる実践的な英語力の土台を固める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業計画におよその学習範囲を提示してありますが、授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。この授業では、学習する部分の内容に関連する課題を各自やって提出してもらうことがあります。それに対するフィードバックは、基本的に次の時間に行います。具体的には、皆さんが提出してくれた答案の中から良いものを取り上げて共有したり、理解が不十分な場合にはどこを修正すべきなのかについてコメントします。そうすることで英文の内容に関する理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1対面	Introduction Chapter1	英語と日本語 Concepts We Live By
2対面	Chapter1 Unit1(TOEIC対策）	●Concepts We Live By ●Travel
3対面	Chapter2 Unit2（TOEIC対策）	●The Systematicity of Metaphorical Concepts ●Customer Services
4対面	Chapter2 Unit2（TOEIC対策）	●The Systematicity of Metaphorical Concepts ●Customer Services
5.対面	Chapter3 Unit3（TOEIC対策）	●Metaphorical Systematicity: Highlighting and Hiding ●Media
6対面	Chapter3 Unit3（TOEIC対策）	●Metaphorical Systematicity: Highlighting and Hiding ●Media
7.対面	Chapter4 Unit4（TOEIC対策）	●Orientational Metaphors ●Entertainment
8対面	Chapter4 Unit4（TOEIC対策）	●Orientational Metaphors ●Entertainment
9対面	Chapter5 Unit5（TOEIC対策）	●Metaphor and Cultural Coherence ●Purchasing
10.対面	Chapter5 Unit5（TOEIC対策）	●Metaphor and Cultural Coherence ●Purchasing
11対面	Chapter6 Unit6（TOEIC対策）	●Ontological Metaphors ●Events
12対面	Chapter6 Unit6（TOEIC対策）	●Ontological Metaphors ●Events
13対面	Chapter7 Unit7（TOEIC対策）	●Personification ●Construction
14.対面	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業中に学習した内容を定着させるために、音読などの演習を自宅などで行う。

【テキスト（教科書）】
①Metaphors We Live By
メタファーに満ちた日常世界　１７００円（税抜き）
松柏社
② SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC ®　L&R TEST ADVANCED ２７００円（税抜き）
金星堂
①②ともに、秋学期のクラスでも使用します。

【参考書】
授業中などに適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題５０パーセントと期末テスト５０パーセントを基準とする。変更がある場合には、Hoppiiなどで事前にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の内容に関する課題に対する学生の理解度を知り、それをフィードバックすることが大切であると毎年気づかされているので、今年度の授業でも継続していきたい。

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
By the end of the course, students should be able to attain basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%, Assignments: 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

柏原　俊樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
主に3つの切り口から学んでいく。1つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう1つには、随時実践的な [やや難しい] リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 1: GEORGE'S BEACH SHACK
2	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 1: KIMBALL'S DINING ROOM
3	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 2: KIMBALL'S KITCHEN
4	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 2: COMMUTER TRAIN
5	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 3: HOSPITAL ROOM
6	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 3: SAN JUAN CAPISTRANO TRAIN STATION
7	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 4: GEORGE'S GARAGE
8	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 4: GEORGE'S SHACK
9	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 5: GEORGE'S GARAGE
10	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 6: GEORGE'S GARAGE
11	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 6: JOSH'S PORSCHE
12	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 7: GEORGE'S SHACK
13	総復習	総復習
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
　教科書の予習は必須。
リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

【テキスト（教科書）】
教科書: 『映画シナリオ「海辺の家」』（英宝社）

【参考書】
できれば語源欄のある辞書を使ってください。

【成績評価の方法と基準】
学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70％）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30％）。

【学生の意見等からの気づき】
リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

【学生が準備すべき機器他】
辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

【その他の重要事項】
積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.
【Learning Objectives】
The goals of this class is to get to understand complicated English sentences and to be able to hear normally spoken English.
【Learning activities outside of classroom】
It is necessary to read the textbook beforehand.
Also try to write down normally spoken English as much as you can. If you don't have the answers, I'll help you.
【Grading Criteria /Policy】
70 % of the grade is the results of the tests given you. 30 % is according to your attitude of studying.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

宗像　俊輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。中学・高校までの英語は、一昔前より「発信力」を重視したものに変えてきつつあるが、基本的には受験対策のための文法・単語の学習を重視する。しかし、この不安定な時代を生き抜くには英語運用能力の向上は必要不可欠であり、目先の大学での勉強でも、専門知識を英語で受信・発信できる力が求められている。本授業では、中高で培ってきた英語の基礎を復習するとともに、発音、音読、シャドウイング、暗唱、スキット（寸劇）等の手法を用いながら、英語を「使う」経験を積むことを目的としている。受講者の皆さんには授業を通して、英語を「使う」ことに慣れ、楽しさを見出してほしい。

【到達目標】
前期のこの講義では、英語を「使う」ための基盤を養うため、以下の二つの目標が到達できていることが望ましい。
①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、英語で書かれた文章を正確に読み解く力ことができる。
②英語話者が話す音声に触れ、自らも正しい発音にもとづき発話することで、リスニングやスピーキングの基礎力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
＜前半50分＞
①『新・英語の構文150』の各章を取り上げ、その中で必ず覚えてほしい構文を解説する。
②解説した構文を実際に発話することを通じて覚える。
③解説した構文を用いた練習問題を解く。
＜後半50分＞
①動画を用いて、各単語の発音方法について、口の動かし方から学ぶ。
②自分でも発話し、正しい発音法を習得する。
＜フィードバック・理解度チェック方法＞
講義冒頭で、前回扱った構文や発音に関する理解度チェックテストを実施する。
構文：教科書の練習問題を解く。
発音：音声教材を用い、発音されたら正しい単語を書きとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、英語を「使う」ことの意義、講義の方針説明
第2回	英語の基礎①	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第1章 ＜後半＞ 英語の発音 /ɪ/ vs /iː/
第3回	英語の基礎②	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第2章 ＜後半＞ 英語の発音 /e/ vs /ɪ/
第4回	英語の基礎③	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第3章 ＜後半＞ 英語の発音 /e/ vs /eɪ/
第5回	英語の基礎④	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第4章 ＜後半＞ 英語の発音 /æ/ vs /ʌ/
第6回	英語の基礎⑤	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第5章 ＜後半＞ 英語の発音 /əʊ/ vs /ɔː/
第7回	英語の基礎⑥	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第6章 ＜後半＞ 英語の発音 /ɒ/ vs /əʊ/
第8回	英語の基礎⑦	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第7章 ＜後半＞ 英語の発音 /ɑ ː/ vs /ɜː/
第9回	英語の基礎⑧	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第8章 ＜後半＞ 英語の発音 /æ/ vs /e/
第10回	英語の基礎⑨	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第9章 ＜後半＞ 英語の発音 /p/ vs /b/
第11回	英語の基礎⑩	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第10章 ＜後半＞ 英語の発音 /n/ vs /ng/
第12回	英語の基礎⑪	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第11章 ＜後半＞ 英語の発音 /ʧ/vs /t/
第13回	英語の基礎⑫	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第12章 ＜後半＞ 英語の発音 /f/ vs /v/
第14回	期末試験	単語、文法、暗唱を組み合わせた試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・課題が指定された場合は必ず取り組む。
・理解度チェックテストのための準備をする。
・特に発音は、紹介した動画を繰り返し視聴しながら練習することをお勧めしたい。

【テキスト（教科書）】
澤井康佑『新・英語の構文150』美誠社, 2024。ISBN：978-4-8285-3378-0
※秋学期も継続して使用する。

【参考書】
英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験　40％
理解度チェックテスト　40％
授業への積極的な参加姿勢　20％

【学生の意見等からの気づき】
別の講義で、中高の英語教育で苦手意識を持ってしまったという受講者がいた。その苦手意識を少しでも和らげられるように、教員として努力していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用するので、授業にはパソコンを持参する。
筆記用具も持参する。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話すので、必ず出席する。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This course aims to consolidate a rich vocabulary and accurate grammatical competence while simultaneously promoting the integrated development of the four language skills — reading, writing, listening, and speaking — supported by these foundations. English education at the junior and senior high school levels has gradually shifted from the past toward placing greater emphasis on “productive skills,” yet it still fundamentally prioritizes the study of grammar and vocabulary for entrance examination preparation. However, in order to navigate today’s uncertain world, improving practical English proficiency is indispensable. Even in your studying and learning in university, the ability to receive and convey specialized knowledge in English is increasingly required.
In this course, students will review the fundamentals of English cultivated in junior and senior high school and, at the same time, gain experience in actually “using” English through methods such as pronunciation practice, reading aloud, shadowing, memorization, and skits (short plays). Through the course, students are encouraged to become comfortable with using English and to discover the enjoyment that comes with it.
【到達目標（Learning Objectives）】
In the first semester of this course, it is desirable that students achieve the following two learning objectives in order to develop a foundation for using English communicatively:
①By understanding English grammar and acquiring a certain level of vocabulary, students will be able to accurately comprehend texts written in English.
②By being exposed to spoken English and producing speech based on correct pronunciation, students will develop basic listening and speaking skills.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
※ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
① Students are required to complete the exercises in the designated sections of the textbook in advance and come prepared for the lecture. These assignments must be submitted after each class.
② Preparation and review of the textbook and distributed materials are essential. In addition, it is recommended that students regularly engage with English-language news and books.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Final Examination: 40%
Comprehension Check Tests: 40%
Active Participation in Class: 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

渡邊　晶子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
基本的な文法を確実なものにして、英文を書くための基礎力をつける。構文をしっかり理解した上で英文を正確に聴き取り、読解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、しっかりと準備をしておくこと。
課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・小テスト	授業の進め方について説明する。
2	The Bee Colony	品詞について学ぶ。 ミツバチのコロニーについての英文を聴き、読解する。
3	Space Junk	動詞について学ぶ。 宇宙ゴミについての英文を聴き、読解する。
4	The Gift of Energy	句動詞について学ぶ。 エネルギーについての英文を聴き、読解する。
5	Water and Living Things	時制について学ぶ。 水と生き物についての英文を聴き、読解する。
6	The Sun, Our Powerful Star	時制について学ぶ。 太陽についての英文を聴き、読解する。
7	Tomorrow's Transportation	主語と動詞の一致について学ぶ。 近未来の乗物についての英文を聴き、読解する。
8	All That Glitters, Spread, and Stretches	代名詞について学ぶ。 金についての英文を聴き、読解する。
9	Bioclock - the Time of Your Life	名詞・冠詞について学ぶ。 体内時計についての英文を聴き、読解する。
10	Right Brain, Left Brain	前置詞について学ぶ。 右脳と左脳についての英文を聴き、読解する。
11	The Miracle of Vitamins	助動詞について学ぶ。 ビタミンについての英文を聴き、読解する。
12	Unlocking Submarine Secrets	海底の謎についての英文を聴き、読解する。
13	Frozen Foods	冷凍食品の発見についての英文を聴き、読解する。
14	まとめ・試験	重要構文などの確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】テキストの英文の日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

【テキスト（教科書）】
The Wonders of Science　科学の世界（成美堂）
A Shorter Course in Usage and Vocabulary　ポイントで解く語法・語彙問題（南雲堂）
生協で購入し、必ず毎回の授業で持参すること。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％　レポート課題20％　期末テスト60％

【学生の意見等からの気づき】
提出課題や質問等で気づいたことを解説に織り込んでいく。

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
The required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。
i)Increasing general proficiency in understanding English texts
ii)Heightening comprehension skills for listening to and reading from English texts

【到達目標】
Development of grammatical and lexical expression in English, as well as contextual meaning through completion of classroom tasks, homework assignments, and a final presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Small teams will engage in practical problem solving exercises to become familiar with the grammar and vocabulary of each lesson. The results of their cooperative efforts will be presented on the blackboard. Individual assignments will also be given, and in-class personal consultations will be available. Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction; Cross-cultural communication	Class operation and materials; Cross-cultural communication (discussion), Online questionnaire
Class 2	Introduction; Cross-cultural communication	Analyzing the results of the questionnaire (workshop)
Class 3	Culture and Difference 1	Events and Festivals. Language focus: gerund.
Class 4	Culture and Difference 2	Habits and Hobbies. Language focus: auxiliary verbs, frequency adverbs.
Class 5	Past Experiences 1	Language focus: past simple and time adverbials.
Class 6	Past Experiences 2	Language focus: present perfect and time adverbials.
Class 7	Past Experiences 3	Language Focus: past simple and present perfect.
Class 8	Societal Issues 1	Environmental Issues: small actions Language focus: suggestions, obligations, and demands
Class 9	Societal Issues 2	Urbanisation and Quality of Life Language focus: comparatives
Class 10	Science and Technology 1	Science and Technology : from past to present Language focus: present perfect (past action with relevance in the present)
Class 11	Science and Technology 2	Science and Technology: Science Education Speaking Skill: showing interest
Class 12	Science and Technology 3	Science and Technology: looking into the future Language focus: future tenses and auxiliaries
Class 13	Class summary and preparation for final presentation	Summary and the contents covered; feedback; instructions and preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
Class 14	Final evaluation	Online interviews

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】Prior to each lesson, students are required to review the provided documentation and complete a brief preparation task that will be explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

【参考書】
TED Talks;
Breaking News English;
BBC Learning English;
Other materials developed by the instructor.

【成績評価の方法と基準】
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%).

【学生の意見等からの気づき】
Increased practice in oral skills of pronunciation and intonation.

【学生が準備すべき機器他】
A notebook is needed for in-class work, while for out-of-class assignments, students are required to use Word software or compatible open source software.

【Caution】
Changes to the schedule may be made in accordance to the proficiency level of the class.

【Outline (in English)】
Course outline:

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate
grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive
development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language.Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the
development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
Learning Objectives:
Development of grammatical and lexical expression in English, as well as contextual meaning through completion of classroom tasks, homework assignments, and a final presentation.
Learning activities outside of the classroom:
Prior to each lesson, students are required to review the provided documentation and complete a brief preparation task that will be explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.
Grading Criteria:
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

花﨑　一夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
リーディングでは、様々なリーディングスキルを活用しながら内容を効率よく把握する力を養成する。
リスニングでは、英語の音声の特徴を踏まえた上で、要点を把握・整理しながら聴くことが出来るようになる。
各種資格試験においても求められる実践的な英語力の土台を固める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業計画におよその学習範囲を提示してありますが、授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。この授業では、学習する部分の内容に関連する課題を各自やって提出してもらうことがあります。それに対するフィードバックは、基本的に次の時間に行います。具体的には、皆さんが提出してくれた答案の中から良いものを取り上げて共有したり、理解が不十分な場合にはどこを修正すべきなのかについてコメントします。そうすることで英文の内容に関する理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.対面	Introduction	英語と日本語
	Chapter1	Concepts We Live By
2.対面	Chapter1	●Concepts We Live By
	Unit1	●Travel
3.対面	Chapter2	●The Systematicity of
	Unit2	Metaphorical Concepts
		●Customer Services
4.対面	Chapter2	●The Systematicity of
	Unit2	Metaphorical Concepts
		●Customer Services
5.対面	Chapter3	●Metaphorical
	Unit3	Systematicity: Highlighting
		and Hiding
		●Media
6.対面	Chapter3	●Metaphorical
	Unit3	Systematicity: Highlighting
		and Hiding
		●Media
7.対面	Chapter4	●Orientational Metaphors
	Unit4	●Entertainment
8.対面	Chapter4	●Orientational Metaphors
	Unit4	●Entertainment
9.対面	Chapter5	●Metaphor and Cultural
	Unit5	Coherence
		●Purchasing
10.対面	Chapter5	●Metaphor and Cultural
	Unit5	Coherence
		●Purchasing
11.対面	Chapter6	●Ontological Metaphors
	Unit6	●Events
12.対面	Chapter6	●Ontological Metaphors
	Unit6	●Events
13.対面	Chapter7	●Personification
	Unit7	●Construction
14.対面	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業中に学習した内容を定着させるために、音読などの演習を自宅などで行う。

【テキスト（教科書）】
①Metaphors We Live By
メタファーに満ちた日常世界　１７００円（税抜き）
松柏社
② SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC ®　L&R TEST ADVANCED ２７００円（税抜き）
金星堂
①②ともに、秋学期のクラスでも使用します。

【参考書】
授業中などに適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題５０パーセントと期末テスト５０パーセントを基準とする。変更がある場合には、Hoppiiなどで事前にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の内容に関する課題に対する学生の理解度を知り、それをフィードバックすることが大切であると毎年気づかされているので、今年度の授業でも継続していきたい。

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
By the end of the course, students should be able to attain basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%, Assignments: 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

柏原　俊樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
主に3つの切り口から学んでいく。1つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう1つには、随時実践的な [やや難しい] リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞にいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 1: THORNTON SQUARE
2	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 1: Gregory looks questioningly at Paula.
3	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 1: HOTEL ROOM
4	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 2: THORNTON SQUARE GARDENS
5	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 2: Paula takes out a glove.
6	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 3: NUMBER 9 THORNTON SQUARE
7	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 3: Gregory takes Paula's handbag.
8	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 3: JEWEL ROOM IN THE TOWER
9	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 4: THE PARK OPPOSITE NUMBER 9 THORNTON SQUARE
10	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 4: The Police Commissioner's Office
11	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 5: THE DRAWING ROOM AT NUMBER 9 THORNTON SQUARE
12	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 5: THE ENTRANCE HALL
13	総復習	総復習
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
教科書の予習は必須。
リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

【テキスト（教科書）】
教科書: ガス灯（開文社出版）

【参考書】
できれば語源欄のある辞書を使ってください。

【成績評価の方法と基準】
学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70％）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30％）。

【学生の意見等からの気づき】
リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

【学生が準備すべき機器他】
辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

【その他の重要事項】
積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.
【Learning Objectives】
The goals of this class is to get to understand complicated English sentences and to be able to hear normally spoken English.
【Learning activities outside of classroom】
It is necessary to read the textbook beforehand.
Also try to write down normally spoken English as much as you can. If you don't have the answers, I'll help you.
【Grading Criteria /Policy】

70 % of the grade is the results of the tests given you. 30 % is according to your attitude of studying.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
1). Students will learn how to speak with others in defined social interactions more effectively and appropriately. 2). Students will have a wider range of vocabulary covering a number of thematic areas and be able to use the grammatical structures covered in the course to achieve objective goals and express their own ideas and opinions more successfully. 3). Students will be able to use reference sources and feedback to better overcome weaknesses and use strengths in their use of English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The class uses a textbook organized in thematic units with a focus on specific grammar structures and appropriate functional language. The class will comprise of frequent pair work and group work and listening tasks during class to familiarise students with the use of vocabulary and grammar structures in English. The class will also include realistic listening comprehensions to improve listening skills. Role-play tests will be used to evaluate speech skills, and homework assignments will be set to evaluate progress in writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course guidelines &orientation	Course goals and objectives; course procedures for assignments; grading criteria; suggested study materials and methods; course rules.
2	Who are you?	Present Simple and Present Continuous State verbs People and relationships; personality adjectives
3	Good People	Jobs; work Verb Patterns
4	Let's Talk!	Starting, maintaining and ending conversations Conversation topics
5	What happened?	Narrative tenses *-ed* / *-ing* adjectives describing emotional states
6	Storytelling	Past Simple and Present Perfect Story words; film genres
7	Review &Mid-term Test	Review &Mid-term Test
8	A likely story	Apologising and giving reasons
9	Facts and figures	Question forms Knowledge; verbs and nouns
10	Decisions	Future plans and intentions Making decisions
11	Can I ask you ...?	Making polite enquiries
12	Success	Modals for rules and advice
13	Top Gear: Nepal	Present Perfect and Superlatives
14	Final Review Test: Summary and Review	Final Review Test: Summary and Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Short in-class testing of each unit will be carried out utilizing hard paper copy tests and the Learning Management System. Preparation and practice exercises will be set to consolidate learning of target language. Work to be completed outside class should take students between one hour and ninety minutes per week.

【テキスト（教科書）】
Speakout 3rd edition (B1), Students' Book and e-book with online practice - Antonia Clare &JJ Wilson (Pearson)
ISBN 978-1-293-5953-3) c.￥ 3,500

【参考書】
No set reference work

【成績評価の方法と基準】
Mid-term Review Test 30%
Class participation 20%
Final Review Test 50%

【学生の意見等からの気づき】
Student preferences regarding the style of language practice activities will be more closely assessed to determine the most suitable for students' language learning styles.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need their PC or phone to access the Learning Management System for tests

【その他の重要事項】
Attendance Policy
出席ポリシー
３分の１以上または5回以上の理由なき欠席で、成績を不合格（E）とします
More than one-third or five total absences without a valid reason will result in a failing grade (E).

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
GRADING CRITERIA
Mid-term Review Test 30%
Class participation 20%
Final Review Test 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

今政　肇

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語のリスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの四技能の総合的な発展を目的とします。言わずもがなですが、理工系・生命系の学生にとって英語は知識生産の世界共通言語として必須です。それだけでなく、その習得はますます複雑に変化していく世界の中で専門分野をより理解し、何らかの貢献をするためにも欠かせません。そうした目標を念頭に置きつつ、本授業はリスニングやリーディングというインプットをベースに総合的なコミュニケーション能力を培っていくことを基本方針に様々な教授方法を取り入れ実施します。

【到達目標】
①リアルな英語の発話や表現を視聴覚的に接することで、感覚的な素地を整えリスニング力が高まります
②多読により英語を読むことに慣れ、より高度なテキストの読解を併用することで豊富な語彙および表現に接することが出来ます。
③そうした語彙や表現を作文や発話に使用することで自分のものに出来ます。
④英語を使ったディスカッションやプレゼンテーションの技術を習得することが出来ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。
課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。
課題等へのフィードバックは原則的に授業内で行います。
授業は原則対面で実施します。
必要に応じて授業の進め方や方法を変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。多読および読書ログについて説明します。
2	Unit 1 Making a Difference	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
3	Unit 1 Making a Difference	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
4	Unit 2 The Job For Me	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
5	Unit 2 The Job For Me	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
6	Unit 3 How We Live	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
7	Unit 3 How We Live	Designing websitesに関して、映像を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
8	Mid-term Review	中間テスト 読書ログについてのフィードバック
9	Unit 4 Success	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
10	Unit 4 Success	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
11	Unit 5 Future Trends	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
12	Unit 5 Future Trends	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
13	Final Review	期末テスト 小グループに分かれてプレゼンテーションの準備
14	プレゼンテーション	プレゼンテーション、読書ログの提出、今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。
・プレゼンテーションやクイズの準備
・大学図書館の英語多読図書（YL＝読みやすさレベル：0.8 2.4)を週70分（1日10分)、約7000字読むことを目標に、読書ログ（タイトル、感想、字数）をつける。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（１ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください)。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【テキスト（教科書)】
Bohlke, D., Dummett, P., Stephenson, H., Lansford, L., & Walker, R. Keynote Level 3, Second Edition with Spark Access + e-Book (1 year access), National Geographic Learning/Cengage Learning.
ISBN: 9780357960714
※教科書販売期間中に必ず購入すること。（秋学期も継続して使用します。）

【参考書】
学習者用の英英辞書（英和辞書よりも英英辞書を使ってください）：
https://dictionary.cambridge.org/
法政大学の多読サイト： https://hosei.libguides.com/tadoku)
初級レベル：
・ Oxford Reading Tree (YL 0.8-0.9):
Picture-based, perfect for beginners
・ Penguin Readers Easystarts (YL 0.8):
Simple stories, many topics
中級レベル；
・ Cambridge/Oxford/Macmillan Readers:
Wide range of original and adapted stories

・ Penguin Readers:
Large selection including movie adaptations

【成績評価の方法と基準】
宿題　１５％
授業への参加　１５％
テスト・クイズ　３０％
プレゼンテーション　２５％
読書ログ　１５％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（一ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください）。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The objective of this class is comprehensive development of four skills–listeing, reading, speaking and writing. Needless to say, learning English is necessary for students in science, engineering and life sciences as a global common language for knowledge production. Not only that, mastering it is also essential to deepen one's understanding of their specialized field within an increasingly complex and changing world and to make some sort of contribution. With these goals in mind, this class will incorporate a variety of teaching methods with the basic policy of cultivating comprehensive communicative ability based on input–namely listening and reading.
[Learning Objectives]
(1) By coming into contact with authentic English speech and expressions through audiovisual media, you can develop a sensory foundation and improve your listening ability.
(2) By reading graded books extensively, you can feel more comfortable reading English, and by reading more advanced texts, you can come into contact with a richer vocabulary and expressions.
(3) By using them in your own writing and speech, you can make them your own.
(4) You can develop discussion and presentation skills in English.
[Learning activities outside of classroom]
Class preparation, vocabulary review, homework, and preparation for presentations.
Set aside approximately 10 minutes a day or 70 minutes a week to read the books that you have chosen and fill out your reading log.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments and homework (15%), [2] class participation (15%), [3] quizzes and tests (30%), [4] presentation (25%), [5] reading log [15%]

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

島田　顕

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかりと身につける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低2回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意訳ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにすること（英作文問題も含めて）。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	Lesson　1	Lesson　1 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第3回	Lesson　2	Lesson　2 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第4回	Lesson　3	Lesson　3 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第5回	Lesson　4	Lesson　4 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第6回	Lesson　5	Lesson　5 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第7回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第8回	Lesson　6	Lesson　6 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第9回	Lesson　7	Lesson　7 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第10回	Lesson　8	Lesson　8 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第11回	Chapter　9	Chapter　9 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第12回	Lesson　10	Lesson　10 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第13回	まとめor予備日	まとめ その他
第14回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
テキストの本文の訳、EXERCISES等の問題は全員にあてる。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくること。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期４回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

【テキスト（教科書）】
テキスト：『Spotlight on Britain イギリスを探る』（南雲堂）

【参考書】
豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
評価基準：平常点30％、課題・宿題10％、小テスト20％、期末試験40％
※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進み方を速くし，小テスト・提出物の回数を多くする。

【学生が準備すべき機器他】
辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
（Learning Objectives）
We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.
（Learning activities outside of classroom）
One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.
（Grading Criteria /Policy）
Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz
Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%
* The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

小林　直樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力正確な文法力の定着を図り、それに支えられた４技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な英語力の向上を目的とする。また、理工・生命系の分野においては、英語が世界の共通語となっていることを受け、将来の技術者・研究者に求められる、英語での理解力・発信力を培うための授業とする。併せて、英文を楽しんで読む機会を設ける。

【到達目標】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。また、英文を楽しんで読む能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
英文の読解を中心にするが、リスニングや英作文の練習も行う。リスニング、所定教科書の設問の回答ををを提出してもらうなど、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業と評価方法に付いての説明。
第2回	教科書以外の英文	使用するテクストの説明、英和辞典のひき方。
第3回	Unit 1	A Snowman That Neither Melted Nor Stuck
第4回	Unit 1	A Snowman That Neither Melted Nor Stuck
第5回	Unit 2	The Secret Test Pilot
第6回	Unit 2	The Secret Test Pilot
第7回	Unit 3	The Pub, an Endangered British Species
第8回	Unit 3	The Pub, an Endangered British Species
第9回	TOEIC対策	TOEICのための語彙を学ぶ。またリスニングの練習。
第10回	Unit 4	Sleep Habits in the Mammal Kingdom
第11回	Unit 5	The Secret Behind the Image
第12回	Unit 6	The Periodic Cicada, an Amazing Survivor
第13回	Unit 7	The Story Behind a Modern Wonder Drug また、テスト前に質問を受け付ける。
第14回	期末テスト	英文和訳を中心に試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
Reading Wonders　（金星堂）

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】学期末の試験の点数(70%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点(30%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
多様な形で英語に触れあう授業としたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
【到達目標（Learning Objectives）】
The aim of this course is to help students acquire comprehensive English abilities. At the end of this course, students are expected to read various English writings and have higher listening and writing abilities.
授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end examination 80% and in-class contribution 20%.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

中野　里美

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
At the end of the course, students are expected to improve their English comprehensive skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
By listening to recorded materials about social issues and reading some other news reports, participants will be able to understand, think about or discuss the matters in the world. To begin with, you will be given warm-up handout and then engage in some tasks. Feedback will be conducted in each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction and guidance	Students will be known about this course
第2回	Knowing about the global issues Listening & Dictation	Confronting backlash, 193 nations commit to speed gender equality
第3回	Knowing about the domestic issues Listening & Dictation	Japanese Novelist Asako Yuzuki ‘Butter’ in Reaction to Male Media
第4回	Knowing about the global issues Listening & Dictation	In South Korea, deepfake porn wrecks women’s lives and deepens conflict
第5回	Knowing about the global issues Listening & Dictation	Greenlanders unite to fend off the US as Trump seeks control of Arctic Island
第6回	Knowing about the global issues Listening & Dictation	Latin Countries Accept Deportees from US
第7回	Knowing about the global issues Listening & Dictation	Mexico’s Sheinbaum mocks Trump’s ‘Gulf of America’
第8回	Knowing about the global issues Listening & Dictation	White House bars AP reporter
第9回	Knowing about the global issues Listening & Dictation	Angry protesters from NY to Alaska assail Trump and Musk in rallies
第10回	Knowing about the global issues Listening & Dictation	Macron Says European Force for Ukraine Could ‘Respond’ If attacked by Russia
第11回	Knowing about the global issues Listening & Dictation	Turkey and Israel face mounting tensions over post-Assad Syria
第12回	Knowing about the global issues Listening & Dictation	We tried DeepSeek. It worked well, until we asked about Tiananmen and Taiwan
第13回	Knowing about the global issues Listening & Dictation	Trump Officials Texted War Plans in Secure App
第14回	Review	Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
Students will be asked to prepare for texts before and after the class.

【テキスト（教科書）】
A handout or PDF will be distributed and uploaded.

【参考書】
Participants will be given some information in the class.

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 60%, and tasks in this class 40%
理由のない半期の3分の1以上または5回以上の欠席で不合格とし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書、日付とフルネーム入りの病院の領収書など）などは証明できるものを持参すること。遅刻は授業開始１５分以降の入室から。３回目の遅刻を１回欠席に換算します。こちらも遅延証明書があれば、当授業内に、持参した場合のみ有効とします。期末テスト60%,平常点やタスク40%

【学生の意見等からの気づき】
If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【Outline (in English)】
(Course outline) This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

（Learning Objectives）In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
(Learning activities outside of classroom）It is necessary for students to prepare for this class and review the lesson.
（Grading Criteria /Policy）Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
Goal #1: Students will be able to give a short science-based presentation in English using only Google Slides (without reading from notes).
Goal #2: Students will be able to ask questions regarding the content of their peer's presentations, just like presenters do at international conferences.
Goal #3: Students will be able to search for and read scientific readings about their chosen topic in English.
Goals #4: Students will be able to write a concise script and create easy-to-understand slides.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In every class students will speak in English to discuss their chosen topics in groups. Students will also give peer feedback to each other on their presentations. The professor will also provide feedback on two presentations so that students can improve their presentation delivery and content.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Orientation and presentation topics	Course overview Explain presentation guidelines &topics
2回目	Introduction section	Decide on a presentation topic and begin writing the introduction and background section
3回目	Problem section	Explain a scientific problem that interests you
4回目	Solution section	Explain a solution to this problem
5回目	Conclusion section	Discuss the main findings and propose the next step for future research
6回目	Question &answer section	Learn how to field questions and answer difficult questions appropriately
7回目	Slide creation	Learn how to make effective slides
8回目	Presentation preparation	Make final edits and practice delivering presentation
9回目	Peer review	Present to your peers and receive feedback
10回目	Presentation #1	Present to the class and receive feedback from the professor
11回目	Presentation #1	Present to the class and receive feedback from the professor
12回目	Revisions	Revise and improve presentations based on feedback from peers and professor
13回目	Presentation #2	Present to the class and receive feedback from the professor
14回目	Presentation #2	Present to the class and receive feedback from the professor

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
Students will need to prepare for their presentations outside of class by searching for relevant information, writing their scripts, making their slides, and practicing their presentation delivery.

【テキスト（教科書）】
The professor will provide all learning materials online.

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】
Peer Review: 10%
Presentation #1: 40%
Presentation #2: 50%
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students must bring their computers (laptops or tablets) to every class.

【その他の重要事項】
・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

By the end of the course, students will be able to improve all four skills. Speaking: students will be able to give presentations about a science-based topic of their interest and discuss this content with their peers. Listening: students will be able to listen to their peers' presentations and ask questions based on the content. Reading: students will be able to search for relevant information about their chosen topic in English and summarize their findings. Writing: students will be able to write a script and create slides that clearly explain their chosen topic.
Outside of class, students will be expected to spend four hours per week preparing for this course.
Peer Review (10%), Presentation #1 (40%), Presentation #2 (50%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

島田　顕

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかりと身につける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低2回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意訳ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにすること（英作文問題も含めて）。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	Lesson　1	Lesson　1 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第3回	Lesson　2	Lesson　2 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第4回	Lesson　3	Lesson　3 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第5回	Lesson　4	Lesson　4 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第6回	Lesson　5	Lesson　5 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第7回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第8回	Lesson　6	Lesson　6 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第9回	Lesson　7	Lesson　7 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第10回	Lesson　8	Lesson　8 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第11回	Lesson　9	Lesson　9 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第12回	Lesson　10	Lesson　10 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第13回	まとめor予備日	まとめ その他
第14回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
　テキストの本文の訳、ＥＸＥＲＣＩＳＥＳ等の問題は全員にあてる。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくること。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期４回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

【テキスト（教科書）】
　テキスト：『Spotlight on Britain イギリスを探る』（南雲堂）

【参考書】
　豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。
　その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
　評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
　評価基準：平常点30％、課題・宿題10％、小テスト20％、期末試験40％
　※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】
　授業の進み方を速くし，小テスト，提出物の回数を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
　辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
（Learning Objectives）
We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.
（Learning activities outside of classroom）
One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.
（Grading Criteria /Policy）
Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz
Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%
* The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

城　俊雄

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力を習得しつつ、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。将来の技術者・研究者に必要な、専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の重要性は、ますます高まっています。
本授業では、貧困、飢餓、環境問題など、世界が抱える課題を扱うSDGs（持続可能な開発目標）をテーマとした教科書を用い、英語学習と同時に、現代社会の課題について理解を深めながら考える力を養います。その上で、そのための基礎力・総合力・応用力を身につけることを目標とし、学生の英語力を踏まえ、効果的な授業展開を目指します。

【到達目標】
（1）基本的な文法を確実に身につけ、語彙力を段階的に増やすとともに、英語の音声的特徴や発音の基礎を理解することを目標とします
（2）構文を正確に理解した上で長文を的確に読解できる力を養い、複雑な英文についても、英文の流れに沿って自然に意味のまとまりごとに理解できるようになることを目指します。
（3）発音やリズム、イントネーションへの意識を高めることで、日常的な速さで話されるネイティブの英語をある程度聞き取れる英語運用能力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則としてテキストに沿って進め、各ユニットを2回の授業で扱う。理解度の把握を目的として、小テストを2回実施する予定。
本授業では、基礎的な語彙および文法知識の確実な定着を図り、それを基盤としてリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能を総合的に伸ばします。そのため、①テキストを繰り返し音読すること、②ネイティブによる音声を繰り返し聴くこと、③テキストを正確に翻訳すること、④文章全体の内容を的確に理解すること、⑤語彙・熟語・文法・表現を理解し定着させること、⑥間違いを恐れず、話したり書いたりする姿勢を身につけることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方と狙いを説明する。
2	Unit(1) A New Style of Agriculture	課題文「貧困をなくすための農業サポート」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
3	Unit(1) A New Style of Agriculture	課題文「貧困をなくすための農業サポート」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
4	Unit(2) Every "C" Counts	課題文「新たながん治療研究サポート」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
5	Unit(2) Every "C" Counts	課題文「新たながん治療研究サポート」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
6	Quiz 1 (Units 1– 2) Unit(3) Growing the Future with Safe Water	小テスト1回目（Unit 1-2）課題文「安全な飲み水を手にするために」のを精読し、重要な表現や語彙を習得する。
7	Unit(3) Growing the Future with Safe Water	課題文「安全な飲み水を手にするために」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
8	Unit(4) Noticing Microaggressions	課題文「無自覚な先入観や偏見に気づく」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
9	Unit(4) Noticing Microaggressions	課題文「無自覚な先入観や偏見に気づく」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
10	Quiz 2 (Units 3– 4) Unit(5) Traveling with Respect	小テスト2回目（Unit 3-4）課題文「誰もが幸せになる観光」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
11	Unit(5) Traveling with Respect	課題文「誰もが幸せになる観光」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
12	Unit(6) Turning Rain into Power	課題文「雨水を電力に」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
13	Unit(6) Turning Rain into Power	課題文「雨水を電力に」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
14	Final examination and course review	期末テストと今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次回の授業で使用するテキストの本文を事前によく読んでおくこと。
・授業前に指定された課題がある場合は、期限までに提出すること。
・必要に応じて、指示に従いプレゼンテーション等の準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】
Our World Now with SDGs (金星堂)
※生協で購入してください（秋学期も継続して使用します）。

【参考書】
・英和辞典を持参すること（電子辞書可）
・その他の資料は必要に応じて授業で配布します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　40％
2回の小テスト 40％
授業への参加度　20％

【学生の意見等からの気づき】
受講生の思考を促し、積極的に質問できる雰囲気づくりを心がけながら、講義を進めることを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業にはパソコンを持参して下さい。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course aims to improve students' overall English proficiency by helping them build a solid foundation in vocabulary and grammar, and by developing the four core skills of reading, writing, listening, and speaking. For future engineers and researchers, the ability to receive and communicate specialized knowledge in English, as well as advanced English communication skills to meet societal demands, is becoming increasingly important.

In this course, a textbook focusing on the SDGs (Sustainable Development Goals) — which address global challenges such as poverty, hunger, and environmental issues — will be used. Students will develop their English skills while deepening their understanding of contemporary global issues and cultivating the ability to think critically about them. The course thus aims to foster fundamental, integrated, and applied English skills, taking students' current proficiency into account and employing effective teaching methods.

【Learning Activities Outside of the Classroom】
・ Read the assigned text carefully in advance of the next class.
・ Submit any assigned work by the deadline if tasks are given before class.
・ Prepare presentations or other materials as instructed, when necessary.

【Grading Criteria / Policy】
・ Final examination: 40%
・ Two quizzes: 40%
・ Class participation: 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

小屋　多恵子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
1) あるトピックについて話す、他者の話を聞く、聞いた内容を書き取るといった統合的な練習を通じてコミュニケーションスキルを強化できる。
2) 日本語を母語とする英語学習者が犯しがちな誤りを復習し、正確な文法、用法、コロケーションに裏打ちされた正確で自然な英語を書くことができる。
3) 日本語と英語の思考様式の違いを理解し、日本語からの直訳に頼らずに英語で考えを表現できる。
4) 時事問題の英語聴解・読解などの活動を通じて、リスニングスキル・リーディングスキルを向上させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の7つである。
1)Warming-up activity: コミュニケーションスキルを強化する。
2)文法・基本例文をおさらいする。
3)スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングにより学習ポイントを確認する。
4)日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認する。
5)日本人英語学習者のエラー項目に注意して英文を書く。
6)トピックに合った文章を書く。
7) 全体の応用として、時事問題の英語聴解・読解などの活動を行う。
・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な授業への参加が基本となる。
・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Introduction	授業の進め方、学習の仕方、評価などの説明 特に、通常回の授業では、「学習項目を実際の使用場面に即して扱い、話す・聞く・読む・書く活動を通して理解と定着を図る」ことを説明する。
2回目	主語の選択＋名詞の誤り リスニング力/リーディング力の強化(1)	英語独特の用法や構文に気をつけよう 時事英語アクティビティ：2025年春
3回目	Unit 1 名詞の誤り	Salaryとwageはどう違う？
4回目	Unit 2 冠詞の誤り	可算名詞でも冠詞がつかない慣用表現
5回目	代名詞の誤り リスニング力/リーディング力の強化(2)	人称代名詞、指示代名詞、不定代名詞の誤りやすい箇所をおさらい 時事英語アクティビティ：2025年春
6回目	Unit 3 動詞の誤り (1)	put onとwearの違い
7回目	midterm exam エッセイを書くために:基礎編(1)	中間試験 PCで英文を素早く正確にうつためのアクティビティを実践
8回目	Unit 4 動詞の誤り (2)	riseとraiseの違い
9回目	Unit 5 時制の誤り	日・英時制のずれ
10回目	Unit 6 動詞+名詞の誤り	「注目を集める」にcollectやgatherは使えるか？
11回目	Unit 7 準動詞の誤り	look forward toの後は通例名詞
12回目	準動詞の誤り	不定詞・動名詞・分詞の誤り
13回目	期末試験 リスニング力/リーディング力の強化 (3)	学習したことが定着しているかを確認 時事英語アクティビティ：2025年夏
14回目	期末試験の振り返り エッセイを書くために：基礎編(2) リスニング力/リーディング力の強化 (4)	期末試験の返却と解説により、理解が不確定であった点を確認 punctuationの理解 時事英語アクティビティ：2025年夏

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。
・教科書の一部指定した箇所を予習し、補足プリントをやってみる。

【テキスト（教科書）】
Common Errors in English Writing
『読み・書く英語表現のポイント15章』
木塚　晴夫/ノースリッジ・ロジャー著
音羽書房鶴見書店

【参考書】
必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題・小テスト 20%
中間テスト 40%
学期末試験 40%
上記を総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
次の4点に留意する。
1) 一つ一つの活動には明確な目的や意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。

2) 学生の興味や学習の理解度に応じて、授業内容や進度に関して柔軟に対応する。
3) わかりやすく見やすい提示を心がける。
4) 質問しやすい環境と時間を作る。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使用する

【その他の重要事項】
・５回欠席した時点で単位取得不可となる。
・遅刻・中抜け・早退は２回を持って欠席１回とみなす。

【Outline (in English)】
[Course outline]:
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
[Learning Objectives]:
・To reinforce communication skills through integrated practice, such as speaking about a topic, listening to others, and writing what is heard.
・To review common errors made by Japanese learners of English and to develop the ability to write accurate and natural English supported by correct grammar, usage, and collocations.
・To express ideas in English without relying on literal translation from Japanese, by understanding differences in Japanese and English ways of thinking.
・To improve listening and reading skills through activities based on current events in English.
[Learning activities outside of classroom]:
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Their required study time is at least one hour for each class meeting.
[Grading Criteria]:
In-class activities, homework and quizzes (20%), mid-term (40%), and final exams (40%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

平賀　史子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
Students will develop ability of using English language skills to communicate in various situations. Students will acquire four language skills (Reading, Writing, Listening, and Speaking) in English communication more fluently and confidently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Students will do various speaking activities such as pair work and group work about suggested topics in the textbook. Students also do presentations using YouTube. They are expected to work collaboratively to do various tasks such as group discussion, researching, and presenting topics of interest. The instructor will provide ongoing support and feedback for students.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction / Orientation	Introduction of the course, Orientation, Warm-up activity
第2回	Unit 1: Where are you from?	Explanation of YouTube presentation, skills-based work based on the textbook unit.
第3回	Unit 2: What do you do?	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第4回	Unit 2: What do you do?	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第5回	Unit 4: Do you play the guitar?	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第6回	Preparation for Speaking Task 1	YouTube presentation, group work, researching topics of interest.
第7回	Speaking Task 1	Speaking Task 1, practice, active listening.
第8回	Unit 6: How often do you run?	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第9回	Unit 6: How often do you run?	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第10回	Unit 7: We went dancing!	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第11回	Unit 7: We went dancing!	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第12回	Preparation for Speaking Task 2	YouTube presentation, group work, researching topics of interest.
第13回	Speaking Task 2	Speaking Task 2, practice, active listening.
第14回	Make-Ups	Make-Ups, Reflections, Feedback, and Goal setting

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete required assignments after each class. It will take at least one hour to complete each assignment.
本授業の準備・復習時間は、計1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Interchange Fifth Edition (Level 1) Student's Book with Digital Pack
Author: Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
Publisher: Cambridge University Press (ISBN: 9781009040631) 3, 500 yen (3,850 yen tax included)

【参考書】
The teacher will provide additional material.

【成績評価の方法と基準】
Speaking Task 1 (20%), Speaking Task 2 (20%), Homework (20%), Quizzes and YouTube presentation (20 %), In-class Participation/Self-Evaluation (20 %)

【学生の意見等からの気づき】
The instructor is willing to be available to take student concerns under consideration throughout the semester.

【学生が準備すべき機器他】
Students are required to bring either a smartphone, tablet, or laptop computer. Please make sure that it is fully charged before the class and can connect to the internet easily. Also, students are welcome to bring their dictionary (electric or book) in class.

【その他の重要事項】
３分の１以上または5回以上の理由なき欠席で、成績を不合格（E）とします。
More than one-third or five total absences without a valid reason will result in a failing grade (E).

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are expected to complete required assignments after each class. It will take at least one hour to complete each assignment.
[Grading Criteria / Policy]
The final grade will be decided based on the following:
Speaking Task 1 (20%), Speaking Task 2 (20%), Homework (20%), Quizzes and YouTube presentation (20 %), In-class Participation/Self-Evaluation (20 %)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

LOWRI E HUMBERSTONE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、英語のスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングに
おける学生の正確さと自信を向上させることを目指しています。教科書とその提
起する問題をディスカッションの出発点として活用することで、この授業は学生
が新しい視点から物事を見ることを奨励し、英語を他の文化や意見と関わる手段
として利用することを目指しています。学生は同僚や講師から即座のクラス
フィードバックを期待でき、また、講師からメールでより詳細なフィードバック
を個別に受けることができます。

【到達目標】
Students will learn and develop academic reading, writing, speaking, and listening skills in
English.
Students will discuss contemporary issues in English and express their opinions verbally
and in writing.
Students will participate in discussions as a class.
Students will submit brief written assignments in English based on class topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this class we will complete activities from textbooks and discuss texts and topics the textbook introduces. This class prioritises active learning, such as debate and discussion. English will be used as the primary language in this class.
Assignments may be submitted online or emailed to the sensei directly at
senseiemma22@gmail.com and students will receive written feedback on each assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class introduction and theme overview	Assessment methods and grading Self introduction to the class
2	Chapter 1 Food and health	Unit 1 - Food and Culture
3	Chapter 1 Food and health	Unit 3 - Saving Lives (food and health problems)
4	Chapter 2 Technology	Unit 4 - Identity Theft
5	Chapter 2 Technology	Unit 6 - Artificial Intelligence
6	Chapter 3 Sports	Unit 7 - Professional Athletes
7	Chapter 3 Sports	Unit 9 - Cheating
8	Class discussion - Discussing the previous topics	Class discussion- which topics did you enjoy the most, and why? Which topics did you enjoy the least and why? Do you disagree with any of the attitudes and opinions presented in the textbook?
9	Chapter 4 Cultural diff erences	Unit 10 - Attitude and cultures
10	Chapter 4 Cultural diff erences	Unit 11 - Communication in diff erent cultures
11	Chapter 5 Society	Unit 14 - Immigration
12	Chapter 5 Society	Unit 15 - Gender Diff erences
13	Class overview and exam preparation	Review of key themes and skills. Explanation of exam format and rules and class study
14	FINAL EXAMINATION	Final test to make up 50% of grade

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assignments will be set from the textbook. Students are expected to research class themes before class and arrive in class with opinions to share. A minimum of three essays will be assigned over the semester, worth 30% of the final grade in total. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework and reviewing class materials.

【テキスト（教科書）】
Vantage Point, Eric Hirata
ISBN 9784863124035 (10-digit ISBN: 4863124031)
Available online from https://www.eltbooks.com/item_spec.php?
item=1685001&lang=en

【参考書】
See Hoppii for additional resources.

【成績評価の方法と基準】
Assessment criteria:
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
This class aims to improve students' accuracy and confidence in English
Speaking, Listening, Writing and Reading. By using the textbook and issues it
raises as a starting point for discussion, this class encourages students to see
things from new perspectives and use the English language as a way to engage
with other cultures and opinions. Students can expect immediate class feedback
from their peers and the instructor, and can obtain more detailed feedback
privately from the instructor via email.
Assessment criteria:

A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

花﨑　一夫

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的にはテキストに沿って学習をすすめる。１回の授業でどのくらい進むかについては、学習支援システムを通して事前にお知らせする予定です。
毎回、授業の内容が理解できているかを確認するための小テストを実施する予定です。皆さんの小テストの出来具合を見て、翌週に必要に応じてコメント・解説をしてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1. 対面 /face to face	Chapter7	●Personification
2. 対面 /face to face	Chapter8 その１ Unit8 その１	●Metonymy ●Personnel &Recruiting
3.対面	Chapter8 その２ Unit8　その２	●Metonymy ●Personnel &Recruiting
4.対面	Chapter9 その１ Unit9 その１	●How is Our Conceptual System Grounded? ●Advertizing
5.対面	Chapter9 その２ Unit9 その２	●How is Our Conceptual System Grounded? ●Advertizing
6.対面	Chapter10 その１ Unit10 その１	●How Metaphor Can Give Meaning to Form ●Meetings
7.対面	Chapter10 その２ Unit10 その２	●How Metaphor Can Give Meaning to Form ●Meetings
8.対面	The Language Myth Chapter6　その１ Unit11 その１	●Metaphors we live by
9.対面	The Language Myth Chapter6　その２ Unit11 その２	●Embodiment effects in the brain ●Clients
10.対面	Chapter11 その１ Unit12　その１	●New Meaning ●Clients
11.対面	Chapter11 その２ Unit13	●New Meaning ●Finance &Economy
12.対面	Unit14	●Sales and Marketing
13. 対面 /face to face	Unit15	●Technology
14. 対面 /face to face	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業の内容に関連する予習用課題を授業前に学習する。授業後は、もう一度その課題に取り組み、授業で学習した内容を定着させる。

【テキスト（教科書）】
①Metaphors We Live By
メタファーに満ちた日常世界　１７００円（税抜き）
松柏社
② SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC ®　L&R TEST ADVANCED ２７００円（税抜き）
金星堂
春学期に使用したテキストを引き続き使用します。

【参考書】
授業中などに適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題など：５０％
期末テスト：５０％

【学生の意見等からの気づき】
小テストを多く実施することで、学生の理解度を確認することができたので、今年度も小テストを多く実施し、その結果を授業にフィードバックしたいと考えている。

【その他の重要事項】
①授業には必ず辞書を持参すること（電子辞書可）
②初回授業で履修上の注意点を詳細に説明するので、必ず参加すること。

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
By the end of the course, students should be able to attain basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%, Assignments: 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

柏原　俊樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
主に3つの切り口から学んでいく。1つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう1つには、随時実践的な
[やや難しい] リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。
原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 7: GEORGE'S GARAGE
2	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 8: GEORGE'S SHACK
3	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 8: ALYSSA'S HOUSE
4	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 9: GEORGE'S GARAGE
5	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 9: DAVID DOKOS' HOUSE
6	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 10: GEORGE'S SHACK
7	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 10: GEORGE'S HOUSE
8	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 11: ROBIN'S KITCHEN
9	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 11: GEORGE'S HOUSE
10	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 12: GEORGE'S GARAGE
11	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 12: GEORGE'S HOUSE
12	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 13: COLLEEN'S FAMILY ROOM
13	総復習	総復習
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
　教科書の予習は必須。
リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

【テキスト（教科書）】
教科書: 『映画シナリオ「海辺の家」』（英宝社）

【参考書】
できれば語源欄のある辞書を使ってください。

【成績評価の方法と基準】
学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70％）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30％）。

【学生の意見等からの気づき】
リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

【学生が準備すべき機器他】
辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

【その他の重要事項】
積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.
【Learning Objectives】
The goals of this class is to get to understand complicated English sentences and to be able to hear normally spoken English.
【Learning activities outside of classroom】
It is necessary to read the textbook beforehand.
Also try to write down normally spoken English as much as you can. If you don't have the answers, I'll help you.
【Grading Criteria /Policy】
70 % of the grade is the results of the tests given you. 30 % is according to your attitude of studying.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

宗像　俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。中学・高校までの英語は、一昔前より「発信力」を重視したものに変えてきつつあるが、基本的には受験対策のための文法・単語の学習を重視する。しかし、この不安定な時代を生き抜くには英語運用能力の向上は必要不可欠であり、目先の大学での勉強でも、専門知識を英語で受信・発信できる力が求められている。本授業では、中高で培ってきた英語の基礎を復習するとともに、発音、音読、シャドウイング、暗唱、スキット（寸劇）等の手法を用いながら、英語を「使う」経験を積むことを目的としている。受講者の皆さんには授業を通して、英語を「使う」ことに慣れ、楽しさを見出してほしい。

【到達目標】
後期のこの授業では、実際に英語を「使う」様々なアクティビティを行うため、以下の二つの目標が到達できていることが望ましい。
①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、英語で書かれた文章を正確に読み解く力ことができる。
②英語話者が話す音声に触れ、自らも正しい発音にもとづき発話することで、リスニングやスピーキングの基礎力がつく。
③アクティビティを通じ英語運用能力の基盤を作る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
＜前半50分＞
①『新・英語の構文150』の各構文を発話を通して覚え、暗唱できるようにする。
②動画を用いて、各単語の発音方法について、口の動かし方から学ぶ。自分でも発話し、正しい発音法を習得する。
＜後半50分＞
①事前に配布したまとまった文字数の英文を読む。あるいは英語の動画を視聴する。その後、どのような内容だったかをディスカッションする。
②①の英文、動画（スクリプト）を全員で読み上げる。その後、暗唱できるように各人が練習する。スキットとしてペアやグループで行う場合は、セリフを覚える
③②の成果を全員の前で発表する。
必要に応じて、理解度チェックテストも行う予定。
＜フィードバック・理解度チェック方法＞
講義冒頭で、前回扱った内容に関する理解度チェックテストを実施する。
構文：教科書の練習問題を解く。
発音：音声教材を用い、発音されたら正しい単語を書きとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英語の基礎⑬	＜前半＞ 前期学んだことの確認（テスト込み） ＜後半＞ 英語の発音 /L/ vs /R/
第2回	英語の基礎⑭	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第13章 ＜後半＞ 英語の発音 /b/ vs /v/
第3回	英語の基礎⑮	＜前半＞ 『新・英語の構文150』第14章 ＜後半＞ 英語の発音 /s/ vs sh /□/
第4回	英語を「使う」①	＜前半＞ 『新・英語の構文150』の構文を覚える 英語の発音 /f/ vs /h/ ＜後半＞ 英文読解、音読練習
第5回	英語を「使う」②	＜前半＞ 『新・英語の構文150』の構文を覚える 英語の発音 /s/ vs Th / θ / ＜後半＞ 音読テスト
第6回	英語を「使う」③	＜前半＞ 『新・英語の構文150』の構文を覚える 英語の発音 /k/ vs /g/ ＜後半＞ 英文読解、シャドウイング
第7回	英語を「使う」④	＜前半＞ 『新・英語の構文150』の構文を覚える 英語の発音 /t/ vs /d/ ＜後半＞ シャドウイング・テスト
第8回	英語を「使う」⑤	＜前半＞ 『新・英語の構文150』の構文を覚える 英語の発音 /f/ vs th / θ / ＜後半＞ 英文読解、暗唱
第9回	英語を「使う」⑥	＜前半＞ 『新・英語の構文150』の構文を覚える 英語の発音 j /d□/ vs /z/ θ / ＜後半＞ 暗唱テスト
第10回	英語を「使う」⑦	＜前半＞ 『新・英語の構文150』の構文を覚える 英語の発音 j /d□/ vs /z/ ＜後半＞ シャドウイング・テスト
第11回	英語を「使う」⑧	＜前半＞ 『新・英語の構文150』の構文を覚える 英語の発音の確認 ＜後半＞ 音読テスト
第12回	英語を「使う」⑨	＜前半＞ 『新・英語の構文150』の構文を覚える 英語の発音の確認 ＜後半＞ 内容理解、寸劇

第13回	英語を「使う」⑩	＜前半＞ 『新・英語の構文150』の構文を覚える 英語の発音の確認 ＜後半＞ 寸劇テスト
第14回	期末試験	単語、文法、暗唱を組み合わせた試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・課題が指定された場合は必ず取り組む。
・理解度チェックテストのための準備をする。
・特に発音、音読、暗唱、シャドウイング、寸劇は、紹介した動画を繰り返し視聴しながら練習することをお勧めしたい。

【テキスト（教科書）】
澤井康佑『新・英語の構文150』美誠社, 2024。ISBN：978-4-8285-3378-0
※春学期と同じ教科書

【参考書】
英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験　40％
理解度チェックテスト　40％
授業への積極的な参加姿勢　20％

【学生の意見等からの気づき】
別の講義で、中高の英語教育で苦手意識を持ってしまったという受講者がいた。その苦手意識を少しでも和らげられるように、教員として努力していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用するので、授業にはパソコンを持参する。筆記用具も持参する。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話すので、必ず出席する。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This course aims to consolidate a rich vocabulary and accurate grammatical competence while simultaneously promoting the integrated development of the four language skills — reading, writing, listening, and speaking — supported by these foundations. English education at the junior and senior high school levels has gradually shifted from the past toward placing greater emphasis on “productive skills,” yet it still fundamentally prioritizes the study of grammar and vocabulary for entrance examination preparation. However, in order to navigate today’s uncertain world, improving practical English proficiency is indispensable. Even in your studying and learning in university, the ability to receive and convey specialized knowledge in English is increasingly required.
In this course, students will review the fundamentals of English cultivated in junior and senior high school and, at the same time, gain experience in actually “using” English through methods such as pronunciation practice, reading aloud, shadowing, memorization, and skits (short plays). Through the course, students are encouraged to become comfortable with using English and to discover the enjoyment that comes with it.
【到達目標（Learning Objectives）】
In the second semester of this course, students are expected to achieve the following objectives in order to participate in a variety of activities that focus on the practical use of English:
①By understanding English grammar and acquiring a certain level of vocabulary, students will be able to accurately comprehend texts written in English.
②By being exposed to spoken English and producing speech based on correct pronunciation, students will develop basic listening and speaking skills.
③Through various activities, students will build a foundation for practical English communicative competence.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
The standard amount of out-of-class study time for this course, including preparation and review, is one hour.
① Students must complete all assigned tasks when they are given.
②Students should prepare for the comprehension check tests.
③ In particular, students are strongly encouraged to practice pronunciation, reading aloud, memorization, shadowing, and short skits by repeatedly watching the recommended videos.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Final Examination: 40%
Comprehension Check Tests: 40%
Active Participation in Class: 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

渡邊　晶子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
基本的な文法を確実なものにして、英文を書くための基礎力をつける。構文をしっかり理解した上で英文を正確に聴き取り、読解できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、準備をしておくこと。課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Your Immune Defense System	不定詞について学ぶ。 免疫防御系についての英文を聴き、読解する
2	The Earth We Live On	動名詞について学ぶ。 地球の内部についての英文を聴き、読解する。
3	Science Looks Twice at Twins	分詞について学ぶ。 双子についての英文を聴き、読解する。
4	Memory Miracles	比較について学ぶ。 記憶力についての英文を聴き、読解する。
5	Products of the Sea	否定について学ぶ。 海の産物についての英文を聴き、読解する。
6	If the Oceans Should Die	受動態について学ぶ。 海についての英文を聴き、読解する。
7	小テスト	重要構文などの確認と 小テストを行う。
8	Moving Continents	関係詞について学ぶ。 大陸移動についての英文を聴き、読解する。
9	Who Needs Spiders?	接続詞について学ぶ。 クモについての英文を聴き、読解する。
10	It's the Humidity	仮定法について学ぶ。 湿気についての英文を聴き、読解する。
11	Blue Babe - a Messenger from the Ice Age	語彙（紛らわしい語）について学ぶ。 氷河時代の野牛の遺骸の発見についての英文を聴き、読解する。
12	The New Zoo - a Modern Ark	現代の動物園の意義についての英文を聴き、読解する。
13	Wonderworker - New Drugs	新薬についての英文を聴き、読解する。
14	まとめ・試験	重要構文などの確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
テキストの日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

【テキスト（教科書）】
The Wonders of Science　科学の世界（成美堂）
A Shorter Course in Usage and Vocabulary　ポイントで解く語法・語彙問題（南雲堂）
生協で購入し、必ず毎回持参すること。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％　レポート課題20％　期末テスト60％

【学生の意見等からの気づき】
提出課題や質問等から気づいたことを解説に織り込んでいく。

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
The required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。
i)Increasing general proficiency in understanding English texts.
ii)More refined comprehension skills for listening to and reciting from English texts.

【到達目標】
Development of grammatical and lexical expression in English, as well as contextual meaning through completion of classroom tasks, homework assignments, and a final presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Small teams will engage in practical problem solving exercises to
become familiar with the grammar and vocabulary of each lesson.
The results of their cooperative efforts will be presented on the blackboard. Individual assignments will also be given, and in-class personal consultations will be available. Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction	Class operation and materials; self-presentations; general communication workshop
Class 2	Recent events	Talking about recent events in one's life Language focus: present perfect and past simple
Class 3	Decisions for the future	Language focus: going to and will
Class 4	Describing things	Giving presents, things we own. Language focus: adjectives and passive forms
Class 5	Guesses and deductions	Guessing what other people are doing, how are their lives. Language focus: modal verbs of deduction
Class 6	Alternate reality	Imagining a different reality, fantastic or realistic. Language focus: second conditional
Class 7	Talking about a discussion	Talking about people we have met, things we have been told. Language focus: reported speech
Class 8	Cultural products	Talking about movies, music, and other cultural products Language focus: adjectives, comparatives and superlatives
Class 9	School days	Remembering people and activities. Language focus: past tenses
Class 10	Food	Habits and preferences, cooking. Language focus: adjectives, frequency adverbials
Class 11	Regrets	Talking about what might have been, what could have been done. Language focus: third conditional
Class 12	Socializing	How to make small talk, keep a conversation going. Language focus: vocabulary and expressions
Class 13	Landing On Mars	Reading Practice: Logical Phrasal Connections/ Conjunctions; Reordering Sentences/ Paragraph Cohesion; Conjunctions/ Transitions.
Class 14	Final evaluation	Online interviews

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
Prior to
each lesson, students are required to review the provided documentation and complete a brief preparation task that will be explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

【参考書】
Open source online resources, and other materials developed by the instructor.

【成績評価の方法と基準】
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%).

【学生の意見等からの気づき】
More intensive practice in the oral skills of pronunciation and intonation.

【学生が準備すべき機器他】
A notebook is needed for in-class work, while for out-of-class assignments, students are required to use Word software or compatible open source software.

【Caution】
Changes to the schedule may be made in accordance with the general proficiency and progress level in the class.

【Outline (in English)】
Course Outline:
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English proficiently. Therefore this course emphasizes the further development of basic, comprehensive skills and knowledge as well as the ability to apply these. As in the previous semester, a variety of effective approaches will be used to improve both understanding and communicative competency.
Learning Objectives:
Development of grammatical and lexical expression in English, as well as contextual meaning through completion of classroom tasks, homework assignments, and a final presentation.
Learning activities outside the classroom:
Prior to each lesson, students are required to review the provided documentation and complete a brief preparation task that will be explained at the conclusion of the previous lesson. In addition, certain in-class tasks will need to be finished as homework assignments.
Grading Criteria:
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

花﨑　一夫

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的にはテキストに沿って学習をすすめる。１回の授業でどのくらい進むかについては、学習支援システムを通して事前にお知らせする予定です。
毎回、授業の内容が理解できているかを確認するための小テストを実施する予定です。皆さんの小テストの出来具合を見て、翌週に必要に応じてコメント・解説をしてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1. 対面 /face to face	Chapter7	●Personification
2. 対面 /face to face	Chapter8 その１ Unit8 その１	●Metonymy ●Personnel &Recruiting
3.対面	Chapter8 その２ Unit8　その２	●Metonymy ●Personnel &Recruiting
4.対面	Chapter9 その１ Unit9 その１	●How is Our Conceptual System Grounded? ●Advertizing
5.対面	Chapter9 その２ Unit9 その２	●How is Our Conceptual System Grounded? ●Advertizing
6.対面	Chapter10 その１ Unit10 その１	●How Metaphor Can Give Meaning to Form ●Meetings
7.対面	Chapter10 その２ Unit10 その２	●How Metaphor Can Give Meaning to Form ●Meetings
8.対面	The Language Myth Chapter6　その１ Unit11 その１	●Metaphors we live by
9.対面	The Language Myth Chapter6　その２ Unit11 その２	●Embodiment effects in the brain ●Clients
10.対面	Chapter11 その１ Unit12　その１	●New Meaning ●Clients
11.対面	Chapter11 その２ Unit13	●New Meaning ●Finance &Economy
12.対面	Unit14	●Sales and Marketing
13. 対面 /face to face	Unit15	●Technology
14. 対面 /face to face	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業の内容に関連する予習用課題を授業前に学習する。授業後は、もう一度その課題に取り組み、授業で学習した内容を定着させる。

【テキスト（教科書）】
①Metaphors We Live By
メタファーに満ちた日常世界　１７００円（税抜き）
松柏社
② SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC ®　L&R TEST ADVANCED ２７００円（税抜き）
金星堂
春学期に使用したテキストを引き続き使用します。

【参考書】
授業中などに適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題など：５０％
期末テスト：５０％

【学生の意見等からの気づき】
小テストを多く実施することで、学生の理解度を確認することができたので、今年度も小テストを多く実施し、その結果を授業にフィードバックしたいと考えている。

【その他の重要事項】
①授業には必ず辞書を持参すること（電子辞書可）
②初回授業で履修上の注意点を詳細に説明するので、必ず参加すること。

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
By the end of the course, students should be able to attain basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%, Assignments: 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

柏原　俊樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
主に3つの切り口から学んでいく。1つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう1つには、随時実践的な [やや難しい] リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。
ただし、オンライン授業中心となった場合は、冠詞の勉強に特化するかもしれません。冠詞の勉強に関してご承知おきいただきたいことが2つあります。日本語のネイティブも国語のテストで必ず100点を取れるわけではないのと同様、英語のネイティブも冠詞についてすべてわかっているわけではないことと、それ故、冠詞の勉強は、大学レベルの学びにふさわしいともいえる、理論の領域に踏み込まざるを得ないことです。理論が正しいか、もっと優れた理論がないかは、現象から検証しつつ、よくよく考えていくほかありません。みなさんと一緒に、理論の深化に取り組みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 5: THE HALLWAY
2	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 6: BRIAN'S HOUSE
3	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 6: THE DRAWING ROOM
4	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 7: LADY DALROY'S MUSIC ROOM
5	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 7: PAULA'S BEDROOM
6	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 8: THE STREET
7	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 8: BRIAN'S APARTMENT
8	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 9: THE HALLWAY OF NUMBER 9
9	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 9: THE UPPER HALLWAY
10	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 9: GREGORY'S ROOM
11	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 10: PAULA'S BEDROOM
12	文法・語法に基づいた内容の理解	SCENE 10: THE ATTIC
13	総復習	総復習
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
教科書の予習は必須。
リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

【テキスト（教科書）】
教科書: ガス灯（開文社出版）

【参考書】
できれば語源欄のある辞書を使ってください。

【成績評価の方法と基準】
学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70％）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30％）。

【学生の意見等からの気づき】
リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

【学生が準備すべき機器他】
辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

【その他の重要事項】
辞書必携。積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.
【Learning Objectives】

The goals of this class is to get to understand complicated English sentences and to be able to hear normally spoken English.
【Learning activities outside of classroom】
It is necessary to read the textbook beforehand.
Also try to write down normally spoken English as much as you can. If you don't have the answers, I'll help you.
【Grading Criteria /Policy】
70 % of the grade is the results of the tests given you. 30 % is according to your attitude of studying.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
After taking this class, students will be able to communicate more effectively with others in everyday social situations, and also communicate opinions accurately in discussion with others.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The class uses a textbook organized in thematic units with a focus on specific grammar structures and appropriate functional language. The class will comprise frequent pair work and group work and listening tasks during class to familiarise students with the use of vocabulary and grammar structures in English. The class will also include realistic listening comprehensions to improve listening skills. Role-play tests will be used to evaluate speech skills, and homework assignments will be set to evaluate progress in writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class rules and grading criteria
2	Fake News	Relative Clauses News and Social Media
3	Newsmakers	Reported Speech Social Issues and the Environment
4	The future of News	*will*, *might* and *be going to* for predictions
5	Be creative	Comparatives and Superlatives Word building
6	Why do you think that?	Asking for and giving opinions and reasons Extreme adjectives
7	Mid-Semester Review Test	Mid-Semester Review Test
8	Good tourists	First and second conditionals Travel and Tourism
9	Globetrotters	Quantifiers
10	Technology	Talking about the effect on technology on society (present perfect + time markers)
11	You must see ...!	Making and responding to recommendations Describing places
12	Video everywhere	Active and Passive Emphasizing important information
13	REVIEW TEST	REVIEW TEST
14	WRAP-UP AND QUIZ	WRAP-UP AND QUIZ Activities to reinforce language taught in the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Short in-class testing of each unit will be carried out utilizing hard paper copy tests and the Learning Management System.Preparation and practice exercises will be set to consolidate learning of target language. Work to be completed outside class should take students between one hour and ninety minutes per week.

【テキスト（教科書）】
Speakout 3rd edition (B1), Students' Book and e-book with online practice - Antonia Clare &JJ Wilson (Pearson)
ISBN 978-1-293-5953-3) c.￥ 3,500

【参考書】
Online audio and video resources are available to students at www.english.com/speakout

【成績評価の方法と基準】
Mini Review Tests 45%
Final Review Test35%
Participation 20%

【学生の意見等からの気づき】
Student preferences regarding the style of language practice activities will be more closely assessed to determine the most suitable for students' language learning styles.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a paper or electronic dictionary to class.Students may use a dictionary on their smartphone, but any use of a smartphone unconnected to the lesson will be penalised and result in a lower grade.

【その他の重要事項】
Attendance Policy
出席ポリシー
３分の１以上または5回以上の理由なき欠席で、成績を不合格（E）とします
More than one-third or five total absences without a valid reason will result in a failing grade (E).

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
GRADING CRITERIA
Mid-term Review Test 30%
Class Participation 20%
Final Review Test 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＥＩＩ

今政　肇

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語のリスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの四技能の総合的な発展を目的とします。言わずもがなですが、理工系・生命系の学生にとって英語は知識生産の世界共通言語として必須です。それだけでなく、その習得はますます複雑に変化していく世界の中で専門分野をより理解し、何らかの貢献をするためにも欠かせません。そうした目標を念頭に置きつつ、本授業はリスニングやリーディングというインプットをベースに総合的なコミュニケーション能力を培っていくことを基本方針に様々な教授方法を取り入れ実施します。

【到達目標】
①リアルな英語の発話や表現を視聴覚的に接することで、感覚的な素地を整えリスニング力が高まります
②多読により英語を読むことに慣れ、より高度なテキストの読解を併用することで豊富な語彙および表現に接することが出来ます。
③そうした語彙や表現を作文や発話に使用することで自分のものに出来ます。
④英語を使ったディスカッションやプレゼンテーションの技術を習得することが出来ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。
課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。
課題等へのフィードバックは原則的に授業内で行います。
授業は原則対面で実施します。
必要に応じて授業の進め方や方法を変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。多読および読書ログについて説明します。
2	Unit 6 Clear Communication	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
3	Unit 6 Clear Communication	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
4	Unit 7 From Farm to Table	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
5	Unit 7 From Farm to Table	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
6	Unit 8 Identity	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
7	Unit 8 Identity	Designing websitesに関して、映像を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
8	Mid-term Review	中間テスト 読書ログについてのフィードバック
9	Unit 9 Time for Change	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
10	Unit 9 Time for Change	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
11	Unit 10 It's About Time	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
12	Unit 10 It's About Time	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
13	Final Review	期末テスト 小グループに分かれてプレゼンテーションの準備
14	プレゼンテーション	プレゼンテーション、読書ログの提出、今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。
・プレゼンテーションやクイズの準備
・大学図書館の英語多読図書（YL＝読みやすさレベル：0.8 2.4)を週70分（1日10分)、約7000字読むことを目標に、読書ログ（タイトル、感想、字数）をつける。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（１ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください)。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【テキスト（教科書）】
Bohlke, D., Dummett, P., Stephenson, H., Lansford, L., & Walker, R. Keynote Level 3, Second Edition with Spark Access + e-Book (1 year access), National Geographic Learning/Cengage Learning.
ISBN: 9780357960714
※春学期から継続して使用します。

【参考書】
学習者用の英英辞書（英和辞書よりも英英辞書を使ってください）：
https://dictionary.cambridge.org/
法政大学の多読サイト： https://hosei.libguides.com/tadoku)
初級レベル：
・ Oxford Reading Tree (YL 0.8-0.9):
Picture-based, perfect for beginners
・ Penguin Readers Easystarts (YL 0.8):
Simple stories, many topics
中級レベル；
・ Cambridge/Oxford/Macmillan Readers:
Wide range of original and adapted stories
・ Penguin Readers:

Large selection including movie adaptations

【成績評価の方法と基準】
宿題　１５％
授業への参加　１５％
テスト・クイズ　３０％
プレゼンテーション　２５％
読書ログ　１５％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（一ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください）。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The objective of this class is comprehensive development of four skills–listeing, reading, speaking and writing. Needless to say, learning English is necessary for students in science, engineering and life sciences as a global common language for knowledge production. Not only that, mastering it is also essential to deepen one's understanding of their specialized field within an increasingly complex and changing world and to make some sort of contribution. With these goals in mind, this class will incorporate a variety of teaching methods with the basic policy of cultivating comprehensive communicative ability based on input–namely listening and reading.
[Learning Objectives]
(1) By coming into contact with authentic English speech and expressions through audiovisual media, you can develop a sensory foundation and improve your listening ability.
(2) By reading graded books extensively, you can feel more comfortable reading English, and by reading more advanced texts, you can come into contact with a richer vocabulary and expressions.
(3) By using them in your own writing and speech, you can make them your own.
(4) You can develop discussion and presentation skills in English.
[Learning activities outside of classroom]
Class preparation, vocabulary review, homework, and preparation for presentations.
Set aside approximately 10 minutes a day or 70 minutes a week to read the books that you have chosen and fill out your reading log.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments and homework (15%), [2] class participation (15%), [3] quizzes and tests (30%), [4] presentation (25%), [5] reading log [15%].

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

島田　顕

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかりと身につける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低2回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意訳ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにすること（英作文問題も含めて）。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	Lesson　11	Lesson　11 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第3回	Lesson　12	Lesson　12 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第4回	Lesson　13	Lesson　13 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第5回	Lesson　14	Lesson　14 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第6回	Lesson　15	Lesson　15 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第7回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第8回	Lesson　16	Lesson　16 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第9回	Lesson　17	Lesson　17 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第10回	Lesson　18	Lesson　18 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第11回	Lesson　19	Lesson　19 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第12回	Lesson　20	Lesson　20 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第13回	まとめor予備日	まとめ その他
第14回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
　テキストの本文の訳、ＥＸＥＲＣＩＳＥＳ等の問題は全員にあてる。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくること。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期４回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

【テキスト（教科書）】
　テキスト：『Spotlight on Britain　イギリスを探る』（南雲堂）

【参考書】
　豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。
　その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
　評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
　評価基準：平常点30％、課題・宿題10％、小テスト20％、期末試験40％
　※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】
　授業の進み方を速くし，小テスト，提出物の回数を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
　辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
（Learning Objectives）
We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.
（Learning activities outside of classroom）
One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.
（Grading Criteria /Policy）
Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz
Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%
* The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

小林　直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力正確な文法力の定着を図り、それに支えられた４技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な英語力の向上を目的とする。また、理工・生命系の分野においては、英語が世界の共通語となっていることを受け、将来の技術者・研究者に求められる、英語での理解力・発信力を培うための授業とする。併せて、英文を楽しんで読む機会を設ける。

【到達目標】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。また、英文を楽しんで読む能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
英文の読解を中心にするが、リスニングや英作文の練習も行う。リスニング、所定教科書の設問の回答ををを提出してもらうなど、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教科書以外の英文を読む。	テクストを読む。
第2回	Unit 8	Black Friday
第3回	Unit 9	Getting High on Gardening
第4回	Unit 10	The Throw-Away Cafe!
第5回	教科書以外の英文を読む。	テクストを読む。
第6回	Unit 11	Lost in Translation?
第7回	Unit 12	The Very Fortunate Four
第8回	TOEIC対策	TOEICのための語彙を学ぶ。またリスニングの練習を行う。
第9回	Unit 13	Health, a Salty Reality
第10回	教科書以外の英文を読む	英文を読む楽しみを経験する。
第11回	Unit 14	First the Mammoth, Next the Elephant?
第12回	教科書以外の英文を読む	英文を読む楽しみを経験する。
第13回	Unit 15	Battling the Blues また、試験前に質問を受け付ける。
第14回	期末テスト	英文和訳を中心に試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
Reading Wonders　（金星堂）

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】学期末の試験の点数(70%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点(30%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
英語に関して、多様な経験を出来るような授業に出来れば、と思っています。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
【到達目標（Learning Objectives）】
The aim of this course is to help students acquire comprehensive English abilities. At the end of this course, students are expected to read various English writings and have higher listening and writing abilities.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end examination 80% and in-class contribution 20%.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

中野　里美

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
To become familiar with and practice a range of listening and reading skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This course will consist of some materials based on topics from the textbook to some handouts. Feedback about the classes will be carried out on the last week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Knowing about global issues Listening and Dictation	Sites urge Australian to delay child ban
第2回	Knowing about global issues Listening and Dictation	Thanks to Ohtani, MLB Enjoys Huge Success in Japan and Momentum for 2025
第3回	Knowing about global issues Listening and Dictation	Japan's Nihon Hidankyo Wins Nobel Peace Prize
第4回	Knowing about global issues Listening and Dictation	More countries, including China, grapple with shrinking, aging populations
第5回	Knowing about global issues Listening and Dictation	That's my bike! Vigilantes fight back as theft rises, faith in police plummets
第6回	Knowing about global issues Listening and Dictation	45.7% in Japan poll think asking store employees to smile is harassment
第7回	Knowing about global issues Listening and Dictation	Cook Islands give detail of China deal that upset close partner New Zealand
第8回	Knowing about global issues Listening and Dictation	Indonesia showcases returned artifacts it sought for decades from Netherlands
第9回	Knowing about global issues Listening and Dictation	Africa must act to stem youth brain drain as economies continue to suffer
第10回	Knowing about global issues Listening and Dictation	Odor-Detecting Drone Uses Silkworm Moth Antennae for Disaster Rescue
第11回	Knowing about global issues Listening and Dictation	How Japan is looking deep underground to solve its carbon problem
第12回	Knowing about global issues Listening and Dictation	Stampede at religious event in India kills 100＋
第13回	Knowing about global issues Listening and Dictation	Over a dozen dead at Hindu festival
第14回	Review	Term-end exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】Outside class, you will need to be prepare and review the contents of the text before class, and review the materials given in the class.

【テキスト（教科書）】
A handout or PDF will be distributed and uploaded.

【参考書】
Students will be given some information in the class.

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 60%, and tasks in this class 40%
【評価方法】出席重視。出席の条件（下記の評価基準）を満たした学生を対象にテストを行う。
【評価基準】3分の1以上または5回以上の欠席で不合格。遅刻は開始15分以降の入室からとし、3回目の遅刻で1回欠席と換算する。早退も遅刻と同じ扱い。期末テスト60%,平常点やタスクなど40%

【学生の意見等からの気づき】
If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
復習を行うこと

【Outline (in English)】
(Course outline) This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

（Learning Objectives）In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
(Learning activities outside of classroom）It is necessary for students to prepare for this class and review the lesson.
（Grading Criteria /Policy）Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
Goal #1: Students will be able to give a short science-based presentation in English using only their posters (without reading from notes).
Goal #2: Students will be able to ask questions regarding the content of their peer's presentations, just like presenters do at international conferences.
Goal #3: Students will be able to search for and read scientific readings about their chosen topic in English.
Goals #4: Students will be able to write a concise script and create easy-to-understand posters.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In every class students will speak in English to discuss their chosen topics in groups. Students will also give peer feedback to each other on their presentations. The professor will also provide feedback on two presentations so that students can improve their presentation delivery and content.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Orientation and presentation topics	Course overview Explain presentation guidelines &topics Choose department research project
2回目	Introduction section	Briefly explain background of study
3回目	Objectives	Detail the goals of the study
4回目	Methods	Summarize how the researchers conducted the study
5回目	Results	Summarize the key findings of the study
6回目	Conclusions	Implications, future research, limitations
7回目	Question &Answer (Q&A) section	Learn how to field questions and answer difficult questions appropriately
8回目	Presentation preparation	Make final poster and script edits and practice delivering presentation
9回目	Peer review	Present to your peers and receive feedback
10回目	Presentation #1	Present to the class and receive feedback from the professor
11回目	Presentation #1	Present to the class and receive feedback from the professor
12回目	Revisions	Revise and improve presentations based on feedback from peers and professor
13回目	Presentation #2	Present to the class and receive feedback from the professor
14回目	Presentation #2	Present to the class and receive feedback from the professor

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
Students will need to prepare for their presentations outside of class by searching for relevant information, writing their scripts, making their posters, and practicing their presentation delivery.

【テキスト（教科書）】
The professor will provide all learning materials online.

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】
Peer Review: 10%
Presentation #1: 40%
Presentation #2: 50%
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students must bring their computers (laptops or tablets) to every class.

【その他の重要事項】
・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
By the end of the course, students will be able to improve all four skills. Speaking: students will be able to give presentations about a science-based topic of their interest and discuss this content with their peers. Listening: students will be able to listen to their peers' presentations and ask questions based on the content. Reading: students will be able to search for relevant information about their chosen topic in English and summarize their findings. Writing: students will be able to write a script and create posters that clearly explain their chosen topic.
Outside of class, students will be expected to spend four hours per week preparing for this course.
Peer Review (10%), Presentation #1 (40%), Presentation #2 (50%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

島田　顕

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかりと身につける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低2回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意訳ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにすること（英作文問題も含めて）。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	Lesson　11	Lesson　11 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第3回	Lesson　12	Lesson　12 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第4回	Lesson　13	Lesson　13 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第5回	Lesson　14	Lesson　14 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第6回	Lesson　15	Lesson　15 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第7回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第8回	Lesson　16	Lesson　16 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第9回	Lesson　17	Lesson　17 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第10回	Lesson　18	Lesson　18 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第11回	Lesson　19	Lesson　19 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第12回	Lesson　20	Lesson　20 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第13回	まとめor予備日	まとめ その他
第14回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
　テキストの本文の訳、ＥＸＥＲＣＩＳＥＳ等の問題は全員にあてる。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくること。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期４回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

【テキスト（教科書）】
　テキスト：『Spotlight on Britain　イギリスを探る』（南雲堂）

【参考書】
　豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。
　その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
　評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
　評価基準：平常点30％、課題・宿題10％、小テスト20％、期末試験40％
　※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】
　授業の進み方を速くし，小テスト，提出物の回数を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
　辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
（Learning Objectives）
We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.
（Learning activities outside of classroom）
One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.
（Grading Criteria /Policy）
Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz
Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%
* The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＥＩＩ

城　俊雄

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力を習得しつつ、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。将来の技術者・研究者に必要な、専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の重要性は、ますます高まっています。
本授業では、貧困、飢餓、環境問題など、世界が抱える課題を扱うSDGs（持続可能な開発目標）をテーマとした教科書を用い、英語学習と同時に、現代社会の課題について理解を深めながら考える力を養います。その上で、そのための基礎力・総合力・応用力を身につけることを目標とし、学生の英語力を踏まえ、効果的な授業展開を目指します。。

【到達目標】
（1）基本的な文法を確実に身につけ、語彙力を段階的に増やすとともに、英語の音声的特徴や発音の基礎を理解することを目標とします
（2）構文を正確に理解した上で長文を的確に読解できる力を養い、複雑な英文についても、英文の流れに沿って自然に意味のまとまりごとに理解できるようになることを目指します。
（3）発音やリズム、イントネーションへの意識を高めることで、日常的な速さで話されるネイティブの英語をある程度聞き取れる英語運用能力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則としてテキストに沿って進め、各ユニットを2回の授業で扱う。理解度の把握を目的として、小テストを2回実施する予定。
本授業では、基礎的な語彙および文法知識の確実な定着を図り、それを基盤としてリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能を総合的に伸ばします。そのため、①テキストを繰り返し音読すること、②ネイティブによる音声を繰り返し聴くこと、③テキストを正確に翻訳すること、④文章全体の内容を的確に理解すること、⑤語彙・熟語・文法・表現を理解し定着させること、⑥間違いを恐れず、話したり書いたりする姿勢を身につけることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit(7) Designed to Break Barriers	授業の進め方と狙いの説明 本文「みんなにやさしいまちの形」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
2	Unit(7) Designed to Break Barriers	課題文「みんなにやさしいまちの形」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
3	Unit(8) Closing the Digital Divide	課題文「ルワンダの学校にインターネットを」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
4	Unit(8) Closing the Digital Divide	課題文「ルワンダの学校にインターネットを」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
5	Quiz 1 (Units 7– 8) Unit(9) "Table for Twp" for all	小テスト1回目（Unit 7-8) 課題文「食料提供を支援するNPO」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
6	Unit(9) "Table for Twp" for all	課題文「食料提供を支援するNPO」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
7	Unit(10) Making Impacts for Women and Children	課題文「女性と子どもに等しいチャンスを」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
8	Unit(10) Making Impacts for Women and Children	課題文「女性と子どもに等しいチャンスを」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
9	Quiz 2 (Units 9–10) Unit(11) Planting the Seeds of Ethical Fashion	小テスト2回目（Unit 9-10) 課題文「ファッションと私たちの未来」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
10	Unit(11) Planting the Seeds of Ethical Fashion	課題文「ファッションと私たちの未来」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
11	Unit(12) Underwater Plants for Climate Hope	課題文「海が守る地球」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
12	Unit(12) Underwater Plants for Climate Hope	課題文「海が守る地球」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
13	Unit(15) A Sustainable Tomorrow for Japan	課題文「SDGsで変える日本の未来」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。テーマについてグループディスカッションを行う。
14	Final examination and course review	期末テストと今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次回の授業で使用するテキストの本文を事前によく読んでおくこと。
・授業前に指定された課題がある場合は、期限までに提出すること。
・必要に応じて、指示に従いプレゼンテーション等の準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】
Our World Now with SDGs (金星堂)
※春学期と同じ教科書です。

【参考書】
・英和辞典を持参すること（電子辞書可）
・その他の資料は必要に応じて授業で配布します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　40％
2回の小テスト 40％

授業への参加度　20％

【学生の意見等からの気づき】
受講生の思考を促し、積極的に質問できる雰囲気づくりを心がけながら、講義を進めることを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業にはパソコンを持参して下さい。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course aims to improve students' overall English proficiency by helping them build a solid foundation in vocabulary and grammar, and by developing the four core skills of reading, writing, listening, and speaking. For future engineers and researchers, the ability to receive and communicate specialized knowledge in English, as well as advanced English communication skills to meet societal demands, is becoming increasingly important.

In this course, a textbook focusing on the SDGs (Sustainable Development Goals) — which address global challenges such as poverty, hunger, and environmental issues — will be used. Students will develop their English skills while deepening their understanding of contemporary global issues and cultivating the ability to think critically about them. The course thus aims to foster fundamental, integrated, and applied English skills, taking students' current proficiency into account and employing effective teaching methods.

【Learning Activities Outside of the Classroom】
・ Read the assigned text carefully in advance of the next class.
・ Submit any assigned work by the deadline if tasks are given before class.
・ Prepare presentations or other materials as instructed, when necessary.

【Grading Criteria / Policy】
・ Final examination: 40%
・ Two quizzes: 40%
・ Class participation: 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

小屋　多恵子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
1) あるトピックについて話す、他者の話を聞く、聞いた内容を書き取るといった統合的な練習を通じてコミュニケーションスキルを強化できる。
2) 日本語を母語とする英語学習者が犯しがちな誤りを復習し、正確な文法、用法、コロケーションに裏打ちされた正確で自然な英語を書くことができる。
3) 日本語と英語の思考様式の違いを理解し、日本語からの直訳に頼らずに英語で考えを表現できる。
4) 時事問題の英語聴解・読解などの活動を通じて、リスニングスキル・リーディングスキルを向上させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の7つである。
1)Warming-up activity: コミュニケーションスキルを強化する。
2)文法・基本例文をおさらいする。
3)スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングにより学習ポイントを確認する。
4)日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認する。
5)日本人英語学習者のエラー項目に注意して英文を書く。
6)トピックに合った文章を書く。
7) 全体の応用として、時事問題の英語聴解・読解などの活動を行う。
・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な授業への参加が基本となる。
・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Introduction エッセイを書くために：基礎編(3）段落と論理構成 リスニング力/リーディング力の強化(5)	段落と論理構成を理解しよう 時事英語アクティビティ：2025年秋
2回目	エッセイを書いてみよう：実践編 リスニング力/リーディング力の強化(6)	夏休みの出来事を論理構成に従って書いてみよう 時事英語アクティビティ：2025年秋
3回目	Unit 8 形容詞の誤り	狭いはいつもnarrowとは限らない
4回目	Unit 9 副詞の誤り	形容詞の最上級を修飾する副詞は？
5回目	Unit 10 比較級の誤り	比較級を修飾する副詞はfarかmuch
6回目	Unit 11 関係詞の誤り	関係代名詞の所有格はwhoseが最も一般的
7回目	mid-term exam 前半の復習	中間試験 通常回の授業で実施してきた、話す・聞く・読む・書く活動の確認
8回目	エッセイを書いてみよう：発展編 リスニング力/リーディング力の強化(7)	peer evaluationをしてみよう 時事英語アクティビティ：2025年冬
9回目	Unit 12 接続詞の誤り	「と」はandとは限らない
10回目	Unit 13 前置詞の誤り	「朝に」は常にin the morningか？
11回目	仮定法	ifのない仮定法に注意
12回目	Unit 14 主語の選択、語順、態、否定などの誤り	「遅かれ早かれ」はlater or soonerとは言わない
13回目	final exam リスニング力/リーディング力の強化(8)	期末試験 時事英語アクティビティ：2025年冬
14回目	期末試験の振り返りと総復習	期末試験の解説を聞いての復習と秋学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。
・教科書の一部指定した箇所を予習し、補足プリントをやってみる。

【テキスト（教科書）】
Common Errors in English Writing
『読み・書く英語表現のポイント15章』
木塚　晴夫/ノースリッジ・ロジャー著
音羽書房鶴見書店

【参考書】
必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題・小テスト 20%
中間テスト 40%
学期末試験 40%
上記を総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
次の4点に留意する。
1) 一つ一つの活動には明確な目的・意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
2) 学生の興味や学習の理解度に応じて、授業内容や進度を調整する。
3) わかりやすく見やすい提示を心がける。
4) 質問しやすい環境と時間を作る。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使用する。

【その他の重要事項】
・５回欠席した時点で単位取得不可となる。
・遅刻・中抜け・早退は２回を持って欠席１回とみなす。

【Outline (in English)】
[Course outline]:
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
[Learning Objectives]:
・To reinforce communication skills through integrated practice, such as speaking about a topic, listening to others, and writing what is heard.
・To review common errors made by Japanese learners of English and to develop the ability to write accurate and natural English supported by correct grammar, usage, and collocations.
・To express ideas in English without relying on literal translation from Japanese, by understanding differences in Japanese and English ways of thinking.
・To improve listening and reading skills through activities based on current events in English.
[Learning activities outside of classroom]:
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Their required study time is at least one hour for each class meeting.
[Grading Criteria]:
In-class activities, homework and quizzes (20%), mid-term (40%), and final exams (40%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

平賀　史子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
Students will develop ability of using English language skills to communicate in various situations by building on their prior study in Comprehensive English 1. Students will continue to acquire four language skills (Reading, Writing, Listening, and Speaking) in English communication more fluently and confidently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Students will do various speaking activities such as pair work and group work about suggested topics in the textbook. Students also do presentations using YouTube. They are expected to work collaboratively to do various tasks such as group discussion, researching, and presenting topics of interest. The instructor will provide ongoing support and feedback for students.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction / Orientation	Introduction of the course, Orientation, Sign-up for YouTube presentation
第2回	Unit 9: What does she look like?	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第3回	Unit 9: What does she look like?	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第4回	Unit 11: It's a really nice city.	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第5回	Unit 11: It's a really nice city.	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第6回	Preparation for Speaking Task 1	YouTube presentation, group work, researching topics of interest.
第7回	Speaking Task 1	Speaking Task 1, practice, active listening
第8回	Unit 12: It's important to get rest.	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第9回	Unit 12: It's important to get rest.	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第10回	Unit 13: What would you like?	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第11回	Unit 13: What would you like?	YouTube presentation, In-class conversation tasks, and skills-based work based on the textbook unit.
第12回	Preparation for Speaking Task 2	YouTube presentation, group work, researching topics of interest.
第13回	Speaking Task 2	Speaking Task 2, practice, active listening
第14回	Make-Ups	Make-Ups, Reflections, Feedback, and Goal setting

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete required assignments after each class. It will take at least one hour to complete each assignment.
本授業の準備・復習時間は、計1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Interchange Fifth Edition (Level 1) Student's Book with Digital Pack
Author: Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
Publisher: Cambridge University Press (ISBN: 9781009040631) 3, 500 yen (3,850 yen tax included)

【参考書】
The teacher will provide additional material.

【成績評価の方法と基準】
Speaking Task 1 (20%), Speaking Task 2 (20%), Homework (20%), Quizzes and YouTube presentation (20 %), In-class Participation/Self-Evaluation (20 %)

【学生の意見等からの気づき】
The instructor is willing to be available to take student concerns under consideration throughout the semester.

【学生が準備すべき機器他】
Students are required to bring either a smartphone, tablet, or laptop computer. Please make sure that it is fully charged before the class and can connect to the internet easily. Also, students are welcome to bring their dictionary (electric or book) in class.

【その他の重要事項】
３分の１以上または5回以上の理由なき欠席で、成績を不合格（E）とします。

More than one-third or five total absences without a valid reason will result in a failing grade (E).

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are expected to complete required assignments after each class. It will take at least one hour to complete each assignment.
[Grading Criteria / Policy]
The final grade will be decided based on the following:
Speaking Task 1 (20%), Speaking Task 2 (20%), Homework (20%), Quizzes and YouTube presentation (20 %), In-class Participation/Self-Evaluation (20 %)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
Students will learn and develop reading, writing, listening and speaking in English.
Students will expand their vocabularies and understanding of English Grammar.
Students will participate in reading and analysing English texts as individuals and as a class.
Students will participate in class discussion.
Students will submit brief written assignments and tests in English based on class topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
n this class we will complete activities from textbooks and discuss texts and topics the textbook introduces. This class prioritises active learning, such as debate and discussion. Assignments may be submitted online or emailed to the sensei directly at senseiemma22@gmail.com Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, written notes and corrections on homework they have submitted either on the Hoppii system or annotated on email submissions, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Overview	Review of Comprehension English 1 test Textbook overview Assessment methods and grading
2	Unit 1: Happiness	Is there a recipe for happiness? Video: Longevity Leaders
3	Unit 2: Inventive Solutions	The power of creativity Video: Solar Solutions
4	Unit 3: Connected Lives	The Power of Crowds Video: Citizen Scientists
5	Unit 4: Saving Our Seas	Where have all the fish gone? Video: Saving Bluefin Tuna
6	Unit 5: Memory and Learning	The Art of Memory Video: House of Cards
7	Midterm Review	Review skills and vocabulary Midterm Discussion
8	Unit 6: Animals and Medicine	The snake chaser Video: The Frog Licker
9	Unit 7: Nature's Fury	When tornadoes strike Video: Lightning
10	Unit 8: Building Wonders	Unfinished masterpiece Video: A Daring Design
11	Unit 9: Form and Function	What are feathers for? Video: Flying Reptiles
12	Unit 10: Smart Advice	Turning ideas into reality Video: The Community Builder
13	Class overview and exam preparation	Review of key themes and skills. Explanation of exam format and rules and class study
14	Final test (ONLINE)	Final test to determine 50% of final grade. Includes listening, grammar, vocabulary, and reading.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assignments will be set from the textbook. I may also assign questions and short quizzes based on texts related to class topics. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework and reviewing class materials.

【テキスト（教科書）】
Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking: 2nd Edition
ISBN 978133762511 (10-digit ISBN: 1337625116)

【参考書】
See Hoppii for additional resources

【成績評価の方法と基準】
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Students will continue to build and practice speaking, listening, reading and writing English communication skills through a number of everyday topics. By the end of the course, students will feel more comfortable using general English, and they will be able to express themselves more fluently and confidently.
Students will also receive individual written feedback and error correction on writing assignments.
Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.
Class participation (speaking English, taking notes): 20%
Homework assignments (textbook, online workbook &writing): 20%
Quizzes (Units 4, 5) 20%
Final examination (paper): (Units 4, 5, 6) 20%
Final examination (speaking): (Units 4, 5, 6) 20%

PHL100LC（哲学 / Philosophy 100）

哲学入門

沖本　龍哉

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・１７世紀フランスの思想家パスカルの『パンセ』を読み、私たちの人生に役立つ知恵を学ぶ。
・『パンセ』のうち、４つのテーマ（「死」「幸せ」「習慣」「イメージ」）について考える。

【到達目標】
各テーマについて、
・パスカルはどのように考えていたか理解できる。（思考力）
・自分はどのように考えるか日本語で表現できる。（文章力）
・自分の考えをどのように活かせるか話し合える。（応用力）
以上の３つの能力を、バランスよく身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回の授業では、まず、各テーマの内容について解説した後、前回の授業で提出されたコメントを紹介して読み上げ、お互いの考えを知り、テーマの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業で何を学ぶか
第2回	「死」について考える①	テーマの主旨を説明
第3回	「死」について考える②	コメントの紹介
第4回	「死」について考える③	コメントの続きとまとめ
第5回	「幸せ」について考える①	テーマの主旨を説明
第6回	「幸せ」について考える②	コメントの紹介
第7回	「幸せ」について考える③	コメントの続きとまとめ
第8回	「習慣」について考える①	テーマの主旨を説明
第9回	「習慣」について考える②	コメントの紹介
第10回	「習慣」について考える③	コメントの続きとまとめ
第11回	「イメージ」について考える①	テーマの主旨を説明
第12回	「イメージ」について考える②	コメントの紹介
第13回	「イメージ」について考える③	コメントの続きとまとめ
第14回	まとめ	この授業で何を学んだか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の授業後に、学んだことや気づいたことについて、４時間ほどかけてコメントを作成して、期日までに提出する。
・毎回のコメントは、授業でもっとも印象に残ったことについて、わかりやすく読みやすい文章で書くことにより、文章力が上達するだけでなく、次回の授業で紹介されて、お互いの理解を助けることができる。

【テキスト（教科書）】
各テーマごとに、資料を用意する。

【参考書】
・パスカル『パンセ』前田陽一・由木康〔訳〕中公新書、1973年。
・パスカル『パンセ』塩川徹也〔訳〕、岩波文庫（全３巻）、2015年。
・『哲学の歴史　第５巻　デカルト革命』小林道夫〔編〕中央公論新社、2007年。

【成績評価の方法と基準】
・成績は、毎回のコメント提出（60％）と出席（40％）による、平常点で評価する。
・コメントは、少なくとも200字以上を条件として、テーマについてどのくらい理解できているか、文章は工夫して書けているかなど、総合的に評価する。
・欠席は３回まで可とし、４回以上の欠席は、単位取得を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
・わかりやすい解説を心がけています。

【その他の重要事項】
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。
・抽選に外れてしまう可能性がありますので、あらかじめ他の授業の履修もご検討ください。
・もし抽選に外れてしまった場合は、お手数ですが、すみやかに登録の修正ないしキャンセルをお願いします。

【Outline (in English)】
We read "Pensées" by the 17th century French thinker Pascal and learn wisdom that can be useful in our lives.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than 4 hours per class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Reaction Papers (60%) and class contribution (40%).

PHL100LC（哲学 / Philosophy 100）

哲学入門

沖本　龍哉

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・１７世紀フランスの思想家パスカルの『パンセ』を読み、私たちの人生に役立つ知恵を学ぶ。
・『パンセ』のうち、４つのテーマ（「死」「幸せ」「習慣」「イメージ」）について考える。

【到達目標】
各テーマについて、
・パスカルはどのように考えていたか理解できる。（思考力）
・自分はどのように考えるか日本語で表現できる。（文章力）
・自分の考えをどのように活かせるか話し合える。（応用力）
以上の３つの能力を、バランスよく身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回の授業では、まず、各テーマの内容について解説した後、前回の授業で提出されたコメントを紹介して読み上げ、お互いの考えを知り、テーマの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業で何を学ぶか
第2回	「死」について考える①	テーマの主旨を説明
第3回	「死」について考える②	コメントの紹介
第4回	「死」について考える③	コメントの続きとまとめ
第5回	「幸せ」について考える①	テーマの主旨を説明
第6回	「幸せ」について考える②	コメントの紹介
第7回	「幸せ」について考える③	コメントの続きとまとめ
第8回	「習慣」について考える①	テーマの主旨を説明
第9回	「習慣」について考える②	コメントの紹介
第10回	「習慣」について考える③	コメントの続きとまとめ
第11回	「イメージ」について考える①	テーマの主旨を説明
第12回	「イメージ」について考える②	コメントの紹介
第13回	「イメージ」について考える③	コメントの続きとまとめ
第14回	まとめ	この授業で何を学んだか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の授業後に、学んだことや気づいたことについて、４時間ほどかけてコメントを作成して、期日までに提出する。
・毎回のコメントは、授業でもっとも印象に残ったことについて、わかりやすく読みやすい文章で書くことにより、文章力が上達するだけでなく、次回の授業で紹介されて、お互いの理解を助けることができる。

【テキスト（教科書）】
各テーマごとに、資料を用意する。

【参考書】
・パスカル『パンセ』前田陽一・由木康〔訳〕中公新書、1973年。
・パスカル『パンセ』塩川徹也〔訳〕、岩波文庫（全３巻）、2015年。
・『哲学の歴史　第５巻　デカルト革命』小林道夫〔編〕中央公論新社、2007年。

【成績評価の方法と基準】
・成績は、毎回のコメント提出（60％）と出席（40％）による、平常点で評価する。
・コメントは、少なくとも200字以上を条件として、テーマについてどのくらい理解できているか、文章は工夫して書けているかなど、総合的に評価する。
・欠席は３回まで可とし、４回以上の欠席は、単位取得を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
・わかりやすい解説を心がけています。

【その他の重要事項】
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。
・抽選に外れてしまう可能性がありますので、あらかじめ他の授業の履修もご検討ください。
・もし抽選に外れてしまった場合は、お手数ですが、すみやかに登録の修正ないしキャンセルをお願いします。

【Outline (in English)】
We read "Pensées" by the 17th century French thinker Pascal and learn wisdom that can be useful in our lives.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than 4 hours per class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Reaction Papers (60%) and class contribution (40%).

PHL100LC（哲学 / Philosophy 100）

哲学入門

美頭　千不美

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋の学問の伝統において、哲学は諸学の基礎に位置づけられる。ではなぜ諸学問の基礎に哲学が位置づけられるのか。哲学とは何をする学問的営みであるのか。本授業では、哲学にこれまで触れたことのない受講生を対象に、学としての哲学の本質を初級者向けに解説しながら、哲学史の流れに沿って哲学の概論を講義する。あわせて、哲学用語の意味の基礎的な理解を目指す。

【到達目標】
西洋哲学以外の学問分野（たとえば宗教学、芸術学、社会学、歴史学等）との関連づけもはかりながら、古代ギリシア以来の哲学思想を西洋哲学史の流れに沿って近代の入り口まで紹介するので、自分が既に習得しているさまざまな知識とうまく関係づけながら、哲学の歴史の主流とそこで問題となる基本用語を習得すること、それが学習到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
▪　本授業は、基本的に全回対面の授業である。
なお、諸般の事情により、Zoom／ハイフレックス型の授業は実施しない。
▪　本授業は講義形態の（聴講して学ぶ）授業である。演習・ディスカッション等は実施しない。
▪　リアクションペーパーの毎回の提出を求めない代わりに、随時、Gmail等での質問・意見・感想を受けつける。必要であれば、学習支援システム内の授業内掲示板を開設し、自由な意見交換が行なわれるよう配慮する。
毎回の授業を通じて当然生じる受講生の自由な思い・感想や意見・質問などを、授業後あるいはメールで積極的に受けつける。だから気になることがあれば遠慮なく直接質問するなりメールをください。興味深い問題であれば、次の週の授業の最初に取り上げ、クラス全体で共有できるよう取り計らいます（フィードバック）。
メール・アドレス：chifumi.mito.gv@hosei.ac.jp
＊　なお、授業全般に関する情報は、学習支援システム内の「お知らせ」欄を通じて告知することもあるため、学期末の授業最終週まで「お知らせ」欄に随時注意を払う必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	ガイダンス：講義内容概観、評価方法	▪西洋の学問的伝統において諸学の基礎と目される「哲学」の特性について。また、古代ギリシアから中世、ルネサンス、近代に至る西洋哲学思想の流れを大まかに紹介。 ▪評価方法の概略を具体的に口頭で伝える。大事な点なので、質問があれば遠慮なく直接私に質問できるようにする。 ▪期限までに簡単な自己紹介文を提出するよう案内する（今回分の出席点に加算する）。
第02回	哲学とは何か：理性をよりどころとする真理の探究、近代日本における「哲学」の導入	哲学において重視される「理性」とは何でありうるかについて、「ロゴス」を参照しながらその重要な意味について解説する。また、「ピロソピアー」に「哲学」の訳語を与えた西周（にし　あまね）についても触れる。
第03回	古代ギリシア（1）：ソクラテス以前①：自然哲学	自然哲学。タレス。アナクシマンドロス。ヘラクレイトス。ピュタゴラス。デモクリトス。
第04回	古代ギリシア（2）：ソクラテス以前②：ソフィスト	ソフィスト。プロタゴラス。
第05回	古代ギリシア（3）：ソクラテス	ソクラテス概説。無知の知。己の魂の世話。
第06回	古代ギリシア(4)：プラトン①	プラトン概説。イデア論。
第07回	古代ギリシア(5)：プラトン②	プラトンの世界観。想起説。政治思想。
第08回	古代ギリシア(6)：アリストテレス①	アリストテレス概説。形相と質料の形而上学。
第09回	古代ギリシア(7)：アリストテレス②	アリストテレスの倫理・政治思想。
第10回	ヘレニズム期：ストア派とエピクロス派	ヘレニズム期概説。ストア派の世界観と倫理思想。エピクロスの快楽主義。
第11回	西洋中世とルネサンス：スコラ哲学、ルネサンス期の思想家	キリスト教初期の教父哲学とアウグスティヌス。 中世のスコラ哲学、トマス・アクィナス。 ルネサンス：古代ギリシア・ローマの文芸復興、ヒューマニズム、ピコ・デラ・ミランドラ。
第12回	ルネサンスから近代へ：宗教改革、モラリスト	宗教改革：ルター、信仰義認、聖書中心主義。カルヴァン、予定説、職業召命観、マックス・ヴェーバー。 モラリスト：モンテーニュ、パスカル、デカルト。カントの倫理思想。
第13回	西洋近代の思想：ベーコン、デカルト、ホッブズ、ロック	フランシス・ベーコン：「知は力なり」、イドラ説、帰納法。 デカルト：良識、方法的懐疑、「我思うゆえに我あり」、演繹法。精神と物体の二元論。 ホッブズ：自然状態、「万人の万人に対する戦い」、「自然権」、社会契約。 ロック：経験論、「タブラ・ラサ」、信託。
第14回	授業時間内期末試験	習得度を確認するための筆記試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
▪　本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、毎週4時間を標準とする。
▪　高等学校で「倫理」を履修した者は、「高校倫理」の復習をする。

▪　特に復習を重視するので、毎回の授業終了後は、ダウンロードできる授業資料を活用するなどして、授業内容の理解に努めること。質問があれば質問をし、授業中に適宜紹介される参考文献に当たるなどして、そのつどの授業内容の理解に積極的に努める。そうしないと、哲学・思想の歴史的流れを踏まえながら、その基本用語の意味を理解し、実際にそれを使いこなせるようにはならない。

【テキスト（教科書）】
教科書の指定はなし。
必要な教材は適宜（てきぎ）プリントにして配布する。
また、毎回の授業ではパワーポイントを使用するが、その講義資料を授業時間内であれば自由にダウンロードすることができるように取り計らう。

【参考書】
毎回の授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
▪　平常点（40％程度）と期末試験（60％程度）とにより総合的に評価する（100点満点）。
※　教室内の状況によっては、平常点45％・期末試験55％で評価基準を定めることもありうる。
▪　平常点の内訳（うちわけ）
毎回の出席カード（手書き）の提出＋【本日の質問】への解答の提出（学習支援システム内に設けられた項目に期限までに解答を提出する）
▪　詳しくは初回のガイダンスの折に説明するので、受講希望者は初回のガイダンスに出席されたし。
▪　なお、期末試験（教場における筆記試験）は非常に簡単な復習テストであるので、最低ラインの点数に満たない場合、平常点が満点であったとしても、単位取得のために求められる基礎学力が決定的に不足しているとみなし、評価を「不可」とする。あるいは、平常点が著しく低い場合などは大幅減点の対象となる等の、独自の評価基準を定めている。100点満点の90点以上を取得するためには、平常点・期末試験とも満点に近い点数を取得する必要がある。

【学生の意見等からの気づき】
①講義後半の近代の内容をもう少し充実させる。
②マイクを上手に活用し、あまり大声・早口でまくしたてないよう、聴講する側に配慮して話し方に注意をする。
③講義資料において、スライド画面の見やすさ・講義内容の質をより高める。
④受講生の反応や理解度に常に注意を払う。
⑤昨年度までの試験の答案に見られた問題点を指摘し、受験の際に受講生が不正解を避けられるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
ノート型のパソコン（任意）
※　教室内のスクリーンが小さいため、スクリーンに映し出される画面が見づらい場合もある。その場合、ノート型のパソコンを持参していると、学習支援システム内の「教材」欄に授業時間内だけアップされる講義資料を手元のパソコンの画面を通して見ることができる。

【その他の重要事項】
基本的にパワーポイントを活用して作成した講義資料をスクリーンに映写して授業を進める予定である。

【Outline (in English)】
▪【Course outline 】:In the Western academic tradition,philosophy is positioned as the foundation of various studies.So why is philosophy positioned as the foundation of academics? What is an academic act of doing philosophy? Here,we will explain the essence of philosophy as academic for elementary students for students who have never mentioned before in philosophy,and will give an overview of philosophy along the trend of philosophical history.At the same time,we aim at the fundamental understanding of philosophical terms.
▪【Learning Objectives】:The most important learning object is to acquire basic knowledge about the history of Western philosophy,from ancient Greek philosophy to modern empiricism,rationalism,and Kant.Furthermore,students will be able to practically use this basic knowledge of the history of Western philosophy while relating it to other academic fields besides philosophy (for example,religious studies,history,sociology,literature,and art).
▪【Learning activities outside of classroom】:
▪ The standard is four hours per week of study outside of class time, such as preparing for and reviewing this class.
▪ Students who have taken "Ethics" in high school will review "High School Ethics."
▪ Particular emphasis is placed on review, so after each class, make an effort to understand the content of the class by using downloadable class materials, etc. Ask any questions you may have and refer to the reference materials introduced as appropriate during class, and actively strive to understand the content of each class. Without this, you will not be able to grasp the meaning of basic terminology and actually use it effectively while taking into account the historical flow of philosophy and thought.
▪【Grading criteria】:Comprehensive evaluation (out of 100 points) will be based on regular class performance (approximately 40%) and the final exam (approximately 60%).
* Depending on classroom circumstances, the evaluation criteria may be set at 45% regular class performance and 55% final exam performance.

LNG100LC

言語学概論

小屋　多恵子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーパスとは「電子化された言語資料」であり、コンピュータの発達により1960年代に世界初のコーパス（ブラウンコーパス）が登場して以来様々なコーパスが世界中で編纂されている。その結果、コーパスを用いて、言語の様々な特徴を極めて短時間で科学的・客観的に調査することが可能になった。

本授業では、コーパスに関する基本的知識（定義、歴史、種類）やコーパスの具体的な使用方法を学習した上で、実際に分析調査を行うことを目的とする。分析対象言語は英語とする。この授業を通して、各研究領域にコーパスによる分析手法を活用し、より深い学びや研究に寄与できるようにする。

【到達目標】

1) コーパスに関する基礎知識（定義、歴史、種類、問題点）を理解できる。
2) コンコーダンサーを使用したコーパスの基本的な分析・処理方法を理解できる。
3) 帰納的な手法から、言語の文法や語法の特徴に気づくことができる。
4) オリジナルパイロットスタディを実施し、考察できる。
5) ワードやエクセルの使い方・レポートの書き方を理解し、最終レポートを完成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式ではなく、実際に各自で調査・実践する演習形式をとる。1回の授業は次の手順で行う。
1) 復習クイズ
2) 前回の課題に対するフィードバック
3) 今日のポイント解説
4) 実践
1)は、学習支援システムのテスト機能を使って行う。各自が前回学んだ内容を確認し、また欠席してしまった学生にとっては、前回やった内容を簡単に理解した上で、その日の授業に臨めるようにする。
2)のフィードバックは、学生が行った課題の良い例や修正すべき例、間違えやすい例を提示し、解説することによって、さらなる理解を深める。
提出された課題は、全般的に、Hoppiiを通してまたは授業内で、フィードバック、総評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	言語を科学するとは？
2	コーパス言語学とは何か コーパス言語学の歴史概観	コーパス言語学とは？ コーパスの種類とは？ コーパスの問題点とは？ 1960年代からの４つの代表的なコーパスとは？ 1990年代以降からのコーパスとは？
3	コーパス分析の基礎(1)： wordlistの作成	AntConcの使い方と高頻度語リストの特徴を理解しよう
4	コーパス分析の基礎(2)：lemma化のWordlistの作成	AntConcの使い方とレマ化された高頻度語リストの特徴を理解しよう
5	コーパス分析の基礎(3)：tag付けリストの作成	AntConcの使い方とtag付けされたリストの特徴を理解しよう
6	コーパス分析の基礎(4)：collocationsとは	AntConcの使い方とcollocationリストの特徴を理解しよう
7	コーパス分析の基礎(5)：clusters &n-gramsとは	AntConcの使い方とclusters, n-gramsの違いとその特徴を理解しよう
8	コーパス分析の基礎(6)：keywordlistによる特徴語リストの作成	AntConcの使い方と特徴語リストの特徴を理解しよう
9	コーパス分析の応用(1)：オリジナルコーパス作成	自作のコーパスを作ってみよう
10	コーパス分析の応用(2)：	wordlist
11	コーパス分析の応用(3):	collocations clusters &n-grams
12	コーパス分析の応用(4)：	keywordlist
13	コーパスの応用(5)：	結果の考察
14	まとめと評価	レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
前の授業でわからなかった個所を明確にしておく。
授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業時に資料を配布する

【参考書】

必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題　40%
最終レポート　60%

【学生の意見等からの気づき】

次の点に留意する。
1) 一つ一つの活動には明確な目的・意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
2) 学生の興味や学習の理解度に応じ、いくつか選択肢を用意することによって、多様なニーズに応えられるようにする。
3) コンピュータの使い方が苦手な受講者をサポートする。

【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア教室で授業を行う予定であるが、備付のパソコンではなく、自分のパソコンを使用しても良い。

【Outline (in English)】

Course outline:
This course introduces students to language corpora as a resource for linguistic analysis. Students will learn the central concepts of corpus linguistics and some basic skills necessary in conducting a corpus investigation, find out how corpora are influencing recent trends in linguistic research, and have opportunity to apply corpus-based methods in their own work.
Learning objectives:

The goals of this course are to understand basic knowledge about corpora, learn ways of basic processing of corpora using an analysis tool and conduct an original pilot study.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to complete any tasks that were not completed during the class by the next class.
Grading Criteria:
In-class activities and assignments (40%), and project and paper (60%)

LNG100LC

言語学概論

梨本　邦直

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人は言語という直線的な音・記号の連続によって世界を理解し、考えを表現する。連続する音や記号で伝えたい意味を伝達するとはどういうシステムなのだろうか。この最も基本的な疑問に答えていくのが言語学概論の目的である。

【到達目標】
上記の目的に向けて、音声学、音韻論、形態論、統語論の基本形式を理解する。意味論においては、文法機能と構文の意味について階層構造を考察し、どのように意味が構造に反映されるのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
主として講義形式であるが、理解を助けるために簡単な演習を授業中に行う。復習のために講義のスライドを学習支援システムに載せる。授業の初めに、前回の演習課題を振り返りフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	言語研究とは	言語学の領域
2	音声学	調音音声学 母音、子音 国際音声字母IPA
3	音声学	音響音声学 スペクトラム分析
4	音韻論	音素とは
5	音韻論	英語の音素数と日本語の音素の考え方
6	音韻論	モーラ、音節、アクセント
7	中間テスト	音声学・音韻論を内容とする教室内中間テスト
8	統語論	ソシュールの考えと構造主義およびチョムスキーの生成文法
9	統語論	構成素分析
10	統語論	文法機能と意味 （1）品詞
11	構文意味論	統語構造 （2）文法範疇
12	構文意味論	統語構造 （3）主語と主題、述語と叙述、情報構造
13	構文意味論	SVOOの文型とThere is構文
14	まとめ	日本語の文構造 主題優勢言語 英語の基本文型に対する日本語の基本文型とは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
The PDF slides of the lecture will be posted on WebClass (Hoppii) before after each class. Students should review the lecture contents using both the slides and the textbook. Then answer the weekly exercises during the class.

【テキスト（教科書）】
風間喜代三、上野善道、松村一登、町田健『言語学 第２版』東京大学出版（2004年）

【参考書】
Crystal, David. (2010) The Cambridge Encyclopedia of Language, CUP
他に必要があれば授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
Mid-Semester Exam: 50%（教室内）
End-of-semester Exam: 50%（試験期間）

【学生の意見等からの気づき】
スライド資料は授業後ではなく授業前に授業支援システムに載せ、授業中に参照できるようにする。

【Outline (in English)】
Humans understand phenomena and express ideas by means of language which is a linear representation of sounds and words. What is the system of communication by which a meaning is conveyed in a series of sounds and language signs? The aim of this class is to answer this fundamental question by learning basic theories of phonetics, phonology, syntax, and semantics.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content using the slides uploaded on the system after the class.
At the end of this course, students will be able to:
・understand the basics of phonetics, phonology, morphology, and syntax with particular emphasis on determining the Japanese phonemes and basic sentence structures
・understand grammatical categories and their meanings in the framework of the three levels of the sentence structure
Grading Criteria
Mid-Semester Exam: 50%
End-of-semester Exam: 50%

HIS100LC（史学 / History 100）

日本文化論

横山　泰子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文化の特徴や歴史性を考える一つの手がかりとして、妖怪文化をとりあげます。自国の文化を知るために、様々な文献やマンガ、絵画資料などにふれ、現代の文化が過去とつながっていること、海外の文化とも関係していることを知ります。

【到達目標】
世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的です。
文章だけではなく、映像や絵画、マンガなども文化研究の資料です。娯楽としてそれらを楽しむだけではなく、資料として扱う方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査
2	現代日本の妖怪文化の特徴 「鬼滅の刃」について	現代の日本の妖怪文化を代表する作品を鑑賞し、その特徴を考える
3	娯楽の対象としての妖怪 鬼について	怖いはずのものが楽しみ＝娯楽になることに注目し、妖怪文化の遊びの面をとらえる
4	魔術／呪術の現代	アニメやゲームなどの世界では、魔術や妖術が流行している。古来から行われてきた呪術について考える
5	地域に根ざす妖怪文化	日本には、地域に根ざした多様な妖怪伝承がある。その地域性について考える
6	地域を超える妖怪文化	近年、日本の妖怪文化は諸外国から注目・評価されている。どの点がユニークとされ、興味を持たれているかをとらえる
7	妖怪を表現する技術	歴史的な絵画技術について学ぶ
8	妖怪を表現する技術	歴史に学びながら、自分で妖怪を作ってみる
9	西洋の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、現代において日本に大きな影響を与えている。西洋との比較を試みる
10	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
11	日本の妖怪文化を世界で説明するために	日本文化を世界で説明することが求められる昨今、妖怪について自分なりに説明してみる
12	近代の学問と妖怪	近代の学問の発展のなかで、妖怪はどのようにとらえられるようになったかを考える。
13	近代科学と妖怪	近代科学の発展にともない、過去に妖怪のしわざとされていた現象は科学的に説明可能となった面がある。科学と怪異現象との関係について考える
14	まとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
その都度指示します

【テキスト（教科書）】
教科書を使用する予定はありません。

【参考書】
参考書等については、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
【成績評価基準】
平常点３０％　授業時の提出物ならびに小テスト７０％

【学生の意見等からの気づき】
これまでの授業アンケートで「日本文化論ではあるが、海外の妖怪の内容を入れてほしい」という声があり、西洋の話題を折りにふれてとりあげてきました。一昨年「西洋の話題は不要ではないか」という声があり、日本の事例に特化した内容にしてきたところ、「やはり西洋の事例を入れてほしい」という意見が寄せられました。今年度は西洋の事例を盛り込むことにします。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器　筆記用具

【その他の重要事項】
いそぎの質問等は
yyoko@hosei.ac.jp
にメールで御願いします。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
This course will help you to understand yokai in Japan as cultural concepts and cultural products. The word yokai means creatures, presences, or phenomena that could be described as mysterious or eerie and are seen in every society.In recent years, interest in yokai culture has continued to build in Japan.After taking this course, you will be able to explain how yokai culture has built in Japan. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HIS100LC（史学 / History 100）

日本文化論

横山　泰子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文化の特徴や歴史性を考える一つの手がかりとして、妖怪文化をとりあげます。自国の文化を知るために、様々な文献やマンガ、絵画資料などにふれ、現代の文化が過去とつながっていること、海外の文化とも関係していることを知ります。

【到達目標】
世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的です。
文章だけではなく、映像や絵画、マンガなども文化研究の資料です。娯楽としてそれらを楽しむだけではなく、資料として扱う方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査
2	現代日本の妖怪文化の特徴 「鬼滅の刃」について	現代の日本の妖怪文化を代表する作品を鑑賞し、その特徴を考える
3	娯楽の対象としての妖怪 鬼について	怖いはずのものが楽しみ＝娯楽になることに注目し、妖怪文化の遊びの面をとらえる
4	魔術／呪術の現代	アニメやゲームなどの世界では、魔術や妖術が流行している。古来から行われてきた呪術について考える
5	地域に根ざす妖怪文化	日本には、地域に根ざした多様な妖怪伝承がある。その地域性について考える
6	地域を超える妖怪文化	近年、日本の妖怪文化は諸外国から注目・評価されている。どの点がユニークとされ、興味を持たれているかをとらえる
7	妖怪を表現する技術	歴史的な絵画技術について学ぶ
8	妖怪を表現する技術	歴史に学びながら、自分で妖怪を作ってみる
9	西洋の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、現代において日本に大きな影響を与えている。西洋との比較を試みる
10	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
11	日本の妖怪文化を世界で説明するために	日本文化を世界で説明することが求められる昨今、妖怪について自分なりに説明してみる
12	近代の学問と妖怪	近代の学問の発展のなかで、妖怪はどのようにとらえられるようになったかを考える。
13	近代科学と妖怪	近代科学の発展にともない、過去に妖怪のしわざとされていた現象は科学的に説明可能となった面がある。科学と怪異現象との関係について考える
14	まとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
その都度指示します

【テキスト（教科書）】
教科書を使用する予定はありません。

【参考書】
参考書等については、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
【成績評価基準】
平常点３０％　授業時の提出物ならびに小テスト７０％

【学生の意見等からの気づき】
これまでの授業アンケートで「日本文化論ではあるが、海外の妖怪の内容を入れてほしい」という声があり、西洋の話題を折りにふれてとりあげてきました。一昨年「西洋の話題は不要ではないか」という声があり、日本の事例に特化した内容にしてきたところ、「やはり西洋の事例を入れてほしい」という意見が寄せられました。今年度は西洋の事例を盛り込むことにします。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器　筆記用具

【その他の重要事項】
いそぎの質問等は
yyoko@hosei.ac.jp
にメールで御願いします。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
This course will help you to understand yokai in Japan as cultural concepts and cultural products. The word yokai means creatures, presences, or phenomena that could be described as mysterious or eerie and are seen in every society.In recent years, interest in yokai culture has continued to build in Japan.After taking this course, you will be able to explain how yokai culture has built in Japan. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution:30%, short reports and tests:70%

ARSe100LC（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 100）

アジア文化論

呉　暁林

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は東洋と西洋の文化交流を凝縮している世界文化遺産、名所旧跡などの映像資料を題材とし、学生と共にアジア地域の文化交流における人・物の往来・伝播のルートをたどりながら、異なる国と地域の生活習慣、衣食住、宗教と文字の共通性と異質性を再認識、再発見できることを目的とします。
　特に漢字文化圏に属する中国、日本、朝鮮半島の交流について考察を行います。

【到達目標】
　学生が様々な文化的現象について学習と議論を通して期末個人学習発表会で自ら見解を述べられることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　この授業は学習支援システムにアップした授業資料（PPT）の学習、対面講義、映像資料の視聴と期末学習発表で構成されます。
　NHKスペシャル番組など映像資料を見もらい、種々の文化現象を簡潔に解説します。異文化との交流と文化摩擦の問題について考えます。
　映像資料を単に視聴するだけではなくメモを取り、期限内に内容の要約や感想をワード形式のレポートとして提出してもらいます。次回の授業でレポート課題について簡潔に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：文化とは？ 異文化交流とは？ 考えるポイントを提示します。	映像『縄文遺跡の巨大集落』、『弥生人DNAで迫る日本人の起源」
第2回	世界遺産と中華の源流	映像と講義 NHKスペシャル『中国文明の謎』：二里頭遺跡と殷墟（宮廷儀式と漢字の誕生）
第3回	世界遺産と中国の世界観	映像と講義 NHKスペシャル『中国文明の謎』：兵馬俑・始皇帝と中国の統一
第4回	文化の保護・継承と伝播	映像と講義 二つの故宮（北京と台北）とコレクション
第5回	日本と中国の文化交流	映像と講義 NHKスペシャル 「壁画の旅を行く」「クチャ音楽の旅」
第6回	文化交流の壮大なルート：シルクロード、アイアンロードと茶馬古道	講義と映像 陸のシルクロード、中央アジアの製鉄技術と周辺への伝播、お茶と馬の交易ルート
第7回	人物と日中文化交流：鑑真和尚と唐招提寺	講義と映像 正倉院コレクション 、唐招提寺大改修と新発見
第8回	仏教ロード	映像と講義 仏教の誕生と仏教伝来の道（インド・中国・大韓民国）
第9回	文化交流と創造：遣唐使・空海と東寺	映像と講義 NHKスペシャル 空海の留学・人生・宗教観
第10回	海のシルクロード：陶磁器の道	講義と映像 NHKスペシャル 磁器と韓国・日本・イラン・ドイツ
第11回	学習発表と討論	学生が自らテーマを選び5分～8分ほどの映像動画を作成して発表と議論
第12回	学習発表と討論	学生が自らテーマを選び5分～8分ほどの映像動画を作成して発表と議論
第13回	学習発表と討論	学生が自らテーマを選び5分～8分ほどの映像動画を作成して発表と議論
第14回	学習発表と討論	学生が自らテーマを選び5分～8分ほどの映像動画を作成して発表と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回、授業資料（PPT）の閲読、映像資料を視聴して重要なポイント（事項、年代、人物）などのメモを取り、期限内に内容の要約と感想をワード形式のレポートとして提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】
　岡本隆司（2019）『世界史とつなげて学ぶ中国全史』、鹿本隆司（2021）『中国史とつなげて学ぶ日本史』、いずれも東洋経済新報社。
NHK取材班（2012）『中国文明の謎－中国4千年の始まりを旅する』NHK出版
鈴木薫著（2018）『文字と組織の世界史；新しい「比較文明史」のスケッチ』山川出版社
特に購入することを要求しません。

【参考書】
NHK取材班（2012）『中夏文明の誕生ー持続する中国の源を探る』講談社

【成績評価の方法と基準】
レポートなどの平常点（40％）、個人学習発表（40％）、期末レポート（20％）を合計総合して評価します。
①授業のレポート
②学習発表PPT
③最終レポート（学習発表PPTを添削して自分の感想や発見を加え、アジア文化交流の特徴や成果について記述したもの）
注意：期末レポートの提出は最終評価する上で不可欠です。

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムの「教材」は学習テーマの予備知識として用意されたもので、映像資料の内容の理解に役立ちます。ぜひ目を通しておいてください。
レポートの作成は大変だったのか？ 受講者にアンケートを取ったところ、慣れれば特に負担にはなりませんでした。視聴した内容について、メモを取る力、要約する力、自分の意見を述べる力のトレーニングになったとの声が多かった。

【学生が準備すべき機器他】
授業中、また視聴学習の際にメモを取り、授業終了後にレポートを提出してもらいます。

【その他の重要事項】
プロジェクター、ＤＶＤを使用する。

【Outline (in English)】
This course focuses on the world cultural heritage and people of Asian countries and discusses cross-cultural exchanges.By the end of the course, students are expected to express their own views in an individual learning presentation through learning and discussions on various cultural phenomena.Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Scores will be based on short reports (20%), presentations (40%) and final report (40%).

ARSk100LC（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 100）

ヨーロッパ・アメリカ文化論

川口　悠子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
移民や奴隷貿易などの人の移動の結果、米国（アメリカ合衆国）には、世界中の様々な土地にルーツをもつ人々が暮らしています。そのことにともなう文化の多様性や多文化性は米国社会の根幹をなし、そのような社会で人々が互いに、また国家とどのような関係を取り結んできたかは、米国の歴史に一貫するテーマのひとつです。この授業では、米国社会のそのような側面に光をあてて学びます。その際、人種・民族による不平等や差別と、それに対して自由と権利を求める抵抗とのせめぎ合いに着目します。これらは米国の歴史を知るために重要であるだけでなく、私たちが生きている社会について、また世界のあり方について、考える手がかりともなることでしょう。

【到達目標】
・多様な人々が暮らす米国の歴史と現状を理解する。
・権利や自由、また人種や民族／エスニシティについての理解を深める。
・歴史的背景を踏まえて、史料を正確に読む方法を学ぶ。
・現在の社会について批判的に考える習慣をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義が中心ですが、資料を読んだり、映像資料を見たりする時間も取ります。毎回授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらい、次の授業でいくつか取り上げてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	一学期を通じての流れや評価についての説明
2	人種（race）と民族（ethnicity）、アメリカにおける移民と国籍	人種や民族、国籍といった基本的概念について学ぶ
3	ヨーロッパ世界とアメリカ世界の出会い	独立革命までの米国の歴史と人の移動について考える
4	市場革命とアメリカ合衆国の拡大	19世紀前半の米国の人の移動について考える
5	南北戦争と再建期	19世紀後半までの米国の人の移動について考える
6	「金ぴか時代」と大量移民	19世紀末～20世紀はじめの、「大量移民」と呼ばれる人の移動について考える
7	対先住民戦争と海外膨張	米国内外での植民地主義と人の移動について考える
8	ふたつの世界大戦とアメリカ社会	第一次・第二次世界大戦の影響を、人の移動から考える
9	第二次世界大戦後のアメリカ社会	20世紀後半の米国における移民の動向の変化について考える
10	ポスト公民権期における人種	20世紀後半の米国における人種概念の変化について考える
11	ブラック・ライヴズ・マター運動と制度的人種主義（システミック・レイシズム）	現在の米国社会における人種主義について考える
12	非正規移民をめぐる状況	現在の米国社会での非正規移民をめぐる状況について考える
13	まとめ	今学期の授業のまとめをおこなう
14	まとめと期末試験	期末試験を実施し、授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に毎回、書籍の一部や新聞記事などを予習教材として配付します。指示されたとおり読んできてください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配布します。

【参考書】
梅﨑透・坂下史子・宮田伊知郎編著『よくわかるアメリカの歴史』（ミネルヴァ書房、2021年）
和田光弘『植民地から建国へ』（岩波新書アメリカ合衆国史（1）、2019年）
貴堂嘉之『南北戦争の時代』（岩波新書アメリカ合衆国史（2）、2019年）
中野光太郎『20世紀アメリカの夢』（岩波新書アメリカ合衆国史（3）、2019年）
古矢旬『グローバル時代のアメリカ』（岩波新書アメリカ合衆国史（4）、2020年）
ほか、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　80％
毎回のリアクション・ペーパー　20％

【学生の意見等からの気づき】
聞き取りやすい話し方ができるよう留意します。

【その他の重要事項】
授業の進み具合や受講生の皆さんからの要望により、シラバスの内容に変更を加えることがあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Since the United States is home to people whose ancestors came from around the world. This lesson will shed light on the racial, ethnic, and cultural diversity in American history. It focuses on racial and ethnic inequality and discrimination, and the numerous acts to change society for the cause of freedom and human rights.
【Learning Objectives】
As the students learn the history and current features of the United States, they deepen their understanding of race and ethnicity and of freedom and human rights. They also learn to read historical materials, both texts and statistical data.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to read the assigned material before the lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be calculated based on the final exam (80%) and minute papers assigned every week (20%).

ARSi100LC（地域研究（アフリカ） / Area studies(Africa) 100）

アフリカ文化論

大形　いずみ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、アフリカの多様な文化・社会・歴史等について、基礎的理解、現代課題、未来との関わりの視点から紹介します。学生は、学ぶことを通じ、アフリカの多様性・複雑さを理解して固定観念を取り払い、社会の多様性や繋がりを認識できるようになることを目的とします。

【到達目標】
「アフリカ」とひとくくりで語れないことを、自分の言葉で述べることができるようになること、また、日本や自分の専攻分野が「アフリカ」を含む諸外国、特に開発途上国とどのように関連しているのか、関連しうることがあるかを考えられるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は対面の講義形式を基本とします。場合によりオンラインとすることもあります。テーマによって実務経験豊富なゲストスピーカーを招いたり、グループワークを取り混ぜたりして、双方向型の授業を実施し、受講生同士で議論することで一層理解を深められるよう工夫します。
授業の初めには、前週の学生からのコメントを紹介して、履修者で共有・復習をしてから、その日の授業を始めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：授業紹介	講義の目的・進め方の説明。また、個人orグループワークを通じ（受講生数に応じて決定）、受講生が有するアフリカのイメージを確認します。
第2回	基礎理解編(1)「一つのアフリカ」は存在しない	歴史的背景、植民地支配の影響、多言語国家、民族・宗教の分布等多様性を可視化して概観します。
第3回	基礎理解編(2)ひとつの国の中の多様性を知る	モザンビークの事例をもとに、多民族国家の特徴、強み、課題などを学びます。
第4回	基礎理解編(3)食文化から見るアフリカ	アフリカの主食や料理の特徴、ローカルマーケット、宗教と食、グローバル化による食文化の変化や、食文化に通ずる家族観や人々の生活について学びます。
第5回	個人orグループワーク①	自分が面白いと思ったアフリカの側面を選び、個人orグループにて議論・発表を行ってもらいます（発表方法は受講生の人数を踏まえて指示します）。
第6回	現代課題編(1)都市化、ICTの発展がもたらす変化	都市化と社会・生活の変容、都市と農村の格差、またICTの発展がもたらす社会的、経済的変化等について学びます。
第7回	現代課題編(2)アフリカにおけるジェンダー、若者	ジェンダー規範や格差・特徴、女性のエンパワメント・社会進出、若者が置かれた状況等について学びます。
第8回	現代課題編(3)人と物の流れから見るアフリカ	歴史的な動き、また現在も起きている紛争に伴う難民・移民問題等、国内外に移動する人々や、物の流れ等を学びます。
第9回	未来と関わり編(1)グローバル化や気候変動の影響	グローバル化においてアフリカが注目される理由や課題、またグローバル課題である気候変動が社会に与える影響等を学びます。
第10回	未来との関わり編(2)アフリカと日本の関係	日本とアフリカ諸国の外交・経済交流の現状や、日本ODA、民間企業に期待される役割等についての知識を得ます。
第11回	未来と関わり編(3)社会経済課題の解決に繋がる技術協力	社会課題の解決に向けた技術協力の事例を紹介します。
第12回	未来との関わり編(4)専門分野とアフリカを結ぶ：個人orグループワーク②	学生の専攻分野と「アフリカ」とのつながりについて意見交換をします。グループワークの方法は受講生の人数を踏まえて指示しますが、スライド、新聞／ネット記事、動画等を作成、提出・共有することを想定しています。
第13回	個人orグループワーク②（継続）	個人orグループワーク行います（継続）。発表資料の作成に加え、教員によるフィードバックを行うことに加え、必要に応じた追加情報・事例等を紹介します。
第14回	個人orグループワーク発表＆まとめ	個人orグループによる発表、及び講義全体の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします。学生の皆さんには、授業で興味をもったことや疑問に思ったことについて、自分で調べることを推奨します。

【テキスト（教科書）】
毎回、ハンドアウトを配布して授業を行います。

【参考書】
『アフリカを学ぶ人のために』世界思想社（2023/4/17）
『アフリカレポートNo.60-63』アジア経済研究所
アフリカレポート - アジア経済研究所
その他、個々の地域や映像作品等に関する参考資料は授業内で適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点：30%（授業終了後のリアクションペーパー10回以上の提出で満点）
・個人orグループワーク①の成果（発表及び成果物の提出）：30%
・個人orグループワーク②の成果（発表及び成果物の提出）：40%
成果物は、スライド、新聞／ネット記事、動画等を想定しています。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
・対面を基本としますが、オンライン授業とする場合もありうるため、オンライン授業を受けるのに必要なカメラ・マイク付きのPCを各自で用意してください。

・資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】
・長年、アフリカを含む世界各国の国際協力の現場で実務を行ってきた教員が、現地の経験をもとに、講義を行います。
・シラバスの順番の入れ替え、講義内容についての微変更が生じることがあります。
・個人orグループワークは受講生数によって決定します。同ワークは成績評価の必須条件です。やむをえない事情によってグループワークの授業を欠席する場合は、グループのメンバーと各自で連絡を取ってください。
・5回以上欠席すると単位修得が不可となります。遅刻2回で欠席1回とします。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
The aim of the class is to recognize and understand the diversity and complexity of Africa and to break down stereotypes exist. At the end of the course, students are expected to be able to describe“Africa”with their own words, and to find out how Japan and his/her field of study can be related/can contribute to "Africa".
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the class content. Students are encouraged to do their own research on what interests them or questions they have in class.
The final grade will be evaluated based on 1)submission of reaction papers in the class (30%), 2)submission of individual or group work 1(30%), and 3)submission of individual or group work 2(40%)

HIS100LC（史学 / History 100）

比較文化論

横山　泰子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしつつ考える姿勢を身につけます。身近な生活文化に注目し、本を読み、様々な現象を調べながら、日本的な現象とされていることが本当に日本的であるかどうかを考えます。

【到達目標】
日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について１	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について２	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について３	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化１	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化２	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性１	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性２	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を読み、課題作文等を書く　（週4時間程度）

【テキスト（教科書）】
鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書　２０１９年　８２０円

【参考書】
参考書等については、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点３０％　授業時の提出物ならびに小テスト７０％

【学生の意見等からの気づき】
映画やドラマなど、色々なジャンルの作品をできるだけ使いたいと思います。授業内容と関連しそうな作品のリクエストを歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器　筆記用具

【その他の重要事項】
急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jpに御願いします。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese peolple think are very Japanese are really Japanese.Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HIS100LC（史学 / History 100）

比較文化論

横山　泰子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしつつ考える姿勢を身につけます。身近な生活文化に注目し、本を読み、様々な現象を調べながら、日本的な現象とされていることが本当に日本的であるかどうかを考えます。

【到達目標】
日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について１	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について２	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について３	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化１	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化２	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性１	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性２	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を読み、課題作文等を書く　（週4時間程度）

【テキスト（教科書）】
鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書　２０１９年　８２０円

【参考書】
参考書等については、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点３０％　授業時の提出物ならびに小テスト７０％

【学生の意見等からの気づき】
映画やドラマなど、色々なジャンルの作品をできるだけ使いたいと思います。授業内容と関連しそうな作品のリクエストを歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器　筆記用具

【その他の重要事項】
急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jp
に御願いします。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese peolple think are very Japanese are really Japanese.Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution:30%, short reports and tests:70%

ART100LC（芸術学 / Art studies 100）

映像芸術

山口　雅敏

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
写真、実写映画、アニメーション、ビデオアートなどの「映像」全般は、どうして芸術でありうるのか。この点について受講者と共に授業で考察していきます。そしてその問いについて受講者それぞれが何らかの結論に至ることを目指します。

【到達目標】
映画やその他の映像芸術について、問題意識を持って鑑賞できるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
映像史や映画史を概観しつつ、映画作品の一部分を随時観ながら、映画の「ショット」と「モンタージュ」の芸術性について考えていきます。同時に、写真やアニメーションなどの芸術性にも言及していきます。
また、授業で学んだことについて課題やレポートを数回提出してもらいます。レポートは、Hoppiiで提出してもらい、教員が講評と評価をつけます。
なお、映画作品を映画館で観てもらい、レポートを書いてもらう場合もあります。
授業内容についての質問などは、授業中もしくはメールにて受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよびイントロダクション	・レポートなどについての説明。 ・映像芸術全般についての概要。
2	映画前史	・写真の発明から映画の発明へ。 ・写真と映画の技術性と芸術性。
3	映画の誕生	エジソンとリュミエール兄弟。 ショットとモンタージュの発明。 ・授業課題
4	リアリズム映画からトリック映画へ	・ジョルジュ・メリエスの映画について。トリック映画からフィクション映画へ。 ・第１回レポート課題のお題発表、
5	映像でストーリーを語るということ	サイレント時代におけるハリウッド式のモンタージュの確立について。
6	１９２０年代の前衛映画とシュールレアリスム映画	・フランスとドイツにおける映像の芸術性の追求。 ・シュールレアリスム映画 ・授業課題
7	ドイツ表現主義	映画におけるドイツ表現主義の影響。
8	フランス印象主義	アベル・ガンスの「高速モンタージュ」や「トリプル・エクラン」など。
9	ソビエトモンタージュ派	・モンタージュの芸術性 ・エイゼンシュタインとヴェルトフの手法。 ・授業課題
10	サイレントからトーキーへ	・スラップスティック・コメディからスクリューボール・コメディへ。 ・第２回レポート課題のお題発表。
11	オーソン・ウェルズの初期作品	・ウェルズの技法とその芸術性について。 ・ウェルズの影響について。
12	戦後イタリアのネオレアリズモ作品	・ネオリアリズモの手法とその影響について。 ・授業課題
13	ヌーヴェルヴァーグ	ヌーヴェルヴァーグの革新性について。
14	ミュージカル映画の芸術性	演劇と映画の芸術性の違いについて。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げる映画作品などを、YouTubeその他の動画配信サイトなどで視聴するようにしてください。さらに、映画館に足を運んで、現在の映画をたくさん観るようにすることが望ましいです。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストはありません。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
全四回の授業課題（３０%）、全２回のレポート（７０%）を点数化して１００点満点とし、６０点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
昔のサイレント時代の映画作品を一度も観たことのない学生が多いようなので、古い作品にも興味が持てるように授業を工夫したいと思います。

【Outline (in English)】
How can "images" in general, such as photographs, live-action films, animation, and video art, be art? We will discuss this point in class with the students. The goal is for each student to come to some kind of conclusion regarding that question.
Please try to watch the movies and other works that will be covered in class on YouTube or other video distribution sites. In addition, it is advisable to go to the cinema and watch a lot of current movies.
The standard study time outside of class hours, such as preparation and review for this class, is 4 hours.
All four class assignments (30%) and two total reports (70%) are scored to give a perfect score of 100, and a score of 60 or above is considered passing. Evaluate comprehensively.

ART100LC（芸術学 / Art studies 100）

映像芸術

山口　雅敏

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
写真、実写映画、アニメーション、ビデオアートなどの「映像」全般は、どうして芸術でありうるのか。この点について受講者と共に授業で考察していきます。そしてその問いについて受講者それぞれが何らかの結論に至ることを目指します。

【到達目標】
映画やその他の映像芸術について、問題意識を持って鑑賞できるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
映像史や映画史を概観しつつ、映画作品の一部分を随時観ながら、映画の「ショット」と「モンタージュ」の芸術性について考えていきます。同時に、写真やアニメーションなどの芸術性にも言及していきます。
また、授業で学んだことについて課題やレポートを数回提出してもらいます。レポートは、Hoppiiで提出してもらい、教員が講評と評価をつけます。
なお、映画作品を映画館で観てもらい、レポートを書いてもらう場合もあります。
授業内容についての質問などは、授業中もしくはメールにて受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよびイントロダクション	・レポートなどについての説明。 ・映像芸術全般についての概要。
2	映画前史	・写真の発明から映画の発明へ。 ・写真と映画の技術性と芸術性。
3	映画の誕生	エジソンとリュミエール兄弟。 ショットとモンタージュの発明。 ・授業課題
4	リアリズム映画からトリック映画へ	・ジョルジュ・メリエスの映画について。トリック映画からフィクション映画へ。 ・第１回レポート課題のお題発表、
5	映像でストーリーを語るということ	サイレント時代におけるハリウッド式のモンタージュの確立について。
6	１９２０年代の前衛映画とシュールレアリスム映画	・フランスとドイツにおける映像の芸術性の追求。 ・シュールレアリスム映画 ・授業課題
7	ドイツ表現主義	映画におけるドイツ表現主義の影響。
8	フランス印象主義	アベル・ガンスの「高速モンタージュ」や「トリプル・エクラン」など。
9	ソビエトモンタージュ派	・モンタージュの芸術性 ・エイゼンシュタインとヴェルトフの手法。 ・授業課題
10	サイレントからトーキーへ	・スラップスティック・コメディからスクリューボール・コメディへ。 ・第２回レポート課題のお題発表。
11	オーソン・ウェルズの初期作品	・ウェルズの技法とその芸術性について。 ・ウェルズの影響について。
12	戦後イタリアのネオレアリズモ作品	・ネオリアリズモの手法とその影響について。 ・授業課題
13	ヌーヴェルヴァーグ	ヌーヴェルヴァーグの革新性について。
14	ミュージカル映画の芸術性	演劇と映画の芸術性の違いについて。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げる映画作品などを、YouTubeその他の動画配信サイトなどで視聴するようにしてください。さらに、映画館に足を運んで、現在の映画をたくさん観るようにすることが望ましいです。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストはありません。

【参考書】
特にありません

【成績評価の方法と基準】
全四回の授業課題（３０%）、全２回のレポート（７０%）を点数化して１００点満点とし、６０点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
昔のサイレント時代の映画作品を一度も観たことのない学生が多いようなので、古い映画作品にも興味が持てるように授業を工夫したいと思います。

【Outline (in English)】
How can "images" in general, such as photographs, live-action films, animation, and video art, be art? We will discuss this point in class with the students. The goal is for each student to come to some kind of conclusion regarding that question.
Please try to watch the movies and other works that will be covered in class on YouTube or other video distribution sites. In addition, it is advisable to go to the cinema and watch a lot of current movies.
The standard study time outside of class hours, such as preparation and review for this class, is 4 hours.
All four class assignments (30%) and two total reports (70%) are scored to give a perfect score of 100, and a score of 60 or above is considered passing. Evaluate comprehensively.

ART100LC（芸術学 / Art studies 100）

音楽芸術

竹内　誠

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人はなぜ、音楽を好むのでしょうか？
多くの人に好まれる音楽は、どのような特徴があるのでしょうか？
音楽の芸術性は、どのように判断されるのでしょうか？
音楽を好きな人ならば、１度は疑問に思ったことがあるはずです。
これらの疑問を解き明かすことが、この授業のテーマです。

【到達目標】
西洋の音楽史を一言で言うと、音楽を複雑にした歴史と言えます。これは西洋音楽が、常に新しい表現を求め続けたためです。そして２０世紀初頭には、無調音楽を生み出して、表現の限界までに至りました。
音楽の芸術性に関しても、複雑な手法で作られた音楽ほど、芸術性が高いと評価される傾向があります。しかし芸術性の評価は、人それぞれです。
音楽を作る手法、文化的背景、楽器の歴史と進化などを知ることによって、音楽の芸術性を考えられるようになることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回キーワードに基づいたレクチャーを行い、レクチャーに関連する音楽と映像を鑑賞します。観賞物とキーワードに関わる課題などを出しますので、チャットを使用して答えてください。質問などにも、チャットで答えます。またレポート課題は、評価の高かった内容の一部を口頭でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス 西洋音楽史の概要	授業の進め方と成績評価方法などと、古代ギリシャから始まったとされる西洋音楽史の概要を、授業前の基礎知識として説明します。
2	音楽と記憶	人が音楽を好む理由を、記憶の面から考察します。
3	音階と和音	西洋音楽における音階と和音の変遷と、音楽に与えた影響を考察します。
4	繰り返しの手法	音楽の作られる形式にある、音楽の構成的な周期を解き明かします。
5	クラシック音楽の行き詰まり	複雑化した音楽と無調音楽の特徴と、それが生まれた背景を考察します。
6	黒人音楽の影響	ブルーノートとアフタービートなど、黒人文化が音楽へ与えた影響と、それが生まれた背景を考察します。
7	中南米の音楽	多民族社会から生まれた中南米諸国の音楽的特徴と、それが生まれた背景を考察します。
8	楽器の起源と分類	バイオリン、トランペットなど、現在使われている楽器の起源と発展を学び、人と音楽の関わりを考察します。
9	楽器の発音原理と表現	管楽器、弦楽器、打楽器の仕組みと表現を知り、音楽におけるそれぞれの役割を解き明かします。
10	衰退した楽器とその復刻	リュート、リコーダーなど衰退した楽器と、衰退した楽器が復刻した訳を考察します。
11	電気楽器と電子楽器の発展	電気楽器と電子楽器の発展と、音楽に与えた影響を考察します。
12	音楽とメディア	レコード、映画、放送など、メディアが音楽に与えた影響を考察します。
13	音楽の効果と表現	オペラ、ミュージカルなどの劇音楽の歴史から、音楽の効果と表現を考察します。
14	生活環境と音楽 音楽の芸術性	生活環境の変化による、音楽の聴き方と使われ方の変化を知り、人と音楽の関わりを考察して、音楽の芸術性を探ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、本学の学則に鑑みて１回につき4時間を標準とします。学習支援システムで配布している資料に、予習としてあらかじめ目を通してください。授業終了後に授業内容を思い出しながら、資料にあるリンクから動画を鑑賞して復習を行ってください。また授業で与えられたネット検索課題を行って、レポートの作成に備えてください。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムで毎週資料を配布します。

【参考書】
「音楽する」は脳に効く　重野知央編集
発行所　株式会社Gakken
https://www.amazon.co.jp/%E3%80%8C%E9%9F%B3%E6%A5%BD%E3%81%99%E3%82%8B%E3%80%8D%E3%81%AF%E8%84%B3%E3%81%AB%E5%8A%B9%E3%81%8F-%E5%BC%BE%E3%81%8F%E3%83%BB%E8%81%B4%E3%81%8F%E3%83%BB%E6%AD%8C%E3%81%86%E3%81%A7%E4%B8%80%E7%94%9F%E3%82%A2%E3%82%BF%E3%83%9E%E3%81%AF%E9%80%B2%E5%8C%96%E3%81%99%E3%82%8B-%E9%87%91%E4%B8%B8-%E5%92%8C%E5%AF%8C-ebook/dp/B0BJDFX7HK/ref=sr_1_1?crid=27VQTTYTM9NZF&dib=eyJ2IjoiMSJ9.uCje9RhL2z3C4p54jAhBe9ATfyTa4PgwzghLL3z0eEE1-Xj8ayHE2NKL7sizOHvo5gmPtQTsw6Mh0dOkq4mG_7rjC4XuCMWQH2JjakkeCdzdzeD6TstZKcVc1EcyD4xAES9IXavylaZoFaiaoQ22sL6vjOdSBMdHRpQT2CtORlPY-wWUrdWJHQ2tV8843PwP0HAiqu1eYCkp04oQbV6EBCeDN-NtEYvknKyOgumZCoQ.RhgurCivdFQi1djOrwl8KW6y_-4gR9n544KX-roBx28&dib_tag=se&keywords=%E9%9F%B3%E6%A5%BD%E3%81%99%E3%82%8B%E3%81%AF%E8%84%B3%E3%81%AB%E5%8A%B9%E3%81%8F&qid=1737194463&sprefix=%E3%81%8A%E3%82%93%E3%81%8C%E3%81%8F%E3%81%99%E3%82%8B%2Caps%2C162&sr=8-1

【成績評価の方法と基準】
評価はレポートのみで行います。
レポートのタイトルとフォーマットは、授業内で指示をします。

レポートの評価基準は、授業内容と主旨を理解しているかがポイントです。
また、授業内で取り上げたキーワードが、レポートに織り込まれていることが重要です。
キーワードが使われていないレポートは、内容に関わらず失格とします。
平常評価は、レポートの内容から授業に参加しているかを判断して行います。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使用したパワーポイントのファイルが欲しいとの要望がありますが、パワーポイントは要点のみに絞ってありますので、配布はいたしません。
出席をしているかどうかは、レポートの内容から授業に参加したかどうかを判断しますので、パワーポイントからの情報ではなく、私の話を聞くことが重要です。

【学生が準備すべき機器他】
学生が授業で準備をする機器などはありませんが、学習支援システムで配布するMuseScoreのファイルを使用するためには、PCが必要となります。
レポート課題は授業内で説明を行い、レポート作成要旨を学習支援システムで配布します。学習支援システム以外の課題提出は認めません。（メールに添付などは不可。）

【その他の重要事項】
授業内では、必要に応じて映像や音楽を流します。
この間の教室からの出入りは、他の学生の迷惑となりますので、控えるようにお願いをします。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【音楽的な知識と能力に関して】
この授業の受講には、音楽の専門的な知識も能力も必要はありません。
楽譜の読めない人や、楽器を演奏したことのない人でも、大部分は理解できる授業内容です。
ある程度、音楽の専門的な話をすることもありますが、専門的な内容が理解できなくても、成績評価には全く影響しませんので、安心をして受講してください。

【履修制限】
履修者数が教室の収容人数を超える場合は、抽選により履修制限を行う場合があります。

【Outline (in English)】
Why do people like music?
What characteristics do those pieces of music loved by many people have?
How can we judge the value of musical arts?
You may have had such questions once in your lives.
The purpose of this class is to discover the answers to those questions.
Final grade will be determined by the final paper.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Specifically, please:
・Review the materials distributed via the LMS before class.
・Watch the videos linked in the materials to reinforce the class content after class.
・Prepare for writing the paper by completing the online search assignments given in class. and prepare for writing the paper.

ART100LC（芸術学 / Art studies 100）

音楽芸術

竹内　誠

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人はなぜ、音楽を好むのでしょうか？
多くの人に好まれる音楽は、どのような特徴があるのでしょうか？
音楽の芸術性は、どのように判断されるのでしょうか？
音楽を好きな人ならば、１度は疑問に思ったことがあるはずです。
これらの疑問を解き明かすことが、この授業のテーマです。

【到達目標】
西洋の音楽史を一言で言うと、音楽を複雑にした歴史と言えます。これは西洋音楽が、常に新しい表現を求め続けたためです。そして２０世紀初頭には、無調音楽を生み出して、表現の限界までに至りました。
音楽の芸術性に関しても、複雑な手法で作られた音楽ほど、芸術性が高いと評価される傾向があります。しかし芸術性の評価は、人それぞれです。
音楽を作る手法、文化的背景、楽器の歴史と進化などを知ることによって、音楽の芸術性を考えられるようになることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回キーワードに基づいたレクチャーを行い、レクチャーに関連する音楽と映像を鑑賞します。観賞物とキーワードに関わる課題などを出しますので、チャットを使用して答えてください。質問などにも、チャットで答えます。またレポート課題は、評価の高かった内容の一部を口頭でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス 西洋音楽史の概要	授業の進め方と成績評価方法などと、古代ギリシャから始まったとされる西洋音楽史の概要を、授業前の基礎知識として説明します。
2	音楽と記憶	人が音楽を好む理由を、記憶の面から考察します。
3	音階と和音	西洋音楽における音階と和音の変遷と、音楽に与えた影響を考察します。
4	繰り返しの手法	音楽の作られる形式にある、音楽の構成的な周期を解き明かします。
5	クラシック音楽の行き詰まり	複雑化した音楽と無調音楽の特徴と、それが生まれた背景を考察します。
6	黒人音楽の影響	ブルーノートとアフタービートなど、黒人文化が音楽へ与えた影響と、それが生まれた背景を考察します。
7	中南米の音楽	多民族社会から生まれた中南米諸国の音楽的特徴と、それが生まれた背景を考察します。
8	楽器の起源と分類	バイオリン、トランペットなど、現在使われている楽器の起源と発展を学び、人と音楽の関わりを考察します。
9	楽器の発音原理と表現	管楽器、弦楽器、打楽器の仕組みと表現を知り、音楽におけるそれぞれの役割を解き明かします。
10	衰退した楽器とその復刻	リュート、リコーダーなど衰退した楽器と、衰退した楽器が復刻した訳を考察します。
11	電気楽器と電子楽器の発展	電気楽器と電子楽器の発展と、音楽に与えた影響を考察します。
12	音楽とメディア	レコード、映画、放送など、メディアが音楽に与えた影響を考察します。
13	音楽の効果と表現	オペラ、ミュージカルなどの劇音楽の歴史から、音楽の効果と表現を考察します。
14	生活環境と音楽 音楽の芸術性	生活環境の変化による、音楽の聴き方と使われ方の変化を知り、人と音楽の関わりを考察して、音楽の芸術性を探ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、本学の学則に鑑みて１回につき4時間を標準とします。学習支援システムで配布している資料に、予習としてあらかじめ目を通してください。授業終了後に授業内容を思い出しながら、資料にあるリンクから動画を鑑賞して復習を行ってください。また授業で与えられたネット検索課題を行って、レポートの作成に備えてください。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムで毎週配信します。

【参考書】
「音楽する」は脳に効く　重野知央編集
発行所　株式会社Gakken
https://www.amazon.co.jp/%E3%80%8C%E9%9F%B3%E6%A5%BD%E3%81%99%E3%82%8B%E3%80%8D%E3%81%AF%E8%84%B3%E3%81%AB%E5%8A%B9%E3%81%8F-%E5%BC%BE%E3%81%8F%E3%83%BB%E8%81%B4%E3%81%8F%E3%83%BB%E6%AD%8C%E3%81%86%E3%81%A7%E4%B8%80%E7%94%9F%E3%82%A2%E3%82%BF%E3%83%9E%E3%81%AF%E9%80%B2%E5%8C%96%E3%81%99%E3%82%8B-%E9%87%91%E4%B8%B8-%E5%92%8C%E5%AF%8C-ebook/dp/B0BJDFX7HK/ref=sr_1_1?crid=27VQTTYTM9NZF&dib=eyJ2IjoiMSJ9.uCje9RhL2z3C4p54jAhBe9ATfyTa4PgwzghLL3z0eEE1-Xj8ayHE2NKL7sizOHvo5gmPtQTsw6Mh0dOkq4mG_7rjC4XuCMWQH2JjakkeCdzdzeD6TstZKcVc1EcyD4xAES9IXavylaZoFaiaoQ22sL6vjOdSBMdHRpQT2CtORlPY-wWUrdWJHQ2tV8843PwP0HAiqu1eYCkp04oQbV6EBCeDN-NtEYvknKyOgumZCoQ.RhgurCivdFQi1djOrwl8KW6y_-4gR9n544KX-roBx28&dib_tag=se&keywords=%E9%9F%B3%E6%A5%BD%E3%81%99%E3%82%8B%E3%81%AF%E8%84%B3%E3%81%AB%E5%8A%B9%E3%81%8F&qid=1737194463&sprefix=%E3%81%8A%E3%82%93%E3%81%8C%E3%81%8F%E3%81%99%E3%82%8B%2Caps%2C162&sr=8-1

【成績評価の方法と基準】
評価はレポートのみで行います。
レポートのタイトルとフォーマットは、授業内で指示をします。

レポートの評価基準は、授業内容と主旨を理解しているかがポイントです。
また、授業内で取り上げたキーワードが、レポートに織り込まれていることが重要です。
キーワードが使われていないレポートは、内容に関わらず失格とします。
平常評価は、レポートの内容から授業に参加しているかを判断して行います。
オンライン授業となっても、成績評価の方法に変更はありません。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使用したパワーポイントのファイルが欲しいとの要望がありますが、パワーポイントは要点のみに絞ってありますので、配布はいたしません。
出席をしているかどうかは、レポートの内容から授業に参加したかどうかを判断しますので、パワーポイントからの情報ではなく、私の話を聞くことが重要です。

【学生が準備すべき機器他】
学生が授業で準備をする機器などはありませんが、学習支援システムで配布するMuseScoreのファイルを使用するためには、PCが必要となります。
レポート課題は授業内で説明を行い、レポート作成要旨を学習支援システムで配布します。学習支援システム以外の課題提出は認めません。（メールに添付などは不可。）

【その他の重要事項】
授業内では、必要に応じて映像や音楽を流します。
この間の教室からの出入りは、他の学生の迷惑となりますので、控えるようにお願いをします。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【音楽的な知識と能力に関して】
この授業の受講には、音楽の専門的な知識も能力も必要はありません。
楽譜の読めない人や、楽器を演奏したことのない人でも、大部分は理解できる授業内容です。
ある程度、音楽の専門的な話をすることもありますが、専門的な内容が理解できなくても、成績評価には全く影響しませんので、安心をして受講してください。

【履修制限】
履修者数が教室の収容人数を超える場合は、抽選により履修制限を行う場合があります。

【Outline (in English)】
Why do people like music?
What characteristics do those pieces of music loved by many people have?
How can we judge the value of musical arts?
You may have had such questions once in your lives.
The purpose of this class is to discover the answers to those questions.
Final grade will be determined by the final paper.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Specifically, please:
・Review the materials distributed via the LMS before class.
・Watch the videos linked in the materials to reinforce the class content after class.
・Prepare for writing the paper by completing the online search assignments given in class. and prepare for writing the paper.

PSY100LC（心理学 / Psychology 100）

こころの働き

山本　晃輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的なこころの機能である，感覚・知覚、注意、対人認知などに関する心理学の基礎知見を学ぶ。人間の心理，行動への理解を深めることを通して，日常生活のさまざまな場面で心理学の知識を活用するための基礎力を養うことが目的である。

【到達目標】
・心理学の研究領域が理解できる。
・心理学の基礎的な方法論が理解できる。
・感覚・知覚に関する心理学の基礎知識が理解できる。
・対人認知に関する心理学の基礎知識が理解できる。
・思考・問題解決に関する心理学の基礎知識が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、人間のこころの共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。Hoppiiを使用して毎回、感想や質問を募集し、次回の授業冒頭でフィードバックを行う。課題については、実施後に解説および振り返りを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の研究領域について説明する。
第2回	心理学における方法論	実験法，調査法，観察法などの心理学の基本的な方法論について説明する。
第3回	感覚知覚（１）	視覚，聴覚について説明する。
第4回	感覚知覚（2）	嗅覚，味覚，触覚および注意について説明する。
第5回	心理学における方法論と感覚知覚の振り返り	ここまでの授業の振り返りと確認を行う。
第6回	対人認知（１）	対人認知を規定する要因について説明する。
第7回	対人認知（２）	対人認知の相互作用について説明する。
第8回	集団	集団の心理的メカニズムについて説明する。
第9回	社会と文化	文化心理学や個人主義，集団主義について説明する。
第10回	対人認知，集団，社会と文化の振り返り	ここまでの授業の振り返りと確認を行う。
第11回	思考・問題解決（１）	思考と問題解決の基礎的なメカニズムについて説明する。
第12回	思考・問題解決（２）	さまざまな思考法や問題解決の技法について説明する。
第13回	心理的支援	多職種連携，心理療法の基礎について説明する。
第14回	総合的まとめ	各回の振り返りと重要事項を確認する。基礎知見の応用展開について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。配布資料を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、授業で紹介した図書などに目をとおすこと。

【テキスト（教科書）】
以下の教科書を使用します。
ライブラリ　読んでわかる心理学１　読んでわかる心理学　清水寛之・瀧川真也・槙　洋一・山本晃輔　サイエンス社　2024年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】
授業中に実施する小テスト(90%)およびレポート課題(10%)を合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度のフィードバックで好評だった学生からの質問紹介と回答は、今年度も引き続き実施する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
The course aims to provide foundational knowledge in psychology concerning basic mental functions such as sensation, perception, attention, and interpersonal cognition. The goal is to cultivate foundational skills for applying psychological knowledge in various everyday situations by enhancing understanding of human psychology and behavior.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short examination: 90%、Short reports: 10%

PSY100LC（心理学 / Psychology 100）

パーソナリティ

伊藤　ひろみ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。
○　この授業は、履修希望者が多数になった場合は抽選になることがあります。詳細は第1回目の講義でお話し致しますので、希望者は必ず第１回目の授業に出席してください。
○　教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
★詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★
○　最終成績は、定期試験の成績をもと（70％）とし、授業への積極性・貢献度(15%)や課題レポート1回の成績（15％）を加味して、決定します。
○　伊藤ひろみのメールアドレスは、　hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp です。
○　状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせします。

【到達目標】
「パーソナリティ」「こころの働き」という２つの授業を通じて、学生が人間のこころのメカニズムについて知識を身につけ、将来のより良い人間関係・環境を構築する基礎素養とすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。
授業期間中に数回、課題の提出を求めるつもりだが、その場合は原則として提出期限１週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第2回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第3回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第4回	心理学の研究方法	心理学が用いる研究方法について説明する
第5回	心理学の領域と周辺諸科学	心理学がどのような他の学問領域と関連しているのか説明する
第6回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第7回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第8回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第9回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第10回	知能と実際的知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第11回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第12回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第13回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第14回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】
伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦　『現代の心理学』　金子書房　2003年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】
総合成績は、期末試験の成績をもとに(70%)、課題レポート１回(15%)と授業への積極的参加度・貢献度(15%)を加味して決定する。
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%, Short report: 15% and In class contribution: 15%.

【学生の意見等からの気づき】
今後とも、わかりやすく、具体的で、実践的な授業を行って行きたい。

【学生が準備すべき機器他】
心理学に関するビデオ・ＤＶＤを見せることがある。

【その他の重要事項】
「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests
to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind".
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%, Short report: 15% and In class contribution: 15%.

LAW100LC（法学 / law 100）

知的所有権

武生　昌士、安田　和史

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は、知的所有権（知的財産権）を保護する知的財産法の全体像を把握することを目的とする。特に、エンジニアにとって不可欠な、特許法・著作権法・営業秘密の保護等に関する基礎的な理解を獲得することを目指す。

【到達目標】
　知的財産法について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後知的財産法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。
　より具体的には、特許法・著作権法・不正競争防止法等における特定の論点について、関係する条文や概念を十分に理解し、その内容を正確に説明することができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　この授業では、知的財産法の全体像について、重要な論点をピックアップしながら、講義形式で一通り説明していく。本講義は、授業動画を各自で視聴してもらうオンデマンド形式で進める。下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。
　質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは学習支援システムを通じて全員に対して、フィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要（武生）	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	特許法概説（1）（武生）	特許要件など
第3回	特許法概説（2）（武生）	出願・審査手続、職務発明など
第4回	特許出願における特許事務所の役割（安田）	発明の創出から権利化までの具体的説明
第5回	意匠法概説（武生）	意匠法の全体像
第6回	意匠出願と製品デザインの保護（安田）	意匠法活用の具体例
第7回	標識法概説（武生）	商標法などの標識法の全体像
第8回	商標出願とブランド・製品名等の保護（安田）	標識法活用の具体例
第9回	不正競争防止法概説（武生）	不正競争防止法の全体像
第10回	営業秘密保護の概説（安田）	不正競争防止法による営業秘密の保護の全体像
第11回	不正競争防止法・実務編（安田）	企業活動における不正競争防止法の意義とその実相
第12回	著作権法概説（武生）	著作権法の全体像
第13回	著作権法・実務編（安田）	企業実務における著作権法上の諸問題
第14回	全体の総括・仮想事例の検討（武生・安田）	仮想事例の検討を通じて、講義全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　各回の終了時に、次回までに予習すべき資料を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
　教科書は特に指定しない。なお、六法を用意する・インターネットで検索するなどして、知的財産法の条文を常に確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】
　茶園成樹編『知的財産法入門〔第3版〕』（有斐閣、2020）、前田健ほか編『図録知的財産法』（弘文堂、2021）。このほか、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　期末の試験を通じて評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
　一部、動画のアップロードがうまくいっていなかった回があったので、確認作業をより厳格に行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業の受講が可能な環境の整備。

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is grasp the entire structure of Intellectual Property Law.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to :
― Demonstrate knowledge and understanding of Intellectual Property Law.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally 4 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

LAW100LC（法学 / law 100）

知的所有権

武生　昌士、安田　和史

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は、知的所有権（知的財産権）を保護する知的財産法の全体像を把握することを目的とする。特に、エンジニアにとって不可欠な、特許法・著作権法・営業秘密の保護等に関する基礎的な理解を獲得することを目指す。

【到達目標】
　知的財産法について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後知的財産法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。
　より具体的には、特許法・著作権法・不正競争防止法等における特定の論点について、関係する条文や概念を十分に理解し、その内容を正確に説明することができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　この授業では、知的財産法の全体像について、重要な論点をピックアップしながら、講義形式で一通り説明していく。本講義は、授業動画を各自で視聴してもらうオンデマンド形式で進める。下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。
　質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは学習支援システムを通じて全員に対して、フィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要（武生）	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	特許法概説（1）（武生）	特許要件など
第3回	特許法概説（2）（武生）	出願・審査手続、職務発明など
第4回	特許出願における特許事務所の役割（安田）	発明の創出から権利化までの具体的説明
第5回	意匠法概説（武生）	意匠法の全体像
第6回	意匠出願と製品デザインの保護（安田）	意匠法活用の具体例
第7回	標識法概説（武生）	商標法などの標識法の全体像
第8回	商標出願とブランド・製品名等の保護（安田）	標識法活用の具体例
第9回	不正競争防止法概説（武生）	不正競争防止法の全体像
第10回	営業秘密保護の概説（安田）	不正競争防止法による営業秘密の保護の全体像
第11回	不正競争防止法・実務編（安田）	企業活動における不正競争防止法の意義とその実相
第12回	著作権法概説（武生）	著作権法の全体像
第13回	著作権法・実務編（安田）	企業実務における著作権法上の諸問題
第14回	全体の総括・仮想事例の検討（武生・安田）	仮想事例の検討を通じて、講義全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　各回の終了時に、次回までに予習すべき資料を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
　教科書は特に指定しない。なお、六法を用意する・インターネットで検索するなどして、知的財産法の条文を常に確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】
　茶園成樹編『知的財産法入門〔第3版〕』（有斐閣、2020）、前田健ほか編『図録知的財産法』（弘文堂、2021）。このほか、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　期末の試験を通じて評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
　一部、動画のアップロードがうまくいっていなかった回があったので、確認作業をより厳格に行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業の受講が可能な環境の整備。

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The purpose of this lecture is grasp the entire structure of Intellectual Property Law.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to :
― Demonstrate knowledge and understanding of Intellectual Property Law.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally 4 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

CUA100LC（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

社会科学の方法論

CELESTE GUILLEMOT

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、社会科学研究で用いられる基本的な概念や手法を紹介する。研究の過程を通じて、課題設定やリサーチデザインの構築、データ収集と分析、そして結果の解釈や発表の技術を養う。特に、批判的思考を重視し、研究における倫理的な問題にも焦点を当てる。さらに、これらの方法を現代社会の問題にどのように応用できるかについても学び、実践的な研究能力を身につける。

【到達目標】
本授業の主な目標は以下の通りである：
- 社会科学研究における主要な方法論とアプローチを理解すること。
- 研究を批判的に分析し、考察できる力を養うこと。
- 社会科学におけるデータの収集、整理、分析の実践的な能力を身につけること。
- 研究成果をわかりやすく効果的に発表できるようになること。
- 研究における倫理の重要性を理解し、適切に実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とアクティブラーニングの両方を取り入れている。具体的には、ディスカッション、グループワーク、映像分析といった多様な授業内活動に加え、インタビュー、アンケート、フィールドワークなどの実際の研究調査体験を行う。さらに、グループで調査を含む研究プロジェクトを計画・実施し、その成果を発表してもらう。
提出された課題やテストは採点後にフィードバックを添えて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業説明	- 授業説明 - 社会科学とは何か？
2回	リサーチ・デザイン (1)	- 研究課題と仮説 - 批判的思考とデータの意味付け問題
3回	リサーチ・デザイン (2)	- 横断研究vs.縦断研究 - 量的vs.質的 - 事例研究vs.実験 など
4回	倫理とマナー	- 倫理・マナー - 剽窃 - バイアス
5回	調査方法（１）	- 調査法の紹介と実践 - フィールドワーク - インタビュー - アンケート
6回	調査方法（２）	- 調査法の紹介と実践 - フィールドワーク - インタビュー - アンケート
7回	調査方法（３）	- 調査法の紹介と実践 - フィールドワーク - インタビュー - アンケート
8回	調査方法（4）	- 調査法の紹介と実践 - フィールドワーク - インタビュー - アンケート
9回	データ分析の方法 研究結果の発表の仕方	- データ分析 - 参考文献の書き方 - 発表の仕方 - 学術論文に関するマナー
10回	プロジェクト準備	プロジェクト準備 - テーマ、課題、調査方法を決める
11回	プロジェクト準備	プロジェクト準備 - 調査実施
12回	プロジェクト準備	プロジェクト準備 - 結果分析・まとめ - 発表の準備
13回	期末試験, まとめ	プロジェクト口頭発表、まとめ
14回	期末試験, まとめ	プロジェクト口頭発表、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 予習・復習
- グループプロジェクト
- 調査方法の実践

【テキスト（教科書）】
教科書なし。授業でプリント配布。

【参考書】
美馬佑造『社会「科学」方法論』晃洋書房, 2023年
佐藤郁也『フィールドワーク増訂版:書を持って街へでよう』新曜社, 2006年
野村康 『社会科学の考え方』名古屋大学出版会, 2017年

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）、課題（30％）、期末試験(20%)
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
学生がデータ収集方法を実践的に学べるよう、前年度の実施内容を踏まえて授業計画を見直した。

【学生が準備すべき機器他】
授業の後半はノートパソコンやタブレットが必要になる。

【その他の重要事項】
授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
Course Outline:
This course introduces the fundamental concepts and methods used in social science research. Through the research process, students will develop skills in problem formulation, research design, data collection and analysis, and the interpretation and presentation of results. Emphasis will be placed on critical thinking and ethical issues in research. Additionally, students will learn how to apply these methods to contemporary social issues, thereby developing practical research skills.
Learning Objectives:

This course aims to develop an understanding of key research methodologies, critical thinking skills, and practical abilities in data analysis and presentation. It also emphasizes ethical research practices to ensure responsible and professional study conduct.
Learning activities outside of the classroom:
Students are expected to complete regular homework and review
the course material before class. They also will be involved in group project and fieldwork in and outside of class.
Grading Criteria:
Class participation (50%), Assignments (20%), Group project presentation (30%)

ARSl100LC（地域研究（援助・地域協力） / Area studies(Regional cooperation) 100）

国際関係論

福島　亮

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、国際関係論について、とくに「人間の安全保障」という観点から講義を行います。その際、単なる現状分析を一方的に伝えるのではなく、様々なジャンルの資料（報道、評論、研究論文、文学作品、視聴覚メディア）等をできるだけ多く使うことで、受講生の理解が多角的なものとなるよう工夫します。「人間の安全保障」という考え方について、自らの専攻分野と関連付けながら説明できるようになることがこの授業の目的です。

【到達目標】
・国際関係論の大枠を理解し、「人間の安全保障」という考え方について自分の言葉で説明することができる。
・指定された文献をグループで読み込み、分析することができる。
・指定された文献をもとにした、短いプレゼンテーションや動画、スライド、ポスター等を作成することができる。
・文献情報を批判的に他者に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン環境での授業です。学習支援システム、チャット機能、グループ機能等を用いて、双方向授業を行います。受講生はただ講義を聞くだけでなく、自らの言葉で発表や討論をする必要があります。また、授業時間外にもグループで連絡を取り合い、事前・事後学習を共同で行う必要があります。リアクションペーパー提出や課題等については、授業中に紹介し、フィードバックを行います。また、課題に対しては、ディスカッションの中で参加者による意見交換を行うほか、教員による講評もお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入：「人間の安全保障」とは何か？	国際関係論について、受講者の認識を相互に確認し、授業への導入とする。グループを決め、グループワークの準備を行う。
第2回	国際法とは何か	「脆弱な人々」を保護する枠組みとしてどのような法的枠組みがありうるのか考える。
第3回	平和とは何か	アフリカにおける平和活動の事例をもとに「平和」をめぐってどのような問題系があるのか学ぶ。
第4回	グループワーク（1）	「農業開発」にかんする文献を読み、グループで発表する。
第5回	国際協力とは何か	国際協力について、文献をもとに学ぶ。
第6回	教育とは何か	移民の子どもに対する教育の事例をもとに、教育と多様性について学ぶ。
第7回	「敵」とは何か	「敵」という考え方がいかに言葉によって構築されているか学ぶ。
第8回	グループワーク（2）	人間の安全保障に関する文献をもとにグループ発表を行う。
第9回	犠牲者ナショナリズムとは何か	犠牲者ナショナリズムについて、「歴史」という観点から学ぶ。
第10回	物語とは何か	人々の連帯意識を醸成する要素としての「物語」について学ぶ。
第11回	尊厳とは何か	自然災害における被災者の尊厳について学ぶ。
第12回	グループワーク（3）	人間の安全保障に関する文献をもとにグループ発表を行う。
第13回	記録とは何か	公害問題における「記録」と「記憶」にかんして文献をもとに学ぶ。
第14回	授業のまとめ	グローバル化時代における「人間の安全保障」について調べ、議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムの掲示板に示された議題に対して、書き込みをして応答して下さい。
授業時間外に、グループのメンバーと連絡を取り合い、事前調査や発表資料の作成を行なってください。なお、授業時間外のグループ学習はこの授業の重要な要素です。必ず受講生同士で連絡を取り合い、学習をするようにしてください。

【テキスト（教科書）】
阪本拓人／キハラハント愛『人間の安全保障』東京大学出版会、2024年、3200円＋税。

【参考書】
長有紀枝『入門　人間の安全保障』中央公論新社、2021年、990円＋税。

【成績評価の方法と基準】
平常点40％（毎回、200文字程度のコメントシートを授業後に提出してください。このコメントシートの提出が10回以上あることが成績評価の必須条件です。）
グループワークの成果60％（3回のグループワークをそれぞれ20点満点で評価します。グループワークの成果とは、共同作成したスライドや動画、ポスターなどを指します）

【学生の意見等からの気づき】
オンライン授業ですが、ディスプレイ越しの講義だけで完結しないよう心がけます。具体的には、事前学習や事後学習をできるだけグループで行なってもらうことで、受講生が自ら考え、自らの言葉で思考を表現する機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
・オンライン授業に参加するためのカメラ・マイク付きPCを各自で準備してください。
・資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】
【注意】この授業は、グループワークが非常に重要です。受講生は相互に連絡を取れるよう工夫してください。

【Outline (in English)】
This course examines international relations, with particular emphasis on the concept of “human security.” Rather than presenting a one-sided analysis of current conditions, it employs a wide range of materials— such as news reports, critical essays, academic articles, literary works, and audiovisual media— to foster a multidimensional understanding among students.
The aim of the course is to enable students to explain the concept of “human security” in relation to their own fields of specialization.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Your study time will be more than four hours for a class. Students are also required to work in groups.
The final grade will be based on the submission of the comment sheet (40%) and the results of the group work (60%).

ECN100LC（経済学 / Economics 100）

基礎経済学

呉　暁林

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生として日常生活・家計の管理，また近い将来の就職，仕事などにおいて，経済学的教養と知識は不可欠であります。経済学を勉強したい,または経済や経営のことを知りたいと思っている学生を対象とする入門の授業です。
受講者が講義と読書を通して,限られた資源の効率的配置を考えるミクロ経済学の基本的な命題、一国の経済全体の機能を考えるマクロ経済学の基本的な枠組みを学び、経済学的な物事の考え方を理解できるように進めます。

【到達目標】
受講者が経済学の基本的概念と考え方を習得し、世の中の経済問題や、日ごろの経済記事と経済ニュースを理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は講義と読書を二本柱とします。
講義では経済学の基本原理，ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な概念と考え方を解説し，それを応用して日常生活のなかの経済現象を共に考えていきます。
読書は基礎知識の理解を深めるのに不可欠です。受講者が負担にならないように世界的に読まれている標準的な教科書－『アセモグル・レインブソン・リスト入門経済学』を使用します。毎回、一つのテーマについて前半は講義で基本的な概念と考え方を解説し、後半は選択肢問題、応用問題を解いてもらい、理解を深めるように取り組んでいきます。イーラーニングサービスを利用して問題を解いて学習の理解度の向上を図ります。受講者はＰＣだけでなく、スマホやタブレットでも利用が可能で、いつでもどこでも学生はテストを受けることができます。イーラーニングシステムで課題の完成度についてチェックして次回の授業で問題点を取り上げて解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ経済学が必要なのか?ＤＶＤ　経済学のセンス－「サンクス」「機会費用」「インセンティブ」
第2回	1．経済学の原理・実践・方法	三つの重要な概念：「最適化」、「均衡」、「経験主義＝データを使った分析」
第3回	最適化：最善を尽くす	実現可能な最善の選択肢、費用便益分析
第4回	需要、供給と均衡	市場と競争、需要曲線、供給曲線、均衡価格人と企業を動かす価格の影響力について
第5回	Ⅱミクロ経済学の基礎：　消費者とインセンティブ	Ⅱミクロ経済学の基礎　消費者とインセンティブ
第6回	生産者とインセンティブ	売り手の選択、供給曲線、生産者余剰、企業から市場へ長期的均衡
第7回	完全競争と見えざる手	完全競争と効率性、見えざる手の及ぶ範囲：個人から企業へ、産業間の資源配分、公平性と効率性
第8回	貿易	生産可能性曲線、貿易の基本：比較優位、国際貿易、反貿易の根拠
第9回	Ⅲ．国の富：マクロ経済全体を定義して測定する	マクロ経済の問題、国民経済計算：生産＝支出＝所得 GDP（国内総生産）の構成要と測定、実質GDPと名目GDP
第10回	総所得	世界の経済格差、生産性と集計的生産関数、技術の役割と決定要因 平均的アメリカ人が平均的インド人よりずっと豊かな理由は何か？
第11回	雇用と失業	雇用と失業の測定 労働市場の均衡 失業はなぜ起きるのか？ ジョブ・サーチと摩擦的失業 賃金の硬直性と構造的失業
第12回	クレジット市場と金融システム	銀行と金融仲介機関：需要と供給を合わせて考える 貨幣・物価・ＧＤＰ・インフレーション
第13回	景気変動	景気変動と景気循環 マクロ経済均衡と景気変動 経済モデルの拡張 景気後退はなぜ起きるのか
第14回	振替レポート	経済学の基本的な考え方や心得について振り替えて記述する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書を通読することを薦めます。授業開始後、イーラーニングの登録を行い、練習問題を解いて学習の理解度を図ってください。

【テキスト（教科書）】
岩本康志監訳・岩本千晴訳『アセモグル・レイブゾン・リスト入門経済学』（東洋経済新報社
書籍代が少し高いですが、非常に良質な本です。キーワードは日本語と英語が併記しており、十分に購入する価値があります。

【参考書】
井堀利宏著『大学 4 年間の経済学が 10 時間でざっと学べる』KADOKAWA（2016）
伊藤元重著『入門経済学第３版』日本評論社（2009年）
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社（2014年）
飯田泰之著『経済学思考の技術－理論・経済理論・データを使って考える』ダイヤモンド社（2008年第10刷）

【成績評価の方法と基準】
通常の場合は演習課題など(80％)、期末レポート(20％）を合点して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
イーラーニングの登録を怠らないでください。授業支援システムで案内する課題の提出期限をきちんと守って、課題を完了しましょう。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】
授業中の私語、またスマートフォンによるゲーム遊びなどを禁止
【注意】

こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
This course is designed to help students understand the fundamental principles of microeconomics, which focuses on the efficient allocation of limited resources, and the basic framework of macroeconomics, which examines the functioning of an entire economy, through lectures and readings.Students will enhance their understanding by solving problems and aim to achieve the ability to explain economic issues in society, as well as daily economic articles and news.Grades are based on the quality of the lab report (80%) and the final report at the end of the term (20%).Students are required to read through the textbook before class and complete the practice exercises on e-learning after class.

ECN100LC（経済学 / Economics 100）

応用経済学

王　娜

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、データサイエンスの基礎として、統計学や計量経済学の手法を活用した経済データの分析方法を学びます。また、Excelを用いた基本的なデータ処理技術を習得することで、実践的なデータ分析スキルを向上させることを目指します。
※本年度は、対面授業とZoomを利用したリアルタイム形式を併用して実施します。詳細については、学習支援システムのお知らせをご確認ください。

【到達目標】
本授業では、以下の目標を達成することを目指します：
1. 統計学や計量経済学の基本的な考え方を理解し、データ分析の基礎的な知識を習得できる。
2. パソコン上でExcelを用いて経済データを効果的に分析できる。
3. 分析結果を適切にグラフや表として可視化し、調査レポートとしてまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・講義の前半では、当日扱う分析手法やデータについて解説を行い、基礎的な理論や操作方法を学びます。
・講義の後半では、Excelを用いた演習を実施し、実際に与えられた課題を各自で解いてもらいます。
・毎回の授業終了直前に、授業内容や演習課題に関する小テストを提出してもらいます。提出された小テストに対しては、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excelの基本操作
2	表とグラフの作成	・データベースの作成と利用 ・データの表・グラフ作成
3	データ分析の基礎(1)	・時系列データの分析 ・比率、指数、変化率
4	データ分析の基礎(2)	・横断面データの分析 ・寄与度と寄与率
5	一つの変数による記述統計(1)	・度数分布表 ・ヒストグラム
6	一つの変数による記述統計(2)	・代表値（平均値、中央値、最頻値） ・分散と標準偏差
7	二つの変数による記述統計(1)	・散布図 ・共分散 ・相関分析
8	二つの変数による記述統計(2)	・回帰分析 ・最小2乗法と決定係数
9	データからの統計的推定・仮説検定(1)	・母平均の区間推定 ・母分散の区間推定
10	データからの統計的推定・仮説検定(2)	・母平均の検定 ・等分散の検定
11	データ分析の実践(1)	・相関分析 ・回帰分析
12	データ分析の実践(2)	・t検定 ・独立性の検定
13	計量経済分析	・重回帰分析 ・ダミー変数を用いた回帰分析
14	公的統計の活用	・国民経済計算とGDP統計 ・移動平均による季節変動の調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：テキストの該当箇所を十分に読み込んでください（標準2時間）
復習：講義で扱った演習問題を繰り返し練習し、理解を深めてください（標準2時間）

【テキスト（教科書）】
山下隆之ほか（2022）『はじめよう経済学のための情報処理―Excelによるデータ処理とシミュレーション（第5版）』日本評論社。
＊テキストの購入は不要です。授業前に、授業支援システムを通じてアップロードされるPDFファイルを各自ダウンロードしておいてください。

【参考書】
経済データ分析の参考書として以下をオススメします。
・情報処理演習教材作成委員会（2021）『はじめて学ぶ経済系のデータ分析（第3版）』学術図書出版社。
・隅田和人ほか（2020）『ExcelとRではじめるやさしい経済データ分析入門』オーム社。
・橋本紀子（2013）『Excelで読み取る経済データ分析』新世社。
計量経済学の参考書として以下をオススメします。
・小巻泰之・山澤成康（2018）『計量経済学15講』新世社。
・山本拓・竹内明香（2013）『入門計量経済学―Excelによる実証分析へのガイド』新世社。

【成績評価の方法と基準】
①平常点および小テスト・課題（40%）
②期末レポート（60%）
＊欠席回数が5回に達した場合、またはレポートを未提出の場合、成績評価の対象外となります（単位不認定）。
＊レポート等を提出する際には、教科書、参考書、インターネット上の情報などを出典を明記せずに丸写しやコピー＆ペーストした場合、該当受講生の点数は0点とします。

【学生の意見等からの気づき】
課題の評価方法については、より工夫を凝らし、学生の学習成果を適切に反映できるよう改善を進めてまいります。また、質疑応答や小テストを効果的に活用し、学生の理解度を的確に把握しながら、柔軟な授業運営を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
授業内でExcelを使ったデータ分析の演習を行うため、各自でPC環境（Windows推奨）およびインターネット接続環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】
経済学の基礎知識の有無は問いませんが、最低限、Excelの基本操作（データの入力、コピー＆ペースト、保存など）ができることが望ましいです。また、受講生の理解度や要望に応じて、講義内容を変更する場合があります。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
Outline: This course provides a guideline for studying basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered through practical exercises using a PC and statistical software (MS Excel).
Goal: Students will acquire the basic knowledge of statistics and econometrics and develop practical data-analysis skills using MS Excel.
Work to be done outside of class ： Students are expected to spend approximately four hours per week on preparation and review.
Grading: Class performance including quizzes and assignments (40%), and final report (60%).

MAN100LC（経営学 / Management 100）

企業マネージメント

坂　裕和

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会は多くの企業の様々な活動によって支えられている。
この授業の目的は，現代社会における企業の役割を認識するとともに，企業活動におけるマネージメントの重要性について理解を深めることにある。
なお，企業におけるマネージメントの研究は経営学の分野であるが，経営学だけでなく経済学や法学（主に会社法や労働法）などの分野からもアプローチすることにより，社会人になっても役立つような幅広い知識の習得を目指したい。

【到達目標】
企業とは何か，企業活動とは何か，企業を動かすということはどういうことかなど，企業について様々な方面から考察し，そこで行われるマネージメント活動を理解することを到達目標とする。具体的には，企業におけるマネージメントの重要性，経営の意思決定，経営管理，組織・人材・資金，人々の働き方やモティベーションなどについて理解することができる。
なお，教員は，上場企業の組織内弁護士であり，ガバナンスや内部統制を担当する執行役員である。そのため，企業経営における意思決定プロセスはもちろんのこと，特に最近議論が高まっているコーポレートガバナンス，コンプライアンス，リスク管理，サステナビリティなど今日企業が取組むべき経営課題について，企業経営の最前線の視点からの理解を深めることができるほか，法令諸規則との関係や実務的な観点も学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的には対面の講義形式の授業とし、授業計画に従って進めていく。授業時には各回のテーマに従って教員作成の資料を配布する。具体的なテーマは，企業マネージメントと経営学・企業の定義，企業経営と経済，株式会社の仕組み（会社法，労働法），マネージメント・リーダーシップ，経営組織論，人的資源管理論，ワークモティベーション・キャリアデザイン，経営戦略論，企業会計・財務戦略，企業が取り組むべき課題などである。
また，理解度を確認するため，前回授業内容の復習テストを実施するほか，小テスト等を実施する。復習テスト及び小テストについては解答及び解説を配布するとともに、回答の分析を行い、誤りが多かった設問については授業内でポイントを解説する。
なお，授業に関する情報は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに／企業マネージメントと経営学・企業の定義	本授業を概観するとともに，本授業のテーマである企業におけるマネージメントについて解説する。
第2回	企業経営と経済	企業とはどのような存在なのかを理解するとともに，企業経営と経済の関係について解説する。
第3回	株式会社の仕組み～株式会社の概要～	企業の代表的形態である株式会社について、主に法律面から解説するとともに，上場・非上場，大企業・中小企業の違いについて理解する。
第4回	株式会社の仕組み～株式会社を構成するモノ～	株式会社における機関，取締役等の役員が果たすべき義務とその責任，役員と従業員の違いについて理解する。
第5回	企業経営とマネージメント・リーダーシップ	企業活動におけるマネージメントの重要性・リーダーシップの重要性を解説する。
第6回	経営組織のマネージメント	経営学の重要なテーマである経営組織論及び企業の具体的な経営組織を紹介する。
第7回	人材戦略のマネージメント	人的資源管理論について解説し，日本企業における人的資源管理について、実際の人事制度や企業と人との関係について紹介する。
第8回	ワークモティベーションとキャリアデザイン	マネージメントの重要な課題であるワークモティベーションと自らキャリアをデザインすることの重要性を認識する。
第9回	企業戦略のマネージメント～成長戦略～	企業戦略について概観するとともに，成長戦略の理論を紹介する。
第10回	企業戦略のマネージメント～M&A戦略～	企業戦略の中でも，特に近年，活発に行われているM&A戦略について解説する。
第11回	企業会計と財務戦略	企業会計や財務諸表の基本的事項及び企業の資金調達について解説する。
第12回	企業業績と株式市場	企業活動の成果（経営者の定量的成績評価）である企業業績について解説するとともに、株式市場について概観する。
第13回	企業が取り組むべき課題	現代企業の課題（コーポレートガバナンス，内部統制，企業の社会的責任（CSR），サステナビリティ等）について概観する。
第14回	これからの企業経営	これからの企業経営について解説し，試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は4時間を標準とする】
◆原則として授業日の2日前に授業で使用する資料を配布する。資料を熟読の上，授業に参加してほしい。特に，専門用語等については事前に調べておくことが望まれる。
◆また，理解度を確認するために，小テストを実施することとする。
◆なお，授業では企業に関する今日的なテーマも取り上げるので，企業活動に関する新聞，テレビの報道やインターネットの情報などを通じて，企業についての理解を深めることにも取組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業の進捗に合わせて教員作成の資料を適宜配布する。

【参考書】
◆授業全体の基本書として，中山健・丹野勲・宮下清「新時代の経営マネージメント」（創成社、2018）を薦める。他に，吉沢正広編著「実学 企業とマネジメント」（学文社，2018）あるいは十川廣國「経営学入門（第2版）」（中央経済社，2013）なども良い。

◆なお，入門書としては，遠藤功「企業経営の教科書」（日経文庫，2021）が役に立つ。
◆また，授業のテーマに応じた参考書を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は期末試験の結果をベースに，平常点，小テスト等の状況も踏まえて最終評価とする。
配分は，期末試験＝60％，平常点＝20％，小テスト等＝20％とする。

【学生の意見等からの気づき】
履修者が多いため教員からの一方的な講義になりがちであるが，そうならないよう，授業中に簡単なアンケートや小テストを行ったり，授業テーマに関連したレポートを課すこと等によって，学生が考える時間をとることで授業への積極的な参加を促していきたい。
また，学生にとって身近な企業や最新のニュースを取り上げることで、興味、関心を高めていきたい。

【その他の重要事項】
授業は，大学側から特段の指示がない限り，対面の授業とする。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
Modern society is supported by various activities of many companies. The purpose of this lecture is to deepen the understanding of the role of companies in modern society and the importance of management in corporate activities.
Research on management in companies is in the field of business administration, but by approaching not only business administration but also economics and company law, you can acquire a wide range of knowledge that will be useful even if you become a member of society.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
The grading criteria is as follows.
Final exams（60%）, class participation（20%）, reports and quizzes（20%）.

POL100LC（政治学 / Politics 100）

現代政治学

川口　悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
米国が核兵器を開発し、広島・長崎に原爆を投下してから80年以上が経ちました。この間、実戦でふたたび使用されることこそなかったものの、核兵器は人類に対する脅威であり続け、国際情勢が緊迫すると核による威嚇が繰り返される状況は現在でも変わりません。この間、日本社会では広島・長崎の原爆被害や核兵器についてどのような認識があったのでしょうか。何が知られ、何が知られてこなかったのでしょうか。「悲惨なできごと」「日本人として記憶すべき歴史」と考えられるようになったのはなぜでしょうか。「原爆被害を継承する」とはどのような意味を持つのでしょうか。この授業では、こうした問いを歴史的背景に基づいて考えます。

【到達目標】
・広島・長崎の原爆被害や核兵器について、日本社会ではどのような考えが見られたきたのか、その歴史を知る。
・歴史的背景を踏まえて、史料を正確に読む方法を学ぶ。
・現在の社会について批判的に考える習慣をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義が中心ですが、資料を読んだり、映像資料を見たりする時間も取ります。毎回授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらい、次の授業でいくつか取り上げてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	一学期を通じての流れや評価について説明する
第2回	空爆の歴史	原爆投下を、空からの爆撃の歴史に位置づけて考える
第3回	第二次世界大戦と原爆	第二次世界大戦下での、原爆の開発・投下の歴史的背景を考える
第4回	冷戦と核軍拡	第二次世界大戦後の冷戦下で核軍拡が進んだ経緯について考える
第5回	被爆者運動の歴史	被爆者運動が日本や世界の核意識に与えた影響について考える
第6回	証言を受け取ること	被爆体験を証言すること、証言を聞く・読むことはどのような行いか、考える
第7回	広島＝「平和都市」？	「平和都市ヒロシマ」というイメージが形成された過程を探る
第8回	グローバル・ヒバクシャ	核兵器の製造・実験による被害のグローバルな広がりについて考える
第9回	移民の歴史と原爆	原爆被害をめぐる歴史と、移民の歴史との関わりについて考える
第10回	原爆と原発	核エネルギーの軍事的・非軍事的利用の関わりについて考える
第11回	ポピュラーカルチャーのなかの原爆	原爆被害や核エネルギーをめぐるさまざまなイメージについて考える
第12回	記憶と継承	原爆被害を記憶し、継承するとはどのようなことか、考える
第13回	まとめ	今学期の授業のまとめをおこなう
第14回	まとめと期末試験	期末試験を実施し、授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
予習課題として新聞記事や書籍の一部などの資料を配布します。授業は受講生が資料を読んでいることを前提に進めます。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配布します。

【参考書】
荒井信一『空爆の歴史：終わらない大量虐殺』（岩波新書、2008年）
宇吹暁『ヒロシマ戦後史　被爆体験はどう受けとめられてきたか』（岩波書店、2014年）
太田昌克『日米＜核＞同盟――原爆、核の傘、フクシマ』（岩波新書、2014年）
ロバート・A・ジェイコブス『グローバル・ヒバクシャ』（名古屋大学出版会、2025年）
直野章子『原爆体験と戦後日本――記憶の形成と継承』（岩波書店、2015年）
濱谷正晴『原爆体験　六七四四人・死と生の証言』（岩波書店、2005年）
山本昭宏『核と日本人――ヒロシマ・ゴジラ・フクシマ』（中公新書、2015年）
アンドリュー・J・ロッター『原爆の世界史：開発前夜から核兵器の拡散まで』（ミネルヴァ書房、2022年）
ほか、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　80％
毎回のリアクション・ペーパー　20％

【学生の意見等からの気づき】
聞き取りやすい話し方ができるよう留意します。

【その他の重要事項】
テーマの性質上、死や心身の痛みに関する議論や表現を扱うことがあります。必要な最小限にとどめるつもりですが、あらかじめ了解してください。また、履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
More than eighty years have passed since the United States developed the first nuclear weapons and dropped them on Hiroshima and Nagasaki. Since then, even though nuclear weapons have not been used again in a war, they have continued to pose a threat to humanity, and nuclear intimidation has repeatedly been employed when international tensions rise.
How has Japanese society understood the atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki and nuclear weapons? What has been known, and what has been missed in our understanding? Why have Hiroshima and Nagasaki come to be regarded as “tragic occurrences” and as “history that should be remembered by the Japanese people”? What does it mean to “pass on the memory of atomic bombing”? In this course, we will examine these questions based on their historical background.
【Learning Objectives】

- Students will acquire an understanding of the diverse perspectives on the atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki and on nuclear weapons in Japanese society.
- Students will develop the ability to read and analyze historical sources accurately by situating them within their historical background.
- Students will develop the ability to think critically about contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to read the assigned material before the lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be calculated based on the final exam (80%) and minute papers assigned every week (20%).

CAR100LC（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン

斎藤　真一郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザインとは,「まず自分自身を理解し，自分の生き方・働き方について、職業のみならず、人生の様々な場面、機会にとらえ直し、今後の方向性を検討したり、自らをデザインしていくこと」である。キャリアデザインを実感、体感をするため、ディスカッションを多く取り入れている。これまでの授業アンケートでは、次のようなコメントが寄せられている。①違う学科の方と話すことができるよい機会があり、社会に対して、同世代がどのような考えを持っているかを知ることできる。他の授業ではあまり意見の交換ができないがこの授業では意見交換ができる点が嬉しい。将来について、今後の生き方について考えさせられるとともに、人生について大きなヒントをがもらえる。今後の人生に大事な点かつ今まで教わったことがないことを学べる。自分自身を客観的に見つめ直す良いきっかけになる。将来のことについて、今何をすべきかを考えるようになれる。今後の人生への行動意欲が上がる。②自分に求められている意見や率直に感じたことを相手に伝わるように発言するしたり、自分の考えを整理して口に出す練習ができる。③現在、何をしていいか分からない人、将来のことを考えたことがない人、今の自分に自信がない人に勧められる。④他人の価値観や考え方を聞き、取り入れることで自分の考えが深まり、物事のとらえ方や視野が広がる。以上のようなことを期待する学生の履修を望む。特に１，２年生の履修を期待する。

【到達目標】
キャリアデザインを考える上で、次の３つの視点、１)「自分を知る」、２)「発達課題を考える」、３)「キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る」を通じて、学生自身の考えを構築し、自ら実践できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【対面授業８回＆オンライン授業６回（Zoom使用）で実施】：第１回、第４回、第６回、第８回、第10回、第11回、第13回、第14回は対面授業、資料は当日配布。オンライン授業の場合は、講師が次回の資料を事前にアップロードし、その資料を受講者が毎回の授業前にダウンロードして準備することが必要である。オンライン授業でのグループ・ディスカッションはZoomのブレイクアウトルーム機能を使用する。講義はあるが、グループ・ディスカッションが主体の授業になる。グループ・ディスカッション後の「気づき」を大切にする。受講者は働く人への「キャリアインタビュー」（第４回に実施要領を説明）を行い、第10回、第11回がその発表となる。受講者数により発表時間は相違し、第12回もキャリアインタビューの発表になる場合がある。※毎回の授業後の振り返りとして、「今日の気づきシート」の作成（100字以上250字以内）がある。「学習支援システム（WebClass）」のレポート課題に「今日の気づきシート」のワード形式のファイルを講師がアップロードする。このファイルを受講者がダウンロード後に記入し、アップロードする。提出された「今日の気づきシート」には各個人へフィードバック・コメントを返信として送付する。授業参加に加え、「今日の気づきシート」の提出をもって出席とする。気づきの多様性や質問等で授業で紹介したほうがよいものは適宜、授業内で紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・キャリアデザインとは ・自分を知る　その１	・キャリアデザインとは何かを解説する ・「３つの問い」を考える
第2回	・自分を知る　その２	・仕事の価値観とライフスタイルの明確化
第3回	・自分を知る　その３	・ストレングス・ファインダーのデータから自分を知る
第4回	・自分を知る　その４ ・キャリアインタビュー（課題）準備	・キャリアシュミレーション・プログラム（ゲーム）から自分を知る ・第10回、第11回の「キャリアインタビュー」に関する説明
第5回	・キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える　その１	・社会的自立のための課題を考える
第6回	・キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える　その２	・情緒的自立のための課題を考える
第7回	・キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える　その３	・経済的自立のための課題を考える
第8回	・キャリアデザインの準備として、発達課題（両性の在り方）を考える　その１	・男女の考えの違いを考える
第9回	・キャリアデザインの準備として、発達課題（両性の在り方）を考える　その２	・仕事を持つ男女の生き方、働き方を考える
第10回	・キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る　その１	・キャリアインタビューの発表（プレゼン） ・インタビューから見えてくるキャリアの節目、転機に対する処し方
第11回	・キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る　その２	・キャリアインタビューの発表（プレゼン） ・インタビューから見えてくるキャリアの節目、転機に対する処し方
第12回	・キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る　その３	・シュロスバーグの転機に対するアプローチ／ブリッジズのトランジション論／ハンセンの統合的生涯設計
第13回	・キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る　その４	・クルンボルツの「計画された偶発性理論」
第14回	・評価を行う。	・これまでの授業のまとめ ・授業を通して自らが考えたものを表現したり、学んだものを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、４時間以上を標準とする。毎回の講義で気づく自分自身の考え方を自分なりに整理することが必要である。キャリアインタビューが課題となる。キャリアインタビューは自分の身近な働く人（社会人経験10年以上の方を目安にすること。これまで家族をインタビューする人が多い。オンラインでのインタビューも可）をインタビューする。第４回の授業でその詳細を説明する。このインタビューを通じて得られるものが多かったというコメントが多くの受講者から寄せられている。

【テキスト（教科書）】
「さあ、才能（自分）に目覚めよう 最新版　ストレングス・ファインダー2.0」（ジム・クリフトン、ギャラップ著、古屋博子訳／日本経済新聞社／2017年４月刊行の最新版の書籍を購入のこと。生協で購入可）
　・上記書籍を購入すると、インターネットでアクセスできるホームページから、「自分の強みを探索」することができる。尚、古本ではこのアクセスコードが既に使用されているため、新しい書籍の購入が必要。第３回講義でそのデータを使用した授業を行うため、第３回講義前に購入し、データを把握しておくことが必要（第１回、第２回講義で詳細を説明）。

【参考書】
「新版キャリアの心理学　第２版」（渡辺三枝子著／ナカニシヤ出版）
　・キャリアを考えるための様々なアプローチが紹介されており、これらを知ることで、人生を歩んでいく上での参考となる。

【成績評価の方法と基準】
平常点（「今日の気づきシート」の提出により平常点をカウントする）：30％
課題評価（キャリアインタビュー）：35％
期末試験成績：35％

【学生の意見等からの気づき】
・グループ・ディスカッションをスムーズにさせるため、初めに自分の意見をまとめる時間を取り、その後のにグループ・ディスカッションをしてもらうことにする。
・「この授業を他の人に勧めるとしたら、どんな点か？」という質問に対して多かったコメントは以下の通りである。①自分について知ることができる。②視野が広がる。③グループ・ディスカッションを通じて、他人の色々な意見を知ることができる。

【その他の重要事項】
※貸与パソコン等、大学の情報システムにアクセスでき、Zoomに参加できる情報機器が必要です。個人で登録したZoomではなく、法政大学が提供しているZoomから参加することが必要です。
※毎回のグループ・ディスカッションに参加し、様々な意見があることを実感し、自分の意見を考えることが重要である。これらのことがしっかりできた受講者にとっては期末試験は簡単なものになる。逆に言えば、参加回数が少ない受講者にとって、期末試験は難しいものになる。

【Outline (in English)】
-Outline and objectives-
Career design means, First of all, understand yourself, reconsider your way of life and work not only in your profession but also in various situations and opportunities in your life, consider future directions, and design yourself. Lessons incorporate a lot of discussions in order to experience and feel the career design. In the class questionnaire so far, the following comments have been received. 1. There is a good opportunity to talk with people from different departments, and to know what the same generation thinks about society. I can't exchange opinions very much in other lessons, but I'm happy that I can exchange opinions in this lessons. It makes you think about the future and how to live in the future, and gives you great hints about your life. It's a good opportunity to look at yourself objectively. You can start thinking about what to do now about the future. 2. You can practice to convey your opinions and frank feelings to the other person, and to organize your thoughts and put them out. 3. Recommended for those who do not know what to do now, who have never thought about the future, or who are not confident in themselves. 4. By listening to and incorporating the values and ideas of others, you can deepen your thoughts and broaden your perspective. The instructor hopes that students who expect the above will take this course. In particular, The instructor expects students to take this course in the 1st and 2nd grades.
-Goal-
In thinking about career design, the goal is to be able to build and practice the students' own ideas from the following three perspectives. 1) Know yourself, 2)Think about developmental tasks, 3) Know the approach to deal with career design milestones.
-Method(s)-
[Face to face:8 times, Online(Zoom):6 times]:Materials for face to face lessons, such as 1st, 4th, 6th, 8th, 10th, 11th, 13th, 14th will be deliverd in each lesson. Materials for on line lessons, such as 2nd, 3rd, 5th, 7th, 9th, 12th, will be uploaded to "Lesson Support System" by the instructor in advance.It is necessary for the students to download to own PC and prepare the materials before each lesson. Group discussions in online lessons will be organized by Zoom's "Breakout room feature". The students should conduct a "Career Interview" with workers (explaining the implementation procedure in the 4th session), and The students should make a presentation in the 10th and 11th lessons. The presentation time varies depending on the number of the students. If the presentation time will not enough time both the 10th and 11th lessons, the 12th lesson will be added. As a review after each lesson, the students are requierd to submit "Today's Awareness Sheet" (with 100 to 250 characters). The instructor uploads a Word-format file of "Today's Awareness Sheet" to the assignment folder of the "Learning Support System", and the students should fill in this file and uploads it to the assignment folder. Feedback and comments on the submitted "Today's Awareness Sheet" will be sent to each student. If there are diversity of awareness and questions that should be introduced in class, the instructor will introduce them in class as appropriate. Normal score will be awarded for attendance by not only attending class but also submitting the "Today's Awareness Sheet."
-Work to be done outside of class (preparation, etc.) -
Over four hours are the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this class. It is necessary to organize your own way of thinking in each lesson. Career interviews are an issue. Career interviews are conducted with people who are close to you (with at least 10 years of working experience. Online interviews are also possible). The details will be explained in the 4th lesson. Almost students commented that much was gained through this interview.
-Textbooks-

"Sa, Sainouni Mezameyou Saishinban (English title: Strengths Finder2.0)" (written by Jim Clifton, Gallup, Inc., translated by Hiroko Furuya / Nihon Keizai Shimbun Inc./Purchase a new edition of the book published in April 2017).Please contact "SEIKYOU" in Koganei Campus.
If you purchase the above books, you can access them on the Internet and "search for your strengths". This access code is already used for used books, so you need to purchase a new book. In order to use the data in the 3rd lesson, it is necessary to purchase this book before the 3rd lesson and grasp the data (details will be explained in the 1st and 2nd lesson).
-Grading criteria-
Normal score (based on class participation and the submission of "Today's Awareness Sheet"): 30%
Assignment evaluation (Career Interview): 35%
Final exam results: 35%

LAW100LC（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

押久保　倫夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　法学、その中でも法の中心的位置を占める憲法（日本国憲法）を主に学んでいく。憲法の目的や理念等を正確に把握し、憲法を中心とした法の基本的枠組みを理解する。さらに受講者各人が、憲法・法の理念やその具体的問題に対する、自分自身の考えを形成していくことを目的とする。

【到達目標】
　日本国憲法を中心に、法についての基本的な理解を得ることとともに、社会に起きている問題を、法的に考え、解決する視点を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本講義の特徴は、二つある。
　一つは法、とりわけ日本国憲法について、具体的事例・判例を先に話し、抽象的理論は可能な限り、後で説明することである。まず具体的事例によって、憲法に対する興味を喚起し、抽象的理論はそれと連関させる形で説明するようにする。そうすることによって、抽象的憲法理論も実感を持って理解することができる。
　もう一つの特徴は、とりわけ日本国憲法に対して、自分自身の考えを形成していってもらうことである。憲法に関する問題については、様々な議論があり、対立する評価がある。教科書、そして担当教員からは一定の見解が示されるが、それを鵜呑みにしてはいけない。それらを参考にした上で、「自分はどう考えるか」常に問うてほしい。そして人権・統治の理論を学ぶ際も、そこでは諸々の学説が対立しており、どれが妥当か、自分自身の意見を持つようにして頂きたい。
　その為に授業においては、憲法の諸問題や判例等について、受講生と質議応答を展開することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①ガイダンス ②悲惨な事件が最高裁をも動かす ―憲法・刑法に跨る具体的事件、法学の一般的基礎―	①授業の内容・方法を、シラバスを使いながら、受講生に説明する。 ②「尊属殺重罰規定違憲判決」という具体的判例について、法学の知識のない受講生でもわかる様に、裁判制度や憲法・刑法の初歩的説明、事件の具体的事実も含めて、時間をかけて丁寧に説明していく。 これによって受講生に、憲法の人権条項や刑法の規定が社会に対して現実に作用する場面を具体的に教示し、それらの存在意義を認識させる。 そして具体的事件を解説する中で、法に関する一般的基礎（制定法の種類、法の段階構造、法の適用・解釈など）を理解してもらう。
2	「自然権」なんて本当にあるの？「契約」した覚えもないんだけど ―天賦人権、社会契約、抵抗権―	憲法の基底にある近代立憲主義の、自然権（天賦人権）、社会契約、抵抗権の理念について解説する。 そしてそれらの理念の関係を基にして、日本国憲法のいわゆる三大原則（①基本的人権の尊重②国民主権③平和主義）相互の関係を理解させる。
3	自由はつらいよ ―個人の自律と「自由からの逃走」、博愛への想像力―	憲法13条前段の「個人の尊重」・「個人主義」について、人権の中核となる思想であることを明らかにし、これを「全体主義」との対比で図式的に理解させる。 そしてこれは、各人が自分の人生を自律的に決定していくことであり、その困難性をも明らかにし、それにも拘わらずそこから逃げるべきでないことを説く。 さらに、「個人主義」は、世界中の人々について、各人の違い・個性を認め合い、平等に尊重することであり、利己主義とは対極にある「博愛」の思想につながるものであることを理解させる。
4	人権だって制限される？ ―人権の分類、公共の福祉―	人権のカタログを、理論的及び歴史的観点から分類し、それぞれのグループの特質を明らかにする。 そして人権も「公共の福祉」によって制限されることを示し、その合憲性を判断する際の審査基準の理論（比較衡量、二重の基準）について説明する。

5	会社も人権主体？ ―「法人の人権」―	法人の人権享有主体性について、対立する学説を提示した上で、これについての最高裁判例の基本的立場及び変遷を説明する。 そして「法人の人権」がなぜ問題になるのかを考察し、人権と「憲法上の権利」の区別なども示した上で、この問題を如何に考えて行くべきかを探求していく。
6	彼らだって人間 ―外国人の人権―	外国人の人権享有主体性について、通説・判例共にこれを認めることで一致していることを示し、その根底的理由は、人権の普遍性であることを理解させる。 そして外国人への保障が問題となる、参政権、社会権等について検討し、また保障される人権でもその程度が論じられるものについて、判例を批判的に考察しながら検討する。
7	政（まつりごと）は祭りごと？ ―信教の自由、政教分離―	日本国憲法の信教の自由の規定について、明治憲法との比較で理解させ、その内容を説明し、「剣道受講拒否事件」等の判例について検討する。 そして政教分離の意義と形態を説明し、いくつかの最高裁判決について、各々の事件の妥当な解決のみならず、あるべき審査基準も含めて、受講生に考察させる。
8	人権のチャンピオン？ ―表現の自由―	表現の自由について、優越的地位にあるとされる論拠を詳しく解説する。 その古典的問題として、事前抑制・検閲について、これが当該自由に対する最も強い規制となる理由を示していく。 そしてマスコミと表現の自由、インターネットと表現の自由という現代的問題について、その特徴から生じる新たな問題を提示する。そしてそれに如何に対処するか、受講生に考えさせる。
9	①生活できなければ始まらない ―経済的自由、社会権― ②条文にないのに補償される権利がある？ ―新しい人権、プライヴァシー権―	①経済的自由について、その時代的変遷を示し、現代では経済的自由の制限と社会権の保障が表裏一体のものであることを理解してもらう。その上で、職業選択の自由・財産権の制限についての判決を取り上げ、考察する。 そして生存権について、その法的性質をめぐる学説を示し、「朝日訴訟」等について、訴訟に伴う生活保護費の推移等も含めて解説する。 ②いわゆる新しい人権について、その保障の根拠と構造について、図を使いながら、わかり易く説明する。 そしてその代表であるプライヴァシー権について、私生活への介入の排除から、情報プライバシー権への変遷を中心に、各種の判例を追っていく。
10	平等が不平等を生む？ ―形式的平等と実質的平等―	平等について原理的解説を行い、実質的平等を図る手段としての積極的差別是正措置にも触れる。 その上で、「婚外子相続差別」についての最高裁判決の転換、「国籍法違憲判決」「女性再婚期間判決」「夫婦別姓訴訟」などの最高裁の複数の判決を、少数意見も含めて解説し、この問題を受講生に考えてもらう。
11	政治は国民の声で動いている？ ―国民主権、議会制民主主義―	国民主権の建前と実態の乖離を、選挙制度と関連させながら明らかにし、これにどう向き合っていくべきかを考察する。 そして国会について、「最高機関」「唯一の立法機関」とされる意義、二院制、議員の地位、具体的活動、各議院の権能（特に国政調査権）などについて解説し、その問題点を明らかにし、解決策を探求していく。
12	国会の「信任」て何？ ―議院内閣制―	行政権の概念、独立行政委員会の意義、内閣の組織と閣議、内閣・内閣総理大臣の権能等について、明確に説明する。 その上で、「議院内閣制」の本質について、「信任」の概念を中心に、大統領制や議会統治制との対比で明らかにし、解散等の内閣と議会の関係についての諸問題について、これをどうするべきかを考察する。
13	国民の代表が決めたことを、15人の裁判官が無効にしていいの？ ―司法制度、違憲審査制―	裁判所について、司法権の概念、範囲を説明し、その限界、とりわけ「統治行為」について、問題点を探求する。さらに裁判所の組織と権能等を解説する。 その上で、違憲審査制について、その根拠・性格、憲法判断の主体と対象、違憲判断の方法と効力等について説明し、理解を深める。
14	9条は現実的でない？ ―安全保障と平和的生存権―	憲法第9条の意義と解釈、これと自衛隊・日米安全保障条約との関係を、関連する判例を含めて解説する。 その上で、日本の安全保障の現実的なあり方をさぐり、そこにおける憲法第9条の存在意義を、憲法改正論も含めて検討する。 さらに、自由権、社会権に続く人権とも言われる、平和的生存権について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

①授業後に、講述内容を思い出しながら、教科書・授業レジメやノートなどによる復習を行う。

予習においては、次回の講義内容を教科書等で確かめながら、それらに対する自分の考えを確かめておいて頂きたい。

予習中心の学習を勧める。

②「覚えるべき基本知識」は求められるが、予習・復習においても、憲法・法というものを批判的にながめ、自分自身で考察するという態度を身に着けてほしい。

【テキスト（教科書）】

憲法[第8版]／芦部信喜（高橋和之補訂）／岩波書店／3,740円

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　定期試験で評価する（100％）。
　それらにおいては、授業で理解した知識のみならず、自分の考えが問われることになる。

【学生の意見等からの気づき】
　本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【その他の重要事項】
　授業中の私語は、一切認めない。他の受講生に対する迷惑となるからである。

【Outline (in English)】
In this course, we will learn law, especially the Constitution.
So we will get the correct and basic understanding of the Constitution and other laws.
Moreover,the students develop their own consideration about idea of the Constitution and other laws, and their concrete problems.
Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the following Term-end examination (100%).

LAW100LC（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

押久保　倫夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　法学、その中でも法の中心的位置を占める憲法（日本国憲法）を主に学んでいく。憲法の目的や理念等を正確に把握し、憲法を中心とした法の基本的枠組みを理解する。さらに受講者各人が、憲法・法の理念やその具体的問題に対する、自分自身の考えを形成していくことを目的とする。

【到達目標】
　日本国憲法を中心に、法についての基本的な理解を得ることとともに、社会に起きている問題を、法的に考え、解決する視点を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本講義の特徴は、二つある。
　一つは法、とりわけ日本国憲法について、具体的事例・判例を先に話し、抽象的理論は可能な限り、後で説明することである。まず具体的事例によって、憲法に対する興味を喚起し、抽象的理論はそれと連関させる形で説明するようにする。そうすることによって、抽象的憲法理論も実感を持って理解することができる。
　もう一つの特徴は、とりわけ日本国憲法に対して、自分自身の考えを形成していってもらうことである。憲法に関する問題については、様々な議論があり、対立する評価がある。教科書、そして担当教員からは一定の見解が示されるが、それを鵜呑みにしてはいけない。それらを参考にした上で、「自分はどう考えるか」常に問うてほしい。そして人権・統治の理論を学ぶ際も、そこでは諸々の学説が対立しており、どれが妥当か、自分自身の意見を持つようにして頂きたい。
　その為に授業においては、憲法の諸問題や判例等について、受講生と質議応答を展開することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①ガイダンス ②悲惨な事件が最高裁をも動かす ―憲法・刑法に跨る具体的事件、法学の一般的基礎―	①授業の内容・方法を、シラバスを使いながら、受講生に説明する。 ②「尊属殺重罰規定違憲判決」という具体的判例について、法学の知識のない受講生でもわかる様に、裁判制度や憲法・刑法の初歩的説明、事件の具体的事実も含めて、時間をかけて丁寧に説明していく。 これによって受講生に、憲法の人権条項や刑法の規定が社会に対して現実に作用する場面を具体的に教示し、それらの存在意義を認識させる。 そして具体的事件を解説する中で、法に関する一般的基礎（制定法の種類、法の段階構造、法の適用・解釈など）を理解してもらう。
2	「自然権」なんて本当にあるの？「契約」した覚えもないんだけど ―天賦人権、社会契約、抵抗権―	憲法の基底にある近代立憲主義の、自然権（天賦人権）、社会契約、抵抗権の理念について解説する。 そしてそれらの理念の関係を基にして、日本国憲法のいわゆる三大原則（①基本的人権の尊重②国民主権③平和主義）相互の関係を理解させる。
3	自由はつらいよ ―個人の自律と「自由からの逃走」、博愛への想像力―	憲法13条前段の「個人の尊重」・「個人主義」について、人権の中核となる思想であることを明らかにし、これを「全体主義」との対比で図式的に理解させる。 そしてこれは、各人が自分の人生を自律的に決定していくことであり、その困難性をも明らかにし、それにも拘わらずそこから逃げるべきでないことを説く。 さらに、「個人主義」は、世界中の人々について、各人の違い・個性を認め合い、平等に尊重することであり、利己主義とは対極にある「博愛」の思想につながるものであることを理解させる。
4	人権だって制限される？ ―人権の分類、公共の福祉―	人権のカタログを、理論的及び歴史的観点から分類し、それぞれのグループの特質を明らかにする。 そして人権も「公共の福祉」によって制限されることを示し、その合憲性を判断する際の審査基準の理論（比較衡量、二重の基準）について説明する。

5	会社も人権主体？ ―「法人の人権」―	法人の人権享有主体性について、対立する学説を提示した上で、これについての最高裁判例の基本的立場及び変遷を説明する。 そして「法人の人権」がなぜ問題になるのかを考察し、人権と「憲法上の権利」の区別なども示した上で、この問題を如何に考えて行くべきかを探求していく。
6	彼らだって人間 ―外国人の人権―	外国人の人権享有主体性について、通説・判例共にこれを認めることで一致していることを示し、その根底的理由は、人権の普遍性であることを理解させる。 そして外国人への保障が問題となる、参政権、社会権等について検討し、また保障される人権でもその程度が論じられるものについて、判例を批判的に考察しながら検討する。
7	政（まつりごと）は祭りごと？ ―信教の自由、政教分離―	日本国憲法の信教の自由の規定について、明治憲法との比較で理解させ、その内容を説明し、「剣道受講拒否事件」等の判例について検討する。 そして政教分離の意義と形態を説明し、いくつかの最高裁判決について、各々の事件の妥当な解決のみならず、あるべき審査基準も含めて、受講生に考察させる。
8	人権のチャンピオン？ ―表現の自由―	表現の自由について、優越的地位にあるとされる論拠を詳しく解説する。 その古典的問題として、事前抑制・検閲について、これが当該自由に対する最も強い規制となる理由を示していく。 そしてマスコミと表現の自由、インターネットと表現の自由という現代的問題について、その特徴から生じる新たな問題を提示する。そしてそれに如何に対処するか、受講生に考えさせる。
9	①生活できなければ始まらない ―経済的自由、社会権― ②条文にないのに補償される権利がある？ ―新しい人権、プライヴァシー権―	①経済的自由について、その時代的変遷を示し、現代では経済的自由の制限と社会権の保障が表裏一体のものであることを理解してもらう。その上で、職業選択の自由・財産権の制限についての判決を取り上げ、考察する。 そして生存権について、その法的性質をめぐる学説を示し、「朝日訴訟」等について、訴訟に伴う生活保護費の推移等も含めて解説する。 ②いわゆる新しい人権について、その保障の根拠と構造について、図を使いながら、わかり易く説明する。 そしてその代表であるプライヴァシー権について、私生活への介入の排除から、情報プライバシー権への変遷を中心に、各種の判例を追っていく。
10	平等が不平等を生む？ ―形式的平等と実質的平等―	平等について原理的解説を行い、実質的平等を図る手段としての積極的差別是正措置にも触れる。 その上で、「婚外子相続差別」についての最高裁判決の転換、「国籍法違憲判決」「女性再婚期間判決」「夫婦別姓訴訟」などの最高裁の複数の判決を、少数意見も含めて解説し、この問題を受講生に考えてもらう。
11	政治は国民の声で動いている？ ―国民主権、議会制民主主義―	国民主権の建前と実態の乖離を、選挙制度と関連させながら明らかにし、これにどう向き合っていくべきかを考察する。 そして国会について、「最高機関」「唯一の立法機関」とされる意義、二院制、議員の地位、具体的活動、各議院の権能（特に国政調査権）などについて解説し、その問題点を明らかにし、解決策を探求していく。
12	国会の「信任」て何？ ―議院内閣制―	行政権の概念、独立行政委員会の意義、内閣の組織と閣議、内閣・内閣総理大臣の権能等について、明確に説明する。 その上で、「議院内閣制」の本質について、「信任」の概念を中心に、大統領制や議会統治制との対比で明らかにし、解散等の内閣と議会の関係についての諸問題について、これをどうするべきかを考察する。
13	国民の代表が決めたことを、15人の裁判官が無効にしていいの？ ―司法制度、違憲審査制―	裁判所について、司法権の概念、範囲を説明し、その限界、とりわけ「統治行為」について、問題点を探求する。さらに裁判所の組織と権能等を解説する。 その上で、違憲審査制について、その根拠・性格、憲法判断の主体と対象、違憲判断の方法と効力等について説明し、理解を深める。
14	9条は現実的でない？ ―安全保障と平和的生存権―	憲法第9条の意義と解釈、これと自衛隊・日米安全保障条約との関係を、関連する判例を含めて解説する。 その上で、日本の安全保障の現実的なあり方をさぐり、そこにおける憲法第9条の存在意義を、憲法改正論も含めて検討する。 さらに、自由権、社会権に続く人権とも言われる、平和的生存権について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

①授業後に、講述内容を思い出しながら、教科書・授業レジメやノートなどによる復習を行う。

予習においては、次回の講義内容を教科書等で確かめながら、それらに対する自分の考えを確かめておいて頂きたい。

予習中心の学習を勧める。

②「覚えるべき基本知識」は求められるが、予習・復習においても、憲法・法というものを批判的になかめ、自分自身で考察するという態度を身に着けてほしい。

【テキスト（教科書）】

憲法[第8版]／芦部信喜（高橋和之補訂）／岩波書店／3,740円

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　定期試験で評価する（100％）。
　それらにおいては、授業で理解した知識のみならず、自分の考えが問われることになる。

【学生の意見等からの気づき】
　本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【その他の重要事項】
　授業中の私語は、一切認めない。他の受講生に対する迷惑となるからである。

【Outline (in English)】
In this course, we will learn law, especially the Constitution.
So we will get the correct and basic understanding of the Constitution and other laws.
Moreover,the students develop their own consideration about idea of the Constitution and other laws, and their concrete problems.
Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the following Term-end examination (100%).

LAW100LC（法学 / law 100）

法と社会

押久保　倫夫

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本講義においては、法と社会との関係、法の一般理論を確認した上で、社会に生起している今日的な諸問題・判例を素材として、法的な視点からの分析を行い、それらをどう評価・解決していくべきかを探っていく。その中で、法に対する基本的理解と法的なものの考え方を身につける。

【到達目標】
　学生が、法の基本的な仕組みを理解すると共に、具体的な問題に対する法的な解決を検討していく中で、多角的に問題点を探り、妥当な解決を図ることのできる法的思考力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本講義の特徴は、二つある。
　一つは、法律に関する具体的事例・判例を先に話し、抽象的理論は可能な限り、後で説明することである。まず具体的事例によって、法学に対する興味を喚起し、抽象的理論はそれと連関させる形で説明するようにする。そうすることによって、抽象的法理論も実感を持って理解することができる。
　もう一つの特徴は、法学の諸問題について、自分自身の考えを形成していってもらうことである。判例一つでも、色々な議論があり、対立する評価がある。担当教員からは一定の見解が示されるが、それを鵜呑みにしてはいけない。それらを参考にした上で、「自分はどう考えるか」常に問うてほしい。そして法律の理論を学ぶ際も、諸々の学説が対立していることがあり、どれが妥当か、自分自身の意見を持つようにして頂きたい。
　その為に授業においては、憲法の諸問題や判例等について、受講生と質議応答を展開することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①ガイダンス ②法律は皆さんの身近なところにある ―憲法・民法に跨る具体的事件―	①授業の内容・方法を、シラバスを使いながら、受講生に説明する。 ②「婚外子相続差別判決」という具体的判例について、法学の知識のない受講生でもわかる様に、裁判制度や憲法・民法の初歩的説明、事件の具体的事実も含めて、時間をかけて丁寧に説明していく。 これによって受講生に、憲法の人権条項や刑法の規定が社会に対して現実に作用する場面を、具体的にイメージさせる。
2	道徳・倫理とはどこが違うの？ ―法の定義と強制形態―	法をその本質的特徴に基づき定義し、これが他の諸規範とどう違うかを説明する。 そして法の強制の諸形態について、それが同一の事件においても、刑事・民事に跨って複数存在することがあり、それを具体的事例を示しながら、理解してもらう。
3	どこまでが法の範囲？ ―法源、制定法の種類―	法源は成文法のみならず、不文法や慣習、判例など多様なものがあることを説明する。 その上で、これらのうち最も重要な制定法について、多くの存在形式があり、それらはどの様なものか、正確に理解していってもらう。
4	法にも上下関係？ ―法の段階構造、司法制度―	制定法の段階構造について、これに関する学説の対立も交えながら、説明していく。 そして、法が適用される最も重要な場の一つである司法制度について、民事・刑事の区別や、裁判所の組織形態を解説する。
5	条文の解釈は一つではない？ ―法の適用と解釈―	制定法の解釈について、その複数性から、その本質は認識ではなく実践とされていることを理解してもらう。 その上で、多様な解釈の方法論を示し、また解釈の際に知っておくべき、特別な法律用語についても講義する。
6	自由はつらいよ、しかれども「個人の自律」 ―個人の尊重と「自由からの逃走」、博愛への想像力	人権の中核となる憲法13条前段の「個人の尊重」・「個人主義」について、「全体主義」との対比で図式的に理解させる。そしてこれは、各人が自分の人生を自律的に決定していくことであり、その困難性をも明らかにし、それにも拘わらずそこから逃げるべきでないことを説く。 さらに、「個人主義」は、すべての人々について、各人の違い・個性を認め合い、平等に尊重することであり、利己主義とは対極にある「博愛」の思想につながるものであることを理解させる。
7	なぜ酒を造ってはいけないんだ！ ―酒類製造規制と一般的自由―	酒類製造免許制を合憲とした「どぶろく裁判」について、これが憲法上何が問題なのかを解説し、その上で審査基準はどうあるべきか、公権力のこの様な規制をどう考えるべきかを、受講者に考察してもらう。
8	人間には譲れないものがある ―思想・良心の自由、謝罪広告事件―	思想・良心の自由の保障内容を示し、「謝罪広告事件」について、具体的事実を含めて詳しくお話し、判決を考察しながら妥当な解決について、受講者自身の見解を探求してもらう。

9	誰も被害者がいないのに、なぜ処罰される？ ―「猥褻物」―	被害者なき犯罪と言われる「猥褻物」について、これと表現の自由が問題になった事件をいくつか取り上げ考察し、その上で受講生に、猥褻物は規制すべきか、規制する場合どの様な態様であるべきかを考えてもらう。
10	最先端の問題！ ―マスメディア・インターネットと表現の自由―	マスメディアと表現の自由、そして最先端の問題として、インターネットと表現の自由について、その特徴から生じる新たな問題を提示する。そしてそれに如何に対処するか、受講生に考えさせる。
11	死刑廃止論、あなたは賛成？ 反対？ ―死刑制度の問題点と廃止論―	死刑廃止論について、その論拠や世界の趨勢等をお話する。そして廃止に反対する意見の根拠も示した上で、受講生各自に死刑廃止に賛成か反対かを考えてもらう。
12	姓を変えないと結婚できないの？ ―夫婦別姓訴訟―	「夫婦別姓訴訟」について、なぜこの様な訴訟が起こるのか、結婚後の姓について他の国がどうなっているかをお話した上で、最高裁の複数の判決を、少数意見も含めて解説し、この問題を受講生に考えてもらう。
13	どうして女性は天皇になれないの？ ―天皇・皇族の人権―	天皇・皇室は、その地位と職務や、皇位の世襲制から、一般国民とは異なる特別な人権の制限がなされることを説明する。 さらに所謂「女性天皇」の問題を、憲法14条の男女平等と関わらせて、その論点を提示し、受講生に考えてもらう。
14	「優生思想」が生きていた時代がある ―旧優生保護法違憲判決と「人間の尊厳」―	「個人の尊厳と人格の尊重」「人格権そのもの」に反する人権侵害とされた、ハンセン病患者の強制隔離事件、旧優生保護法違憲判決を取り上げる。 そしてこれがなぜ「人間の尊厳」に反するとまで言えるのかを説明し、この様な重大な人権侵害を起こさないようにするにはどうすれば良いかを、受講者に考察してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

①授業後に、講述内容を思い出しながら、教科書・授業レジメやノートなどによる復習を行う。

予習においては、次回の講義内容を教科書等で確かめながら、それらに対する自分の考えを確かめておいて頂きたい。

予習中心の学習を勧める。

②「覚えるべき基本知識」は求められるが、予習・復習においても、憲法・法というものを批判的にながめ、自分自身で考察するという態度を身に着けてほしい。

【テキスト（教科書）】

授業レジメおよび適宜取り上げる資料を使用する。。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50％）及び定期試験（50％）で評価する。

それらにおいては、授業で理解した知識のみならず、自分の考えが問われることになる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【その他の重要事項】

授業中の私語は、一切認めない。他の聴講生に対する迷惑となるからである。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the relations between the law and the state or society. Then we will get the basic understanding of the theory of laws.

And we will pursue how to solve the social problems by law.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following Term-end examination (50%) and the report (50%).

LAW100LC（法学 / law 100）

法と社会

押久保　倫夫

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本講義においては、法と社会との関係、法の一般理論を確認した上で、社会に生起している今日的な諸問題・判例を素材として、法的な視点からの分析を行い、それらをどう評価・解決していくべきかを探っていく。その中で、法に対する基本的理解と法的なものの考え方を身につける。

【到達目標】
　学生が、法の基本的な仕組みを理解すると共に、具体的な問題に対する法的な解決を検討していく中で、多角的に問題点を探り、妥当な解決を図ることのできる法的思考力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本講義の特徴は、二つある。
　一つは、法律に関する具体的事例・判例を先に話し、抽象的理論は可能な限り、後で説明することである。まず具体的事例によって、法学に対する興味を喚起し、抽象的理論はそれと連関させる形で説明するようにする。そうすることによって、抽象的法理論も実感を持って理解することができる。
　もう一つの特徴は、法学の諸問題について、自分自身の考えを形成していってもらうことである。判例一つでも、色々な議論があり、対立する評価がある。担当教員からは一定の見解が示されるが、それを鵜呑みにしてはいけない。それらを参考にした上で、「自分はどう考えるか」常に問うてほしい。そして法律の理論を学ぶ際も、諸々の学説が対立していることがあり、どれが妥当か、自分自身の意見を持つようにして頂きたい。
　その為に授業においては、憲法の諸問題や判例等について、受講生と質議応答を展開することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①ガイダンス ②法律は皆さんの身近なところにある ―憲法・民法に跨る具体的事件―	①授業の内容・方法を、シラバスを使いながら、受講生に説明する。 ②「婚外子相続差別判決」という具体的判例について、法学の知識のない受講生でもわかる様に、裁判制度や憲法・民法の初歩的説明、事件の具体的事実も含めて、時間をかけて丁寧に説明していく。 これによって受講生に、憲法の人権条項や刑法の規定が社会に対して現実に作用する場面を、具体的にイメージさせる。
2	道徳・倫理とはどこが違うの？ ―法の定義と強制形態―	法をその本質的特徴に基づき定義し、これが他の諸規範とどう違うかを説明する。 そして法の強制の諸形態について、それが同一の事件においても、刑事・民事に跨って複数存在することがあり、それを具体的事例を示しながら、理解してもらう。
3	どこまでが法の範囲？ ―法源、制定法の種類―	法源は成文法のみならず、不文法や慣習、判例など多様なものがあることを説明する。 その上で、これらのうち最も重要な制定法について、多くの存在形式があり、それらはどの様なものか、正確に理解していってもらう。
4	法にも上下関係？ ―法の段階構造、司法制度―	制定法の段階構造について、これに関する学説の対立も交えながら、説明していく。 そして、法が適用される最も重要な場の一つである司法制度について、民事・刑事の区別や、裁判所の組織形態を解説する。
5	条文の解釈は一つではない？ ―法の適用と解釈―	制定法の解釈について、その複数性から、その本質は認識ではなく実践とされていることを理解してもらう。 その上で、多様な解釈の方法論を示し、また解釈の際に知っておくべき、特別な法律用語についても講義する。
6	自由はつらいよ、しかれども「個人の自律」 ―個人の尊重と「自由からの逃走」、博愛への想像力	人権の中核となる憲法13条前段の「個人の尊重」・「個人主義」について、「全体主義」との対比で図式的に理解させる。そしてこれは、各人が自分の人生を自律的に決定していくことであり、その困難性をも明らかにし、それにも拘わらずそこから逃げるべきでないことを説く。 さらに、「個人主義」は、すべての人々について、各人の違い・個性を認め合い、平等に尊重することであり、利己主義とは対極にある「博愛」の思想につながるものであることを理解させる。
7	なぜ酒を造ってはいけないんだ！ ―酒類製造規制と一般的自由―	酒類製造免許制を合憲とした「どぶろく裁判」について、これが憲法上何が問題なのかを解説し、その上で審査基準はどうあるべきか、公権力のこの様な規制をどう考えるべきかを、受講者に考察してもらう。
8	人間には譲れないものがある ―思想・良心の自由、謝罪広告事件―	思想・良心の自由の保障内容を示し、「謝罪広告事件」について、具体的事実を含めて詳しくお話し、判決を考察しながら妥当な解決について、受講者自身の見解を探求してもらう。

9	誰も被害者がいないのに、なぜ処罰される？ ―「猥褻物」―	被害者なき犯罪と言われる「猥褻物」について、これと表現の自由が問題になった事件をいくつか取り上げ考察し、その上で受講生に、猥褻物は規制すべきか、規制する場合どの様な態様であるべきかを考えてもらう。
10	最先端の問題！ ―マスメディア・インターネットと表現の自由―	マスメディアと表現の自由、そして最先端の問題として、インターネットと表現の自由について、その特徴から生じる新たな問題を提示する。そしてそれに如何に対処するか、受講生に考えさせる。
11	死刑廃止論、あなたは賛成？ 反対？ ―死刑制度の問題点と廃止論―	死刑廃止論について、その論拠や世界の趨勢等をお話する。そして廃止に反対する意見の根拠も示した上で、受講生各自に死刑廃止に賛成か反対かを考えてもらう。
12	姓を変えないと結婚できないの？ ―夫婦別姓訴訟―	「夫婦別姓訴訟」について、なぜこの様な訴訟が起こるのか、結婚後の姓について他の国がどうなっているかをお話した上で、最高裁の複数の判決を、少数意見も含めて解説し、この問題を受講生に考えてもらう。
13	どうして女性は天皇になれないの？ ―天皇・皇族の人権―	天皇・皇室は、その地位と職務や、皇位の世襲制から、一般国民とは異なる特別な人権の制限がなされることを説明する。 さらに所謂「女性天皇」の問題を、憲法14条の男女平等と関わらせて、その論点を提示し、受講生に考えてもらう。
14	「優生思想」が生きていた時代がある ―旧優生保護法違憲判決と「人間の尊厳」―	「個人の尊厳と人格の尊重」「人格権そのもの」に反する人権侵害とされた、ハンセン病患者の強制隔離事件、旧優生保護法違憲判決を取り上げる。 そしてこれがなぜ「人間の尊厳」に反するとまで言えるのかを説明し、この様な重大な人権侵害を起こさないようにするにはどうすれば良いかを、受講者に考察してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

①授業後に、講述内容を思い出しながら、教科書・授業レジメやノートなどによる復習を行う。

予習においては、次回の講義内容を教科書等で確かめながら、それらに対する自分の考えを確かめておいて頂きたい。

予習中心の学習を勧める。

②「覚えるべき基本知識」は求められるが、予習・復習においても、憲法・法というものを批判的にながめ、自分自身で考察するという態度を身に着けてほしい。

【テキスト（教科書）】

授業レジメおよび適宜取り上げる資料を使用する。。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験で評価する（100％）。

それらにおいては、授業で理解した知識のみならず、自分の考えが問われることになる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【その他の重要事項】

授業中の私語は、一切認めない。他の聴講生に対する迷惑となるからである。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the relations between the law and the state or society. Then we will get the basic understanding of the theory of laws.

And we will pursue how to solve the social problems by law.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following Term-end examination (100%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学技術史

馬場　敏幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の到達目標及びテーマ 本講義では科学技術の歴史について、西洋近代科学の発祥・発展を主に学ぶ。受講者は科学技術がどのように誕生し、受け継がれ、近代に至ってきたのかについての大きな流れを理解してほしい。人間社会において、常識や真実は、時代や場所によって移り変わってきた。「真実」は絶対ではないことを歴史から学び、時には固定概念にとらわれず探求する精神を育んでほしい。

【到達目標】
本講義では、紀元前から近代までの科学技術の変遷を学ぶ。科学技術はあるきっかけで誕生し、変遷、転用、融合を経て進化し、受け継がれる。そうした経緯について、西洋の事例を中心に、古代、中世、近代の例を題材に学ぶ。科学技術のさまざまな着想と発明・発見の背景、そして「常識」の危うさ、もろさ。疑問を持つことの重要性についても知見を深めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライド投影にて講義を行い、適宜理解力テストを行う。復習用に授業終了後一週間以内をめどに使用したスライドはHoppiiにアップロードする予定である。本講義は対面講義を基本とするが、事情によりオンデマンド・Zoomなどを行う場合は講義数日前～一週間前をめどに授業支援システムを通じて掲示するので各自事前に確認してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方　序論
2	はじまり	道具の使用と農業の開始
3	古代	古代都市国家の形成と技術の芽生え
4	ギリシア１	科学思想の芽生え
5	ギリシア２	科学思想体系の確立
6	アレクサンドリア１	エラトステネス・アルキメデスら
7	アレクサンドリア２	三大機械技師
8	ローマ	建築技術の発展など
9	中世ヨーロッパ１	古代科学技術の衰退と復古
10	中世ヨーロッパ２	スコラ学形成と大学の誕生
11	ルネッサンス	ダビンチによる様々な発明
12	科学革命１	コペルニクスによる地動説仮説
13	科学革命２	ブラーエとケプラーによる惑星運動理論
14	科学革命３	ガリレイ、ニュートン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、講義前1時間半、講義後2時間半の計4時間を想定している。授業内容に関連するニュースに興味を持つようにしてほしい。

【テキスト（教科書）】
参考資料に基づき作成したスライドにより講義を行う。

【参考書】
村上陽一郎『西欧近代科学』新曜社、中川徹『文明史上における科学技術の歩み』青山社、フォーブス『古代の技術史』朝倉書店、小山慶太『科学史年表』中公新書、クーン（中山訳）『科学革命の構造』、ランデルズ（宮城訳）『古代のエンジニアリング』地人書館、荒井ら編『産業革命の技術』有斐閣、加茂儀一編『技術の歴史』毎日ライブラリ、学研図鑑『発明・発見』、その他

【成績評価の方法と基準】
講義で課題（レポートやテスト）を課し、その課題の提出状況、および授業内や授業後の課題の内容、授業時の出席状況や発言内容などに基づき成績評価を行う。課題80%、平常点20%、合計100%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】
講義に出席せずに遠隔でテストを受ける者がいるとの指摘があった。講義を真面目に受講している学生から見て非常に不適切な行為である。この行為は発覚次第厳しい減点を行うのでしないようにしていただきたい。

【学生が準備すべき機器他】
理解力テストはHoppiiで行う。そのため、インターネット環境は必須である。テストはスマホ・タブレットでも受験可能である。

【その他の重要事項】
年により春学期に受講者が集中し、教室定員をオーバーしてしまうことがある。秋学期にも同じ講義を行っているので、場合によっては秋学期への変更も検討をお願いしたい。

【Outline (in English)】
In this class, you learn the history of a science and a technology. You should understand the main current of how a science and a technology was born, inherited and changed from an ancient age until a modern age. In human society, the common sense or the truth had been changed upon the time period or in a place. You should learn from history that “the truth” is not absolute. I hope you foster a questioning mind, thinking outside the box. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学技術史

馬場　敏幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の到達目標及びテーマ 本講義では科学技術の歴史について、西洋近代科学の発祥・発展を主に学ぶ。受講者は科学技術がどのように誕生し、受け継がれ、近代に至ってきたのかについての大きな流れを理解してほしい。人間社会において、常識や真実は、時代や場所によって移り変わってきた。「真実」は絶対ではないことを歴史から学び、時には固定概念にとらわれず探求する精神を育んでほしい。

【到達目標】
本講義では、紀元前から近代までの科学技術の変遷を学ぶ。科学技術はあるきっかけで誕生し、変遷、転用、融合を経て進化し、受け継がれる。そうした経緯について、西洋の事例を中心に、古代、中世、近代の例を題材に学ぶ。科学技術のさまざまな着想と発明・発見の背景、そして「常識」の危うさ、もろさ。疑問を持つことの重要性についても知見を深めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライド投影にて講義を行い、適宜理解力テストを行う。復習用に授業終了後一週間以内をめどに使用したスライドはHoppiiにアップロードする予定である。本講義は対面講義を基本とするが、事情によりオンデマンド・Zoomなどを行う場合は講義数日前～一週間前をめどに授業支援システムを通じて掲示するので各自事前に確認してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方　序論
2	はじまり	道具の使用と農業の開始
3	古代	古代都市国家の形成と技術の芽生え
4	ギリシア１	科学思想の芽生え
5	ギリシア２	科学思想体系の確立
6	アレクサンドリア１	エラトステネス・アルキメデスら
7	アレクサンドリア２	三大機械技師
8	ローマ	建築技術の発展など
9	中世ヨーロッパ１	古代科学技術の衰退と復古
10	中世ヨーロッパ２	スコラ学形成と大学の誕生
11	ルネッサンス	ダビンチ
12	科学革命１	コペルニクス
13	科学革命２	ブラーエとケプラー
14	科学革命３	ガリレイ・ニュートン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、講義前1時間半、講義後2時間半の計4時間を想定している。授業内容に関連するニュースに興味を持つようにしてほしい。

【テキスト（教科書）】
参考資料に基づき作成したスライドにより講義を行う。

【参考書】
村上陽一郎『西欧近代科学』新曜社、中川徹『文明史上における科学技術の歩み』青山社、フォーブス『古代の技術史』朝倉書店、小山慶太『科学史年表』中公新書、クーン（中山訳）『科学革命の構造』、ランデルズ（宮城訳）『古代のエンジニアリング』地人書館、荒井ら編『産業革命の技術』有斐閣、加茂儀一編『技術の歴史』毎日ライブラリ、学研図鑑『発明・発見』、その他

【成績評価の方法と基準】
講義で理解力テストを課し、点数を100点に案分し評価を行う（100%）。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義に出席せずに遠隔でテストを受ける者がいるとの指摘があった。講義を真面目に受講している学生から見て非常に不適切な行為である。この行為は発覚次第厳しい減点を行うのでしないようにしていただきたい。

【学生が準備すべき機器他】
理解力テストはHoppiiで行う。そのため、インターネット環境は必須である。テストはスマホ・タブレットでも受験可能である。

【Outline (in English)】
In this class, you learn the history of a science and a technology. You should understand the main current of how a science and a technology was born, inherited and changed from an ancient age until a modern age. In human society, the common sense or the truth had been changed upon the time period or in a place. You should learn from history that “the truth” is not absolute. I hope you foster a questioning mind, thinking outside the box. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

先端技術・社会論

原　昌己

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　社会から強く求められる「イノベーションを起こす人材」の要件を学ぶ。
　「先端技術、技術革新とそれによる社会の変革」（イノベーション）は、どのような過程を通じて生み出され社会に広がっていくのか、そのために必要となる力はどのようなものなのか。
　イノベーションの面白さを知り、誰もがイノベータになれる可能性があることに気づくとともに、演習を通じて「新たなモノ」を生みだすための方法を学ぶ。

【到達目標】
(1)イノベーションのプロセスを知る。
(2)イノベーションを起こす人材に必要となる力を知る。
(3)各人の専門の力を使って、将来何を実現したいのかを考え、まとめる。
(4)新たな製品や仕組みを「企画」する方法を知る。
(5)グループでの「企画」作りの演習を通じて、チームで成果を出すための方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・前半：映像資料による事例紹介。
　過年度は以下などを取り上げた。
　・電話からトランジスタ、そしてパソコンへ
　　（米国ベル研究所、黎明期のApple社など）
　・量子コンピュータの可能性
　・DNAシーケンサ
　・カーボンナノチューブ
・中盤：「イノベーションに必要となる力」の要点を解説。
　ＰＤＣＡ、思考力・発想力、コミュニケーション力、他。
　演習を通じて体感するとともに、簡易な診断テストで各自の強み・弱みを考える機会を設ける。
・後半：チームでの「新たなモノ」の企画に取り組む。
　・ATP（アデノシン３リン酸）を活用した新エネルギー自動車
　・地域を活性化する食物工場
　・人工知能による痴呆防止システム

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イノベーションの必要性	イノベーションとは何か、そのために必要となる力など、本授業を通じて学ぶことの概要を知る。
第2回	イノベーション事例１	イノベーションの事例の映像資料を視聴。 電話の発明と普及（予定） 米国・ベル研究所等
第3回	イノベーション事例２	パソコンの発明と普及（予定） Apple社 vs Microsoft社
第4回	イノベーション事例３	量子コンピュータ（予定）
第5回	イノベーション事例４	日本発イノベーション。 光触媒、カーボンナノチューブ、DNAシーケンサ等（予定）
第6回	イノベーションに必要となる力	イノベーションを起こす人材になるために必要となる力を学ぶ。
第7回	PDCA（plan,do,check,act)	社会での活動の基本となる行動様式、「PDCA」を学ぶ。
第8回	思考法	代表的な思考方法として、ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、ラテラルシンキングを学ぶ。
第9回	コミュニケーション/グループでの思考法	コミュニケーション,ディスカッションの方法を学ぶ。
第10回	グループワーク１	「新たな商品・サービス」をグループで企画を立案する。
第11回	グループワーク２	課題を設定し、課題に対する解決策を検討する。
第12回	グループワーク３	まとめ、ならびにプレゼンテーションの準備を行う。
第13回	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行い、相互に評価する。
第14回	試験・まとめと解説	新たな製品・サービスの企画を小論文としてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・新たな商品やサービス、社会の動きに対する関心を高め、さまざまな情報収集に努めること。その上で、各自が将来、社会で何をやりたいのか、何を実現したいのか考えること。
・上記などを含めた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、全体で４時間程度を見込む。

【テキスト（教科書）】
なし。各回で資料を配布。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
１）期末、小論文（50%）　２）グループでのプレゼンテーション（25%）　３）平常点（25%）

【学生の意見等からの気づき】
演習を随所に取り入れ、体感的な学びを重視。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students learn the requirements of 'human resources who bring innovation' strongly demanded by society.
【Learning Objectives】
Students learn about the fun of innovation, realize that everyone is likely to become an innovator, and learn and practice to create "new things" through exercises.
【Learning activities outside of classroom】
Students increase interest in new products, services and society and gather information about them
【Grading Criteria /Policy】
Essay/end of term(50%), Team planning and presentation（25%）, Participation in classes（25%）

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

先端技術・社会論

原　昌己

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　社会から強く求められる「イノベーションを起こす人材」の要件を学ぶ。
　「先端技術、技術革新とそれによる社会の変革」（イノベーション）は、どのような過程を通じて生み出され社会に広がっていくのか、そのために必要となる力はどのようなものなのか。
　イノベーションの面白さを知り、誰もがイノベータになれる可能性があることに気づくとともに、演習を通じて「新たなモノ」を生みだすための方法を学ぶ。

【到達目標】
(1)イノベーションのプロセスを知る。
(2)イノベーションを起こす人材に必要となる力を知る。
(3)各人の専門の力を使って、将来何を実現したいのかを考え、まとめる。
(4)新たな製品や仕組みを「企画」する方法を知る。
(5)グループでの「企画」作りの演習を通じて、チームで成果を出すための方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・前半：映像資料による事例紹介。
　過年度は以下などを取り上げた。
　・電話からトランジスタ、そしてパソコンへ
　　（米国ベル研究所、黎明期のApple社など）
　・量子コンピュータの可能性
　・DNAシーケンサ
　・カーボンナノチューブ
・中盤：「イノベーションに必要となる力」の要点を解説。
　ＰＤＣＡ、思考力・発想力、コミュニケーション力、他。
　演習を通じて体感するとともに、簡易な診断テストで各自の強み・弱みを考える機会を設ける。
・後半：チームでの「新たなモノ」の企画に取り組む。
　・ATP（アデノシン３リン酸）を活用した新エネルギー自動車
　・地域を活性化する食物工場
　・人工知能による痴呆防止システム

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イノベーションの必要性	イノベーションとは何か、そのために必要となる力など、本授業を通じて学ぶことの概要を知る。
第2回	イノベーション事例１	イノベーションの事例の映像資料を視聴。 電話の発明と普及（予定） 米国・ベル研究所等
第3回	イノベーション事例２	パソコンの発明と普及（予定） Apple社 vs Microsoft社
第4回	イノベーション事例３	量子コンピュータ（予定）
第5回	イノベーション事例４	日本発イノベーション。 光触媒、カーボンナノチューブ、DNAシーケンサ等（予定）
第6回	イノベーションに必要となる力	イノベーションを起こす人材になるために必要となる力を学ぶ。
第7回	PDCA（plan,do,check,act)	社会での活動の基本となる行動様式、「PDCA」を学ぶ。
第8回	思考法	代表的な思考方法として、ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、ラテラルシンキングを学ぶ。
第9回	コミュニケーション/グループでの思考法	コミュニケーション,ディスカッションの方法を学ぶ。
第10回	グループワーク１	「新たな商品・サービス」をグループで企画を立案する。
第11回	グループワーク２	課題を設定し、課題に対する解決策を検討する。
第12回	グループワーク３	まとめ、ならびにプレゼンテーションの準備を行う。
第13回	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行い、相互に評価する。
第14回	試験・まとめと解説	新たな製品・サービスの企画を小論文としてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・新たな商品やサービス、社会の動きに対する関心を高め、さまざまな情報収集に努めること。その上で、各自が将来、社会で何をやりたいのか、何を実現したいのか考えること。
・上記などを含めた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、全体で４時間程度を見込む。

【テキスト（教科書）】
なし。各回で資料を配布。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
１）期末、小論文（50%）　２）グループでのプレゼンテーション（25%）　３）平常点（25%）

【学生の意見等からの気づき】
演習を随所に取り入れ、体感的な学びを重視。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students learn the requirements of 'human resources who bring innovation' strongly demanded by society.
【Learning Objectives】
Students learn about the fun of innovation, realize that everyone is likely to become an innovator, and learn and practice to create "new things" through exercises.
【Learning activities outside of classroom】
Students increase interest in new products, services and society and gather information about them
【Grading Criteria /Policy】
Essay/end of term(50%), Team planning and presentation（25%）, Participation in classes（25%）

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

技術者倫理

詫間　直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本キャンパスの学生は将来、技術者として或るいは技術に関連する人材として、様々な倫理的問題に直面することが予想される。本授業は、さまざまな状況において発生する倫理的問題に取り組む能力を涵養するため、重要概念と事例に接し、理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
(1) 技術にまつわる倫理的問題にどのようなものがあるかを知る。
(2) 上記の倫理的諸問題に取り組むにあたって有用な概念や考え方を身につける。
(3) 上記の概念や考え方を用いて様々な事例を理解し論じる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講師が準備したオリジナル・コンテンツをスライド等を用いて解説する。適宜、ビデオや動画を観てもらう。
また、毎回の授業後、印象に残ったトピックを一つ選んでそれに対するごく簡単な考察を行い、リアクションペーパーとして Hoppii の課題機能を使って提出してもらう。重要なコメントに対しては翌週に回答するなどして、双方向性を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	ガイダンスおよびイントロダクション	授業の進め方、授業の目的・到達目標、成績評価方法などについて説明する。 また、イントロダクションとして、「科学」「技術」「道徳」「倫理」といった用語の定義とニュアンスの説明を行う。
第2週	伝統的倫理学と技術(者)倫理	倫理学の考え方に親しんでもらうため、アリストテレスの徳倫理や、カントの義務倫理、ベンサムやミルによる帰結主義・功利主義倫理などを簡単に紹介する。また、こうした伝統的な倫理学と技術(者)倫理がどう違いうのか、についても説明する。
第3週	スペースシャトル・チャレンジャー号事故とその教訓（1）	スペースシャトル・チャレンジャー号事故に関する社会学者 D. Vaughan による分析をベースとし、技術的・倫理的な教訓を学ぶ。
第4週	スペースシャトル・チャレンジャー号事故とその教訓（2）	引き続きチャレンジャー号の事故を事例に、「例外的状況」における権力関係の顕在化と、その対策としての専門職倫理規定および高信頼性組織について解説する。
第5週	ユニバーサル・デザイン ― 倫理を予めデザインに埋め込む ―	「ユニバーサル・デザイン」は、障害者・高齢者と健常者の区別なく等しく利用できるという倫理的・政治的意図を予めデザインに組み込むことを提案している。ユニバーサル・デザインの7原則と倫理性、ユニバーサル・デザインの事例、米国のユニバーサル・デザインと日本のバリアフリーデザインの違い、などについて学ぶ。
第6週	アーキテクチャーの権力	ユニバーサル・デザインと関連したトピックとして、「アーキテクチャの権力」について学ぶ。人工物のアーキテクチャに、人種差別などの政治的意図が埋め込まれていることがある。そのような事例を紹介しつつ、倫理的側面を考察する。
第7週	立証責任と事前警戒原則 ― 水俣病を例に ―	事故や災害が起こるかメカニズムがよく分かっていない場合、事故・災害が発生する可能性を単に指摘することと、証拠を十分に揃えて立証するのとでは、費やす労力が全然違う。不確実な状況下における立証責任について、水俣病を例に引きつつ解説する。
第8週	現場による「カイゼン」があだになった事故 ー ライオン（株）新規開発・界面活性剤の製造プラントの爆発 ー	技術者が良かれと思って行ったことが、逆にあだとなり、事故を招いてしまうという皮肉な事もある。そのような事例として、ライオン（株）の界面活性剤の製造プラントでおきた爆発事故を取り上げ、教訓を学ぶ。
第9週	内部告発の指針	ある調査では、過去5年間に不正を知ったことがあったかという問いに対して、約20%の人が「あった」と答えている。つまり、学生諸君が将来就職して不正に遭遇する確率は思いのほか高い。そんなときのために、不正を告発するための指針や関連する制度や法令を学ぶ。
第10週	情報倫理（1）情報技術と著作権	情報技術は、最も変化の早い技術であり、それに対応する倫理学がまだ構築できていないのが現状である。従って、個々の問題ごとに倫理を考えていくしかない。今回は著作権の問題を扱い、瞬時に大量の情報を複製・伝達する技術の発達に対して、倫理(学)がどう対処できるかを検討する。
第11週	情報倫理（2）「ウィキリークス」の教訓、表現の自由、情報公開	インターネットの発達は、表現の自由といった基本理念にも再検討を迫りつつある。ウィキリークスの事件を例にとり、情報化時代の倫理について考える。併せて、情報公開のあり方についても考察する。

第12週	医療と医学研究におけるインフォーム・ドコンセント	医療や医学実験においては、ながらく、医師や研究者に治療や実験の方針をすべて決めてもらう「パターナリズム」（父権主義）が支配的な考え方であったが、ナチスドイツによる人体実験への反省をきっかけとして、第二次世界大戦後、「インフォームド・コンセント」の制度化が進められてきた。その現状と歴史について解説する。
第13週	生命倫理の入門的トピック	iPS細胞や遺伝子診断などの出現によって、生命科学は人間観を変えてしまう程の影響力を持つに至った。従って、この分野における倫理の構築は必須であるが、知識や技術の発達が早く、体系化は困難である。そこで、いくつかのトピックを紹介する。
第14週	研究倫理の初歩	大学や研究機関における Institutional Review Board (施設内倫理審査委員会)、医学・行動研究におけるインフォームド・コンセント、研究不正への対処、ほか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間が標準である。
すでに説明したことは理解している前提で講義を進めていくので、授業が一回終わるたびに、次の授業回までによく復習をしておくこと。
授業中に、さらに進んで学習するための参考文献やウェブサイトを紹介する。学生の皆さんには、授業で興味をもったことや疑問に思ったことについて、自分で調べることを強く推奨する。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
参考書はとくに指定しないが、必要に応じて参考になる文献やウェブサイトを授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）：毎回の授業の終了後にhoppiiに提出してもらうリアクションペーパーをもとに評価する。
中間レポート（20%）：身の周りにある、ユニバーサル・デザインとアーキテクチャの権力の事例を探し、レポートしてもらう。
期末試験（40%）：今学期講義した内容全般について筆記試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】
期末試験において、あてはまる言葉を記入する問題のところで、漢字がかけなかったという学生がいた。近年、手書きが減りデジタル入力が増えていることを踏まえると、このような人は多かったと思われる。今年度の授業では、重要な用語については漢字で書けるようになることを、履修者に強調していく。

【学生が準備すべき機器他】
配布資料は、PDF化して事前にHoppiiにアップロードするので、授業中にそれを参照するための機材(パソコン、スマートフォン、タブレット等)を持参されたい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Many of the students who graduate from the faculties on this campus will face various ethical problems as an engineer or as a staff related to engineering. This course aims at nurturing students' capability to cope with such ethical problems, by providing typical examples in engineering ethics, together with useful concepts and ways of thinking for tackling them.
【Learning Objective (Goal)】
(1) Students learn what kind of ethical problems does technology have.
(2) Students become familiar with useful concepts and ways of thinking to cope with various ethical problems.
(3) Students become capable of applying the above-mentioned concepts and ways of thinking to concrete problems.

【Learning activities outside classroom hours】
Each class assumes that students have understood all the contents given so far in previous classes. Therefore, students must review the previous class contents by the next class.
The lecturer provide students with references used for the class material and literature for advanced learning. Students are expected to read such references and literature.
【Grading Criteria /Policy】
Class Performance (40%): Class Performance is evaluated drawing on the Reaction Papers submitted after each class.
Mid-term Report (20%): Students tries to find an example of "Universal Design" and an example of "Circumstance-managing Power" and reports them.
Term Exam (40%): Examination about the whole contents given in the course.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

情報倫理

笹原　和織

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では現代の「情報社会」を成立させている「インターネット」とそれを利用する我々の行動全般を視野に入れ、君たちが当たり前に感じているそれらの「光」の部分と共に、その「影」の部分を十分に理解し、まず何が「問題」であるのかを抽出し、その「問題」に対処する方法を共に考えてみたい。

【到達目標】
現状を肯定するだけでなく「問題を発見」すると同時に、その解決に向けた諸状況を理解し、整理すること。さらにはより良い「社会的な解決方法」を見出し、それが何故かを説明できるようになること。
Discover the problems from the current situation, and solve them. In addition, you must be able to explain a better social solution and why.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
新型コロナ感染対策のためWeb講義主体となっていましたが、昨年からリアル講義を半分取り入れた形態を計画しました。しかしながら受講整数が多くその中で感染者が後半から増え出したため、Web講義が多くなってしまった講義形態でした。今年度はリアル講義を主体とする予定ですが、場合によってはWeb講義を取り入れる形に変わるかも知れません。その場合は事前に課題を配信し、それをめぐってのレポートなどのやりとりが中心になるでしょう。
当初内容は情報環境をめぐる倫理的な諸課題についての講義が中心になりますが、後半の個々の事例／具体的な問題に関しては、提供する情報をもとに、先ずそれをきちんと理解した上で共に考えてもらいたいと思います。
受講生の皆さんには「何故？ どうして？ どうすれば？」を徹底的に考えてもらいます。
コロナ禍以降の対応状況に加え、私が今接している新たな状況に応じて内容に関して弾力的に変更があると思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「情報」とは何か	まずはこの講義の目的と進行方向などを「講義ガイダンス（この資料）」として説明。「情報」とは何か?について考えてみよう。
第2回	「倫理」とは何か。	「倫理」とは何か。どんなものがそうであり、その必要性と位置付けについて考え、現代におけるその成立基板と難しさを探る。
第3回	「情報倫理」とは何か	その一般的理解と現代における意義を探る。
第4回	「規範（rule）」について	様々にある規範・ルールの意味とその分類を探る。
第5回	情報環境の規制要因としての「道徳」1	情報環境を規制する諸要素の一つである「道徳」について考える。
第6回	情報環境の規制要因としての「道徳」2	「道徳」的規範の紹介と現代への適用可能性を探る。
第7回	情報環境の規制要因としての「法」	情報環境の規制要因の一つである「法」の役割を探る。
第8回	法的規制II 刑罰的規制について	刑罰的規制について、利用者と管理者の違いを視野に入れつつ考える。
第9回	法的規制III 民法的な規制について	民法的な規制について、使用者と管理者の立場を意識しつつ考える。
第10回	法的規制IV 「著作権」と「プライバシー」問題	インターネット利用環境での著作権とプライバシーのあり方および、今までに整理した法的枠組みの関係性を理解する。
第11回	情報環境の規制要因としての「市場」	情報環境の規制要因としての経済的市場の役割について探る。
第12回	情報環境の規制要因としての「アーキテクチャー」	情報環境における「アーキテクチャー」とは何か、その役割を探る。
第13回	現代社会における問題事例検討1	みなさんとども具体的問題を挙げ、共に考えてみたい。
第14回	現代社会における問題事例検討2	みなさんとども具体的問題を挙げ、共に考えてみたい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業で取り扱うテーマ、個人情報保護、機密情報保護、著作権、先端的情報技術等に関する倫理問題や情報技術にまつわる時事問題に関して、日ごろからの新聞、ネット報道に注意すること。
興味のある課題から、レポートのテーマを選択させる。
Pay attention to daily newspapers and online reports regarding ethical issues related to themes handled in class.

【テキスト（教科書）】
講義用資料は、講義時に随時提供する。
使用環境については、大学の提供するWebシステムを利用する予定。

【参考書】
ローレンス・レッシグ『コード』
近藤勲編著『情報と職業』(丸善)
水谷雅彦、越智貢、土屋俊編著『情報倫理の構築』（新世社）
デボラ・ジョンソン著、水谷他監訳『コンピュータ倫理学』(オーム社)

【成績評価の方法と基準】
講義の終了後に適宜課題を設定し、その評価をもって成績評価としたい。課題提出には一定の期間を設け、期間外の提出は認めないことで計画的な学習の補助としたい。
講義の出席率は課題の提出割合とする。
講義内発表やレポート提出のある場合は、出席率を前提としてその評価を課題提出に伴う評価に加え、総合的に評価する。
The assignment report imposed after the lecture will be the grade evaluation.

【学生の意見等からの気づき】
受講生と共に、現代的課題について考えていきたい。特定の解答を要求してはいない。そこに至るまでの思考過程と、どれだけ広く深く考え抜くのかが大切。積極的な発言を求めたい。

【Outline (in English)】
In this lecture, we analyze the behavior in the Internet which constitutes the information society. And we must understand deeply the merits and demerits that are now commonplace, and think about how we deal with that problems.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

環境と資源

中嶋　吉弘

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球で大繁栄している人類が今後も生存するには資源、エネルギー、環境保全などに対するルールが必要になって来ている。なぜ循環型社会の構築が必要なのか地球の成り立ち、太陽光を唯一のエネルギー源とした自然環境を説明しながら理解を深めたい。

【到達目標】
地球環境は閉鎖系で原則として元素の増減は無く、物質も出入りしない事の理解を得る。限り有る資源の活用にはルールが必要でフェアーでなければならない。太陽光を原点とした自然エネルギーの有効利用は環境保全や永続性の観点からも必須である事を確認します。研究開発がどのように我々の生活に結びつくのか？　環境化学（科学）に興味を持てる様にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
環境問題や資源枯渇の問題が注目されているが、これらの問題が必ずしも一般の人々に正しく理解されているとは言えないのが現実である。この講義では環境問題やエネルギー、資源等の問題について、理科系の学部学生として最低限知っておく事が望ましい知識を伝えるとともに、これらの社会的な問題に対して問題意識を持つきっかけとなる様な機会を作る事をねらいとします。課題などに対しては学習支援システムなどを用いてフィードバックする。春学期の授業は，原則として対面での講義を行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	担当講師の自己紹介と本講義の概要、これまでの研究内容と成果の紹介などを話ながら、今後の授業方針を告知します。
第2回	地球科学の基礎	我々人類は地球上で誕生し、進化を経て地球環境の恩恵と受ける一方で、様々な問題を引き起こしています。第２回では原始地球の誕生から生物の進化、人類の誕生に至る現在の地球を取り巻く環境を、『大気』・『水域』・『土壌』の観点から講義します。
第3回	生態系と物質循環	第２回に引き続き、第３回では地球環境の現状について、『生態系』と『物質循環』の観点を加えて、生物と物質の交換を講義します。
第4回	環境保護と環境基準	科学技術の発展は人類の生活を豊かにする一方で、多くの環境および資源に関する問題を生み出しています。第４回では環境問題の歴史を振り返りながら、人類と環境汚染・環境保護・健康影響について講義します。
第5回	温室効果気体と気候変動	現在最も解決すべき環境問題として、温室効果気体の増加とそれに伴う気候変動が挙げられます。第５回では温室効果気体に関します基本的な科学的知見と気候変動に関します状況について講義します。
第6回	オゾン層破壊とオゾンホール	オゾン層破壊は国際的な枠組みが定められた大気環境学のモデルケースです。第６回ではオゾン層破壊のメカニズムとオゾンホールの発生過程、国際的な枠組みである『モントリオール議定書』とオゾン層の現状について講義します。
第7回	大気汚染と生態系への影響	『光化学オキシダント』や『PM2.5問題』、『酸性雨』などの大気汚染は我々が最も身近に接してきた環境問題です。第７回ではこれら大気汚染問題の基礎と現状、生態系への影響（第３－４回と一部重複）を講義します。
第8回	マイクロプラスチック汚染とPOP	最近マイクロプラスチック汚染が最近の環境問題として警鐘を鳴らし、これを受けてプラスチックの削減運動が進められています。第８回では『マイクロプラスチック』とは何か、なぜ発生しますのか、何が問題なのか、そしてマイクロプラスチック削減運動の現状を講義します。
第9回	資源の有効利用	人類は地球上の様々な資源を活用することで発展を遂げ、一方で環境問題を引き起こしています。第９回では人類の歴史を振り返りながら、人類が活用している、または今後活用が期待されている様々な資源について講義します。
第10回	化石燃料の今昔と新規燃料	２１世紀においても人類は多くの石油や石炭を使用し、さらに『シェールガス』や『メタンハイドレート』などの新規の化石燃料の利用を模索しています。第１０回では従来の石油石炭に加え、シェールガスやメタンハイドレートなどの化石燃料の基礎と問題点、そして近年盛んに利用されているバイオ燃料、木質バイオマス発電や水素の利用について講義します。
第11回	非化石燃料によるエネルギー獲得の現状	オイルショック以来、わが国ではエネルギー資源に関する議論が現在も続けられています。また世界に目を向けると、温室効果気体の増加に伴う脱炭素社会の行動が要求されています。第１１回では太陽光や風力、地熱などの発電および、燃料電池、原子力発電の仕組みと問題点を考えていきます。

第12回	ゴミ問題とリサイクル	『ゴミ問題』は特に大都市における最も身近な環境問題であり、その解決としてのゴミの『リサイクル』が大きな課題になっています。第１２回ではゴミ処理とリサイクルに関する基礎と現状について講義します。
第13回	バイオマスの有用性	マイクロプラスチック問題の解決策の一つとして、『紙製品』の有効利用が模索されています。また化石燃料使用による温室効果気体の増加に対する解決策の一つとして、木質資源によるバイオ燃料獲得が議論されています。本講義では環境と資源の問題の解決策として有望視されている紙や木材などの『バイオマス』や、微生物の有効利用について講義する。
第14回	『環境と資源』まとめ	第２～１３回にかけて、環境と資源に関する現状と問題点および解決策について講義してきた。第１４回では総仕上げとして、人類をとりまく環境および資源に関する諸問題について振り返り、現状で議論されている解決策についてその有用性と今後起きる可能性がある問題点などを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
特に興味あるテーマに関しては授業の参考になるレベルまで学習し、授業時間内または終了後に質問する事。さらに、授業終了後自由に担当教員に議論を持ちかけるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
『環境化学（科学）』や『地球科学（化学）』に関する教科書であれば参考になります。

【成績評価の方法と基準】
3回のレポート課題（75%）に平常点（25%）を考慮して評価します。なお3回のレポートは全て提出が必須であり、１回でも未提出の場合は不可となりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学部／学科の学生が参加する講義です。多人数の時は教員の声が聞きにくい、黒板の字が見えにくい等有りますが積極的に前方で講義を受ける事をお勧めします。最新のニュースや物理および化学に関する基礎知識などで（一見すると）本題から外れる事が有りますが、可能な限り簡潔にまとめるようにします。

【Outline (in English)】
[Outline]
This course will introduce basic knowledge of the changes in the natural environment. It will also introduce natural resources that are on the earth which humans use.
[Course outline]
In order for human beings, who are prosperous on the earth, to continue to survive, rules regarding resources, energy, environmental conservation, etc. are becoming necessary. I would like to deepen my understanding while explaining the origin of the earth and the natural environment where sunlight is the only energy source, why it is necessary to build a sound material-cycle society.
[Learning Objectives]
It is understood that the global environment is a closed system, and in principle, there is no increase or decrease in elements, and substances do not enter or leave. Utilization of limited resources requires rules and must be fair. We confirm that effective use of natural energy with sunlight as the origin is essential from the viewpoint of environmental conservation and permanence. How does R &D lead to our lives? I want to be interested in environmental chemistry (science).
[Learning activities outside of classroom]
4 hours is the standard for studying outside class hours such as preparation and review of this class. For topics of particular interest, study to a level that will be helpful for the class, and ask questions during or after class hours. In addition, feel free to approach the instructor in charge after the class.
[Grading Criteria /Policy]
Evaluate 3 report assignments (75%) with normal points (25%) in mind.
Please note that all three reports must be submitted, and if even one report has not been submitted, it will not be possible.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

環境と資源

中嶋　吉弘

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球で大繁栄している人類が今後も生存するには資源、エネルギー、環境保全などに対するルールが必要になって来ている。なぜ循環型社会の構築が必要なのか地球の成り立ち、太陽光を唯一のエネルギー源とした自然環境を説明しながら理解を深めたい。

【到達目標】
地球環境は閉鎖系で原則として元素の増減は無く、物質も出入りしない事の理解を得る。限り有る資源の活用にはルールが必要でフェアーでなければならない。太陽光を原点とした自然エネルギーの有効利用は環境保全や永続性の観点からも必須である事を確認します。研究開発がどのように我々の生活に結びつくのか？　環境化学（科学）に興味を持てる様にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
環境問題や資源枯渇の問題が注目されているが、これらの問題が必ずしも一般の人々に正しく理解されているとは言えないのが現実である。この講義では環境問題やエネルギー、資源等の問題について、理科系の学部学生として最低限知っておく事が望ましい知識を伝えるとともに、これらの社会的な問題に対して問題意識を持つきっかけとなる様な機会を作る事をねらいとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	担当講師の自己紹介と本講義の概要、これまでの研究内容と成果の紹介などを話ながら、今後の授業方針を告知します。
第2回	地球科学の基礎	我々人類は地球上で誕生し、進化を経て地球環境の恩恵と受ける一方で、様々な問題を引き起こしています。第２回では原始地球の誕生から生物の進化、人類の誕生に至る現在の地球を取り巻く環境を、『大気』・『水域』・『土壌』の観点から講義します。
第3回	生態系と物質循環	第２回に引き続き、第３回では地球環境の現状について、『生態系』と『物質循環』の観点を加えて、生物と物質の交換を講義します。
第4回	環境保護と環境基準	科学技術の発展は人類の生活を豊かにする一方で、多くの環境および資源に関する問題を生み出しています。第４回では環境問題の歴史を振り返りながら、人類と環境汚染・環境保護・健康影響について講義します。
第5回	温室効果気体と気候変動	現在最も解決すべき環境問題として、温室効果気体の増加とそれに伴う気候変動が挙げられます。第５回では温室効果気体に関します基本的な科学的知見と気候変動に関します状況について講義します。
第6回	オゾン層破壊とオゾンホール	オゾン層破壊は国際的な枠組みが定められた大気環境学のモデルケースです。第６回ではオゾン層破壊のメカニズムとオゾンホールの発生過程、国際的な枠組みである『モントリオール議定書』とオゾン層の現状について講義します。
第7回	大気汚染と生態系への影響	『光化学オキシダント』や『PM2.5問題』、『酸性雨』などの大気汚染は我々が最も身近に接してきた環境問題です。第７回ではこれら大気汚染問題の基礎と現状、生態系への影響（第３－４回と一部重複）を講義します。
第8回	マイクロプラスチック汚染とPOP	最近マイクロプラスチック汚染が最近の環境問題として警鐘を鳴らし、これを受けてプラスチックの削減運動が進められています。第８回では『マイクロプラスチック』とは何か、なぜ発生しますのか、何が問題なのか、そしてマイクロプラスチック削減運動の現状を講義します。
第9回	資源の有効利用	人類は地球上の様々な資源を活用することで発展を遂げ、一方で環境問題を引き起こしています。第９回では人類の歴史を振り返りながら、人類が活用している、または今後活用が期待されている様々な資源について講義します。
第10回	化石燃料の今昔と新規燃料	２１世紀においても人類は多くの石油や石炭を使用し、さらに『シェールガス』や『メタンハイドレート』などの新規の化石燃料の利用を模索しています。第１０回では従来の石油石炭に加え、シェールガスやメタンハイドレートなどの化石燃料の基礎と問題点、そして近年盛んに利用されているバイオ燃料、木質バイオマス発電や水素の利用について講義します。
第11回	非化石燃料によるエネルギー獲得の現状	オイルショック以来、わが国ではエネルギー資源に関する議論が現在も続けられています。また世界に目を向けると、温室効果気体の増加に伴う脱炭素社会の行動が要求されています。第１１回では太陽光や風力、地熱などの発電および、燃料電池、原子力発電の仕組みと問題点を考えていきます。

第12回	ゴミ問題とリサイクル	『ゴミ問題』は特に大都市における最も身近な環境問題であり、その解決としてのゴミの『リサイクル』が大きな課題になっています。第１２回ではゴミ処理とリサイクルに関する基礎と現状について講義します。
第13回	バイオマスの有用性	マイクロプラスチック問題の解決策の一つとして、『紙製品』の有効利用が模索されています。また化石燃料使用による温室効果気体の増加に対する解決策の一つとして、木質資源によるバイオ燃料獲得が議論されています。本講義では環境と資源の問題の解決策として有望視されている紙や木材などの『バイオマス』や、微生物の有効利用について講義する。
第14回	『環境と資源』まとめ	第２～１３回にかけて、環境と資源に関する現状と問題点および解決策について講義してきた。第１４回では総仕上げとして、人類をとりまく環境および資源に関する諸問題について振り返り、現状で議論されている解決策についてその有用性と今後起きる可能性がある問題点などを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
特に興味あるテーマに関しては授業の参考になるレベルまで学習し、授業時間内または終了後に質問する事。さらに、授業終了後自由に担当教員に議論を持ちかけるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
『環境化学（科学）』や『地球科学（化学）』に関する教科書であれば参考になります。

【成績評価の方法と基準】
3回のレポート課題（75%）に平常点（25%）を考慮して評価します。なお3回のレポートは全て提出が必須であり、１回でも未提出の場合は不可となりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学部／学科の学生が参加する講義です。多人数の時は教員の声が聞きにくい、黒板の字が見えにくい等有りますが積極的に前方で講義を受ける事をお勧めします。最新のニュースや物理および化学に関する基礎知識などで（一見すると）本題から外れる事が有りますが、可能な限り簡潔にまとめるようにします。

【Outline (in English)】
[Outline]
This course will introduce basic knowledge of the changes in the natural environment. It will also introduce natural resources that are on the earth which humans use.
[Course outline]
In order for human beings, who are prosperous on the earth, to continue to survive, rules regarding resources, energy, environmental conservation, etc. are becoming necessary. I would like to deepen my understanding while explaining the origin of the earth and the natural environment where sunlight is the only energy source, why it is necessary to build a sound material-cycle society.
[Learning Objectives]
It is understood that the global environment is a closed system, and in principle, there is no increase or decrease in elements, and substances do not enter or leave. Utilization of limited resources requires rules and must be fair. We confirm that effective use of natural energy with sunlight as the origin is essential from the viewpoint of environmental conservation and permanence. How does R &D lead to our lives? I want to be interested in environmental chemistry (science).
[Learning activities outside of classroom]
4 hours is the standard for studying outside class hours such as preparation and review of this class. For topics of particular interest, study to a level that will be helpful for the class, and ask questions during or after class hours. In addition, feel free to approach the instructor in charge after the class.
[Grading Criteria /Policy]
Evaluate 3 report assignments (75%) with normal points (25%) in mind.
Please note that all three reports must be submitted, and if even one report has not been submitted, it will not be possible.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

宇宙と地球

石川　壮一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
太陽系外惑星、ダークマター、オーロラなど、宇宙や地球に関する最近の研究成果を題材として、それぞれの現象の理解、地球と宇宙との関係や歴史について講義する。

【到達目標】
・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	各回の講義概要
第2回	運動の法則	ニュートンの運動法則と万有引力の法則について
第3回	星の運動	重力に基づく運動の例として、惑星の運動や、銀河内部の恒星の運動について
第4回	地球上での運動	空気抵抗や自転による慣性力等地球上における運動について
第5回	電磁気の法則	電磁気現象の基本的法則について
第6回	物の色と光(1)	光の現象の例として、地上の風景、物の温度と色との関係等について
第7回	物の色と光(2)	光の干渉や屈折による現象、原子スペクトル等について
第8回	オーロラと地磁気	オーロラの発光機構、オーロラと太陽、オーロラと地磁気等、オーロラ現象の物理学について
第9回	宇宙の歴史	宇宙の歴史を知るための方法や、宇宙の始まりについて
第10回	星の一生と元素合成(1)	恒星の誕生と死について
第11回	星の一生と元素合成(2)	恒星内部で起こっている元素合成と、星の一生との関係について
第12回	太陽系の形成	我々の太陽系の形成過程について
第13回	地球の物理	地球の表面のプレート運動や地球の内部構造に関する最近の話題について
第14回	系外惑星	太陽系外惑星の探査の方法とその最近の成果について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。　また、別途提示する演習問題を解いておくこと。
・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】
・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J.T.Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）
「基礎物理学」　第３版　原　康夫　著（学術図書出版社、2006）
（その他必要に応じて、授業内で紹介する）

【成績評価の方法と基準】
期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。
配分は、期末試験の結果を７割、平常点を３割とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
In this class, students will learn recent research results of various phenomena in the universe and the earth such as the aurora, the existence of extrasolar planets, dark matter, etc.
At the end of the course, students are expected to deepen the understanding of the universe and the earth: history and their relations.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:　Term-end examination(70%) and in class contribution including short reports (30%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

宇宙と地球

石川　壮一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
太陽系外惑星、ダークマター、オーロラなど、宇宙や地球に関する最近の研究成果を題材として、それぞれの現象の理解、地球と宇宙との関係や歴史について講義する。

【到達目標】
・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	各回の講義概要
第2回	運動の法則	ニュートンの運動法則と万有引力の法則について
第3回	星の運動	重力に基づく運動の例として、惑星の運動や、銀河内部の恒星の運動について
第4回	地球上での運動	空気抵抗や自転による慣性力等地球上における運動について
第5回	電磁気の法則	電磁気現象の基本的法則について
第6回	物の色と光(1)	光の現象の例として、地上の風景、物の温度と色との関係等について
第7回	物の色と光(2)	光の干渉や屈折による現象、原子スペクトル等について
第8回	オーロラと地磁気	オーロラの発光機構、オーロラと太陽、オーロラと地磁気等、オーロラ現象の物理学について
第9回	宇宙の歴史	宇宙の歴史を知るための方法や、宇宙の始まりについて
第10回	星の一生と元素合成(1)	恒星の誕生と死について
第11回	星の一生と元素合成(2)	恒星内部で起こっている元素合成と、星の一生との関係について
第12回	太陽系の形成	我々の太陽系の形成過程について
第13回	地球の物理	地球の表面のプレート運動や地球の内部構造に関する最近の話題について
第14回	系外惑星	太陽系外惑星の探査の方法とその最近の成果について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。　また、別途提示する演習問題を解いておくこと。
・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】
・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J.T.Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）
「基礎物理学」　第３版　原　康夫　著（学術図書出版社、2006）
（その他必要に応じて、授業内で紹介する）

【成績評価の方法と基準】
期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。
配分は、期末試験の結果を７割、平常点を３割とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
In this class, students will learn recent research results of various phenomena in the universe and the earth such as the aurora, the existence of extrasolar planets, dark matter, etc.
At the end of the course, students are expected to deepen the understanding of the universe and the earth: history and their relations.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:　Term-end examination(70%) and in class contribution including short reports (30%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生命の起源と進化

田島　寛隆

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命はどのように誕生し，進化してきたのか？
現在の知見を元にその道筋を概説する．

【到達目標】
始原生命の発生から人類の誕生に至るまでの生物進化の経緯について，科学的に説明できるようになることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
最初の数回で，授業内容を理解するための基本的なの知識について説明し，その後に生命の誕生と進化について概説する．高校で生物を選択しなかった学生にも分かりやすいように平易・簡潔な講義を行う．またトピックスに関連した回覧資料・視覚教材を適宜提供する．
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または
授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する
可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生命とは	生命とは何か
2	自然発生説と化学進化説	生命はどのようにして誕生したか
3	種とは何か	種の概念と分類法
4	進化論	進化の概念
5	原核生物の誕生	原核生物の出現と光合成の開始
6	真核生物の誕生	真核生物の起源と細胞共生説
7	振り返り	ここまでのまとめ等
8	エディアカラ生物群	多細胞生物の誕生と進化
9	カンブリア爆発	カンブリア紀の生物の爆発的多様化
10	オルドビス紀〜シルル紀	魚類の出現と植物の陸上進出
11	デボン紀〜ペルム紀	動物の陸上進出と進化
12	三畳紀〜白亜紀	恐竜の出現と繁栄
13	新生代	鳥類・哺乳類の進化 ヒトの出現と進化
14	振り返り2	全体まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は各2時間程度を標準とする．配付資料と授業ノートをよく読み返し，内容を十分に理解すること．生物の起源と進化に関連する書籍等を読み，理解をより深めるのが望ましい．

【テキスト（教科書）】
特に指定しない．適宜，資料を配布する．

【参考書】
講義中に適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
基本的に中間試験および学期末試験で評価する．
授業の実施状況に伴い評価方法は変更することがある．

【学生の意見等からの気づき】
板書が読みにくい旨の指摘が多かったので改善する。

【その他の重要事項】
講義内容に関する質問・感想・要望は随時受け付ける．

【Outline (in English)】
【Outline】
How did life come into being and how did it evolve?
This lecture outlines the pathway based on current knowledge.
【Objectives】
The object of this course is to enable students to scientifically explain the history of biological evolution from the development of primordial life to the birth of humans.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review for this class should take about several hours. Read the handouts and class notes carefully to fully understand the content. It is recommended to read books related to the origin and evolution of organisms to deepen your understanding.
【Grading Criteria /Policy】
Basically, the evaluation is done by the examination at the end of the term. The evaluation method is subject to change depending on the status of the class.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生命の起源と進化

石黒　亮

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命はどのように誕生し、現在の我々に至るまで進化してきたのか？生命の誕生からヒトの誕生に至るまでのその道筋を時系列順に概説する。

【到達目標】
受講生が、『生物の進化』の概念を理解し、生命の誕生から人類の誕生に至るまでの歴史を把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
高校で生物学を履修しなかった学生もフォローできるように、視覚的資料を多数用意し平易な表現を用いて生命の誕生と進化について概説する。
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または
授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する
可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は，原則として対面で行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	講義内容の概説と現代の地球上の生物の多様性について。
第2回	細胞・生体高分子	生物の構成単位である細胞とそこに含まれる生体内高分子の働きについて。
第3回	進化論	自然発生説と進化論。
第4回	生命の起源	始原地球の環境と生命の誕生。
第5回	光合成細菌の誕生	光合成について。
第6回	好気呼吸の発明	酸素を利用したエネルギー獲得方法の誕生。
第7回	真核生物の誕生	真核生物の誕生と細胞分化による役割分担。
第8回	多様な生物の出現	先カンブリア時代及びカンブリア大爆発と無脊椎動物の進化。
第9回	海洋生物の繁栄と陸上進出	脊椎動物の誕生および動植物の上陸戦略。
第10回	両生類と爬虫類の進化	肺を得た動物の適応放散と形態変化。地球規模で起こった大量絶滅。
第11回	恐竜の時代	恐竜や大型ハチュウ類の進化と繁栄、その絶滅
第12回	鳥類と哺乳類の進化	鳥類と哺乳類の環境適応と恒常性および繁殖。
第13回	現世人類の登場	類人猿の進化と現世人類の誕生。
第14回	病原体と進化	ウイルス、寄生生物の起源と進化、RNAワールド仮説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布した資料や授業支援システムにアップロードされたファイルを参照し、内容を予習・復習すること。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、２時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
特に指定しないが、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価はレポートの提出により行う。加えて、講義内容を確認する為の小テストを講義時間中に実施する場合がある。具体的な方法と基準は、講義の中で伝える。
成績評価要素：平常点（25%）、小テスト（25%）、レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムを活用する。

【Outline (in English)】
How has life occurred and has evolved to the present? Outlines the path from the origin of life to the emergence of humans.The goal is to enable students to understand the concept of "Evolution of living things" and to understand the history from the birth of life to the birth of humankind. This lecture requires the submission of a report to evaluate grades. In addition, quizzes to confirm the content of the lecture may be held during the lecture time. The specific procedure will be given in the lecture.
Grade evaluation factors: Normal score (25%), quiz (25%), report (50%)

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生命の起源と進化

田島　寛隆

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命はどのように誕生し，進化してきたのか？
現在の知見を元にその道筋を概説する．

【到達目標】
始原生命の発生から人類の誕生に至るまでの生物進化の経緯について，受講学生が科学的に説明できるようになることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
最初の数回で，授業内容を理解するための基本的なの知識について説明し，その後に生命の誕生と進化について概説する．高校で生物を選択しなかった学生にも分かりやすいように平易・簡潔な講義を行う．またトピックスに関連した回覧資料・視覚教材を適宜提供する．
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または
授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する
可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生命とは	生命とは何か
2	自然発生説と化学進化説	生命はどのようにして誕生したか
3	種とは何か	種の概念と分類法
4	進化論1	進化の概念
5	原核生物の誕生	原核生物の出現と光合成の開始
6	真核生物の誕生	真核生物の起源と細胞共生説
7	振り返り	ここまでのまとめ
8	エディアカラ生物群	多細胞生物の誕生と進化
9	カンブリア爆発	カンブリア紀の生物の爆発的多様化
10	オルドビス紀～シルル紀	魚類の出現と植物の陸上進出
11	デボン紀～ペルム紀	動物の陸上進出と進化
12	三畳紀～白亜紀	恐竜の出現と繁栄
13	新生代	鳥類・哺乳類の進化 ヒトの出現と進化
14	振り返り2	全体まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は各2時間程度を標準とする．配付資料と授業ノートをよく読み返し，内容を十分に理解すること．生物の起源と進化に関連する書籍等を読み，理解をより深めるのが望ましい．

【テキスト（教科書）】
特に指定しない．適宜資料を配布する．

【参考書】
講義中に適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
基本的に中間試験及び学期末試験で評価する．
授業の実施状況に伴い評価方法は変更することがある．

【学生の意見等からの気づき】
板書が読みにくい旨の指摘が多かったので改善する。

【その他の重要事項】
講義内容に関する質問・感想・要望は随時受け付ける．

【Outline (in English)】
【Outline】
How did life come into being and how did it evolve?
This lecture outlines the pathway based on current knowledge.
【Objectives】
The object of this course is to enable students to scientifically explain the history of biological evolution from the development of primordial life to the birth of humans.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review for this class should take about several hours. Read the handouts and class notes carefully to fully understand the content. It is recommended to read books related to the origin and evolution of organisms to deepen your understanding.
【Grading Criteria /Policy】
Basically, the evaluation is done by the examination at the end of the term. The evaluation method is subject to change depending on the status of the class.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物の多様性

青木　誠志郎、柴尾　晴信

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球上の生物はその誕生以来約40億年という歴史の中、さまざまな環境に適応し多様化を遂げてきました。多様な生物が示す性質の中には、現在の科学で解明にようやく近づきつつある謎がたくさんあります。例えば、アリやハチにはなぜ社会的な行動が見受けられるのでしょうか？ メスとオスの形の違いは、なぜ存在するのでしょうか？ 果たしてDNAや遺伝子の研究で、生物の形や性質の多様性は、すべて説明できるのでしょうか？ 本講義では第一に、これらの謎の不思議やその面白さについて、具体的な紹介から始めます。そして、生物の特徴が世代と共に変化し環境に適応する基本的な仕組みの解明の学問である、進化学や生態学を理解することで、そのような謎に迫る研究とその方法について解説します。さらに進化が生み出した生物多様化の結果とその歴史、そして生物同士の関わり合いを学び、ヒトを含めた生物の多様性と自然環境全体との関係を考えることを、全体の目的とします。

【到達目標】
生物同士あるいは生物と環境（生物も環境の一部であることに注意）の関わりについて興味と関心をもち、生物の階層としての遺伝子-個体-集団の理解を背景に、生物の多様性と進化についての普遍的な考え方と、それら原理の理解を深めることを第一の目標とします。さらに、生物多様性の減少が将来の地球環境に及ぼす影響を理解し、生態系の保全方法について科学的な視点から捉えて評価・提案できる応用的な能力を養成することを第二の目標とします。具体的には、以下のようなことがらの理解を目指します。
・進化の概念について社会通念と科学的考え方の違いを説明できる。
・「そもそも生物にとって環境とは何か？」の問いを元に、生物が環境に適応する機構を説明できる。
・生物個体は他の生物と関わりながら、お互いに支えあって生きていることを説明できる。
・生物と自然環境の関わりを推論できる。
・生物個体にとって自分以外の周りのものはすべて環境であること、（そして環境の一部である生物も進化するので）生物的環境は一定ではないことを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は、第1回から第3回までをオンライン授業、第4回以降を対面授業として実施する予定です。第1回はHoppiiとZoomを使用したオンライン授業となりますので、ご注意ください。授業は柴尾晴信と青木誠志郎の2名の教員が分担して担当します。第1回から第7回までは柴尾が、第8回から第14回までは青木が担当します。講義では、配布プリントとスライドを使用して進めます。
　毎回の授業では、リアクションペーパー（授業内容に関する問題、感想、質問、要望など）を配布し、授業終了後に回収します。また、Hoppiiのテスト/アンケートを活用して宿題を出します。単位を取得するには、授業ごとのリアクションペーパーの提出、Hoppiiを用いた宿題の提出、期末試験の受験の3つが必要です。授業内容や運営に変更が生じた場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	柴尾1: 性の進化と多様性	性の起源と役割、生殖多様性
第2回	柴尾2: 性の進化と多様性	雄と雌はなぜ姿が異なるのか? 性的二型と性淘汰
第3回	柴尾3: 生活史の多様性	自然淘汰、適応、トレードオフ
第4回	柴尾4: 生物間相互作用	生物環境に対する適応：共進化と軍拡競争
第5回	柴尾5: 信号・コミュニケーション	種内・種間コミュニケーションの多様性、信号の発信者と受信者の共進化
第6回	柴尾6: 社会性・協力行動	社会性進化と血縁淘汰、包括適応度
第7回	柴尾7: 社会性昆虫はなぜ進化したのか？	社会性進化の生態的条件、昆虫社会内の遺伝的多様性と利害対立
第8回	青木1: 社会性・協力行動をもう一歩深める	協力行動とゲーム理論
第9回	青木2: 性の進化をもう一歩深める	性比の考え方
第10回	青木3: 生物の多様性の調べ方 1	系統学
第11回	青木4: 生物の多様性の調べ方 2	分子系統学
第12回	青木5: ウィルスから多様性を考える 1	突然変異
第13回	青木6: ウィルスから多様性を考える 2	進化学
第14回	青木7: 生物の集団の考え方	集団遺伝学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。レポート課題あるいは宿題、リアクションペーパーなどを活用してください。また授業の配布資料を読んで準備学習や復習をして欲しいと考えています。

【テキスト（教科書）】
特定のものは指定しません。講義の理解に必要な内容は、全て配布しますので、ご安心ください。授業中あるいはWeb上で、随時プリントとして配ります。

【参考書】
C. ジンマー著「進化-生命のたどる道」岩波書店
ニコラス・H. バートンら著「進化―分子・個体・生態系」メディカルサイエンスインターナショナル
D. サダヴァ他著「カラー図解アメリカ版大学生物学の教科書第４巻　進化生物学」講談社(ブルーバックス)
日本生態学会編「生態学入門」第2版、東京化学同人
日本生態学会編「行動生態学」共立出版
デイビス・クレブス・ウェスト著「行動生態学」原著第4版、共立出版
Jon C. Herron 他著「Evolutionary Analysis」Pearson
木村資生著「生物進化を考える」岩波新書
スティーヴン・ジェイグールド著「ダーウィン以来―進化論への招待」早川書房
　その他、参考書は授業時間内に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、リアクションペーパーや宿題を含む平常点およびレポート（40～60%）、期末試験（40～60%）を総合して評価します。単位を取得するには、授業終了時に回収するリアクションペーパーの提出、Hoppiiのテスト/アンケートを用いた宿題の提出、期末試験の受験の3つが必要です。また、授業への積極的な参加（質問など）も平常点として評価に加えます。

【学生の意見等からの気づき】
質問や要望をいつでも応募しています。早急に授業に反映させたいと考えています。分かりやすい授業への対応を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
講義の順序や内容は、大学あるいは教員の都合により変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces biodiversity science to students. Biodiversity science is an emerging and highly integrative field of research dealing with all aspects of biological diversity and the relationship among living organisms. It also deals with the history of life in the world and the cause of why various organisms and their relationships have been originated and maintained on earth. This course will incorporate ecological and evolutionary perspectives to understand the various subjects such as the tree of life, the taxonomy of organisms, biological interaction, animal communication, social behavior, sexual reproduction, and sexual dimorphism. We will also address approaches and techniques for the analyses of ecology, ethology, phylogeny, and evolutionary biology.
【Learning Objectives】
Students who successfully complete this course will be able to:
A. Understand the sources of genetic variation, evolutionary process, and consequent biodiversity.
B. Explain the importance of biological interactions and signals for social behavior.
C. Show the methods of how to draw a timeline of the history of life on earth.
D. Explain why sexual reproduction and dimorphism are present in many organisms.
【Learning activities outside of classroom】
Before and after each class meeting, students will be expected to read the handouts. You will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is about two hours for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy）】
Overall grade in the class will be decided based on the assignments and reports (50%) and term-end examination (50%), and in-class contribution.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物の多様性

柴尾　晴信

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球上の生物は、その誕生から約40億年にわたる歴史の中で、多様な環境に適応しながら、さまざまな進化を遂げてきました。本講義では、生物の多様性と共通性に焦点を当て、進化学および生態学の視点から、その基盤となるメカニズムを学びます。
講義ではまず、宇宙や地球の誕生から生命の起源に至るまでの歴史を概観し、生命進化の基盤となる分子レベルの変化や遺伝の仕組みを理解します。さらに、自然淘汰が環境適応に果たす役割を学ぶとともに、生存や繁殖に直接影響しない突然変異が集団内に広がる中立進化の考え方を通して、遺伝的多様性がどのように蓄積されるのかを考察します。
続いて、性の進化や生殖戦略、オスとメスで異なる形質が生じる理由（性的二型）について取り上げ、性淘汰が進化に及ぼす影響を具体例とともに考えます。また、生物の生活史におけるトレードオフや、生物間相互作用によって形成される適応パターン、さらには共進化のダイナミクスについても理解を深めます。
特に、生物が色や音、化学物質などを用いて信号を発し、種内外で情報を伝達するコミュニケーションの仕組みに注目します。これらの行動が生存や繁殖成功にどのように結びついているのかを通して、信号の発信者と受信者の共進化について学びます。さらに、種分化と生物多様性に関して、種の定義や進化的分岐のプロセス、適応放散の事例を取り上げ、生物多様化の背景を理解します。加えて、アリやハチなどの社会性昆虫や、ヒトを含む社会性動物が進化の過程で協力行動を発展させてきたメカニズムについても考察します。
最後に、生物多様性の進化的背景とその生態学的意義を学び、生物多様性の喪失が生態系や人間社会に与える影響について考えます。本講義を通して、自然環境と私たちの生活との深い関わりを理解し、生物多様性保全の重要性について考えることを目的とします。

【到達目標】
本講義では、生物と環境、生物同士の相互関係に対する興味を育み、生物多様性や進化に関する基本原理を理解することを目指します。また、生物多様性の減少が地球環境に与える影響を科学的に評価し、生態系の保全に貢献する視点を養うことを目標とします。
具体的には以下の点を理解できることを目指します：
1. 進化と環境の関係
・ 生物個体にとって、自分以外の周りのものすべてが「環境」であることを説明できる。
・環境の一部である生物も進化するため、生物的環境が一定ではないことを具体例と共に説明できる。
2. 進化と適応のメカニズム
・生物が自然淘汰を通じて環境に適応してきた仕組みを説明できる。
・性淘汰や性的二型を含む性の進化を理解し、社会性や協力行動の進化が生物間の適応に与える役割を説明できる。
3. 生物間相互作用と共進化
・生物同士の相互作用が適応や進化に与える影響を説明できる。
・捕食者と被食者あるいは寄生者と宿主の「軍拡競争」や共生関係を含む共進化の具体例、さらに生物間のコミュニケーションが進化に与える影響を説明できる。
4. 応用的視点
・生物多様性の減少が地球環境や生態系に与える影響を理解し、その保全方法を科学的視点に基づいて評価・提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義は、全14回を対面授業で実施する予定です。授業はスライドを使用して進めます。毎回の授業では、リアクションペーパー（質問、講義を受けての感想、要望など）を配布し、授業終了後に回収する予定です。また、授業後には学習支援システムを通じて確認テストを実施します。単位を取得するには、これらの提出が必要です。変更が生じた場合は、詳細を学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生物界の共通性と多様性１	宇宙と地球の誕生
第2回	生物界の共通性と多様性２	化学進化と生命進化
第3回	進化のメカニズム１	進化をもたらす分子、遺伝と突然変異
第4回	進化のメカニズム２	自然淘汰と中立進化
第5回	適応と自然淘汰	進化の論理と具体例
第6回	性の進化と多様性１	性の起源と役割、生殖戦略の多様性
第7回	性の進化と多様性２	オスとメスはなぜ姿が異なるのか？ 性的二型と性淘汰
第8回	生活史の多様性	自然淘汰、適応、トレードオフ
第9回	生物間相互作用１	生物環境に対する適応：多様な関係が形づくる適応のパターン
第10回	生物間相互作用２	個体からゲノムレベルまでの共進化と軍拡競争
第11回	種分化と多様性	種の定義、異所的種分化、同所的種分化、適応放散
第12回	社会性・協力行動	社会性進化と血縁淘汰、包括適応度
第13回	社会性昆虫はなぜ進化したのか？	社会性進化の生態的条件、昆虫社会内の遺伝的多様性と利害対立
第14回	信号・コミュニケーション	種内外のコミュニケーションの多様性、信号の発信者と受信者の共進化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備および復習時間は、それぞれ2時間を目安としてください。レポート課題、確認テスト、リアクションペーパーなどを積極的に活用し、理解を深めてください。また、学習支援システムを通じて配布する授業スライドを活用し、効果的に準備学習や復習を進めていただければと思います。

【テキスト（教科書）】
特定のものは指定しません。講義の理解に必要な内容はすべて配布しますので、ご安心ください。授業スライドは学習支援システム上で随時配布いたします。

【参考書】
C. ジンマー著「進化-生命のたどる道」岩波書店
ニコラス・H. バートンら著「進化―分子・個体・生態系」メディカルサイエンスインターナショナル
D. サダヴァ他著「カラー図解アメリカ版大学生物学の教科書第4巻 進化生物学」講談社(ブルーバックス)
日本生態学会編「生態学入門」第2版、東京化学同人
日本生態学会編「行動生態学」共立出版

デイビス・クレブス・ウェスト著「行動生態学」原著第4版、共立出版
木村資生著「生物進化を考える」岩波新書
スティーヴン・ジェイグールド著「ダーウィン以来―進化論への招待」早川書房
　その他、参考書は授業時間内に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業で実施するリアクションペーパーや確認テストを含む平常点およびレポートで40～60%、期末に実施するオンライン到達度確認テストで40～60%を目安に評価します。単位取得には、リアクションペーパー、確認テスト、レポートの提出、ならびに期末の到達度確認テストの受験が必須です。また、授業中の質問や積極的な参加も平常点に含めて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
質問や要望はいつでも受け付けています。いただいた意見は、必要に応じて授業に反映します。分かりやすい授業を目指して対応していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
講義の順序や内容は、大学あるいは教員の都合により変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Life on Earth has undergone remarkable diversification and adaptation over approximately 4 billion years since its origin. This course explores the diversity and commonalities of living organisms through the perspectives of evolutionary biology and ecology, using the tree of life as a guiding framework to understand how all organisms are interconnected.
This course will begin by examining the history of the universe and Earth, leading up to the origins of life, and explore the molecular and genetic mechanisms that form the foundation of evolution. Students will learn how natural selection, neutral evolution, and adaptation have shaped the diversity of life, recognizing that the "environment" for any organism encompasses not only physical factors (climate, geology) but also dynamic interactions with other organisms.
Building upon these foundational concepts, we will delve into the evolution of sex and reproductive strategies. We will discuss why males and females often exhibit different physical traits (sexual dimorphism), with an emphasis on sexual selection as a driving force behind these differences.
Furthermore, this course will cover biological interactions and coevolution, exploring how predator-prey dynamics, host-parasite interactions, symbiotic relationships, and communication systems drive adaptation at ecological and genomic levels. We will emphasize that these interspecies interactions are crucial components of the ever-changing "environment" for each organism.
In addition, the processes of speciation, evolutionary divergence, and adaptive radiation will be studied to understand how biodiversity arises. We will examine the social evolution of animals, including humans, and investigate how kin selection, cooperation, and communication contribute to the formation of complex societies.
Finally, students will explore the role of biodiversity in maintaining ecosystems and consider the broader implications of biodiversity loss, recognizing that the loss of any species can have cascading effects on the entire "web of life".
By the end of the course, students will gain a comprehensive understanding of the principles of evolution and ecology, appreciate the interconnectedness of life as visualized through the tree of life, and critically evaluate how evolutionary and ecological processes shape the natural world and human societies, recognizing the dynamic nature of the environment and the crucial role of interspecies interactions in driving evolutionary change.
【Learning Objectives】
Students who successfully complete this course will be able to:
A. Describe the sources of genetic variation (mutation, recombination, gene flow), mechanisms of evolution (natural selection, genetic drift, gene flow, sexual selection, kin selection), and how these processes contribute to the origin and maintenance of biodiversity, including the dynamic interactions between organisms and their environment.
B. Describe biological interactions and coevolution, with examples such as predator-prey dynamics, host-parasite relationships, symbiosis, and communication systems, and explain how these interactions drive evolutionary change in both interacting species.
C. Analyze and interpret scientific data related to biodiversity and critically evaluate the impact of human activities on biodiversity.
D. Evaluate the impact of biodiversity loss on ecosystems and propose scientifically-based conservation strategies to address these challenges.
【Learning activities outside of classroom】
Before and after each class meeting, students will be expected to read the handouts. You will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is about four hours for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy)】
Overall grade in the class will be decided based on the assignments and reports (50%) and term-end examination (50%), and in-class contribution.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物の多様性

青木　誠志郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物学には、生物を構成要素として分析する還元的なアプローチと、生物同士や生物と環境の関係性を探るアプローチがあります。本授業では主に後者に焦点を当て、生物多様性について学びます。たとえば、「なぜ生物は競争だけではなく、協力するのか？」「オスとメスの形態や行動の違いはどのように進化したのか？」「遺伝子のみで生物の形や性質を説明できるのか？」といった問いについて、具体例を交えながら考察します。
　生物多様性（Biodiversity）は一般に「生態系の多様性」「種多様性」「遺伝的多様性」の3つの観点から説明されます。本授業では、それぞれを生態学、系統分類学、集団遺伝学と関連付けながら学びます。さらに、多様性の変化と環境適応の仕組みを探る進化学の視点を取り入れ、最終的に生物多様性と人間を含む生態系全体との関わりを理解することを目標とします。

【到達目標】
　本授業では、以下の理解を目指します。
・遺伝子・個体・集団といった階層構造を踏まえて、生物の多様性を説明できる。
・生物多様性を生態系、生物種、遺伝子の観点から説明できる。
・進化の概念について、社会通念と科学的考え方の違いを説明できる。
・「生物にとって環境とは何か？」を考え、生物が環境に適応する仕組みを説明できる。
・生物個体は他の生物と関わりながら生きていることを説明できる。
・性の進化的意義とその生物学的背景を説明できる。
・生物多様性の変化が地球環境に与える影響を理解し、生態系の保全方法について科学的な視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は配布プリントとスライドを使用して進めます。授業スライド資料は学習支援システムを通じて事前に配布します。講義前にダウンロードし、授業中にはタブレットやノートパソコンを利用して参照するとともに、復習にも利用してください。毎回、授業内容に関する小テストや質問を記入するリアクションペーパーを配布し、回収します。また、学習支援システムを活用して宿題小テストを出題します。成績はリアクションペーパー、宿題小テスト、期末試験を総合して評価します。授業内容の変更は、学習支援システムを通じて通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、様々な生物の多様性の考え方
第2回	系統分類学(1)	系統樹の考え方
第3回	系統分類学(2)	系統解析の方法
第4回	性選択	オスとメスの違いはなぜ生まれるのか？
第5回	有性生殖の原因	性はなぜ存在するのか？
第6回	性比	オスとメスの数が1:1になるのは当たり前か？
第7回	生態学(1)	生態系から見た多様性
第8回	生態学(2)	種多様性
第9回	進化学	遺伝的多様性
第10回	生物間相互作用(1)	利己的行動と利他的行動
第11回	生物間相互作用(2)	血縁選択
第12回	生物間相互作用(3)	進化ゲーム理論入門
第13回	集団遺伝学(1)	ハーディー・ワインベルク平衡、移動による進化
第14回	集団遺伝学(2)	選択と変異、浮動による進化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。宿題小テストやリアクションペーパーなどを活用してください。また授業の配布資料を準備学習や復習に利用してください。

【テキスト（教科書）】
特定のものは指定しません。講義の理解に必要な内容は、授業中あるいは学習支援システムを用いて全て配布しますので、ご安心ください。

【参考書】
池内他監訳「キャンベル生物学」第11版（丸善出版）
Herron他著「Evolutionary Analysis」（Pearson）
デイビス他著「行動生態学」第4版（共立出版）
酒井他著「生き物の進化ゲーム」初版、共立出版
Axelrod著「つきあい方の科学」（ミネルヴァ書房）
　その他、参考書は授業時間内に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は以下の3つの要素を総合して評価します。
・リアクションペーパー（25%）：授業終了時に回収する小テストとしつもんについてのリアクションペーパー
・宿題小テスト（25%）：学習支援システムのテスト/アンケートを通じて出題される宿題小テスト
・期末試験（50%）：授業全体の理解度を測る試験
　さらに、授業への積極的な参加（質問など）も平常点として評価に加えます。

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい授業への対応を心がけます。質問や要望は随時受け付け、授業に反映します。

【学生が準備すべき機器他】
特にございません。

【その他の重要事項】
講義の順序や内容は、進行状況や学習の必要に応じて調整する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces students to biodiversity science. Biology encompasses both a reductionist approach, which analyzes organisms as a collection of components, and a holistic approach, which explores relationships among organisms and between organisms and their environment.　This course primarily focuses on the latter, examining biodiversity through key questions such as:
・Why do organisms cooperate rather than compete exclusively?
・How have morphological and behavioral differences between males and females evolved?
・Can an organism’s form and traits be explained solely by its genes?
These topics will be explored through concrete examples.

Biodiversity is generally classified into three levels: ecosystem diversity, species diversity, and genetic diversity. This course examines each of these aspects in relation to ecology, systematics, and population genetics, respectively. Additionally, an evolutionary perspective will be incorporated to explore changes in biodiversity and mechanisms of environmental adaptation. The ultimate goal of the course is to develop an understanding of the relationship between biodiversity and ecosystems, including human influences.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students will be able to:
・Explain biological diversity based on the hierarchical structure of genes, individuals, and populations.
・Describe biodiversity from the perspectives of ecosystems, species, and genes.
・Explain the concept of evolution and distinguish between scientific understanding and common societal perceptions.
・Consider the question, What is the environment for an organism? and explain the mechanisms by which organisms adapt to their environment.
・Explain how individual organisms interact with other organisms in their ecosystem.
・Explain the evolutionary significance of sex and its biological background.
・Understand the impact of biodiversity changes on the global environment and evaluate ecosystem conservation methods from a scientific perspective.
【Learning activities outside of classroom】
Before and after each class session, students are expected to review the provided handouts. Additionally, students must complete all assigned coursework. On average, students should plan to spend approximately two hours per class meeting on preparation and review.
【Grading Criteria /Policy)】
Final grades will be determined based on the following components:
・Reaction papers (25%)
・Homework quizzes (25%)
・Term-end examination (50%)
In-class participation and contributions may also be considered in the final evaluation.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物質科学と先端技術

尾池　秀章

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物質科学は自然現象を明らかにするだけでなく，先端技術の開発基盤となる学問である。身のまわりの物質が，環境問題，エネルギー問題，社会生活にどのように関わっているかを意識しながら，その性質について概説する。理系学生の一般教養レベルとして知っておくべき事項および考え方を身につける。

【到達目標】
物質の構成要素を理解する。物質の様々な機能の発現機構を理解する。社会生活に物質科学がどのように応用されているかを理解する。また環境問題，エネルギー問題に対して，物質科学の観点から自身の考えをもてるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
具体的なテーマとして「空気」「オゾン層」「温暖化」「エネルギー」「水」「酸性雨」「原子力」「次世代エネルギー」「高分子材料」をとりあげ，配布するオンライン資料に沿って概説する。またテーマごとに内容の理解度をはかり自身の考えを問う課題を課す。基本的には授業計画に沿って進めるが，授業進度等により適宜変更することがある。また課題等に対しては，必要に応じて学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。
なお授業は対面のみの実施を予定しているが，履修者過多の場合は，対面とZoomによるハイブリッド形式を検討する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション，および 空気と物質科学	最初に授業の進め方について説明する。「空気と物質科学」では，空気の組成などを例にとりながら，物質のもととなる，元素，化合物に対する理解を深める。
第2回	空気と物質科学	第１回に引き続き，「空気と物質科学」をテーマに，大気汚染物質とはどのようなものかについても概説する。
第3回	オゾン層における物質科学	オゾンによる紫外線の遮蔽などを考えることによって，光のエネルギーが物質に与える影響について理解を深める。またオゾンの破壊にどのような物質が関わっているかについても考える。
第4回	地球温暖化に関わる物質	二酸化炭素の増大は地球を温暖化させると言われている。二酸化炭素のもつ温室効果ガスとしての働きを通して，分子の基底状態と励起状態を知る。また炭素の循環を考え，質量や物質量の概念についても概説する。
第5回	エネルギーと物質	人間社会の営みは，エネルギーの生産と消費という視点でもとらえることができる。エネルギーの変換を熱力学的な観点および分子レベルでの変化で考える。また石炭，石油といったエネルギー源について概説する。
第6回	水と物質科学	水は地球上で最も重要な物質であると言える。水は様々な物質を溶かすが，この溶解という事象を物質科学的な観点から理解する。また飲料水として利用するための浄水技術，海水の淡水化技術などについて概説する。
第7回	酸性雨に関わる物質	酸性雨の原因，影響を考えることで，酸・塩基について再確認する。また大気汚染物質とそれらの浄化に向けた技術，あるいは施策などについて概説する。
第8回	原子力と物質科学１	核分裂で電力が生まれる仕組みについて理解することは重要である。ここでは原子力発電で生成する放射性廃棄物の取り扱いも含めて概説する。
第9回	原子力と物質科学２	原子力については社会的な課題と絡まった複雑な部分もある。ここでは，科学者としての立場から問題をどうとらえるかについて考える。
第10回	次世代エネルギーと物質科学１	燃料の燃焼によるエネルギー生産は，資源的，環境的課題を含んでいる。一方，化学的エネルギーを電気的エネルギーに変換するシステムである電池は次世代エネルギーとして発展する可能性をもつ。ここでは電池一般について概説する。
第11回	次世代エネルギーと物質科学２	次世代エネルギーとして期待されている燃料電池，太陽電池について概説する。
第12回	高分子材料の構造と機能１	プラスチックスに代表される高分子材料は，人類の生活に欠かせないものとなっている。ここでは，プラスチックスやゴム，繊維といった身近にある高分子材料について概説する。
第13回	高分子材料の構造と機能２	高分子は，小さな分子が多数連結してできているものであるが，その合成法の分類や特徴について概説する。
第14回	まとめと意見紹介	各テーマの課題で回答してもらった各自の意見を紹介して全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業において各テーマに関する資料をオンライン配布するので，それについて個人で調べたり考えたりしておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。オンライン資料を配付する。

【参考書】
実感する化学（上下巻）：廣瀬千秋（翻訳），エヌ・ティー・エス

また，必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（25％）
内容の理解度をはかり自身の考え方を問う課題（各授業ごとにオンライン課題にて行う）（75％）

【学生の意見等からの気づき】
資料の見やすさについて引き続き改善する。

【学生が準備すべき機器他】
資料や課題は学習支援システムを通して配布するので，随時チェックすること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Material science is powerful tool to develop advanced technologies as well as to understand the nature of life. In this lecture, how materials play a critical role in a human life including the world's environmental and energy matters is discussed. Not only for the students in chemistry course but also for the students who are not major in chemistry, the series of lectures show the typical topics of material science.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
・To understand classification of matter and basic chemical and physical properties of matter.
・ To understand how material science contributes to our life and society.
・ To express own opinions concerning various environmental problems.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: quizzes for each topic (75%) and in-class contribution (25%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

英語中級コミュニケーション

CELESTE GUILLEMOT

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、英語で7～8分程度のプレゼンテーションを計画・準備し、効果的に発表するために必要な基礎的なスキルを学ぶ。一般的な聴衆の前で話す際に求められる、英語の言語能力およびコミュニケーションスキルの習得を目的とする。
授業を通して、良いプレゼンテーションとは何かについて学び、発音、構成・展開、声の使い方、ジェスチャーなど、さまざまな要素を扱う。実践的な活動や演習を通じて、英語で話す際の明瞭さと自信を高める。
学期末には、授業で学んだ内容を踏まえ、7～8分程度の英語プレゼンテーションを期末試験として実施する。

【到達目標】
主な目標は、以下のスキルを習得することである:
1.プレゼンテーションを効果的に行うために必要な、正しい姿勢、アイコンタクト、ジェスチャー、声の使い方
2.分かりやすい視覚資料（スライド等）を効果的に準備・活用する方法
3.効果的な英語プレゼンテーションの計画・構成・準備・原稿作成・発表の方法
これらの基本的なプレゼンテーションスキルを身につけることで、将来の大学での学習や就職活動に役立つ、英語でのコミュニケーション能力および自信を高めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
小グループで活動しながら、プレゼンテーションスキルを伸ばすための短い演習に取り組む。
課題等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class introduction	Class orientation Student self-introduction
2	Basic presentation skills (1)	What is a good presentation? Notes and script
3	Basic presentation skills (2)	Posture Eye contact Gesture Voice
4	Basic presentation skills (3)	Making visual aids
5	Basic presentation skills (4)	How to organize a presentation? Planning, preparation, structure How to write effective transitions
6	Basic presentation skills (5)	How to prepare an effective introduction
7	Basic presentation skills (6)	How to prepare an effective body
8	Basic presentation skills (7)	How to prepare an effective conclusion
9	Group Presentation preparation	Group member selection Presentation topic selection Brainstorming
10	Group Presentation preparation	Writing the introduction Peer feedback Instructor feedback
11	Group Presentation preparation	Writing the body Peer feedback Instructor feedback
12	Group Presentation preparation	Writing the conclusion Peer feedback Instructor feedback
13	Review, final exam	Final presentation
14	Review, final exam	Final presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 毎週の宿題
- 授業内容を予習・復習
- 分からない単語は事前に辞書で意味や発音を確認すること

【テキスト（教科書）】
学習支援システムを利用して、資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50%（口頭発表）
授業平常点　50%　（宿題、授業参加、課題など）

【学生の意見等からの気づき】
NA

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業の進度や履修者数によって、シラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
【Outline】
In this course, students will learn the basic skills necessary to plan, prepare, and deliver an effective 7 – 8 minutes presentation in English. The course focuses on the key language and communication skills required for speaking in front of a general audience.
Throughout the semester, students will explore what makes a good presentation, covering a range of elements including pronunciation, organization and structure, voice use, and gestures. Practical activities and guided practice will help students develop confidence and clarity in spoken English.
At the end of the semester, students will be required to give an 7– 8 minutes presentation as a final examination, based on the skills and techniques learned in class.
【Learning objectives】
The main objective of this course is for students to acquire the following skills:
1.The basic delivery skills necessary for effective presentations, including proper posture, eye contact, gestures, and voice control.

2. The ability to prepare and utilize clear and effective visual aids (e.g., slides).
3. Skills in planning, structuring, preparing, and scripting effective presentations in English.
By developing these basic presentation skills, the course aims to enhance students' English communication abilities and confidence, which will be beneficial for their future university studies and job-hunting activities.
【Learning activities outside of classroom】
The standard amount of out-of-class study time for this course is four hours.
To deepen their understanding of the course content, students are expected to engage in the following out-of-class learning:
- Weekly homework assignments
- Preparation and review of learning materials
- Looking up unfamiliar vocabulary in advance, including meanings and pronunciation, using a dictionary
【Class evaluation】
Final presentation 50%
Participation in class activities, homework assignments etc. 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

英語中級コミュニケーション

KOPROWSKI　MARK

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
By the end of the course students should be able:
1) To use the discussion skills and vocabulary learned in this course to participate in discussions on both general and academic topics in multicultural settings.
2) To develop the ability to listen actively, such as using English backchannels in conversation, asking relevant follow-up questions, as well as clarifying for meaning when something is not understood.
3) To develop discussion skills like asking on-topic questions, giving extended answers, and paraphrasing group members' utterances.
4) To use basic common vocabulary and expressions in discussions as well as learn and use new academic words and phrases.
5) To increase their fluency by practicing speaking in groups in English only for a limited time on a variety of easy topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board. Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction and explanation	Get to know your teacher and each other. Learn what is expected of you in class.
2	Lesson 2 The Importance of Communication	Lesson 2 Reading Quiz Reading: The Importance of Communication Discussion Skill 1: Opinions
3	Lesson 3 Entering University	Lesson 3 Reading Quiz Reading: Entering University Discussion Skill 2: Supporting Opinions
4	Lesson 4 Life at University	Lesson 4 Reading Quiz Reading: Life at University Discussion Skill 2: Follow-up Questions
5	Lesson 5 Becoming Independent	Lesson 5 Reading Quiz Reading: Becoming Independent Communication Skill 1: Comprehension
6	Lesson 6 Living Abroad	Lesson 6 Reading Quiz Reading: Living Abroad Discussion Skill 4: Connecting Ideas
7	MID-TERM EXAMINATION (speaking test)	Lessons 2, 3, 4, 5, 6 15-minute speaking test (in small groups)
8	Lesson 7 The Globalization of Japanese Culture	Lesson 7 Reading Quiz Reading: The Globalization of Japanese Culture Discussion Skill 5: Joining a Discussion
9	Lesson 8 Japanese and Foreign Customs	Lesson 8 Reading Quiz Reading: Japanese and Foreign Customs Discussion Skill 6: Changing Topics
10	Lesson 9 Learning a Foreign Language	Lesson 9 Reading Quiz Reading: Learning a Foreign Language Communication Skill 2: Paraphrasing
11	Lesson 10 Entering the Workforce	Lesson 10 Reading Quiz Reading: Entering the Workforce Discussion Skill 7: Different Viewpoints
12	Lesson 11 Social Media	Lesson 11 Reading Quiz Reading: Social Media Discussion Skill B: Balancing Opinions
13	FINAL SPEAKING EXAMINATION	Lessons 7, 8, 9, 10, 11 15-minute speaking test (in small groups)
14	Return Final Speaking Examinations	Talk about Spring Break Plans

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】
What Does Everyone Think? Interactive Skills for Effective Discussion
(Asahi Press, DTP Publishing, 2025, ISBN 9784255157436)

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Class participation (speaking English, taking notes): 25%

Reading Quizzes (10): 25%
Mid-term examination (speaking test): 25%
Final examination (speaking test): 25%

【学生の意見等からの気づき】
None.

【学生が準備すべき機器他】
None.

【その他の重要事項】
Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
This course aims to improve students' speaking fluency and ability to communicate effectively in English through discussions on a variety of general and academic topics. Students will learn and use common discussion phrases and expressions in order to participate in more natural, fluent, and successful discussions. Pair work and group work will be emphasized.
【Learning Activities Outside of the Classroom】
Outside of class, students will pre-read lesson topics, prepare discussion materials, review vocabulary and expressions, practice speaking skills, and reflect on their learning progress. Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, and pronunciation) will be provided after speaking activities or near the end of each class using the blackboard. Students will also receive written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.
【Grading Criteria / Policy】
The overall grade for this course will be determined based on the following components:
Class participation (speaking English, taking notes): 25%
Reading quizzes (10): 25%
Mid-term examination (speaking test): 25%
Final examination (speaking test): 25%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

英語中級リーディング

長谷川　秀子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。
トピックは現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などを扱い、グローバル社会において世の中の情勢を理解し、意見を表現できることを目標とする。また、後半部では日本、英語圏の言語、社会、文化の繋がりを論文を読んで考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、授業内で確認していく。
このクラスの教科書はIntroduction, Words in context, Reading, Comprehension 1&2,Vocabulary, Listening 1&2, Your opinionとあり予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけではなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。
授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進めかた、テキストの使い方等の説明。
第2回	Unit 1	Mini Presentation Smart Phones Deserve Smart Users
第3回	Unit 2	The Animals in Our Lives
第4回	Unit 3	Mini Presentation Reforming　Japan's Education System
第5回	Unit 4	A Hungry Future
第6回	Unit 5	Mini Presentation No More Unwelcome Advertisements
第7回	Unit 6	A Living Wage
第8回	Unit 7	Mini presentation Keeping Mothers on the Payroll
第9回	Unit 8	Slow Life
第10回	Unit 9	Mini Presentation Volunteering
第11回	The Japanese Mind (1)	Ambiguous
第12回	The Japanese Mind (2)	Sience
第13回	The Japanese Mind (3)	Bigaku
第14回	Term Exam	Unit 1-10の範囲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をし簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】
未来へ続く道
What's Going On in the World?　David Peaty, Kahori Kobayashi（2017）SEIBIDO 1900円（税別）　ISBN978-4-7919-6027-9

【参考書】
授業中に紹介の予定。
The Japanese Mind (Tuttle) Roger Davis, Osamu Ikeno

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】ミニプレゼンテーション、小テスト、課題　50%
期末試験　50%
【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく３分の１以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。
教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
—
Goals :In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.

–
Work outside of class: Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.
——
Grading: Assignment mini presentation 50%,Term exam 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

英語中級リーディング

吉川　直澄

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。以上に加えて、一般的な読者に向けてイギリスの社会人類学者が書いた本の抜粋を読むことによって、イギリス文化の特性、イギリス人の言動の特徴、国民性などについて少し興味を持ってもらえれば嬉しく思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、授業内で確認していく。トピックに関する意見や考えを発表する時間も可能であれば行う。基本的には、輪読形式で授業を進める。授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Guidance	授業の進め方、テキストの使い方等の説明。
第2回	Introduction: Watching the English	Anthropology at Home
第3回	Unit 1	Trust me, I'm An Anthropologist
第4回	Unit 2	Britishness and Englishness
第5回	Unit 3	The Weather
第6回	Unit 4	Humour Rules
第7回	Unit 5	Linguistic Class Codes
第8回	Unit 6	Class-denial Rules
第9回	Unit 7	Emerging Talk-Rules: The Mobile Phone
第10回	Unit 8	Pub-Talk
第11回	Unit 9	Home Rules
第12回	Unit 10	Work to Rules
第13回	Unit 11	Rules of Play
第14回	学期末到達度確認テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各１時間を標準とする。授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をし簡単な要約ができるようにしておく。学生の皆さんは英語専用のノートを作成し、それにテキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、何度も反復練習をするように。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
British Cultural Identities sixth edition, Mike Storry and Peter Child, Routledge,2023.

【成績評価の方法と基準】
全13回の課題レポート (45%) 、学期末レポート課題 (20%) 、学期末に実施する文法・語彙確認テスト（30%) 、授業への積極的な参加・貢献 (5%) を総合的に検討して評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく３分の１以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。テキストは使用する１週前に教室で配布する。学習支援システムを通じて公開することはないので、必ず教室で受け取ること。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
—
Goals :In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.
–
Work outside of class: Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.
——
Grading Criteria/Policy: Final grade will be calculated according to the following process:
13 weekly class assignments: 45%, final term assignment: 20%, final test: 30% and in-class contribution: 5%.
Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

英語中級リーディング

宗像　俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
技術革新の副作用で生じる社会問題について、CNN、BBC、Bloomberg などの報道記事を読みながら国際的な視野で理解を深める。また、長文読解のスキルを高める。受講者は、科学技術による社会問題の捉え方を学び、その本質や解決法について、自分なりの考えを表現できるようにする。

【到達目標】
①最先端の技術と、それによって生じる社会問題について理解を深める。
②これらの社会問題の解決法について、議論ができるようにする。
③英字新聞や雑誌の記事（Web 版を含む）を読めるようにする。
④英語で話される映像資料に触れる機会を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①小テストを実施する（単語テストと書き取りテストを予定）
②当日扱う記事内容の背景説明する。
③事前に受講生が訳出したものを確認しながら、重要な単語や文法の解説をする。
④記事に関係する話題を講師が提供し、受講者同士でディスカッションをする。
⑤自然な英語表現を覚えるために、シャドウイング（音声を聴きながら発話する英語習得法）を実施する。
※記事の分量、内容、受講者の理解度に応じ時間配分を変更する場合がある。
※授業中の言語使用は、日本語７割、英語３割の予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の方針説明、自己紹介、英文読解の基礎
第2回	英文記事講読	SNSが歪める民主主義①
第3回	英文記事講読	SNSが歪める民主主義②
第4回	英文記事講読	AIがもたらす環境問題①
第5回	英文記事講読	AIがもたらす環境問題②
第6回	英文記事講読	交通と環境正義①
第7回	英文記事講読	交通と環境正義②
第8回	英文記事講読	「有害な男らしさ」を科学する①
第9回	英文記事講読	「有害な男らしさ」を科学する②
第10回	英文記事講読	医療と人種差別①
第11回	英文記事講読	医療と人種差別②
第12回	映画鑑賞	科学技術と社会問題について描いたドキュメンタリー映画を観る
第13回	ディスカッション	受講生が関心を寄せるテーマについてそれぞれ報道記事を持ち寄り、ディスカッションをする。
第14回	期末試験	これまで扱った内容から出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、１時間を標準とする】
①毎週出される英文記事を事前に読む。訳出担当者は、指定された部分を日本語訳にする。
②毎回の講義冒頭で実施する小テストの準備をする。
③指定されたリスニング教材のシャドウイングに取り組み、単語やフレーズの書き取りテストの準備をする。

【テキスト（教科書）】
配布資料（BBC、CNN、Bloomberg、その他英字新聞や英文雑誌の記事）

【参考書】
英和辞書、和英辞書を持参する。講義中のみならず、予習時や復習時にわからない単語があれば、すぐに辞書を引くように習慣づけること。
各回のテーマの参考資料は、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①期末試験（50%）
②小テスト（30%）
③授業へ積極性（グループ・ディスカッション、発表、出席）(20%)

【学生の意見等からの気づき】
わからないことがあればそのままにせず、積極的に質問して解決してください。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Students will read news articles from CNN, BBC, Bloomberg, etc., and deepen their understanding of social issues that recent technological innovation has caused. In this course, students will get accustomed to reading long texts. Students can express their ideas on how to view and solve these issues.
【到達目標（Learning Objectives）】
1. Students will deepen their understanding of social problems caused by cutting-edge technology.
2. Students will be able to discuss better, practical solutions to the problems.
3. Students will be able to read English-language newspapers and magazines.
4. Students will have opportunities to watch documentaries spoken in English.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
※ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
1. Students have to read articles before the lecture.
2. Students prepare for quizzes and dictation tests at the beginning of each lecture.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
1. Final exam（50%）
2. Quiz（30%）
3. In-class contribution（20%）

LANe100LC（英語 / English language education 100）

ビジネス英語

小林　直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネスの現場における英語の会話を練習し、コミュニケーション能力を高める授業とする。また、経済、社会に関する英文を読む機会を設け、ビジネスに関する理解を深める。

【到達目標】
英語での会話に堪能になり、経済、社会に関する英文を自由に読みこなすことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
最初はリスニングを通じて、様々な局面での英語の表現を覚える。後に受講生自らが、英語で表現をする授業とする。また新聞、雑誌などの記事を通じて経済、社会についての英文に親しむ。リスニングについては、最後の授業まで、受講生一人一人の理解を確認します。聞き取れなかった等のことがあれば、こちらから答えを示してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と評価方法の説明。
第2回	Unit 1: Writing a Resume	リスニングの練習。
第3回	Unit 2: Writing an Applicaton Letter	リスニングの練習。
第4回	Unit 3: Arranging an Interview Unit 4: A Job Interview	リスニングの練習。
第5回	Unit 5: Job Offer Unit 6: The First Dat Work	リスニングの練習。
第6回	Unit 7: Preparing to Work Unit 8: Telephonong	会話の練習。
第7回	Unit 9: Taking a Message Unit 10: Making an Appointment	会話の練習。
第8回	Unit 11: Visiting a Client Unit 12: Receiving a Visitor	会話の練習。
第9回	Unit 13: Meeting at Narita Airport Unit 14: A Business Lunch	会話の練習。
第10回	Unit 15: Visiting a Factory Unit 16: Sightseeing in Kyoto	会話の練習、英文タイプの練習など。
第11回	Unit 17: Preparing for the First Overseas Business Trip uni18: The First Overseas Business Trip	会話の練習、英文の手紙を読む。
第12回	所定教科書以外の英文	経済、社会についての英文を読む。
第13回	所定教科書以外の英文	経済、社会についての英文を読む。
第14回	所定教科書以外の英文	経済、社会についての英文を読む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
必ず復習をすること。また、リスニングを意欲的に行うこと。

【テキスト（教科書）】
Business Talk　やさしいオフィス英語　（城由紀子ほか著　成美堂）

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】学期末のレポート(50%)、出席・授業内での課題への取り組みをもとにした平常点（50%)により評価する、

【学生の意見等からの気づき】
リスニング、会話の練習を頑張っていきましょう。

【その他の重要事項】
授業計画はあくまでも予定です。受講生の理解度に応じて、授業内容が変わることもあります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The aim of this course is to help students acquire the ability of business English.
[Learning Objectives]
At the end of this course, students are expected to acquire higher English conversation ability in business scenes, express their knowledge of business world in English.
[Learning Activities outside of the Classroom]
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the class content.
[Grading Criteria]
Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end report 80% and in-class contribution 20%.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

基礎英語

染谷　昌弘

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語での基本を身に付けるコースです。基本と言っても文法からやり直すことはありません。テキストのトピックについて、簡単なモデルリーディングを行い。トピックついて、グループで話し合い、自分の意見を整理して、英語でまとめるという内容です。毎回穴埋め問題や、自分の意見を述べるような簡単な小テストを実施して定着を図ります。また、総まとめの期末テストも実施します。

【到達目標】
・平易な英文を短時間で理解し正確にまとめることができる。
・他の学生とトピックについて話し合い違う意見を取り込むことができる。
・最後に自分の意見を英語で簡潔に表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
このクラスは与えられたトピックについて簡単な英語のパッセージを短時間にそして正確に把握してまとめ、さらに、そのトピックの自分の意見を英語で簡潔に述べることを目指します。また、いくつかのテーマにそってクラス・ディスカッションを行います。毎回テキスト内のいくつかの意見を述べる英語の設問の回答をを作成して提出します。次週では提出課題の解説及び前回の内容の小テストを実施して、定着を図ります。また、期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、課題の提出の仕方、評価方法などを解説する。
第2回	The Beauty of the Seasons	Reading, Discussion, Express one's idea in English
第3回	The History of the Hamburger	Reading, Discussion, Express one's idea in English
第4回	How the Internet Evolved	Reading, Discussion, Express one's idea in English
第5回	Liquid Candy	Reading, Discussion, Express one's idea in English
第6回	Travel in Japan	Reading, Discussion, Express one's idea in English
第7回	THe Secret of Happiness	Reading, Discussion, Express one's idea in English
第8回	Shopping on the Internet	Reading, Discussion, Express one's idea in English
第9回	Do Aliens and UFOs Exist?	Reading, Discussion, Express one's idea in English
第10回	THe Happiest Country in the World	Reading, Discussion, Express one's idea in English
第11回	Secondhand Smoke	Reading, Discussion, Express one's idea in English
第12回	Plastic Surgery	Reading, Discussion, Express one's idea in English
第13回	What Colors Tell About You	Reading, Discussion, Express one's idea in English
第14回	Final Exam	Quize and Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues. And the proof of Critical Thinking,Class Discussion in the form of notes should be submitted in class.

【テキスト（教科書）】
Life Topics A critical Thinking Approach to English Proficiency
島岡丘、ジョナサン・バーマン
南雲堂
2012
2310円

【参考書】
Dictionary

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Particitation in Group Discussion(20%). Submission (20%). Quiz (20%). Final Exam(40%)

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムWeb Classを使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に、授業履修に関しての注意事項を説明します。必ず参加すること。
また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業に忘れずに持参すること。この教科書は、一般の本屋さんやアマゾンなどでは購入できませんので、必ず大学で購入して下さい。

【Outline (in English)】
Outline
This course introduces students to learn how to express one's own idea consicely. In order to do this, students should communicate with each other and complete one's idea in good English sentences. Students will be thinking about a different theme topic each week.At the end of each half semester students will take a simple and moderate volume of exam.
【到達目標】Goal
The goals of this course are to be able to read simple English fast and discuss in English on a variety of life topics. And at the end of the course, students are expected to be able to express thier own idea
concisely.
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.
成績評価の方法と基準】Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:Particitation in Group Discussion(20%). Submission (20%). Quiz (20%). Final Exam(40%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

基礎英語

島田　顕

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　英語の基礎力をあげることを目標とする。基礎文法を徹底的に復習し、文法上の疑問点・問題点を解消する。練習問題で繰り返し反復し、基本的な表現と単語、熟語を押さえ、実践的な習得を目指す。

【到達目標】
　英語の基礎力をあげることを目標とする。基礎力をあげるためにはまず、英語の文献によく触れ、読みこなさなければならない。本授業では、テキストを読み、訳し、内容を把握し、使われる表現から基礎語彙と熟語の復習を行う。基礎英文法を徹底的に復習し、練習問題で文法上の問題点を解消する。サブテキスト（リーディング）テキストを用いる（プリントで配布する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本授業は，中学校・高等学校で学んだ英語の基礎固めをすることを目的とする。具体的には，基礎文法・語法の確認と定着，基礎語彙・熟語の復習と正確な綴りの確認，発音の向上と文強勢リズムの体得，ひとつの意味の塊で句切ることによって音読しながら意味を同時に掌握する練習などを行う。また，今までの学習の中での疑問点，不確かな事項を解消させる。さらに異文化及び自国の文化の理解を深め，自主的な英語学習の動機につなげていく。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	Unit 10 未来形	Unit 1 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第3回	Unit 13 比較	Unit 2 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第4回	Unit 3 過去形	Unit 3 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第5回	Unit 15 不定詞	Unit 4 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第6回	Unit 16 動名詞	Unit 5 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第7回	Unit 17 接続詞	Unit 6 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第8回	Unit 18 受動態	Unit 7 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第9回	Unit 20 形容詞節	Unit 8 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第10回	Unit 21 仮定法	Unit 9 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第11回	Unit 23 名詞節	Unit 10 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第12回	Unit 24，25，26 現在完了、過去完了、未来完了	Unit 11 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第13回	まとめｏｒ予備日	まとめ その他
第14回	試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
　テキストの本文の訳、EXERCISES等の問題は全員にあてる。予習は訳をノートに書いてくることが望ましい。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。

【テキスト（教科書）】
　テキスト：『Ｇｒａｍｍａｒ　Ｐｌｕｓ』（南雲堂）。
　サブ・テキスト：プリント配布テキスト。

【参考書】
　文法参考書：豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）
　その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
　評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
　評価基準：平常点30％、課題・宿題10％、小テスト20％、期末試験40％
　※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】
　受講生のレベルにより，授業の進み方を速くし，小テスト，提出物の回数を増やす。尚、今年度は要望が高いUnit（形容詞、比較、副詞節、不定詞、動名詞、接続詞、受動態、形容詞節、副詞節、仮定法、名詞節、完了形をやる。

【学生が準備すべき機器他】
　辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
We aim to raise the basic strength of English. In order to raise fundamental skills, we must read, translate, grasp contents of texts and review the basic vocabulary and idioms from the expression used in the text. We also have to review basic English grammar thoroughly and eliminate grammatical problems using practice questions.
[Learning activities outside of the classroom]
One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.
[Learning Objectives]
The goal is to improve students' basic skills of English. In order to improve your basic skills, you must first familiarize yourself with and read English literature. In this class, you will read the text, translate it, understand the content, and review the basic vocabulary and idioms from the expressions used. Thoroughly review basic English grammar and solve grammar problems with exercises. Use subtext (reading) text (distribute by print).
[Grading Criteria]
Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz
Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%
* The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

英語資格試験準備講座

島田　顕

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
TOEIC500点を目標にし、５０点から１００点のアップを目指し、試験対策に重点をおく。

【到達目標】
メイン・テキストでは、語彙力，文法力，リーディング力、リスニング力などの総合的な基礎英語力を養いながら、サブ・テキストでは、文法などの重点的な試験対策も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では，学生の英語目標レベルTOEIC400/500/600/700 点に応じたクラスを提供し，そこでTOEIC の問題傾向や特徴，効果的な解答のストラテジーやコツをつかみ，問題に慣れ，実践することによって５０点から１００点のスコアアップを目的とする。効果的にレベルアップを図るために，TOEIC 対策だけでなく，基本となる英語力（語彙力，文法力，リーディング力，リスニング力等）を総合的に習得できるように授業を行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	Lesson 1,2 Outdoor Sports 前置詞、接続詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第3回	Lesson 3,4 Job Hunting 関係詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第4回	Lesson 5,6 At the Office 名詞、冠詞、否定その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第5回	Lesson 7,8 Working Conditions 過去時制、完了時制その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第6回	Lesson 9,10 Being Transferred 分祠、助動詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第7回	Lesson 11,12 Travel and Package Tours 現在時制、未来時制その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第8回	Lesson 13,14 Films 動詞、態その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第9回	Lesson 15,16 Computers and Internet 不定詞、動名詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第10回	Lesson 17,18 Advertisements 数詞、形容詞、副詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第11回	Lesson 19,20 The Economy and Banking 比較その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第12回	Lesson 21,22 Nature and Environment 代名詞、仮定法その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第13回	まとめor予備日	まとめ その他
第14回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
テキストの本文の訳、EXERCISES等の問題は全員にあてる。予習は訳をノートに書いてくることが望ましい。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。

【テキスト（教科書）】
メイン・テキスト『ＴＯＥＩＣ　Ｔｅｓｔ：Ｔｏ　ｔｈｅ　Ｐｏｉｎｔ　新ＴＯＥＩＣテスト：ポイント攻略』（南雲堂）
サブ・テキスト：『グラマー・プラス　ＧＲＡＭＭＡＲ　ＰＬＵＳ』（南雲堂）、プリント配布テキスト。

【参考書】
文法参考書：豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
評価基準：平常点30％、課題・宿題10％、小テスト20％、期末試験40％
※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】
　受講生のレベルにより，授業の進み方を速くし，小テスト，提出物の回数を増やす。尚、各回のLesson、Textは受講生のレベルにより、事前に告知したうえでその他のLesson（分子構文、接続詞、語形、形容詞節、副詞節、条件節、名詞節その他）、Textに変更する。

【学生が準備すべき機器他】
　辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】
（Course outline）
We aim for 500 points from TOEIC test, aim for 100 points up from 50 points, focus on exam preparation. In this class, we have to cultivate overall comprehensive basic English ability such as vocabulary skills, grammatical skills, reading ability, listening skills, etc. We also must carry out emphasis examination measures on grammar and other important measures.
（Learning Objectives）
In the main text, you will develop comprehensive basic English skills such as vocabulary, grammar, reading, and listening skills, while in the sub text, you will also prepare for important exams such as grammar exams.
（Learning activities outside of classroom）
One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.
（Grading Criteria /Policy）
Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz
Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%
* The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

英語資格試験準備講座

川口　悠子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英語の力を向上させることで、TOEICの得点を伸ばすことを目的としています。毎週の問題演習および隔週の小テストを通じて、実践的な力を養いつつ、一つ一つの問題の文法や単語についてていねいに確認する時間も設けます。

【到達目標】
・TOEICの得点を向上させる。
・文法・単語の知識をより深める。
・リスニング能力や読解能力をより高める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
毎週、TOEIC本番の時間制限にあわせて、問題演習をおこなう。続けて、時間の余裕をもった状態で、文法や単語を確認しながら、正答を検討する（各自で検討する時間と、グループワークをおこなう時間を設ける）。なぜこの選択肢は正解（不正解）なのかを正確に把握する訓練が、英語の力を伸ばすためには非常に重要である。最後に答え合わせと解説をおこなう。
なお、学んだ内容を定着させるため、授業2回ごとに小テストをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	授業説明	授業の進め方について説明する。
2回目	Unit 1 Travel	演習および文法・単語の把握、解説
3回目	Unit 2 Meetings and Seminars	演習および文法・単語の把握、解説
4回目	Unit 3 Restaurants	演習および文法・単語の把握、解説
5回目	Unit 4 Company Recruitment	演習および文法・単語の把握、解説
6回目	Unit 5 Entertainment and Leisure	演習および文法・単語の把握、解説
7回目	Unit 6 Purchasing	演習および文法・単語の把握、解説
8回目	Unit 8 Health	演習および文法・単語の把握、解説
9回目	Unit 9 IT and Technology	演習および文法・単語の把握、解説
10回目	Unit 10 Shopping	演習および文法・単語の把握、解説
11回目	Unit 11 Advertising	演習および文法・単語の把握、解説
12回目	Unit 12 News and Events	演習および文法・単語の把握、解説
13回目	Unit 13 Office	演習および文法・単語の把握、解説
14回目	期末試験とまとめ	期末試験および一学期通してのまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・語学の勉強に、予習と反復練習は決定的に重要です。辞書をひきながらしっかりと予習・復習をこなってください（詳細は指示します）。
・授業で扱った文法・語法の定着を目的として、小テストと期末試験をおこないます。準備して臨んでください。

【テキスト（教科書）】
Jonathan Lynch and Kotaro Shitori, Comprehensive Practice for the TOEIC® L&R Test（『TOEIC® L&R Test 600点への徹底演習』成美堂、2025年）

【参考書】
綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）
佐藤誠司『SKYWARD総合英語』（桐原書店、2022年）
佐藤誠司『スーパートレーニング』（桐原書店、2022年）
ほか、必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・小テスト（合計）　30%
・期末試験　60％
・授業参加度　10%
＊5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とする。ただし正当な理由（忌引、指定感染症など）がある欠席はこの回数に含まれない。事情が客観的に証明できる資料を用意して教員に連絡すること。
＊交通機関の乱れによる遅刻は考慮の対象とする。ただし一学期につき3回を上限とする。遅延状況が分かる資料（鉄道会社のウェブサイトと定期券など）を示すこと。
＊教科書や辞書を持参していない場合、予習が不充分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともある。
＊機械翻訳やAI（ChatGPT等）が作成した文章や英訳・和訳を、自分で作成したものとして提出することは認めない。そのような行為が確認された場合は、当該の課題の成績を０点にするなど、厳格な対応をとる。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】
必ず辞書を持参して下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to improve students' TOEIC scores by enhancing their English proficiency. Through weekly exercises and biweekly quizzes, students will develop practical skills. In addition, students will be given time to carefully review the grammar and vocabulary of each question.
【Learning Objectives】
・ Students improve TOEIC scores.
・Students deepen their knowledge of grammar and vocabulary.
・ Students further develop their listening and reading comprehension skills.
【Learning activities outside of classroom】
・Preparation and repeated practice are essential for successful language learning. Please consult dictionaries and complete a thorough preview and review work (detailed instructions will be provided).
・To reinforce the grammar and usage covered in class, quizzes and a final examination will be administered. Please be sure to prepare accordingly.
【Grading Criteria /Policy】
・ Quizzes (total): 30%

・ Final Examination: 60%
・ Class Participation: 10%

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

基礎ドイツ語Ⅰ

鈴木　淳子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の基本文法を習得する。

【到達目標】
ドイツ語の基本文法をしっかり身につけたうえで、簡単な読み書き、聞き取り、会話などができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ドイツ語の基本文法をポイントをおさえて体系的に学びながら、練習等をとおして実践力もつける。
オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。
授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスも行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	アルファベート、発音	P.1-3 補助プリント
2回目	挨拶表現、主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化	L.0&1 (P.4-6)
3回目	数詞(1)、不規則動詞の現在人称変化(1)	L.1 (P.5-8)
4回目	名詞の性、語順、数詞(2)	L.2 (P.9-12)
5回目	疑問文、否定文	L.2 (P.9-12)
6回目	定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形	L.3 (P.13-16)
7回目	並列の接続詞、数詞(3)	L.3 (P.13-16)
8回目	不定冠詞、所有冠詞	L.4 (P.17-20)
9回目	所有冠詞（続き）、否定冠詞	L.4 (P.17-20)
10回目	不規則動詞の現在人称変化(2)、名詞の3格、疑問代名詞	L.5 (P.21-24)
11回目	不規則動詞の現在人称変化(3)	L.5 (P.21-24)
12回目	人称代名詞1格・3格・4格	L.6 (P.25-28)
13回目	非人称主語・非人称動詞	L.6 (P.25-28)
14回目	総復習	L.1-6 (P.1-28)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
繰り返し復習し、音読することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
秋田靜男・江口陽子他著『イン・ドイチュラント』朝日出版社

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】
期末試験(70%)、平常点及び授業態度等(30%)を総合して評価。
オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の多くがドイツ及びドイツ語に強い関心を持っていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline (in English)】
This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills. The goal of this course is to be able to use German language properly. After each class meeting, students will be expected to review the last lesson. The required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

基礎ドイツ語Ⅰ

高橋　完治

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語に初めて触れる学生諸君を対象とする．日常のさまざまな場面との関連のもとに基礎的な文法事項を学び，語彙と表現を蓄積する．

【到達目標】
下記の文法事項に習熟し，短く平易なテクストの読み書きができる．明瞭でゆっくりした話し方なら，馴染みのある単語や基本的な言い回しを聞き取れる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
視覚教材を活用した語彙の導入とテクストの提示・解説の後，文法問題，インフォメーションギャップ，聞き取り，ひな型に沿った作文，平易なメールや広告から必要な情報を取り出すなど，さまざまな作業を展開する．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	動詞の現在人称変化（1）	ich, Sie, duの場合／Alphabetについて
2	動詞の現在人称変化（2）	wir, ihrの場合／国名
3	自己紹介	自己紹介を読む・書く／専攻名／動詞の位置
4	seinの定形	1人称と2人称の場合／ja, nein, dochの使い方／職業・国籍
5	並列の接続詞	und, aber, dennなど／言語名
6	動詞の現在人称変化（3）	3人称の場合／配偶関係・性格を言い表す／誘いのメールを読む・書く
7	名詞の性と冠詞	定冠詞と不定冠詞（1格・4格）／物を評価する
8	不規則変化動詞（1）	mögen, nehmen／レストランでのやりとりを理解する
9	不規則変化動詞（2）	essen／食習慣／計量の単位
10	名詞の複数形	複数形の5つの型／居住空間と家具
11	人称代名詞	1格と4格／住まいの広告を読む
12	所有冠詞	1格と4格／家族のことを語る
13	否定冠詞	1格と4格／所有の有無についてやりとりする
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，1時間を標準とする】
音声教材に繰り返し接し，発音の質や聞き取り能力の向上に努める．復習用の課題と取り組む．

【テキスト（教科書）】
新倉真矢子・正木晶子・中野有希子『シュピッツェ！　1』（朝日出版社）

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する．

【学生の意見等からの気づき】
グループ作業を多く取り入れたドイツ語学習は，知的で楽しい経験となったようだ．

【Outline (in English)】
This course is designed for students with no prior knowledge of the German language. It aids them in acquiring basic grammatical rules, expressions, and vocabulary related to everyday situations. By the end of the course, students should be able to:
- Effectively utilize their grammatical knowledge when reading and writing simple, short texts
- Recognize familiar words and very basic phrases when spoken slowly and clearly
After each class meeting, students are expected to review the learning content, listen to the native speakers on audio, and practice speaking along with them. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be determined based on the usual performance score (60%) and the term-end examination (40%).

LANf100LC（フランス語 / French language education 100）

基礎フランス語Ⅰ

木下　晴美

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・フランス語の基本的な文法事項を学ぶ。
・フランス語の仕組みを理解し、言語の背景にある社会や文化についての理解を深める。

【到達目標】
・フランス語初級文法を習得することができる。
・初級フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各課の初めに基本的な文法事項の説明を行い、練習問題を解くことを通して学習内容を定着させる。また、フランス語の学習効果を高めるために、音声を繰り返し聞き正しい発音ができるように口頭練習を実践する。課題や到達度確認テストは授業内で解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション Leçon 0	授業の進め方と内容の説明 フランスとフランス語 フランス語で挨拶
第2回	Leçon 1	アルファベと綴り字記号 句読記号 数字0～20
第3回	Leçon 2	名詞の性と数 冠詞 提示の表現 I
第4回	Leçon 3	主語人称代名詞 動詞être と avoirの直説法現在形 提示の表現 II
第5回	Leçon 4	形容詞の性・数一致 否定形の作り方
第6回	Leçon 5	第1群規則動詞の直説法現在形 疑問文と答え方
第7回	Leçon 1からLeçon 5までのまとめと補足	Leçon 1からLeçon 5までの復習 第1群規則動詞の例外 avoirの成句 数字21～100
第8回	Leçon 6	指示形容詞 所有形容詞 第2群規則動詞の直説法現在形
第9回	Leçon 7	疑問形容詞 付加形容詞の位置 形容詞の女性形の例外 名詞・形容詞の複数形の例外
第10回	Leçon 8	aller, venirの直説法現在形 à, deと定冠詞の縮約と近接未来・近接過去 中性代名詞 y
第11回	Leçon 9	疑問代名詞 I 疑問副詞
第12回	Leçon 10	比較級と最上級 強勢形人称代名詞
第13回	Leçon 6からLeçon 10までのまとめと補足	Leçon 6からLeçon 10までの復習 母音と子音 母音に関する規則
第14回	到達度確認テスト	Leçon 1からLeçon 10までのテストと解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の学習予定の個所に目を通し、単語は事前に辞書を使って意味を調べること。授業で説明した文法や語彙を確認し、練習問題で正解できなかった個所を再度解くこと。課題は、練習問題を中心に2回実施する。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
森繁、『ラ・フォーレ三訂版ーフランス語基礎文法ー』、朝日出版社、2025年

【参考書】
『プチ・ロワイヤル仏和辞典 第５版 小型版』、倉方秀憲編、旺文社、2020年

【成績評価の方法と基準】
到達度確認テスト（40％）、課題（30％）、授業での学習状況や参加度（30％）の結果を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn basic French grammar and to understand how the French language is structured. It will also help students to understand the society and culture behind the language. By the end of the course, students should have grasped the fundamentals of French grammar and be able to comprehend, read, listen to and write basic French.
Before each class, students must read the relevant chapter of the textbook and look up any new vocabulary. They are also expected to solve any problems they got wrong in the practice exercises again. The study required is at least one hour for each class meeting.
Your final grade will be based on your performance in three areas: the end-of-term examination (40%), two reports (30%), and your class participation (30%).

LANf100LC（フランス語 / French language education 100）

基礎フランス語Ⅰ

木下　晴美

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・フランス語の基本的な文法事項を学ぶ。
・フランス語の仕組みを理解し、言語の背景にある社会や文化についての理解を深める。

【到達目標】
・フランス語初級文法を習得することができる。
・初級フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各課の初めに基本的な文法事項の説明を行い、練習問題を解くことを通して学習内容を定着させる。また、フランス語の学習効果を高めるために、音声を繰り返し聞き正しい発音ができるように口頭練習を実践する。課題や到達度確認テストは授業内で解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション Leçon 0	授業の進め方と内容の説明 フランスとフランス語 フランス語で挨拶
第2回	Leçon 1	アルファベと綴り字記号 句読記号 数字0～20
第3回	Leçon 2	名詞の性と数 冠詞 提示の表現 I
第4回	Leçon 3	主語人称代名詞 動詞être と avoirの直説法現在形 提示の表現 II
第5回	Leçon 4	形容詞の性・数一致 否定形の作り方
第6回	Leçon 5	第1群規則動詞の直説法現在形 疑問文と答え方
第7回	Leçon 1からLeçon 5までのまとめと補足	Leçon 1からLeçon 5までの復習 第1群規則動詞の例外 avoirの成句 数字21～100
第8回	Leçon 6	指示形容詞 所有形容詞 第2群規則動詞の直説法現在形
第9回	Leçon 7	疑問形容詞 付加形容詞の位置 形容詞の女性形の例外 名詞・形容詞の複数形の例外
第10回	Leçon 8	aller, venirの直説法現在形 à, deと定冠詞の縮約と近接未来・近接過去 中性代名詞 y
第11回	Leçon 9	疑問代名詞 I 疑問副詞
第12回	Leçon 10	比較級と最上級 強勢形人称代名詞
第13回	Leçon 6からLeçon 10までのまとめと補足	Leçon 6からLeçon 10までの復習 母音と子音 母音に関する規則
第14回	到達度確認テスト	Leçon 1からLeçon 10までのテストと解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の学習予定の個所に目を通し、単語は事前に辞書を使って意味を調べること。授業で説明した文法や語彙を確認し、練習問題で正解できなかった個所を再度解くこと。課題は、練習問題を中心に2回実施する。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
森繁、『ラ・フォーレ三訂版ーフランス語基礎文法ー』、朝日出版社、2025年

【参考書】
『プチ・ロワイヤル仏和辞典 第5版 小型版』、倉方秀憲編、旺文社、2020年

【成績評価の方法と基準】
到達度確認テスト（40％）、課題（30％）、授業での学習状況や参加度（30％）の結果を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn basic French grammar and to understand how the French language is structured. It will also help students to understand the society and culture behind the language. By the end of the course, students should have grasped the fundamentals of French grammar and be able to comprehend, read, listen to and write basic French.
Before each class, students must read the relevant chapter of the textbook and look up any new vocabulary. They are also expected to solve any problems they got wrong in the practice exercises again. The study required is at least one hour for each class meeting.
Your final grade will be based on your performance in three areas: the end-of-term examination (40%), two reports (30%), and your class participation (30%).

LANf100LC（フランス語 / French language education 100）

基礎フランス語ＩＩ

木下　晴美

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・フランス語の基本的な文法事項を学ぶ。
・フランス語の仕組みを理解し、言語の背景にある社会や文化についての理解を深める。

【到達目標】
・フランス語初級文法を習得することができる。
・初級フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各課の初めに基本的な文法事項の説明を行い、練習問題を解くことを通して学習内容を定着させる。また、フランス語の学習効果を高めるために、音声を繰り返し聞き正しい発音ができるように口頭練習を実践する。課題や到達度確認テストは授業内で解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期のまとめ	Leçon 1からLeçon １０までの復習と発音の確認
第2回	Leçon １１	命令法 非人称表現 中性代名詞 en
第3回	Leçon １２	目的語人称代名詞
第4回	Leçon １３	直説法複合過去
第5回	Leçon １４	代名動詞
第6回	Leçon １５	関係代名詞 I 指示代名詞
第7回	Leçon １１から Leçon １５までのまとめと補足	Leçon １１からLeçon １５までの復習 疑問代名詞 II 基本6文型
第8回	Leçon １６	直説法半過去
第9回	Leçon １７	受動態 現在分詞とジェロンディフ
第10回	Leçon １８	直説法単純未来 中性代名詞 le
第11回	Leçon １９	条件法現在
第12回	Leçon ２０	接続法現在
第13回	Leçon １６から Leçon ２０までのまとめと補足	Leçon １６からLeçon ２０までの復習 さまざまな時制
第14回	到達度確認テスト	Leçon １１からLeçon ２０までのテストと解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の学習予定の個所に目を通し、単語は事前に辞書を使って意味を調べること。授業で説明した文法や語彙を確認し、練習問題で正解できなかった個所を再度解くこと。課題は、練習問題を中心に2回実施する。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
森繁、『ラ・フォーレ三訂版ーフランス語基礎文法ー』、朝日出版社、2025年

【参考書】
『プチ・ロワイヤル仏和辞典 第５版 小型版』、倉方秀憲編、旺文社、2020年

【成績評価の方法と基準】
到達度確認テスト（40％）、課題（30％）、授業での学習状況や参加度（30％）の結果を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn basic French grammar and to understand how the French language is structured. It will also help students to understand the society and culture behind the language. By the end of the course, students should have grasped the fundamentals of French grammar and be able to comprehend, read, listen to and write basic French.
Before each class, students must read the relevant chapter of the textbook and look up any new vocabulary. They are also expected to solve any problems they got wrong in the practice exercises again. The study required is at least one hour for each class meeting.
Your final grade will be based on your performance in three areas: the end-of-term examination (40%), two reports (30%), and your class participation (30%).

LANf100LC（フランス語 / French language education 100）

基礎フランス語ＩＩ

木下　晴美

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・フランス語の基本的な文法事項を学ぶ。
・フランス語の仕組みを理解し、言語の背景にある社会や文化についての理解を深める。

【到達目標】
・フランス語初級文法を習得することができる。
・初級フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各課の初めに基本的な文法事項の説明を行い、練習問題を解くことを通して学習内容を定着させる。また、フランス語の学習効果を高めるために、音声を繰り返し聞き正しい発音ができるように口頭練習を実践する。課題や到達度確認テストは授業内で解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期のまとめ	Leçon 1からLeçon １０までの復習と発音の確認
第2回	Leçon １１	命令法 非人称表現 中性代名詞 en
第3回	Leçon １２	目的語人称代名詞
第4回	Leçon １３	直説法複合過去
第5回	Leçon １４	代名動詞
第6回	Leçon １５	関係代名詞 I 指示代名詞
第7回	Leçon １１からLeço １５までのまとめと補足	Leçon １１からLeço １５までの復習 疑問代名詞 II 基本6文型
第8回	Leçon １６	直説法半過去
第9回	Leçon １７	受動態 現在分詞とジェロンディフ
第10回	Leçon １８	直説法単純未来 中性代名詞 le
第11回	Leçon １９	条件法現在
第12回	Leçon ２０	接続法現在
第13回	Leçon １６から Leçon ２０までのまとめと補足	Leçon １６からLeçon ２０までの復習 さまざまな時制
第14回	到達度確認テスト	Leçon １１からLeçon ２０までのテストと解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の学習予定の個所に目を通し、単語は事前に辞書を使って意味を調べること。授業で説明した文法や語彙を確認し、練習問題で正解できなかった個所を再度解くこと。課題は、練習問題を中心に2回実施する。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
森繁、『ラ・フォーレ三訂版ーフランス語基礎文法ー』、朝日出版社、2025年

【参考書】
『プチ・ロワイヤル仏和辞典 第５版 小型版』、倉方秀憲編、旺文社、2020年

【成績評価の方法と基準】
到達度確認テスト（40％）、課題（30％）、授業での学習状況や参加度（30％）の結果を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn basic French grammar and to understand how the French language is structured. It will also help students to understand the society and culture behind the language. By the end of the course, students should have grasped the fundamentals of French grammar and be able to comprehend, read, listen to and write basic French.
Before each class, students must read the relevant chapter of the textbook and look up any new vocabulary. They are also expected to solve any problems they got wrong in the practice exercises again. The study required is at least one hour for each class meeting.
Your final grade will be based on your performance in three areas: the end-of-term examination (40%), two reports (30%), and your class participation (30%).

LANs100LC（スペイン語 / Spanish language education 100）

基礎スペイン語Ⅰ

塩﨑　公靖

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語は世界中で多く話されている言語のうちのひとつである。スペイン、ラテンアメリカ諸国での公用語であるほか、近年では、日本にもスペイン語を話す旅行者や生活者も多く見かけられる。本講義では、スペイン語の文法を中心に学びながら、スペイン語圏の文化や習慣への関心・理解を促していく。

【到達目標】
①スペイン語への興味・関心の向上。
②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
文法中心に講義に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。
学習支援システムを通じたヒアリングや各回実施する練習問題を通じて、
理解度を把握し、内容/進め方を適宜修正する。
※本講義は基本的には、大学の方針に倣って対面形式で実施する予定です。
　ただし、状況により、オンラインに切り替えるなども検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容説明。
第2回	名詞	性と数
第3回	定冠詞／不定冠詞	un/una, el/la unos/unas, los/las
第4回	形容詞	スペイン語の形容詞の特徴、性と数
第5回	数詞	数の数え方、序数
第6回	所有格	所有形容詞／所有代名詞
第7回	指示詞	指示形容詞／指示代名詞
第8回	疑問詞	疑問詞の種類、疑問文の作り方
第9回	規則動詞・現在形①	動詞の使い方、ar型の動詞
第10回	規則動詞・現在形②	er型/ir型の動詞
第11回	不規則動詞：serとestar	英語のbe動詞に相当する２つの動詞
第12回	動詞hay・否定語・不定語	英語のthere is/areに相当する動詞、そのほか文章作りに便利なごく
第13回	時間の言い方	時刻、時間などの言い方
第14回	試験・まとめと解説	試験の実施と、その解説を行い、今学期の学習内容のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。また、スペイン語は発音が非常に大事な言語です。授業内外で発音をしっかり練習することを求めます。

【テキスト（教科書）】
それぞれの課に合わせプリントを配布。

【参考書】
『超入門スペイン語』(大学書林)

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 65%、平常点35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】
スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Improve comprehension of Spanish language communication skill, mainly through grammar but also with introducing the cultures and customs of hispanophone countries.
【Learning Objectives】
Improve comprehension of Spanish language communication skill.
【Learning activities outside of classroom】
Students don’t have to prepare for next class but review what you studied in classroom. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 65%, and in-class contribution: 35%.

LANs100LC（スペイン語 / Spanish language education 100）

基礎スペイン語Ⅰ

渡辺　雅哉

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　スペイン語の文法・作文・会話の初歩的な能力を身につける。主としてスペイン本国とイスパノアメリカからなる広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口とする。

【到達目標】
　辞書を引きながら、簡単なスペイン文が読めたり書いたりできるようにする。また、日常的な会話能力の向上も図る。スペイン語の場合、動詞の用い方が最も重要である。春学期で扱われる動詞の時制は、いずれも直説法現在。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。原則として、対面授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回 ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方や試験の実施方法についての説明
第２回 教科書導入	アルファベットと発音	スペイン語の読み方。アクセントの位置の見定め
第３回 教科書１課	名詞	男性名詞と女性名詞。単数形と複数形
第４回 教科書１課	冠詞。主格人称代名詞（私が、君が、彼が…）。動詞ser	定冠詞と不定冠詞。意味のうえでの、2つの二人称の区別。be動詞serの活用と使い方
第５回 教科書２課	形容詞。所有形容詞（私の、君の、彼の…）の前置形	形容詞・所有形容詞の、英語とは異なった使い方
第６回 教科書２課	動詞estar。指示形容詞（この、その、あの…）	もう1つのbe動詞estarの活用と使い方。指示形容詞の使い方
第７回 教科書３課	動詞estarとhay	存在を表現する動詞hayの使い方。動詞estarとの使い分け
第８回 教科書３課	動詞serとestar。動詞tener	2つのbe動詞serとestarの使い分け。不規則動詞tenerの基本的な使い方
第９回 教科書４課	規則動詞。基数	3つの規則動詞（-ar動詞、-er動詞、-ir動詞）の活用と使い方。100までの数え方
第10回 教科書４課	時刻の表現	時刻についての3つの尋ね方（「何時ですか」「何時に～をしますか」「何時間～をしますか」）と答え方
第11回 教科書５課	最も単純な不規則動詞	hacerその他、「私が」に対応する活用のみが不規則な動詞の活用と使い方
第12回 教科書５課	疑問詞。天候表現	qué、cómo、dóndeその他、疑問詞の基本的な使い方。常に3人称単数で活用される天候表現
第13回 教科書１～5課	復習	特に重要な事項についての確認
第14回 春学期試験	試験・まとめと解説	春学期の学習の成果を問う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間以上を標準とする】　事前に教科書に目を通しておく。復習の関しては、特に動詞の用い方の理解・確認に努める。

【テキスト（教科書）】
　エウヘニオ・デル・プラド、齋藤華子、仲道慎治『新スペイン語のリズムで１』同学社、2023年、2400円（税別）

【参考書】
　授業中に指示する。なお、早めに辞書を用意すること（辞書については、初日のガイダンスの折に何冊か紹介する）。

【成績評価の方法と基準】
　平常点30％、定期試験70％の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

【学生の意見等からの気づき】
　堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

【その他の重要事項】
　わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

【Outline (in English)】
An introduction to the Spanish language to get elementary knowledge of its grammer, writing and conversation, that will make it possible to approch the varied cultures of the Spanish-speaking countries (I).
At the end of the course, students are expected to read and write the most basic Spanish with dictionary, and also make daily conversation in the same language.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is more than one hour.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination; 70% and in-class contribution; 30%.

LANs100LC（スペイン語 / Spanish language education 100）

基礎スペイン語ＩＩ

塩﨑　公靖

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期「基礎スペイン語１Ｉ」からの継続。
引き続き文法中心の授業。

【到達目標】
①スペイン語への興味・関心の向上。
②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストの解説を中心に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。
各回テーマはあくまで目安。理解度・進度に応じて変更する。
授業形態については、基本的には対面形式で行う予定ですが、
状況に応じてオンライン形式に切り替えるなども適宜検討します。
・フィードバックの方法
毎回授業内でリアクションペーパーを配布し提出してもらいます。
その中で要望や質問などがあれば次の回の授業において回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	不規則動詞	不規則動詞の概要、e-> ie, o-> ue, e-> i に変わる動詞
第2回	不規則動詞②	１人称単数が特殊変化する動詞、tener/venir/decir/oir
第3回	不規則動詞③	そのほかの不規則同士、まとめ
第4回	現在分詞	活用方法
第5回	過去分詞	活用方法／現在完了
第6回	前半まとめ	前半部まとめと解説
第7回	目的格	間接目的語、直接目的語、目的格人称代名詞
第8回	gustar型の動詞	前置詞、gustar動詞
第9回	再帰動詞	意味と活用
第10回	比較	比較級／最上級
第11回	点過去	２つの過去形について、規則活用
第12回	点過去	不規則動詞
第13回	線過去	規則／不規則
第14回	テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。また、スペイン語は発音が非常に大事な言語です。発音は積極的に行なってください。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『超入門スペイン語』(大学書林)。辞書については授業内で指示。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 65%、平常点35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】
スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Improve comprehension of Spanish language communication skill, mainly through grammar but also with introducing the cultures and customs of hispanophone countries.
【Learning Objectives】
Improve comprehension of Spanish language communication skill.
【Learning activities outside of classroom】
Students don’t have to prepare for next class but review what you studied in classroom. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 65%, and in-class contribution: 35%.

LANs100LC（スペイン語 / Spanish language education 100）

基礎スペイン語ＩＩ

渡辺　雅哉

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　基礎スペイン語Ⅰに引き続いて、スペイン語の基本を学ぶ。春学期と同様、動詞の理解がカギになる。頻出する不規則動詞の活用をなるべくパターン化して身につけるとともに、表現の幅を広げることに努める。また、スペイン語圏の歴史や文化の一端にも触れてみる。

【到達目標】
　辞書を引きながら、さまざまなレベルのスペイン文が読めるようにする。また、いろいろな動詞を用いながら、簡単な自己紹介ができる程度の表現能力を身につける。なお、秋学期で扱われる動詞の時制も、第11回と第12回を除けば直説法現在。しかし、時間が許せば、直説法過去に加えて直説法現在完了にもわずかでも言及したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　基礎スペイン語Ⅰと同様、概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回 前期の復習	前期試験の見直し	前期試験の見直しを通じての、各人の課題の発見
第２回 教科書６課	語幹母音変化動詞（１）	querer その他、やや難しい不規則動詞（語幹母音変化動詞）の活用と用い方
第３回 教科書６課	語幹母音変化動詞（２）。日付・西暦・季節	前回に引き続いて、語幹母音変化動詞の学習。自分の誕生日の言い方
第４回 教科書７課	さまざまな不規則動詞（１）	saber と conocer その他、さまざまな不規則動詞の活用と使い方
第５回 教科書７課	不定詞表現。直接目的格人称代名詞（私を、君を、彼を…）。	不定詞の使い方。直接目的格人称代名詞の、英語とは異なった扱い
第６回 教科書８課	間接目的格人称代名詞（私に、君に、彼に…）。	間接目的格人称代名詞の扱い。接・直接の目的各人称代名詞の併用の仕方
第７回 教科書８課	さまざまな不規則動詞（２）	ir その他、不規則動詞のまとめ
第８回 教科書９課	再帰動詞（１）	再帰動詞（自分自身を～する」「自分自身に～する」）の活用と基本的な使い方
第９回 教科書９課	再帰動詞（２）。所有形容詞の後置形	再帰動詞の応用。所有形容詞の、前置形よりもやや複雑な後置形の扱い
第 10 回 教科書10・11課	動詞gustar。比較級と最上級	好んで使われる動詞gustar の扱い。形容詞と副詞の比較級と最上級の使い方
第11回 教科書12課	直説法点過去	直説法点過去の活用と使い方
第12回 教科書１～12課	復習	特に重要な事項の確認
第13回 秋学期試験	試験	１年間の学習の成果を問う
第14回 まとめと解説	まとめと解説	秋学期試験の結果についての総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間以上を標準とする】　事前に教科書に目を通しておく。不規則動詞に関しては、しっかり復習すること。

【テキスト（教科書）】
　エウヘニオ・デル・プラド、齋藤華子、仲道慎治『新スペイン語のリズムで1』同学社、2023年、2400円（税別）

【参考書】
　授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、期末試験70％の比率で評価する。例年、月曜日は冬休み明けの授業（最終授業）が遅れてしまう（成人の日を挟むため）。このため、秋学期の試験は12月の最後の授業日に実施する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

【学生の意見等からの気づき】
　堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

【その他の重要事項】
　わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

【Outline (in English)】
An introduction of the Spanish langage to get elementary knowledge of its grammer, writing and conversation, that will make it possible to approach the varied cultures of the Spanish-speaking countries (II).
At the end of the course, students are expected to read and wright the basic Sapnish with dictionary, and also make daily conversation in the same language.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is more than one hour.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination; 70% and in -class contribution; 30%.

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

基礎中国語ＩＩ

渡辺　浩司

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では，受講者が文法を中心に初級中国語の後半部分を学び，中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。必要に応じて，中国語検定（準4級）対策も行います。春学期開講の「基礎中国語Ｉ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】
受講者が中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（本篇：第8課～第15課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，基本的な実用会話を学びます。また，必要に応じて，過去問題などを使って，中国語検定（準4級）対策も行います。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。
教科書のドリルなどを利用した課題や最終授業で実施する期末テストは、希望者に、後日、個別の学習ポイントを指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国語の文法と語彙(1)	第8課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第2回	中国語の文法と語彙(2)	第9課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第3回	中国語の文法と語彙(3)	第10課：新出単語・文法ポイント。
第4回	中国語の文法と語彙(4)	第10課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第5回	中国語の文法と語彙(5)	第11課：新出単語・文法ポイント。
第6回	中国語の文法と語彙(6)	第11課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第7回	中国語の文法と語彙(7)	第12課：新出単語・文法ポイント。
第8回	中国語の文法と語彙(8)	第12課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第9回	中国語の文法と語彙(9)	第13課：新出単語・文法ポイント。
第10回	中国語の文法と語彙(10)	第13課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第11回	中国語の文法と語彙(11)	第14課：新出単語・文法ポイント。
第12回	中国語の文法と語彙(12)	第14課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第13回	中国語の文法と語彙(13)	第15課：新出単語・文法のまとめ。第8-14課の復習。
第14回	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の出版社が公開している音声アプリを十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。音声アプリを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝，朝日出版社，本体価格2500円）

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の点数（70％）と平常点（30％）を総合して評価します。欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない。（遅刻、早退は二回で欠席一回とする）

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】
「学習支援システム」を利用して課題を出します、また、教科書の出版社が公開している音声アプリをダウンロードするのに、インターネットに接続できる環境・機器が必要です。

【その他の重要事項】
「学習支援システム」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This is a class for students who have already learned "Basic Chinese I".
The course focuses on learning Chinese aspect, idiomatic phrases, basic vocabulary, and other aspects of the Chinese language.
At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:
- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%.

LANk100LC（朝鮮語 / Korean language education 100）

基礎朝鮮語Ⅰ

松本　ジュン

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身につけるようにする。特に日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】
ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。
毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。
春学期の授業形態は全14回のうち、対面授業7回とオンライン授業7回の両方を組み合わせて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと第1課　母音（1）	朝鮮語の語順、語彙、分かち書きと基本母音10個について学習
第2回	第2課　子音□□□	基本子音のうち平音の□□□について学習
第3回	第3課　子音□□□	基本子音のうち平音の□□□について学習
第4回	第4課　子音□□□　□・母音	鼻音の□□□□と複合母音の□□について学習
第5回	第5課　子音□□□　□・母音　□□	激音の□□□□と複合母音の□□について学習
第6回	第6課　子音□□□　□□	濃音の□□□□□について学習
第7回	第7課　母音（2）	複合母音7個について学習
第8回	第8課　終声（パッチム）	教室に全員集まり、終声であるパッチム7個について学習
第9回	中間試験	教室に全員集まり、これまで学習した内容で中間試験をおこなう
第10回	第9課　発音の変化①	連音化・□音弱化・鼻音化について学習
第11回	第9課　発音の変化②	激音化・濃音化・流音化・口蓋音化について学習
第12回	第10課　単語の調べ方および日本語のハングル表記方法	辞書の引き方・日本語のハングル表記について学習
第13回	期末試験	教室に全員集まり、春学期に学習した内容で期末試験をおこなう
第14回	作文の発表	自分で事前に準備した文をすらすら読み上げてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声を聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。
語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてもってほしい。

【テキスト（教科書）】
『韓国語の初歩　三訂版』厳基珠　金三順　金天鶴　申鉉竣　吉川友丈　白水社　2019年　（2200円+税）

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。
中間試験　20％
期末試験　30％
課題　20％
授業への貢献度　30％

【学生の意見等からの気づき】
「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。
教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。
語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【Outline (in English)】
This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing,and then introduces students to basic expressions in korean usingbasic grammar rules.Emphasis is placed on similarities and differencesbetween Korean and Japanese throughout the course.
The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.
Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Midterm exam 20％
Finals　30％

Assignment　20％
Class contribution　30％
A passing score is 60 or up.

LANk100LC（朝鮮語 / Korean language education 100）

基礎朝鮮語Ⅰ

松本　ジュン

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身につけるようにする。特に日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】
ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。
毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。
春学期の授業形態は全14回のうち、対面授業7回とオンライン授業7回の両方を組み合わせて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと第1課　母音（1）	朝鮮語の語順、語彙、分かち書きと基本母音10個について学習
第2回	第2課　子音□□□	基本子音のうち平音の□□□について学習
第3回	第3課　子音□□□	基本子音のうち平音の□□□について学習
第4回	第4課　子音□□□　□・母音	鼻音の□□□□と複合母音の□□について学習
第5回	第5課　子音□□□　□・母音　□□	激音の□□□□と複合母音の□□について学習
第6回	第6課　子音□□□　□□	濃音の□□□□□について学習
第7回	第7課　母音（2）	複合母音7個について学習
第8回	第8課　終声（パッチム）	教室に全員集まり、終声であるパッチム7個について学習
第9回	中間試験	教室に全員集まり、これまで学習した内容で中間試験をおこなう
第10回	第9課　発音の変化①	連音化・□音弱化・鼻音化について学習
第11回	第9課　発音の変化②	激音化・濃音化・流音化・口蓋音化について学習
第12回	第10課　単語の調べ方および日本語のハングル表記方法	辞書の引き方・日本語のハングル表記について学習
第13回	期末試験	教室に全員集まり、春学期に学習した内容で期末試験をおこなう
第14回	作文の発表	自分で事前に準備した文をすらすら読み上げてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声を聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。
語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてもってほしい。

【テキスト（教科書）】
『韓国語の初歩　三訂版』厳基珠　金三順　金天鶴　申鉉竣　吉川友丈　白水社　2019年　2200円+税

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。
中間試験　20％
期末試験　30％
課題　20％
授業への貢献度　30％

【学生の意見等からの気づき】
「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。
教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。
語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【Outline (in English)】
This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing,and then introduces students to basic expressions in korean usingbasic grammar rules.Emphasis is placed on similarities and differencesbetween Korean and Japanese throughout the course.
The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.
Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Midterm exam　20％
Finals　30％

Assignment　20％
Class contribution　30％
A passing score is 60 or up.

LANk100LC（朝鮮語 / Korean language education 100）

基礎朝鮮語ＩＩ

松本　ジュン

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身に付けるようにする。特に日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】
ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。
受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。また、毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。秋学期の授業形態は全14回のうち、対面授業7回とオンライン授業7回の両方を組み合わせて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第11課	「大学生ですか」の表現を学習
第2回	第12課	「会社員ではありません」の表現を学習
第3回	第13課	「会社員ではありません」の表現を学習
第4回	第14課	「暑くありませんか」の表現を学習
第5回	第15課	「お誕生日はいつですか」の表現を学習
第6回	中間試験	教室に全員集まり、第11課～第15課の内容で中間試験をおこなう
第7回	第16課①	教室に全員集まり、「どこに住んでいますか」の表現を学習
第8回	第16課②	練習問題を解きながら定着させる
第9回	第17課	「先生いらっしゃいますか」の表現を学習
第10回	第18課	「何をお探しですか」の表現を学習
第11回	第19課①	教室に全員集まり、「何をしましたか」の表現を学習
第12回	第19課②	練習問題を解きながら定着させる
第13回	期末試験	教室に全員集まり、第16課～第19課の内容で期末試験をおこなう
第14回	作文の発表	自分で事前に準備した文をすらすら読み上げてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声を聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。
語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてもってほしい。

【テキスト（教科書）】
『韓国語の初歩　三訂版』厳基珠　金三順　金天鶴　申鉉竣　吉川友丈　白水社　2019年　2200円+税

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。

中間試験	20％
期末試験	30％
課題	20％
授業への貢献度	30％

【学生の意見等からの気づき】
「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。
教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。
語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【Outline (in English)】
This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing,and then introduces students to basic expressions in Korean using basic grammar rules.Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.
The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.
Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.
Your overall grade in the class will be decided based on the following

Midterm exam	20％
Finals	30％
Assignment	20％
Class contribution	30％

A passing score is 60 or up.

LANk100LC（朝鮮語 / Korean language education 100）

基礎朝鮮語ＩＩ

松本　ジュン

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身に付けるようにする。特に日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】
ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。
受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。また、毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。秋学期の授業形態は全14回のうち、対面授業7回とオンライン授業7回の両方を組み合わせて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第11課	「大学生ですか」の表現を学習
第2回	第12課	「会社員ではありません」の表現を学習
第3回	第13課	「会社員ではありません」の表現を学習
第4回	第14課	「暑くありませんか」の表現を学習
第5回	第15課	「お誕生日はいつですか」の表現を学習
第6回	中間試験	教室に全員集まり、第11課～第15課の内容で中間試験をおこなう
第7回	第16課①	教室に全員集まり、「どこに住んでいますか」の表現を学習
第8回	第16課②	練習問題を解きながら定着させる
第9回	第17課	「先生いらっしゃいますか」の表現を学習
第10回	第18課	「何をお探しですか」の表現を学習
第11回	第19課①	教室に全員集まり、「何をしましたか」の表現を学習
第12回	第19課②	練習問題を解きながら定着させる
第13回	期末試験	教室に全員集まり、第16課～第19課の内容で期末試験をおこなう
第14回	作文の発表	自分で事前に準備した文をすらすら読み上げてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声を聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。
語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてもってほしい。

【テキスト（教科書）】
『韓国語の初歩　三訂版』厳基珠　金三順　金天鶴　申鉉竣　吉川友丈　白水社　2019年　2200円+税

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。

中間試験	20％
期末試験	30％
課題	20％
授業への貢献度	30％

【学生の意見等からの気づき】
「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。
教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。
語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【Outline (in English)】
This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing,and then introduces students to basic expressions in korean usingbasic grammar rules.Emphasis is placed on similarities and differencesbetween Korean and Japanese throughout the course.
The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.
Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.
Your overall grade in the class will be decided based on the following

Midterm exam	20％
Finals	30％
Assignment	20％
Class contribution	30％

A passing score is 60 or up.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

文章作法

矢口　貢大

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とします。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学んでいきます。最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とします。

【到達目標】
①わかりやすく正確な日本語の書き方を習得する。
②議論を構築し、文章で表現できるようになる。
③学術レポートが書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義と演習から成り、その進行は大きく三段階に分けられます。まず、読みやすく正確な文を書くための基本について学び、演習を行います。次に、説得力のある議論の立て方を学び、小論文を作成します。最後に、学術レポートを書くための文献検索や情報処理の技術を学び、期末課題としてレポートを作成します。
※演習を多く取り入れた授業構成とします。授業中に書いてもらった課題は、ピアレビューや添削によってよりよい作文に仕上げていきます。課題へのフィードバックは「学習支援システム」または紙媒体での添削とコメントによって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（授業内容の理解）・文章表現の基本（1）	・オリエンテーション（抽選、授業の目標、進め方および成績評価の説明） ・語順の法則
第2回	文章表現の基本（2）	・読点のうち方 ・書き言葉と話し言葉 ・小テスト（添削演習）
第3回	自己表現の実践（1）	・課題作成（怖い話／笑い話）
第4回	自己表現の実践（2）	・課題の返却と講評 ・主述の一致 ・長文の分割
第5回	論文入門（1）	・論文とは何か ・論理とは何か ・要約練習 ・文章整序
第6回	論文入門（2）	・論証とは何か ・論証のパターン① ・400字作文
第7回	論文入門（3）	・論証のパターン②（反論） ・議論分析の方法 ・400字作文
第8回	論文入門（4）	・パラグラフ・ライティング ・パッセージの構成法 ・アウトラインの作成
第9回	意見表明の実践（1）	・課題作成
第10回	意見表明の実践（2）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第11回	意見表明の実践（3）	・課題作成
第12回	意見表明の実践（4）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第13回	情報収集と情報処理（1）	・先行研究の調べ方 ・注と参考文献 ・話題ストラテジー
第14回	情報収集と情報処理（2）	・スキャニング ・スキミング ・要約練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・第2回：小テストを見直し、授業内容を復習する。
・第4・10・12回：課題文の返却後、添削・講評を参考に作文を書き直す。
・第13・14回：レポート作成に必要な資料を読み、文献メモを作る。レポートのアウトラインを作成する。レポートを書き、推敲する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。レジュメを配布します。

【参考書】
戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス、2012年
野内良三『日本語作文術』中公新書、2010年
野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年

【成績評価の方法と基準】
配分：
平常点（小テスト・400字作文）（20％）
課題文（40％）
レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】
双方向的な授業にしますが、一人の学生に当てる時間が長すぎないように調整します。
メールでの質問にできるだけ迅速に対応するよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】
授業内でパソコンを使用する予定です。

【その他の重要事項】
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to provide students with writing skills to express themselves clearly and persuasively. Students will improve academic writing skills by reading articles and essays critically, editing grammatical and rhetorical errors, learning how to compose an argument, and developing research skills.
Learning activities outside of class: Students will be required to research and write a manuscript for the paper.
Grading Criteria: class participation (quizzes and short essays, 20%), assigned writing (40%), final essay (40%)

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

情報リテラシーと表現技術

山岸　昌夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンの基本操作と情報モラルについて学ぶ。さらに、レポートや卒論の作成、発表に必要なパソコンの基本的なソフト（ワード、エクセル、パワーポイント等）の使い方を学ぶ。

【到達目標】
コンピュータを活用した情報収集・レポート作成ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ノートパソコンを使用し、パソコンの基本的操作、インターネットの利用、文書作成、表計算、グラフ作成、プレゼンテーション資料作成、プレゼンテーションの仕方などを学ぶ。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インターネットと電子メール	接続方法と使用方法
第2回	ワードによる文書作成（1）	文字の入力、ページ設定、移動とコピー
第3回	ワードによる文書作成（2）	文字サイズの変更・装飾、表の挿入
第4回	ワードによる文書作成（3）	ワードアート，画像と図形を活用した文書
第5回	エクセルの基本操作（1）	文字と数字、データ入力の基礎、計算式の入力
第6回	エクセルの基本操作（2）	関数を使った計算式、罫線、行の挿入
第7回	エクセルの基本操作（3）	グラフの作成、条件判定
第8回	エクセルの基本操作（4）	検索関数、条件付き書式
第9回	エクセルの基本操作（5）	並べ替え、フィルター、ワードとエクセルの連携活用
第10回	パワーポイントの基本操作（1）	基本操作
第11回	パワーポイントの基本操作（2）	グラフの活用、アニメーション効果、表と画像の挿入
第12回	パワーポイントの基本操作（3）	スライドショー、プレゼンテーションの基礎知識
第13回	プレゼンテーションの基本	デザインの一般原則、画像優位性効果
第14回	期末課題の作成	課題内容と作成手順の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本学の学習支援システム利用ガイドおよびインターネット利用ガイドを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】
実教出版企画開発部『30時間でマスター Office2021（Windows11対応）』実教出版株式会社

【参考書】
切田 節子, 新 聖子, 山岡 英孝, 乙名 健, 長山 恵子 共著『Microsoft Office 2021を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社
ガー・レイノルズ著『プレゼンテーションZen』丸善出版

【成績評価の方法と基準】
評価方法：各授業における演習（50%）とレポート提出（50%）で評価する。
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
深い理解のために、より実践的な例を取り扱うようにします。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【Outline (in English)】
This course introduces the fundamental operation of personal computers and the effective use of software. In addition, the course introduces how to compose PowerPoint for scientific presentation.
【Learning Objectives】
Upon completion of this lecture, students will be able to gather information and prepare reports using computers.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time to spend preparing and reviewing this lecture is 4 hours. Students are required to be familiar the User's Guide for the university's learning support system and the Internet.
【Grading Criteria /Policy】
Students are evaluated based on exercises in each lecture (50%) and assignments (50%). More than 60% will be considered as a passing grade.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

情報リテラシーと表現技術

岩城　敏

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
レポート作成や研究教育活動で必要な学内システムやパソコンの基本操作方法，ワード，エクセル，パワーポイント等のソフトウェアの使い方および情報モラルに関する知識の取得を目的とする．

【到達目標】
研究レポートの作成方法，データの処理方法，わかりやすいプレゼンテーションの作成方法および適切な情報の扱い方を習得する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
貸与パソコンを用いて多くの演習を行うことで基本スキルを身に着ける。授業進捗に応じて適宜レポート課題を与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明・概論，PCの使い方
第2回	インターネットと学内システムの利用	インターネット，メール，学習支援システム，文献調査
第3回	ワードの概要	ワードの基本操作
第4回	ワードによる文章作成	レポート作成に必要な操作
第5回	エクセルの概要	エクセルの基本操作
第6回	エクセルによる図表作成	表の操作とグラフ作成
第7回	エクセルの基本関数機能	基本関数機能を用いたデータ処理
第8回	エクセルによる基本関数機能の応用	関数機能を用いたデータ処理の応用
第9回	エクセルによるデータ処理演習	電気電子分野のデータを利用したエクセルの演習
第10回	レポート作成の概要	レポートの作法や文章作成
第11回	ワードやエクセルを用いたレポート作成	レポート作成に用いるワードやエクセルの操作方法
第12回	パワーポイントの概要	パワーポイントの基本操作
第13回	パワーポイントによるプレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの作成方法
第14回	プレゼンテーション演習	ワード，エクセル，パワーポイントを用いた総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
パソコン操作に慣れるように，授業後は復習を行うこと．

【テキスト（教科書）】
毎回PDF形式の資料をWEBCLASSから配信します。

【参考書】
矢野文彦　『情報リテラシー教科書』オーム社
小野目如快『Office2021で学ぶコンピュータリテラシー』実教出版
木下是雄 『理科系の作文技術』中央公論新社

【成績評価の方法と基準】
授業内で課すレポート課題，発表内容80％，平常点20％とし，総合的に評価したうえで100点満点中60点以上を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
学生からの自由記述アンケート結果（３４件）からは概ね高評価であった。また、総合評価として本授業の平均が4.44、全授業の平均が4.17なので、価値のある授業を提供できたと思われる。
テストが少し難しいとの指摘が複数あった。２０２６年度はテストの質と量を微調整する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
貸与PCを利用する．資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する．

【その他の重要事項】
情報通信系民間企業で研究・開発・商品化・技術営業を経験した教員が，訴求力のあるプレゼン方法についても講義する．

【Outline (in English)】
< Course outline >
The purpose of this course is to acquire knowledge of basic computer operations, how to use software(Word, Excel, and PowerPoint), and computer literacy.
< Learning Objectives >
The goals of this course are to acquire methods for writing research reports, processing data, creating a clear presentation, and handling information appropriately.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.
< Grading Criteria /Policy >
The final grade will be calculated according to the following process Reports, presentation(80%), and in-class contribution(20%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

情報リテラシーと表現技術

若林　哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系レポートにふさわしい表現力や効果的なプレゼンテーションの仕方を習得する。

【到達目標】
理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、ワード・エクセル・パワーポイントを用いた効果的なレポート作成とインパクトのあるプレゼンテーションの仕方を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面講義と演習を行う。
ワード・エクセル・パワーポイントを用いたレポート作成演習を行う。この演習を通して、理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、効果的なプレゼンテーションについても学習する。提出課題については授業内でのフィードバックと個別フィードバックを適宜行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報リテラシーってなんだ？	情報リテラシーとは何についてを学ぶのか、情報モラルや情報セキュリティについて学ぶ。
第2回	ワードは便利？ それとも不便？	実際にWordを使ってできる便利な機能、日本語作成にとっては不便な部分を克服する方法を学ぶ。著作権や個人情報に関する理解を深める。
第3回	エクセルで文書作成？	表計算のツールでもあるExcelを使ってレポートの作成もできる可能性を探る。情報環境の近代史など情報に関して学ぶ。
第4回	ワードとエクセルでレポート作成！	文章設計や科学論文の書き方を学び、IoT機器の結果からレポートを作成する。
第5回	パワーポイントでプレゼン！	PowerPointを使ってどんなプレゼンができるのかチャレンジする。
第6回	エクセル演習	ピボットテーブルの使い方を学び、課題を用いて演習を行う。
第7回	パワーポイントにエクセルの表やグラフを組み込む	PowerPointのプレゼンにExcelで作成した表や動画・写真などをきれいに入れる技を習得する。情報セキュリティの時事ネタからどのような事に気をつけなければならないかを学ぶ。
第8回	レポートを作成しよう 【中間テスト】	実験データを提供し、その値を元に実験レポートをWordとExcelで作成する。 インターネットを用いて調査し、レポートをまとめる。後半は【中間テスト】
第9回	事例による個人情報と著作権	個人情報や著作権の取り扱い方法を学ぶ。情報セキュリティに関する事例を紹介し、対策などをグループ討議する。
第10回	マナーとモラルをもう一度	個人情報保護、著作権の侵害などの情報モラルや情報セキュリティに関する内容を改めて詳しく解説する。仮想卒業論文をネタにWordの使い方を演習する。
第11回	グラフの作成	Excelを使ったグラフ作成方法の基本と応用を習得する。自己PR資料を作成する。
第12回	困ったときにどうするか？	Officeの利用方法をインターネット検索で調べる方法のこつを学ぶ。仮想エントリーシートを作成して、自己アピールを作成する。
第13回	パワーポイント演習と実践	PowerPointを使ってプレゼン作成の演習。自己PRを例に良いプレゼントは何かを学ぶ。
第14回	授業時間内テスト	授業時間内で提示されたデータを元にOfficeで資料を作成する課題を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書は基本的に自習用となっており、事前に独習して進める。授業中は基本的な使い方は教科書で自習している前提で演習を行う。
講義資料は授業の数日前にHoppiiよりダウンロードできるように準備し、PDFで配布する。
演習課題は、残りを時間外に復習も兼ねて完成させ、レポートにまとめ期日までに提出する。

【テキスト（教科書）】
講義資料は授業の数日前にHoppiiよりダウンロードできるように準備し、PDFで配布する。
下記書籍を生協では準備してもらっている。
書籍名：30時間でマスター　Office2021
出版社：実教出版
定価　：本体1150円
ISBN　：978-4-407-35937-4

【参考書】
書籍名：サイエンス・ライティング入門
著者名：落合洋文
出版社：ナカニシヤ出版
定価　：本体1500円
ISBN978-4-7795-0139-5
書籍名：理科系の作文技術
著者名：木下是雄
出版社：中公新書
定価　：本体700円
ISBN4-12-100624-0
情報モラルや情報セキュリティの最新情報は下記のWebなどで収集して欲しい。
https://www.ipa.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
評価方法：　演習や課題の提出物(40%)、中間テスト(20%)、最終課題(20%)、授業内テスト(20%)で総合的に評価する。
評価基準：　本科目において設定した達成目標を60％以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
日本語に限らず、情報を発信するために必要な事柄を身につけて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
貸与されたノートパソコンまたはOfficeが使えるノートパソコン。

【その他の重要事項】
授業形態は大学からの指示に従い、対面が禁止されない限りは対面で実施の方向で考えています。
基本的にOfficeのアプリの基本的な使い方は教科書を読みながら自習して事前に進めておく事。授業内では自習でわからなかった部分の質問に対応する形とする。

【Outline (in English)】
[Course outline] Acquire the ability to express yourself appropriately for scientific and technical reports and how to give effective presentations.
[Learning Objectives] In this course, you will acquire the ability to express yourself appropriately for writing scientific and technical reports, and learn how to create effective reports and make impactful presentations using Microsoft Word, Excel, and PowerPoint.
[Learning outside of class hours] Approximately 4 hours of study is required for preparation and review for each class in order to understand the course content.
[Grading Criteria] Grades will be based on the following criteria and a score of 60% or above will be considered a pass.
< Exercises and assignment submissions: 40%, midterm exams: 20%, final assignments: 20%, in-class exams: 20%>

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

情報リテラシーと表現技術

若林　哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系レポートにふさわしい表現力や効果的なプレゼンテーションの仕方を習得する。

【到達目標】
理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、ワード・エクセル・パワーポイントを用いた効果的なレポート作成とインパクトのあるプレゼンテーションの仕方を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面講義と演習を行う。
ワード・エクセル・パワーポイントを用いたレポート作成演習を行う。この演習を通して、理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、効果的なプレゼンテーションについても学習する。提出課題については授業内でのフィードバックと個別フィードバックを適宜行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報リテラシーってなんだ？	情報リテラシーとは何についてを学ぶのか、情報モラルや情報セキュリティについて学ぶ。
第2回	ワードは便利？ それとも不便？	実際にWordを使ってできる便利な機能、日本語作成にとっては不便な部分を克服する方法を学ぶ。著作権や個人情報に関する理解を深める。
第3回	エクセルで文書作成？	表計算のツールでもあるExcelを使ってレポートの作成もできる可能性を探る。情報環境の近代史など情報に関して学ぶ。
第4回	ワードとエクセルでレポート作成！	文章設計や科学論文の書き方を学び、IoT機器の結果からレポートを作成する。
第5回	パワーポイントでプレゼン！	PowerPointを使ってどんなプレゼンができるのかチャレンジする。
第6回	エクセル演習	ピボットテーブルの使い方を学び、課題を用いて演習を行う。
第7回	パワーポイントにエクセルの表やグラフを組み込む	PowerPointのプレゼンにExcelで作成した表や動画・写真などをきれいに入れる技を習得する。情報セキュリティの時事ネタからどのような事に気をつけなければならないかを学ぶ。
第8回	レポートを作成しよう 【中間テスト】	実験データを提供し、その値を元に実験レポートをWordとExcelで作成する。 インターネットを用いて調査し、レポートをまとめる。後半は【中間テスト】
第9回	事例による個人情報と著作権	個人情報や著作権の取り扱い方法を学ぶ。情報セキュリティに関する事例を紹介し、対策などをグループ討議する。
第10回	マナーとモラルをもう一度	個人情報保護、著作権の侵害などの情報モラルや情報セキュリティに関する内容を改めて詳しく解説する。仮想卒業論文をネタにWordの使い方を演習する。
第11回	グラフの作成	Excelを使ったグラフ作成方法の基本と応用を習得する。自己PR資料を作成する。
第12回	困ったときにどうするか？	Officeの利用方法をインターネット検索で調べる方法のこつを学ぶ。仮想エントリーシートを作成して、自己アピールを作成する。
第13回	パワーポイント演習と実践	PowerPointを使ってプレゼン作成の演習。自己PRを例に良いプレゼントは何かを学ぶ。
第14回	授業時間内テスト	授業時間内で提示されたデータを元にOfficeで資料を作成する課題を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書は基本的に自習用となっており、事前に独習して進める。授業中は基本的な使い方は教科書で自習している前提で演習を行う。
講義資料は授業の数日前にHoppiiよりダウンロードできるように準備し、PDFで配布する。
演習課題は、残りを時間外に復習も兼ねて完成させ、レポートにまとめ期日までに提出する。

【テキスト（教科書）】
講義資料は授業の数日前にHoppiiよりダウンロードできるように準備し、PDFで配布する。
下記書籍を生協では準備してもらっている。
書籍名：30時間でマスター　Office2021
出版社：実教出版
定価　：本体1150円
ISBN　：978-4-407-35937-4

【参考書】
書籍名：サイエンス・ライティング入門
著者名：落合洋文
出版社：ナカニシヤ出版
定価　：本体1500円
ISBN978-4-7795-0139-5
書籍名：理科系の作文技術
著者名：木下是雄
出版社：中公新書
定価　：本体700円
ISBN4-12-100624-0
情報モラルや情報セキュリティの最新情報は下記のWebなどで収集して欲しい。
https://www.ipa.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
評価方法：　演習や課題の提出物(40%)、中間テスト(20%)、最終課題(20%)、授業内テスト(20%)で総合的に評価する。
評価基準：　本科目において設定した達成目標を60％以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
日本語に限らず、情報を発信するために必要な事柄を身につけて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
貸与されたノートパソコンまたはOfficeが使えるノートパソコン。

【その他の重要事項】
授業形態は大学からの指示に従い、対面が禁止されない限りは対面で実施の方向で考えています。
基本的にOfficeのアプリの基本的な使い方は教科書を読みながら自習して事前に進めておく事。授業内では自習でわからなかった部分の質問に対応する形とする。

【Outline (in English)】
[Course outline] Acquire the ability to express yourself appropriately for scientific and technical reports and how to give effective presentations.
[Learning Objectives] In this course, you will acquire the ability to express yourself appropriately for writing scientific and technical reports, and learn how to create effective reports and make impactful presentations using Microsoft Word, Excel, and PowerPoint.
[Learning outside of class hours] Approximately 4 hours of study is required for preparation and review for each class in order to understand the course content.
[Grading Criteria] Grades will be based on the following criteria and a score of 60% or above will be considered a pass.
< Exercises and assignment submissions: 40%, midterm exams: 20%, final assignments: 20%, in-class exams: 20%>

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

情報リテラシーと表現技術

今枝　佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンの基本操作、インターネットの仕組みの理解、電子メールの送受信方法を学ぶ。Microsoft Excel, Word, PowerPoint等のPCの基本的なソフトの使い方を学ぶ。

【到達目標】
・生成AIやインターネットを使って必要な情報を検索できるようになる
・遠隔コミュニケーションツールを使いこなせるようになる
・オンラインストレージを使いこなせるようになる
・パソコンを使ってデータの解析ができるようになる
・パソコンを使って解析データを報告文書の形にまとめることができるようになる
・パソコンを使って解析結果を発表用資料としてまとめることができるようになる
・必要な書類をPDFファイルとしてまとめ、提出できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各自のPCを用いた実習により各テーマを学ぶ。
レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演習にあたって	授業の概要と進め方の説明 生成AI、インターネットを使った情報検索 電子メールの使い方 オンラインストレージ(Google Drive)の使い方 手書き文書のPDF化と提出方法(Google Form)の確認 遠隔コミュニケーションツール(zoom, Google Chat, Slackなど)の使い方
第2回	表計算ソフトウェアを使ったデータ解析1	各種表計算ソフトウェアの紹介(Microsoft Excel, Google スプレッドシート, Numbers) Microsoft Excel の使用方法の確認 測定データの入力と表示 四捨五入、切り上げ、切り下げ
第3回	表計算ソフトウェアを使ったデータ解析2	セルの値を参照した計算 各種計算式の入力 範囲を指定した計算
第4回	表計算ソフトウェアを使ったデータ解析3	表の作成 グラフの作成
第5回	表計算ソフトウェアを使ったデータ解析4	Microsoft Excel を使った提出課題(円柱体積の測定)の仕上げ PDFファイルへの出力
第6回	文書作成ソフトウェアを使った報告文書の作成1	各種文書作成ソフトウェアの紹介(Microsoft Word, Google ドキュメント, Pages) Microsoft Word の使用方法の確認 文字の入力、編集
第7回	文書作成ソフトウェアを使った報告文書の作成2	書式設定 ハイパーリンクの挿入
第8回	文書作成ソフトウェアを使った報告文書の作成3	表の挿入 図形の挿入
第9回	文書作成ソフトウェアを使った報告文書の作成4	Microsoft Word を使った提出課題(円柱体積の測定)の仕上げ PDFファイルへの出力
第10回	プレゼンテーションソフトウェアを使った発表用資料の作成1	各種プレゼンテーションソフトウェアの紹介（Microsoft PowerPoint, Google Slides, Keynote） Microsoft PowerPoint の使用方法の確認 文字の入力と配置
第11回	プレゼンテーションソフトウェアを使った発表用資料の作成2	作図ソフトウェアを使った画像ファイルの作成
第12回	プレゼンテーションソフトウェアを使った発表用資料の作成3	グラフと図の貼り付け 動画の貼り付け アニメーション効果
第13回	プレゼンテーションソフトウェアを使った発表用資料の作成4	Microsoft PowerPoint を使った提出課題(円柱体積の測定)の仕上げ PDFファイルへの出力
第14回	振り返りとまとめ	表計算・文書作成・プレゼンテーションソフトウェアを使った、解析→報告→発表作業の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
普段からPCに触れ、操作に慣れる。授業で学ぶ内容は繰り返し使うことで身につくので、授業後必ず復習する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
特に指定しない
状況状況に応じた生成AIやインターネットを使った情報検索を強く推奨する

【成績評価の方法と基準】
各演習回毎に提出する課題に対する内容評価40%,
表計算ソフトウェア、文書作成ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェアを使った提出課題に対する内容評価60% の併せて100%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
学生のこれまでのＰＣ操作の経験に幅広い違いがある以上、本演習は必然的にあまり経験のない学生に対する解説が主となります。最終提出課題は事前に提示するので、余裕のある学生は自分の知識経験をもとに課題を先に進めていってください。

【学生が準備すべき機器他】
貸与されたノートパソコン、もしくはMicrosoft Officeが使える環境が整備されたノートパソコン。
パソコンのOSは必ずしもWindowsであることは求めないが、解説はWindows準拠で行うので、異なる機器を使用する学生は適宜情報を自分の演習環境に読み替えて実習を行うようにすること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
We study basic skills and knowledges of personal computers. In particular, we aim at learning how to use softwares such as Microsoft Excel, Word and PowerPoint.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to acquire basic skills and knowledges of personal computers described above.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Final reports : 60%, usual contribution in class: 40%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

情報処理技法

東原　正智

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義ではプログラミング言語Pythonについて学ぶ。また、ライブラリとして行列など線形代数の計算で用いられるNumpyや、時系列解析に用いられるPandasを特に練習をする。この講義の目的は、Pythonの言語の基礎的な文法、NumPyとPandas、グラフ描画ライブラリ(Matplotlib、Seaborn)を講義と実習によって習得することである。

【到達目標】
Pythonの文法やライブラリ（NumPy、Pandas)を理解し、プログラムを作成できる。colabの使用方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は情報教室にて行う。開発環境はGoogle Colaboratoryで、言語はPython3系を使用する。
学生の質問や課題の解説は、スライドと動画を用いてフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Pythonの概要、開発環境のcolabについて	Pythonの概要 開発環境Google Colaboratoryの説明
第2回	Python文法	Pythonの基本、データ構造 ・変数宣言、print出力 ・変数と式（変数、代入、式、演算子、代入演算子、演算子の優先順位）
第3回	Python文法	複数のデータの処理 ・リスト ・タプル
第4回	Python文法	複数のデータの処理 ・辞書 ・集合
第5回	Python文法	制御フロー ・条件文 ・反復文
第6回	Python文法	関数
第7回	Python文法	オブジェクトとクラス ・クラス ・オブジェクト ・特殊メソッド
第8回	Python文法	・ジェネレータ、デコレータなど ・モジュールとパッケージ ・import,as ・標準ライブラリ
第9回	Python文法	ファイル操作とシステム ・ファイル操作 ・入出力
第10回	NumPy	NumPy(行列の計算など線形代数の計算を高速化するライブラリ）
第11回	NumPy	NumPy(行列の計算など線形代数の計算を高速化するライブラリ）
第12回	グラフィックライブラリ	Matplotlib、Seaborn (代表的なグラフライブラリの使い方を学ぶ）
第13回	Pandas	Pandas（特にデータベース的処理、テーブルのjoinやselectを学ぶ）
第14回	Pandas、まとめ	コード規約(pep)の解説 formatter(コード整形ツール、black、autopep8) 課題解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。特にプログラミング言語の知識を前提としない。

【テキスト（教科書）】
講義はスライドを用意する。

【参考書】
公式サイト:https://www.python.org/
・高橋麻奈『やさしいPython』SBクリエイティブ
・Python 実践入門 —— 言語の力を引き出し、開発効率を高める (WEB+DB PRESS plusシリーズ) (日本語) 陶山 嶺 (著)技術評論社

【成績評価の方法と基準】
成績評価としては、レポート2回で86％、平常点は14%とする。

【学生の意見等からの気づき】
・わかりにくい内容や質問については、メール、スライド、動画にて回答する。
・進度が早いという意見があり、適宜解説を加え、進度調整を行った。
・内容が難しい、という意見については、解説を増やしていきたい。
・プログラミングが初めていう学生についてもサポートを増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報センターでのPCを使用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This lecture is about learning Python, particularly practicing libraries such as NumPy and Pandas. This lecture aims to acquire a fundamental understanding of Python syntax, as well as NumPy and Pandas through lectures and practical exercises.
【Learning Objectives】
The goal of this class is to understand the syntax and libraries of Python (NumPy, Pandas) and be able to create programs, as well as to learn how to use colab.
【Learning activities outside of classroom】
Self-study outside of class for preparation and review of this course is set at a standard of 4 hours. It does not require any prior knowledge of programming languages in particular.
【Grading Criteria /Policy】
For the grading evaluation, there will be two reports which account for 86%, and class participation which accounts for 14%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

情報処理技法

陸名　雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な情報処理技法の中から数式処理ソフトウェア Mathematica (Wolfram Research 社) を選び、その運用法を修得する。

【到達目標】
1. Mathematica の基本的文法・関数を習得し、対話的使用ができる。
2. Mathematica プログラミングの基礎を習得し、問題解決に応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
主にPC画面を投影し、実際の操作を確認しながら解説を行う。必要に応じて随時演習課題を設け、実践力の向上を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について概説と受講に必要なソフトウェア環境の確認・整備
第2回	Mathematica 入門	機能の概要、基本操作、数と文字列の取扱い
第3回	シンボルとその計算	シンボルの定義と運用
第4回	リスト	リストの定義と運用
第5回	式、パターンとパターンマッチ、遅延割り当て	式・パターンの定義、パターンマッチの概念と運用、遅延割り当ての概念と運用
第6回	関数・純関数	関数・純関数の定義と運用
第7回	ルールとその適用	ルールの概念とその運用
第8回	方程式と不等式	代数方程式・不等式・漸化式・微分方程式の解法
第9回	Mathematica プログラミングの基礎	変数の有効範囲・コンテキスト、基本的な制御構文
第10回	データの入出力	データの保存と読み込み
第11回	データの視覚化	データのプロット方法
第12回	Mathematica による問題解決（1）	Mathematica による実験データの処理例
第13回	Mathematica による問題解決（2）	Mathematica による運動シミュレーションの例
第14回	まとめ	基本的事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。】
各回の内容を確実に反復し、定着させること。授業内で示される演習課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
相談に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
Mathematica の理解度・運用能力を平常点（60%）及び期末試験（40%）によって評価する。出席率や課題提出率が低い者は点数に依らず不合格とする。実習中心の授業となる為、受講態度を特に厳しく評価し、問題ある者は出席者と見做さない。

【学生の意見等からの気づき】
より実践的な内容を求める学生に応じて、応用面を強化したい。

【学生が準備すべき機器他】
講義および演習は各自の貸与PCを用いて行う。持参なき者は出席者と見做されない。

【その他の重要事項】
通知・資料提供等の手段として「学習支援システム」を使用し、これらの定期的確認を受講者の義務とする。確認を怠ったことによって生じる不利益については、それがどんなに深刻なものであったとしても、一切関知しない。担当教員への連絡方法を含め、授業運営の詳細については初回授業にて通知する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course deals with the basic way to use Mathematica, which is one of leading softwares for symbolic computation.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Understanding basic grammar of Mathematica.
2) Interactive using of Mathematica.
3) Basic programming of Mathematica.
4) Approaching scientific problems by using Mathematica.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 60%, Term-end examination 40%. Those with a low attendance or report-submission rate cannot take the exam. Since the class is centered on practical training, the attendance attitude is evaluated particularly rigorously, and those with a problem are not considered to be attendees.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

情報処理技法

三橋　秀生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、情報化社会において、問題解決に必要な情報の処理・分析を行う基礎能力を身につけることを目標とする。そのため、「データの分析」や「統計的な推測」の概略を手始めに、その先にある統計学や統計解析の初歩を、ソフトウェアを活用しながら具体例で学ぶ。

【到達目標】
問題解決のために収集した情報の、処理・分析を行うために、技術者として最低限必要な知識およびソフトウェアの活用法を習得する。そして、情報化社会で、情報の処理と分析ができる基礎能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業ごとに理論の解説と演習を実施する。前半で背景となる統計学の解説をし、後半で（MS-Excel等を用いた）演習を行う。
また、MATLAB等を利用した情報処理を経験する。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報処理の基本操作	授業概要の説明、MS-Excelを用いた情報処理のための基礎操作　（平均、分散、標準偏差）
第2回	統計処理の基礎	度数分布、グラフの作成、サンプル抽出、不偏分散
第3回	推定	信頼区間、区間推定
第4回	カイ2乗検定	偏りの検定：カイ2乗検定
第5回	t 検定（対応のない場合）	平均値と平均値の差の検定：対応のないｔ検定
第6回	t 検定（対応のある場合）	差の平均値の検定：対応のあるｔ検定
第7回	相関	散布図、相関
第8回	相関係数	相関係数、相関の強さ
第9回	無相関検定	標本集団の相関係数、無相関検定
第10回	単回帰	回帰直線の計算と予測
第11回	偏相関	偏相関、偏相関係数
第12回	MATLAB導入	MATLABデスクトップの基礎、行列と配列、インデックス、ワークスペース変数
第13回	MATLABプログラミング	テキストと文字、関数呼び出し、プロット、プログラミングとスクリプト
第14回	MATLAB応用	データのインポートと情報処理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
各自教材や資料を参考にした復習を強く推奨する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

統計の基礎、MS-Excel等の利用に関して基礎的な内容で、各自使いやすい書籍、資料などを利用すること。

【参考書】
向後千春、冨永敦子著，統計学がわかる（技術評論社）
向後千春、冨永敦子著，統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】（技術評論社）
東京大学教養学部統計学教室編，統計学入門（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】
問題解決のために収集した情報の処理・分析を行うために、技術者として最低限必要な知識およびソフトウェアの活用法を習得できたか、そして、情報化社会で、情報の処理と分析ができる基礎能力を身につけられたかを、期末試験や演習課題レポートなどを通じて評価する。
期末試験もしくは期末レポート　(60％)
演習課題レポート（40％）
成績評価の方法と基準を変更する場合がある．その場合の具体的な方法と基準は，担当教員が学習支援システムで提示する．

【学生の意見等からの気づき】
Excelの処理を効率的に行う技法を実習を通じて示す。

【学生が準備すべき機器他】
講義および演習は、各自の貸与NotePCを用いて行う。必ず持参すること。

【その他の重要事項】
履修者の状況等に応じて内容・順序を変更することがあります.
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと.
担当教員から，学習支援システムを通じた連絡がないか，日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください.
その他の重要事項は適宜，指示します.

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this class, students will learn about the basics of statistics such as data analysis and statistical inference, using concrete examples while using software. The goal is to acquire the basic ability to process and analyze information necessary to solve problems in an information-oriented society.
(Learning Objectives)
At the end of this course, students acquire the knowledge about information processing and how to use software, and acquire the basic ability to analyze and consider various themes in information-oriented society.
(Learning activities outside of classroom)
We strongly recommend that you review by referring to your own teaching materials and materials.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

情報処理技法

坂田　繁洋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報化社会における問題解決には, 統計学の基本的な知識・理解が必要となる。この授業では, 統計学の学習に必要となる確率の基本事項を学ぶ。また, 確率の具体的な計算をExcelで行う。
この授業の目的は, 確率の基本事項を定理の証明も含めて理解することと, Excelの基本的操作方法を習得することである。

【到達目標】
問題解決のために収集した情報の処理・分析を行うために, 最低限必要な知識およびソフトウェアの活用法を習得する。また, 情報化社会における情報の処理と分析の基礎能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
(授業の進め方)
講義と演習
(授業の方法)
確率の各事項について, 定理の理解と証明, およびExcelを使った具体例の計算方法を講義する。
学習した各事項について, Excelを使った演習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	確率と分布の基本	確率変数と確率分布, 「2種類の結果が得られる試行」の分布, 確率変数の平均・分散・標準偏差と期待値, 1次式の平均・分散・標準偏差
第2回	「無限に値をとる」とはどういうこと？	等比数列の和の公式とeの定義, Poisson分布と幾何分布, 二項分布とPoisson分布の関係, 期待値の拡張
第3回	演習1	第1回から第2回までの復習と演習, 微分積分・線形代数からの補足
第4回	確率をグラフで囲まれる面積で表そう	分布関数と密度関数, 一様分布, 正規分布と標準正規分布, t分布・カイ2乗分布・F分布
第5回	連続型確率変数をより深く学ぼう	正規分布の分布関数を使った復習, 定積分と連続型確率変数の期待値計算, SymPyで正規分布の様子を実感する, 確率変数の線形変換と平均・分散・標準偏差
第6回	演習2	第4回から第5回までの復習と演習, 微分積分・線形代数からの補足
第7回	2つの確率変数の関係を見てみよう	「独立にコインを投げる」とは, 共分散・相関係数, 条件付確率によるデータ分析
第8回	2つの確率変数の和や定数倍に注目してみよう	確率変数の和の平均・分散・標準偏差, 和の分布と再生性, より広い再生性をもつ分布
第9回	n個の確率変数について理解しよう	n個の確率変数の和や平均, 確率変数の基準化・標準化, 和や平均の基準化・標準化
第10回	演習3	第7回から第9回までの復習と演習, 微分積分・線形代数からの補足
第11回	大数の法則と中心極限定理を学ぼう	Excelで大数の法則をイメージする, Chebyshevの不等式と大数の法則の証明, 中心極限定理をグラフでイメージする
第12回	的当てゲームの分析をしてみよう	複雑な問題をExcelでシミュレーションする, ほぼ厳密な分布をExcelで導出する
第13回	演習4	第11回から第12回までの復習と演習, 微分積分・線形代数からの補足
第14回	まとめ	全体のまとめと理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
(準備学習)
シラバスの授業計画のテーマ・内容は教科書の章・節タイトルに対応している。
各回に対応する教科書の章・節を読み, 学習するキーワードを把握する。
学習に必要となる高等学校の数学と教養科目の微分積分・線形代数の既習事項を指示するので, それを確認する。
(復習)
各回で学んだ定理の仮定と結論を確認し, 記憶する。
各回で扱った具体例をもう一度計算する。
(宿題)
各回で扱った計算問題の類題を課すので, 締め切りまでに取り組み, 提出する。

【テキスト（教科書）】
角田保著「Excel統計学超入門」(オーム社)

【参考書】
東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」(東京大学出版会)

【成績評価の方法と基準】
(成績評価の方法)
演習課題40%, 期末試験または期末レポート60%
(成績評価の基準)
Excelの基本操作が身に付いたかどうか, 確率の具体的な問題を計算できるかどうかを演習課題で評価する。
確率の理論的な内容を理解しているかどうかも含めて, Excelを使って確率の問題を解けるかどうかを期末試験または期末レポートで評価する。

【学生の意見等からの気づき】
適宜, 高等学校の数学と教養科目の微分積分・線形代数の復習をします。

【学生が準備すべき機器他】
授業時に, 各自の貸与ノートPCを忘れずに持ってきてください。
電子端末でもよいので, ノートと筆記用具も持ってきてください。

【その他の重要事項】
教科書のサポートページからサンプルデータをダウンロードして, それを用いて授業を進めます。履修登録をする前に, 教科書のサポートページの注意書きを読み, 納得・同意してから履修登録をしてください。

【Outline (in English)】
(Course outline)

In this class, students will learn about the basics of the theory of probability as an introduction to statistics. Students will use the software Excel to learn about probability. The goal is to acquire the basic ability to process and analyze information necessary to solve problems in an information-oriented society.
（Learning Objectives）
At the end of this course, students acquire the basic knowledge about probability and how to use the software Excel. They also acquire the basic ability to analyze and consider various themes in information-oriented society.
（Learning activities outside of classroom）
We strongly recommend that you review by referring to your own teaching materials.
Students will be expected to have four hours to understand the course content.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 40%, Term-end report or examination 60%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

情報処理技法

伊藤　賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命科学分野の実験データを解析するため必要な統計解析と画像処理について学ぶ。

【到達目標】
背景となる数学、統計学の初歩についても学習した上で、実例を通じながら解析方法を学ぶ。計測データや画像データを適切に処理する技法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の前半は講義を行い、残りの時間で演習課題に取り組む。毎回ではないが、レポート課題を出題する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要の説明、Jupyter notebookの準備	Pythonプログラミングの準備
第2回	グラフの描画	グラフの作成（Python, Excel）
第3回	データ解析	平均、分散、標準偏差、不偏分散
第4回	確率分布1	確率、確率密度関数、正規分布
第5回	確率分布2	正規分布の性質
第6回	Pythonを用いたデータ解析入門1	信頼区間
第7回	Pythonを用いたデータ解析入門2	t分布、仮説検定、t検定、Welchのt検定
第8回	Pythonを用いたデータ解析入門3	分析、グラフ描画応用（Seaborn）
第9回	Fijiによる画像処理（1）	Fiji(ImageJ)の使い方、画像の二値化
第10回	Fijiによる画像処理（2）	スケールバーの入れ方、粒子解析、面積、周長の求め方
第11回	Fijiによる画像処理（3）	粒子解析の演習
第12回	Fijiによる画像処理（4）	動画の扱い方
第13回	Fijiによる画像処理（5）	物体追跡
第14回	まとめ	講義でやった内容のまとめと、画像認識等の発展的な内容の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
翌週の講義までに前回の講義の内容は復習しておくこと。講義資料は学習支援システムで配布するので、欠席した場合はしっかり復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない。学習支援システムより講義資料を配布する。

【参考書】
参考になると思われるサイト、参考書について講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20%）、レポート課題（80%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
プログラミング、統計処理、画像解析といった幅広い内容を教えるため、動作原理についての要点は説明するが、詳細なところまでは講義中に説明する時間が確保できていない。「どうしてこのような結果になるのか」といった疑問をもった場合は教員やTAに積極的に質問して欲しい。また、授業の内容を受けてこういうことをしてみたいという意見があれば、可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、PCを使った作業を行います。対面で講義を行う際には、edu貸与ノートPCを持参してください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course deals with statistical analysis and image processing, which are necessary for analyzing experimental data in the life sciences.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to understand the fundamentals of statistics and to acquire techniques for processing measurement and image data appropriately.
(Learning activities outside of classroom)
Review the lecture content before the next week's lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 80%, In-class activities 20%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

情報リテラシーと表現技術

山岸　昌夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンの基本操作と情報モラルについて学ぶ。さらに、レポートや卒論の作成、発表に必要なパソコンの基本的なソフト（ワード、エクセル、パワーポイント等）の使い方を学ぶ。

【到達目標】
コンピュータを活用した情報収集・レポート作成ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ノートパソコンを使用し、パソコンの基本的操作、インターネットの利用、文書作成、表計算、グラフ作成、プレゼンテーション資料作成、プレゼンテーションの仕方などを学ぶ。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インターネットと電子メール	接続方法と使用方法
第2回	ワードによる文書作成（1）	文字の入力、ページ設定、移動とコピー
第3回	ワードによる文書作成（2）	文字サイズの変更・装飾、表の挿入
第4回	ワードによる文書作成（3）	ワードアート，画像と図形を活用した文書
第5回	エクセルの基本操作（1）	文字と数字、データ入力の基礎、計算式の入力
第6回	エクセルの基本操作（2）	関数を使った計算式、罫線、行の挿入
第7回	エクセルの基本操作（3）	グラフの作成、条件判定
第8回	エクセルの基本操作（4）	検索関数、条件付き書式
第9回	ワードとエクセルの活用	並べ替え、フィルター、ワードとエクセルの連携活用
第10回	パワーポイントの基本操作（1）	基本操作
第11回	パワーポイントの基本操作（2）	グラフの活用、アニメーション効果、表と画像の挿入
第12回	パワーポイントの基本操作（3）	スライドショー、プレゼンテーションの基礎知識
第13回	プレゼンテーションの基本	デザインの一般原則、画像優位性効果
第14回	最終課題の作成	課題内容と作成手順の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本学の学習支援システム利用ガイドおよびインターネット利用ガイドを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】
実教出版企画開発部『30時間でマスター Office2021（Windows11対応）』実教出版株式会社

【参考書】
切田 節子, 新 聖子, 山岡 英孝, 乙名 健, 長山 恵子 共著『Microsoft Office 2021を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社
ガー・レイノルズ著『プレゼンテーションZen』丸善出版

【成績評価の方法と基準】
評価方法：各授業における演習（50%）とレポート提出（50%）で評価する。
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
深い理解のために、より実践的な例を取り扱うようにします。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces the fundamental operation of personal computers and the effective use of software. In addition, the course introduces how to compose PowerPoint for scientific presentation.
(Learning objectives)
Upon completion of this lecture, students will be able to gather information and prepare reports using computers.
(Learning activities outside of classroom)
The standard time to spend preparing and reviewing this lecture is 4 hours. Students are required to be familiar with the User's Guide for the university's learning support system and the Internet.
(Grading criteria/policy)
Students are evaluated based on exercises in each lecture (50%) and assignments (50%). More than 60% will be considered as a passing grade.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習ＩＩ

杉山　健一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の出題・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている． 授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通し、前回の授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜、紹介する.

【成績評価の方法と基準】
【期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。】成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成 績を総合的に、判断して評価する。レポート提出及び成果 (30%)，期末試験の成績 (70%) として、成績を付ける。 なお，初回の授業 で課題の提出の仕方について、説明する.

【学生の意見等からの気づき】
自習あるいは講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc.,
which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the following.
1) Vector space and its dimension
2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
3) Matrix eigenvalue and eigenvector
4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
5) Orthogonal transformation
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習Ⅰ

礒島　伸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
１）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
２）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
１）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
２）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
３）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ￥ 2178

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する．
成績は，期末試験，演習課題等の成績を総合的に判断して評価する．
期末試験を７０%，演習課題等を３０%として成績をつける．

【学生の意見等からの気づき】
教科書を予習して，講義のときに分からないことを質問すること．これは講義中でも講義の後でも構いません．また章末の演習問題をやっておくこと．

【学生が準備すべき機器他】
初回授業に貸与ノートPCを持参すること．
以下のように学習支援システムを利用する．
・授業資料の配布
・課題の出題および提出（ただし，内容により紙媒体で提出する課題もあり）
・オンライン形式での授業を実施する場合，その情報の提供

【その他の重要事項】
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと．
担当教員から，学習支援システムを通じた連絡がないか，日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください．
また，秋学期「線形代数学及び演習II」を継続して履修することを勧めます．
その他の重要事項は適宜，指示します．

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習Ⅰ

礒島　伸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
１）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
２）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
１）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
２）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
３）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ￥ 2178

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する．
成績は，期末試験，演習課題等の成績を総合的に判断して評価する．
期末試験を７０%，演習課題等を３０%として成績をつける．

【学生の意見等からの気づき】
教科書を予習して，講義のときに分からないことを質問すること．これは講義中でも講義の後でも構いません．また章末の演習問題をやっておくこと．

【学生が準備すべき機器他】
初回授業に貸与ノートPCを持参すること．
以下のように学習支援システムを利用する．
・授業資料の配布
・課題の出題および提出（ただし，内容により紙媒体で提出する課題もあり）
・オンライン形式での授業を実施する場合，その情報の提供

【その他の重要事項】
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと．
担当教員から，学習支援システムを通じた連絡がないか，日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください．
また，秋学期「線形代数学及び演習II」を継続して履修することを勧めます．
その他の重要事項は適宜，指示します．

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習Ⅰ

伊藤　賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜，指示する．

【成績評価の方法と基準】
行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを期末試験や演習により判断する．成績は期末試験の成績(80%)、提出課題（20%）として総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
講義中の質問は、教室全体の理解度向上に資する行為なので歓迎する．また、講義時間の制約のため十分な応用例に触れられないのが残念であるが、興味のある者は行列がどのような分野で役に立つのか自ら調べてみて欲しい．

【学生が準備すべき機器他】
初回時に貸与ノートPCを持参すること．
その他は適宜，指示する．

【その他の重要事項】
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと．
担当教員から，学習支援システムを通じた連絡がないか，日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください．
その他の重要事項は適宜，指示します．

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 20%, Term-end examination 80%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習Ⅰ

本多　恭子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜，指示する．

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する．
成績は，期末試験，演習課題等の成績を総合的に判断して評価する．
期末試験を７０%，演習課題等を３０%として成績をつける．

【学生の意見等からの気づき】
講義や演習のときに分からないことを質問すること．

【学生が準備すべき機器他】
初回時に貸与ノートPCを持参すること．
その他は適宜，指示する．

【その他の重要事項】
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと．
担当教員から，学習支援システムを通じた連絡がないか，日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください．
その他の重要事項は適宜，指示します．

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習Ⅰ

本多　恭子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜，指示する．

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する．
成績は，期末試験，演習課題等の成績を総合的に判断して評価する．
期末試験を７０%，演習課題等を３０%として成績をつける．

【学生の意見等からの気づき】
講義や演習のときに分からないことを質問すること．

【学生が準備すべき機器他】
初回時に貸与ノートPCを持参すること．
その他は適宜，指示する．

【その他の重要事項】
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと．
担当教員から，学習支援システムを通じた連絡がないか，日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください．
その他の重要事項は適宜，指示します．

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習ＩＩ

杉山　健一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の出題・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている． 授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通し、前回の授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜、紹介する.

【成績評価の方法と基準】
【期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。】成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績を総合的に、判断して評価する。レポート提出及び成果 (30%)，期末試験の成績 (70%) として、成績を付ける。 なお，初回の授業 で課題の提出の仕方について、説明する.

【学生の意見等からの気づき】
自習あるいは講義の時に分からないことがあれば、質 問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc.,
which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the following.
1) Vector space and its dimension
2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
3) Matrix eigenvalue and eigenvector
4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
5) Orthogonal transformation
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習ＩＩ

木村　真琴

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に、１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
毎回小テストを行う.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する.
期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。
評価は期末試験の得点(100%)により行う.
小テストの受験回数が、全実施回数の７割に満たない者は不合格とする.
小テストの得点を成績の微調整のために利用することがある.

【学生の意見等からの気づき】
小テストが役に立っているようである.

【学生が準備すべき機器他】
とくになし.

【その他の重要事項】
小テストを全実施回数の原則として７割以上受験しない場合，不合格とします.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the following.
1) Vector space and its dimension
2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
3) Matrix eigenvalue and eigenvector
4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
5) Orthogonal transformation
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Grade evaluation will be based on the final exam. For those who fail the final exam, adjustments may be made based on the total score of the Take-home tests.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習ＩＩ

木村　真琴

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に、１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
毎回小テストを行う.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する.
期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。
評価は期末試験の得点(100%)により行う.
小テストの受験回数が、全実施回数の７割に満たない者は不合格とする.
小テストの得点を成績の微調整のために利用することがある.

【学生の意見等からの気づき】
小テストが役に立っているようである.

【学生が準備すべき機器他】
とくになし.

【その他の重要事項】
小テストを全実施回数の原則として７割以上受験しない場合，不合格とします.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the following.
1) Vector space and its dimension
2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
3) Matrix eigenvalue and eigenvector
4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
5) Orthogonal transformation
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Grade evaluation will be based on the final exam. For those who fail the final exam, adjustments may be made based on the total score of the Take-home tests.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習ＩＩ

三橋　秀生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で
ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に、１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する.
成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する.
期末試験を８０%，演習課題等を２０%として成績をつける.
※ 期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.

【学生の意見等からの気づき】
教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること.
これは講義中でも講義の後でも構いません．また章末の演習問題をやっておくこと.

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPCを持参すること.
その他は適宜、指示する.

【その他の重要事項】
「学習支援システム」のチェックを怠らないこと.
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください.
春学期「線形代数学演習I」を履修済みであることを前提とします.
その他の重要事項は適宜、指示します.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the following.
1) Vector space and its dimension
2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
3) Matrix eigenvalue and eigenvector
4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
5) Orthogonal transformation
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 20%, Term-end examination 80%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習ＩＩ

三橋　秀生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で
ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に、１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する.
成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する.
期末試験を８０%，演習課題等を２０%として成績をつける.
※ 期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.

【学生の意見等からの気づき】
教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること.
これは講義中でも講義の後でも構いません．また章末の演習問題をやっておくこと.

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPCを持参すること.
その他は適宜、指示する.

【その他の重要事項】
「学習支援システム」のチェックを怠らないこと.
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください.
春学期「線形代数学演習I」を履修済みであることを前提とします.
その他の重要事項は適宜、指示します.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the following.
1) Vector space and its dimension
2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
3) Matrix eigenvalue and eigenvector
4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
5) Orthogonal transformation
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 20%, Term-end examination 80%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習ＩＩ

礒島　伸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で
ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に、１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ¥ 2178

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する.
成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する.
期末試験を７０%、演習課題等を３０%として成績をつける.

【学生の意見等からの気づき】
教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること.
これは講義中でも講義の後でも構いません．また章末の演習問題をやっておくこと.

【学生が準備すべき機器他】
初回時に貸与ノートPCを持参すること.
以下のように学習支援システムを利用する.
・授業資料の配布
・課題の出題および提出（ただし，内容により紙媒体で提出する課題もあり）
・オンライン形式での授業を実施する場合，その情報の提供

【その他の重要事項】
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと.
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください.
この授業では、春学期「線形代数学及び演習 I」を履修済みであることを前提とします.
その他の重要事項は適宜、指示します.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the following.
1) Vector space and its dimension
2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
3) Matrix eigenvalue and eigenvector
4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
5) Orthogonal transformation
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習ＩＩ

礒島　伸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で
ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に、１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.
授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ¥ 2178

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する.
成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する.
期末試験を７０%、演習課題等を３０%として成績をつける.

【学生の意見等からの気づき】
教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること.
これは講義中でも講義の後でも構いません．また章末の演習問題をやっておくこと.

【学生が準備すべき機器他】
初回時に貸与ノートPCを持参すること.
以下のように学習支援システムを利用する.
・授業資料の配布
・課題の出題および提出（ただし，内容により紙媒体で提出する課題もあり）
・オンライン形式での授業を実施する場合，その情報の提供

【その他の重要事項】
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと.
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください.
この授業では、春学期「線形代数学及び演習 I」を履修済みであることを前提とします.
その他の重要事項は適宜、指示します.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the following.
1) Vector space and its dimension
2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
3) Matrix eigenvalue and eigenvector
4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
5) Orthogonal transformation
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習ＩＩ

伊藤　賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で
ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に、１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを期末試験や提出課題により判断する.
成績は期末試験の成績(80%)、提出課題（20%）として総合的に評価する.
なお，初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
微分積分と同様に線形代数は様々な分野で活用されている便利なツールであるが、その具体的な例の紹介にはそれほど時間を割くことができない.　とっかかりとなる情報は与えるので、是非各自で線形代数がどのように活用されているのか調べてみて欲しい.

【学生が準備すべき機器他】
初回時に貸与ノートPCを持参すること.
その他は適宜、指示する.

【その他の重要事項】
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと.
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください.
その他の重要事項は適宜、指示します.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the following.
1) Vector space and its dimension
2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
3) Matrix eigenvalue and eigenvector
4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
5) Orthogonal transformation
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 20%, Term-end examination 80%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習ＩＩ

本多　恭子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で
ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に、１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する.
成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する.
期末試験を７０%，演習課題等を３０%として成績をつける.

【学生の意見等からの気づき】
講義や演習のときに分からないことを質問すること.

【学生が準備すべき機器他】
初回時に貸与ノートPCを持参すること.
その他は適宜、指示する.

【その他の重要事項】
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと.
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください.
その他の重要事項は適宜、指示します.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the following.
1) Vector space and its dimension
2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
3) Matrix eigenvalue and eigenvector
4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
5) Orthogonal transformation
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習ＩＩ

本多　恭子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で
ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に、１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する.
成績は、期末試験や演習課題等の成績を総合的に判断して評価する.
期末試験を７０%，演習課題等を３０%として成績をつける.

【学生の意見等からの気づき】
講義や演習のときに分からないことを質問すること.

【学生が準備すべき機器他】
初回時に貸与ノートPCを持参すること.
その他は適宜、指示する.

【その他の重要事項】
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと.
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください.
その他の重要事項は適宜、指示します.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the following.
1) Vector space and its dimension
2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
3) Matrix eigenvalue and eigenvector
4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
5) Orthogonal transformation
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習Ⅰ

寺杣　友秀

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第1章、第2章、第4章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績(60%)、提出課題（40%）として総合的に評価する． 初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる.
問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には,「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習Ⅰ

寺杣　友秀

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第１章、第２章、第４章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績(60%)、提出課題（40%）として総合的に評価する． 初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる.
問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には,「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習Ⅰ

伊藤　賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第１章、第２章、第４章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績(80%)、提出課題（20%）として総合的に評価する． 初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる.
問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う.

【その他の重要事項】
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと.
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください.
その他の重要事項は適宜、指示します.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 20%, Term-end examination 80%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習Ⅰ

伊藤　賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第１章、第２章、第４章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績(80%)、提出課題（20%）として総合的に評価する． 初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる.
問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う.

【その他の重要事項】
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと.
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください.
その他の重要事項は適宜、指示します.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 20%, Term-end examination 80%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習Ⅰ

伊藤　賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第1章、第2章、第4章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績(80%)、提出課題（20%）として総合的に評価する． 初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる.
問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う.

【その他の重要事項】
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと.
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください.
その他の重要事項は適宜、指示します.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 20%, Term-end examination 80%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習ＩＩ

坂田　繁洋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用などについて学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め、さらに2変数関数の積分などを扱う．また積分を用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる． 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年） 2300 円+税
（第４章4.5節、第３章、第５章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められること、などである． 成績評価の方法は、期末試験(100%)である.
※期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.
ただし、小テストを、全実施回数の7割以上受験していない者は不合格とする.

【学生の意見等からの気づき】
積分を計算できるようになることはもちろん、計算式の意味まで考えられるようになると、専門の研究にも活用できる教養が身に付くと思います.

【学生が準備すべき機器他】
ノート、筆記用具(電子端末でもよい)

【その他の重要事項】
春学期「微分積分学演習I」を履修済みであることを前提とする.
小テストを実施する場合、学習支援システムを利用する.
小テストは、全実施回数の7割以上受験すること.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Acquiring the integration of one-variable functions
2) Integration for two-variable functions
3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end
examination 100%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習ＩＩ

寺田　至

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用などについて学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め、さらに2変数関数の積分などを扱う．また積分を用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる． 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年） 2300 円+税
（第４章4.5節、第３章、第５章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められること、などである．成績は期末試験の成績（100%）によって評価する．ただし、授業で指示する課題に対し「学習支援システム」への期限内提出回数が全出題回数の7割に満たなかった場合は不合格とする．詳細は初回の授業で説明する.
※ 期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.

【学生の意見等からの気づき】
自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身に着けると良い．講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい.

【学生が準備すべき機器他】
もしも必要性が生じた場合には、口頭および「お知らせ欄」を通じて指示・周知する。

【その他の重要事項】
春学期「微分積分学演習 I」を履修済みであることを前提とする.
以下のように学習支援システムを利用する.
・授業資料の配布
・課題の出題および提出

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Acquiring the integration of one-variable functions
2) Integration for two-variable functions
3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%). You will be disqualified, however, unless the solutions of the assignments given in the classes are submitted at least 70% of the times.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習ＩＩ

寺田　至

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用などについて学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め、さらに2変数関数の積分などを扱う．また積分を用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる． 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年） 2300 円+税
（第４章4.5節、第３章、第５章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められること、などである．成績は期末試験の成績（100%）によって評価する．ただし、授業で指示する課題に対し「学習支援システム」への期限内提出回数が全出題回数の7割に満たなかった場合は不合格とする．詳細は初回の授業で説明する.
※ 期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.

【学生の意見等からの気づき】
自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身に着けると良い．講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい.

【学生が準備すべき機器他】
もしも必要性が生じた場合には、口頭および「お知らせ欄」を通じて指示・周知する。

【その他の重要事項】
春学期「微分積分学演習 I」を履修済みであることを前提とする.
以下のように学習支援システムを利用する.
・授業資料の配布
・課題の出題および提出

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Acquiring the integration of one-variable functions
2) Integration for two-variable functions
3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%). You will be disqualified, however, unless the solutions of the assignments given in the classes are submitted at least 70% of the times.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習ＩＩ

坂田　繁洋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用などについて学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め、さらに2変数関数の積分などを扱う．また積分を用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる． 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年） 2300 円+税
（第４章4.5節、第３章、第５章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められること、などである． 成績評価の方法は、期末試験(100%)である.
※期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.
ただし、小テストを、全実施回数の7割以上受験していない者は不合格とする.

【学生の意見等からの気づき】
積分を計算できるようになることはもちろん、計算式の意味まで考えられるようになると、専門の研究にも活用できる教養が身に付くと思います.

【学生が準備すべき機器他】
ノート、筆記用具(電子端末でもよい)

【その他の重要事項】
春学期「微分積分学演習I」を履修済みであることを前提とする.
小テストを実施する場合、学習支援システムを利用する.
小テストは、全実施回数の7割以上受験すること.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Acquiring the integration of one-variable functions
2) Integration for two-variable functions
3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end
examination 100%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習ＩＩ

陸名　雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用などについて学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め、さらに2変数関数の積分などを扱う．また積分を用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる． 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書・参考書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年） 2300 円+税
（第４章4.5節、第３章、第５章を学ぶ）

【参考書】
相談に応じて紹介する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められること、などである． 成績は期末試験の成績（100%）で評価する.
※ 期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.
※ 期末試験を公欠した場合は、第14回演習（筆記試験形式で実施する）の成績を期末試験の成績と見なす.

【学生の意見等からの気づき】
学習の習慣化が不十分である．履修内容の理解・定着に必要な学習方法・分量について真剣に考えてもらいたい.

【その他の重要事項】
春学期「微分積分学及び演習 I」を履修済みであることを前提とする.
以下のように学習支援システムを利用する.
・オンライン受講に必要な情報の提供
・授業資料の配布
・課題の出題および提出

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Acquiring the integration of one-variable functions
2) Integration for two-variable functions
3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 100%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習ＩＩ

坂田　繁洋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用などについて学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め、さらに2変数関数の積分などを扱う．また積分を用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる． 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年） 2300 円+税
（第４章4.5節、第３章、第５章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められること、などである． 成績評価の方法は、期末試験(100%)である.
※期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.
ただし、小テストを、全実施回数の7割以上受験していない者は不合格とする.

【学生の意見等からの気づき】
積分を計算できるようになることはもちろん、計算式の意味まで考えられるようになると、専門の研究にも活用できる教養が身に付くと思います.

【学生が準備すべき機器他】
ノート、筆記用具(電子端末でもよい)

【その他の重要事項】
春学期「微分積分学演習I」を履修済みであることを前提とする.
小テストを実施する場合、学習支援システムを利用する.
小テストは、全実施回数の7割以上受験すること.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Acquiring the integration of one-variable functions
2) Integration for two-variable functions
3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end
examination 100%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習ＩＩ

髙澤　兼二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用などについて学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め、さらに2変数関数の積分などを扱う．また、積分を用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる． レポート等の回収・フィードバックは授業時間内に行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業を聞くだけで数学を習得できることはないので、授業には予習をした上で臨む、授業後は講義内容を復習し、さらに課題や教科書の練習問題を解く等により、学習内容を習得することが求められる。

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第４章4.5節、第３章、第５章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められること、などである．成績評価の方法は，毎回の課題に対するレポートまたは授業時間内の小テスト（50%）および定期試験（50%）による.

【学生の意見等からの気づき】
自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身に着けるとよい。授業中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する重要な貢献となるので、ぜひ積極的に質問してもらいたい。

【その他の重要事項】
春学期「微分積分学及び演習Ｉ」を履修済みであることを前提とする.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Acquiring the integration of one-variable functions
2) Integration for two-variable functions
3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours per week to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the next lesson and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports or short in-class quizzes (50%), Examination(s) (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習ＩＩ

髙澤　兼二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用などについて学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め、さらに2変数関数の積分などを扱う．また、積分を用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる． レポート等の回収・フィードバックは授業時間内に行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業を聞くだけで数学を習得できることはないので、授業には予習をした上で臨む、授業後は講義内容を復習し、さらに課題や教科書の練習問題を解く等により、学習内容を習得することが求められる。

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）
2300 円+税
（第４章4.5節、第３章、第５章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められること、などである．成績評価の方法は，毎回の課題に対するレポートまたは授業時間内の小テスト（50%）および定期試験（50%）による.

【学生の意見等からの気づき】
自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身に着けるとよい。授業中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する重要な貢献となるので、ぜひ積極的に質問してもらいたい。

【その他の重要事項】
春学期「微分積分学及び演習Ｉ」を履修済みであることを前提とする.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Acquiring the integration of one-variable functions
2) Integration for two-variable functions
3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours per week to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the next lesson and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports or short in-class quizzes (50%), Examination(s) (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習ＩＩ

伊藤　賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用などについて学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め、さらに2変数関数の積分などを扱う．また積分を用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる． 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年） 2300 円+税
（第４章4.5節、第３章、第５章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められること、などである． 成績は期末試験の成績（80%）、提出課題（20%）として総合的に評価する．初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身に着けると良い． 講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい.

【その他の重要事項】
春学期「微分積分学及び演習 I」を履修済みであることを前提とする.
以下のように学習支援システムを利用する.
・授業資料の配布
・課題の出題および提出

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Acquiring the integration of one-variable functions
2) Integration for two-variable functions
3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 20%, Term-end examination 80%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習ＩＩ

伊藤　賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用などについて学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め、さらに2変数関数の積分などを扱う．また積分を用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる． 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年） 2300 円+税
（第４章4.5節、第３章、第５章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められること、などである． 成績は期末試験の成績（80%）、提出課題（20%）として総合的に評価する．初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身に着けると良い． 講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい.

【その他の重要事項】
春学期「微分積分学及び演習 I」を履修済みであることを前提とする.
以下のように学習支援システムを利用する.
・授業資料の配布
・課題の出題および提出

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Acquiring the integration of one-variable functions
2) Integration for two-variable functions
3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 20%, Term-end examination 80%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習ＩＩ

伊藤　賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用などについて学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め、さらに2変数関数の積分などを扱う．また積分を用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる． 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年） 2300 円+税
（第４章4.5節、第３章、第５章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められること、などである． 成績は期末試験の成績（80%）、提出課題（20%）として総合的に評価する．初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身に着けると良い． 講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい.

【その他の重要事項】
春学期「微分積分学及び演習 I」を履修済みであることを前提とする.
以下のように学習支援システムを利用する.
・授業資料の配布
・課題の出題および提出

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Acquiring the integration of one-variable functions
2) Integration for two-variable functions
3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 20%, Term-end examination 80%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎Ⅰ

関　優也

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、質点および剛体の運動を対象として、位置・速度・加速度の記述法、ニュートンの運動法則、仕事とエネルギー、運動量、回転運動、振動、非慣性系における運動など、力学の基礎的内容を体系的に学びます。学生は、物理現象を数式で表現し解析する方法を理解し、運動方程式や保存則を用いて問題を考察する力を身に付けます。本授業を通して、数式と現象を結び付けて論理的に考える力を養い、機械工学の専門科目を学ぶための基礎的学力と問題解決能力を身に付けることを目的とします。

【到達目標】
本授業を履修することで、学生は次のことができるようになります。
（1）位置・速度・加速度などの基本的な物理量を用いて、質点の運動を数式で表現し、運動の特徴を説明することができます。
（2）ニュートンの運動法則に基づいて運動方程式を立て、基本的な力学問題を解くことができます。
（3）仕事、エネルギー、運動量などの保存則を適切に用い、力学的現象を定量的に解析することができます。
（4）回転運動や単振動、非慣性系における運動について、数式と物理的意味を対応づけて説明することができます。
（5）力学の基礎的知識を用いて、機械工学に関連する簡単な現象や問題について考察することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
春学期の開講形式は基本的に対面授業です。指定した教科書をもとに授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・力学の基本概念	力学とは何か、単位・次元、スカラーとベクトル
2	運動の記述	座標系、位置・速度・加速度ベクトル
3	運動の法則	ニュートンの運動法則、慣性系、運動方程式
4	力のモデル化	重力、張力、摩擦
5	運動方程式の立て方	自由物体図、座標の設定方法
6	仕事と運動エネルギー	仕事、運動エネルギー
7	エネルギー保存則	保存力、ポテンシャル
8	単振動	ばねによる運動、微分方程式の解法
9	運動量と衝突	保存則、反発係数
10	回転運動の基礎	角速度、角運動量、トルク
11	剛体の回転	慣性モーメント、転がり
12	非慣性系とコリオリ力	回転座標系、遠心力、コリオリ力
13	剛体の一般運動	重心の運動、並進、回転
14	総括	春学期学習の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします。】
適宜、練習問題・演習問題をレポートとして課します。学生自ら事前にテキスト内の対象箇所を予習して疑問点を洗い出しておくことを推奨します。これにより授業内容を理解しやすくなります。また、学生は授業内容を復習し、理解を定着させてください。

【テキスト（教科書）】
戸田　盛和 著、「物理入門コース 新装版 力学」岩波書店、2,640円（税込）

【参考書】
十河　清、和達　三樹、出口　哲生 著「ゼロからの力学 I / II」岩波書店
兵頭　俊夫 著「考える力学 第2版」学術図書出版社

【成績評価の方法と基準】
平常点・レポート課題(40%)と期末試験(60%)により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出物に記載された疑問点や要望などがあれば、それをもとに内容と進度を変更することがあります。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course introduces fundamental concepts of classical mechanics, focusing on the motion of particles and rigid bodies. Topics include kinematics, Newton's laws, work and energy, momentum, rotational motion, vibrations, and non-inertial reference frames. Through lectures and exercises, students learn how to describe physical phenomena using mathematical expressions and apply basic laws of mechanics to engineering problems.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students should be able to:
・ Describe motion using position, velocity, and acceleration.
・ Formulate and solve basic equations of motion based on Newton's laws.
・ Apply conservation laws of energy and momentum to mechanical systems.
・ Analyze rotational and vibrational motions.
・ Relate physical phenomena to mathematical models in mechanical engineering.
【Learning Activities outside of Classroom】
Students are expected to read the assigned textbook sections, and complete report assignments after some classes. They should spend approximately four hours per week on self-study, including problem-solving and preparation for reports.
【Grading Criteria / Policy】
The final grade will be determined based on the following components:
・ Reports and assignments: 40%
・ Term-end examination: 60%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎Ⅰ

関　優也

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、質点および剛体の運動を対象として、位置・速度・加速度の記述法、ニュートンの運動法則、仕事とエネルギー、運動量、回転運動、振動、非慣性系における運動など、力学の基礎的内容を体系的に学びます。学生は、物理現象を数式で表現し解析する方法を理解し、運動方程式や保存則を用いて問題を考察する力を身に付けます。本授業を通して、数式と現象を結び付けて論理的に考える力を養い、機械工学の専門科目を学ぶための基礎的学力と問題解決能力を身に付けることを目的とします。

【到達目標】
本授業を履修することで、学生は次のことができるようになります。
（1）位置・速度・加速度などの基本的な物理量を用いて、質点の運動を数式で表現し、運動の特徴を説明することができます。
（2）ニュートンの運動法則に基づいて運動方程式を立て、基本的な力学問題を解くことができます。
（3）仕事、エネルギー、運動量などの保存則を適切に用い、力学的現象を定量的に解析することができます。
（4）回転運動や単振動、非慣性系における運動について、数式と物理的意味を対応づけて説明することができます。
（5）力学の基礎的知識を用いて、機械工学に関連する簡単な現象や問題について考察することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
春学期の開講形式は基本的に対面授業です。指定した教科書をもとに授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・力学の基本概念	力学とは何か、単位・次元、スカラーとベクトル
2	運動の記述	座標系、位置・速度・加速度ベクトル
3	運動の法則	ニュートンの運動法則、慣性系、運動方程式
4	力のモデル化	重力、張力、摩擦
5	運動方程式の立て方	自由物体図、座標の設定方法
6	仕事と運動エネルギー	仕事、運動エネルギー
7	エネルギー保存則	保存力、ポテンシャル
8	単振動	ばねによる運動、微分方程式の解法
9	運動量と衝突	保存則、反発係数
10	回転運動の基礎	角速度、角運動量、トルク
11	剛体の回転	慣性モーメント、転がり
12	非慣性系とコリオリ力	回転座標系、遠心力、コリオリ力
13	剛体の一般運動	重心の運動、並進、回転
14	総括	春学期学習の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします。】
適宜、練習問題・演習問題をレポートとして課します。学生自ら事前にテキスト内の対象箇所を予習して疑問点を洗い出しておくことを推奨します。これにより授業内容を理解しやすくなります。また、学生は授業内容を復習し、理解を定着させてください。

【テキスト（教科書）】
戸田　盛和 著、「物理入門コース 新装版 力学」岩波書店、2,640円（税込）

【参考書】
十河　清、和達　三樹、出口　哲生 著「ゼロからの力学 I / II」岩波書店
兵頭　俊夫 著「考える力学 第2版」学術図書出版社

【成績評価の方法と基準】
平常点・レポート課題(40%)と期末試験(60%)により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出物に記載された疑問点や要望などがあれば、それをもとに内容と進度を変更することがあります。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course introduces fundamental concepts of classical mechanics, focusing on the motion of particles and rigid bodies. Topics include kinematics, Newton's laws, work and energy, momentum, rotational motion, vibrations, and non-inertial reference frames. Through lectures and exercises, students learn how to describe physical phenomena using mathematical expressions and apply basic laws of mechanics to engineering problems.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students should be able to:
・ Describe motion using position, velocity, and acceleration.
・ Formulate and solve basic equations of motion based on Newton's laws.
・ Apply conservation laws of energy and momentum to mechanical systems.
・ Analyze rotational and vibrational motions.
・ Relate physical phenomena to mathematical models in mechanical engineering.
【Learning Activities outside of Classroom】
Students are expected to read the assigned textbook sections, and complete report assignments after some classes. They should spend approximately four hours per week on self-study, including problem-solving and preparation for reports.
【Grading Criteria / Policy】
The final grade will be determined based on the following components:
・ Reports and assignments: 40%
・ Term-end examination: 60%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎Ⅰ

小鍋　哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。本講義では、物理学の中でも特に基礎的な分野である、力学と熱力学について学ぶ。力学は、力と運動に関する学問であり、物理学で必要な思考法や数学的技術を多く含んでいる。一方、熱力学は、熱に関する学問であり、車を動かす動力や気象現象を理解するには無くてはならない。古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の３法則とその応用を学ぶ。

【到達目標】
・力学では、力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。
・熱力学では、熱と温度の関係、分子運動と熱との関係、熱力学の法則について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物理学概論序論	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ
2	質点の運動学	速度と加速度
3	質点の力学	運動の法則
4	質点の運動(1)	自由落下、粘性抵抗力のもとでの落下運動
5	質点の運動(2)	単振動
6	質点の運動(3)	減衰振動と強制振動
7	質点系の力学	重心の運動
8	演習	力学の演習
9	熱と温度(1)	熱平衡状態と温度
10	熱と温度(2)	経験温度と熱力学的温度
11	熱と温度(3)	気体の分子運動論
12	熱力学(1)	熱力学第一法則
13	熱力学(2)	熱力学第二法則
14	演習	熱力学の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
「物理学」　小出昭一郎　裳華房。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト(50%)、レポート点(30%)、授業への積極的な貢献度(出席など)(20%)を目安として総合的に成績評価を行う。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】
講義ノートを配布することで理解が深まったとのことなので、今年度も講義ノートを学習支援システムで公開する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces classical mechanics and thermodynamics, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, conservation of energy, 1st law of thermodynamics and 2nd law of thermodynamics.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to understand the basics of mechanics and thermodynamics described above.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、in class contribution: 20%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎Ⅰ

加来　滋

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物体や媒質の運動を記述する力学は理工系の様々な科目の基礎である。本講義では、力学の核心である質点（大きさを考慮しなくてよい物体）の力学について、ベクトルの乗法や微分積分を駆使して学ぶ。

【到達目標】
・ニュートンの運動の法則を具体的な問題に適用できる。すなわち、物理現象と場面に応じて数式を立てることができ、得られた解から運動の様子を具体的に説明できること。
・仕事とエネルギーの関係を用いて、質点の運動を調べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とする。理解を深めるために適宜演習を行い、レポート課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、基礎的事項の復習	春学期の授業内容の説明 座標、位置、速度、加速度
2	力と運動	ニュートンの運動の第1法則、第2法則、第3法則
3	色々な運動 (1)	等速直線運動、等加速度運動、自由落下
4	色々な運動 (2)	斜面に沿う運動、摩擦力、空気抵抗
5	色々な運動 (3)	単振動
6	色々な運動 (4)	単振動と抵抗力
7	色々な運動 (5)	強制振動
8	色々な運動 (6)	抵抗力のある強制振動
9	色々な運動 (7)	単振り子と極座標
10	仕事とエネルギー (1)	仕事・保存力とは、力学的エネルギー保存則
11	仕事とエネルギー (2)	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析(単振動)
12	2次元の運動 (1)	抵抗力のある放物運動
13	2次元の運動 (2)	等速円運動、円錐振り子
14	2次元の場合の仕事とエネルギー	仕事・保存力・力学的エネルギー保存則を2次元に拡張する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】
力学（戸田盛和 著 岩波書店）
カラー版レベル別に学べる物理学Ⅰ（末廣一彦・斉藤準・鈴木久男・小野寺彰 著 丸善出版）

【成績評価の方法と基準】
試験を実施できる場合は、試験（70%）、平常点・レポート（30%）で評価する。
試験を実施できない場合は、平常点・レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。講義内容の定着を図るために、授業中の演習と宿題を活用する。

【Outline (in English)】
This course introduces the particle dynamics to students taking this course.
Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.
If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (70%) and reports (30%).
If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎Ⅰ

今枝　佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物体の運動を解析する際に必要となる物理学（力学）の考え方と、それを使った質点運動の解析方法を学ぶ。

【到達目標】
本講義で取り扱う物理学の内容は「力学」になります。高校物理でどのような力学を学んだでしょうか？ それは人それぞれ千差万別でしょうが、多くの人が何某かの「公式」を暗記して、それを適切な場面で「使用」することが力学であると勘違いしていることが多いように思います。本講義では、その皆さんが暗記したであろう「公式」がいかなる考え方により導き出されたのか？ その考え方の道筋について学びます。物理学的な考え方を理解して使いこなせるようになることで、公式が適用できないより現実的な物理現象であっても、代わりにどのような関係式解いたらよいかを導くことができるようになります。具体的には、ニュートンの運動の3法則から始めて、状況に即した解くべき関係式を導き出せること、その関係式を満たす解を数学の知識を使って求められるようになること、これが本講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は対面で行うが、板書はすべてzoom上のホワイトボードを共有・配信することでおこなう。資料の提示もzoomの画面共有を通じて行うので、受講に際してはzoomの受信を適切に行えるデバイスを持ち込んで使用すること。また初回授業までにzoomの使い方に慣れておくこと。zoomの接続先は別途指示する。
授業は講義形式で行うが質問は授業中随時受け付ける。受動的な受講ではなく、学生の積極的な授業参加を期待したい。
また提出されたノートのうち良いものに関しては、次回の講義にてその一部を紹介し、学習の進め方、試験持ち込み用の自筆ノートの準備に対してフィードバックを行うことがある。（その際、個人情報に繋がる記述に関しては公開しない）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	座標系を使った運動の表現	位置と座標系、ベクトルとスカラー、位置ベクトルと変位ベクトル、ベクトルの基本的性質、次元解析
2	位置と速度と加速度(1)	位置の時間微分によって速度、加速度を求める、微分法の復習
3	位置と速度と加速度(2)	加速度の時間積分によって速度、位置を求める、積分法の復習 初期条件とは？
4	ニュートンの運動の3法則	慣性座標系、 運動方程式、 作用反作用の法則
5	万有引力	万有引力とは？ 重力加速度とは？
6	いろいろな運動（1）	一様な重力場における運動の解析 2次元運動の解析
7	いろいろな運動（2）	抵抗力のある運動の解析
8	いろいろな運動（3）	復元力がある運動の解析 単振動
9	質点系の運動の様子(1)	運動量、運動量の保存則
10	質点系の運動の様子(2)	角運動量、各運動量の保存則
11	運動エネルギーと仕事	運動方程式の変形 運動エネルギーとは？ 仕事とは？
12	保存力とポテンシャルエネルギー	保存力とは？ ポテンシャルエネルギーとは？ 非保存力とは？
13	力学的エネルギー（1）	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析（自由落下問題）
14	力学的エネルギー（2）	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析（単振動）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では、高校で学んだ数学のうち、ベクトル、行列、数学Ⅲの微分積分を一通りは理解しているという前提で授業を進めます。これらの理解が不十分な場合には、並行して、高校数学について復習あるいは独習を行うとともに、授業中に積極的に質問し理解に努めるようにしてください。積極的な授業参加を期待します。
また後述のように、講義ノートを毎回PDF化したうえで提出してもらいます。ノートのPDF化については手段は問いませんが、授業中にその方法の一例については紹介します。また、復習時に新たに調べて理解したことなどをノートに追記して、ノートの記載事項を充実させることを推奨します。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。

【参考書】
演習 力学 [新訂版]（今井功ほか サイエンス社）
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回、講義でとったノートをPDF化した上で提出してもらう。この提出されたノートの内容評価を40%、期末レポートの内容評価を60%として、その合計で最終評価を決定をする。ノートの評価基準は、もし期末試験が行われたと仮定した場合に、そのノートを試験会場に持ち込んだ時に十分な解答作成資料として機能するかどうかで判断する。
期末レポートに関しては、課された内容に関して、図、文章、及び数式展開によりしっかりと論理的な説明ができているか、他人がそのレポートを読んだだけで解答者からの補足説明を受けずにその内容を理解できるものとなっているか？ で判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
教室講義であってもzoomのスライド共有機能、ホワイトボード機能を使用して講義を行う。各自zoomを十分に操作・視聴できる環境やデバイスを準備し、その使い方に慣れておくこと。また提出ノートやレポートはPDF書類として提出することを求める。どのようにPDF書類を作成するか、その方法は問わないが、例えば手書きのものをPDF化するならばスマホアプリのスキャナなどを利用する方法がある。詳しいことは授業開始時に指示する。

【Outline (in English)】
The first goal of this course is to master the way of thinking in physics of how to derive the equations to be solved from Newton's three laws when analyzing the motion of a point mass. Then, the final goal is to solve these equations using mathematical knowledge and understand the motion of a point mass.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 60%, Submitted notes by PDF after each lecture: 40%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎Ⅰ

今枝　佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物体の運動を解析する際に必要となる物理学（力学）の考え方と、それを使った質点運動の解析方法を学ぶ。

【到達目標】
本講義で取り扱う物理学の内容は「力学」になります。高校物理でどのような力学を学んだでしょうか？ それは人それぞれ千差万別でしょうが、多くの人が何某かの「公式」を暗記して、それを適切な場面で「使用」することが力学であると勘違いしていることが多いように思います。本講義では、その皆さんが暗記したであろう「公式」がいかなる考え方により導き出されたのか？ その考え方の道筋について学びます。物理学的な考え方を理解して使いこなせるようになることで、公式が適用できないより現実的な物理現象であっても、代わりにどのような関係式解いたらよいかを導くことができるようになります。具体的には、ニュートンの運動の3法則から始めて、状況に即した解くべき関係式を導き出せること、その関係式を満たす解を数学の知識を使って求められるようになること、これが本講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は対面で行うが、板書はすべてzoom上のホワイトボードを共有・配信することでおこなう。資料の提示もzoomの画面共有を通じて行うので、受講に際してはzoomの受信を適切に行えるデバイスを持ち込んで使用すること。また初回授業までにzoomの使い方に慣れておくこと。zoomの接続先は別途指示する。
授業は講義形式で行うが質問は授業中随時受け付ける。受動的な受講ではなく、学生の積極的な授業参加を期待したい。
また提出されたノートのうち良いものに関しては、次回の講義にてその一部を紹介し、学習の進め方、試験持ち込み用の自筆ノートの準備に対してフィードバックを行うことがある。（その際、個人情報に繋がる記述に関しては公開しない）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	座標系を使った運動の表現	位置と座標系、ベクトルとスカラー、位置ベクトルと変位ベクトル、ベクトルの基本的性質、次元解析
2	位置と速度と加速度(1)	位置の時間微分によって速度、加速度を求める、微分法の復習
3	位置と速度と加速度(2)	加速度の時間積分によって速度、位置を求める、積分法の復習 初期条件とは？
4	ニュートンの運動の3法則	慣性座標系、 運動方程式、 作用反作用の法則
5	万有引力	万有引力とは？ 重力加速度とは？
6	いろいろな運動（1）	一様な重力場における運動の解析 2次元運動の解析
7	いろいろな運動（2）	抵抗力のある運動の解析
8	いろいろな運動（3）	復元力がある運動の解析 単振動
9	質点系の運動の様子(1)	運動量、運動量の保存則
10	質点系の運動の様子(2)	角運動量、各運動量の保存則
11	運動エネルギーと仕事	運動方程式の変形 運動エネルギーとは？ 仕事とは？
12	保存力とポテンシャルエネルギー	保存力とは？ ポテンシャルエネルギーとは？ 非保存力とは？
13	力学的エネルギー（1）	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析（自由落下問題）
14	力学的エネルギー（2）	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析（単振動）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では、高校で学んだ数学のうち、ベクトル、行列、数学Ⅲの微分積分を一通りは理解しているという前提で授業を進めます。これらの理解が不十分な場合には、並行して、高校数学について復習あるいは独習を行うとともに、授業中に積極的に質問し理解に努めるようにしてください。積極的な授業参加を期待します。
また後述のように、講義ノートを毎回PDF化したうえで提出してもらいます。ノートのPDF化については手段は問いませんが、授業中にその方法の一例については紹介します。また、復習時に新たに調べて理解したことなどをノートに追記して、ノートの記載事項を充実させることを推奨します。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。

【参考書】
演習 力学 [新訂版]（今井功ほか サイエンス社）
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回、講義でとったノートをPDF化した上で提出してもらう。この提出されたノートの内容評価を40%、期末レポートの内容評価を60%として、その合計で最終評価を決定をする。ノートの評価基準は、もし期末試験が行われたと仮定した場合に、そのノートを試験会場に持ち込んだ時に十分な解答作成資料として機能するかどうかで判断する。
期末レポートに関しては、課された内容に関して、図、文章、及び数式展開によりしっかりと論理的な説明ができているか、他人がそのレポートを読んだだけで解答者からの補足説明を受けずにその内容を理解できるものとなっているか？ で判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
教室講義であってもzoomのスライド共有機能、ホワイトボード機能を使用して講義を行う。各自zoomを十分に操作・視聴できる環境やデバイスを準備し、その使い方に慣れておくこと。また提出ノートやレポートはPDF書類として提出することを求める。どのようにPDF書類を作成するか、その方法は問わないが、例えば手書きのものをPDF化するならばスマホアプリのスキャナなどを利用する方法がある。詳しいことは授業開始時に指示する。

【Outline (in English)】
The first goal of this course is to master the way of thinking in physics of how to derive the equations to be solved from Newton's three laws when analyzing the motion of a point mass. Then, the final goal is to solve these equations using mathematical knowledge and understand the motion of a point mass.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 60%, Submitted notes by PDF after each lecture: 40%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎Ⅰ

加来　滋

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物体や媒質の運動を記述する力学は理工系の様々な科目の基礎である。本講義では、力学の核心である質点（大きさを考慮しなくてよい物体）の力学について、ベクトルの乗法や微分積分を駆使して学ぶ。

【到達目標】
・ニュートンの運動の法則を具体的な問題に適用できる。すなわち、物理現象と場面に応じて数式を立てることができ、得られた解から運動の様子を具体的に説明できること。
・仕事とエネルギーの関係を用いて、質点の運動を調べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とする。理解を深めるために適宜演習を行い、レポート課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、基礎的事項の復習	春学期の授業内容の説明 座標、位置、速度、加速度
2	力と運動	ニュートンの運動の第1法則、第2法則、第3法則
3	色々な運動 (1)	等速直線運動、等加速度運動、自由落下
4	色々な運動 (2)	斜面に沿う運動、摩擦力、空気抵抗
5	色々な運動 (3)	単振動
6	色々な運動 (4)	単振動と抵抗力
7	色々な運動 (5)	強制振動
8	色々な運動 (6)	抵抗力のある強制振動
9	色々な運動 (7)	単振り子と極座標
10	仕事とエネルギー (1)	仕事・保存力とは、力学的エネルギー保存則
11	仕事とエネルギー (2)	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析(単振動)
12	2次元の運動 (1)	抵抗力のある放物運動
13	2次元の運動 (2)	等速円運動、円錐振り子
14	2次元の場合の仕事とエネルギー	仕事・保存力・力学的エネルギー保存則を2次元に拡張する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】
力学（戸田盛和 著 岩波書店）
カラー版レベル別に学べる物理学Ⅰ（末廣一彦・斉藤準・鈴木久男・小野寺彰 著 丸善出版）

【成績評価の方法と基準】
試験を実施できる場合は、試験（70%）、平常点・レポート（30%）で評価する。
試験を実施できない場合は、平常点・レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。講義内容の定着を図るために、授業中の演習と宿題を活用する。

【Outline (in English)】
This course introduces the particle dynamics to students taking this course.
Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.
If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (70%) and reports (30%).
If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎Ⅰ

小鍋　哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。本講義では、物理学の中でも特に基礎的な分野である、力学と熱力学について学ぶ。力学は、力と運動に関する学問であり、物理学で必要な思考法や数学的技術を多く含んでいる。一方、熱力学は、熱に関する学問であり、車を動かす動力や気象現象を理解するには無くてはならない。古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の３法則とその応用を学ぶ。

【到達目標】
・力学では、力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。
・熱力学では、熱と温度の関係、分子運動と熱との関係、熱力学の法則について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物理学概論序論	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ
2	質点の運動学	速度と加速度
3	質点の力学	運動の法則
4	質点の運動(1)	自由落下、粘性抵抗力のもとでの落下運動
5	質点の運動(2)	単振動
6	質点の運動(3)	減衰振動と強制振動
7	質点系の力学	重心の運動
8	演習	力学の演習
9	熱と温度(1)	熱平衡状態と温度
10	熱と温度(2)	経験温度と熱力学的温度
11	熱と温度(3)	気体の分子運動論
12	熱力学(1)	熱力学第一法則
13	熱力学(2)	熱力学第二法則
14	演習	熱力学の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
「物理学」　小出昭一郎　裳華房。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト(50%)、レポート点(30%)、授業への積極的な貢献度(出席など)(20%)を目安として総合的に成績評価を行う。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】
講義ノートを配布することで理解が深まったとのことなので、今年度も講義ノートを学習支援システムで公開する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course introduces classical mechanics and thermodynamcis, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, conservation of energy, 1st law of thermodynamics and 2nd law of thermodynamics.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to understand the basics of mechanics and thermodynamics described above.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、in class contribution: 20%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎Ⅰ

小鍋　哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。本講義では、物理学の中でも特に基礎的な分野である、力学と熱力学について学ぶ。力学は、力と運動に関する学問であり、物理学で必要な思考法や数学的技術を多く含んでいる。一方、熱力学は、熱に関する学問であり、車を動かす動力や気象現象を理解するには無くてはならない。古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の３法則とその応用を学ぶ。

【到達目標】
・力学では、力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。
・熱力学では、熱と温度の関係、分子運動と熱との関係、熱力学の法則について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物理学概論序論	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ
2	質点の運動学	速度と加速度
3	質点の力学	運動の法則
4	質点の運動(1)	自由落下、粘性抵抗力のもとでの落下運動
5	質点の運動(2)	単振動
6	質点の運動(3)	減衰振動と強制振動
7	質点系の力学	重心の運動
8	演習	力学の演習
9	熱と温度(1)	熱平衡状態と温度
10	熱と温度(2)	経験温度と熱力学的温度
11	熱と温度(3)	気体の分子運動論
12	熱力学(1)	熱力学第一法則
13	熱力学(2)	熱力学第二法則
14	演習	熱力学の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
「物理学」　小出昭一郎　裳華房。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト(50%)、レポート点(30%)、授業への積極的な貢献度(出席など)(20%)を目安として総合的に成績評価を行う。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】
講義ノートを配布することで理解が深まったとのことなので、今年度も講義ノートを学習支援システムで公開する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course introduces classical mechanics and thermodynamcis, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, conservation of energy, 1st law of thermodynamics and 2nd law of thermodynamics.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to understand the basics of mechanics and thermodynamics described above.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、in class contribution: 20%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎ＩＩ

今枝　佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学基礎Ⅰでは質点の運動についてその解析方法を学んだ。一方、運動の解析に使われた質点という対象は、より現実的な世界における物体の運動、すなわち大きさや形をもった物体の運動の解析には不十分であることも多い。本講義では質点の運動の解析方法を拡張することで、剛体と呼ばれる大きさと形を持ちながらも変形しない物体の運動の解析方法について学ぶ。

【到達目標】
質点の運動を記述する運動方程式を拡張することで、剛体の質量中心の運動を記述する運動方程式、及び回転の運動方程式がどのように導かれるのかを学ぶ。またその過程で質量に代わる物理量として、慣性テンソルや慣性モーメントと呼ばれる物理量が導入されることを理解する。さらに物体の運動を変化させる物理量としては、力のほかに力のモーメントと呼ばれる物理量が導入されることを理解する。そのうえで、実際の剛体運動の解析として解くべき関係式を導き、それを数学の知識を使って解き、具体的な剛体運動について解析できるようになることが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は対面で行うが、板書はすべてzoom上のホワイトボードを共有・配信することでおこなう。資料の提示もzoomの画面共有を通じて行うので、受講に際してはzoomの受信を適切に行えるデバイスを持ち込んで使用すること。また初回授業までにzoomの使い方に慣れておくこと。zoomの接続先は別途指示する。
授業は講義形式で行うが質問は授業中随時受け付ける。受動的な受講ではなく、学生の積極的な授業参加を期待したい。また提出されたノートのうち良いものに関しては、次回の講義にてその一部を紹介し、学習の進め方、試験持ち込み用の自筆ノートの準備に対してフィードバックを行うことがある。（その際、個人情報に繋がる記述に関しては公開しない）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	質点運動の復習	ニュートンの運動の3法則 位置・速度・加速度、及び力の関係
2	質点系の運動(1)	運動量と運動量保存則 質量中心
3	質点系の運動(2)	角運動量と角運動量保存則 ベクトル積の復習
4	剛体	剛体とは 剛体運動の持つ自由度 剛体の質量中心
5	剛体の回転運動(1)	回転運動の数式表現 回転ベクトル
6	剛体の回転運動(2)	回転の運動エネルギー
7	慣性テンソル	慣性テンソルの導入 平行軸の定理
8	角運動量ベクトル	慣性テンソルと角運動量ベクトルの関係
9	慣性モーメント	慣性主軸 主慣性モーメント 慣性乗積
10	連続体としての剛体	連続体の質量中心 連続体の慣性モーメント
11	固定軸周りの剛体の運動(1)	質量中心の運動方程式 回転の運動方程式 剛体振り子の運動
12	固定軸周りの剛体の運動(2)	ヨーヨーの運動 剛体の斜面落下
13	剛体固定座標系での運動(1)	加速度系における運動方程式 遠心力、コリオリ力、オイラー力
14	剛体固定座標系での運動(2)	オイラーの運動方程式 コマの運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では、高校で学んだ数学のうち、ベクトル、行列、数学Ⅲの微分積分を一通りは理解しているという前提で授業を進めます。これらの理解が不十分な場合には、並行して、高校数学について復習あるいは独習を行うとともに、授業中に積極的に質問し理解に努めるようにしてください。積極的な授業参加を期待します。
また後述のように、講義ノートを毎回PDF化したうえで提出してもらいます。ノートのPDF化については手段は問いませんが、授業中にその方法の一例については紹介します。また、復習時に新たに調べて理解したことなどをノートに追記して、ノートの記載事項を充実させることを推奨します。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。

【参考書】
演習力学[新訂版]（今井功ほかサイエンス社）
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回、講義でとったノートをPDF化した上で提出してもらう。
この提出されたノートの内容評価を40%、期末レポートの内容評価を60%として、その合計で最終評価を決定をする。
ノートの評価基準は、もし期末試験が行われたと仮定した場合に、そのノートを試験会場に持ち込んだ時に十分な解答作成資料として機能するかどうかで判断する。
期末レポートに関しては、課された内容に関して、図、文章、及び数式展開によりしっかりと論理的な説明ができているか、他人がそのレポートを読んだだけで解答者からの補足説明を受けずにその内容を理解できるものとなっているか？ で判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
教室講義であってもzoomのスライド共有機能、ホワイトボード機能を使用して講義を行う。各自zoomを十分に操作・視聴できる環境やデバイスを準備し、その使い方に慣れておくこと。また提出ノートやレポートはPDF書類として提出することを求める。どのようにPDF書類を作成するか、その方法は問わないが、例えば手書きのものをPDF化するならばスマホアプリのスキャナなどを利用する方法がある。詳しいことは授業開始時に指示する。

【Outline (in English)】
In Basic Physics I, we learned how to analyze the motion of a point mass. On the other hand, the object used for the analysis of motion, a point mass, is often insufficient for the analysis of motion of objects in the more realistic world, i.e., objects with size and shape. In this lecture, by extending the method of analyzing the motion of a point mass, we will learn how to analyze the motion of an object called a rigid body, which has size and shape but does not deform.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 60%, Submitted notes by PDF after each lecture: 40%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎ＩＩ

今枝　佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学基礎Ⅰでは質点の運動についてその解析方法を学んだ。一方、運動の解析に使われた質点という対象は、より現実的な世界における物体の運動、すなわち大きさや形をもった物体の運動の解析には不十分であることも多い。本講義では質点の運動の解析方法を拡張することで、剛体と呼ばれる大きさと形を持ちながらも変形しない物体の運動の解析方法について学ぶ。

【到達目標】
質点の運動を記述する運動方程式を拡張することで、剛体の質量中心の運動を記述する運動方程式、及び回転の運動方程式がどのように導かれるのかを学ぶ。またその過程で質量に代わる物理量として、慣性テンソルや慣性モーメントと呼ばれる物理量が導入されることを理解する。さらに物体の運動を変化させる物理量としては、力のほかに力のモーメントと呼ばれる物理量が導入されることを理解する。そのうえで、実際の剛体運動の解析として解くべき関係式を導き、それを数学の知識を使って解き、具体的な剛体運動について解析できるようになることが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は対面で行うが、板書はすべてzoom上のホワイトボードを共有・配信することでおこなう。資料の提示もzoomの画面共有を通じて行うので、受講に際してはzoomの受信を適切に行えるデバイスを持ち込んで使用すること。また初回授業までにzoomの使い方に慣れておくこと。zoomの接続先は別途指示する。
授業は講義形式で行うが質問は授業中随時受け付ける。受動的な受講ではなく、学生の積極的な授業参加を期待したい。また提出されたノートのうち良いものに関しては、次回の講義にてその一部を紹介し、学習の進め方、試験持ち込み用の自筆ノートの準備に対してフィードバックを行うことがある。（その際、個人情報に繋がる記述に関しては公開しない）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	質点運動の復習	ニュートンの運動の3法則 位置・速度・加速度、及び力の関係
2	質点系の運動(1)	運動量と運動量保存則 質量中心
3	質点系の運動(2)	角運動量と角運動量保存則 ベクトル積の復習
4	剛体	剛体とは 剛体運動の持つ自由度 剛体の質量中心
5	剛体の回転運動(1)	回転運動の数式表現 回転ベクトル
6	剛体の回転運動(2)	回転の運動エネルギー
7	慣性テンソル	慣性テンソルの導入 平行軸の定理
8	角運動量ベクトル	慣性テンソルと角運動量ベクトルの関係
9	慣性モーメント	慣性主軸 主慣性モーメント 慣性乗積
10	連続体としての剛体	連続体の質量中心 連続体の慣性モーメント
11	固定軸周りの剛体の運動(1)	質量中心の運動方程式 回転の運動方程式 剛体振り子の運動
12	固定軸周りの剛体の運動(2)	ヨーヨーの運動 剛体の斜面落下
13	剛体固定座標系での運動(1)	加速度系における運動方程式 遠心力、コリオリ力、オイラー力
14	剛体固定座標系での運動(2)	オイラーの運動方程式 コマの運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では、高校で学んだ数学のうち、ベクトル、行列、数学Ⅲの微分積分を一通りは理解しているという前提で授業を進めます。これらの理解が不十分な場合には、並行して、高校数学について復習あるいは独習を行うとともに、授業中に積極的に質問し理解に努めるようにしてください。積極的な授業参加を期待します。
また後述のように、講義ノートを毎回PDF化したうえで提出してもらいます。ノートのPDF化については手段は問いませんが、授業中にその方法の一例については紹介します。また、復習時に新たに調べて理解したことなどをノートに追記して、ノートの記載事項を充実させることを推奨します。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。

【参考書】
演習力学[新訂版]（今井功ほかサイエンス社）
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回、講義でとったノートをPDF化した上で提出してもらう。
この提出されたノートの内容評価を40%、期末レポートの内容評価を60%として、その合計で最終評価を決定をする。
ノートの評価基準は、もし期末試験が行われたと仮定した場合に、そのノートを試験会場に持ち込んだ時に十分な解答作成資料として機能するかどうかで判断する。
期末レポートに関しては、課された内容に関して、図、文章、及び数式展開によりしっかりと論理的な説明ができているか、他人がそのレポートを読んだだけで解答者からの補足説明を受けずにその内容を理解できるものとなっているか？ で判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
教室講義であってもzoomのスライド共有機能、ホワイトボード機能を使用して講義を行う。各自zoomを十分に操作・視聴できる環境やデバイスを準備し、その使い方に慣れておくこと。また提出ノートやレポートはPDF書類として提出することを求める。どのようにPDF書類を作成するか、その方法は問わないが、例えば手書きのものをPDF化するならばスマホアプリのスキャナなどを利用する方法がある。詳しいことは授業開始時に指示する。

【Outline (in English)】
In Basic Physics I, we learned how to analyze the motion of a point mass. On the other hand, the object used for the analysis of motion, a point mass, is often insufficient for the analysis of motion of objects in the more realistic world, i.e., objects with size and shape. In this lecture, by extending the method of analyzing the motion of a point mass, we will learn how to analyze the motion of an object called a rigid body, which has size and shape but does not deform.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 60%, Submitted notes by PDF after each lecture: 40%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎ＩＩ

小鍋　哲

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、光学と電磁気学について学ぶ。光学は、光の学問であり我々の身の回りにあるレーザーや画像処理技術などの基礎となっている。講義では、光の反射、屈折、干渉など光の波としての様々な性質を説明する。電磁気学は、電気・磁気現象に関する学問であり、携帯電話や非接触ICカードの基礎となっている。講義では、電磁気現象の基本である電場、電位、静電容量や電場のエネルギー、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について説明する。

【到達目標】
生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	光学(1)	光の性質について学ぶ
2	光学(2)	光の反射と屈折について学ぶ
3	光学(3)	光の干渉について学ぶ
4	電場(1)	クーロンの法則について学ぶ
5	電場2)	電場と電位について学ぶ
6	電場(3)	静電容量と電場のエネルギーについて学ぶ
7	電流(1)	オームの法則について学ぶ
8	電流(2)	キルヒホッフの法則について学ぶ
9	電流(3)	電流と磁場について学ぶ
10	電流(4)	電流に働く力について学ぶ
11	電磁誘導	ファラデーの法則について学ぶ
12	電磁波	マクスウェル方程式について学ぶ
13	演習	電磁気学の演習について学ぶ
14	量子力学	光量子仮説と量子力学の誕生について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
「物理学」　小出昭一郎　裳華房。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト(50%)、レポート点(30%)、授業への積極的な貢献度(出席など)(20%)を目安として総合的に成績評価を行う。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】
講義ノートを配布することで理解が深まったとのことなので、今年度も講義ノートを学習支援システムで公開する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course introduces electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to understand the basics of electromagnetism described above.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、in class contribution: 20%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎ＩＩ

加来　滋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、力学の応用事例として惑星の運動、剛体、波動について学ぶ。それぞれ、質点の力学から身近な天体の運動を計算できること、大きさと形を持つ具体的な物体の運動を理解できること、力学的な波動の性質について理解すること、を目的とする。

【到達目標】
・ニュートンの運動の法則を惑星の運動に適用できる。
・剛体の運動方程式を理解し、具体的な問題に適用できる。
・波動の性質を理解し、具体的な問題に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とする。理解を深めるために適宜演習を行い、レポート課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業内容の説明
	惑星の運動 (1)	Keplerの法則
2	惑星の運動 (2)	円錐曲線、円、楕円、放物線、双曲線
3	惑星の運動 (3)	中心力場中の運動 Keplerの法則から万有引力を求める
4	惑星の運動 (4)	万有引力の下での運動から Keplerの法則を求める エネルギー保存則
5	惑星の運動 (5)	運動方程式を解いて万有引力下の運動を求める
6	角運動量	角運動量、力のモーメント、角運動量保存則
7	2質点系の運動	相対座標、重心運動、換算質量
8	剛体 (1)	剛体の運動方程式
9	剛体 (2)	固定軸周りの剛体運動
10	剛体 (3)	慣性モーメント
11	剛体 (4)	剛体の転がり運動
12	加速度運動する系の運動	慣性力と遠心力とコリオリ力
13	波の物理 (1)	波動方程式、波の重ね合わせと干渉
14	波の物理 (2)	波の反射・透過、定在波

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】
力学（戸田盛和 著 岩波書店）
カラー版レベル別に学べる物理学I（末廣一彦・斉藤準・鈴木久男・小野寺彰 著 丸善出版）

【成績評価の方法と基準】
試験を実施できる場合は、試験（70%）、平常点・レポート（30%）で評価する。
試験を実施できない場合は、平常点・レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。講義内容の定着を図るために、授業中の演習と宿題を活用する。

【Outline (in English)】
This course introduces the dynamics of planetary motion, rigid body and wave motion to students taking this course.
Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.
If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (70%) and reports (30%).
If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎ＩＩ

今枝　佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学基礎Ⅰでは質点の運動についてその解析方法を学んだ。一方、運動の解析に使われた質点という対象は、より現実的な世界における物体の運動、すなわち大きさや形をもった物体の運動の解析には不十分であることも多い。本講義では質点の運動の解析方法を拡張することで、剛体と呼ばれる大きさと形を持ちながらも変形しない物体の運動の解析方法について学ぶ。

【到達目標】
質点の運動を記述する運動方程式を拡張することで、剛体の質量中心の運動を記述する運動方程式、及び回転の運動方程式がどのように導かれるのかを学ぶ。またその過程で質量に代わる物理量として、慣性テンソルや慣性モーメントと呼ばれる物理量が導入されることを理解する。さらに物体の運動を変化させる物理量としては、力のほかに力のモーメントと呼ばれる物理量が導入されることを理解する。そのうえで、実際の剛体運動の解析として解くべき関係式を導き、それを数学の知識を使って解き、具体的な剛体運動について解析できるようになることが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は対面で行うが、板書はすべてzoom上のホワイトボードを共有・配信することでおこなう。資料の提示もzoomの画面共有を通じて行うので、受講に際してはzoomの受信を適切に行えるデバイスを持ち込んで使用すること。また初回授業までにzoomの使い方に慣れておくこと。zoomの接続先は別途指示する。
授業は講義形式で行うが質問は授業中随時受け付ける。受動的な受講ではなく、学生の積極的な授業参加を期待したい。また提出されたノートのうち良いものに関しては、次回の講義にてその一部を紹介し、学習の進め方、試験持ち込み用の自筆ノートの準備に対してフィードバックを行うことがある。（その際、個人情報に繋がる記述に関しては公開しない）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	質点運動の復習	ニュートンの運動の3法則 位置・速度・加速度、及び力の関係
2	質点系の運動(1)	運動量と運動量保存則 質量中心
3	質点系の運動(2)	角運動量と角運動量保存則 ベクトル積の復習
4	剛体	剛体とは 剛体運動の持つ自由度 剛体の質量中心
5	剛体の回転運動(1)	回転運動の数式表現 回転ベクトル
6	剛体の回転運動(2)	回転の運動エネルギー
7	慣性テンソル	慣性テンソルの導入 平行軸の定理
8	角運動量ベクトル	慣性テンソルと角運動量ベクトルの関係
9	慣性モーメント	慣性主軸 主慣性モーメント 慣性乗積
10	連続体としての剛体	連続体の質量中心 連続体の慣性モーメント
11	固定軸周りの剛体の運動(1)	質量中心の運動方程式 回転の運動方程式 剛体振り子の運動
12	固定軸周りの剛体の運動(2)	ヨーヨーの運動 剛体の斜面落下
13	剛体固定座標系での運動(1)	加速度系における運動方程式 遠心力、コリオリ力、オイラー力
14	剛体固定座標系での運動(2)	オイラーの運動方程式 コマの運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では、高校で学んだ数学のうち、ベクトル、行列、数学Ⅲの微分積分を一通りは理解しているという前提で授業を進めます。これらの理解が不十分な場合には、並行して、高校数学について復習あるいは独習を行うとともに、授業中に積極的に質問し理解に努めるようにしてください。積極的な授業参加を期待します。
また後述のように、講義ノートを毎回PDF化したうえで提出してもらいます。ノートのPDF化については手段は問いませんが、授業中にその方法の一例については紹介します。また、復習時に新たに調べて理解したことなどをノートに追記して、ノートの記載事項を充実させることを推奨します。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。

【参考書】
演習力学[新訂版]（今井功ほかサイエンス社）
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回、講義でとったノートをPDF化した上で提出してもらう。
この提出されたノートの内容評価を40%、期末レポートの内容評価を60%として、その合計で最終評価を決定をする。
ノートの評価基準は、もし期末試験が行われたと仮定した場合に、そのノートを試験会場に持ち込んだ時に十分な解答作成資料として機能するかどうかで判断する。
期末レポートに関しては、課された内容に関して、図、文章、及び数式展開によりしっかりと論理的な説明ができているか、他人がそのレポートを読んだだけで解答者からの補足説明を受けずにその内容を理解できるものとなっているか？ で判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
教室講義であってもzoomのスライド共有機能、ホワイトボード機能を使用して講義を行う。各自zoomを十分に操作・視聴できる環境やデバイスを準備し、その使い方に慣れておくこと。また提出ノートやレポートはPDF書類として提出することを求める。どのようにPDF書類を作成するか、その方法は問わないが、例えば手書きのものをPDF化するならばスマホアプリのスキャナなどを利用する方法がある。詳しいことは授業開始時に指示する。

【Outline (in English)】
In Basic Physics I, we learned how to analyze the motion of a point mass. On the other hand, the object used for the analysis of motion, a point mass, is often insufficient for the analysis of motion of objects in the more realistic world, i.e., objects with size and shape. In this lecture, by extending the method of analyzing the motion of a point mass, we will learn how to analyze the motion of an object called a rigid body, which has size and shape but does not deform.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 60%, Submuted notes by PDF after each lecture: 40%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎ＩＩ

今枝　佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学基礎Ⅰでは質点の運動についてその解析方法を学んだ。一方、運動の解析に使われた質点という対象は、より現実的な世界における物体の運動、すなわち大きさや形をもった物体の運動の解析には不十分であることも多い。本講義では質点の運動の解析方法を拡張することで、剛体と呼ばれる大きさと形を持ちながらも変形しない物体の運動の解析方法について学ぶ。

【到達目標】
質点の運動を記述する運動方程式を拡張することで、剛体の質量中心の運動を記述する運動方程式、及び回転の運動方程式がどのように導かれるのかを学ぶ。またその過程で質量に代わる物理量として、慣性テンソルや慣性モーメントと呼ばれる物理量が導入されることを理解する。さらに物体の運動を変化させる物理量としては、力のほかに力のモーメントと呼ばれる物理量が導入されることを理解する。そのうえで、実際の剛体運動の解析として解くべき関係式を導き、それを数学の知識を使って解き、具体的な剛体運動について解析できるようになることが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は対面で行うが、板書はすべてzoom上のホワイトボードを共有・配信することでおこなう。資料の提示もzoomの画面共有を通じて行うので、受講に際してはzoomの受信を適切に行えるデバイスを持ち込んで使用すること。また初回授業までにzoomの使い方に慣れておくこと。zoomの接続先は別途指示する。
授業は講義形式で行うが質問は授業中随時受け付ける。受動的な受講ではなく、学生の積極的な授業参加を期待したい。また提出されたノートのうち良いものに関しては、次回の講義にてその一部を紹介し、学習の進め方、試験持ち込み用の自筆ノートの準備に対してフィードバックを行うことがある。（その際、個人情報に繋がる記述に関しては公開しない）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	質点運動の復習	ニュートンの運動の3法則 位置・速度・加速度、及び力の関係
2	質点系の運動(1)	運動量と運動量保存則 質量中心
3	質点系の運動(2)	角運動量と角運動量保存則 ベクトル積の復習
4	剛体	剛体とは 剛体運動の持つ自由度 剛体の質量中心
5	剛体の回転運動(1)	回転運動の数式表現 回転ベクトル
6	剛体の回転運動(2)	回転の運動エネルギー
7	慣性テンソル	慣性テンソルの導入 平行軸の定理
8	角運動量ベクトル	慣性テンソルと角運動量ベクトルの関係
9	慣性モーメント	慣性主軸 主慣性モーメント 慣性乗積
10	連続体としての剛体	連続体の質量中心 連続体の慣性モーメント
11	固定軸周りの剛体の運動(1)	質量中心の運動方程式 回転の運動方程式 剛体振り子の運動
12	固定軸周りの剛体の運動(2)	ヨーヨーの運動 剛体の斜面落下
13	剛体固定座標系での運動(1)	加速度系における運動方程式 遠心力、コリオリ力、オイラー力
14	剛体固定座標系での運動(2)	オイラーの運動方程式 コマの運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では、高校で学んだ数学のうち、ベクトル、行列、数学Ⅲの微分積分を一通りは理解しているという前提で授業を進めます。これらの理解が不十分な場合には、並行して、高校数学について復習あるいは独習を行うとともに、授業中に積極的に質問し理解に努めるようにしてください。積極的な授業参加を期待します。
また後述のように、講義ノートを毎回PDF化したうえで提出してもらいます。ノートのPDF化については手段は問いませんが、授業中にその方法の一例については紹介します。また、復習時に新たに調べて理解したことなどをノートに追記して、ノートの記載事項を充実させることを推奨します。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。

【参考書】
演習力学[新訂版]（今井功ほかサイエンス社）
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回、講義でとったノートをPDF化した上で提出してもらう。
この提出されたノートの内容評価を40%、期末レポートの内容評価を60%として、その合計で最終評価を決定をする。
ノートの評価基準は、もし期末試験が行われたと仮定した場合に、そのノートを試験会場に持ち込んだ時に十分な解答作成資料として機能するかどうかで判断する。
期末レポートに関しては、課された内容に関して、図、文章、及び数式展開によりしっかりと論理的な説明ができているか、他人がそのレポートを読んだだけで解答者からの補足説明を受けずにその内容を理解できるものとなっているか？ で判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
教室講義であってもzoomのスライド共有機能、ホワイトボード機能を使用して講義を行う。各自zoomを十分に操作・視聴できる環境やデバイスを準備し、その使い方に慣れておくこと。また提出ノートやレポートはPDF書類として提出することを求める。どのようにPDF書類を作成するか、その方法は問わないが、例えば手書きのものをPDF化するならばスマホアプリのスキャナなどを利用する方法がある。詳しいことは授業開始時に指示する。

【Outline (in English)】
In Basic Physics I, we learned how to analyze the motion of a point mass. On the other hand, the object used for the analysis of motion, a point mass, is often insufficient for the analysis of motion of objects in the more realistic world, i.e., objects with size and shape. In this lecture, by extending the method of analyzing the motion of a point mass, we will learn how to analyze the motion of an object called a rigid body, which has size and shape but does not deform.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 60%, Submitted notes by PDF after each lecture: 40%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎ＩＩ

加来　滋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、力学の応用事例として惑星の運動、剛体、波動について学ぶ。それぞれ、質点の力学から身近な天体の運動を計算できること、大きさと形を持つ具体的な物体の運動を理解できること、力学的な波動の性質について理解すること、を目的とする。

【到達目標】
・ニュートンの運動の法則を惑星の運動に適用できる。
・剛体の運動方程式を理解し、具体的な問題に適用できる。
・波動の性質を理解し、具体的な問題に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とする。理解を深めるために適宜演習を行い、レポート課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業内容の説明
	惑星の運動 (1)	Keplerの法則
2	惑星の運動 (2)	円錐曲線、円、楕円、放物線、双曲線
3	惑星の運動 (3)	中心力場中の運動 Keplerの法則から万有引力を求める
4	惑星の運動 (4)	万有引力の下での運動から Keplerの法則を求める エネルギー保存則
5	惑星の運動 (5)	運動方程式を解いて万有引力下の運動を求める
6	角運動量	角運動量、力のモーメント、角運動量保存則
7	2質点系の運動	相対座標、重心運動、換算質量
8	剛体 (1)	剛体の運動方程式
9	剛体 (2)	固定軸周りの剛体運動
10	剛体 (3)	慣性モーメント
11	剛体 (4)	剛体の転がり運動
12	加速度運動する系の運動	慣性力と遠心力とコリオリ力
13	波の物理 (1)	波動方程式、波の重ね合わせと干渉
14	波の物理 (2)	波の反射・透過、定在波

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】
力学（戸田盛和 著 岩波書店）
カラー版レベル別に学べる物理学I（末廣一彦・斉藤準・鈴木久男・小野寺彰 著 丸善出版）

【成績評価の方法と基準】
試験を実施できる場合は、試験（70%）、平常点・レポート（30%）で評価する。
試験を実施できない場合は、平常点・レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。講義内容の定着を図るために、授業中の演習と宿題を活用する。

【Outline (in English)】
This course introduces the dynamics of planetary motion, rigid body and wave motion to students taking this course.
Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.
If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (70%) and reports (30%).
If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎ＩＩ

小鍋　哲

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、光学と電磁気学について学ぶ。光学は、光の学問であり我々の身の回りにあるレーザーや画像処理技術などの基礎となっている。講義では、光の反射、屈折、干渉など光の波としての様々な性質を説明する。電磁気学は、電気・磁気現象に関する学問であり、携帯電話や非接触ICカードの基礎となっている。講義では、電磁気現象の基本である電場、電位、静電容量や電場のエネルギー、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について説明する。

【到達目標】
生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	光学(1)	光の性質について学ぶ
2	光学(2)	光の反射と屈折について学ぶ
3	光学(3)	光の干渉について学ぶ
4	電場(1)	クーロンの法則について学ぶ
5	電場2)	電場と電位について学ぶ
6	電場(3)	静電容量と電場のエネルギーについて学ぶ
7	電流(1)	オームの法則について学ぶ
8	電流(2)	キルヒホッフの法則について学ぶ
9	電流(3)	電流と磁場について学ぶ
10	電流(4)	電流に働く力について学ぶ
11	電磁誘導	ファラデーの法則について学ぶ
12	電磁波	マクスウェル方程式について学ぶ
13	演習	電磁気学の演習について学ぶ
14	量子力学	光量子仮説と量子力学の誕生について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
「物理学」　小出昭一郎　裳華房。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト(50%)、レポート点(30%)、授業への積極的な貢献度(出席など)(20%)を目安として総合的に成績評価を行う。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】
講義ノートを配布することで理解が深まったとのことなので、今年度も講義ノートを学習支援システムで公開する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course introduces electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to understand the basics of electromagnetism described above.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、in class contribution: 20%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎ＩＩ

小鍋　哲

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、光学と電磁気学について学ぶ。光学は、光の学問であり我々の身の回りにあるレーザーや画像処理技術などの基礎となっている。講義では、光の反射、屈折、干渉など光の波としての様々な性質を説明する。電磁気学は、電気・磁気現象に関する学問であり、携帯電話や非接触ICカードの基礎となっている。講義では、電磁気現象の基本である電場、電位、静電容量や電場のエネルギー、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について説明する。

【到達目標】
生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	光学(1)	光の性質について学ぶ
2	光学(2)	光の反射と屈折について学ぶ
3	光学(3)	光の干渉について学ぶ
4	電場(1)	クーロンの法則について学ぶ
5	電場2)	電場と電位について学ぶ
6	電場(3)	静電容量と電場のエネルギーについて学ぶ
7	電流(1)	オームの法則について学ぶ
8	電流(2)	キルヒホッフの法則について学ぶ
9	電流(3)	電流と磁場について学ぶ
10	電流(4)	電流に働く力について学ぶ
11	電磁誘導	ファラデーの法則について学ぶ
12	電磁波	マクスウェル方程式について学ぶ
13	演習	電磁気学の演習について学ぶ
14	量子力学	光量子仮説と量子力学の誕生について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
「物理学」　小出昭一郎　裳華房。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト(50%)、レポート点(30%)、授業への積極的な貢献度(出席など)(20%)を目安として総合的に成績評価を行う。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】
講義ノートを配布することで理解が深まったとのことなので、今年度も講義ノートを学習支援システムで公開する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course introduces electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to understand the basics of electromagnetism described above.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、in class contribution: 20%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎Ⅰ

落合　剛

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「化学が日常生活にどう結びついているか」について、化学だけでなく、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力までを幅広く身に付けることを目的とする。

【到達目標】
１．化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法の習得
２．論文など、科学的に信頼できる情報の見分け方とその活用法の習得
３．身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明できる
４．科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書のテーマをふまえた実験を中心に、動画、PowerPointスライド、参考になるwebサイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答やグループディスカッションなどをおりまぜ、リアルタイム双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後、学習支援システムの「教材」に、講義中に演示した実験の動画や参考になるwebサイトのリンクをアップロードし、復習できるようにする。また「授業内掲示板」も活用して、受講者がまとめたノートの共有や、講義時間内に終了しなかった質疑応答などを行い、学習支援システムでも双方向に講義内容を深めていく。**２～３回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信する。**優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。授業は、**対面＋Zoomのハイフレックス形式で行う予定である。健康上の理由などで講義室で受講できない学生はもちろん、対面で受講している学生にも、Zoomに入室してもらい、チャット機能で随時質問を受け付ける**（「気軽に質問できるうえ飛沫も飛ばず安心」という感想があったため、対面講義でもZoomを併用している）。また、教員が出張等で講義室に行けなかったり、講義室ではできない大がかりな実験を演示したりする場合は、対面ではなく完全にオンラインでの授業とする（2022年度は、教員が国際学会開催地のチリから、時差も考慮してリアルタイムオンライン授業を実施したことがあった）。下記の【授業計画】には、現時点で予定している授業形態や内容を記載してある。予定変更など特別な連絡がある場合は、講義前に学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	新教科書1-3章 旧教科書1章 ※新旧の教科書の違いは【テキスト】参照	【実験：空はなぜ青い？】身近な現象を科学的な視点で考える
2	新教科書1-3章 旧教科書1章	【実験：空気とその動き】分子レベルで見た身のまわりの空気
3	新教科書1-3章 旧教科書1章	【実験：風船からわかること①】空気の成分と濃度、空気汚染の原因物質
4	新教科書1-3章 旧教科書1章	【実験：風船からわかること②】空気に関する計算
5	新教科書1-3章 旧教科書2章	【実験：オゾン層をつくってみる】大気圏の構造とオゾン層の正体
6	新教科書1-3章 旧教科書2章	【実験：紫外線のエネルギー】紫外線による酸素とオゾンの化学反応
7	新教科書1-3章 旧教科書2章	【実験：さまざまな光】紫外線、可視光線、赤外線・・・
8	新教科書1-3章 旧教科書2章	【実験：光とは何か】光は波？粒子？
9	新教科書1-3章 旧教科書2章	【実験：原子と周期表】原子とその性質、オゾン層の保護まとめ
10	新教科書4章 旧教科書3章	【実験：フーリエ解析】地球温暖化とその研究の歴史
11	新教科書4章 旧教科書3章	【実験：情報のとらえかた】地球温暖化をめぐる政治や社会の動き
12	新教科書4章 旧教科書3章	【実験：新しいエネルギー】地球温暖化と私たちの未来
13	新教科書4章 旧教科書3章	【グループディスカッション】地球温暖化と私たちの未来
14	演習問題、まとめ	科学的に信頼できる情報を収集・活用し、具体的な問題について考え、説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないよう工夫している。したがって、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、PowerPoint等で答案を作成して電子メールで提出する、といったPCの基本的な使用方法に慣れておくこと。**２～３回、演習課題を出題するが、いずれも、受験までで接してきた「正解」のある問題ではなく、「地球温暖化問題を解決するためには、どうしたらよいか、自分の考えを述べよ。形式自由だが、PowerPointならスライド20枚以上を目安に、濃い内容とすること」といった、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない「難問」とする予定。インターネットやAIに答を求めたり、いわゆる「過去問」を入手したり、一夜漬けなどをしても、評価の高い答案の作成にはほとんど役立たない。そのぶん、提出期限を長めに設定し、期限までは何度でも質問・提出・修正を繰り返して良いこととする。**時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成すること。

【テキスト（教科書）】
新教科書『実感する化学　原書第10版　上巻　～地球感動編～』
原書編集：A Project of the American Chemical Society
翻訳：大西洋、和田昭英
発行：(株)エヌ・ティー・エス(2025年)
定価：本体3,800円＋税
https://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20250201_240.html

旧教科書『改訂　実感する化学　上巻　～地球感動編～』
原書編集：A Project of the American Chemical Society
翻訳：廣瀬千秋
発行：(株)エヌ・ティー・エス(2015年)
定価：本体3,500円＋税

http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html

※2025年度までは旧教科書を用いていたが、2026年度からは新教科書を用いる。基本的な内容は、新旧の教科書で差はない。旧教科書を持っている受講生は、新教科書を新たに購入する必要はなく、旧教科書をそのまま使用すればよい。同様に、これから教科書の購入を検討している受講生は、新教科書のみを購入すればよく、旧教科書も購入する必要はない。

※これらの書籍の構成にそって授業を行うが、内容を一字一句ていねいにおいかけたり、演習問題をひとつひとつ解いたりはしない。したがって、これらの書籍がないと毎回の講義についていけない、というわけではない。しかし、講義内容をじゅうぶんに理解し、課題について深く考察するためには、これらの書籍の通読が近道となる場合が多いため、これらの書籍を「参考書」ではなく「教科書」とした。なお、春学期の「化学基礎Ⅰ」と秋学期の「化学基礎Ⅱ」で、およそ半分ずつ教科書の内容を解説していくので、春秋を通じての履修をおすすめする。

【参考書】
『ファラデーのつくった世界！　ロウソクの科学が歴史を変えた』
著者：藤嶋昭、落合剛、濱田健吾
発行：(株)化学同人(2024年)
定価：本体2,000円＋税
https://www.kagakudojin.co.jp/book/b632970.html

※担当教員が実験部分を主に執筆した書籍。講義で実演する実験も多数収録されているため、より深く講義内容を理解する手助けとなる。

そのほか、参考となる書籍は、講義や学習支援システム上で随時紹介する。専門書、一般書、科学論文、webページやYouTube動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】
●上記の到達目標に記載した４つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、インターネットやAIで調べたり、過去問を入手したところで、簡単に高評価が得られない「難問」になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えたうえで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。
●目標１については、講義や教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標２および３については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標４については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。平常点としては、模範解答の発表や講義の解説に対するコメントや、学習支援システムの掲示板への投稿など、積極的な講義参加を評価対象とする（科学の知識は必ずしも重要ではない。実験へのリアクションや、素朴な疑問・感想等でも評価対象となる）。上記のように「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準だから、出席しただけで加点されるような「出席点」は考慮しない。配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が**40%**、演習課題の合計が**30%**、その他平常点が**30%**程度である。

【学生の意見等からの気づき】
●春学期・秋学期の3・4限で計4回実施したアンケートを集計すると、下記の通りとなった（対象者数のべ57名、回答率26%）。

Q1. この授業では、積極的な工夫がされていましたか
（５段階評価での各段階の回答者数を記載）
大変工夫していた←**10，2，3，0，0**→あまり工夫していない
（「大変工夫していた」を5点とすると平均4.5点）
Q3. この授業内容を理解できましたか
大変理解できた←**3，10，2，0，0**→理解できなかった
（同、平均4.1点）
Q4. この授業を履修してよかったと思いますか
大変よかった←**10，3，0，2，0**→よくなかった
（同、平均4.4点）

回答した受講生の多くが講義にポジティブな印象をもっていることがうかがえた。「Q5. この授業を履修して、よかった点や改善してほしい点等を記入してください」という設問に対しては、具体的な感想や意見が寄せられ、気づくことも多々あった。それらの意見や気づきは、「教員コメント」機能を使い、受講生の意見を紹介しながらフィードバックした。いくつか、以下に紹介する。

●高校で確かに化学を習ったが、ちゃんと理解できてはいなかったため、履修当初は不安があったが、シラバスにある通り化学の知識が不足していても本当の基礎から解説をしていただけて、安心して履修ができた。レポート課題は多少時間がかかるものではあったが、評価ポイントも明記してくださり、個別で相談にも乗っていただけたうえ、頑張った分きちんとフィードバックをしてくださるので、達成感のあるものだった。研究という学部生のうちではあまり触れられない分野の体験ができたという点で、**The**大学の授業という感じがして魅力的であると感じた。ありがとうございました。
→「The大学の授業」というコメント、ありがとうございます！ 大学の学びの面白さが伝わったようで何よりです。研究（および研究職）の魅力も実感できたのならば、将来やりたいこと、なりたい職業の選択肢に加えてもらえると嬉しいですね。今後も、大学生活を楽しんでください！
●**zoom**と対面のダブル講義システムによって体調が悪い日や外せない用事のある日にも受講できたのが良かったです。授業内容に関して、１つの授業に１つの実験が含まれており、抽象的なニュアンスから目の間で起こる事象を見せ、化学に具体性を持たせてくれる講義だったと感じています。また、平常点においても、**zoom**ならではの発言のしやすさがあったと感じました。課題に関する質問をメールで行った際の返信も早く、戸惑うことなく課題に取り組むことができました。
→「化学に具体性を持たせてくれる講義」との言葉、うれしいです。やはり実験は毎年好評ですね。Zoomの併用で講義に参加しやすかった、メールの返信も早くて助かった、というのも貴重な感想です。今後も、皆さんが安心して講義に参加できるよう、色々と工夫してみます！
●オンラインでの受講もできたため家からでも受講できた。様々な資料を投稿していただいたため、自分が気になるものを深掘りできた。
→オンラインも併用することで、受講の選択肢が広がったようですね。私も、講義室ではできない実験などを紹介できたりして、オンラインの利点を実感しました。また、各種資料も、みなさんの興味関心にこたえられるものだったようで良かったです。みなさんの方からも、調べて見つけた情報などを共有してくれると嬉しいです。
●課題を提出する時に、メールだと送れていないことがあったりしたので、提出方法を変えて頂けると助かります。
→ご意見ありがとうございます。現在のところ、修正したりコメントしたりと、何度もやり取りしやすいのが電子メールなので、基本的には電子メールの使用は継続する予定です。まずは、学習支援システムに書いた課題提出時の注意事項をもう一度よく読んで、電子メールの送受信環境などを確認してみてください。それでも、どうしても送信できない場合は、学習支援システムの掲示板に答案を提出したり、紙に印刷して提出するなど、かわりの方法も受け付けます。
●高校化学の復習やその先の大学の範囲で習う化学の演習ができると思ったが思っていたのと違った。課題も形式が自由すぎて戸惑ってしまうし答えが合っていても問題に関しての考察を広げないといい評価がもらえない形式なのはいかがなものかと思った。それとマイクの音質が悪いので買い替えることをおすすめします。一回や二回**zoom**を使うならまだ許容範囲だと思うが、対面**zoom**併用かつ**zoom**のみの授業が多すぎる割には聞きづらいマイクで約**1**時間半も授業を受けるのはだいぶきつい。

→まずは、マイクの不具合についてお詫びします。他のデバイスでZoomに入って自分の音声を確認したところ、マイクの角度などでだいぶ音質が変わるようでした。今後は、音声を確認しながら講義をすることにします。今回のように、聞き取りにくいなどのトラブルがあったら、講義中でもすぐにチャットなどで教えてくれると助かります。そして前半部分については、そもそもシラバスや学習支援システムで、高校までの化学の勉強とは大きく異なること、課題は考えることを重視した自由度の高い「難問」とすること、そのぶん、期限までは何度でも質問や提出を繰り返して良いこと、などなど説明したつもりでしたが、伝わっていなかったようで失礼しました。この講義内容や形式は、考える力を重視し評価するうえで、今のところ私ができる範囲では最適と考えていますので、変えるつもりはありません。

●高校で習った化学の問題(難しい化学反応式の計算など)をそのまま解くというより、自分で考えたり考察したりすることが重視されていた。そのため、化学選択でない自分でも安心して取り組むことができた。また、課題はパワーポイントを使うことが多く、資料作成や情報を分かりやすく整理する力も養われた。また、説明後にそれに関する化学実験の映像も流れるので、イメージがわきより理解が深まった。

→こちらは、上の人と正反対で、考察を重視した講義内容に満足してくれているみたいですね。講義の目的や目標がしっかり伝わっている人もいて、安心しました。充実した時間になったようで、よかったです。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義資料や課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、オンライン講義にも対応できるよう、Zoomをはじめとした各種ツールの準備をしておくこと。

【その他の重要事項】

●X,Yクラスに対し、それぞれ3,4限で同じ講義を行う。時間割の都合で履修すべき時限が履修できない場合は「クラス変更申請」を検討すること。たとえば、クラスとしては3限を履修すべきだが、3限が必修科目と重なっている場合、「クラス変更申請」によって4限を履修できる。詳細は、学部ホームページの「履修関連情報」を参照。

●教員は、神奈川県の公的研究機関に勤める研究者である。その実務経験もふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。詳細な仕事の内容や研究に対する哲学については、下記資料を参照。

・2021年11月に出演した下記YouTube番組(23:30頃に登場)

https://www.youtube.com/watch?v=U5LCwhSjFSM

・2025年12月出版の下記書籍(「様々な分野で活躍する研究者インタビュー」に登場)

http://kitanobook.co.jp/g/publication/20.html

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, you will learn **"how chemistry influence our daily lives"** based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

【Learning Objectives】

1. Basic knowledge of chemistry, especially units and physical quantities, and how to handle and calculate them.
2. How to find and use scientifically reliable information such as papers.
3. Ability to understand familiar phenomena from a scientific perspective, think about them, and explain them in one's own words.
4. Ability to logically consider and propose solutions to various problems related to science and the environment.

【Learning activities outside of classroom】

The standard study time outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. The content of this class is designed so that even if you were not good at chemistry in high school (or even if you have not taken chemistry at all), you do not need to have a solid understanding of chemistry up to high school. **You will be given two or three exercises, all of which require you to think for yourself and explain in your own words.** It is not enough to do a little research on the Internet, so please take the time to examine the information, construct your logic, and prepare highly original answers.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎Ⅰ

落合　剛

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「化学が日常生活にどう結びついているか」について、化学だけでなく、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力までを幅広く身に付けることを目的とする。

【到達目標】
１．化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法の習得
２．論文など、科学的に信頼できる情報の見分け方とその活用法の習得
３．身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明できる
４．科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書のテーマをふまえた実験を中心に、動画、PowerPointスライド、参考になるwebサイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答やグループディスカッションなどをおりまぜ、リアルタイム双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後、学習支援システムの「教材」に、講義中に演示した実験の動画や参考になるwebサイトのリンクをアップロードし、復習できるようにする。また「授業内掲示板」も活用して、受講者がまとめたノートの共有や、講義時間内に終了しなかった質疑応答などを行い、学習支援システムでも双方向に講義内容を深めていく。**２～３回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信する。**優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。授業は、**対面＋Zoomのハイフレックス形式で行う予定である。健康上の理由などで講義室で受講できない学生はもちろん、対面で受講している学生にも、Zoomに入室してもらい、チャット機能で随時質問を受け付ける**（「気軽に質問できるうえ飛沫も飛ばず安心」という感想があったため、対面講義でもZoomを併用している）。また、教員が出張等で講義室に行けなかったり、講義室ではできない大がかりな実験を演示したりする場合は、対面ではなく完全にオンラインでの授業とする（2022年度は、教員が国際学会開催地のチリから、時差も考慮してリアルタイムオンライン授業を実施したことがあった）。下記の【授業計画】には、現時点で予定している授業形態や内容を記載してある。予定変更など特別な連絡がある場合は、講義前に学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	新教科書1-3章 旧教科書1章 ※新旧の教科書の違いは【テキスト】参照	【実験：空はなぜ青い？】身近な現象を科学的な視点で考える
2	新教科書1-3章 旧教科書1章	【実験：空気とその動き】分子レベルで見た身のまわりの空気
3	新教科書1-3章 旧教科書1章	【実験：風船からわかること①】空気の成分と濃度、空気汚染の原因物質
4	新教科書1-3章 旧教科書1章	【実験：風船からわかること②】空気に関する計算
5	新教科書1-3章 旧教科書2章	【実験：オゾン層をつくってみる】大気圏の構造とオゾン層の正体
6	新教科書1-3章 旧教科書2章	【実験：紫外線のエネルギー】紫外線による酸素とオゾンの化学反応
7	新教科書1-3章 旧教科書2章	【実験：さまざまな光】紫外線、可視光線、赤外線・・・
8	新教科書1-3章 旧教科書2章	【実験：光とは何か】光は波？粒子？
9	新教科書1-3章 旧教科書2章	【実験：原子と周期表】原子とその性質、オゾン層の保護まとめ
10	新教科書4章 旧教科書3章	【実験：フーリエ解析】地球温暖化とその研究の歴史
11	新教科書4章 旧教科書3章	【実験：情報のとらえかた】地球温暖化をめぐる政治や社会の動き
12	新教科書4章 旧教科書3章	【実験：新しいエネルギー】地球温暖化と私たちの未来
13	新教科書4章 旧教科書3章	【グループディスカッション】地球温暖化と私たちの未来
14	演習問題、まとめ	科学的に信頼できる情報を収集・活用し、具体的な問題について考え、説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないよう工夫している。したがって、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、PowerPoint等で答案を作成して電子メールで提出する、といったPCの基本的な使用方法に慣れておくこと。**２～３回、演習課題を出題するが、いずれも、受験までで接してきた「正解」のある問題ではなく、「地球温暖化問題を解決するためには、どうしたらよいか、自分の考えを述べよ。形式自由だが、PowerPointならスライド20枚以上を目安に、濃い内容とすること」といった、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない「難問」とする予定。インターネットやAIに答を求めたり、いわゆる「過去問」を入手したり、一夜漬けなどをしても、評価の高い答案の作成にはほとんど役立たない。そのぶん、提出期限を長めに設定し、期限までは何度でも質問・提出・修正を繰り返して良いこととする。**時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成すること。

【テキスト（教科書）】
新教科書『実感する化学　原書第10版　上巻　～地球感動編～』
原書編集：A Project of the American Chemical Society
翻訳：大西洋、和田昭英
発行：(株)エヌ・ティー・エス(2025年)
定価：本体3,800円＋税
https://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20250201_240.html

旧教科書『改訂　実感する化学　上巻　～地球感動編～』
原書編集：A Project of the American Chemical Society
翻訳：廣瀬千秋
発行：(株)エヌ・ティー・エス(2015年)
定価：本体3,500円＋税

http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html

※2025年度までは旧教科書を用いていたが、2026年度からは新教科書を用いる。基本的な内容は、新旧の教科書で差はない。旧教科書を持っている受講生は、新教科書を新たに購入する必要はなく、旧教科書をそのまま使用すればよい。同様に、これから教科書の購入を検討している受講生は、新教科書のみを購入すればよく、旧教科書も購入する必要はない。

※これらの書籍の構成にそって授業を行うが、内容を一字一句ていねいにおいかけたり、演習問題をひとつひとつ解いたりはしない。したがって、これらの書籍がないと毎回の講義についていけない、というわけではない。しかし、講義内容をじゅうぶんに理解し、課題について深く考察するためには、これらの書籍の通読が近道となる場合が多いため、これらの書籍を「参考書」ではなく「教科書」とした。なお、春学期の「化学基礎Ⅰ」と秋学期の「化学基礎Ⅱ」で、およそ半分ずつ教科書の内容を解説していくので、春秋を通じての履修をおすすめする。

【参考書】
『ファラデーのつくった世界！　ロウソクの科学が歴史を変えた』
著者：藤嶋昭、落合剛、濱田健吾
発行：(株)化学同人(2024年)
定価：本体2,000円＋税
https://www.kagakudojin.co.jp/book/b632970.html

※担当教員が実験部分を主に執筆した書籍。講義で実演する実験も多数収録されているため、より深く講義内容を理解する手助けとなる。

そのほか、参考となる書籍は、講義や学習支援システム上で随時紹介する。専門書、一般書、科学論文、webページやYouTube動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】
●上記の到達目標に記載した４つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、インターネットやAIで調べたり、過去問を入手したところで、簡単に高評価が得られない「難問」になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えたうえで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。
●目標１については、講義や教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標２および３については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標４については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。平常点としては、模範解答の発表や講義の解説に対するコメントや、学習支援システムの掲示板への投稿など、積極的な講義参加を評価対象とする（科学の知識は必ずしも重要ではない。実験へのリアクションや、素朴な疑問・感想等でも評価対象となる）。上記のように「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準だから、出席しただけで加点されるような「出席点」は考慮しない。配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が**40%**、演習課題の合計が**30%**、その他平常点が**30%**程度である。

【学生の意見等からの気づき】
●春学期・秋学期の3・4限で計4回実施したアンケートを集計すると、下記の通りとなった（対象者数のべ57名、回答率26%）。

Q1. この授業では、積極的な工夫がされていましたか
（５段階評価での各段階の回答者数を記載）
大変工夫していた←**10，2，3，0，0**→あまり工夫していない
（「大変工夫していた」を5点とすると平均4.5点）
Q3. この授業内容を理解できましたか
大変理解できた←**3，10，2，0，0**→理解できなかった
（同、平均4.1点）
Q4. この授業を履修してよかったと思いますか
大変よかった←**10，3，0，2，0**→よくなかった
（同、平均4.4点）

回答した受講生の多くが講義にポジティブな印象をもっていることがうかがえた。「Q5. この授業を履修して、よかった点や改善してほしい点等を記入してください」という設問に対しては、具体的な感想や意見が寄せられ、気づくことも多々あった。それらの意見や気づきは、「教員コメント」機能を使い、受講生の意見を紹介しながらフィードバックした。いくつか、以下に紹介する。

●高校で確かに化学を習ったが、ちゃんと理解できてはいなかったため、履修当初は不安があったが、シラバスにある通り化学の知識が不足していても本当の基礎から解説をしていただけて、安心して履修ができた。レポート課題は多少時間がかかるものではあったが、評価ポイントも明記してくださり、個別で相談にも乗っていただけたうえ、頑張った分きちんとフィードバックをしてくださるので、達成感のあるものだった。研究という学部生のうちではあまり触れられない分野の体験ができたという点で、**The**大学の授業という感じがして魅力的であると感じた。ありがとうございました。
→「The大学の授業」というコメント、ありがとうございます！ 大学の学びの面白さが伝わったようで何よりです。研究（および研究職）の魅力も実感できたのならば、将来やりたいこと、なりたい職業の選択肢に加えてもらえると嬉しいですね。今後も、大学生活を楽しんでください！
●**zoom**と対面のダブル講義システムによって体調が悪い日や外せない用事のある日にも受講できたのが良かったです。授業内容に関して、１つの授業に１つの実験が含まれており、抽象的なニュアンスから目の間で起こる事象を見せ、化学に具体性を持たせてくれる講義だったと感じています。また、平常点においても、**zoom**ならではの発言のしやすさがあったと感じました。課題に関する質問をメールで行った際の返信も早く、戸惑うことなく課題に取り組むことができました。
→「化学に具体性を持たせてくれる講義」との言葉、うれしいです。やはり実験は毎年好評ですね。Zoomの併用で講義に参加しやすかった、メールの返信も早くて助かった、というのも貴重な感想です。今後も、皆さんが安心して講義に参加できるよう、色々と工夫してみます！
●オンラインでの受講もできたため家からでも受講できた。様々な資料を投稿していただいたため、自分が気になるものを深掘りできた。
→オンラインも併用することで、受講の選択肢が広がったようですね。私も、講義室ではできない実験などを紹介できたりして、オンラインの利点を実感しました。また、各種資料も、みなさんの興味関心にこたえられるものだったようで良かったです。みなさんの方からも、調べて見つけた情報などを共有してくれると嬉しいです。
●課題を提出する時に、メールだと送れていないことがあったりしたので、提出方法を変えて頂けると助かります。
→ご意見ありがとうございます。現在のところ、修正したりコメントしたりと、何度もやり取りしやすいのが電子メールなので、基本的には電子メールの使用は継続する予定です。まずは、学習支援システムに書いた課題提出時の注意事項をもう一度よく読んで、電子メールの送受信環境などを確認してみてください。それでも、どうしても送信できない場合は、学習支援システムの掲示板に答案を提出したり、紙に印刷して提出するなど、かわりの方法も受け付けます。
●高校化学の復習やその先の大学の範囲で習う化学の演習ができると思ったが思っていたのと違った。課題も形式が自由すぎて戸惑ってしまうし答えが合っていても問題に関しての考察を広げないといい評価がもらえない形式なのはいかがなものかと思った。それとマイクの音質が悪いので買い替えることをおすすめします。一回や二回**zoom**を使うならまだ許容範囲だと思うが、対面**zoom**併用かつ**zoom**のみの授業が多すぎる割には聞きづらいマイクで約**1**時間半も授業を受けるのはだいぶきつい。

→まずは、マイクの不具合についてお詫びします。他のデバイスでZoomに入って自分の音声を確認したところ、マイクの角度などでだいぶ音質が変わるようでした。今後は、音声を確認しながら講義をすることにします。今回のように、聞き取りにくいなどのトラブルがあったら、講義中でもすぐにチャットなどで教えてくれると助かります。そして前半部分については、そもそもシラバスや学習支援システムで、高校までの化学の勉強とは大きく異なること、課題は考えることを重視した自由度の高い「難問」とすること、そのぶん、期限までは何度でも質問や提出を繰り返して良いこと、などなど説明したつもりでしたが、伝わっていなかったようで失礼しました。この講義内容や形式は、考える力を重視し評価するうえで、今のところ私ができる範囲では最適と考えていますので、変えるつもりはありません。

●高校で習った化学の問題(難しい化学反応式の計算など)をそのまま解くというより、自分で考えたり考察したりすることが重視されていた。そのため、化学選択でない自分でも安心して取り組むことができた。また、課題はパワーポイントを使うことが多く、資料作成や情報を分かりやすく整理する力も養われた。また、説明後にそれに関する化学実験の映像も流れるので、イメージがわきより理解が深まった。

→こちらは、上の人と正反対で、考察を重視した講義内容に満足してくれているみたいですね。講義の目的や目標がしっかり伝わっている人もいて、安心しました。充実した時間になったようで、よかったです。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義資料や課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、オンライン講義にも対応できるよう、Zoomをはじめとした各種ツールの準備をしておくこと。

【その他の重要事項】

●X,Yクラスに対し、それぞれ3,4限で同じ講義を行う。時間割の都合で履修すべき時限が履修できない場合は「クラス変更申請」を検討すること。たとえば、クラスとしては3限を履修すべきだが、3限が必修科目と重なっている場合、「クラス変更申請」によって4限を履修できる。詳細は、学部ホームページの「履修関連情報」を参照。

●教員は、神奈川県の公的研究機関に勤める研究者である。その実務経験もふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。詳細な仕事の内容や研究に対する哲学については、下記資料を参照。

・2021年11月に出演した下記YouTube番組(23:30頃に登場)

https://www.youtube.com/watch?v=U5LCwhSjFSM

・2025年12月出版の下記書籍(「様々な分野で活躍する研究者インタビュー」に登場)

http://kitanobook.co.jp/g/publication/20.html

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, you will learn **"how chemistry influence our daily lives"** based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

【Learning Objectives】

1. Basic knowledge of chemistry, especially units and physical quantities, and how to handle and calculate them.
2. How to find and use scientifically reliable information such as papers.
3. Ability to understand familiar phenomena from a scientific perspective, think about them, and explain them in one's own words.
4. Ability to logically consider and propose solutions to various problems related to science and the environment.

【Learning activities outside of classroom】

The standard study time outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. The content of this class is designed so that even if you were not good at chemistry in high school (or even if you have not taken chemistry at all), you do not need to have a solid understanding of chemistry up to high school. **You will be given two or three exercises, all of which require you to think for yourself and explain in your own words.** It is not enough to do a little research on the Internet, so please take the time to examine the information, construct your logic, and prepare highly original answers.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎Ⅰ

普神　敬悟

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校と大学の化学の橋渡し的役割を担う科目である。高等学校理科教員に求められる化学的素養を身につけるとともに、大学での化学を理解することができるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】
(1) 数値の取扱いや単位について説明できる。
(2) モルの概念を説明できる。
(3) 化学反応の量的関係を説明できる。
(4) 原子の構造を説明できる
(5) 電子配置から周期律を説明できる。
(6) 化学結合の種類を分類し、説明できる。
(7) 分子間力の種類を分類し、説明できる。
(8) 酸と塩基の性質を説明できる。
(9) 酸と塩基の強さを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って講義を行う。
理解が深められるように、必要に応じて補足資料を配布したり、問題演習を取り入れ、理解度を確認しながら進める。
課題等に対しては、学習支援システム上でフィードバックする。
春学期の授業は、対面授業で実施する。
都合により１回程度、オンライン授業となる可能性があるが、その場合はその前の回の講義までにアナウンスし、周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、有効数字	授業の進め方、有効数字
2	数値の取扱いと単位	SI単位、単位の換算
3	化学量論	原子量、モル、アボガドロ定数、化学変化の量的関係。
4	原子の構造と電子配置	原子核と電子、原子軌道、電子配置、イオンとイオン結合。
5	共有結合1、オクテット則とケクレ構造	オクテット則、分子と共有結合、非共有電子対、形式電荷、ケクレ構造。
6	共有結合２、分子の形と分子間相互作用	原子価殻電子対反発（VSEPR）理論と分子の形、水素結合、ファンデルワールス力、分子の物理的性質を決める要素。
7	共有結合の極性と化学反応の基礎	電気陰性度、極性分子、化学反応を記述するための「曲がった矢印」の文法と意味。
8	まとめと中間テスト	前半（第７回まで）の内容についての理解度の確認。
9	共鳴１	共鳴と共鳴構造。グループディスカッションを通じて考え方の共有を図る。
10	共鳴２	共鳴構造の重要度。グループディスカッションを通じて考え方の共有を図る。
11	共鳴３	共鳴による電荷の分散範囲（＝イオンの安定性）の考察。グループディスカッションを通じて考え方の共有を図る。
12	酸と塩基１	酸と塩基の定義、酸性と塩基性、共役酸と共役塩基。
13	酸と塩基２	酸と塩基の強さ１、元素の種類と酸・塩基強度との関係。グループディスカッションを通じて考え方の共有を図る。
14	酸と塩基３	酸と塩基の強さ２、共鳴による考察。グループディスカッションを通じて考え方の共有を図る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、１時間を標準とする】
・教科書の該当する項目を予習する。
・配布または授業支援システムにより提供する演習問題に取り組むことを通じ，理解の度合いを確認する（任意）。
・講義内容のうち、講義内に理解できなかった部分について、講義中に示された教科書の対応ページの内容や講義メモを読み返し、講義中に実施した問題演習に再挑戦するなどして理解を深める。
・教科書の章末問題を解き、理解の改善を確かめる。
・自力で理解できない場合は、Hoppii の 掲示板や電子メールなどを活用して質問し、理解して納得できるまで粘り強く指導を受ける。

【テキスト（教科書）】
フレンドリー基礎物理化学演習、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2013年、2700円＋税

【参考書】
・高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，参考書
・フレンドリー物理化学、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2004年、2800円＋税

【成績評価の方法と基準】
・期末試験 45％
・中間テスト 35％
・平常点（授業中の課題への取り組み）20％

【学生の意見等からの気づき】
講義内容の理解を助けるために学習支援システム上の「教材」機能、「課題」機能および「テスト」機能を活用する。授業内掲示板や電子メールを活用した、講義内容について疑問の残る受講生との緊密なコミュニケーションを通じ、受講生全員が十分な理解に到達できるよう、支援に努める。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を毎回持参すること。問題演習には専用のノートを用意し、活用すること。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは設けませんが、質問や要望、その他の連絡事項はすべて、学習支援システム上の授業内掲示板および電子メールで随時受け付けます。
連絡事項は随時、学習支援システムの「お知らせ」で周知します。
秋学期に開講する「化学基礎 II」と合わせて受講することをお奨めします。

【None】
None

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is to help students brush up chemistry they have learned in high school and understand chemistry they will study in the university and they will teach in high school.
【Learning Objectives】
The aim of this couse is to understand basic principles of chemistry.
The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and the properties of acids and bases.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to take an hour to read the corresponding pages of the textbook that will be referred to in the next lesson.
They are also expected to brush up what they learned by exercises given in the textbook and in the class.
Student are expected to spend an hour in total for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Mid-term examination (35%), term-end examination (45%), exercise in each class meeting (10%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎Ⅰ

尾池　秀章

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学の化学を学ぶ上で必要とする予備知識の再確認も含めて，高校と大学の化学の橋渡し的役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう，化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】
(1) 数値の取扱いや単位について説明できる。
(2) 物質量の概念を説明できる。
(3) 化学反応の量的関係を説明できる。
(4) 原子の構造を説明できる
(5) 電子配置から周期律を説明できる。
(6) 化学結合の種類を分類し、説明できる。
(7) 原子軌道と結合，分子の形の関係を説明できる。
(8) 分子間力の種類を分類し、説明できる。
(9) 物質の状態を化学的に理解し，説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に書込み型のスライドを用いながら講義を行う。毎回，講義内容に沿った確認テストを課し，次回の講義中に解説を加えてフィードバックし，理解が深められるように進める。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 物質と化学	授業の進め方 物質，原子，元素の概要
2	化学の用語	化学式，構造式，命名法
3	測定と計算	単位，誤差，有効数字
4	化学反応と化学量論	化学変化と物理変化，化学反応式，物質量，収率
5	原子のエネルギー準位１	光の波動性と粒子性，電子の物理的性質
6	原子のエネルギー準位２	量子化と量子数，原子軌道の電子分布とエネルギー
7	原子のエネルギー準位３	電子配置，原子の性質の周期性
8	化学結合と分子構造１	共有結合とイオン結合，ルイス構造
9	化学結合と分子構造２	原子価殻電子対反発（VSEPR）理論と分子の形
10	化学結合と分子構造３	原子価結合理論，混成軌道
11	物質の状態１	分子間力，水素結合
12	物質の状態２	気体，液体
13	物質の状態３	固体，相変化
14	まとめと解説 期末テスト	全体の内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・教科書の該当する項目を予習する。
・教科書の例題や練習問題を解き，理解を深める。
・学習支援システムなどで課された課題・確認テストに取り組む。

【テキスト（教科書）】
ブラックマン 基礎科学，小島憲道 監訳　錦織紳一・野口徹・平岡秀一 訳，東京化学同人，2800円＋税
授業は基本的にはこの教科書の項目に沿って行うが，購入は必須ではない。

【参考書】
・ブラウン 一般化学Ⅰ，荻野和子 監訳　上野圭司・鵜沼英郎・鹿又宣弘 訳，丸善出版，3000円＋税
・マッカーリ　一般化学（上），村田滋 訳，東京化学同人，3000円＋税
・化合物から理解する　大学の有機化学　必要な機器分析とともに　若狭雅信　編著，丸善出版，3500円＋税
など。
その他，高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，参考書

【成績評価の方法と基準】
次のいずれかで点数が高いほうを採用する。
(1)平常点も含め各項目で行う確認テスト60％＋定期テスト40％
(1)平常点も含め各項目で行う確認テスト30％＋定期テスト70％

【学生の意見等からの気づき】
スライドを見やすく工夫する。また資料や問題における記述のミスをなくす。

【学生が準備すべき機器他】
資料や確認テストは学習支援システムを通して配布するので，随時チェックすること。
授業時における課題や確認テストなどでは電卓を用いても構わない。期末試験では，関数電卓の使用を認める予定であるので，持参すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This lecture is designed for the students who don't fully understand or have failed to learn basic chemistry. The aim of this lecture is that the students have a knowledge and understanding of basic chemistry.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
(1) Account for numerical values and units in chemistry.
(2) Account for basic concepts of amount of substance.
(3) Account for basic concepts as well as carry out calculations in stoichiometry.
(4) Account for electronic structure in atoms.
(5) Account for the theoretical background to the periodic table.
(6) Account for different types of chemical bonds.
(7) Account for atomic orbitals and molecular structures.
(8) Account for different types of intermolecular forces.
(9) Account for states of matters.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (containing quizzes) (60%) and term-end examination (40%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎Ⅰ

見附　孝一郎

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学の化学を学ぶ上で必要する化学の知識を再認識する。あわせて、身近な化学的現象や専門分野での化学が理解できる化学的基礎知識を修得して、化学を通して社会人として必要な教養と人としての素養を培っていくことを目的とする。

【到達目標】
1) 数値の取扱いおよび単位とその変換に慣れ、使いこなせる。
2) 原子量、分子量、物質量の概念を説明できる。
3) 化学反応に関する化学量論計算ができる。
4) 光の粒子性と粒子の波動性の概念を受け入れられる。
5) 原子の構造、電子軌道と量子数の必要性を理解できる。
6) 各元素の電子配置を示し、原子の周期性を説明できる。
7) 化学結合、特に共有結合の成り立ちを説明できる。
8) 多重結合の成因を知り、価電子対反発から分子の形を予測できる。
9) 固体・液体・気体の性質を理解し，状態関数の計算ができる。
10) 理想気体の状態方程式を活用できる。圧力の単位に慣れる。
11) 気体分子同士の相互作用を定式化できる。
12) 理想溶液や理想希薄溶液の性質が説明できる。
13) 成分濃度の時間変化から反応速度式を組み立てられる。
14) 反応速度の温度依存性からエネルギー障壁の情報を得られる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントと黒板書を中心に行う。ほぼ毎回、授業内容に沿った演習問題を課す。次の回の授業冒頭に前回の演習問題の全体あるいは一部を説明し、当該テーマに対する理解を深められるように進める。答案は毎回返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス 単位、数値の扱い	14回分の授業の紹介、SI単位系、SI接頭語、単位の変換、有効数字
第2回	物質の分類、質量数と原子量、物質量、化学式と化学反応式	同位体と原子量の求め方、モルと物質量の概念、分子量、化合物の組成、化学反応における限定物質
第3回	原子の構造とスペクトル	水素原子のスペクトル、光の波長と振動数、ボーアのモデル、物質波
第4回	量子数と電子の軌道	シュレディンガー方程式、電子エネルギー、電子の軌道を量子数で識別
第5回	原子の電子配置、周期表	原子軌道への電子の充填、周期表の周期と族、原子とイオンの電子配置
第6回	元素の周期性	フントの規則、原子の半径、イオン化エネルギーと電子親和力
第7回	化学結合の成り立ち	価電子、オクテット、イオン結合と共有結合、ルイス構造、分子の極性
第8回	分子の電子配置と構造	VSEPR理論、混成軌道、原子価結合理論
第9回	物質の三態	状態図、固体、液体、気体、相転移、分子間力、水素結合
第10回	理想気体の性質	理想気体、ボイル・シャルルの法則、状態方程式
第11回	理想混合気体、実在気体	ドルトンの分圧の法則、ファンデルワールスの式
第12回	溶液の性質	理想溶液、蒸気圧、ヘンリーの法則、束一的性質
第13回	化学反応速度論の基礎	反応速度式、濃度の時間変化、化学量論数と反応進行度
第14回	化学反応速度論の応用	一次反応と二次反応、定常状態近似、アレニウスの式と活性化エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。
・教科書の該当する項目を予習・復習する。
・学習支援システムなどで課された確認問題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
ブラディ・ジェスパーセン、一般化学　上・下（東京化学同人）

【参考書】
化学のコンセプト、舟橋、小林、秀島著　（化学同人）
基礎物理化学演習、尾崎・末岡・宮前・見附著（三共出版）
自然科学ヒストリア、見附著（瀬谷出版）

【成績評価の方法と基準】
・平常点の評価方法：パワーポイント中の課題にWebClassのクリッカーで答える方式などで受講態度を評価する。
・評価割合：平常点 10%、演習問題 30%、学期末テスト 60％
・評価基準：60点以上で合格

【学生の意見等からの気づき】
2024年度までの授業担当者からの引継ぎ事項として、演習問題に関しては、次回授業の冒頭で答案を返却し解説を行う。演習問題の時間にゆとりを持たせる。

【学生が準備すべき機器他】
授業内あるいは課題において、種々の計算を必要とすることがあるので、関数電卓を用意すること。スマートホンやタブレットは定期試験には持ち込めない。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this course is to obtain basic chemical knowledge so that the students can understand familiar chemical phenomena and can reflect it in future academic research.
(Learning Objectives)
Students will receive education about the basic fields of chemistry. You can develop not only study skills required in university-level science courses but also critical thinking skills enabling them to solve chemistry problems with incorporating their accumulated knowledge.
Topics to be covered in this course are the periodic table, stoichiometry, introductory quantum theory, atomic structure, the basics of chemical bonding, chemical kinetics, and properties of gases, liquids, and solids.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to have completed the required assignment tests in class meeting every week. Your study time will be more than four hours for a class.
（Grading Criteria /Policy）

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60 %; Required assignment tests 30 %; In-class contribution 10 %. You can confirm your scores you have acquired so far in the corresponding course at WebClass.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎Ⅰ

普神　敬悟

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校と大学の化学の橋渡し的役割を担う科目である。高等学校理科教員に求められる化学的素養を身につけるとともに、大学での化学を理解することができるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】
(1) 数値の取扱いや単位について説明できる。
(2) モルの概念を説明できる。
(3) 化学反応の量的関係を説明できる。
(4) 原子の構造を説明できる
(5) 電子配置から周期律を説明できる。
(6) 化学結合の種類を分類し、説明できる。
(7) 分子間力の種類を分類し、説明できる。
(8) 酸と塩基の性質を説明できる。
(9) 酸と塩基の強さを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って講義を行う。
理解が深められるように、必要に応じて補足資料を配布したり、問題演習を取り入れ、理解度を確認しながら進める。
課題等に対しては、学習支援システム上でフィードバックする。
春学期の授業は、対面授業で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、有効数字	授業の進め方、有効数字
2	数値の取扱いと単位	SI単位、単位の換算
3	化学量論	原子量、モル、アボガドロ定数、化学変化の量的関係。
4	原子の構造と電子配置	原子核と電子、原子軌道、電子配置、イオンとイオン結合。
5	共有結合1、オクテット則とケクレ構造	オクテット則、分子と共有結合、非共有電子対、形式電荷、ケクレ構造。
6	共有結合２、分子の形と分子間相互作用	原子価殻電子対反発（VSEPR）理論と分子の形、水素結合、ファンデルワールス力、分子の物理的性質を決める要素。
7	共有結合の極性と化学反応の基礎	電気陰性度、極性分子、化学反応を記述するための「曲がった矢印」の文法と意味。
8	まとめと中間テスト	前半（第７回まで）の内容についての理解度の確認。
9	共鳴１	共鳴と共鳴構造。グループディスカッションを通じて考え方の共有を図る。
10	共鳴２	共鳴構造の重要度。グループディスカッションを通じて考え方の共有を図る。
11	共鳴２	共鳴による電荷の分散範囲（＝イオンの安定性）の考察。グループディスカッションを通じて考え方の共有を図る。
12	酸と塩基１	酸と塩基の定義、酸性と塩基性、共役酸と共役塩基。グループディスカッションを通じて考え方の 共有を図る。
13	酸と塩基２	酸と塩基の強さ１、元素の種類と酸・塩基強度との関係。グループディスカッションを通じて考え方の共有を図る。
14	酸と塩基３	酸と塩基の強さ２、共鳴による考察。グループディスカッションを通じて考え方の共有を図る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、１時間を標準とする】
・教科書の該当する項目を予習する。
・配布または授業支援システムにより提供する演習問題に取り組むことを通じ，理解の度合いを確認する（任意）。
・講義内容のうち、講義内に理解できなかった部分について、講義中に示された教科書の対応ページの内容や講義メモを読み返し、講義中に実施した問題演習に再挑戦するなどして理解を深める。
・教科書の章末問題を解き、理解の改善を確かめる。
・自力で理解できない場合は、Hoppii の 掲示板や電子メールなどを活用して質問し、理解して納得できるまで粘り強く指導を受ける。

【テキスト（教科書）】
フレンドリー基礎物理化学演習、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2013年、2700円＋税

【参考書】
・高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，参考書
・フレンドリー物理化学、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2004年、2800円＋税

【成績評価の方法と基準】
・期末試験 45％
・中間テスト 35％
・平常点（授業中の課題への取り組み）20％

【学生の意見等からの気づき】
講義内容の理解を助けるために学習支援システム上の「教材」機能、「課題」機能および「テスト」機能を活用する。授業内掲示板や電子メールを活用した、講義内容について疑問の残る受講生との緊密なコミュニケーションを通じ、受講生全員が十分な理解に到達できるよう、支援に努める。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を毎回持参すること。問題演習には専用のノートを用意し、活用すること。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは設けませんが、質問や要望、その他の連絡事項はすべて、学習支援システム上の授業内掲示板および電子メールで随時受け付けます。
連絡事項は随時、学習支援システムの「お知らせ」で周知します。
秋学期に開講する「化学基礎 II」と合わせて受講することをお奨めします。

【None】
None

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is to help students brush up chemistry they have learned in high school and understand chemistry they will study in the university and they will teach in high school.
【Learning Objectives】
The aim of this couse is to understand basic principles of chemistry.
The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and the properties of acids and bases.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to take an hour to read the corresponding pages of the textbook that will be referred to in the next lesson.
They are also expected to brush up what they learned by exercises given in the textbook and in the class.
Student are expected to spend an hour in total for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Mid-term examination (35%), term-end examination (45%), exercise in each class meeting (10%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎Ⅰ

島田　恵理子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本講義は、「化学」を高校で十分学習してきていない学生や、基礎からやりなおしたい学生を主な対象にする。化学の基礎中の基礎を確実に自分のものにしながら、身近な物質や現象を化学的な視点で捉えられるようになることを目指す。
到達目標：
(1)副殻を用いて原子番号20番までの電子配置を表わすことができる。
(2)周期表で元素の化学的性質を説明できる。
(3)化学結合の極性を判別し物性を説明できる。
(4)モルを使って濃度や量の化学量論的な計算ができる。
(5)基本的なpHの計算ができる。
(6)酸化数を計算でき、酸化還元の現象を説明できる。
(7)エンタルピーで反応熱等の計算ができる。
授業時間外の学習：
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。
成績評価の方法と基準：
毎回行う演習20%、2回の小テスト30％、期末試験50%を合わせて100％として評価する。

【到達目標】
(1)副殻を用いて原子番号20番までの電子配置を表わすことができる。
(2)周期表で元素の化学的性質を説明できる。
(3)化学結合の極性を判別し物性を説明できる。
(4)モルを使って濃度や量の化学量論的な計算ができる。
(5)基本的なpHの計算ができる。
(6)酸化数を計算でき、酸化還元の現象を説明できる。
(7)エンタルピーで反応熱等の計算ができる。
By the end of this course, students should be able to do the followings:
(1) Describe electronic configuration of atomic number 1 20 elements with secondary shell.
(2) Explain chemical properties of typical elements by periodic table of elements
(3) Explain properties of materials with polarities
(4) Calculate stoichiometric amount by using mole.
(5) Calculate basic pH.
(6) Calculate oxidation number.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回演習を行い、その点数の合計を20点満点に換算する。また、小テスト（課題形式を含む）を2回行い、その点数の合計を30点満点とし、期末試験を50点満点とする。演習20%、小テスト30％、期末試験50%を合わせて100％として評価する。
演習・小テストに対しては学習支援システムや授業時にフィードバックする。
Total score　of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス Introduction	授業の進め方，授業の到達，評価方法，化学とは，物質の分類，単位の扱い，自己確認テスト Matter and its property, Self-confirmation test
2回	物質、元素、原子、モル Material, Element，Atom, Mole	物質、元素、原子、モルの意味、周期表 Material，Element，Atom, Mole，Periodic table of elements
3回	原子の構造 Atomic structure	原子核、陽子、中性子、電子、副殻、原子軌道、4つの量子数、周期表の導入、構成の規則 Atomic nucleus，Proton, Neutron, Electron, Second shell，Atomic orbital、4 quantum number, Introduction of the Periodic Table，Electron configuration
4回	周期律① Periodic law①	多電子原子の電子配置、第一イオン化エネルギー、原子半径、電子親和力 Electron configuration of multi-electron atoms, Ionization Energy，The sizes of atoms，electron affinity.
5回	小テスト１、周期律②、化学結合の種類、結合の極性 Quiz1、Periodic law②，Types of chemical bonds, Bond polarity	小テスト１、ルイスの点電子式、電気陰性度、結合の極性 Lewis dot formula, Quiz1, Electronegativity, Bond polarity
6回	化学結合②　分子としての極性 Chemical bond② Molecular polarity	分子の形、混成軌道入門、分子としての極性と溶解性 Shape of molecular, Introduction to Hybrid orbital，Molecular polarity and solubility
7回	物質の三態、溶液 Three states of matter，Solution	純物質の状態図（液体・気体・固体），溶液の性質、濃度 Phase diagram（Liquid, Gas, Solid）, Concentration of solution
8回	気体 Gas	理想気体の状態方程式、実在気体、分圧 Equation of state，Ideal gas, Real gas , Partial pressure
9回	混合系の状態図，蒸留 Phase diagram of mixture system, Distillation	二成分混合系の状態図，蒸留，沸点と組成 Two-component phase diagram，Distillation, Boiling point，Composition

10回	小テスト２、束一性、化学反応①　酸と塩基 Quiz2, Colligative property, Chemical reaction①　Acids and bases	小テスト２、束一性、酸塩基の定義と強弱，電離度，pHの基本計算 Quiz2, The Arrhenius theory, Brensted-Lowry theory, Strong/Weak acids and bases, Degree of ionization, Basic calculation of pH
11回	化学反応②　酸と塩基の反応 Chemical reaction ②　Reaction of acids and bases	中和反応，中和滴定 Neutralization reaction, Neutralization titration
12回	化学反応③　酸化還元反応 Chemical reaction ③　Oxidation-reduction	酸化数、半反応、酸化剤・還元剤、電池の標準起電力 Oxidation number, Half-reaction, Oxidizing and reducing agents, Battery standard electromotive force
13回	化学変化とエネルギー Chemical change and energy	熱力学第一法則、エンタルピーを使った化学反応熱の計算 First law of thermodynamics, Enthalpies, Heat of reaction
14回	期末試験と解説 Final exam and explanation	期末試験と解説 Final exam and explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
・「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人
・配布資料（学習支援システムで授業の前の週に配信）

【参考書】
・「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

【成績評価の方法と基準】
毎回行う演習20%、2回の小テスト30％、期末試験50%を合わせて100％として評価する。
Total score　of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【学生の意見等からの気づき】
予め配布する資料に入れる穴埋め部分を増やし予習しやすくした。
Handouts for preparation of next class have been refined by increasing fill-in the blank questions.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するため、使用できるPC等の環境を準備しておくこと。
It is necessary to prepare PC for using Hoppii system.

【その他の重要事項】
教員の実務経験（企業での化学研究開発ならびに起業）を生かし、問題解決のためのアプローチの仕方を紹介する。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of chemistry to students taking this course.
It is desirable to attend this class for students who have not been studied chemistry enough yet and need to understand it at university.
Goal:
By the end of this course, students should be able to do the followings:
(1) Describe electronic configuration of atomic number 1 20 elements with secondary shell.
(2) Explain chemical properties of typical elements by periodic table of elements
(3) Explain properties of materials with polarities
(4) Calculate stoichiometric amount by using mole.
(5) Calculate basic pH.
(6) Calculate oxidation number.
Work to be done outside of class:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria：
Total score　of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎Ⅰ

大波　英幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　高校化学の復習をするとともに、今後専門分野を学び理解し、さらには研究・応用へ発展させるための化学的基礎知識を習得することを目的とします。

【到達目標】
　高校で学習した化学の基礎的概念が理解できる。専門分野を理解するため理工・生命科学系学生に必要な化学的基礎知識を習得し、論理的な考え方ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　授業計画各項目の講義を中心に、理解を深めるため、得られた知識を活用するため毎回演習問題（課題）を行います。高校化学の習熟度は学生により様々だと思われるため、化学が入試科目でなかった、化学を積極的に学んでこなかった学生にも理解でき興味がもてる授業を心がけます。課題等に対しては，学習支援システムまたは授業時にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要	・授業のガイダンス ・習熟度の確認
第2回	原子の構造と性質①	・原子の基本構造 ・原子と元素 ・原子の電子配置
第3回	原子の構造と性質②	・電子の波動性と電子軌道 ・電子軌道と元素の化学的性質 ・電子のエネルギーと原子の安定性
第4回	化学結合と分子の構造①	・共有結合 ・分子の構造 ・混成軌道と二重結合、三重結合 ・イオン結合、金属結合、配位結合
第5回	化学結合と分子の構造②	・極性と双極子モーメント ・極性と電気陰性度 ・水素結合とファンデルワールス力 ・化学結合と原子の大きさ
第6回	物質の三態	・物質の三態と状態変化 ・気液平衡と蒸気圧
第7回	気体の性質①	・ボイルの法則 ・熱運動 ・シャルルの法則 ・ボイル・シャルルの法則
第8回	気体の性質②	・アボガドロの法則 ・気体の状態方程式 ・混合気体 ・実在気体
第9回	溶液の性質	・溶解度 ・溶液の濃度 ・溶液の性質
第10回	気体分子の運動とエネルギーの保存	・エネルギーと温度 ・気体分子の運動 ・化学反応と衝突 ・化学エネルギーと熱エネルギー
第11回	エントロピー	・自然現象の変化の方向 ・化学反応の変化の方向
第12回	反応の速さと平衡①	・化学反応の速さ ・反応速度と濃度 ・反応速度と活性化エネルギー ・化学反応と触媒
第13回	反応の速さと平衡②	・可逆反応と化学平衡 ・化学平衡の移動
第14回	まとめ	・春学期のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　毎回の授業内容の復習のための演習問題（課題）を出しますので締切までに提出してください。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします。高校化学の教科書・参考書を見直し、理解が不十分であったところを予め把握しておいてください。

【テキスト（教科書）】
新編基礎化学第２版、藤野竜也ほか、実教出版、2021年、2300円＋税

【参考書】
①高校で使用していた化学の教科書
②[化学]ⅠB・Ⅱの新研究、卜部吉庸著、三省堂
③これだけはおさえたい化学、井口洋夫ほか、実教出版
④生きている温泉とは何か、大河内正一著、くまざさ出版

【成績評価の方法と基準】
　通常は、
　　授業期間内の中間試験(又はレポート)40%
　　期末試験50%
に授業課題平常点10%を考慮し評価します。オンラインへの変更となる場合は別途授業内で示します。

【学生の意見等からの気づき】
　毎回の授業後の演習問題（課題）について、より詳細な解答解説の希望があったので解説時間をより多く確保できるよう努める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Review the basics of chemistry learned in high school. Get chemical knowledge to develop into research and applications in specialized areas.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. Understand the basic chemistry learned in high school.
-B. Acquire the basic chemical theory necessary to understand your specialized field.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination (40 %), term end examination (50 %), and in class contribution(10 %).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎Ⅰ

島田　恵理子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本講義は、「化学」を高校で十分学習してきていない学生や、基礎からやりなおしたい学生を主な対象にする。化学の基礎中の基礎を確実に自分のものにしながら、身近な物質や現象を化学的な視点で捉えられるようになることを目指す。
到達目標：
(1)副殻を用いて原子番号20番までの電子配置を表わすことができる。
(2)周期表で元素の化学的性質を説明できる。
(3)化学結合の極性を判別し物性を説明できる。
(4)モルを使って濃度や量の化学量論的な計算ができる。
(5)基本的なpHの計算ができる。
(6)酸化数を計算でき、酸化還元の現象を説明できる。
(7)エンタルピーで反応熱等の計算ができる。
授業時間外の学習：
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。
成績評価の方法と基準：
毎回行う演習20%、2回の小テスト30％、期末試験50%を合わせて100％として評価する。

【到達目標】
(1)副殻を用いて原子番号20番までの電子配置を表わすことができる。
(2)周期表で元素の化学的性質を説明できる。
(3)化学結合の極性を判別し物性を説明できる。
(4)モルを使って濃度や量の化学量論的な計算ができる。
(5)基本的なpHの計算ができる。
(6)酸化数を計算でき、酸化還元の現象を説明できる。
(7)エンタルピーで反応熱等の計算ができる。
By the end of this course, students should be able to do the followings:
(1) Describe electronic configuration of atomic number 1 20 elements with secondary shell.
(2) Explain chemical properties of typical elements by periodic table of elements
(3) Explain properties of materials with polarities
(4) Calculate stoichiometric amount by using mole.
(5) Calculate basic pH.
(6) Calculate oxidation number.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回演習を行い、その点数の合計を20点満点に換算する。また、小テスト（課題形式を含む）を2回行い、その点数の合計を30点満点とし、期末試験を50点満点とする。演習20%、小テスト30％、期末試験50%を合わせて100％として評価する。
演習・小テストに対しては学習支援システムや授業時にフィードバックする。
Total score　of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス Introduction	授業の進め方，授業の到達，評価方法，化学とは，物質の分類，単位の扱い，自己確認テスト Matter and its property, Self-confirmation test
2回	物質、元素、原子、モル Material, Element，Atom, Mole	物質、元素、原子、モルの意味、周期表 Material，Element，Atom, Mole，Periodic table of elements
3回	原子の構造 Atomic structure	原子核、陽子、中性子、電子、副殻、原子軌道、4つの量子数、周期表の導入、構成の規則 Atomic nucleus，Proton, Neutron, Electron, Second shell，Atomic orbital、4 quantum number, Introduction of the Periodic Table，Electron configuration
4回	周期律① Periodic law①	多電子原子の電子配置、第一イオン化エネルギー、原子半径、電子親和力 Electron configuration of multi-electron atoms, Ionization Energy，The sizes of atoms，electron affinity.
5回	小テスト１、周期律②、化学結合の種類、結合の極性 Quiz1、Periodic law②，Types of chemical bonds, Bond polarity	小テスト１、ルイスの点電子式、電気陰性度、結合の極性 Lewis dot formula, Quiz1, Electronegativity, Bond polarity
6回	化学結合②　分子としての極性 Chemical bond② Molecular polarity	分子の形、混成軌道入門、分子としての極性と溶解性 Shape of molecular, Introduction to Hybrid orbital，Molecular polarity and solubility
7回	物質の三態、溶液 Three states of matter，Solution	純物質の状態図（液体・気体・固体），溶液の性質、濃度 Phase diagram（Liquid, Gas, Solid）, Concentration of solution
8回	気体 Gas	理想気体の状態方程式、実在気体、分圧 Equation of state，Ideal gas, Real gas , Partial pressure
9回	混合系の状態図，蒸留 Phase diagram of mixture system, Distillation	二成分混合系の状態図，蒸留，沸点と組成 Two-component phase diagram，Distillation, Boiling point，Composition

10回	小テスト２、束一性、化学反応①　酸と塩基 Quiz2, Colligative property, Chemical reaction①　Acids and bases	小テスト２、束一性、酸塩基の定義と強弱，電離度，pHの基本計算 Quiz2, The Arrhenius theory, Brensted-Lowry theory, Strong/Weak acids and bases, Degree of ionization, Basic calculation of pH
11回	化学反応②　酸と塩基の反応 Chemical reaction ②　Reaction of acids and bases	中和反応，中和滴定 Neutralization reaction, Neutralization titration
12回	化学反応③　酸化還元反応 Chemical reaction ③　Oxidation-reduction	酸化数、半反応、酸化剤・還元剤、電池の標準起電力 Oxidation number, Half-reaction, Oxidizing and reducing agents, Battery standard electromotive force
13回	化学変化とエネルギー Chemical change and energy	熱力学第一法則、エンタルピーを使った化学反応熱の計算 First law of thermodynamics, Enthalpies, Heat of reaction
14回	期末試験と解説 Final exam and explanation	期末試験と解説 Final exam and explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
・「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人
・配布資料（学習支援システムで授業の前の週に配信）

【参考書】
・「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

【成績評価の方法と基準】
毎回行う演習20%、2回の小テスト30％、期末試験50%を合わせて100％として評価する。
Total score　of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【学生の意見等からの気づき】
予め配布する資料に入れる穴埋め部分を増やし予習しやすくした。
Handouts for preparation of next class have been refined by increasing fill-in the blank questions.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するため、使用できるPC等の環境を準備しておくこと。
It is necessary to prepare PC for using Hoppii system.

【その他の重要事項】
教員の実務経験（企業での化学研究開発ならびに起業）を生かし、問題解決のためのアプローチの仕方を紹介する。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of chemistry to students taking this course.
It is desirable to attend this class for students who have not been studied chemistry enough yet and need to understand it at university.
Goal:
By the end of this course, students should be able to do the followings:
(1) Describe electronic configuration of atomic number 1 20 elements with secondary shell.
(2) Explain chemical properties of typical elements by periodic table of elements
(3) Explain properties of materials with polarities
(4) Calculate stoichiometric amount by using mole.
(5) Calculate basic pH.
(6) Calculate oxidation number.
Work to be done outside of class:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria：
Total score　of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎ＩＩ

落合　剛

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「化学が日常生活にどう結びついているか」について、化学だけでなく、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力までを幅広く身に付けることを目的とする。

【到達目標】
１．化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法の習得
２．論文など、科学的に信頼できる情報の見分け方とその活用法の習得
３．身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明できる
４．科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書のテーマをふまえた実験を中心に、動画、PowerPointスライド、参考になるwebサイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答やグループディスカッションなどをおりまぜ、リアルタイム双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後、学習支援システムの「教材」に、講義中に演示した実験の動画や参考になるwebサイトのリンクをアップロードし、復習できるようにする。また「授業内掲示板」も活用して、受講者がまとめたノートの共有や、講義時間内に終了しなかった質疑応答などを行い、学習支援システムでも双方向に講義内容を深めていく。２～３回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信する。優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。授業は、対面＋**Zoom**のハイフレックス形式で行う予定である。健康上の理由などで講義室で受講できない学生はもちろん、対面で受講している学生にも、**Zoom**に入室してもらい、チャット機能で随時質問を受け付ける（「気軽に質問できるうえ飛沫も飛ばず安心」という感想があったため、対面講義でもZoomを併用している）。また、教員が出張等で講義室に行けなかったり、講義室ではできない大がかりな実験を演示したりする場合は、対面ではなく完全にオンラインでの授業とする（2022年度は、教員が国際学会開催地のチリから、時差も考慮してリアルタイムオンライン授業を実施したことがあった）。下記の【授業計画】には、現時点で予定している授業形態や内容を記載してある。予定変更など特別な連絡がある場合は、講義前に学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	新教科書6-7章 旧教科書4章 ※新旧の教科書の違いは【テキスト】参照	【実験：金属から取り出す電気】 エネルギーの定義とかたち
2	新教科書6-7章 旧教科書4章	【実験：水素から取り出す電気】 電池とその原理
3	新教科書6-7章 旧教科書4章	【実験：電気の正体】エネルギーのかたちと変換
4	新教科書6-7章 旧教科書4章	【実験：化学反応とエネルギー①】燃焼から取り出すエネルギー
5	新教科書6-7章 旧教科書4章	【実験：化学反応とエネルギー②】エネルギー収支の計算
6	新教科書6-7章 旧教科書4章	【実験：酸化と還元】酸素のやり取り、エネルギーまとめ
7	新教科書5章 旧教科書5章	【実験：水の性質①】水をめぐる世界情勢
8	新教科書5章 旧教科書5章	【実験：水の性質②】水の不思議な性質
9	新教科書5章 旧教科書5章	【実験：水の分析】何が溶けているか？
10	新教科書5章 旧教科書5章	【実験：水の浄化】水をきれいにする方法
11	新教科書5章 旧教科書6章	【実験：酸とその性質①】酸とは何か
12	新教科書5章 旧教科書6章	【実験：酸とその性質②】酸性雨をつくってみる
13	新教科書5章 旧教科書6章	【グループディスカッション】酸性雨とその解決策
14	演習問題、まとめ	科学的に信頼できる情報を収集・活用し、具体的な問題について考え、説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないよう工夫している。したがって、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、PowerPoint等で答案を作成して電子メールで提出する、といったPCの基本的な使用方法に慣れておくこと。２～３回、演習課題を出題するが、いずれも、受験までで接してきた「正解」のある問題ではなく、「地球温暖化問題を解決するためには、どうしたらよいか、自分の考えを述べよ。形式自由だが、**PowerPoint**ならスライド**20**枚以上を目安に、濃い内容とすること」といった、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない「難問」とする予定。インターネットや**AI**に答を求めたり、いわゆる「過去問」を入手したり、一夜漬けなどをしても、評価の高い答案の作成にはほとんど役立たない。そのぶん、提出期限を長めに設定し、期限までは何度でも質問・提出・修正を繰り返して良いこととする。時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成すること。

【テキスト（教科書）】
新教科書『実感する化学　原書第10版　上巻　～地球感動編～』
原書編集：A Project of the American Chemical Society
翻訳：大西洋、和田昭英
発行：(株)エヌ・ティー・エス(2025年)
定価：本体3,800円＋税
https://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20250201_240.html

旧教科書『改訂　実感する化学　上巻　～地球感動編～』
原書編集：A Project of the American Chemical Society
翻訳：廣瀬千秋
発行：(株)エヌ・ティー・エス(2015年)
定価：本体3,500円＋税
http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html

※2025年度までは旧教科書を用いていたが、2026年度からは新教科書を用いる。基本的な内容は、新旧の教科書で差はない。旧教科書を持っている受講生は、新教科書を新たに購入する必要はなく、旧教科書をそのまま使用すればよい。同様に、これから教科書の購入を検討している受講生は、新教科書のみを購入すればよく、旧教科書も購入する必要はない。

※これらの書籍の構成にそって授業を行うが、内容を一字一句ていねいにおいかけたり、演習問題をひとつひとつ解いたりはしない。したがって、これらの書籍がないと毎回の講義についていけない、というわけではない。しかし、講義内容をじゅうぶんに理解し、課題について深く考察するためには、これらの書籍の通読が近道となる場合が多いため、これらの書籍を「参考書」ではなく「教科書」とした。なお、春学期の「化学基礎Ⅰ」と秋学期の「化学基礎Ⅱ」で、およそ半分ずつ教科書の内容を解説していくので、春秋を通じての履修をおすすめする。

【参考書】
『ファラデーのつくった世界！　ロウソクの科学が歴史を変えた』
著者：藤嶋昭、落合剛、濱田健吾
発行：(株)化学同人(2024年)
定価：本体2,000円＋税
https://www.kagakudojin.co.jp/book/b632970.html

※担当教員が実験部分を主に執筆した書籍。講義で実演する実験も多数収録されているため、より深く講義内容を理解する手助けとなる。

そのほか、参考となる書籍は、講義や学習支援システム上で随時紹介する。専門書、一般書、科学論文、webページやYouTube動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】
●上記の到達目標に記載した４つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、インターネットやAIで調べたり、過去問を入手したところで、簡単に高評価が得られない「難問」になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えたうえで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。
●目標１については、講義や教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標２および３については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標４については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。平常点としては、模範解答の発表や講義の解説に対するコメントや、学習支援システムの掲示板への投稿など、積極的な講義参加を評価対象とする（科学の知識は必ずしも重要ではない。実験へのリアクションや、素朴な疑問・感想等でも評価対象となる）。上記のように「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準だから、出席しただけで加点されるような「出席点」は考慮しない。配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が40%、演習課題の合計が30%、その他平常点が30%程度である。

【学生の意見等からの気づき】
●春学期・秋学期の3・4限で計4回実施したアンケートを集計すると、下記の通りとなった（対象者数のべ57名、回答率26%）。

Q1. この授業では、積極的な工夫がされていましたか
（５段階評価での各段階の回答者数を記載）
大変工夫していた←**10，2，3，0，0**→あまり工夫していない
（「大変工夫していた」を5点とすると平均4.5点）
Q3. この授業内容を理解できましたか
大変理解できた←**3，10，2，0，0**→理解できなかった
（同、平均4.1点）
Q4. この授業を履修してよかったと思いますか
大変よかった←**10，3，0，2，0**→よくなかった
（同、平均4.4点）

回答した受講生の多くが講義にポジティブな印象をもっていることがうかがえた。「Q5. この授業を履修して、よかった点や改善してほしい点等を記入してください」という設問に対しては、具体的な感想や意見が寄せられ、気づくことも多々あった。それらの意見や気づきは、「教員コメント」機能を使い、受講生の意見を紹介しながらフィードバックした。いくつか、以下に紹介する。

●高校で確かに化学を習ったが、ちゃんと理解できてはいなかったため、履修当初は不安があったが、シラバスにある通り化学の知識が不足していても本当の基礎から解説をしていただけて、安心して履修ができた。レポート課題は多少時間がかかるものではあったが、評価ポイントも明記してくださり、個別で相談にも乗っていただけたうえ、頑張った分きちんとフィードバックをしてくださるので、達成感のあるものだった。研究という学部生のうちではあまり触れられない分野の体験ができたという点で、The大学の授業という感じがして魅力的であると感じた。ありがとうございました。
→「The大学の授業」というコメント、ありがとうございます！ 大学の学びの面白さが伝わったようで何よりです。研究（および研究職）の魅力も実感できたのならば、将来やりたいこと、なりたい職業の選択肢に加えてもらえると嬉しいですね。今後も、大学生活を楽しんでください！
●zoomと対面のダブル講義システムによって体調が悪い日や外せない用事のある日にも受講できたのが良かったです。授業内容に関して、１つの授業に１つの実験が含まれており、抽象的なニュアンスから目の間で起こる事象を見せ、化学に具体性を持たせてくれる講義だったと感じています。また、平常点においても、zoomならではの発言のしやすさがあったと感じました。課題に関する質問をメールで行った際の返信も早く、戸惑うことなく課題に取り組むことができました。
→「化学に具体性を持たせてくれる講義」との言葉、うれしいです。やはり実験は毎年好評ですね。Zoomの併用で講義に参加しやすかった、メールの返信も早くて助かった、というのも貴重な感想です。今後も、皆さんが安心して講義に参加できるよう、色々と工夫してみます！
●オンラインでの受講もできたため家からでも受講できた。様々な資料を投稿していただいたため、自分が気になるものを深掘りできた。
→オンラインも併用することで、受講の選択肢が広がったようですね。私も、講義室ではできない実験などを紹介できたりして、オンラインの利点を実感しました。また、各種資料も、みなさんの興味関心にこたえられるものだったようで良かったです。みなさんの方からも、調べて見つけた情報などを共有してくれると嬉しいです。
●課題を提出する時に、メールだと送れていないことがあったりしたので、提出方法を変えて頂けると助かります。
→ご意見ありがとうございます。現在のところ、修正したりコメントしたりと、何度もやり取りしやすいのが電子メールなので、基本的には電子メールの使用は継続する予定です。まずは、学習支援システムに書いた課題提出時の注意事項をもう一度よく読んで、電子メールの送受信環境などを確認してみてください。それでも、どうしても送信できない場合は、学習支援システムの掲示板に答案を提出したり、紙に印刷して提出するなど、かわりの方法も受け付けます。
●高校化学の復習やその先の大学の範囲で習う化学の演習ができると思ったが思っていたのと違った。課題も形式が自由すぎて戸惑ってしまうし答えが合っていても問題に関しての考察を広げないといい評価がもらえない形式なのはいかがなものかと思った。それとマイクの音質が悪いので買い替えることをおすすめします。一回や二回zoomを使うならまだ許容範囲だと思うが、対面zoom併用かつzoomのみの授業が多すぎる割には聞きづらいマイクで約1時間半も授業を受けるのはだいぶきつい。

→まずは、マイクの不具合についてお詫びします。他のデバイスでZoomに入って自分の音声を確認したところ、マイクの角度などでだいぶ音質が変わるようでした。今後は、音声を確認しながら講義をすることにします。今回のように、聞き取りにくいなどのトラブルがあったら、講義中でもすぐにチャットなどで教えてくれると助かります。そして前半部分については、そもそもシラバスや学習支援システムで、高校までの化学の勉強とは大きく異なること、課題は考えることを重視した自由度の高い「難問」とすること、そのぶん、期限までは何度でも質問や提出を繰り返して良いこと、などなど説明したつもりでしたが、伝わっていなかったようで失礼しました。この講義内容や形式は、考える力を重視し評価するうえで、今のところ私ができる範囲では最適と考えていますので、変えるつもりはありません。

●高校で習った化学の問題(難しい化学反応式の計算など)をそのまま解くというより、自分で考えたり考察したりすることが重視されていた。そのため、化学選択でない自分でも安心して取り組むことができた。また、課題はパワーポイントを使うことが多く、資料作成や情報を分かりやすく整理する力も養われた。また、説明後にそれに関する化学実験の映像も流れるので、イメージがわきより理解が深まった。

→こちらは、上の人と正反対で、考察を重視した講義内容に満足してくれているみたいですね。講義の目的や目標がしっかり伝わっている人もいて、安心しました。充実した時間になったようで、よかったです。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義資料や課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、オンライン講義にも対応できるよう、Zoomをはじめとした各種ツールの準備をしておくこと。

【その他の重要事項】

●X,Yクラスに対し、それぞれ3,4限で同じ講義を行う。時間割の都合で履修すべき時限が履修できない場合は「クラス変更申請」を検討すること。たとえば、クラスとしては3限を履修すべきだが、3限が必修科目と重なっている場合、「クラス変更申請」によって4限を履修できる。詳細は、学部ホームページの「履修関連情報」を参照。

●教員は、神奈川県の公的研究機関に勤める研究者である。その実務経験もふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。詳細な仕事の内容や研究に対する哲学については、下記資料を参照。

・2021年11月に出演した下記YouTube番組(23:30頃に登場)

https://www.youtube.com/watch?v=U5LCwhSjFSM

・2025年12月出版の下記書籍(「様々な分野で活躍する研究者インタビュー」に登場)

http://kitanobook.co.jp/g/publication/20.html

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, you will learn **"how chemistry influence our daily lives"** based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

【Learning Objectives】

1. Basic knowledge of chemistry, especially units and physical quantities, and how to handle and calculate them.
2. How to find and use scientifically reliable information such as papers.
3. Ability to understand familiar phenomena from a scientific perspective, think about them, and explain them in one's own words.
4. Ability to logically consider and propose solutions to various problems related to science and the environment.

【Learning activities outside of classroom】

The standard study time outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. The content of this class is designed so that even if you were not good at chemistry in high school (or even if you have not taken chemistry at all), you do not need to have a solid understanding of chemistry up to high school. **You will be given two or three exercises, all of which require you to think for yourself and explain in your own words.** It is not enough to do a little research on the Internet, so please take the time to examine the information, construct your logic, and prepare highly original answers.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎ＩＩ

落合　剛

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「化学が日常生活にどう結びついているか」について、化学だけでなく、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力までを幅広く身に付けることを目的とする。

【到達目標】
１．化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法の習得
２．論文など、科学的に信頼できる情報の見分け方とその活用法の習得
３．身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明できる
４．科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書のテーマをふまえた実験を中心に、動画、PowerPointスライド、参考になるwebサイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答やグループディスカッションなどをおりまぜ、リアルタイム双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後、学習支援システムの「教材」に、講義中に演示した実験の動画や参考になるwebサイトのリンクをアップロードし、復習できるようにする。また「授業内掲示板」も活用して、受講者がまとめたノートの共有や、講義時間内に終了しなかった質疑応答などを行い、学習支援システムでも双方向に講義内容を深めていく。２～３回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信する。優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。授業は、対面＋**Zoom**のハイフレックス形式で行う予定である。健康上の理由などで講義室で受講できない学生はもちろん、対面で受講している学生にも、**Zoom**に入室してもらい、チャット機能で随時質問を受け付ける（「気軽に質問できるうえ飛沫も飛ばず安心」という感想があったため、対面講義でもZoomを併用している）。また、教員が出張等で講義室に行けなかったり、講義室ではできない大がかりな実験を演示したりする場合は、対面ではなく完全にオンラインでの授業とする（2022年度は、教員が国際学会開催地のチリから、時差も考慮してリアルタイムオンライン授業を実施したことがあった）。下記の【授業計画】には、現時点で予定している授業形態や内容を記載してある。予定変更など特別な連絡がある場合は、講義前に学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	新教科書6-7章 旧教科書4章 ※新旧の教科書の違いは【テキスト】参照	【実験：金属から取り出す電気】 エネルギーの定義とかたち
2	新教科書6-7章 旧教科書4章	【実験：水素から取り出す電気】 電池とその原理
3	新教科書6-7章 旧教科書4章	【実験：電気の正体】エネルギーのかたちと変換
4	新教科書6-7章 旧教科書4章	【実験：化学反応とエネルギー①】燃焼から取り出すエネルギー
5	新教科書6-7章 旧教科書4章	【実験：化学反応とエネルギー②】エネルギー収支の計算
6	新教科書6-7章 旧教科書4章	【実験：酸化と還元】酸素のやり取り、エネルギーまとめ
7	新教科書5章 旧教科書5章	【実験：水の性質①】水をめぐる世界情勢
8	新教科書5章 旧教科書5章	【実験：水の性質②】水の不思議な性質
9	新教科書5章 旧教科書5章	【実験：水の分析】何が溶けているか？
10	新教科書5章 旧教科書5章	【実験：水の浄化】水をきれいにする方法
11	新教科書5章 旧教科書6章	【実験：酸とその性質①】酸とは何か
12	新教科書5章 旧教科書6章	【実験：酸とその性質②】酸性雨をつくってみる
13	新教科書5章 旧教科書6章	【グループディスカッション】酸性雨とその解決策
14	演習問題、まとめ	科学的に信頼できる情報を収集・活用し、具体的な問題について考え、説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないよう工夫している。したがって、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、PowerPoint等で答案を作成して電子メールで提出する、といったPCの基本的な使用方法に慣れておくこと。２～３回、演習課題を出題するが、いずれも、受験までで接してきた「正解」のある問題ではなく、「地球温暖化問題を解決するためには、どうしたらよいか、自分の考えを述べよ。形式自由だが、**PowerPoint**ならスライド**20**枚以上を目安に、濃い内容とすること」といった、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない「難問」とする予定。インターネットや**AI**に答を求めたり、いわゆる「過去問」を入手したり、一夜漬けなどをしても、評価の高い答案の作成にはほとんど役立たない。そのぶん、提出期限を長めに設定し、期限までは何度でも質問・提出・修正を繰り返して良いこととする。時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成すること。

【テキスト（教科書）】
新教科書『実感する化学　原書第10版　上巻　～地球感動編～』
原書編集：A Project of the American Chemical Society
翻訳：大西洋、和田昭英
発行：(株)エヌ・ティー・エス(2025年)
定価：本体3,800円＋税
https://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20250201_240.html

旧教科書『改訂　実感する化学　上巻　～地球感動編～』
原書編集：A Project of the American Chemical Society
翻訳：廣瀬千秋
発行：(株)エヌ・ティー・エス(2015年)
定価：本体3,500円＋税
http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html

※2025年度までは旧教科書を用いていたが、2026年度からは新教科書を用いる。基本的な内容は、新旧の教科書で差はない。旧教科書を持っている受講生は、新教科書を新たに購入する必要はなく、旧教科書をそのまま使用すればよい。同様に、これから教科書の購入を検討している受講生は、新教科書のみを購入すればよく、旧教科書も購入する必要はない。

※これらの書籍の構成にそって授業を行うが、内容を一字一句ていねいにおいかけたり、演習問題をひとつひとつ解いたりはしない。したがって、これらの書籍がないと毎回の講義についていけない、というわけではない。しかし、講義内容をじゅうぶんに理解し、課題について深く考察するためには、これらの書籍の通読が近道となる場合が多いため、これらの書籍を「参考書」ではなく「教科書」とした。なお、春学期の「化学基礎Ⅰ」と秋学期の「化学基礎Ⅱ」で、およそ半分ずつ教科書の内容を解説していくので、春秋を通じての履修をおすすめする。

【参考書】
『ファラデーのつくった世界！　ロウソクの科学が歴史を変えた』
著者：藤嶋昭、落合剛、濱田健吾
発行：(株)化学同人(2024年)
定価：本体2,000円＋税
https://www.kagakudojin.co.jp/book/b632970.html

※担当教員が実験部分を主に執筆した書籍。講義で実演する実験も多数収録されているため、より深く講義内容を理解する手助けとなる。

そのほか、参考となる書籍は、講義や学習支援システム上で随時紹介する。専門書、一般書、科学論文、webページやYouTube動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】
●上記の到達目標に記載した４つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、インターネットやAIで調べたり、過去問を入手したところで、簡単に高評価が得られない「難問」になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えたうえで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では**「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。**
●目標１については、講義や教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標２および３については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標４については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。平常点としては、模範解答の発表や講義の解説に対するコメントや、学習支援システムの掲示板への投稿など、積極的な講義参加を評価対象とする（科学の知識は必ずしも重要ではない。実験へのリアクションや、素朴な疑問・感想等でも評価対象となる）。上記のように**「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準だから、出席しただけで加点されるような「出席点」は考慮しない。配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が40%、演習課題の合計が30%、その他平常点が30%程度である。**

【学生の意見等からの気づき】
●春学期・秋学期の3・4限で計4回実施したアンケートを集計すると、下記の通りとなった（対象者数のべ57名、回答率26%）。

Q1. この授業では、積極的な工夫がされていましたか
（５段階評価での各段階の回答者数を記載）
大変工夫していた←**10，2，3，0，0**→あまり工夫していない
（「大変工夫していた」を5点とすると平均4.5点）
Q3. この授業内容を理解できましたか
大変理解できた←**3，10，2，0，0**→理解できなかった
（同、平均4.1点）
Q4. この授業を履修してよかったと思いますか
大変よかった←**10，3，0，2，0**→よくなかった
（同、平均4.4点）

回答した受講生の多くが講義にポジティブな印象をもっていることがうかがえた。「Q5. この授業を履修して、よかった点や改善してほしい点等を記入してください」という設問に対しては、具体的な感想や意見が寄せられ、気づくことも多々あった。それらの意見や気づきは、「教員コメント」機能を使い、受講生の意見を紹介しながらフィードバックした。いくつか、以下に紹介する。

●高校で確かに化学を習ったが、ちゃんと理解できてはいなかったため、履修当初は不安があったが、シラバスにある通り化学の知識が不足していても本当の基礎から解説をしていただけて、安心して履修ができた。レポート課題は多少時間がかかるものではあったが、評価ポイントも明記してくださり、個別で相談にも乗っていただけたうえ、頑張った分きちんとフィードバックをしてくださるので、達成感のあるものだった。研究という学部生のうちではあまり触れられない分野の体験ができたという点で、**The**大学の授業という感じがして魅力的であると感じた。ありがとうございました。
→「The大学の授業」というコメント、ありがとうございます！ 大学の学びの面白さが伝わったようで何よりです。研究（および研究職）の魅力も実感できたのならば、将来やりたいこと、なりたい職業の選択肢に加えてもらえると嬉しいですね。今後も、大学生活を楽しんでください！
●**zoom**と対面のダブル講義システムによって体調が悪い日や外せない用事のある日にも受講できたのが良かったです。授業内容に関して、１つの授業に１つの実験が含まれており、抽象的なニュアンスから目の間で起こる事象を見せ、化学に具体性を持たせてくれる講義だったと感じています。また、平常点においても、**zoom**ならではの発言のしやすさがあったと感じました。課題に関する質問をメールで行った際の返信も早く、戸惑うことなく課題に取り組むことができました。
→「化学に具体性を持たせてくれる講義」との言葉、うれしいです。やはり実験は毎年好評ですね。Zoomの併用で講義に参加しやすかった、メールの返信も早くて助かった、というのも貴重な感想です。今後も、皆さんが安心して講義に参加できるよう、色々と工夫してみます！
●オンラインでの受講もできたため家からでも受講できた。様々な資料を投稿していただいたため、自分が気になるものを深掘りできた。
→オンラインも併用することで、受講の選択肢が広がったようですね。私も、講義室ではできない実験などを紹介できたりして、オンラインの利点を実感しました。また、各種資料も、みなさんの興味関心にこたえられるものだったようで良かったです。みなさんの方からも、調べて見つけた情報などを共有してくれると嬉しいです。
●課題を提出する時に、メールだと送れていないことがあったりしたので、提出方法を変えて頂けると助かります。
→ご意見ありがとうございます。現在のところ、修正したりコメントしたりと、何度もやり取りしやすいのが電子メールなので、基本的には電子メールの使用は継続する予定です。まずは、学習支援システムに書いた課題提出時の注意事項をもう一度よく読んで、電子メールの送受信環境などを確認してみてください。それでも、どうしても送信できない場合は、学習支援システムの掲示板に答案を提出したり、紙に印刷して提出するなど、かわりの方法も受け付けます。
●高校化学の復習やその先の大学の範囲で習う化学の演習ができると思ったが思っていたのと違った。課題も形式が自由すぎて戸惑ってしまうし答えが合っていても問題に関しての考察を広げないといい評価がもらえない形式なのはいかがなものかと思った。それとマイクの音質が悪いので買い替えることをおすすめします。一回や二回**zoom**を使うならまだ許容範囲だと思うが、対面**zoom**併用かつ**zoom**のみの授業が多すぎる割には聞きづらいマイクで約**1**時間半も授業を受けるのはだいぶきつい。

→まずは、マイクの不具合についてお詫びします。他のデバイスでZoomに入って自分の音声を確認したところ、マイクの角度などでだいぶ音質が変わるようでした。今後は、音声を確認しながら講義をすることにします。今回のように、聞き取りにくいなどのトラブルがあったら、講義中でもすぐにチャットなどで教えてくれると助かります。そして前半部分については、そもそもシラバスや学習支援システムで、高校までの化学の勉強とは大きく異なること、課題は考えることを重視した自由度の高い「難問」とすること、そのぶん、期限までは何度でも質問や提出を繰り返して良いこと、などなど説明したつもりでしたが、伝わっていなかったようで失礼しました。この講義内容や形式は、考える力を重視し評価するうえで、今のところ私ができる範囲では最適と考えていますので、変えるつもりはありません。

●高校で習った化学の問題(難しい化学反応式の計算など)をそのまま解くというより、自分で考えたり考察したりすることが重視されていた。そのため、化学選択でない自分でも安心して取り組むことができた。また、課題はパワーポイントを使うことが多く、資料作成や情報を分かりやすく整理する力も養われた。また、説明後にそれに関する化学実験の映像も流れるので、イメージがわきより理解が深まった。

→こちらは、上の人と正反対で、考察を重視した講義内容に満足してくれているみたいですね。講義の目的や目標がしっかり伝わっている人もいて、安心しました。充実した時間になったようで、よかったです。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義資料や課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、オンライン講義にも対応できるよう、Zoomをはじめとした各種ツールの準備をしておくこと。

【その他の重要事項】

●X,Yクラスに対し、それぞれ3,4限で同じ講義を行う。時間割の都合で履修すべき時限が履修できない場合は「クラス変更申請」を検討すること。たとえば、クラスとしては3限を履修すべきだが、3限が必修科目と重なっている場合、「クラス変更申請」によって4限を履修できる。詳細は、学部ホームページの「履修関連情報」を参照。

●教員は、神奈川県の公的研究機関に勤める研究者である。その実務経験もふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。詳細な仕事の内容や研究に対する哲学については、下記資料を参照。

・2021年11月に出演した下記YouTube番組(23:30頃に登場)
https://www.youtube.com/watch?v=U5LCwhSjFSM
・2025年12月出版の下記書籍(「様々な分野で活躍する研究者インタビュー」に登場)
http://kitanobook.co.jp/g/publication/20.html

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, you will learn **"how chemistry influence our daily lives"** based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

【Learning Objectives】

1. Basic knowledge of chemistry, especially units and physical quantities, and how to handle and calculate them.
2. How to find and use scientifically reliable information such as papers.
3. Ability to understand familiar phenomena from a scientific perspective, think about them, and explain them in one's own words.
4. Ability to logically consider and propose solutions to various problems related to science and the environment.

【Learning activities outside of classroom】

The standard study time outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. The content of this class is designed so that even if you were not good at chemistry in high school (or even if you have not taken chemistry at all), you do not need to have a solid understanding of chemistry up to high school. **You will be given two or three exercises, all of which require you to think for yourself and explain in your own words.** It is not enough to do a little research on the Internet, so please take the time to examine the information, construct your logic, and prepare highly original answers.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎ＩＩ

普神　敬悟

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学で履修する化学的内容を十分に理解することができるよう、また、高等学校理科教員として化学を教える上で必要な、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】
(1) 気体の状態方程式とその考え方を説明できる。
(2) 化学変化をエネルギーの観点から説明できる。
(3) 化学反応の進む方向を予測できる。
(4) 溶液の濃度換算ができ、束一的性質を説明できる。
(5) 酸・塩基の性質を説明できる。
(6) 緩衝作用を説明できる。
(7) 酸化と還元を説明できる。
(8) 電池の起電力を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って講義を行う。
理解が深められるように、必要に応じて補足資料を配布したり、問題演習を取り入れ、理解度を把握しながら進める。
課題等に対しては、学習支援システム上でフィードバックする。
対面授業で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	気体の性質	圧力、気体の法則、理想気体の状態方程式
2	エネルギー	系、熱、仕事、エネルギー
3	内部エネルギーとエンタルピー	内部エネルギー、エンタルピー
4	反応のエンタルピー	生成エンタルピー、標準反応エンタルピー
5	熱力学第2法則	自発的変化、エントロピー
6	自由エネルギー	ギブスの自由エネルギー、正味の仕事
7	溶液の性質	モル濃度、質量モル濃度、蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧
8	前半（第６回まで）の内容の理解度確認テスト・まとめと解説	前半（第７回まで）の内容についての理解度の確認
9	酸と塩基１	酸と塩基の強さ、 pKa、pH
10	酸と塩基２	解離定数、弱酸、弱塩基水溶液のpH
11	酸と塩基３	塩の水溶液のpH、緩衝液、ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式
12	酸化と還元１	酸化還元の定義、酸化数、酸化剤と還元剤
13	酸化と還元２	半反応、酸化還元反応式、電池
14	酸化と還元３	標準電極電位、起電力、ネルンストの式と化学平衡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、１時間を標準とする】
・教科書の該当する項目を予習する。
・配布および授業支援システムにより提供する演習問題に取り組むことを通じ、理解の度合いを確認する。
・講義内容のうち、講義内に理解できなかった部分について、講義中に示さとれた教科書の対応ページの内容や講義メモを読み返し、講義中に実施した問題演習に再挑戦するなどして理解を深める。
・教科書の章末問題を解き、理解の改善を確かめる。
・自力で理解できない場合は、Hoppii の 掲示板や電子メールなどを活用して質問し、理解して納得できるまで粘り強く指導を受ける。

【テキスト（教科書）】
フレンドリー基礎物理化学演習、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2013年、2700円＋税

【参考書】
・フレンドリー物理化学、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2004年、2800円＋税
・物理化学要論第7版、アトキンス、東京化学同人、2020年、6490円
・一般化学第8版（上・下）、アトキンス、東京化学同人、2025年、各3740円

【成績評価の方法と基準】
・期末試験 45％
・中間テスト 40％
・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み）15％

【学生の意見等からの気づき】
講義内容の理解を助けるために学習支援システム上の「教材」機能および「課題」機能を活用する。授業内掲示板や電子メールを活用した、講義内容について疑問の残る受講生との緊密なコミュニケーションを通じ、受講生全員が十分な理解に到達できるよう、支援に努める。

【学生が準備すべき機器他】
毎回，教科書と電卓を持参すること。演習問題に取り組むための専用のノートを用意し、活用されたい。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、学習支援システム上の授業内掲示板や電子メールなどを活用して、質問や要望をいつでも遠慮なく寄せて下さい。

【None】
None

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is to help students brush up chemistry they have learned in high school and understand chemistry they will study in the university and teach in high school.
【Learning Objectives】
The aim of this couse is to understand basic principles of chemistry.
The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and acids and bases.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to take an hour to read the corresponding pages of the textbook that will be referred to in the next lesson.
They are also expected to brush up what they learned by exercises given in the textbook and in the class.

Student are expected to spend an hour in total for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Mid-term examination (35%), term-end examination (45%), exercise in each class meeting (10%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎ＩＩ

尾池　秀章

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学の化学を学ぶ上で必要とする予備知識の再確認も含めて，高校と大学の化学の橋渡し的役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう，化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】
(1) 化学変化をエネルギーの観点から説明できる。
(2) エンタルピーとエントロピーについて説明できる。
(3) 物質変化の駆動力と化学平衡について説明できる。
(4) 溶液の組成を適切に表現でき，溶液の束一性に基づく現象を説明できる。
(5) 酸・塩基の性質を述べることができる。
(6) 緩衝作用を説明できる。
(7) 酸化と還元を説明できる。
(8) 電池の起電力を説明できる。
(9) 化学反応の速度に及ぼす因子について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に書込み型のスライドを用いながら講義を行う。毎回，講義内容に沿った確認テストを課し，次回以降の講義中に解説を加えてフィードバックし，理解が深められるように進める。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	化学熱力学１	系，熱，仕事，内部エネルギー，熱力学第一法則
2	化学熱力学２	エンタルピー，化学反応とエンタルピー変化，ヘスの法則
3	化学熱力学３	エントロピー，ギブズエネルギーと反応の自発性
4	化学平衡１	平衡定数と反応商
5	化学平衡２	平衡とギブズエネルギー，変化と応答
6	溶液と溶解度１	溶液の化学量論，混合気体，混合液体
7	溶液と溶解度２	溶解性の定量化，溶液の束一性
8	酸と塩基１	酸，塩基の定義，水素イオン指数，酸解離定数
9	酸と塩基２	塩の加水分解，緩衝液，ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式，酸塩基滴定
10	酸化還元１	酸化還元の定義，酸化数，酸化還元反応式，ガルバニ電池
11	酸化還元２	電池と起電力（電池電位），標準還元電位（標準電極電位），電気分解
12	反応速度論１	反応速度に及ぼす因子，反応速度式
13	反応速度論２	活性化エネルギー，反応機構と触媒
14	まとめと解説 期末試験	全体の内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・教科書の該当する項目を予習する。
・教科書の例題や練習問題を解き，理解を深める。
・学習支援システムなどで課された課題・確認テストに取り組む。

【テキスト（教科書）】
ブラックマン 基礎科学，小島憲道 監訳　錦織紳一・野口徹・平岡秀一 訳，東京化学同人，2800円＋税
授業は基本的にはこの教科書の項目に沿って行うが，購入は必須ではない。

【参考書】
・ブラウン 一般化学II，荻野和子 監訳　上野圭司・鵜沼英郎・鹿又宣弘 訳，丸善出版，3000円＋税
・マッカーリ　一般化学（下），村田滋 訳，東京化学同人，3000円＋税
・化合物から理解する　大学の有機化学　必要な機器分析とともに　若狭雅信　編著，丸善出版，3500円＋税
など。
その他，高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，参考書

【成績評価の方法と基準】
次のいずれかのうち高い点のほうを採用する。
(1)平常点も含め各項目で行う小テスト60 %＋定期テスト40 %
(1)平常点も含め各項目で行う小テスト30 %＋定期テスト70 %

【学生の意見等からの気づき】
スライドを見やすく工夫する。また資料や問題における記述のミスをなくす。

【学生が準備すべき機器他】
資料や確認テストは学習支援システムを通して配布するので，随時チェックすること。
授業時における課題や確認テストなどでは電卓を用いても構わない。期末試験では，関数電卓の使用を認める予定であるので，持参すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This lecture is designed for the students who don't fully understand or have failed to learn basic chemistry. The aim of this lecture is that the students have a knowledge and understanding of basic chemistry.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
・ Account for the meaning of commonly encountered values and concepts in reaction kinetics and carry out calculations in basic kinetics.
・ Account for basic concepts as well as carry out calculations in stoichiometry, equilibria and basic thermodynamics.
・ Account for basic concepts of acids and bases.
・ Account for basic concepts in electrochemistry.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (containing quizzes) (60%) and term-end examination (40%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎ＩＩ

見附　孝一郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学の化学を学ぶ上で必要する化学の知識を再認識する。あわせて、身近な化学的現象や専門分野での化学が理解できる化学的基礎知識を修得して、化学を通して社会人として必要な教養と人としての素養を培っていくことを目的とする。

【到達目標】
1) 化学反応におけるエネルギー授受を定量的に取り扱える。
2) エントロピーと化学変化の自発性について説明できる。
3）化学平衡と自由エネルギーの関係を知り、平衡定数や反応商を計算できる。
4) 溶液の各種濃度を計算し変換できる。酸と塩基の定義を複数列挙できる。
5) 中和反応の当量計算やｐＨの対数計算ができる。
6) 酸化と還元における電子授受を説明できる。
7) 酸化還元滴定の反応式を書くことができる。
8) イオン化傾向と標準電極電位について説明できる。
9) 電池の標準起電力を求められる。
10) 結晶を分類するために必要な結晶系とブラベ格子の概念が身に付く。
11) 単位格子中の原子の配置を理解し、密度と結び付けられる。
12) 遷移金属錯体の主たる配位子を知り、名称と化学式を関連付けられる。
13) 遷移金属錯体の光物性と磁性を電子構造から説明できる
14) 高分子化合物の重合方式と物理的・化学的性質を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントと黒板書を中心に行う。ほぼ毎回、授業の内容に沿った演習問題を課す。次の回の授業冒頭に前回の演習問題の全体あるいは一部を説明し、当該テーマに対する理解を深められるように進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業方針の説明、反応熱、エンタルピー変化	定圧等温条件での反応熱、エンタルピー変化、標準生成エンタルピー、燃焼エンタルピー
第2回	エントロピー、平衡熱力学	熱力学第二法則、ボルツマンの式、孤立系の自発変化、ΔＳの計算
第3回	ギブズ自由エネルギー、化学平衡	定圧等温条件下の閉鎖系の自発変化、ΔＧの計算、化学平衡の法則
第4回	溶液の濃度、酸と塩基	質量パーセント濃度、体積モル濃度、質量モル濃度、酸と塩基の3種類の定義
第5回	中和反応、ｐＨ	中和滴定、体積モル濃度の計算、ｐＨの計算
第6回	酸化と還元、酸化数	酸化数の求め方、酸化剤と還元剤
第7回	酸化還元滴定	電子を含む半反応式、酸化還元反応式、当量の計算
第8回	イオン化傾向、標準電極電位	標準水素電極、化学電池の陽極（負極）と陰極（正極）
第9回	電極反応と外部電流、電気分解	各電極で起こる反応、塩橋、標準起電力の計算、ファラデーの式
第10回	固体結晶の分類	結晶系、格子定数、ブラベ格子、イオン結晶、分子結晶、金属結晶
第11回	単位格子の性質	原子半径、配位数、充填率の計算、合金、格子エネルギー
第12回	遷移金属錯体の定義と概説	配位子の種類、化学式と命名法、配位数と幾何構造
第13回	遷移金属錯体の電子配置と物性	配位子場分裂と分光化学系列、結晶場理論、電子配置と磁性、分子軌道法に基づく配位子場理論
第14回	高分子化合物、ポリマー	付加重合、縮合重合、開環重合、共重合、合成ゴム、合成樹脂、合成繊維、生体分子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。
・教科書の該当する項目を予習・復習する。
・学習支援システムなどで課された確認問題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
ブラディ・ジェスパーセン、　一般化学 上・下 （東京化学同人）

【参考書】
化学のコンセプト、舟橋、小林、秀島著　（化学同人）
基礎物理化学演習、尾崎・末岡・宮前・見附著（三共出版）
自然科学ヒストリア、見附著（瀬谷出版）

【成績評価の方法と基準】
・平常点の評価方法：パワーポイント中の課題にWebClassのクリッカーで答える方式などで受講態度を評価する。
・評価割合：学期末テスト 60%、毎週の演習問題 30%、平常点 10%
・評価基準：60点以上で合格

【学生の意見等からの気づき】
授業担当前任者からの引継ぎ事項として、演習問題に関しては、次回授業の冒頭で答案を返却し解説を行う。演習問題の時間を十分に確保する。

【学生が準備すべき機器他】
授業および課題等では、種々の計算を必要とするので、関数電卓を準備すること。スマートホンやタブレットは定期試験には持ち込めない。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this course is to obtain basic chemical knowledge so that the students can understand familiar chemical phenomena and can reflect it in future academic research.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should gain the following abilities:
1) to evaluate the energy exchange in chemical reactions.
2) to explain the entropy and spontaneity of chemical processes.
3) to understand the relation between chemical equilibrium and change in Gibbs free energy, and to calculate the equilibrium constants and reaction quotients.
4) to calculate various type of concentrations of solutions, and to list three different definitions of the acids and bases.
5) to handle the equivalent of a neutralization reactions and calculate the logarithm of pH.

6) to explain the electron transfer and transport in the oxidation and reductions.
7) to write the reaction formulae involved in the redox titrations.
8) to explain ionization tendency and the standard electrode potentials.
9) to calculate the standard electromotive force of chemical cells.
10) to gain the concepts of crystal systems and Bravais lattices necessary for classifying crystals.
11) to understand the atom positions in a unit cell and relate them to the density.
12) to acquire knowledge about principal ligands appearing in transition metal complexes, and relate their nomenclature with chemical formulae.
13) to explain the optical properties and magnetism of transition metal complexes from their electronic structures.
14) to understand the polymerization methods and physical or chemical properties of polymer compounds.
(Learning activities)
In order to confirm how well you understand the course content, you should try to solve the preparatory exercises given in the WebClass. If some of them are difficult to solve, you should review your class note and handouts so that you can get correct answers for all the problems. Your study time will be more than four hours for a class.
(Grading Criteria)
Students will be expected to have completed the required assignment tests in class meeting every week.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60 %; Required assignment tests 30 %; In-class contribution 10 %. You can confirm your scores you have acquired so far in the corresponding course at WebClass.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎ＩＩ

普神　敬悟

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学で履修する化学的内容を十分に理解することができるよう、また、高等学校理科教員として化学を教える上で必要な、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】
(1) 気体の状態方程式とその考え方を説明できる。
(2) 化学変化をエネルギーの観点から説明できる。
(3) 化学反応の進む方向を予測できる。
(4) 溶液の濃度換算ができ、束一的性質を説明できる。
(5) 酸・塩基の性質を説明できる。
(6) 緩衝作用を説明できる。
(7) 酸化と還元を説明できる。
(8) 電池の起電力を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って講義を行う。
理解が深められるように、必要に応じて補足資料を配布したり、問題演習を取り入れ、理解度を把握しながら進める。
課題等に対しては、学習支援システム上でフィードバックする。
対面授業で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	気体の性質	圧力、気体の法則、理想気体の状態方程式
2	エネルギー	系、熱、仕事、エネルギー
3	内部エネルギーとエンタルピー	内部エネルギー、エンタルピー
4	反応のエンタルピー	生成エンタルピー、標準反応エンタルピー
5	熱力学第2法則	自発的変化、エントロピー
6	自由エネルギー	ギブスの自由エネルギー、正味の仕事
7	溶液の性質	モル濃度、質量モル濃度、蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧
8	前半（第６回まで）の内容の理解度確認テスト・まとめと解説	前半（第７回まで）の内容についての理解度の確認
9	酸と塩基１	酸と塩基の強さ、 pKa、pH
10	酸と塩基２	解離定数、弱酸、弱塩基水溶液のpH
11	酸と塩基３	塩の水溶液のpH、緩衝液、ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式
12	酸化と還元１	酸化還元の定義、酸化数、酸化剤と還元剤
13	酸化と還元２	半反応、酸化還元反応式、電池
14	酸化と還元３	標準電極電位、起電力、ネルンストの式と化学平衡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、１時間を標準とする】
・教科書の該当する項目を予習する。
・配布および授業支援システムにより提供する演習問題に取り組むことを通じ、理解の度合いを確認する。
・講義内容のうち、講義内に理解できなかった部分について、講義中に示さとれた教科書の対応ページの内容や講義メモを読み返し、講義中に実施した問題演習に再挑戦するなどして理解を深める。
・教科書の章末問題を解き、理解の改善を確かめる。
・自力で理解できない場合は、Hoppii の 掲示板や電子メールなどを活用して質問し、理解して納得できるまで粘り強く指導を受ける。

【テキスト（教科書）】
フレンドリー基礎物理化学演習、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2013年、2700円＋税

【参考書】
・フレンドリー物理化学、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2004年、2800円＋税
・物理化学要論第7版、アトキンス、東京化学同人、2020年、6490円
・一般化学第8版（上・下）、アトキンス、東京化学同人、2025年、各3740円

【成績評価の方法と基準】
・期末試験 45％
・中間テスト 40％
・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み）15％

【学生の意見等からの気づき】
講義内容の理解を助けるために学習支援システム上の「教材」機能および「課題」機能を活用する。授業内掲示板や電子メールを活用した、講義内容について疑問の残る受講生との緊密なコミュニケーションに努め、受講生全員が十分な理解に到達できるよう、支援に努める。

【学生が準備すべき機器他】
毎回，教科書と電卓を持参すること。演習問題に取り組むための専用のノートを用意し、活用されたい。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、学習支援システム上の授業内掲示板や電子メールなどを活用して、質問や要望をいつでも遠慮なく寄せて下さい。

【None】
None

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is to help students brush up chemistry they have learned in high school and understand chemistry they will study in the university and teach in high school.
【Learning Objectives】
The aim of this couse is to understand basic principles of chemistry.
The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and acids and bases.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to take an hour to read the corresponding pages of the textbook that will be referred to in the next lesson.
They are also expected to brush up what they learned by exercises given in the textbook and in the class.

Student are expected to spend an hour in total for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Mid-term examination (35%), term-end examination (45%), exercise in each class meeting (10%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎ＩＩ

島田　恵理子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本講義は、前期「化学基礎Ｉ」で基礎を習得またはそれと同等レベルの学生を対象にする。前期に浅く学んだ範囲を学問的に踏み込み、その周辺も含めて大学化学の基礎理解を深める。
到達目標：
(1)基本的な等核二原子分子のエネルギー準位図を描き、その分子や分子イオンの磁性や安定を判断できる。
(2)混成軌道の仕組みを説明できる。
(3)発色の仕組みの概要を説明できる。
(4)平衡定数を使った物質の濃度、量の計算ができる。
(5)一次反応の速度解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。
授業時間外の学習：
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。
成績評価の方法と基準：
毎回行う演習20%、2回の小テスト30％、期末試験50%を合わせて100％として評価する。

【到達目標】
(1)基本的な等核二原子分子のエネルギー準位図を描き、その分子や分子イオンの磁性や安定を判断できる。
(2)混成軌道の仕組みを説明できる。
(3)発色の仕組みの概要を説明できる。
(4)平衡定数を使った物質の濃度、量の計算ができる。
(5)一次反応の速度解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。
By the end of this course, students should be able to do the followings:
(1) Describe energy level diagram of molecular orbital for homo-nuclear diatomic molecule. Based on this, explain its stability and magnetic property.
(2) Explain mechanism of hybrid orbital.
(3) Outline mechanism of color development
(4) Calculate concentration and amount using equilibrium constant.
(5) Analyze first-order reaction. Calculate activation energy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
毎回演習を行い、その点数の合計を20点満点に換算する。また、小テスト（課題形式を含む）を2回行い、その点数の合計を30点満点とし、期末試験を50点満点とする。演習20%、小テスト30％、期末試験50%を合わせて100％として評価する。
演習・小テストに対しては学習支援システムや授業時にフィードバックする。
　Total score　of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス Introduction	授業の進め方、化学基礎Ｉの復習、自己確認テスト Review of the previous term, Self-confirmation test
2回	原子価結合法 Valence bond theory	原子価結合法 Valence bond theory
3回	分子軌道法① Molecular orbital method①	等核2原子分子の分子軌道、エネルギー準位図、結合性軌道、反結合性軌道、σ 軌道，π 軌道 Molecular orbital of homo-nuclear diatomic molecule，Energy level diagram，Bonding orbital, Anti-bonding orbital，σ orbital，π orbital
4回	分子軌道法② Molecular orbital method②	等核2原子分子および分子イオン，常磁性、反磁性、結合次数 Para-magnetism, Diamagnetism，Bond order
5回	小テスト１、混成軌道と金属錯体 Quiz1，Hybrid orbital and metal complex	小テスト１、八面体金属錯体、混成軌道による錯体の電子配置の解釈 Quiz1，Octahedral metal complex，Interpretation of electronic configuration of metal complex by hybrid orbital
6回	発色と金属錯体 Color development and metal complex	発色、結晶場理論による錯体の電子配置の解釈 Color development, Interpretation of electronic configuration of metal complex by crystalline field theory
7回	化学平衡① Chemical equilibrium①	化学平衡とは、平衡定数 Introduction of chemical equilibrium，Equilibrium constant
8回	化学平衡② Chemical equilibrium②	弱酸・弱塩基水溶液のpH，加水分解，塩水溶液のpH pH of weak acid and weak base，Hydrolysis，pH of aqueous salt solution
9回	化学平衡③ Chemical equilibrium③	緩衝溶液のpH，中和滴定におけるpHの変化 pH during neutralization titration
10回	反応速度論① Chemical kinetics①	反応次数、一次反応の速度解析 Order of reaction，Analysis of first-order reaction
11回	小テスト２、反応速度論② Quiz2，Chemical kinetics②	小テスト２、逐次反応、酵素反応、活性化エネルギー Quiz2，Successive reaction, Enzyme reaction，Activation energy

12回	熱力第二法則① Second law of thermodynamics①	熱力学第二法則、自発性、エントロピー Second law of thermodynamics, Spontaneous change, Entropy
13回	熱力学第二法則② Second law of thermodynamics②	ギブズ自由エネルギーと電池、ネルンストの式、乱雑さ Gibbs free energy and battery, Nernst equation, Randomness
14回	期末試験と解説 Final exam and explanation	期末試験と解説 Final exam and explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
・「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人
・配布資料（学習支援システムで授業の前の週に配信）

【参考書】
「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

【成績評価の方法と基準】
毎回行う演習20%、2回の小テスト30％、期末試験50%を合わせて100％として評価する。
Total score　of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【学生の意見等からの気づき】
予め配布する資料に入れる穴埋め部分を増やし予習しやすくした。
Handouts for preparation of next class have been refined by increasing the number of fill-in the blank questions.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するため、使用できるPC等の環境を準備しておくこと。
It is necessary to prepare PC for using Hoppii system.

【その他の重要事項】
教員の実務経験（企業での化学研究開発ならびに起業）を生かし、問題解決に役立つアプローチの方法を解説する。

【Outline (in English)】
This course teaches the foundations of chemistry and scientific way of thinking which university students should acquire
Students are recommended to attend this class who have understood so-called high school chemistry and want to study chemistry more academically.
Goal:
By the end of this course, students should be able to do the followings:
(1) Describe energy level diagram of molecular orbital for homo-nuclear diatomic molecule.　Based on this, explain its stability and magnetic property.
(2) Explain mechanism of hybrid orbital.
(3) Outline mechanism of color development
(4) Calculate concentration and amount using equilibrium constant.
(5) Analyze first-order reaction. Calculate activation energy.
Work to be done outside of class:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria:
Total score　of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎ＩＩ

大波　英幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　高校化学および春学期の化学基礎Ⅰの復習をするとともに、今後専門分野を学び理解し、さらには研究・応用へ発展させるための化学的基礎知識を習得することを目的とします。

【到達目標】
　高校で学習した化学の基礎的概念が理解できる。専門分野を理解するため理工・生命科学系学生に必要な化学的基礎知識を習得し、論理的な考え方ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　毎回の授業内容の復習のための演習問題（課題）を出しますので締切までに提出してください。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は4時間を標準とします。高校化学の教科書・参考書を見直し、理解が不十分であったところを予め把握しておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要 春学期の復習	・授業のガイダンス ・春学期までの内容の復習
第2回	酸と塩基	・酸と塩基 ・アレニウスの酸塩基の定義 ・酸と塩基の強さ ・濃度と電離度
第3回	中和反応と塩	・水のイオン積とpH ・中和と塩の加水分解 ・緩衝液 ・塩の溶解平衡
第4回	酸化還元反応	・酸化・還元の反応式 ・酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・金属のイオン化傾向 ・電池
第5回	元素の分類および典型元素の金属①	・典型元素と遷移元素 ・金属元素と非金属元素 ・1族（アルカリ金属元素） ・2族（アルカリ土類金属元素
第6回	元素の分類および典型元素の金属②	・12族（亜鉛、水銀の単体とその化合物 ・13族（アルミニウムの単体とその化合物） ・14族（スズ族元素とその化合物）
第7回	遷移元素の金属	・6族（クロム族元素とその化合物） ・7族（マンガンとその化合物） ・8族（鉄とその化合物） ・9族（コバルトとその化合物 ・10族（ニッケルとその化合物 ・11族（銅族元素とその化合物）
第8回	非金属元素①	・水素とその化学的性質 ・14族（炭素族元素とその化合物） ・15族（窒素族元素とその化合物）
第9回	非金属元素②	・16族（酸素族元素とその化合物 ・17族（ハロゲン元素とその化合物） ・18族（希ガス元素とその性質）
第10回	有機化合物の定義、分類、構造	・有機化合物の定義、性質 ・有機化合物の分類と官能基 ・有機化合物の構造式の決定
第11回	基本的な有機化合物と反応①	・アルカンとシクロアルカン ・アルケン ・アルキン
第12回	基本的な有機化合物と反応②	・芳香族炭化水素 ・アルコール ・フェノール ・エーテル
第13回	基本的な有機化合物と反応③	・エーテル ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸とエステル ・その他の有機化合物
第14回	まとめ	・秋学期のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　毎回の授業内容の復習のための演習問題（課題）を出しますので締切までに提出してください。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は4時間を標準とします。高校化学の教科書・参考書を見直し、理解が不十分であったところを予め把握しておいてください。

【テキスト（教科書）】
新編基礎化学第２版、藤野竜也ほか、実教出版、2021年、2300円＋税

【参考書】
①高校で使用していた化学の教科書
②[化学]ＩＢ・Ⅱの新研究、卜部吉庸著、三省堂
③これだけはおさえたい化学、井口洋夫ほか、実教出版
④生きている温泉とは何か、大河内正一著、くまざさ出版

【成績評価の方法と基準】
　通常は、
　　授業期間内の中間試験(又はレポート)40%
　　期末試験50%
に授業課題平常点10%を考慮し評価します。オンラインへの変更となる場合は別途授業内で示します。

【学生の意見等からの気づき】
　毎回の授業後の演習問題（課題）について、より詳細な解答解説の希望があったので解説時間をより多く確保できるよう努める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Review the basics of chemistry learned in high school and spring semester. Get chemical knowledge to develop into research and applications in specialized areas.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. Understand the basic chemistry learned in high school.
-B. Acquire the basic chemical theory necessary to understand your specialized field.
【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination (40 %), term end examination (50 %), and in class contribution(10 %).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学基礎ＩＩ

島田　恵理子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本講義は、前期「化学基礎Ｉ」で基礎を習得またはそれと同等レベルの学生を対象にする。前期に浅く学んだ範囲を学問的に踏み込み、その周辺も含めて大学化学の基礎理解を深める。
到達目標：
(1)基本的な等核二原子分子のエネルギー準位図を描き、その分子や分子イオンの磁性や安定を判断できる。
(2)混成軌道の仕組みを説明できる。
(3)発色の仕組みの概要を説明できる。
(4)平衡定数を使った物質の濃度、量の計算ができる。
(5)一次反応の速度解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。
授業時間外の学習：
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。
成績評価の方法と基準：
毎回行う演習20%、2回の小テスト30％、期末試験50%を合わせて100％として評価する。

【到達目標】
(1)基本的な等核二原子分子のエネルギー準位図を描き、その分子や分子イオンの磁性や安定を判断できる。
(2)混成軌道の仕組みを説明できる。
(3)発色の仕組みの概要を説明できる。
(4)平衡定数を使った物質の濃度、量の計算ができる。
(5)一次反応の速度解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。
By the end of this course, students should be able to do the followings:
(1) Describe energy level diagram of molecular orbital for homo-nuclear diatomic molecule. Based on this, explain its stability and magnetic property.
(2) Explain mechanism of hybrid orbital.
(3) Outline mechanism of color development
(4) Calculate concentration and amount using equilibrium constant.
(5) Analyze first-order reaction. Calculate activation energy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
毎回演習を行い、その点数の合計を20点満点に換算する。また、小テスト（課題形式を含む）を2回行い、その点数の合計を30点満点とし、期末試験を50点満点とする。演習20%、小テスト30％、期末試験50%を合わせて100％として評価する。
演習・小テストに対しては学習支援システムや授業時にフィードバックする。
　Total score　of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス Introduction	授業の進め方、化学基礎Ｉの復習、自己確認テスト Review of the previous term, Self-confirmation test
2回	原子価結合法 Valence bond theory	原子価結合法 Valence bond theory
3回	分子軌道法① Molecular orbital method①	等核2原子分子の分子軌道、エネルギー準位図、結合性軌道、反結合性軌道、σ 軌道，π 軌道 Molecular orbital of homo-nuclear diatomic molecule，Energy level diagram，Bonding orbital, Anti-bonding orbital，σ orbital，π orbital
4回	分子軌道法② Molecular orbital method②	等核2原子分子および分子イオン，常磁性、反磁性、結合次数 Para-magnetism, Diamagnetism，Bond order
5回	小テスト１、混成軌道と金属錯体 Quiz1，Hybrid orbital and metal complex	小テスト１、八面体金属錯体、混成軌道による錯体の電子配置の解釈 Quiz1，Octahedral metal complex，Interpretation of electronic configuration of metal complex by hybrid orbital
6回	発色と金属錯体 Color development and metal complex	発色、結晶場理論による錯体の電子配置の解釈 Color development, Interpretation of electronic configuration of metal complex by crystalline field theory
7回	化学平衡① Chemical equilibrium①	化学平衡とは、平衡定数 Introduction of chemical equilibrium，Equilibrium constant
8回	化学平衡② Chemical equilibrium②	弱酸・弱塩基水溶液のpH，加水分解，塩水溶液のpH pH of weak acid and weak base，Hydrolysis，pH of aqueous salt solution
9回	化学平衡③ Chemical equilibrium③	緩衝溶液のpH，中和滴定におけるpHの変化 pH during neutralization titration
10回	反応速度論① Chemical kinetics①	反応次数、一次反応の速度解析 Order of reaction，Analysis of first-order reaction
11回	小テスト２、反応速度論② Quiz2，Chemical kinetics②	小テスト２、逐次反応、酵素反応、活性化エネルギー Quiz2，Successive reaction, Enzyme reaction，Activation energy

12回	熱力第二法則① Second law of thermodynamics①	熱力学第二法則、自発性、エントロピー Second law of thermodynamics, Spontaneous change, Entropy
13回	熱力学第二法則② Second law of thermodynamics②	ギブズ自由エネルギーと電池、ネルンストの式、乱雑さ Gibbs free energy and battery, Nernst equation, Randomness
14回	期末試験と解説 Final exam and explanation	期末試験と解説 Final exam and explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
・「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人
・配布資料（学習支援システムで授業の前の週に配信）

【参考書】
「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

【成績評価の方法と基準】
毎回行う演習20%、2回の小テスト30％、期末試験50%を合わせて100％として評価する。
Total score　of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【学生の意見等からの気づき】
予め配布する資料に入れる穴埋め部分を増やし予習しやすくした。
Handouts for preparation of next class have been refined by increasing the number of fill-in the blank questions.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するため、使用できるPC等の環境を準備しておくこと。
It is necessary to prepare PC for using Hoppii system.

【その他の重要事項】
教員の実務経験（企業での化学研究開発ならびに起業）を生かし、問題解決に役立つアプローチの方法を解説する。

【Outline (in English)】
This course teaches the foundations of chemistry and scientific way of thinking which university students should acquire
Students are recommended to attend this class who have understood so-called high school chemistry and want to study chemistry more academically.
Goal:
By the end of this course, students should be able to do the followings:
(1) Describe energy level diagram of molecular orbital for homo-nuclear diatomic molecule.　Based on this, explain its stability and magnetic property.
(2) Explain mechanism of hybrid orbital.
(3) Outline mechanism of color development
(4) Calculate concentration and amount using equilibrium constant.
(5) Analyze first-order reaction. Calculate activation energy.
Work to be done outside of class:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria:
Total score　of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験Ⅰ

加来　滋

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。
これらを通して以下のことを学ぶ。
１．実験とは何か。
２．個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
３．実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
４．定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
５．実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
６．実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】
１．実験に取り組む姿勢を理解する。
２．実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
３．実験で用いる装置，測定器などを理解しその技術を習得する．
４．測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
５．測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
６．結果を考察し、結論へと導けるようにする。
７．第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験１	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験２	長さと測定データのばらつき誤差の性質を知る。
3	基礎実験３	密度の測定と測定精度誤差の評価について
4	力学実験１	重力の加速度
5	力学実験２	球の衝突
6	コンピュータ処理１	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験１	電流・電圧の測定
8	電気実験２	電流計と電圧計よる抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験１	固体の比熱
11	熱学実験２	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理２	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】
配布する。その他に実験に必要な実験ノート，作図のためのグラフ用紙，レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、レポート点など50%で評価する (詳細は初回ガイダンスで説明する)。

【学生の意見等からの気づき】
実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】
科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第１回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】
This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.
The goals of this course are to understand
(1) What is the experiment.
(2) Physics theories and principles of each experimental theme.
(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
(5) How to draw conclusions from experiment results.
(6) How to publish experiment results.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験Ⅰ

小鍋　哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。
これらを通して以下のことを学ぶ。
１．実験とは何か。
２．個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
３．実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
４．定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
５．実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
６．実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】
１．実験に取り組む姿勢を理解する。
２．実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
３．実験で用いる装置，測定器などを理解しその技術を習得する．
４．測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
５．測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
６．結果を考察し、結論へと導けるようにする。
７．第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験１	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験２	長さと測定データのばらつき誤差の性質を知る。
3	基礎実験３	密度の測定と測定精度誤差の評価について
4	力学実験１	重力の加速度
5	力学実験２	球の衝突
6	コンピュータ処理１	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験１	電流・電圧の測定
8	電気実験２	電流計と電圧計よる抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験１	固体の比熱
11	熱学実験２	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理２	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】
配布する。その他に実験に必要な実験ノート，作図のためのグラフ用紙，レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、レポート点など50%で評価する (詳細は初回ガイダンスで説明する)。

【学生の意見等からの気づき】
実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】
科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第１回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to understand
(1) What is the experiment.
(2) Physics theories and principles of each experimental theme.
(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
(5) How to draw conclusions from experiment results.
(6) How to publish experiment results.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend an hour to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on lab reports (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験Ⅰ

加来　滋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。
これらを通して以下のことを学ぶ。
１．実験とは何か。
２．個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
３．実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
４．定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
５．実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
６．実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】
１．実験に取り組む姿勢を理解する。
２．実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
３．実験で用いる装置，測定器などを理解しその技術を習得する．
４．測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
５．測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
６．結果を考察し、結論へと導けるようにする。
７．第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験１	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験２	長さと測定データのばらつき誤差の性質を知る。
3	基礎実験３	密度の測定と測定精度誤差の評価について
4	力学実験１	重力の加速度
5	力学実験２	球の衝突
6	コンピュータ処理１	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験１	電流・電圧の測定
8	電気実験２	電流計と電圧計よる抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験１	固体の比熱
11	熱学実験２	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理２	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】
配布する。その他に実験に必要な実験ノート，作図のためのグラフ用紙，レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】
科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第１回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】
This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.
The goals of this course are to understand
(1) What is the experiment.
(2) Physics theories and principles of each experimental theme.
(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
(5) How to draw conclusions from experiment results.
(6) How to publish experiment results.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験Ⅰ

加来　滋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。
これらを通して以下のことを学ぶ。
１．実験とは何か。
２．個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
３．実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
４．定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
５．実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
６．実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】
１．実験に取り組む姿勢を理解する。
２．実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
３．実験で用いる装置，測定器などを理解しその技術を習得する．
４．測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
５．測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
６．結果を考察し、結論へと導けるようにする。
７．第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験１	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験２	長さと測定データのばらつき誤差の性質を知る。
3	基礎実験３	密度の測定と測定精度誤差の評価について
4	力学実験１	重力の加速度
5	力学実験２	球の衝突
6	コンピュータ処理１	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験１	電流・電圧の測定
8	電気実験２	電流計と電圧計よる抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験１	固体の比熱
11	熱学実験２	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理２	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】
配布する。その他に実験に必要な実験ノート，作図のためのグラフ用紙，レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、レポート点など50%で評価する (詳細は初回ガイダンスで説明する)。

【学生の意見等からの気づき】
実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】
科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第１回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to understand
(1) What is the experiment.
(2) Physics theories and principles of each experimental theme.
(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
(5) How to draw conclusions from experiment results.
(6) How to publish experiment results.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend an hour to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on lab reports (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学実験

吉野　理貴

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。
これらを通して以下のことを学ぶ。
１．実験とは何か。
２．個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
３．実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
４．定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
５．実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
６．実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】
１．実験に取り組む姿勢を理解する。
２．実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
３．実験で用いる装置，測定器などを理解しその技術を習得する．
４．測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
５．測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
６．結果を考察し、結論へと導けるようにする。
７．第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験１	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験２	長さと測定データのばらつき誤差の性質を知る。
3	基礎実験３	密度の測定と測定精度誤差の評価について
4	力学実験１	重力の加速度
5	力学実験２	球の衝突
6	コンピュータ処理１	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験１	電流・電圧の測定
8	電気実験２	電流計と電圧計よる抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験１	固体の比熱
11	熱学実験２	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理２	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】
配布する。その他に実験に必要な実験ノート，作図のためのグラフ用紙，レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、レポート点など50%で評価する (詳細は初回ガイダンスで説明する)。

【学生の意見等からの気づき】
実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】
科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第１回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to understand
(1) What is the experiment.
(2) Physics theories and principles of each experimental theme.
(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
(5) How to draw conclusions from experiment results.
(6) How to publish experiment results.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend an hour to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on lab reports (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験Ⅰ

吉野　理貴

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。
これらを通して以下のことを学ぶ。
１．実験とは何か。
２．個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
３．実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
４．定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
５．実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
６．実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】
１．実験に取り組む姿勢を理解する。
２．実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
３．実験で用いる装置，測定器などを理解しその技術を習得する．
４．測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
５．測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
６．結果を考察し、結論へと導けるようにする。
７．第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験１	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験２	長さと測定データのばらつき誤差の性質を知る。
3	基礎実験３	密度の測定と測定精度誤差の評価について
4	力学実験１	重力の加速度
5	力学実験２	球の衝突
6	コンピュータ処理１	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験１	電流・電圧の測定
8	電気実験２	電流計と電圧計よる抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験１	固体の比熱
11	熱学実験２	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理２	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】
配布する。その他に実験に必要な実験ノート，作図のためのグラフ用紙，レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、レポート点など50%で評価する (詳細は初回ガイダンスで説明する)。

【学生の意見等からの気づき】
実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】
科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第１回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to understand
(1) What is the experiment.
(2) Physics theories and principles of each experimental theme.
(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
(5) How to draw conclusions from experiment results.
(6) How to publish experiment results.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend an hour to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on lab reports (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験ＩＩ

尾池　秀章

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験を安全に行うための注意事項を学んだ後，身の回りの化学物質を素材とした3つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では，化学現象を観察し，得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え，レポートにまとめる。また，実験器具や薬品の取扱い方法，実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】
1）化学実験を安全に行うことができる。
2）基本的な実験操作を行うことができる。
3）化学現象を注意深く観察し，実験結果を正確に記述することができる。
4）測定機器の取扱いを理解し，定量的なデータを得ることができる。
5）得られた実験結果を論理的に考察し，レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
指導者の助言のもと，一人で考えながら，あるいは複数で討論しながら化学実験を進め，高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法，実験の進め方，実験器具や薬品の取扱い，実験結果のまとめかた，報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定(1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し，電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定(2)	硫酸亜鉛水溶液および硫酸銅水溶液中における亜鉛の電極電位を測定する。
第4回	金属の電極電位測定(3)	硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅の電極電位を，水溶液中の銅イオンの濃度を変化させながら測定する。
第5回	金属の電極電位測定(4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	酸・塩基と緩衝作用(1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し，中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	酸・塩基と緩衝作用(2)	中和滴定により，水酸化ナトリウム標準液を標定し，これを用いて酢酸水溶液の中和滴定曲線を求める。
第8回	酸・塩基と緩衝作用(3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。
第9回	酸・塩基と緩衝作用(4)	実験データの解析，理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成(1)	サリチル酸を題材に，有機化合物の性質や反応性を整理し，合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成(2)	サリチル酸を原料としてアセチルサリチル酸を合成し，生成物の結晶をろ過して目的物を単離する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成(3)	官能基の性質を利用して，サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。
第13回	サリチル酸誘導体の合成(4)	実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論，分析原理，化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には，実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

【参考書】
高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，図説化学など。その他は，授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50 %，レポート点など50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。
なお，平常点は予習課題への取り組み，実験実習態度なども含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
きめ細かなレポート指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
PCはデータ整理やレポート作成に必須なので，必ず持参すること。また，授業に関する案内のほか，実験資料や予習課題の配布，レポート提出はいずれも学習支援システムを通して行うので，随時チェックすること。

【その他の重要事項】
科学実験はI，II，IIIセットで゛履修する。第1回目の授業のはじめには，共通ガ゛イダ゛ンスと各実験の個別ガ゛イダ゛ンスがあるので゛，必ず出席すること。ガ゛イダ゛ンスの実施方法は学習支援システムで゛連絡する。共通ガ゛イダ゛ンスで゛は実験の実施方法・成績評価基準など゛履修する上で゛重要な説明が゛ある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
・ Carry out chemical experiments safely.

・ Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験ＩＩ

大波　英幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験を安全に行うための注意事項を学んだ後，身の回りの化学物質を素材とした3つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では，化学現象を観察し，得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え，レポートにまとめる。また，実験器具や薬品の取扱い方法，実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】
1）化学実験を安全に行うことができる。
2）基本的な実験操作を行うことができる。
3）化学現象を注意深く観察し，実験結果を正確に記述することができる。
4）測定機器の取扱いを理解し，定量的なデータを得ることができる。
5）得られた実験結果を論理的に考察し，レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
指導者の助言のもと，一人で考えながら，あるいは複数で討論しながら化学 実験を進め，高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へ と転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法，実験の進め方，実験器具や薬品の取扱い，実験結果のまとめかた，報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定(1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し，電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定(2)	硫酸亜鉛水溶液および硫酸銅水溶液中における亜鉛の電極電位を測定する。
第4回	金属の電極電位測定(3)	硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅の電極電位を，水溶液中の銅イオンの濃度を変化させながら測定する。
第5回	金属の電極電位測定(4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	酸・塩基と緩衝作用(1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し，中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	酸・塩基と緩衝作用(2)	中和滴定により，水酸化ナトリウム標準液を標定し，これを用いて酢酸水溶液の中和滴定曲線を求める。
第8回	酸・塩基と緩衝作用(3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。
第9回	酸・塩基と緩衝作用(4)	実験データの解析，理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成(1)	サリチル酸を題材に，有機化合物の性質や反応性を整理し，合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成(2)	サリチル酸を原料としてアセチルサリチル酸を合成し，生成物の結晶をろ過して目的物を単離する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成(3)	官能基の性質を利用して，サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。
第13回	サリチル酸誘導体の合成(4)	実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論，分析原理，化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には，実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

【参考書】
高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，図説化学など。その他は，授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50 %，レポート点など50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。
なお，平常点は予習課題への取り組み，実験実習態度なども含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
きめ細かなレポート指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
PCはデータ整理やレポート作成に必須なので，必ず持参すること。また，授業に関する案内のほか，実験資料や予習課題の配布，レポート提出はいずれも学習支援システムを通して行うので，随時チェックすること。

【その他の重要事項】
科学実験はI，II，IIIセットで゛履修する。第1回目の授業のはじめには，共通ガ゛イダ゛ンスと各実験の個別ガ゛イダ゛ンスがあるので゛，必ず出席すること。ガ゛イダ゛ンスの実施方法は学習支援システムで゛連絡する。共通ガ゛イダ゛ンスで゛は実験の実施方法・成績評価基準など゛履修する上で゛重要な説明が゛ある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
・ Carry out chemical experiments safely.

・ Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験ＩＩ

尾池　秀章

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験を安全に行うための注意事項を学んだ後，身の回りの化学物質を素材とした3つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では，化学現象を観察し，得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え，レポートにまとめる。また，実験器具や薬品の取扱い方法，実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】
1）化学実験を安全に行うことができる。
2）基本的な実験操作を行うことができる。
3）化学現象を注意深く観察し，実験結果を正確に記述することができる。
4）測定機器の取扱いを理解し，定量的なデータを得ることができる。
5）得られた実験結果を論理的に考察し，レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
指導者の助言のもと，一人で考えながら，あるいは複数で討論しながら化学実験を進め，高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法，実験の進め方，実験器具や薬品の取扱い，実験結果の予習の方法，実験の進め方，実験器具や薬品の取扱い，実験結果のまとめかた，報告書作成方法を学ぶ。また，実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。まとめかた，報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定(1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し，電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定(2)	硫酸亜鉛水溶液および硫酸銅水溶液中における亜鉛の電極電位を測定する。
第4回	金属の電極電位測定(3)	硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅の電極電位を，水溶液中の銅イオンの濃度を変化させながら測定する。
第5回	金属の電極電位測定(4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	酸・塩基と緩衝作用(1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し，中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	酸・塩基と緩衝作用(2)	中和滴定により，水酸化ナトリウム標準液を標定し，これを用いて酢酸水溶液の中和滴定曲線を求める。
第8回	酸・塩基と緩衝作用(3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。
第9回	酸・塩基と緩衝作用(4)	実験データの解析，理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成(1)	サリチル酸を題材に，有機化合物の性質や反応性を整理し，合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成(2)	サリチル酸を原料としてアセチルサリチル酸を合成し，生成物の結晶をろ過して目的物を単離する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成(3)	サリチル酸を原料としてサリチル酸メチルを合成し，抽出・蒸留などの操作により目的物を単離する。サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し，ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い目的物を単離する。
第13回	サリチル酸誘導体の合成(4)	官能基の性質を利用して，サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また，実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論，分析原理，化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には，実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

【参考書】
高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，図説化学など。その他は，授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50 %、レポート点など50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。
なお，平常点は予習課題への取り組み，実験実習態度なども含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
きめ細かなレポート指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
PCはデータ整理やレポート作成に必須なので，必ず持参すること。また，授業に関する案内のほか，実験資料や予習課題の配布，レポート提出はいずれも学習支援システムを通して行うので，随時チェックすること。

【その他の重要事項】
科学実験はI，II，IIIセットで゛履修する。第1回目の授業のはじめには，共通ガ゛イダ゛ンスと各実験の個別ガ゛イダ゛ンスが゛あるので゛，必ず゛出席すること。ガ゛イダ゛ンスの実施方法は学習支援システムで゛連絡する。共通ガ゛イダ゛ンスで゛は実験の実施方法・成績評価基準など゛履修する上で゛重要な説明が゛ある。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
・ Carry out chemical experiments safely.
・ Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験ＩＩ

尾池　秀章

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験を安全に行うための注意事項を学んだ後，身の回りの化学物質を素材とした3つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では，化学現象を観察し，得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え，レポートにまとめる。また，実験器具や薬品の取扱い方法，実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】
1）化学実験を安全に行うことができる。
2）基本的な実験操作を行うことができる。
3）化学現象を注意深く観察し，実験結果を正確に記述することができる。
4）測定機器の取扱いを理解し，定量的なデータを得ることができる。
5）得られた実験結果を論理的に考察し，レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
指導者の助言のもと，一人で考えながら，あるいは複数で討論しながら化学実験を進め，高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法，実験の進め方，実験器具や薬品の取扱い，実験結果のまとめかた，報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定(1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し，電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定(2)	硫酸亜鉛水溶液および硫酸銅水溶液中における亜鉛の電極電位を測定する。
第4回	金属の電極電位測定(3)	硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅の電極電位を，水溶液中の銅イオンの濃度を変化させながら測定する。
第5回	金属の電極電位測定(4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	酸・塩基と緩衝作用(1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し，中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	酸・塩基と緩衝作用(2)	中和滴定により，水酸化ナトリウム標準液を標定し，これを用いて酢酸水溶液の中和滴定曲線を求める。
第8回	酸・塩基と緩衝作用(3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。
第9回	酸・塩基と緩衝作用(4)	実験データの解析，理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成(1)	サリチル酸を題材に，有機化合物の性質や反応性を整理し，合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成(2)	サリチル酸を原料としてアセチルサリチル酸を合成し，生成物の結晶をろ過して目的物を単離する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成(3)	官能基の性質を利用して，サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。
第13回	サリチル酸誘導体の合成(4)	実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論，分析原理，化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には，実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

【参考書】
高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，図説化学など。その他は，授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50 %、レポート点など50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。
なお，平常点は予習課題への取り組み，実験実習態度なども含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
きめ細かなレポート指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
PCはデータ整理やレポート作成に必須なので，必ず持参すること。また，授業に関する案内のほか，実験資料や予習課題の配布，レポート提出はいずれも学習支援システムを通して行うので，随時チェックすること。

【その他の重要事項】
科学実験はI，II，IIIセットで゛履修する。第1回目の授業のはじめには，共通ガ゛イダ゛ンスと各実験の個別ガ゛イダ゛ンスがあるので゛，必ず出席すること。ガ゛イダ゛ンスの実施方法は学習支援システムで゛連絡する。共通ガ゛イダ゛ンスで゛は実験の実施方法・成績評価基準など゛履修する上で゛重要な説明が゛ある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
・ Carry out chemical experiments safely.

・ Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

化学実験

大波　英幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験を安全に行うための注意事項を学んだ後，身の回りの化学物質を素材とした3つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では，化学現象を観察し，得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え，レポートにまとめる。また，実験器具や薬品の取扱い方法，実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】
1）化学実験を安全に行うことができる。
2）基本的な実験操作を行うことができる。
3）化学現象を注意深く観察し，実験結果を正確に記述することができる。
4）測定機器の取扱いを理解し，定量的なデータを得ることができる。
5）得られた実験結果を論理的に考察し，レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
指導者の助言のもと，一人で考えながら，あるいは複数で討論しながら化学実験を進め，高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法，実験の進め方，実験器具や薬品の取扱い，実験結果のまとめかた，報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定(1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し，電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定(2)	硫酸亜鉛水溶液および硫酸銅水溶液中における亜鉛の電極電位を測定する。
第4回	金属の電極電位測定(3)	硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅の電極電位を，水溶液中の銅イオンの濃度を変化させながら測定する。
第5回	金属の電極電位測定(4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	酸・塩基と緩衝作用(1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し，中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	酸・塩基と緩衝作用(2)	中和滴定により，水酸化ナトリウム標準液を標定し，これを用いて酢酸水溶液の中和滴定曲線を求める。
第8回	酸・塩基と緩衝作用(3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。
第9回	酸・塩基と緩衝作用(4)	実験データの解析，理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成(1)	サリチル酸を題材に，有機化合物の性質や反応性を整理し，合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成(2)	サリチル酸を原料としてアセチルサリチル酸を合成し，生成物の結晶をろ過して目的物を単離する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成(3)	官能基の性質を利用して，サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。
第13回	サリチル酸誘導体の合成(4)	実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論，分析原理，化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には，実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

【参考書】
高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，図説化学など。その他は，授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50 %、レポート点など50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。
なお，平常点は予習課題への取り組み，実験実習態度なども含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
きめ細かなレポート指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
PCはデータ整理やレポート作成に必須なので，必ず持参すること。また，授業に関する案内のほか，実験資料や予習課題の配布，レポート提出はいずれも学習支援システムを通して行うので，随時チェックすること。

【その他の重要事項】
第1回目の授業のはじめに物理学実験履修者，生物学実験履修者と合同の共通ガイダンスおよび化学実験の個別ｶﾞｲﾀﾞﾝｽがあるので，必ず出席すること。ｶﾞｲﾀﾞﾝｽの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ｶﾞｲﾀﾞﾝｽでは実験の実施方法・成績評価基準などを履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
・ Carry out chemical experiments safely.

・ Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験ＩＩ

尾池　秀章

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験を安全に行うための注意事項を学んだ後，身の回りの化学物質を素材とした4つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では，化学現象を観察し，得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え，レポートにまとめる。また，実験器具や薬品の取扱い方法，実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】
1）化学実験を安全に行うことができる。
2）基本的な実験操作を行うことができる。
3）化学現象を注意深く観察し，実験結果を正確に記述することができる。
4）測定機器の取扱いを理解し，定量的なデータを得ることができる。
5）得られた実験結果を論理的に考察し，レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
指導者の助言のもと，一人で考えながら，あるいは複数で討論しながら化学実験を進め，高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へ と転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法，実験の進め方，実験器具や薬品の取扱い，実験結果のまとめかた，報告書作成方法を学ぶ。また，実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定(1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し，電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定(2)	硫酸亜鉛水溶液および硫酸銅水溶液中における亜鉛の電極電位を測定する。
第4回	金属の電極電位測定(3)	硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅の電極電位を，水溶液中の銅イオンの濃度を変化させながら測定する。
第5回	金属の電極電位測定(4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	酸・塩基と緩衝作用(1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し，中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	酸・塩基と緩衝作用(2)	中和滴定により，水酸化ナトリウム標準液を標定し，これを用いて酢酸水溶液の中和滴定曲線を求める。
第8回	酸・塩基と緩衝作用(3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。
第9回	酸・塩基と緩衝作用(4)	実験データの解析，理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成(1)	サリチル酸を題材に，有機化合物の性質や反応性を整理し，合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成(2)	サリチル酸を原料としてアセチルサリチル酸を合成し，生成物の結晶をろ過して目的物を単離する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成(3)	サリチル酸を原料としてサリチル酸メチルを合成し，抽出・蒸留などの操作により目的物を単離する。
第13回	サリチル酸誘導体の合成(4)	官能基の性質を利用して，サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また，実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論，分析原理，化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には，実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

【参考書】
高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，図説化学など。その他は，授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点50 %，レポート点など50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。
なお，平常点は予習課題への取り組み，実験実習態度なども含まれる。

【学生の意見等からの気づき】
きめ細かなレポート指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
PCはデータ整理やレポート作成に必須なので，必ず持参すること。また，授業に関する案内のほか，実験資料や予習課題の配布，レポート提出はいずれも学習支援システムを通して行うので，随時チェックすること。

【その他の重要事項】
科学実験はI，II，IIIセットで゛履修する。第1回目の授業のはじめには，共通ガ゛イダ゛ンスと各実験の個別ガ゛イダ゛ンスが゛あるので゛，必ず゛出席すること。ガ゛イダ゛ンスの実施方法は学習支援システムで゛連絡する。共通ガ゛イダ゛ンスで゛は実験の実施方法・成績評価基準など゛履修する上で゛重要な説明が゛ある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.
【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:
・ Carry out chemical experiments safely.
・ Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験ＩＩＩ

田島　寛隆

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】
受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。
課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験１	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験２	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験３	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験４	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験５	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験１	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験２	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験３	ＤＮＡの分離・精製
第9回	遺伝子実験４	ＤＮＡの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験５	大腸菌プラスミドのＤＮＡ鑑定
第11回	遺伝子実験６	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第12回	酵素実験１	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験２	酵素活性測定
第14回	酵素実験３	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。

【テキスト（教科書）】
担当教員が編集した実習テキストを第１回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】
実験への積極的な貢献度を含む平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
高校で生物を履修していない学生も多いので、わかりやすい授業を心がける。

【履修上の注意】
科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第１回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.
【Learning Objectives】You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports.
【Learning activities outside of classroom】Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp and image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験ＩＩＩ

水澤　直樹、大森　楓河、大野　真

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】
受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。
　課題に対するフィードバックは授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験１	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験２	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験３	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験４	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験５	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験１	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験２	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験３	ＤＮＡの分離・精製
第9回	遺伝子実験４	ＤＮＡの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験５	大腸菌プラスミドのＤＮＡ鑑定
第11回	遺伝子実験６	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）
第12回	酵素実験１	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験２	酵素活性測定
第14回	酵素実験３	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。予習復習用の「実験動画」も利用すること。

【テキスト（教科書）】
担当教員が編集したテキストを第１回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】
実験への積極的な貢献度を含む平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
高校で生物未履修の学生がほとんどであることをがわかりました。生物を履修していない学生さんにも理解できるように丁寧に解説します。

【履修上の注意】
科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは、実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.
You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports.
Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp the image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験ＩＩＩ

水澤　直樹、大森　楓河、大野　真

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】
受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。
　課題に対するフィードバックは授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験１	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験２	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験３	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験４	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験５	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験１	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験２	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験３	ＤＮＡの分離・精製
第9回	遺伝子実験４	ＤＮＡの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験５	大腸菌プラスミドのＤＮＡ鑑定
第11回	遺伝子実験６	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）
第12回	酵素実験１	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験２	酵素活性測定
第14回	酵素実験３	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。予習復習用の「実験動画」も利用すること。

【テキスト（教科書）】
担当教員が編集したテキストを第１回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】
実験への積極的な貢献度を含む平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
高校で生物未履修の学生さんが多いことがわかりました。生物を履修していない学生さんにも理解できるように丁寧に解説します。

【履修上の注意】
科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは、実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.
You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports.
Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp the image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物学実験

田島　寛隆

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】
生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。具体的には、光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。
課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験１	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験２	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験３	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験４	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験５	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験１	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験２	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験３	ＤＮＡの分離・精製
第9回	遺伝子実験４	ＤＮＡの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験５	大腸菌プラスミドのＤＮＡ鑑定
第11回	遺伝子実験６	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第12回	酵素実験１	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験２	酵素活性測定
第14回	酵素実験３	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。

【テキスト（教科書）】
担当教員が編集したテキストを第１回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ゛生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】
実験への積極的な貢献度を含む平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
高校で生物を履修していない学生が多いので、わかりやすい解説を心がける。

【履修上の注意】
科学実験はI、II、IIIセットで゛履修する。第1回目の授業のはじ゛めには、共通ガ゛イダ゛ンスと各実験の個別ガ゛イダ゛ンスが゛あるので゛、必ず゛出席すること。ガ゛イダ゛ンスの実施方法は学習支援システムで゛連絡する。共通ガ゛イダ゛ンスで゛は実験の実施方法・成績評価基準など゛履修する上で゛重要な説明が゛ある。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.
【Learning Objectives】 You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports.
【Learning activities outside of classroom】 Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp and image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験ＩＩＩ

水澤　直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】
受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験3	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験4	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験1	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験3	DNAの分離・精製
第9回	遺伝子実験4	DNAの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験5	大腸菌プラスミドのDNA鑑定
第11回	遺伝子実験6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第12回	酵素実験1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験2	酵素活性測定
第14回	酵素実験3	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。予習復習用の「実験動画」も利用すること。

【テキスト（教科書）】
担当教員が編集したテキストを第１回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ〝生物学・細胞生物学」 羊土社

【成績評価の方法と基準】
実験への積極的な貢献度を含む平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの作成指導に力を入れてほしいとの要望があったため、よりきめ細かなレポート指導を計画している。

【学生が準備すべき機器他】
「お知らせ」などで学習支援システムを使用します。

【履修上の注意】
科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第１回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.
(Learning Objectives)
You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp and image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
(Grading Criteria /Policies)
Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験ＩＩＩ

水澤　直樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】
受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験3	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験4	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験1	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験3	DNAの分離・精製
第9回	遺伝子実験4	DNAの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験5	大腸菌プラスミドのDNA鑑定
第11回	遺伝子実験6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第12回	酵素実験1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験2	酵素活性測定
第14回	酵素実験3	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。予習復習用の「実験動画」も利用すること。

【テキスト（教科書）】
担当教員が編集したテキストを第１回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ〝生物学・細胞生物学」 羊土社

【成績評価の方法と基準】
実験への積極的な貢献度を含む平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの作成指導に力を入れてほしいとの要望があったため、よりきめ細かなレポート指導を計画している。

【学生が準備すべき機器他】
「お知らせ」などで学習支援システムを使用します。

【履修上の注意】
科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第１回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.
(Learning Objectives)
You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp and image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
(Grading Criteria /Policies)
Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物学基礎Ⅰ

石黒　亮

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球生物は、地球に存在する元素を選択的に利用して形成された生体高分子とその集合体で形成され、特異な生命機能を発揮している。この授業では生命を構成・維持する分子やシステムについて理解を深め、その上で多様な生命現象が発現する仕組みについて学ぶ。生命に対する科学的な理解を深めるとともに、専門分野で今後活躍する上で必要不可欠な生物学の基本的な知識を身につける。

【到達目標】
生物学の基本的な概念と用語を理解し自分の言葉で説明できる。生物学が関係する社会的、技術的問題について興味を持ち、科学的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎的事項に最近発展した内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深める。
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生命とは何か	生物と無生物の違い。
2	細胞：生物の基本単位	細胞の構造と機能。
3	オルガネラ	オルガネラの構造とその働き。
4	個体の統合	多細胞生物と細胞分化。
5	生体を構成する分子1	核酸とタンパク質の構造と機能。
6	生体を構成する分子2	炭水化物,脂質の構造と機能。
7	中間テスト・解説	6回目までのテスト・まとめと解説
8	遺伝子発現	セントラルドグマと生体システム。
9	物質代謝とエネルギー代謝	合成と分解,呼吸,光合成
10	恒常性の維持	生体の内部環境を安定に保つしくみ。
11	生命システムの破綻	遺伝子発現,代謝,恒常性の破綻と疾患。
12	病原体と生体防御	ウイルス,微生物と生体防御システム。
13	現在そしてこれからの生命科学	遺伝子治療、ゲノム編集、再生医療など、最新の生命工学と今後の展望。
14	生物の多様性・生命科学と倫理	生命の誕生と進化,分類。生命科学で守るべきこと。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
ノートを読み直し、復習する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間・期末の２回実施するテスト、及び平常点にて評価する。テストがオンラインでの実施となった場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、講義の中で提示する。
成績評価要素：平常点（25%）、中間テスト（25%）、期末テスト（50%）

【学生の意見等からの気づき】
高校で生物を選択していなかった受講者へも解り易い講義を心がける。

【その他の重要事項】
近年話題となった生物学上の発見や様々な問題点などを紹介、議論する。

【Outline (in English)】
Living organisms are formed of aggregates of biopolymers formed by selectively using Earth's elements. In this lecture, we will deepen our understanding of molecules and systems that constitute and maintain life and learn about its mechanism.
The goal is for students to understand the basic concepts and terms of biology and explain them in their own words. It is also important to be interested in and scientifically consider social and technical issues related to biology.
Grades will be evaluated based on two tests, one at the middle and the end of the term, and normal points. If the test is conducted online, the method and criteria for grade evaluation will also be changed. Specific methods and criteria will be presented in the lecture.
Grade evaluation factors: Normal score (25%), mid-term test (25%), final test (50%)

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物学基礎Ⅰ

水澤　直樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球上の生命体は、地球に存在する元素を選択的に利用して形成された生体高分子とその集合体で形成され、特有な生命機能を発揮している。本授業では、受講学生は生命の基本単位である細胞とそれを構成する分子について理解を深め、多様な生命現象が発現する仕組みについて学ぶ。これらの学びを通じて、受講学生は生物に対する科学的な理解を深めるとともに、専門分野で今後活躍する上で必要不可欠な生物学の基本的な知識を身につける。

【到達目標】
生物学の基本的な概念と用語を理解し自分の言葉で説明できるようになり、生物学が関係する社会的、技術的問題について興味を持ち、科学的に考察できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
高校で生物を選択しなかった学生も考慮して、平易で簡潔な講義を行う。生命科学に関する基礎的事項に加え、近年発展した学問内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深めていく。「生命とは何か」「細胞とは何か」など生命の基本的な概念を解説した上で、オルガネラ（細胞小器官）、細胞を構成する分子（タンパク質、核酸、脂質、糖）など各論に入る。その後、さらに、DNAの遺伝情報をもとにしたタンパク質の合成、代謝（呼吸、光合成）などの生命現象のしくみについて説明する。
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または
授業時にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命とは何か	生物の進化、生物と無生物の違い
第2回	細胞：生物の基本単位	細胞の構造と機能
第3回	オルガネラ	オルガネラ（細胞小器官）の構造とその働き
第4回	恒常性	生体の内部環境を安定に保つしくみ
第5回	生体を構成する分子1	タンパク質
第6回	生体を構成する分子2	核酸：DNAとRNA
第7回	生体を構成する分子3	糖
第8回	生体を構成する分子4	脂質
第9回	遺伝1	DNA、ゲノム、遺伝子
第10回	遺伝2	DNAの複製、修復
第11回	遺伝3	遺伝情報の転写と翻訳
第12回	代謝1	酵素の特性と機能
第13回	代謝2	嫌気呼吸、発酵、酸素呼吸
第14回	代謝3	光合成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
まとめのプリントとノートを読み直し、復習する。課題に取り組み提出する。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を配布する。

【参考書】
東京大学生命科学教科書編集委員会「生命科学」改訂第3版　羊土社
和田勝著「基礎から学ぶ〝生物学・細胞生物学」 羊土社

【成績評価の方法と基準】
平常点（15%）、課題 (25%)、課題レポート（10%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。基本的な生命科学の用語の定着、理解、生命現象のメカニズムの理解、現代社会における生命科学の重要性の理解などが試験、レポート課題の中心となる。

【学生の意見等からの気づき】
課題に対するフィードバックを丁寧にする。

【学生が準備すべき機器他】
お知らせ、資料配付に学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life,biological molecules composing a cell,and the mechanisms of various biological phenomena inside the cell that occur using these molecules.
（Learning Objectives）
The goal of this course is to be able to understand the basic concepts and terms of biology and explain them in your own words, to be interested in social and technical issues related to biology, and to be able to discuss scientifically about them.
（Learning activities outside of classroom）
After each class, you will be expected to reread and review the teaching material slides. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
（Grading Criteria /Policy）
Final grade will be calculated according to the following process; Term-end examination (35%), reports (10%), school assignments(25%) in-class contribution (15%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物学基礎Ⅰ

細谷　茂生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
遺伝子工学分野をはじめとする生命科学の近年における急速な発展は、基礎生物学のみならず、医療や農業に技術革新をもたらし、社会全体にも大きな影響を及ぼすようになってきた。本講義は、受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、細胞学や分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。

【到達目標】
受講生が生物学の基本的概念を理解し、生命科学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
高校で生物学を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。また、毎回小テストを行い、受講生の理解度を考慮して講義を進める。
小テスト等の結果に対するフィードバックは、授業中の他、学習支援システムを用いて行う。
本授業はZoomまたはWebexと学習支援システムによるオンラインで行い、詳細は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、生物の分類	生物の定義と分類、授業で取り上げるテーマの概要
第2回	細胞	原核細胞と真核細胞の構造とその違い、細胞小器官の構造とはたらき
第3回	生物を形作る物質1（生体膜）	生体膜の種類、細胞膜とその構造、細胞膜の様々な役割
第4回	生物を形作る物質2（タンパク質）	タンパク質の種類・構造、酵素を中心としたタンパク質の機能とはたらき
第5回	生物を形作る物質3（DNA）	DNA構造の発見の歴史、DNAの構造と性質
第6回	代謝1（呼吸1）	生物の代謝と炭素循環、呼吸等で重要な物質、解糖系とクエン酸回路の分子的メカニズム
第7回	代謝2（呼吸2、その他の代謝系）	電子伝達系の分子的メカニズム、タンパク質や脂質の代謝、嫌気呼吸
第8回	代謝3（光合成1）	植物の構造と光合成、光合成の概要、電子伝達系の分子的メカニズム
第9回	代謝4（光合成2、その他の代謝系）	カルビン回路と糖の生成の分子的メカニズム、光呼吸、C4植物とCAM植物の特徴、窒素同化
第10回	細胞分裂と染色体	細胞分裂と細胞周期、細胞周期の制御機構、染色体の構造、体細胞分裂と減数分裂のメカニズム
第11回	遺伝	メンデルの遺伝の法則、様々な遺伝形式、ヒトの遺伝形質
第12回	進化	地球と生命の歴史、生物の進化と系統樹、動物の進化とボディプラン、進化のメカニズム、種分化
第13回	生態	生物圏の成り立ち、個体群、個体群間の相互作用、生物群集と多様性、生物圏とヒトのかかわり
第14回	進化と生態、試験	遺伝子ドライブ技術、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習：学習支援システムにアップロードしてある資料を用いて学習する。復習においては、毎回の小テストに回答する。
予習・復習時間：各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、参考書に挙げた書籍の内容に沿って講義を行う。

【参考書】
BLUE BACKSアメリカ版 新・大学生物学の教科書第1、2、3巻 D・サダヴァ他編（講談社）
BLUE BACKSアメリカ版 大学生物学の教科書第4、5巻D・サダヴァ他編（講談社）
改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 数研出版編集部 編集（数研出版）

【成績評価の方法と基準】
小テスト（宿題）成績（30%）、期末試験成績（20%）、小テスト（授業内）成績（20%）、理解度チェックとクイズの実施（20%）、平常点（10%）で評価する。
詳細はガイダンスで連絡し、変更する場合は学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の小テストについて、学習支援システムを通してフィードバックを行うとともに、毎回の授業において解説と復習を行う。また、授業の始めにその回の重要なキーワードと学習のポイントを示す。
更に、クイズや理解度チェックを通し、授業内容への興味を引き出したり理解度を確認したりする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとオンライン授業に円滑に接続できる情報機器（貸与PC等）と良好な通信環境が必要。
課題等への解答は、エラーを避けるため貸与PCを用いること。

【その他の重要事項】
秋学期開講の生物学基礎IIと合わせ、生物学基礎I、IIの順に履修するのが望ましい。ガイダンス資料の内容を必ず把握すること。また、宿題等をそのままAIアシスタントツールに回答させないこと。
第1回授業前に法政大学Gメールアカウントを取得し、そのメールアカウントで法政大学Zoom及びWebexアカウントを取得しておく。また、Zoom及びWebexアプリケーションをインストールしておく必要がある。
可能な限り第1回授業から出席すること。

【Outline (in English)】
The rapid development of life sciences in recent years, including the field of genetic engineering, has brought about technological innovation not only in basic biology but also in medicine and agriculture, and has come to have a great impact on society as a whole. This course outlines the basics of modern biology, focusing on cytology and molecular biology, so that you can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science.

The goals of this course are to understand the basic concepts of biology and to have your own thoughts on current affairs related to life sciences.
Preparation and review: Students will be expected to have studied using files uploaded to the learning management system. In the review, you need to answer each quiz. Your required study time is at least one hour before/after each class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Short exam after each class: 30%, term-end examination: 20%, short exam in class: 20%, comprehension checks and quizzes: 20%, and in-class contribution: 10%. Details will be contacted through guidance, and if there are any changes, informed in the learning management system.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物学基礎Ⅰ

石黒　亮

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
遺伝子工学分野をはじめとする生命科学の近年における急進な発展は、基礎生物学のみならず、医療や農業に技術革新をもたらし、社会全体にも大きな影響を及ぼすようになってきた。本講義は、受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、細胞学や分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。

【到達目標】
受講生が生物学の基本的概念を理解し、生命科学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎的事項に最近発展した内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解 を深める。 課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授 業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可 能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は, 原 則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命とは何か	生物と無生物の違い。
第2回	細胞:生物の基本単位	細胞の構造と機能。
第3回	オルガネラ	オルガネラの構造とその働き。
第4回	個体の統合	多細胞生物と細胞分化。
第5回	生体を構成する分子1	核酸とタンパク質の構造と機能。
第6回	生体を構成する分子2	炭水化物, 脂質の構造と機能。
第7回	中間テスト・解説	6 回目までのテスト・まとめと解説
第8回	遺伝子発現	セントラルドグマと生体システム。
第9回	物質代謝とエネルギー代謝	合成と分解, 呼吸, 光合成
第10回	恒常性の維持	メンデルの遺伝の法則、様々な遺伝形式、ヒトの遺伝形質
第11回	生命システムの破綻	遺伝子発現, 代謝, 恒常性の破綻と疾 患。
第12回	病原体と生体防御	ウイルス, 微生物と生体防御システム。
第13回	現在そしてこれからの生命科学	遺伝子治療、ゲノム編集、再生医療など、最新の生命工学と今後の展望。
第14回	生物の多様性・生命科学と倫理	生命の誕生と進化, 分類。生命科学で 守るべきこと。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
ノートを 読み直し、復習する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間・期末の2回実施するテスト、及び平常点にて評価する。テストがオン ラインでの実施となった場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的 な方法と基準は、講義の中で提示する。 成績評価要素:平常点(25%)、中間テスト(25%)、期末テスト(50%)

【学生の意見等からの気づき】
高校で生物を選択していなかった受講者へも解り易い講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、zoomに参加できる情報機器が必要。

【その他の重要事項】
秋学期開講の生物学基礎IIと合わせて受講するのが望ましい。

【Outline (in English)】
Living organisms are formed of aggregates of biopolymers formed by selectively using Earth's elements. In this lecture, we will deepen our understanding of molecules and systems that constitute and maintain life and learn about its mechanism.
The goal is for students to understand the basic concepts and terms of biology and explain them in their own words. It is also important to be interested in and scientifically consider social and technical issues related to biology.
Grades will be evaluated based on two tests, one at the middle and the end of the term, and normal points. If the test is conducted online, the method and criteria for grade evaluation will also be changed. Specific methods and criteria will be presented in the lecture.
Grade evaluation factors: Normal score (25%), mid-term test (25%), final test (50%)

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物学基礎ＩＩ

田島　寛隆

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物を構築する全ての遺伝情報は、遺伝子の集合体であるゲノムに含まれている。ゲノムに含まれる遺伝情報の発現機構、ゲノムの細胞から細胞、親から子への伝達機構、共通の祖先から由来したゲノムの多種多様な生物への分化と進化について、物質的基盤での理解を深める。

【到達目標】
生物学の基本的な概念，用語を理解し，それらを平易に説明できるようになる．また，生物学が関係する社会的，技術的問題に対して科学的に考察できるようになる．以上を目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
高校で生物を選択しなかった学生も考慮して、平易簡潔な講義を行う。生命科学に関する基礎的事項に加え、近年発展した学問内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深めていく。生物学基礎Iで学んだ内容の復習で知識を整理したのちに、遺伝情報の発現の仕組みについて、原核生物と真核生物を比較しながら講義する。つぎに、生殖、発生について、動物と植物を比較しながら講義する。さらに、再生医療、遺伝子操作技術など基礎生命科学を基礎に発展した応用的な分野についても解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	生物学基礎Iの復習・まとめなど
第2回	細胞	原核生物と真核生物
第3回	遺伝子1	遺伝の法則と遺伝子の発見
第4回	遺伝子2	遺伝子の構造・複製
第5回	遺伝子3	遺伝子の発現制御
第6回	細胞分裂	体細胞分裂と減数分裂
第7回	振り返り	ここまでのまとめ
第8回	生殖	生殖細胞の形成と受精
第9回	発生1	動物の発生，卵割
第10回	発生2	分化・形態形成とオーガナイザー
第11回	発生3	植物の発生
第12回	進化	生命の誕生と系統進化
第13回	遺伝子工学・細胞工学	遺伝子組換技術・再生医療
第14回	振り返り2	全体まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は各2時間を標準とする．配付資料と授業ノートを良く読み返し，内容を十分に理解すること．授業内容に関連する参考書籍等を読み，理解をより深めるのが望ましい．

【テキスト（教科書）】
特に指定しない．適宜資料を配布する．

【参考書】
特に指定しない．

【成績評価の方法と基準】
基本的に中間試験および学期末試験で評価する．
授業の実施状況に伴い評価方法は変更することがある．

【学生の意見等からの気づき】
板書が読みにくい旨の意見が多いため、改善する。

【その他の重要事項】
講義内容に関する質問・感想・要望は随時受け付ける．

【Outline (in English)】
All of the genetic information that builds organisms is contained in genomes, which are collections of genes. We will deepen our understanding of the mechanisms of expression of genetic information, the mechanisms of transmission of genomes from cell to cell and from parent to child, and the differentiation and evolution of genomes derived from a common ancestor into a wide variety of organisms on a material basis.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物学基礎ＩＩ

水澤　直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物を構築する全ての遺伝情報は、遺伝子の集合体であるゲノムに含まれている。ゲノムに含まれる遺伝情報の発現機構、ゲノムの細胞から細胞、親から子への伝達機構、共通の祖先から由来したゲノムの多種多様な生物への分化と進化について、物質的基盤での理解を深める。

【到達目標】
受講学生は生物学の基本的な概念と用語を理解し自分の言葉で説明できるようになり、生物学が関係する社会的、技術的問題について興味を持ち、科学的に考察できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
高校で生物を選択しなかった学生も考慮して、平易簡潔な講義を行う。生命科学に関する基礎的事項に加え、近年発展した学問内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深めていく。生物学基礎Iで学んだ内容の復習で知識を整理したのちに、遺伝情報の発現の仕組みについて、原核生物と真核生物を比較しながら講義する。つぎに、生殖、発生について、動物と植物を比較しながら講義する。さらに、再生医療、遺伝子操作技術など基礎生命科学を基礎に発展した応用的な分野についても解説する。
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	生物学基礎Ｉで学習した内容の復習・まとめ
第2回	細胞	原核生物と真核生物
第3回	遺伝子１	遺伝の法則，遺伝子の発見，形質と遺伝子
第4回	遺伝子2	遺伝子の構造，複製，PCR法
第5回	遺伝子3	原核生物における遺伝情報の発現制御；ラクトースオペロン
第6回	遺伝子4	真核生物における遺伝情報の発現制御；クロマチン構造、エピジェネティクス
第7回	細胞分裂	体細胞分裂と減数分裂
第8回	生殖1	有性生殖と無性生殖、動物と植物における生殖細胞の形成
第9回	生殖2	動物と植物における受精のしくみ
第10回	発生1	卵割、胞胚、原腸胚への変化
第11回	発生2	オーガナイザーと胚葉分化、形態形成
第12回	発生3	植物の発生、植物ホルモン
第13回	遺伝子工学・細胞工学	遺伝子組換技術、再生医療
第14回	感染と免疫	病原体による感染、感染に対する生体防御・免疫

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
まとめのプリントとノートを読み直し、復習する。課題に取り組み提出する。まとめのプリントとノートを読み直し、復習する。課題に取り組み提出する。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した資料を配布する。

【参考書】
東京大学生命科学教科書編集委員会「生命科学」改訂第3版　羊土社
和田勝著「基礎から学ぶ〞生物学・細胞生物学」 羊土社

【成績評価の方法と基準】
平常点15%、レポート10%、課題25%、期末試験50%で評価する。基本的な生命科学の用語の定着、理解、生命現象のメカニズムの理解、現代社会における生命科学の重要性の理解などが試験、レポート課題の中心となる。

【学生の意見等からの気づき】
課題に対するフィードバックを丁寧にする。

【学生が準備すべき機器他】
お知らせ、資料配付に学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course is an introduction to molecular biology, genetics and several modern
molecular methods to elucidate molecular and genetic questions that involve the description of meiosis, sexual reproduction, and classical genetics, and the principles of DNA replication and gene regulation in prokaryotic and eukaryotic cells,and PCR.
（Learning Objectives）
The goal of this course is to be able to understand the basic concepts and terms of biology and explain them in your own words, to be interested in social and technical issues related to biology, and to be able to discuss scientifically about them.
（Learning activities outside of classroom）
After each class, you will be expected to reread and review the teaching material slides. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.
（Grading Criteria /Policy）
Final grade will be calculated according to the following process; term-end examination (50%), reports (10%), 'school assignments (25%), and in-class contribution (15%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物学基礎ＩＩ

細谷　茂生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　春学期開講の生物学基礎Ⅰに引き続き、本講義は受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、遺伝学と分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。また、近年の生物学の研究動向についても紹介する。

【到達目標】
　受講生が生物学の基本的概念を理解し、生命科学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　高校で生物を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。また、毎回小テストを行い、受講生の理解度を考慮して講義を進める。
　小テスト等の結果に対するフィードバックは、授業中の他、学習支援システムを用いて行う。
　本授業はZoomまたはWebexと学習支援システムによるオンラインで行い、詳細は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、春学期の復習	生物を構成する物質、授業で取り上げるテーマの概要
第2回	遺伝情報の複製、転写、翻訳1	細胞分裂におけるDNAの複製、複製メカニズム発見の歴史、複製のメカニズム
第3回	遺伝情報の複製、転写、翻訳2	DNAと遺伝情報、転写のメカニズム、代表的な転写の制御、転写調節に関する応用例
第4回	遺伝情報の複製、転写、翻訳3	遺伝暗号解読の歴史、翻訳のメカニズム、翻訳後修飾、突然変異、翻訳と抗生物質
第5回	バクテリアとウイルス	バクテリアの特徴と遺伝学、ウイルスの特徴とライフサイクル、代表的なウイルスの特徴
第6回	真核生物の分子遺伝学	ゲノムプロジェクト、真核生物のゲノムの特徴、真核生物における転写のメカニズムと遺伝子発現のメカニズム
第7回	細胞のシグナル伝達1	細胞のシグナル伝達の分子的メカニズム、神経伝達のメカニズム、神経細胞と疾患とのかかわり
第8回	細胞のシグナル伝達2、生理学1	内分泌のメカニズム、循環器、呼吸器の概要と疾患とのかかわり
第9回	生理学2	消化器、泌尿器、骨、感覚器の概要と疾患とのかかわり
第10回	発生の生物学と分子遺伝学	発生の概要、代表的な生物における発生の過程、発生の分子的メカニズム
第11回	免疫	生体防御システムの全体像、自然免疫と獲得免疫の分子的メカニズム、免疫と疾患のかかわり
第12回	バイオテクノロジー1（基礎編）	DNAやタンパク質を扱う主な実験手法の原理と概要
第13回	バイオテクノロジー2（応用編）	遺伝子組換え技術の基礎と応用例、ゲノム編集技術の概要、バイオテクノロジーの医療への応用
第14回	DNAの組換え、試験	相同組換えと部位特異的組換えのメカニズム、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習：学習支援システムにアップロードしてある資料を用いて学習する。復習においては、毎回の小テストに回答する。
予習・復習時間：各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　特に指定しないが、参考書に挙げた書籍の内容に沿って講義を行う。

【参考書】
　BLUE BACKSアメリカ版 新・大学生物学の教科書第1、2、3巻 D・サダヴァ他編（講談社）
　改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 数研出版編集部 編集（数研出版）

【成績評価の方法と基準】
小テスト（宿題）成績（30%）、期末試験成績（20%）、小テスト（授業内）成績（20%）、理解度チェックとクイズの実施（20%）、平常点（10%）で評価する。
詳細はガイダンスで連絡し、変更する場合は学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の小テストについて、学習支援システムを通してフィードバックを行うとともに、毎回の授業において解説と復習を行う。また、授業の始めにその回の重要なキーワードと学習のポイントを示す。
更に、クイズや理解度チェックを通し、授業内容への興味を引き出したり理解度を確認したりする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとオンライン授業に円滑に接続できる情報機器（貸与PC等）と良好な通信環境が必要。
課題等への解答は、エラーを避けるため貸与PCを用いること。

【その他の重要事項】
　春学期開講の生物学基礎Ⅰと合わせ、生物学基礎Ⅰ、Ⅱの順に履修するのが望ましい。ガイダンス資料の内容を必ず把握すること。また、宿題等をそのままAIアシスタントツールに回答させないこと。
　第1回授業前に法政大学Gメールアカウントを取得し、そのメールアカウントで法政大学Zoom及びWebexアカウントを取得しておく。また、Zoom及びWebexアプリケーションをインストールしておく必要がある。
　可能な限り第1回授業から出席すること。

【Outline (in English)】
Continuing from Basic Biology I in the spring semester, this course focuses on genetics and molecular biology so that you can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science. I will also introduce recent trends in biology research.
The goals of this course are to understand the basic concepts of biology and to have your own thoughts on current affairs related to life sciences.
Preparation and review: Students will be expected to have studied using files uploaded to the learning management system. In the review, you need to answer each quiz. Your required study time is at least one hour before/after each class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Short exam after each class: 30%, term-end examination: 20%, short exam in class: 20%, comprehension checks and quizzes: 20%, and in-class contribution: 10%. Details will be contacted through guidance, and if there are any changes, informed in the learning management system.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物学基礎ＩＩ

石黒　亮

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期開講の生物学基礎Ⅰに引き続き、本講義は受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。また、近年の生物学の研究動向についても紹介する。

【到達目標】
受講生が生物学の基本的概念を身につけ、生物学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　高校で生物学を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。基礎的事項に最近発展した内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解 を深める。 課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授 業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可 能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は，原 則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習、授業の概要	授業で取り上げるテーマの概要 これまでの講義との違い
第2回	遺伝情報	ゲノムDNAとトランスポゾン
第3回	遺伝子発現制御	転写のメカニズムとクロマチンリモデリング
第4回	翻訳機構	mRNAに写し取られた遺伝情報からタンパク質を合成するシステム
第5回	タンパク質	機能性生体分子としてのタンパク質の多様性
第6回	機能性RNA	非翻訳性RNA分子の働き
第7回	中間テスト・解説	6 回目までのテスト・まとめと解説
第8回	生体分子内及び分子間相互作用	生体分子の相互作用から考える生命現象
第9回	情報伝達	細胞内及び細胞間シグナル伝達システムと受容体
第10回	細胞の分化と個体の形態形成	細胞はどのように分化し、個体の発生・形態を行うのか
第11回	ストレス応答と細胞システム	生存環境の変化に応じた細胞応答と機能喪失の原因と結果
第12回	遺伝子組み換え	遺伝子組換え技術の基礎と応用例、ゲノム編集技術の概要と医療への応用
第13回	生命科学と倫理	ヒト及び動植物が直面する生命科学の現状と今後
第14回	まとめと解説	第１回目から第１３回目までのまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
ノートを 読み直し、復習する。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間・期末の2回実施するテスト、及び平常点にて評価する。テストがオン ラインでの実施となった場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的 な方法と基準は、講義の中で提示する。 成績評価要素:平常点(25%)、中間テスト(25%)、期末テスト(50%)

【学生の意見等からの気づき】
高校で生物を選択していなかった受講者へも解り易い講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、zoomに参加できる情報機器が必要。

【その他の重要事項】
春学期開講の生物学基礎Ⅰと合わせて受講するのが望ましい。

【Outline (in English)】
Continuing from Basic Biology I in the spring semester, this course focuses on molecular biology so that you can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science. I will also introduce recent trends in biology research.
The goals of this course are to understand the basic concepts of biology and to have your own thoughts on current affairs related to life sciences.
Before class, you will be expected to read reference books to prepare for what will be covered in class, if possible. After each class, you will be expected to read the handout and answer quizzes uploaded to learning management system. Your study time will be two hours for a class.
Grade evaluation factors: Normal score (25%), mid-term test (25%), final test (50%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

村上　弥生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈授業概容〉
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。
〈授業の目的・意義〉
科学技術が世界を変容させる時代にあって、理工学専門の国際的な教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身に着ける。
異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、日常的に得られる日本語情報を相対化し、国際人としての視野を広げと思考を深める。

【到達目標】
1. 将来、専門分野とそれを超えて、グローバルな場面で求められる英語の読解力、語彙力を身に着けて、幅広い分野の情報を英語で無理なく得ることのできる力を身に着ける。
2. 異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章に取り組むことによって、日常的に得られる日本語情報を相対化し、国際人としての視野と思考を広げる。
3. リスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く持つことによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
1. 読み物については、
現代の社会、また世界において重要なテーマを２～３選び、関連する資料を学生さんの予習を前提として、授業では丁寧に読みながら、文構造、語彙、表現、議論の展開を確実に理解していく
読み物のテーマについて、学生さんに英語で要点をまとめるよう求めたり、また教師からも背景知識を加えながら、随時説明を行う。
2. テーマに関連する視聴覚材料をネット等で聞き、内容確認等を行う
3. 各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テスト、ないし訳の修正や意見文の作成を行ってもらう。
4. 4. 1～3の受講生による日本語訳、リサーチ、サマリー、意見文については、随時Hoppiiにおいて、ないし授業中に作成、提出されたものを評価して返却、もしくは授業時に総評を行う。
授業は基本的に対面で行うが、情勢の変化や授業の進捗状況等によってオンラインに変更される場合もあるので、情報システムでのお知らせを常に確認されたい。
以下の授業計画に示した読み物やテーマは昨年の例であり、本年度は現状に合わせて、新たに題材を選びなおすことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション Problems with A.I.tools and translation	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など AIツールと翻訳の問題を概観
第2回	トピック1：（社会や時代の変化に添って新たに選びなおすが、以下は昨年度の例である） For Older People Who are Lonely, Is the Solution a Robot Friend? （日常のあらゆる側面に入り込む人工知能：人間関係を代替するAI）	背景説明 重要語句、表現、文法の確認
第3回	For Older People Who are Lonely, Is the Solution a Robot Friend?-2	和訳：要約の発表 重要語句、表現、文法の確認 リサーチ・意見文の紹介、発表
第4回	For Older People Who are Lonely, Is the Solution a Robot Friend?-3	背景説明、関連する資料映像等の紹介 重要語句、表現・文法の確認
第5回	review test-1 Robots Are Now Hiring. （documentary video） (AIによる採用面接の実態)-1	前回までの内容・語句表現の応用の復習テスト 次の読み物(video教材の導入
第6回	Robots Are Now Hiring－2	関連する資料、映像の紹介 和訳発表 リサーチ、意見文の発表、紹介 重要語句、表現、文法の確認
第7回	Robots Are Now Hiring－3	和訳発表 重要語句、表現、文法の確認
第8回	Are You Smarter Than A.I.？ （Thinking A.I.の開発とA.I.が苦労するパズル）	和訳発表 重要語句、表現、文法の確認 意見交換
第9回	review test-2 Time to Contact Alien Life？ - 1 （太陽系外生命体との接触を試みる理由：人類の分断を超えて）	前回までの内容・語句表現の応用の復習テスト 次の読み物の導入
第10回	Time to Contact Alien Life？ －2	背景説明、 和訳発表 重要語句、表現、文法の確認 意見交換

第11回	review test-3 K2-18b　Hycean Planet？ －1 (interview video) (なぜ生命の存在する可能性が大きいか、研究者のインタヴュー・ヴィデオ)	前回までの内容・語句表現の応用の復習テスト 関連する資料の紹介
第12回	European Fear for U.S. Tech Dominance-1 (国際刑事裁判所対アメリカ政府：米国によるITテクノロジーの独占に脅かされる国際社会)	和訳発表、 重要語句、表現、文法の確認
第13回	European Fear for U.S. Tech Dominance-2	重要語句、表現、文法の確認 背景のリサーチ、意見の発表
第14回	review test-3	前回までの内容・語句・表現の応用の復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間半を標準とする】
1.読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。また、予習の確認、内容理解の支援としての宿題を随時行って提出する。
２．読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。
３．各トピックごとに行われる復習テストの準備をすることによって、語彙や表現の定着、内容についての深い理解を図る。
4. 全体的なテーマに関連した短い意見文を作成する。

【テキスト（教科書）】
初回に指示する。また随時教師が提供する。

【参考書】
参考書はとくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】
予習としての内容理解や宿題、リサーチ30％、授業での作文などへの積極的取組20％、復習テストもしくは和訳の修正や意見文50％。

【学生の意見等からの気づき】
英語資料を通じて、現代の世界の様々な側面を広く, また多様な視点から知ることに意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう引き続き努力したい。

【Outline (in English)】
〈Course outline〉
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
〈Learning Objectives〉
This course has two major objectives. One of them is to help students acquire the level of English reading skills and vocabulary required of well-educated persons on international settings.
The other objective is to help students broaden their perspectives as future professional members of international community through dealing with English materials that expose them to contemporary global issues.
〈Learning activities outside classroom〉
Before each class meeting, students will be requested to do one or two of the following tasks：
1.Carefully read assigned parts of the materials and do homework which is designed to measure your comprehension and place stories in context.
2.Summarize a short audio-visual material.
3. Research on relevant topics.
4. After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which will be frequently conducted.
5.You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course.
Your required study time outside of the classroom is roughly one and a half hours for each class.
〈Grading criteria〉
Final grading will be decided based on your preparation for class (30%), contribution to class through presenting research and opinions (20%), and review tests(50%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.
The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.
A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.
General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.
A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.
General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalized feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples Assignment practice
2	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The News Media In The Past.
3	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The History of Electronic Media &Expansion Reading
4	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Citizen Journalism
5	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Ethical Journalism Unit 1 Mini-test
6	THEME II EDUCATION (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Education Around the World
7	THEME II EDUCATION (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Testing In Education
8	THEME II EDUCATION (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 4 - Finding Supporting Details Alternative Education
9	THEME II EDUCATION (part 4)	Skills for the 21st Century Unit 2 Mini-test
10	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers Supply and Demand in the Global Economy
11	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers The Workforce of the 21st Century
12	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Communication Technology in Business

13	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Business and Sustainability n Unit 3 Mini-test
14	FINAL REVIEW TEST	FINAL REVIEW TEST

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
At the end of two of the three thematic units, an assignment will be set for the student based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and the critical thinking activities in the unit. This task is intended to take 45-60 minutes.
Some readings and textbook vocabulary exercises from the textbook may be set as homework. Exercises set for home study will be completed through the Learning Management System.

【テキスト（教科書）】
Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ￥3,000 - Jo McEntire &Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-65782-2

【参考書】
English-Japanese dictionaries
Online language reference - collocation resources

【成績評価の方法と基準】
Assignments 25%
Mini-tests 35%
Final Test 20%
Participation 20%
No credits will be given if the student is absent five times without adequate reason.
Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.
Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence
Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【学生の意見等からの気づき】
Assignment tasks will be simplified and be processed entirely through the Learning Mangement system.

【学生が準備すべき機器他】
The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.
The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.
The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.
A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.
General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalized feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.
GRADING CRITERIA
Assignments 25%
Mini-tests 35%
Final Test 20%
Participation 20%
No credits will be given if the student is absent four times.
Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.
Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence
Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

小畑　美貴

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストは、TEDトークでの話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。
課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は，原則対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit2 Sleep Matters (Health Science) Part A	「睡眠の重要性」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
3	Unit2 Sleep Matters (Health Science) Part B	「睡眠の重要性」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
4	Unit 3 Cyborg Tech (Engineering) Part A	「サイボーグ」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
5	Unit 3 Cyborg Tech (Engineering) Part B	「サイボーグ」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
6	Vocabulary test 1 and Review of Unit 2-3	Unit 2-3の単語テスト及びレビューを行う。
7	Unit 4 Happy Planet (Statistics) Part A	「幸福度の測定」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
8	Unit 4 Happy Planet (Statistics) Part B	「幸福度の測定」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
9	Unit 5 Career Paths (Business) Part A	「将来設計」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
10	Unit 5 Career Paths (Business) Part B	「将来設計」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する
11	Vocabulary test 2 and Review of Unit 4-5	Unit 4-5の単語テスト及びレビューを行う。
12	TOEIC練習問題（プリント配布）	TOEICのReading, Listeningセクションの問題を解き、長期休暇期間中の英語の学習の仕方を学ぶ。
13	春学期のまとめ	春学期に学習した内容を復習する。
14	授業内学期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

【テキスト（教科書）】
Longshaw, Robin (2014) "21st Century Reading Creative Thinking and Reading with TED Talks (Level 3)", Cengage Learning.
ISBN: 9781305265714
※教科書販売期間中に必ず購入すること。（秋学期も継続して使用します。）

【参考書】
英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
授業前課題　45％
単語テスト　20％
学期末試験　25％
授業への積極的な参加姿勢　10％

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。
授業にはパソコンを持参して下さい。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
[Learning Objectives]
The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.
Students are expected to spend one hour to understand the course content.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (45%), [2] vocabulary test (20%), [3] in-class contribution (10%), and [4] final exam (25%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

中野　里美

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
This course also seeks to promote reading skills and promote critical thinking skills to read these global issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
To begin with, students will be given TOEIC reading as warm-up handouts, then read the textbook, and finally be given some comments. Feedback about the classes will be carried out on the last week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction and guidance	Explaining how to study in this class
第2回	Reading global issues	Confronting backlash, 193 nations commit to speed gender equality
第3回	Reading global issues	Confronting backlash, 193 nations commit to speed gender equality
第4回	Reading domestic issues	Japanese Novelist Asako Yuzuki ‘Butter’ in Reaction to Male Media
第5回	Reading global issues	In South Korea, deepfake porn wrecks women’s lives and deepens conflict
第6回	Reading global issues	Greenlanders unite to fend off the US as Trump seeks control of Arctic Island
第7回	Reading global issues	Latin Countries Accept Deportees from US
第8回	Reading global issues	Mexico’s Sheinbaum mocks Trump’s ‘Gulf of America’
第9回	Reading global issues	White House bars AP reporter
第10回	Reading global issues	Angry protesters from NY to Alaska assail Trump and Musk in rallies
第11回	Reading global issues	Macron Says European Force for Ukraine Could ‘Respond’ If attacked by Russia
第12回	Reading global issues	Turkey and Israel face mounting tensions over post-Assad Syria
第13回	Reading global issues	We tried DeepSeek. It worked well, until we asked about Tiananmen and Taiwan
第14回	Review	Review &term-end exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
Students will need to be prepare and review for the textbook before and after this class.

【テキスト（教科書）】
English through the News Media: 2026 Edition by Masami Takahashi Asahi Press

【参考書】
Participants will be given information of references in the class.

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 60%, and tasks in this class 40%
3分の1以上または5回以上の欠席で不合格、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書、日付とフルネーム入りの領収書などの証明書持参のこと）などは考慮します。遅刻は授業開始後２０分以降の入室から。３回目の遅刻を１回欠席に換算します。遅延証明書があれば、当日の授業内持参のみ考慮します。毎回の授業で平常点が２回生じます。授業内課題テスト(40%)と期末テスト(60%)を合計して１００％とし評価します。

【学生の意見等からの気づき】
If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
（Learning Objectives）
This course also seeks to promote reading skills and promote critical thinking skills to read these global issues.
(Learning activities outside of classroom）
Students will need to be prepare and review for the textbook before and after this class.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

小林　直樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
①アカデミックな内容の英文を正確に理解できる。
②アカデミックな内容の文章でよく使われる単語や表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。所定教科書の設問の答えをチェックする機会も設けます。また、リーディングの授業ですが、リスニングを行う機会を多く設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。またリスニングを行います。
2	Chapter 1: Sleeping on Trains	科学についてお英文を読み、文法、語彙などを学ぶ。
3	Chapter 2: Bipedal Walking and Communication	科学についてお英文を読み、文法、語彙などを学ぶ。
4	Chapter 3: The Male and Female Brain	科学についてお英文を読み、文法、語彙などを学ぶ。
5	Chapter 4: The Five Tibetan Rites for Good Health	科学についてお英文を読み、文法、語彙などを学ぶ。
6	所定教科書以外の英文を読む。	多様な形で英語に親しんでもらいます。
7	Chapter 5: A Truly Medical　Herbs	医療に関しての英文を読み、文法、語彙などを学ぶ。
8	Chapter 6: The Healthiest Fruit?	医療に関しての英文を読み、文法、語彙などを学ぶ。
9	Chapter 7: Life-changing Smart Devices	工学、技術に関しての英文を読み、文法、語彙などを学ぶ。
10	リスニング	英語の長文をリスニングして、聞き取った内容を提出してもらいます。
11	所定教科書以外の英文を読む。	多様な形で英語に親しんでもらいます。
12	TOEIC練習問題	TOEICReading,Listeningの練習問題を解き、語彙や文法を学ぶ。
13	今学期のまとめ	今学期に学習した内容を復習する。
14	授業内学期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習をすること。
また指示された場合には、予習をすること。

【テキスト（教科書）】
Science Alive (南雲堂) ISBN978-4-7971-7304-0

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト 70%
授業への積極的な参加姿勢　30％

【学生の意見等からの気づき】
今年度からARを担当します。

【学生が準備すべき機器他】
無し。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定
の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
[Learning Objectives]
The goals of this course are [1]to understand academic texts precisely, [2] to improve English reading skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting. Students are expected to spend one hour to understand the course content.
[Grading Criteria/Policy]
Finalgrade will be calculated based on [1] pre-class assignments (60%), [2] vocabulary test (15%), [3] in-class contribution (10%), and [4] final assignment (15%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＩ

ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
このクラスは、アカデミックな内容を読むための基礎力を養うことを目的とする。
主な目標は以下の通りである：
- 科学記事の理解: 約400語の科学記事の概要を把握できるようになる。
- 論理構成の理解: 英語の論理構成や文脈を意識しながら読解力を向上させる。
- 速読技術の習得: スキミングとスキャニングを活用し、効率的に速読する技術を習得する。
- 要約の作成: 読んだ内容を英語で要約できるようになる。
- 表現力の強化: 授業で学んだ文法や語彙を使って、効果的に表現できるようになる。
- 問題解決: グループディスカッションなどにより、理解を深めながら問題解決力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では、読解力を養うために、スキミングやスキャニング、要約、グループディスカッションなど、さまざまな活動を行う。学生が積極的に発言し参加できるような場を作り、主体的な学びを促進する。教材の内容や背景についても解説を行い、理解を深めるサポートをする。また、語彙テストを含む定期的な小テストを実施し、提出された課題やテストは採点の上、返却する。課題等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Introduction to Academic Reading	Introduction Course overview Goal Setting
2	Unit 1	Fast Asleep?
3	Unit 1	Fast Asleep?
4	Unit 2	All Gone?
5	Unit 2	All Gone?
6	Unit 4	As Clever as Us?
7	Unit 4	As Clever as Us?
8	Unit 6	Powering our world
9	Unit 6	Powering our world
10	Unit 7	Hot, Powerful, and Clean
11	Unit 7	Hot, Powerful, and Clean
12	Unit 9	Where are all the trees
13	Unit 9	Where are all the trees
14	Review, Final Exam	Review, wrap-up, test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 毎週の宿題（教科書の問題や授業支援システム上の読解・文法練習）
- 教科書内容を予習・復習
- 語彙の復習（小テストを定期的に行う）
- 分からない単語は事前に辞書で意味や発音を確認すること

【テキスト（教科書）】
Seisuke Yasunami and Richard S. Lavin, Science Quest, Seibido, 2,200円＋税、ISBN: 9784791972050

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
- 期末テスト　５０％
- 小テスト　３０％
- クラス内課題取り組み状況　２０％
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
語彙や要約のサンプル等をHoppiに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
Learning Objectives:
This class aims to develop fundamental skills for reading academic content. The main objectives include understanding scientific articles, improving grammar and comprehension of logical structures, mastering speed reading techniques, creating effective summaries, enhancing expressive abilities, and fostering problem-solving skills.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to complete regular homework and review the course material before class. Regular vocabulary tests will be administered, so special attention should be given to reviewing new vocabulary.
Grading Criteria:
In-class activities (20%), Quizzes (30%), Final Exam (50%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＩ

ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
このクラスは、アカデミックな内容を読むための基礎力を養うことを目的とする。
主な目標は以下の通りである：
- 科学記事の理解: 約400語の科学記事の概要を把握できるようになる。
- 論理構成の理解: 英語の論理構成や文脈を意識しながら読解力を向上させる。
- 速読技術の習得: スキミングとスキャニングを活用し、効率的に速読する技術を習得する。
- 要約の作成: 読んだ内容を英語で要約できるようになる。
- 表現力の強化: 授業で学んだ文法や語彙を使って、効果的に表現できるようになる。
- 問題解決: グループディスカッションなどにより、理解を深めながら問題解決力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では、読解力を養うために、スキミングやスキャニング、要約、グループディスカッションなど、さまざまな活動を行う。学生が積極的に発言し参加できるような場を作り、主体的な学びを促進する。教材の内容や背景についても解説を行い、理解を深めるサポートをする。また、語彙テストを含む定期的な小テストを実施し、提出された課題やテストは採点の上、返却する。課題等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Introduction to Academic Reading	Introduction Course overview Goal Setting
2	Unit 1	Fast Asleep?
3	Unit 1	Fast Asleep?
4	Unit 2	All Gone?
5	Unit 2	All Gone?
6	Unit 4	As Clever as Us?
7	Unit 4	As Clever as Us?
8	Unit 6	Powering our world
9	Unit 6	Powering our world
10	Unit 7	Hot, Powerful, and Clean
11	Unit 7	Hot, Powerful, and Clean
12	Unit 9	Where are all the trees
13	Unit 9	Where are all the trees
14	Review, Final Exam	Review, wrap-up, test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 毎週の宿題（教科書の問題や授業支援システム上の読解・文法練習）
- 教科書内容を予習・復習
- 語彙の復習（小テストを定期的に行う）
- 分からない単語は事前に辞書で意味や発音を確認すること

【テキスト（教科書）】
Seisuke Yasunami and Richard S. Lavin, Science Quest, Seibido, 2,200円＋税、ISBN: 9784791972050

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
- 期末テスト　５０％
- 小テスト　３０％
- クラス内課題取り組み状況　２０％
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
語彙や要約のサンプル等をHoppiに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
Learning Objectives:
This class aims to develop fundamental skills for reading academic content. The main objectives include understanding scientific articles, improving grammar and comprehension of logical structures, mastering speed reading techniques, creating effective summaries, enhancing expressive abilities, and fostering problem-solving skills.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to complete regular homework and review the course material before class. Regular vocabulary tests will be administered, so special attention should be given to reviewing new vocabulary.
Grading Criteria:
In-class activities (20%), Quizzes (30%), Final Exam (50%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

小畑　美貴

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストは、TEDトークでの話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。
課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は，原則対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit2 Sleep Matters (Health Science) Part A	「睡眠の重要性」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
3	Unit2 Sleep Matters (Health Science) Part B	「睡眠の重要性」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
4	Unit 3 Cyborg Tech (Engineering) Part A	「サイボーグ」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
5	Unit 3 Cyborg Tech (Engineering) Part B	「サイボーグ」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
6	Vocabulary test 1 and Review of Unit 2-3	Unit 2-3の単語テスト及びレビューを行う。
7	Unit 4 Happy Planet (Statistics) Part A	「幸福度の測定」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
8	Unit 4 Happy Planet (Statistics) Part B	「幸福度の測定」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
9	Unit 5 Career Paths (Business) Part A	「将来設計」に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
10	Unit 5 Career Paths (Business) Part B	「将来設計」に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する
11	Vocabulary test 2 and Review of Unit 4-5	Unit 4-5の単語テスト及びレビューを行う。
12	TOEIC練習問題（プリント配布）	TOEICのReading, Listeningセクションの問題を解き、長期休暇期間中の英語の学習の仕方を学ぶ。
13	春学期のまとめ	春学期に学習した内容を復習する。
14	授業内学期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

【テキスト（教科書）】
Longshaw, Robin (2014) "21st Century Reading Creative Thinking and Reading with TED Talks (Level 3)", Cengage Learning.
ISBN: 9781305265714
※教科書販売期間中に必ず購入すること。（秋学期も継続して使用します。）

【参考書】
英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
授業前課題　45％
単語テスト　20％
学期末試験　25％
授業への積極的な参加姿勢　10％

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。
授業にはパソコンを持参して下さい。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
[Learning Objectives]
The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.
Students are expected to spend one hour to understand the course content.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (45%), [2] vocabulary test (20%), [3] in-class contribution (10%), and [4] final exam (25%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

吉川　直澄

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用する語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、テキストを中心とする講義と演習を行う。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは提出された課題レポートから実例や問題点を取り上げ、全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Guidance ガイダンス	授業の説明／予習すべき項目の指示／課題の提示
②	Unit 1 The Scientific Method 精読	テキストの7ページと8ページの精読／科学的方法について／パラグラフの構造の説明／課題の提示
③	Unit 1 The Scientific Method 文法	テキストの9ページと10ページの練習問題／受動態／科学英語の語彙と数式の読み方／課題の提示
④	Unit 2 Observing the Solar System 精読	テキストの11ページと12ページの精読／太陽系の観測史について／課題の提示
⑤	Unit 2 Observing the Solar System 文法	テキストの13ページと14ページの練習問題／方程式の読み方　他動詞の目的語となる動名詞とto-不定詞／課題の提示
⑥	Unit 3 The Beauty of Mathematics 精読	テキストの15ページと16ページの精読／数式の美しさについて／課題の提示
⑦	Unit 3 The Beauty of Mathematics 文法	テキストの17ページと18ページの練習問題／数式の記号について　関係代名詞／課題の提示
⑧	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 精読	テキストの19ページと20ページの精読／電球とLEDについて／課題の提示
⑨	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 文法	テキストの21ページと22ページの練習問題／図形・面積・体積　関係副詞／課題の提示
⑩	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 精読	テキストの23ページと24ページの精読／放射性物質について／課題の提示
⑪	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 文法	テキストの25ページと26ページの練習問題／長さ・幅・高さ・深さ　分詞構文／課題の提示
⑫	Unit 6 The Man Who Saved Millions 精読	テキストの27ページと28ページの精読／ジェンナーの業績／課題の提示
⑬	Unit 6 The Man Who Saved Millions 文法	テキストの29ページと30ページの練習問題／工具と付属部品の名称　関係代名詞／課題の提示
⑭	学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポートの提示／まとめと解説	文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。学生の皆さんは英語専用のノートを作成し、それにテキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、何度も反復練習をするように。

【テキスト（教科書）】
Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future,Dave Rear &Kayoko Murakami, 南雲堂, 2019, 1900円.

【参考書】
『理科系のための英語力強化法』、ジャパンタイムズ、2002年　『公式TOEIC(R)Listening &Reading 問題集 9』、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、2022年

【成績評価の方法と基準】
全13回の課題レポート (45%) 、学期末レポート課題 (20%) 、学期末に実施する文法・語彙確認テスト（30%) 、授業への積極的な参加・貢献 (5%) を総合的に検討して評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が5回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようお手伝いします。質問があれば何時でもどうぞ。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は「学習支援システム」を使用する。

【その他の重要事項】
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
(Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.
(Learning Objective)
By the end of the course, students will be able to :
- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.
(Learning activities outside of classroom
Students are expected to:
- spend at least one hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.
(Grading Criteria/Policy)
Final grade will be calculated according to the following process:
13 weekly class assignments: 45%, final term assignment: 20%, final test: 30% and in-class contribution: 5%.
Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

今政　肇

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
・パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、英文を読めるようになる。
・十分な語彙力、文法力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
予習して分からなかったところなどを確認しながら、テキストの内容を確認します。リスニングや音読、作文、文法事項の確認なども交えます。また、語学は反復が重要ですので、随時小テストを行い、前回の授業で学んだことの定着を図ります。課題等へのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。多読および読書ログについて説明します。
2	Unit 1 A	Food and Health(Sweet Love)
3	Unit 1 B	Food and Health (Food for the Future)
4	Unit 2 A	Call of the Wild (Song of the Humpback)
5	Unit 2 B	Call of the Wild (The 1,000-Year Bird Song)
6	Unit 3 A	History Detectives (Was King Tut Murdered?)
7	Unit 3 B	History Detectives (Who Killed the Iceman?)
8	Unit 4 A	Cool Jobs (Getting the Shot: An Interview with Joel Sartre)
9	Unit 4 A	Traditions and Rituals (Living Treasures)
10	Unit 4 B	Traditions and Rituals (The Changing Face of Kung Fu)
11	Unit 5 A	Finding Wonders (The Secrets in the Sand)
12	Unit 5 B	Finding Wonders (The Stories in the Rocks)
13	Unit 6 A	Reef Encounters (Cities Beneath the Sea)
14	Final Review	期末テスト 読書ログのチェック まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読み設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。
・各ユニットの復習を目的としてクイズをおこないますので、準備をして臨んでください。
・大学図書館の英語多読図書（YL＝読みやすさレベル：0.8 2.4)を週70分（1日10分)、約7000字読むことを目標に、読書ログ（タイトル、感想、字数）をつける。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（一ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください)。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【テキスト（教科書)】
Bohlke,D., Douglas,N., Huntley,H., MacIntyre,P., and Rogers, B., (2020) Reading Explorer Level 2, Third Edition,
Student Book with Spark Access + e-Book (1 year access)
ISBN: 9798214085630
※教科書販売期間中に必ず購入すること。（秋学期も継続して使用します。）

【参考書】
学習者用の英英辞書（英英辞書を積極的に使ってみてください）：
https://dictionary.cambridge.org/
法政大学の多読サイト： https://hosei.libguides.com/tadoku
初級レベル：
・ Oxford Reading Tree (YL 0.8-0.9):
Picture-based, perfect for beginners
・ Penguin Readers Easystarts (YL 0.8):
Simple stories, many topics
中級レベル；
・ Cambridge/Oxford/Macmillan Readers:
Wide range of original and adapted stories
・ Penguin Readers:
Large selection including movie adaptations

【成績評価の方法と基準】
宿題　１５％
授業への参加　１５％
クイズ　２５％
期末テスト　２５％
読書ログ　２０％
＊正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊30分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。

【学生の意見等からの気づき】
私語をする受講生を注意してほしいとの意見がありましたので、静かな教室環境の維持に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
授業の進度や受講生の皆さんの要望を踏まえて、シラバスの内容を修正することがあります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on
an understanding of paragraph structure.
[Learning Objectives]
(1) By reading graded books extensively, you can feel more comfortable reading English, and by reading more advanced texts, you can come into contact with a richer vocabulary and expressions.
(2) By coming into contact with authentic English speech and expressions through audiovisual media, you can develop sensitivity toward the language in general.
Set aside approximately 10 minutes a day or 70 minutes a week to read the books that you have chosen and fill out your reading log.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments and homework (15%), [2] class participation (15%), [3] quiz (25%), [4]final test (25%), [5]reading log [20%]

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

乾　展子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
学術的な文章を読むための十分な語彙力と文法力を身につける。また、パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、訳読に頼らず、英文を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の前までに予習をしてもらいます。予習をを基に、テキストの内容を確認していきます。音読や文法事項の確認なども交えます。毎回の授業で課題を提出してもらい、次回の授業内で課題等へのフィードバックを実施します。また、各単元での学習内容の定着を目指した単元毎のテストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、予習課題の内容、評価方法などについての説明
第2回	Unit 1(1)	語彙の確認 本文内容把握
第3回	Unit 1(2)	本文内容把握 本文内容理解問題 文法演習
第4回	単元miniテスト Unit 2(1)	語彙の確認 本文内容把握
第5回	Unit 2(2)	本文内容把握 本文内容理解問題 文法演習
第6回	単元miniテスト Unit 3(1)	小テスト 語彙の確認 本文内容把握
第7回	Unit 3(2)	本文内容把握 本文内容理解問題 文法演習
第8回	単元miniテスト Unit 4(1)	理解度の確認 語彙の確認 本文内容把握
第9回	Unit 4(2)	本文内容把握 本文内容理解問題 文法演習
第10回	単元miniテスト Unit 5(1)	小テスト 語彙の確認 本文内容把握
第11回	Unit 5(2)	本文内容把握 本文内容理解問題 文法演習
第12回	単元miniテスト Unit 6(1)	語彙の確認 本文内容把握
第13回	Unit 6(2)	本文内容把握 本文内容理解問題 文法演習
第14回	単元miniテスト これまでのまとめ	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・授業前に指定されている課題を行い、提出してください。
・当該授業で扱うUnitの本文の予習として、音声を聞き内容を確認してください。
・Unit毎でミニテストを実施しますので、復習をしてください。

【テキスト（教科書）】
野崎嘉信 / 松本和子 / Alastair Graham-Marr 編著『Science Bridge ニュースでつなぐ日常と科学』（金星堂）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
単元miniテスト 60％
予習課題　　10%
授業内課題　　20%
単語テスト 10%

【学生の意見等からの気づき】
英語能力をを少しでも各自が伸ばせるように授業に取り組んでいきたいと思います。質問はいつでもしてください。

【学生が準備すべき機器他】
授業で辞書を使用する場合は、辞書を持参してください。携帯電話の辞書の使用は認めません。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることがあります。

【注意事項】
・２０分以上の遅刻、早退は欠席１回として扱います。
・正当な理由なく5回以上欠席した場合、不可とします。
・授業中に携帯を使用している場合は退室してもらい、欠席とします。

【Outline (in English)】
[Course outline]
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English.
[Learning Objectives]
Based on these skills, the class aims to develop reading comprehension skills that enable students to accurately understand the content of individual sentences through close reading, to quickly and concisely summarize entire sentences, and to search for necessary information to understand them.
[Learning activities outside of classroom]

In preparation for class, please listen to the audio to check the lesson content. Be sure to look up any unfamiliar words in the dictionary.There will be a quiz every two units, so please review.
[Grading Criteria /Policy]
The final grade will be calculated based on unit tests (60%), pre-class assignments (10%), classwork (20%), and vocabulary quizzes (10%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

尾関　裕子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
１英文を正確にとらえる　２情報を整理する　３表現として使用された英語を身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ひとつのユニットを二回の授業で終える。１．本文読解　その際にはChunkingを行う２．内容の確認と、本文の中で使われていた表現を身に着けるエクササイズを実施する。実施にあたってはペアワークを行う。提出したものは次回の授業時に採点、評価のうえ返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	簡単な英文を使い、この授業のエクササイズの例を紹介。エクササイズを実施。
2	unit 1	本文読解　Let Us Be Ethical Consumers
3	unit 1	エクササイズ実施（エクササイズの方法は各ユニット共通です：Choosing, Oral Reading, Defining, Repeating, Retelling, Commenting）
4	unit 2	本文読解　Incusive Education for People with Disabilities
5	unit 2	エクササイズ実施
6	unit 3	本文読解　Debate Over Transugender Athletes
7	unit 3	エクササイズ実施
8	unit 4	本文読解　Robots as Family Members to Love
9	Unit 4	エクササイズ実施
10	Unit 5	本文読解　Japan's Baby Stroller War
11	Unit 5	エクササイズ実施
12	Unit 6	本文読解　Pay Taxes and Save Cats and People
13	Unit 6	エクササイズ実施
14	これまでのまとめ/試験	英文を正確にとらえる読解が行われていたか、扱った英文内容を既習した情報として身に着けているか使われていた英語表現は身についているかを確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
テキストの読解、問題の予習をします。授業では相手のいるエクササイズを実施します。その時間が有意義なものになるよう、予習をしておく必要があります。

【テキスト（教科書）】
Reading in More Action　靜　哲人著　金星堂　2024年　2000円

【参考書】
必用に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業に対する姿勢）２０%、　提出物３０%、　試験５０%

【学生の意見等からの気づき】
授業時には和訳も行いますが、それを板書することはありません。口頭で学生の和訳を確認する程度になりますが、なるべくゆっくり皆さんが理解できるスピードで授業をすすめたいと思います。よくわからない場合は遠慮せずに質問してください。

【その他の重要事項】
英文を読むには、基本的な文法の理解と語彙の知識が欠かせません。英語読解力をアップしましょう。時には英文法の確認に時間を多く使うこともあると思いますが、感覚的に文をとらえるのではなく、正確に読む術を身につけていただきたいと思います。英文和訳が到達地点ではありません。使われていた英語の表現を身につけ、「英語力」の養成に努めましょう。

【Outline (in English)】
The purpose of this calss is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English.
Learning Objectives: Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
Learning activities outside of class room: Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria:
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination 50% quiz 30% in-class contribution 20%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

安田　孝子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（概要）
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。
（目的）
教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を強化することを目的とします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読し、様々な表現力も養成します。

【到達目標】
様々な分野のエッセイを精読し、さらには音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
＜進め方＞
教科書のReading Partは、クラス全体で毎時間音読トレーニングを行います。音読を習慣化することで、正しい発音への意識を高め、英文の持つリズムをつかみます。エッセイの内容については、事前に指名した担当者にphrase readingで和訳してもらい、その後は英語/日本語の音読を全員で行い、内容の理解を深めます。また、Reading Part以外のExercisesは、その場で指名した方に答えてもらいます。
＜方法＞
授業では、「語彙力・読解力」の育成だけでなく、「速読力・表現力」の向上も目指し、「音読・シャドーイング」活動を大いに行います。また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クラスオリエンテーション Chapter 1	テキスト紹介、音読活動、シャドーイング、その他について。 Chapter 1 Reading Partの音声を視聴 音読活動 訳読
第2回	Chapter 1	1. 音声視聴 / Reading Partの音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第3回	Chapter 2	1. Chapter 1 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Partの音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第4回	Chapter 2	1. 音声視聴 / Reading Partの音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第5回	Chapter 3	1. Chapter 2 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Partの音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第6回	Chapter 3	1. 音声視聴 / Reading Partの音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第7回	Chapter 4	1. 中間試験 / Chapter 3 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Partの音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第8回	Chapter 4	1. 音声視聴 / Reading Partの音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第9回	Chapter 5	1. Chapter 4 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Partの音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第10回	Chapter 5	1. 音声視聴 / Reading Partの音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第11回	Chapter 6	1. Chapter 5 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Partの音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第12回	Chapter 6	1. 音声視聴 / Reading Partの音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第13回	Chapter 7	1. Chapter 6 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Partの音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第14回	Chapter 7 (Chapter 1～7)	期末試験 前期学習のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ￥2,000+税

【参考書】
毎時間英和辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
Chapter終了毎の小テスト(10点×5回=50)と中間・期末試験(各25点)で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の6割獲得でC-,C,C+、7割獲得でB-,B,B+、8割獲得でA-,A,A+、9割以上獲得でSとする。

【学生の意見等からの気づき】
「音読」トレーニングによる成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、語彙力、読解力および表現力のさらなる発展を目指します。

【その他の重要事項】
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・欠席は3回までまではカウントしませんが、4回以上の欠席の場合は、特別な事情でない限りは中間・期末試験の受験を認めません。
・遅刻は授業開始後10分程度までは入室可ですが、20分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
・授業態度の悪い受講者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動
　不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・小テスト終了後には毎回解答を提示するので、各自で採点と確認を行ってもらいます。
（注）1.欠席等で受けられなかった場合でも再テストは行いません。
2.実施回数は5回を予定しておりますが、授業の進捗状況次第では回数の変更が生じる
可能性があります。
・中間/期末試験を受験しなかった場合は評価の対象になりません。
・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーなどして使用することは認めません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on
an understanding of paragraph structure.
This class deals with essays with a variety of themes. Reading these essays (some of them are rather short) carefully enhances the development of students' skill in reading comprehension and increasing vocabulary.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to acquire the skill of reading fluently, increasing vocabulary and a variety of expression.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the reading part of the chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based the following.
Mid-term exam : 25%(the date of mid-term exam is undecided)
Term-end exam : 25%
Short exams : 50%(short exams will be held 6 times, ten for each)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

安田　孝子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（概要）
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。
（目的）
教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を強化することを目的とします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読し、様々な表現力も養成します。

【到達目標】
様々な分野のエッセイを精読し、さらには音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
＜進め方＞
教科書のReading Partは、クラス全体で毎時間音読トレーニングを行います。音読を習慣化することで、正しい発音への意識を高め、英文の持つリズムをつかみます。エッセイの内容については、事前に指名した担当者にphrase readingで和訳してもらい、その後は英語/日本語の音読を全員で行い、内容の理解を深めます。また、Reading Part以外のExercisesは、その場で指名した方に答えてもらいます。
＜方法＞
授業では、「語彙力・読解力」の育成だけでなく、「速読力・表現力」の向上も目指し、「音読・シャドーイング」活動を大いに行います。また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クラスオリエンテーション Chapter 1	テキスト紹介、音読活動、シャドーイング、その他について。 Chapter 1 Reading Partの音声を視聴 音読活動 訳読
第2回	Chapter 1	1. 音声視聴 / Reading Partの音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第3回	Chapter 2	1. Chapter 1 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Partの音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第4回	Chapter 2	1. 音声視聴 / Reading Partの音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第5回	Chapter 3	1. Chapter 2 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Partの音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第6回	Chapter 3	1. 音声視聴 / Reading Partの音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第7回	Chapter 4	1. 中間試験 / Chapter 3 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Partの音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第8回	Chapter 4	1. 音声視聴 / Reading Partの音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第9回	Chapter 5	1. Chapter 4 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Partの音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第10回	Chapter 5	1. 音声視聴 / Reading Partの音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第11回	Chapter 6	1. Chapter 5 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Partの音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第12回	Chapter 6	1. 音声視聴 / Reading Partの音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第13回	Chapter 7	1. Chapter 6 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Partの音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第14回	Chapter 7 (Chapter 1～7)	期末試験 前期学習のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ￥2,000+税

【参考書】
毎時間英和辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
Chapter終了毎の小テスト(10点×5回=50)と中間・期末試験(各25点)で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の6割獲得でC-,C,C+、7割獲得でB-,B,B+、8割獲得でA-,A,A+、9割以上獲得でSとする。

【学生の意見等からの気づき】
「音読」トレーニングによる成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、語彙力、読解力および表現力のさらなる発展を目指します。

【その他の重要事項】
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・欠席は3回までまではカウントしませんが、4回以上の欠席の場合は、特別な事情でない限りは中間・期末試験の受験を認めません。
・遅刻は授業開始後10分程度までは入室可ですが、20分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
・授業態度の悪い受講者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動
　不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・小テスト終了後には毎回解答を提示するので、各自で採点と確認を行ってもらいます。
（注）1.欠席等で受けられなかった場合でも再テストは行いません。
2.実施回数は5回を予定しておりますが、授業の進捗状況次第では回数の変更が生じる
可能性があります。
・中間/期末試験を受験しなかった場合は評価の対象になりません。
・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーなどして使用することは認めません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on
an understanding of paragraph structure.
This class deals with essays with a variety of themes. Reading these essays (some of them are rather short) carefully enhances the development of students' skill in reading comprehension and increasing vocabulary.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to acquire the skill of reading fluently, increasing vocabulary and a variety of expression.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the reading part of the chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based the following.
Mid-term exam : 25%(the date of mid-term exam is undecided)
Term-end exam : 25%
Short exams : 50%(short exams will be held 6 times, ten for each)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.
The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.
A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.
General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of five readings in which the skills and strategies are applied and evaluated. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.
A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.
General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalized feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples Assignment practice
2	THEME I - GLOBAL HEALTH (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES Identifying Main Ideas 1 "The State of the World's Health".
3	THEME I - GLOBAL HEALTH (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 1 Identifying Main ideas 2 "Changing Attitudes to Cardiovascular Disease"
4	THEME I - GLOBAL HEALTH (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 2 Cause &Effect "Medicine &Genetic Research"
5	THEME I - GLOBAL HEALTH (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Managing Unknown vocabulary 1 "Malaria-Portrait of a Disease"
6	THEME I GLOBAL HEALTH (part 5)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Managing unknown vocabulary 2 "The Health Care Divide"
7	THEME I GLOBAL HEALTH (part 6)	Unit 1 Mini-test Academic Reading based on Theme 1
8	THEME II MULTI-CULTURAL SOCIETIES (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 4 - Continuing Ideas "The Age of Immigration"
9	THEME II MULTI-CULTURAL SOCIETIES (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - Indetifying Point of View 1 "Who are Today's Immigrants?"
10	THEME II MULTI-CULTURAL SOCIETIES (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - Identifying Point of View 2 "The Meeting of Cultures"
11	THEME II MULTI-CULTURAL SOCIETIES (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 6 - Reduced Relative Clauses 1 "One World:One Culture?"
12	THEME II MULTI-CULTURAL SOCIETIES (part 5)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Reduced Relative Clauses 2 Communication Technology in Business

13	THEME II MULTI-CULTURAL SOCIETIES (part 6)	Unit 2 Mini-test Academic Reading based on Theme 2
14	FINAL REVIEW TEST	FINAL REVIEW TEST

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
At the end of the thematic units, an assignment will be set for the student based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and the critical thinking activities in the unit. This task is intended to take 45-60 minutes.
Some readings and textbook vocabulary exercises from the textbook may be set as homework. Exercises setfor home study will be completed through the Learning Management System.

【テキスト（教科書）】
Making Connections 3 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ￥3,000 - Pakenham, McEntire & Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-66226-0

【参考書】
English-Japanese dictionaries
Online language reference - collocation resources

【成績評価の方法と基準】
Assignments 25%
Mini-tests 35%
Final Test 20%
Participation 20%
No credits will be given if the student is absent four times.
Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.
Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence
Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【学生の意見等からの気づき】
Assignment tasks will be simplified and be processed entirely through the Learning Mangement system.

【学生が準備すべき機器他】
The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.
The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.
The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.
A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.
General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalized feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.
GRADING CRITERIA
Assignments 25%
Mini-tests 35%
Final Test 20%
Participation 20%
No credits will be given if the student is absent four times.
Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.
Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence
Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

鈴木　幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To build a strong vocabulary.
2. To improve grammatical competence.
3. To enhance academic reading ability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this course, students will practice reading articles: picking out key words/sentences, understanding the flow of paragraphs, and making summaries. You will be expected to attend all lessons and contribute to classroom activities: reading task, Q &A, writing quiz, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class will be given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Orientation
	Unit 7 Group Behavior ①	Unit 7A A Crowd in Harmony (close reading)
2	Unit 7 Group Behavior ②	Unit 7A A Crowd in Harmony (comprehension and disccusion)
3	Unit 7 Group Behavior ③	Unit 7B Our Online Behavior (close reading)
4	Unit 7 Group Behavior ④	Unit 7B Our Online Behavior (comprehension and discussion)
5	Unit 8 Investigations ①	Unit 8A Who Killed the Emperor? (close reading)
6	Unit 8 Investigations ②	Unit 8A Who Killed the Emperor? (comprehension and discussion)
7	Unit 8 Investigations ③	Unit 8B In the Crime Lab (close reading)
8	Unit 8 Investigations ④	Unit 8B In the Crime Lab (comprehension and discussion)
9	Unit 9 Rediscovering the Past ①	Unit 9A Virtual Immprtal (close reading)
10	Unit 9 Rediscovering the Past ②	Unit 9A Virtual Immortal (comprehension and discussion)
11	Unit 9 Rediscovering the Past ③	Unit 9B Lure of the Lost City (close reading)
12	Unit 9 Rediscovering the Past ④	Unit 9B Lure of the Lost City (comprehension and discussion)
13	Presentation	Let's give an end-of-term presentation!
14	Final Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

【テキスト（教科書）】
Macintyre, Paul, and David Bohlke, 2020, Reading Explorer 4B, 3rd edition, Cengage Learning.
ISBN 9798214085883　Split 4B with Spark Access + e-Book (1 year access)　￥2,260（￥2,486 tax included）
（注）この教科書は前半A(Unit 1-6)・後半B(Unit 7-12)と分かれている教科書の後半Bになります。購入時にくれぐれもご注意ください。

【参考書】
Audio data will be useful for homework;
National Geographic Learining
https://www.eltngl.com/sites/readingexplorerseries/about-reading-explorer/levels

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in this course will be decided based on the following:
In-class activities &Homework: 30%
Assignment: 20%
Quiz: 20%
Exam: 30%
There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】
It seems that I talked and explained too much, so I would like to try to give you fewer hints and more opportunities to think by yourselves.

【Outline (in English)】
【Course Outline】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
【Learning Objectives】
The purpose of this class is to establish basic competence in reading academic level English thorough analysis of grammar, development of vocabulary, and knowledge of writing structure.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria】
Final grade will be calculated according to the following process: In-class activities &Homework (30%), Assignment (20%), Quiz (20%), and Exam (30%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
Develop reading skills specific to academic text from the field of science: identifying text structure and key components, learning common vocabulary and sentence patterns.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Through individual and collaborative tasks focusing on academic texts, students will acquire techniques and reading practices that will enhance their reading efficiency and effectiveness in academic pursuits.
Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Introduction to the course and its objectives; self-presentations.
第2回	What is a writing genre?	Identifying characteristics of various writing genres.
第3回	Strategies for effective academic reading.	Some basic rules and steps to make academic reading more efficient.
第4回	Text structure 1	Identifying the main idea of a text.
第5回	Text structure 2	Understanding the structure of academic texts.
第6回	Developing vocabulary 1	Strategies for learning academic vocabulary.
第7回	Developing vocabulary 2	Using context clues to understand unfamiliar words.
第8回	Previewing 1	Skimming a text for the main ideas.
第9回	Previewing 2	Scanning a text for specific information.
第10回	Textual cohesion 1	Understanding how ideas are connected in academic texts.
第11回	Textual cohesion 2	Cohesive devices 1 Explanation of the final written assignment.
第12回	Textual cohesion 3	Cohesive devices 2 In-class preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
第13回	Reading strategies review	Review of the contents of the class and exercises
第14回	Final evaluation	Online interviews

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be required to have read the texts under study before each lesson. Some in-class assignments will be completed after class as homework.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

【学生の意見等からの気づき】
なし

【Outline (in English)】
Outline:
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
Learning objectives:
Develop reading skills specific to academic text from the field of science: identifying text structure and key components, learning common vocabulary and sentence patterns.
Learning activities outside of classroom:
Students will be required to have read the texts under study before each lesson. Some in-class assignments will be completed after class as homework.
Grading criteria policy:
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩ

村上　弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈授業概容〉
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。
〈授業の目的・意義〉
科学技術が世界を変容させる時代にあって、理工学専門の国際的な教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身に着ける。
異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、日常的に得られる日本語情報を相対化し、国際人としての視野を広げと思考を深める。

【到達目標】
1. 将来、専門分野とそれを超えて、グローバルな場面で求められる英語の読解力、語彙力を身に着けて、幅広い分野の情報を英語で無理なく得ることのできる力を見につける。
2. 異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章に取り組むことによって、日常的に得られる日本語情報を相対化し、国際人としての視野と思考を広げる。
3. リスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く持つことによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
1. 読み物については、
現代の社会、また世界において重要なテーマを２～３選び、関連する資料を学生さんの予習を前提として、授業では丁寧に読みながら、文構造、語彙、表現、議論の展開を確実に理解していく
読み物のテーマについて、学生さんに英語で要点をまとめるよう求めたり、また教師からも背景知識を加えながら、随時説明を行う。
2. テーマに関連する視聴覚材料をネット等で聞き、内容確認等を行う
3. 各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テスト、ないし訳の修正や意見文の作成を行ってもらう。
4. 4. 1～3の受講生による日本語訳、リサーチ、サマリー、意見文については、随時Hoppiiにおいて、ないし授業中に作成、提出されたものを評価して返却、もしくは授業時に総評を行う。
授業は基本的に対面で行うが、情勢の変化や授業の進捗状況等によってオンラインに変更される場合もあるので、情報システムでのお知らせを常に確認されたい。
以下の授業計画は昨年度の例であり、取り上げるテーマやよいものについては、、本年は最新の状況に合わせて新たに選びなおすことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（社会や時代の変化に添って新たに選びなおすが、以下は昨年度の例である）Gender Divide in America's Presidential Election-1（アメリカ大統領選に見る男女の分断とグローバル化、多様性をめぐる分断	次週からのトピックの紹介、背景説明
第2回	Paris Braces for a Future at 50 Degrees- 1 (温暖化が加速する都市は未来にどう備えるか)	和訳 重要語句の説明 関連する視聴覚資料の紹介
第3回	Paris Braces for a Future at 50 Degrees- 2	和訳の発表 重要語句、表現の確認
第4回	Which Industries Contribute Most to Climate Change？（MITによる産業別温室効果ガス排出量統計の落とし穴の指摘）	授業内での速読 要点の整理
第5回	review test-1 Renewables Overtake Coal as World Biggest Source of Electricity（再生可能エネルギーへの世界的シフトにおける中国の役割）	前回までの内容、表現、語句の確認の応用テスト 次回からのトピックの紹介
第6回	Renewables Overtake Coal as World Biggest Source of Electricity-2	復習の小テストの見直しと文構造などの再確認 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第7回	Renewables Overtake Coal as World Biggest Source of Electricity-3	関連する視聴覚資料の紹介
第8回	Chinese Robots Are Coming for Elon Musk's Trillion-Dollar Tesla Payday－1 (Elon Muskの1兆ドル社長報酬とヒューマノイドロボットの野望に立ちはだかる中国)	和訳の発表 重要語句、表現の確認 リサーチ発表

第9回	Chinese Robots Are Coming for Elon Musk's Trillion-Dollar Tesla Payday − 2	関連する視聴覚資料の紹介 重要語句、表現の確認
第10回	review test-2	前回までの内容、表現、語句の確認の応用テスト関連するビデオの視聴
第11回	We Asked an Expert: Are We Really Going to Colonize Mars？ - 1 （なぜ、人類は火星を目指すのか？ 植民計画をめぐる人類学者の議論）	関連する視聴覚資料の紹介 重要語句、表現とその時代的背景の説明、確認
第12回	We Asked an Expert: Are We Really Going to Colonize Mars？ - 2	重要語句、表現の確認。 意見交換 意見交換
第13回	We Asked an Expert: Are We Really Going to Colonize Mars？ - 3	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認 関連するヴィデオのまとめ
第14回	review test- 3	前回までの内容、表現、語句の確認の応用テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間半を標準とする】
1.読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。また、予習の確認、内容理解の支援としての宿題を随時行って提出する。
２．読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。
３．各トピックごとに行われる復習テストの準備をすることによって、語彙や表現の定着、内容についての深い理解を図る。
4. 全体的なテーマに関連した短い意見文を作成する。

【テキスト（教科書）】
初回に指示する。また随時教師が提供する。

【参考書】
参考書はとくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】
予習としての内容理解や宿題、リサーチ30％、授業での作文などへの積極的取組20％、復習テストもしくは和訳の修正や意見文50％。

【学生の意見等からの気づき】
英語資料を通じて、現代の世界の様々な側面を広く，また多様な視点から知ることに意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう引き続き努力したい。

【Outline (in English)】
〈Course outline〉
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on
an understanding of paragraph structure.
〈Learning Objectives〉
This course has two major objectives. One of them is to help students acquire the level of English reading skills and vocabulary required of well-educated persons on international settings.
The other objective is to help students broaden their perspectives as future professional members of international community through dealing with English materials that expose them to contemporary global issues.
〈Learning activities outside classroom〉
Before each class meeting, students will be requested to do one or two of the following tasks：
1.Carefully read assigned parts of the materials and do homework which is designed to measure your comprehension and place stories in context.
2.Summarize a short audio-visual material.
3. Research on relevant topics.
4. After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which will be frequently conducted.
5.You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course.
Your required study time outside of the classroom is roughly one and a half hours for each class.
〈Grading criteria〉
Final grading will be decided based on your preparation for class (30%), contribution to class through presenting research and opinions (20%), and review tests(50%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩ

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.
At the end of each unit of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.
A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.
General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples
2	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 7 – Collocations Population Trends
3	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 7 – Collocations Global Migration &Expansion Reading
4	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information The Growth of Cities
5	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information Challenges Facing the World's Cities
6	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study The Design of Everyday Objects
7	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study Ergonomics
8	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading The design of Living Spaces
9	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading Fashion
10	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) Brain Development and Function
11	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) The Teenage Brain
12	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Preparing for a Reading Test The Male and Female Brain
13	Final Review Test: Summary and Explanation	Final Review Test: Summary and Explanation
14	WRAP-UP &QUIZ	WRAP-UP &QUIZ Activities to reinforce language and skills taught on the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
At the end of each unit of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

【テキスト（教科書）】
Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ￥3,000 - Jo McEntire &Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-65782-2

【参考書】
English-Japanese dictionaries
Online language reference - collocation resources

【成績評価の方法と基準】
Assignments 25%
Mini-tests 35%
Final Test 20%
Participation 20%

【学生の意見等からの気づき】
Assignment tasks will be simplified and be processed entirely through the Learning Mangement system.

【学生が準備すべき機器他】
The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。
No credits will be given if the student is absent four times.
Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.
Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence
Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on
an understanding of paragraph structure.
The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.
Assignments 25%
Mini-tests 35%
Final Test 20%
Participation 20%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩＩ

小畑　美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。
課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は，原則対面とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit6 Text Generation (Technology) Part A	言語とテクノロジーに関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
3	Unit6 Text Generation (Technology) Part B	言語とテクノロジーに関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
4	Unit7 Barriers and Bridges (Sociology) Part A	人のつながり関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
5	Unit7 Barriers and Bridges (Sociology) Part B	人のつながりに関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
6	Vocabulary test 1 and Review of Unit 6-7	Unit6-7の単語テスト１及びレビューを行う。
7	Unit9 Smart Thinking (Life Science) Part A	動物の思考に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
8	Unit9 Smart Thinking (Life Science) Part B	動物の思考に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
9	Unit10 Facing Fear (Psychology) Part A	恐怖心に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
10	Unit10 Facing Fear (Psychology) Part B	恐怖心に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
11	Vocabulary test 2 and Review of Unit 9-10	Unit9-10の単語テスト２及びレビューを行う。
12	TOEIC練習問題（プリント配布）	TOEIC Reading, Listeningの練習問題を解き、語彙や文法を学ぶ。
13	秋学期のまとめ	今学期に学習した内容を復習する。
14	授業内学期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

【テキスト（教科書）】
Longshaw, Robin (2014) "21st Century Reading Creative Thinking and Reading with TED Talks (Level 3)", Cengage Learning.
ISBN: 9781305265714
※教科書販売期間中に必ず購入すること。
※春学期と同じ教科書を使用します。

【参考書】
英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
授業前課題　45％
単語テスト　20%
学期末試験　25％
授業への積極的な参加姿勢　10％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。
授業にはパソコンを持参して下さい。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
[Learning Objectives]
The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting. Students are expected to spend one hour to understand the course content.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (45%), [2] vocabulary test (20%), [3] in-class contribution (10%), and [4] final exam (25%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩ

中野　里美

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
This course also seeks to promote reading skills and promote critical thinking skills to read these global issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
To begin with, students will be given TOEIC reading as warm-up handouts, then read the textbook, and finally be given some comments. Feedback about the classes will be carried out on the last week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Reading global issues	Russian Veto brings an end to the UN Panel that monitors North Korea Nuclear sanction
第2回	Reading global issues	Trump Officials Texted War Plans in Secure App
第3回	Reading global issues	Sites urge Australian to delay child ban
第4回	Reading sports issues	Thanks to Ohtani, MLB Enjoys Huge Success in Japan and Momentum for 2025
第5回	Reading global issues	Japan's Nihon Hidankyo Wins Nobel Peace Prize
第6回	Reading global issues	More countries, including China, grapple with shrinking, aging populations
第7回	Reading global issues	That's my bike! Vigilantes fight back as theft rises, faith in police plummets
第8回	Reading domestic issues	45.7% in Japan poll think asking store employees to smile is harassment
第9回	Reading global issues	Cook Islands give detail of China deal that upset close partner New Zealand
第10回	Reading global issues	Indonesia showcases returned artifacts it sought for decades from Netherlands
第11回	Reading global issues	Africa must act to stem youth brain drain as economies continue to suffer
第12回	Reading global issues	Odor-Detecting Drone Uses Silkworm Moth Antennae for Disaster Rescue
第13回	Reading domestic issues	How Japan is looking deep underground to solve its carbon problem
第14回	Review	Review &term-end exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
Students will need to be prepare and review for the textbook before and after this class.

【テキスト（教科書）】
English through the News Media: 2026 Edition by Masami Takahashi Asahi Press

【参考書】
Participants will be given information of references in the class.

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 60%, and tasks in this class 40%
半期の欠席5回以上（5回含む）で、授業を放棄したとみなし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書や日付とフルネーム入りの領収書を持参すること）は考慮します。遅刻は授業開始２０分以降の入室から。３回目の遅刻で１回欠席に換算します。遅延証明書は当日の授業内持参のみ考慮します。授業内課題テスト(40%)と期末テスト(60%)を合計して100％とし評価します。

【学生の意見等からの気づき】
There is no particular pointing out to be improved, so I would like to do the best as much as I can. If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【Outline (in English)】
（Course outline）
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
(Learning Objectives）
This course also seeks to promote reading skills and promote critical thinking skills to read these global issues.
（Learning activities outside of classroom）
Students will need to be prepare and review for the textbook before and after this class.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩ

小林　直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
①アカデミックな内容の英文を正確に理解できる。
②アカデミックな内容の文章でよく使われる単語や表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。所定教科書の設問の答えをチェックする機会も設けます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、リスニングを行います。
2	Chapter 8: The Rise of Generative AI	AIについての英文を読み、文法、語彙などを学ぶ。
3	Chapter 9: What Is Quantum Computing?	ITについての英文を読み、文法、語彙などを学ぶ。
4	Chapter 10: What if Cockroaches Were Extinct?	生物についての英文を読む。
5	Chapter 11: The Mighty Tardigrade	生物についての英文を読む。
6	所定教科書以外の英文を読む。	多様な形で英語に親しんでもらいます。
7	Chapter 12: The Abundance of Life on Savanna	生物についての英文を読む。
8	Chapter 13: What Makes Stone-roasted Sweet Potatoes So Sweet	化学についての英文を読む。
9	Chapter 14: Why Are Autumnal Leaves Red or Yellow	植物についての英文を読む。
10	Chapter 15: The Mystery of Water	化学についての英文を読む。
11	所定教科書以外の英文を読む。	多様な形で英語に親しんでもらいます。
12	TOEIC練習問題	TOEICReading,Listeningの練習問題を解き、語彙や文法を学ぶ。
13	今学期のまとめ	今学期に学習した内容を復習する。
14	授業内学期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習をすること。
また支持された場合には予習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
Science Alive (南雲堂) ISBN978-4-7971-7304-0

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の試験 70%
授業への積極的な参加姿勢　30％

【学生の意見等からの気づき】
本年度からARを担当します。

【学生が準備すべき機器他】
無し。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定
の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
[Learning Objectives]
The goals of this course are [1]to understand academic texts precisely, [2] to improve English reading skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting. Students are expected to spend one hour to understand the course content.
[Grading Criteria/Policy]
Finalgrade will be calculated based on [1] pre-class assignments (60%), [2] vocabulary test (15%), [3] in-class contribution (10%), and [4] final assignment (15%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩ

ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
このクラスは、アカデミックな内容を読むための基礎力を養うことを目的とする。
主な目標は以下の通りである：
- 科学記事の理解: 約400語の科学記事の概要を把握できるようになる。
- 論理構成の理解: 英語の論理構成や文脈を意識しながら読解力を向上させる。
- 速読技術の習得: スキミングとスキャニングを活用し、効率的に速読する技術を習得する。
- 要約の作成: 読んだ内容を英語で要約できるようになる。
- 表現力の強化: 授業で学んだ文法や語彙を使って、効果的に表現できるようになる。
- 問題解決: グループディスカッションなどにより、理解を深めながら問題解決力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では、読解力を養うために、スキミングやスキャニング、要約、グループディスカッションなど、さまざまな活動を行う。学生が積極的に発言し参加できるような場を作り、主体的な学びを促進する。教材の内容や背景についても解説を行い、理解を深めるサポートをする。また、語彙テストを含む定期的な小テストを実施し、提出された課題やテストは採点の上、返却する。課題等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course Overview Goal Setting Reading
2	Unit 11	Reading Anywhere
3	Unit 11	Reading Anywhere
4	Unit 12	Controlling Everything
5	Unit 12	Controlling Everything
6	Unit 13	Easy Payements
7	Unit 13	Easy Payements
8	Unit 16	Flying Tonight
9	Unit 16	Flying Tonight
10	Unit 19	The Red Planet
11	Unit 19	The Red Planet
12	Unit 20	Casting a shadow
13	Unit 20	Casting a shadow
14	Review and Final Exam	Review, wrap-up, test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 毎週の宿題（教科書の問題や授業支援システム上の読解・文法練習）
- 教科書内容を予習・復習
- 語彙の復習（小テストを定期的に行う）
- 分からない単語は事前に辞書で意味や発音を確認すること

【テキスト（教科書）】
Seisuke Yasunami and Richard S. Lavin, Science Quest, Seibido, 2,200円＋税、ISBN: 9784791972050

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
- 期末テスト　５０％
- 小テスト　３０％
- クラス内課題取り組み状況　２０％
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
語彙や要約のサンプル等をHoppiに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
Learning Objectives:
This class aims to develop fundamental skills for reading academic content. The main objectives include understanding scientific articles, improving grammar and comprehension of logical structures, mastering speed reading techniques, creating effective summaries, enhancing expressive abilities, and fostering problem-solving skills.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to complete regular homework and review the course material before class. Regular vocabulary tests will be administered, so special attention should be given to reviewing new vocabulary.
Grading Criteria:
In-class activities (20%), Quizzes (30%), Final Exam (50%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩ

ＣＥＬＥＳＴＥ　ＧＵＩＬＬＥＭＯＴ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
このクラスは、アカデミックな内容を読むための基礎力を養うことを目的とする。
主な目標は以下の通りである：
- 科学記事の理解: 約400語の科学記事の概要を把握できるようになる。
- 論理構成の理解: 英語の論理構成や文脈を意識しながら読解力を向上させる。
- 速読技術の習得: スキミングとスキャニングを活用し、効率的に速読する技術を習得する。
- 要約の作成: 読んだ内容を英語で要約できるようになる。
- 表現力の強化: 授業で学んだ文法や語彙を使って、効果的に表現できるようになる。
- 問題解決: グループディスカッションなどにより、理解を深めながら問題解決力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では、読解力を養うために、スキミングやスキャニング、要約、グループディスカッションなど、さまざまな活動を行う。学生が積極的に発言し参加できるような場を作り、主体的な学びを促進する。教材の内容や背景についても解説を行い、理解を深めるサポートをする。また、語彙テストを含む定期的な小テストを実施し、提出された課題やテストは採点の上、返却する。課題等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course Overview Goal Setting Reading
2	Unit 11	Reading Anywhere
3	Unit 11	Reading Anywhere
4	Unit 12	Controlling Everything
5	Unit 12	Controlling Everything
6	Unit 13	Easy Payements
7	Unit 13	Easy Payements
8	Unit 16	Flying Tonight
9	Unit 16	Flying Tonight
10	Unit 19	The Red Planet
11	Unit 19	The Red Planet
12	Unit 20	Casting a shadow
13	Unit 20	Casting a shadow
14	Review and Final Exam	Review, wrap-up, test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 毎週の宿題（教科書の問題や授業支援システム上の読解・文法練習）
- 教科書内容を予習・復習
- 語彙の復習（小テストを定期的に行う）
- 分からない単語は事前に辞書で意味や発音を確認すること

【テキスト（教科書）】
Seisuke Yasunami and Richard S. Lavin, Science Quest, Seibido, 2,200円＋税、ISBN: 9784791972050

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
- 期末テスト　５０％
- 小テスト　３０％
- クラス内課題取り組み状況　２０％
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。。

【学生の意見等からの気づき】
語彙や要約のサンプル等をHoppiに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
Learning Objectives:
This class aims to develop fundamental skills for reading academic content. The main objectives include understanding scientific articles, improving grammar and comprehension of logical structures, mastering speed reading techniques, creating effective summaries, enhancing expressive abilities, and fostering problem-solving skills.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to complete regular homework and review the course material before class. Regular vocabulary tests will be administered, so special attention should be given to reviewing new vocabulary.
Grading Criteria:
In-class activities (20%), Quizzes (30%), Final Exam (50%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩＩ

小畑　美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。
課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は，原則対面とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit6 Text Generation (Technology) Part A	言語とテクノロジーに関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
3	Unit6 Text Generation (Technology) Part B	言語とテクノロジーに関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
4	Unit7 Barriers and Bridges (Sociology) Part A	人のつながり関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
5	Unit7 Barriers and Bridges (Sociology) Part B	人のつながりに関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
6	Vocabulary test 1 and Review of Unit 6-7	Unit6-7の単語テスト１及びレビューを行う。
7	Unit9 Smart Thinking (Life Science) Part A	動物の思考に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
8	Unit9 Smart Thinking (Life Science) Part B	動物の思考に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
9	Unit10 Facing Fear (Psychology) Part A	恐怖心に関して、本文の読解を中心に行い、内容理解の問題を解答する。
10	Unit10 Facing Fear (Psychology) Part B	恐怖心に関して、DVDを視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
11	Vocabulary test 2 and Review of Unit 9-10	Unit9-10の単語テスト２及びレビューを行う。
12	TOEIC練習問題（プリント配布）	TOEIC Reading, Listeningの練習問題を解き、語彙や文法を学ぶ。
13	秋学期のまとめ	今学期に学習した内容を復習する。
14	授業内学期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

【テキスト（教科書）】
Longshaw, Robin (2014) "21st Century Reading Creative Thinking and Reading with TED Talks (Level 3)", Cengage Learning.
ISBN: 9781305265714
※教科書販売期間中に必ず購入すること。
※春学期と同じ教科書を使用します。

【参考書】
英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
授業前課題　45％
単語テスト　20%
学期末試験　25％
授業への積極的な参加姿勢　10％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。
授業にはパソコンを持参して下さい。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
[Learning Objectives]
The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting. Students are expected to spend one hour to understand the course content.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (45%), [2] vocabulary test (20%), [3] in-class contribution (10%), and [4] final exam (25%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩ

吉川　直澄

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。DVDを使用するリスニングとリーディングの訓練も継続させる。

【到達目標】
一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用される語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前学期に準ずる講義と演習に加えて、TOEIC形式の問題演習（プリント）を随時行い、スキルの仕上げをめざす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	春学期末レポートのフィードバックとガイダンス	春学期末レポートのフィードバックを行い、本学期のガイダンスを実施する／課題の提示
②	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 精読	テキストの31ページと32ページの精読／アインシュタインの一般相対性理論について／課題の提示
③	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 文法	テキストの33ページと34ページの練習問題／運動を表す動詞　「原因・理由」を表す副詞節／課題の提示
④	Unit 8 The Strange World of Atoms 精読	テキストの35ページと36ページの精読／原子の世界について／課題の提示
⑤	Unit 8 The Strange World of Atoms 文法	テキストの37ページと38ページの練習問題／運動の方向を表す表現　「結果・程度」を表す副詞節／課題の提示
⑥	Unit 9 Interstellar Travel 精読	テキストの39ページと40ページの精読／星間旅行について／課題の提示
⑦	Unit 9 Interstellar Travel 文法	テキストの41ページと42ページの練習問題／測定・計量を表す動詞　「譲歩」を表す副詞節／課題の提示
⑧	Unit 10 Limitless Energy 精読	テキストの43ページと44ページの精読／核融合について／課題の提示
⑨	Unit 10 Limitless Energy 文法	テキストの45ページと46ページの練習問題／グラフ・図表の英語表現　比較の表し方／課題の提示
⑩	Unit 11 The Surprising Uses of Nanotechnology 要約　基礎	テキストの47ページから50ページの内容の要約／ナノテクノロジーについて　主語・目的語の名詞表現を判別し、文の「主題」をつかむ／課題の提示
⑪	Unit 12 Creating the Perfect Human 要約　基礎	テキストの51ページから54ページの内容の要約／ヒトの遺伝子編集について　「主題」のパラフレーズとディスコースマーカーの働き／課題の提示
⑫	Unit 13 The New Age of Computing 要約　応用	テキストの55ページから58ページの内容の要約／量子コンピューターについて　全体の主旨を理解する論理的思考力と無意識に活用できる文法力／課題の提示
⑬	Unit 14 The Coming of the Machines 要約　応用	テキストの59ページから62ページの内容の要約／ヒトとAIの共存について　背景知識の活用／課題の提示
⑭	学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポートの提示／まとめと解説	文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各１時間を標準とする。学生の皆さんは英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し何度も反復練習すること。

【テキスト（教科書）】
前期のテキストを引き続き使用し、プリントを随時配布する。秋学期からの履修者のため、タイトルを提示しておく。
Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, 南雲堂, 2019, ISBN 978-4-523-17899-6.

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
全13回の課題レポート (45%) 、学期末レポート課題 (20%) 、学期末に実施する文法・語彙確認テスト（30%) 、授業への積極的な参加・貢献 (5%) 、を総合的に検討して評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が５回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようにお手伝いします。前期同様に質問があれば、気軽にしてください。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は「学習支援システム」を使用する。

【その他の重要事項】
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.
(Learning Objective)
By the end of the course, students will be able to :
- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to:
- spend at least one hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.
(Grading Criteria/Policy)
Final grade will be calculated according to the following process:
13 weekly class assignments: 45%, final term assignment: 20%, final test: 30%, and in-class contribution: 5%.
Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩ

今政　肇

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
・パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、英文を読めるようになる。
・十分な語彙力、文法力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
予習して分からなかったところなどを確認しながら、テキストの内容を確認します。リスニングや音読、作文、文法事項の確認なども交えます。また、語学は反復が重要ですので、随時小テストを行い、前回の授業で学んだことの定着を図ります。課題等へのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 6 B	Reef Encounters (The Truth about Great Whites)
2	Unit 7 A	Dollars and Scents (The Flower Trade)
3	Unit 7 B	Dollars and Scents (The Power of Perfume)
4	Unit 8 A	Great Explorers (An Incredible Journey)
5	Unit 8 B	Great Explorers (The Travels of Ibn Battuta)
6	Unit 9 A	Identity (The Teenage Brain)
7	Unit 9 B	Identity (Seeing Double)
8	Unit 10 A	Facing Change (The Big Thaw)
9	Unit 10 B	Facing Change (Life on the Edge)
10	Unit 11 A	Fact or Fake? (The Knowledge Illusion)
11	Unit 11 B	Fact or Fake? (The Limits of Lying)
12	Unit 12 A	Going to Extremes (The Dream of Flight)
13	Unit 12 B	Going to Extremes (Dark Descent)
14	Final Review	期末テスト 読書ログのチェック まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読み設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。
・各ユニットの復習を目的としてクイズをおこないますので、準備をして臨んでください。
・大学図書館の英語多読図書（YL＝読みやすさレベル：0.8 2.4)を週70分（1日10分)、約7000字読むことを目標に、読書ログ（タイトル、感想、字数）をつける。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（一ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください)。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【テキスト（教科書)】
Bohlke,D., Douglas,N., Huntley,H., MacIntyre,P., and Rogers, B., (2020) Reading Explorer Level 2, Third Edition,
Student Book with Spark Access + e-Book (1 year access)
ISBN: 9798214085630
※教科書販売期間中に必ず購入すること。(秋学期も継続して使用します。)

【参考書】
学習者用の英英辞書（英英辞書を積極的に使ってみてください）：
https://dictionary.cambridge.org/
法政大学の多読サイト： https://hosei.libguides.com/tadoku
初級レベル：
・ Oxford Reading Tree (YL 0.8-0.9):
Picture-based, perfect for beginners
・ Penguin Readers Easystarts (YL 0.8):
Simple stories, many topics
中級レベル；
・ Cambridge/Oxford/Macmillan Readers:
Wide range of original and adapted stories
・ Penguin Readers:
Large selection including movie adaptations

【成績評価の方法と基準】
宿題　１５％
授業への参加　１５％
クイズ　２５％
期末テスト　２５％
読書ログ　２０％
＊正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊30分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。

【学生の意見等からの気づき】
私語をする受講生を注意してほしいとの意見がありましたので、静かな教室環境の維持に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
授業の進度や受講生の皆さんの要望を踏まえて、シラバスの内容を修正することがあります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on
an understanding of paragraph structure.
[Learning Objectives]
(1) By reading graded books extensively, you can feel more comfortable reading English, and by reading more advanced texts, you can come into contact with a richer vocabulary and expressions.
(2) By coming into contact with authentic English speech and expressions through audiovisual media, you can develop sensitivity toward the language in general.
Set aside approximately 10 minutes a day or 70 minutes a week to read the books that you have chosen and fill out your reading log.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments and homework (15%), [2] class participation (15%), [3] quiz (25%), [4]final test (25%), [5]reading log [20%]

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩＩ

乾　展子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
学術的な文章を読むための十分な語彙力と文法力を身につける。また、パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、訳読に頼らず、英文を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の前までに予習をしてもらいます。予習をを基に、テキストの内容を確認していきます。音読や文法事項の確認なども交えます。毎回の授業で課題を提出してもらい、次回の授業内で課題等へのフィードバックを実施します。また、各単元での学習内容の定着を目指した単元毎のテストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、予習課題の内容、評価方法などについての説明
第2回	Unit 7(1)	語彙の確認 本文内容把握
第3回	Unit 7(2)	本文内容把握 本文内容理解問題 文法演習
第4回	単元miniテスト Unit 8(1)	語彙の確認 本文内容把握
第5回	Unit 8(2)	本文内容把握 本文内容理解問題 文法演習
第6回	単元miniテスト Unit 9(1)	小テスト 語彙の確認 本文内容把握
第7回	Unit 9(2)	本文内容把握 本文内容理解問題 文法演習
第8回	単元miniテスト Unit 10(1)	理解度の確認 語彙の確認 本文内容把握
第9回	Unit 10(2)	本文内容把握 本文内容理解問題 文法演習
第10回	単元mimiテスト Unit 11(1)	小テスト 語彙の確認 本文内容把握
第11回	Unit 11(2)	本文内容把握 本文内容理解問題 文法演習
第12回	単元miniテスト Unit 12(1)	語彙の確認 本文内容把握
第13回	Unit 12(2)	本文内容把握 本文内容理解問題 文法演習
第14回	単元miniテスト これまでのまとめ	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業前に指定されている課題を行い、提出してください。
・当該授業で扱うUnitの本文の予習として、音声を聞き内容を確認してください。
・Unit毎でミニテストを実施しますので、復習をしてください。

【テキスト（教科書）】
野崎嘉信 / 松本和子 / Alastair Graham-Marr 編著『Science Bridge ニュースでつなぐ日常と科学』（金星堂）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
単元miniテスト 60％
予習課題　　10%
授業内課題　　20%
単語テスト 10%

【学生の意見等からの気づき】
英語能力をを少しでも各自が伸ばせるように授業に取り組んでいきたいと思います。質問はいつでもしてください。

【学生が準備すべき機器他】
授業で辞書を使用する場合は、辞書を持参してください。携帯電話の辞書の使用は認めません。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることがあります。

【注意事項】
・２０分以上の遅刻、早退は欠席１回として扱います。
・正当な理由なく４回以上欠席した場合、不可とします。
・授業中に携帯を使用している場合は退室してもらい、欠席とします。

【Outline (in English)】
[Course outline]
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English.
[Learning Objectives]
Based on these skills, the class aims to develop reading comprehension skills that enable students to accurately understand the content of individual sentences through close reading, to quickly and concisely summarize entire sentences, and to search for necessary information to understand them.
[Learning activities outside of classroom]

In preparation for class, please listen to the audio to check the lesson content. Be sure to look up any unfamiliar words in the dictionary.There will be a quiz every two units, so please review.
[Grading Criteria /Policy]
The final grade will be calculated based on unit tests (60%), pre-class assignments (10%), classwork (20%), and vocabulary quizzes (10%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩ

尾関　裕子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期に続き学術的文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによってリーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
１英文を正確にとらえる。文法を正確に理解し、使われている言葉のニュアンスを確認する。自分のかってな思い込みで英文をとらえないことがまず大切です。　２情報を整理する。書かれていることを図式化するなど整理することで著者のいわんとしていることがはっきりと見えてきます。歴史的背景を調べたりすることで文の背後にある世界も理解したうえで文脈をとらえます。英文読解はあくまでも英語学習ですから、３．英語の力をつけることが目標です。一章を読み終えた後、そこで出会った表現が頭のなかに残っているような学習をしましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前期に続き１ユニットを二回で終える進め方をします。前期ですでに慣れているペアワークの時間をより有効にすべく、準備をして授業に臨み、英語表現を身につけましょう。読んだ内容について自分の意見をまとめてみましょう。提出物は次回授業時に採点、評価のうえ返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	unit 7	本文読解　Easier Access to Paternity Leave
2	unit 7	エクササイズ実施
3	unit 8	本文読解　Veganism on the Rise
4	unit 8	エクササイズ実施
5	unit 9	本文読解　Same-Sex Partnership Oath System
6	unit 9	エクササイズ実施
7	unit 10	本文読解　Get Out of Japan to Earn More Money?
8	unit 10	エクササイズ実施
9	unit 11	本文読解　Baby names Getting More creative、
10	Unit 11	エクササイズ実施
11	Unit 12	本文読解　Japanese Love Affair with Pet Bottles
12	Unit 12	エクササイズ実施
13	unit 13	本文読解　japanese Teachers Needed エクササイズ実施
14	これまでのまとめ/試験	これまで学んだ内容を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
テキスト読解、問題の予習をして授業に出席してください。読解後は自分の読解内容と比べ問題があるとしたらその原因を探る。

【テキスト（教科書）】
前期に同じ。Reading in More Action 靜　哲人著　金星堂　2024年　2000円

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
平常点２０％　提出物30％　テスト５０％

【学生の意見等からの気づき】
精読をする上で和訳をしてゆきますが、その和訳をすべて板書することはありません。授業の流れについてゆけない場合は遠慮することなくそのことを伝えてください。授業時間外でも結構です。

【その他の重要事項】
この授業を通して正確に英文をとらえる力をぜひつけてください。文法力や語彙力を活かし、構文解析に努める姿勢を忘れず文章を読みましょう。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English.
1.　Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
2.Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
3.Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination 50% quiz 30% in-class contribution 20%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＩＩ

安田　孝子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（概要）
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。
（目的）
アカデミック・リーディングIと同様に、教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を強化することを目的とします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読し、様々な表現力も養成します。

【到達目標】
アカデミック・リーディングI同様、様々な分野のエッセイを精読し、さらに音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
（進め方）
アカデミック・リーディングＩ同様、テキストのReading Partはクラス全体で毎時間、音読を行い、Reading Partについては事前に指名した担当者にphrase readingで和訳してもらいます。また、Reading Part以外のExercisesはその場で指名した人に答えてもらいます。
（方法）
アカデミック・リーディングI 同様、授業では、「語彙力」と「読解力」の育成だけでなく、「速読力」「表現力」の向上をも狙い、「音読・シャドーイング」活動を大いに行います。
また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Chapter 8	1. Chapter 7 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第2回	Chapter 8	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第3回	Chapter 9	1. Chapter 8 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第4回	Chapter 9	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第5回	Chapter 10	1. Chapter 9 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第6回	Chapter 10	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第7回	Chapter 11	1. 中間試験 / Chapter 10 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第8回	Chapter 11	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第9回	Chapter 12	1. Chapter 11 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第10回	Chapter 12	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第11回	Chapter 13	1. Chapter 12 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第12回	Chapter 13	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第13回	Chapter 14	1. Chapter 13 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第14回	期末試験(Chapter8～14) まとめ・解説	期末試験 後期学習のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ￥2,000+税

【参考書】
毎時間英和辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
Chapter終了毎の小テスト(10点×7回＝70)と中間・期末試験(各15点)で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の6割獲得でC-,C,C+、7割獲得でB-,B,B+、8割獲得でA-,A,A+、9割以上獲得でSとする。

【学生の意見等からの気づき】
「音読」トレーニングにより成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、さらなる読解力の発展を目指します。

【その他の重要事項】
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・欠席は3回まではカウントしませんが、4回以上の欠席の場合は、特別な事情でない限りは中間・期末試験の受験を認めません。
・遅刻は授業開始後10分程度までは入室可ですが、20分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
・授業態度の悪い受講者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動
　不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・小テストについての詳細は前期と同様です。
・中間試験/期末試験を受験しなかった場合は評価の対象になりません。
・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on
an understanding of paragraph structure.
This class deals with essays with a variety of themes. Reading these essays (some of them are rather short) carefully enhances the development of students' skill in reading comprehension and increasing vocabulary.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to acquire the skill of reading fluently, increasing vocabulary and a variety of expression.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the reading part of the chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based the following.
Mid-term exam : 15%(the date of mid-term exam is undecided)
Term-end exam : 15%
Short exams : 70%(short exams will be held 6 times, ten for each)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＩＩ

安田　孝子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（概要）
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。
（目的）
アカデミック・リーディングIと同様に、教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を強化することを目的とします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読し、様々な表現力も養成します。

【到達目標】
アカデミック・リーディングI同様、様々な分野のエッセイを精読し、さらに音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
（進め方）
アカデミック・リーディングＩ同様、テキストのReading Partはクラス全体で毎時間、音読を行い、Reading Partについては事前に指名した担当者にphrase readingで和訳してもらいます。また、Reading Part以外のExercisesはその場で指名した人に答えてもらいます。
（方法）
アカデミック・リーディングI 同様、授業では、「語彙力」と「読解力」の育成だけでなく、「速読力」「表現力」の向上をも狙い、「音読・シャドーイング」活動を大いに行います。
また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Chapter 8	1. Chapter 7 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第2回	Chapter 8	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第3回	Chapter 9	1. Chapter 8 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第4回	Chapter 9	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第5回	Chapter 10	1. Chapter 9 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第6回	Chapter 10	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第7回	Chapter 11	1. 中間試験 / Chapter 10 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第8回	Chapter 11	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第9回	Chapter 12	1. Chapter 11 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第10回	Chapter 12	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第11回	Chapter 13	1. Chapter 12 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第12回	Chapter 13	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第13回	Chapter 14	1. Chapter 13 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase readingで訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第14回	期末試験(Chapter8～14) まとめ・解説	期末試験 後期学習のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

【テキスト（教科書)】
Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ￥2,000+税

【参考書】
毎時間英和辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
Chapter終了毎の小テスト(10点×7回＝70)と中間・期末試験(各15点)で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の6割獲得でC-,C,C+、7割獲得でB-,B,B+、8割獲得でA-,A,A+、9割以上獲得でSとする。

【学生の意見等からの気づき】
「音読」トレーニングにより成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、さらなる読解力の発展を目指します。

【その他の重要事項】
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・欠席は3回まではカウントしませんが、4回以上の欠席の場合は、特別な事情でない限りは中間・期末試験の受験を認めません。
・遅刻は授業開始後10分程度までは入室可ですが、20分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
・授業態度の悪い受講者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動
　不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・小テストについての詳細は前期と同様です。
・中間試験/期末試験を受験しなかった場合は評価の対象になりません。
・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on
an understanding of paragraph structure.
This class deals with essays with a variety of themes. Reading these essays (some of them are rather short) carefully enhances the development of students' skill in reading comprehension and increasing vocabulary.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to acquire the skill of reading fluently, increasing vocabulary and a variety of expression.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the reading part of the chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based the following.
Mid-term exam : 15%(the date of mid-term exam is undecided)
Term-end exam : 15%
Short exams : 70%(short exams will be held 6 times, ten for each)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩＩ

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.
A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.
General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples
2	THEME I: ASPECTS OF LANGUAGE(part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 7 – Identifying the Thesis of a Reading (1) When does Language Learning Begin?"
3	THEME I: ASPECTS OF LANGUAGE (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 7 – Identifying the Thesis of a Reading (2) "Learning a Language as an Adult"
4	THEME I: ASPECTS OF LANGUAGE (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Definition and Classification "Rules of Speaking"
5	THEME I: ASPECTS OF LANGUAGE (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Passive Sentences (1) "Languages in Context"
6	THEME I: ASPECTS OF LANGUAGE (part 5)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Passive Sentences (2) "The advantages of Multilingualism"
7	THEME II: SUSTAINING PLANET EARTH (part 1)	Unit 1 Mini Test SKILLS AND STRATEGIES 10 Problem-Solution Texts (1) "Ecology, Overpopulation,and Economic Development
8	THEME II: SUSTAINING PLANET EARTH (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Problem-Solution Texts (1) "The Aral Sea: an Environmental Crisis"
9	THEME II: SUSTAINING PLANET EARTH (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Problem-Solution Texts (1) "Biodiversity and Tropical Rainforests"
10	THEME II: SUSTAINING PLANET EARTH (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Graphic Material "The Water Crisis"
11	THEME II: SUSTAINING PLANET EARTH (part 5)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Nominalization in Subjects "Managing Earth's Greenhouse"
12	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 6)	Unit 2 Mini-test Reading based on Theme II
13	FINAL REVIEW TEST	FINAL REVIEW TEST
14	WRAP-UP AND QUIZ	WRAP-UP AND QUIZ A fun activity to review themes and practice language learned in the semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
At the end of each thematic unit, an assignment will be set for the student based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and the critical thinking activities in the unit. This task is intended to take 45-60 minutes.

【テキスト（教科書）】
Making Connections 3 -Skills and Strategies for Academic Reading (Third Edition) ￥3,000 - Pakenham, McEntire & Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-66226-0

【参考書】
English-Japanese dictionaries
Online language reference - collocation resources

【成績評価の方法と基準】
Assignments 25%
Mini-tests 35%
Final Test 20%
Participation 20%
No credits will be given if the student is absent four times.
Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.
Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence
Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【学生の意見等からの気づき】
More regular and targeted testing has been introduced. The Hoppii system will be used more extensively to present tasks.

【学生が準備すべき機器他】
The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.
The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.
The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.
A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.
General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.
GRADING CRITERIA
Assignments 25%
Mini-tests 35%
Final Test 20%
Participation 20%
No credits will be given if the student is absent four times.
Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.
Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence
Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩＩ

鈴木　幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To build a strong vocabulary.
2. To improve grammatical competence.
3. To enhance academic reading ability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this course, students will practice reading articles: picking out key words/sentences, understanding the flow of paragraphs, and making summaries. You will be expected to attend all lessons and contribute to classroom activities: reading task, Q &A, writing quiz, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Orientation
	Unit 10 Healthy Living ①	Unit 10A Living Longer (close raeding)
2	Unit 10 Healthy Living ②	Unit 10A Living Longer (comprehension and discussion)
3	Unit 10 Healthy Living ③	Unit 10B In Search of Longevity (close reading)
4	Unit 10 Healthy Living ④	Unit 10B In Search of Longevity (comprehension and discussion)
5	Unit 11 Green Solutions ①	Unit 11A Saving Water (close reading)
6	Unit 11 Green Solutions ②	Unit 11A Saving Water (comprehension and discussion)
7	Unit 11 Green Solutions ③	Unit 11B Technology as Trash (close reading)
8	Unit 11 Green Solutions ④	Unit 11B Technology as Trash (comprehension and discussion)
9	Unit 12 Earth and Beyond ①	Unit 12A Planet Hunters (close reading)
10	Unit 12 Earth and Beyond ②	Unit 12A Planet Hunters (comprehension and discussion)
11	Unit 12 Earth and Beyond ③	Unit 12B The Threat from Space (close reading)
12	Unit 12 Earth and Beyond ④	Unit 12B The Threat from Space (comprehension and discussion)
13	Presentation	Let's give an end-of-term presentation!
14	Final Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

【テキスト（教科書）】
Macintyre, Paul, and David Bohlke, 2020, Reading Explorer 4B, 3rd edition, Cengage Learning.
ISBN 9798214085883　Split 4B with Spark Access + e-Book (1 year access)　￥2,260（￥2,486 tax included）
（注）この教科書は前半A(Unit 1-6)・後半B(Unit 7-12)と分かれている教科書の後半Bになります。購入時にくれぐれもご注意ください。なお、前期・後期で同じ教科書を使用します。購入は春学期にお願いいたします。

【参考書】
Audio data will be useful for homework;
National Geographic Learining
https://www.eltngl.com/sites/readingexplorerseries/about-reading-explorer/levels

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class activities &Homework: 30%
Assignment: 20%
Quiz: 20%
Exam: 30%
There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】
It seems that I talked and explained too much, so I would like to try to give you fewer hints and more opportunities to think by yourselves.

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

【Learning Objectives】
The purpose of this class is to establish basic competence in reading academic level English thorough analysis of grammar, development of vocabulary, and knowledge of writing structure.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria】
Final grade will be calculated according to the following process: In-class activities &Homework (30%), Assignment (20%), Quiz (20%), and Exam (30%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩＩ

ＨＵＧＯ　Ｌ　ＤＲＡＩＮＶＩＬＬＥ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
Acquire deeper understanding of vocabulary and sentence structures often encountered in academic writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Through individual and collaborative tasks focusing on academic texts, students will further develop their understanding of the workings and characteristics of academic writing, which will enhance their reading efficiency and effectiveness in academic pursuits.
Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction What is a genre?	Introduction to the course and its objectives; self-presentations. Identifying essential characteristics of academic writing.
2	What is a genre? Attitudes toward language	Who de we write to, why, and does that impact language?
3	Scholarly wordings	Why is academic vocabulary so complicated?
4	Definitions	Establishing common ground.
5	Appositions	The role and structure of appositions in academic writing.
6	Citations	The role and structure of citations in academic writing.
7	Paraphrasing	The role and structure of paraphrasing in academic writing.
8	Summary	Notes for gist; Arrangement of levels (generality and detail, concept and example).
9	Sentence style and Textual coherence 1	Forecasts and Key words.
10	Sentence style and Textual coherence 1	Passive voice; Emphasis.
11	Sentence style and Textual coherence 3	Reported speech.
12	Sentence style and Textual coherence 4	Reported speech. In-class preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
13	Review	Review of the contents of the class and exercises.
14	Final evaluation	Online interviews

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be required to have read the texts under study before each lesson. Some in-class assignments will be completed after class as homework.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

【学生の意見等からの気づき】
なし

【Outline (in English)】
Outline:
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
Learning objectives:
Develop reading skills specific to academic text from the field of science: identifying text structure and key components, learning common vocabulary and sentence patterns.
Learning activities outside of classroom:
Students will be required to have read the texts under study before each lesson. Some in-class assignments will be completed after class as homework.
Grading criteria policy:
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

小林　直樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
本授業は、英語で文章を書く能力を養成するためのクラスである。授業では、受講生が文法的に正確なセンテンスを書くことから始め、様々なパラグラフ、エッセイを書くことができる事を目標とする。また、受講生が、それぞれの専攻内容についての英文を書けるようになることも目標とする。
The aim of this class is to develop students' ability of English composition. The students will start from composing grammatically accurate sentences and next write various paragraphs and essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テクストの問題を中心に進めつつ、多用な形で英語に親しむように授業を進めます。課題等へのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価の方法についての説明
第2回	Unit 1 Conclusion / Reasons	品詞と文の要素など
第3回	Unit 2 Social Trends	英語の文型など
第4回	Unit 3 Results / Causes	句と節について
第5回	Unit 4 Several Explanations	英語の時制など
第6回	Unit 5 Comparison	英語の時制など
第7回	Unit 6 For and Against	英作文の練習
第8回	Unit 7 Classification	リスニングと英文の書き取り
第9回	Unit 8 History	英作文の練習
第10回	Unit 9 Process	リスニングと英文の書き取り
第11回	Unit 10 Cause and Effect	英作文の練習
第12回	Unit 11 Definition of a New Word	パラグラフの作成とリスニング
第13回	Unit 12 Research	パラグラフの作成とリスニング
第14回	Unit 13 New Products	パラグラフの作成とリスニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。
1回の授業については4時間ほどの学習が必要となります。

【テキスト（教科書）】
Skills for Better Writing (Basic)（南雲堂）

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】学期末のレポート(５0%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点(５0%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
英語の基礎をおろそかにせず学んでいきましょう。

【Outline (in English)】
[course outline]
This class aims to develop skills that meet a variety of communication needs: English communication skills linked to research and work, as well as those skills used in a wide range of situations, from everyday life and social situations to discussions in specialized fields and research presentations. To this end, the class emphasizes not only the reinforcement of the rich vocabulary, proper grammar, and logical writing skills needed to communicate results and conclusions through group discussions but also the ability to collect and summarize information from various sources. A variety of effective teaching methods, including the integration of other skills, will be employed based on students' communication skills.

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

LOWRI　E　HUMBERSTONE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。このコースは、ディスカッションやライティング演習を通じて、学生が英語の文章スキルを向上させることを目指しています。教科書をクラスディスカッションや宿題のライティング演習の出発点として使用し、学生の語彙力や文法構造の使用を向上させることを目指します。クラスでは積極的な学習とクラスディスカッションを奨励し、自信と流暢さを向上させることを目指しています。学生は同僚や講師から即座のクラスフィードバックを期待でき、また、講師からメールでより詳細なフィードバックを個別に受けることができます。

【到達目標】
Students will learn and develop academic writing skills in English.
Students will improve their English writing skills and will be able to identify different features of English academic writing.
Students will be able to write short, coherent passages in English using complex vocabulary and varied grammatical structures.
Students will be able to write texts which express and justify their opinions in English.
Students will be able to verbally express themselves in English with some fluency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this class we will complete activities from textbooks and discuss texts and topics the textbook introduces. This class prioritises active learning, such as debate and discussion. Assignments may be submitted online or emailed to the sensei directly at senseiemma22@gmail.com. Emma sensei will post comments, corrections and feedback to homework directly on Hoppii. For more detailed assignment feedback please email Emma Sensei directly.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Introduction to the class topics and assessment methods Write a self introduction and write three personal learning objectives.
第2回	Chapter 1- Describing people	Interview a classmate Sentences and Capitalisation
第3回	Chapter 1- Describing people	Write a description of your classmate based on your interview. HOMEWORK- Write a description of someone you admire
第4回	Chapter 2 - Listing order paragraphs	Intensifiers Topic Sentences Supporting Sentences
第5回	Chapter 2 - Listing order paragraphs	Sentence structures Draft a listing order paragraph as a class HOMEWORK- Write a listing order paragraph on how the topic “My Dream Career- How will I achieve my goal?”
第6回	Chapter 3 - Giving instructions	Adjectives and Nouns Prepositions of Place Adjective order
第7回	Chapter 3 - Giving instructions	Commas Study and draft a ‘How To” paragraph HOMEWORK - Write a “How To” Paragraph on a subject of your choice
第8回	Chapter 4 - Describing Places	Cumulative adjectives Practicing Prepositions of Place Study and draft a descriptive paragraph as a class
第9回	Chapter 4 - Describing Places	HOMEWORK - Write a descriptive paragraph about a place that is special to you
第10回	Chapter 5 - Stating Reasons and Using Examples	Identifying and organising reasons and examples Transition signals that introduce reasons Conclusion signals
第11回	Chapter 5 - Stating Reasons and Using Examples	Complex sentences with reason clauses and condition clauses Combining sentences Study and draft a recommendation paragraph as a class HOMEWORK - Write a recommendation of your favourite restaurant
第12回	Chapter 6 - Expressing your opinion	What are opinion paragraphs? Word forms vocabulary practice Identifying facts and opinions. Opinion signals, source signals, conclusion signals.

第13回	Chapter 6 - Expressing your opinion	Adjective clauses with who, which and that. Punctuating adjective clauses Combining clauses and sentences. Study and draft an opinion paragraph as a class. HOMEWORK - Write an opinion paragraph about a controversial topic
第14回	Review of class themes and skills	What topics have you enjoyed studying in this class? What content and grammar points have you found the most challenging? Review of any challenging grammar points as a class. FINAL ASSESSMENT: ESSAY

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework writing assignments will be set from the textbook based on class topics. Students should revise and practice vocabulary outside of the classroom, complete textbook exercises not completed in class, and use the textbook online resources. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework, revising material from previous lessons and preparing for upcoming lessons. The teacher will also recommend additional, optional resources for practicing listening and speaking comprehension using social media and streaming services. Homework may be submitted to the teacher via Hoppii, or alternatively via email

【テキスト（教科書）】
Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice &Digital Resources, 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【参考書】
Please see Hoppii page for additional supplements

【成績評価の方法と基準】
The passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class participation: 20%
Final essay: 20%
Assignments: 60%

【学生の意見等からの気づき】
N/A None in particular

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
This course aims to help students develop their written academic English skills through writing exercises. Using the textbook as a starting point for class discussion and homework writing exercises, we will aim to improve students vocabulary, use of grammatical structures and understanding of English academic writing conventions.
The class encourages active learning and class discussion in order to improve confidence and fluency. Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, written feedback on homework, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.

Homework writing assignments will be set from the textbook based on class topics. Students should revise and practice vocabulary outside of the classroom, complete textbook exercises not completed in class, and use the textbook online resources. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework, revising material from previous lessons and preparing for upcoming lessons. The teacher will also recommend additional, optional resources for practicing listening and speaking comprehension using social media and streaming services. Homework may be submitted to the teacher via Hoppii, or alternatively via email.
The passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class participation: 20%
Final Assessment essay: 20%
Assignments: 60%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

CELESTE GUILLEMOT

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
主な目標は以下の通りである：
- アカデミックライティングの基本原則を理解し、適切に応用すること。
- 明確なトピックセンテンス（topic sentence）、具体的なサポート文（supporting sentences）、そして結論文（concluding sentence）を持つ、よく構成されたパラグラフを書くこと。
- 論理的で説得力のあるエッセイを書くこと。
- 文法、語彙、スタイルを向上させるために、クラスメイトや自分自身の作文を効果的に修正および編集すること。（peer review）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では、4種類のパラグラフとエッセイライティングの練習を行う。毎週、（教科書の練習問題の解説）→（ライティング）→（ピアレビュー）→（編集・修正）→（提出）という流れで進めていく。学生が積極的に発言し参加できるような場を作り、主体的な学びを促進する。教材の内容や背景についても解説を行い、理解を深めるサポートをする。また、提出された課題やテストは採点の上、返却する。課題等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course overview Unit 1
2	Unit 2	What is a descriptive paragraph?
3	Unit 2	- writing - peer review
4	Unit 3	What is a Comparison/Contrast Paragraph?
5	Unit 3	- writing - peer review
6	Unit 4	What is a Cause/Effect Paragraph?
7	Unit 4	- writing - peer review
8	Unit 5	What is an opinion paragraph? (1)
9	Unit 5	- writing - peer review
10	Unit 5	- writing - peer review
11	Unit 6	Toward Writing a 300-Word Essay: Outlines
12	Unit 6	Toward Writing a 300-Word Essay: Writing 1
13	Unit 6	Toward Writing a 300-Word Essay: Writing 2, peer review
14	Final exam, review	Final exam, review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 毎週の宿題（教科書の問題や授業支援システム上の読解・文法練習）
- 教科書内容を予習・復習
- 分からない単語は事前に辞書で意味や発音を確認すること

【テキスト（教科書）】
Akira Tajino, Sayako Maswana, Yoshitaka Kato, Hironori Watari, Hiroshi Yamada, A Guide to English Academic Writing for Beginners, Asahi Press, 1800円+税, ISBN 9784255156484

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
授業平常点 60 %（毎週の宿題、授業参加、課題(paragraphx4+essayx1)）
学期末試験40％
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない

【学生の意見等からの気づき】
教科書の例に加えて、各ライティング課題に対応したモデルパラグラフやエッセイをHoppiに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
Learning objectives:
This course helps students improve their academic writing skills. They will learn to write clear and well-organized paragraphs and essays. Students will also practice editing their own work and giving feedback to classmates through peer review. The focus is on building strong writing habits and improving grammar, vocabulary, and style.
Work to be done outside of class:
Students are expected to complete regular homework and review the course material before class. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading criteria:
In class activities and assignments 60％, Final exam 40%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

中野　里美

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
Rather than merely translating Japanese into English, I will create writing assignments each time to develop the ability to logically express my own opinions. I will complete writing assignments following the essay format while also building the capacity to form and articulate my own viewpoints.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Learn the fundamentals of essay writing and train to ultimately complete a standard essay. Each session, freely choose from multiple themes and write. Essays are returned after correction. Each student presents one essay in class (previously corrected), and based on these presentations, finalize the final essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Explaining how to write an essay	Introduction and guidance
第2回	Learning how to write with handouts	Task 1:What is essay? Task 2:Writing what you think(based on this week's newspaper articles)
第3回	Learning how to write with handouts,	Task 1:What is paragraph? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第4回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: What is presentation? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第5回	Learning how to write and the explicit correction	Task 1: The common errors Japanese students make (words) Task 2:Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第6回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students makes (words) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第7回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1: The common errors Japanese students make (phrases) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第8回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第9回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1:The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第10回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第11回	Learning how to write with a presenter	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第12回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第13回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第14回	Submitting an essay	Review: Creating a polished essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.

After each free English composition is corrected, review the content before it is returned. Similarly, after your presentation draft is corrected, compare it with the original text to identify the changes.

【テキスト（教科書）】
A handout or PDF will be distributed and uploaded.

【参考書】
Participants will be informed of it in the class.

【成績評価の方法と基準】
Attendance is emphasized. Students will be excluded from evaluation if they are absent more than 5 times (including 5 times of class) in a semester. Tardiness will be counted as tardiness if the student enters the room 15 minutes after the start of class. The third tardy will be counted as one absence. Leaving early will be treated the same way. Students will also be evaluated comprehensively based on in-class tasks, essay writing, and volunteering for Q&A as audience for the presentation.
Presentation + 50% of the final essay, 50% of the regular marks (free English essays for each session, Q&A, etc.) =100% in total.
Translated with DeepL.com (free version)
出席重視。3分の1以上または5回以上の欠席で不合格。遅刻は授業開始15分以降の入室をもって遅刻とし、3回目の遅刻を1回分の欠席に換算する。早退も同じ扱い。また授業中のタスク、エッセイライティング、プレゼンのオーディエンスとしてのＱ＆Ａのボランティアなどにより総合的に評価します。
プレゼン＋最終エッセイ50%、平常点（毎回の自由英作文、Ｑ＆Ａなど）50%＝計100％となります。

【学生の意見等からの気づき】
If you have any questions, please feel free to ask them.

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
[Learning Objectives]
Students will be given skills to write essays and make a presentation in English.
[Learning activities outside of classroom]
Students will need to practice writing in English, be prepared for presentations, and write a final essay. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end essay 50%, and tasks in this class 50%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

LOWRI　E　HUMBERSTONE

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
Students will learn and develop academic writing skills in English.
Students will improve their English writing skills and will be able to identify different features of English academic writing.
Students will be able to write short, coherent passages in English using complex vocabulary and varied grammatical structures.
Students will be able to write texts which express and justify their opinions in English.
Students will be able to verbally express themselves in English with some fluency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this class we will complete activities from textbooks and discuss texts and topics the textbook introduces. This class prioritises active learning, such as debate and discussion. Assignments may be submitted online or emailed to the sensei directly at senseiemma22@gmail.com. Emma Sensei will post corrections, comments and feedback on Hoppii or annotate emailed documents. For more detailed assignment feedback please email Emma Sensei directly.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Introduction to the class topics and assessment methods Write a self introduction and write three personal learning objectives.
第2回	Chapter 1 Describing people	Interview a classmate Sentences and Capitalisation
第3回	Chapter 1 Describing people	Write a description of your classmate based on your interview. HOMEWORK- Write a description of someone you admire
第4回	Chapter 2 - Listing order paragraphs	Intensifiers Topic Sentences Supporting Sentences
第5回	Chapter 2 - Listing order paragraphs	Sentence structures Draft a listing order paragraph as a class HOMEWORK- Write a listing order paragraph on how the topic “My Dream Career- How will I achieve my goal?”
第6回	Chapter 3 - Giving instructions	Adjectives and Nouns Prepositions of Place Adjective order
第7回	Chapter 3 - Giving instructions	Commas Study and draft a ‘How To” paragraph HOMEWORK - Write a “How To” Paragraph on a subject of your choice
第8回	Chapter 4 - Describing Places	Cumulative adjectives Practicing Prepositions of Place
第9回	Chapter 4 - Describing Places	Study and draft a descriptive paragraph as a class HOMEWORK - Write a descriptive paragraph about a place that is special to you
第10回	Chapter 5 - Stating Reasons and Using Examples	Identifying and organising reasons and examples Transition signals that introduce reasons Conclusion signals
第11回	Chapter 5 - Stating Reasons and Using Examples	Complex sentences with reason clauses and condition clauses Combining sentences Study and draft a recommendation paragraph as a class HOMEWORK - Write a recommendation of your favourite restaurant
第12回	Chapter 6 - Expressing your opinion	What are opinion paragraphs? Word forms vocabulary practice Identifying facts and opinions. Opinion signals, source signals, conclusion signals.
第13回	Chapter 6 - Expressing your opinion	Adjective clauses with who, which and that. Punctuating adjective clauses Combining clauses and sentences. Study and draft an opinion paragraph as a class. HOMEWORK - Write an opinion paragraph about a controversial topic

第14回	Review of class themes and skills	What topics have you enjoyed studying in this class? What content and grammar points have you found the most challenging? Review of any challenging grammar points as a class. FINAL ASSESSMENT: ESSAY

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework writing assignments will be set from the textbook based on class topics. Students should revise and practice vocabulary outside of the classroom, complete textbook exercises not completed in class, and use the textbook online resources. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework, revising material from previous lessons and preparing for upcoming lessons. The teacher will also recommend additional, optional resources for practicing listening and speaking comprehension using social media and streaming services. Homework may be submitted to the teacher via Hoppii, or alternatively via email

【テキスト（教科書）】
Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice &Digital Resources, 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【参考書】
Please see Hoppii for additional supplements

【成績評価の方法と基準】
The passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class participation: 20%
Final essay: 20%
Assignments: 60%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
This course aims to help students develop their written academic English skills through writing exercises. Using the textbook as a starting point for class discussion and homework writing exercises, we will aim to improve students vocabulary, use of grammatical structures and understanding of English academic writing conventions. The class encourages active learning and class discussion in order to improve confidence and fluency. Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, written feedback on homework, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.
Homework writing assignments will be set from the textbook based on class topics. Students should revise and practice vocabulary outside of the classroom, complete textbook exercises not completed in class, and use the textbook online resources. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework, revising material from previous lessons and preparing for upcoming lessons. The teacher will also recommend additional, optional resources for practicing listening and speaking comprehension using social media and streaming services. Homework may be submitted to the teacher via Hoppii, or alternatively via email.
The passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class participation: 20%
Final essay: 20%
Assignments: 60%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

中野　里美

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
Rather than merely translating Japanese into English, I will create writing assignments each time to develop the ability to logically express my own opinions. I will complete writing assignments following the essay format while also building the capacity to form and articulate my own viewpoints.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Learn the fundamentals of essay writing and train to ultimately complete a standard essay. Each session, freely choose from multiple themes and write. Essays are returned after correction. Each student presents one essay in class (previously corrected), and based on these presentations, finalize the final essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Explaining how to write an essay	Introduction and guidance
第2回	Learning how to write with handouts	Task 1:What is essay? Task 2:Writing what you think(based on this week's newspaper articles)
第3回	Learning how to write with handouts,	Task 1:What is paragraph? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第4回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: What is presentation? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第5回	Learning how to write and the explicit correction	Task 1: The common errors Japanese students make (words) Task 2:Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第6回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students makes (words) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第7回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1: The common errors Japanese students make (phrases) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第8回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第9回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1:The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第10回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第11回	Learning how to write with a presenter	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第12回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第13回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第14回	Submitting an essay	Review: Creating a polished essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.

After each free English composition is corrected, please review the content before it is returned.
Similarly, after your presentation draft is corrected, please compare it with the original text to note the changes.

【テキスト（教科書）】
Handouts will be distributed and a PDF will be uploaded.

【参考書】
Participants will be informed of it in the class.

【成績評価の方法と基準】
Attendance is emphasized. Students will be excluded from evaluation if they are absent more than 5 times (including 5 times of class) in a semester. Tardiness will be counted as tardiness if the student enters the room 15 minutes after the start of class. The third tardy will be counted as one absence. Leaving early will be treated the same way. Students will also be evaluated comprehensively based on in-class tasks, essay writing, and volunteering for Q&A as audience for the presentation.
Presentation + 50% of the final essay, 50% of the regular marks (free English essays for each session, Q&A, etc.) =100% in total.
Translated with DeepL.com (free version)
3分の1以上または5回以上の欠席で不合格。
公欠届、病欠（診断書、日付とフルネーム入りの領収書などを持参すること）は考慮します。遅刻は授業開始１５分以降の入室から。３回目の遅刻で１回欠席に換算します。遅延証明書は当日、授業内に持参すれば考慮します。毎回の自由英作文、平常点がプレゼン（自分の回＆他の人へのＱ＆Ａボランティア）、最終essayを総合的に評価します。プレゼン＋最終エッセイ50%、平常点（毎回の自由英作文、Ｑ＆Ａなど）50%＝計100％となります。

【学生の意見等からの気づき】
If you have any questions, please feel free to ask them.

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
[Learning Objectives]
Students will be given skills to write essays and make a presentation in English.
[Method(s)]
Participants are expected to practice writing in English about some issues, make a presentation and finally write an essay. Feedback will be carried out every week in the mini-essay.
[Learning activities outside of classroom]
Students will need to practice writing in English, be prepared for presentations, and write a final essay. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.
[Method(s)]
Participants are expected to practice writing in English about some issues, make a presentation and finally write an essay. Feedback will be carried out every week in the mini-essay.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end essay 50%, and tasks in this class 50%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

CELESTE GUILLEMOT

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
主な目標は以下の通りである：
- アカデミックライティングの基本原則を理解し、適切に応用すること。
- 明確なトピックセンテンス（topic sentence）、具体的なサポート文（supporting sentences）、そして結論文（concluding sentence）を持つ、よく構成されたパラグラフを書くこと。
- 論理的で説得力のあるエッセイを書くこと。
- 文法、語彙、スタイルを向上させるために、クラスメイトや自分自身の作文を効果的に修正および編集すること。（peer review）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では、4種類のパラグラフとエッセイライティングの練習を行います。毎週、（教科書の練習問題の解説）→（ライティング）→（ピアレビュー）→（編集・修正）→（提出）という流れで進めていく。学生が積極的に発言し参加できるような場を作り、主体的な学びを促進する。教材の内容や背景についても解説を行い、理解を深めるサポートをする。また、提出された課題やテストは採点の上、返却する。課題等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course overview Unit 1
2	Unit 2	What is a descriptive paragraph?
3	Unit 2	- writing - peer review
4	Unit 3	What is a Comparison/Contrast Paragraph?
5	Unit 3	- writing - peer review
6	Unit 4	What is a Cause/Effect Paragraph?
7	Unit 4	- writing - peer review
8	Unit 5	What is an opinion paragraph? (1)
9	Unit 5	- writing - peer review
10	Unit 5	- writing - peer review
11	Unit 6	Toward Writing a 300-Word Essay: Outlines
12	Unit 6	Toward Writing a 300-Word Essay: Writing 1
13	Unit 6	Toward Writing a 300-Word Essay: Writing 2, peer review
14	Final exam, review	Final exam, review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 毎週の宿題（教科書の問題や授業支援システム上の読解・文法練習）
- 教科書内容を予習・復習
- 分からない単語は事前に辞書で意味や発音を確認すること

【テキスト（教科書）】
Akira Tajino, Sayako Maswana, Yoshitaka Kato, Hironori Watari, Hiroshi Yamada, A Guide to English Academic Writing for Beginners, Asahi Press, 1800円+税, ISBN 9784255156484

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
授業平常点 60 %（毎週の宿題、授業参加、課題(paragraphx4+essayx1)）
学期末試験40％
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない

【学生の意見等からの気づき】
教科書の例に加えて、各ライティング課題に対応したモデルパラグラフやエッセイをHoppiに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
Learning objectives:
This course helps students improve their academic writing skills. They will learn to write clear and well-organized paragraphs and essays. Students will also practice editing their own work and giving feedback to classmates through peer review. The focus is on building strong writing habits and improving grammar, vocabulary, and style.
Work to be done outside of class:
Students are expected to complete regular homework and review the course material before class. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading criteria:
In class activities and assignments 60％, Final exam 40%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

今政　肇

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

【到達目標】
アカデミックライティングの基礎として、以下のことを学びます：
＊基本的な文法の復習
＊語彙・言い回し
＊パラグラフの構成法（トピックセンテンス、サポーティングセンテンス、コンクルーディングセンテンス）
＊３００字ほどの文章の構成法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では、教科書に沿ってリーディング、練習問題をクラス全体で行うとともに、教科書およびその他の資料を使ってパラグラフを書く練習を行う。また、学期末には、三百字ほどの文章の作文を行います。
必要に応じて変更します。その場合、クラスおよび学習支援システムで伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	クラスの進め方など説明 英語で自己紹介文を作成
第2回	Unit 1	Things Happen for a Reason （Cause &Effect）
第3回	Unit 2	Same or Different （Compare &Contrast）
第4回	Unit 3	Here's What I Think （Giving an Opinion）
第5回	Unit 4	Sorting Things Out （Classification Writing）
第6回	Unit 5	Step by Step （Describing a Process）
第7回	Unit 6	Feeling Through your Senses （Descriptive Writing）
第8回	Unit 7	Don't you Agree? (Persuasive Writing)
第9回	Unit 8	You Be the Judge (Writing to Evaluate)
第10回	Unit 9	Two Sides to Every Story (Pros &Cons)
第11回	Essay Writing Lecture, Brainstorming, and Make an Outline	300字の作文の構成について講義ののち、小グループでブレインストーミングし、アウトラインを作成する
第12回	Final Writing 1	授業の中で草稿を執筆し、提出する
第13回	Final Writing 2	添削された文章を書き直し、学生同士でお互いの文章をチェックする
第14回	Presentation and Final Review	発表・最終リビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書のリーディング、練習問題の予習、その他の宿題など、進度に応じて指示を出します。

【テキスト（教科書）】
Robert Hickling, Jun Yashima, Jigsaw: Insightful Reading to Successful Writing. Cengage Learning.

【参考書】
To be distributed as PDFs or Print-outs.

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework and Quizzes 20%
Weekly Paragraph Writing 30%
Final Writing 30%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
【Learning Objectives】
* Review grammatical knowledge
* Acquire useful vocabulary and idiomatic expressions
* Learn to write a paragraph
* Learn to write a 300-word essay
【Learning activities outside of classroom】
Instructions will be given based on progress, including textbook reading, completing textbook drills, and other homework. The standard is four hours of study outside of class time per week, such as preparation and review for this class.
【Grading Criteria /Policy】
Participation 20%
Homework and Quizzes 20%
Weekly Paragraph Writing 30%
Final Writing 30%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
・Write for a clear purpose and to a specific audience, using appropriate word and style choices
・Choose, restrict, organize, and support a writing topic and/or thesis
・Understand the planning, outlining and drafting process
・Write sentences that are clear, concise, and effective, using academic essay structure and paragraphing
・Integrate sources accurate and effectively
・Write in the style of an English-language academic essay and be aware of MLA formatting.
・Read and edit their own and their peers' essays in order to improve them

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Each class will review key points in that week's topic using short reading and writing tasks, along with pair- and groupwork designed for Active Learning, this will include project-based work.　Feedback will be delivered in-class. Students will be asked to consider how these tasks relate to the topic at large, and the essay type being focused on. Homework will be assigned which relates to the incremental steps of each week and also to the main assessment tasks of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Academic Writing	Introducing the class content, expectations and discussing the course.
2	Writing Paragraphs I	Writing a paragraph Coherence &structure MLA
3	Writing Paragraphs II	Types of sentence Evidence and support Editing
4	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information I	Sources
5	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information II	MLA
6	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information III	Practice
7	Essay Structure I	From paragraph to essay
8	Essay Structure II	What goes where?
9	Essay Structure III	Practice
10	Writing an Argumentative Essay: Developing Arguments	Argument, Counter-Argument & Rebuttal
11	Writing an Argumentative Essay: Organising Argumentative Essays	Practice
12	Writing an Argumentative Essay: Proofing and Editing	Argument, Structure &MLA
13	Essay Work	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
14	Essay Work & Presentation	Students will be asked to present one of their essays in a presentation style.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Writing assignments not finished within the allotted time; editing tasks; textbook exercises; research; coursework writing

【テキスト（教科書）】
You need a paper / electronic English Dictionary (NOT a phone).
No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer, or will be available online. However, library access is required for students to research their chosen essay topics.

【参考書】
[Lunsford, et al.] Everyone's an Author: with Readings (Third Edition). W. W. Norton &Company (May 15, 2020)
ISBN: 978-0393420838
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
Students should make sure that they have access to the university library.　Some internet use connected to in-class research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Classwork (homework, effort, participation): 15%
Essay (Outline, Drafts, Final draft): 10%
In-Class Writing Tasks (Essay work; Summarizing Tasks; End-of-Semester Task): 10%
Test: 65%

【学生の意見等からの気づき】
Use power point for presentations. Add an audio-visual element to assist in understanding summary writing. More in-class practice.
A document which clearly states class procedures and the obligations of students has been included with Week 1 materials on Google Classroom.

【学生が準備すべき機器他】
A paper or an electronic English Dictionary (NOT a phone)
Class notebook (B5 size is good)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and Google Classroom. If the course is run face-to-face, it will use Google Classroom.
The Hosei University Hoppi system will have basic information on how to access Google Classroom. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted on Google Classroom.*
Students will need a Hosei University email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher and access Google Classroom. This address must not change during the semester.
Please make sure that the computer equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.

【その他の重要事項】
Note:
This is a 'No Smartphone' class. Your phone must be turned off, and in your bag. Your "Classwork (effort, participation)" grade will be affected if you persistently use / look at your phone.
This class promotes and relies on academic honesty. The use of translation and language-generating technology is considered to be plagiarism and is not allowed under any circumstances. Your course grade will be affected by ignoring this rule.
"Dictionary" means paper dictionary or electronic dictionary. Using a phone as a dictionary is not allowed.

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
Work to be done outside of class (preparation, etc.):
Writing assignments not finished within the allotted time; editing tasks; textbook exercises; research; coursework writing. This work may take up to 4 hours each week.
Grading criteria:
Classwork (homework, effort, participation): 15%
Essay (Outline, Drafts, Final draft): 10%
In-Class Writing Tasks (Essay work; Summarizing Tasks; End-of-Semester Task): 10%
Test: 65%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
・Write for a clear purpose and to a specific audience, using appropriate word and style choices
・Choose, restrict, organize, and support a writing topic and/or thesis
・Understand the planning, outlining and drafting process
・Write sentences that are clear, concise, and effective, using academic essay structure and paragraphing
・Integrate sources accurate and effectively
・Write in the style of an English-language academic essay and be aware of MLA formatting.
・Read and edit their own and their peers' essays in order to improve them

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Each class will review key points in that week's topic using short reading and writing tasks, along with pair- and groupwork designed for Active Learning, this will include project-based work. Feedback will be delivered in-class. Students will be asked to consider how these tasks relate to the topic at large, and the essay type being focused on. Homework will be assigned which relates to the incremental steps of each week and also to the main assessment tasks of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Academic Writing	Introducing the class content, expectations and discussing the course.
2	Writing Paragraphs I	Writing a paragraph Coherence &structure MLA
3	Writing Paragraphs II	Types of sentence Evidence and support Editing
4	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information I	Sources
5	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information II	MLA
6	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information III	Practice
7	Essay Structure I	From paragraph to essay
8	Essay Structure II	What goes where?
9	Essay Structure III	Practice
10	Writing an Argumentative Essay: Developing Arguments	Argument, Counter-Argument & Rebuttal
11	Writing an Argumentative Essay: Organising Argumentative Essays	Practice
12	Writing an Argumentative Essay: Proofing and Editing	Argument, Structure &MLA
13	Essay Work	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
14	Essay Work & Presentation	Students will be asked to present one of their essays in a presentation style.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Writing assignments not finished within the allotted time; editing tasks; textbook exercises; research; coursework writing

【テキスト（教科書）】
You need a paper / electronic English Dictionary (NOT a phone).
No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer, or will be available online. However, library access is required for students to research their chosen essay topics.

【参考書】
[Lunsford, et al.] Everyone's an Author: with Readings (Third Edition). W. W. Norton &Company (May 15, 2020)
ISBN: 978-0393420838
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Classwork (homework, effort, participation): 15%
Essay (Outline, Drafts, Final draft): 10%
In-Class Writing Tasks (Essay work; Summarizing Tasks; End-of-Semester Task): 10%
Test: 65%

【学生の意見等からの気づき】
Add an audio-visual element to assist in understanding summary writing. More in-class practice.
A document which clearly states class procedures and the obligations of students has been included with Week 1 materials on Google Classroom.

【学生が準備すべき機器他】
A paper or an electronic English Dictionary (NOT a phone)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and Google Classroom. If the course is run face-to-face, it will use Google Classroom.
The Hosei University Hoppi system will have basic information on how to access Google Classroom. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted on Google Classroom.*
Students will need a Hosei University email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher and access Google Classroom. This address must not change during the semester.
Please make sure that the computer equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.

【その他の重要事項】
Note:
This is a 'No Smartphone' class. Your phone must be turned off, and in your bag. Your "Classwork (effort, participation)" grade will be affected if you persistently use / look at your phone.
This class promotes and relies on academic honesty. The use of translation and language-generating technology is considered to be plagiarism and is not allowed under any circumstances. Your course grade will be affected by ignoring this rule.
"Dictionary" means paper dictionary or electronic dictionary. Using a phone as a dictionary is not allowed.

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
Work to be done outside of class (preparation, etc.):
Writing assignments not finished within the allotted time; editing tasks; textbook exercises; research; coursework writing. This work may take up to 4 hours each week.
Grading criteria:
Classwork (homework, effort, participation): 15%
Essay (Outline, Drafts, Final draft): 10%
In-Class Writing Tasks (Essay work; Summarizing Tasks; End-of-Semester Task): 10%
Test: 65%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

今政　肇

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

【到達目標】
アカデミックライティングの基礎として、以下のことを学びます：
＊基本的な文法の復習
＊語彙・言い回し
＊パラグラフの構成法（トピックセンテンス、サポーティングセンテンス、コンクルーディングセンテンス）
＊３００字ほどの文章の構成法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では、教科書に沿ってリーディング、練習問題をクラス全体で行うとともに、教科書およびその他の資料を使ってパラグラフを書く練習を行う。また、学期末には、三百字ほどの文章の作文を行います。
必要に応じて変更します。その場合、クラスおよび学習支援システムで伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	クラスの進め方など説明 英語で自己紹介文を作成
第2回	Unit 1	Things Happen for a Reason （Cause &Effect）
第3回	Unit 2	Same or Different （Compare &Contrast）
第4回	Unit 3	Here's What I Think （Giving an Opinion）
第5回	Unit 4	Sorting Things Out （Classification Writing）
第6回	Unit 5	Step by Step （Describing a Process）
第7回	Unit 6	Feeling Through your Senses （Descriptive Writing）
第8回	Unit 7	Don't you Agree? (Persuasive Writing)
第9回	Unit 8	You Be the Judge (Writing to Evaluate)
第10回	Unit 9	Two Sides to Every Story (Pros &Cons)
第11回	Essay Writing Lecture, Brainstorming, and Make an Outline	300字の作文の構成について講義ののち、小グループでブレインストーミングし、アウトラインを作成する
第12回	Final Writing 1	授業の中で草稿を執筆し、提出する
第13回	Final Writing 2	添削された文章を書き直し、学生同士でお互いの文章をチェックする
第14回	Presentation and Final Review	発表・最終リビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書のリーディング、練習問題の予習、その他の宿題など、進度に応じて指示を出します。

【テキスト（教科書）】
Robert Hickling, Jun Yashima, Jigsaw: Insightful Reading to Successful Writing. Cengage Learning.

【参考書】
To be distributed as PDFs or Print-outs.

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%
Homework and Quizzes 20%
Weekly Paragraph Writing 30%
Final Writing 30%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
【Learning Objectives】
* Review grammatical knowledge
* Acquire useful vocabulary and idiomatic expressions
* Learn to write a paragraph
* Learn to write a 300-word essay
【Learning activities outside of classroom】
Instructions will be given based on progress, including textbook reading, completing textbook drills, and other homework. The standard is four hours of study outside of class time per week, such as preparation and review for this class.
【Grading Criteria /Policy】
Participation 20%
Homework and Quizzes 20%
Weekly Paragraph Writing 30%
Final Writing 30%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

太田　美智子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly.
基本的な文法の復習を通してより正確な英文を書けるようにすることを目標とする。
tly and confidently.
・You can choose the most appropriate type of essay.
The lesson will involve using both the textbook and also free-writing.
At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The lesson will involve using both the textbook and also free-writing.
At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第2回	Unit 1	* Basics for English Composition
第3回	Unit 2	* What is a Paragraph?
第4回	Unit 3	* Procedure/ Process
第5回	Unit 4	* Chronological Order
第6回	Unit 5	* Spatial Order
第7回	Unit 6	* Graph Description
第8回	quiz	quiz
第9回	Unit 7	* Definition
第10回	Unit 8	* Illustration
第11回	Unit 9	* Classification
第12回	Unit 10	* Comparison and Contrast
第13回	Review	Review
第14回	Check	Check

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】
5 Steps for Paragraph Writing, Akihiro Maeda, Junko Kono, Simon Fosati, Tsurumi Shoten, 2021, 2000 yen

【参考書】
Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】
Class Work and Participation　30％
Short Reports　30％
Term-Examination 40％

【学生の意見等からの気づき】
It is important for us to find interesting topics.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries

【Outline (in English)】
The learning objectives of this class are to develop students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating into English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
・Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly and confidently.
・You can choose the most appropriate type of essay.
・You will be expected to have completed the required assignments after
each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading:
Class Work and Participation　30％
Short Reports　30％
Term-Examination 40％

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

尾関　裕子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身に着け、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
1.writing に必要な語彙知識を固め、エッセイの読み書きい応用できるようになること
2.Essay Writing の基礎を学び、段落構成の整った300語以上の英文を作れるようになること
3.Essay の構造を知り、reading 能力も高め、より効率的に英文を把握できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回テキストのchapter 1つを進めます。テキストのエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。提出されたものは採点されたうえで返却されます。半期授業全体としては、パラグラフの構成要素、エッセイの構成要素を順に確認のうえ、それぞれ英文で仕上げる作業を行います。段落一つのパラグラフライティングでは、50 100語程度の英文再生を目指します。また後半のエッセイの場合、序論、結論はそれぞれ50語程度、本論は２～3段落を有し、各段落は75 100語程度から成るものを仕上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. Unit 1	一人称、二人称を使わずに客観的に書く
2	2. Unit 2	文の繋がりを意識する
3	3. Unit 3	ほぼ同じ意味をもつ別の表現を考えてみる
4	4. Unit 4 パラグラフライティング１	Paragraph の基本構造を理解する
5	5. Unit 5 パラグラフライティング２	Topic Sentence から Supporting Sentences
6	6. Unit 6 パラグラフライティング３	Supporting Sentences から Supports
7	7. Unit 7 エッセイライティング１	本論の展開方法を覚える １．理由や根拠
8	8. Unit 8 エッセイライティング２	本論の展開方法を覚える ２．時系列
9	9. Unit 9 エッセイライティング３	本論の展開方法を覚える ３．意見の並列
10	10. Unit 10 エッセイライティング４	序論・本論・結論の役割
11	11. Unit 11 エッセイライティング５	結論を書いてみる
12	12. Unit 12 エッセイライティング６	序論を書いてみる
13	13.エッセイライティング７	本論を書いてみる
14	14. エッセイライティング８	Essay を書いてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、４時間を標準とする】
授業相当範囲の問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

【テキスト（教科書）】
Writing Skills for Readers　日本英語表現学会テキスト研究部会編　南雲堂2021年　2420円

【参考書】
「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times)ほか。授業時に必用に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業時提出物回数、予習、授業への参加姿勢）４０％
提出物、クイズなど６０％
提出物は授業時内に提出することを基本とします。病欠、公欠といった証明できる欠席については後日の提出を認めますが、それ以外の欠席については後日の提出は認められません。
遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。成績評価を受けるには授業の三分の二は出席のこと。遅延証明の有効は３回までです。
授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話はオフにする。

【学生の意見等からの気づき】
黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しずらいですので、各授業の終わりには課題にそった英文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
英和・和英辞書

【その他の重要事項】
授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。
出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。
基本となるひとつずつの英文が正確であることが求められます。語彙、文法などこれまで学んだことを活かし、まずは正確な（相手に理解される）英文を作る努力をしましょう。

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
*Learning Objectives: to develop strategies for writing.
*Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
*Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Quiz, assignment 60% ;in-class contribution 40%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different kinds of essays and how to turn their essay into a power point oral presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
There will be a lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write an essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to academic writing	Introduce the class content, expectations and offer guidance.
2	How to write essays 1	Discussion of writing for different purposes, and a variety of pre-writing techniques.
3	How to write essays 2	An introduction of several various kinds of essays. Students will practice writing introductions and conclusions.
4	Descriptive essays 1	Students will review examples of descriptive essays and be introduced to rhetorical focus ideas and start to write their essays
5	Descriptive essays 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
6	Opinion Essay 1	Students will understand the basics of writing an opinion essay and be given some class time to write.
7	Opinion Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
8	Cause and Effect Essay 1	Students will understand the basics of writing a cause and effect essay and be given some class time to write.
9	Cause and Effect Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
10	Ted Talk-writing	Students will understand the basics of writing through watching a Ted talk on the topic of academic writing.
11	DVD- social issues	Students will work in teams to create a coherent narrative on the topic of workplace harassment after watching a DVD
12	Problem/Solution 1	Students will understand the basics of writing with no technical support and be given some class time to write.
13	Problem Solution 2	Students will receive their essays back and will create an AI version of their essay and then create a hybrid finished draft.
14	Final Essay	Students will be asked to choose one essay style and compose an essay from their major course of study.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Writing assignments as well as self-editing tasks. Also, preparation for the final essay.
In preparation for the final essay, students are expected to spend approximately four hours on preparation and review outside of class for this course."

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Ready to Write More. Karen Blanchard. Longman Press.
Effective Academic Writing 2. Oxford Press

【成績評価の方法と基準】
Essays and in class work-75%
Final Essay-25%

【学生の意見等からの気づき】
No changes will be made based on the student evaluation.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries. Notebooks

【Outline (in English)】
The learning objectives of this class are to develop students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating into English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different kinds of essays and how to turn their essay into a power point oral presentation.
Learning Activities Outside of the Classroom-Writing assignments as well as self-editing tasks. Also, preparation for the final essay. Students are expected to spend approximately four hours on preparation and review outside of class for this course.
Grading:
Essays and in class assignments-75%
Final Essay/presentation-25%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

乾　展子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。
また、ライティングの字句や文章の推敲のスキル、徹底的に、かつ客観的に文章を読み、間違いを見つける校正のスキルも学習します。この学習を通して，アカデミック・ライティングの構成、表現ルール、情報内容を理解し実践できることを目指します。またアカデミック・ライティングにおける、文章推敲・校正スキルを育成します。

【到達目標】
・アカデミック・ライティングの構成、表現ルール、情報内容を理解し実践できる。
・アカデミック・ライティングにおける、文章推敲・校正スキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の前までに予習をしてもらいます。予習をを基に、テキストの内容を確認していきます。また、毎回の授業で課題を提出してもらい、学習内容の定着を目指した小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、予習課題の内容、評価方法などについての説明
第2回	Unit 1	パラグラフの種類と構造を学ぶ
第3回	Unit 2（1）	Narrative / Descriptive Paragraphを学ぶ
第4回	Unit 2（2）	Narrative / Descriptive Paragraphの違いを理解し書く
第5回	Unit 3（1）	Comparison / Contrast Paragraphを学ぶ
第6回	Unit 3（2）	Comparison / Contrast Paragraphの違いを理解し書く
第7回	Unit 4（1）	Cause Paragraphを学ぶ
第8回	Unit 4（2）	Effect Paragraphを学ぶ
第9回	Unit 4（3）	Cause / Effect Paragraphの違いを理解し書く
第10回	Unit 5（1）	Opinion Paragraphを学ぶ
第11回	Unit 5（2）	Opinion Paragraphについての理解を深める
第12回	Unit 5（3）	Opinion Paragraphを書く
第13回	Unit 6（1）	Essayの構造を学ぶ
第14回	Unit 6（2）	Essayを書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・授業前に指定されている課題を行い、提出してください。
・ミニテストを実施しますので、復習をしてください。

【テキスト（教科書）】
田地野彰 監修『A Guide to English Academic Writing for Beginners　はじめてのアカデミックライティング』（朝日出版社）

【参考書】
必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

Unit毎のライティング	40％
予習課題	25％
授業内課題	25％
ミニテスト	10％

【学生の意見等からの気づき】
英語能力をを少しでも各自が伸ばせるように授業に取り組んでいきたいと思います。質問はいつでもしてください。

【学生が準備すべき機器他】
ライティングでPCを使うので持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることがあります。

【注意事項】
・２０分以上の遅刻、早退は欠席１回として扱います。
・正当な理由なく５回以上欠席した場合、不可とします。
・授業中に指示のある時以外に携帯を使用している場合は退室してもらい、欠席とします。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
In addition, students will also learn the skills of lexical and textual elaboration and proofreading skills to find errors by reading the text thoroughly and objectively.
[Learning Objectives]
Through these learning experiences, students can understand the structure, conventions of expression, and information content of academic writing and use the skills.
[Learning activities outside of classroom]
In preparation for class, please check the lesson content. There will be a quiz every two units, so please review.
[Grading Criteria /Policy]
The final grade will be calculated based on In-Class Writing Tasks (40%), pre-class assignments (25%), classwork (25%), and quizzes (10%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・明確な目的を持って特定の読者に向けて適切な語彙とスタイルで書くことができる。
・論理構成や段落分けを理解し簡潔で効果的な文章で書くことができる。
・書くプロセス（planning, outlining, drafting）に沿って書けるようになる。
・剽窃(plagiarism)を避けるために様々な引用の仕方を理解し使えるようになる。
・クラスメートのエッセイを読み直し、編集できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、ライティングの演習問題を、グループワークで実施します。ピア編集を活用し、お互いの書いたものを校正、編集し、ライティングスキルの向上につなげる。また、教員による個別フィードバックがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation Paragraph writing	Explanation of syllabus & course introduction Introduction to fluency writing
第2回	Paragraph writing	Fluency writing How to write paragraphs Formatting guidelines and avoiding plagiarism
第3回	Paragraph writing	Fluency writing Learn how to reference your sources
第4回	Essay writing	Fluency writing Start essay preparations
第5回	Essay writing	Fluency writing Turn in 1st topic sentence
第6回	Essay writing	Fluency writing Turn in 2nd topic sentence
第7回	Essay writing	Fluency writing Turn in 3rd topic sentence
第8回	Essay writing	Fluency writing Write introduction and conclusion
第9回	Essay writing Peer Feedback	Fluency writing Peer feedback day
第10回	Essay writing 1st draft	Fluency writing Turn in 1st draft
第11回	Essay Writing	Fluency writing Revise 1st draft
第12回	Essay writing 2nd draft	Fluency writing Turn in 2nd draft
第13回	Essay writing	Fluency writing Revise 2nd draft
第14回	Essay writing 3rd draft	Fluency writing Turn in 3rd draft Turn in fluency journal

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間程度を標準とする】
・ライティング課題は、全て、初稿提出⇒ピア編集⇒書き直し⇒最終稿提出で進んでいくので、期限までに初稿、最終稿を提出すること。
・リサーチのテーマに沿って、様々なリーディング素材を英語で読みながらまとめていくので、しっかりと事前準備をして進めていくこと。

【テキスト（教科書）】
All materials will be provided by the professor online.

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
・ライティング課題　１００％　（エッセイ８５%、　Fluency　１５%）
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring their computers (laptops or tablets) to every class.

【その他の重要事項】
・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
The course is designed to help students develop skills to communicate effectively in writing. Students will practice group writing assignments that require planning, drafting, revising and editing.

By the end of the course, students will be able to: 1) write for a clear purpose and to a specific audience, using appropriate word and style choices, 2) understand the planning, outlining and drafting process, 3) integrate sources accurately and effectively, 4) write in the style of an English-language academic essay, 5) read and edit their essays in order to improve them.
Each week students will be expected to spend four hours outside of class preparing for their writing assignments.
Final grades will be based on fluency writing (15%) and essay writing assignments (85%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

太田　美智子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly and confidently.
・You can choose the most appropriate type of essay.
The lesson will involve using both the textbook and also free-writing.
At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.
基本的な文法の復習を通してより正確な英文を書けるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The lesson will involve using both the textbook and also free-writing.
At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第2回	Unit 1	* Basics for English Composition
第3回	Unit 2	* What is a Paragraph?
第4回	Unit 3	* procedure/ Process
第5回	Unit 4	* Chronological Order
第6回	Unit 5	* Spatial Order
第7回	Unit 6	* Graph Description
第8回	quiz	quiz
第9回	Unit 7	* Definition
第10回	Unit 8	* Illustration
第11回	Unit 9	* Classification
第12回	Unit 10	* Comparison and Contrast
第13回	Review	Review
第14回	Check	Check

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】
5 Steps for Paragraph Writing, Akihiro Maeda, Junko Kono, Simon Fosati, Tsurumi Shoten, 2021, 2000 yen

【参考書】
Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】
Class Work and Participation　30％
Short Reports　30％
Term-Examination 40％

【学生の意見等からの気づき】
It is important for us to find interesting topics.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries

【Outline (in English)】
The class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics and content-based writing.
・Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly and confidently.
・You can choose the most appropriate type of essay.
・You will be expected to have completed the required assignments after
each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading:
Class Work and Participation　30％
Short Reports　30％
Term-Examination 40％

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

乾　展子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。
また、ライティングの字句や文章の推敲のスキル、徹底的に、かつ客観的に文章を読み、間違いを見つける校正のスキルも学習します。この学習を通して，アカデミック・ライティングの構成、表現ルール、情報内容を理解し実践できることを目指します。またアカデミック・ライティングにおける、文章推敲・校正スキルを育成します。

【到達目標】
・アカデミック・ライティングの構成、表現ルール、情報内容を理解し実践できる。
・アカデミック・ライティングにおける、文章推敲・校正スキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の前までに予習をしてもらいます。予習をを基に、テキストの内容を確認していきます。また、毎回の授業で課題を提出してもらい、学習内容の定着を目指した小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、予習課題の内容、評価方法などについての説明
第2回	Unit 1	パラグラフの種類と構造を学ぶ
第3回	Unit 2（1）	Narrative / Descriptive Paragraphを学ぶ
第4回	Unit 2（2）	Narrative / Descriptive Paragraphの違いを理解し書く
第5回	Unit 3（1）	Comparison / Contrast Paragraphを学ぶ
第6回	Unit 3（2）	Comparison / Contrast Paragraphの違いを理解し書く
第7回	Unit 4（1）	Cause Paragraphを学ぶ
第8回	Unit 4（2）	Effect Paragraphを学ぶ
第9回	Unit 4（3）	Cause / Effect Paragraphの違いを理解し書く
第10回	Unit 5（1）	Opinion Paragraphを学ぶ
第11回	Unit 5（2）	Opinion Paragraphについての理解を深める
第12回	Unit 5（3）	Opinion Paragraphを書く
第13回	Unit 6（1）	Essayの構造を学ぶ
第14回	Unit 6（2）	Essayを書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・授業前に指定されている課題を行い、提出してください。
・ミニテストを実施しますので、復習をしてください。

【テキスト（教科書）】
田地野彰 監修『A Guide to English Academic Writing for Beginners　はじめてのアカデミックライティング』（朝日出版社）

【参考書】
必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

Unit毎のライティング	40％
予習課題	25％
授業内課題	25％
ミニテスト	10％

【学生の意見等からの気づき】
英語能力をを少しでも各自が伸ばせるように授業に取り組んでいきたいと思います。質問はいつでもしてください。

【学生が準備すべき機器他】
ライティングでPCを使うので持参してください。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることがあります。

【注意事項】
・２０分以上の遅刻、早退は欠席１回として扱います。
・正当な理由なく５回以上欠席した場合、不可とします。
・授業中に指示のある時以外に携帯を使用している場合は退室してもらい、欠席とします。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
In addition, students will also learn the skills of lexical and textual elaboration and proofreading skills to find errors by reading the text thoroughly and objectively.
[Learning Objectives]
Through these learning experiences, students can understand the structure, conventions of expression, and information content of academic writing and use the skills.
[Learning activities outside of classroom]
In preparation for class, please check the lesson content. There will be a quiz every two units, so please review.
[Grading Criteria /Policy]
The final grade will be calculated based on In-Class Writing Tasks (40%), pre-class assignments (25%), classwork (25%), and quizzes (10%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

尾関　裕子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身に着け、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
1.writing に必要な語彙知識を固め、エッセイの読み書きい応用できるようになること
2.Essay Writing の基礎を学び、段落構成の整った300語以上の英文を作れるようになること
3.Essay の構造を知り、reading 能力も高め、より効率的に英文を把握できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回テキストのchapter 1つを進めます。テキストのエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。提出されたものは採点されたうえで返却されます。半期授業全体としては、パラグラフの構成要素、エッセイの構成要素を順に確認のうえ、それぞれ英文で仕上げる作業を行います。段落一つのパラグラフライティングでは、50 100語程度の英文再生を目指します。また後半のエッセイの場合、序論、結論はそれぞれ50語程度、本論は２～3段落を有し、各段落は75 100語程度から成るものを仕上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. Unit 1	一人称、二人称を使わずに客観的に書く
2	2. Unit 2	文の繋がりを意識する
3	3. Unit 3	ほぼ同じ意味をもつ別の表現を考えてみる
4	4. Unit 4 パラグラフライティング１	Paragraph の基本構造を理解する
5	5. Unit 5 パラグラフライティング２	Topic Sentence から Supporting Sentences
6	6. Unit 6 パラグラフライティング３	Supporting Sentences から Supports
7	7. Unit 7 エッセイライティング１	本論の展開方法を覚える １．理由や根拠
8	8. Unit 8 エッセイライティング２	本論の展開方法を覚える ２．時系列
9	9. Unit 9 エッセイライティング３	本論の展開方法を覚える ３．意見の並列
10	10. Unit 10 エッセイライティング４	序論・本論・結論の役割
11	11. Unit 11 エッセイライティング５	結論を書いてみる
12	12. Unit 12 エッセイライティング６	序論を書いてみる
13	13.エッセイライティング７	本論を書いてみる
14	14. エッセイライティング８	Essay を書いてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、４時間を標準とする】
授業相当範囲の問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

【テキスト（教科書）】
Writing Skills for Readers　日本英語表現学会テキスト研究部会編　南雲堂2021年　2420円

【参考書】
「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times)ほか。授業時に必用に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業時提出物回数・予習、授業への参加姿勢）４０％
提出物、クイズなど６０％
提出物は授業時内に提出することを基本とします。病欠、公欠といった証明できる欠席については後日の提出を認めますが、それ以外の欠席については後日の提出は認められません。
遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。成績評価を受けるには授業の三分の二は出席のこと。遅延証明の有効は３回までです。
授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話はオフにする。

【学生の意見等からの気づき】
黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しずらいですので、各授業の終わりには課題にそった英文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
英和・和英辞書

【その他の重要事項】
授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。
出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。
基本となるひとつずつの英文が正確であることが求められます。語彙、文法などこれまで学んだことを活かし、まずは正確な（相手に理解される）英文を作る努力をしましょう。

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
*Learning Objectives: to develop strategies for writing.
*Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
*Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Quiz, assignment 60% ;in-class contribution 40%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

川口　悠子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・文法的に正しく、読み手に伝わりやすい文を書けるようになる。
・分かりやすく、かつ説得力のある文章構成がどのようなものか理解し、そのような文章を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、予習を元に、ひとつひとつの文を作文するための文法・語法とパラグラフ（段落）の構造を確認します。授業で確認した文法・語法を定着させるために期末テストをおこない、正答できなかった箇所の見直しを課します。また、まとまった長さの作文を課し、添削を通じてフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や予習の仕方について説明する。
第2回	辞書の使い方	今後の英語学習をより効果的にするために、辞書を有効に使う方法を学ぶ
第3回	What Is a Paragraph?	パラグラフの基本構造について学ぶ。
第4回	Description of Feelings	感情の描写について、く用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第5回	Description of Places and Locations	場所や位置の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第6回	Comparison and Contrast	比較について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第7回	Cause and Effect	物事の原因や結果について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第8回	Problems and Solutions	問題点を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるよう練習する。
第9回	Your Opinion	ある物事に対して賛否の意見を述べる際の表現を学び、自分の主張をまとめた文章を書く練習をする。
第10回	Exam	ペーパーテストをおこなう。
第11回	Exam Review (1)	ペーパーテストを返却し、復習する。
第12回	Exam Review (2)	ペーパーテストの誤った箇所を暗唱する。
第13回	Essay Writing	授業中に作文を執筆する。
第14回	Essay Review	執筆した作文を返却し、演習形式で解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・語学の勉強に、予習と反復練習は決定的に重要です。辞書をひきながらしっかりと予習・復習をこなってください（詳細は指示します）。
・授業で扱った文法・語法の定着を目的として、期末試験をおこないます。準備して臨んでください。

【テキスト（教科書）】
資料を用意して配布します。購入の必要はありません。

【参考書】
綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）
佐藤誠司『Skyward 総合英語』および『Skyward 総合英語 スーパートレーニング』（桐原書店、2022年）
ほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
エッセイ　40%
期末試験 40%
授業参加度 20%
＊正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき3回を上限とします。
＊30分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
＊教科書を持参していない場合、予習が不充分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともあります。
＊機械翻訳やAI（ChatGPT 等）が作成した文章や英訳・和訳を、自分で作成したものとして提出することは認めません。そのような行為が確認された場合は、当該の課題の成績を０点にするなど、厳格な対応を行います。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんが質問や発言がしやすい雰囲気を作るよう、心がけます。

【その他の重要事項】
きちんとした辞書を毎回必ず持参して下さい。
なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
【Learning Objectives】
- Students will be able to write grammatically correct sentences that clearly convey their intention.
- Students will understand clear and persuasive text structures and apply them in their own writing.
【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Preparation, review, and repetitive exercise are crucial in studying a language.
Students should consult dictionaries frequently and carefully. A final exam is given to help build the vocabulary and grammar.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be calculated based on an essay (40%), a final exam (40%), and class participation (20%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.
Students will be able to use online tools available to them in a responsible and ethical manner and to reflect on how to use such tools to broaden their understanding of academic writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Students will be introduced to specific discrete writing skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation: Writing Skills 1-3 :	Orientation - Class rules and grading criteria Simple Sentences &Elements of a paragraph Outside Class - Subject-Verb agreement
2	Skills 4-6	Capitalisation Rules 1 & Punctuation 1 Outside Class - Consistent pronoun use
3	Skills 7-8	Avoiding run-ons and comma splices &Avoiding sentence fragments Outside Class - Simple editing task
4	Skills 9-11	Topic sentences &Supporting sentences Outside Class - Concluding sentences
5	Skill 12	Sentences with Relative Clauses
6	Skills 13-15	Simple vs Compound sentences Complex sentences Outside Class - Sentence Combination
7	Skills 19-20, 16	Transition Words: Chronological order &Verb tense consistency Outside Class - Giving specific examples MID-SEMESTER ASSIGNMENT
8	Skills 17-18, 20	Punctuation 2 and Capitalisation 2 Outside Class - Verb Tense Consistency
9	Skills 22-24	Outlines &Facts vs Opinions Outside Class - Review of Simple, Compound and Complex sentences
10	Skills 25-26, 29	Contrasting opinions and contrast transitions Outside Class - Review Combining sentences
11	Skills 28,31	Writing for an academic audience Transitions of opinion and conclusion
12	Skills 21 &30	Giving specific examples 2 and Irrelevant vs relevant information Brainstorming and Writing a Rough Draft
13	Skill 32	The essay Outside Class - Outline
14	FINAL WRITTEN REVIEW TEST	WRITTEN TEST & FEEDBACK ON FINAL ASSIGNMENT

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Some preparation and testing of understanding will be done outside of the classroom, recorded by means the Learning Management System. Feedback on performance will be available to students.
Two written assignments will be assigned to test students ability to integrate skills in writing longer texts.
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
Skills For Effective Writing 2, (Cambridge University Press, 2013) ￥2,600 before tax. ISBN 978-1-107-61353-9

【参考書】
No specific reference.

【成績評価の方法と基準】
First Assignment 15%
Final Assignment 30%
Final Review Test 35%
Participation 20%

【学生の意見等からの気づき】
More explicit instructions for completion of assessed writing tasks will be given using the Learning Management System.

【学生が準備すべき機器他】
A computer or cellphone will be needed to access the Learning Management system for work outside class.

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.
Students will be introduced to specific discrete skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.
Testing of students' understanding of specific features of academic writing and self-editing skills will be done outside of the classroom using the Learning Management System. Students will also be asked to develop ideas for their writing assignments outside and class and make a record of their use of online tools to improve their academic writing in a responsible manner.
Two written assignments will be assigned to test students ability to integrate skills in writing longer texts.
First Assignment 15%
Final Assignment 30%
Final Review Test 35%
Participation 20%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

村上　弥生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈授業概容〉
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。
〈授業の目的・意義〉
大学生にふさわしい現代的、知的なトピックについて、的確に効果的に短いエッセイの形で情報や意見を英語で論じる力を身に着けることによって、国際人としての将来の役割への準備を行う。このコースで学ぶ内容は、今後、大学生、また社会人として日本語で充実したエッセイを書くうえでも基本となるものである。

【到達目標】
1.大学生は、すでにかなりの文法、語彙を知識として蓄えながらも、実際には頭のどこか深くにしまいこみ、不安定なスキルとなり、発信する英語に生かせないことが多い。翻訳ツールの生成した英語、さらには元となる日本語の適切さを確認する作業も随時行いながら、重要な文法・表現・語彙の固定化を行い、精確なセンテンスの作成が常にできるようにする。
2.大学生にふさわしいやや高度なトピックについて、情報を収集、咀嚼し、自分なりの観点や意見をそこから生み出し、短いエッセイの形で効果的に議論を展開できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①講師、もしくは学生さんたちが選んだテーマについて、短いニュース記事を授業内に読む。その過程で注意すべき文法、重要な表現などをクラスで学んでいく。
②　①で紹介されたニュースについてクラス全体でBrain Stormingを行う。ニュースと関連した情報、連想される問題や事象をその場で自由に出し合い、視野を広げる。その過程で、関連する基本的な英語表現を身に着ける。
③　①,②で紹介されたニュースやブレインストーミングから着想を得て、各自、自分の視点を定めてテーマを設定し、必要に応じて簡単なリサーチを行い、エッセイを書くと仮定し
て、第一パラグラフを書く。その過程で効果的な段落構成、エッセイ作成の基本を学ぶ。
④　学期終了前に、③で書いた第一段落から一つ選び、簡単なリサーチを行ってエッセイ全体を作成する。
⑤　一つ一つのセンテンスを正確に作成する訓練の一環として、①～③の過程で、英作文を授業内や課題で行う。
⑥　③、④については、クラスでの講評、教員からのアドバイスを受けて、1～2回修正、書き直しを行い完成作品とする。
授業は基本的に対面で行う。しかし、情勢や授業の進捗状況に合わせてオンラインに変更されることもあるので、随時学習支援システムで確認されたい。
授業計画に示している題材は、一昨年度の例であるので、今年度はまた異なるトピックを選ぶことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明 受講生各自の自己紹介など
第2回	ニュースの紹介 Furry　Slippers and Sweatpants: Young Chinese Embrace 'Gross Outfits'あ tWork-1(昨年度の例）競争社会への静かな抵抗	ニュースの購読 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第3回	Gross Outfits at Work-2 brain storming	ニュースを出発点としたブレインストーミング 視野、トピック、語彙の拡大
第4回	Gross Outfits at Work-３	学生さんの調査結果のクラスでの共有 （視野、トピック、語彙の拡大） 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 英作文小テスト 効果的な段落構成の学習
第5回	Gross Outfits at Work-4	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第6回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.－１ 国家が強制するボランティア活動	ニュースの購読 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第7回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.－１-2	ニュースを出発点としたブレインストーミング 視野、トピック、語彙の拡大
第8回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.-3	学生さんの調査結果のクラスでの共有 （視野、トピック、語彙の拡大） 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 英作文小テスト 効果的な段落構成の学習
第9回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.-4	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第10回	Eco-anxiety－１ (気候変動と環境不安）	ニュースの購読 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第11回	Eco-anxiety-2	ニュースを出発点としたブレインストーミング 視野、トピック、語彙の拡大
第12回	Eco-anxiety-3	学生さんの調査結果のクラスでの共有 （視野、トピック、語彙の拡大） 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 英作文小テスト 効果的な段落構成の学習

第13回	Eco-anxiety-4	第一段落の発表、総評
第14回	エッセイの準備と発表、講評	上記三つの題材のうち一つを選択し、各自エッセイを作成する本格的準備と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
１.授業で紹介されたニュースやbrain stormingから着想を得てテーマを設定し、簡単なリサーチを行ったり、パラグラフを作成したりする。
２.教師の指示に従ってパラグラフの書き直しを行う。
３.授業で得た英語表現の知識をもとに、教師の指定した条件に沿って正確なセンテンスの作成の練習を行う。
４．学期中に1－2回程度作成するエッセイについて、より詳しいリサーチなどを行い充実したエッセイを書く。また教師やクラスでの検討を経て、エッセイの再作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。ネットで視聴可能なものを教師が指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み(ニュース、リサーチの発表、ブレインストーミングへの貢献など）（30％）宿題への取り組み（40％)、英文エッセーの作成の過程（30％）

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の様々な意見や情報をクラス全体で共有することが豊かな経験だったという言葉が多く聞かれるが、同時に翻訳ツールに英語を、またAIにリサーチを頼りすぎてしまうという反省意見も聞かれ、また教師として課題提出物をを確認する際に同感する場面も多い。日本語、英語ともに何を言語で表現したいのか、絶えず問い返していく試みを多くし、一文、一文、また段落構成としても適切なものが作成できるような訓練を積み重ねていきたい。

【Outline (in English)】
〈Course outline〉
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
〈Learning Objectives〉
Activities in this course are designed to meet two goals. Firstly, students will acquire a solid basis required for constructing accurate sentences. For that purpose, students will be constantly requested in class and as homework to express some information and ideas in Japanese and /or in English and are given feedback from the instructor in each class.
Secondly, students will acquire the basic skill of writing English essays effectively through the process of writing paragraphs on a couple of topics selected by the instructor or students. In preparation for writing content-rich essays rich, it is necessary for students to actively search relevant information and shape their own ideas.
〈Learning activities outside of the classroom〉
After each class, students will be expected to do some of the following tasks.
1.Write or rewrite some sentences following suggestions from the instructor
2. Research more extensively or in a more focused manner.
3.Write short paragraphs or rewrite them following instructions from the instructor. 4.Review useful expressions and grammatical knowledge acquired in each class meeting.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.
〈Grading criteria〉
Your final grading will be decided based on contribution and active participation in activities held in the classroom such as brainstorming and exchange of ideas and information (30%,) homework（40％）and the process of writing essays (30%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

長谷川　秀子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
授業では受講者の1人1人が、英語で自分の考えや、身の回りのことを話す、書くということから始め、英語のアカデミックライティングまでを学んでいく。特に授業では各自が”Output English”にフォーカスを置き、いままで学んだ"Input English"を使いながら、話す、書くを磨コミュニケーション能力も養う。授業中は書く時間やミニプレゼンテーションの時間をとる。このクラスは少人数構成が望ましい。
①これまでに身に付けた英語の知識を使い、自分の考えを英語でアウトプットできる。
②プレゼンテーションやエッセイにおいて、英語で正確に情報を伝えることができる。
①Students can use the English skills they have developed to express their ideas in English.
② Students can present information precisely in English in both presentations and essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題などからからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 WebClassを使用もあり。
教科書を使いながら英文の書き方を学び、トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1つのユニットを大体２回で終わるように授業を行うが、教科書以外の内容もカバーする予定。クラスの中で書いたり、発表する時間には積極的な参加を望む。
授業形態に変更が出る場合は学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	テキストの使い方と授業準備授業の進め方の説明 Writing
第2回	Unit 1 (1) Mini presentation	What is a Paragraph?
第3回	Unit 1 (2)	What is a Paragraph? Writing
第4回	Unit 2 (1) Mini presentation	Narration Writing
第5回	Unit 2 (2)	Narration Writing
第6回	Unit 3 (1) Mini presentation	Mini presentation Process Writing
第7回	Unit 3 (2)	Process Writing
第8回	Unit 4 (1) Mini presentation	Description of Feelings Writing
第9回	Unit 4 (2)	Description of Feelings Writing
第10回	Unit 5 (1) Mini presentation	Description of People Writing
第11回	Unit 5 (2)	Description of People Writing（１）Outline
第12回	Unit 6	Description of Places & Locations Writing（２）Introdection, Body
第13回	Unit 7	Definition Writing（３） Conclusion, Refererences
第14回	Term Exam	試験範囲　Unit 1-6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間程度を標準とする】
各ユニットの項目を理解すること。課題などのWriting,教科書課題、ミニプレゼンの用意をする。なお、ミニプレゼンは読まないですることを目指す。
Two-credit course Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】
はじめてのパラグラフ・ライティング
”Smart Writing”
Active Approach to Paragraph Writing
By Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara, Ruth Fallon (2017)
SEIBIDO
ISBN978-4-7919-6032-3

【参考書】
必要に応じて授業、学習主演システムで紹介。

【成績評価の方法と基準】
ミニプレゼンテーション、課題　50%
期末試験　50%
【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく３分の１以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
小テスト、提出物などは授業と講義連絡でも連絡予定。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
担当者の連絡先はオリエンテーションで連絡。
授業では知らない単語は調べておくこと。
学習支援システムで連絡、確認事項、授業資料などを確認すること。

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
Goals: We focus on "Output English" using "Input English" you have already learned, and practice expressing yourself (speaking and writing) and your opinions in English.
Work outside of the classroom: Understand each unit's contents, complete homework and prepare for mini presentations. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.
Grading: Assignment mini presentation 50%
Term exam 50%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩＩ

ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスは、学生の英語学術テキストの読解精度と自信を向上させることを目的としています。教科書や追加の読書教材を出発点として、学生が語彙やさまざまな文法構造の理解を深め、総合的な読解力を高めることを促します。学生は、クラス内での仲間や講師からの即時フィードバック、提出した宿題に対する書面でのフィードバックや訂正を受けることができ、さらに講師からの詳細なフィードバックをメールを通じて個別に受けることができます。

【到達目標】
Students will learn and develop academic reading in English.
Students will expand their vocabularies and understanding of English Grammar.
Students will participate in read and analyse English texts as individuals and as a class.
Students will submit brief written assignments and tests in English based on class topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this class we will complete activities from textbooks and discuss texts and topics the textbook introduces. This class prioritises active learning, such as debate and discussion. Assignments may be submitted online or emailed to the sensei directly at senseiemma22@gmail.com Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, written notes and corrections on homework they have submitted either on the Hoppii system or annotated on email submissions, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Overview	Class introduction and theme overview Academic Reading I review. Assessment methods and grading
2	Unit 1: Social relationships	The ape in the office Gender in the Wild
3	Unit 2: Science and Investigation	Tech detectives King Tut’s family secrets
4	Unit 3: City Solutions	The City Solution Urban Visionary
5	Unit 4: Danger Zone	Scientists Seek Foolproof Signal to Predict Earthquakes, Birds May Have Sensed Severe Storm Days in Advance When Yellowstone Explodes
6	Unit 5: The Travel Business	One on One: Jonathan Tourtellot Ecotourism
7	Midterm review	Review of key vocabulary, grammar and reading skills
8	Unit 6: Information Design	Infographics Even Graphics Can Speak with a Foreign Accent
9	Unit 7: Global Challenges	Seven Things to Know About Climate Change Nine Ways to Make a Difference
10	Unit 8: Medical Innovations	The Method of Medicine Regenerative medicine
11	Unit 9: World Languages	English in Decline as a First Language, Study Says, Language Death
12	Unit 10: Survival Instinct	K2: Danger and Desire on the Savage Mountain Traveler of the Year
13	Class overview and exam preparation	Review of key themes and skills. Explanation of exam format and rules and class study
14	Final test	Final test to make up 50% of grade.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assignments will be set from the textbook. I may also assign questions and short quizzes based on texts related to class topics. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework and reviewing class materials.

【テキスト（教科書）】
Pathways 3, Reading, Writing, and Critical Thinking, Second Edition
Colleen Sheils ISBN: 9781337625128

【参考書】
Please see Hoppii for additional supplements and aids.

【成績評価の方法と基準】
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

This class aims to improve students' accuracy and confidence in reading English academic texts. By using the textbook and additional reading resources as a starting point, this class encourages students to expand their vocabularies and understanding of different grammatical structures to enhance their overall comprehension skills.
Students are expected to spend 4 hours per week completing homework assignments and additional self-study to reinforce their classroom learning. Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, written notes and corrections on homework they have submitted, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・明確な目的を持って特定の読者に向けて適切な語彙とスタイルで書くことができる。
・論理構成や段落分けを理解し簡潔で効果的な文章で書くことができる。
・書くプロセス（planning, outlining, drafting）に沿って書けるようになる。
・剽窃(plagiarism)を避けるために様々な引用の仕方を理解し使えるようになる。
・クラスメートのエッセイを読み直し、編集できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、ライティングの演習問題を、グループワークで実施します。ピア編集を活用し、お互いの書いたものを校正、編集し、ライティングスキルの向上につなげる。また、教員による個別フィードバックがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation Paragraph writing	Explanation of syllabus & course introduction Introduction to fluency writing
第2回	Paragraph writing	Fluency writing How to write paragraphs Formatting guidelines and avoiding plagiarism
第3回	Paragraph writing	Fluency writing Learn how to reference your sources
第4回	Essay writing	Fluency writing Start essay preparations
第5回	Essay writing	Fluency writing Turn in 1st topic sentence
第6回	Essay writing	Fluency writing Turn in 2nd topic sentence
第7回	Essay writing	Fluency writing Turn in 3rd topic sentence
第8回	Essay writing	Fluency writing Write introduction and conclusion
第9回	Essay writing Peer Feedback	Fluency writing Peer feedback day
第10回	Essay writing 1st draft	Fluency writing Turn in 1st draft
第11回	Essay Writing	Fluency writing Revise 1st draft
第12回	Essay writing 2nd draft	Fluency writing Turn in 2nd draft
第13回	Essay writing	Fluency writing Revise 2nd draft
第14回	Essay writing 3rd draft	Fluency writing Turn in 3rd draft Turn in fluency journal

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間程度を標準とする】
・ライティング課題は、全て、初稿提出⇒ピア編集⇒書き直し⇒最終稿提出で進んでいくので、期限までに初稿、最終稿を提出すること。
・リサーチのテーマに沿って、様々なリーディング素材を英語で読みながらまとめていくので、しっかりと事前準備をして進めていくこと。

【テキスト（教科書）】
All materials will be provided by the professor online.

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
・ライティング課題　１００％　（エッセイ８５%、　Fluency　１５%）
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring their computers (laptops or tablets) to every class.

【その他の重要事項】
・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
The course is designed to help students develop skills to communicate effectively in writing. Students will practice group writing assignments that require planning, drafting, revising and editing.

By the end of the course, students will be able to: 1) write for a clear purpose and to a specific audience, using appropriate word and style choices, 2) understand the planning, outlining and drafting process, 3) integrate sources accurately and effectively, 4) write in the style of an English-language academic essay, 5) read and edit their essays in order to improve them.
Each week students will be expected to spend four hours outside of class preparing for their writing assignments.
Final grades will be based on fluency writing (15%) and essay writing assignments (85%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different types of essays as well as how to complete a finished high quality paper.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to academic writing	Introduce the class content, expectations and offer guidance.
2	How to write essays 1	Discussion of writing for different purposes, and a variety of pre-writing techniques.
3	How to write essays 2	An introduction of several various kinds of essays. Students will practice writing introductions and conclusions.
4	Description essay 1	Students will be introduced to the basic skills for writing descriptive essays and start writing their first draft.
5	Descriptive essay 2	Students will receive their opinion essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
6	Opinion essay 1	Students will understand the basics of writing an opinion essay and be given some class time to write.
7	Opinion essay 2	Students will receive their opinion essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
8	Cause effect essay 1	Students will understand the basics of writing a cause and effect essay and be given some class time to write.
9	Cause and Effect Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
10	Ted Talk-writing	Students will understand the basics of writing through watching a Ted talk on the topic of academic writing.
11	DVD-social issues	Students will work in teams to create a coherent narrative on the topic of harrassment after watching a DVD
12	Writing Problem Solution 1	Students will understand the basics of writing a summary and be given some class time to write *with no tech support.
13	Writing Problem Solution 2	Students will receive their essays back and will create an AI version of their essay and then create a hybrid finished draft
14	Final Presentation	Students will be asked to choose an essay style and write a coherent, structurally sound essay on a topic related to their major.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
Writing assignments as well as self-editing tasks.
In preparation for the final essay,students are expected to spend approximately four hours on preparation and review outside of class for this course."

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Ready to Write More. Karen Blanchard. Longman Press.
Academic Writing 2. Oxford Press

【成績評価の方法と基準】
Course Essays-75%
Final essay-25%

【学生の意見等からの気づき】
Based on the student evaluations, no changes will be made.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionary, notebook

【Outline (in English)】
The learning objectives of this class are to develop students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating into English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different kinds of essays and how to turn their essay into a power point oral presentation.
Learning objectives outside of class will be to prepare coherent essays at home. Also, to listen to and summarize Ted Talks in a short summary format.
Learning Activities Outside of the Classroom-Writing assignments as well as self-editing tasks. Also, preparation for the final essay. Students are expected to spend approximately four hours on preparation and review outside of class for this course.
Grading:
Essays-75%
Final Essay/presentation-25%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・明確な目的を持って特定の読者に向けて適切な語彙とスタイルで書くことができる。
・論理構成や段落分けを理解し簡潔で効果的な文章で書くことができる。
・書くプロセス（planning, outlining, drafting）に沿って書けるようになる。
・剽窃(plagiarism)を避けるために様々な引用の仕方を理解し使えるようになる。
・クラスメートのエッセイを読み直し、編集できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、ライティングの演習問題を、グループワークで実施します。ピア編集を活用し、お互いの書いたものを校正、編集し、ライティングスキルの向上につなげる。また、教員による個別フィードバックがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation Paragraph writing	Explanation of syllabus & course introduction Introduction to fluency writing
第2回	Paragraph writing	Fluency writing How to write paragraphs Formatting guidelines and avoiding plagiarism
第3回	Paragraph writing	Fluency writing Learn how to reference your sources
第4回	Essay writing	Fluency writing Start essay preparations
第5回	Essay writing	Fluency writing Turn in 1st topic sentence
第6回	Essay writing	Fluency writing Turn in 2nd topic sentence
第7回	Essay writing	Fluency writing Turn in 3rd topic sentence
第8回	Essay writing	Fluency writing Write introduction and conclusion
第9回	Essay writing Peer Feedback	Fluency writing Peer feedback day
第10回	Essay writing 1st draft	Fluency writing Turn in 1st draft
第11回	Essay Writing	Fluency writing Revise 1st draft
第12回	Essay writing 2nd draft	Fluency writing Turn in 2nd draft
第13回	Essay writing	Fluency writing Revise 2nd draft
第14回	Essay writing 3rd draft	Fluency writing Turn in 3rd draft Turn in fluency journal

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間程度を標準とする】
・ライティング課題は、全て、初稿提出⇒ピア編集⇒書き直し⇒最終稿提出で進んでいくので、期限までに初稿、最終稿を提出すること。
・リサーチのテーマに沿って、様々なリーディング素材を英語で読みながらまとめていくので、しっかりと事前準備をして進めていくこと。

【テキスト（教科書）】
All materials will be provided by the professor online.

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
・ライティング課題　１００％　（エッセイ８５%、　Fluency　１５%）
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring their computers (laptops or tablets) to every class.

【その他の重要事項】
・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
The course is designed to help students develop skills to communicate effectively in writing. Students will practice group writing assignments that require planning, drafting, revising and editing.

By the end of the course, students will be able to: 1) write for a clear purpose and to a specific audience, using appropriate word and style choices, 2) understand the planning, outlining and drafting process, 3) integrate sources accurately and effectively, 4) write in the style of an English-language academic essay, 5) read and edit their essays in order to improve them.
Each week students will be expected to spend four hours outside of class preparing for their writing assignments.
Final grades will be based on fluency writing (15%) and essay writing assignments (85%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

LOWRI　E　HUMBERSTONE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。
このコースは、ディスカッションやライティング演習を通じて、学生が英語の文章スキルを向上させることを目指しています。教科書をクラスディスカッションや宿題のライティング演習の出発点として使用し、学生の語彙力や文法構造の使用を向上させることを目指します。クラスでは積極的な学習とクラスディスカッションを奨励し、自信と流暢さを向上させることを目指しています。学生は同僚や講師から即座のクラスフィードバックを期待でき、また、講師からメールでより詳細なフィードバックを個別に受けることができます。

【到達目標】
Students will learn and develop academic writing skills in English.
Students will improve their English writing skills and will be able to identify different features of English academic writing.
Students will be able to write short, coherent passages in English using complex vocabulary and varied grammatical structures.
Students will be able to write texts which express and justify their opinions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this class we will complete activities from textbooks and discuss texts and topics the textbook introduces. This class prioritises active learning, such as debate and discussion. Assignments may be submitted online or emailed to the sensei directly at senseiemma22@gmail.com . Emma sensei will post comments, corrections and feedback to homework directly on Hoppii. For more detailed assignment feedback please email Emma Sensei directly.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Introduction to the class topics and assessment methods. Write a self introduction and write three personal learning objectives.
Week 2	Chapter 1- Describing people	Interview a classmate Sentences and Capitalisation
Week 3	Chapter 1- Describing people	Write a description of your classmate based on your interview. HOMEWORK- Write a description of someone you admire
Week 4	Chapter 2 - Listing order paragraphs	Intensifiers Topic Sentences Supporting Sentences
Week 5	Chapter 2 - Listing order paragraphs	Sentence structures Draft a listing order paragraph as a class HOMEWORK- Write a listing order paragraph on how the topic “My Dream Career- How will I achieve my goal?”
Week 6	Chapter 3 - Giving instructions	Adjectives and Nouns Prepositions of Place Adjective order
Week 7	Chapter 3 - Giving instructions	Commas Study and draft a ‘How To” paragraph HOMEWORK - Write a “How To” Paragraph on a subject of your choice
Week 8	Chapter 4 - Describing Places	Cumulative adjectives Practicing Prepositions of Place
Week 9	Chapter 4 - Describing Places	Study and draft a descriptive paragraph as a class HOMEWORK - Write a descriptive paragraph about a place that is special to you
Week 10	Chapter 5 - Stating Reasons and Using Examples	Identifying and organising reasons and examples Transition signals that introduce reasons Conclusion signals
Week 11	Chapter 5 - Stating Reasons and Using Examples	Complex sentences with reason clauses and condition clauses Combining sentences Study and draft a recommendation paragraph as a class HOMEWORK - Write a recommendation of your favourite restaurant
Week 12	Chapter 6 - Expressing your opinion	What are opinion paragraphs? Word forms vocabulary practice Identifying facts and opinions. Opinion signals, source signals, conclusion signals.

Week 13	Chapter 6 - Expressing your opinion	Adjective clauses with who, which and that. Punctuating adjective clauses Combining clauses and sentences. Study and draft an opinion paragraph as a class. HOMEWORK - Write an opinion paragraph about a controversial topic
Week 14	Review of class themes and skills	What topics have you enjoyed studying in this class? What content and grammar points have you found the most challenging? Review of any challenging grammar points as a class. FINAL ASSESSMENT: ESSAY

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
Homework writing assignments will be set from the textbook based on class topics. Students should revise and practice vocabulary outside of the classroom, complete textbook exercises not completed in class, and use the textbook online resources. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework, revising material from previous lessons and preparing for upcoming lessons. The teacher will also recommend additional, optional resources for practicing listening and speaking comprehension using social media and streaming services. Homework may be submitted via hoppii or alternatively by email.

【テキスト（教科書）】
Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice &Digital Resources, 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【参考書】
Please see Hoppii page for additional supplements

【成績評価の方法と基準】
The passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class participation: 20%
Final essay: 20%
Assignments: 60%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
This course aims to help students develop their written academic English skills through writing exercises. Using the textbook as a starting point for class discussion and homework writing exercises, we will aim to improve students vocabulary, use of grammatical structures and understanding of English academic writing conventions.
The class encourages active learning and class discussion in order to improve confidence and fluency. Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, written feedback on homework, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.
Homework writing assignments will be set from the textbook based on class topics. Students should revise and practice vocabulary outside of the classroom, complete textbook exercises not completed in class, and use the textbook online resources. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework, revising material from previous lessons and preparing for upcoming lessons. The teacher will also recommend additional, optional resources for practicing listening and speaking comprehension using social media and streaming services. Homework may be submitted via hoppii or alternatively by email.
The passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class participation: 20%
Final Assessment essay: 20%
Assignments: 60%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

早舩　由紀見

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・アカデミック・ライティングの手法を習得する
・400ワード程度の英語論文が書ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。
学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。
英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。
提出された英文については、次の授業で返却し、各自フィードバックを行うほか、授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第2回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第3回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第4回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第5回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第6回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第7回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第8回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第9回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第10回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第11回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。他人の書いた英文を校正する。
第12回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第13回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第14回	論文評価	完成した論文を評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
英文読解、英作文、文法、ボキャブラリーの習得。

【テキスト（教科書）】
指定教科書なし。

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度：20%
授業内演習および宿題提出：20%
論文：30%
期末試験：30%

【学生の意見等からの気づき】
提出された英作文へのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC必須

【その他の重要事項】
・生成AIの使用について、初回授業での話を良く聞いて守るようにしてください。
・提出された論文に生成AIを使用した疑いがある場合は評価が低くなる場合があります。
・理由なく、全授業の1/3以上の欠席、または5回以上欠席すると単位を取得できません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment is held to approximately 20 students to maximize teaching effectiveness.
【Learning Objectives】
To complete an academic paper of around 400 words on the topic students' choose by themselves after learning how to write it in the class.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than four hours for a class.
- Review of the class
- Assignments
- Next class preparation
【Grading Criteria/Policy】
Active participation in class 20%
Assignments in the class and after the class 20%
Complete academic paper submission 30%
Final test 30%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. Students will be able to understand how and why to write different types of essays as well as how to turn their essay into a power point presentation.
Grading:
Essays and in class assignments 75%
Final essay and presentation 25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to academic writing	Introduce the class content, expectations and offer guidance.
2	How to write essays 1	Discussion of writing for different purposes, and a variety of pre-writing techniques.
3	How to write essays 2	An introduction of several various kinds of essays. Students will practice writing introductions and conclusions.
4	Description Essay 1	Students will be introduced to the basic skills for writing descriptive essays and start writing their first draft.
5	Descriptive Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
6	Opinion Essay 1	Students will understand the basics of writing an opinion essay and be given some class time to write.
7	Opinion Essay 1	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
8	Cause and Effect Essay 1	Students will understand the basics of writing a cause and effect essay and be given some class time to write.
9	Cause and Effect Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
10	Ted talk- writing	Students will understand the basics of writing through watching a Ted talk on the topic of academic writing
11	DVD- social issues	Students will work in teams to draft a coherent narrative on the topic of workplace harrassment, after watching a DVD.
12	Writing Problem Solution1	Students will understand the basics of writing a summary and be given some class time to write * with no tech support.
13	Writing Problem Solution 2	Students will receive their essays back and will create an AI version of their essay and then create a hybrid finished draft
14	Final Presentation 1	Students will be asked to choose an essay style and write a coherent, structurally sound essay on a topic related to their major.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Writing assignments not finished within the alloted time as well as self-editing tasks. Also creating a power point presentation for the final evaluation.
In preparation for the final essay,students are expected to spend approximately four hours on preparation and review outside of class for this course."

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Ready to write more. Karen Blanchard. Longman Press.
Effective Academic writing. Oxford Press

【成績評価の方法と基準】
Essays and in class assignments 75%
Final essay and presentation 25%

【学生の意見等からの気づき】
From the student evaluations, there will be no adjustment this year.

【学生が準備すべき機器他】
Notebook, electronic dictionary/smartphone app

【Outline (in English)】
The learning objectives of this class are to develop students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating into English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different kinds of essays and how to turn their essay into a power point oral presentation.
Learning Activities Outside of the Classroom-Writing assignments as well as self-editing tasks. Also, preparation for the final essay. Students are expected to spend approximately four hours on preparation and review outside of class for this course.
Grading:
Essays and in class assignments-75%
Final Essay/presentation-25%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

尾関　裕子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身に着け、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
1.writing に必要な語彙知識を固め、エッセイの読み書きに応用できるようになること
2.Essay Writing の基礎を学び、段落構成の整った300語以上の英文を作れるようになること
3.Essay の構造を知り、reading 能力も高め、より効率的に英文を把握できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回テキストのchapter 1つを進めます。テキストのエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。提出されたものは採点されたうえで返却されます。半期授業全体としては、パラグラフの構成要素、エッセイの構成要素を順に確認のうえ、それぞれ英文で仕上げる作業を行います。段落一つのパラグラフライティングでは、50 100語程度の英文再生を目指します。また後半のエッセイの場合、序論、結論はそれぞれ50語程度、本論は２～3段落を有し、各段落は75 100語程度から成るものを仕上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. Unit 1	一人称、二人称を使わずに客観的に書く
2	2. Unit 2	文の繋がりを意識する
3	3. Unit 3	ほぼ同じ意味をもつ別の表現を考えてみる
4	4. Unit 4 パラグラフライティング１	Paragraph の基本構造を理解する
5	5. Unit 5 パラグラフライティング２	Topic Sentence から Supporting Sentences
6	6. Unit 6 パラグラフライティング３	Supporting Sentences から Supports
7	7. Unit 7 エッセイライティング１	本論の展開方法を覚える １．理由や根拠
8	8. Unit 8 エッセイライティング２	本論の展開方法を覚える ２．時系列
9	9. Unit 9 エッセイライティング３	本論の展開方法を覚える ３．意見の並列
10	10. Unit 10 エッセイライティング４	序論・本論・結論の役割
11	11. Unit 11 エッセイライティング５	結論を書いてみる
12	12. Unit 12 エッセイライティング６	序論を書いてみる
13	13.エッセイライティング７	本論を書いてみる
14	14. エッセイライティング８	Essay を書いてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、４時間を標準とする】
授業相当範囲の問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

【テキスト（教科書）】
Writing Skills for Readers　日本英語表現学会テキスト研究部会編　南雲堂2021年　2420円

【参考書】
「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times)ほか。授業時に必用に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業時提出物回数・予習、授業への参加姿勢）４０％
提出物、クイズなど６０％
提出物は授業時内に提出することを基本とします。病欠、公欠といった証明できる欠席については後日の提出を認めますが、それ以外の欠席については後日の提出は認められません。
遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。成績評価を受けるには授業の三分の二は出席のこと。遅延証明の有効は３回までです。
授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話はオフにする。

【学生の意見等からの気づき】
黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しずらいですので、各授業の終わりには課題にそった英文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
英和・和英辞書

【その他の重要事項】
授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。
出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。
基本となるひとつずつの英文が正確であることが求められます。語彙、文法などこれまで学んだことを活かし、まずは正確な（相手に理解される）英文を作る努力をしましょう。

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
*Learning Objectives: to develop strategies for writing.
*Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
*Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Quiz, assignment 60% ;in-class contribution 40%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

早舩　由紀見

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・アカデミック・ライティングの手法を習得する
・400ワード程度の英語論文が書ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。
学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。
英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。
提出された英文については、次の授業で返却し、各自フィードバックを行うほか、授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第2回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第3回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第4回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第5回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第6回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第7回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第8回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第9回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第10回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第11回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。他人の書いた英文を校正する。
第12回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第13回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第14回	論文評価	完成した論文を評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
英文読解、英作文、文法、ボキャブラリーの習得。

【テキスト（教科書）】
指定教科書なし。

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度：20%
授業内演習および宿題提出：20%
論文：30%
期末試験：30%

【学生の意見等からの気づき】
提出された英作文へのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC必須

【その他の重要事項】
・生成AIの使用について、初回授業での話を良く聞いて守るようにしてください。
・提出された論文に生成AIを使用した疑いがある場合は評価が低くなる場合があります。
・理由なく、全授業の1/3以上の欠席、または5回以上欠席すると単位を取得できません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment is held to approximately 20 students to maximize teaching effectiveness.
【Learning Objectives】
To complete an academic paper of around 400 words on the topic students' choose by themselves after learning how to write it in the class.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than four hours for a class.
- Review of the class
- Assignments
- Next class preparation
【Grading Criteria/Policy】
Active participation in class 20%
Assignments in the class and after the class 20%
Complete academic paper submission 30%
Final test 30%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

川口　悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・文法的に正しく、読み手に伝わりやすい文を書けるようになる。
・分かりやすく、かつ説得力のある文章構成がどのようなものか理解し、そのような文章を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、予習を元に、ひとつひとつの文を作文するための文法・語法とパラグラフ（段落）の構造を確認します。授業で確認した文法・語法を定着させるために期末テストをおこない、正答できなかった箇所の見直しを課します。また、まとまった長さの作文を課し、添削を通じてフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や予習の仕方について説明する。
第2回	辞書の使い方	今後の英語学習をより効果的にするために、辞書を有効に使う方法を学ぶ
第3回	What Is a Paragraph?	パラグラフの基本構造について学ぶ。
第4回	Description of Feelings	感情の描写について、く用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第5回	Description of Places and Locations	場所や位置の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第6回	Comparison and Contrast	比較について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第7回	Cause and Effect	物事の原因や結果について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第8回	Problems and Solutions	問題点を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるよう練習する。
第9回	Your Opinion	ある物事に対して賛否の意見を述べる際の表現を学び、自分の主張をまとめた文章を書く練習をする。
第10回	Exam	ペーパーテストをおこなう。
第11回	Exam Review (1)	ペーパーテストを返却し、復習する。
第12回	Exam Review (2)	ペーパーテストの誤った箇所を暗唱する。
第13回	Essay Writing	授業中に作文を執筆する。
第14回	Essay Review	執筆した作文を返却し、演習形式で解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・語学の勉強に、予習と反復練習は決定的に重要です。辞書をひきながらしっかりと予習・復習をこなってください（詳細は指示します）。
・授業で扱った文法・語法の定着を目的として、期末試験をおこないます。準備して臨んでください。

【テキスト（教科書）】
資料を用意して配布します。購入の必要はありません。

【参考書】
綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）
佐藤誠司『Skyward 総合英語』および『Skyward 総合英語 スーパートレーニング』（桐原書店、2022年）
ほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
エッセイ　40%
期末試験 40%
授業参加度 20%
＊正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき3回を上限とします。
＊30分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
＊教科書を持参していない場合、予習が不充分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともあります。
＊機械翻訳やAI（ChatGPT 等）が作成した文章や英訳・和訳を、自分で作成したものとして提出することは認めません。そのような行為が確認された場合は、当該の課題の成績を０点にするなど、厳格な対応を行います。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんが質問や発言がしやすい雰囲気を作るよう、心がけます。

【その他の重要事項】
きちんとした辞書を毎回必ず持参して下さい。
なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
【Learning Objectives】
- Students will be able to write grammatically correct sentences that clearly convey their intention.
- Students will understand clear and persuasive text structures and apply them in their own writing.
【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Preparation, review, and repetitive exercise are crucial in studying a language.
Students should consult dictionaries frequently and carefully. A final exam is given to help build the vocabulary and grammar.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be calculated based on an essay (40%), a final exam (40%), and class participation (20%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

川口　悠子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・文法的に正しく、読み手に伝わりやすい文を書けるようになる。
・分かりやすく、かつ説得力のある文章構成がどのようなものか理解し、そのような文章を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、予習を元に、ひとつひとつの文を作文するための文法・語法とパラグラフ（段落）の構造を確認します。授業で確認した文法・語法を定着させるために期末テストをおこない、正答できなかった箇所の見直しを課します。また、まとまった長さの作文を課し、添削を通じてフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や予習の仕方について説明する。
第2回	辞書の使い方	今後の英語学習をより効果的にするために、辞書を有効に使う方法を学ぶ
第3回	What Is a Paragraph?	パラグラフの基本構造について学ぶ。
第4回	Description of Feelings	感情の描写について、く用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第5回	Description of Places and Locations	場所や位置の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第6回	Comparison and Contrast	比較について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第7回	Cause and Effect	物事の原因や結果について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第8回	Problems and Solutions	問題点を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるよう練習する。
第9回	Your Opinion	ある物事に対して賛否の意見を述べる際の表現を学び、自分の主張をまとめた文章を書く練習をする。
第10回	Exam	ペーパーテストをおこなう。
第11回	Exam Review (1)	ペーパーテストを返却し、復習する。
第12回	Exam Review (2)	ペーパーテストの誤った箇所を暗唱する。
第13回	Essay Writing	授業中に作文を執筆する。
第14回	Essay Review	執筆した作文を返却し、演習形式で解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・語学の勉強に、予習と反復練習は決定的に重要です。辞書をひきながらしっかりと予習・復習をこなってください（詳細は指示します）。
・授業で扱った文法・語法の定着を目的として、期末試験をおこないます。準備して臨んでください。

【テキスト（教科書）】
資料を用意して配布します。購入の必要はありません。

【参考書】
綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）
佐藤誠司『Skyward 総合英語』および『Skyward 総合英語 スーパートレーニング』（桐原書店、2022年）
ほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
エッセイ　40%
期末試験 40%
授業参加度 20%
＊正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき3回を上限とします。
＊30分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
＊教科書を持参していない場合、予習が不充分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともあります。
＊機械翻訳やAI（ChatGPT 等）が作成した文章や英訳・和訳を、自分で作成したものとして提出することは認めません。そのような行為が確認された場合は、当該の課題の成績を０点にするなど、厳格な対応を行います。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんが質問や発言がしやすい雰囲気を作るよう、心がけます。

【その他の重要事項】
きちんとした辞書を毎回必ず持参して下さい。
なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
【Learning Objectives】
- Students will be able to write grammatically correct sentences that clearly convey their intention.
- Students will understand clear and persuasive text structures and apply them in their own writing.
【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Preparation, review, and repetitive exercise are crucial in studying a language.
Students should consult dictionaries frequently and carefully. A final exam is given to help build the vocabulary and grammar.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be calculated based on an essay (40%), a final exam (40%), and class participation (20%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

村上　弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈授業概容〉
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。
〈授業の目的・意義〉
大学生にふさわしい現代的、知的なトピックについて、的確に効果的に短いエッセイの形で情報や意見を英語で論じる力を身に着けることによって、国際人としての将来の役割への準備を行う。このコースで学ぶ内容は、今後、大学生、また社会人として日本語で充実したエッセイを書くうえでも基本となるものである。

【到達目標】
1.大学生は、すでにかなりの文法、語彙を知識として蓄えながらも、実際には頭のどこか深くにしまいこみ、不安定なスキルとなり、発信する英語に生かせないことが多い。翻訳ツールの生成した英語、さらには元となる日本語の適切さを確認する作業も随時行いながら、重要な文法・表現・語彙の固定化を行い、精確なセンテンスの作成が常にできるようにする。
2.大学生にふさわしいやや高度なトピックについて、情報を収集、咀嚼し、自分なりの観点や意見をそこから生み出し、短いエッセイの形で効果的に議論を展開できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①講師、もしくは学生さんたちが選んだテーマについて、短いニュース記事を授業内に読む。その過程で注意すべき文法、重要な表現などをクラスで学んでいく。
②　①で紹介されたニュースについてクラス全体でBrain Stormingを行う。ニュースと関連した情報、連想される問題や事象をその場で自由に出し合い、視野を広げる。その過程で、関連する基本的な英語表現を身に着ける。
③　①,②で紹介されたニュースやブレインストーミングから着想を得て、各自、自分の視点を定めてテーマを設定し、必要に応じて簡単なリサーチを行い、エッセイを書くと仮定し
て、第一パラグラフを書く。その過程で効果的な段落構成、エッセイ作成の基本を学ぶ。
④　学期終了前に、③で書いた第一段落から一つ選び、簡単なリサーチを行ってエッセイ全体を作成する。
⑤　一つ一つのセンテンスを正確に作成する訓練の一環として、①～③の過程で、英作文を授業内や課題で行う。
⑥　③、④については、クラスでの講評、教員からのアドバイスを受けて、1～2回修正、書き直しを行い完成作品とする。
授業は基本的に対面で行う。しかし、情勢や授業の進捗状況に合わせてオンラインに変更されることもあるので、随時学習支援システムで確認されたい。
授業計画に示している題材は、一昨年度の例であるので、今年度はまた異なるトピックを選ぶことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明 受講生各自の自己紹介など
第2回	ニュースの紹介 Furry　Slippers and Sweatpants: Young Chinese Embrace 'Gross Outfits'あ tWork-1(昨年度の例）競争社会への静かな抵抗	ニュースの購読 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第3回	Gross Outfits at Work-2 brain storming	ニュースを出発点としたブレインストーミング 視野、トピック、語彙の拡大
第4回	Gross Outfits at Work-３	学生さんの調査結果のクラスでの共有 （視野、トピック、語彙の拡大） 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 英作文小テスト 効果的な段落構成の学習
第5回	Gross Outfits at Work-4	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第6回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.－１ 国家が強制するボランティア活動	ニュースの購読 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第7回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.－１-2	ニュースを出発点としたブレインストーミング 視野、トピック、語彙の拡大
第8回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.-3	学生さんの調査結果のクラスでの共有 （視野、トピック、語彙の拡大） 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 英作文小テスト 効果的な段落構成の学習
第9回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.-4	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第10回	Eco-anxiety－１ (気候変動と環境不安）	ニュースの購読 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第11回	Eco-anxiety-2	ニュースを出発点としたブレインストーミング 視野、トピック、語彙の拡大
第12回	Eco-anxiety-3	学生さんの調査結果のクラスでの共有 （視野、トピック、語彙の拡大） 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 英作文小テスト 効果的な段落構成の学習

第13回	Eco-anxiety-4	第一段落の発表、総評
第14回	エッセイの準備と発表、講評	上記三つの題材のうち一つを選択し、各自エッセイを作成する本格的準備と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
１.授業で紹介されたニュースやbrain stormingから着想を得てテーマを設定し、簡単なリサーチを行ったり、パラグラフを作成したりする。
２.教師の指示に従ってパラグラフの書き直しを行う。
３.授業で得た英語表現の知識をもとに、教師の指定した条件に沿って正確なセンテンスの作成の練習を行う。
４．学期中に1－2回程度作成するエッセイについて、より詳しいリサーチなどを行い充実したエッセイを書く。また教師やクラスでの検討を経て、エッセイの再作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。ネットで視聴可能なものを教師が指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み(ニュース、リサーチの発表、ブレインストーミングへの貢献など）（30％）宿題への取り組み（40％)、英文エッセーの作成の過程（30％）

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の様々な意見や情報をクラス全体で共有することが豊かな経験だったという言葉が多く聞かれるが、同時に翻訳ツールに英語を、またAIにリサーチを頼りすぎてしまうという反省意見も聞かれ、また教師として課題提出物をを確認する際に同感する場面も多い。日本語、英語ともに何を言語で表現したいのか、絶えず問い返していく試みを多くし、一文、一文、また段落構成としても適切なものが作成できるような訓練を積み重ねていきたい。

【Outline (in English)】
〈Course outline〉
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
〈Learning Objectives〉
Activities in this course are designed to meet two goals. Firstly, students will acquire a solid basis required for constructing accurate sentences. For that purpose, students will be constantly requested in class and as homework to express some information and ideas in Japanese and /or in English and are given feedback from the instructor in each class.
Secondly, students will acquire the basic skill of writing English essays effectively through the process of writing paragraphs on a couple of topics selected by the instructor or students. In preparation for writing content-rich essays rich, it is necessary for students to actively search relevant information and shape their own ideas.
〈Learning activities outside of the classroom〉
After each class, students will be expected to do some of the following tasks.
1.Write or rewrite some sentences following suggestions from the instructor
2. Research more extensively or in a more focused manner.
3.Write short paragraphs or rewrite them following instructions from the instructor. 4.Review useful expressions and grammatical knowledge acquired in each class meeting.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.
〈Grading criteria〉
Your final grading will be decided based on contribution and active participation in activities held in the classroom such as brainstorming and exchange of ideas and information (30%,) homework（40％）and the process of writing essays (30%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

川口　悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・文法的に正しく、読み手に伝わりやすい文を書けるようになる。
・分かりやすく、かつ説得力のある文章構成がどのようなものか理解し、そのような文章を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、予習を元に、ひとつひとつの文を作文するための文法・語法とパラグラフ（段落）の構造を確認します。授業で確認した文法・語法を定着させるために期末テストをおこない、正答できなかった箇所の見直しを課します。また、まとまった長さの作文を課し、添削を通じてフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や予習の仕方について説明する。
第2回	辞書の使い方	今後の英語学習をより効果的にするために、辞書を有効に使う方法を学ぶ
第3回	What Is a Paragraph?	パラグラフの基本構造について学ぶ。
第4回	Description of Feelings	感情の描写について、く用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第5回	Description of Places and Locations	場所や位置の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第6回	Comparison and Contrast	比較について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第7回	Cause and Effect	物事の原因や結果について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第8回	Problems and Solutions	問題点を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるよう練習する。
第9回	Your Opinion	ある物事に対して賛否の意見を述べる際の表現を学び、自分の主張をまとめた文章を書く練習をする。
第10回	Exam	ペーパーテストをおこなう。
第11回	Exam Review (1)	ペーパーテストを返却し、復習する。
第12回	Exam Review (2)	ペーパーテストの誤った箇所を暗唱する。
第13回	Essay Writing	授業中に作文を執筆する。
第14回	Essay Review	執筆した作文を返却し、演習形式で解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・語学の勉強に、予習と反復練習は決定的に重要です。辞書をひきながらしっかりと予習・復習をこなってください（詳細は指示します）。
・授業で扱った文法・語法の定着を目的として、期末試験をおこないます。準備して臨んでください。

【テキスト（教科書）】
資料を用意して配布します。購入の必要はありません。

【参考書】
綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）
佐藤誠司『Skyward 総合英語』および『Skyward 総合英語 スーパートレーニング』（桐原書店、2022年）
ほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
エッセイ　40%
期末試験 40%
授業参加度 20%
＊正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき3回を上限とします。
＊30分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
＊教科書を持参していない場合、予習が不充分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともあります。
＊機械翻訳やAI（ChatGPT 等）が作成した文章や英訳・和訳を、自分で作成したものとして提出することは認めません。そのような行為が確認された場合は、当該の課題の成績を０点にするなど、厳格な対応を行います。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんが質問や発言がしやすい雰囲気を作るよう、心がけます。

【その他の重要事項】
きちんとした辞書を毎回必ず持参して下さい。
なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
【Learning Objectives】
- Students will be able to write grammatically correct sentences that clearly convey their intention.
- Students will understand clear and persuasive text structures and apply them in their own writing.
【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Preparation, review, and repetitive exercise are crucial in studying a language.
Students should consult dictionaries frequently and carefully. A final exam is given to help build the vocabulary and grammar.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be calculated based on an essay (40%), a final exam (40%), and class participation (20%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

吉川　直澄

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
※このクラスは補講クラスです。学生証番号が「26」から始まる新入生はこのクラスには原則参加出来ません。指定されたクラスで履修するようにして下さい※
本授業は、特定のスキルに重きを置きながらも、4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるためのスキルの育成に注力します。

【到達目標】
①学生は英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことができる。
②学生は音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることができる。
③学生は教科書付属の音声ファイルをダウンロードして、リスニングに特化したトレーニングを行うことができる。
④学生は科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は，全回対面とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance／第1回課題の提示	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、第1回課題を説明します。
2	Unit1: No Moon at All (1)	月が地球にもたらす影響に関する映像と英文を視聴・精読する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 リスニング／リーディング
3	Unit1: No Moon at All (2)	月が地球にもたらす影響に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 文法／ライティング
4	Unit2: Tackling Violent Wildfires (1)	山火事に対する科学的対策に関する映像と英文を視聴・精読する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 リスニング／リーディング
5	Unit2: Tackling Violent Wildfires (2)	山火事に対する科学的対策に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 文法／ライティング
6	Unit3: Check the Soil First (1)	土壌分析に援用される分光学に関する映像と英文を視聴・精読する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 リスニング／リーディング
7	Unit3: Check the soil First (2)	土壌分析に援用される分光学に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 文法／ライティング
8	Unit4: The Beauty of Snowflakes (1)	雪の結晶に関する映像と英文を視聴・精読する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 リスニング／リーディング
9	Unit4: The Beauty of Snowflakes (2)	雪の結晶に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 文法／ライティング
10	Unit5: Coping with the Extreme Weather (1)	高度情報化社会における防災に関する映像と英文を視聴・精読する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 リスニング／リーディング
11	Unit5: Coping with the Extreme Weather (2)	高度情報化社会における防災に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 文法／ライティング
12	Unit6: Is Love an Addiction? (1)	恋愛をつかさどる脳の働きに関する映像と英文を視聴・精読する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 リスニング／リーディング
13	Unit6: Is Love an Addiction?(2)	恋愛をつかさどる脳の働きに関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 文法／ライティング
14	学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポートの提示／まとめと解説	学期末の文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題を説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各1時間を標準とする】
・学生の皆さんは次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読むこと。
・学生の皆さんは授業前に指定されている課題を行い、提出期限を守り提出すること。

【テキスト（教科書）】
Alastair Graham-Marr. "Inside Science", 金星堂、2019年、2000円.
※教科書販売期間中に必ず購入すること。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（全13回）　45％
学期末課題レポート　20％
学期末文法・語彙確認テスト　30％
授業への積極的な参加姿勢　5％
成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。質問等があれば、授業終了後対応します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This class aims for the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking), while putting emphasis on listening and reading. In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them.
[Learning Objectives]
In this class, students will be able to:
- understand academic texts precisely,
- improve English listening skills,
- conduct step-by-step training focused on listening through downloading the textbook-audio files,
- acquire words and expressions used in scientific fields of study.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting. Students are expected to spend one hour to understand the course content.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated according to the following process: [1] 13 weekly assignments (45%), [2] final term assignment (20%), [3] final test (30%) and 〔4〕in-class contribution (5%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

鈴木　幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To build science vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.
日常生活に関わる簡単な英会話から時事英語・理工系英語に触れることで英語４技能を包括的に伸ばす：
・身近な問題や時事問題に対する自分の意見を論理的に述べることができる（Speaking &Writing）
・相手の質問・意見に対して応答できる（Listening &Speaking）
・理工系英語に慣れる（Reading &Writing）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this class, you students will study a specific topic each week, using the textbook and handouts. You will be expected to attend all lessons and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q&A, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・Guidance ・Critical Thinking and Discussion ① ・Lesson 1	・Orientation ・Let's give a self-introduction! ・化学に関する語句(1)
2	・Critical Thinking and Discussion ② ・Lesson 2	・Let's talk about memories! ・化学に関する語句(2)
3	・Critical Thinking and Discussion ③ ・Lesson 3	・Let's talk about home life! ・物理学に関する語句(1)
4	・Critical Thinking and Discussion ④ ・Lesson 4	・Let's talk about school life! ・物理学に関する語句(2) ・Speaking Quiz 1
5	・Critical Thinking and Discussion ⑤ ・Lesson 5	・Let's talk about plans! ・天文学に関する語句 ・Writing Quiz 1
6	・Critical Thinking and Discussion ⑥ ・Lesson 6	・Let's talk about foods! ・地球科学に関する語句
7	・Critical Thinking and Discussion ⑦ ・Lesson 7	・Let's talk about future! ・環境・資源に関する語句 ・Speaking Quiz 2
8	・Critical Thinking and Discussion ⑧ ・Lesson 8	・Let's talk about travel! ・生物に関する語句(1) ・Writing Quiz 2
9	・Critical Thinking and Discussion ⑨ ・Lesson 9	・Let's talk about entertainment! ・生物に関する語句(2)
10	・Critical Thinking and Discussion ⑩ ・Lesson 10	・Let's talk about health! ・生物に関する語句(3) ・Speaking Quiz 3
11	・Critical Thinking and Discussion ⑪ ・Lesson 11	・Let's talk about people! ・人体・医学に関する語句(1) ・Writing Quiz 3
12	・Critical Thinking and Discussion ⑫ ・Lesson 12	・Let's talk about society! ・人体・医学に関する語句(2)
13	Presentation	Let's give an end-of-term presentation!
14	Final Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

【テキスト（教科書）】
Sato, Seishi, 2016, A Shorter Course in Science and Technology Vocabulary, Nan'Un-Do. ￥700 (+ tax) ISBN9784523178002
佐藤誠司, 2016 『A Shorter Course in Science and Technology Vocabulary 5分間理工系英単語・熟語1000』　南雲堂.

【参考書】
アルク英辞郎on the web
https://eow.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class activities &Homework: 30%
Assignment: 20%
Quiz: 20%
Exam: 30%
There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】
This is a remedial course, so variations in class size, students responses, etc.　may lead to changes in this syllabus.　All changes will be explained. Some flexibility is required.

【Outline (in English)】
【Course Outline】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To build science vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria/Policies】
Final grade will be calculated according to the following process: In-class activities &Homework (30%), Assignment (20%), Quiz (20%), and Exam (30%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

吉川　直澄

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
※このクラスは補講クラスです。学生証番号が「26」から始まる新入生はこのクラスには原則参加出来ません。指定されたクラスで履修するようにして下さい※
本授業は、特定のスキルに重きを置きながらも、4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるためのスキルの育成に注力します。

【到達目標】
①学生は英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことができる。
②学生は音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることができる
③学生は教科書付属の音声ファイルをダウンロードして、リスニングに特化したトレーニングを行うことができる。
④科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は，対面とします。詳細は学習支援システムより連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、第1回課題を説明します。
2	Unit7: Self-Driving Future (1)	未来に向けたハイテク搭載車両に関する映像と英文を視聴・精読する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 リスニング／リーディング
3	Unit7: Self-Driving Future (2)	未来に向けたハイテク搭載車両に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 文法／ライティング
4	Unit8: No Needle, No Thread? (1)	自己修復する布に関する映像と英文を視聴・精読する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 リスニング／リーディング
5	Unit8: No Needle, No Thread? (2)	自己修復する布に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 文法／ライティング
6	Unit9: Aiming for a Perfect Squeeze (1)	「ロータス効果」に関する映像と英文を視聴・精読する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 リスニング／リーディング
7	Unit9: Aiming for a Perfect Squeeze (2)	「ロータス効果」に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 文法／ライティング
8	Unit10: Identifying Fake Drugs (1)	偽造薬を見破るアプリに関する映像と英文を視聴・精読する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 リスニング／リーディング
9	Unit10: Identifying Fake Drugs (2)	偽造薬を見破るアプリに関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 文法／ライティング
10	Unit11: Sensory Judgement is Important (1)	「サイコレオロジー」に関する映像と英文を視聴・精読する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 リスニング／リーディング
11	Unit11: Sensory judgement is Important (2)	「サイコレオロジー」に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 文法／ライティング
12	Unit12: Dangerous Debris in Space (1)	宇宙ゴミの回収に関する映像と英文を視聴・精読する。音声ファイルを使用する課題を指定する。リスニング／リーディング
13	Unit12: Dangerous Debris in Space (2)	宇宙ゴミの回収に関する英文を読み、単語、表現、文法などを習得する。音声ファイルを使用する課題を指定する。 文法／ライティング
14	学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポートの提示／まとめと解説	学期末の文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題を説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・授業前に指定されている課題を行い、提出期限を守り提出する。

【テキスト（教科書）】
Alastair Graham-Marr. "Inside Science", 金星堂、2019年、2000円.
※教科書販売期間中に必ず購入すること。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（全13回）　45％
学期末課題レポート　20％
学期末文法・語彙確認テスト　30％
授業への積極的な参加姿勢　5％
成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。質問等があれば、授業終了後対応します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This class aims for the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking), while putting emphasis on listening and reading. In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them.
[Learning Objectives]
In this class, students will be able to:
- understand academic texts precisely,
- improve English listening skills,
- conduct step-by-step training focused on listening through downloading the textbook-audio files,
- acquire words and expressions used in scientific fields of study.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting. Students are expected to spend one hour to understand the course content.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated according to the following process: [1] 13 weekly assignments (45%), [2] final term assignment (20%), [3] final test (30%) and 〔4〕in-class contribution (5%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

鈴木　幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To build science vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.
日常生活に関わる簡単な英会話から時事英語・理工系英語に触れることで英語４技能を包括的に伸ばす：
・身近な問題や時事問題に対する自分の意見を論理的に述べることができる（Speaking &Writing）
・相手の質問・意見に対して応答できる（Listening &Speaking）
・理工系英語に慣れる（Reading &Writing）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this class, you students will study a specific topic each week, using the textbook and handouts. You will be expected to attend all lessons and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q&A, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・Guidance ・Critical Thinking and Discussion ① ・Lesson 1	・Orientation ・Let's give a self-introduction! ・化学に関する語句(1)
2	・Critical Thinking and Discussion ② ・Lesson 2	・Let's talk about memories! ・化学に関する語句(2)
3	・Critical Thinking and Discussion ③ ・Lesson 3	・Let's talk about home life! ・物理学に関する語句(1)
4	・Critical Thinking and Discussion ④ ・Lesson 4	・Let's talk about school life! ・物理学に関する語句(2) ・Speaking Quiz 1
5	・Critical Thinking and Discussion ⑤ ・Lesson 5	・Let's talk about plans! ・天文学に関する語句 ・Writing Quiz 1
6	・Critical Thinking and Discussion ⑥ ・Lesson 6	・Let's talk about foods! ・地球科学に関する語句
7	・Critical Thinking and Discussion ⑦ ・Lesson 7	・Let's talk about future! ・環境・資源に関する語句 ・Speaking Quiz 2
8	・Critical Thinking and Discussion ⑧ ・Lesson 8	・Let's talk about travel! ・生物に関する語句(1) ・Writing Quiz 2
9	・Critical Thinking and Discussion ⑨ ・Lesson 9	・Let's talk about entertainment! ・生物に関する語句(2)
10	・Critical Thinking and Discussion ⑩ ・Lesson 10	・Let's talk about health! ・生物に関する語句(3) ・Speaking Quiz 3
11	・Critical Thinking and Discussion ⑪ ・Lesson 11	・Let's talk about people! ・人体・医学に関する語句(1) ・Writing Quiz 3
12	・Critical Thinking and Discussion ⑫ ・Lesson 12	・Let's talk about society! ・人体・医学に関する語句(2)
13	Presentation	Let's give an end-of-term presentation!
14	Final Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

【テキスト（教科書）】
Sato, Seishi, 2016, A Shorter Course in Science and Technology Vocabulary, Nan'Un-Do. ￥700 (+ tax) ISBN9784523178002
佐藤誠司, 2016 『A Shorter Course in Science and Technology Vocabulary 5分間理工系英単語・熟語1000』　南雲堂.

【参考書】
アルク英辞郎on the web
https://eow.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class activities &Homework: 30%
Assignment: 20%
Quiz: 20%
Exam: 30%
There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】
This is a remedial course, so variations in class size, students responses, etc.　may lead to changes in this syllabus.　All changes will be explained. Some flexibility is required.

【Outline (in English)】
【Course Outline】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To build science vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria/Policies】
Final grade will be calculated according to the following process: In-class activities &Homework (30%), Assignment (20%), Quiz (20%), and Exam (30%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う.

【到達目標】
Upon completion of this course, students will be able to: select, narrow, and organize a writing topic; plan, prepare an outline, and write a draft; write with a purpose and an audience in mind, using appropriate word choice and style; understand and apply appropriate structure for an academic essay at the sentence, paragraph, and text levels; Integrate sources accurately and effectively, and understand the MLA formatting.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Each class will focus on a specific writing purpose and corresponding writing strategy. The course is project-based; students will frequently collaborate in pairs on focused tasks, as well as for peer review and editing. Feedback for in-class tasks will be delivered during the lesson. Longer assignments will be done individually as homework, for which feedback will be provided online.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Academic Writing	Introducing the class content, expectations and discussing the course
2	Cause and Effect	Cause and effect at the sentence level
3	Comparison and Contrast	Comparison &Contrast at the sentence level
4	Giving an Opinion	Phrases to give an opinion
5	Classification Writing	Grammatical and lexical characteristics of Classification Writing
6	Descriptive Writing	Grammatical and lexical characteristics of Descriptive Writing
7	Persuasive Writing	Grammatical and lexical characteristics of Persuasive Writing
8	Pros and Cons	Phrases to introduce Pros & Cons
9	Paraphrasing, Summarizing & Citing	How to relay information accurately, and cite a source
10	Writing an Argumentative Essay I	How to: select and narrow a topic; write a plan and an outline
11	Writing an Argumentative Essay III	How to structure a paragraph
12	Writing an Argumentative Essay III	How to structure an argumentative essay
13	Essay Work I	Plan, outline, draft
14	Essay Work II	Editing, second writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Writing assignments, editing, textbook exercises, and reading. (Approximately 4 hours per lesson)

【テキスト（教科書）】
Jigsaw: Insightful Reading to Successful Writing (Robert Tickling and jun Yashima), National Geographic Learning, 2020

【参考書】
[Robert Tickling and Jun Yashima]Jigsaw: Insightful Reading to Successful Writing, National Geographic Learning, 2020, ISBN: 978-4-86312-369-4

【成績評価の方法と基準】
Participation 25%; Homework 25% Essay (planning, drafting, writing, and editing) 50%

【学生の意見等からの気づき】
なし

【Outline (in English)】
Outline:
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
Goal:
Upon completion of this course, students will be able to: select, narrow, and organize a writing topic; plan, prepare an outline, and write a draft; write with a purpose and an audience in mind, using appropriate word choice and style; understand and apply appropriate structure for an academic essay at the sentence, paragraph, and text levels; Integrate sources accurately and effectively, and understand the MLA formatting.
Work to be done outside of class:
Writing assignments, editing, textbook exercises, and reading. (Approximately 4 hours per lesson)
Grading Criteria:
Participation 25%; Homework 25% Essay (planning, drafting, writing, and editing) 50%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this class is to enable students to write clear accurate paragraphs and understand the basic features of academic text.
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Students will be introduced to specific discrete skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation: writing Skills 1-3	Orientation - Class rules and grading criteria Words, Sentences and Paragraphs Punctuation Outside Class - Capitalization Rules -1
2	Skills 4-7	Nouns Recognising and Identifying Verbs The Sentence Outside Class - Capitalization Rules 2
3	Skills 8-10	Sentences with Objects Sentence Fragments - Checking Subjects and Verbs Outside Class - Prepositional Phrases
4	Skills 11-13	Paragraph Formatting Topic Sentences Outside Class - Supporting Sentences
5	Skill 14-16	Concluding sentences Simple and Compound Sentences Simple Sentences with Two Verbs ASSIGNMENT 1
6	Skills 17-18	Compound sentences with And,But and So There is &there are Outside Class - Sentence Combination
7	Skills 19-21	Review of Nouns and Verbs ; Introduction to Adjectives Outside Class - Review Simple and Compound sentences / Review Topic,Supporting and Concluding Sentences
8	Skills 22-24	Recognising Irrelevant Sentences Complex Sentences Outside Class - Sentences with Because
9	Skills 25-28	Clauses with Before and After Avoiding Run-on Sentences Review: Simple,Compound and Complex Sentences Punctuation Outside Class - Review of Simple, Compound and Complex sentences
10	Skills 29-30	Organising Ideas before you Write Adding Detail FINAL WRITING TASK PREPARATION
11	Skill 31	Sentence Order in Paragraphs FINAL FINAL WRITING TASK - ROUGH DRAFT
12	Skill 32	Word Forms FINAL FINAL WRITING TASK - ROUGH DRAFT (FEEDBACK)
13	Skill 33	Organisation With Time Order FINAL WRITING TASK (COMPLETION)
14	FINAL REVIEW TEST AND FINAL WRITING TASK FEEDBACK	FINAL REVIEW TEST AND FINAL WRITING TASK FEEDBACK

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be asked to complete exercises to reinforce language and skills taught outside the classroom via the Learning Management System. Some preparation of longer writing tasks will be done outside class. Students will be asked to record their use of reference tools and online writing tools.
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Skills For Effective Writing 1, (Cambridge University Press, 2013) ￥2,600 before tax. ISBN 978-1-107-684348

【参考書】
Access to a good online or hard copy dictionary will aid students.

【成績評価の方法と基準】
Writing Tasks 50%
FinalReview Test 30 %
Participation 20%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
A computer or cellphone will be needed to access the Learning Management system for work outside class.

【Outline (in English)】
This class aims to give students the skills in writing and knowledge of basic elements of English composition to write accurate sentences, employing punctuation and simple transitions accurately. It also aims to enable students to organise and write clear well-formed paragraphs, employing reference and cohesive devices.
Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.
Students will be asked to complete exercises to reinforce language and skills taught outside the classroom via the Learning Management System. Some preparation of longer writing tasks will be done outside class. Students will be asked to record their use of reference tools and online writing tools.
GRADING CRITERIA
Writing Tasks 50%
FinalReview Test 30 %
Participation 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

永井　誠

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
日常生活に関わる簡単な会話から始め、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明し、他者の説明を理解し、意見の交換ができるところまで、幅広いコミュニケーション能力の習得を目指す。また、異文化を理解し尊重し、自分の文化を他者に理解してもらう態度を身に着け、国際人として積極的に異文化交流ができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業活動は前半・後半と、二部に分ける。
前半では、(1)発音（聞く・話す）の練習、(2)疑問と応答のための文法練習、(3)リスニングにおいて[主語＋述語ペア]及びキーワード・キーフレーズを聞き取る練習を行う。(3)に関しては、後にスピーキングにおいて[主語＋述語ペア]を構築する練習に発展させる。
後半では、様々なパラグラフ構造の短い英文原稿を書き、口頭で発表し、他者と(1)Yes/No疑問文～応答、(2)Wh-疑問文～応答、(3)意見・コメント交換の会話活動を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、「Conclusion/Reasons」	授業の進め方、評価方法の説明。「結論・理由」型の発表～会話。
第2回	「Analysis」	「分析」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第3回	「Theory/Proof」	「理論・証明」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第4回	「Controversy」	「論争」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第5回	「Comparison/Contrast」	「比較」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第6回	「Classification」	「分類」型の発表～会話。（発音・QA文法・SVリスニング練習）
第7回	まとめとテスト(1)	第1～6回の発音・QA文法・SVリスニング練習の内容に関わる復習とテスト
第8回	「Instructions」	「指示」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第9回	「Chronological Order」	「歴史」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第10回	「Cause &Effect」	「原因と結果」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第11回	「Process」	「過程」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第12回	「Explanation」	「説明」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習）
第13回	まとめとテスト(2)	第7～12回の発音・QA文法・SVリ文法練習の内容に関わる復習テスト
第14回	「Definition」	「定義」型の発表～会話。（発音・QA文法・SV文法練習問題）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は4時間を標準とする。必ず復習をすること。また指示された事柄に関しては、予習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配布する。

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】
毎回のライティング（発表原稿）＆スピーキング実績：48％＋2回の筆記テスト（リスニングに基づく発音・QA文法・SV文法のテスト）：52％より評価する。

【学生の意見等からの気づき】
（変更ではなく継続）
アンケートにおいて、リスニング技能の習得のために①発音（子音・母音それぞれ）②主語＋述語の基本構造③複合文構造と、段階的に行ったのが有り難かったとの声が聞かれたので、継続する。
In the survey, respondents appreciated the step-by-step procedure of (1) pronunciation, (2) basic subject + predicate structure, and (3) compound structure and compound syntax, which will be continued.

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンまたはスマートフォン等、アップロードされた教材にアクセスできるもの。
Laptops and/or smartphones for student access to uploaded materials

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

The goal is for students to acquire a wide range of communication skills and an attitude of understanding and respecting different cultures so that they can actively engage in cross-cultural exchanges as international citizens.
The lesson time is divided into two parts.Part 1 includes (1) pronunciation practice, (2) grammar practice for interrogatives, and (3) understanding subject-predicate pairs. In the second part, the students will first do a writing and oral presentation activity, followed by the following activities: (1) Yes/No questions and answers, (2) Wh- questions and answers, and (3) comments on other students' presentations.
The standard amount of study outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. Be sure to review. Also, students are expected to do preparatory study for the topics indicated in the instructions.
Evaluation will be made from the following: writing&speaking at each session: 48%, and two written tests: 52%.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

鈴木　幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To build science vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.
日常生活に関わる簡単な英会話から時事英語・理工系英語に触れることで英語４技能を包括的に伸ばす：
・身近な問題や時事問題に対する自分の意見を論理的に述べることができる（Speaking &Writing）
・相手の質問・意見に対して応答できる（Listening &Speaking）
・理工系英語に慣れる（Reading &Writing）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this class, you students will study a specific topic each week, using the textbook and handouts. You will be expected to attend all lessons and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q&A, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・Guidance ・Critical Thinking and Discussion ① ・Lesson 1	・Orientation ・Let's give a self-introduction! ・化学に関する語句(1)
2	・Critical Thinking and Discussion ② ・Lesson 2	・Let's talk about memories! ・化学に関する語句(2)
3	・Critical Thinking and Discussion ③ ・Lesson 3	・Let's talk about home life! ・物理学に関する語句(1)
4	・Critical Thinking and Discussion ④ ・Lesson 4	・Let's talk about school life! ・物理学に関する語句(2) ・Speaking Quiz 1
5	・Critical Thinking and Discussion ⑤ ・Lesson 5	・Let's talk about plans! ・天文学に関する語句 ・Writing Quiz 1
6	・Critical Thinking and Discussion ⑥ ・Lesson 6	・Let's talk about foods! ・地球科学に関する語句
7	・Critical Thinking and Discussion ⑦ ・Lesson 7	・Let's talk about future! ・環境・資源に関する語句 ・Speaking Quiz 2
8	・Critical Thinking and Discussion ⑧ ・Lesson 8	・Let's talk about travel! ・生物に関する語句(1) ・Writing Quiz 2
9	・Critical Thinking and Discussion ⑨ ・Lesson 9	・Let's talk about entertainment! ・生物に関する語句(2)
10	・Critical Thinking and Discussion ⑩ ・Lesson 10	・Let's talk about health! ・生物に関する語句(3) ・Speaking Quiz 3
11	・Critical Thinking and Discussion ⑪ ・Lesson 11	・Let's talk about people! ・人体・医学に関する語句(1) ・Writing Quiz 3
12	・Critical Thinking and Discussion ⑫ ・Lesson 12	・Let's talk about society! ・人体・医学に関する語句(2)
13	Presentation	Let's give an end-of-term presentation!
14	Final Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

【テキスト（教科書）】
Sato, Seishi, 2016, A Shorter Course in Science and Technology Vocabulary, Nan'Un-Do. ￥700 (+ tax) ISBN9784523178002
佐藤誠司, 2016 『A Shorter Course in Science and Technology Vocabulary 5分間理工系英単語・熟語1000』　南雲堂.

【参考書】
アルク英辞郎on the web
https://eow.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In-class activities &Homework: 30%
Assignment: 20%
Quiz: 20%
Exam: 30%
There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】
I hope you students enjoy studying English.

【Outline (in English)】
【Course Outline】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To build science vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria/Policies】
Final grade will be calculated according to the following process: In-class activities &Homework (30%), Assignment (20%), Quiz (20%), and Exam (30%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

平賀　史子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the following:
(1) Students will develop the ability to use English language skills to communicate various topics.
(2) Students will acquire four language skills (Reading, Writing, Listening, and Speaking) in English communication more fluently and confidently.
(3) Students will develop the ability to think critically and express their opinions in discussions and short presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this course, students will work on activities individually or in small groups. They are expected to work collaboratively to do various tasks such as group discussion, researching, and presenting topics of interest. Students will develop basic knowledge and skills of writing accurate English sentences that enable them to write paragraphs with good vocabulary, grammar, content, and organization. Students also do presentations using YouTube. The instructor will provide ongoing support and feedback for students.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction / Orientation	Introduction of the course, Orientation, Warm-up activity.
2	Unit 3 Self-Introduction Paragraph – Reading, Writing, and Discussion	Explanation of YouTube presentation, skills-based work based on the textbook unit.
3	Unit 3 Self-Introduction Paragraph – Speech Practice	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
4	Unit 4 Descriptive Paragraph – Reading, Writing, and Discussion	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
5	Unit 4 Descriptive Paragraph – Reading, Writing, and Group Work	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
6	Unit 4 Descriptive Paragraph – Preparation for Assessment 1	YouTube presentation, group work, and researching topics of interest.
7	Assessment 1	Preparation and practice. Assessment 1.
8	Unit 7 Narrative Paragraph – Reading, Writing, and Discussion	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
9	Unit 7 Narrative Paragraph – Speech Practice	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
10	Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph – Reading, Writing, and Discussion	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
11	Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph – Reading, Writing, and Group Work	YouTube presentation, In-class conversation tasks, skills-based work based on the textbook unit.
12	Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph – Preparation for Assessment 2	YouTube presentation, group work, and researching topics of interest.
13	Assessment 2	Preparation and practice. Assessment 2.
14	Course Review	Review of the course, make-ups, and goal setting.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Basic Steps to Academic Writing – From Paragraph to Essay
Author: Matthew A. Taylor and David E. Kluge
Publisher: Cengage Learning (2,850 yen + tax)
ISBN: 978-4-86312-209-3

【参考書】
Teacher will provide additional material.

【成績評価の方法と基準】
The final grade will be decided based on the following:
Assessment 1 (20%), Assessment 2 (20%), Reading Task (20%), Homework and YouTube presentation (20 %), In-class Participation/Self-Evaluation (20 %)

【学生の意見等からの気づき】
The instructor is willing to be available to take student concerns under consideration throughout the semester.

【学生が準備すべき機器他】
Students are required to bring either a smartphone, tablet, or laptop computer. Please make sure that it is fully charged before the class and can connect to the internet easily. Also, students are welcome to bring their dictionary (electric or book) in class.

【その他の重要事項】
３分の１以上または5回以上の理由なき欠席で、成績を不合格（E）とします
More than one-third or five total absences without a valid reason will result in a failing grade (E).

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be at least four hours for a class.
The final grade will be decided based on the following:
Assessment 1 (20%), Assessment 2 (20%), Homework (20%), Quizzes and YouTube presentation (20 %), In-class Participation/Self-Evaluation (20 %)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
・英語で得た情報の内容を的確に把握できる。
・英語で得た情報の要旨を、英語で適切にまとめられる。
・自分の考えを英語で組み立て、（効果的に）発言できる。
・英語で効果的にコミュニケーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
英語のでグループワークのディスカッションができるようになることを目指して授業を行います。学生の主体的な参加や発言を歓迎します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introductions Make a 1st Learning Plan for Effective Communication Strategies	Explanation of syllabus & course introduction Learning plan Speaking fluency practice
第2回	Discussion skill #1	Speaking fluency practice Discussion Skill: How to ask Follow-up Questions
第3回	Discussion skill #2	Speaking fluency practice Discussion Skill: How to extend answers
第4回	Discussion skill #3	Speaking fluency practice Discussion Skill: Listening practice - How to make reactions in English
第5回	Discussion skill #4	Speaking fluency practice Discussion Skill: How to clarify politely in English
第6回	Discussion topic #1	Speaking fluency practice Discussion Topic: Explain one scientific observation or experiment that you were involved in, in English
第7回	Discussion topic #2	Speaking fluency practice Discussion Topic: Talk about your department and science courses in English
第8回	Discussion topic #3	Speaking fluency practice Discussion Topic: Talk about a recent science news article (not from a research journal) in English
第9回	Discussion topic #4	Speaking fluency practice Discussion Topic: Talk about which laboratory (and research project) most interests you right now, in English
第10回	Discussion Topics &Skills 1-4 Review Make a 2nd Learning Plan for Effective Communication Strategies	Speaking fluency practice Review all four discussion topics and skills in class Students will make a new study plan
第11回	Oral Examination #1 and Written Reflection	Students will be individually graded during group discussions. Students will reflect on their learning in writing
第12回	Make a 3rd Learning Plan for Effective Communication Strategies	Speaking fluency practice Students will revise, remake and implement their communication strategies learning plan
第13回	Oral Examination #2 and Written Reflection	Students will be individually graded during group discussions. Students will reflect on their learning in writing
第14回	Make a 4th Learning Plan for Effective Communication Strategies	Speaking fluency practice Students will make a final learning plan, based on their two oral examinations and in-class activities, for effectively communicating in English in the future

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。
・予習や準備が前提の授業なので、指定された箇所の予習や準備を必ずしてくること。
・授業の内容を振り返り、授業で学んだ新しい言い回しなどを復習すること。

【テキスト（教科書）】
Materials will be provided online by the professor.

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
宿題：２０％
口頭試験：８０％

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
自身のPCを毎回持参してください。

【その他の重要事項】
毎週の授業への出席は必須です。
・5回以上の理由のない欠席で成績は不合格（D）とします（当校の『履修の手引き』に記載の通り）。
・遅刻は2回で欠席1回分にカウントします。
・期日内の課題提出も必須です。予習をして来ない、授業中に違うことをやっている、授業中におけるアクティビティに参加しようとしない、など授業態度が著しく欠ける人は、評価の対象外、即ち不合格（D）となります。
・受講者の積極的な参加を期待し、特に授業中における積極的な発言を高く評価し授業への貢献度・平常点に加算していきます。
※授業計画や形式は参加者のレベルや進み具合等により、変更される場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
【Learning Objectives】
Students will be able to:
Correctly understand the content of information obtained in English.
Summarize the information effectively in English.
Construct their own thoughts in English and (effectively) express them.
Communicate effectively in English.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Homework: 20％
Oral Exam #1: 40%
Oral Exam #2: 40%
Your attendance to this class is mandatory.
Your contribution to the class will be evaluated by your participation in group discussion activities and in-class preparations.
For five or more unexcused absences, the final grade will be "D" as specified in the “Course Registration Guide” of our school.
Two instances of tardiness will be counted as one absence.
*The course outline may be subject to change depending on progress.

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this class is to enable students to write clear accurate paragraphs and understand the basic features of academic text.
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Students will be introduced to specific discrete skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation: writing Skills 1-3	Orientation - Class rules and grading criteria Words, Sentences and Paragraphs Punctuation Outside Class - Capitalization Rules -1
2	Skills 4-7	Nouns Recognising and Identifying Verbs The Sentence Outside Class - Capitalization Rules 2
3	Skills 8-10	Sentences with Objects Sentence Fragments - Checking Subjects and Verbs Outside Class - Prepositional Phrases
4	Skills 11-13	Paragraph Formatting Topic Sentences Outside Class - Supporting Sentences
5	Skill 14-16	Concluding sentences Simple and Compound Sentences Simple Sentences with Two Verbs ASSIGNMENT 1
6	Skills 17-18	Compound sentences with And,But and So There is &there are Outside Class - Sentence Combination
7	Skills 19-21	Review of Nouns and Verbs ; Introduction to Adjectives Outside Class - Review Simple and Compound sentences / Review Topic,Supporting and Concluding Sentences
8	Skills 22-24	Recognising Irrelevant Sentences Complex Sentences Outside Class - Sentences with Because
9	Skills 25-28	Clauses with Before and After Avoiding Run-on Sentences Review: Simple,Compound and Complex Sentences Punctuation Outside Class - Review of Simple, Compound and Complex sentences
10	Skills 29-30	Organising Ideas before you Write Adding Detail FINAL WRITING TASK PREPARATION
11	Skill 31	Sentence Order in Paragraphs FINAL FINAL WRITING TASK - ROUGH DRAFT
12	Skill 32	Word Forms FINAL FINAL WRITING TASK - ROUGH DRAFT (FEEDBACK)
13	Skill 33	Organisation With Time Order FINAL WRITING TASK (COMPLETION)
14	FINAL REVIEW TEST AND FINAL WRITING TASK FEEDBACK	FINAL REVIEW TEST AND FINAL WRITING TASK FEEDBACK

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be asked to complete exercises to reinforce language and skills taught outside the classroom via the Learning Management System. Some preparation of longer writing tasks will be done outside class. Students will be asked to record their use of reference tools and online writing tools.
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Skills For Effective Writing 1, (Cambridge University Press, 2013) ￥2,600 before tax. ISBN 978-1-107-684348

【参考書】
Access to a good online or hard copy dictionary will aid students.

【成績評価の方法と基準】
Writing Tasks 50%
FinalReview Test 30 %
Participation 20%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
A computer or cellphone will be needed to access the Learning Management system for work outside class.

【Outline (in English)】
This class aims to give students the skills in writing and knowledge of basic elements of English composition to write accurate sentences, employing punctuation and simple transitions accurately. It also aims to enable students to organise and write clear well-formed paragraphs, employing reference and cohesive devices.
Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.
Students will be asked to complete exercises to reinforce language and skills taught outside the classroom via the Learning Management System. Some preparation of longer writing tasks will be done outside class. Students will be asked to record their use of reference tools and online writing tools.
GRADING CRITERIA
Writing Tasks 50%
FinalReview Test 30 %
Participation 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

神　康介

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
1.英文法を理解し一定の語彙力を身につけ、時事的な内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことができる。
2.文法、用法を、適切に学び、正確で自然な英語を書くことができる。
3.テキスト等の聴解・読解などの活動を通じて、リスニングスキルを向上させることができる。
4.時事的な分野でよく使用される単語や表現を身につけ、発話できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
	Shohei Ohtani	大谷翔平についての英文を視聴、精読する。 名詞・代名詞の用法を確認する。
2	Lee Teng-hui	李登輝についての英文を視聴、精読して、単語、表現、文法事項を学ぶ。 動詞について、練習問題を行う。
3	Samurai Japan's Gold Medal	侍ジャパンについての英文を視聴、精読して、単語、表現、文法事項を学ぶ。 助動詞についての、練習問題を行う。
4	The Power of Music	音楽の力についての、英文を視聴、精読して、単語、表現、文法を学ぶ。進行形に関しての、練習問題を行う。
5	The Effects of Fungi in People's Diet	きのこについての英文を視聴、精読して、単語、表現、文法を学ぶ。 受動態に関する、練習問題を行う。
6	Toki	トキについての英文を視聴、精読して、単語、表現、文法を学ぶ。 不定詞に関する、練習問題を行う。
7	Agricultural Recovery in Fukushima	東日本大震災からの農業復興についての英文を視聴、精読して、単語、表現、文法を学ぶ。 完了時制に関する、練習問題を行う。
8	CInternational Linear Collider (ILC)	ILC 国際リニアコライダー についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法を学ぶ。動名詞に関する、文法問題を演習する。
9	Economic Security and Security Clearance	経済安全保障とセキュリティ・クリアランスについての英文を視聴、精読し、単語、表現、文法を学ぶ。 分詞に関する、文法問題を演習する。
10	Cellular Agriculture	細胞農業に関する英文を視聴、精読し、単語、表現、文法を学ぶ。 比較に関する、文法問題を演習する。
11	Forests and Human Health	森林と健康に関する英文を視聴、精読し、単語、表現、文法を学ぶ。 形容詞の語法についての演習を行う。
12	Japan's Quantum Computer	量子コンピューターについての英文を視聴、精読し、単語、表現、文法を学ぶ。 副詞の語法についての演習を行う。
13	A Balanced Diet for Your Immune System	バランスのとれた食事についての英文を視聴、精読し、単語、表現、文法について学ぶ。 前置詞についての語法の演習を行う。
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】
Sunrise Japan 南雲堂

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
クラスでの平常点で40％、期末試験の結果で60％で評価する。原則として 半期で4回欠席した場合単位は認めない。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。
(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%.

【学生の意見等からの気づき】
オンライン授業を有効活用する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate
grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
(Learning object)
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

渡邊　晶子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
基本的な文法を確実なものにして、英文を書くための基礎力をつける。構文をしっかり理解した上で英文を正確に聴き取り、読解できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、しっかりと準備をしておくこと。
課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・小テスト	授業の進め方について説明する。
2	The Bee Colony	品詞について学ぶ。 ミツバチのコロニーについての英文を聴き、読解する。
3	Space Junk	動詞について学ぶ。 宇宙ゴミについての英文を聴き、読解する。
4	The Gift of Energy	句動詞について学ぶ。 エネルギーについての英文を聴き、読解する。
5	Water and Living Things	時制について学ぶ。 水と生き物についての英文を聴き、読解する。
6	The Sun, Our Powerful Star	時制について学ぶ。 太陽についての英文を聴き、読解する。
7	Tomorrow's Transportation	主語と動詞の一致について学ぶ。 近未来の乗物についての英文を聴き、読解する。
8	All That Glitters, Spread, and Stretches	代名詞について学ぶ。 金についての英文を聴き、読解する。
9	Bioclock - the Time of Your Life	名詞・冠詞について学ぶ。 体内時計についての英文を聴き、読解する。
10	Right Brain, Left Brain	前置詞について学ぶ。 右脳と左脳についての英文を聴き、読解する。
11	The Miracle of Vitamins	助動詞について学ぶ。 ビタミンについての英文を聴き、読解する。
12	Unlocking Submarine Secrets	海底の謎についての英文を聴き、読解する。
13	Frozen Foods	冷凍食品の発見についての英文を聴き、読解する。
14	まとめ・試験	重要構文などの確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】テキストの英文の日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

【テキスト（教科書）】
The Wonders of Science　科学の世界（成美堂）
A Shorter Course in Usage and Vocabulary　ポイントで解く語法・語彙問題（南雲堂）
生協で購入し、必ず毎回持参すること。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％　レポート課題20％　期末テスト60％

【学生の意見等からの気づき】
提出課題や質問等で気づいたことを解説に織り込んでいく。

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
The required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

神　康介

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
1.英文法を理解し一定の語彙力を身につけ、時事的な内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことができる。
2.文法、用法を、適切に学び、正確で自然な英語を書くことができる。
3.テキスト等の聴解・読解などの活動を通じて、リスニングスキルを向上させることができる。
4.時事的な分野でよく使用される単語や表現を身につけ、発話できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. Yuzuru Hanyu	羽生結弦についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 文型について、学習し、練習問題を行う。
2	Kei Nishikori	錦織圭についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 時制についての、練習問題を学習する。
3	Christel Takigawa	滝川クリステルについての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 助動詞についての文法問題を演習する。
4	Kyary Pamyu Pamyu	きゃりーぱみゅぱみゅについての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 名詞・代名詞についての文法問題を演習する。
5	World Cultural Heritage Site Mount Fuji	世界文化遺産についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。形容詞についての文法問題を演習する。
6	World Intangible Cultural Heritage Washoku	世界無形文化遺産についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。副詞についての文法問題を演習する。
7	Spiber	スパイバーについての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。比較についての文法問題を演習する。
8	Abenomics	アベノミクスについての、英文を視聴、精読し、単語、。現、文法などを学ぶ。 受動態についての文法問題を演習する。
9	Maglev Train	リニア新幹線についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 不定詞についての文法問題を演習する。
10	Pokémon Go	ポケモンGOについての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 分詞についての文法問題を演習する。
11	My Number	マイナンバー法についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 動名詞の語法についての演習問題を学ぶ。
12	1Net TV	ネットテレビについての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 関係代名詞の語法についての演習問題を学ぶ。
13	Epsilon Rocket	人工知能についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 接続詞の語法についての演習問題を学ぶ。
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては,大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句,専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】
Cool Japan 南雲堂

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
クラスでの平常点で40％、期末試験の結果で60％で評価する。半期で4回欠席した場合単位は認めない。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。
(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%.

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】
(Course outline)
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate
grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
(Learning objectives)
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

渡邊　晶子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
基本的な文法を確実なものにして、英文を書くための基礎力をつける。構文をしっかり理解した上で英文を正確に聴き取り、読解できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、準備をしておくこと。課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Your Immune Defense System	不定詞について学ぶ。 免疫防御系についての英文を聴き、読解する。
2	The Earth We Live On	動名詞について学ぶ。 地球の内部についての英文を聴き、読解する。
3	Science Looks Twice at Twins	分詞について学ぶ。 双子についての英文を聴き、読解する。
4	Memory Miracles	比較について学ぶ。 記憶力についての英文を聴き、読解する。
5	Products of the Sea	否定について学ぶ。 海の産物についての英文を聴き、読解する。
6	If the Oceans Should Die	受動態について学ぶ。 海についての英文を聴き、読解する。
7	小テスト	重要構文などの確認と小テストを行う。
8	Moving Continents	関係詞について学ぶ。 大陸移動についての英文を聴き、読解する。
9	Who Needs Spiders?	接続詞について学ぶ。 クモについての英文を聴き、読解する。
10	It's the Humidity	仮定法について学ぶ。 湿気についての英文を聴き、読解する。
11	Blue Babe - a Messenger from the Ice Age	語彙（紛らわしい語）について学ぶ。 氷河時代の野牛の遺骸の発見についての英文を読む。
12	The New Zoo - a Modern Ark	現代の動物園の意義についての英文を聴き、読解する。
13	Wonderworker - New Drugs	新薬についての英文を聴き、読解する。
14	まとめ・試験	重要構文などの確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
テキストの日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

【テキスト（教科書）】
The Wonders of Science（成美堂）
A Shorter Course in Usage and Vocabulary（南雲堂）
生協で購入し、必ず毎回持参すること。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点20％　レポート課題20％　期末テスト60％

【学生の意見等からの気づき】
提出課題や質問等を解説に織り込んでいきたい。

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
The required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

染谷　昌弘

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
英文法、一定の語彙力を土台として、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
音声を通して英語母語話者が話す音声映像に触れることで、リスニング、スピーキング力を高めることが出来る。
科学、社会科学分野でよく使用される単語や表現を身につけ、自分の意見を英語で表現することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストをUnit毎に3回の授業のペースで進めます。Unit毎に小テスト、提出、さらにフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introducing how to be evaluated and the process of this course.
2	Unit1 Social Relationships	Reading1, Critical thinking, Video
3	Unit1 Social Relationships	Reading2, Critical thinking, Writin
4	Unit1 Social Relationships	Review, Online Practice
5	Unit2 Science and Investigation	Reading1, Critical thinking, Video
6	Unit2 Science and Investigation	Reading2, Critical thinking, Writing
7	Unit2 Science and Investigation	Review, Online Practice
8	Unit3 City Solutions	Reading1, Critical thinking, Video
9	Unit3 City Solutions	Reading2, Critical thinking, Writing
10	Unit3 City Solutions	Review, Online Practice
11	Unit4 Danger Zones	Reading1, Critical thinking, Video
12	Unit4 Danger Zones	Reading2, Critical thinking, Writing
13	Unit4 Danger Zones	Review, Online Practice
14	Final test and review	Taking test and reviewing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

【テキスト（教科書）】
Pathways Reading, Writing, and Critical Tinking Third Edition(2025) (Book 3), Cengage Learning.
ISBN: 9780357979921
※教科書販売期間中に必ず購入すること。（秋学期も継続して使用します。）

【参考書】
Dictionary

【成績評価の方法と基準】
Submission (30%)
Quiz (40%)
Assignment (20%)
Group Discussion(10%)

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
[Learning Objectives]
The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting. Students are expected to spend one hour to understand the course content.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on Submission (30%). Quiz (40%). Assignment (20%). Group Discussion(10%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

染谷　昌弘

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
英文法、一定の語彙力を土台として、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
音声を通して英語母語話者が話す音声映像に触れることで、リスニング、スピーキング力を高めることが出来る。
科学、社会科学分野でよく使用される単語や表現を身につけ、自分の意見を英語で表現することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストをUnit毎に3回の授業のペースで進めます。Unit毎に小テスト、提出、さらにフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introducing how to be evaluated and the process of this course.
2	Unit6 Product Design	Reading1, Critical thinking, Video
3	Unit6 Product Design	Reading2, Critical thinking, Writin
4	Unit6 Product Design	Review, Online Practice
5	Unit7 Global Challenges	Reading1, Critical thinking, Video
6	Unit7 Global Challenges	Reading2, Critical thinking, Writing
7	Unit7 Global Challenges	Review, Online Practice
8	Unit8 Medical Innovations	Reading1, Critical thinking, Video
9	Unit8 Medical Innovations	Reading2, Critical thinking, Writing
10	Unit8 Medical Innovations	Review, Online Practice
11	Unit9 Languages and Culture	Reading1, Critical thinking, Video
12	Unit9 Languages and Culture	Reading2, Critical thinking, Writing
13	Unit9 Languages and Culture	Review, Online Practice
14	Final test and review	Taking test and reviewing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

【テキスト（教科書）】
Pathways Reading, Writing, and Critical Tinking Third Edition(2025) (Book 3), Cengage Learning.
ISBN: 9780357979921
※教科書販売期間中に必ず購入すること。（春に続き秋学期も継続して使用します。）

【参考書】
Dictionary

【成績評価の方法と基準】
Submission (30%)
Quiz (40%)
Assignment (20%)
Group Discussion(10%)

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
[Learning Objectives]
The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting. Students are expected to spend one hour to understand the course content.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on Submission (30%). Quiz (40%). Assignment (20%). Group Discussion(10%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

城　俊雄

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力を習得しつつ、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。将来の技術者・研究者に必要な、専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の重要性は、ますます高まっています。
本授業では、貧困、飢餓、環境問題など、世界が抱える課題を扱うSDGs（持続可能な開発目標）をテーマとした教科書を用い、英語学習と同時に、現代社会の課題について理解を深めながら考える力を養います。その上で、そのための基礎力・総合力・応用力を身につけることを目標とし、学生の英語力を踏まえ、効果的な授業展開を目指します。

【到達目標】
（1）基本的な文法を確実に身につけ、語彙力を段階的に増やすとともに、英語の音声的特徴や発音の基礎を理解することを目標とします
（2）構文を正確に理解した上で長文を的確に読解できる力を養い、複雑な英文についても、英文の流れに沿って自然に意味のまとまりごとに理解できるようになることを目指します。
（3）発音やリズム、イントネーションへの意識を高めることで、日常的な速さで話されるネイティブの英語をある程度聞き取れる英語運用能力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則としてテキストに沿って進め、各ユニットを2回の授業で扱う。理解度の把握を目的として、小テストを2回実施する予定。
本授業では、基礎的な語彙および文法知識の確実な定着を図り、それを基盤としてリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能を総合的に伸ばします。そのため、①テキストを繰り返し音読すること、②ネイティブによる音声を繰り返し聴くこと、③テキストを正確に翻訳すること、④文章全体の内容を的確に理解すること、⑤語彙・熟語・文法・表現を理解し定着させること、⑥間違いを恐れず、話したり書いたりする姿勢を身につけることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Introduction	授業の進め方と狙いを説明する。
2回目	Unit(1) A New Style of Agriculture	課題文「貧困をなくすための農業サポート」を精読し、重要な表現や語彙を習得する
3回目	Unit(1) A New Style of Agriculture	課題文「貧困をなくすための農業サポート」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
4回目	Unit(2) Every "C" Counts	課題文「新たながん治療研究サポート」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
5回目	Unit(2) Every "C" Counts	課題文「新たながん治療研究サポート」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
6回目	Quiz 1 (Units 1– 2) Unit(3) Growing the Future with Safe Water	小テスト1回目（Unit 1-2）課題文「安全な飲み水を手にするために」のを精読し、重要な表現や語彙を習得する。
7回目	Unit(3) Growing the Future with Safe Water	課題文「安全な飲み水を手にするために」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
8回目	Unit(4) Noticing Microaggressions	課題文「無自覚な先入観や偏見に気づく」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
9回目	Unit(4) Noticing Microaggressions	課題文「無自覚な先入観や偏見に気づく」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
10回目	Quiz 2 (Units 3– 4) Unit(5) Traveling with Respect	小テスト2回目（Unit 3-4）課題文「誰もが幸せになる観光」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
11回目	Unit(5) Traveling with Respect	課題文「誰もが幸せになる観光」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
12回目	Unit(6) Turning Rain into Power	課題文「雨水を電力に」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
13回目	Unit(6) Turning Rain into Power	課題文「雨水を電力に」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
14回目	Final examination and course review	期末テストと今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次回の授業で使用するテキストの本文を事前によく読んでおくこと。
・授業前に指定された課題がある場合は、期限までに提出すること。
・必要に応じて、指示に従いプレゼンテーション等の準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】
Our World Now with SDGs (金星堂)
※生協で購入してください（秋学期も継続して使用します）。

【参考書】
・英和辞典を持参すること（電子辞書可）
・その他の資料は必要に応じて授業で配布します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　40％
2回の小テスト 40％
授業への参加度　20％

【学生の意見等からの気づき】
受講生の思考を促し、積極的に質問できる雰囲気づくりを心がけながら、講義を進めることを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業にはパソコンを持参して下さい。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course aims to improve students' overall English proficiency by helping them build a solid foundation in vocabulary and grammar, and by developing the four core skills of reading, writing, listening, and speaking. For future engineers and researchers, the ability to receive and communicate specialized knowledge in English, as well as advanced English communication skills to meet societal demands, is becoming increasingly important.

In this course, a textbook focusing on the SDGs (Sustainable Development Goals) — which address global challenges such as poverty, hunger, and environmental issues — will be used. Students will develop their English skills while deepening their understanding of contemporary global issues and cultivating the ability to think critically about them. The course thus aims to foster fundamental, integrated, and applied English skills, taking students' current proficiency into account and employing effective teaching methods.

【Learning Activities Outside of the Classroom】
・ Read the assigned text carefully in advance of the next class.
・ Submit any assigned work by the deadline if tasks are given before class.
・ Prepare presentations or other materials as instructed, when necessary.

【Grading Criteria / Policy】
・ Final examination: 40%
・ Two quizzes: 40%
・ Class participation: 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＥＩ

城　俊雄

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力を習得しつつ、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。将来の技術者・研究者に必要な、専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の重要性は、ますます高まっています。
本授業では、貧困、飢餓、環境問題など、世界が抱える課題を扱うSDGs（持続可能な開発目標）をテーマとした教科書を用い、英語学習と同時に、現代社会の課題について理解を深めながら考える力を養います。その上で、そのための基礎力・総合力・応用力を身につけることを目標とし、学生の英語力を踏まえ、効果的な授業展開を目指します。

【到達目標】
（1）基本的な文法を確実に身につけ、語彙力を段階的に増やすとともに、英語の音声的特徴や発音の基礎を理解することを目標とします
（2）構文を正確に理解した上で長文を的確に読解できる力を養い、複雑な英文についても、英文の流れに沿って自然に意味のまとまりごとに理解できるようになることを目指します。
（3）発音やリズム、イントネーションへの意識を高めることで、日常的な速さで話されるネイティブの英語をある程度聞き取れる英語運用能力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【原則としてテキストに沿って進め、各ユニットを2回の授業で扱う。理解度の把握を目的として、小テストを2回実施する予定。
本授業では、基礎的な語彙および文法知識の確実な定着を図り、それを基盤としてリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能を総合的に伸ばします。そのため、①テキストを繰り返し音読すること、②ネイティブによる音声を繰り返し聴くこと、③テキストを正確に翻訳すること、④文章全体の内容を的確に理解すること、⑤語彙・熟語・文法・表現を理解し定着させること、⑥間違いを恐れず、話したり書いたりする姿勢を身につけることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	Introduction Unit(7) Designed to Break Barriers	授業の進め方と狙いの説明 課題文「みんなにやさしいまちの形」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
2回目	Unit(7) Designed to Break Barriers	課題文「みんなにやさしいまちの形」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
3回目	Unit(8) Closing the Digital Divide	課題文「ルワンダの学校にインターネットを」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
4回目	Unit(8) Closing the Digital Divide	課題文「ルワンダの学校にインターネットを」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
5回目	Quiz 1 (Units 7– 8) Unit(9) "Table for Twp" for all	小テスト1回目（Unit 7-8) 課題文「食料提供を支援するNPO」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
6回目	Unit(9) "Table for Twp" for all	課題文「食料提供を支援するNPO」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
7回目	Unit(10) Making Impacts for Women and Children	課題文「女性と子どもに等しいチャンスを」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
8回目	Unit(10) Making Impacts for Women and Children	課題文「女性と子どもに等しいチャンスを」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。
9回目	Quiz 2 (Units 9–10) Unit(11) Planting the Seeds of Ethical Fashion	小テスト2回目（Unit 9-10) 課題文「ファッションと私たちの未来」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
10回目	Unit(11) Planting the Seeds of Ethical Fashion	課題文「ファッションと私たちの未来」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
11回目	Unit(12) Underwater Plants for Climate Hope	課題文「海が守る地球」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。
12回目	Unit(12) Underwater Plants for Climate Hope	課題文「海が守る地球」の音声を聴き、関連問題を解き、音読練習を行う。テーマについてグループディスカッションを行う。
13回目	Unit(15) A Sustainable Tomorrow for Japan	課題文「SDGsで変える日本の未来」を精読し、重要な表現や語彙を習得する。テーマについてグループディスカッションを行う。
14回目	Final examination and course review	期末テストと今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次回の授業で使用するテキストの本文を事前によく読んでおくこと。
・授業前に指定された課題がある場合は、期限までに提出すること。
・必要に応じて、指示に従いプレゼンテーション等の準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】
Our World Now with SDGs (金星堂)
※春学期と同じ教科書です。

【参考書】
・英和辞典を持参すること（電子辞書可）
・その他の資料は必要に応じて授業で配布します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　40％
2回の小テスト 40％
授業への参加度　20％

【学生の意見等からの気づき】
受講生の思考を促し、積極的に質問できる雰囲気づくりを心がけながら、講義を進めることを心がけたい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course aims to improve students' overall English proficiency by helping them build a solid foundation in vocabulary and grammar, and by developing the four core skills of reading, writing, listening, and speaking. For future engineers and researchers, the ability to receive and communicate specialized knowledge in English, as well as advanced English communication skills to meet societal demands, is becoming increasingly important.

In this course, a textbook focusing on the SDGs (Sustainable Development Goals) — which address global challenges such as poverty, hunger, and environmental issues — will be used. Students will develop their English skills while deepening their understanding of contemporary global issues and cultivating the ability to think critically about them. The course thus aims to foster fundamental, integrated, and applied English skills, taking students' current proficiency into account and employing effective teaching methods.

【Learning Activities Outside of the Classroom】
・ Read the assigned text carefully in advance of the next class.
・ Submit any assigned work by the deadline if tasks are given before class.
・ Prepare presentations or other materials as instructed, when necessary.

【Grading Criteria / Policy】
・ Final examination: 40%
・ Two quizzes: 40%
・ Class participation: 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

今政　肇

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語のリスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの四技能の総合的な発展を目的とします。言わずもがなですが、理工系・生命系の学生にとって英語は知識生産の世界共通言語として必須です。それだけでなく、その習得はますます複雑に変化していく世界の中で専門分野をより理解し、何らかの貢献をするためにも欠かせません。そうした目標を念頭に置きつつ、本授業はリスニングやリーディングというインプットをベースに総合的なコミュニケーション能力を培っていくことを基本方針に様々な教授方法を取り入れ実施します。

【到達目標】
①リアルな英語の発話や表現を視聴覚的に接することで、感覚的な素地を整えリスニング力が高まります
②多読により英語を読むことに慣れ、より高度なテキストの読解を併用することで豊富な語彙および表現に接することが出来ます。
③そうした語彙や表現を作文や発話に使用することで自分のものに出来ます。
④英語を使ったディスカッションやプレゼンテーションの技術を習得することが出来ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。
課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。
課題等へのフィードバックは原則的に授業内で行います。
授業は原則対面で実施します。
必要に応じて授業の進め方や方法を変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。多読および読書ログについて説明します。
2	Unit 1 Making a Difference	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
3	Unit 1 Making a Difference	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
4	Unit 2 The Job For Me	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
5	Unit 2 The Job For Me	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
6	Unit 3 How We Live	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
7	Unit 3 How We Live	Designing websitesに関して、映像を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
8	Mid-term Review	中間テスト 読書ログについてのフィードバック
9	Unit 4 Success	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
10	Unit 4 Success	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
11	Unit 5 Future Trends	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
12	Unit 5 Future Trends	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
13	Final Review	期末テスト 小グループに分かれてプレゼンテーションの準備
14	プレゼンテーション	プレゼンテーション、読書ログの提出、今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。
・プレゼンテーションやクイズの準備
・大学図書館の英語多読図書（YL＝読みやすさレベル：0.8 2.4)を週70分（1日10分)、約7000字読むことを目標に、読書ログ（タイトル、感想、字数）をつける。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（１ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください)。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【テキスト（教科書)】
Bohlke, D., Dummett, P., Stephenson, H., Lansford, L., & Walker, R. Keynote Level 3, Second Edition with Spark Access + e-Book (1 year access), National Geographic Learning/Cengage Learning.
ISBN: 9780357960714
※教科書販売期間中に必ず購入すること。（秋学期も継続して使用します。）

【参考書】
学習者用の英英辞書（英和辞書よりも英英辞書を使ってください）：
https://dictionary.cambridge.org/
法政大学の多読サイト： https://hosei.libguides.com/tadoku)
初級レベル：
・ Oxford Reading Tree (YL 0.8-0.9):
Picture-based, perfect for beginners
・ Penguin Readers Easystarts (YL 0.8):
Simple stories, many topics
中級レベル；
・ Cambridge/Oxford/Macmillan Readers:
Wide range of original and adapted stories

・ Penguin Readers:
Large selection including movie adaptations

【成績評価の方法と基準】
宿題　１５％
授業への参加　１５％
テスト・クイズ　３０％
プレゼンテーション　２５％
読書ログ　１５％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（一ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください）。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The objective of this class is comprehensive development of four skills–listeing, reading, speaking and writing. Needless to say, learning English is necessary for students in science, engineering and life sciences as a global common language for knowledge production. Not only that, mastering it is also essential to deepen one's understanding of their specialized field within an increasingly complex and changing world and to make some sort of contribution. With these goals in mind, this class will incorporate a variety of teaching methods with the basic policy of cultivating comprehensive communicative ability based on input–namely listening and reading.
[Learning Objectives]
(1) By coming into contact with authentic English speech and expressions through audiovisual media, you can develop a sensory foundation and improve your listening ability.
(2) By reading graded books extensively, you can feel more comfortable reading English, and by reading more advanced texts, you can come into contact with a richer vocabulary and expressions.
(3) By using them in your own writing and speech, you can make them your own.
(4) You can develop discussion and presentation skills in English.
[Learning activities outside of classroom]
Class preparation, vocabulary review, homework, and preparation for presentations.
Set aside approximately 10 minutes a day or 70 minutes a week to read the books that you have chosen and fill out your reading log.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments and homework (15%), [2] class participation (15%), [3] quizzes and tests (30%), [4] presentation (25%), [5] reading log [15%]

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＥＩ

今政　肇

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語のリスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの四技能の総合的な発展を目的とします。言わずもがなですが、理工系・生命系の学生にとって英語は知識生産の世界共通言語として必須です。それだけでなく、その習得はますます複雑に変化していく世界の中で専門分野をより理解し、何らかの貢献をするためにも欠かせません。そうした目標を念頭に置きつつ、本授業はリスニングやリーディングというインプットをベースに総合的なコミュニケーション能力を培っていくことを基本方針に様々な教授方法を取り入れ実施します。

【到達目標】
①リアルな英語の発話や表現を視聴覚的に接することで、感覚的な素地を整えリスニング力が高まります
②多読により英語を読むことに慣れ、より高度なテキストの読解を併用することで豊富な語彙および表現に接することが出来ます。
③そうした語彙や表現を作文や発話に使用することで自分のものに出来ます。
④英語を使ったディスカッションやプレゼンテーションの技術を習得することが出来ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。
課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。
課題等へのフィードバックは原則的に授業内で行います。
授業は原則対面で実施します。
必要に応じて授業の進め方や方法を変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。多読および読書ログについて説明します。
2	Unit 6 Clear Communication	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
3	Unit 6 Clear Communication	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
4	Unit 7 From Farm to Table	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
5	Unit 7 From Farm to Table	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
6	Unit 8 Identity	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
7	Unit 8 Identity	Designing websitesに関して、映像を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
8	Mid-term Review	中間テスト 読書ログについてのフィードバック
9	Unit 9 Time for Change	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
10	Unit 9 Time for Change	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
11	Unit 10 It's About Time	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
12	Unit 10 It's About Time	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
13	Final Review	期末テスト 小グループに分かれてプレゼンテーションの準備
14	プレゼンテーション	プレゼンテーション、読書ログの提出、今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。
・プレゼンテーションやクイズの準備
・大学図書館の英語多読図書（YL＝読みやすさレベル：0.8 2.4)を週70分（1日10分)、約7000字読むことを目標に、読書ログ（タイトル、感想、字数）をつける。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（１ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください)。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【テキスト（教科書）】
Bohlke, D., Dummett, P., Stephenson, H., Lansford, L., & Walker, R. Keynote Level 3, Second Edition with Spark Access + e-Book (1 year access), National Geographic Learning/Cengage Learning.
ISBN: 9780357960714
※春学期から継続して使用します。

【参考書】
学習者用の英英辞書（英和辞書よりも英英辞書を使ってください）：
https://dictionary.cambridge.org/
法政大学の多読サイト： https://hosei.libguides.com/tadoku)
初級レベル：
・ Oxford Reading Tree (YL 0.8-0.9):
Picture-based, perfect for beginners
・ Penguin Readers Easystarts (YL 0.8):
Simple stories, many topics
中級レベル；
・ Cambridge/Oxford/Macmillan Readers:
Wide range of original and adapted stories
・ Penguin Readers:

Large selection including movie adaptations

【成績評価の方法と基準】
宿題　１５％
授業への参加　１５％
テスト・クイズ　３０％
プレゼンテーション　２５％
読書ログ　１５％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（一ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください）。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The objective of this class is comprehensive development of four skills–listeing, reading, speaking and writing. Needless to say, learning English is necessary for students in science, engineering and life sciences as a global common language for knowledge production. Not only that, mastering it is also essential to deepen one's understanding of their specialized field within an increasingly complex and changing world and to make some sort of contribution. With these goals in mind, this class will incorporate a variety of teaching methods with the basic policy of cultivating comprehensive communicative ability based on input–namely listening and reading.
[Learning Objectives]
(1) By coming into contact with authentic English speech and expressions through audiovisual media, you can develop a sensory foundation and improve your listening ability.
(2) By reading graded books extensively, you can feel more comfortable reading English, and by reading more advanced texts, you can come into contact with a richer vocabulary and expressions.
(3) By using them in your own writing and speech, you can make them your own.
(4) You can develop discussion and presentation skills in English.
[Learning activities outside of classroom]
Class preparation, vocabulary review, homework, and preparation for presentations.
Set aside approximately 10 minutes a day or 70 minutes a week to read the books that you have chosen and fill out your reading log.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments and homework (15%), [2] class participation (15%), [3] quizzes and tests (30%), [4] presentation (25%), [5] reading log [15%].

LANe100LC（英語 / English language education 100）

中級英語II

村上　弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈授業概容〉
本科目は、理工学に関する新聞・雑誌記事、専門論文を読むためのリーディング力を伸ばすことを目的とする。基本的語彙の定着と専門的な語彙力の増強、文章の論理構成の理解、背景知識の活用・応用によるリーディングスキルの育成に重点を置く。これらのスキルをもとに、個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力を獲得し、研究や社会のニーズに寄与することを目指す。学生のリーディング力をベースに、他技能との統合も含め、効果的な教授方法により実施する。
〈授業の目的・意義〉
科学技術が世界を変容させる時代にあって、理工学の学術的背景を持つ国際的な教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身に着ける。
異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、日常的に得られる日本語情報を相対化し、国際人としての視野を広げと思考を深める。

【到達目標】
1. 将来、専門分野とそれを超えて、グローバルな場面で求められる英語の読解力、語彙力を身に着けて、幅広い分野の情報を英語で無理なく得ることのできる力を身に着ける。
2. 異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章に取り組むことによって、日常的に得られる日本語情報を相対化し、国際人としての視野と思考を広げる。
3. リスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く持つことによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
1. 読み物については、
現代の社会、また世界において重要なテーマを２～３選び、関連する資料を学生さんの予習を前提として、授業では丁寧に読みながら、文構造、語彙、表現、議論の展開を確実に理解していく
読み物のテーマについて、学生さんに英語で要点をまとめるよう求めたり、また教師からも背景知識を加えながら、随時説明を行う。
2. テーマに関連する視聴覚材料をネット等で聞き、内容確認等を行う
3. 各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テストを行い、文法、語彙、表現、文章の展開についての理解を定着させる。
4. 4. 1～3の受講生による日本語訳、リサーチ、サマリー、意見文については、随時Hoppiiにおいて、ないし授業中に作成、提出されたものを評価して返却、もしくは授業時に総評を行う。
授業は基本的に対面で行うが、情勢の変化や授業の進捗状況等によってオンラインに変更される場合もあるので、情報システムでのお知らせを常に確認されたい。
以下の授業計画は一昨年度の例であり、取り上げるテーマや読み物、資料については、本年は最新の状況に合わせて新たに選びなおすことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション Problems with A.I.tools and translation	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など AIツールと翻訳の問題を概観
第2回	トピック１：（社会や時代の変化に添って新たに選びなおすが、以下は一昨年度の例である） A.I.-Generated Garbage Is Polluting Our Culture-１ (AIが生成したコンテンツの増大と人間の発達、文化の質、AIの今後に懸念される負の影響について	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第3回	A.I.-Generated Garbage Is Polluting Our Culture-2	和訳：要約の発表 重要語句、表現、文法の確認 リサーチ・意見文の紹介、発表
第4回	A.I.-Generated Garbage Is Polluting Our Culture-3	背景説明、関連する資料映像等の紹介 重要語句、表現・文法の確認
第5回	review test-1 Think Before You Click （デジタルテクノロジーと電力消費）	前回までの内容・語句表現の応用の復習テスト 次の読み物の導入
第6回	Think Before You Click	関連する資料、映像の紹介 和訳発表 リサーチ、意見文の発表、紹介 重要語句、表現、文法の確認
第7回	A.I. Could Soon Need as Much Electricity as an Entire Country － 1	和訳発表 重要語句、表現、文法の確認
第8回	A.I. Could Soon Need as Much Electricity as an Entire Country-2	和訳発表 重要語句、表現、文法の確認 意見交換
第9回	review test-2 A French-Malian Singer Is Caught in an Olympic Storm パリオリンピック開会式計画に見る多様性と多文化主義への反発	前回までの内容・語句表現の応用の復習テスト 次の読み物の導入
第10回	A French-Malian Singer Is Caught in an Olympic Storm-2	背景説明、 和訳発表 重要語句、表現、文法の確認 意見交換

第11回	A French-Malian Singer Is Caught in an Olympic Storm-3	和訳発表、 重要語句、表現、文法の確認 関連する映像資料の紹介
第12回	Shocking results of French snap election	和訳発表、 重要語句、表現、文法の確認
第13回	New Factories and Jobs are not enough to Stem France(s Far Right Surge　（世界で強まる右傾化、国家主義とその経済的背景）	重要語句、表現、文法の確認
第14回	review test-4	前回までの内容・語句・表現の応用の復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間半を標準とする】
1.読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。また、予習の確認、内容理解の支援としての宿題を随時行って提出する。
２．読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。
３．各トピックごとに行われる復習テストの準備をすることによって、語彙や表現の定着、内容についての深い理解を図る。
4. 全体的なテーマに関連した短い意見文を作成する。

【テキスト（教科書）】
初回に指示する。また随時教師が提供する。

【参考書】
参考書はとくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】
予習としての内容理解や宿題、リサーチ30％、授業での作文などへの積極的取組20％、復習テストもしくは和訳の修正や意見文50％。

【学生の意見等からの気づき】
英語資料を通じて、現代の世界の様々な側面を広く, また多様な視点から知ることに意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう引き続き努力したい。

【Outline (in English)】
〈Course outline〉
This class aims to improve students' reading skills to comprehend newspapers, magazine articles, and technical papers related to science and engineering. This class focuses on consolidating basic vocabulary, expanding specialized vocabulary, understanding the logical structure of sentences, and developing reading skills through background knowledge. Based on these skills, the aim is to acquire reading comprehension skills that enable students to grasp the meaning of individual sentences accurately, summarize the whole text concisely and quickly, search for necessary information, and contribute to research and society's needs. A variety of effective teaching methods, including the integration of other skills, will be employed based on students' reading skills.
〈Learning Objectives〉
This course has two major objectives. One of them is to help students acquire the level of English reading skills and vocabulary required of well-educated persons on international settings.
The other objective is to help students broaden their perspectives as future professional members of international community through dealing with English materials that expose them to contemporary global issues.
〈Learning activities outside classroom〉
Before each class meeting, students will be requested to do one or two of the following tasks：
1.Carefully read assigned parts of the materials and do homework which is designed to measure your comprehension and place stories in context.
2.Summarize a short audio-visual material.
3. Research on relevant topics.
4. After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which will be frequently conducted.
5.You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course.
Your required study time outside of the classroom is roughly one and a half hours for each class.
〈Grading criteria〉
Final grading will be decided based on your preparation for class (30%), contribution to class through presenting research and opinions (20%), and review tests(50%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
Students will learn and develop academic reading in English.
Students will expand their vocabularies and understanding of English Grammar.
Students will participate in read and analyse English texts as individuals and as a class.
Students will submit brief written assignments and tests in English based on class topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this class we will complete activities from textbooks and discuss texts and topics the textbook introduces. This class prioritises active learning, such as debate and discussion. Assignments may be submitted online or emailed to the sensei directly at senseiemma22@gmail.com Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, written notes and corrections on homework they have submitted either on the Hoppii system or annotated on email submissions, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Overview	Class introduction and theme overview Assessment methods and grading
2	Unit 1: Happiness	Reading exercises: Is there a recipe for happiness? Four Keys to Happiness
3	Unit 2: Inventive Solutions	Reading exercises: The power of creativity Big ideas, Little Packages
4	Unit 3: Connected Lives	Reading exercises: The Power of Crowds Internet Island
5	Unit 4: Saving Our Seas	Reading exercises: Where have all the fish gone? What we eat makes a difference
6	Unit 5: Memory and Learning	Reading exercises: The Art of Memory Sleep and Memory
7	Midterm review	Review skills and vocabulary
8	Unit 6: Animals and Medicine	Reading exercises: The snake chaser A haven for Chimps
9	Unit 7: Nature's Fury	Reading exercises: When tornadoes strike Wildfires
10	Unit 8: Building Wonders	Reading exercises: Unfinished masterpiece Amazing Structures
11	Unit 9: Form and Function	Reading exercises: What are feathers for? Design by nature
12	Unit 10: Smart Advice	Reading exercises: Turning ideas into reality Lessons in Business
13	Class overview and exam preparation	Review of key themes and skills. Explanation of exam format and rules and class study
14	Final test	Final test to determine 50% of final grade

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assignments will be set from the textbook. I may also assign questions and short quizzes based on texts related to class topics. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework and reviewing class materials.

【テキスト（教科書）】
Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking: 2nd Edition
ISBN 978133762511　(10-digit ISBN: 1337625116)

【参考書】
Please check Hoppii for supplements and additional aids.

【成績評価の方法と基準】
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on
an understanding of paragraph structure.
This class aims to improve students' accuracy and confidence in reading English academic texts. By using the textbook and additional reading resources as a starting point, this class encourages students to expand their vocabularies and understanding of different grammatical structures to enhance their overall comprehension skills.
Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, written notes and corrections on homework they have submitted, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

基礎ドイツ語ＩＩ

鈴木　淳子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎ドイツ語Ⅰに引き続き、ドイツ語の基本文法を学習する。

【到達目標】
文法の知識をさらに深めるとともに、実践力も強化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基礎ドイツ語Ⅰで習った文法事項を確認しながら、新しい項目についても体系的に学習する。
オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。
授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基礎ドイツ語Ⅰの学習内容の確認	L.1-6 (p.5-28)
第2回	前置詞	L.7 (p.29-32)
第3回	前置詞と定冠詞の融合形、数詞④	L.7 (p.29-32)
第4回	話法の助動詞	L.8 (p.33-36)
第5回	話法の助動詞 不定代名詞manの用法	L.8 (p.33-36)
第6回	分離動詞 数詞⑤	L.9 (p.37-40)
第7回	命令形	L.9 (p.37-40)
第8回	時刻表現 数詞⑥	L.9 (p.37-40)
第9回	形容詞の用法	L.10 (p.41-44)
第10回	形容詞の格変化	L.10 (p.41-44)
第11回	再帰動詞・再帰代名詞	L.10 (p.41-44)
第12回	再帰動詞・再帰代名詞	L.10 (p.41-44)
第13回	動詞の３基本形 過去人称変化	L.11 (p.46-47)
第14回	総復習	L.7-10 (p.29-44)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
基礎ドイツ語Ⅰの内容も含めて繰り返し復習すること。

【テキスト（教科書）】
秋田靜男他著『イン・ドイチュラント』朝日出版社

【参考書】
必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
試験成績(70%)、平常点及び授業態度等(30%)を総合して評価する。
オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の多くがドイツ語及びドイツに強い関心をもっていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline (in English)】
This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills. The goal of this course is to be able to use German language properly. After each class meeting, students will be expected to review the last lesson. The required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

基礎ドイツ語ＩＩ

高橋　完治

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「基礎ドイツ語1」もしくは「基礎ドイツ語コミュニケーション」を履修した学生諸君を対象とする．日常のさまざまな場面との関連のもとにさらなる文法事項を学び，語彙と表現を拡充する．

【到達目標】
下記の文法事項に習熟し，短く平易なテクストの読み書きができる．明瞭でゆっくりした話し方なら，馴染みのある単語や基本的な言い回しを聞き取れる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
視覚教材を活用した語彙の導入とテクストの提示・解説の後，文法問題，インフォメーションギャップ，聞き取り，ひな型に沿った作文，平易な広告やエッセイから必要な情報を取り出すなど，さまざまな作業を展開する．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	不規則変化動詞（1）	fahren, treffen, lesen, sehen／趣味について
2	不規則変化動詞（2）	wissen／頻度／何曜日に何をするか
3	3格の用法（1）	人称代名詞の3格／3格支配の動詞，3・4格支配の動詞／身に着ける物／誰に何を贈るか
4	3格の用法（2）	所有冠詞の3格／大きな数字／暦年数
5	助動詞（1）	können, müssen, wollen／得手不得手を言い表す／誘いを断る理由を挙げる
6	助動詞（2）	dürfen／禁止と許可をめぐって――共同生活のルールを作る
7	前置詞（1）	位置関係を表す前置詞／道順の説明を理解する／道順を書く
8	前置詞（2）	手段を表す前置詞，方向を表す前置詞／前置詞と定冠詞の融合
9	分離動詞（1）	時刻の言い表し方／分離動詞を用いて一日の行動を時間軸に沿って述べる
10	分離動詞（2）	分離動詞を用いて鉄道による移動を叙述する／駅のインフォメーションを理解する
11	時をめぐる様々な表現	営業時間を理解する／順序を表す言葉／観光の予定を立てる
12	現在完了形（1）	過去分詞の作り方／haben支配とsein支配
13	現在完了形（2）	過去の事を述べる
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，1時間を標準とする】
音声教材に繰り返し接し，発音の質や聞き取り能力の向上に努める．復習用の課題と取り組む．

【テキスト（教科書）】
新倉真矢子・正木晶子・中野有希子『シュピッツェ！　1』（朝日出版社）

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する．

【学生の意見等からの気づき】
グループ作業は理解度の向上につながったようだ．

【Outline (in English)】
This German course will continue to assist students in acquiring basic grammatical rules, expressions, and vocabulary related to everyday situations. By the end of the course, students should be able to:
- Effectively apply their grammatical knowledge when reading and writing simple, short texts
- Recognize familiar words and very basic phrases when spoken slowly and clearly
After each class meeting, students are expected to review the learning content, listen to the native speakers on audio, and practice speaking along with them. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be determined based on the usual performance score (60%) and the term-end examination (40%).

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

基礎中国語Ⅰ

呉　暁林

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　初めて中国語を学ぶ学生を主な対象とする授業です。中国語の基礎（中国語の発音要領と表記法、基本語彙、文の構成原理＝単語の並べ方、基本文型）を学びます。受講者が中国語の基礎力（声に出して読む力、書く力、話す力、聞く力）など習得できることを目標とします。適宜，視聴覚教材を使用して中国文化の紹介も行います。
　なお、本授業は「基礎中国語コミュニケーション」の授業と相互補完しております。私のほうの授業では、文法の習得を中心に進めていく予定です。

【到達目標】
　中国語の発音が正確にできること、ピンイン（表音文字）の読み書きができること、簡体字を正しく書け、基礎的な語彙・文法を習得することを目標とします。
　言葉は文法の基礎を理解してこそ、上達します。がんばって一緒に勉強しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本授業ではスマホ、ノートPCなどを使う書き読みの練習、アプリを使う録音と発音の検証，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。
　提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス＋中国映画を見る	授業の進め方の説明。中国語に触れてみよう。
第2回	中国語発音①ピンイン・入力と日常用語(1)。	解説と練習：「中国語とは何か」声調、母音、複母音、ピンインのつづり方①、声調記号のつけ方。
第3回	中国語発音②ピンイン・入力と日常用語(2)	解説と練習：子音、無気音と有気音、そり舌音、三つのi、ピンインのつづり方②、
第4回	中国語発音③ピンイン・入力と日常用語(3)解説と練習	解説と練習：複母音、そり舌母音、鼻母、ピンインのつづり方③、声調の組み合わせ、中国語の音節構造、
第5回	中国語発音④ピンイン・入力と日常用語(4)	解説と練習：r化、声調の変化、ピンインのつづり方の規則、声調記号のつけ方の規則、練習。
第6回	中国語の文法と語彙(1)テキスト第1課：自己紹介	新出語句・文法ポイント（人称代名詞、動詞「是」、～の…（連体修飾語の表し方）、名前の言い方、「～⊠?」の疑問文、ドリル、本文朗読、練習問題、会話練習
第7回	中国語の文法と語彙(2)テキスト第2課「一緒に映画を見ようよ	新出語句・文法ポイント（指示代名詞（1）、動詞述語文、形容詞述語文、省略疑問文、語気助詞「吧」。
第8回	中国語の文法と語彙(3)テキスト)第2課「一緒に映画を見ようよ」	新出語句、本文朗読、練習問題、会話練習「有」のあれこれ、数のたずね方「几」と「多少」。
第9回	中国語の文法と語彙(4)テキスト第3課「キャンパス案内」	新出語句、文法のポイント（指示代詞（2)、所在表現、主述述語文、所有表現「有」、疑問詞疑問文)、形容詞述語文、反復疑問文、「呢?」の疑問文について。
第10回	中国語の文法と語彙(5)テキスト第3課「キャンパス案内」	新出単語、本文朗読、練習問題、会話練習、存在の「有・在」の違い、助動詞「想・要」と否定形の注意事項。
第11回	中国語の文法と語彙(6)テキスト第3課「ペットも家族の一員」	新出語句、文法ポイント（100以上の数、量詞、存在表現、選択疑問文、年齢の言い方)、日付・時を表す言葉、名詞述語文と肯定文「是」の省略、変化の「了」、吧」の使い方。
第12回	中国語の文法と語彙(7)テキスト第4課「誕生日のお祝い」	新出語句・文法ポイント（介詞(1)、動作の完了・実現を表す助詞「了」、二重目的語、年月日・曜日の言い方、連動文・時間量・前置詞文あれこれ・「どのくらい～なのか」の文。
第13回	前期授業内容の確認・まとめ＋中国語で歌を歌ってみよう＋中国語を読んでみよう。	期末試験＋「中国語で遊ぶ」
第14回	復習とまとめ	試験返却＋前期文法の重要ポイント総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は１時間を標準とします。
授業で紹介したソフトやアプリを使ってなれること、また自ら他のソフトやアプリも使ってみることで新しい語学学習の方法にチャレンジしてください。
テキストについているCDなど音声資料を十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。音声資料を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。

【テキスト（教科書）】
【テキスト（教科書）】
丸尾誠・勝川裕子・李軼倫『初級中国語　この一冊ー4技能の習得を目指してー　改訂版』金星堂

【参考書】
電子辞書、たとえばCASIO　EX-wordなどを持っていると便利です。ただし、その辞書には、講談社か小学館の日中・中日辞典が入っているものを選んで下さい。そして携帯の電子辞書も、無料のものではなく、上述のものがあることが望ましいです。紙の辞書については、授業中に述べます。辞書はあるほうが望ましいですが、急いで買う必要はありません。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。平常点40%（出席・受講態度・発声音量・宿題の提出)、期末試験60%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
　語学の勉強は日々の積み重ねが大切です。
語学力向上のためには、学生は欠かさず出席し、積極的に授業参加すること。授業中、教員の板書は必ず丁寧にノートをとること。その週に新出した単語は、その週のうちに覚えること。
そして何より重要なのは、その言語を使う地域への限りない好奇心です。言葉だけでなく、中国に　　関する書籍をなるべく多く読むようにして下さい。
　紹介されたアプリ、ソフトを積極的に使い、またクラスメートや留学生、ネイティブの方とのコミュニケーションをしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC、スマホを持参してください。

【その他の重要事項】
前期に一、二度プロジェクターやブルーレイ、ＤＶＤ、ＣＤを使用する授業をしますが、基本的に黒板に板書をする形の講義です。
中国語の基礎を教える授業なので、中国人留学生は基本的に受け入れることはできません。

【Outline (in English)】
This course is intended for students studying Chinese for the first time. Using a designated textbook, students will acquire basic grammar, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other fundamental aspects of the Chinese language.
The objective of the course is for students to develop accurate pronunciation, read and write Pinyin (the phonetic system of Chinese), write simplified Chinese characters correctly, and acquire basic vocabulary and grammar. A solid understanding of grammar forms the foundation for language development.
The standard study time outside of class for preparation and review is approximately one hour per session.
Regular attendance is required. Final grades will be based on the following components: class performance (20%), including attendance, participation, and contribution, and the final examination (80%).

PSY100LC（心理学 / Psychology 100）

パーソナリティ

山本　晃輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の性格のことを，心理学ではパーソナリティと呼ぶ。本授業では，心理学の観点から，パーソナリティの性質と特徴，測定法などに関して実証的な知見をもとに学ぶ。人間の心理，行動への理解を深めることを通して，日常生活のさまざまな場面で心理学の知識を活用するための基礎力を養うことが目的である。

【到達目標】
・パーソナリティ心理学の研究領域が理解できる。
・パーソナリティ心理学の基礎的な方法論が理解できる。
・パーソナリティ心理学の理論が理解できる。
・心理学における個人差の問題が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パーソナリティ心理学の理論や研究方法などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。Hoppii を使用して毎回、感想や質問を募集し、次回の授業冒頭でフィードバックを行う。課題については、実施後に解説および振り返りを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	パーソナリティとは	パーソナリティの定義について説明する
第2回	パーソナリティの理論（1）	類型論について説明する
第3回	パーソナリティの理論（2）	特性論について説明する
第4回	ビッグファイブ	ビッグファイブの理論とその発展形について説明する
第5回	パーソナリティの理論に関する振り返り	ここまでの授業の振り返りと確認を行う。
第6回	パーソナリティの測定法（1）	投影法，面接法について説明する。
第7回	パーソナリティの測定法（2）	投影法，面接法について説明する。
第8回	パーソナリティの発達	遺伝と発達，青年期，成人期とパーソナリティとの関係性について説明する。
第9回	国，地域の影響	国や地域とパーソナリティとの関係性について説明する。
第10回	パーソナリティの測定法，発達，文化差に関する振り返り	パーソナリティの測定法，発達，文化差に関する振り返りおよび確認を行う。
第11回	ダークトライアド	サイコパスやナルシシズムなどについて説明する。
第12回	パーソナリティと健康	タイプA行動やタイプCパーソナリティについて説明する。
第13回	パーソナリティの病理	パーソナリティ障害について説明する。
第14回	まとめ	各回の振り返りと重要事項を確認する。基礎知見の応用展開について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各4時間を標準とする。配布資料を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、授業で紹介した図書などに目をとおすこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】
ライブラリ読んでわかる心理学１　読んでわかる心理学　清水寛之・瀧川真也・槙　洋一・山本晃輔　共著　サイエンス社　2024年

【成績評価の方法と基準】
授業中に実施する小テスト(90%)およびレポート課題(10%)を合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度のフィードバックで好評だった学生からの質問紹介と回答は、今年度も引き続き実施する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
This course is based on empirical findings on the nature of personality and its measurement methods from the perspective of psychology. The goal is to cultivate foundational skills for applying psychological knowledge in various everyday situations by enhancing understanding of human psychology and behavior.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short examination: 90%、Short reports : 10%

PSY100LC（心理学 / Psychology 100）

こころの働き

伊藤　ひろみ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。
○　この授業は、履修希望者が多数になった場合は抽選になることがあります。詳細は第1回目の講義でお話し致しますので、希望者は必ず第１回目の授業に出席してください。
○　教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載しま★詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★
○　最終成績は、定期試験の成績をもと（70％）とし、授業への積極性・貢献度(15%)や課題レポート1回の成績（15％）を加味して、決定します。
○　伊藤ひろみのメールアドレスは、　hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp です。
○　状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせします。
す。

【到達目標】
さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、人間のこころの共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。
授業期間中に数回、課題の提出を求めるつもりだが、その場合は原則として提出期限１週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第2回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第3回	感覚の種類（1）	８つの感覚について説明する
第4回	感覚の種類（2）	〃　　（２）
第5回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第6回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第7回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第8回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第9回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第10回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第11回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第12回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第13回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第14回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

【テキスト（教科書）】
伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦　『現代の心理学』　金子書房　2003年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】
総合成績は、期末試験の成績をもとに(70%)、課題レポート１回(15%)と授業への積極的参加度・貢献度(15%)を加味して決定する。
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、さらに実践的な授業をめざしたい。

【学生が準備すべき機器他】
心理学に関するビデオ・DVDを見せることがある。

【その他の重要事項】
「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

PSY100LC（心理学 / Psychology 100）

パーソナリティ

伊藤　ひろみ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。

○　この授業は、履修希望者が多数になった場合は抽選になることがあります。詳細は第１回目の講義でお話し致しますので、希望者は必ず第１回目の授業に出席してください。
○　教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
★詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★
○　最終成績は、定期試験の成績をもと（70％）とし、授業への積極性・貢献度(15%)や課題レポート1回の成績（15％）を加味して、決定します。
○　伊藤ひろみのメールアドレスは、　hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp です。
○　状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせします。

【到達目標】
「パーソナリティ」「こころの働き」という２つの授業を通じて、学生が人間のこころのメカニズムについて知識を身につけ、将来のより良い人間関係・環境を構築する基礎素養とすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。
授業期間中に数回、課題の提出を求めるつもりだが、その場合は原則として提出期限１週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第2回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第3回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第4回	心理学の研究方法	心理学が用いる研究方法について説明する
第5回	心理学の領域と周辺諸科学	心理学がどのような他の学問領域と関連しているのか説明する
第6回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第7回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第8回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第9回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第10回	知能と実際的知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第11回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第12回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第13回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第14回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】
伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦　『現代の心理学』　金子書房　2003年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】
総合成績は、期末試験の成績をもとに(70%)、課題レポート１回(15%)と授業への積極的参加度・貢献度(15%)を加味して決定する。
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

【学生の意見等からの気づき】
今後とも、わかりやすく、具体的で、実践的な授業を行って行きたい。

【学生が準備すべき機器他】
心理学に関するビデオ・ＤＶＤを見せることがある。

【その他の重要事項】
「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind".
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

PSY100LC（心理学 / Psychology 100）

こころの働き

伊藤　ひろみ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。

○　この授業は、履修希望者が多数になった場合は抽選になることがあります。詳細は第1回目の講義でお話し致しますので、希望者は必ず第１回目の授業に出席してください。
○　教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
★詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★
○　最終成績は、定期試験の成績をもと（70％）とし、授業への積極性・貢献度(15%)や課題レポート1回の成績（15％）を加味して、決定します。
○　伊藤ひろみのメールアドレスは、　hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp です。
○　状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせします。

【到達目標】
さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、人間のこころの共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。
授業期間中に数回、課題の提出を求めるつもりだが、その場合は原則として提出期限１週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第2回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第3回	感覚の種類（1）	８つの感覚について説明する
第4回	感覚の種類（2）	〃　　（２）
第5回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第6回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第7回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第8回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第9回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第10回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第11回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第12回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第13回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第14回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

【テキスト（教科書）】
伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦　『現代の心理学』　金子書房　2003年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】
総合成績は、期末試験の成績をもとに(70%)、課題レポート１回(15%)と授業への積極的参加度・貢献度(15%)を加味して決定する。
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、さらに実践的な授業をめざしたい。

【学生が準備すべき機器他】
心理学に関するビデオ・DVDを見せることがある。

【その他の重要事項】
「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

PSY100LC（心理学 / Psychology 100）

パーソナリティ

山本　晃輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の性格のことを，心理学ではパーソナリティと呼ぶ。本授業では，心理学の観点から，パーソナリティの性質と特徴，測定法などに関して実証的な知見をもとに学ぶ。人間の心理，行動への理解を深めることを通して，日常生活のさまざまな場面で心理学の知識を活用するための基礎力を養うことが目的である。

【到達目標】
・パーソナリティ心理学の研究領域が理解できる。
・パーソナリティ心理学の基礎的な方法論が理解できる。
・パーソナリティ心理学の理論が理解できる。
・心理学における個人差の問題が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
パーソナリティ心理学の理論や研究方法などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。Hoppii を使用して毎回、感想や質問を募集し、次回の授業冒頭でフィードバックを行う。課題については、実施後に解説および振り返りを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	パーソナリティとは	パーソナリティの定義について説明する
第2回	パーソナリティの理論（1）	類型論について説明する
第3回	パーソナリティの理論（2）	特性論について説明する
第4回	ビッグファイブ	ビッグファイブの理論とその発展形について説明する
第5回	パーソナリティの理論に関する振り返り	ここまでの授業の振り返りと確認を行う。
第6回	パーソナリティの測定法（1）	投影法，面接法について説明する。
第7回	パーソナリティの測定法（2）	投影法，面接法について説明する。
第8回	パーソナリティの発達	遺伝と発達，青年期，成人期とパーソナリティとの関係性について説明する。
第9回	国，地域の影響	国や地域とパーソナリティとの関係性について説明する。
第10回	パーソナリティの測定法，発達，文化差に関する振り返り	パーソナリティの測定法，発達，文化差に関する振り返りおよび確認を行う。
第11回	ダークトライアド	サイコパスやナルシシズムなどについて説明する。
第12回	パーソナリティと健康	タイプA行動やタイプCパーソナリティについて説明する。
第13回	パーソナリティの病理	パーソナリティ障害について説明する。
第14回	まとめ	各回の振り返りと重要事項を確認する。基礎知見の応用展開について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各4時間を標準とする。配布資料を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、授業で紹介した図書などに目をとおすこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】
ライブラリ読んでわかる心理学1　読んでわかる心理学　清水寛之・瀧川真也・槙　洋一・山本晃輔　共著　サイエンス社　2024年

【成績評価の方法と基準】
授業中に実施する小課題(90%)およびレポート課題(10%)を合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度のフィードバックで好評だった学生からの質問紹介と回答は、今年度も引き続き実施する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
This course is based on empirical findings on the nature of personality and its measurement methods from the perspective of psychology. The goal is to cultivate foundational skills for applying psychological knowledge in various everyday situations by enhancing understanding of human psychology and behavior.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short examination: 90%、Short reports: 10%

PSY100LC（心理学 / Psychology 100）

こころの働き

山本　晃輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的なこころの機能である，感覚・知覚、注意、対人認知などに関する心理学の基礎知見を学ぶ。人間の心理，行動への理解を深めることを通して，日常生活のさまざまな場面で心理学の知識を活用するための基礎力を養うことが目的である。

【到達目標】
・心理学の研究領域が理解できる。
・心理学の基礎的な方法論が理解できる。
・感覚・知覚に関する心理学の基礎知識が理解できる。
・対人認知に関する心理学の基礎知識が理解できる。
・思考・問題解決に関する心理学の基礎知識が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、人間のこころの共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。Hoppiiを使用して毎回、感想や質問を募集し、次回の授業冒頭でフィードバックを行う。課題については、実施後に解説および振り返りを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の研究領域について説明する。
第2回	心理学における方法論	実験法，調査法，観察法などの心理学の基本的な方法論について説明する。
第3回	感覚知覚（１）	視覚，聴覚について説明する。
第4回	感覚知覚（2）	嗅覚，味覚，触覚および注意について説明する。
第5回	心理学における方法論と感覚知覚の振り返り	ここまでの授業の振り返りと確認を行う。
第6回	対人認知（１）	対人認知を規定する要因について説明する。
第7回	対人認知（２）	対人認知の相互作用について説明する。
第8回	集団	集団の心理的メカニズムについて説明する。
第9回	社会と文化	文化心理学や個人主義，集団主義について説明する。
第10回	対人認知，集団，社会と文化の振り返り	ここまでの授業の振り返りと確認を行う。
第11回	思考・問題解決（１）	思考と問題解決の基礎的なメカニズムについて説明する。
第12回	思考・問題解決（２）	さまざまな思考法や問題解決の技法について説明する。
第13回	心理的支援	多職種連携，心理療法の基礎について説明する。
第14回	総合的まとめ	各回の振り返りと重要事項を確認する。基礎知見の応用展開について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。配布資料を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、授業で紹介した図書などに目をとおすこと。

【テキスト（教科書）】
以下の教科書を使用します。
ライブラリ　読んでわかる心理学１　読んでわかる心理学　清水寛之・瀧川真也・槙　洋一・山本晃輔　サイエンス社　2024年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】
授業中に実施する小課題(90%)およびレポート課題(10%)を合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度のフィードバックで好評だった学生からの質問紹介と回答は、今年度も引き続き実施する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
The course aims to provide foundational knowledge in psychology concerning basic mental functions such as sensation, perception, attention, and interpersonal cognition. The goal is to cultivate foundational skills for applying psychological knowledge in various everyday situations by enhancing understanding of human psychology and behavior.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short examination: 90%、Short reports: 10%

HIS100LC（史学 / History 100）

日本文化論

横山　泰子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文化の特徴や歴史性を考える一つの手がかりとして、妖怪文化をとりあげます。自国の文化を知るために、様々な文献やマンガ、絵画資料などにふれ、現代の文化が過去とつながっていること、海外の文化とも関係していることを知ります。

【到達目標】
世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的です。
文章だけではなく、映像や絵画、マンガなども文化研究の資料です。娯楽としてそれらを楽しむだけではなく、資料として扱う方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査
2	現代日本の妖怪文化の特徴 「鬼滅の刃」について	現代の日本の妖怪文化を代表する作品を鑑賞し、その特徴を考える
3	娯楽の対象としての妖怪 鬼について	怖いはずのものが楽しみ＝娯楽になることに注目し、妖怪文化の遊びの面をとらえる
4	魔術／呪術の現代	アニメやゲームなどの世界では、魔術や妖術が流行している。古来から行われてきた呪術について考える
5	地域に根ざす妖怪文化	日本には、地域に根ざした多様な妖怪伝承がある。その地域性について考える
6	地域を超える妖怪文化	近年、日本の妖怪文化は諸外国から注目・評価されている。どの点がユニークとされ、興味を持たれているかをとらえる
7	妖怪を表現する技術	歴史的な絵画技術について学ぶ
8	妖怪を表現する技術	歴史に学びながら、自分で妖怪を作ってみる
9	西洋の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、現代において日本に大きな影響を与えている。西洋との比較を試みる
10	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
11	日本の妖怪文化を世界で説明するために	日本文化を世界で説明することが求められる昨今、妖怪について自分なりに説明してみる
12	近代の学問と妖怪	近代の学問の発展のなかで、妖怪はどのようにとらえられるようになったかを考える。
13	近代科学と妖怪	近代科学の発展にともない、過去に妖怪のしわざとされていた現象は科学的に説明可能となった面がある。科学と怪異現象との関係について考える
14	まとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
その都度指示します

【テキスト（教科書）】
教科書を使用する予定はありません。

【参考書】
参考書等については、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
【成績評価基準】
平常点３０％　授業時の提出物ならびに小テスト７０％

【学生の意見等からの気づき】
これまでの授業アンケートで「日本文化論ではあるが、海外の妖怪の内容を入れてほしい」という声があり、西洋の話題を折りにふれてとりあげてきました。一昨年「西洋の話題は不要ではないか」という声があり、日本の事例に特化した内容にしてきたところ、「やはり西洋の事例を入れてほしい」という意見が寄せられました。今年度は西洋の事例を盛り込むことにします。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器　筆記用具

【その他の重要事項】
いそぎの質問等は
yyoko@hosei.ac.jp
にメールで御願いします。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
This course will help you to understand yokai in Japan as cultural concepts and cultural products. The word yokai means creatures, presences, or phenomena that could be described as mysterious or eerie and are seen in every society.In recent years, interest in yokai culture has continued to build in Japan.After taking this course, you will be able to explain how yokai culture has built in Japan. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HIS100LC（史学 / History 100）

比較文化論

横山　泰子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしつつ考える姿勢を身につけます。身近な生活文化に注目し、本を読み、様々な現象を調べながら、日本的な現象とされていることが本当に日本的であるかどうかを考えます。

【到達目標】
日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について１	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について２	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について３	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化１	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化２	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性１	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性２	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を読み、課題作文等を書く　（週4時間程度）

【テキスト（教科書）】
鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書　２０１９年　８２０円

【参考書】
参考書等については、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点３０％　授業時の提出物ならびに小テスト７０％

【学生の意見等からの気づき】
映画やドラマなど、色々なジャンルの作品をできるだけ使いたいと思います。授業内容と関連しそうな作品のリクエストを歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器　筆記用具

【その他の重要事項】
急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jp
に御願いします。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese peolple think are very Japanese are really Japanese.Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HIS100LC（史学 / History 100）

日本文化論

追川　吉生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文化の特徴や歴史性を考える一つのてがかりとして、日本文化の基層をつくった先史時代の歴史を学ぶ。列島の多様な環境に柔軟に、時に果敢に適応した先史時代のヒトビトの生活が、その後の日本の歴史や文化とどのように関わっていくのかを知る。その具体的な事例として「食」、「祈り」、「村落・都市」に焦点をあて、それらが日本文化として成立した歴史的変遷を、物質文化を中心に考察する。

【到達目標】
世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的である。本科目では主に歴史学・考古学・民俗学の方法論に基づいて、歴史と文化の関わりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式を基本とするが、授業中に学習事項について受講生が考える問い掛けを行う。受講生はこうした機会に積極的に意見を表明してもらいたい。また授業時間内に適宜質問を受け付ける場面を設けるほか、授業前後に対面やメールでの質問も受け付ける。授業時間外の質問には対面・メールなどでのフィードバックを行うほか、必要に応じて次回以降の授業時に補足説明を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査。
2	土器の利用と暮らし（縄文時代1）	土器の出現がヒトビトの日常生活にどのような変化をもたらしたのか。土器の観察からわかる製作方法や利用方法について考える。
3	定住生活の始まり（縄文時代2）	土器や弓矢の使用、定住生活の始まりから、縄文時代の特徴を考える。
4	環境と生活（縄文時代3）	縄文時代は列島各地の環境に適応した多様な文化が展開した。そのうち、東京湾沿岸域と八ヶ岳山麓の遺跡のあり方を通して、縄文時代の環境と生活との関わりを学ぶ。
5	稲作の始まり（弥生時代1）	弥生時代に始まった米作りは、その後の日本の文化や暮らしに大きな影響を与えてきた。水稲耕作の列島へのひろがりについて考える。
6	金属器の利用（弥生時代2）	弥生時代には水稲農耕だけでなく、さまざまな道具が朝鮮半島経由でもたらされた。特に金属器（青銅器や鉄器）は農耕や武器さらには祭りの道具としても発達し、弥生時代の暮らしに大きな変化をもたらした。当初は製品として持ち込まれた金属器は、やがて列島内でも生産が行われるようになる。弥生時代の金属器から、当時のモノづくりについて学ぶ。
7	北の文化、南の文化	日本列島では弥生時代に稲作農耕が始まった。しかし北海道と沖縄では稲作を受容せずに、それぞれの地域の自然環境に適した生業が行われた。弥生時代以降の日本列島で、稲作を基本に発展した歴史や文化と並行した、もう2つの日本文化のあり方について学ぶ。
8	日本の食文化のなりたち	海外でも注目されている「日本食」は、どのように成立したのだろうか。列島の環境に応じた狩猟採集や農耕のあり方から、先史時代の食文化について考える。
9	風土と食文化	日本の食文化は、花綵列島とも呼ばれる日本列島の多様な風土を反映している。食文化に関しても米が唯一の主食であったわけではなく、多様なあり方が存在している。ここでは主に近世を対象として、日常の食文化の多様性について考える。
10	宴会儀礼のなかの食	現在の日本料理における「会席料理」は、中世以降の本膳料理や武家儀礼に伴う料理を基に成立したものである。このうち中世から近世にかけての武家儀礼における宴会と食との関係について考える。
11	祈りの文化	民間信仰と呼ばれる行為の多くは「非合理的」、「非科学的」と見なされるが、人々が安寧な生活を求める中で成立したもので、現在でも形を変えて残っている。そうした日本文化の中の祈りの心について考える。
12	葬送の文化	死者を悼む行為は人類に普遍的に見られる行為で、そのあり方は民族や宗教によって多様である。日本の「葬儀」は現在、核家族化、あるいは家族観の変化によって大きく姿を変えていく途上にある。こうした日本の「葬儀」が、どのように成立したかを歴史的な変遷から考える。
13	村落の文化	ヒトビトが社会的、文化的な関係を持って営む地域共同体のうち、「村落」の特徴を文化史的な側面から考える。

14	都市の文化	ヒトビトが社会的、文化的な関係を持って営む地域共同体のうち、「都市」の特徴を文化史的な側面から考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では準備と復習に4時間を以上を標準としている。
・講義資料はhoppiiを通じて配信するので授業前までにダウンロードして準備にあてる（DLには期限を設ける）。
・講義資料で学習内容を振り返り、不明な部分があれば次回授業時までに質問事項としてまとめておく。
これらを参考に、各自で授業外での学習にあたること。授業の進捗状況によって１～2回のレポートを課すこともある。

【テキスト（教科書）】
hoppiiを通じて配布資料を配信するので、特にテキストを準備する必要はない。

【参考書】
参考書については、随時授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（70%）、平常点（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや授業時に配布するリアクションペーパーに記された内容や、毎回の授業前後に寄せられる質問、小テストで推測される受講生の授業内容への理解度から、適宜授業内容に修正を加えていく。より良い授業を展開させるためにも、受講生からの積極的な質問や意見を期待している。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces Japanese culture. We will look at Prehistoric age of Japan for a clue to understand.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to study historical relationships of cultures, using archaeological framework.
(Learning activities outside of classroom)
After each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
(Grading Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%

HIS100LC（史学 / History 100）

比較文化論

追川　吉生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文化の特徴や歴史性を、海外との比較を通して考える方法を学ぶ。列島の環境や歴史を反映した日本文化であるが、はたしてそれが日本独自のものであるのか。あるいは日本とは異なる環境で生きるヒトビトは、どのような文化や歴史を作りあげてきたのかを考える。

【到達目標】
世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的である。本科目では主に歴史学・考古学・民俗学の方法論に基づいて、歴史と文化の関わりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式を基本とするが、授業中に学習事項について受講生が考える問い掛けを行う。受講生はこうした機会に積極的に意見を表明してもらいたい。また授業時間内に適宜質問を受け付ける場面を設けるほか、授業前後に対面やメールでの質問も受け付ける。授業時間外の質問には対面・メールなどでのフィードバックを行うほか、必要に応じて次回以降の授業時に補足説明を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査。
2	新古典主義と考古学	先史時代が主な研究対象と捉えられることが多い考古学だが、そのあゆみはどのようなものであったのだろうか。考古学の誕生に大きな影響を及ぼしたルネサンス以降のモノそのものの観察と研究の特徴について学ぶ。
3	化石人骨の発見 （人類文化の起源1）	人類の起源はいつかという問いは、ヒトとは何かという根源的な問いに繋がるものである。『種の起源』をダーウィンが発表して以降、各地で化石人骨が見つかり、古人類学や考古学などから人類の進化が研究されてきた。こうした化石人骨の発見と研究の歩みを振り返り、人類の起源がどのように捉えられてきたかを学ぶ。
4	石器からみた人類の進化と拡散（人類文化の起源2）	現代の社会は様々な道具に支えられている。人類は深海や宇宙まで活動領域を拡げる道具や、人類自身を消滅させる威力をもった兵器までも造り出している。この人類のモノづくりの原点が、250万年前に始まった石器の製作である。旧石器時代の石器の変遷から、人類の進化と拡散について学ぶ。
5	人類進化の解明と遺伝子研究（人類文化の起源3）	現在の人類文化の起源を探る研究においては、ミトコンドリアDNAの解析は不可欠なものとなっている。遺伝子研究が人類進化の解明にどのような影響を与えたのかを学ぶ。遺伝子研究との学際的な研究の成果が、人類進化の解明に留まらないということに関して、代表的な調査事例のいくつかを紹介する。
6	列島最古の人類文化（人類文化の起源4）	列島最古の人類文化である旧石器時代とはどのような時代なのか。主要な生活道具である石器の製作技術や種類から考える。
7	感染症と人類史(病の文化史1)	アフリカから世界に拡散した人類は、各地で未知の感染症に直面した。医学の未発達な時代を背景に、感染者への差別的な行為がしばしば行われた。人類の負の文化的側面を、感染症への対応を通じて学ぶ。
8	日本のハンセン病と人権（病の文化史2）	感染症への対応の一例として日本におけるハンセン病対策を取りあげ、都市や宗教と人権との関わりについて考える。
9	隔離政策の過ち（病の文化史3）	ハンセン病への差別や偏見は、世界的に現在においてもなお根強く残っている。患者への隔離政策や隔離施設の具体的なあり方を通じて、人類が犯した差別という負の文化を考える。
10	日本の陶器生産と磁器製品（世界市場に挑んだ日本の磁器生産1）	私たちが日常の食事で使用している焼物のうち、ガラス質が磁化した半透明のものを磁器という。これは中国で発明され、日本をはじめとしたアジア各地、更にはヨーロッパにも輸出された。日本の陶器生産の歩みと、中国の陶磁器生産の影響を学ぶ。
11	磁器生産の発展（世界市場に挑んだ日本の磁器生産2）	日本では江戸時代になって肥前で磁器の国産化に成功した。窯跡遺跡からの出土品や伝世資料から江戸時代の肥前製磁器の技術における海外からの影響を考える。

12	海外市場への進出と撤退 （世界市場に挑んだ日本の磁器生産3）	日本で磁器生産が成功して程なく、中国では明末清初の海禁政策により磁器の輸出が止まることになる。この機会に肥前製磁器はIMARIとしてヨーロッパ市場へ進出する。世界情勢とも連動した肥前製磁器の生産と流通を通じて、江戸時代の日本のモノづくりの一端を学ぶ。
13	『魏志倭人伝』を読む（東アジアの中の日本）	日本は弥生時代に「倭国」として、東アジアの国際交流に場に初めて登場。「倭国」に関する中国の歴史書の1つ『魏志倭人伝』は、邪馬台国への道程や所在地に関する論争が注目されがちであるが、考古学からは何が重要なのか。『魏志倭人伝』からみた、弥生時代から古墳時代への移行期にあたる列島の社会について学ぶ。
14	邪馬台国論争とは何か(東アジアの中の日本）	邪馬台国の所在地に関しては九州説、畿内説などを中心に論争が続いている。果たして邪馬台国は幻の国なのか。邪馬台国に関する記述を通して、東アジアの国際社会の中での「日本」について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
この授業では準備と復習に4時間を以上を標準としている。
・講義資料はhoppiiを通じて配信するので授業前までにダウンロードして準備にあてる（DLには期限を設ける)。
・講義資料で学習内容を振り返り、不明な部分があれば次回授業時までに質問事項としてまとめておく。
これらを参考に、各自で授業外での学習にあたること。授業の進捗状況によって１～2回のレポートを課すこともある。

【テキスト（教科書)】
hoppiiを通じて授業日以前に配布資料を配信するので、特にテキストは必要としない。

【参考書】
授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（70%)、平常点（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや授業時に配布するリアクションペーパーに記された内容や、毎回の授業前後に寄せられる質問、小テストで推測される受講生の授業内容への理解度から、適宜授業内容に修正を加えていく。より良い授業を展開させるためにも、受講生からの積極的な質問や意見を期待している。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces Comparative cultural studies. It is a comparative study of cultures that focuses on Prehistoric archaeology and Historic archaeology.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to study historical relationships of cultures, using archaeological framework.
(Learning activities outside of classroom)
After each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
(Grading Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%

HIS100LC（史学 / History 100）

日本文化論

追川　吉生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文化の特徴や歴史性を考える一つのてがかりとして、日本文化の基層をつくった先史時代の歴史を学ぶ。列島の多様な環境に柔軟に、時に果敢に適応した先史時代のヒトビトの生活が、その後の日本の歴史や文化とどのように関わっていくのかを知る。その具体的な事例として「食」、「祈り」、「村落・都市」に焦点をあて、それらが日本文化として成立した歴史的変遷を、物質文化を中心に考察する。

【到達目標】
世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的である。本科目では主に歴史学・考古学・民俗学の方法論に基づいて、歴史と文化の関わりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式を基本とするが、授業中に学習事項について受講生が考える問い掛けを行う。受講生はこうした機会に積極的に意見を表明してもらいたい。また授業時間内に適宜質問を受け付ける場面を設けるほか、授業前後に対面やメールでの質問も受け付ける。授業時間外の質問には対面・メールなどでのフィードバックを行うほか、必要に応じて次回以降の授業時に補足説明を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査。
2	土器の利用と暮らし（縄文時代1）	土器の出現がヒトビトの日常生活にどのような変化をもたらしたのか。土器の観察からわかる製作方法や利用方法について考える。
3	定住生活の始まり（縄文時代2）	土器や弓矢の使用、定住生活の始まりから、縄文時代の特徴を考える。
4	環境と生活（縄文時代3）	縄文時代は列島各地の環境に適応した多様な文化が展開した。そのうち、東京湾沿岸域と八ヶ岳山麓の遺跡のあり方を通して、縄文時代の環境と生活との関わりを学ぶ。
5	稲作の始まり（弥生時代1）	弥生時代に始まった米作りは、その後の日本の文化や暮らしに大きな影響を与えてきた。水稲耕作の列島へのひろがりについて考える。
6	金属器の利用（弥生時代2）	弥生時代には水稲農耕だけでなく、さまざまな道具が朝鮮半島経由でもたらされた。特に金属器（青銅器や鉄器）は農耕や武器さらには祭りの道具としても発達し、弥生時代の暮らしに大きな変化をもたらした。当初は製品として持ち込まれた金属器は、やがて列島内でも生産が行われるようになる。弥生時代の金属器から、当時のモノづくりについて学ぶ。
7	北の文化、南の文化	日本列島では弥生時代に稲作農耕が始まった。しかし北海道と沖縄では稲作を受容せずに、それぞれの地域の自然環境に適した生業が行われた。弥生時代以降の日本列島で、稲作を基本に発展した歴史や文化と並行した、もう2つの日本文化のあり方について学ぶ。
8	日本の食文化のなりたち	海外でも注目されている「日本食」は、どのように成立したのだろうか。列島の環境に応じた狩猟採集や農耕のあり方から、先史時代の食文化について考える。
9	風土と食文化	日本の食文化は、花綵列島とも呼ばれる日本列島の多様な風土を反映している。食文化に関しても米が唯一の主食であったわけではなく、多様なあり方が存在している。ここでは主に近世を対象として、日常の食文化の多様性について考える。
10	宴会儀礼のなかの食	現在の日本料理における「会席料理」は、中世以降の本膳料理や武家儀礼に伴う料理を基に成立したものである。このうち中世から近世にかけての武家儀礼における宴会と食との関係について考える。
11	祈りの文化	民間信仰と呼ばれる行為の多くは「非合理的」、「非科学的」と見なされるが、人々が安寧な生活を求める中で成立したもので、現在でも形を変えて残っている。そうした日本文化の中の祈りの心について考える。
12	葬送の文化	死者を悼む行為は人類に普遍的に見られる行為で、そのあり方は民族や宗教によって多様である。日本の「葬儀」は現在、核家族化、あるいは家族観の変化によって大きく姿を変えていく途上にある。こうした日本の「葬儀」が、どのように成立したかを歴史的な変遷から考える。
13	村落の文化	ヒトビトが社会的、文化的な関係を持って営む地域共同体のうち、「村落」の特徴を文化史的な側面から考える。

14	都市の文化	ヒトビトが社会的、文化的な関係を持って営む地域共同体のうち、「都市」の特徴を文化史的な側面から考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では準備と復習に4時間を以上を標準としている。
・講義資料はhoppiiを通じて配信するので授業前までにダウンロードして準備にあてる（DLには期限を設ける）。
・講義資料で学習内容を振り返り、不明な部分があれば次回授業時までに質問事項としてまとめておく。
これらを参考に、各自で授業外での学習にあたること。授業の進捗状況によって１～2回のレポートを課すこともある。

【テキスト（教科書）】
hoppiiを通じて配布資料を配信するので、特にテキストを準備する必要はない。

【参考書】
参考書については、随時授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（70%）、平常点（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや授業時に配布するリアクションペーパーに記された内容や、毎回の授業前後に寄せられる質問、小テストで推測される受講生の授業内容への理解度から、適宜授業内容に修正を加えていく。より良い授業を展開させるためにも、受講生からの積極的な質問や意見を期待している。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces Japanese culture. We will look at Prehistoric age of Japan for a clue to understand.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to study historical relationships of cultures, using archaeological framework.
(Learning activities outside of classroom)
After each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
(Grading Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%

HIS100LC（史学 / History 100）

比較文化論

追川　吉生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文化の特徴や歴史性を、海外との比較を通して考える方法を学ぶ。列島の環境や歴史を反映した日本文化であるが、はたしてそれが日本独自のものであるのか。あるいは日本とは異なる環境で生きるヒトビトは、どのような文化や歴史を作りあげてきたのかを考える。

【到達目標】
世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的である。本科目では主に歴史学・考古学・民俗学の方法論に基づいて、歴史と文化の関わりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式を基本とするが、授業中に学習事項について受講生が考える問い掛けを行う。受講生はこうした機会に積極的に意見を表明してもらいたい。また授業時間内に適宜質問を受け付ける場面を設けるほか、授業前後に対面やメールでの質問も受け付ける。授業時間外の質問には対面・メールなどでのフィードバックを行うほか、必要に応じて次回以降の授業時に補足説明を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査。
2	新古典主義と考古学	先史時代が主な研究対象と捉えられることが多い考古学だが、そのあゆみはどのようなものであったのだろうか。考古学の誕生に大きな影響を及ぼしたルネサンス以降のモノそのものの観察と研究の特徴について学ぶ。
3	化石人骨の発見 （人類文化の起源1）	人類の起源はいつかという問いは、ヒトとは何かという根源的な問いに繋がるものである。『種の起源』をダーウィンが発表して以降、各地で化石人骨が見つかり、古人類学や考古学などから人類の進化が研究されてきた。こうした化石人骨の発見と研究の歩みを振り返り、人類の起源がどのように捉えられてきたかを学ぶ。
4	石器からみた人類の進化と拡散（人類文化の起源2）	現代の社会は様々な道具に支えられている。人類は深海や宇宙まで活動領域を拡げる道具や、人類自身を消滅させる威力をもった兵器までも造り出している。この人類のモノづくりの原点が、250万年前に始まった石器の製作である。旧石器時代の石器の変遷から、人類の進化と拡散について学ぶ。
5	人類進化の解明と遺伝子研究（人類文化の起源3）	現在の人類文化の起源を探る研究においては、ミトコンドリアDNAの解析は不可欠なものとなっている。遺伝子研究が人類進化の解明にどのような影響を与えたのかを学ぶ。遺伝子研究との学際的な研究の成果が、人類進化の解明に留まらないということに関して、代表的な調査事例のいくつかを紹介する。
6	列島最古の人類文化（人類文化の起源4）	列島最古の人類文化である旧石器時代とはどのような時代なのか。主要な生活道具である石器の製作技術や種類から考える。
7	感染症と人類史(病の文化史1)	アフリカから世界に拡散した人類は、各地で未知の感染症に直面した。医学の未発達な時代を背景に、感染者への差別的な行為がしばしば行われた。人類の負の文化的側面を、感染症への対応を通じて学ぶ。
8	日本のハンセン病と人権（病の文化史2）	感染症への対応の一例として日本におけるハンセン病対策を取りあげ、都市や宗教と人権との関わりについて考える。
9	隔離政策の過ち（病の文化史3）	ハンセン病への差別や偏見は、世界的に現在においてもなお根強く残っている。患者への隔離政策や隔離施設の具体的なあり方を通じて、人類が犯した差別という負の文化を考える。
10	日本の陶器生産と磁器製品（世界市場に挑んだ日本の磁器生産1）	私たちが日常の食事で使用している焼物のうち、ガラス質が磁化した半透明のものを磁器という。これは中国で発明され、日本をはじめとしたアジア各地、更にはヨーロッパにも輸出された。日本の陶器生産の歩みと、中国の陶磁器生産の影響を学ぶ。
11	磁器生産の発展（世界市場に挑んだ日本の磁器生産2）	日本では江戸時代になって肥前で磁器の国産化に成功した。窯跡遺跡からの出土品や伝世資料から江戸時代の肥前製磁器の技術における海外からの影響を考える。

12	海外市場への進出と撤退 （世界市場に挑んだ日本の磁器生産3）	日本で磁器生産が成功して程なく、中国では明末清初の海禁政策により磁器の輸出が止まることになる。この機会に肥前製磁器はIMARIとしてヨーロッパ市場へ進出する。世界情勢とも連動した肥前製磁器の生産と流通を通じて、江戸時代の日本のモノづくりの一端を学ぶ。
13	『魏志倭人伝』を読む（東アジアの中の日本）	日本は弥生時代に「倭国」として、東アジアの国際交流に場に初めて登場。「倭国」に関する中国の歴史書の1つ『魏志倭人伝』は、邪馬台国への道程や所在地に関する論争が注目されがちであるが、考古学からは何が重要なのか。『魏志倭人伝』からみた、弥生時代から古墳時代への移行期にあたる列島の社会について学ぶ。
14	邪馬台国論争とは何か(東アジアの中の日本）	邪馬台国の所在地に関しては九州説、畿内説などを中心に論争が続いている。果たして邪馬台国は幻の国なのか。邪馬台国に関する記述を通して、東アジアの国際社会の中での「日本」について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
この授業では準備と復習に4時間を以上を標準としている。
・講義資料はhoppiiを通じて配信するので授業前までにダウンロードして準備にあてる（DLには期限を設ける)。
・講義資料で学習内容を振り返り、不明な部分があれば次回授業時までに質問事項としてまとめておく。
これらを参考に、各自で授業外での学習にあたること。授業の進捗状況によって１～2回のレポートを課すこともある。

【テキスト（教科書)】
hoppiiを通じて授業日以前に配布資料を配信するので、特にテキストは必要としない。

【参考書】
授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（70%)、平常点（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートや授業時に配布するリアクションペーパーに記された内容や、毎回の授業前後に寄せられる質問、小テストで推測される受講生の授業内容への理解度から、適宜授業内容に修正を加えていく。より良い授業を展開させるためにも、受講生からの積極的な質問や意見を期待している。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces Comparative cultural studies. It is a comparative study of cultures that focuses on Prehistoric archaeology and Historic archaeology.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to study historical relationships of cultures, using archaeological framework.
(Learning activities outside of classroom)
After each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
(Grading Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

文章作法

矢口　貢大

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とします。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学んでいきます。最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とします。

【到達目標】
①わかりやすく正確な日本語の書き方を習得する。
②議論を構築し、文章で表現できるようになる。
③学術レポートが書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義と演習から成り、その進行は大きく三段階に分けられます。まず、読みやすく正確な文を書くための基本について学び、演習を行います。次に、説得力のある議論の立て方を学び、小論文を作成します。最後に、学術レポートを書くための文献検索や情報処理の技術を学び、期末課題としてレポートを作成します。
※演習を多く取り入れた授業構成とします。授業中に書いてもらった課題は、ピアレビューや添削によってよりよい作文に仕上げていきます。課題へのフィードバックは「学習支援システム」または紙媒体での添削とコメントによって行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（授業内容の理解）・文章表現の基本（1）	・オリエンテーション（抽選、授業の目標、進め方および成績評価の説明） ・語順の法則
第2回	文章表現の基本（2）	・読点のうち方 ・書き言葉と話し言葉 ・小テスト（添削演習）
第3回	自己表現の実践（1）	・課題作成（怖い話／笑い話）
第4回	自己表現の実践（2）	・課題の返却と講評 ・主述の一致 ・長文の分割
第5回	論文入門（1）	・論文とは何か ・論理とは何か ・要約練習 ・文章整序
第6回	論文入門（2）	・論証とは何か ・論証のパターン① ・400字作文
第7回	論文入門（3）	・論証のパターン②（反論） ・議論分析の方法 ・400字作文
第8回	論文入門（4）	・パラグラフ・ライティング ・パッセージの構成法 ・アウトラインの作成
第9回	意見表明の実践（1）	・課題作成
第10回	意見表明の実践（2）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第11回	意見表明の実践（3）	・課題作成
第12回	意見表明の実践（4）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第13回	情報収集と情報処理（1）	・先行研究の調べ方 ・注と参考文献 ・話題ストラテジー
第14回	情報収集と情報処理（2）	・スキャニング ・スキミング ・要約練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・第2回：小テストを見直し、授業内容を復習する。
・第4・10・12回：課題文の返却後、添削・講評を参考に作文を書き直す。
・第13・14回：レポート作成に必要な資料を読み、文献メモを作る。レポートのアウトラインを作成する。レポートを書き、推敲する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。レジュメを配布します。

【参考書】
戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス、2012年
野内良三『日本語作文術』中公新書、2010年
野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年

【成績評価の方法と基準】
配分：
平常点（小テスト・400字作文）（20％）
課題文（40％）
レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】
双方向的な授業にしますが、一人の学生に当てる時間が長すぎないように調整します。
メールでの質問にできるだけ迅速に対応するよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】
授業内でパソコンを使用する予定です。

【その他の重要事項】
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to provide students with writing skills to express themselves clearly and persuasively. Students will improve academic writing skills by reading articles and essays critically, editing grammatical and rhetorical errors, learning how to compose an argument, and developing research skills.
Learning activities outside of class: Students will be required to research and write a manuscript for the paper.
Grading Criteria: class participation (quizzes and short essays, 20%), assigned writing (40%), final essay (40%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure.
Students will be able to understand how and why to write different types of essays as well as how to turn their essay into a power point presentation.
Grading:
Essays and in class assignments 75%
Final essay and presentation 25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Introduction to Academic Writing	Introduce the class content, expectations and offer guidance
2回	How to write 1	Discussion of writing for different purposes, and a variety of pre-writing techniques
3回	How to write 2	Introduction to different essays, hooks and thesis statements
4回	Description essay 1	Students will be introduced to the basic skills for writing descriptive essays and begin writing.
5回	Description essay 2	Students will receive their essays back and will engage in peer feedback as well as participate in group editing activities
6回	Opinion essay 1	Students will be introduced to the basic skills for writing opinion essays and begin writing.
7回	Opinion essay 2	Students will receive their essays back and will engage in peer feedback as well as participate in group editing activities
8回	Academic summary 1	Students will be introduced to the basic skills for writing academic summaries and begin writing.
9回	Academic summary 2	Students will receive their essays back and will engage in peer feedback as well as participate in group editing activities
10回	Ted Talk writing	Students will use skills they have learned in class to watch a Ted Talk and write a comprehensive opinion
11回	DVD-social issues	Students will work in teams to create a coherent narrative on the topic of harassment.
12回	Problem Solution 1	Students will be introduced to the basic skills for writing problem/solution essays and begin writig. **No tech support
13回	Problem Solution 2	Students will receive their essays back and start to create hybrid essays
14回	Final essay	Students will be asked to write and submit an essay showcasing a hybrid effort between AI and the ideas of the student

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
Writing assignments as well as self-editing tasks.
In preparation for the final essay,students are expected to spend approximately four hours on preparation and review outside of class for this course."

【テキスト（教科書）】
プリントを用意する。

【参考書】
Ready to Write More. Longman Press
Academic Writing 2. Oxford Press

【成績評価の方法と基準】
Classroom work and in-class essays-75%
Final hybrid essay-25%

【学生の意見等からの気づき】
After consulting the student evaluations, no changes will be made.

【学生が準備すべき機器他】
辞書・電子辞書を毎回必ず持参して下さい。

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
Learning Objectives: By the end of this class, students should be able to write a well-organized, effective paragraph or essay based on the ability to gather and organize information.
Learning objectives outside of class will be to prepare coherent essays at home. Also, to listen to and summarize Ted Talks in a short summary format.Also, time will be spent understanding how to use the library..
Grading Criteria:
Essays and in class assignments (75%) Final writing assignment and presentation (25%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

永井　誠

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
①アカデミックな内容を英文を確に理解できる。
②アカデミックな内容の文章でよく使われる句や表現を身につける。
③主語と述語の組み合わせ及びキーワード・キーフレーズの理解を元に、英文の大意を取れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教材は指定テキストとオリジナル教材プリントを併用する。テキストは身近な科学に関する様々なトピックを扱ったもので、基本的に一つの章は2回の授業でカバーする。テキスト内の各問題はそのまま扱うのではなく取捨選択して取り組み、追加の活動もある。リーディング中心の授業ではあるが、毎回の学習・習得内容を各自短い英文で書いて提出してもらう。提出物に対するフィードバックは次の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Guidance. Ch.1 Sleeping on Trains(1).	ガイダンス. 「電車内で眠ってしまうのは何故？」(1). 文法事項：前置詞. 本文の内容理解.
第2回	Ch.1 Sleeping on Trains(2).	「電車内で眠ってしまうのは何故？」(2). 内容理解の続き. 練習問題.
第3回	Ch.2 Bipedal Walking and Communication(1).	「二足歩行とコミュニケーションの関係」(1). 文法事項：不定詞. 本文の内容理解.
第4回	Ch.2 Bipedal Walking and Communication(2).	「二足歩行とコミュニケーションの関係」(2). 内容理解の続き. 練習問題.
第5回	Test 1. Ch.3 The Male and Female Brain(1).	Test 1: Ch.1と2の習得状況の確認. 「男性と女性では脳の構造が違うの？」(1). 文法事項：比較. 本文の内容理解.
第6回	Ch.3 The Male and Female Brain(2).	Test 1の返却・確認. 「男性と女性では脳の構造が違うの？」(2). 内容理解の続き. 練習問題.
第7回	Ch.5 A Truly Bitter Medicinal Herb (1).	「アロエの凄さの秘密」(1). 文法事項：五文型. 本文の内容理解.
第8回	Ch.5 A Truly Bitter Medicinal Herb (2).	「アロエの凄さの秘密」(2). 内容理解の続き. 練習問題.
第9回	Test 2. Ch.6 The Healthiest Fruit?(1).	Test 2: Ch.3と5の習得状況の確認. 「キウイが一番健康によい果物か？」(1). 本文の内容理解. 文法事項：受動態
第10回	Ch.6 The Healthiest Fruit?(2).	Test 1の返却・確認. 「キウイが一番健康によい果物か？」(2). 内容理解の続き. 練習問題.
第11回	Ch.7 Life-changing Smart Devices(1).	「スマートマットレスと睡眠改善」(1). 本文の内容理解. 文法事項：Itの用法.
第12回	Ch.7 Life-changing Smart Devices(2).	「スマートマットレスと睡眠改善」(2). 内容理解の続き. 練習問題.
第13回	Test 3. Review of Text Content Mastery.	Test 3: Ch.6と7の習得状況の確認. テキスト内容の理解の復習.
第14回	Grammar Review.	テスト3の返却・確認. 文法事項の復習.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
テキストの本文の事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
石井隆之（ほか）. 知って得する日常の科学 Science Alive. 成美堂.
ISBN:978-4-7919-7304-0

【参考書】
指定しない。

【成績評価の方法と基準】
提出物（12回）：48％
授業内テスト（3回)：47％
授業への取り組み（指名時の回答）：5％
正当な理由なく4回を超えて欠席した場合は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

This course aims to improve reading comprehension by developing fundamental vocabulary skills, grammar proficiency, and sentence structure analysis abilities for reading academic texts. Regarding vocabulary, students will progress beyond rote memorization based on one-to-one Japanese-English correspondences to develop the ability to grasp meaning by broadly considering context and sentence structure. For grammar and syntactic analysis, students will utilize and apply previously acquired knowledge to cultivate the ability to read actual English texts. Building on these skills, the course aims to develop reading comprehension abilities that enable students to accurately grasp the content of individual sentences through close reading, concisely and quickly summarize entire texts, and locate necessary information.
[Learning Objectives]
(1) Accurately understand academic content in English.
(2) Acquire phrases and expressions commonly used in academic writing.
(3) Grasp the main idea of English sentences based on subject-predicate combinations and understanding of key words and phrases.
[Grading Criteria/Policy]
Grades are calculated based on the following percentages:
(1) 47% for in-class exams
(2) 48% for assignments
(3) 5% for class participation

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

早舩　由紀見

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・アカデミック・ライティングの手法を習得する
・400ワード程度の英語論文が書ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。
学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。
英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。
提出された英文については、次の授業で返却し、各自フィードバックを行うほか、授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第2回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第3回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第4回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第5回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第6回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第7回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第8回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第9回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第10回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第11回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。他人の書いた英文を校正する。
第12回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第13回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第14回	論文評価	完成した論文を評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
英文読解、英作文、文法、ボキャブラリーの習得。

【テキスト（教科書）】
指定教科書なし。

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度：20%
授業内演習および宿題提出：20%
論文：30%
期末試験：30%

【学生の意見等からの気づき】
提出された英作文へのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC必須

【その他の重要事項】
・生成AIの使用について、初回授業での話を良く聞いて守るようにしてください。
・提出された論文に生成AIを使用した疑いがある場合は評価が低くなる場合があります。
・理由なく、全授業の1/3以上の欠席、または5回以上欠席すると単位を取得できません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment is held to approximately 20 students to maximize teaching effectiveness.
【Learning Objectives】
To complete an academic paper of around 400 words on the topic students' choose by themselves after learning how to write it in the class.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than four hours for a class.
- Review of the class
- Assignments
- Next class preparation
【Grading Criteria/Policy】
Active participation in class 20%
Assignments in the class and after the class 20%
Complete academic paper submission 30%
Final test 30%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

早舩　由紀見

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・アカデミック・ライティングの手法を習得する
・400ワード程度の英語論文が書ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。
学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。
英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。
提出された英文については、次の授業で返却し、各自フィードバックを行うほか、授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第2回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第3回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第4回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第5回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第6回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第7回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第8回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第9回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第10回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第11回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。他人の書いた英文を校正する。
第12回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第13回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第14回	論文評価	完成した論文を評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
英文読解、英作文、文法、ボキャブラリーの習得。

【テキスト（教科書）】
指定教科書なし。

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度：20%
授業内演習および宿題提出：20%
論文：30%
期末試験：30%

【学生の意見等からの気づき】
提出された英作文へのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC必須

【その他の重要事項】
・生成AIの使用について、初回授業での話を良く聞いて守るようにしてください。
・提出された論文に生成AIを使用した疑いがある場合は評価が低くなる場合があります。
・理由なく、全授業の1/3以上の欠席、または5回以上欠席すると単位を取得できません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment is held to approximately 20 students to maximize teaching effectiveness.
【Learning Objectives】
To complete an academic paper of around 400 words on the topic students' choose by themselves after learning how to write it in the class.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than four hours for a class.
- Review of the class
- Assignments
- Next class preparation
【Grading Criteria/Policy】
Active participation in class 20%
Assignments in the class and after the class 20%
Complete academic paper submission 30%
Final test 30%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥ

長谷川　秀子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。
トピックは現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などを扱い、グローバル社会において世の中の情勢を理解し、意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
このクラスの教科書はIntroduction, Words in context, Reading, Comprehension 1&2,Vocabulary, Listening 1&2, Your opinionとあり予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけではなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。
フィードバックに関しては質問、提出物からまとめてクラスで口頭、又はファイルを見ながら行う。授業内容の変更などは講義連絡を通じて連絡をするので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進めかた、テキストの使い方等の説明。
第2回	Unit 1	Mini Presentation Smart Phones Deserve Smart Users
第3回	Unit 2	The Animals in Our Lives
第4回	Unit 3	Mini Presentation Reforming　Japan's Education System
第5回	Unit 4	A Hungry Future
第6回	Unit 5	Mini Presentation No More Unwelcome Advertisements
第7回	Unit 6	A Living Wage
第8回	Unit 7	Mini presentation Keeping Mothers on the Payroll
第9回	Unit 8	Slow Life
第10回	Unit 9	Mini Presentation Volunteering
第11回	Unit 10	Longevity：a Mixed Blessing
第12回	Review (1) News Paper Article	Unit 1-5 Current Topic
第13回	Review (2) News Paper Article	Unit6-1 Current Topic
第14回	Term Exam	Unit 1-10の範囲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をし簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】
未来へ続く道
What's Going On in the World?　David Peaty, Kahori Kobayashi (2017) SEIBIDO 1900円 (税別)　ISBN978-4-7919-6027-9

【参考書】
授業中に紹介の予定。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】ミニプレゼンテーション、小テスト、課題　50%
期末試験　50%
【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく３分の１以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。
教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
—
Goals :In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.
–
Work outside of class: Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.
——
Grading: Assignment mini presentation 50%,Term exam 50%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩＩ

長谷川　秀子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。
学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。
トピックは現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などを扱い、グローバル社会において世の中の情勢を理解し、意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、授業内で確認していく。
このクラスの教科書はIntroduction, Words in context, Reading, Comprehension 1&2,Vocabulary, Listening 1&2, Your opinionとあり予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけではなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。
様々な状況により、授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Plan for this term
第2回	Unit 11	Mini Presentation The Importance of Biodiversity
第3回	Unit 12	A Home for Endangered Storks
第4回	Unit 13	Mini Presentation Japan's Future Energy Supply
第5回	Unit 14	Green Transportation
第6回	Unit 15	Mini Presentation How Much Is Nature Worth?
第7回	Unit 16	Business Can Be Green
第8回	Unit 17	Mini presentation Storing Energy
第9回	Unit 18	A Dollar a Day
第10回	Unit 19	Mini presentation Beyond Fair Trade
第11回	Unit 20	Shrink the Economy, Not the Earth
第12回	Review (1) Newspaper Article	Mini Presentation Current Issue
第13回	Review (2) Newspaper Article	Current Issue
第14回	Term Exam	Unit 11-20

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をし簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】
未来へ続く道
What's Going On in the World?　David Peaty, Kahori Kobayashi (2017) SEIBIDO 1900円 (税別)　ISBN978-4-7919-6027-9

【参考書】
授業にて紹介予定。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】ミニプレゼンテーション、小テスト、課題　50%
期末試験　50%
【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく３分の１以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
トピックを理解するための情報はクラスの中で話したり、プリントを配布することがある。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。
教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
—-

Goals: In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.
—
Work to be done outside class:
Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.
———-
Grading: Assignment mini presentation 50%, Term exam 50%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

吉川　直澄

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用する語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、テキストを中心とする講義と演習を行う。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは提出された課題レポートから実例や問題点を取り上げ、全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Guidance ガイダンス	授業の説明／予習すべき項目の指示／課題の提示
②	Unit 1 The Scientific Method 精読	テキストの7ページと8ページの精読／科学的方法について／パラグラフの構造の説明／課題の提示
③	Unit 1 The Scientific Method 文法	テキストの9ページと10ページの練習問題／受動態／科学英語の語彙と数式の読み方／課題の提示
④	Unit 2 Observing the Solar System 精読	テキストの11ページと12ページの精読／太陽系の観測史について／課題の提示
⑤	Unit 2 Observing the Solar System 文法	テキストの13ページと14ページの練習問題／方程式の読み方　他動詞の目的語となる動名詞とto-不定詞／課題の提示
⑥	Unit 3 The Beauty of Mathematics 精読	テキストの15ページと16ページの精読／数式の美しさについて／課題の提示
⑦	Unit 3 The Beauty of Mathematics 文法	テキストの17ページと18ページの練習問題／数式の記号について　関係代名詞／課題の提示
⑧	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 精読	テキストの19ページと20ページの精読／電球とLEDについて／課題の提示
⑨	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 文法	テキストの21ページと22ページの練習問題／図形・面積・体積　関係副詞／課題の提示
⑩	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 精読	テキストの23ページと24ページの精読／放射性物質について／課題の提示
⑪	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 文法	テキストの25ページと26ページの練習問題／長さ・幅・高さ・深さ　分詞構文／課題の提示
⑫	Unit 6 The Man Who Saved Millions 精読	テキストの27ページと28ページの精読／ジェンナーの業績／課題の提示
⑬	Unit 6 The Man Who Saved Millions 文法	テキストの29ページと30ページの練習問題／工具と付属部品の名称　関係代名詞／課題の提示
⑭	学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポートの提示／まとめと解説	文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。学生の皆さんは英語専用のノートを作成し、それにテキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、何度も反復練習をするように。

【テキスト（教科書）】
Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future,Dave Rear &Kayoko Murakami, 南雲堂, 2019, 1900円.

【参考書】
『理科系のための英語力強化法』、ジャパンタイムズ、2002年　『公式TOEIC(R)Listening &Reading 問題集 9』、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、2022年

【成績評価の方法と基準】
全13回の課題レポート (45%) 、学期末レポート課題 (20%) 、学期末に実施する文法・語彙確認テスト（30%) 、授業への積極的な参加・貢献 (5%) を総合的に検討して評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が5回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようお手伝いします。質問があれば何時でもどうぞ。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は「学習支援システム」を使用する。

【その他の重要事項】
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。受講者には、毎回の課題レポートをきちんと全て提出すること、学期末レポート課題の提出期限を守ることを銘記してもらいたい。それが単位習得のための最善策である。

【Outline (in English)】
(Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.
(Learning Objective)
By the end of the course, students will be able to :
- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.
(Learning activities outside of classroom
Students are expected to:
- spend at least one hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.
(Grading Criteria/Policy)
Final grade will be calculated according to the following process:
13 weekly class assignments: 45%, final term assignment: 20%, final test: 30% and in-class contribution: 5%.
Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩ

吉川　直澄

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。DVDを使用するリスニングとリーディングの訓練も継続させる。

【到達目標】
一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用される語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前学期に準ずる講義と演習に加えて、TOEIC形式の問題演習（プリント）を随時行い、スキルの仕上げをめざす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	春学期末レポートのフィードバックとガイダンス	春学期末レポートのフィードバックを行い、本学期のガイダンスを実施する／課題の提示
②	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 精読	テキストの31ページと32ページの精読／アインシュタインの一般相対性理論について／課題の提示
③	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 文法	テキストの33ページと34ページの練習問題／運動を表す動詞　「原因・理由」を表す副詞節／課題の提示
④	Unit 8 The Strange World of Atoms 精読	テキストの35ページと36ページの精読／原子の世界について／課題の提示
⑤	Unit 8 The Strange World of Atoms 文法	テキストの37ページと38ページの練習問題／運動の方向を表す表現　「結果・程度」を表す副詞節／課題の提示
⑥	Unit 9 Interstellar Travel 精読	テキストの39ページと40ページの精読／星間旅行について／課題の提示
⑦	Unit 9 Interstellar Travel 文法	テキストの41ページと42ページの練習問題／測定・計量を表す動詞　「譲歩」を表す副詞節／課題の提示
⑧	Unit 10 Limitless Energy 精読	テキストの43ページと44ページの精読／核融合について／課題の提示
⑨	Unit 10 Limitless Energy 文法	テキストの45ページと46ページの練習問題／グラフ・図表の英語表現　比較の表し方／課題の提示
⑩	Unit 11 The Surprising Uses of Nanotechnology 要約　基礎	テキストの47ページから50ページの内容の要約／ナノテクノロジーについて　主語・目的語の名詞表現を判別し、文の「主題」をつかむ／課題の提示
⑪	Unit 12 Creating the Perfect Human 要約　基礎	テキストの51ページから54ページの内容の要約／ヒトの遺伝子編集について　「主題」のパラフレーズとディスコースマーカーの働き／課題の提示
⑫	Unit 13 The New Age of Computing 要約　応用	テキストの55ページから58ページの内容の要約／量子コンピューターについて　全体の主旨を理解する論理的思考力と無意識に活用できる文法力／課題の提示
⑬	Unit 14 The Coming of the Machines 要約　応用	テキストの59ページから62ページの内容の要約／ヒトとAIの共存について　背景知識の活用／課題の提示
⑭	学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポートの提示／まとめと解説	文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各１時間を標準とする。学生の皆さんは英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し何度も反復練習すること。

【テキスト（教科書）】
前期のテキストを引き続き使用し、プリントを随時配布する。秋学期からの履修者のため、タイトルを提示しておく。
Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, 南雲堂, 2019, ISBN 978-4-523-17899-6.

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
全13回の課題レポート (45%) 、学期末レポート課題 (20%) 、学期末に実施する文法・語彙確認テスト（30%) 、授業への積極的な参加・貢献 (5%) 、を総合的に検討して評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が５回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようにお手伝いします。前期同様に質問があれば、気軽にしてください。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は「学習支援システム」を使用する。

【その他の重要事項】
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。受講者には、毎回の課題レポートをきちんと全て提出すること、学期末レポート課題の提出期限を守ることを銘記してもらいたい。それが単位習得のための最善策である。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.
(Learning Objective)
By the end of the course, students will be able to :
- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to:
- spend at least one hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.
(Grading Criteria/Policy)
Final grade will be calculated according to the following process:
13 weekly class assignments: 45%, final term assignment: 20%, final test: 30%, and in-class contribution: 5%.
Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

太田　美智子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・ Reviewing basic grammatical structure in order to write English more correctly and confidently.
・ You can choose most appropriate type of essay.
基本的な文法の復習を通してより正確な英文を書けるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The lesson will involve using textbook and also free-writing.
For at least the first half of spring semester, this class will be conducted online. Changes from original syllabus for each class session will be posted on the Learning Management System before each class session. This class will
begin on May 5th and by that date a more concrete explanation of how the course will be conducted will be posted on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第2回	Unit 1	* Things Happen for a Reason * Cause &Effect
第3回	Unit 2	* Same or Different? * Compare &Contrast
第4回	Unit 3	* Here's What I Think * Giving an Opinion
第5回	Unit 4	* Sorting Things Out * Classfication Writing
第6回	Unit 5	* Step by Step * Describing a Process
第7回	quiz	quiz
第8回	Unit 6	* Feeling Through your Senses * Descriptive Writing
第9回	Unit 7	* Don't you Agree? * Persuasive Writing
第10回	Unit 8	* You Be the Judge * Writing to Evaluate
第11回	Unit 9	* Two sides to Every Story * Pros &Cons
第12回	Unit 10	* A Bit of Advice * Writing to Advise
第13回	Review	Review
第14回	Check	Check

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】
Jigsaw–Insightful Reading to Successful Writing, Robert Hickling, Jun Yashima, Cengage Learning, 2150yen

【参考書】
Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】
Class Work and Participation　30％
Short Reports　30％
Term-Examination 40％
Due to the movememt of classes online, the grading policy for this class will be modified.
More specific information will be posted on the Learning Management System on the day class begins.

【学生の意見等からの気づき】
It is important for us to find intersting topics.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skills of writing in a more English-like way, finding and researching good topics and content-based writing.
* Reviewing basic grammatical structure in order to writing more correctly and confidently
* You can choose the most appropriate type of essay
* You will be expected to have completed the required assignments after
each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading:
Class Work and Participation 30%
Short Reports 30%
Term-Examination 40%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

太田　美智子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

【到達目標】
・ Reviewing basic grammatical structure in order to write English more correctly and confidently.
・ You can choose most appropriate type of essay.
基本的な文法の復習を通してより正確な英文を書けるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The lesson will involve using textbook and also free-writing.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第2回	Unit 1	* Things Happen for a Reason * Cause &Effect
第3回	Unit 2	* Same or Different? * Compare &Contrast
第4回	Unit 3	* Here's What I Think * Giving an Opinion
第5回	Unit 4	* Sorting Things Out * Classfication Writing
第6回	Unit 5	* Step by Step * Describing a Process
第7回	quiz	quiz
第8回	Unit 6	* Feeling Through your Senses * Descriptive Writing
第9回	Unit 7	* Don't you Agree? * Persuasive Writing
第10回	Unit 8	* You Be the Judge * Writing to Evaluate
第11回	Unit 9	* Two sides to Every Story * Pros &Cons
第12回	Unit 10	* A Bit of Advice * Writing to Advise
第13回	Review	Review
第14回	Check	Check

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】
Jigsaw–Insightful Reading to Successful Writing, Robert Hickling, Jun Yashima, Cengage Learning, 2150yen

【参考書】
Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】
Class Work and Participation　30％
Short Reports　30％
Term-Examination 40％

【学生の意見等からの気づき】
It is important for us to find intersting topics.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skills of writing in a more English-like way, finding and researching good topics and content-based writing
* Reviewing basic grammatical structure in order to writing more correctly and confidently
* You can choose the most appropriate type of essay
* You will be expected to have completed the required assignments after
each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading:
Class Work and Participation 30%
Short Reports 30%
Term-Examination 40%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

英語資格試験準備講座

吉川　直澄

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、受講生がTOEICテストの点数を上げることを目標にしつつ、英語のリスニング力を向上させることを目的としています。TOEICの試験対策のためのテクニックを習熟すると共に、語彙力や表現力を強化することにより英語のリスニング力の底上げを目指します。この授業は対面で行います。

【到達目標】
TOEICテストの50-100点のスコアをアップを目指し、学生はTOEICの出題形式に慣れることにより、スコアアップの対策ができるようになります。さらに、TED Talk等の様々な内容の英語を聞き、理解することによってリスニング力や表現力が向上し、基本となる英語力（語彙力、文法力、読解力、リスニング力）を上達させることができます。簡単な会話やスピーチを理解し、相手が理解できるように伝えることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では特にリスニング力を向上させることに焦点を当てつつ、TOEICのスコアアップを目指します。TOEICの出題形式に慣れ、TOEIC試験対策のテキストを学ぶことにより語彙力、文法力、読解力を向上させます。様々な内容の英語を聞き、リスニング力の向上につなげます。さらに、TOEICのリスニングパート3など会話問題を聞き、発話することでリスニング力を向上させ、簡単なスピーチや会話を理解し伝える力をつけていきます。授業の初めに、前回の授業で要求された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、授業内で確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction / Orientation	オリエンテーション、TOEIC Pre test、目標設定
2.	Part 1 and Listening Practice	TOEIC 演習、解説、グループワーク、リスニング、音読
3.	Part 2 and Listening Practice	TOEIC 演習、解説、グループワーク、リスニング、音読
4.	Part 3 and Listening Practice	TOEIC 演習、解説、グループワーク、リスニング、音読
5.	Part 4 and Listening Practice	TOEIC 演習、解説、グループワーク、リスニング、音読
6.	Part 5 and Part 6	TOEIC 演習、解説、グループワーク、リスニング、音読
7.	Part 1 and Listening Practice	TOEIC 演習、解説、グループワーク、リスニング、音読
8.	Part 2 and Listening Practice	TOEIC 演習、解説、グループワーク、リスニング、音読
9.	Part 3 and Listening Practice	TOEIC 演習、解説、グループワーク、リスニング、音読
10.	Part 4 and Listening Practice	TOEIC 演習、解説、グループワーク、リスニング、音読
11.	Part 5 and Part 6	TOEIC 演習、解説、グループワーク、リスニング、音読
12.	Part 7	TOEIC 演習、解説、グループワーク、リスニング、音読
13.	Make-Ups	TOEIC演習、まとめ、学習ポイントの解説、振り返り
14.	小テスト	授業の成果確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete required assignments after each class. It will take at least one hour to complete each assignment.
本授業の準備・復習時間は、計1時間を標準とします。学生は授業の後に要求される課題を毎週学習することが必要となります。

【テキスト（教科書）】
公式TOEIC(R) Listening &Reading 問題集 10 、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、2023年、3000円, ISBN978-4-906033-71-3

【参考書】
特になし。必要な場合、授業中にプリント資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】
Listening Test (40%), Reading Test (40%), In-class Participation/effort (20 %)

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
辞書、電子辞書。

【その他の重要事項】
受講生のレベルに応じて、授業の進度やシラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】
{Course outline]
By the end of this course, students will develop listening ability in English as well as increasing their TOEIC score. In addition to TOEIC test taking skills, students will increase their knowledge in vocabulary, grammar, and expressions, which enable them to have better skills of listening comprehension in English
[Learning Activities outside of classroom]
Students are expected to complete required assignments after each class. It will take at least one hour to complete each assignment.
[Grading Criteria / Policy]
The final grade will be decided based on the following:
Listening Test (40%), Reading Test (40%), In-class Participation/effort (20 %)

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

基礎中国語Ⅰ

蒋　剣波

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。
授業では受講者が発音と文法を中心に初級中国語の教科書前半部分を学びながら，デジタル時代に対応する中国語力の基礎（ピンイン入力、読み書き、言語の規則）も習得できることを目指します。
また，受講者が中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。

【到達目標】
中国語表音文字ピンインを使いこなし、簡単な言葉のやり取りができることを到達目標とします。授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話文を着実に習得してほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　本授業ではスマホ、ノートPCなどを使う書き読みの練習、アプリを使う録音と発音の検証，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。
　提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・中国語とは？	授業の進め方について・中国語とは。
第2回	中国語ピンイン入力と日常用語(1)	発音とピンイン入力(1)：解説と練習。
第3回	中国語ピンイン入力と日常用語(2)	発音とピンイン入力(2)：解説と練習。
第4回	中国語ピンイン入力と日常用語(3)	発音とピンイン入力(3)：解説と練習。
第5回	中国語の文法と語彙(1)	第1課：自己紹介　　新出語句・文法ポイント（人称代名詞、動詞「是」、～の…（連体修飾語の表し方）、名前の言い方、ドリル、本文朗読、練習問題、会話練習
第6回	中国語の文法と語彙(2)	第2課：一緒に映画を見ようよ 新出語句・文法ポイント（指示代名詞（1）、動詞述語文、形容詞述語文、省略疑問文、語気助詞「吧、ドリル
第7回	中国語の文法と語彙(3)	第3課「一緒に映画を見ようよ」新出語句、本文朗読、練習問題、会話練習
第8回	中国語の文法と語彙(4)	第4課「キャンパス案内」新出語句、文法のポイント（指示代詞（2)、所在表現、主述述語文、所有表現「有」、疑問詞疑問文)、ドリル
第9回	中国語の文法と語彙(5)	第3課「キャンパス案内」新出単語、本文朗読、練習問題、会話練習
第10回	中国語の文法と語彙(6)	第4課「ペットも家族の一員」新出語句、文法ポイント（100以上の数、量詞、存在表現、選択疑問文、年齢の言い方)、ドリル
第11回	中国語の文法と語彙(7)	第5課「誕生日のお祝い」新出語句・文法ポイント（介詞(1)、動作の完了・実現を表す助詞「了」、二重目的語、年月日・曜日の言い方、時刻の言い方)、ドリル
第12回	中国語の文法と語彙(8)	第6課「遠距離恋愛」新出語句、文法ポイント（変化・新たな状況の発生を表す「了」、願望を表す助動詞「想/要」、介詞（2)、「多」＋形容詞、反復疑問文、ドリル
第13回	中国語の文法と語彙(9)	第6課「遠距離恋愛」本文朗読、練習問題、期末復習
第14回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
授業で紹介したソフトやアプリを使ってなれること、また自ら他のソフトやアプリも使ってみることで新しい語学学習の方法にチャレンジしてください。
テキストについているCDなど音声資料を十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。音声資料を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。

【テキスト（教科書）】
丸尾誠・勝川裕子・李⊠倫『初級中国語　この一冊ー4技能の習得を目指してー　改訂版』金星堂
ppt

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。平常点40%（出席・受講態度・発声音量・宿題の提出)、期末試験60%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、ノートPC

【Outline (in English)】
This course is designed for students studying Chinese for the first time.
Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language.
Students are expected to spend four hours before and after each class to understand the course content.

Attendance is a prerequisite for evaluation. Grades will be based on a total of 40% for regular points (attendance, class attitude, pronunciation volume, and homework submission) and 60% for the final exam.

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

基礎中国語ＩＩ

蒋　剣波

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に基礎中国語Ｉを学んだ学生、またその学力のある学生を対象とする授業です。中国語Iで学んだ発音や語彙、基本文型を土台とし、音声・文法・表現面において中国語の全体像がつかめるような基礎的知識の習得及び運用能力の養成を目指す。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。必要に応じて，HSK（中国語能力検定試験＝漢語水平考試の略称）の対策も行います。

【到達目標】
(1)中国語の語順、基本文型などをマスターし、読解力、聴解力のさらなる向上を目指す。
(2)学んだ語彙や文法事項を組み合わせて用いることにより、身近な事柄や自分の考えについてまとまりのある文章で表現し、他者と対話できる力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業ではスマホ、ノートPCなどを使う書き読みの練習、アプリを使う録音と発音の検証を行います。簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得を進めながら，基本的な会話文を学びます。
　提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。詳細は学習支援システムで伝達する。中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，基本的な実用会話を学びます。また，必要に応じて，過去問題などを使って，中国語検定(準4級)対策も行います。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業に使用するソフト・アプリの説明、授業の進め方について 基礎中国語Ｉの復習
第2回	中国語の文法と語彙(1)	第7課「北京のベストシーズンは？」 文法ポイント（経験を表す「☒」、比較の表現、「有点儿」と「一点儿」、禁止を表す副詞「别/不要」、お金の言い方）、ドリル
第3回	中国語の文法と語彙(2)	第7課「北京のベストシーズンは？ 本文朗読、練習問題、応用練習
第4回	中国語の文法と語彙(3)	第8課「中国語の勉強」、新出語句、文法ポイント（可能を表す助動詞「会/能/可以」連動文、進行の表現、動詞の重ね型、「越…越…」、ドリル
第5回	中国語の文法と語彙(4)	第8課「中国語の勉強」本文朗読、練習問題、応用練習
第6回	中国語の文法と語彙(5)	第9課「リスニングは難しい」 新出語句、文法ポイント（結果補語、義務・必要性を表す助動詞「得/要/☒☒）概数の「多」、数量表現（動作量/時間量）、程度補語（1）ドリル
第7回	中国語の文法と語彙(6)	第9課「リスニングは難しい」 本文朗読、練習問題、応用練習
第8回	中国語の文法と語彙(7)	第10課「サークル活動」新出語句、・文法ポイント（兼語文（1）、二つの「怎么」・動作・状態の持続を表す助詞「着」、「是～的」、様態補語）、ドリル
第9回	中国語の文法と語彙(8)	第10課「サークル活動」 本文朗読、練習問題、応用練習
第10回	中国語の文法と語彙(9)	第11課「携帯電話」 新出語句、文法ポイント（兼語文（2)、「把」構文、「一～就」、「一☒～一☒」、「V一下」 ドリル
第11回	中国語の文法と語彙(10)	第11課「携帯電話」 本文朗読、練習問題、応用練習
第12回	中国語の文法と語彙(11)	第12課「財布の紛失」 新出語句、文法ポイント（方向補語、程度補語（2)、受身表現、強調表現)、ドリル、練習問題
第13回	中国語の文法と語彙(12)	第13課「春節に故郷を思う」 新出語句、文法ポイント（「快/快要 /就要～了」、自然現象、可能補語、複文、疑問詞の不定用法） ドリルと練習問題
第14回	期末試験	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。
授業で紹介したソフトやアプリを使ってなれること、また自ら他のソフトやアプリも使ってみることで新しい語学学習の方法にチャレンジしてください。
テキストについている 音声資料をダウンロードしておいてください。何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。音声資料を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。

【テキスト（教科書）】
丸尾誠・勝川裕子・李☒倫『初級中国語　この一冊ー4技能の習得を目指してー　改訂版』金星堂
ppt

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。成績評価は宿題レポートの点数（60％）、授業への貢献度（10）と期末試験（30％）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course is intended for students who have already acquired basic Chinese pronunciation and simple sentence structures. The course focuses on Chinese grammatical aspects, idiomatic expressions, basic vocabulary, and other fundamental elements of the language.

The standard study time outside of class for preparation and review is approximately one hour per session.
Final grades will be determined as follows: written reports (60%), class participation (10%), and a final report (30%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

英語資格試験準備講座

尾関　裕子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
TOEICテストの成績向上と共に、英語の実力も向上することを目指す。TOEICテストの7種類のパターンについて、それぞれその特徴とポイントを、実践的に行っていくつもりです。

【到達目標】
１．即座に反応できる語彙力の強化　２．理解を助ける文法力の強化　3. 一度で聞き取れるリスニング力の強化　4. 正確に読み取れるリーディング力の強化
以上のためのエクササイズを実施。単にTOEIC問題を解く、だけではありません。英語力強化のためのエクササイズには積極的に参加しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
一回の授業でふたつのChapter を学習します。それぞれがListening parts, Reading Parts
から問題が作られており、二つ実施すると parts 1-7 すべてのパートの問題を解くことになります。どちらの範囲にも語彙テストがありますのでオリエンテーションでの説明をよく覚えておき対処してください。このクラスでは、問題をときつつ説明を加えることが多くなると思われますので授業時は集中して参加してください。解答は学生に順次答えていただきます。提出物は次回授業時に評価の上返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	具体的な授業の進め方を説明（オリエンテーション）	テキストを使用し、どのような授業展開になるのかを確認、実際にエクササイズを実施。各回の文法事項はReview事項としての 扱い。
2回目	Chapter 1,2	テーマ：Shopping, At a Restaurant 文法：基本文型、名詞の修飾
3回目	Chapter 3,4	テーマ：Transportation, Entertainment 文法：文と文の接続、知覚動詞と使役動詞
4回目	Chapter 5,6	テーマ：Accomodation, Employment 文法：助動詞、完了助動詞
5回目	Chapter 7,8	テーマ：Communication, Negotiating 文法：時制と進行形、現在完了
6回目	Chapter 9,10	テーマ：Giving a Presentation,Appointment 文法：前置詞、不定詞
7回目	テスト１	Chapters 1-10 Review
8回目	Chapter 11,12	テーマ：Public Facilities, On the Street 文法：仮定法過去、仮定法過去完了
9回目	Chapter 13,14	テーマ：Vacation, Environment 文法：受動態、動名詞と分詞構文
10回目	Chapter 15,16	テーマ：Housing, Meetings 文法：関係代名詞、関係副詞
11回目	Chapter 17,18	テーマ：Business Performance, Handling Customer Complaints 文法：比較、名詞と冠詞
12回目	Chapter 19,20	テーマ：Advertising, At a Factory 文法：名詞の数と数量形容詞、強調構文と倒置
13回目	テスト２	Chapters 11-20 Review
14回目	テスト３	TOEIC 形式のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
TOEICテストに限らず、結局は問題への慣れが重要です。毎日とは言いませんが、出来るだけ多く自宅学習をやること。一番良いのは、TOEIC公式問題集です。図書館にあると思うので、借りてやってみてください。とにかく本一冊をやりきれば、どんな本でも意味があります
授業時のエクササイズを自宅学習でも実施してみましょう。

【テキスト（教科書）】
Beat Your Best Score On The TOEIC L&R Test、松岡昇、傍島一夫著、松柏社、2019年、1900円プラス税

【参考書】
授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】
毎回、問題を解きながらの授業なので、皆さんの反応を確かめます。積極的に問題の答えをレスポンスして下さい。
テスト60%、平常点（積極的な参加姿勢、予習など）40%
2/3以上の出席をすること。出席のカウントについては、遅刻、退室は二回で一回の欠席とする。交通機関の遅延証は3回まで有効とする。公欠、病欠については、それを証明する文書の提示を要する。

【学生の意見等からの気づき】
和訳をする場合、それを板書してほしいという声もございますが、「英文和訳」はこのクラスにおいては重点を置いておりません。チャンク訳を取り入れ、英文を頭から自分の中に落としてゆく内容把握の週間をつけたいと思います。ぜひ、トライしてください。内容の理解が十分にされないまま進むことの無いよう心がけます。

【その他の重要事項】
各章の問題数自体は少ないので、一回の授業で二章分進める予定となっていますが、そのスピードに無理がある場合には進行を緩める可能性もあります。
なお、エクササイズの実施にはオンライン情報は不要です。授業時にはパソコン、スマートホンはオフにしていただきます。辞書の必要がある場合には持参願います。

【Outline (in English)】
I'll show you about the characteristics of TOEIC and how to solve the questions so that you can acquire the higher scores. The goal of this course is to develop your listening and knowledge of grammar.

After each class meeting, students will be expected to solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Our overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination、quiz: 80%, in class contribution: 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
・choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrange of media
・write an effective summary paragraph
・write an analytical book report
・make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
・carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form.
During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades.
This class uses Google Classroom on which you will find a document with an explanation of class procedures. You are expected to read this document.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be ccovered.	Students will recieve guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.
Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】
You must have a dictionary: paper or electronic (NOT a phone). No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】
Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
A good dictionary is required. One example is:
Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Homework: 10%
Presentations: 60%
Class performance (effort, participation, use of English): 30%

【学生の意見等からの気づき】
Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice.
A document which clearly states class procedures and the obligations of students has been included with Week 1 materials on Google Classroom.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and Google Classroom. If the course is run face-to-face, it will use Google Classroom.
For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted on Google Classroom.
Students will need a Hosei University email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher and access Google Classroom. This address must not change during the semester.
Please make sure that the computer equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes
an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not.
You may not use a smartphone for this purpose

【その他の重要事項】
Note:
This is a 'No Smartphone' class. Your phone must be turned off, and in your bag. Your "Classwork (effort, participation)" grade will be affected if you persistently use / look at your phone.
This class promotes and relies on academic honesty. The use of translation and language-generating technology is considered to be plagiarism and is not allowed under any circumstances. Your course grade will be affected by ignoring this rule.
"Dictionary" means paper dictionary or electronic dictionary. Using a phone as a dictionary is not allowed.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
At the end of this course, students will be able to:
・choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrange of media
・write an effective summary paragraph
・write an analytical book report
・make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
・carry on a group discussion on a range of academic topics
Work to be done outside of class (preparation, etc.):
Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.
Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.
Grading Criteria:
Homework: 10%
Presentations: 60%
Class performance (effort, participation, use of English): 30%
This class has a strict "NO Smartphones" policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.
This class uses Google Classroom on which you will find a document with an explanation of class procedures. You are expected to read this document.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.
Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Family and Leadership	Talking about lifestyle choices
3	Describing/ Manners	Students will have the opportunity to talk about some of their favourite things
4	Ted Talk	Students will have the opportunity to watch and listen to a Ted Talk about communication strategies and write a report
5	The Past	Students will have the opportunity to share stories from their childhood memories
6	Travel and Rules	Students will discuss living arrangements and thoughts about order and structure
7	Consolidation	Partner work to show consolidation of the first six chapters of the course
8	Problems and Solutions	Students will discuss a variety of scenarios about their future
9	Describing trends	Students will discuss some trends, past and present and how trends affect culture
10	VOA current news summary practice	Students will use the Voice of America app to listen to current events and write a report with their opinion and a summary of the event
11	Bullying DVD	TDVD viewing and creative writing task with the theme of bullying
12	Marriage and Partnerships	Students will discuss changing marriage and partnership ideas in modern culture
13	Travel	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique
14	Final conversation	Partner based conversation to show consolidation of the second part of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】Most of the work done outside class will be summary writing tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】
Speak Now 3.
Oxford
ISBN: 978-0-19-403017-5

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Mid term assessment 30%
Final assessement 30%
Weekly assignments and homework 40%

【学生の意見等からの気づき】
More time will be on giving more information at an appropriate level.

【学生が準備すべき機器他】
notebook

【None】
None

【Outline (in English)】
The learning objectives of this class are to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, levelled classes for maximum effectiveness.
The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.
Learning activities outside this class will focus on watching video of TED talk lectures and preparing discussion and summary points. Also, regular homework-grammar and vocabulary practice from the review sections of the textbook.
This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.
Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.
Mid-term assessment 30%
Final assessment 30%
Homework and weekly class assignments40%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

LOWRI　E　HUMBERSTONE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。この授業は、英語のスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングにおける学生の正確さと自信を向上させることを目指しています。教科書とその提起する問題をディスカッションの出発点として活用することで、この授業は学生が新しい視点から物事を見ることを奨励し、英語を他の文化や意見と関わる手段として利用することを目指しています。学生は同僚や講師から即座のクラスフィードバックを期待でき、また、講師からメールでより詳細なフィードバックを個別に受けることができます。

【到達目標】
Students will learn and develop academic reading, writing, speaking, and listening skills in English.
Students will discuss contemporary issues in English and express their opinions verbally and in writing.
Students will participate in discussions in pairs and as a class.
Students will submit brief written assignments in English based on class topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
In this class we will complete activities from textbooks and discuss texts and topics the textbook introduces. This class prioritises active learning, such as debate and discussion. English will be used as the primary language in this class. Assignments may be submitted online or emailed to the sensei directly at senseiemma22@gmail.com and students will receive written feedback on each assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Class introduction and theme overview	Assessment methods and grading and theme overview Self introduction to the class
第2回	Chapter 1 Food and health	Unit 1 - Food and Culture
第3回	Chapter 1 Food and health	Unit 3 - Saving Lives (food and health problems)
第4回	Chapter 2 Technology	Unit 4 - Identity Theft
第5回	Chapter 2 Technology	Unit 6 - Artificial Intelligence
第6回	Chapter 3 Sports	Unit 7 - Professional Athletes
第7回	Chapter 3 Sports	Unit 9 - Cheating
第8回	Class discussion - Discussing the previous topics	Class discussion- which topics did you enjoy the most, and why? Which topics did you enjoy the least and why? Do you disagree with any of the attitudes and opinions presented in the textbook?
第9回	Chapter 4 Cultural diff erences	Unit 10 - Attitude and cultures
第10回	Chapter 4 Cultural diff erences	Unit 11 - Communication in diff erent cultures
第11回	Chapter 5 Society	Unit 14 - Immigration
第12回	Chapter 5 Society	Unit 15 - Gender Diff erences
第13回	Class overview and exam preparation	Review of key themes and skills. Explanation of exam format and rules and class study
第14回	FINAL EXAMINATION	Final test to make up 50% of grade Class reflection, discussion, and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assignments will be set from the textbook. Students are expected to research class themes before class and arrive in class with opinions to share. A minimum of three essays will be assigned over the semester, worth 30% of the final grade in total. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework and reviewing class materials.

【テキスト（教科書）】
Vantage Point, Eric Hirata
ISBN 9784863124035 (10-digit ISBN: 4863124031)
Available online from https://www.eltbooks.com/item_spec.php?item=1685001&lang=en

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
Assessment criteria:
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【Outline (in English)】
This class aims to improve students' accuracy and confidence in English
Speaking, Listening, Writing and Reading. By using the

textbook and issues it raises as a starting point for discussion, this class encourages students to see things from new perspectives and use the English language as a way to engage with other cultures and opinions. Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.
Assessment criteria:
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
・choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrange of media
・write an effective summary paragraph
・write an analytical book report
・make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
・carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form.
During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades.
This class uses Google Classroom on which you will find a document with an explanation of class procedures. You are expected to read this document.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be ccovered.	Students will recieve guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.
Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】
You must have a dictionary: paper or electronic (NOT a phone). No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】
Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
A good dictionary is required. One example is:
Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Homework: 10%
Presentations: 60%
Class performance (effort, participation, use of English): 30%

【学生の意見等からの気づき】
Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice.
A document which clearly states class procedures and the obligations of students has been included with Week 1 materials on Google Classroom.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and Google Classroom. If the course is run face-to-face, it will use Google Classroom.
For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted on Google Classroom.
Students will need a Hosei University email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher and access Google Classroom. This address must not change during the semester.
Please make sure that the computer equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes
an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not.
You may not use a smartphone for this purpose

【その他の重要事項】
Note:
This is a 'No Smartphone' class. Your phone must be turned off, and in your bag. Your "Classwork (effort, participation)" grade will be affected if you persistently use / look at your phone.
This class promotes and relies on academic honesty. The use of translation and language-generating technology is considered to be plagiarism and is not allowed under any circumstances. Your course grade will be affected by ignoring this rule.
"Dictionary" means paper dictionary or electronic dictionary. Using a phone as a dictionary is not allowed.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
At the end of this course, students will be able to:
・choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrange of media
・write an effective summary paragraph
・write an analytical book report
・make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
・carry on a group discussion on a range of academic topics
Work to be done outside of class (preparation, etc.):
Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.
Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.
Grading Criteria:
Homework: 10%
Presentations: 60%
Class performance (effort, participation, use of English): 30%
This class has a strict "NO Smartphones" policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.
This class uses Google Classroom on which you will find a document with an explanation of class procedures. You are expected to read this document.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コミュニケーション・ストラテジー

ＡＬＤＥＲ　ｍａｒｋ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.
Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Family and Leadership	Talking about lifestyle choices
3	Describing/ Manners	Students will have the opportunity to talk about some of their favorite things.
4	Ted Talk	Students will watch a Ted Talk themed around communication strategies and write a report
5	The Past	Students will discuss stories from their past that have shaped who they have become
6	Travel and Rules	Students will discuss living arrangements and thoughts about order and structure
7	Consolidation	Students will create longer conversations based on the vocabulary and phrases learned in earlier chapters to create realistic conversations
8	Problems and Solutions	Students will discuss a variety of scenarios about their futures.
9	Describing trends	Students will discuss trends in Japan, past and present and how they affect culture
10	VOA current news and opinion	Using the Voice of America app, students will review current news events and write summaries and opinions
11	Bullying DVD	Students will discuss work, bosses with the theme of bullying
12	Marriage and Partnerships	Students will discuss changing dating and marriage customs
13	Travel	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique.
14	Final conversation	Partner based conversation to show consolidation of the second part of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】Most of the work done outside class will be summary writing tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】
Speak Now 3.
Oxford
ISBN: 978-0-19-403017-5

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Midterm assessment 30%
Final assessment 30%
Weekly assignments and homework 40%

【学生の意見等からの気づき】
There will be more emphasis on sharing appropriate levels of information to generate interesting conversations

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionary

【None】
None

【Outline (in English)】
The learning objectives of this class are to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.
Learning activities outside this class will focus on watching video of TED talk lectures and preparing discussion and summary points. Also, regular homework-grammar and vocabulary practice from the review sections of the textbook.
This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.
Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.
Mid-term assessment 30%
Final assessment 30%
Homework and weekly class assignments40%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

今政　肇

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語のリスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの四技能の総合的な発展を目的とします。言わずもがなですが、理工系・生命系の学生にとって英語は知識生産の世界共通言語として必須です。それだけでなく、その習得はますます複雑に変化していく世界の中で専門分野をより理解し、何らかの貢献をするためにも欠かせません。そうした目標を念頭に置きつつ、本授業はリスニングやリーディングというインプットをベースに総合的なコミュニケーション能力を培っていくことを基本方針に様々な教授方法を取り入れ実施します。

【到達目標】
①リアルな英語の発話や表現を視聴覚的に接することで、感覚的な素地を整えリスニング力が高まります
②多読により英語を読むことに慣れ、より高度なテキストの読解を併用することで豊富な語彙および表現に接することが出来ます。
③そうした語彙や表現を作文や発話に使用することで自分のものに出来ます。
④英語を使ったディスカッションやプレゼンテーションの技術を習得することが出来ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。
課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。
課題等へのフィードバックは原則的に授業内で行います。
授業は原則対面で実施します。
必要に応じて授業の進め方や方法を変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。多読および読書ログについて説明します。
2	Unit 1 Making a Difference	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
3	Unit 1 Making a Difference	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
4	Unit 2 The Job For Me	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
5	Unit 2 The Job For Me	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
6	Unit 3 How We Live	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
7	Unit 3 How We Live	Designing websitesに関して、映像を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
8	Mid-term Review	中間テスト 読書ログについてのフィードバック
9	Unit 4 Success	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
10	Unit 4 Success	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
11	Unit 5 Future Trends	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
12	Unit 5 Future Trends	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
13	Final Review	期末テスト 小グループに分かれてプレゼンテーションの準備
14	プレゼンテーション	プレゼンテーション、読書ログの提出、今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。
・プレゼンテーションやクイズの準備
・大学図書館の英語多読図書（YL＝読みやすさレベル：0.8 2.4)を週70分（1日10分)、約7000字読むことを目標に、読書ログ（タイトル、感想、字数）をつける。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（１ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください)。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【テキスト（教科書)】
Bohlke, D., Dummett, P., Stephenson, H., Lansford, L., & Walker, R. Keynote Level 3, Second Edition with Spark Access + e-Book (1 year access), National Geographic Learning/Cengage Learning.
ISBN: 9780357960714
※教科書販売期間中に必ず購入すること。（秋学期も継続して使用します。）

【参考書】
学習者用の英英辞書（英和辞書よりも英英辞書を使ってください）：
https://dictionary.cambridge.org/
法政大学の多読サイト： https://hosei.libguides.com/tadoku)
初級レベル：
・ Oxford Reading Tree (YL 0.8-0.9):
Picture-based, perfect for beginners
・ Penguin Readers Easystarts (YL 0.8):
Simple stories, many topics
中級レベル；
・ Cambridge/Oxford/Macmillan Readers:
Wide range of original and adapted stories

・ Penguin Readers:
Large selection including movie adaptations

【成績評価の方法と基準】
宿題　１５％
授業への参加　１５％
テスト・クイズ　３０％
プレゼンテーション　２５％
読書ログ　１５％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（一ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください）。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The objective of this class is comprehensive development of four skills–listeing, reading, speaking and writing. Needless to say, learning English is necessary for students in science, engineering and life sciences as a global common language for knowledge production. Not only that, mastering it is also essential to deepen one's understanding of their specialized field within an increasingly complex and changing world and to make some sort of contribution. With these goals in mind, this class will incorporate a variety of teaching methods with the basic policy of cultivating comprehensive communicative ability based on input–namely listening and reading.
[Learning Objectives]
(1) By coming into contact with authentic English speech and expressions through audiovisual media, you can develop a sensory foundation and improve your listening ability.
(2) By reading graded books extensively, you can feel more comfortable reading English, and by reading more advanced texts, you can come into contact with a richer vocabulary and expressions.
(3) By using them in your own writing and speech, you can make them your own.
(4) You can develop discussion and presentation skills in English.
[Learning activities outside of classroom]
Class preparation, vocabulary review, homework, and preparation for presentations.
Set aside approximately 10 minutes a day or 70 minutes a week to read the books that you have chosen and fill out your reading log.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments and homework (15%), [2] class participation (15%), [3] quizzes and tests (30%), [4] presentation (25%), [5] reading log [15%]

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

村上　弥生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈授業概要〉
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。
〈授業の目的・意義〉
理工学の学術的背景を持つ教養人に求められる英語力とは何か。科学技術が世界の在り方を急速に変容させる時代において、絶えず英語で情報をとり、また英語で考えや情報を発信する力が不可欠である。本授業では、異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる材料を主に取り上げ、文法や語彙力の増強を行いながら、同時に背景的な知識のリサーチ、同級生との意見・情報交換などを通じて、日常的に得ている日本語情報や自らの日本語での発信力を相対化しつつ、将来の国際人としての視野を広げ、思考を深める。

【到達目標】
高校までに培ってきた英語の文法、語彙を確認し、強化/拡充しながら、授業で提供される資料をもとに、実際に現在世界で議論されているトピックについて、読み聞き話す運用力を高める。
国際的な教養人たることを期待される大学生にふさわしく、英語情報を通じて、世界と社会の現在について、日本語で得られる情報や視点を相対化し、より深く広い理解を得て、思考を深め、それを発信する力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
1. 現代社会の直面する問題や情勢を考える材料となるような読み物やビデオのスクリプトを精読、ないし要旨の把握を行い、語彙や表現の拡充、視野の拡大を図る。
２．簡単なリサーチを個々人で行ってもらい、ペア・ワークやクラスでの発表などを通じて、集めた情報や自分の意見を英語で発信する経験を重ねる。
3. 資料の内容理解を問う宿題の提出やスピーチ、教室内での議論の要約の提出、発表などを随時求める。
4. 1〜3の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時Hoppiに提出されたものを評価して返却するか、もしくは授業時に総評を行い、受講生間での議論の発展につなげる。
5. 読み物や視聴覚資料を通して確認した特に重要な語彙や表現の定着、またトピックの正確な理解を図るために、応用問題の小テストを三回程度行う。
下記の授業計画の題材は一昨年度の例であり、今年度はまた社会情勢に合わせて資料やトピックは選びなおす予定である。春学期の授業は，原則として対面で行うが、情勢の変化や授業の進捗状況によってオンラインに変更されることもあるので、随時学習支援システムでの連絡を確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション No First Kiss for Record Number of Japanese Teens 日本の十代の異性関係の希薄化	授業の進め方についての説明 受講生の自己紹介など。 短いニュースの紹介
第二回	短いニュースについての分析 I was Addicted to My Smartphone, So I Switched to a Flip Phone for a Month-1 スマホからガラケーへ：スマホ依存を脱する試みの体験記	背景説明 意見発表・意見交換 新しい資料の紹介
第三回	I switched to a Flip Phone-2	文法・語彙の確認、拡充 グループでの解釈の検討
第四回	Brief History of Digital Technology and Voices of Concerns デジタル・テクノロジーと懸念の声：インターネットの日常化から現代まで	前回の意見交換の紹介 背景説明
第五回	What the Internet is Doing to Our Brains (video clip) ネットの脳への影響	映像資料の視聴と要約 重要語句の確認 グループでの意見交換
第六回	How a Cellphone Ban is Changing Life at Virginia High School (short documentary video) - 1 スマホ禁止後に見られた高校生活の変化	新しい資料の紹介
第七回	How a Cellphone Ban is Changing Life at Virginia High School －2	文法・語彙の確認、拡充 グループでの議論
第八回	review test-1	前回までの内容・語句・表現の復習テストー1
第九回	The Challenge of Animal Translation - 1 進化する人工知能は動物の言語を解析できるか	新しい読み物の速読と要約 背景説明 関連するヴィデオの視聴 文法・語彙の確認、拡充
第十回	The Challenge of Animal Translation －2	和訳の発表 文法・語彙の確認、拡充
第十一回	An A.I. Generated Picture Won Art Prize. Artists aren't Happy.- 1 生成AIと創作活動	文法・語彙の確認、拡充 和訳の発表

第十二回	An A.I. Generated Picture Won Art Prize. Artists aren't Happy.- 2	文法・語彙の確認、拡充 意見交換
第十三回	review test- 2	前回までの内容・語句・表現の復習テスト－２
第十四回	テストの解説	意見発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
1. 与えられた資料については、事前に丁寧に予習を行い。いつでも日本語で説明できるように準備する。
2. 各章のトピックに関連する情報や意見について、各人でリサーチを行う。
3. クラスでの情報・意見交換にそなえて、リサーチの結果を紹介したり、自分の考え　　を発信する英文を作成する。
4. リスニング資料については、自宅でオンラインで復習する
5. 表現の復習テストに備えて、資料を読みなおしながら、重要な表現、語句の理解、定着に努める

【テキスト（教科書）】
教師による配布、または初回に指示する

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
予習。宿題などの平常点（２５%）、各種発表やエッセイ、議論などを通じた授業への貢献（25%）、小テスト（50%）。

【学生の意見等からの気づき】
現代世界の大きな問題についての視点が広がり、学生同士の意見も交換できて、資料は高度で有意義だったとの声と、英文が難し過ぎるとの声の両方が聞かれるため、双方に配慮した工夫を行っていきたい。
また全体に不足しているように見受けられる文法、語彙の確認には、引き続き十分時間を配分したい。

【Outline (in English)】
〈Course outline〉
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
〈Learning Objectives〉
This course has two major objectives. One of them is to help students acquire the level of English skills required of well-educated persons on international settings.
The other objective is to help students broaden their perspectives as future professional members of the international community through dealing with English materials that expose them to contemporary global issues.
〈Learning activities outside classroom〉
Between each class meeting, students will be requested to do one or two of the following tasks：
1.Carefully read or watch assigned parts of the materials and do homework which is designed to measure your comprehension and place stories in context.
2.Summarize a short article or audio-visual material.
3. Research on relevant topics.
4. After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which is intended to help you consolidate vocabulary, grammatical knowledge and understanding of the topic.
5.You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course and to make short speeches on more casual topics.
Your required study time outside of the classroom is roughly one and a half hours for each class.
〈Grading criteria〉
Final grading will be decided based on your preparation for class (25%), contribution to class through presenting research and opinions (25%), and review tests (50%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

長谷川　秀子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。
トピックは現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などを扱い、グローバル社会において世の中の情勢を理解し、意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけではなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1つのユニットを大体１回で終わるように授業を行う。フィードバックに関しては質問、提出物からまとめてクラスで口頭、又はファイルを見ながら行う。授業形態や授業内容が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	授業の進めかた、テキストの使い方、予習等の説明。
第2回	Unit 1 Mini Presentation	Phone Dirt Reveals Personal Data
第3回	Unit 2	Driverless Buses
第4回	Unit 3 Mini presentation	Stealth Keys
第5回	Unit 4	Unfamiliar Sources of Energy
第6回	Unit 5 Mini Presentation	Delivery by Drone
第7回	Unit 6	Uber and its Future
第8回	Unit 7 Mini Presentation	Convenience Stores in Japan
第9回	Unit 8	Learn English with a Robot
第10回	Unit 9 Mini Presentation	Noise Level and Disease
第11回	Unit 10	Reading Faces
第12回	Review(1) Mini presentation Newspaper article	Current issue
第13回	Review(2) Newspaper article	Current issue
第14回	Term Exam	試験範囲　Unit 1-10

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をし簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】
科学の恩恵と私たちの暮らし
Science in Our Daily Life　SEIBIDO
By Toshihiko Kobayashi, Bill Benfield (2018)
ISBN978-4-7919-3416-4 1900円（税別）

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介の予定。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】ミニプレゼンテーション、小テスト、課題　50%
期末試験　50%
【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく３分の１以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

———

Goals :In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.

———-

Work outside class: Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.

———-

Grading:
Assignment mini presentation 50%

Term exam 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

神　康介

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
1.英文法を理解し一定の語彙力を身につけ、時事的な内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことができる。
2.文法、用法を、適切に学び、正確で自然な英語を書くことができる。
3.テキスト等の聴解・読解などの活動を通じて、リスニングスキルを向上させることができる。
4.時事的な分野でよく使用される単語や表現を身につけ、発話できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
	Shohei Ohtani	大谷翔平についての英文を視聴、精読する。 名詞・代名詞の用法を確認する。
2	Lee Teng-hui	李登輝についての英文を視聴、精読して、単語、表現、文法事項を学ぶ。 動詞について、練習問題を行う。
3	Samurai Japan's Gold Medal	侍ジャパンについての英文を視聴、精読して、単語、表現、文法事項を学ぶ。 助動詞についての、練習問題を行う。
4	The Power of Music	音楽の力についての、英文を視聴、精読して、単語、表現、文法を学ぶ。進行形に関しての、練習問題を行う。
5	The Effects of Fungi in People's Diet	きのこについての英文を視聴、精読して、単語、表現、文法を学ぶ。 受動態に関する、練習問題を行う。
6	Toki	トキについての英文を視聴、精読して、単語、表現、文法を学ぶ。 不定詞に関する、練習問題を行う。
7	Agricultural Recovery in Fukushima	東日本大震災からの農業復興についての英文を視聴、精読して、単語、表現、文法を学ぶ。 完了時制に関する、練習問題を行う。
8	CInternational Linear Collider (ILC)	ILC 国際リニアコライダー についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法を学ぶ。動名詞に関する、文法問題を演習する。
9	Economic Security and Security Clearance	経済安全保障とセキュリティ・クリアランスについての英文を視聴、精読し、単語、表現、文法を学ぶ。 分詞に関する、文法問題を演習する。
10	Cellular Agriculture	細胞農業に関する英文を視聴、精読し、単語、表現、文法を学ぶ。 比較に関する、文法問題を演習する。
11	Forests and Human Health	森林と健康に関する英文を視聴、精読し、単語、表現、文法を学ぶ。 形容詞の語法についての演習を行う。
12	Japan's Quantum Computer	量子コンピューターについての英文を視聴、精読し、単語、表現、文法を学ぶ。 副詞の語法についての演習を行う。
13	A Balanced Diet for Your Immune System	バランスのとれた食事についての英文を視聴、精読し、単語、表現、文法について学ぶ。 前置詞についての語法の演習を行う。
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】
Sunrise Japan 南雲堂

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
クラスでの平常点で40％、期末試験の結果で60％で評価する。原則として 半期で4回欠席した場合単位は認めない。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。
(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%.

【学生の意見等からの気づき】
オンライン授業を有効活用する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate
grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
(Learning object)
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

今政　肇

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語のリスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの四技能の総合的な発展を目的とします。言わずもがなですが、理工系・生命系の学生にとって英語は知識生産の世界共通言語として必須です。それだけでなく、その習得はますます複雑に変化していく世界の中で専門分野をより理解し、何らかの貢献をするためにも欠かせません。そうした目標を念頭に置きつつ、本授業はリスニングやリーディングというインプットをベースに総合的なコミュニケーション能力を培っていくことを基本方針に様々な教授方法を取り入れ実施します。

【到達目標】
①リアルな英語の発話や表現を視聴覚的に接することで、感覚的な素地を整えリスニング力が高まります
②多読により英語を読むことに慣れ、より高度なテキストの読解を併用することで豊富な語彙および表現に接することが出来ます。
③そうした語彙や表現を作文や発話に使用することで自分のものに出来ます。
④英語を使ったディスカッションやプレゼンテーションの技術を習得することが出来ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。
課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。
課題等へのフィードバックは原則的に授業内で行います。
授業は原則対面で実施します。
必要に応じて授業の進め方や方法を変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。多読および読書ログについて説明します。
2	Unit 6 Clear Communication	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
3	Unit 6 Clear Communication	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
4	Unit 7 From Farm to Table	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
5	Unit 7 From Farm to Table	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
6	Unit 8 Identity	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
7	Unit 8 Identity	Designing websitesに関して、映像を視聴し、リスニング及び内容理解の問題を解答する。
8	Mid-term Review	中間テスト 読書ログについてのフィードバック
9	Unit 9 Time for Change	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
10	Unit 9 Time for Change	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
11	Unit 10 It's About Time	当該ユニットの語彙、聞き取り、会話、文法、映像視聴（Lesson A, B, C） の練習問題に取り組みます。
12	Unit 10 It's About Time	当該ユニットの読解、会話、作文（Lesson D, E, F） の練習問題に取り組みます。
13	Final Review	期末テスト 小グループに分かれてプレゼンテーションの準備
14	プレゼンテーション	プレゼンテーション、読書ログの提出、今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・授業前に指定されている課題を行い、提出する。
・プレゼンテーションやクイズの準備
・大学図書館の英語多読図書（YL＝読みやすさレベル：0.8 2.4)を週70分（1日10分)、約7000字読むことを目標に、読書ログ（タイトル、感想、字数）をつける。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（１ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください)。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【テキスト（教科書）】
Bohlke, D., Dummett, P., Stephenson, H., Lansford, L., & Walker, R. Keynote Level 3, Second Edition with Spark Access + e-Book (1 year access), National Geographic Learning/Cengage Learning.
ISBN: 9780357960714
※春学期から継続して使用します。

【参考書】
学習者用の英英辞書（英和辞書よりも英英辞書を使ってください）：
https://dictionary.cambridge.org/
法政大学の多読サイト： https://hosei.libguides.com/tadoku)
初級レベル：
・ Oxford Reading Tree (YL 0.8-0.9):
Picture-based, perfect for beginners
・ Penguin Readers Easystarts (YL 0.8):
Simple stories, many topics
中級レベル；
・ Cambridge/Oxford/Macmillan Readers:
Wide range of original and adapted stories
・ Penguin Readers:

Large selection including movie adaptations

【成績評価の方法と基準】
宿題　１５％
授業への参加　１５％
テスト・クイズ　３０％
プレゼンテーション　２５％
読書ログ　１５％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（一ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください）。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The objective of this class is comprehensive development of four skills–listeing, reading, speaking and writing. Needless to say, learning English is necessary for students in science, engineering and life sciences as a global common language for knowledge production. Not only that, mastering it is also essential to deepen one's understanding of their specialized field within an increasingly complex and changing world and to make some sort of contribution. With these goals in mind, this class will incorporate a variety of teaching methods with the basic policy of cultivating comprehensive communicative ability based on input–namely listening and reading.
[Learning Objectives]
(1) By coming into contact with authentic English speech and expressions through audiovisual media, you can develop a sensory foundation and improve your listening ability.
(2) By reading graded books extensively, you can feel more comfortable reading English, and by reading more advanced texts, you can come into contact with a richer vocabulary and expressions.
(3) By using them in your own writing and speech, you can make them your own.
(4) You can develop discussion and presentation skills in English.
[Learning activities outside of classroom]
Class preparation, vocabulary review, homework, and preparation for presentations.
Set aside approximately 10 minutes a day or 70 minutes a week to read the books that you have chosen and fill out your reading log.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments and homework (15%), [2] class participation (15%), [3] quizzes and tests (30%), [4] presentation (25%), [5] reading log [15%].

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

村上　弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈授業概要〉
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。
〈授業の目的・意義〉
理工学の学術的背景を持つ教養人に求められる英語力とは何か。科学技術が世界の在り方を急速に変容させる時代において、絶えず英語で情報をとり、また英語で考えや情報を発信する力が不可欠である。本授業では、異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる材料を主に取り上げ、文法や語彙力の増強を行いながら、同時に背景的な知識のリサーチ、同級生との意見・情報交換などを通じて、日常的に得ている日本語情報や自らの日本語での発信力を相対化しつつ、将来の国際人としての視野を広げ、思考を深める。

【到達目標】
高校までに培ってきた英語の文法、語彙を確認し、強化/拡充しながら、授業で提供される資
料をもとに、実際に世界で議論されているトピックについて読み聞き話す運用力を高める。
国際的な教養人たることを期待される大学生にふさわしく、英語情報を通じて、世界と社会の現在について、日本語で得られる情報や視点を相対化し、より深く広い理解を得て、思考を深め、それを発信する力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
1. 現代社会の直面する問題や情勢を考える材料となるような読み物やビデオのスクリプトを精読、ないし要旨の把握を行い、語彙や表現の拡充、視野の拡大を図る。
２．簡単なリサーチを個々人で行ってもらい、ペア・ワークやクラスでの発表などを通じて、集めた情報や自分の意見を英語で発信する経験を重ねる。
3. 資料の内容理解を問う宿題の提出やスピーチ、教室内での議論の要約の提出、発表などを随時求める。
4. 1〜3の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時Hoppiに提出されたものを評価して返却するか、もしくは授業時に総評を行い、受講生間での議論の発展につなげる。
5. 読み物や視聴覚資料を通して確認した特に重要な語彙や表現の定着、またトピックの正確な理解を図るために、応用問題の小テストを三回程度行う。
下記の授業計画の題材は一昨年度の例であり、今年度はまた社会情勢に合わせて資料やトピックは選びなおす予定である。春学期の授業は，原則として対面で行うが、情勢の変化や授業の進捗状況によってオンラインに変更されることもあるので、随時学習支援システムでの連絡を確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション Student Test Scores Drop Dramatically in All Subjects Reading Skills of 12th Graders Hit a New Low－１ (日米に見られる学力の著しい低下傾向)	夏休みの経験など自由な会話 速読して内容理解 グループでの議論
第二回	Student Test Scores Drop Dramatically in All Subjects Reading Skills of 12th Graders Hit a New Low－２	各自の分析の紹介
第三回	Are We Really Willing to Become Dumber？ - 1 （生成AIの使用と脳の働きについてのMIT研究者らの調査）	重要語句、表現、文法の確認 グループでの意見交換
第四回	Are We Really Willing to Become Dumber？ －２	重要語句、表現、文法の確認 意見発表
第五回	AI Needs More Abundant Power Supplies to Keep Driving Economic Growth－１ （AIと電力需要の急増が経済にもたらす影響についてのIMFの提言）	要約 意見交換、発表
第六回	AI Needs More Abundant Power Supplies to Keep Driving Economic Growth －２	意見文の作成、発表
第七回	review test-1	前回までの内容、英語表現についての小テストー１ 次週からのトピックの紹介
第八回	Paris Braces for a Future of Possibly Paralyzing Heat－１ （止まらぬ温暖化の将来に麻痺する都市）	review test-1の総評

第九回	Paris Braces for a Future of Possibly Paralyzing Heat－2 How Cities are Beating the Heat (video clip)	重要な語句。表現の確認 和訳の発表 視聴覚資料の紹介
第十回	This Government Memo Warned of Climate Change in 1969 (気候変動について科学からの警告の歴史)	背景説明
第十一回	‘China Is the Engine’ Driving Nations Away From Fossil Fuels, Report Says－1 （再生可能エネルギーへの世界の転換をけん引する中国）	意見交換 重要な語句の確認
第十二回	‘China Is the Engine’ Driving Nations Away From Fossil Fuels, Report Says- 3	重要な語句や表現の確認 グループでの議論
第十三回	‘China Is the Engine’ Driving Nations Away From Fossil Fuels, Report Says- 3	重要な語句や表現の確認 意見交換、発表
第十四回	review test-2	前回までの内容、語句、表現の小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
1. 与えられた資料については、事前に丁寧に予習を行い。いつでも日本語で説明できるように準備する。
2. 各章のトピックに関連する情報や意見について、各人でリサーチを行う。
3. クラスでの情報・意見交換にそなえて、リサーチの結果を紹介したり、自分の考え　　を発信する英文を作成する。
4. リスニング資料については、自宅でオンラインで復習する
5. 表現の復習テストに備えて、資料を読みなおしながら、重要な表現、語句の理解、定着に努める

【テキスト（教科書）】
教師による配布、または初回に指示する

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
予習、宿題などの平常点（２５%）、各種発表やエッセイ、議論などを通じた授業への貢献（25%）、小テスト（50%）。

【学生の意見等からの気づき】
現代世界の状況について、高度な英語資料で学び考え意義が大きかったという意見と、英語資料の難易度が高すぎるという意見が見られるため、双方に配慮した工夫を行っていきたい。
不足しているように見受けられる文法、語彙の確認に引き続き十分時間を配分したい。

【Outline (in English)】
〈Course outline〉
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
〈Learning Objectives〉
This course has two major objectives. One of them is to help students acquire the level of English skills required of well-educated persons on international settings.
The other objective is to help students broaden their perspectives as future professional members of the international community through dealing with English materials that expose them to contemporary global issues.
〈Learning activities outside classroom〉
Between each class meeting, students will be requested to do one or two of the following tasks：
1.Carefully read or watch assigned parts of the materials and do homework which is designed to measure your comprehension and place stories in context.
2.Summarize a short article or audio-visual material.
3. Research on relevant topics.
4. After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which is intended to help you consolidate vocabulary, grammatical knowledge and understanding of the topic.
5.You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course and to make short speeches on more casual topics.
Your required study time outside of the classroom is roughly one and a half hours for each class.
〈Grading criteria〉
Final grading will be decided based on your preparation for class (25%), contribution to class through presenting research and opinions (25%), and review tests (50%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

長谷川　秀子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、語彙力・文法力、構文などを確認しながら4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目指す。グローバル社会における英語の役割も考え、将来の技術者・研究者に必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、高度な英語運用能力の習得を目指していく。学生の積極的な参加が大事となる。

【到達目標】
この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。
トピックは現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などを扱い、グローバル社会において世の中の情勢を理解し、意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけではなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1つのユニットを大体１回で終わるように授業を行う。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーなどからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation Mini presetation	後期の授業の説明
第2回	Unit 11 Mini Presentation	Meditation and Sports
第3回	Unit 12	Digital Disabilities
第4回	Unit 13 Mini Presentation	Euglena Dietary Supplements
第5回	Unit 14	Facts about Koalas
第6回	Unit 15 Mini Presentation	Ants
第7回	Unit 16	Exotic Pets
第8回	Unit 17 Mini Presentation	Culling Feral Cats
第9回	Unit 18	When Do We Become "Old"?
第10回	Unit 19 Mini Presentation	Protecting Earth from Collisions
第11回	Unit 20	Migration to Mars
第12回	Review (1) Mini Presentation Newspaper article	Current issue
第13回	Review (2) Newspaper article	Current issue
第14回	Term Exam	試験範囲 Unit 11-20

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をし簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】
科学の恩恵と私たちの暮らし
Science in Our Daily Life　SEIBIDO
By Toshihiko Kobayashi, Bill Benfield (2018)
ISBN978-4-7919-3416-4 1900円（税別）

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】ミニプレゼンテーション、小テスト、課題　50%
期末試験　50%
【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく３分の１以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。
教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
——
Goals: In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.
———
Work outside class:
Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.
——-
Grading: Assignment mini presentation 50%,Term exam 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

神　康介

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
1.英文法を理解し一定の語彙力を身につけ、時事的な内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことができる。
2.文法、用法を、適切に学び、正確で自然な英語を書くことができる。
3.テキスト等の聴解・読解などの活動を通じて、リスニングスキルを向上させることができる。
4.時事的な分野でよく使用される単語や表現を身につけ、発話できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. Yuzuru Hanyu	羽生結弦についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 文型について、学習し、練習問題を行う。
2	Kei Nishikori	錦織圭についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 時制についての、練習問題を学習する。
3	Christel Takigawa	滝川クリステルについての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 助動詞についての文法問題を演習する。
4	Kyary Pamyu Pamyu	きゃりーぱみゅぱみゅについての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 名詞・代名詞についての文法問題を演習する。
5	World Cultural Heritage Site Mount Fuji	世界文化遺産についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。形容詞についての文法問題を演習する。
6	World Intangible Cultural Heritage Washoku	世界無形文化遺産についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。副詞についての文法問題を演習する。
7	Spiber	スパイバーについての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。比較についての文法問題を演習する。
8	Abenomics	アベノミクスについての、英文を視聴、精読し、単語、。現、文法などを学ぶ。 受動態についての文法問題を演習する。
9	Maglev Train	リニア新幹線についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 不定詞についての文法問題を演習する。
10	Pokémon Go	ポケモンGOについての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 分詞についての文法問題を演習する。
11	My Number	マイナンバー法についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 動名詞の語法についての演習問題を学ぶ。
12	1Net TV	ネットテレビについての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 関係代名詞の語法についての演習問題を学ぶ。
13	Epsilon Rocket	人工知能についての、英文を視聴、精読し、単語、表現、文法などを学ぶ。 接続詞の語法についての演習問題を学ぶ。
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては,大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句,専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】
Cool Japan 南雲堂

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
クラスでの平常点で40％、期末試験の結果で60％で評価する。半期で4回欠席した場合単位は認めない。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。
(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%.

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】
(Course outline)
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate
grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
(Learning objectives)
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習Ⅰ

岩沢　美佐子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立1次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
講義と演習を組み合わせて行う．最初に、(1)前回の復習、(2)前回の課題の解説と解答状況、(3)新規の内容、(4)演習、(5)課題の提示を中心に進める．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．春学期の授業は，対面を中心に行う．詳細は学習支援システムで伝達する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
　行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを期末試験の成績等で判断する.
　ほぼ毎回小テストを行うが，受験回数が全体の２／３以下の学生は不合格とするので注意すること.
課題・演習(25%), 中間試験(25%), 期末試験(50%)

【学生の意見等からの気づき】
見やすい板書を心掛ける.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
基本的には全出席が必要です．少なければ、減点がされます.

【Outline (in English)】
(Course Outline)
We learn primary linear algebra which is an essential knowledge for science and engineering students.
1)We learn the calculation methods of vectors and matrices, and understand the applications to simultaneous linear equations.
2)We know the concepts such as regular matrices and ranks, and understand the equivalence conditions being regular matrices.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 25%, Mid-term examination 25%, Term-end examination 50%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習Ⅰ

岩沢　美佐子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立1次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
講義と演習を組み合わせて行う．最初に、(1)前回の復習、(2)前回の課題の解説と解答状況、(3)新規の内容、(4)演習、(5)課題の提示を中心に進める．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．春学期の授業は，対面を中心に行う．詳細は学習支援システムで伝達する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
　行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを期末試験の成績等で判断する.
　ほぼ毎回小テストを行うが，受験回数が全体の２／３以下の学生は不合格とするので注意すること.
課題・演習(25%), 中間試験(25%), 期末試験(50%)

【学生の意見等からの気づき】
見やすい板書を心掛ける.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
基本的には全出席が必要です．少なければ、減点がされます.

【Outline (in English)】
(Course Outline)
We learn primary linear algebra which is an essential knowledge for science and engineering students.
1)We learn the calculation methods of vectors and matrices, and understand the applications to simultaneous linear equations.
2)We know the concepts such as regular matrices and ranks, and understand the equivalence conditions being regular matrices.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 25%, Mid-term examination 25%, Term-end examination 50%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習ＩＩ

岩沢　美佐子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
講義と演習を組み合わせて行う．最初に、(1)前回の復習、(2)前回の課題の解説と解答状況、(3)新規の内容、(4)演習、(5)課題の提示を中心に進める．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．対面を中心に行う.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの線形結合	平面ベクトルの線形結合, 空間ベクトルの線形結合
2	線形独立と線形従属	線形独立, 線形独立な数ベクトル空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 線形独立と線形従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R^3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う。授業全体の講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
　ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを期末試験等で判断する.
　ほぼ毎回小テストを行うが，受験回数が全体の２／３以下の学生は不合格とするので注意すること.
課題・演習(25%), 中間試験(25%), 期末試験(50%)

【学生の意見等からの気づき】
見やすい板書を心掛ける.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
基本的には全出席が必要です．少なければ、減点がされます.

【Outline (in English)】
(Course Outline)
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues /eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the following.
1) Vector space and its dimension
2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
3) Matrix eigenvalue and eigenvector
4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
5) Orthogonal transformation
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 25%, Mid-term examination 25%, Term-end examination 50%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習ＩＩ

岩沢　美佐子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ．

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
講義と演習を組み合わせて行う．最初に、(1)前回の復習、(2)前回の課題の解説と解答状況、(3)新規の内容、(4)演習、(5)課題の提示を中心に進める．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う。授業全体の講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、
前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」 裳華房 2016年 2200円+税

【参考書】
適宜、指示する．

【成績評価の方法と基準】
　ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを期末試験等で判断する．
　ほぼ毎回小テストを行うが，受験回数が全体の２／３以下の学生は不合格とするので注意すること．
課題・演習(25%), 中間試験(25%), 期末試験(50%)

【学生の意見等からの気づき】
見やすい板書を心掛ける．

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
基本的には全出席が必要です．少なければ、減点がされます．

【Outline (in English)】
(Course Outline)
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues /eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the following.
1) Vector space and its dimension
2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
3) Matrix eigenvalue and eigenvector
4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
5) Orthogonal transformation
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 25%, Mid-term examination 25%, Term-end examination 50%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習Ⅰ

金沢　誠

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力，逆三角関数の理解，平均値の定理，テイラーの定理の意味を理解し応用できること，簡単な関数のテイラー級数展開ができること，偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等に対するフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書の対応する部分に前もって目を通しておく。配布される講義資料をよく読んで，演習問題を指定された期日までに解く。

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）
2300 円+税 （第1章、第2章、第4章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
特になし．授業では，教科書の他に講義資料を配布する.

【成績評価の方法と基準】
成績は，期末試験(80%)と授業内小テスト（20%）の成績による.（毎回の出席を前提とする。）期末試験では，微分及び偏微分の計算，逆三角関数や双曲線関数の理解，テイラーの定理の利用，多変数関数の極値の問題の解法等について，十分な能力を身につけたかテストする.

【学生の意見等からの気づき】
特になし.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its applications, which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are required to submit weekly assignments.
(Grading Criteria)
The overall grade for the course will be determined based on the biweekly in-class tests (20%) and the final exam (80%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習Ⅰ

金沢　誠

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力，逆三角関数の理解，平均値の定理，テイラーの定理の意味を理解し応用できること，簡単な関数のテイラー級数展開ができること，偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等に対するフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書の対応する部分に前もって目を通しておく。配布される講義資料をよく読んで，演習問題を指定された期日までに解く。

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税 （第1章、第2章、第4章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
特になし．授業では，教科書の他に講義資料を配布する.

【成績評価の方法と基準】
成績は，期末試験(80%)と授業内小テスト（20%）の成績による．（毎回の出席を前提とする。）期末試験では，微分及び偏微分の計算，逆三角関数や双曲線関数の理解，テイラーの定理の利用，多変数関数の極値の問題の解法等について，十分な能力を身につけたかテストする.

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり，丁寧に説明することを心がける。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its applications, which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are required to submit weekly assignments.
(Grading Criteria)
The overall grade for the course will be determined based on the biweekly in-class tests (20%) and the final exam (80%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習ＩＩ

金沢　誠

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用などについて学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め，さらに2変数関数の積分などを扱う．また積分を用いて図形の面積，体積，長さが求められるようにする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．課題に対するフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する，
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書の対応する部分に前もって目を通しておく。配布される講義資料をよく読み，演習問題を指定された期日までに解く。

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）
2300 円+税 （第４章4.5節、第３章、第５章を学ぶ）

【参考書】
特になし。授業では，講義資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
成績は，期末試験(80%)と授業内小テスト(20%)の成績による．（毎回の出席を前提とする。）期末試験では，積分および重積分について十分な計算能力が身についていること，広義積分の計算法を理解していること，積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることなどをテストする。

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり，丁寧に説明することを心がける。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of integration and its applications, which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Integration of one-variable functions
2) Integration for two-variable functions
3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are required to submit weekly assignments.
(Grading Criteria)
The overall grade for the course will be determined based on the biweekly in-class tests (20%) and the final exam (80%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習ＩＩ

金沢　誠

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用などについて学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した1変数関数の積分についての知識を深め，さらに2変数関数の積分などを扱う．また積分を用いて図形の面積，体積，長さが求められるようにする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．課題に対するフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2重積分	長方形領域上の2重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の2重積分	一般の領域上の2重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および2重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する，
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書の対応する部分に前もって目を通しておく。配布される講義資料をよく読み，演習問題を指定された期日までに解く。

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）
2300 円+税 （第４章4.5節、第３章、第５章を学ぶ）

【参考書】
特になし。授業では，講義資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
成績は，期末試験(80%)と授業内小テスト(20%)の成績による．（毎回の出席を前提とする。）期末試験では，積分および重積分について十分な計算能力が身についていること，広義積分の計算法を理解していること，積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることなどをテストする。

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり，丁寧に説明することを心がける。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of integration and its applications, which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Integration of one-variable functions
2) Integration for two-variable functions
3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are required to submit weekly assignments.
(Grading Criteria)
The overall grade for the course will be determined based on the biweekly in-class tests (20%) and the final exam (80%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎Ⅰ

佐藤　修一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
力学の基礎の分野について，物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する．物理学の公式としてではなく，ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する．

【到達目標】
基礎となる「基本法則」を礎にして，なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる．公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
２クラス制とした比較的少人数による授業を想定する．基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し，基本的な理解を得る．更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって，実践力を養う．毎回の課題は次回に解説を行い，フィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	単位と空間・時間	物理学を記述する基礎となるべき概念について
2	ベクトルと内積外積	ベクトル演算の基礎について
3	座標系	運動を記述する土俵となる様々な座標系にすいて
4	直線運動と速度・加速度	速度・加速度とその表現について
5	自由落下放物運動	重力加速度中の質点の運動学
6	３次元・極座標での運動	座標系変換したときの運動の記述について
7	ニュートンの３法則	ニュートンの３法則の理解と物理的意味について
8	張力・摩擦力	外力と運動におよぼす影響について
9	単振動	単振動の運動学について
10	運動量と力積	運動量と力積の定義，物理的意味について
11	エネルギー、仕事	エネルギーと仕事の定義，物理的意味について
12	保存力と位置エネルギー	保存力と位置エネルギーの定義，物理的意味について
13	運動エネルギー	運動エネルギーの定義，物理的意味について
14	偏微分と勾配	偏微分と勾配の定義と幾何学的意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
初回授業時に指定する．

【参考書】
力学に関する参考書は数多くあるので，自分の理解度に応じて適宜参照する事．

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ，授業の進度・内容に適宜フィードバックする．

【Outline (in English)】
（Course outline）Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".
（Learning Objectives）Based on the "fundamental laws" that form the basis of the course, students will be able to think, understand, and explain the physics logic of why things are the way they are and why we think they are the way we do. Forgetting once and for all the physics for entrance examinations in which students simply apply formulas, students will learn the fundamentals of how to think by thoroughly training how to think in a way that allows them to build up logic from scratch.
（Learning activities outside of classroom）The standard study period outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours.
（Grading Criteria /Policy）Grading will be based on the overall evaluation of the student's performance, reports, etc. (50%) and the final examination (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎Ⅰ

佐藤　修一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
力学の基礎の分野について，物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する．物理学の公式としてではなく，ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する．

【到達目標】
基礎となる「基本法則」を礎にして，なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる．公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
２クラス制とした比較的少人数による授業を想定する．基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し，基本的な理解を得る．更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって，実践力を養う．毎回の課題は次回に解説を行い，フィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	単位と空間・時間	物理学を記述する基礎となるべき概念について
2	ベクトルと内積外積	ベクトル演算の基礎について
3	座標系	運動を記述する土俵となる様々な座標系にすいて
4	直線運動と速度・加速度	速度・加速度とその表現について
5	自由落下放物運動	重力加速度中の質点の運動学
6	３次元・極座標での運動	座標系変換したときの運動の記述について
7	ニュートンの３法則	ニュートンの３法則の理解と物理的意味について
8	張力・摩擦力	外力と運動におよぼす影響について
9	単振動	単振動の運動学について
10	運動量と力積	運動量と力積の定義，物理的意味について
11	エネルギー、仕事	エネルギーと仕事の定義，物理的意味について
12	保存力と位置エネルギー	保存力と位置エネルギーの定義，物理的意味について
13	運動エネルギー	運動エネルギーの定義，物理的意味について
14	偏微分と勾配	偏微分と勾配の定義と幾何学的意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
初回授業時に指定する．

【参考書】
力学に関する参考書は数多くあるので，自分の理解度に応じて適宜参照する事．

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ，授業の進度・内容に適宜フィードバックする．

【Outline (in English)】
（Course outline）Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".
（Learning Objectives）Based on the "fundamental laws" that form the basis of the course, students will be able to think, understand, and explain the physics logic of why things are the way they are and why we think they are the way we do. Forgetting once and for all the physics for entrance examinations in which students simply apply formulas, students will learn the fundamentals of how to think by thoroughly training how to think in a way that allows them to build up logic from scratch.
（Learning activities outside of classroom）The standard study period outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours.
（Grading Criteria /Policy）Grading will be based on the overall evaluation of the student's performance, reports, etc. (50%) and the final examination (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎ＩＩ

佐藤　修一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
力学の基礎の分野について，物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する．物理学の公式としてではなく，ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する．

【到達目標】
基礎となる「基本法則」を礎にして，なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる．公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
２クラス制とした比較的少人数による授業を想定する．基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し，基本的な理解を得る．更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって，実践力を養う．毎回の課題は次回に解説を行い，フィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	抵抗と終端速度	抵抗力があった場合の運動学について
2	減衰振動強制振動	各種振動の運動学について
3	２粒子の弾性衝突	２粒子の弾性衝突の取り扱いについて
4	２次元での衝突	２次元での衝突における運動の表現について
5	重力と重力ポテンシャル	重力と重力ポテンシャル，および重力下における運動について
6	ケプラーの法則と万有引力	ケプラーの法則と万有引力について
7	慣性質量と重力質量	慣性質量と重力質量の違いと物理的意味について
8	ベクトル積	ベクトルの外積の定義と意味について
9	モーメント、角運動量	モーメント、角運動量の定義と導入
10	２粒子系の運動方程式	２粒子系の運動方程式について
11	エネルギー角運動量保存則	エネルギー角運動量保存則について
12	重心座標と相対座標	重心座標と相対座標における表現について
13	自由度と運動方程式	自由度と運動方程式の表現について
14	固定軸まわりの運動	固定軸まわりの運動について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
初回授業時に指定する．

【参考書】
力学に関する参考書は数多くあるので，自分の理解度に応じて適宜参照する事．

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ，授業の進度・内容に適宜フィードバックする．

【Outline (in English)】
（Course outline）Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".
（Learning Objectives）Based on the "fundamental laws" that form the basis of the course, students will be able to think, understand, and explain the physics logic of why things are the way they are and why we think they are the way we do. Forgetting once and for all the physics for entrance examinations in which students simply apply formulas, students will learn the fundamentals of how to think by thoroughly training how to think in a way that allows them to build up logic from scratch.
（Learning activities outside of classroom）The standard study period outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours.
（Grading Criteria /Policy）Grading will be based on the overall evaluation of the student's performance, reports, etc. (50%) and the final examination (50%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎ＩＩ

佐藤　修一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
力学の基礎の分野について，物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する．物理学の公式としてではなく，ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する．

【到達目標】
基礎となる「基本法則」を礎にして，なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる．公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
２クラス制とした比較的少人数による授業を想定する．基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し，基本的な理解を得る．更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって，実践力を養う．毎回の課題は次回に解説を行い，フィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	抵抗と終端速度	抵抗力があった場合の運動学について
2	減衰振動強制振動	各種振動の運動学について
3	２粒子の弾性衝突	２粒子の弾性衝突の取り扱いについて
4	２次元での衝突	２次元での衝突における運動の表現について
5	重力と重力ポテンシャル	重力と重力ポテンシャル，および重力下における運動について
6	ケプラーの法則と万有引力	ケプラーの法則と万有引力について
7	慣性質量と重力質量	慣性質量と重力質量の違いと物理的意味について
8	ベクトル積	ベクトルの外積の定義と意味について
9	モーメント、角運動量	モーメント、角運動量の定義と導入
10	２粒子系の運動方程式	２粒子系の運動方程式について
11	エネルギー角運動量保存則	エネルギー角運動量保存則について
12	重心座標と相対座標	重心座標と相対座標における表現について
13	自由度と運動方程式	自由度と運動方程式の表現について
14	固定軸まわりの運動	固定軸まわりの運動について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
初回授業時に指定する．

【参考書】
力学に関する参考書は数多くあるので，自分の理解度に応じて適宜参照する事．

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ，授業の進度・内容に適宜フィードバックする．

【Outline (in English)】
（Course outline）Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".
（Learning Objectives）Based on the "fundamental laws" that form the basis of the course, students will be able to think, understand, and explain the physics logic of why things are the way they are and why we think they are the way we do. Forgetting once and for all the physics for entrance examinations in which students simply apply formulas, students will learn the fundamentals of how to think by thoroughly training how to think in a way that allows them to build up logic from scratch.
（Learning activities outside of classroom）The standard study period outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours.
（Grading Criteria /Policy）Grading will be based on the overall evaluation of the student’s performance, reports, etc. (50%) and the final examination (50%).

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

基礎ドイツ語Ⅰ

沼畑　向穂

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語を初めて学ぶ学生を対象とし、基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。実際の生活場面（自己紹介、買い物、レストランでの注文など）に基づいた会話練習を通じて、実践的なドイツ語運用能力を養う。

【到達目標】
- 基礎的なドイツ語の語彙および表現を用いて、挨拶や自己紹介などの日常的な場面における簡単なコミュニケーションを行うことができる。
- 自分自身、家族・友人、および身近なトピックについて、短く簡潔なドイツ語で表現することができる。
- ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）A1レベルに相当する、基本的な表現や語句を理解し、産出することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書『シュピッツェ！ 1』に沿って授業を進める。各課では、モデル会話などの音声を実際に聞き、場面設定を理解し、その状況で必要な語彙や表現を学ぶ。その後、ペアワークやロールプレイを通じて、実際にドイツ語を運用する練習を行う。併せて文法項目についても適宜解説を行い、ワークブック等の練習問題を通じて文法知識の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Lektion 1：挨拶や自己紹介をする	アルファベット，動詞の現在人称変化（1人称・2人称），動詞の位置
第2回	Lektion 1：詳しく自己紹介する	動詞の現在人称変化（1人称・2人称），動詞の位置
第3回 4/28	Lektion 2：職業や国籍について話す	sein動詞の活用
第4回 5/12	Lektion 2：職業や国籍について話す	ja / nein / doch の使い方，並列の接続詞
第5回 5/19	Lektion 3：使用・学習言語について話す	動詞の現在人称変化（3人称）
第6回 5/26	Lektion 3：人物について紹介する	人物を表す形容詞，数詞（0～10）
第7回 6/2	Lektion 4：物について話す	定冠詞（1格・4格），不定冠詞（1格・4格），評価表現，数詞（11～100）
第8回 6/9	Lektion 4：レストランで注文する	4格目的語をとる動詞，不規則変化動詞
第9回 6/16	Lektion 5：住まいや家具について話す	数詞（101～1000），人称代名詞（1格・4格），名詞の複数形
第10回 6/23	Lektion 5：住まいや家具について話す	人称代名詞（1格・4格），名詞の複数形
第11回 6/30	Lektion 6：家族について話す	所有冠詞（1格・4格）
第12回 7/7	Lektion 6：持ち物について話す	否定冠詞（1格・4格）
第13回 7/14	期末試験	春学期に学んだ文法事項の創復習となる試験を実施する
第14回 7/21	期末試験振り返り	期末試験の解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。以下の学習をお勧めします。
- 復習と定着：授業後は必ず復習を行い、その日に学習した単語や表現を繰り返し音読・筆記して定着させること
- 辞書の活用：予習・復習の際、こまめに辞書を引く習慣をつけること
- 発音練習：教科書付属のダウンロード音声を活用し、ダイアログの発音練習（シャドーイング等）や聞き取りの練習を繰り返し行うこと

【テキスト（教科書）】
『シュピッツェ！ 1 コミュニケーションで学ぶドイツ語』（新倉真矢子・正木晶子・中野有希子著、朝日出版社、2018年）ISBN: 9784255254227

【参考書】
独和辞典を各自で必ず用意してください。紙版、電子辞書、アプリなど形態は問いません。
特定の辞書の使用を義務づけるものではありませんが、参考までに代表的なものを以下に挙げます。
・『クラウン独和辞典』(濱川・信岡 監修/新田 編修主幹、三省堂)ISBN: 9784385120119
・『アクセス独和辞典』(在間 編集責任、三修社)ISBN: 9784384060003
また、自習用の文法書として以下を紹介します。書店等で実際に手に取り、自分に合うと感じたものを選ぶことをお勧めします。
・『NHK出版 これならわかる ドイツ語文法 入門から上級まで』(鷲巣由美子 著、NHK出版)ISBN: 9784140351390
そのほか、ドイツ語学習やドイツ文化に関するウェブサイト等については、授業内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
- テスト70%：期末試験を中心に、語彙・表現・文法・読解／聴解の到達度を評価する
- 平常点30%：授業内での発言、ペアワーク・グループワークへの積極的な参加、小テスト等

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
音声再生機器（スマートフォン、PC等）：教科書付属のダウンロード音声を自主学習で利用できる環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】
秋学期の「基礎ドイツ語 II」を継続して履修することを推奨します。
課題提出等において生成AIを利用した場合は、以下の3点を必ず明記してください。
- どの箇所で使用したか
- どのような目的で使用したか
- 得られた結果をどのように修正・採用したか

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This course is designed for students with no prior knowledge of German. The main focus of the course is to develop basic communicative competence in German through the understanding and use of familiar everyday expressions and basic phrases, such as self-introductions, shopping, and ordering at restaurants.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the semester, students will be able to:

- Use basic German vocabulary and sentence patterns to perform simple communicative tasks in everyday situations, such as greetings and self-introductions.
- Describe themselves, their family members, and familiar topics using short, simple German sentences.
- Understand and produce familiar expressions and basic phrases at a level equivalent to CEFR A1.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to spend approximately two hours per week on self-study (one hour each for preparation and review). The following learning activities are recommended:
Review and Reinforcement: Students should review the material covered in each session and reinforce their learning by repeatedly reading aloud and writing the new vocabulary and expressions.
Effective Use of Dictionaries: Students are encouraged to develop the habit of regularly consulting a dictionary to support their independent learning.
Pronunciation and Listening Practice: Using the audio materials provided with the textbook, students should engage in repeated practice through dialogue exercises (e.g., shadowing) and listening comprehension activities.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Final Exam: 70%
Class Participation and Performance: 30% (Includes active engagement in pair and group work, homework, quizzes, and other assignments)

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

基礎ドイツ語ＩＩ

沼畑　向穂

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、原則として「基礎ドイツ語Ｉ」を履修済みの学生を対象とし、基礎的なドイツ語コミュニケーション能力の向上を目指す。予定を立てる、道を尋ねる、過去の出来事について述べるなど、実際の生活場面に基づいた会話練習を通じて、実践的なドイツ語運用能力を養う。

【到達目標】
- 基礎的なドイツ語の語彙および表現を用いて、挨拶や自己紹介などの日常的な場面における簡単なコミュニケーションを行うことができる。
- 自分自身、家族・友人、および身近なトピックについて、短く簡潔なドイツ語で表現することができる。
- ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）A1レベルに相当する、基本的な表現や語句を理解し、産出することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書『シュピッツェ！ 1』に沿って授業を進める。各課では、モデル会話などの音声を実際に聞き、場面設定を理解し、その状況で必要な語彙や表現を学ぶ。その後、ペアワークやロールプレイを通じて、実際にドイツ語を運用する練習を行う。併せて文法項目についても適宜解説を行い、ワークブック等の練習問題を通じて文法知識の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Lektion 7：趣味について話す	不規則動詞の現在人称変化
第2回	Lektion 7：余暇活動について話す	頻度の表現，曜日
第3回 4/28	Lektion 8：贈り物について話す	所有冠詞，人称代名詞（3格）
第4回 5/12	Lektion 8：身につけている物について話す	数詞（1001～）
第5回 5/19	Lektion 9：願望や頼み事を述べる	話法の助動詞
第6回 5/26	Lektion 9： 規則や予定、意思について話す	話法の助動詞，未来形
第7回 6/2	Lektion 10：物の位置を説明する	時・場所を表す前置詞
第8回 6/9	Lektion10：道順を説明する	時・場所を表す前置詞
第9回 6/16	Lektion 11：1日の過ごし方について話す	分離動詞
第10回 6/23	観光の予定を立てる	分離動詞
第11回 6/30	Lektion 12：四季・月・天気について述べる	四季，月名，天候表現
第12回 7/7	Lektion 12：過去のことについて話す	現在完了形
第13回 7/14	期末試験	秋学期に学んだ文法事項の創復習となる試験を実施する
第14回 7/21	期末試験振り返り	期末試験の解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。以下の学習をお勧めします。
- 復習と定着：授業後は必ず復習を行い、その日に学習した単語や表現を繰り返し音読・筆記して定着させること
- 辞書の活用：予習・復習の際、こまめに辞書を引く習慣をつけること
- 発音練習：教科書付属のダウンロード音声を活用し、ダイアログの発音練習（シャドーイング等）や聞き取りの練習を繰り返し行うこと

【テキスト（教科書）】
『シュピッツェ！ 1 コミュニケーションで学ぶドイツ語』（新倉真矢子・正木晶子・中野有希子著、朝日出版社、2018年）ISBN: 9784255254227

【参考書】
独和辞典を各自で必ず用意してください。紙版、電子辞書、アプリなど形態は問いません。
特定の辞書の使用を義務づけるものではありませんが、参考までに代表的なものを以下に挙げます。
・『クラウン独和辞典』(濱川・信岡 監修/新田 編修主幹、三省堂)ISBN: 9784385120119
・『アクセス独和辞典』(在間 編集責任、三修社)ISBN: 9784384060003
また、自習用の文法書として以下を紹介します。書店等で実際に手に取り、自分に合うと感じたものを選ぶことをお勧めします。
・『NHK出版 これならわかる ドイツ語文法 入門から上級まで』(鷲巣由美子 著、NHK出版)ISBN: 9784140351390
そのほか、ドイツ語学習やドイツ文化に関するウェブサイト等については、授業内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
- テスト70%：期末試験を中心に、語彙・表現・文法・読解／聴解の到達度を評価する
- 平常点30%：授業内での発言、ペアワーク・グループワークへの積極的な参加、小テスト等

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
音声再生機器（スマートフォン、PC等）：教科書付属のダウンロード音声を自主学習で利用できる環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】
春学期の「基礎ドイツ語I」を履修済みであることを前提に授業を進めます。
課題提出等において生成AIを利用した場合は、以下の3点を必ず明記してください。
- どの箇所で使用したか
- どのような目的で使用したか
- 得られた結果をどのように修正・採用したか

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】

This course is designed for students who have completed “Basic German I” and aims to further develop basic communicative competence in German through the understanding and use of familiar everyday expressions and basic phrases, such as making plans, asking for directions, and describing past experiences.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the semester, students will be able to:
- Use basic German vocabulary and sentence patterns to perform simple communicative tasks in everyday situations, such as greetings and self-introductions.
- Describe themselves, their family members, and familiar topics using short, simple German sentences.
- Understand and produce familiar expressions and basic phrases at a level equivalent to CEFR A1.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to spend approximately two hours per week on self-study (one hour each for preparation and review). The following learning activities are recommended:
Review and Reinforcement: Students should review the material covered in each session and reinforce their learning by repeatedly reading aloud and writing the new vocabulary and expressions.
Effective Use of Dictionaries: Students are encouraged to develop the habit of regularly consulting a dictionary to support their independent learning.
Pronunciation and Listening Practice: Using the audio materials provided with the textbook, students should engage in repeated practice through dialogue exercises (e.g., shadowing) and listening comprehension activities.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Final Exam: 70%
Class Participation and Performance: 30% (Includes active engagement in pair and group work, homework, quizzes, and other assignments)

LANf100LC（フランス語 / French language education 100）

基礎フランス語Ⅰ

國末　薫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・フランス語の発音、基本的な文法項目、構文タイプ、基本的な語彙や慣用表現を学ぶ。
・フランス語で自分のこと、他者のこと、身近なことについてやりとりをする。

【到達目標】
①フランス語の発音、基本的な文法項目、構文タイプ、基本的な語彙や慣用表現を理解し、応用することができる。
②フランス語で自分のこと、他者のこと、身近なことについてやりとりを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
フランス語初学者を対象とする授業です。教科書に沿ってフランス語の初級文法を学習します。ペアワーク、グループワークを通じて、授業内でフランス語を使用します。
授業で課した課題については次回の授業で確認、解説を行います。教科書の１～２課ごとに、語彙・文法の習得を確認するための小テストを実施し、文法と語彙の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、Leçon 0	授業の進め方の説明。フランス語で使う文字と記号、挨拶。
第2回	Leçon 1	アルファベと数字、発音②
第3回	Leçon 2	名詞の性と数、冠詞、提示の表現Ⅰ。
第4回	Leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir、提示の表現Ⅱ。
第5回	Leçon 4	形容詞の性数一致、否定形の作り方。
第6回	Leçon 5	第一群規則動詞の直説法現在形、疑問文と答え方。
第7回	0～5 課の復習、第一群規則動詞の例外、自己紹介の練習	確認の試験を行った後、補足と自己紹介の口頭練習を行う。
第8回	Leçon 6	指示形容詞、所有形容詞、第二群規則動詞の直説法現在形。
第9回	Leçon 7	疑問形容詞、付加形容詞、形容詞の例外。
第10回	Leçon 8	aller, venir の直説法現在形、前置詞の縮約、中性代名詞 y 。
第11回	Leçon 9	疑問代名詞Ⅰ、疑問副詞、faire, prendre, vouloir。
第12回	Leçon 10	比較級と最上級、強勢形人称代名詞。
第13回	5～10課の復習。	練習問題で5～10課の復習をする。
第14回	前期の復習	前期の復習と確認の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
各授業で学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題に取り組みます。各回の授業終わりに、学習した語彙・文法事項を復習し、小テストの対策をします。

【テキスト（教科書）】
森　繁『ラ・フォーレ　三訂版 ーフランス語基礎文法ー』朝日出版社（2025年）
2025年発行の三訂版であることを確認し、購入してください。

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（ペアワーク、グループワークへの参加、発音練習への取り組みなど）20%、小テスト・課題等 20%、試験 60%

【学生の意見等からの気づき】
本年度から新しく担当するため、フィードバックはありません。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to understand basic French grammar and to get French expressions.
The goals of this course are to read, write, and speak in French. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting and to review the material from each class in preparation for short quizzes. Your study time will be one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Examinations 60%, short quizzes 20% , in-class contribution 20%

LANf100LC（フランス語 / French language education 100）

基礎フランス語ＩＩ

國末　薫

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・フランス語の発音、基本的な文法項目、構文タイプ、基本的な語彙や慣用表現を学ぶ。
・フランス語で自分のこと、他者のこと、身近なことについてやりとりをする。

【到達目標】
①フランス語の発音、基本的な文法項目、構文タイプ、基本的な語彙や慣用表現を理解し、応用することができる。
②フランス語で自分のこと、他者のこと、身近なことについてやりとりを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
フランス語初学者を対象とする授業です。教科書に沿ってフランス語の初級文法を学習します。ペアワーク、グループワークを通じて、授業内でフランス語を使用します。
授業で課した課題については次回の授業で確認、解説を行います。教科書の各課ごとに、語彙・文法の習得を確認するための小テストを実施し、文法と語彙の定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習、Leçon 10	春学期に習った内容を復習します、Leçon 10 の復習。
第2回	Leçon 11	命令法、非人称表現、中性代名詞 en。
第3回	Leçon 12	目的語人称代名詞。
第4回	Leçon 13	直説法複合過去。
第5回	Leçon 14	代名動詞。
第6回	Leçon 15	関係代名詞Ｉ、指示代名詞。
第7回	Leçon 10〜15 の復習	確認中間試験を行います。
第8回	Leçon 16	直説法半過去。
第9回	Leçon 17	受動態、現在分詞とジェロンディフ。
第10回	Leçon 18	直説法単純未来、中性代名詞 le。
第11回	Leçon 19	条件法現在
第12回	Leçon 20	接続法現在
第13回	Leçon 16〜20の復習、タスク活動	復習のために確認問題を解き、会話のタスク活動。
第14回	後期の復習	後期の復習と確認の試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
各授業で学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題に取り組みます。各回の授業終わりに、学習した語彙・文法事項を復習し、小テストの対策をします。

【テキスト（教科書）】
森　繁『ラ・フォーレ　三訂版 ーフランス語基礎文法ー』朝日出版社（2025年）
2025年発行の三訂版であることを確認し、購入してください。

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（ペアワーク、グループワークへの参加、発音練習への取り組みなど）20%、小テスト・課題等 20%、試験 60%

【学生の意見等からの気づき】
本年度から新しく担当するため、フィードバックはありません。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to understand basic French grammar and to get French expressions.
The goals of this course are to read, write, and speak in French. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting and to review the material from each class in preparation for short quizzes. Your study time will be one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Examinations 60%, short quizzes 20% , in-class contribution 20%

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

基礎中国語Ⅰ

渡辺　浩司

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では，教科書を使って，文法を中心に初級中国語の前半部分を学びます。受講者が中国語力の基礎（言語の規則・「書く」力・「話す」力・「聞く」力）が習得できることを目指します。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。なお，本授業は，秋学期開講の「基礎中国語Ⅱ」でも同じ教科書を使います。

【到達目標】
中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（発音篇、本篇：第１課～第7課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。
教科書のドリルなどを利用した課題や最終授業で実施する期末テストは、希望者に、後日、個別の学習ポイントを指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、中国語の発音(1)	授業の進め方について、発音(1)：解説文の説明と発音練習。練習1。
第2回	中国語の発音(2)	発音(2)：解説文の説明と発音練習。練習2。
第3回	中国語の発音(3)	発音(3)：解説文の説明と発音練習。練習3。
第4回	中国語の発音(4)	発音(4)：解説文の説明と発音練習。練習4。
第5回	中国語の発音(5)	発音(5)：解説文の説明と発音練習。練習5。
第6回	中国語の文法と語彙(1)	第1課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第7回	中国語の文法と語彙(2)	第2課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第8回	中国語の文法と語彙(3)	第3課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第9回	中国語の文法と語彙(4)	第4課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第10回	中国語の文法と語彙(5)	第5課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第11回	中国語の文法と語彙(6)	第6課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第12回	中国語の文法と語彙(7)	第7課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第13回	前期授業内容の復習	第1課～第7課の復習と補足。
第14回	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには，なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書の出版社が公開している音声アプリも活用して，授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習やリスニング練習をしてみましょう。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著，朝日出版社，本体価格2500円）。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の点数（70％）と平常点（30％）を総合して評価します。欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない。（遅刻、早退は二回で欠席一回とする）

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】
「学習支援システム」を利用して課題を出します、また、教科書の出版社が公開している音声アプリをダウンロードするのに、インターネットに接続できる環境・機器が必要です。

【その他の重要事項】
「学習支援システム」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This is a course for students studying Chinese for the first time. Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language.
At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:
- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of short texts.
- understand and use simple conversational expressions.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%.

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

基礎中国語Ⅰ

景　旻

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では，教科書を使って，初級中国語の前半部分を学びます。受講者が中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）を習得できることを目指します。中国語の発音と表記法を学び，漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。なお，本授業は，後期開講の「基礎中国語II」でも同じ教科書を使います。

【到達目標】
受講者が中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法などを理解し，学習した中国語が聞いてもわかるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（発音篇、本篇：第１課～第7課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。また，スマホ、ノート PC などを使う書き読みの練習，アプリを使う録音と発音の検証など，中国語を活用する方法も適宜紹介します。
毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・中国語とは？ 中国語の発音(1)	授業の進め方について・中国語について 発音(1)：解説文の説明と発音練習。練習①～⑤。
第2回	中国語の発音(2)	発音(2)：解説文の説明と発音練習。練習①～⑤。
第3回	中国語の発音(3)	発音(3)：解説文の説明と発音練習。練習①～⑤。
第4回	中国語の発音(4)	発音(4)：解説文の説明と発音練習。練習①～⑥。
第5回	中国語の発音(5)	発音(5)：解説文の説明と発音練習。練習①～⑦。
第6回	中国語の文法と語彙(1)	第1課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第7回	中国語の文法と語彙(2)	第2課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第8回	中国語の文法と語彙(3)	第3課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第9回	中国語の文法と語彙(4)	第4課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第10回	中国語の文法と語彙(5)	第5課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第11回	中国語の文法と語彙(6)	第6課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第12回	前期授業内容の復習(1)	第1課～第6課の復習と補足(1)。
第13回	前期授業内容の復習(2)	第1課～第6課の復習と補足(2)。
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
語学学習は，日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて，日頃から親しんで欲しいと思います。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著，朝日出版社，本体：2300円）。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。平常点30%（出席・受講態度・発声音量），期末試験70%を総合して評価します。
初回授業のガイダンスで平常点（特に出席）を計算する方法を紹介しますので，初回授業を欠席となる方は，必ず後で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
こまめに輪読や復習することが有効だと思われるので，本授業でも行う予定です。

【Outline (in English)】
This class is mainly for students who are learning Chinese for the first time. In the class, we aim to acquire basic Chinese skills ("speaking", "listening", and "writing") while learning the first half of elementary Chinese using textbooks. Learn Chinese pronunciation and notation, and build a foundation for enjoying the world of sounds that are not limited to kanji. In addition, in order to deepen the understanding of Chinese culture, we will introduce Chinese culture as appropriate.
The same textbook will be used for this class as the "Fundamental Chinese II" in the autumn semester.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Evaluation will be based on a comprehensive assessment: 30% from regular performance (attendance, class participation, etc.) and 70% from the final exam.

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

基礎中国語ＩＩ

景　旻

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では，教科書を使って，初級中国語の後半部分を学びます。中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）など四つの技能の習得を目指します。中国語の発音と表記法をしっかりとマスターし，漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。なお，本授業は，前期開講の「基礎中国語I」と 同じ教科書を使います。

【到達目標】
中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得し，聞いてもわかるようになることを到達目標とします。また，インターネットを利用して中国語で情報収集や活用できることが望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（本篇：第7課～第14課、及び第15課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，基本的な実用会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習、作文練習を行い，基礎力を養います。適宜，視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。また，スマホ、ノート PC などを使う書き読みの練習，アプリを使う録音と発音の検証など，中国語を活用する方法も適宜紹介します。毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち，よく間違っていた箇所などは次週解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・前期授業内容の復習	授業の進め方について・前期授業内容の復習
第2回	中国語の文法と語彙(1)	第7課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第3回	中国語の文法と語彙(2)	第8課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第4回	中国語の文法と語彙(3)	第9課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第5回	中国語の文法と語彙(4)	第10課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第6回	中国語の文法と語彙(5)	第11課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第7回	中国語の文法と語彙(6)	第12課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第8回	中国語の文法と語彙(7)	第1課～第10課の復習＋中国語検定対策(1)。
第9回	中国語の文法と語彙(8)	第1課～第10課の復習＋中国語検定対策(2)。
第10回	中国語の文法と語彙(9)	第13課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第11回	中国語の文法と語彙(10)	第14課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第12回	後期授業内容の復習(1)	第7課～第14課の復習と補足(1)。
第13回	後期授業内容の復習(2)	第7課～第14課の復習と補足(2)。
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
語学学習は，日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて，日頃から親しんで欲しいと思います。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著，朝日出版社，本体：2300円）。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。平常点30%（出席・受講態度・発声音量），期末試験70%を総合して評価します。
初回授業のガイダンスで平常点（特に出席）を計算する方法を紹介しますので，初回授業を欠席となる方は，必ず後で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
こまめに輪読や復習することが有効だと思われるので，本授業でも行う予定です。

【Outline (in English)】
This class is mainly for students who have learned "fundamental Chinese I". In class, we aim to acquire basic Chinese skills ("speaking", "listening", and "writing" skills) while learning the second half of elementary Chinese using textbooks. By thoroughly mastering the pronunciation and notation of Chinese, we will lay the foundations for enjoying the world of sounds that are not limited to kanji. In addition, in order to deepen the understanding of Chinese culture, we will introduce Chinese culture as appropriate.
This class will use the same textbook as "fundamental Chinese I" in the first semester.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Evaluation will be based on a comprehensive assessment: 30% from regular performance (attendance, class participation, etc.) and 70% from the final exam.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
1). Students will learn how to speak with others in defined social interactions more effectively and appropriately. 2). Students will have a wider range of vocabulary covering a number of thematic areas and be able to use the grammatical structures covered in the course to achieve objective goals and express their own ideas and opinions more successfully. 3). Students will be able to use reference sources and feedback to better overcome weaknesses and use strengths in their use of English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The class uses a textbook organized in thematic units with a focus on specific grammar structures and appropriate functional language. The class will comprise of frequent pair work and group work and listening tasks during class to familiarise students with the use of vocabulary and grammar structures in English. The class will also include realistic listening comprehensions to improve listening skills. Role-play tests will be used to evaluate speech skills, and homework assignments will be set to evaluate progress in writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course guidelines &orientation	Course goals and objectives; course procedures for assignments; grading criteria; suggested study materials and methods; course rules.
2	Who are you?	Present Simple and Present Continuous State verbs People and relationships; personality adjectives
3	Good People	Jobs; work Verb Patterns
4	Let's Talk!	Starting, maintaining and ending conversations Conversation topics
5	What happened?	Narrative tenses *-ed* / *-ing* adjectives describing emotional states
6	Storytelling	Past Simple and Present Perfect Story words; film genres
7	Review &Mid-term Test	Review &Mid-term Test
8	A likely story	Apologising and giving reasons
9	Facts and figures	Question forms Knowledge; verbs and nouns
10	Decisions	Future plans and intentions Making decisions
11	Can I ask you ...?	Making polite enquiries
12	Success	Modals for rules and advice
13	Top Gear: Nepal	Present Perfect and Superlatives
14	Final Review Test: Summary and Review	Final Review Test: Summary and Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Short in-class testing of each unit will be carried out utilizing hard paper copy tests and the Learning Management System. Preparation and practice exercises will be set to consolidate learning of target language. Work to be completed outside class should take students between one hour and ninety minutes per week.

【テキスト（教科書）】
Speakout 3rd edition (B1), Students' Book and e-book with online practice - Antonia Clare &JJ Wilson (Pearson)
ISBN 978-1-293-5953-3) c.￥ 3,500

【参考書】
No set reference work

【成績評価の方法と基準】
Mid-term Review Test 30%
Class participation 20%
Final Review Test 50%

【学生の意見等からの気づき】
Student preferences regarding the style of language practice activities will be more closely assessed to determine the most suitable for students' language learning styles.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need their PC or phone to access the Learning Management System for tests

【その他の重要事項】
Attendance Policy
出席ポリシー
３分の１以上または5回以上の理由なき欠席で、成績を不合格（E）とします
More than one-third or five total absences without a valid reason will result in a failing grade (E).

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
GRADING CRITERIA
Mid-term Review Test 30%
Class participation 20%
Final Review Test 50%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

文章作法

矢口　貢大

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とします。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学んでいきます。最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とします。

【到達目標】
①わかりやすく正確な日本語の書き方を習得する。
②議論を構築し、文章で表現できるようになる。
③学術レポートが書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
文章作法の基礎については講義形式で伝えます。不明点があれば積極的に質問してください。授業では、小テスト、400字作文、課題文などの作成を随時行ないます。また、履修者同士で評価や議論をすることで、文章の書き方を学んでいきます。作成した課題のフィードバックは、Hoppiiの課題返却機能を用いる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の目標、成績評価についての説明
第2回	文章作法の基礎	・文章の書き方 ・小テスト（添削）
第3回	自己紹介文を書く	・400字程度の作文
第4回	課題の返却と講評	・400字程度の作文の添削修正
第5回	要約の練習	・要約の仕方 ・要約の作成
第6回	レポートの書き方（基礎編）	・レポートとは何か ・400字程度の作文
第7回	論文作法	・課題の返却 ・論文とは何か
第8回	レポートの書き方（発展編）	・レポートのテクニック ・400字作文
第9回	議論の方法	・課題の返却 ・議論の仕方
第10回	意見表明の実践（1）	・課題文の作成
第11回	意見表明の実践（2）	・課題文の返却 ・ピアレビュー
第12回	情報収集と情報処理	・文献の調べ方 ・引用の仕方 ・注 ・参考文献
第13回	意見表明の実践（3）	・前回の復習 ・前回をふまえたうえでの課題文の作成
第14回	意見表明の実践（4）	・課題文の返却 ・ピアレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
作文、課題文の作成を宿題にします。
また作文のテーマに関する文献を図書館等で調べます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。講義ごとにプリントを配布します。

【参考書】
木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994年
戸田山和久『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』NHKブックス、2012年
野内良三『日本語作文術』中公新書、2010年

【成績評価の方法と基準】
配分：
平常点（小テスト・400字作文）（30％）
課題文（30％）
レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
授業内でパソコンを使用する予定です。

【その他の重要事項】
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to provide students with writing skills to express themselves clearly and persuasively. Students will improve academic writing skills by reading articles and essays critically, editing grammatical and rhetorical errors, learning how to compose an argument, and developing research skills.
Learning activities outside of class: Students will be required to research and write a manuscript for the paper.
Grading Criteria: class participation (quizzes and short essays, 20%), assigned writing (40%), final essay (40%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
After taking this class, students will be able to communicate more effectively with others in everyday social situations, and also communicate opinions accurately in discussion with others.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The class uses a textbook organized in thematic units with a focus on specific grammar structures and appropriate functional language. The class will comprise frequent pair work and group work and listening tasks during class to familiarise students with the use of vocabulary and grammar structures in English. The class will also include realistic listening comprehensions to improve listening skills. Role-play tests will be used to evaluate speech skills, and homework assignments will be set to evaluate progress in writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class rules and grading criteria
2	Fake News	Relative Clauses News and Social Media
3	Newsmakers	Reported Speech Social Issues and the Environment
4	The future of News	*will*, *might* and *be going to* for predictions
5	Be creative	Comparatives and Superlatives Word building
6	Why do you think that?	Asking for and giving opinions and reasons Extreme adjectives
7	Mid-Semester Review Test	Mid-Semester Review Test
8	Good tourists	First and second conditionals Travel and Tourism
9	Globetrotters	Quantifiers
10	Technology	Talking about the effect on technology on society (present perfect + time markers)
11	You must see ...!	Making and responding to recommendations Describing places
12	Video everywhere	Active and Passive Emphasizing important information
13	FINAL REVIEW TEST	FINAL REVIEW TEST
14	WRAP-UP AND QUIZ	WRAP-UP AND QUIZ Activities to reinforce language taught in the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Short in-class testing of each unit will be carried out utilizing hard paper copy tests and the Learning Management System.Preparation and practice exercises will be set to consolidate learning of target language. Work to be completed outside class should take students between one hour and ninety minutes per week.

【テキスト（教科書）】
Speakout 3rd edition (B1), Students' Book and e-book with online practice - Antonia Clare &JJ Wilson (Pearson)
ISBN 978-1-293-5953-3) c.￥ 3,500

【参考書】
Online audio and video resources are available to students at www.english.com/speakout

【成績評価の方法と基準】
Mid-term Review Test 50%
Class participation 20%
Final Review Test 50%

【学生の意見等からの気づき】
Student preferences for class activities practicing language will be more closely assessed to fit activities to those preferences.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a paper or electronic dictionary to class.Students may use a dictionary on their smartphone, but any use of a smartphone unconnected to the lesson will be penalised and result in a lower grade.

【その他の重要事項】
Attendance Policy
出席ポリシー
３分の１以上または5回以上の理由なき欠席で、成績を不合格（E）とします
More than one-third or five total absences without a valid reason will result in a failing grade (E).

【Outline (in English)】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
GRADING CRITERIA
Mid-term Review Test 50%
Class participation 20%
Final Review Test 50%

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

基礎中国語Ⅰ

杉本　公子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。受講者が中国語の発音と表記法を学び、漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。そして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の基礎力養成を目指します。
漢字を使う別の言語を知ることで、他者理解・自己理解の幅を広げることが目的です。

【到達目標】
受講者が以下の学力を習得できることを目標とします。
(1)正確な発音を身につける。
(2)発音表記が正確に読める。
(3)基礎的な文法を理解する。
(4)初歩的な会話ができる。
(5)基礎的な作文ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
正確な発音、発音の表記法、簡体字と、基本的な文法と語彙、初歩的な会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習を行い、基礎力を養います。また、適宜、中国文化の紹介も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について
	発音(1)	発音(1)：発音表記・声調・単母音
第2回	発音(2)	発音(2)：複母音・声調記号
第3回	発音(3)	発音(3)：子音・無気音・有気音・そり舌音
第4回	発音(4)	発音(4)：鼻音・声調変化
第5回	発音(5)	発音(5)：発音表記の規則・数字・声調の組み合わせ
第6回	第1課	第1課：人称代名詞・動詞述語文・諾否疑問文
第7回	第2課	第2課：指示代詞・連体修飾語・疑問詞疑問文
第8回	第3課	第3課：助数詞・所有・「いくつ」
第9回	第4課	第4課：形容詞述語文・反復疑問文・「～は？」
第10回	第5課	第5課：場所の指示代詞・存在・「～したい」
第11回	第6課	第6課：日時・名詞述語文・変化・提案・推測
第12回	第1～6課復習	第1～6課：復習
第13回	期末試験1	筆記・リスニング
第14回	期末試験2	音読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには、なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書付属の音声教材も活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などについて、発音練習やリスニング練習をしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011年。

【参考書】
『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』、相原茂・石田知子・戸沢市子著、同学社、2016年。

【成績評価の方法と基準】
出席を基本とし、平常点（受講態度・発声音量）10%、筆記試験70%、音読試験20%で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
予習内容の案内をします。

【Outline (in English)】
Basic Chinese 1
[Course Outline] A first-year Chinese course for students with no background in Chinese. Students will learn to read and write Chinese phonetic alphabet and simplified Chinese characters. Special emphasis will be placed on developing accurate pronunciation.
[Learning Objectives] The goal is to develop the basics of four language skills: listening, speaking, reading, and writing.
[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.
[Grading Criteria] Term-end examination: 90% (written test: 70%, oral reading: 20%), in-class contribution: 10%.

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

基礎中国語II

杉本　公子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、主に初級中国語の前半を学んだ学生を対象としています。受講者が中国語の発音と表記法をしっかりとマスターし、漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。そして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の基礎力養成を目指します。
漢字を使う別の言語を知ることで、他者理解・自己理解の幅を広げることが目的です。

【到達目標】
受講者が以下の学力を習得できることを到達目標とします。
(1)発音が正確にできる。
(2)基礎的な文法を理解する。
(3)初歩的な会話ができる。
(4)基礎的な作文ができる。
(5)学習した内容のまとまった中国語が聞き取れる。
(6)希望者は、11月後半に実施される中国語検定（準4級）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
正確な発音、発音の表記法、簡体字と、基本的な文法と語彙、初歩的な会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習を行い、基礎力を養います。また、必要に応じて中国語検定対策も行います。適宜、中国文化の紹介を行います。
課題の提出とフィードバックは、「学習支援システム」と授業内で、内容ごとに分けて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 検定試験案内 第7課(1)	授業の進め方について 中国語検定試験案内 第7課(1)：連動文・時間量・前置詞
第2回	第7課(2) 第8課(1)	第7課(2)：連動文・時間量・前置詞 第8課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文
第3回	第8課(2) 第9課(1)	第8課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文 第9課：比較・二重目的語・様態補語
第4回	第9課(2) 第10課(1)	第9課：比較・二重目的語・様態補語 第10課：完了・「〜なのだ」・「できる」
第5回	第10課(2)	第10課：完了・「〜なのだ」・「できる」 リスニング練習
第6回	第11課(1)	第11課：動作の進行・状態の持続・「はやく〜」
第7回	第11課(2) 第12課(1)	第11課：動作の進行・状態の持続・「はやく〜」 リスニング練習 第12課：方向補語・結果補語・動量補語
第8回	第12課(2)	第12課：方向補語・結果補語・動量補語 リスニング練習
第9回	第13課(1)	第13課：無主語文・「少しも〜」・「すぐに〜」・「ますます」
第10回	第13課(2)	第13課：無主語文・「少しも〜」・「すぐに〜」・「ますます」 リスニング練習
第11回	第14課(1)	第14課：「まるで〜」・禁止・「少し〜」・「〜しながら」
第12回	第14課(2)	第14課：「まるで〜」・禁止・「少し〜」・「〜しながら」 リスニング練習
第13回	期末試験1	筆記・リスニング
第14回	期末試験2	音読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには、なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書付属の音声教材も活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習、リスニング練習をしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011年。

【参考書】
『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』、相原茂・石田知子・戸沢市子著、同学社、2016年。
中国語検定協会ホームページ。

【成績評価の方法と基準】
出席を基本とし、平常点（受講態度・発声音量）10％、課題内容5％、試験85％（筆記65％、音読20％）として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】
予習内容の案内をします。

【Outline (in English)】
Basic Chinese 2
[Course Outline] Continuation of Basic Chinese 1 held during the spring semester. Emphasis will be given to the acquisition of basic grammatical structures.
[Learning Objectives] The goal is to develop the basics of four language skills: listening, speaking, reading, and writing.
[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.
[Grading Criteria] Term-end examination: 85% (written test: 65%, oral reading: 20%), assignments: 5%, in-class contribution: 10%.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

中級英語I

KOPROWSKI　MARK

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
This one-semester course will focus on developing vocabulary, listening and conversation skills in English. By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Developing pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and functional language in order to have more natural and fluent conversations. Pair work and group work will emphasized. Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.
Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction and explanation	Get to know your teacher and each other. Learn what is expected of you in class.
Week 2	Unit 1 It's good to meet you.(Introducing Yourself)	-Vocabulary: Personal information -Pronunciation: Sentence Stress
Week 3	Unit 2 What are you into? (Taking about Hobbies and Interests)	-Vocabulary: Hobbies and interests -Pronunciation: Contractions
Week 4	Unit 3 Who're they (Talking about Friends and Family)	-Vocabulary: Relationships -Pronunciation: Reduction /t/
Week 5	Unit 4 What shall we watch Talking about Movies and TV	-Vocabulary: Movies and TV Shows -Pronunciation: /☒i:/ and /si:/
Week 6	Unit 7 I'm hungry! (Talking about Food)	-Vocabulary: Food and drink -Pronunciation: Linking
Week 7	MID-TERM SPEAKING EXAMINATION: UNITS 1, 2, 3, 4, 7	10-minute speaking test (in small groups)
Week 8	Unit 8 How do you stay fit? (Talking about health?)	-Vocabulary: Sports, exercise and health -Pronunciation: Rising and falling intonation
Week 9	Unit 9 I don't feel so good (Talking about illness)	-Vocabulary: Health and illness -Pronunciation: Reduction /p/
Week 10	Unit 12 Are you going anywhere? (Talking about Travel and Vacations)	-Vocabulary: Travel and vacations -Pronunciation: Word stress
Week 11	Unit 13 I've never done that before (Talking about experiences)	-Vocabulary: Past experiences -Pronunciation: Reduction /g/
Week 12	Unit 14 I'm at work (Talking about Work and Jobs)	-Vocabulary: Work and jobs -Pronunciation: Sentence stress
Week 13	Unit 15 Let's Meet in Paris! (Talking about Future Plans)	-Vocabulary: Future plans -Pronunciation: Chunking
Week 14	FINAL SPEAKING EXAMINATION (UNITS 8, 9, 12, 13, 14, 15)	10-minute speaking test (in small groups)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit. Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
Complete Communication Book 2
Authors: James Bury, Anthony Sellick, and Kaori Horiuchi
(Seibido, 2022, ISBN 9784791972425)

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Class participation (speaking English, taking notes): 25%

Homework assignments: 25%
Mid-term examination (speaking test): 25%
Final examination (speaking test): 25%

【学生の意見等からの気づき】
None.

【学生が準備すべき機器他】
None.

【その他の重要事項】
Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work.
The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, ranging from familiarity with daily conversation to explaining topics related to their own interests or fields of study. At the same time, the course seeks to deepen students' understanding of foreign cultures, an important skill for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on students' future needs and interests, as well as the ability to apply English to research and work, in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.
Students are expected to complete textbook homework assignments outside of class. These include vocabulary study, listening for specific information in dialogues, learning useful conversational language, studying and practicing natural pronunciation features, and preparing for class discussions related to each unit topic. Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.
The semester grade will be determined as follows:
Class participation (speaking English, taking notes): 25%
Homework assignments: 25%
Midterm examination (speaking test): 25%
Final examination (speaking test): 25%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

中級英語I

染谷　昌弘

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、さまざまなコミュニケーションニーズに応える技能を養成することを目的とする。日常生活から社会的な場面における会話、専門領域のディスカッションや研究内容のプレゼンテーションまで、幅広く対応できるコミュニケーション力の習得とともに、研究や実務につながる英語力・応用力の涵養を目指す。そのために、グループによるディスカッションを通して、問題解決や、さまざまな情報源からの情報収集・要約から、結果や結論を伝えられるようにするために必要な語彙力、文法力や論理構成に基づく文章作成力、簡単な表現で言い換えられる能力の習得に重点を置く。学生のコミュニケーション力をベースに、他技能との統合も含め、効果的な教授方法により実施する。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
to be able to listen what the speakes say completely, to be able to speak what you want to say in English cleary, and to improve your critical thinking about each topic and express it in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
One unit will be completed in three classes. Every unit, students are given Quizes, should submit several assignments. And in the next class, students will be given the feedback on them.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Class Overview Discussing a Fictional Story
2	Unit6 Design with Purpose	A Vocabulary, A Listening, A Speaking
3	Unit6 Design with Purpose	A Speaking, Video, B Vocabulary
4	Unit6 Design with Purpose	B Listening, B Speaking, Review, Final Task
5	Unit7 Inspired to Project	A Vocabulary, A Listening, A Speaking
6	Unit7 Inspired to Project	A Speaking, Video, B Vocabulary
7	Unit7 Inspired to Project	B Listening, B Speaking, Review, Final Task
8	Unit8 Traditional and Modern Medicine	A Vocabulary, A Listening, A Speakin
9	Unit8 Traditional and Modern Medicine	A Speaking, Video, B Vocabulary
10	Unit8 Traditional and Modern Medicine	B Listening, B Speaking, Review, Final Task
11	Unit9 Uncovering the Past	A Vocabulary, A Listening, A Speakin
12	Unit9 Uncovering the Past	A Speaking, Video, B Vocabulary
13	Unit9 Uncovering the Past	B Listening, B Speaking, Review, Final Task
14	Final Exam Reflection	Exam Written Reflection in English

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
About 4 hours per week of preparation outside of class should be expected for this course.

【テキスト（教科書）】
Pathways Listening, Speaking, and Critical Thinking Third Edition(2025) (Book 3B), Cengage Learning.
ISBN: 9780357979235

【参考書】
The professor will provide references in class.

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Submission (30%). Quiz (40%). Assignment (20%). Group Discussion(10%)

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Dictionary

【Outline (in English)】
[Course outline]
This class aims to develop skills that meet a variety of communication needs: English communication skills linked to research and work, as well as those skills used in a wide range of situations, from everyday life and social situations to discussions in specialized fields and research presentations. To this end, the class emphasizes not only the reinforcement of the rich vocabulary, proper grammar, and logical writing skills needed to communicate results and conclusions through group discussions but also the ability to collect and summarize information from various sources. A variety of effective teaching methods, including the integration of other skills, will be employed based on students' communication skills.
[Learning objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
to be able to listen what the speakes say completely, to be able to speak what you want to say in English cleary, and to improve your critical thinking about each topic and express it in English.
[Learning activities outside of classroom]
About 4 hours per week of preparation outside of class should be expected for this course.
[Grading Criteria/Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Submission (30%). Quiz (40%). Assignment (20%). Group Discussion(10%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

中級英語I

小林　直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、綜合的な英語力を培う授業を行います。英語力とは、専門分野の学習、日常生活、社会生活などに深くかかわっています。本授業ではそうした英語力を総合的に培うように致します。

【到達目標】
本授業は、総合的な英語力を培うための授業です。受講生は多様な英語の文章をよむことが出来、また英語の音声を聞き取ることが出来るようになることが求められます。また、科学についての文章を含む、英語の文章を書くことを求められます。
This class aims to develop students' comprehensive English ability.　Student will be able to understand various kind of English articles and writings　by reading and listening to them.　Also, students will be able to write compositions including science-based topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テクストの問題を中心に進めつつ、英語の表現を学ぶように授業を進めます。また、リーディング、リスニングなど多様な形で英語に親しむ授業と致します。
提出課題等へのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Conclusion / Reasons	ガイダンス
第2回	Social Trends	品詞について
第3回	Results / Causes	自動詞、他動詞について
第4回	Several Explanations	リスニングのトレーニング
第5回	Comparison	英作文の練習
第6回	For and Against	英作文の練習
第7回	Classification	テクスト以外の英文を読む
第8回	History	リスニングのトレーニング
第9回	Process	英作文の練習
第10回	Cause and Effect	英作文の練習
第11回	Definition of a New Word	エッセイの書き方について
第12回	Research	リスニングのトレーニング
第13回	New Products	テクスト以外の英文を読む
第14回	Reading Graphs	英作文の練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は授業１回につき１時間以上の準備・復習時間を必要とします。必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。
Students should review their lessons after the class.　Also, students should prepare for the class beforehand, when they are instructed.

【テキスト（教科書）】
Skills for Better Writing (Intermediate) 南雲堂

【参考書】
教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
学期末のレポート(50%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点(50%)により評価する。
Class participation 50%
Final assignment 50%

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This class aims to develop skills that meet a variety of communication needs: English communication skills linked to research and work, as well as those skills used in a wide range of situations, from everyday life and social situations to discussions in specialized fields and research presentations. To this end, the class emphasizes not only the reinforcement of the rich vocabulary, proper grammar, and logical writing skills needed to communicate results and conclusions through group discussions but also the ability to collect and summarize information from various sources.　A variety of effective teaching methods, including the integration of other skills, will be employed based on students' communication skills.
[Learning Objectives]
This class aims to develop students' comprehensive English ability.　Student will be able to understand various kind of English articles and writings　by reading and listening to them.　Also, students will be able to write compositions including science-based topics.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.　Students should review their lessons after the class.　Also, students should prepare for the class beforehand, when they are instructed.
[Grading Criteria]
Class participation 50%
Final assignment 50%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

中級英語I

染谷　昌弘

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、さまざまなコミュニケーションニーズに応える技能を養成することを目的とする。日常生活から社会的な場面における会話、専門領域のディスカッションや研究内容のプレゼンテーションまで、幅広く対応できるコミュニケーション力の習得とともに、研究や実務につながる英語力・応用力の涵養を目指す。そのために、グループによるディスカッションを通して、問題解決や、さまざまな情報源からの情報収集・要約から、結果や結論を伝えられるようにするために必要な語彙力、文法力や論理構成に基づく文章作成力、簡単な表現で言い換えられる能力の習得に重点を置く。学生のコミュニケーション力をベースに、他技能との統合も含め、効果的な教授方法により実施する。

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
to be able to listen what the speakes say completely, to be able to speak what you want to say in English cleary, and to improve your critical thinking about each topic and express it in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
One unit will be completed in three classes. Every unit, students are given Quizes, should submit several assignments. And in the next class, students will be given the feedback on them.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Class Overview Discussing a Fictional Story
2	Unit6 Design with Purpose	A Vocabulary, A Listening, A Speaking
3	Unit6 Design with Purpose	A Speaking, Video, B Vocabulary
4	Unit6 Design with Purpose	B Listening, B Speaking, Review, Final Task
5	Unit7 Inspired to Project	A Vocabulary, A Listening, A Speaking
6	Unit7 Inspired to Project	A Speaking, Video, B Vocabulary
7	Unit7 Inspired to Project	B Listening, B Speaking, Review, Final Task
8	Unit8 Traditional and Modern Medicine	A Vocabulary, A Listening, A Speakin
9	Unit8 Traditional and Modern Medicine	A Speaking, Video, B Vocabulary
10	Unit8 Traditional and Modern Medicine	B Listening, B Speaking, Review, Final Task
11	Unit9 Uncovering the Past	A Vocabulary, A Listening, A Speakin
12	Unit9 Uncovering the Past	A Speaking, Video, B Vocabulary
13	Unit9 Uncovering the Past	B Listening, B Speaking, Review, Final Task
14	Final Exam Reflection	Exam Written Reflection in English

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
About 4 hours per week of preparation outside of class should be expected for this course.

【テキスト（教科書）】
Pathways Listening, Speaking, and Critical Thinking Third Edition(2025) (Book 3B), Cengage Learning.
ISBN: 9780357979235

【参考書】
The professor will provide references in class.

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Submission (30%). Quiz (40%). Assignment (20%). Group Discussion(10%)

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Dictionary

【Outline (in English)】
[Course outline]
This class aims to develop skills that meet a variety of communication needs: English communication skills linked to research and work, as well as those skills used in a wide range of situations, from everyday life and social situations to discussions in specialized fields and research presentations. To this end, the class emphasizes not only the reinforcement of the rich vocabulary, proper grammar, and logical writing skills needed to communicate results and conclusions through group discussions but also the ability to collect and summarize information from various sources. A variety of effective teaching methods, including the integration of other skills, will be employed based on students' communication skills.
[Learning objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
to be able to listen what the speakes say completely, to be able to speak what you want to say in English cleary, and to improve your critical thinking about each topic and express it in English.
[Learning activities outside of classroom]
About 4 hours per week of preparation outside of class should be expected for this course.
[Grading Criteria/Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Submission (30%). Quiz (40%). Assignment (20%). Group Discussion(10%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

中級英語II

梨本　邦直

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、 理工学に関する新聞・雑誌記事 、専門論文を読むためのリーディング力伸ばすこと目 的とする。 基本的語彙の定着と専門な力増強 、 文章の論理構成解背景知識 の活用・応 用によ るリーディングスキルの育成に重点を置く。これらもと、個々文内容正確 に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速要約必な情報検索することができ読解力を獲得し、研究や 社会のニーズに寄与 するこ とを目指す。学生のリーディング力をベスに、 他技能との統合も含め、効果的な教授方法 により 実施する。 This class aims to improve students' reading skills to comprehend newspapers, magazine articles, and technical papers related to science and engineering. This class focuses on consolidating basic vocabulary, expanding specialized vocabulary, understanding the logical structure of sentences, and developing reading skills through background knowledge. Based on these skills, the aim is to acquire reading comprehension skills that enable students to grasp the meaning of individual sentences accurately, summarize the whole text concisely and quickly, search for necessary information, and contribute to research and society's needs. A variety of effective teaching methods, including the integration of other skills, will be employed based on students' reading skills.

【到達目標】
中級語彙についてアカデミックな語彙を中心に英語でやさしく言い換え、意味の分かる語彙を増やすだけでなく、文脈での使い方を学ぶことができる。また、言語と言語学について、14のテーマから理解を深め、なぜ外国語を学ぶ必要があるのか理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
課題のテクストは紙で配布する。予習として語彙ノートを作成し、音読をする。授業では音読をしてもらって発音を確認した後、新規語彙の確認、その使用法を学び、さらにパラグラフの要点、エッセイの構成を理解する。語彙増強に復習はもっとも重要である。次回の授業で簡単な確認テストを実施し、その場でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Guidance
2	1 How many languages?	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
3	2 What was the original language?	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
4	3 Do all languages come from the same source?	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
5	4 Do animals use language?	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
6	5 Review	The contents that could not be covered during the class sessions will be dealt with.
7	Mid-Semester Test	Mid-Semester Test in class
8	6 Language and Thought	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
9	7 English Origin	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
10	8 Why Russian?	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
11	9 Arabic languages	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
12	10 Learning Chinese	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
13	Review	Academic vocabulary review
14	Final Examination	Final Examination in class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布されたテクストの予習に音読を含め２時間、また、授業後の復習に語彙リストを編集し、再度音読するのにさらに２時間必要である。

【テキスト（教科書）】
クラスで配布します。

【参考書】
紙の辞書、または電子辞書。

【成績評価の方法と基準】
課題: 20%
中間テスト: 40%
期末テスト: 40%

【学生の意見等からの気づき】
新しく担当する授業につきなし。

【学生が準備すべき機器他】
紙の辞書、または電子辞書を持参する。

【その他の重要事項】
授業中のパソコン、スマホ使用は単語の検索であっても認めない。言葉は死んだ情報ではなく、音とともに生きている。語彙を増やすには、音と綴りのイメージを文脈の中で脳に定着させる必要がある。視覚とキーボードだけに頼らないアナログ的学習法がもっとも効果的であることを理解してほしい。

【Outline (in English)】
This course is an intermediate English Reading course focusing on the topics of languages and linguistics. In addition to reading skills, other skills such as vocabulary building, writing skills and discussion skills will be also taken care of.
By the end of the course, students should be able to understand paragraph and essay structures and to increase students' academic vocabulary by taking interest in linguistic issues.
Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare for the course content, and another two hours to review the course materials.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Assignments: 20%
Mid-Semester Test: 40%
Final Examination: 40%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

中級英語II

村上　弥生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈授業概容〉
本科目は、理工学に関する新聞・雑誌記事、専門論文を読むためのリーディング力を伸ばすことを目的とする。基本的語彙の定着と専門的な語彙力の増強、文章の論理構成の理解、背景知識の活用・応用によるリーディングスキルの育成に重点を置く。これらのスキルをもとに、個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力を獲得し、研究や社会のニーズに寄与することを目指す。学生のリーディング力をベースに、他技能との統合も含め、効果的な教授方法により実施する。
〈授業の目的・意義〉
科学技術が世界を変容させる時代にあって、理工学の学術的背景を持つ国際的な教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身に着ける。
異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、日常的に得られる日本語情報を相対化し、国際人としての視野を広げと思考を深める。

【到達目標】
1. 将来、専門分野とそれを超えて、グローバルな場面で求められる英語の読解力、語彙力を身に着けて、幅広い分野の情報を英語で無理なく得ることのできる力を身に着ける。
2. 異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章に取り組むことによって、日常的に得られる日本語情報を相対化し、国際人としての視野と思考を広げる。
3. リスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く持つことによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
1. 読み物については、
現代の社会、また世界において重要なテーマを２～３選び、関連する資料を学生さんの予習を前提として、授業では丁寧に読みながら、文構造、語彙、表現、議論の展開を確実に理解していく
読み物のテーマについて、学生さんに英語で要点をまとめるよう求めたり、また教師からも背景知識を加えながら、随時説明を行う。
2. テーマに関連する視聴覚材料をネット等で聞き、内容確認等を行う
3. 各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テストを行い、文法、語彙、表現、文章の展開についての理解を定着させる。
4. 4. 1～3の受講生による日本語訳、リサーチ、サマリー、意見文については、随時Hoppiiにおいて、ないし授業中に作成、提出されたものを評価して返却、もしくは授業時に総評を行う。
授業は基本的に対面で行うが、情勢の変化や授業の進捗状況等によってオンラインに変更される場合もあるので、情報システムでのお知らせを常に確認されたい。
以下の授業計画は一昨年度の例であり、取り上げるテーマや読み物、資料については、本年は最新の状況に合わせて新たに選びなおすことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション Problems with A.I.tools and translation	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など AIツールと翻訳の問題を概観
第2回	（題材は社会や時代の変化に添って新たに選びなおすが、以下は一昨年度の例である） How Do You Change a Chatbot's Mind？ －1 （A.I.の下す評価と苦闘するテクノロジージャーナリスト）	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第3回	Manipulation of A.I. － 2	和訳：要約の発表 重要語句、表現、文法の確認 リサーチ・意見文の紹介、発表
第4回	Manipulation of A.I. － 3	重要語句、表現・文法の確認
第5回	review test-1 次回からの読み物の紹介 With Forests in Peril, She 's恩ア Mission to Save 'Mother Trees' － 1 （森林を紡ぎ合わせる菌類の存在：真の温暖化対策は何か？）	前回までの内容・語句表現の応用の復習テスト 次の読み物の導入
第6回	Forests as a living network-2	関連する資料、映像の紹介 和訳発表 リサーチ、意見文の発表、紹介 重要語句、表現、文法の確認
第7回	Forests as a living network－ 3	和訳発表 重要語句、表現、文法の確認
第8回	Forests as a living network-4	和訳発表 重要語句、表現、文法の確認 意見交換
第9回	review test-2 Last-Chance Tourism-1 (消えゆく氷河とツーリズム）	前回までの内容・語句表現の応用の復習テスト 次の読み物の導入
第10回	Last-Chance Tourism － 2	背景説明、 和訳発表 重要語句、表現、文法の確認 意見交換
第11回	Last-Chance Tourism-3	和訳発表、 重要語句、表現、文法の確認 関連する資料の紹介
第12回	Mt. Everest and Over　－tourism	和訳発表、 重要語句、表現、文法の確認
第13回	関連するヴィデオ視聴	重要語句、表現、文法の確認
第14回	review test-4	前回までの内容・語句・表現の応用の復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
1.読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。
２．読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。
３．各トピックごとに復習テスト、もしくは訳の修正を行うように準備をする。
4. 全体的なテーマに関連した短い意見文を作成する。

【テキスト（教科書）】
初回に指示する。また随時教師が提供する。

【参考書】
参考書はとくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】
予習としての内容理解や宿題、リサーチ30％、授業での作文などへの積極的取組20％、復習テストもしくは和訳の修正や意見文50％。

【学生の意見等からの気づき】
英語資料を通じて、現代の世界の様々な側面を広く, また多様な視点から知ることに意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう引き続き努力したい。

【Outline (in English)】
〈Course outline〉
This class aims to improve students' reading skills to comprehend newspapers, magazine articles, and technical papers related to science and engineering. This class focuses on consolidating basic vocabulary, expanding specialized vocabulary, understanding the logical structure of sentences, and developing reading skills through background knowledge. Based on these skills, the aim is to acquire reading comprehension skills that enable students to grasp the meaning of individual sentences accurately, summarize the whole text concisely and quickly, search for necessary information, and contribute to research and society's needs. A variety of effective teaching methods, including the integration of other skills, will be employed based on students' reading skills.
〈Learning Objectives〉
This course has two major objectives. One of them is to help students acquire the level of English reading skills and vocabulary required of well-educated persons on international settings.
The other objective is to help students broaden their perspectives as future professional members of international community through dealing with English materials that expose them to contemporary global issues.
〈Learning activities outside classroom〉
Before each class meeting, students will be requested to do one or two of the following tasks：
1.Carefully read assigned parts of the materials and do homework which is designed to measure your comprehension and place stories in context.
2.Summarize a short audio-visual material.
3. Research on relevant topics.
4. After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which will be frequently conducted.
5.You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course.
Your required study time outside of the classroom is roughly one and a half hours for each class.
〈Grading criteria〉
Final grading will be decided based on your preparation for class (30%), contribution to class through presenting research and opinions (20%), and review tests(50%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

中級英語II

梨本　邦直

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、 理工学に関する新聞・雑誌記事 、専門論文を読むためのリーディング力伸ばすこと目 的とする。 基本的語彙の定着と専門な力増強 、 文章の論理構成解背景知識 の活用・応 用によ るリーディングスキルの育成に重点を置く。これらもと、個々文内容正確 に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速要約必な情報検索することができ読解力を獲得し、研究や 社会のニーズに寄与 するこ とを目指す。学生のリーディング力をベスに、 他技能との統合も含め、効果的な教授方法 により 実施する。 This class aims to improve students' reading skills to comprehend newspapers, magazine articles, and technical papers related to science and engineering. This class focuses on consolidating basic vocabulary, expanding specialized vocabulary, understanding the logical structure of sentences, and developing reading skills through background knowledge. Based on these skills, the aim is to acquire reading comprehension skills that enable students to grasp the meaning of individual sentences accurately, summarize the whole text concisely and quickly, search for necessary information, and contribute to research and society's needs. A variety of effective teaching methods, including the integration of other skills, will be employed based on students' reading skills.

【到達目標】
中級語彙についてアカデミックな語彙を中心に英語でやさしく言い換え、意味の分かる語彙を増やすだけでなく、文脈での使い方を学ぶことができる。また、言語と言語学について、14のテーマから理解を深め、なぜ外国語を学ぶ必要があるのか理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
課題のテクストは紙で配布する。予習として語彙ノートを作成し、音読をする。授業では音読をしてもらって発音を確認した後、新規語彙の確認、その使用法を学び、さらにパラグラフの要点、エッセイの構成を理解する。語彙増強に復習はもっとも重要である。次回の授業で簡単な確認テストを実施し、その場でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Guidance
2	1 How many languages?	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
3	2 What was the original language?	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
4	3 Do all languages come from the same source?	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
5	4 Do animals use language?	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
6	5 Review	The contents that could not be covered during the class sessions will be dealt with.
7	Mid-Semester Test	Mid-Semester Test in class
8	6 Language and Thought	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
9	7 English Origin	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
10	8 Why Russian?	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
11	9 Arabic languages	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
12	10 Learning Chinese	Intensive Reading, thematic discussions, and vocabulary building sessions
13	Review	Academic vocabulary review
14	Final Examination	Final Examination in class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布されたテクストの予習に音読を含め２時間、また、授業後の復習に語彙リストを編集し、再度音読するのにさらに２時間必要である。

【テキスト（教科書）】
クラスで配布します。

【参考書】
紙の辞書、または電子辞書。

【成績評価の方法と基準】
課題: 20%
中間テスト: 40%
期末テスト: 40%

【学生の意見等からの気づき】
新しく担当する授業につきなし。

【学生が準備すべき機器他】
紙の辞書、または電子辞書を持参する。

【その他の重要事項】
授業中のパソコン、スマホ使用は単語の検索であっても認めない。言葉は死んだ情報ではなく、音とともに生きている。語彙を増やすには、音と綴りのイメージを文脈の中で脳に定着させる必要がある。視覚とキーボードだけに頼らないアナログ的学習法がもっとも効果的であることを理解してほしい。

【Outline (in English)】
This course is an intermediate English Reading course focusing on the topics of languages and linguistics. In addition to reading skills, other skills such as vocabulary building, writing skills and discussion skills will be also taken care of.
By the end of the course, students should be able to understand paragraph and essay structures and to increase students' academic vocabulary by taking interest in linguistic issues.
Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare for the course content, and another two hours to review the course materials.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Assignments: 20%
Mid-Semester Test: 40%
Final Examination: 40%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＡＬＡＮ　Ｄ　ＭＯＲＧＡＮ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Students will be introduced to specific discrete writing skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation: Writing Skills 1-3 :	Orientation - Class rules and grading criteria Simple Sentences &Elements of a paragraph Outside Class - Subject-Verb agreement
2	Skills 4-6	Capitalisation Rules 1 & Punctuation 1 Outside Class - Consistent pronoun use
3	Skills 7-8	Avoiding run-ons and comma splices &Avoiding sentence fragments Outside Class - Simple editing task
4	Skills 9-11	Topic sentences &Supporting sentences Outside Class - Concluding sentences
5	Skill 12	Sentences with Relative Clauses
6	Skills 13-15	Simple vs Compound sentences Complex sentences Outside Class - Sentence Combination
7	Skills 19-20, 16	Transition Words: Chronological order &Verb tense consistency Outside Class - Giving specific examples MID-SEMESTER ASSIGNMENT
8	Skills 17-18, 20	Punctuation 2 and Capitalisation 2 Outside Class - Verb Tense Consistency
9	Skills 22-24	Outlines &Facts vs Opinions Outside Class - Review of Simple, Compound and Complex sentences
10	Skills 25-26, 29	Contrasting opinions and contrast transitions Outside Class - Review Combining sentences
11	Skills 28,31	Writing for an academic audience Transitions of opinion and conclusion
12	Skills 21 &30	Giving specific examples 2 and Irrelevant vs relevant information Brainstorming and Writing a Rough Draft
13	Skill 32	The essay Outside Class - Outline
14	FINAL WRITTEN REVIEW TEST	WRITTEN TEST & FEEDBACK ON FINAL ASSIGNMENT

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Some preparation and testing of understanding will be done outside of the classroom, recorded by means the Learning Management System. Feedback on performance will be available to students.
Two written assignments will be assigned to test students ability to integrate skills in writing longer texts.
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
Skills For Effective Writing 2, (Cambridge University Press, 2013) ￥2,600 before tax. ISBN 978-1-107-61353-9

【参考書】
No specific reference.

【成績評価の方法と基準】
First Assignment 15%
Final Assignment 30%
Final Review Test 35%
Participation 20%

【学生の意見等からの気づき】
More explicit instructions for completion of assessed writing tasks will be given using the Learning Management System.

【学生が準備すべき機器他】
A computer or cellphone will be needed to access the Learning Management system for work outside class.

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.
Students will be introduced to specific discreet skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.
Testing of students' understanding of specific features of academic writing and self-editing skills will be done outside of the classroom using the Learning Management System. Students will also be asked to develop ideas for their writing assignments outside and class and make a record of their use of online tools to improve their academic writing in a responsible manner.
Two written assignments will be assigned to test students ability to integrate skills in writing longer texts.
First Assignment 15%
Final Assignment 30%
Final Review Test 35%
Participation 20%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
Acquire vocabulary and expressions often encountered in academic
texts, and understand sentences from academic texts accurately.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Through individual and collaborative tasks focusing on academic texts,
students will acquire techniques and reading practices that will enhance
their reading efficiency and effectiveness in academic pursuits. Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the
Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Introduction to the course and its objectives; self-presentations.
第2回	What is a writing genre?	Identifying characteristics of various writing genres.
第3回	Strategies for effective academic reading.	Some basic rules and steps to make academic reading more efficient.
第4回	Text structure 1	Identifying the main idea of a text.
第5回	Text structure 2	Understanding the structure of academic texts.
第6回	Developing vocabulary 1	Strategies for learning academic vocabulary.
第7回	Developing vocabulary 2	Using context clues to understand unfamiliar words.
第8回	Previewing 1	Skimming a text for the main ideas.
第9回	Previewing 2	Scanning a text for specific information.
第10回	Textual cohesion 1	Understanding how ideas are connected in academic texts.
第11回	Textual cohesion 2	Cohesive devices 1 Explanation of the final written assignment.
第12回	Textual cohesion 3	Cohesive devices 2 In-class preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
第13回	Reading strategies review	Review of the contents of the class and exercises.
第14回	Final evaluation	Online interviews.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be required to have read the texts under study before
each lesson. Some in-class assignments will be completed after class
as homework.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor
on the Hoppii system, or in class.

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
Outline:
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
Learning objectives:
Develop reading skills specific to academic text from the field of science: identifying text structure and key components, learning common vocabulary and sentence patterns.
Learning activities outside of classroom:
Students will be required to have read the texts under study before each lesson. Some in-class assignments will be completed after class as homework.
Grading criteria policy:
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩＩ

ＨＵＧＯ　Ｌ　ＤＲＡＩＮＶＩＬＬＥ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文 解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語 彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文 脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。 また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英 文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の 文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約し たり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目 指す。

【到達目標】
Acquire deeper understanding of vocabulary and sentence structures often encountered in academic writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Through individual and collaborative tasks focusing on academic texts, students will further develop their understanding of the workings and characteristics of academic writing, which will enhance their reading efficiency and effectiveness in academic pursuits.
Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction What is a genre?	Introduction to the course and its objectives; self-presentations. Identifying essential characteristics of academic writing.
第2回	What is a genre? Attitudes toward language	Who de we write to, why, and does that impact language?
第3回	Scholarly wordings	Why is academic vocabulary so complicated?
第4回	Definitions	Establishing common ground.
第5回	Appositions	The role and structure of appositions in academic writing.
第6回	Citations	The role and structure of citations in academic writing.
第7回	Paraphrasing	The role and structure of paraphrasing in academic writing.
第8回	Summary	Notes for gist; Arrangement of levels (generality and detail, concept and example).
第9回	Sentence style and Textual coherence 1	Forecast and Key Words.
第10回	Sentence style and Textual coherence 2	Passive Voice; Emphasis.
第11回	Sentence style and Textual coherence 3	Reported speech.
第12回	Sentence style and Textual coherence 4	In-class preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
第13回	Review	Review of the contents of the class and exercises.
第14回	Final evaluation	Online interviews

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be required to have read the texts under study before each lesson. Some in-class assignments will be completed after class as homework.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

【学生の意見等からの気づき】
なし

【Outline (in English)】
Outline:
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
Learning objectives:
Develop reading skills specific to academic text from the field of science: identifying text structure and key components, learning common vocabulary and sentence patterns.
Learning activities outside of classroom:
Students will be required to have read the texts under study before each lesson. Some in-class assignments will be completed after class as homework.
Grading criteria policy:
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
Students will learn and develop academic reading in English.
Students will expand their vocabularies and understanding of English Grammar.
Students will participate in read and analyse English texts as individuals and as a class.
Students will submit brief written assignments and tests in English based on class topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this class we will complete activities from textbooks and discuss texts and topics the textbook introduces. This class prioritises active learning, such as debate and discussion. Assignments may be submitted online or emailed to the sensei directly at senseiemma22@gmail.com. Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, written notes and corrections on homework they have submitted either on the Hoppii system or annotated on email submissions, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Overview	Class introduction and theme overview Assessment methods and grading
2	Unit 1: Happiness	Reading exercises: Is there a recipe for happiness? Four Keys to Happiness
3	Unit 2: Inventive Solutions	Reading exercises: The power of creativity Big ideas, Little Packages
4	Unit 3: Connected Lives	Reading exercises: The Power of Crowds Internet Island
5	Unit 4: Saving Our Seas	Reading exercises: Where have all the fish gone? What we eat makes a difference
6	Unit 5: Memory and Learning	Reading exercises: The Art of Memory Sleep and Memory
7	Midterm Review	Review vocabulary and grammar points
8	Unit 6: Animals and Medicine	Reading exercises: The snake chaser A haven for Chimps
9	Unit 7: Nature's Fury	Reading exercises: When tornadoes strike Wildfires
10	Unit 8: Building Wonders	Reading exercises: Unfinished masterpiece Amazing Structures
11	Unit 9: Form and Function	Reading exercises: What are feathers for? Design by nature
12	Unit 10: Smart Advice	Reading exercises: Turning ideas into reality Lessons in Business
13	Group study and tips for final test	Review of key themes and skills. Explanation of exam format and rules and class study
14	Final test	Final test to determine 50% of final grade

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assignments will be set from the textbook. I may also assign questions and short quizzes based on texts related to class topics. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework and reviewing class materials.

【テキスト（教科書）】
Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking: 2nd Edition
ISBN 978133762511　(10-digit ISBN: 1337625116)

【参考書】
See Hoppii for additional supplements and aids

【成績評価の方法と基準】
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
This class aims to improve students' accuracy and confidence in reading English academic texts. By using the textbook and additional reading resources as a starting point, this class encourages students to expand their vocabularies and understanding of different grammatical structures to enhance their overall comprehension skills.
Students are expected to spend 4 hours per week completing homework assignments and self study to reinforce classroom learning.
Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, written notes and corrections on homework they have submitted, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩＩ

ＬＯＷＲＩ　Ｅ　ＨＵＭＢＥＲＳＴＯＮＥ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
Students will learn and develop academic reading in English.
Students will expand their vocabularies and understanding of English Grammar.
Students will participate in read and analyse English texts as individuals and as a class.
Students will submit brief written assignments and tests in English based on class topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this class we will complete activities from textbooks and discuss texts and topics the textbook introduces. This class prioritises active learning, such as debate and discussion. Assignments may be submitted online or emailed to the sensei directly at senseiemma22@gmail.com. Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, written notes and corrections on homework they have submitted on the hoppii system or annotated to email submissions, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Overview	Class introduction and theme overview Academic Reading I review. Assessment methods and grading
2	Unit 1: Social relationships	The ape in the office Gender in the Wild
3	Unit 2: Science and Investigation	Tech detectives King Tut’s family secrets
4	Unit 3: City Solutions	The City Solution Urban Visionary
5	Unit 4: Danger Zone	Scientists Seek Foolproof Signal to Predict Earthquakes, Birds May Have Sensed Severe Storm Days in Advance When Yellowstone Explodes
6	Unit 5: The Travel Business	One on One: Jonathan Tourtellot Ecotourism
7	Midterm review	Review key vocabulary, grammar and reading techniques
8	Unit 6: Information Design	Infographics Even Graphics Can Speak with a Foreign Accent
9	Unit 7: Global Challenges	Seven Things to Know About Climate Change Nine Ways to Make a Difference,
10	Unit 8: Medical Innovations	The Method of Medicine Regenerative medicine
11	Unit 9: World Languages	English in Decline as a First Language, Study Says, Language Death
12	Unit 10: Survival Instinct	K2: Danger and Desire on the Savage Mountain Traveler of the Year
13	Class overview and exam preparation	Review of key themes and skills. Explanation of exam format and rules and class study.
14	Final test	Final text to make up 50% of grade.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assignments will be set from the textbook. I may also assign questions and short quizzes based on texts related to class topics. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework and reviewing class materials.

【テキスト（教科書）】
Textbooks
Pathways 3, Reading, Writing, and Critical Thinking, Second Edition
Colleen Sheils ISBN: 9781337625128

【参考書】
Check Hoppii for additional materials and aids

【成績評価の方法と基準】
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
This class aims to improve students' accuracy and confidence in reading English academic texts. By using the textbook and additional reading resources as a starting point, this class encourages students to expand their vocabularies and understanding of different grammatical structures to enhance their overall comprehension skills.
Students are expected to spend 4 hours per week completing homework assignments and self study to reinforce classroom learning.
Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, written notes and corrections on homework they have submitted on the hoppii system or annotated to email submissions, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.
A passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Assignments: 30%
Final Test: 50%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

HUGO L DRAINVILLE

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
Acquire vocabulary and expressions often encountered in academic
texts, and understand sentences from academic texts accurately.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Through individual and collaborative tasks focusing on academic texts,
students will acquire techniques and reading practices that will enhance
their reading efficiency and effectiveness in academic pursuits. Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the
Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the course and its objectives; self-presentations.
2	What is a writing genre?	Identifying characteristics of various writing genres.
3	Strategies for effective academic reading.	Some basic rules and steps to make academic reading more efficient.
4	Text structure 1	Identifying the main idea of a text.
5	Text structure 2	Understanding the structure of academic texts.
6	Developing vocabulary 1	Strategies for learning academic vocabulary.
7	Developing vocabulary 2	Using context clues to understand unfamiliar words.
8	Previewing 1	Skimming a text for the main ideas.
9	Previewing 2	Scanning a text for specific information.
10	Textual cohesion 1	Understanding how ideas are connected in academic texts.
11	Textual cohesion 2	Cohesive devices 1 Explanation of the final written assignment.
12	Textual cohesion 3	Cohesive devices 2 In-class preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
13	Reading strategies review	Review of the contents of the class and exercises.
14	Final evaluation	Online interviews.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be required to have read the texts under study before
each lesson. Some in-class assignments will be completed after class
as homework.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor
on the Hoppii system, or in class.

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

【学生の意見等からの気づき】
なし

【Outline (in English)】
Outline:
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
Learning objectives:
Develop reading skills specific to academic text from the field of science: identifying text structure and key components, learning common vocabulary and sentence patterns.
Learning activities outside of classroom:
Students will be required to have read the texts under study before each lesson. Some in-class assignments will be completed after class as homework.
Grading criteria policy:
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩＩ

ＨＵＧＯ　Ｌ　ＤＲＡＩＮＶＩＬＬＥ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
Acquire deeper understanding of vocabulary and sentence structures often encountered in academic writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Through individual and collaborative tasks focusing on academic texts, students will further develop their understanding of the workings and characteristics of academic writing, which will enhance their reading efficiency and effectiveness in academic pursuits.
Feedback will be provided in class for in-lesson tasks, and through the Hoppii system for out-of-class and assessed tasks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction What is a genre?	Introduction to the course and its objectives; self-presentations. Identifying essential characteristics of academic writing.
2	What is a genre? Attitudes toward language	Who de we write to, why, and does that impact language?
3	Scholarly wordings	Why is academic vocabulary so complicated?
4	Definitions	Establishing common ground.
5	Appositions	The role and structure of appositions in academic writing.
6	Citations	The role and structure of citations in academic writing.
7	Paraphrasing	The role and structure of paraphrasing in academic writing.
8	Summary	Notes for gist; Arrangement of levels (generality and detail, concept and example).
9	Sentence style and Textual coherence 1	Forecast and Key Words.
10	Sentence style and Textual coherence 2	Passive Voice; Emphasis.
11	Sentence style and Textual coherence 3	Reported speech.
12	Sentence style and Textual coherence 4	In-class preparation time for the final assignment, with support from the instructor.
13	Review	Review of the contents of the class and exercises.
14	Final Evaluations	Online interviews.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be required to have read the texts under study before each lesson. Some in-class assignments will be completed after class as homework.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor on the Hoppii system, or in class.

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

【学生の意見等からの気づき】
なし

【Outline (in English)】
Outline:
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
Learning objectives:
Develop reading skills specific to academic text from the field of science: identifying text structure and key components, learning common vocabulary and sentence patterns.
Learning activities outside of classroom:
Students will be required to have read the texts under study before each lesson. Some in-class assignments will be completed after class as homework.
Grading criteria policy:
Participation (25%); Assignments (25%); Final evaluation (50%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

基礎英語

小屋　多恵子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リスニングは、英語の4技能（スピーキング、リスニング、ライティング、リーディング）の中で、最も習得が容易であると言われながら、学習者が苦手である・難しいと考えがちな技能である。実際に使われている単語は既習語であったり、文法は高校までに学習を終えていたりしながら、音がつながったり、弱くなったり、聞こえなくなったりなど、様々な音声変化が起こっていることがリスニングを難しくさせている要因の１つと言える。この授業では、ヒット曲を聞きながら、英語の音声変化のポイントを習得し、リスニング力の基礎を固めることを主要な目的とする。英語音変化やリズム・イントネーション・アクセントに着目し、センテンスレベルからパッセージレベルまでのリスニングスキルを獲得していく。リスニング力のアップのために、音読や文法チェック、なども合わせてブラッシュアップしていこう。

【到達目標】
1) 音声変化やイントネーション・アクセントの特徴を体系的に理解できる。
2) 音声変化を正確に聞き取り、自ら発音できる。
3) 音声変化を様々な英文に応用できる。
4) 英語の歌の背景や内容を理解できる。
5) 重要な文法事項をおさらいできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
主に、１つの授業内において、以下の内容を実施していく。
・クイズ
・音変化やイントネーション・アクセントの特徴を理解し発音練習する
・英語の歌にみる音変化やイントネーション・アクセントを理解する
・英語の歌の背景や内容を読む
・文法の確認
この授業は講義形式ではなく、演習形式で行う。授業内で個々に発表する機会は極力減らし、心地よい環境で、自らの苦手な部分を直視し、授業を通してブラッシュアップする機会として活用できるような授業を目指したい。課題、小テスト、試験については、Hoppiiを通してまたは授業内で、フィードバック、総評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Introduction	授業ガイダンス リスニングの基本 音変化クイズ
2回	Unit 1 My heart will go on/ Celine Dion	・Listening point：音の連結① ・Grammar：現在完了
3回	Unit 2 Open arms/ Journey	・Listening point：音の脱落① ・Grammar：分詞
4回	Unit 4 Don’t look back in anger/ Oasis	・Listening point：音の同化 ・Grammar：知覚動詞
5回	Unit 6 I don’t want to miss a thing/ Aerosmith	・Listening point：音声変化の複合 ・Grammar：助動詞
6回	Unit 8 The stranger/ Billy Joel	・Listening point：音の弱化 ・Grammar：関係代名詞
7回	中間試験	これまでの復習確認と解説
8回	Unit 9 Hey now/ Cyndi Lauper	・Listening point：音の連結② ・Grammar：不定詞
9回	Unit 10 Every time I close my eyes/ Babyface	・Listening point：音の脱落③ ・Grammar：接続詞
10回	Unit 11 Kiss of life/ Sade	・Listening point：短縮形の音① ・Grammar：完了不定詞
11回	Unit 12 All I want for Christmas is you/ Mariah Carey	・Listening point：短縮形の音② ・Grammar：5文型
12回	Unit 13 Livin’ la vida loca/ Ricky Martin	・Listening point：音の脱落④ ・Grammar：使役動詞
13回	期末試験	これまでの復習確認と解説
14回	Review	音変化クイズ これからのリスニング学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。
・授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げておく。

【テキスト（教科書）】
English with Hit Songs『ポップスで学ぶ総合英語　-改訂新版-』
角山照彦・Simon Capper　成美堂

【参考書】
必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題・小テスト 20%
中間テスト・学期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】
2024年度に音読のfeedbackが良かったという声があったため、2026年度もその要望に応えるように努めたい。

【その他の重要事項】
・５回以上正当な理由なく欠席した者に対しては単位取得不可とする。
・遅刻・早退は２回を持って欠席１回とみなす。

【Outline (in English)】
Course Outline:

Listening is said to be the easiest of the four English language skills (speaking, listening, writing, and reading) to master, yet it is the one that learners tend to consider weak or difficult. One of the factors that make listening difficult is that the actual words and the grammar used are already in high school, but various phonetic changes such as sounds connected, weakened and lost often occur. The primary purpose of this class is to solidify the foundation of listening skills by learning the key points of English sound changes while listening to pop hits. This class will provide students with opportunities for focusing on English sound changes, rhythm, intonation, and accent to acquire listening skills from the sentence level to the passage level and also brushing up your listening skills by reading aloud and checking grammatical points.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A. Systematically understand the characteristics of phonetic changes, intonation, and accent.
B. Listen to phonetic changes accurately and pronounce them by themselves.
C. Apply phonetic changes to a variety of English texts.
D. Understand the background and content of English songs.
E. Review important grammar points.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to do regular homework, clarify what they haven't understood and resolve it through independent study.
Grading Criteria:
In-class activities, homework and quizzes (20%), mid-term and final exams (80%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
The aim of this class is to develop students' reading abilities. By the end of the course, students will:
・develop their reading skills both in terms of fluency and comprehension
・extend their vocabulary in common areas of academic interest in English-language undergraduate classes
・practice their comprehension through exposure to texts
・practise and recycle new language through activities based on Active Learning methodologies
・demonstrate their comprehension of ideas by creating short written texts such as summaries, reports and presentations

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Each week we will look at a particular theme and explore that theme through reading texts and other media. Themes and topic arising from these texts will be assessed, and academic vocabulary arising from this will be practiced and incorporated into Active Learning tasks which will provide expanded practice opportunities. The homework will involve students doing some research and more reading connected to the week's theme. Students will create written texts based on their reading and research, and this work may be extended by adapting students' research into presentations. Feedback will be given to the class the week following an applicable deadline.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Introduction to the course. First Theme: Humanity & Nature	Course introduction; Materials;
2	History Detectives	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
3	Tradition and Ritual	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
4	Urban Underworlds	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
5	Reef Encounters	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
6	Sweet Scents	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
7	Mid-term test	The test will focus on comprehension and some vocabulary.
8	Who are We?	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
9	Who are We?	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
10	Incredible Insects	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
11	Going to Extremes	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
12	Open Theme: Students will choose their own materials.	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
13	End-of-Semester Exam	The exam will focus on comprehension and vocabulary from the course reading texts (weeks 1 – 12).
14	Course Wrap-up	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
There will be assigned readings for homework which will be accompanied by some writing work.

【テキスト（教科書）】
No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer (students should have their A4 pocket folders each week to organize these handouts), or will be available online. Library access is required for students to research their chosen research topics, and sometimes students will be expected to research and bring materials to class.

【参考書】
Students need a good bilingual dictionary (not a smartphone) which they must bring to every class.
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to home research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Classwork (including Effort and Performance): 30%
Homework: 10%
Tests and Quizzes: 60%

【学生の意見等からの気づき】
More writing practice has been included, and active learning opportunities have been extended.
A document which clearly states class procedures and the obligations of students has been included with Week 1 materials on Google Classroom.

【学生が準備すべき機器他】
Each week you should bring a dictionary (paper or electronic, but NOT a phone), a laptop PC with an internet connection, Microsoft Word, and a PDF reader.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and Google Classroom. If the course is run face-to-face, it will use Google Classroom.
The Hosei University Hoppi system will have basic information on how to access Google Classroom. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted on Google Classroom.*
Students will need a Hosei University email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher and access Google Classroom. This address must not change during the semester.
Please make sure that the computer equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ colored pencils for making notes

【その他の重要事項】
Note:
This is a 'No Smartphone' class. Your phone must be turned off, and in your bag. Your "Classwork (effort, participation)" grade will be affected if you persistently use / look at your phone.
This class promotes and relies on academic honesty. The use of translation and language-generating technology is considered to be plagiarism and is not allowed under any circumstances. Your course grade will be affected by ignoring this rule.
"Dictionary" means paper dictionary or electronic dictionary. Using a phone as a dictionary is not allowed.
This class uses Google Classroom on which you will find a document with an explanation of class procedures. You are expected to read this document.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
There will be assigned readings for homework which will be accompanied by some writing work.
Grading Criteria:
Classwork (including Effort and Performance): 30%
Homework: 10%
Tests and Quizzes: 60%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩ

ＮＥＩＬ　ＣＯＮＷＡＹ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
The aim of this class is to develop students' reading abilities. By the end of the course, students will:
・develop their reading skills both in terms of fluency and comprehension
・extend their vocabulary in common areas of academic interest in English-language undergraduate classes
・practice their comprehension through exposure to texts
・practise and recycle new language through activities based on Active Learning methodologies
・demonstrate their comprehension of ideas by creating short written texts such as summaries, reports and presentations

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Each week we will look at a particular theme and explore that theme through reading texts and other media. Themes and topic arising from these texts will be assessed, and academic vocabulary arising from this will be practiced and incorporated into Active Learning tasks which will provide expanded practice opportunities. The homework will involve students doing some research and more reading connected to the week's theme. Students will create written texts based on their reading and research, and this work may be extended by adapting students' research into presentations. Feedback will be given to the class the week following an applicable deadline.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Introduction to the course. First Theme: Humanity & Nature	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation。
2	History Detectives	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
3	Tradition and Ritual	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
4	Urban Underworlds	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
5	Reef Encounters	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
6	Sweet Scents	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
7	Mid-term test	The test will focus on comprehension and some vocabulary.
8	Who are We?	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
9	Global Warming	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
10	Incredible Insects	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
11	Going to Extremes	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
12	Open Theme: students deicide class theme.	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
13	End-of-Semester Exam	The exam will focus on comprehension and vocabulary from the course reading texts (weeks 1 – 12).
14	Course Wrap-up	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
There will be assigned readings for homework which will be accompanied by some writing work.

【テキスト（教科書）】
No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer (students should have their A4 pocket folders each week to organize these handouts), or will be available online. Library access is required for students to research their chosen research topics, and sometimes students will be expected to research and bring materials to class.

【参考書】
Students need a good bilingual dictionary (not a smartphone) which they must bring to every class.
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to home research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Classwork (including Effort and Performance): 30%
Homework: 10%
Tests and Quizzes: 60%

【学生の意見等からの気づき】
More writing practice has been included, and active learning opportunities have been extended.

A document which clearly states class procedures and the obligations of students has been included with Week 1 materials on Google Classroom.

【学生が準備すべき機器他】
Each week you should bring a dictionary (paper or electronic, but NOT a phone), a laptop PC with an internet connection, Microsoft Word, and a PDF reader.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and Google Classroom. If the course is run face-to-face, it will use Google Classroom.
The Hosei University Hoppi system will have basic information on how to access Google Classroom. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted on Google Classroom.*
Students will need a Hosei University email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher and access Google Classroom. This address must not change during the semester.
Please make sure that the computer equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ colored pencils for making notes

【その他の重要事項】
Note:
This is a 'No Smartphone' class. Your phone must be turned off, and in your bag. Your "Classwork (effort, participation)" grade will be affected if you persistently use / look at your phone.
This class promotes and relies on academic honesty. The use of translation and language-generating technology is considered to be plagiarism and is not allowed under any circumstances. Your course grade will be affected by ignoring this rule.
"Dictionary" means paper dictionary or electronic dictionary. Using a phone as a dictionary is not allowed.
This class uses Google Classroom on which you will find a document with an explanation of class procedures. You are expected to read this document.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
There will be assigned readings for homework which will be accompanied by some writing work.
Grading Criteria:
Classwork (including Effort and Performance): 30%
Homework: 10%
Tests and Quizzes: 60%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

英語中級ライティング

KOPROWSKI　MARK

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この中級レベルのライティング・コースでは、英作文のスキルを段階的に向上させていきます。

【到達目標】
The goals of this writing class are to develop composition skills through the integration of reading and writing activities. Students will learn to write a variety of multi-paragraph composition types on a number of familiar everyday topics. The course will also help students improve their written organizaton, sentence-level grammar, vocabulary, and mechanics. Students will also develop revision skills through self-editing and teacher's comments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In the classroom and at home, students will work on exercises and improve succeeding drafts of their composition assignments.　Students will also maintain a vocabulary notebook which they may use during the final composition exam. Pair work will be emphasized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	-Course introduction & explanation -Read &Sign Academic Integrity Pledge	The students will receive a self-introduction from the teacher. The students will also write a brief self-introduction.
2	Unit 1 Describing Daily Routines	-10-minute fluency writing -Reading: Bruno's Daily Activities -Grammar: Simple Present Tense; Frequency Words; Present Continuous Tense
3	Unit 1 Describing Daily Routines	-10-minute fluency writing -Reading: Maria's Day -Grammar: Simple Present Tense; Frequency Words; Present Continuous Tense -Start Unit 1 Composition (narration): -Write about your daily activities and what you are doing and thinking right now
4	Unit 2 Describing a Friend	-10-minute fluency writing -Check vocabulary notebook -Unit 1 Vocabulary Quiz -Reading: My Friend, Roberto -Grammar: Be/Predicate Adjectives; Be going to; Will; Cohesion; Punctuation
5	Unit 2 Describing a Friend	-10-minute fluency writing -Reading: My Girlfriend, Maria -Grammar: Be/Predicate Adjectives; Be going to; Will; Cohesion; Punctuation -Start Unit 2 Composition (description): Describe a friend, classmate, or family member
6	Unit 4 Giving Instructions/ Directions	-10-minute fluency writing -Check vocabulary notebook -Unit 2 Vocabulary Quiz -Reading: A Party Grammar: Imperatives; Modals
7	Unit 4 Giving Instructions/ Directions	-10-minute fluency writing -Reading: Bruno's Cheese Pie -Start Unit 4 composition (process description): Tell someone how to do or make something
8	Unit 6 Making a Written Request	-10-minute fluency writing -Check vocabulary notebook -Unit 4 Vocabulary Quiz -Reading: A Business Letter -Grammar: Indirect Requests with would + like to; Direct Requests
9	Unit 6 Making a Written Request	-10-minute fluency writing -Reading: A Business Letter #2 -Start Unit 6 composition (business letter): Write a business letter to a company or an institution
10	Unit 7 Describing Past Events	-10-minute fluency writing -Check vocabulary notebook -Unit 6 Vocabulary Quiz -Reading: A Terrible Trip -Grammar: Simple Past Tense; Past Continuous Tense; Predicate Infinitives

11	Unit 7 Describing Past Events	-10-minute fluency writing -Reading: A Memorable Trip -Grammar: Simple Past Tense; Past Continuous Tense; Predicate Infinitives -Start Unit 7 Composition (narration): Write about a trip
12	Review for final composition exam	-10-minute fluency writing -Check vocabulary notebook -Unit 7 Vocabulary Quiz
13	Final composition exam	Final composition exam (60 minutes)
14	Return final composition exams	-Final composition exam feedback -Calculate fluency writing progress

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given weekly out-of-class homework assignments, which will comprise of grammar exercises and/or writing assignments. All composition assignments must be typed. Students are responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important that homework be completed on time. Late assignments will not receive full credit. Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
No textbook is required. The instructor will provide all materials.

【参考書】
Composition Practice Book 2 (Third Edition) by Linda Lonon Blanton (Published by Thomson)

【成績評価の方法と基準】
Class participation/effort: 20%
Homework assignments: 10%
Vocabulary notebook/word cards: 10%
Vocabulary quizzes: 10%
Compositions: 30%
Final composition exam: 20%

【学生の意見等からの気づき】
None.

【Outline (in English)】
This intermediate-level writing course offers a step-by-step approach to the successful development of English composition skills.
Students are expected to engage in regular study outside of class in order to develop their writing skills. These activities include writing multiple drafts of compositions, studying and memorizing English vocabulary, and completing textbook homework assignments. Homework will include reading model texts for composition assignments, completing reading and composition exercises, and doing grammar practice activities.
Students will write compositions on a variety of topics, such as personal narratives, descriptions of daily routines, descriptions of a friend or acquaintance, and a business letter. Students are also expected to prepare and maintain a vocabulary notebook to record and review new words and expressions encountered in the course. Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.
The semester grade will be determined as follows:
Class participation/effort: 20%
Homework assignments: 10%
Vocabulary notebook/word cards: 10%
Vocabulary quizzes: 10%
Compositions: 30%
Final composition exam: 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

英語中級ライティング

LOWRI　E　HUMBERSTONE

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to help students develop their written English skills through discussion and writing exercises. Using the textbook as a starting point for class discussion and homework writing exercises, we will aim to improve students vocabulary and use of grammatical structures. The class encourages active learning and class discussion in order to improve confidence and fluency. Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.
このコースは、ディスカッションやライティング演習を通じて、学生が英語の文章スキルを向上させることを目指しています。教科書をクラスディスカッションや宿題のライティング演習の出発点として使用し、学生の語彙力や文法構造の使用を向上させることを目指します。クラスでは積極的な学習とクラスディスカッションを奨励し、自信と流暢さを向上させることを目指しています。学生は同僚や講師から即座のクラスフィードバックを期待でき、また、講師からメールでより詳細なフィードバックを個別に受けることができます。Students will learn and develop academic writing skills in English.
Students will improve their English writing skills and will be able to describe people and places in text.
Students will be able to write short, coherent passages in English using complex vocabulary and varied grammatical structures.
Students will be able to write texts which express and justify their opinions in English.
Students will be able to verbally express themselves in English with some fluency.

【到達目標】
Students will learn and develop academic writing skills in English.
Students will improve their English writing skills and will be able to describe people and places in text.
Students will be able to write short, coherent passages in English using complex vocabulary and varied grammatical structures.
Students will be able to write texts which express and justify their opinions in English.
Students will be able to verbally express themselves in English with some fluency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this class we will complete activities from textbooks and discuss texts and topics the textbook introduces. This class prioritises active learning, such as debate and discussion. Assignments may be submitted online or emailed to the sensei directly at senseiemma22@gmail.com For assignment feedback please email Emma Sensei directly.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the class topics and assessment methods Write a self introduction and write three personal learning objectives.
2	Chapter 1 Paragraph Structure	Analyse the writing model, identify parts of a paragraph and draft a paragraph about communication.
3	Chapter 2 Unity and Coherence	Synonyms, learn about coherent essays HOMEWORK- A Paragraph about Health and Medicine
4	Chapter 3 Using Outside Sources	Using and citing sources Quotations Paraphrasing Summarising
5	Chapter 4 From Paragraph to Essay	Parts of an Essay Patterns of Organization Outlines of Essays HOMEWORK- Write an essay about education
6	Chapter 5 Process Essays	Organization Applying Vocabulary
7	Chapter 6 Cause / Effect Essays	Collocations Organisation Applying Vocabulary HOMEWORK - Write a Cause/Effect essay about mental health and job loss
8	Chapter 7 Comparison / Contrast Essays	Antonyms Organization Using antonyms HOMEWORK: Write a comparison/contrast essay about Japan and a different country
9	Chapter 8 Argumentative Essays	Collocations 2 Organization Statistics as support
10	Chapter 9 Types of Sentences	Independent and Dependent Clauses Kinds of Sentences HOMEWORK- Essay about different holidays
11	Chapter 10 Parallelism and Sentence Problems	Parallel structure in sentences Sentence Problems
12	Chapter 11 Noun Clauses	THAT clauses IF/WHETHER clauses Question clauses HOMEWORK- clauses practice

13	Chapter 12 Adverb Clauses	Time clauses Place clauses Distance, Frequency, and Manner Clauses Reason Clauses Result Clauses Purpose Clauses Contrast Clauses Conditional Clauses
14	Participles and Participial Phrases	Kinds of Participles Participial Phrases FINAL ASSESSMENT: ESSAY

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework writing assignments will be set from the textbook based on class topics. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework, revising material from previous lessons and preparing for upcoming lessons. Homework may be submitted to the teacher via email.

【テキスト（教科書）】
Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice &Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【参考書】
N/A

【成績評価の方法と基準】
The passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Class Participation: 30%
Assignments: 50%

【学生の意見等からの気づき】
If a student is significantly faster than other class members, the instructor will provide extra, more challenging, exercises.

【学生が準備すべき機器他】
Please bring your laptop every week.

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course aims to help students develop their written English skills through discussion and writing exercises. Using the textbook as a starting point for class discussion and homework writing exercises, we will aim to improve students vocabulary and use of grammatical structures. The class encourages active learning and class discussion in order to improve confidence and fluency. Students can expect immediate class feedback from their peers and the instructor, and can obtain more detailed feedback privately from the instructor via email.
[Learning Objectives]
Students will learn and develop academic writing skills in English.
Students will improve their English writing skills and will be able to describe people and places in text.
Students will be able to write short, coherent passages in English using complex vocabulary and varied grammatical structures.
Students will be able to write texts which express and justify their opinions in English.
Students will be able to verbally express themselves in English with some fluency.
[Learning activities outside of classroom]
Homework writing assignments will be set from the textbook based on class topics. Students are expected to spend 4 hours a week completing homework, revising material from previous lessons and preparing for upcoming lessons. Homework may be submitted to the teacher via email.
[Grading Criteria /Policy]
The passing grade in this class is 60%.
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Class attendance: 20%
Class Participation: 30%
Assignments: 50%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

KOPROWSKI　MARK

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.
Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	-Course introduction & explanation -Read &Sign Academic Integrity Pledge	The students will receive a self-introduction from the teacher. The students will also write a brief self-introduction.
2	Chapter 1 The Topic Sentence	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: personality words -Paragraph organization in English -The topic sentence -Simple sentences -The writing process (Part 1)
3	Chapter 2 Supporting Sentences	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: suffixes -Supporting sentences: major &minor -Using connectors -Parts of speech -The writing process (Part 2)
4	Chapter 3 The Concluding Sentence	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: family words -The concluding sentence -Transitions of conclusion -Simple &Compound sentences -The writing process (Part 3)
5	Chapter 4 Descriptive Paragraphs	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: describing people -Prepositions of place -Using adjectives [Write a descriptive paragraph]
6	Chapter 5 Narrative Paragraphs	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: simple past verbs -Transitions in narrative paragraphs -Complex sentences [Write a narrative paragraph]
7	Chapter 6 Expository Paragraphs	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: verbs for communicating -Transitions in expository paragraphs [Write an expository paragraph]
8	Chapter 7 Unity Chapter 8 Coherence	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: prepositions of time -Combining sentences -Avoiding fragments
9	Chapter 9 Cohesion	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: dating & marriage customs -The definite article -Personal and demonstrative pronouns
10	Chapter 10 Process	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: sports -Using the imperative [Write a process paragraph]
11	Chapter 11 Reasons and Results	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: exercise -Connectors for reason and result -Review sentence types [Write a reasons and result paragraph]
12	Chapter 12 Opinion	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: movies -Transitions for opinion paragraphs -Avoiding run-on sentences [Write an opinion paragraph]
13	Review for final writing exam	-5-minute fluency writing
14	Final writing examination	60-minute final writing exam (2 different academic paragraphs)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given weekly out-of-class homework assignments, which will include grammar exercises and/or writing assignments. All writing assignments must be typed. Students are also responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important that homework be completed on time. Late assignments will not receive full credit.
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする
Students are expected to spend approximately four hours on preparation and review outside of class.

【テキスト（教科書）】
Writing to Communicate 1
Author: Cynthia A. Boardman
(Pearson Longman, 2008 ISBN 978-0-13-614191-4)

【参考書】
An English-Japanese dictionary will be very useful.

【成績評価の方法と基準】
Class participation/effort 10%
Homework assignments 20%
Writing assignments (6 paragraphs) 50%
Final writing exam 20%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles.
This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.
Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence.
Grading Criteria:
Class participation/effort 10%
Homework assignments 20%
Writing assignments (6 paragraphs) 50%
Final writing exam 20%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

KOPROWSKI　MARK

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.
Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	-Course introduction & explanation -Read &Sign Academic Integrity Pledge	The students will receive a self-introduction from the teacher. The students will also write a brief self-introduction.
2	Chapter 1 The Topic Sentence	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: personality words -Paragraph organization in English -The topic sentence -Simple sentences -The writing process (Part 1)
3	Chapter 2 Supporting Sentences	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: suffixes -Supporting sentences: major &minor -Using connectors -Parts of speech -The writing process (Part 2)
4	Chapter 3 The Concluding Sentence	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: family words -The concluding sentence -Transitions of conclusion -Simple &Compound sentences -The writing process (Part 3)
5	Chapter 4 Descriptive Paragraphs	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: describing people -Prepositions of place -Using adjectives [Write a descriptive paragraph]
6	Chapter 5 Narrative Paragraphs	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: simple past verbs -Transitions in narrative paragraphs -Complex sentences [Write a narrative paragraph]
7	Chapter 6 Expository Paragraphs	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: verbs for communicating -Transitions in expository paragraphs [Write an expository paragraph]
8	Chapter 7 Unity Chapter 8 Coherence	-5-minute fluency writing Vocabulary builder: prepositions of time -Combining sentences -Avoiding fragments
9	Chapter 9 Cohesion	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: dating & marriage customs -The definite article -Personal and demonstrative pronouns
10	Chapter 10 Process	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: sports -Using the imperative [Write a process paragraph]
11	Chapter 11 Reasons and Results	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: exercise -Connectors for reason and result -Review sentence types [Write a reasons and result paragraph]
12	Chapter 12 Opinion	-5-minute fluency writing -Vocabulary builder: movies -Transitions for opinion paragraphs -Avoiding run-on sentences [Write an opinion paragraph]
13	Review for final writing exam	5-minute fluency writing
14	Final writing examination	60-minute final writing exam (2 different academic paragraphs)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given weekly out-of-class homework assignments, which will include grammar exercises and/or writing assignments. All writing assignments must be typed. Students are also responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important that homework be completed on time. Late assignments will not receive full credit.
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする
Students are expected to spend approximately four hours on preparation and review outside of class.

【テキスト（教科書）】
Writing to Communicate 1
Author: Cynthia A. Boardman
(Pearson Longman, 2008 ISBN 978-0-13-614191-4)

【参考書】
An English-Japanese dictionary will be very useful.

【成績評価の方法と基準】
Class participation/effort 10%
Homework assignments 20%
Writing assignments (6 paragraphs) 50%
Final writing exam 20%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles.
This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.
Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence.
Grading Criteria:
Class participation/effort 10%
Homework assignments 20%
Writing assignments (6 paragraphs) 50%
Final writing exam 20%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

宗像　俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識（POWER WritingおよびParagraph Writing）を獲得し、自分の意見を1つのパラグラフにまとめる力を養い、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングへと発展させることを目的とする。POWER WritingやParagraph Writingの実践を通して、英作文の作法を学ぶとともに、日本語でのレポート作成や論文執筆にも活用できるようにする。自ら設定したテーマを、1つのパラグラフあるいはエッセイにまとめる経験を積む。

【到達目標】
①POWER Writingの基礎を習得する
②様々な種類のParagraph Writingの使用法を理解する
③Essayの書き方と構造について学ぶ
④より自然な、アカデミックな文章表現に必要な単語、フレーズ、文法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①あらかじめ指定したリスニング教材を使い、単語やフレーズの書き取りテストを実施する。
②英作文を書く上で基本となる文法の解説を行う。
③当日予定している教科書の範囲について、解説をする。
④必要に応じて例を示しながら、そのエッセイの評価ポイント、改善ポイントを指摘する。
⑤自然な英語表現を覚えるために、シャドウイング（音声を聴きながら発話する英語習得法）を実施する。
⑥時間が余れば、各回で設定しているテーマについて、英作文をつくる。個別に指導する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容および進め方の説明
第2回	アカデミック・ライティングのための基礎知識	そもそもアカデミック・ライティングとは何かについて解説する。基本となる英文法についても、説明を加える。
第3回	Section I–Getting Started （Unit 1-Unit 3）	POWER Writingとは何か①「解説編」
第4回	Section I–Getting Started （Unit 1-Unit 3）	POWER Writingとは何か②「実践編–日本語作文で慣れる」
第5回	Section I–Getting Started （Unit 1-Unit 3）	POWER Writingとは何か③「実践編–英作文で自己紹介にチャレンジ」
第6回	Section II–Types of Paragraph （Unit 4-Unit 12）	様々なParagraph Writing①「解説編（Descriptive, Comparison and Contrast）」
第7回	Section II–Types of Paragraph （Unit 4-Unit 12）	様々なParagraph Writing②「解説編（ Process, Narrative）」
第8回	Section II–Types of Paragraph （Unit 4-Unit 12）	様々なParagraph Writing③「解説編（Summary, Analysis）」
第9回	Section II–Types of Paragraph （Unit 4-Unit 12）	様々なParagraph Writing④「解説編（Cause and Effect, Persuasive）」
第10回	Section II–Types of Paragraph （Unit 4-Unit 12）	様々なParagraph Writing⑤「解説編Problem-Solution」
第11回	Section III–Essays （Unit 13-Unit 17）	エッセイの構造について考える
第12回	Paragraph Writingの実践①	日本語で、何を書くか考えをまとめる。
第13回	Paragraph Writingの実践②	第12回で考えた日本語の構想を、英語に変換して英作文の準備をする。
第14回	Paragraph Writingの実践③	第13回の準備作業を受け、1パラグラフ分の英作文を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
【ライティング・スキルの習得には、授業時間外学習での各自の取り組みが重要である】
①事前に教科書の指定された範囲に目を通し、各講義で学ぶことについてあらかじめ触れておく。
②指定されたリスニング教材のシャドウイングに取り組み、単語やフレーズの書き取りテストの準備をする。
③今期は2回、ライティング課題を課す予定なので、事前に何を書くかを考えておく。

【テキスト（教科書）】
Matthew A. Taylor and David E. Kluge. "Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay." Tokyo: Cengage Learning K.K., 2012. ISBN: 978-4-86312-209-3

【参考書】
高橋響『英語ライティングの鬼100則』明日香出版社, 2021。ISBN：978-4-7569-2165-9
澤井康佑『新・英語の構文150』美誠社, 2024。ISBN：978-4-8285-3378-0
※参考書は適宜コピーして配布します。

【成績評価の方法と基準】
①最終課題の英作文（40%）
②中間課題の英作文（20%）
③各回の文法クイズ（20%）
④授業へ積極性（グループ・ディスカッション、発表、積極的な発言）（20%）

【学生の意見等からの気づき】
※①②については、重要度が高いものから順に次の観点で評価します。
1. POWER WritingやParagraph Writingに則った構成か。
2. 指定された字数を満たしているか。
3. 誤字脱字がないか。
4. 単語や文法を正しく使っているか。

【学生が準備すべき機器他】
わからないことがあればそのままにせず、積極的に質問して解決してください。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることもあります。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
The purpose of this class is to acquire the basic knowledge of POWER Writing and Paragraph Writing. Students will be able to summarize their opinions and ideas in a single paragraph, and to use the knowledge and the skill in essay writing and academic writing. Through the practice of POWER Writing and Paragraph Writing, students will learn how to compose English essays, and apply the skills to composition of reports and papers in Japanese.
【到達目標（Learning Objectives）】
1. Students acquire the basic knowledge of POWER Writing.
2. Students understand the various types of Paragraph Writing.
3. Students learn how to write an essay
4. Students pick up words, phrases, and grammars which are necessary for more natural, academic writing expression.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Practice makes perfect. Your strenuous effort help your comprehension of POWER writing and Paragraph writing.
Students are expected to spend three hours on preparation and review.
1. Students should read through the designated chapters in the textbook in advance.
2. Students will prepare for the dictation test.
3. Students will be required to compose two essays, so students should think about what they will write about.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
1. English composition on the final assignment (40%)
2. Mid-term English composition assignment (20%)
3. Quiz (20%)
4. Attitude (group discussion, presentation, participation) (20%)
The following points will be used to evaluate 1. and 2.
A. Whether the essay is written by POWER Writing and Paragraph Writing.
B. Whether the number of words in the essay reaches the lower end.
C. Whether there are typographical errors and omissions.
D. Whether words and grammar are used correctly.

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

小屋　多恵子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
英文論理構成の基礎や展開法を理解し、それをもとに論理的で説得力のある英語でパラグラフを書き、英語で発表することを目的とする。
1)様々な状況において適切な語彙・語句を使って文法的に正しい文を書くことができる。
2)効果的な英文論理構成の基礎を固め、それを基にあるテーマについて論理的で説得力のある英語でパラグラフを書くことができる。
3)正式な書式・句読法に従ってパソコンでパラグラフを作成する。
4)聞き手に理解してもらえる発音でプレゼンテーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の３つである。
1) 一文レベルの基本文を確認する。
2) パラグラフ・ライティングの構造を学び、理解し、書く。
3) 書いたパラグラフを適切に音読する。
課題、小テスト、試験については、Hoppiiを通してまたは授業内で、フィードバック、総評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Guidance	・Introducing the class content and offering guidance ・Discussing writing and process writing ・Layout and rules of punctuation
2回	What is a paragraph? (1)	Pre-writing, the structure of a paragraph
3回	What is a paragraph? (2)	The structure of a paragraph
4回	What is a paragraph? (3)	The development of a paragraph
5回	Explanation (statistics)	How to explain a line graph and a pie chart.
6回	Listing paragraph (1)	What is a listing paragraph?
7回	Listing paragraph (2)	Organizing and writing a listing paragraph
8回	Listing paragraph (3)	Peer editing and revising
9回	Listing paragraph (4)	・Recording your opinion paragraph ・Measure your achievement
10回	Problem/solution paragraphs (1)	What are problem/solution paragraphs?
11回	Problem/solution paragraphs (2)	Organizing and writing problem/solution paragraphs
12回	Problem/solution paragraphs (3)	Peer editing and revising
13回	Problem/solution paragraphs (4) Review quiz	・Recording your problem/solution paragraphs ・Measure your achievement
14回	Review	Sharing your problem/solution paragraphs and making comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。
・授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げておく。

【テキスト（教科書）】
プリントを用意する。

【参考書】
PC/辞書
その他、必要に応じて授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点・小テスト・課題 40%
パラグラフ・エッセイ 60%

【学生の意見等からの気づき】
学期末アンケートにおいて、習ったことをエッセイに活かす時間をもっと多くとって欲しいという声があったので、2026年度はその要望に応えたい。これは、受講する学生ごとに異なる可能性があるので、様子を見ながら、時間を調整していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
PCを使用する。

【その他の重要事項】
・５回欠席した時点で単位取得不可となる。
・遅刻・中抜け・早退は２回を持って欠席１回とみなす。

【Outline (in English)】
Course outline:
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A. Write grammatically correct sentences using appropriate words and phrases in various situations.
B. Understand effective English structure and write logical and persuasive paragraphs on a given topic in English.

C. Write paragraphs on a computer according to formal format and punctuation.
D. Give a presentation with proper pronunciation that is understandable to the audience.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to complete any tasks that were not completed during the class by the next class. Their study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria:
In-class activities, quizzes and assignments (40%), and essays (60%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

小屋　多恵子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
英文論理構成の基礎や展開法を理解し、それをもとに論理的で説得力のある英語でパラグラフを書き、英語で発表することを目的とする。
1)様々な状況において適切な語彙・語句を使って文法的に正しい文を書くことができる。
2)効果的な英文論理構成の基礎を固め、それを基にあるテーマについて論理的で説得力のある英語でパラグラフを書くことができる。
3)正式な書式・句読法に従ってパソコンでパラグラフを作成する。
4)聞き手に理解してもらえる発音でプレゼンテーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の３つである。
1) 一文レベルの基本文を確認する。
2) パラグラフ・ライティングの構造を学び、理解し、書く。
3) 書いたパラグラフを適切に音読する。
課題、小テスト、試験については、Hoppiiを通してまたは授業内で、フィードバック、総評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Guidance	・Introducing the class content and offering guidance ・Discussing writing and process writing ・Layout and rules of punctuation
2回	What is a paragraph? (1)	Pre-writing, the structure of a paragraph
3回	What is a paragraph? (2)	the structure of a paragraph
4回	What is a paragraph? (3)	The development of a paragraph
5回	Explanation (statistics)	How to explain a line graph and a pie chart
6回	Listing paragraph (1)	What is a listing paragraph?
7回	Listing paragraph (2)	Organizing and writing a listing paragraph
8回	Listing paragraph (3)	Peer editing and revising
9回	Listing paragraph (4)	・Recording your opinion paragraph ・Measure your achievement
10回	Problem/solution paragraphs (1)	What are problem and solution paragraphs?
11回	Problem/solution paragraphs (2)	Organizing and writing problem/solution paragraphs
12回	Problem/solution paragraphs (3)	Peer editing and revising
13回	Problem/solution paragraphs (4) Review quiz	・Recording your problem/solution paragraphs ・Measure your achievement
14回	Review	Sharing your problem/solution paragraphs and making comments。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。
・授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げておく。

【テキスト（教科書）】
プリントを用意する。

【参考書】
PC/辞書
その他、必要に応じて授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点・小テスト・課題 40%
パラグラフ・エッセイ 60%

【学生の意見等からの気づき】
学期末アンケートにおいて、習ったことをエッセイに活かす時間をもっと多くとって欲しいという声があったので、2026年度はその要望に応えたい。これは、受講する学生ごとに異なる可能性があるので、様子を見ながら、時間を調整していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
PCを使用する。

【その他の重要事項】
・５回欠席した時点で単位取得不可となる。
・遅刻・中抜け・早退は２回を持って欠席１回とみなす。

【Outline (in English)】
Course outline:
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A. Write grammatically correct sentences using appropriate words and phrases in various situations.
B. Understand effective English structure and write logical and persuasive paragraphs on a given topic in English.

C. Write paragraphs on a computer according to formal format and punctuation.
D. Give a presentation with proper pronunciation that is understandable to the audience.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to complete any tasks that were not completed during the class by the next class. Their study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria:
In-class activities, quizzes and assignments (40%), and essays (60%)

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

村上　弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈授業概容〉
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。
〈授業の目的・意義〉
大学生にふさわしい現代的、知的なトピックについて、的確に効果的に短いエッセイの形で情報や意見を英語で論じる力を身に着けることによって、国際人としての将来の役割への準備を行う。このコースで学ぶ内容は、今後、大学生、また社会人として日本語で充実したエッセイを書くうえでも基本となるものである。

【到達目標】
1.大学生は、すでにかなりの文法、語彙を知識として蓄えながらも、実際には頭のどこか深くにしまいこみ、不安定なスキルとなり、発信する英語に生かせないことが多い。翻訳ツールの生成した英語、さらには元となる日本語の適切さを確認する作業も随時行いながら、重要な文法・表現・語彙の固定化を行い、精確なセンテンスの作成が常にできるようにする。
2.大学生にふさわしいやや高度なトピックについて、情報を収集、咀嚼し、自分なりの観点や意見をそこから生み出し、短いエッセイの形で効果的に議論を展開できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①講師、もしくは学生さんたちが選んだテーマについて、短いニュース記事を授業内に読む。その過程で注意すべき文法、重要な表現などをクラスで学んでいく。
②　①で紹介されたニュースについてクラス全体でBrain Stormingを行う。ニュースと関連した情報、連想される問題や事象をその場で自由に出し合い、視野を広げる。その過程で、関連する基本的な英語表現を身に着ける。
③　①,②で紹介されたニュースやブレインストーミングから着想を得て、各自、自分の視点を定めてテーマを設定し、必要に応じて簡単なリサーチを行い、エッセイを書くと仮定し
て、第一パラグラフを書く。その過程で効果的な段落構成、エッセイ作成の基本を学ぶ。
④　学期終了前に、③で書いた第一段落から一つ選び、簡単なリサーチを行ってエッセイ全体を作成する。
⑤　一つ一つのセンテンスを正確に作成する訓練の一環として、①～③の過程で、英作文を授業内や課題で行う。
⑥　③、④については、クラスでの講評、教員からのアドバイスを受けて、1～2回修正、書き直しを行い完成作品とする。
授業は基本的に対面で行う。しかし、情勢や授業の進捗状況に合わせてオンラインに変更されることもあるので、随時学習支援システムで確認されたい。
授業計画に示している題材は、一昨年度の例であるので、今年度はまた異なるトピックを選ぶことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明 受講生各自の自己紹介など
第2回	ニュースの紹介 Furry　Slippers and Sweatpants: Young Chinese Embrace 'Gross Outfits'あ tWork-1(昨年度の例）競争社会への静かな抵抗	ニュースの購読 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第3回	Gross Outfits at Work-2 brain storming	ニュースを出発点としたブレインストーミング 視野、トピック、語彙の拡大
第4回	Gross Outfits at Work-３	学生さんの調査結果のクラスでの共有 （視野、トピック、語彙の拡大） 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 英作文小テスト 効果的な段落構成の学習
第5回	Gross Outfits at Work-4	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第6回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.－１ 国家が強制するボランティア活動	ニュースの購読 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第7回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.－１-2	ニュースを出発点としたブレインストーミング 視野、トピック、語彙の拡大
第8回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.-3	学生さんの調査結果のクラスでの共有 （視野、トピック、語彙の拡大） 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 英作文小テスト 効果的な段落構成の学習
第9回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.-4	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第10回	Eco-anxiety－１ (気候変動と環境不安）	ニュースの購読 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第11回	Eco-anxiety-2	ニュースを出発点としたブレインストーミング 視野、トピック、語彙の拡大
第12回	Eco-anxiety-3	学生さんの調査結果のクラスでの共有 （視野、トピック、語彙の拡大） 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 英作文小テスト 効果的な段落構成の学習

第13回	Eco-anxiety-4	第一段落の発表、総評
第14回	エッセイの準備と発表、講評	上記三つの題材のうち一つを選択し、各自エッセイを作成する本格的準備と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
１.授業で紹介されたニュースやbrain stormingから着想を得てテーマを設定し、簡単なリサーチを行ったり、パラグラフを作成したりする。
２.教師の指示に従ってパラグラフの書き直しを行う。
３.授業で得た英語表現の知識をもとに、教師の指定した条件に沿って正確なセンテンスの作成の練習を行う。
４．学期中に1－2回程度作成するエッセイについて、より詳しいリサーチなどを行い充実したエッセイを書く。また教師やクラスでの検討を経て、エッセイの再作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。ネットで視聴可能なものを教師が指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み(ニュース、リサーチの発表、ブレインストーミングへの貢献など）（30％）宿題への取り組み（40％)、英文エッセーの作成の過程（30％）

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の様々な意見や情報をクラス全体で共有することが豊かな経験だったという言葉が多く聞かれるが、同時に翻訳ツールに英語を、またAIにリサーチを頼りすぎてしまうという反省意見も聞かれ、また教師として課題提出物をを確認する際に同感する場面も多い。日本語、英語ともに何を言語で表現したいのか、絶えず問い返していく試みを多くし、一文、一文、また段落構成としても適切なものが作成できるような訓練を積み重ねていきたい。

【Outline (in English)】
〈Course outline〉
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
〈Learning Objectives〉
Activities in this course are designed to meet two goals. Firstly, students will acquire a solid basis required for constructing accurate sentences. For that purpose, students will be constantly requested in class and as homework to express some information and ideas in Japanese and /or in English and are given feedback from the instructor in each class.
Secondly, students will acquire the basic skill of writing English essays effectively through the process of writing paragraphs on a couple of topics selected by the instructor or students. In preparation for writing content-rich essays rich, it is necessary for students to actively search relevant information and shape their own ideas.
〈Learning activities outside of the classroom〉
After each class, students will be expected to do some of the following tasks.
1.Write or rewrite some sentences following suggestions from the instructor
2. Research more extensively or in a more focused manner.
3.Write short paragraphs or rewrite them following instructions from the instructor. 4.Review useful expressions and grammatical knowledge acquired in each class meeting.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.
〈Grading criteria〉
Your final grading will be decided based on contribution and active participation in activities held in the classroom such as brainstorming and exchange of ideas and information (30%,) homework（40％）and the process of writing essays (30%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

村上　弥生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈授業概容〉
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。
〈授業の目的・意義〉
大学生にふさわしい現代的、知的なトピックについて、的確に効果的に短いエッセイの形で情報や意見を英語で論じる力を身に着けることによって、国際人としての将来の役割への準備を行う。このコースで学ぶ内容は、今後、大学生、また社会人として日本語で充実したエッセイを書くうえでも基本となるものである。

【到達目標】
1.大学生は、すでにかなりの文法、語彙を知識として蓄えながらも、実際には頭のどこか深くにしまいこみ、不安定なスキルとなり、発信する英語に生かせないことが多い。翻訳ツールの生成した英語、さらには元となる日本語の適切さを確認する作業も随時行いながら、重要な文法・表現・語彙の固定化を行い、精確なセンテンスの作成が常にできるようにする。
2.大学生にふさわしいやや高度なトピックについて、情報を収集、咀嚼し、自分なりの観点や意見をそこから生み出し、短いエッセイの形で効果的に議論を展開できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
①講師、もしくは学生さんたちが選んだテーマについて、短いニュース記事を授業内に読む。その過程で注意すべき文法、重要な表現などをクラスで学んでいく。
②　①で紹介されたニュースについてクラス全体でBrain Stormingを行う。ニュースと関連した情報、連想される問題や事象をその場で自由に出し合い、視野を広げる。その過程で、関連する基本的な英語表現を身に着ける。
③　①,②で紹介されたニュースやブレインストーミングから着想を得て、各自、自分の視点を定めてテーマを設定し、必要に応じて簡単なリサーチを行い、エッセイを書くと仮定し
て、第一パラグラフを書く。その過程で効果的な段落構成、エッセイ作成の基本を学ぶ。
④　学期終了前に、③で書いた第一段落から一つ選び、簡単なリサーチを行ってエッセイ全体を作成する。
⑤　一つ一つのセンテンスを正確に作成する訓練の一環として、①～③の過程で、英作文を授業内や課題で行う。
⑥　③、④については、クラスでの講評、教員からのアドバイスを受けて、1～2回修正、書き直しを行い完成作品とする。
授業は基本的に対面で行う。しかし、情勢や授業の進捗状況に合わせてオンラインに変更されることもあるので、随時学習支援システムで確認されたい。
授業計画に示している題材は、一昨年度の例であるので、今年度はまた異なるトピックを選ぶことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明 受講生各自の自己紹介など
第2回	ニュースの紹介 Furry　Slippers and Sweatpants: Young Chinese Embrace 'Gross Outfits'あ tWork-1(昨年度の例）競争社会への静かな抵抗	ニュースの購読 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第3回	Gross Outfits at Work-2 brain storming	ニュースを出発点としたブレインストーミング 視野、トピック、語彙の拡大
第4回	Gross Outfits at Work-３	学生さんの調査結果のクラスでの共有 （視野、トピック、語彙の拡大） 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 英作文小テスト 効果的な段落構成の学習
第5回	Gross Outfits at Work-4	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第6回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.－１ 国家が強制するボランティア活動	ニュースの購読 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第7回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.－１-2	ニュースを出発点としたブレインストーミング 視野、トピック、語彙の拡大
第8回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.-3	学生さんの調査結果のクラスでの共有 （視野、トピック、語彙の拡大） 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 英作文小テスト 効果的な段落構成の学習
第9回	Compulsory Volunteer at Work in the U.K.-4	第一段落の発表、総評 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 効果的な段落構成の学習
第10回	Eco-anxietyー１ (気候変動と環境不安）	ニュースの購読 英語らしい文作成のための文法、表現の確認
第11回	Eco-anxiety-2	ニュースを出発点としたブレインストーミング 視野、トピック、語彙の拡大
第12回	Eco-anxiety-3	学生さんの調査結果のクラスでの共有 （視野、トピック、語彙の拡大） 英語らしい文作成のための文法、表現の確認 英作文小テスト 効果的な段落構成の学習

第13回	Eco-anxiety-4	第一段落の発表、総評
第14回	エッセイの準備と発表、講評	上記三つの題材のうち一つを選択し、各自エッセイを作成する本格的準備と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
１.授業で紹介されたニュースやbrain stormingから着想を得てテーマを設定し、簡単なリサーチを行ったり、パラグラフを作成したりする。
２.教師の指示に従ってパラグラフの書き直しを行う。
３.授業で得た英語表現の知識をもとに、教師の指定した条件に沿って正確なセンテンスの作成の練習を行う。
４．学期中に1－2回程度作成するエッセイについて、より詳しいリサーチなどを行い充実したエッセイを書く。また教師やクラスでの検討を経て、エッセイの再作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。ネットで視聴可能なものを教師が指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み(ニュース、リサーチの発表、ブレインストーミングへの貢献など）（30％）宿題への取り組み（40％)、英文エッセーの作成の過程（30％）

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の様々な意見や情報をクラス全体で共有することが豊かな経験だったという言葉が多く聞かれるが、同時に翻訳ツールに英語を、またAIにリサーチを頼りすぎてしまうという反省意見も聞かれ、また教師として課題提出物をを確認する際に同感する場面も多い。日本語、英語ともに何を言語で表現したいのか、絶えず問い返していく試みを多くし、一文、一文、また段落構成としても適切なものが作成できるような訓練を積み重ねていきたい。

【Outline (in English)】
〈Course outline〉
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
〈Learning Objectives〉
Activities in this course are designed to meet two goals. Firstly, students will acquire a solid basis required for constructing accurate sentences. For that purpose, students will be constantly requested in class and as homework to express some information and ideas in Japanese and /or in English and are given feedback from the instructor in each class.
Secondly, students will acquire the basic skill of writing English essays effectively through the process of writing paragraphs on a couple of topics selected by the instructor or students. In preparation for writing content-rich essays rich, it is necessary for students to actively search relevant information and shape their own ideas.
〈Learning activities outside of the classroom〉
After each class, students will be expected to do some of the following tasks.
1.Write or rewrite some sentences following suggestions from the instructor
2. Research more extensively or in a more focused manner.
3.Write short paragraphs or rewrite them following instructions from the instructor. 4.Review useful expressions and grammatical knowledge acquired in each class meeting.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.
〈Grading criteria〉
Your final grading will be decided based on contribution and active participation in activities held in the classroom such as brainstorming and exchange of ideas and information (30%,) homework（40％）and the process of writing essays (30%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

花﨑　一夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、基礎的な語彙力、文法、文構造分析スキルの習得を通じて、学術的読解力を向上させることである。語彙力の向上においては、英語と日本語の厳密な翻訳ではなく、文脈や構造を考慮して意味を推し量ることに重点を置く。文法と構文指導では、既習知識を活用し実際の英語を読むことを重視する。これらの技能を用い、基本的な読解力を強化するとともに、段落構造の理解に基づき、内容の要旨を迅速かつ簡潔に要約できるようになることを目指す。

【到達目標】
(1) 高度なテキストを読み、より豊かな語彙や表現に触れることでその習得に努める。
(2) 言語学の教科書を読むことを通して、本物の学術英語や表現に触れ、言語についての考察を深めるとともに、言語全般に対する感性を養うことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則として、毎週の授業で読む英文に関する課題をやってもらいます。課題のフィードバックは、必要に応じて、次回の授業時に行います。授業中に、授業の内容に関する質問を多数用意しますので、皆さんの積極的な発言を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.対面	Introduction	英語と日本語
2.対面	Chapter1	Concepts We Live By
3. 対面	Chapter2	The Systematicity of Metaphorical Concepts
4.対面	Chapter3	Metaphorical Systematicity: Highlighting and Hiding
5.対面	Chapter4	Orientational Metaphor
6.対面	Chapter5	Metaphor and Cultural Coherence
7. オンライン	Chapter6	Ontological Metaphors
8. オンライン	Chapter7	Personification
9. オンライン	Chapter8	Metonymy
10. オンライン	Chapter9	How is Our Conceptual System Grounded?
11. オンライン	Chapter10	How Metaphor Can Give Meaning to Form
12. オンライン	Chapter11	New Meaning
13. オンライン	TBA	TBA
14.対面	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
Metaphors We Live By
メタファーに満ちた日常世界　１７００円（税抜き）

【参考書】
授業中などに適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題５０パーセントと期末テスト５０パーセントを基準とする。変更がある場合には、Hoppiiなどで事前にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の内容に関する課題に対する学生の理解度を知り、それをフィードバックすることが大切であると毎年気づかされているので、今年度の授業でも継続していきたい。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
[Goal]
(1) Strive to acquire vocabulary and expressions by reading advanced texts and engaging with richer language.
(2) Through reading linguistics textbooks, aim to encounter authentic academic English and expressions, deepen reflection on language, and cultivate sensitivity toward language in general.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
Preparation and review for this class, including out-of-class study, should be approximately one hour per session.
[Grading criteria]
Grades are based on 50% assignments and 50% final exam. Any changes will be announced in advance via Hoppii.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

英語資格試験準備講座

久保　佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、受講生のTOEICスコアを上げることに加えて（TOEIC L&Rの400点あるいは500点以上に到達する）、受講生の総合的な英語力の強化を目的とする。
リーディングでは、限られた受験時間の中で解き終えるための受験方略だけではなく、短時間で効果的にマテリアルの要点や構造を捉えるための読解方略の養成を目指すことで、汎用性の高いリーディングスキルの向上を目指す。リスニングでは、十分に理解をしたマテリアルを用いて音読やシャドーイングを実施することで、英語の音声知覚スキルの向上を促し、基礎的なリスニングスキルの強化を目指す。また、受講生のニーズに応じて、スピーキングやライティングに焦点を当てたタスクも実施することで、TOEIC S&Wの試験対策を行うと同時に、基礎的な産出技能の強力も目指す。
受講後も自身での外部試験対策の学習を継続していくために、効果的な英語学習方法についての説明も適宜行っていく。

【到達目標】
本授業を通して、受講生は以下のことができるようになることを目標とする：
１．リーディングとリスニングを支える語彙・文法知識の定着を図る
２．目的に応じて、英文テキストを読解する力を身につける
３．英語音声を聞いて瞬時に英文に変換する力を身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では、TOEIC L&Rのスコア向上を目指して、基礎的な英語力の定着を図るための演習を行う。また、授業内で２～３回のTOEIC L&Rの模擬試験を実施することで、自身の得意分野と苦手分野を把握し、テスト結果に基づいて英語力の向上を目指す。
授業は前半と後半のパートで分かれており、前半では講義形式でクラスで共通の問題に取り組む（授業内容によってはグループ演習も行う）。後半では、苦手分野を共有するグループを作り、苦手分野を克服するための協同学習や個別学習に取り組む。
テスト問題に対する回答へのフィードバックはGoogle Formsなどを活用しながらパートごとに実施し、個々人の特徴に応じた第二言語習得論に基づく効果的な英語学習についてのフィードバックは随時授業内で共有する。
この授業の授業形態はハイフレックスです。７回は対面参加が必須となります。対面参加日の一部はこちらで指定します。履修人数の上限は30名としますので、履修希望者が31名以上いる場合は抽選となります。
【授業計画】で「対面指定日」と記載のある回は、対面参加の指定回となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（全員対面指定日）	TOEICで測定される英語力と本講義の説明
2	模擬テスト（１）（全員対面指定日）	自分の得意分野と苦手分野を特定して、次の学習に活かす
3	リーディング演習①（オンライン可の日）	リーディング問題演習・苦手分野に焦点を当てた問題演習
4	リスニング演習①（全員対面指定日）	リスニング問題演習・苦手分野に焦点を当てた問題演習
5	リーディング演習②（オンライン可の日）	リーディング問題演習・苦手分野に焦点を当てた問題演習
6	リスニング演習②（オンライン可の日）	リスニング問題演習・苦手分野に焦点を当てた問題演習
7	模擬テスト（２）（全員対面指定日）	自分の得意分野と苦手分野を特定して、次の学習に活かす
8	リーディング演習③（オンライン可の日）	リーディング問題演習・苦手分野に焦点を当てた問題演習
9	リスニング演習③（オンライン可の日）	リスニング問題演習・苦手分野に焦点を当てた問題演習
10	リーディング演習④（オンライン可の日）	リーディング問題演習・苦手分野に焦点を当てた問題演習
11	リスニング演習④（全員対面指定日）	リスニング問題演習・苦手分野に焦点を当てた問題演習
12	リーディング演習⑤（オンライン可の日）	リーディング問題演習・苦手分野に焦点を当てた問題演習
13	リスニング演習⑤（オンライン可の日）	リスニング問題演習・苦手分野に焦点を当てた問題演習
14	模擬テスト（３）（全員対面指定日）	自分の得意分野と苦手分野を特定して、次の学習に活かす

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・リーディング問題の復習（英文内の語彙と文法を瞬時に処理できるようにする）
・リスニング問題の復習（音声を瞬時に英文に変換できるようにする）
・指定された課題の実施と提出

【テキスト（教科書）】
授業で使用する教材は初回授業時にアナウンスします。
第３回までに用意をお願いいたします。

【参考書】
参考資料は、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価方法：試験（模擬テスト）・課題の達成度合い
評価基準：試験60％・課題40％

【学生の意見等からの気づき】
受講生のニーズに応じて、適宜授業内容を修正していきます。
（本年度授業担当者変更のため、前年度にアンケートは実施しておりません。）

【学生が準備すべき機器他】
授業内容によっては使用する場合があるため、PCやタブレットなどの用意をお願いします（初回授業では必要ありません）。

【その他の重要事項】
・授業の進捗状況や受講生の理解度に応じて内容を多少変更する場合もあります。
　その場合は、その都度皆さんに連絡致します。
・オンラインでの受講ルールは、初回授業時にお伝えします。
・英語に苦手意識を覚えている方でも、本授業を通して自律的な英語学習の
　習慣が付き、その結果として英語力の向上につながれば嬉しく思います。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。

病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
Course outline:
The aim of this course is not only to improve students' TOEIC scores but also to strengthen their overall English proficiency.
Learning Objectives:
1. consolidate vocabulary and grammatical knowledge that underpins reading and listening skills
2. develop the reading skill to comprehend English texts according to different purposes
3. develop the listening skill to convert spoken English into written English accurately and efficiently
Learning activities outside of classroom:
. review of reading questions, with a focus on rapid processing of vocabulary and grammar in English texts
. review of listening questions, with a focus on quickly converting spoken input into written English
. completion and submission of assigned tasks
Grading Criteria:
Exam: 60%, Assignment: 40%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・明確な目的を持って特定の読者に向けて適切な語彙とスタイルで書くことができる。
・論理構成や段落分けを理解し簡潔で効果的な文章で書くことができる。
・書くプロセス（planning, outlining, drafting）に沿って書けるようになる。
・剽窃(plagiarism)を避けるために様々な引用の仕方を理解し使えるようになる。
・クラスメートのエッセイを読み直し、編集できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、ライティングの演習問題を、グループワークで実施します。ピア編集を活用し、お互いの書いたものを校正、編集し、ライティングスキルの向上につなげる。また、教員による個別フィードバックがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation Paragraph writing	Explanation of syllabus & course introduction Introduction to fluency writing
第2回	Paragraph writing	Fluency writing How to write paragraphs Formatting guidelines and avoiding plagiarism
第3回	Paragraph writing	Fluency writing Learn how to reference your sources
第4回	Essay writing	Fluency writing Start essay preparations
第5回	Essay writing	Fluency writing Turn in 1st topic sentence
第6回	Essay writing	Fluency writing Turn in 2nd topic sentence
第7回	Essay writing	Fluency writing Turn in 3rd topic sentence
第8回	Essay writing	Fluency writing Write introduction and conclusion
第9回	Essay writing Peer Feedback	Fluency writing Peer feedback day
第10回	Essay writing 1st draft	Fluency writing Turn in 1st draft
第11回	Essay Writing	Fluency writing Revise 1st draft
第12回	Essay writing 2nd draft	Fluency writing Turn in 2nd draft
第13回	Essay writing	Fluency writing Revise 2nd draft
第14回	Essay writing 3rd draft	Fluency writing Turn in 3rd draft Turn in fluency journal

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間程度を標準とする】
・ライティング課題は、全て、初稿提出⇒ピア編集⇒書き直し⇒最終稿提出で進んでいくので、期限までに初稿、最終稿を提出すること。
・リサーチのテーマに沿って、様々なリーディング素材を英語で読みながらまとめていくので、しっかりと事前準備をして進めていくこと。

【テキスト（教科書）】
All materials will be provided by the professor online.

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
・ライティング課題　１００％　（エッセイ８５%、　Fluency　１５%）
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to bring their computers (laptops or tablets) to every class.

【その他の重要事項】
・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
The course is designed to help students develop skills to communicate effectively in writing. Students will practice group writing assignments that require planning, drafting, revising and editing.

By the end of the course, students will be able to: 1) write for a clear purpose and to a specific audience, using appropriate word and style choices, 2) understand the planning, outlining and drafting process, 3) integrate sources accurately and effectively, 4) write in the style of an English-language academic essay, 5) read and edit their essays in order to improve them.
Each week students will be expected to spend four hours outside of class preparing for their writing assignments.
Final grades will be based on fluency writing (15%) and essay writing assignments (85%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

川口　悠子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
・十分な語彙力、文法力を身につける。
・パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、英文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
予習して分からなかったところなどを確認しながら、テキストの内容を確認します。リスニングや音読、作文、文法事項の確認なども交えます。また、語学は反復が重要ですので、随時小テストを行い、前回の授業で学んだことの定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方について説明する
2	Unit 1 (1)	Space Invaders
3	Unit 1 (2)	Space Invaders
4	Unit 2 (1)	What a Waste! Food Loss and Food Waste
5	Unit 2 (2)	What a Waste! Food Loss and Food Waste
6	Unit 3 (1)	Amory Lovins and Soft Technology
7	Unit 3 (2)	Amory Lovins and Soft Technology
8	Unit 4 (1)	Lithium-ion Batteries: The Quest for Clean Power
9	Unit 4 (2)	Lithium-ion Batteries: The Quest for Clean Power
10	Unit 5 (1)	Todai Robot Project
11	Unit 5 (2)	Todai Robot Project
12	Unit 6 (1)	News Literacy: Watchdog or Cheerleader?
13	Unit 6 (2)	News Literacy: Watchdog or Cheerleader?
14	まとめと期末試験	授業内容を振り返り、期末試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・語学では予習が決定的に重要です。辞書を引きながら丁寧に読み、設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。
・各ユニットの復習を目的として小テストをおこないますので、準備をして臨んでください。

【テキスト（教科書）】
松尾秀樹ほか『リーディング・インサイト：科学技術の多様な側面を考える』（三修社）
その他、必要に応じて資料を配付します。

【参考書】
綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）
佐藤誠司『Skyward 総合英語』（桐原書店、2022年）
同『Skyward 総合英語 スーパートレーニング』（桐原書店、2022年）
ほか、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　70%
小テスト　20%
授業参加　10%
＊正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき3回を上限とします。
＊30分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
＊教科書を持参していない場合、予習が不充分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともあります。
＊機械翻訳やAI（ChatGPT 等）が作成した文章や英訳・和訳を、自分で作成したものとして提出することは認めません。そのような行為が確認された場合は、当該の課題の成績を０点にするなど、厳格な対応を行います。

【学生の意見等からの気づき】
私語をする受講生を注意してほしいとの意見がありましたので、静かな教室環境の維持に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
授業には、かならずきちんとした辞書を持参してください。

【その他の重要事項】
授業の進度や受講生の皆さんの要望を踏まえて、シラバスの内容を修正することがあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
【Learning Objectives】
- Students will enhance their skills in essential vocabulary and grammar.
- Students will be able to comprehend the paragraph structure and logical flow of English writing.
【Learning activities outside of classroom】

Preparation is crucial in language learning. The students are required to understand the meaning of every word as well as the grammatical structure of every sentence. A quiz is given every two weeks to help build the vocabulary.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be calculated based on the final exam (70%), quizzes (20%), and class participation (10%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングⅠ

今政　肇

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
・パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、英文を読めるようになる。
・十分な語彙力、文法力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
予習して分からなかったところなどを確認しながら、テキストの内容を確認します。リスニングや音読、作文、文法事項の確認なども交えます。また、語学は反復が重要ですので、随時小テストを行い、前回の授業で学んだことの定着を図ります。課題等へのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。多読および読書ログについて説明します。
2	Unit 1 A	Food and Health(Sweet Love)
3	Unit 1 B	Food and Health (Food for the Future)
4	Unit 2 A	Call of the Wild (Song of the Humpback)
5	Unit 2 B	Call of the Wild (The 1,000-Year Bird Song)
6	Unit 3 A	History Detectives (Was King Tut Murdered?)
7	Unit 3 B	History Detectives (Who Killed the Iceman?)
8	Unit 4 A	Cool Jobs (Getting the Shot: An Interview with Joel Sartre)
9	Unit 4 A	Traditions and Rituals (Living Treasures)
10	Unit 4 B	Traditions and Rituals (The Changing Face of Kung Fu)
11	Unit 5 A	Finding Wonders (The Secrets in the Sand)
12	Unit 5 B	Finding Wonders (The Stories in the Rocks)
13	Unit 6 A	Reef Encounters (Cities Beneath the Sea)
14	Final Review	期末テスト 読書ログのチェック まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読み設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。
・各ユニットの復習を目的としてクイズをおこないますので、準備をして臨んでください。
・大学図書館の英語多読図書（YL＝読みやすさレベル：0.8 2.4)を週70分（1日10分)、約7000字読むことを目標に、読書ログ（タイトル、感想、字数）をつける。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（一ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください)。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【テキスト（教科書)】
Bohlke,D., Douglas,N., Huntley,H., MacIntyre,P., and Rogers, B., (2020) Reading Explorer Level 2, Third Edition,
Student Book with Spark Access + e-Book (1 year access)
ISBN: 9798214085630
※教科書販売期間中に必ず購入すること。（秋学期も継続して使用します。）

【参考書】
学習者用の英英辞書（英英辞書を積極的に使ってみてください）：
https://dictionary.cambridge.org/
法政大学の多読サイト： https://hosei.libguides.com/tadoku
初級レベル：
・ Oxford Reading Tree (YL 0.8-0.9):
Picture-based, perfect for beginners
・ Penguin Readers Easystarts (YL 0.8):
Simple stories, many topics
中級レベル；
・ Cambridge/Oxford/Macmillan Readers:
Wide range of original and adapted stories
・ Penguin Readers:
Large selection including movie adaptations

【成績評価の方法と基準】
宿題　１５％
授業への参加　１５％
クイズ　２５％
期末テスト　２５％
読書ログ　２０％
＊正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊30分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。

【学生の意見等からの気づき】
私語をする受講生を注意してほしいとの意見がありましたので、静かな教室環境の維持に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
授業の進度や受講生の皆さんの要望を踏まえて、シラバスの内容を修正することがあります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on
an understanding of paragraph structure.
[Learning Objectives]
(1) By reading graded books extensively, you can feel more comfortable reading English, and by reading more advanced texts, you can come into contact with a richer vocabulary and expressions.
(2) By coming into contact with authentic English speech and expressions through audiovisual media, you can develop sensitivity toward the language in general.
Set aside approximately 10 minutes a day or 70 minutes a week to read the books that you have chosen and fill out your reading log.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments and homework (15%), [2] class participation (15%), [3] quiz (25%), [4]final test (25%), [5]reading log [20%]

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩ

川口　悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
・十分な語彙力、文法力を身につける。
・パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、英文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
予習して分からなかったところなどを確認しながら、テキストの内容を確認します。リスニングや音読、作文、文法事項の確認なども交えます。また、語学は反復が重要ですので、随時小テストを行い、前回の授業で学んだことの定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方について説明する
2	Unit 7 (1)	Hayabusa 2: A triumph for Public-Private Exploration
3	Unit 7 (2)	Hayabusa 2: A triumph for Public-Private Exploration
4	Unit 8 (1)	Dr. Naoyuki Kawahara and Rocinantes
5	Unit 8 (2)	Dr. Naoyuki Kawahara and Rocinantes
6	Unit 9 (1)	Biomimicry in Japanese Design
7	Unit 9 (2)	Biomimicry in Japanese Design
8	Unit 10 (1)	What Plagues Us
9	Unit 10 (2)	What Plagues Us
10	Unit 11 (1)	A Cup Full of Ideas
11	Unit 11 (2)	A Cup Full of Ideas
12	Unit 12 (1)	Inclusion for Innovation
13	Unit 12 (2)	Inclusion for Innovation
14	まとめ・期末試験	授業内容を振り返り、期末試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・語学では予習が決定的に重要です。辞書を引きながら丁寧に読み、設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。
・各ユニットの復習を目的として小テストをおこないますので、準備をして臨んでください。

【テキスト（教科書）】
松尾秀樹ほか『リーディング・インサイト：科学技術の多様な側面を考える』（三修社）
その他、必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）
佐藤誠司『Skyward 総合英語』（桐原書店、2022年）
同『Skyward 総合英語 スーパートレーニング』（桐原書店、2022年）
ほか、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　70%
小テスト　20%
授業参加　10%
＊正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき3回を上限とします。
＊30分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
＊教科書を持参していない場合、予習が不充分な場合、授業に参加する意欲が見られない場合など、出席とはみなさないこともあります。
＊機械翻訳やAI（ChatGPT 等）が作成した文章や英訳・和訳を、自分で作成したものとして提出することは認めません。そのような行為が確認された場合は、当該の課題の成績を０点にするなど、厳格な対応を行います。

【学生の意見等からの気づき】
私語をする受講生を注意してほしいとの意見がありましたので、静かな教室環境の維持に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
授業にはかならずきちんとした辞書を持参してください。

【その他の重要事項】
授業の進度や受講生の皆さんの要望を踏まえて、シラバスの内容を修正することがあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
【Learning Objectives】
- Students will enhance their skills in essential vocabulary and grammar.
- Students will be able to comprehend the paragraph structure and logical flow of English writing.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation is crucial in language learning. The students are required to understand the meaning of every word as well as the grammatical structure of every sentence. A quiz is given every two weeks to help build the vocabulary.
【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be calculated based on the final exam (70%), quizzes (20%), and class participation (10%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩＩ

花﨑　一夫

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、基礎的な語彙力、文法、文構造分析スキルの習得を通じて、学術的読解力を向上させることである。語彙力の向上においては、英語と日本語の厳密な翻訳ではなく、文脈や構造を考慮して意味を推し量ることに重点を置く。文法と構文指導では、既習知識を活用し実際の英語を読むことを重視する。これらの技能を用い、基本的な読解力を強化するとともに、段落構造の理解に基づき、内容の要旨を迅速かつ簡潔に要約できるようになることを目指す。

【到達目標】
(1) 高度な内容のテキストを読み、より豊かな語彙や表現に触れることでその習得に努める。
(2) 言語学の教科書を読むことを通して、本物の学術英語や表現に触れ、言語についての考察を深めるとともに、言語全般に対する感性を養うことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則として、毎週の授業で読む英文に関する課題をやってもらいます。課題のフィードバックは、必要に応じて、次回の授業時に行います。授業中に、授業の内容に関する質問を多数用意しますので、皆さんの積極的な発言を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.対面	Introduction	UG（普遍文法）について
	Chapter1	Language and mind rethought
2.対面	Chapter1	Language and mind rethought
3.対面	Chapter2	Is human language unrelated to animal communication systems?
4.対面	Chapter2	Is human language unrelated to animal communication systems?
5.対面	Chapter3	Are there language universals?
6.対面	Chapter3	Are there language universals?
7.対面	Chapter4	Is language innate?
8. オンライン /online	Chapter4	Is language innate?
9. オンライン /online	Chapter5	Is language a distinct module in the mind?
10. オンライン /online	Chapter5	Is language a distinct module in the mind?
11. オンライン /online	Chapter6	Is there a universal Mentalese?
12. オンライン /online	Chapter6	Is there a universal Mentalese?
13. オンライン /online	Chapter7	Is thought independent of language?
14.対面	まとめ	期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容に関する小テストを毎回やってもらうので、予習を十分にして授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】
The Language Myth
Vyvyan Evans著
Cambridge University Press

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①小テスト・課題　５０％
②期末試験　５０％

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんに課題をやってもらうことで、本文の内容がどの程度きちんと理解できているのかが明確になりました。

【その他の重要事項】
①授業には必ず辞書を持参すること（電子辞書可）
②初回授業にて、履修に関する注意点を説明するので、必ず出席すること。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
[Goal]
(1) Strive to acquire vocabulary and expressions by reading advanced texts and engaging with richer language.
(2) Through reading linguistics textbooks, aim to encounter authentic academic English and expressions, deepen reflection on language, and cultivate sensitivity toward language in general.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
Preparation and review for this class, including out-of-class study, should be approximately one hour per session.
[Grading criteria]
Grades are based on 50% assignments and 50% final exam. Any changes will be announced in advance via Hoppii.

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩ

今政　肇

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
・パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、英文を読めるようになる。
・十分な語彙力、文法力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
予習して分からなかったところなどを確認しながら、テキストの内容を確認します。リスニングや音読、作文、文法事項の確認なども交えます。また、語学は反復が重要ですので、随時小テストを行い、前回の授業で学んだことの定着を図ります。課題等へのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 6 B	Reef Encounters (The Truth about Great Whites)
2	Unit 7 A	Dollars and Scents (The Flower Trade)
3	Unit 7 B	Dollars and Scents (The Power of Perfume)
4	Unit 8 A	Great Explorers (An Incredible Journey)
5	Unit 8 B	Great Explorers (The Travels of Ibn Battuta)
6	Unit 9 A	Identity (The Teenage Brain)
7	Unit 9 B	Identity (Seeing Double)
8	Unit 10 A	Facing Change (The Big Thaw)
9	Unit 10 B	Facing Change (Life on the Edge)
10	Unit 11 A	Fact or Fake? (The Knowledge Illusion)
11	Unit 11 B	Fact or Fake? (The Limits of Lying)
12	Unit 12 A	Going to Extremes (The Dream of Flight)
13	Unit 12 B	Going to Extremes (Dark Descent)
14	Final Review	期末テスト 読書ログのチェック まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読み設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。
・各ユニットの復習を目的としてクイズをおこないますので、準備をして臨んでください。
・大学図書館の英語多読図書（YL＝読みやすさレベル：0.8 2.4)を週70分（1日10分)、約7000字読むことを目標に、読書ログ（タイトル、感想、字数）をつける。
多読の原則:
・ 辞書なしに読める本を選んでください（一ページに５つ以上、分からない単語があるものは読まないでください)。
・ 完璧な理解よりも、なるべく早く、量をこなすことを目的に読んでください。
・ 自分が面白いと感じるものを読んでください。面白くなければ途中でも別の本を読んでください。

【テキスト（教科書)】
Bohlke,D., Douglas,N., Huntley,H., MacIntyre,P., and Rogers, B., (2020) Reading Explorer Level 2, Third Edition,
Student Book with Spark Access + e-Book (1 year access)
ISBN: 9798214085630
※教科書販売期間中に必ず購入すること。(秋学期も継続して使用します。)

【参考書】
学習者用の英英辞書（英英辞書を積極的に使ってみてください）：
https://dictionary.cambridge.org/
法政大学の多読サイト： https://hosei.libguides.com/tadoku
初級レベル：
・ Oxford Reading Tree (YL 0.8-0.9):
Picture-based, perfect for beginners
・ Penguin Readers Easystarts (YL 0.8):
Simple stories, many topics
中級レベル；
・ Cambridge/Oxford/Macmillan Readers:
Wide range of original and adapted stories
・ Penguin Readers:
Large selection including movie adaptations

【成績評価の方法と基準】
宿題　１５％
授業への参加　１５％
クイズ　２５％
期末テスト　２５％
読書ログ　２０％
＊正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊30分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。

【学生の意見等からの気づき】
私語をする受講生を注意してほしいとの意見がありましたので、静かな教室環境の維持に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
授業の進度や受講生の皆さんの要望を踏まえて、シラバスの内容を修正することがあります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on
an understanding of paragraph structure.
[Learning Objectives]
(1) By reading graded books extensively, you can feel more comfortable reading English, and by reading more advanced texts, you can come into contact with a richer vocabulary and expressions.
(2) By coming into contact with authentic English speech and expressions through audiovisual media, you can develop sensitivity toward the language in general.
Set aside approximately 10 minutes a day or 70 minutes a week to read the books that you have chosen and fill out your reading log.
[Grading Criteria/Policy]
Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments and homework (15%), [2] class participation (15%), [3] quiz (25%), [4]final test (25%), [5]reading log [20%]

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・リーディングＥＩＩ

永井　誠

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
①アカデミックな内容を英文を正確に理解できる。
②アカデミックな内容の文章でよく使われる語句や表現を身につける。
③主語と述語の組み合わせの複雑な階層構造を理解し、高度な内容の英文を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教材は指定テキストとオリジナル教材プリントを併用する。テキストは身近な科学に関する様々なトピックを扱ったもので、基本的に一つの章は2回の授業でカバーする。テキスト内の各問題はそのまま扱うのではなく取捨選択して取り組み、追加の活動もある。リーディング中心の授業ではあるが、毎回の学習・習得内容を各自短い英文で書いて提出してもらう。提出物に対するフィードバックは次の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Guidance. Ch.8 The Rise of Generative AI (1)	ガイダンス. 「生成AIはどこまで進化するか？」(1). 文法事項：時制. 本文の内容理解.
第2回	Ch.8 The Rise of Generative AI (2)	「生成AIはどこまで進化するか？」(2). 内容理解の続き. 練習問題.
第3回	Ch.9 What Is Quantum Computing?(1).	「量子コンピュータが世界を変える？」(1). 文法事項：自動詞と他動詞. 本文の内容理解.
第4回	Ch.9 What Is Quantum Computing?(2).	「量子コンピュータが世界を変える？」(2). 内容理解の続き. 練習問題.
第5回	Test 1. Ch.12 The Abundance of Life on a savanna(1).	Test 1:Ch.8と9の習得状況の確認. 「サバンナに色々な動物がいるのは何故？」(1). 文法事項：助動詞. 本文の内容理解.
第6回	Ch.12 The Abundance of Life on a savanna(2).	Test 1の返却・確認. 「サバンナに色々な動物がいるのは何故？」(2). 内容理解の続き. 練習問題.
第7回	Ch.13 What Makes Stone-roasted Sweet Potatoes So Sweet(1)	「石焼き芋が甘くなる本当の理由」(1). 文法事項：ING形. 本文の内容理解.
第8回	Ch.13 What Makes Stone-roasted Sweet Potatoes So Sweet(2)	「石焼き芋が甘くなる本当の理由」(2). 内容理解の続き. 練習問題.
第9回	Test 2. Ch.14 Why Are Autumnal Leaves Red or Yellow?(1).	Test 2: Ch.12と13の習得状況の確認. 「紅葉の仕組みを科学する」(1). 文法事項：関係詞. 本文の内容理解.
第10回	Ch.14 Why Are Autumnal Leaves Red or Yellow?(2).	Test 2の返却・確認. 「紅葉の仕組みを科学する」(2). 内容理解の続き. 練習問題.
第11回	Ch.15 The Mystery of Water(1)	「水の不思議を考える」(1). 文法事項：接続詞. 本文の内容理解.
第12回	Ch.15 The Mystery of Water(2)	「水の不思議を考える」(2). 内容理解の続き. 練習問題.
第13回	Test 3. Review of Text Content Mastery.	Test 3:Ch.14と15の習得状況の確認. テキストの内容の復習.
第14回	Grammar Review.	Test 3の返却・確認. テキストの文法事項の復習.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
事前にテキストの本文を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
石井隆之（ほか）. 知って得する日常の科学 Science Alive. 成美堂.
ISBN: 978-4-7919-7304-0

【参考書】
指定しない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準
提出物（12回）：48％
授業内テスト（3回）：47％
授業への取り組み（指名時の回答）：5％
正当な理由なく4回を超えて欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course aims to improve reading comprehension by developing fundamental vocabulary skills, grammar proficiency, and sentence structure analysis abilities for reading academic texts. Regarding vocabulary, students will progress beyond rote memorization based on one-to-one Japanese-English correspondences to develop the ability to grasp meaning by broadly considering context and sentence structure. For grammar and syntactic analysis, students will utilize and apply previously acquired knowledge to cultivate the ability to read actual English texts. Building on these skills, the course aims to develop reading comprehension abilities that enable students to accurately grasp the content of individual sentences through close reading, concisely and quickly summarize entire texts, and locate necessary information.
[Objectives]
(1) Accurately understand academic content in English.
(2) Acquire phrases and expressions commonly used in academic writing.
(3) Grasp complex hierarchical structures of subject-predicate combinations to comprehend advanced English texts.
{Grades]
Grades are calculated based on the following percentages:
(1) 47% for in-class exams
(2) 48% for assignments
(3) 5% for class participation

LANe100LC（英語 / English language education 100）

上級英語

ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is suitable for students who wish to learn about and discuss scientific research in English. Students will be able to choose a research article they are interested in. Students will then learn how to read it. Finally, students will learn how to present the research in the style of an international conference. The professor will lead the students each step of the way.

【到達目標】
1) Students will be able to read and analyze a scientific paper in English.
2) Students will be able to discuss the sections of a scientific paper in English
3) Students will be able to give a presentation based on a scientific paper in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
In this course, students will have weekly discussions in English about their chosen research articles. The professor will guide each discussion. Students will also have the opportunity to present their chosen research several times in class. After each presentation, students will receive feedback and reflect on how to improve their presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Overview	The Elements of a Scientific Research Paper Introduction to Genre Analysis – How to Read Scientific Articles
2	Research Paper Selection	Genre Analysis – How to Read Scientific Articles (Part 1)
3	Scientific Paper Analysis	Genre Analysis – How to Read Scientific Articles (Part 2)
4	Scientific Paper Analysis	How to Read Scientific Articles (Part 3)
5	Scientific Paper Analysis	How to Read Scientific Articles (Part 4)
6	Presentation Script Writing	How to write an academic presentation script
7	Presentation Script Writing + Q&A	How to write an academic presentation script and and answer questions
8	Presentation Slide Creation	How to create presentation slides
9	Presentation Delivery	How to deliver an effective presentation
10	Peer Review Presentations	Present to peers and receive feedback
11	Presentation #1 Reflection	Present to the professor for feedback Written reflection in English
12	Revisions	Revise and improve presentations
13	Revisions & Presentation Practice	Finish revisions and practice presentations
14	Presentation #2	Final presentation Written reflection in English

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
All materials will be provided by the professor online.

【参考書】
All references and links will be provided by the professor in class.

【成績評価の方法と基準】
Weekly in-class discussions: 50%
Presentation #1: 20%
Presentation #2: 30%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring a computer (laptop or tablet) to every class.

【その他の重要事項】
Any student, regardless of English proficiency, is welcome in this course.
The syllabus may change according to the number of students enrolled.

【Outline (in English)】
Outline: This course will provide students many opportunities to discuss scientific research in English. Students will be able to learn about various research projects through in-class discussions. Students will also learn valuable presentation skills they can use in graduate school and at international conferences in the future.
Learning Objectives: Students will be able to read, discuss and present on a scientific paper in English in the their fields of study.
Learning Activities Outside the Classroom: Students will need to prepare their presentation slides and script and practice their presentation outside of class.
Grading Criteria Policy: Students will be evaluated by their in-class discussions and preparation for those discussions. Students will also be evaluated by their performance in two presentations.

LANs100LC（スペイン語 / Spanish language education 100）

上級スペイン語

日高　憲三

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスはスペイン語文法既習者を対象とします。これまでの復習を行いながら、さらなるスペイン語の運用能力を高めていきます。またスペイン語圏の文化や社会について、さらに深く学んでいきます。

【到達目標】
少人数の環境を最大限に活かし、主にプレゼンテーションを行いながらスペイン語圏についてさらに学びを深めながら、スペイン語の運用能力も高めていきます。
尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。５級、６級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
このスペイン語上級クラスの履修者数はそれほど多くないので、毎回、各自テーマを自由に設定しプレゼンテーションを行なってもらいます。そしてスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力再発見！	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	メキシコ	メキシコについてのプレゼンテーションを行いながら、同国の言語文化、社会について総合的に学習
第3回	グアテマラ	グアテマラについてのプレゼンテーションを行いながら、同国の言語文化、社会について総合的に学習
第4回	コスタリカ	コスタリカについてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第5回	キューバ	キューバについてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第6回	エクアドル	エクアドルについてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第7回	ペルー	ペルーについてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第8回	ボリビア	ボリビアについてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第9回	パラグアイ	パラグアイについてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第10回	ウルグアイ	ウルグアイについてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第11回	アルゼンチン	アルゼンチンについてのプレゼンテーションを行いながら、スペイン語圏の言語文化、社会について総合的に学習
第12回	チリ	チリについてのプレゼンテーションを行いながら、同国の言語文化、社会について総合的に学習
第13回	スペイン	スペインについてのプレゼンテーションを行いながら、同国の言語文化、社会について総合的に学習
第14回	まとめ	スペイン語圏の魅力について語り合う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日常的に目についた、あるいは耳にしたスペイン語をメモをしたりするなど、常にスペイン語やスペイン語圏のニュース、話題にアンテナを張ってみてください。また、自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。例えばタコスを自分で作って家族や友人に振る舞ってみる、スペイン料理のお店に行って食レポを書いてみる、スペイン語の歌に挑戦してみる、など。そうすることで、これまで見えてこなかった新しい世界、自分自身に気が付くかもしれません。なんだかワクワクしませんか？

【テキスト（教科書）】
教科書は使いません。適宜プリント配布。

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 ５０％
小レポートの提出を含む平常点 ５０％

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんからは、「英語は苦手で好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「春休みか夏休みを利用してスペイン語圏に絶対行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思います。

【その他の重要事項】
出席の回数そのものは平常点としてカウントされません。ただ漫然と教室に来てイスに座ってスマートフォンをいじっているだけ、というのが一番意味がなく時間の無駄、人生の無駄、なので質を重視します。

これまで未知の世界だったスペイン語、その豊かで多様性に満ちた文化、人々の暮らし、考え方などを知ることで、何か一つでも二つでも「これ面白いな」と思うことがあれば、それがあなたにとっての「大収穫」です。そして、それは点数とか成績評価とは全く無縁のものです。

【Outline (in English)】
This is an advanced Spanish class for Global education.
Learning Spanish can help you expand your vision of the world!
Preparation:Let’s Learn more about Latin American culture!
Grading Criteria
Usual performance score and short reports：５０％
Term-end examination：５０％

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

上級ドイツ語

高橋　完治

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実践的な言語使用の観点のもとに文法の知識と語彙を拡充し，多くの表現を学んで，ドイツ語運用能力のさらなる向上を図る．

【到達目標】
日常のさまざまな場面においてドイツ語で表現することができ，また情報を得ることができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
どのテーマも，写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める．ビデオを観て，これをテーマへの導きとする場合もある．この導入部の後，重要な語句や表現を多角的に理解し，これをもとに，Lesetextの読解，聴解，ひな形に沿って文章を書くなど，種々の課題をこなしてドイツ語運用能力を鍛える．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Vergleich	メディアに関する語句に親しむ／いろいろな観点から事物を比較する
2	Vor- und Nachteile	SNSへ写真を投稿することについての意見を読む／写真投稿のメリット・デメリットを述べる
3	Filme	映画の紹介文を読み，内容をドイツ語で纏める／映画のレビューを書く
4	Feiern	さまざまな慶事についてのテクストを読む／日本の結婚式の概要を書く
5	Gefühle	どんな時にどんな感情を抱くのかを表現する
6	Glückwünsche	さまざまな祝辞を学ぶ／祝いの手紙や礼状，招待に応ずるメール，招待を断るメールを書く
7	Reflexive Verben	再帰動詞を学び，喜び・立腹・諍い・謝罪といった感情や出来事を盛り込んだ物語や会話を創作する
8	Feste	Kieler Wocheおよび Almabtriebについてのテクストを読む／ドイツ語圏の祭りを一つ選び，それについて調べてドイツ語で発表する
9	Erlebnisse an einem anderen Ort	異国での暮らしについて書かれたブログを読み，内容を整理する／新しい環境での生活についてブログを書く
10	Leben in der Stadt / Vorstellungsgespräch	街の人々の営みをドイツ語で描写する／採用面接でよく使われるフレーズに親しむ
11	Adjektivendungen / Gespräche bei Banken und Behörden	形容詞の弱変化に親しむ／銀行や役所の窓口でよく使われるフレーズに親しむ
12	Höflichkeit	丁寧な依頼や申し出の表現を学ぶ
13	Stadtbeschreibung	ウィーンについて知る／自分の街を評価する
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，1時間を標準とする】
復習用の課題と取り組む．

【テキスト（教科書）】
Stefanie Dengler u.　a.: Netzwerk neu A2.1, Kurs- und Übungsbuch mit Audios und Videos. Ernst Klett Sprachen

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する．

【学生の意見等からの気づき】
協同作業をすることで，粘り強く課題と取り組めたようだ．

【Outline (in English)】
This course is designed to further teach students common expressions, as well as to enhance their grammatical knowledge and vocabulary from a practical language perspective, enabling them to attain advanced proficiency in the German language. By the end of the course, students should be capable of expressing themselves effectively and obtaining information in various common situations.
After each class meeting, students are expected to review the learning content. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be determined based on the usual performance score (60%) and the term-end examination (40%).

LANf100LC（フランス語 / French language education 100）

上級フランス語

國末　薫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
食文化、観光、スポーツ、映画、仕事、科学技術などのテーマについて、フランス語の映像を視聴し、フランス・フランス語圏の社会と文化の理解を深めます。
映像の理解を問う問題を解き、テーマに関連するライティング・スピーキング活動を行い、フランス語運用能力を総合的に高めます。また、仏検の試験対策として練習問題にも取り組みます。

【到達目標】
食文化、観光、スポーツ、映画、仕事、科学技術などのテーマについて、フランス語の映像、テキストを理解することができる。
食文化、観光、スポーツ、映画、科学技術などのテーマについて、フランス語を使用して自己表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
食文化、観光、映画、科学技術などのテーマについて、フランス語の映像を視聴し、フランス・フランス語圏の社会と文化の理解を深めます。
映像の理解を問う問題とテーマに関連する活動を行い、フランス語運用能力を総合的に高めます。テーマに応じて、ライティング、スピーキング、発表などを行います。
仏検の試験対策として練習問題にも取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業紹介。受講者が関心を抱くフランス・フランス語圏の事象についてディスカッションする。
2	テーマ１：食文化	フランスのレストランの厨房の裏側を紹介するビデオを視聴する。食事会への招待状を書く。
3	テーマ１：食文化	セネガルのマルシェに関するビデオを視聴する。日本の食文化を紹介する。
4	テーマ２：観光	ベルギーの観光案内ビデオを視聴する。これまで旅行で行った場所を紹介する文を書く。
5	テーマ２：観光	パリの百貨店に関するビデオを視聴する。お気に入りの空間を紹介する。
6	テーマ３：スポーツ	テニス大会開催地に関するビデオを視聴する。日本の食べ物、場所についてCMを作成する。
7	中間まとめ	日本の食べ物、場所について紹介するビデオを発表する。
8	テーマ４：映画	フランスの映画を観て、感想文を書く。
9	テーマ５：仕事	フランスの職人のインタビューを視聴する。自分がよく行う作業について説明する。
10	テーマ６：科学技術	様々な素材や物質に関するビデオを視聴する。素材を分類するゲームを行う。
11	テーマ６：科学技術	科学技術を活用した美術館に関するビデオを視聴する。科学技術を活用した例を紹介する文を書く。
12	テーマ６：科学技術	未来都市についてのビデオを視聴する。2050年の都市について発表する準備をする。
13	仏検試験対策	仏検問題に取り組み、文法事項を確認します。
14	まとめ	2050年の都市について発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
各回で指定する課題に取り組むこと。各回の授業終わりに学んだ語彙や表現を復習すること。

【テキスト（教科書）】
資料を適宜配布します。

【参考書】
TV5 Monde (https://www.tv5monde.com/)

【成績評価の方法と基準】
発表40%、課題 40 %、授業への参加 20%

【学生の意見等からの気づき】
本年度から新しく担当するため、フィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞典（紙または電子辞書）を持参してください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to deepen students' understanding of society and culture in France and the Francophone world by watching French-language videos on topics such as food culture, tourism, sports, film, work, and science and technology. Through comprehension questions on the videos and writing and speaking activities related to each theme, students will develop their overall French language proficiency.The course will also include preparation for the French Proficiency Test.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class.Your study time will be more than one hour for a class.
Final grade will be calculated according to the following process: Presentations (40%), Assignments (40%) and In-class contribution(20%).

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

上級中国語

東　会娟

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎知識を身につけている学生を対象とした中国語の授業である。受講者が読む・聞く・話すなど中国語の実践的運用能力を修得する。さらに、中国の文化と事情について理解を深め、異文化との向き合い方を身につける。

【到達目標】
受講者が以下の学力を習得できることを到達目標とします。
①600字程度の中国語で書かれた文章を読みこなせるようになる。
②中国語でまとまった意見が言えるようになる。
③中国の現代文化や時代とともに変化する中国事情について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　既に中国語の基礎を習得していることを前提として授業を進めるが、3年次に中国語を選択しなかった学生の履修も歓迎する。
　この授業では激動する中国の今を最新の記事と共に学び、厳選されたトピックスの読解を通じて自己表現力の向上を目標とする。
　提出された課題を次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のすすめかたについての説明を行う。
第2回	2022年は中国のスーパー宇宙年	中国人の宇宙への夢：神話から現実へ
第3回	楼蘭を破らずに終に還らじ	シルクロードに関する歴史や地理
第4回	超クール！「閃光少女」	パラリンピックと身体障害者
第5回	国産ブーム、いまなお健在	中国風ファッションと中医薬
第6回	「テント経済」に見る新たな消費トレンド	中国のアウトドア事情
第7回	北京冬季五輪のエピソード	コロナ対策・ロボットレストラン・ボランティア
第8回	文字は時代を映し出す	若者に人気の字体
第9回	飲食こぼれ話	中国の食文化
第10回	若者は欲しがらず、老人はつかいこなせないもの、なーんだ？	デジタル化と高齢化社会
第11回	パンダの名前はどう決める？	外交親善使節の名前の決め方
第12回	デジタル化が市民生活の助けに	デジタル化都市の実態
第13回	2000年代生まれの職場改革	中国のジェネレーションギャップ
第14回	期末試験とふりかえり	期末試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は１時間を標準とする。授業前に教科書についているCDを聞くなど予習すること。授業後に課題を提出すること。

【テキスト（教科書）】
時事中国語の教科書　2023年度版　全民健康（CD+音声ダウンロード付）
三潴正道，陳祖蓓，古屋順子

【参考書】
『月刊聴く中国語』HSJ

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席＋課題）50％、期末試験50％で合算して成績評価を行う。中国語の各種検定試験の受験による加点がある。

【学生の意見等からの気づき】
時事情報を多く取り入れるようにする。

【Outline (in English)】
This course is offered to the students who have learned the basics of the Chinese language. According to the students'level, it enhances vocabulary and grammar, and also cultivates skills to operate the Chinese language. At the end of the course, students should be able to do the followings：
①Be able to read articles written in Chinese about 600 words.
②Be able to express opinions in a certain amount of words in Chinese.
③ Increase understanding of Chinese culture and cunrrent evevnts.
Your study time will be more than two hours for a class.
Grading will be decided based on usual performance score (50%) and term-end examination (50%).

LANk100LC（朝鮮語 / Korean language education 100）

上級朝鮮語

魏　聖銓

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：楽しく韓国語を学ぼう
この授業は、入門、初級コースで学習した韓国語の表現などを、より確実に定着し、その表現を応用し、実際の場面で使えるようにすることを目的としています。

【到達目標】
この授業は、入門、初級コースで学習した韓国語の表現などを、より確実に定着し、その表現を応用し、実際の場面で使えるようにすることを目標としています。
語彙力のアップ、聞き取り、話すことの頻度を増やし、バランスよく韓国語が上達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の授業形態については，学習支援システムでその都度提示する．提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
　ハングル5級から4級レベルの文法・単語・表現を学習しながら、日常の会話に活用できるような授業を展開していきます。読む・聞くのインプット学習と「文を書く」、「自分で思ったことを話す」アウトプット学習がうまくリンクできるように、ペアワーク、グループワークも多く取り入れて授業を行います。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体の授業のガイダンス	自己紹介 前期の復習、後期の授業について
2	☒☒☒☒ ☒☒☒ 外来語とアルファベット	表現：－（☒）☒☒ ☒☒ ／動詞語幹＋てください (☒/☒ ☒☒☒と(☒)☒☒の違い) 韓国の名所：水原　単語練習：外来語
3	アルファベットの表記について ／会話練習：☒☒☒ ☒☒☒	音読コーナー：新大久保とホットク　異文化紹介：韓国の匙と箸
4	☒☒☒☒ 慶州旅行 ／ようだ、そうだ 水量表現：(☒)☒☒ ☒☒。	間接話法の中での「依頼」表現：☒/☒ ☒☒☒ ☒☒ 韓国の名所：慶州 ／ 単語練習：交通機関 ／応用コーナー：建物とマップ
5	☒変則の学習	短文:アルバイト ／ 異文化紹介：カルビとプルゴギ
6	☒☒☒ ☒☒☒☒☒ ホワイトクリスマス表現 (☒)☒☒☒☒ ／「-☒+形容詞」	「-☒+形容詞」表現：☒ ☒☒☒ ☒ /☒ ☒☒☒ 韓国の名所：安東 ☒☒ 単語練習：スポーツ
7	韓国映画について 韓国の映画は面白い！	会話練習：美味しいパン屋さん 美味しいパン屋へ行く行き方 ／ 異文化紹介：韓国のデリバリー文化
8	総復習とおさらい	ハングル能力検定試験5級＆4級について
9	☒☒☒☒☒ ☒☒☒☒ ソウルタワーと東京タワー ☒/☒☒ 原因・理由、事柄の順序	表現：☒/☒ ☒ ☒☒/☒☒（し）たことがある/ない 韓国と日本の名所：ソウルタワー＆東京タワー　単語練習：果物
10	疑問代名詞と縮約形 ☒変則	☒変則の学習 応用短文：道を教える ／異文化：韓国のアパート（マンション）
11	☒☒☒☒ ☒☒ 釜山で買い物 ／(し)てもよい ☒/☒☒ ☒☒	表現：-☒ ☒☒ /-☒ ☒☒, -☒☒ ☒ 韓国の名所：釜山　単語練習：野菜
12	色、服装を表す表現について ／☒変則	☒変則の学習 音読コーナー 応用短文：:私が好きな色 ／ 異文化紹介：韓服と着物
13	☒☒☒ ☒☒☒☒☒ 韓国語スピーチ大会 ／－ている２ -☒☒☒	逆接表現 ☒☒ ／韓国と日本のことわざ ／韓国の名所：仁川　単語練習：装身具、アクセサリー
14	まとめと振り返り	まとめ＆振り返り 韓国紙幣の人物 ／ 新幹線と富士山 ／異文化紹介： ソウル城郭

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
学習動画及び音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『韓国と日本くらべて学ぶ中級韓国語』　魏 聖銓　朝日出版社

【参考書】
辞書は『朝鮮語辞典』(小学館）をはじめ、『コスモス朝和辞典』(白水社)、『韓日辞典』(民衆書林出版／三修社販売)・『ポータブル日韓・韓日辞典』(小学館)を勧めますが、電子辞書の方もお勧めします。

【成績評価の方法と基準】
クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。
クイズ10％
中間試験20％
まとめ30％
課題20％
クラス貢献20％
合格点は60以上です。
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Quiz　10％
Midterm exam　20％
Finals　30％
Assignment　20％
Class contribution　20％
A passing score is 60 or up.

【学生の意見等からの気づき】
韓国語は楽しく、継続すれば、自分のものになる！
韓国の会話も楽しみましょう。

【学生が準備すべき機器他】
赤色のペン

【Outline (in English)】
Advanced Korean
Students will increase their Korean reading comprehension ability with different forms of language, oral expression ability and their practical ability to deal with various situations. This course is intended to further teach students many common expressions as well as build on their grammatical knowledge and vocabulary from the viewpoint of practical language use in order that they can achieve Korean language ability at an advanced level.
One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] It is recommended to familiarize yourself with the text with audio.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Quiz 10％
Midterm exam 20％
Finals 30％
Assignment 20％
Class contribution 20％
A passing score is 60 or up.

LANe100LC（英語 / English language education 100）

ビジネス英語

早舩　由紀見

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、4冊のビジネス書を読みながら、ビジネスとは何か、ビジネスで必要とされるスキルは何か、起業について、苦しい状況に立たされた時のビジネスの進め方等についてを英語で学びます。ビジネスに関連すること英語のスキルを同時に身につけることが本授業の目的です。

【到達目標】
1. BNC/COCA Word Frequency Lists 2000～3000語の語彙を習得する
2. 様々なBusinessに関する英文の内容を理解する
3. TED TalksやYouTubeなどのオーセンティックビデオを視聴し、概要を把握する
4. 読み聞きして理解したことをもとに自分の考えを発展させ、英語で発表する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では、予習→内容確認(ディスカッション)→読解→内容確認質問→ビデオ視聴→内容理解→Task実施、という流れで毎授業を進め、3回の授業ごとに1冊のビジネス書を合計4冊読んでいく。
学生が主体的に行うタスクベースで授業を行う。
リーディングやビデオから学んだことをもとに、ディスカッションでさらに知識を深め、自分の考えを形成し、英語で発信(ライティング、プレゼン)する。
提出物に対しては全体フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業概要説明 各ビジネス書の紹介	What I Wish I Knew when I Was 20 リーディング予習
第2回	What I Wish I Knew When I Was 20 Chapter 1: Buy One, Get Two Free	Task 1 What would you do to earn money if all you had was five dollars and two hours? すべての事例をわかりやすく説明する Chap4 リーディング予習
第3回	Chapter 4 Please Take Out Your Wallets	Task 2 自分の財布について良い点、悪い点、改善点を出し合い、一番良いアイデアを紹介する。 Chap9 リーディング予習
第4回	Chapter 9 Are You Smart or Right?	Task 3 人に感謝を示す方法を考える。簡単にできて感謝の気持ちがよく伝わり、効果的(相手が喜ぶ)な方法を考え発表する。 Onward Chap1 リーディング予習
第5回	Onward Chapter 1: A Beverage of Truth	Task4 Think of the most important choice you made in your life. Talk about it in English. Chapter 2 リーディング予習
第6回	Chapter 2 A Love Story	Task 5 企業理念とは何か？ 会社の企業理念を検索し、会社の製品やサービスとの関係を調べる。 Chapter 3 リーディング予習
第7回	Chapter 3 Surfacing	Task 6 多角化経営について考える。どのような企業が多角化経営で成功しているか？ Good to Great Chapter 1 リーディング予習
第8回	Good to Great Chapter 1 Good is the enemy of great	Task 7 good companyとgreat companyの違いとは？ Chapter 2 リーディング予習
第9回	Chapter 2 Level 5 Leadership	Task 8 Level 5 leadershipとは？ Procter &Gamble社の例 Chapter 3 リーディング予習
第10回	Chapter 3 First Who....Then What	Task 9 企業にとって人材が重要なのはなぜか？ Wells Fargo社の例 The 7 habits of highly effective people Habit 2 リーディング予習
第11回	The 7 Habits of Highly Effective People Habit 1 Be Proactive	Task 10 Understand stimulus and response 具体例を挙げてみよう Habit 2 リーディング予習
第12回	Habit 2 Begin with the End in Mind	Task 11 どんな終わりを思い浮かべることができるか？ Habit 3 リーディング予習
第13回	Habit 3 Put First Things First	Task 12: What are the most important things in your life?
第14回	理解力テスト	4冊のビジネス書を読んでどんなことを読み取ることができたのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
毎回の授業範囲のリーディングの予習。Vocabularyの意味と発音の確認。

【テキスト（教科書）】
指定教科書無し。
資料配布。

【参考書】
「What I Wish I Knew When I Was 20」by Tina Seelig
「Onward: How Starbucks Fought for Its Life without Losing Its Soul」 by Howard Schultz
「Good to Great: Why Some Companies Make the Leap...And Others Don't」 by Jim Collins
「The 7 Habits of Highly Effective People」by Stephen R. Covey

【成績評価の方法と基準】
授業参加度：40%
授業内演習：40%
期末試験またはレポート ：20%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意向をよく聞いて、授業を進める。

課題へのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will read four business books and learn in English about what business is, the skills required in business, entrepreneurship, and how to proceed when we are faced with difficult situations. The goal of this course is to simultaneously develop English skills relevant to business.
【Learning Objectives】
Students will learn business management while actively understanding and thinking, and through interactive activities such as listening, reading, speaking and writing English, they will use English as a tool for communication and develop the ability to respond to a globalized society.
【Learning activities outside of classroom】
Preparing for the reading assigned for each class session. Confirming vocabulary meanings and pronunciations.
【Grading Criteria/Policy】
Active participation in class 40%
In-class quizzes 40%
Final test 20%

LANe100LC（英語 / English language education 100）

英語資格試験準備講座

宗像　俊輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法と読解に焦点をあて、TOEICテストのスコアアップを問題演習を通じて目指す準備講座である。目標とするTOEICのスコアは500点以上で、問題演習を通じながら高得点を狙うために必要な英語の知識を習得していく。

【到達目標】
TOEICテストの構成と効率的な解き方を学ぶとともに、英文法の基本を理解し、リーディング問題とリスニング問題が解けるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
＜基本情報＞
この授業の授業形態はハイフレックスとなり、7回は対面参加が必須となる。対面参加日の一部はこちらで指定する。履修人数の上限は30名とするので、履修希望者が31名以上いる場合は抽選となる。受講を希望する際は、初回の講義に必ず参加すること。
＜講義の進め方＞
①講義では教科書の単元に沿って、講義の冒頭でその単元のキーポイントを講師より説明する。
②事前に指定した課題を答え合わせをしながら、講師より各問題の解き方を説明する。
③リーディングについては、必要に応じて文法の説明をする。
※記事の分量、内容、受講者の理解度に応じ時間配分を変更する場合がある。
＜フィードバックの方法＞
Google Formsを活用して、課題への解答を入力する。解答の状況をみながら、正解／不正解の確認をし、特に不正解の場合はなぜそうなってしまったかを解説する。そのうえで、類似の問題が出題された際に同じ間違いをしないよう、解答方法のヒントを提示する。
＜ハイフレックス講義の受講方法の詳細＞
1. 「授業計画」にある【全員対面指定日】では、受講者は必ず教室で受講しなければならない。初回～第3回、第14回の計4回がその対象となる。
2. 「授業計画」にある【オンライン可の日】では、受講者は対面あるいはオンラインで受講が可能となる。計10回がその対象となる。
3. 14回分の講義のうち、受講者は少なくとも7回、対面で出席することが求められる。本講義では【全員対面指定日】の4回分に加え、【オンライン可の日】のうち任意の3回分は、対面で必ず教室で受講する。
4. すべての回で出席をチェックする。5回欠席した場合は単位取得ができない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス【全員対面指定日】	講義の方針説明、自己紹介、TOEICの効率的な解き方について
第2回	模擬試験（リスニング）【全員対面指定日】	TOEICリスニング・セッションにチャレンジ
第3回	模擬試験（リーディング）・解説【全員対面指定日】	TOEICリーディング・セッションにチャレンジ、採点、解き方の解説
第4回	Unit 1：Restaurants （人称代名詞）【オンライン可の日】	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第5回	Unit 2：Entertainment （不定代名詞）【オンライン可の日】	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第6回	Unit 3：Business （現在・過去の時制）【オンライン可の日】	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第7回	Unit 4：The Office （現在完了）【オンライン可の日】	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第8回	Unit 5：Telephone （前置詞[時・期間]）【オンライン可の日】	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第9回	Unit 6：Letters & E-mails（前置詞[位置・場所]）【オンライン可の日】	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第10回	Unit 7：Health（数量形容詞）【オンライン可の日】	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第11回	Unit 8：The Bank &The Post Office （自動詞と他動詞）【オンライン可の日】	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第12回	Unit 9：New Products（接尾辞と品詞ー形容詞）【オンライン可の日】	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第13回	Unit 10：Travel （接尾辞と品詞ー副詞）【オンライン可の日】	キーポイントの説明、問題演習、文法解説
第14回	期末試験【全員対面指定日】	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
①教科書の指定された範囲の問題を事前に解いておき、講義に臨む。この課題は授業終了後に提出する。
②テキスト・配布資料の予習と復習は不可欠。日常的に英語ニュースや洋書に親しんでおくとなおよい。

【テキスト（教科書）】
Yoshizuka, Hiroshi, et al. Best Practice for the TOEIC Test: Intermediate. 成美堂, 2022. 定価2,750円。978-4-7919-7253-1。

【参考書】
英和辞書、和英辞書を持参する。講義中のみならず、予習時や復習時にわからない単語があれば、すぐに辞書を引くように習慣づけること。
各回のテーマの参考資料は、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1. 期末試験 (50%)
2. 課題（30%）
3. 貢献と姿勢 (20%)

【学生の意見等からの気づき】
わからないことがあれば、積極的に質問してください。

【学生が準備すべき機器他】
PCあるいはスマートフォンを必ず持参する。

【その他の重要事項】
・授業計画は予定であり変更されることもあります。
・講義中、受講者を指名する場合がある。オンラインの場合は、マイクで話せる環境で受講すること。
【注意】
こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This is a preparatory course that focuses on grammar and reading comprehension and aims to improve TOEIC test scores through practice exercises. The target TOEIC score is 500 points or higher, and students will acquire the English knowledge necessary to achieve higher scores through problem-solving practice.
【到達目標（Learning Objectives）】
This course aims to provide students with an understanding of the structure of the TOEIC test and effective test-taking strategies, as well as a solid foundation in English grammar, enabling them to successfully answer both reading and listening questions.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
※ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
Preparation and review are essential. The lecturer recommended that students should be familiar with newspaper articles and books that are written in English daily.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
1. Final Exam（50%）
2. Assignments（30%）
3. In-class contribution（20%）

LANe100LC（英語 / English language education 100）

生命機能学基礎英語　Ⅰ

豊岡　博子、山本　兼由、佐藤　勉、川岸　郁朗、竹田　哲也、廣野　雅文、水澤　直樹、曽和　義幸、西川　正俊

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命科学の世界では英語が共通語である．新しい発見はすべて英語で報告されるため，生命科学を学ぶには科学英語の能力向上が必須である．著名な生物学の教科書を読解することで，科学を英語で理解するための基礎的能力を身につけることを目標とする．

【到達目標】
生物学のさまざまな分野に関する英文テキストを詳細に読解し，その科学的内容を理解する能力を身につけることを目標にする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
履修生をグループに分け，少人数で講義を実施する．教員はテキストの内容を適宜補足する説明を行い，学生は各自が音読・翻訳・図の説明等を行う．学生の説明とそれに関連する事項についてその場でディスカッションする．オンラインの場合はメール・Hoppii・Zoom等で質問を受け付け，回答を同様にメール・Hoppii・Zoom等を通してフィードバックする．
今年度は基本的に対面で行うが，状況によってはオンラインで行う可能性もある．いずれの授業方法にするかについては，学習支援システムで提示する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	英語のテキストの配布、講義方針の説明.
第2回	英文テキストの講読-1	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第3回	英文テキストの講読-2	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第4回	英文テキストの講読-3	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第5回	英文テキストの講読-4	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第6回	英文テキストの講読-5	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第7回	英文テキストの講読-6	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第8回	英文テキストの講読-7	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第9回	英文テキストの講読-8	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第10回	英文テキストの講読-9	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第11回	英文テキストの講読-10	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第12回	英文テキストの講読-11	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第13回	英文テキストの講読-12	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第14回	アチーブメントテスト	これまでの復習と習熟度の検定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準としする】
必ず予習（音読，翻訳，説明）をする．また，分子生物学Ⅰ・Ⅱ，生物化学Ⅰ・Ⅱ，細胞生物学Ⅰ・Ⅱ，生物物理学Ⅰ・Ⅱの内容とも関連するので，読解にあたって注意すること．

【テキスト（教科書）】
英語教科書「BIOLOGY 6th Edition」の第３章”Water and The Fitness of The Environment”，第６章”An Introduction to Metabolism”，第８章”Membrane Structure and Function"，第１７章”From Gene to Protein"をテキストとする．テキストについてはガイダンス時に改めて説明する．

【参考書】
適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞平常点（取り組みやレポート提出など）を30％，アチーブメントテストの成績を70％として評価する．ただし，一定以上の平常点がない場合，成績評価対象外となる．
＜評価基準＞英語による生命科学の基本的な原理の理解度を基準とする．

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はZoomを利用した質問時間を設けた．今年度もオンラインとなった場合には実施する．

【学生が準備すべき機器他】
資料配布，課題提出，連絡等には学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
毎回必ず出席して実践し，レポートを提出することが前提である．また，授業の各回の前に，テキスト（図の説明も含む）の音読と翻訳の予習を必ず行うこと．その過程で，テキスト中の科学的原理等について理解が不足していることに気づいた場合は，日本語教材などで学習しておくこと．

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide freshman level students with basic knowledge and skills of academic English for Bioscience. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of presentation and discussion (30%) and achievement test (70%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

生命機能学基礎英語　ＩＩ

山本　兼由、佐藤　勉、西川　正俊、廣野　雅文、豊岡　博子、水澤　直樹、曽和　義幸、竹田　哲也、金子　智行、川岸　郁朗

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命科学の世界では英語が共通語である．新しい発見はすべて英語で報告されるため，生命科学を学ぶには科学英語の能力向上が必須である．著名な生物学の教科書を読解することで，科学を英語で理解するための基礎的能力を身につけることを目標とする．

【到達目標】
生物学のさまざまな分野に関する英文テキストを詳細に読解し，その科学的内容を理解する能力を身につけることを目標にする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
履修生をグループに分け，少人数で講義を実施する．教員はテキストの内容を適宜補足する説明を行い，学生は各自が音読・翻訳・図の説明等を行う．学生の説明とそれに関連する事項についてその場でディスカッションする．オンラインの場合はメール・Hoppii・Zoom等で質問を受け付け，回答を同様にメール・Hoppii・Zoom等を通してフィードバックする．
今年度は基本的に対面で行うが，状況によってはオンラインで行う可能性もある．いずれの授業方法にするかについては，学習支援システムで提示する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	英語のテキストの配布、講義方針の説明.
第2回	英文テキストの講読-1	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第3回	英文テキストの講読-2	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第4回	英文テキストの講読-3	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第5回	英文テキストの講読-4	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第6回	英文テキストの講読-5	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第7回	英文テキストの講読-6	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第8回	英文テキストの講読-7	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第9回	英文テキストの講読-8	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第10回	英文テキストの講読-9	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第11回	英文テキストの講読-10	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第12回	英文テキストの講読-11	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第13回	英文テキストの講読-12	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第14回	アチーブメントテスト	これまでの復習と習熟度の検定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準としする】
必ず予習（音読，翻訳，説明）をする．また，分子生物学Ⅰ・II，生物化学Ⅰ・II，細胞生物学Ⅰ・II，生物物理学Ⅰ・IIの内容とも関連するので，読解にあたって注意すること．

【テキスト（教科書）】
英語教科書「BIOLOGY 6th Edition」の第３章”Water and The Fitness of The Environment”，第６章”An Introduction to Metabolism”，第８章”Membrane Structure and Function"，第１７章”From Gene to Protein"をテキストとする．テキストについてはガイダンス時に改めて説明する．

【参考書】
適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞平常点（取り組みやレポート提出など）を30％，アチーブメントテストの成績を70％として評価する．ただし，一定以上の平常点がない場合，成績評価対象外となる．
＜評価基準＞英語による生命科学の基本的な原理の理解度を基準とする．

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はZoomを利用した質問時間を設けた．今年度もオンラインとなった場合には実施する．

【学生が準備すべき機器他】
資料配布，課題提出，連絡等には学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
毎回必ず出席して実践し，レポートを提出することが前提である．また，授業の各回の前に，テキスト（図の説明も含む）の音読と翻訳の予習を必ず行うこと．その過程で，テキスト中の科学的原理等について理解が不足していることに気づいた場合は，日本語教材などで学習しておくこと．

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide sophomore level students with basic knowledge and skills of academic English for Bioscience. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of presentation and discussion (30%) and achievement test (70%).

BLS300LC（生物科学 / Biological science 300）

生命機能学英語　Ⅰ

佐藤　勉、西川　正俊、廣野　雅文、水澤　直樹、曽和　義幸、川岸　郁朗、山本　兼由、金子　智行、豊岡　博子、竹田　哲也

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「生命機能学研究Ⅰ」「生命機能学演習Ⅰ」の履修とともに，実験実証を基盤とする生命科学研究を自立的に実施する能力を養う．配属研究室で与えられた課題について，自ら実験を行い，得られた結果を正しく解析し，研究成果をまとめる．そのために必要な最先端生命科学の情報を得るため，英文学術論文等を読解する能力を身につける．

【到達目標】
各自の課題について研究を行うにあたり，参照すべき英語学術論文を正確に読解できること，その内容をまとめて第三者に論理的に説明できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
配属研究室の教員の指導の下に，各自に与えられた課題について，その内容と意義を正確に理解し，関連する英語学術論文を読解し，研究を遂行する．理解が不足している点や学生の質問については，教員と随時ディスカッションすることでフィードバックする．
今年度は基本的に対面で行うが，状況によってはオンラインで行う可能性もある．いずれの授業方法にするかについては，メール等で連絡する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	課題研究を中心とした授業の進め方や目標の設定等.
第2回	生命機能学英語- 1	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第3回	生命機能学英語- 2	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第4回	生命機能学英語- 3	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第5回	生命機能学英語- 4	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第6回	生命機能学英語- 5	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第7回	生命機能学英語- 6	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第8回	生命機能学英語- 7	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第9回	生命機能学英語- 8	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第10回	生命機能学英語- 9	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第11回	生命機能学英語- 10	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第12回	生命機能学英語- 11	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第13回	生命機能学英語- 12	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第14回	講評	これまでの理解度に対する評価および新たな目標の設定.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする】
実験遂行上必要な内容について，原著論文や参考書等で情報収集し，理解を深める．
必要に応じ，研究討論などのために配当時間外での取り組みが必要である．

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない．

【参考書】
課題に応じて適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
研究への継続的な取り組み，実験に関する計画立案・実施・結果取得の状況，結果の解釈と考察の内容を総合的に評価する(100%).

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンは常時持参する．
その他に必要な情報機器および施設については，配属研究室の指導教員が指示する．

【その他の重要事項】
＜本科目のカリキュラム上の位置づけと履修の心構え＞

本科目は配属研究室で行われる少人数教育の一環で,「生命機能学研究I」「生命機能学演習I」とリンクして実施する．4年次開講の「生命機能学研究・演習・英語II」および「生命機能学研究・演習・英語III」へつながる科目である．最先端の研究を実践するものであるため，能動的な姿勢で履修することが必要である．
＜研究室配属について＞
7月初旬に各研究室の説明会を開催する．その後，配属希望研究室の調査を行い，それをもとに配属研究室を決定する．

【Outline (in English)】
The aim of this laboratory course is to provide junior level students with essential knowledge and skills of academic English required for conducting research in bioscience. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of presentation and discussion (100%).

LANe400LC（英語 / English language education 400）

生命機能学英語　ＩＩ

金子　智行、佐藤　勉、川岸　郁朗、曽和　義幸、水澤　直樹、廣野　雅文、山本　兼由、西川　正俊、豊岡　博子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「生命機能学研究II」「生命機能学演習II」の履修とともに，実験実証を基盤とする生命科学研究を自立的に実施する能力を養う．配属研究室で与えられた課題について，自ら実験を行い，得られた結果を正しく解析し，研究成果をまとめる．そのために必要な最先端生命科学の情報を得るため，英文学術論文等を読解する能力を身につける．

【到達目標】
各自の課題について研究を行うにあたり，参照すべき英語学術論文を正確に読解できること，その内容をまとめて第三者に論理的に説明できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
配属研究室の教員の指導の下に，各自に与えられた課題について，その内容と意義を正確に理解し，関連する英語学術論文を読解し，研究を遂行する．理解が不足している点や学生の質問については，教員と随時ディスカッションすることでフィードバックする．
今年度は基本的に対面で行うが，状況によってはオンラインで行う可能性もある．いずれの授業方法にするかについては，メール等で連絡する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	課題研究を中心とした授業の進め方や目標の設定等.
第2回	生命機能学英語- 1	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第3回	生命機能学英語- 2	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第4回	生命機能学英語- 3	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第5回	生命機能学英語- 4	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第6回	生命機能学英語- 5	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第7回	生命機能学英語- 6	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第8回	生命機能学英語- 7	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第9回	生命機能学英語- 8	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第10回	生命機能学英語- 9	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第11回	生命機能学英語- 10	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第12回	生命機能学英語- 11	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第13回	生命機能学英語- 12	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第14回	講評	これまでの理解度に対する評価および新たな目標の設定.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする】
実験遂行上必要な内容について，原著論文や参考書等で情報収集し，理解を深める．
必要に応じ，研究討論などのために配当時間外での取り組みが必要である．

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない．

【参考書】
課題に応じて適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
研究への継続的な取り組み，実験に関する計画立案・実施・結果取得の状況，結果の解釈と考察の内容を総合的に評価する(100%).

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンは常時持参する．
その他に必要な情報機器および施設については，配属先の指導教員が指示する．

【その他の重要事項】
＜本科目のカリキュラム上の位置づけと履修の心構え＞

本科目は配属研究室で行われる少人数教育の一環で，「生命機能学研究II」「生命機能学演習II」とリンクして実施する．「生命機能学研究・演習・英語III」へつながる科目である．最先端の研究を実践するものであるため，自分の課題に関連する論文を積極的に探して読むなど，能動的な姿勢で履修することが必要である．

【Outline (in English)】
The aim of this laboratory course is to provide senior level students with essential knowledge and skills of academic English required for conducting research in bioscience. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of presentation and discussion (100%).

LANe400LC（英語 / English language education 400）

生命機能学英語　ＩＩＩ

豊岡　博子、廣野　雅文、曽和　義幸、金子　智行、金子　智行、川岸　郁朗、山本　兼由、佐藤　勉、西川　正俊、水澤　直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「生命機能学研究III」「生命機能学演習III」の履修とともに，実験実証を基盤とする生命科学研究を自立的に実施する能力を養う．配属研究室で与えられた課題について，自ら実験を行い，得られた結果を正しく解析し，研究成果をまとめる．そのために必要な最先端生命科学の情報を得るため，英文学術論文等を読解する能力を身につける．

【到達目標】
各自の課題について研究を行うにあたり，参照すべき英語学術論文を正確に読解できること，その内容をまとめて第三者に論理的に説明できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
配属研究室の教員の指導の下に，各自に与えられた課題について，その内容と意義を正確に理解し，関連する英語学術論文を読解し，研究を遂行する．理解が不足している点や学生の質問については，教員と随時ディスカッションすることでフィードバックする．
今年度は基本的に対面で行うが，状況によってはオンラインで行う可能性もある．いずれの授業方法にするかについては，メール等で連絡する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	課題研究を中心とした授業の進め方や目標の設定等.
第2回	生命機能学英語- 1	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第3回	生命機能学英語- 2	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第4回	生命機能学英語- 3	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第5回	生命機能学英語- 4	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第6回	生命機能学英語- 5	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第7回	生命機能学英語- 6	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第8回	生命機能学英語- 7	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第9回	生命機能学英語- 8	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第10回	生命機能学英語- 9	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第11回	生命機能学英語- 10	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第12回	生命機能学英語- 11	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第13回	生命機能学英語- 12	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第14回	講評	これまでの理解度に対する評価および新たな目標の設定.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする】
実験遂行上必要な内容について，原著論文や参考書等で情報収集し，理解を深める．
必要に応じ，研究討論などのために配当時間外での取り組みが必要である．

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない．

【参考書】
課題に応じて適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
研究への継続的な取り組み，実験に関する計画立案・実施・結果取得の状況，結果の解釈と考察の内容を総合的に評価する(100%).

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンは常時持参する．
その他に必要な情報機器および施設については，配属研究室の指導教員が指示する．

【その他の重要事項】
＜本科目のカリキュラム上の位置づけと履修の心構え＞

本科目は配属研究室で行われる少人数教育の一環で,「生命機能学研究III」「生命機能学演習III」とリンクして実施する．最先端の研究を実践し，その集大成として成果をまとめるためには，自分の課題に関連する論文を積極的に探して読むなど，能動的な姿勢で履修することが必要である．

【Outline (in English)】
The aim of this laboratory course is to provide senior level students with essential knowledge and skills of academic English required for conducting research in bioscience. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of presentation and discussion (100%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学演習Ⅰ

杉山　健一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の出題・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通し、前回の授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜、紹介する.

【成績評価の方法と基準】
【期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。】
成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績を総合的に、判断して評価する。
レポート提出及び成果(30%)，期末試験の成績(70%)として、成績を付ける。
なお，初回の授業で課題の提出の仕方について、説明する.

【学生の意見等からの気づき】
自習あるいは講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学演習Ⅰ

杉山　健一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の出題・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている． 授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通し、前回の 授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜、紹介する.

【成績評価の方法と基準】
【期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。】 成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績を総合的に、判断 して評価する。 レポート提出及び成果 (30%), 期末試験の成績 (70%) として、成績 を付ける。 なお，初回の授業で課題の提出の仕方について、説明する.

【学生の意見等からの気づき】
自習あるいは講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学演習Ⅰ

木村　真琴

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
毎回小テストを行う.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜，指示する.

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する.
期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。
評価は期末試験の得点(100%)により行う.
小テストの受験回数が、全実施回数の７割に満たない者は不合格とする.
小テストの得点を成績の微調整のために利用することがある.

【学生の意見等からの気づき】
小テストが役に立っているようである.

【その他の重要事項】
＊　以下のように学習支援システムを利用する.
・授業資料の配布
・小テストの実施
＊　小テストを、全実施回数の７割以上受験すること.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria /Policy)
Grade evaluation will be based on the final exam. For those who fail the final exam, adjustments may be made based on the total score of the Take-home tests.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学演習Ⅰ

木村　真琴

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
毎回小テストを行う.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜，指示する.

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する.
期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。
評価は期末試験の得点(100%)により行う.
小テストの受験回数が、全実施回数の７割に満たない者は不合格とする.
小テストの得点を成績の微調整のために利用することがある.

【学生の意見等からの気づき】
小テストが役に立っているようである.

【その他の重要事項】
＊　以下のように学習支援システムを利用する.
・授業資料の配布
・小テストの実施
＊　小テストを、全実施回数の７割以上受験すること.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria /Policy)
Grade evaluation will be based on the final exam. For those who fail the final exam, adjustments may be made based on the total score of the Take-home tests.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学演習Ⅰ

三橋　秀生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
１）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
２）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
１）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
２）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
３）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜，指示する．

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する．
成績は，期末試験，演習課題等の成績を総合的に判断して評価する．
期末試験を８０%，演習課題等を２０%として成績をつける．
※ 期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う．

【学生の意見等からの気づき】
教科書を予習して，講義のときに分からないことを質問すること．これは講義中でも講義の後でも構いません．また章末の演習問題をやっておくこと．

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPCを持参すること．
その他は適宜，指示する．

【その他の重要事項】
「学習支援システム」のチェックを怠らないこと．
担当教員から，学習支援システムを通じた連絡がないか，日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください．
その他の重要事項は適宜，指示します．

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 20%, Term-end examination 80%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学演習Ⅰ

三橋　秀生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
１）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
２）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
１）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
２）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
３）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
適宜，指示する．

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する．
成績は，期末試験，演習課題等の成績を総合的に判断して評価する．
期末試験を８０%，演習課題等を２０%として成績をつける．
※ 期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う．

【学生の意見等からの気づき】
教科書を予習して，講義のときに分からないことを質問すること．これは講義中でも講義の後でも構いません．また章末の演習問題をやっておくこと．

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートPCを持参すること．
その他は適宜，指示する．

【その他の重要事項】
「学習支援システム」のチェックを怠らないこと．
担当教員から，学習支援システムを通じた連絡がないか，日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください．
その他の重要事項は適宜，指示します．

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 20%, Term-end examination 80%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学演習Ⅰ

高木　悟

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前半に単元の説明をし，後半に演習をします．自ら積極的に問題を解くことが要求されます．最後に課題を出し，理解度を確認します．
授業では，スクリーンに教員のipadの画面を投影し，書き込みながら説明するので，スクリーンの見やすい席に座るいいでしょう（自由席）．
レビューシートに書かれた内容は，個人情報を除外した上で紹介し，全受講生にフィードバックします．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
(1)「理工系のための線形代数」培風館 (2016)　※改訂版(2018)でもよい．
(2)「理工系のための基礎数学 [改訂増補版]」培風館 (2020)

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味等について，十分な能力を身につけたかを期末試験の成績（20%），提出課題（60%），毎回のレビューシート（20%）として総合的に評価する．
期末試験は20点満点で採点する．
授業時に実施の課題は，各回10点満点で採点する．自身の課題の平均点（課題未提出は0点として平均点を算出する）を6倍したものを，課題の得点とする（60点満点）．
レビューシートは，条件を満たしたレビューシートを期限までに提出することにより，授業1回につき10/7点を与える（授業は全部で14回あるので，合計20点満点となる）．
期末試験の得点，課題の得点，レビューシートの得点を合計し，その小数点以下を切り捨てた整数を成績評価に用いる．

【学生の意見等からの気づき】
教科書の演習問題が自力で解けるように，重要な項目を復習しながら問題演習する．

【その他の重要事項】
授業に関する連絡は「学習支援システム」のお知らせに掲載するので，こまめにチェックすること．

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Assignments 60%, Term-end examination 20%, Review sheets 20%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

線形代数学及び演習Ⅰ

陸名　雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
１）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
２）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
１）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
２）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
３）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル，ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式，平面の方程式，連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義，分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法，行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列，連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと．前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2016年　2200円＋税

【参考書】
相談に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する．
成績は，期末試験，演習課題等の成績を総合的に判断して評価する．
期末試験を６０%，演習課題等を４０%として成績をつける．
※ 期末試験を公欠した場合は、第14回演習（筆記試験形式で実施する）の成績を期末試験の成績と見なす．

【学生の意見等からの気づき】
学習の習慣化が不十分である．履修内容の理解・定着に必要な学習方法・分量について真剣に考えてもらいたい．

【学生が準備すべき機器他】
各回の演習課題は学習支援システムを通じて提供されるので、アクセスに必要な機器を持参する必要がある．

【その他の重要事項】
以下のように学習支援システムを利用する．
・オンライン受講に必要な情報の提供
・授業資料の配布
・課題の出題および提出

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学演習Ⅰ

坂田　繁洋

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第１章、第２章、第４章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験(100%)で判断する.
※期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.
ただし、小テストを全実施回数の7割以上受験しない者は不合格とする.

【学生の意見等からの気づき】
与えられた関数の導関数や極大値・極小値を計算できるようになることはもちろん、どうしてそのような計算をするか、理由まで考えられるようになると、専門の研究にも活用できる教養が身に付くと思います.

【学生が準備すべき機器他】
ノート、筆記用具(電子端末でもよい)

【その他の重要事項】
小テストを実施する場合、学習支援システムを利用する.
小テストは、全実施回数の7割以上受験すること.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination 100%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学演習Ⅰ

坂田　繁洋

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第1章、第2章、第4章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験(100%)で判断する.
※期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.
ただし、小テストを全実施回数の7割以上受験しない者は不合格とする.

【学生の意見等からの気づき】
与えられた関数の導関数や極大値・極小値を計算できるようになることはもちろん、どうしてそのような計算をするか、理由まで考えられるようになると、専門の研究にも活用できる教養が身に付くと思います.

【学生が準備すべき機器他】
ノート、筆記用具(電子端末でもよい)

【その他の重要事項】
小テストを実施する場合、学習支援システムを利用する.
小テストは、全実施回数の7割以上受験すること.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination 100%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学演習Ⅰ

寺田　至

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第１章、第２章、第４章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績(100%)によって評価する． ただし、授業で指示する課題に対し、「学習支援システム」への期限内提出回数が全出題回数の7割に満たなかった場合は不合格とする．詳細は初回の授業で説明する.
※ 期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる.
問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う.

【学生が準備すべき機器他】
もしも必要性が生じた場合には、口頭および「お知らせ欄」を通じて指示・周知する。

【その他の重要事項】
以下のように学習支援システムを利用する.
・授業資料の配布
・課題の出題および提出

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%). You will be disqualified, however, unless the solutions of the assignments given in the classes are submitted at least 70% of the times.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学演習Ⅰ

寺田　至

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第１章、第２章、第４章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績(100%)によって評価する． ただし、授業で指示する課題に対し、「学習支援システム」への期限内提出回数が全出題回数の7割に満たなかった場合は不合格とする．詳細は初回の授業で説明する.
※ 期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる.
問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う.

【学生が準備すべき機器他】
もしも必要性が生じた場合には、口頭および「お知らせ欄」を通じて指示・周知する。

【その他の重要事項】
以下のように学習支援システムを利用する.
・授業資料の配布
・課題の出題および提出

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%). You will be disqualified, however, unless the solutions of the assignments given in the classes are submitted at least 70% of the times.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学演習Ⅰ

坂田　繁洋

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第1章、第2章、第4章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験(100%)で判断する.
※期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.
ただし、小テストを全実施回数の7割以上受験しない者は不合格とする.

【学生の意見等からの気づき】
与えられた関数の導関数や極大値・極小値を計算できるようになることはもちろん、どうしてそのような計算をするか、理由まで考えられるようになると、専門の研究にも活用できる教養が身に付くと思います.

【学生が準備すべき機器他】
ノート、筆記用具(電子端末でもよい)

【その他の重要事項】
小テストを実施する場合、学習支援システムを利用する.
小テストは、全実施回数の7割以上受験すること.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination 100%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学演習Ⅰ

陸名　雄一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書・参考書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第1章、第2章、第4章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
相談に応じて紹介する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績(100%)で評価する.
※ 期末試験は、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う.
※ 期末試験を公欠した場合は、第14回演習（筆記試験形式で実施する）の成績を期末試験の成績と見なす.

【学生の意見等からの気づき】
学習の習慣化が不十分である．履修内容の理解・定着に必要な学習方法・分量について真剣に考えてもらいたい。

【その他の重要事項】
以下のように学習支援システムを利用する.
・オンライン受講に必要な情報の提供
・授業資料の配布
・課題の出題および提出

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 100%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学演習Ⅰ

高木　悟

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行います.
前半に単元の説明をし，後半に演習をします．自ら積極的に問題を解くことが要求されます．最後に課題を出し，理解度を確認します.
授業では，スクリーンに教員のipadの画面を投影し，書き込みながら説明するので，スクリーンの見やすい席に座るいいでしょう（自由席）.
レビューシートに書かれた内容は，個人情報を除外した上で紹介し，全受講生にフィードバックします.
課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第１章、第２章、第４章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
(1)「理工系のための基礎数学 [改訂増補版]」培風館 (2020)
(2)「解析をまなぶ」共立出版 (2026)
(3)「理工系のための微分積分 [改訂版]」培風館 (2023)

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算，逆三角関数や双曲線関数の理解，テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について，十分な能力を身につけたかを期末試験の成績（20%），提出課題（60%），毎回のレビューシート（20%）として総合的に評価する.
期末試験は20点満点で採点する.
授業時に実施の課題は，各回10点満点で採点する．自身の課題の平均点（課題未提出は0点として平均点を算出する）を6倍したものを，課題の得点とする（60点満点）.
レビューシートは，条件を満たしたレビューシートを期限までに提出することにより，授業1回につき10/7点を与える（授業は全部で14回あるので，合計20点満点となる）.
期末試験の得点，課題の得点，レビューシートの得点を合計し，その小数点以下を切り捨てた整数を成績評価に用いる.

【学生の意見等からの気づき】
教科書の演習問題が自力で解けるように，重要な項目を復習しながら問題演習する.

【その他の重要事項】
授業に関する連絡は「学習支援システム」のお知らせに掲載するので，こまめにチェックすること.

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Assignments 60%, Term-end examination 20%, Review sheets 20%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

微分積分学及び演習Ⅰ

陸名　雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて2変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数, 2変数のテイラーの定理, 2変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税
（第１章、第２章、第４章4.1節～4.4節を学ぶ）

【参考書】
相談に応じて紹介する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績(60%)、提出課題（40%）として総合的に評価する． 初回の授業で課題の提出ルールを説明する.
※ 期末試験を公欠した場合は、第14回演習（筆記試験形式で実施する）の成績を期末試験の成績と見なす.

【学生の意見等からの気づき】
学習の習慣化が不十分である．履修内容の理解・定着に必要な学習方法・分量について真剣に考えてもらいたい.

【学生が準備すべき機器他】
各回の演習課題は学習支援システムを通じて提供されるので、アクセスに必要な機器を持参する必要がある.

【その他の重要事項】
以下のように学習支援システムを利用する.
・オンライン受講に必要な情報の提供
・授業資料の配布
・課題の出題および提出

【Outline (in English)】
(Course outline)
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

入門数学

高木　悟

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎学力を拡充しつつ，微分積分学（及び）演習Ｉをフォローする講義・演習です．
高校数学の復習から始め，上述講義の進度に合わせて演習，解説を行います．

【到達目標】
高校で習う微分法の復習から始め，逆三角関数や陰関数の理解をし，極限値や導関数，偏導関数などの計算能力を高めることを目標とします．さらにそれを用いて工学に応用するための基礎を勉強します．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前半に単元の説明をし，後半に演習をします．自ら積極的に問題を解くことが要求されます．最後に課題を出し，理解度を確認します．
授業では，スクリーンに教員のipadの画面を投影し，書き込みながら説明するので，スクリーンの見やすい席に座るいいでしょう（自由席）．
レビューシートに書かれた内容は，個人情報を除外した上で紹介し，全受講生にフィードバックします．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	三角関数	三角関数の復習をし，問題演習します．
2	数列の極限	実数と数列の極限について解説し，問題演習します．
3	関数の極限と連続関数	関数の極限と連続関数について解説し，問題演習します．
4	導関数（１）	導関数の定義，導関数の公式，三角関数・指数関数の導関数について解説し，問題演習します．
5	逆三角関数	逆三角関数と逆三角関数の導関数について解説し，問題演習します．
6	導関数（２）	双曲線関数，対数微分法，媒介変数表示について解説し，問題演習します．
7	平均値の定理とその応用	極値，平均値の定理，ロピタルの定理について解説し，問題演習します．
8	テイラーの定理	高次導関数とテイラーの定理について解説し，問題演習します．
9	テイラー級数	近似式と誤差の評価，テイラー級数展開，オイラーの公式について解説し，問題演習します．
10	テイラーの定理の応用	極値，微分とグラフの凹凸，増減表について解説し，問題演習します．
11	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフについて解説し，問題演習します．
12	偏微分	偏微分係数，偏導関数，高階偏導関数について解説し，問題演習します．
13	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式，線形近似と接平面，全微分について解説し，問題演習します．
14	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数，2変数のテイラーの定理，2変数関数の極値について解説し，問題演習します．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税

【参考書】
(1)「理工系のための基礎数学 [改訂増補版]」培風館 (2020)
(2)「解析をまなぶ」共立出版 (2026)
(3)「理工系のための微分積分 [改訂版]」培風館 (2023)

【成績評価の方法と基準】
到達目標を達成できているかどうか，授業時の課題（70%）とレビューシート（30%）で評価する．期末試験は実施しない．
授業時に実施の課題は，各回10点満点で採点する．自身の課題の平均点（課題未提出は0点として平均点を算出する）を７倍したものを，課題の得点とする（70点満点）．
レビューシートは，条件を満たしたレビューシートを期限までに提出することにより，授業１回につき15/7点を与える（授業は全部で14回あるので，合計30点満点となる）．
課題の得点とレビューシートの得点を合計し，その小数点以下を切り捨てた整数を成績評価に用いる．

【学生の意見等からの気づき】
レビューシートを用いて，微分積分学（及び）演習Ｉの授業で理解できていない項目をヒアリングし，それを次回の授業時にフォローする．

【その他の重要事項】
同時に微分積分学（及び）演習Ｉを履修すること．
授業に関する連絡は「学習支援システム」のお知らせに掲載するので，こまめにチェックすること．

【Outline (in English)】
(Course outline)
The main object is to support the student could understand fundamental properties of Calculus.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Assignments 70%, Review sheets 30%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

入門物理学

鈴木　健夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学は自然科学や工学の基礎である。この授業では力学を中心に物理現象の原理を理解し、自ら考え作業することを通じて物理の基本的な概念・法則を身に着け、それを応用して自然科学の諸現象を理解する力を養い、物理的思考法・科学的思考法を身につけることを目標とする。特に高校時代に物理を履修していなかったり、理解が十分でなかった学生を対象とする。

【到達目標】
・運動の分析（速度・加速度、x-tグラフ・v-tグラフの理解）。
・力の理解（つり合い、力のベクトル性、作用反作用の法則）。
・運動方程式を典型的な例（等加速度直線運動、等速円運動、単振動）に適用し使いこなせるようにする。
・万有引力、運動量と力積、運動量保存則の理解。
・仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存則について概念を理解し、基礎的な問題に適用できるようにする。
・波動、音、光について基本的な内容のいくつかについて理解を深める。
上記の諸項目についてその概念を取り囲む背景を踏まえてその数学的記述（グラフ化、数式化）ができるようにする。微積分など数学的な手法は必要に応じて使い、高校から大学への移行が自然に行われるように進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と内容に沿った実験、実習を組み合わせて授業を進める。相互作用型演示実験講義(ILDs)である。学習内容をもとに実験結果を個人で予想し、グループで討論した上で実験結果を確認する。さらに演習問題に取り組み理解を深めた上で確認テストにより理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、運動の分析	ガイダンス ・物理量と単位、単位の換算 ・運動の分析（速度・加速度） ・x-tグラフ、v-tグラフ ・斜面上の物体の運動 ・等速直線運動
2	等加速度直線運動、落体の運動	・等加速度直線運動の公式 ・自由落下 ・ボイスメモを使った自由落下時間の測定実験（授業内） ・鉛直投射、斜方投射
3	落体の運動の実験、重力加速度、静力学	・加速度センサーを用いた重力加速度の測定実験（授業内及び課題） ・力のつりあい ・作用反作用
4	運動の法則、運動方程式の応用	・力と加速度、運動の法則 ・運動方程式
5	様々な力、仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存の法則	・摩擦力、弾性力 ・仕事の原理 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギー保存の法則
6	円運動と慣性力	・等速円運動 ・向心力 ・慣性力
7	単振動	・単振動の周期・振動数 ・単振動の速度加速度 ・ばね振り子、単振り子 ・課題：単振り子の実験
8	万有引力	・ケプラーの法則 ・万有引力の法則 ・人工衛星
9	運動量と力積	・運動量と力積の定義 ・運動量保存の法則 ・反発係数 ・反発係数の測定実験（授業内）
10	波動Ⅰ（波の一般論）	・波の表現 ・横波、縦波 ・重ね合わせの原理 ・波の独立性 ・定常波
11	波動Ⅱ（干渉、音波）	・波の干渉 ・反射、屈折 ・音波の特徴 ・うなり ・ドップラー効果
12	波動Ⅲ（光）	・光波の特徴 ・光の屈折 ・光の干渉 ・回折格子による分光器の製作と実験（授業内と課題）
13	波動Ⅳ（光の性質）	・CDによる分光の実験（授業内） ・偏光 ・レンズの法則
14	波動Ⅴ（光の性質２） 総論・まとめ	・光の散乱 ・電磁波としての光 ・学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】準備では授業計画に示されたテーマについて教科書に目を通す、復習では授業中に行った問題演習を見直し理解が浅い部分を集中的に学習する。毎回の予習復習の時間は、4時間以上を想定している。翌週の授業開始時に前回の学習内容の確認テストを行う。また、3回程度課題が出る。これにかかる時間はそれぞれ最低4時間を想定している。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
高校物理基礎、物理の教科書（数研出版など）。持っていない場合は生協等で購入。

【成績評価の方法と基準】
試験（50％）、毎時間ごとの振り返り・確認テスト（30％）、課題(20％)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
履修後に最後まで続けられない学生が出るため、学生の参加による相互討論などを増やし、学生の主体的な取り組みを強め、基本的な概念の定着を図る。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォン
電卓、ストップウォッチ(スマートフォンの電卓、ストップウォッチの機能でよい。)

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire essential concepts and laws of physics through thinking and working,and students will understand various phenomena of natural science with their concepts and laws.This course is especially aimed at students who didn't take physics in high school or didn't understand it well enough.
【Learning Objectives】
By the end of this course,students should be able to do the followings:
-Understanding motion analysis.　i.e.velocity,acceleration,and their graphs
-Understanding balance of force,and law of action and reaction
-Applying equation of motion on uniform acceleration linear motion,uniform circular motion,and simple harmonic oscillation
-Understanding momentum and impulse,conservation of momentum
-Understanding work and energy,conservation of mechanical energy
-Understanding basic concepts of wave motion,sound,light
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting,students will be expected to have read the indicated chapters from the text.After each class meeting,students will be expected to have completed the required assignment.Your study time will be more than four hours for a class.At the start of the next week class,a test will be given to confirm what was learned last week.Students will be tasked assignment report about 4 times.Your study time for this will be more than four hours for each report.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination:50% Reflection card and Confirmation test for each class meeting:30%
Assignment report:20%

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 I

高橋　正則

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、様々なスポーツ活動を通して、自身の身体運動に関する実践知を修得します。また、生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

【到達目標】
スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力して練習やゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度（振り返り）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてゴール型のスポーツ種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、体育施設等の使用状況により、種目や場所が変更となる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、継続した身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ユニホックの基礎	ユニホックの特徴を理解し、基本的なスティックの操作を習得する。またゴールへの正確なシュートを目指す。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）、競技特性とルールの理解（30%）、技術の習得（10%）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容は、感染症等の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

【その他の重要事項】
受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定します。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This course introduces an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others to students taking this course so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class.
Your final grade in the class will be calculated affording to the the following process:
- Usual performance score: 60%

- Understanding of competition characteristics and rules: 30%
- Acquisition of skills: 10%

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 I

高橋　正則

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、様々なスポーツ活動を通して、自身の身体運動に関する実践知を修得します。また、生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

【到達目標】
スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力してゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度（振り返り）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてゴール型のスポーツ種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、体育施設等の使用状況により、種目や場所が変更となる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、および継続した身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ユニホックの基礎	ユニホックの特徴を理解し、基本的なスティックの操作を習得する。またゴールへの正確なシュートを目指す。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）、競技特性とルールの理解（30%）、技術の習得（10%）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容は、感染症等の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

【その他の重要事項】
受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定します。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This course introduces an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others to students taking this course so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class.
Your final grade in the class will be calculated affording to the the following process:
- Usual performance score: 60%

- Understanding of competition characteristics and rules: 30%
- Acquisition of skills: 10%

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 I

谷内　花恵

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　スポーツ・身体運動の意義や重要性を，自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し，生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます.
　主にゴール型のボールゲームを中心とした種目を通して，基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ことで，基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します．また，体力測定の実施により自分自身の体力を知り，運動・生活習慣を見直すと共に，授業を通して大学卒業後にスポーツを取り入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します.

【到達目標】
1，ゴール型スポーツ種目の基本的技術，競技特性，ルール，ゲーム方法を学ぶ
2，体力の向上を通じて，心身の健康維持を図ることができる
3，体力測定の実施により自身の体力を把握し，運動・生活習慣を見直すことができる
4，スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる
5，実技を通して生涯にわたる運動習慣を学習することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
　週1回の実技を半期にわたって実施します．履修希望者が多数の場合には，初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で受講者を決定します．第2回目は体力測定を実施します．第3回目以降は各種スポーツ実技を実施します．各種スポーツ種目では，主にゴール型ボールゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます．あわせて，準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します．最終回の授業では，これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説，スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的，到達目標，履修上の注意，成績評価などの説明　*希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
3	バスケットボール	競技特性を理解し，ドリブル，パス，シュートなどの基礎的技術を学ぶ
4	バスケットボール	１対１の基礎を学ぶ
5	バスケットボール	２対２，３対３のミニゲームを実施しチームでの攻防を学ぶ
6	バスケットボール	５対５のミニゲームを実施し，チームでの攻防を学ぶ
7	バスケットボール	試合形式のゲームを実施しバスケットボール全体を体験的に理解する
8	アルティメット	競技特性を理解し，基礎技術のトレーニングを実施する
9	アルティメット	基礎技術のトレーニングおよび，ミニゲームを実施する
10	フットサル	競技特性を理解し，基礎技術のトレーニングを実施する
11	フットサル	基礎技術のトレーニングおよび，ミニゲームを実施する
12	ヨーガ	ヨーガの特性を理解し，基本的な呼吸法を学ぶ
13	ヨーガ	ヨーガの呼吸法，ポーズ，瞑想を学び，心と身体の繋がりを体験的に理解する
14	総括	これまでの授業の振り返り，将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
　授業にあたり心身の不調がないように体調を十分に整えた上で授業に臨むこと.

【テキスト（教科書）】
　必要に応じて資料を配布します.

【参考書】
　授業担当教員が必要に応じて紹介します.

【成績評価の方法と基準】
　リーダーシップ，積極性，態度などの平常点（60%），競技特性やルールの理解度（30%），技術の習得度(10%)とします.
　評価の際には【個人カード】を重視し，総合的に評価します.

【学生の意見等からの気づき】
　学生が主体的に授業に参加でするように工夫していきます．また，学生の様子や要望によって授業内容を検討し変更する場合があります.

【学生が準備すべき機器他】
　実技実施の際には運動着および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい.

【その他の重要事項】
　初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は，抽選を行います．受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで，必ず初回の授業に参加してください．天候等により教場が変更になることがありますので，その場合は掲示板で確認してください.
　体調不良，怪我などの理由で授業に参加することが困難な場合は担当教員に報告・相談すること.

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, you will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from practical skills.
By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on goal-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.
In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.
【Learning Objectives】

1.To study the basic techniques, athletic characteristics, rules, and game methods of goal-type sports.
2.To maintain physical and mental health through the improvement of physical fitness.
3.Physical fitness testing will enable the participants to understand their physical fitness and to review their exercise and lifestyle habits.
4.To acquire social skills such as discipline and communication through practical sports.
5.To learn lifelong exercise habits through practical training.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to be in good health condition. Your study time is one hour.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on Leadership, class contribution and attitude:60%, Game characteristics and understanding of the rules :30%, skill level:10%.
Grading will be comprehensive with an importance on the personal card.

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 I

谷内　花恵

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　スポーツ・身体運動の意義や重要性を，自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し，生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます．
　主にゴール型のボールゲームを中心とした種目を通して，基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ことで，基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します．また，体力測定の実施により自分自身の体力を知り，運動・生活習慣を見直すと共に，授業を通して大学卒業後にスポーツを取り入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します．

【到達目標】
1，ゴール型スポーツ種目の基本的技術，競技特性，ルール，ゲーム方法を学ぶ
2，体力の向上を通じて，心身の健康維持を図ることができる
3，体力測定の実施により自身の体力を把握し，運動・生活習慣を見直すことができる
4，スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる
5，実技を通して生涯にわたる運動習慣を学習することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
　週1回の実技を半期にわたって実施します．履修希望者が多数の場合には，初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で受講者を決定します．第2回目は体力測定を実施します．第3回目以降は各種スポーツ実技を実施します．各種スポーツ種目では，主にゴール型ボールゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます．あわせて，準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します．最終回の授業では，これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説，スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的，到達目標，履修上の注意，成績評価などの説明　*希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
3	バスケットボール	競技特性を理解し，ドリブル，パス，シュートなどの基礎的技術を学ぶ
4	バスケットボール	１対１の基礎を学ぶ
5	バスケットボール	２対２，３対３のミニゲームを実施しチームでの攻防を学ぶ
6	バスケットボール	５対５のミニゲームを実施し，チームでの攻防を学ぶ
7	バスケットボール	試合形式のゲームを実施しバスケットボール全体を体験的に理解する
8	アルティメット	競技特性を理解し，基礎技術のトレーニングを実施する
9	アルティメット	基礎技術のトレーニングおよび，ミニゲームを実施する
10	フットサル	競技特性を理解し，基礎技術のトレーニングを実施する
11	フットサル	基礎技術のトレーニングおよび，ミニゲームを実施する
12	ヨーガ	ヨーガの特性を理解し，基本的な呼吸法を学ぶ
13	ヨーガ	ヨーガの呼吸法，ポーズ，瞑想を学び，心と身体の繋がりを体験的に理解する
14	総括	これまでの授業の振り返り，将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
　授業にあたり心身の不調がないように体調を十分に整えた上で授業に臨むこと．

【テキスト（教科書）】
　必要に応じて資料を配布します．

【参考書】
　授業担当教員が必要に応じて紹介します．

【成績評価の方法と基準】
　リーダーシップ，積極性，態度などの平常点（60%），競技特性やルールの理解度（30%），技術の習得度(10%)とします．
　評価の際には【個人カード】を重視し，総合的に評価します．

【学生の意見等からの気づき】
　学生が主体的に授業に参加でするように工夫していきます．また，学生の様子や要望によって授業内容を検討し変更する場合があります．

【学生が準備すべき機器他】
　実技実施の際には運動着および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい．

【その他の重要事項】
　初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は，抽選を行います．受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで，必ず初回の授業に参加してください．天候等により教場が変更になることがありますので，その場合は掲示板で確認してください．
　体調不良，怪我などの理由で授業に参加することが困難な場合は担当教員に報告・相談すること．

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, you will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from practical skills.
By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on goal-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.
In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.
【Learning Objectives】

1.To study the basic techniques, athletic characteristics, rules, and game methods of goal-type sports.
2.To maintain physical and mental health through the improvement of physical fitness.
3.Physical fitness testing will enable the participants to understand their physical fitness and to review their exercise and lifestyle habits.
4.To acquire social skills such as discipline and communication through practical sports.
5.To learn lifelong exercise habits through practical training.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to be in good health condition. Your study time is one hour.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on Leadership, class contribution and attitude:60%, Game characteristics and understanding of the rules :30%, skill level:10%.
Grading will be comprehensive with an importance on the personal card.

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習Ⅰ

植村　直己

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技を通して学びます。
主にゴール型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。
また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】
①ゴール型スポーツ種目の基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
⑤実技を通して生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
週1回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で受講者を決定します。第2回は体力測定を実施します。第3回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、主にゴール型ボールゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
本授業は、原則対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第2回	体力測定（屋内）	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力等の測定
第3回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第4回	アルティメット	フライングディスク基礎、ゲーム
第5回	サッカー	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第6回	アルティメット	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第7回	サッカー	基礎練習、ゲーム
第8回	バスケットボール	競技特性、ルールの理解、ゲーム
第9回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第10回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第11回	バスケットボール	基礎練習、ゲーム
第12回	ソフトバレーボール	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第13回	シッティングバレーボール	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60％）、競技特性やルールの理解度（30％）、技術の習得度（10％）とします。
評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】
受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。
　体調不良、怪我などの理由で授業に参加することが困難な場合は、担当教員に報告・相談すること。個別に連絡、相談などがある場合は、下記まで連絡願います。
担当教員メールアドレス：naomi.uemura.gg@hosei.ac.jp
このスポーツ健康科学実習の授業は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの科目がありますが、過去に履修済みの科目は再度履修することが出来ませんのでご注意ください。
緑町グランドで授業を行う場合は、小金井キャンパスとを往復するバスが東館前から出ておりますのでご利用ください。

【Outline (in English)】
In this class, you will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from practical skills.
By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on goal-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.
In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 I

高橋　正則

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、様々なスポーツ活動を通して、自身の身体運動に関する実践知を修得します。また、生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

【到達目標】
スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力してゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度（振り返り）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてゴール型のスポーツ種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、体育施設等の使用状況により、種目や場所が変更となる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ユニホックの基礎	ユニホックの特徴を理解し、基本的なスティックの操作を習得する。またゴールへの正確なシュートを目指す。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）、競技特性とルールの理解（30%）、技術の習得（10%）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容は、感染症等の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

【その他の重要事項】
受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定します。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This course introduces an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others to students taking this course so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class.
Your final grade in the class will be calculated affording to the the following process:
- Usual performance score: 60%

- Understanding of competition characteristics and rules: 30%
- Acquisition of skills: 10%

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 I

高橋　正則

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、様々なスポーツ活動を通して、自身の身体運動に関する実践知を修得します。また、生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

【到達目標】
スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力してゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度（振り返り）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてゴール型のスポーツ種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、体育施設等の使用状況により、種目や場所が変更となる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ユニホックの基礎	ユニホックの特徴を理解し、基本的なスティックの操作を習得する。またゴールへの正確なシュートを目指す。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）、競技特性とルールの理解（30%）、技術の習得（10%）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容は、感染症等の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

【その他の重要事項】
受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定します。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This course introduces an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others to students taking this course so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class.
Your final grade in the class will be calculated affording to the the following process:
- Usual performance score: 60%

- Understanding of competition characteristics and rules: 30%
- Acquisition of skills: 10%

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 I

谷内　花恵

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　スポーツ・身体運動の意義や重要性を，自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し，生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます．
　主にゴール型のボールゲームを中心とした種目を通して，基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ことで，基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します．また，体力測定の実施により自分自身の体力を知り，運動・生活習慣を見直すと共に，授業を通して大学卒業後にスポーツを取り入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します．

【到達目標】
1，ゴール型スポーツ種目の基本的技術，競技特性，ルール，ゲーム方法を学ぶ
2，体力の向上を通じて，心身の健康維持を図ることができる
3，体力測定の実施により自身の体力を把握し，運動・生活習慣を見直すことができる
4，スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる
5，実技を通して生涯にわたる運動習慣を学習することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
　週1回の実技を半期にわたって実施します．履修希望者が多数の場合には，初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で受講者を決定します．第2回目は体力測定を実施します．第3回目以降は各種スポーツ実技を実施します．各種スポーツ種目では，主にゴール型ボールゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます．あわせて，準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します．最終回の授業では，これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説，スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的，到達目標，履修上の注意，成績評価などの説明　*希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
3	バスケットボール	競技特性を理解し，ドリブル，パス，シュートなどの基礎的技術を学ぶ
4	バスケットボール	１対１の基礎を学ぶ
5	バスケットボール	２対２，３対３のミニゲームを実施しチームでの攻防を学ぶ
6	バスケットボール	５対５のミニゲームを実施し，チームでの攻防を学ぶ
7	バスケットボール	試合形式のゲームを実施しバスケットボール全体を体験的に理解する
8	アルティメット	競技特性を理解し，基礎技術のトレーニングを実施する
9	アルティメット	基礎技術のトレーニングおよび，ミニゲームを実施する
10	フットサル	競技特性を理解し，基礎技術のトレーニングを実施する
11	フットサル	基礎技術のトレーニングおよび，ミニゲームを実施する
12	ヨーガ	ヨーガの特性を理解し，基本的な呼吸法を学ぶ
13	ヨーガ	ヨーガの呼吸法，ポーズ，瞑想を学び，心と身体の繋がりを体験的に理解する
14	総括	これまでの授業の振り返り，将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
　授業にあたり心身の不調がないように体調を十分に整えた上で授業に臨むこと．

【テキスト（教科書）】
　必要に応じて資料を配布します．

【参考書】
　授業担当教員が必要に応じて紹介します．

【成績評価の方法と基準】
　リーダーシップ，積極性，態度などの平常点（60%），競技特性やルールの理解度（30%），技術の習得度(10%)とします．
　評価の際には【個人カード】を重視し，総合的に評価します．

【学生の意見等からの気づき】
　学生が主体的に授業に参加でするように工夫していきます．また，学生の様子や要望によって授業内容を検討し変更する場合があります．

【学生が準備すべき機器他】
　実技実施の際には運動着および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい．

【その他の重要事項】
　初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は，抽選を行います．受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで，必ず初回の授業に参加してください．天候等により教場が変更になることがありますので，その場合は掲示板で確認してください．
　体調不良，怪我などの理由で授業に参加することが困難な場合は担当教員に報告・相談すること．

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, you will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from practical skills.
By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on goal-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.
In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.
【Learning Objectives】

1.To study the basic techniques, athletic characteristics, rules, and game methods of goal-type sports.
2.To maintain physical and mental health through the improvement of physical fitness.
3.Physical fitness testing will enable the participants to understand their physical fitness and to review their exercise and lifestyle habits.
4.To acquire social skills such as discipline and communication through practical sports.
5.To learn lifelong exercise habits through practical training.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to be in good health condition. Your study time is one hour.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on Leadership, class contribution and attitude:60%, Game characteristics and understanding of the rules :30%, skill level:10%.
Grading will be comprehensive with an importance on the personal card.

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 I

谷内　花恵

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　スポーツ・身体運動の意義や重要性を，自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し，生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます．
　主にゴール型のボールゲームを中心とした種目を通して，基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ことで，基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します．また，体力測定の実施により自分自身の体力を知り，運動・生活習慣を見直すと共に，授業を通して大学卒業後にスポーツを取り入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します．

【到達目標】
1，ゴール型スポーツ種目の基本的技術，競技特性，ルール，ゲーム方法を学ぶ
2，体力の向上を通じて，心身の健康維持を図ることができる
3，体力測定の実施により自身の体力を把握し，運動・生活習慣を見直すことができる
4，スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる
5，実技を通して生涯にわたる運動習慣を学習することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
　週1回の実技を半期にわたって実施します．履修希望者が多数の場合には，初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で受講者を決定します．第2回目は体力測定を実施します．第3回目以降は各種スポーツ実技を実施します．各種スポーツ種目では，主にゴール型ボールゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます．あわせて，準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します．最終回の授業では，これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説，スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します．
　.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的，到達目標，履修上の注意，成績評価などの説明　*希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
3	バスケットボール	競技特性を理解し，ドリブル，パス，シュートなどの基礎的技術を学ぶ
4	バスケットボール	１対１の基礎を学ぶ
5	バスケットボール	２対２，３対３のミニゲームを実施しチームでの攻防を学ぶ
6	バスケットボール	５対５のミニゲームを実施し，チームでの攻防を学ぶ
7	バスケットボール	試合形式のゲームを実施しバスケットボール全体を体験的に理解する
8	アルティメット	競技特性を理解し，基礎技術のトレーニングを実施する
9	アルティメット	基礎技術のトレーニングおよび，ミニゲームを実施する
10	フットサル	競技特性を理解し，基礎技術のトレーニングを実施する
11	フットサル	基礎技術のトレーニングおよび，ミニゲームを実施する
12	ヨーガ	ヨーガの特性を理解し，基本的な呼吸法を学ぶ
13	ヨーガ	ヨーガの呼吸法，ポーズ，瞑想を学び，心と身体の繋がりを体験的に理解する
14	総括	これまでの授業の振り返り，将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
　授業にあたり心身の不調がないように体調を十分に整えた上で授業に臨むこと．

【テキスト（教科書）】
　必要に応じて資料を配布します．

【参考書】
　授業担当教員が必要に応じて紹介します．

【成績評価の方法と基準】
　リーダーシップ，積極性，態度などの平常点（60%），競技特性やルールの理解度（30%），技術の習得度(10%)とします．
　評価の際には【個人カード】を重視し，総合的に評価します．

【学生の意見等からの気づき】
　学生が主体的に授業に参加でするように工夫していきます．また，学生の様子や要望によって授業内容を検討し変更する場合があります．

【学生が準備すべき機器他】
　実技実施の際には運動着および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい．

【その他の重要事項】
　初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は，抽選を行います．受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで，必ず初回の授業に参加してください．天候等により教場が変更になることがありますので，その場合は掲示板で確認してください．
　体調不良，怪我などの理由で授業に参加することが困難な場合は担当教員に報告・相談すること．

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, you will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from practical skills.
By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on goal-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.
In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.
【Learning Objectives】

1.To study the basic techniques, athletic characteristics, rules, and game methods of goal-type sports.
2.To maintain physical and mental health through the improvement of physical fitness.
3.Physical fitness testing will enable the participants to understand their physical fitness and to review their exercise and lifestyle habits.
4.To acquire social skills such as discipline and communication through practical sports.
5.To learn lifelong exercise habits through practical training.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to be in good health condition. Your study time is one hour.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on Leadership, class contribution and attitude:60%, Game characteristics and understanding of the rules :30%, skill level:10%.
Grading will be comprehensive with an importance on the personal card.

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習Ⅰ

植村　直己

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技を通して学びます。
主にゴール型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。
また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】
①ゴール型スポーツ種目の基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
⑤実技を通して生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
週1回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で受講者を決定します。第2回は体力測定を実施します。第3回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、主にゴール型ボールゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
本授業は、原則対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第2回	体力測定（屋内）	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第4回	アルティメット	フライングディスク基礎、ゲーム
第5回	サッカー	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第6回	アルティメット	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第7回	サッカー	基礎練習、ゲーム
第8回	バスケットボール	競技特性、ルールの理解、ゲーム
第9回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第10回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第11回	バスケットボール	基礎練習、ゲーム
第12回	ソフトバレーボール	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第13回	シッティングバレーボール	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60％）、競技特性やルールの理解度（30％）、技術の習得度（10％）とします。
評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】
受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。
　体調不良、怪我などの理由で授業に参加することが困難な場合は、担当教員に報告・相談すること。個別に連絡、相談などがある場合は、下記まで連絡願います。
担当教員メールアドレス：naomi.uemura.gg@hosei.ac.jp
このスポーツ健康科学実習の授業は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの科目がありますが、過去に履修済みの科目は再度履修することが出来ませんのでご注意ください。
緑町グランドで授業を行う場合は、小金井キャンパスとを往復するバスが東館前から出ておりますのでご利用ください。

【Outline (in English)】
In this class, you will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from practical skills.
By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on goal-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.
In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 II

植田　央

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 II

越智　英輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルを問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 II

植田　央

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 II

植田　央

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 II

越智　英輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
3	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルを問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 II

植田　央

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 II

越智　英輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルを問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 II

植田　央

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 II

植田　央

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習 II

植田　央

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
3	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習III

越智　英輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルを問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習III

高柿　健

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities. Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution (60%), level of understanding(30%), and technical acquisition (10%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習III

越智　英輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルを問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習III

高田　佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を，自分自身や他者との関わりによって理解し，生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1.スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2.自分のからだを良く理解し，からだやものを安全かつうまく使える
3.他者を良く理解し，うまくコミュニケーションがとれる
4.各種スポーツの基本的な技術を習得する
5.各種スポーツの競技特性・ルールを理解し，かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では，これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説，スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要，目的，到達目標，履修上の注意と成績評価などの説明
第2回	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
第3回	ソフトバレーボール（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第4回	バレーボール（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第5回	バレーボール（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第6回	テニス（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第7回	テニス（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第8回	アルティメット（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第9回	卓球（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第10回	卓球（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第11回	バドミントン（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第12回	バドミントン（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第13回	バスケットボール（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第14回	授業のまとめと解説	これまでの授業の振り返り，体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・実技形式の授業のため，心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として，各競技の基本的なルールを調べる。
・復習として，授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・リーダーシップ，積極性，態度などの平常点（60%），競技特性やルールの理解度（30%），技術の習得度（10%）とします。
・【個人カード】を重視し，総合的に評価します。
・臨機応変に柔軟かつ積極的に対応する姿勢や，学生間で協力する姿勢を高く評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
シューズ（屋内，屋外）を含めて，スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。普段着，素足やサンダルでの受講は認めません。

【その他の重要事項】
・履修を希望する学生が多数の場合は，初回のガイダンス時に抽選をします。
・競技レベルや性別は問いません。
・安全面を考慮し，アクセサリー類は外して臨んでください。
・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
・担当教員は，日本バスケットボール協会公認C級コーチ，公認キッズサポーターおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かしたスポーツの指導を行います。
・授業に関する質問や相談は授業の前後に対応します。

【Outline (in English)】
This course deals with the sports and physical activities. It also enhances the development of students' skill in a communication with others.
Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習III

植田　央

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習III

越智　英輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルを問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習III

高柿　健

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities. Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution (60%), level of understanding(30%), and technical acquisition (10%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習III

越智　英輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルを問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習III

高田　佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を，自分自身や他者との関わりによって理解し，生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1.スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2.自分のからだを良く理解し，からだやものを安全かつうまく使える
3.他者を良く理解し，うまくコミュニケーションがとれる
4.各種スポーツの基本的な技術を習得する
5.各種スポーツの競技特性・ルールを理解し，かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では，これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説，スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要，目的，到達目標，履修上の注意と成績評価などの説明
第2回	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
第3回	ソフトバレーボール（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第4回	バレーボール（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第5回	バレーボール（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第6回	テニス（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第7回	テニス（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第8回	アルティメット（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第9回	卓球（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第10回	卓球（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第11回	バドミントン（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第12回	バドミントン（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第13回	バスケットボール（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第14回	授業のまとめと解説	これまでの授業の振り返り，体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
・実技形式の授業のため，心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として，各競技の基本的なルールを調べる。
・復習として，授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・リーダーシップ，積極性，態度などの平常点（60%），競技特性やルールの理解度（30%），技術の習得度（10%）とします。
・【個人カード】を重視し，総合的に評価します。
・臨機応変に柔軟かつ積極的に対応する姿勢や，学生間で協力する姿勢を高く評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
シューズ（屋内，屋外）を含めて，スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。普段着，素足やサンダルでの受講は認めません。

【その他の重要事項】
・履修を希望する学生が多数の場合は，初回のガイダンス時に抽選をします。
・競技レベルや性別は問いません。
・安全面を考慮し，アクセサリー類は外して臨んでください。
・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
・担当教員は，日本バスケットボール協会公認C級コーチ，公認キッズサポーターおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かしたスポーツの指導を行います。
・授業に関する質問や相談は授業の前後に対応します。

【Outline (in English)】
This course deals with the sports and physical activities. It also enhances the development of students' skill in a communication with others.
Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習III

植田　央

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.
Learning activities outside of classroom:Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習Ⅳ

高柿　健

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	ルールを理解、ゲーム
4	テニス	競技特性、ゲーム
5	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
6	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities. Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution (60%), level of understanding(30%), and technical acquisition (10%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習Ⅳ

高田　佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では，これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説，スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス（導入）	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	テニス（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
5	テニス（基本技術）	基本的技術の理解、ゲーム
6	アルティメット（基本技術）	競技の紹介・ルールの理解、ゲーム
7	バドミントン（導入）	基本的技術の習得、ゲーム
8	バドミントン（基本技術）	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	卓球（導入）	基本的技術の習得、ゲーム
10	卓球（基本技術）	競技特性・ルールの理解、ゲーム
11	バレーボール（導入）	基本的技術の習得、ゲーム
12	バレーボール（基本技術）	競技特性・ルールの理解、ゲーム
13	バスケットボール（基本技術）	競技の紹介・ルールの理解、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・実技形式の授業のため，心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として，各競技の基本的なルールを調べる。
・復習として，授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
シューズ（屋内，屋外）を含めて，スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。普段着，素足やサンダルでの受講は認めません。

【その他の重要事項】
・履修を希望する学生が多数の場合は，初回のガイダンス時に抽選をします。
・競技レベルや性別は問いません。
・安全面を考慮し，アクセサリー類は外して臨んでください。
・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
・担当教員は，日本バスケットボール協会公認C級コーチ，公認キッズサポーターおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かしたスポーツの指導を行います。
・授業に関する質問や相談は授業の前後に対応します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村　直己

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技を通して学びます。
主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。
また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】
①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
⑤実技を通して生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
週1回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で受講者を決定します。第2回は体力測定を実施します。第3回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ボールゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
本授業は、原則対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第2回	体力測定（屋内）	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	テニス	基本ストロークのグリップ、スィング法
第4回	テニス	基礎練習、ルール、ゲーム
第5回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第6回	テニス	ダブルスゲーム
第7回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第8回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第9回	ソフトバレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第10回	バレーボール	基本的技術の習得、ルールの理解、ゲーム
第11回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第12回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第13回	シッティングバレーボール	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60％）、競技特性やルールの理解度（30％）、技術の習得度（10％）とします。
評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】
受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。
　体調不良、怪我などの理由で授業に参加することが困難な場合は、担当教員に報告・相談すること。個別に連絡、相談などがある場合は、下記まで連絡願います。
担当教員メールアドレス：naomi.uemura.gg@hosei.ac.jp
このスポーツ健康科学実習の授業は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの科目がありますが、過去に履修済みの科目は再度履修することが出来ませんのでご注意ください。
緑町グランドで授業を行う場合は、小金井キャンパスとを往復するバスが東館前から出ておりますのでご利用ください。

【Outline (in English)】
In this course, you will understand the significance and importance of sports and physical activity through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from practical skills.
By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on net-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.
In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村　直己

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技を通して学びます。
主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。
また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】
①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
⑤実技を通して生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
週1回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で受講者を決定します。第2回は体力測定を実施します。第3回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ボールゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
本授業は、原則対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第2回	体力測定（屋内）	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	テニス	基本ストロークのグリップ、スィング法
第4回	テニス	基礎練習、ルール、ゲーム
第5回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第6回	テニス	ダブルスゲーム
第7回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第8回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第9回	ソフトバレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第10回	バレーボール	基本的技術の習得、ルールの理解、ゲーム
第11回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第12回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第13回	シッティングバレーボール	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60％）、競技特性やルールの理解度（30％）、技術の習得度（10％）とします。
評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】
受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。
　体調不良、怪我などの理由で授業に参加することが困難な場合は、担当教員に報告・相談すること。個別に連絡、相談などがある場合は、下記まで連絡願います。
担当教員メールアドレス：naomi.uemura.gg@hosei.ac.jp
このスポーツ健康科学実習の授業は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの科目がありますが、過去に履修済みの科目は再度履修することが出来ませんのでご注意ください。
緑町グランドで授業を行う場合は、小金井キャンパスとを往復するバスが東館前から出ておりますのでご利用ください。

【Outline (in English)】
In this course, you will understand the significance and importance of sports and physical activity through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from practical skills.
By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on net-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.
In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植田　央

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	ルールを理解、ゲーム
4	テニス	競技特性、ゲーム
5	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
6	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習Ⅳ

高柿　健

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	ルールを理解、ゲーム
4	テニス	競技特性、ゲーム
5	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
6	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%)、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities. Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution (60%), level of understanding(30%), and technical acquisition (10%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習Ⅳ

高田　佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では，これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説，スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス（導入）	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	テニス（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
5	テニス（基本技術）	基本的技術の理解、ゲーム
6	アルティメット（基本技術）	競技の紹介・ルールの理解、ゲーム
7	バドミントン（導入）	基本的技術の習得、ゲーム
8	バドミントン（基本技術）	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	卓球（導入）	基本的技術の習得、ゲーム
10	卓球（基本技術）	競技特性・ルールの理解、ゲーム
11	バレーボール（導入）	基本的技術の習得、ゲーム
12	バレーボール（基本技術）	競技特性・ルールの理解、ゲーム
13	バスケットボール（基本技術）	競技の紹介・ルールの理解、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・実技形式の授業のため，心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として，各競技の基本的なルールを調べる。
・復習として，授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
シューズ（屋内，屋外）を含めて，スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。普段着，素足やサンダルでの受講は認めません。

【その他の重要事項】
・履修を希望する学生が多数の場合は，初回のガイダンス時に抽選をします。
・競技レベルや性別は問いません。
・安全面を考慮し，アクセサリー類は外して臨んでください。
・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
・担当教員は，日本バスケットボール協会公認C級コーチ，公認キッズサポーターおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かしたスポーツの指導を行います。
・授業に関する質問や相談は授業の前後に対応します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村　直己

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技を通して学びます。
主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。
また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】
①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
⑤実技を通して生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
週1回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で受講者を決定します。第2回は体力測定を実施します。第3回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ボールゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
本授業は、原則対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第2回	体力測定（屋内）	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	テニス	基本ストロークのグリップ、スィング法
第4回	テニス	基礎練習、ルール、ゲーム
第5回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第6回	テニス	ダブルスゲーム
第7回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第8回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第9回	ソフトバレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第10回	バレーボール	基本的技術の習得、ルールの理解、ゲーム
第11回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第12回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第13回	シッティングバレーボール	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60％）、競技特性やルールの理解度（30％）、技術の習得度（10％）とします。
評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】
受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。
　体調不良、怪我などの理由で授業に参加することが困難な場合は、担当教員に報告・相談すること。個別に連絡、相談などがある場合は、下記まで連絡願います。
担当教員メールアドレス：naomi.uemura.gg@hosei.ac.jp
このスポーツ健康科学実習の授業は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの科目がありますが、過去に履修済みの科目は再度履修することが出来ませんのでご注意ください。
緑町グランドで授業を行う場合は、小金井キャンパスとを往復するバスが東館前から出ておりますのでご利用ください。

【Outline (in English)】
In this course, you will understand the significance and importance of sports and physical activity through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from practical skills.
By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on net-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.
In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村　直己

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技を通して学びます。
主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。
また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】
①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
⑤実技を通して生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
週1回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で受講者を決定します。第2回は体力測定を実施します。第3回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ボールゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
本授業は、原則対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第2回	体力測定（屋内）	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	テニス	基本ストロークのグリップ、スィング法
第4回	テニス	基礎練習、ルール、ゲーム
第5回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第6回	テニス	ダブルスゲーム
第7回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第8回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第9回	ソフトバレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第10回	バレーボール	基本的技術の習得、ルールの理解、ゲーム
第11回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第12回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第13回	シッティングバレーボール	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60％）、競技特性やルールの理解度（30％）、技術の習得度（10％）とします。
評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】
受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。
　体調不良、怪我などの理由で授業に参加することが困難な場合は、担当教員に報告・相談すること。個別に連絡、相談などがある場合は、下記まで連絡願います。
担当教員メールアドレス：naomi.uemura.gg@hosei.ac.jp
このスポーツ健康科学実習の授業は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの科目がありますが、過去に履修済みの科目は再度履修することが出来ませんのでご注意ください。
緑町グランドで授業を行う場合は、小金井キャンパスとを往復するバスが東館前から出ておりますのでご利用ください。

【Outline (in English)】
In this course, you will understand the significance and importance of sports and physical activity through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from practical skills.
By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on net-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.
In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植田　央

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を各種のスポーツ実技を通して、自分自身や他者との関わりを理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週1回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第2回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	ルールを理解、ゲーム
4	テニス	競技特性、ゲーム
5	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
6	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
7	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点(60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度(10%)とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学講義 I

高田　佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において，「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには，適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では，運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ，適切な運動やその他の身体活動を効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

【到達目標】
・健康を獲得および維持するために必要となる生活習慣の基礎知識を身につけることができる。
・身につけた知識を単なる知識として留めるだけではなく，日常生活での実践につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式を対面で実施します。授業の最後に個人の考えや意見をまとめたリアクションペーパーを課し，その中からいくつかを次回授業で全体に対してフィードバックを行います。また，グループワークを実施することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方（ルール），評価方法や履修上の注意点などを説明します
2	健康とは何か	さまざまな意味がある「健康」とは何かを説明します
3	喫煙と飲酒	喫煙と飲酒について，他国の取り組みとともに説明します
4	休養と睡眠	休養と睡眠について説明します
5	ストレスと運動	ストレスと運動について説明します
6	栄養と食事1	日本人の食事についてグループワークを行います
7	栄養と食事2	生きていく上で必要な栄養と食事について説明します
8	栄養と食事3	みなさんの食事の現状把握と改善策をグループワークを通じて検討します
9	女性の健康1	女性特有の健康問題について説明します
10	女性の健康2	女性の健康問題についてグループワークを行います
11	若年者の健康問題	若年者の健康問題について説明します
12	生活習慣病と運動	生活習慣病と運動の関係について説明します
13	生涯スポーツ	ニュースポーツなど生涯スポーツについて，他国の取り組みとともに説明します
14	試験および解説	本授業の試験を行い，その後解説をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業で使用するパワーポイントのスライドを用いて授業内容の復習を十分にすること。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず，毎回資料を配布します。

【参考書】
特に指定せず，必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
積極的な授業参画度（30%）とレポートや試験など（70%）によって，授業の理解度，意欲，関心，態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーやグループワークの内容に加え，発言など授業への取り組み方で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題の提出は，学習支援システムを通じて行うこともあります。

【その他の重要事項】
・初回授業時に履修希望学生数が教室定員を超過した場合は，その場で抽選を実施します。
・授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため，初回の授業には必ず出席してください。
・実技科目の「スポーツ健康科学実習」と合わせて，運動や健康への関心を高めてください。
・担当教員は日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かした授業を展開します。
・授業に関する質問や相談は授業の前後に対応します。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces the influence of a variety of lifestyle including exercise and physical activity on health benefit based on scientific insights.
(Learning Objectives)
The end of the course, students should be able to explain how to incorporate effectively and safety appropriate exercise and physical activity into daily life.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policies)
Grading will be decided based in class contribution (50%), and the quality of the students' term end examination (50%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学講義 I

高田　佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において，「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには，適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では，運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ，適切な運動やその他の身体活動を効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

【到達目標】
・健康を獲得および維持するために必要となる生活習慣の基礎知識を身につけることができる。
・身につけた知識を単なる知識として留めるだけではなく，日常生活での実践につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式を対面で実施します。授業の最後に個人の考えや意見をまとめたリアクションペーパーを課し，その中からいくつかを次回授業で全体に対してフィードバックを行います。また，グループワークを実施することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方（ルール），評価方法や履修上の注意点などを説明します
2	健康とは何か	さまざまな意味がある「健康」とは何かを説明します
3	喫煙と飲酒	喫煙と飲酒について，他国の取り組みとともに説明します
4	休養と睡眠	休養と睡眠について説明します
5	ストレスと運動	ストレスと運動について説明します
6	栄養と食事1	日本人の食事についてグループワークを行います
7	栄養と食事2	生きていく上で必要な栄養と食事について説明します
8	栄養と食事3	みなさんの食事の現状把握と改善策をグループワークを通じて検討します
9	女性の健康1	女性特有の健康問題について説明します
10	女性の健康2	女性の健康問題についてグループワークを行います
11	若年者の健康問題	若年者の健康問題について説明します
12	生活習慣病と運動	生活習慣病と運動の関係について説明します
13	生涯スポーツ	ニュースポーツなど生涯スポーツについて，他国の取り組みとともに説明します
14	試験および解説	本授業の試験を行い，その後解説をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業で使用するパワーポイントのスライドを用いて授業内容の復習を十分にすること。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず，毎回資料を配布します。

【参考書】
特に指定せず，必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
積極的な授業参画度（30%）とレポートや試験など（70%）によって，授業の理解度，意欲，関心，態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーやグループワークの内容に加え，発言など授業への取り組み方で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題の提出は，学習支援システムを通じて行うこともあります。

【その他の重要事項】
・初回授業時に履修希望学生数が教室定員を超過した場合は，その場で抽選を実施します。
・授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため，初回の授業には必ず出席してください。
・実技科目の「スポーツ健康科学実習」と合わせて，運動や健康への関心を高めてください。
・担当教員は日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かした授業を展開します。
・授業に関する質問や相談は授業の前後に対応します。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces the influence of a variety of lifestyle including exercise and physical activity on health benefit based on scientific insights.
(Learning Objectives)
The end of the course, students should be able to explain how to incorporate effectively and safety appropriate exercise and physical activity into daily life.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policies)
Grading will be decided based in class contribution (50%), and the quality of the students' term end examination (50%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学講義 II

高田　佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において，「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには，適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では，スポーツやトレーニングが健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ，スポーツやトレーニングを効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

【到達目標】
・健康を獲得および維持するために必要となるスポーツやトレーニングの基礎知識を身につけることができる。
・身につけた知識を単なる知識として留めるだけではなく，日常生活での実践につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式を対面で実施します。授業の最後に個人の考えや意見をまとめたリアクションペーパーを課し，その中からいくつかを次回授業で全体に対してフィードバックを行います。また，グループワークを実施することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方（ルール），評価方法や履修上の注意点などを説明します
第2回	スポーツと体育の定義	言葉の語源や定義および世界の中等教育段階のスポーツの状況を説明します
第3回	発育発達と運動	発育・発達と運動との関係を説明します
第4回	体力の概念	体力の概念と，行動体力と防衛体力について説明します
第5回	熱中症と水分補給	熱中症の注意や水分補給について説明します
第6回	スポーツ栄養学	運動と栄養について説明します
第7回	骨格筋の働き	骨格筋の構造と筋線維の特性について説明します
第8回	トレーニングの理論	トレーニングの原理・原則について説明します
第9回	トレーニング1	筋力トレーニングについて説明します
第10回	トレーニング2	持久力のトレーニングについて説明します
第11回	トレーニング3	柔軟性のトレーニングと敏捷性のトレーニングについて説明します
第12回	古代オリンピックと近代オリンピック	古代オリンピックのはじまりと終焉，そして近代オリンピックの復興について説明します
第13回	アダプテッドスポーツ	パラリンピックに代表される障がい者スポーツやアダプテッドスポーツについて説明します
第14回	試験および解説	本授業の試験を行い，その後解説をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・準備学習として，授業のトピックスについて一週間の新聞記事から調べる。
・復習として，授業で使用する資料を用いて知識の定着を図る。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず，毎回資料を配付します。

【参考書】
特に指定せず，必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
積極的な授業参画度（30%）とレポートや試験など（70%）によって，授業の理解度，意欲，関心，態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーの内容や発言など授業への取り組み方で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題の提出は，学習支援システムを通じて行うこともあります。

【その他の重要事項】
・初回授業時に履修希望学生数が教室定員を超過した場合は，その場で抽選を実施します。
・授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため，初回の授業には必ず出席してください。
・実技科目の「スポーツ健康科学実習」と合わせて，運動や健康への関心を高めてください。
・担当教員は日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かした授業を展開します。
・授業に関する質問や相談は授業の前後に対応します。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In modern society, it is necessary to incorporate appropriate exercise, nutrition, and rest in daily life for healthy and abundance. This class learn the effects of sport and training on health based on scientific knowledge.
(Learning Objectives)
The purpose of this class is to acquire an understanding of appropriate sport and training in a daily life.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policies)
Grading will be decided based in class contribution(50%), and the quality of the term-end examination(50%).

HSS100LC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ健康科学講義 II

高田　佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において，「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには，適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では，スポーツやトレーニングが健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ，スポーツやトレーニングを効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

【到達目標】
・健康を獲得および維持するために必要となるスポーツやトレーニングの基礎知識を身につけることができる。
・身につけた知識を単なる知識として留めるだけではなく，日常生活での実践につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式を対面で実施します。授業の最後に個人の考えや意見をまとめたリアクションペーパーを課し，その中からいくつかを次回授業で全体に対してフィードバックを行います。また，グループワークを実施することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方（ルール），評価方法や履修上の注意点などを説明します
第2回	スポーツと体育の定義	言葉の語源や定義および世界の中等教育段階のスポーツの状況を説明します
第3回	発育発達と運動	発育・発達と運動との関係を説明します
第4回	体力の概念	体力の概念と，行動体力と防衛体力について説明します
第5回	熱中症と水分補給	熱中症の注意や水分補給について説明します
第6回	スポーツ栄養学	運動と栄養について説明します
第7回	骨格筋の働き	骨格筋の構造と筋線維の特性について説明します
第8回	トレーニングの理論	トレーニングの原理・原則について説明します
第9回	トレーニング1	筋力トレーニングについて説明します
第10回	トレーニング2	持久力のトレーニングについて説明します
第11回	トレーニング3	柔軟性のトレーニングと敏捷性のトレーニングについて説明します
第12回	古代オリンピックと近代オリンピック	古代オリンピックのはじまりと終焉，そして近代オリンピックの復興について説明します
第13回	アダプテッドスポーツ	パラリンピックに代表される障がい者スポーツやアダプテッドスポーツについて説明します
第14回	試験および解説	本授業の試験を行い，その後解説をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・準備学習として，授業のトピックスについて一週間の新聞記事から調べる。
・復習として，授業で使用する資料を用いて知識の定着を図る。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず，毎回資料を配付します。

【参考書】
特に指定せず，必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
積極的な授業参画度（30%）とレポートや試験など（70%）によって，授業の理解度，意欲，関心，態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーの内容や発言など授業への取り組み方で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題の提出は，学習支援システムを通じて行うこともあります。

【その他の重要事項】
・初回授業時に履修希望学生数が教室定員を超過した場合は，その場で抽選を実施します。
・授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため，初回の授業には必ず出席してください。
・実技科目の「スポーツ健康科学実習」と合わせて，運動や健康への関心を高めてください。
・担当教員は日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かした授業を展開します。
・授業に関する質問や相談は授業の前後に対応します。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In modern society, it is necessary to incorporate appropriate exercise, nutrition, and rest in daily life for healthy and abundance. This class learn the effects of sport and training on health based on scientific knowledge.
(Learning Objectives)
The purpose of this class is to acquire an understanding of appropriate sport and training in a daily life.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policies)
Grading will be decided based in class contribution(50%), and the quality of the term-end examination(50%).

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

長谷川　秀子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
授業では、受講者一人一人が英語で自分の考えや、身の回りのことを話す、書くということから始め、英語のアカデミックライティングまでを学んでいく。各自が”Output English”にフォーカスを置き、いままで学んだ"Input English"を使いながら、話す、書くを磨き、コミュニケーション能力も高める。授業中は書く時間やミニプレゼンテーションの時間をとる。このクラスは少人数構成が望ましい。
①これまでに身に付けた英語の知識を使い、自分の考えを英語でアウトプットできる。
②プレゼンテーションやエッセイにおいて、英語で正確に情報を伝えることができる。
①Students can use the English skills they have developed to express their ideas in English.
② Students can present information precisely in English in both presentations and essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題などからからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
教科書を使いながら英文の書き方を学び、トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1つのユニットを大体２回で終わるように授業を行うが、教科書以外の内容もカバーする予定。クラスの中で書いたり、発表する時間には積極的な参加を望む。
COVID‐１９による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	テキストの使い方と授業準備授業の進め方の説明 Writing
第2回	Unit 1 (1) Mini presentation	What is a Paragraph?
第3回	Unit 1 (2)	What is a Paragraph? Writing
第4回	Unit 2 (1) Mini presentation	Narration Writing
第5回	Unit 2 (2)	Narration Writing
第6回	Unit 3 (1) Mini presentation	Mini presentation Process Writing
第7回	Unit 3 (2)	Process Writing
第8回	Unit 4 (1) Mini presentation	Description of Feelings Writing
第9回	Unit 4 (2)	Description of Feelings Writing
第10回	Unit 5 (1) Mini presentation	Description of People Writing
第11回	Unit 5 (2)	Description of People Writing（１）Outline
第12回	Unit 6	Description of Places & Locations Writing（２）Introdection, Body
第13回	Unit 7	Definition Writing（３） Conclusion, Refererences
第14回	Term Exam	試験範囲　Unit 1-6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間程度を標準とする】
各ユニットの項目を理解すること。課題などのWriting, ミニプレゼンの用意をする。なお、ミニプレゼンはスクリプトを読まないですることを目指す。
Two-credit course : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】
はじめてのパラグラフ・ライティング
”Smart Writing”
Active Approach to Paragraph Writing
By Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara, Ruth Fallon (2017)
SEIBIDO
ISBN978-4-7919-6032-3

【参考書】
必要に応じて授業、学習主演システムで紹介。

【成績評価の方法と基準】
ミニプレゼンテーション、課題　50%
期末試験　50%
【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく３分の１以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
提出物などは授業と講義連絡でも連絡予定。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
担当者の連絡先はオリエンテーションで連絡。
授業では辞書が必要なので用意をしておくこと。
学習支援システムで連絡、確認事項、授業資料などを確認すること。

【Outline (in English)】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
Goals: We focus on "Output English" using "Input English" you have already learned, and practice expressing yourself (speaking and writing) and your opinions in English.
Work outside of the classroom: Understand each unit's contents, complete homework and prepare for mini presentations. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.
Grading: Assignment mini presentation 50%
Term exam 50%

LANe200LC（英語 / English language education 200）

アカデミック・ライティング

染谷　昌弘

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アカデミック・ライティング」２単位 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
この授業はアカデミックライティングを紹介するコースです。毎週、文章から段落、構造レベルまで、効果的な文章を書くための文法や短文作成など、エッセイのためのあらゆる要素を段階的に学習した後に、授業の終わりにはエッセイを作成することができることが最終的な目標になる。
This course introduces academic writing to university students.The goal is that students can make good essays about each subject. In ordet to this, students should learn some learning things provided by the textbook including grammar, writing short sentence,etc. And the end of each class, students can become a good writer of effective English paragraph, and essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
First,students should understand a comprehensive structure of the essay writing. Second, students learn some expressions for it. Third, students write the essay actually. Finally, students prepare for the quiz to be given in the next class. In class, students discuss their research in small groups in and after individually completing tasks assigned by the textbook. In the end of this course, students are expected to improve their skills of academic writing in English. And in the nest class, one of the documents student submit is selected and teacher comment about it on the screen.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation for the class pcoceeding, task submission, getting evaluation, and so on.
2	Conclusion / Reasons	Comprehensive understanding of the topic essay pattern. Reading Model Essay. Doing some Writing Tasks. Making original essay.
3	Social Trends	Comprehensive understanding of the topic essay pattern. Reading Model Essay. Doing some Writing Tasks. Making original essay.
4	Results / Causes	Comprehensive understanding of the topic essay pattern. Reading Model Essay. Doing some Writing Tasks. Making original essay.
5	Several Explanations	Comprehensive understanding of the topic essay pattern. Reading Model Essay. Doing some Writing Tasks. Making original essay.
6	Comparison	Comprehensive understanding of the topic essay pattern. Reading Model Essay. Doing some Writing Tasks. Making original essay.
7	For and Against	Comprehensive understanding of the topic essay pattern. Reading Model Essay. Doing some Writing Tasks. Making original essay.
8	Classification	Comprehensive understanding of the topic essay pattern. Reading Model Essay. Doing some Writing Tasks. Making original essay.
9	History	Comprehensive understanding of the topic essay pattern. Reading Model Essay. Doing some Writing Tasks. Making original essay.
10	Processes	Comprehensive understanding of the topic essay pattern. Reading Model Essay. Doing some Writing Tasks. Making original essay.
11	Causes and Effects	Comprehensive understanding of the topic essay pattern. Reading Model Essay. Doing some Writing Tasks. Making original essay.
12	Definition of a New Word	Comprehensive understanding of the topic essay pattern. Reading Model Essay. Doing some Writing Tasks. Making original essay.
13	Research	Comprehensive understanding of the topic essay pattern. Reading Model Essay. Doing some Writing Tasks. Making original essay.
14	New Products	Comprehensive understanding of the topic essay pattern. Reading Model Essay. Doing some Writing Tasks. Making original essay.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
Skills for Better Writing〈Interrmediate〉【Third Edition】
石谷　由美子
南雲堂
2022年
2200円

【参考書】
Dictionary

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Submission (30%). Quiz (40%). Assignment (20%). Group Discussion(10%)

【学生の意見等からの気づき】
授業内でもっと話す時間が欲しいとの意見がありました。学生間で話し合い、意見を交わす時間を増やしたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムWeb Classを使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に、授業履修に関しての注意事項を説明します。必ず参加すること。
また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業に忘れずに持参すること。この教科書は、一般の本屋さんやアマゾンなどでは購入できませんので、必ず大学で購入して下さい。

【Outline (in English)】
Outline
Academic Writing (2 credits)　for 【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.
Goal
This course introduces academic writing to university students. The goal will be the production of an essays in each subject.Each class students will study in stages, from sentence to paragraph to structure levels, all parts of effective writing. And the end of each class, students will write an effective English paragraph and essay.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:Submission (30%). Quiz (40%). Assignment (20%). Group Discussion(10%)

LANe100LC（英語 / English language education 100）

SAプログラム

加藤　友規、鳥飼　弘幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会のグローバル化が進む中で、理工系の研究者・技術者として活躍するために英語を科学技術コミュニケーション手段として習得することは必須である。また、言語に限らず、専門分野・文化・宗教などが異なる他者と協働して仕事の成果を出すことは、グローバル化の時代を生き抜くのに必要なスキルである。
本演習では提携校であるマレーシアのマラ工科大学ペナン校が提供する、主に電気工学とロボットに関する２週間のグローバルPBL（Global Project Based Learning）に参加し、専門知識・専門知識を応用する力・英語コミュニケーション能力・他者との協働能力・プレゼンテーションスキルなどを身に着けることを目標とする。
In the era of advancing globalization, it is essential for researchers and engineers in science and technology to acquire English as a means of scientific and technological communication. Additionally, the ability to collaborate with others who have different languages, areas of expertise, cultures, and religions, and to achieve work results, is a crucial skill for thriving in a globalized world.
In this course, students will participate in a two-week Global Project-Based Learning (Global PBL) program, primarily focused on electrical engineering and robotics, provided by our partner institution, Universiti Teknologi MARA (UiTM) Penang in Malaysia. The goal is to develop expertise, the ability to apply specialized knowledge, English communication skills, collaboration skills with others, and presentation skills.

【到達目標】
１．理工学（特に電気工学・ロボット工学・プログラミング）に関する専門知識を深める。
２．専門知識を応用・活用する力を身に着ける。
３．英語コミュニケーション能力を向上させる。
４．専門分野や文化的背景の異なる他者と協働する能力を身につける。
５．英語プレゼンテーションスキルを向上させる。
1.Deepen specialized knowledge in science and engineering, particularly in electrical engineering, robotics, and programming.
2.Develop the ability to apply and utilize specialized knowledge.
3.Improve English communication skills.
4.Acquire the ability to collaborate with others from different specialties and cultural backgrounds.
5.Enhance English presentation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本演習は夏季休暇中の約2週間の短期ＳＡ（スタディーアブロード）集中授業である。
シラバス執筆時点では、８月３０日東京出発～９月１４日東京帰着の予定であるが、詳細は４月のガイダンスでお知らせする。
本プログラムへの法政大学からの参加枠は１２名の予定であるが、現地ではマレーシア・インドネシア・台湾・福岡の大学からの参加もあり、４カ国５大学から合計で約３０名の学生の参加がある想定である。参加学生は、なるべく国や専門性が異なる約５名ずつの班に分けられ、ロボットやプログラミングに関する課題解決型のPBLを行うことになる。現地での最後の２日間には、成果物のデモンストレーションや英語での成果発表会が行われる。現地での使用言語は基本的に英語である。
なお、現地での授業のほかに事前と事後にそれぞれ１～２回、授業を行う予定である。
This program is a short-term Study Abroad (SA) intensive course during the summer vacation, lasting approximately two weeks. As of the writing of the syllabus, the planned schedule is departure from Tokyo on August 30 and return to Tokyo on September 14. However, the details will be provided once the program is officially confirmed.
The participation quota for Hosei University is 12 students, and there will also be participants from universities in Malaysia, Indonesia, Taiwan and Fukuoka. The total number of students is expected to be around 30, coming from four universities across three countries. Participants will be divided into groups of 4-6 students, aiming for a mix of different nationalities and specialties, and will engage in project-based learning (PBL) focused on solving challenges related to robotics and programming. During the last two days of the program, there will be demonstrations of the results and presentations in English. The primary language of instruction on-site will be English.
In addition to the classes held on-site, there will be one or two preparatory and follow-up sessions before and after the program.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Day 1 Arrival in Kuala Lumpur Malaysia	・東京（羽田または成田）空港に集合・出発し、クアラルンプール国際空港に到着する。クアラルンプール空港からペナンへはUiTMが手配するバスにて移動する。ペナン市内のホテルにチェックインし、市内見学や初日の夕食に参加する。 Arrive at Kuala Lumpur International Airport, visit and tour Petronas Corporation and the UiTM Shah Alam main campus. Stay overnight in Kuala Lumpur city.

第2回	Day 2 Arrival in Penang	・クアラルンプールからUiTMペナン校へ移動する。 ・昼食後、１３時頃からｇPBLの開会式がある。各自、英語で自己紹介を行う。 ・班分けとミッション１に関する課題の説明がある。 ・１７：３０まで実習したあと、宿舎にチェックインし、この日の日報を書く。 Travel from Kuala Lumpur to UiTM Penang campus. After lunch, the opening ceremony of gPBL will begin around 1:00 PM. Each participant will introduce themselves in English. There will be group assignments and an explanation of the task for Mission 1. After working on the tasks until 5:30 PM, check in to the accommodation and write the daily report for the day.
第3回	Day 3 Mission 1 (continued)	・9時に演習室に集合し、正午までMission１の続きを行う。 ・昼食後、１３時～１７：３０までMisson1についての実習のあと、宿舎に戻り、この日の日報を書く。 Gather in the training room at 9:00 AM and continue Mission 1 until noon. After lunch, work on the Mission 1 tasks from 1:00 PM to 5:30 PM. Then return to the accommodation and write the daily report for the day.
第4回	Day 4 Mission 1 (continued)	・9時に演習室に集合し、正午までMission１の続きを行う。 ・昼食後、１３時～１７：３０までMisson1についての実習のあと、宿舎に戻り、この日の日報を書く。 Gather in the training room at 9:00 AM and continue Mission 1 until noon. After lunch, work on Mission 1 from 1:00 PM to 5:30 PM. Then return to the accommodation and write the daily report for the day.
第5回	Day 5 Mission 1 (continued)	・9時に演習室に集合し、正午までMission１の続きを行う。 ・昼食後、１３時～１７：３０までMisson1についての実習（発表準備を含む）のあと、宿舎に戻り、この日の日報を書く。 Gather in the training room at 9:00 AM and continue Mission 1 until noon. After lunch, work on Mission 1 (including preparation for the presentation) from 1:00 PM to 5:30 PM. Then return to the accommodation and write the daily report for the day.
第6回	Day 6 Mission 1 and Mission 2	・9時に演習室に集合し、Misson 1についてのデモンストレーションと班紹介を班ごとに順番に行う。 ・昼食後、お祈りの時間の後に、１５時頃からMisson 2に関する課題の説明がある。 ・１７：３０までMisson 2についての実習のあと、宿舎に戻り、この日の日報を書く。 Gather in the training room at 9:00 AM for a demonstration of Mission 1 and group introductions, with each group presenting in turn. After lunch and prayer time, there will be an explanation of the Mission 2 tasks starting around 3:00 PM. After working on Mission 2 until 5:30 PM, return to the accommodation and write the daily report for the day.
第7回	Day 7 Independence day	・マレーシア独立記念日の地域のイベントに参加し、Ｍｉｓｓｉｏｎ１で製作したロボットの紹介を含む、技術の紹介と地域との交流を行う。 ・パークロイヤルホテルにチェックインし、この日の日報を書く。 Participate in a local event for Malaysia’s Independence Day, where you will introduce the robot created in Mission 1, showcase the technology, and engage with the community. Check in at Park Royal Hotel and write the daily report for the day.
第8回	Day 8 Mission 2 (continued)	・午前中はペナン島を見学し、市内で昼食後にUiTMに戻る。 ・午後はUiTMにて、Mission 2の実習の続きを行う。 ・１７：３０までMisson 2についての実習のあと、宿舎に戻り、この日の日報を書く。 In the morning, visit Penang Island and return to UiTM after having lunch in the city. In the afternoon, continue the Mission 2 tasks at UiTM. After working on Mission 2 until 5:30 PM, return to the accommodation and write the daily report for the day.
第9回	Day 9 Mission 2 (continued)	・9時に演習室に集合し、正午までMission ２の続きを行う。 ・昼食後、１３時～１７：３０までMisson 2についての実習のあと、宿舎に戻り、この日の日報を書く。 Gather in the training room at 9:00 AM and continue Mission 2 until noon. After lunch, work on Mission 2 from 1:00 PM to 5:30 PM. Then return to the accommodation and write the daily report for the day.

第10回	Day 10 Mission 2 (continued)	・9時に演習室に集合し、正午までMission 2の続きを行う。 ・昼食後、１３時～１４時に知能ロボットに関する特別講演を聴講する。 ・１７：３０までMisson 2についての実習のあと、宿舎に戻り、この日の日報を書く。 Gather in the training room at 9:00 AM and continue Mission 2 until noon. After lunch, attend a special lecture on intelligent robots from 1:00 PM to 2:00 PM. After working on Mission 2 until 5:30 PM, return to the accommodation and write the daily report for the day.
第11回	Day 11 Experience the Penang and Mission 2 (continued)	・午前中はUiTM教員の引率により、Penang島の中心部を見学し、歴史を学ぶ。 ・市内で昼食後、UiTMに戻り、１７：３０までMisson 2についての実習（試合と発表準備を含む）のあと、宿舎に戻り、この日の日報を書く。 In the morning, under the guidance of UiTM faculty, visit the central area of Penang Island and learn about its history. After lunch in the city, return to UiTM and work on Mission 2 until 5:30 PM (including the competition and preparation for the presentation). Afterward, return to the accommodation and write the daily report for the day.
第12回	Day 12 Mission 2 (competition as demonstration)	・9時に演習室に集合して準備の後、10時からMission 2の成果物のデモンストレーションとして、ロボット対戦トーナメントを行う。 ・昼食後、１７：３０まで翌日の発表準備会の準備を行う。その後、宿舎に戻り、この日の日報を書く。 Gather in the training room at 9:00 AM for preparation, then from 10:00 AM, hold a robot competition tournament as a demonstration of the results of Mission 2. After lunch, prepare for the presentation preparation session the following day until 5:30 PM. Afterward, return to the accommodation and write the daily report for the day.
第13回	Day 13 Final Presentation	・9時に演習室に集合して、午後の最終発表会の準備を行う。 ・昼食後、１3時から最終発表会として、各班ごとに10分程度のプレゼンテーションを英語で行う（必ず全員が発表を分担する）。 ・プレゼンテーションの後、閉会式と表彰式を行う。 ・宿舎に戻り、この日の日報を書く。 Gather in the training room at 9:00 AM to prepare for the final presentation session in the afternoon. After lunch, from 1:00 PM, each group will give a 10-minute presentation in English as part of the final presentation session (all members must participate in the presentation). After the presentations, the closing ceremony and award ceremony will take place. Return to the accommodation and write the daily report for the day.
第14回	Day 14 Final Day at UiTM	・宿舎をチェックアウトし、演習室の撤収・清掃作業を行う。 ・事後授業として、帰国後に主に学内関係者向けに成果発表会（或いはスライドの製作と動画の公開）を行う可能性があるので、その準備を行う。 ・成果物を整理し、電子提出する。 Check out of the accommodation and carry out the packing and cleaning of the training room. As a follow-up class, a presentation of results might be held after returning to the home country, mainly for internal stakeholders (or by creating slides and publishing videos), so preparations for this will be made. Organize the deliverables and submit them electronically.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の英語学習（TOEIC550点以上を取得していることが望ましい）。宿舎での各日の日報の作成・発表用のスライドと原稿の作成および発表練習。
Preliminary English study (a TOEIC score of 550 or higher is desirable). Preparation of daily reports at the accommodation, including creating slides and scripts for presentations, as well as practicing the presentations.

【テキスト（教科書）】
事前学習あるいは現地大学で指示を受ける。
The instructions for the textbooks will be given either as pre-study or at the local university.

【参考書】
事前学習あるいは現地大学で指示を受ける。
The instructions for the references will be given either as pre-study or at the local university.

【成績評価の方法と基準】
毎日の実施内容に関する日報の提出、現地大学教員による評価（出席状況を含む）、最終日に行うプレゼンテーション原稿、パワーポイント等プレゼンテーション資料をもとにＳＡ委員会が総合的に評価する。 評価基準：本科目の到達目標を60％以上達成している学生を合格とする。
The daily reports on the activities, evaluations by the local university faculty (including attendance), the presentation script to be given on the final day, and presentation materials such as PowerPoint will be comprehensively assessed by the SA committee.
Evaluation criteria: Students who achieve 60% or more of the course objectives will be considered as passing.

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。
Since this is a new course for this year, no survey has been conducted.

【学生が準備すべき機器他】
現地にはノートＰＣを持参して下さい。海外用SIMやモバイルWIFIをレンタルすることが望ましいです。
Please bring a laptop with you. It is recommended to rent a SIM card for overseas use or a mobile Wi-Fi device.

【その他の重要事項】
本科目は夏季集中で実施されます。
履修登録期間内に学生が履修登録することはできません。
実施が決定次第，学習支援システム等でご案内し，説明会を実施したうえで参加（履修）学生を募集します。
大学から費用の支援はある予定ですが、海外研修ですので相応の自己負担が生じます。このあたりも、説明会で詳しくご説明します。
２０２５年度の実施報告が下記サイトにあります。ぜひご覧ください。
https://www.hosei.ac.jp/riko/info/article-20251112092959/
This course will be conducted as a summer intensive.
Students will not be able to register for the course during the regular registration period.
Once the course is confirmed, we will provide information through the learning support system and hold an orientation session, after which students will be recruited for participation (enrollment).
The university plans to provide financial support, but since this is an overseas program, there will be a certain level of personal expenses. Details on this will be explained during the orientation session.

【Outline (in English)】
In the era of advancing globalization, it is essential for researchers and engineers in science and technology to acquire English as a means of scientific and technological communication. Additionally, the ability to collaborate with others who have different languages, areas of expertise, cultures, and religions, and to achieve work results, is a crucial skill for thriving in a globalized world.
In this course, students will participate in a two-week Global Project-Based Learning (Global PBL) program, primarily focused on electrical engineering and robotics, provided by our partner institution, Universiti Teknologi MARA (UiTM) Penang in Malaysia. The goal is to develop expertise, the ability to apply specialized knowledge, English communication skills, collaboration skills with others, and presentation skills.

HUM100LC（その他の人文学 / humanities 100）

宗教と社会

立田　由紀恵

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宗教はそれを信仰しない人にとっては得体の知れないものに見えてしまいがちです。特に紛争や戦争に宗教が絡むと、宗教がそれらの対立や暴力の源になっていると考えられることがしばしばあります。しかし宗教は人々や共同体を支える重要な役割を果たしており、そのネガティブな面は宗教に限られた問題ではないことが多いです。この授業では特に宗教紛争、宗教対立と呼ばれる事例を研究して、宗教に対する理解を深めることを目的とします。
Religion might seem foreign to those who do not believe in it. When religion is involved in conflicts and wars, it is often seen as the source of those conflicts and violence. However, this view is usually misleading, based on a very narrow and biased definition of religion. Moreover, religion plays a vital role in supporting people and communities. The purpose of this class is to deepen students' understanding of religion through cases of so-called religious conflicts or confrontations.

【到達目標】
・「宗教とは何か」という問いに対して自分自身の考えを答えられるようになる
・宗教と紛争に対し、表面的ではない理解を持てるようになる
・世界中の信仰を持つ人々に対する理解を深める
・宗教を他人事ではなく自分たちの社会に存在するものとしてとらえられるようになる
・To be able to answer the question "What is religion?" in the students' own words
・To be able to have a deeper understanding of the relation between religion and conflict
・To deepen your understanding of people of faith around the world
・To be able to see religion as something that exists in the society we live in

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・予習（指定された内容をインターネットや書籍で調べ、自分の考えをまとめる）
・講義（予習への応答を含む）
・リアクションペーパー（教員によるフィードバックをつけて返却）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：宗教と社会、宗教と紛争について	「宗教が紛争を引き起こす」という理解が持つ問題点を考える出発点として、まず「宗教＝信仰」という単純な見方を見直し、宗教とは何かという問いに対するより深い答えを探す。
2	北アイルランド：ふたつのキリスト教徒の間の対立	北アイルランドでは、カトリックとプロテスタントのふたつのキリスト教の間で数十年にわたる深刻な対立が続いている。先進国の中で起きている紛争と宗教の様子を見る。
3	南アフリカ、アメリカ黒人：虐げられた黒人の解放と宗教	アメリカや南アフリカの黒人は、何世紀にもわたる人種差別と戦ってきた。その戦いの中で宗教が果たしてきた役割を見る。
4	インド、パキスタン、スリランカ：ヒンドゥー教と対立	インドの中心的な宗教であるヒンドゥー教は多神教であり、日本の宗教伝統と似た部分が多い。そのインドと周辺の国における、ヒンドゥー教が関わる紛争を見る。
5	シリア、レバノン：アラブ世界のキリスト教とイスラーム	中東の主な宗教はイスラームだが、ヨーロッパよりも古くから続くキリスト教の伝統もある。ここでは中東で特にキリスト教との多いシリアとレバノンにおけるキリスト教徒とムスリムの関係を見る。
6	タイ、ミャンマー：仏教と暴力	仏教はよく平和的な宗教と見られるが、その仏教も紛争と無縁ではない。ここではタイやミャンマーという仏教が中心的な国における紛争を見る。
7	中間まとめ：リアクションペーパーへの返答	第6回までのリアクションペーパーへの返答を中心として宗教と紛争について学んだことを振り返り、これから学ぶ中で着目する点を確認する。
8	ボスニア・ヘルツェゴビナ、コソボ：多民族国家ユーゴスラビアの崩壊	20世紀末に崩壊した旧ユーゴスラビアは、多数の民族が平和的に共存する国家として知られていた。さまざまな宗教が平和に共存する社会が深刻な対立を抱えることになった背景を見る。
9	イスラエル・パレスチナ：3つの宗教の聖地で起きる対立	70年以上続くイスラエル・パレスチナ問題は、現代の宗教紛争の代表的な例である。ユダヤ教、キリスト教、イスラームの3宗教の聖地が集まるこの地域で、宗教が紛争の中でどのような役割を果たしてきたかを見る。
10	アメリカ保守派キリスト教、イスラーム過激派：信仰に基づく暴力	宗教紛争と呼ばれるものの大多数は宗教の教えに基づいてはいないが、宗教の教えや信仰に基づいて暴力的な行動を取る人々もいる。ここではキリスト教とイスラームにおけるそのような例を見る。
11	日本：日本の「宗教」と戦争	日本人は宗教を持たないから紛争が起きにくいと考える人もいるが、日本社会には現在も宗教が深く根付いている。日本における宗教の姿を見ながら、宗教が第二次世界大戦前や戦中の日本で果たした役割を見る。

12	ウクライナ戦争と宗教	現在、私たちにとって身近な戦争であるウクライナ戦争は一般的には宗教紛争と考えられていないが、そこでも宗教が果たしている役割はある。今まで学んだことをベースに、ウクライナ戦争の背景にある宗教を見る。
13	宗教と平和：平和構築のために宗教ができること	世界のほとんどの宗教は、その教えの中に平和を求める姿勢を持っている。学期を通して宗教が紛争の中で果たす役割を見てきた今、宗教が平和構築のために果たせる役割を考える。
14	試験・まとめと解説	予習、講義ノート、リアクションペーパーへのフィードバックを見直し、学んできたことを振り返り準備し、期末試験を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とします。
準備：設定されたテーマについて調べ自分の考えを加えた予習課題を書く（3時間）
復習：授業の内容をまとめ、期末試験に備える（1時間）
Approximately 4 hours of total work is required before and after each class.
Before class: Answer the assignment topics and submit the pre-class assignment. (3 hours)
After class: Review the notes and prepare for the final exam. (1 hour)

【テキスト（教科書）】
なし（必用な資料は授業で配布）

【参考書】
なし（授業時に紹介）

【成績評価の方法と基準】
予習課題：30％
リアクションペーパー：20％
期末試験：50％
*講義で提起された問題を理解したか、それについて自分の考えを持てているかを評価の基準とする。
Pre-class assignments: 30%
In-class reaction papers: 20%
Final exam: 50%
* Grades will be based on the level of understanding of the issues raised in the lectures and the students' own thoughts on them.

【学生の意見等からの気づき】
学生へのフィードバックを明確にし、目標とする成績を達成するために必要なことをわかりやすくする。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
Religion might seem foreign to those who do not believe in it. When religion is involved in conflicts and wars, it is often seen as the source of those conflicts and violence. However, this view is usually misleading, based on a very narrow and biased definition of religion. Moreover, religion plays a vital role in supporting people and communities. The purpose of this class is to deepen students' understanding of religion through cases of so-called religious conflicts or confrontations.
[Goal]
・To be able to answer the question "What is religion?" in the students' own words
・To be able to have a deeper understanding of the relation between religion and conflict
・To deepen your understanding of people of faith around the world
・To be able to see religion as something that exists in the society we live in
[Works to be done outside of class]
Approximately 4 hours of total work is required before and after each class.
Before class: Read the distributed materials and submit the pre-class assignment. (3 hours)
After class: Review the notes and prepare for the final exam. (1 hour)
[Grading Criteria]
Pre-class assignments: 30%
In-class reaction papers: 20%
Final exam: 50%
* Grades will be based on the level of understanding of the issues raised in the lectures and the students' own thoughts on them.

PLN100LC（地球惑星科学 / Earth and planetary science 100）

地学基礎

辻　忠恭

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、天体の運動や大気の運動など、宇宙・気圏・水圏・固体地球における地球に係わる諸現象について、動画や簡単な実験も交えながら学び、各現象の要因となる基本原理・基本法則を理解し、日常生活でみられる地学的諸現象に関する学習を通して、科学的な見方や考え方を養う。
加え、SDGs（Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）に関わる、気候変動、水質汚濁などにも触れ、地球環境のために自ら行動できる知識を身につけることを目指す。

【到達目標】
・恒星や惑星、銀河の特徴を理解し、説明することができる。
・日常生活に関わる地学的諸現象に関心を持ち現象と発生メカニズムについて説明ができる。
・SDGsに関わる環境問題の課題や災害を理解し、主体的に対応するための知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式による授業を基本として進める。適宜、動画資料も使用し理解を深める。
各回実施のリアクションペーパーより疑問点を取り上げ、次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地学とはなにか？	地学とはなにか？
第2回	宇宙における地球1	宇宙の誕生と銀河
第3回	宇宙における地球2	太陽系と太陽と月
第4回	大気中に起る現象1	大気と大気放射と地球温暖化
第5回	大気中に起る現象2	気圧と風
第6回	大気中に起る現象3	大気汚染
第7回	大気中に起る現象4	雲と降水
第8回	大気中に起る現象5	酸性雨と集中豪雨
第9回	天気の現象1	天気の変化
第10回	天気の現象2	台風と竜巻
第11回	大気と海洋1	大気大循環と世界の気候区分
第12回	大気と海洋2	海水の運動と水質汚濁
第13回	活動する地球	地形と地震と防災
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
前回の授業内容を理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
田淵 洋編著「自然環境の生い立ち(第3版) − 第四紀と現在 − 」朝倉書店
水越允治・山下脩二「気候学入門」古今書院
福岡義隆「人間的尺度の地球環境」古今書院

【成績評価の方法と基準】
試験に加え、平常点として授業中の参加の度合、貢献度を考慮し、総合的に判断する。
※試験80％,平常点（授業参加の姿勢，リアクションペーパーの内容等）20％

【学生の意見等からの気づき】
好評の身近にある現象についての気付きや、知的興味を満たし新しい発見がある内容をとりあげることについては、引き続き踏襲する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
We will learn various phenomena related to the earth in the space, atmosphere, hydrosphere, geosphere, such as planetary motion and atmospheric circulation.
And We will understand the basic principles and basic rules that are the factors.
In addition, We will learn climate change, water pollution, etc. related to SDGs (Sustainable Development Goals) and aim to acquire knowledge that will enable us to take action for the global environment.
【Learning Objectives】
・We will understand the characteristics of stars, planets, and galaxies.
・We will being interested in various phenomena related to daily life and being able to explain the phenomena and the mechanism of phenomenon occurrence.
・We will acquire knowledge that can respond to environmental issues related to SDGs, and disasters.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term end examination: 80% 、in class contribution: 20%

PLN100LC（地球惑星科学 / Earth and planetary science 100）

地学基礎

辻　忠恭

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、天体の運動や大気の運動など、宇宙・気圏・水圏・固体地球における地球に係わる諸現象について、動画や簡単な実験も交えながら学び、各現象の要因となる基本原理・基本法則を理解し、日常生活でみられる地学的諸現象に関する学習を通して、科学的な見方や考え方を養う。
加え、SDGs（Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）に関わる、気候変動、水質汚濁などにも触れ、地球環境のために自ら行動できる知識を身につけることを目指す。

【到達目標】
・恒星や惑星、銀河の特徴を理解し、説明することができる。
・日常生活に関わる地学的諸現象に関心を持ち現象と発生メカニズムについて説明ができる。
・SDGsに関わる環境問題の課題や災害を理解し、主体的に対応するための知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式による授業を基本として進める。適宜、動画資料も使用し理解を深める。
各回実施のリアクションペーパーより疑問点を取り上げ、次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地学とはなにか？	地学とはなにか？
第2回	宇宙における地球1	宇宙の誕生と銀河
第3回	宇宙における地球2	太陽系と太陽と月
第4回	大気中に起る現象1	大気と大気放射と地球温暖化
第5回	大気中に起る現象2	気圧と風
第6回	大気中に起る現象3	大気汚染
第7回	大気中に起る現象4	雲と降水
第8回	大気中に起る現象5	酸性雨と集中豪雨
第9回	天気の現象1	天気の変化
第10回	天気の現象2	台風と竜巻
第11回	大気と海洋1	大気大循環と世界の気候区分
第12回	大気と海洋2	海水の運動と水質汚濁
第13回	活動する地球	地形と地震と防災
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
前回の授業内容を理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
田淵 洋編著「自然環境の生い立ち(第3版) − 第四紀と現在 − 」朝倉書店
水越允治・山下脩二「気候学入門」古今書院
福岡義隆「人間的尺度の地球環境」古今書院

【成績評価の方法と基準】
試験に加え、平常点として授業中の参加の度合、貢献度を考慮し、総合的に判断する。
※試験80％,平常点（授業参加の姿勢，リアクションペーパーの内容等）20％

【学生の意見等からの気づき】
好評の身近にある現象についての気付きや、知的興味を満たし新しい発見がある内容をとりあげることについては、引き続き踏襲する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
We will learn various phenomena related to the earth in the space, atmosphere, hydrosphere, geosphere, such as planetary motion and atmospheric circulation.
And We will understand the basic principles and basic rules that are the factors.
In addition, We will learn climate change, water pollution, etc. related to SDGs (Sustainable Development Goals) and aim to acquire knowledge that will enable us to take action for the global environment.
【Learning Objectives】
・We will understand the characteristics of stars, planets, and galaxies.
・We will being interested in various phenomena related to daily life and being able to explain the phenomena and the mechanism of phenomenon occurrence.
・We will acquire knowledge that can respond to environmental issues related to SDGs, and disasters.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term end examination: 80% 、in class contribution: 20%

BSC100LC（基礎化学 / Basic chemistry 100）

入門化学

田　艶

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，化学の基礎知識および基本的な考え方を学ぶ。
特に高校時代に化学を履修していなかったり，理解が十分でなかった学生を対象とする。

【到達目標】
化学の基本的な概念や原理に関する基礎知識を確実なものとし，根拠を伴って化学物質の構造や性質，化学反応性を理解し，推測・説明できる力を養う。特に高校時代に化学を履修していなかったり，理解が十分でなかった学生を対象とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義では，入門化学として，化学に関する基本的な概念を体系的に概説する。講義と演習を組み合わせることによって，基本的な概念や原理の理解を深め，根拠を伴って化学物質の構造や性質，化学反応性を理解し，推測・説明できる力を養う。課題等の提出・フィードバックは，「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	化学と物質，物質の分類，分離と精製，成分の検出，測定及び測定データの扱い
第2回	物質の構成粒子Ⅰ	原子の構造，元素周期表，物質量，原子量，分子量
第3回	物質の構成粒子Ⅱ	電子配置，電子軌道，エネルギー準位
第4回	化学結合Ⅰ	イオン結合とイオン結晶、イオン化エネルギー、電子親和力、格子エネルギー、金属結合と金属結晶
第5回	化学結合Ⅱ	共有結合と共有結合結晶、配位結合、分子間力、水素結合、分子結晶
第6回	物質の状態	熱運動と物質の三態、気液平衡と蒸気圧、状態図、気体の性質
第7回	反応速度	反応速度とその表し方，反応速度に影響する因子，活性化エネルギー，触媒
第8回	化学反応と熱・光エネルギー	反応熱、熱化学反応式、ヘスの法則
第9回	酸化と還元Ⅰ	酸化と還元の定義，酸化数，酸化還元反応式，イオン化傾向
第10回	酸化と還元Ⅱ	電池、電気分解、腐食
第11回	酸と塩基Ⅰ	酸と塩基、pH、酸と塩基の強さ
第12回	酸と塩基Ⅱ	中和滴定、緩衝作用
第13回	無機物質	非金属元素 典型金属元素 遷移元素
第14回	まとめ	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は,4時間を標準とする】
第1回目：予習なし。授業内容の復習と演習問題
第2回目～第14回目：参考資料及び配布資料等による予習，授業内容の復習と演習問題

【テキスト（教科書）】
すでに持っている教科書や図書館の蔵書を最大限に利用していただくため，テキストは特に指定しない。

【参考書】
高校「化学基礎」及び「化学」
マクマリー一般化学(上，下)
その他、授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
課題　100％
（毎回の授業後に課題を配布し，その完成度によって評価する）

【学生の意見等からの気づき】
授業内容や難易度に等についてアンケートを実施し，要望に応じて随時調整する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the basic concepts in chemistry to students taking this course.
Learning Objectives: The goals of this course are to understanding essential concept of chemistry.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination (50%), Short reports and in class contribution (50%)
Term-end examination (50%), Short reports and in class contribution (50%)

BLS100LC（生物科学 / Biological science 100）

入門生物学

齋藤　理佳

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の概要としては、「講義者・受講者・受講内容」が密接につながった授業を展開することにより「生きた授業」を実践する。
目的としては、この授業によって基礎生物科学の基本的な概念や原理をもとに育成された科学的自然観を、新たなる自分の知識として広げていくこと。
特に高校時代に生物を履修していなかったり、理解が十分でなかった学生を対象とする。

【到達目標】
講義は、（1）生命の多様性、（2）生命の基本単位である細胞、（3）遺伝子　（4）人間の形態と機能　の4本立てで行う。（1）及び（2）においては、生命とはなにか、また体細胞や生殖細胞だけでなはく、幹細胞、そして癌細胞の特質が説明できる。さらにこれらの細胞と人間の健康を紐付けて説明できる。一方、（3）においては、遺伝子やDNAを中心に学ぶ。ヒト－細胞ー核ー染色体ーDNAー遺伝子の関係を理解できる。さらに遺伝の基礎を説明できる。（4）においては、神経系や感覚系、血液循環や生体防御などの「マクロ」分野を学び、私たちの持っている身体の機能の特徴が理解できることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業は進める。パワーポイントと書画/黒板を使用し、必要であれば講義内容のさらなる理解度アップのための授業も取り入れる。また、学習支援システムを通じて行うこともあるがその場合には小テストを提出してもらい、提出翌週の講義の冒頭において正解を提示するとともに解説も併せフィードバックを行う。これにより、さらに理解を深めてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生命と自然科学	生物(動物,植物,細菌)の共有する特徴とは？ 細菌とは？ ウイルスとは？
2	化学的構成部品、エネルギーと酵素	生物を構成する基本物質とは？ 酵素のはたらき
3	細胞:生物の基本単位ー細胞の構造と区画ー	細胞をグルーピングすると？
4	細胞:生物の基本単位ー幹細胞と癌細胞ー	幹細胞とは？　：未分化な細胞(ES細胞,IPS細胞,体性幹細胞,臍帯血幹細胞) がん細胞とは？　：増殖がコントロールできない細胞
5	遺伝子ーDNAの構造ー	DNAとは？　遺伝子とは？　染色体とは？
6	遺伝子ーDNAの複製と損傷ー	DNA複製及びDNA複製エラーについて 損傷したDNAの修復について
7	遺伝子ー遺伝子からタンパク質へ①ー	遺伝子の働きについて
8	遺伝子ー遺伝子からタンパク質へ②ー	突然変異のメカニズム
9	遺伝子ーDNAテクノロジーー	DNAテクノロジーの素晴らしき新世界
10	遺伝ー遺伝の様式ー	遺伝子が生物の遺伝的形質を決める メンデルの法則
11	遺伝ー染色体とヒトの遺伝学ー	ヒトの身近な遺伝について
12	神経系と感覚系-神経と感覚の伝わり方-	神経と感覚の伝わり方
13	神経系と感覚系-神経系の構造と機能-	中枢神経系と末梢神経系の構造と機能について
14	生殖ー植物と動物の生殖ー	植物及び動物の有性生殖について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
各時間の講義の予習として、毎時間ごとの講義テーマに関する項目を予め参考書類などで調べておくこと。
また復習としては、毎時間ごとに授業中に配布したプリント、power pointとともに重要ポイントをまとめるので、それらについて理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。
こちらからプリントを配布する。

【参考書】
1） ケイン生物学
M.Cain/H.Damman/R.Lue/C.Yoon 原著　石川統監訳　東京化学同人
2）Essential細胞分子生物学原著第3版
B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一（翻訳）南江堂
3） Essential Cell Biology 4th edition原著第4版
B.Alberts et al.(著)、Garland Science
4）The cell 細胞の分子生物学原著第5版
B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一（翻訳）ニュ

【成績評価の方法と基準】
授業評価アンケートの指摘に応じ講義内容や講義レベル、講義形式および配布資料などを適宜修正する
成績評価については、上記（1）～（4）までのテーマ及び最新の基礎生物科学において講義中に話した内容を十分に理解できたかどうか、さらに自分自身の知識としてどれだけ身に着いたかを評価基準とする。具体的には授業にどれだけ熱意を持って取り組んでいるかを含む平常点及び授業内課題併せて30%、期末試験70%とする。

【学生の意見等からの気づき】
全体的に授業の進行スピードが速めなので、その度ごとにみなさんの様子をみながらひとつひとつ理解できているか否かを確認しつつ、場合によっては進行スピードの速度をゆっくりに切り替えることにより、きめ細かい授業を展開したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
生物学の基礎を固める授業をベースに展開していきますが、
その際に、本教員はヒトの幹細胞を用いて、ヒトのがん遺伝子の研究を行っている研究者であるので、細胞についても体細胞や生殖細胞のみならず、幹細胞やがん細胞についても少々含めつつ、各種遺伝子のはたらきについて、さらにヒトの遺伝学まで幅広い話を展開する予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic biological sciences is the study of all living things — from bacteria to plants to animals — and their relationship to their environments. This class study the structure and function of cells, organ systems, and tissues in animals and plants.
【Learning Objectives】
You learn about physiology, behavior, genetics and heredity, pharmacology. This class provides a foundation of understanding in the basic biological sciences.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report and/or in-class contribution(30%), term-end examination (70%).

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

入門数学

高木　悟

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎学力を拡充しつつ，微分積分学（及び）演習Ⅰをフォローする講義・演習です．
高校数学の復習から始め，上述講義の進度に合わせて演習，解説を行います．

【到達目標】
高校で習う微分法の復習から始め，逆三角関数や陰関数の理解をし，極限値や導関数，偏導関数などの計算能力を高めることを目標とします．さらにそれを用いて工学に応用するための基礎を勉強します．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前半に単元の説明をし，後半に演習をします．自ら積極的に問題を解くことが要求されます．最後に課題を出し，理解度を確認します．
授業では，スクリーンに教員のipadの画面を投影し，書き込みながら説明するので，スクリーンの見やすい席に座るいいでしょう（自由席）．
レビューシートに書かれた内容は，個人情報を除外した上で紹介し，全受講生にフィードバックします．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	三角関数	三角関数の復習をし，問題演習します．
2	数列の極限	実数と数列の極限について解説し，問題演習します．
3	関数の極限と連続関数	関数の極限と連続関数について解説し，問題演習します．
4	導関数（１）	導関数の定義，導関数の公式，三角関数・指数関数の導関数について解説し，問題演習します．
5	逆三角関数	逆三角関数と逆三角関数の導関数について解説し，問題演習します．
6	導関数（２）	双曲線関数，対数微分法，媒介変数表示について解説し，問題演習します．
7	平均値の定理とその応用	極値，平均値の定理，ロピタルの定理について解説し，問題演習します．
8	テイラーの定理	高次導関数とテイラーの定理について解説し，問題演習します．
9	テイラー級数	近似式と誤差の評価，テイラー級数展開，オイラーの公式について解説し，問題演習します．
10	テイラーの定理の応用	極値，微分とグラフの凹凸，増減表について解説し，問題演習します．
11	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフについて解説し，問題演習します．
12	偏微分	偏微分係数，偏導関数，高階偏導関数について解説し，問題演習します．
13	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式，線形近似と接平面，全微分について解説し，問題演習します．
14	2変数関数の極値	合成関数の第2次導関数，2変数のテイラーの定理，2変数関数の極値について解説し，問題演習します．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房（2016年）2300 円+税

【参考書】
(1)「理工系のための基礎数学 [改訂増補版]」培風館 (2020)
(2)「解析をまなぶ」共立出版 (2026)
(3)「理工系のための微分積分 [改訂版]」培風館 (2023)

【成績評価の方法と基準】
到達目標を達成できているかどうか，授業時の課題（70%）とレビューシート（30%）で評価する．期末試験は実施しない．
授業時に実施の課題は，各回10点満点で採点する．自身の課題の平均点（課題未提出は0点として平均点を算出する）を７倍したものを，課題の得点とする（70点満点）．
レビューシートは，条件を満たしたレビューシートを期限までに提出することにより，授業１回につき15/7点を与える（授業は全部で14回あるので，合計30点満点となる）．
課題の得点とレビューシートの得点を合計し，その小数点以下を切り捨てた整数を成績評価に用いる．

【学生の意見等からの気づき】
レビューシートを用いて，微分積分学（及び）演習Ⅰの授業で理解できていない項目をヒアリングし，それを次回の授業時にフォローする．

【その他の重要事項】
同時に微分積分学（及び）演習Ⅰを履修すること．
授業に関する連絡は「学習支援システム」のお知らせに掲載するので，こまめにチェックすること．

【Outline (in English)】
The main object is to support the student could understand fundamental properties of Calculus.
(Goal)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
2) Inverse triangular functions and their derivative
3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
4) Taylor series expansion
5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Assignments 70%, Review sheets 30%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎Ⅰ

小鍋　哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。本講義では、物理学の中でも特に基礎的な分野である、力学と熱力学について学ぶ。力学は、力と運動に関する学問であり、物理学で必要な思考法や数学的技術を多く含んでいる。一方、熱力学は、熱に関する学問であり、車を動かす動力や気象現象を理解するには無くてはならない。古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の３法則とその応用を学ぶ。

【到達目標】
・力学では、力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。
・熱力学では、熱と温度の関係、分子運動と熱との関係、熱力学の法則について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物理学概論序論	微積分とベクトルを用いて運動を表現する方法を学ぶ
2	質点の運動学	速度と加速度
3	質点の力学	運動の法則
4	質点の運動(1)	自由落下、粘性抵抗力のもとでの落下運動
5	質点の運動(2)	単振動
6	質点の運動(3)	減衰振動と強制振動
7	質点系の力学	重心の運動
8	演習	力学の演習
9	熱と温度(1)	熱平衡状態と温度
10	熱と温度(2)	経験温度と熱力学的温度
11	熱と温度(3)	気体の分子運動論
12	熱力学(1)	熱力学第一法則
13	熱力学(2)	熱力学第二法則
14	演習	熱力学の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
「物理学」　小出昭一郎　裳華房。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト(50%)、レポート点(30%)、授業への積極的な貢献度(出席など)(20%)を目安として総合的に成績評価を行う。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】
講義ノートを配布することで理解が深まったとのことなので、今年度も講義ノートを学習支援システムで公開する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course introduces classical mechanics and thermodynamcis, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, conservation of energy, 1st law of thermodynamics and 2nd law of thermodynamics.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to understand the basics of mechanics and thermodynamics described above.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、in class contribution: 20%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

物理学基礎ＩＩ

小鍋　哲

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、光学と電磁気学について学ぶ。光学は、光の学問であり我々の身の回りにあるレーザーや画像処理技術などの基礎となっている。講義では、光の反射、屈折、干渉など光の波としての様々な性質を説明する。電磁気学は、電気・磁気現象に関する学問であり、携帯電話や非接触ICカードの基礎となっている。講義では、電磁気現象の基本である電場、電位、静電容量や電場のエネルギー、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について説明する。

【到達目標】
生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	光学(1)	光の性質について学ぶ
2	光学(2)	光の反射と屈折について学ぶ
3	光学(3)	光の干渉について学ぶ
4	電場(1)	クーロンの法則について学ぶ
5	電場2)	電場と電位について学ぶ
6	電場(3)	静電容量と電場のエネルギーについて学ぶ
7	電流(1)	オームの法則について学ぶ
8	電流(2)	キルヒホッフの法則について学ぶ
9	電流(3)	電流と磁場について学ぶ
10	電流(4)	電流に働く力について学ぶ
11	電磁誘導	ファラデーの法則について学ぶ
12	電磁波	マクスウェル方程式について学ぶ
13	演習	電磁気学の演習について学ぶ
14	量子力学	光量子仮説と量子力学の誕生について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
「物理学」　小出昭一郎　裳華房。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト(50%)、レポート点(30%)、授業への積極的な貢献度(出席など)(20%)を目安として総合的に成績評価を行う。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】
講義ノートを配布することで理解が深まったとのことなので、今年度も講義ノートを学習支援システムで公開する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course introduces electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to understand the basics of electromagnetism described above.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、in class contribution: 20%.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

入門物理学

鈴木　健夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学は自然科学や工学の基礎である。この授業では力学を中心に物理現象の原理を理解し、自ら考え作業することを通じて物理の基本的な概念・法則を身に着け、それを応用して自然科学の諸現象を理解する力を養い、物理的思考法・科学的思考法を身につけることを目標とする。特に高校時代に物理を履修していなかったり、理解が十分でなかった学生を対象とする。

【到達目標】
・運動の分析（速度・加速度、x-tグラフ・v-tグラフの理解）。
・力の理解（つり合い、力のベクトル性、作用反作用の法則）。
・運動方程式を典型的な例（等加速度直線運動、等速円運動、単振動）に適用し使いこなせるようにする。
・万有引力、運動量と力積、運動量保存則の理解。
・仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存則について概念を理解し、基礎的な問題に適用できるようにする。
・波動、音、光について基本的な内容のいくつかについて理解を深める。
上記の諸項目についてその概念を取り囲む背景を踏まえてその数学的記述（グラフ化、数式化）ができるようにする。微積分など数学的な手法は必要に応じて使い、高校から大学への移行が自然に行われるように進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義と内容に沿った実験、実習を組み合わせて授業を進める。相互作用型演示実験講義(ILDs)である。学習内容をもとに実験結果を個人で予想し、グループで討論した上で実験結果を確認する。さらに演習問題に取り組み理解を深めた上で確認テストにより理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、運動の分析	ガイダンス ・物理量と単位、単位の換算 ・運動の分析（速度・加速度） ・x-tグラフ、v-tグラフ ・斜面上の物体の運動 ・等速直線運動
2	等加速度直線運動、落体の運動	・等加速度直線運動の公式 ・自由落下 ・ボイスメモを使った自由落下時間の測定実験（授業内） ・鉛直投射、斜方投射
3	落体の運動の実験、重力加速度、静力学	・加速度センサーを用いた重力加速度の測定実験（授業内及び課題） ・力のつりあい ・作用反作用
4	運動の法則、運動方程式の応用	・力と加速度、運動の法則 ・運動方程式
5	様々な力、仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存の法則	・摩擦力、弾性力 ・仕事の原理 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギー保存の法則
6	円運動と慣性力	・等速円運動 ・向心力 ・慣性力
7	単振動	・単振動の周期・振動数 ・単振動の速度加速度 ・ばね振り子、単振り子 ・課題：単振り子の実験
8	万有引力	・ケプラーの法則 ・万有引力の法則 ・人工衛星
9	運動量と力積	・運動量と力積の定義 ・運動量保存の法則 ・反発係数 ・反発係数の測定実験（授業内）
10	波動Ⅰ（波の一般論）	・波の表現 ・横波、縦波 ・重ね合わせの原理 ・波の独立性 ・定常波
11	波動Ⅱ（干渉、音波）	・波の干渉 ・反射、屈折 ・音波の特徴 ・うなり ・ドップラー効果
12	波動Ⅲ（光）	・光波の特徴 ・光の屈折 ・光の干渉 ・回折格子による分光器の製作と実験（授業内と課題）
13	波動Ⅳ（光の性質）	・CDによる分光の実験（授業内） ・偏光 ・レンズの法則
14	波動Ⅴ（光の性質２） 総論・まとめ	・光の散乱 ・電磁波としての光 ・学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】準備では授業計画に示されたテーマについて教科書に目を通す、復習では授業中に行った問題演習を見直し理解が浅い部分を集中的に学習する。毎回の予習復習の時間は、4時間以上を想定している。翌週の授業開始時に前回の学習内容の確認テストを行う。また、3回程度課題が出る。これにかかる時間はそれぞれ最低4時間を想定している。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
高校物理基礎、物理の教科書（数研出版など）。持っていない場合は生協等で購入。

【成績評価の方法と基準】
試験（50％）、毎時間ごとの振り返り・確認テスト（30％）、課題(20％)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
履修後に最後まで続けられない学生が出るため、学生の参加による相互討論などを増やし、学生の主体的な取り組みを強め、基本的な概念の定着を図る。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォン
電卓、ストップウォッチ(スマートフォンの電卓、ストップウォッチの機能でよい。)

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire essential concepts and laws of physics through thinking and working,and students will understand various phenomena of natural science with their concepts and laws.This course is especially aimed at students who didn't take physics in high school or didn't understand it well enough.
【Learning Objectives】
By the end of this course,students should be able to do the followings:
-Understanding motion analysis.　i.e.velocity,acceleration,and their graphs
-Understanding balance of force,and law of action and reaction
-Applying equation of motion on uniform acceleration linear motion,uniform circular motion,and simple harmonic oscillation
-Understanding momentum and impulse,conservation of momentum
-Understanding work and energy,conservation of mechanical energy
-Understanding basic concepts of wave motion,sound,light
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting,students will be expected to have read the indicated chapters from the text.After each class meeting,students will be expected to have completed the required assignment.Your study time will be more than four hours for a class.At the start of the next week class,a test will be given to confirm what was learned last week.Students will be tasked assignment report about 4 times.Your study time for this will be more than four hours for each report.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination:50% Reflection card and Confirmation test for each class meeting:30%
Assignment report:20%

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物学基礎Ⅰ

清水　隆

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、生物学研究は急速に進歩し、社会にも大きな影響を与えています。本講義では、複雑な生命活動を理解するための基礎知識を身につけ、今後の研究や社会活動に生かしていくことを目的とします。また、生物学の発展に尽力した人物を取り上げ、その功績を掘り下げます。

【到達目標】
本講義は高校で生物学を履修してこなかった学生や、生物学が苦手だった学生を主な対象とします。今後の他講義を理解したり、卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識を身につけます。そのために、毎回の小テストでは基本語句を習得し、講義内の演習や提出課題では、講義内容をより深く理解し自分の言葉で記述する力を獲得します。期間内に２回実施するまとめ試験で到達度を確認します。講義中は内容をノートにまとめることが要求されます。前期（生物学基礎Ⅰ）では生物学の基本、生物学史、細胞学、遺伝学を中心に進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
「生物学基礎Ⅰ」と「生物学基礎Ⅱ」を通年で受講することが望ましいです。毎回の講義開始時に、前回の講義内容に関する用語チェックを実施します。講義中には、適宜演習時間を設け、提出課題が課せられます。さらに２回のまとめ試験を加えて成績を評価します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生命とは何か（序章） 生物学の基本（１章）	授業内容の説明および評価方法 生物学の歴史と方法　生物の多様性・共通性・階層性　遺伝学の基礎
2	細胞：生物の基本単位（２章）	細胞を見る技術　細胞を構成する物質
3	オルガネラ（２章）	細胞小器官の機能　細胞膜の構造と機能
4	恒常性（２章）	生体の内部環境を安定に保つしくみ
5	生体を構成する分子１（３章）	核酸の種類と構造
6	生体を構成する分子２（３章）	タンパク質の構造と機能
7	生体を構成する分子３（３章）	糖の種類と構造
8	生体を構成する分子４（３章） 中間試験	脂質の構造 前期前半の理解到達度判定
9	遺伝１（５章）	中間試験の解説と講評 遺伝子としてのDNA
10	遺伝２（５章）	遺伝情報の転写と翻訳
11	遺伝３（５章）	遺伝子発現制御　細胞の形態維持と運動
12	代謝１（４章）	触媒としての酵素　エネルギーの循環
13	代謝２（４章）	呼吸　エネルギー産生
14	代謝３（４章） 現代生物学の最前線１	光合成　代謝経路のネットワーク　ゲノム編集作物の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
① 予習：教科書の指示された部分を読んでおくこと
最近の科学ニュースについて自分の意見をまとめておくこと
② 復習：重要用語をまとめ、次回小テストの準備をすること
③ 提出課題

【テキスト（教科書）】
「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学　第５版」和田勝　羊土社　2025　3400円

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
① 用語チェック（10 %）　② 提出課題（10 %）　③ まとめ試験（２回で80 %）

【学生の意見等からの気づき】
授業の難易度、レジュメの見やすさなどについては、学生からの意見を適宜取り入れて改善してきました。また、「基礎事項の復習に役立った」「生物学に対する興味が深まった」との評価がありました。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
In recent years, biological research has advanced rapidly and has great influence on society as well. In this lecture, we aim to acquire basic knowledge to understand complicated life activities, and make use of it in future research and social activities. Also, the person who contributed to the development of biology will be taken up and we will learn about their achievements.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

生物学基礎ＩＩ

清水　隆

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、生物学研究は急速に進歩し、社会にも大きな影響を与えています。本講義では、複雑な生命活動を理解するための基礎知識を身につけ、今後の研究や社会活動に生かしていくことを目的とします。また、生物学の発展に尽力した人物を取り上げ、その功績を掘り下げます。

【到達目標】
本講義は高校で生物学を履修してこなかった学生や、生物学が苦手だった学生を主な対象とします。今後の他講義を理解したり、卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識を身につけます。そのために、毎回の小テストでは基本語句を習得し、講義内の演習や提出課題では、講義内容をより深く理解し自分の言葉で記述する力を獲得します。期間内に２回実施するまとめ試験で到達度を確認します。講義中は内容をノートにまとめることが要求されます。後期（生物学基礎Ⅱ）では発生学、免疫学、生態学を中心に進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
「生物学基礎Ⅰ」と「生物学基礎Ⅱ」を通年で受講することが望ましいです。毎回の講義開始時に、前回の講義内容に関する用語集の作成をします。講義中には、適宜演習時間を設け、提出課題が課せられます。さらに２回のまとめ試験を加えて成績を評価します。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 多細胞生物への道（６章）	授業内容の説明および評価方法
2	細胞（６章）	原核生物と真核生物 細胞間の結合様式と役割
3	遺伝子１（６章）	細胞間の情報交換ホルモンの受容と遺伝子発現
4	遺伝子２（７章）	DNAの複製　突然変異
5	遺伝子３（７章）	原核生物における遺伝子発現制御
6	遺伝子４（８章）	真核生物における遺伝子発現制御
7	細胞分裂	細胞周期 がん治療の最前線
8	中間試験 生殖と発生１（８章）	後期前半の理解到達度判定 生殖細胞の形成　受精と卵割
9	生殖と発生２（８章）	オーガナイザーと胚葉分化、形態形成
10	個体を守る免疫１（９章）	非特異的生体防御　特異的生体防御
11	個体を守る免疫２（９章）	体液性免疫　細胞性免疫　性感染症の予防と対策
12	さまざまな疾病（10章） 個体としてのまとまり（11章）	細胞の老化と再生　早老症　寿命と遺伝子 血友病　コレラ　がん
13	進化（12章）	古生物学概論　進化のしくみ 生物多様性はなぜ重要か
14	遺伝子工学・細胞工学	再生医療の最前線

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
① 予習：教科書の指示された部分を読んでおくこと
最近の科学ニュースについて自分の意見をまとめておくこと
② 復習：重要用語をまとめること
③ 提出課題

【テキスト（教科書）】
「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学　第５版」和田勝　羊土社　2025　3400円

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
① 提出課題（20 %）　② まとめ試験（２回で80 %）

【学生の意見等からの気づき】
授業の難易度、レジュメの見やすさなどについては、学生からの意見を適宜取り入れて改善してきました。また、「基礎事項の復習に役立った」「生物学に対する興味が深まった」との評価がありました。

【Outline (in English)】
In recent years, biological research has advanced rapidly and has great influence on society as well. In this lecture, we aim to acquire basic knowledge to understand complicated life activities, and make use of it in future research and social activities. Also, the person who contributed to the development of biology will be taken up and we will learn about their achievements.

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

情報リテラシーと表現技術

若林　哲

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系レポートにふさわしい表現力や効果的なプレゼンテーションの仕方を習得する。

【到達目標】
理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、ワード・エクセル・パワーポイントを用いた効果的なレポート作成とインパクトのあるプレゼンテーションの仕方を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」。生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面講義と演習を行う。
ワード・エクセル・パワーポイントを用いたレポート作成演習を行う。この演習を通して、理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、効果的なプレゼンテーションについても学習する。提出課題については授業内でのフィードバックと個別フィードバックを適宜行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報リテラシーってなんだ？	情報リテラシーとは何についてを学ぶのか、情報モラルや情報セキュリティについて学ぶ。
第2回	ワードは便利？ それとも不便？	実際にWordを使ってできる便利な機能、日本語作成にとっては不便な部分を克服する方法を学ぶ。著作権や個人情報に関する理解を深める。
第3回	エクセルで文書作成？	表計算のツールでもあるExcelを使ってレポートの作成もできる可能性を探る。情報環境の近代史など情報に関して学ぶ。
第4回	ワードとエクセルでレポート作成！	文章設計や科学論文の書き方を学び、IoT機器の結果からレポートを作成する。
第5回	パワーポイントでプレゼン！	PowerPointを使ってどんなプレゼンができるのかチャレンジする。
第6回	エクセル演習	ピボットテーブルの使い方を学び、課題を用いて演習を行う。
第7回	パワーポイントにエクセルの表やグラフを組み込む	PowerPointのプレゼンにExcelで作成した表や動画・写真などをきれいに入れる技を習得する。情報セキュリティの時事ネタからどのような事に気をつけなければならないかを学ぶ。
第8回	レポートを作成しよう 【中間テスト】	実験データを提供し、その値を元に実験レポートをWordとExcelで作成する。 インターネットを用いて調査し、レポートをまとめる。後半は【中間テスト】
第9回	事例による個人情報と著作権	個人情報や著作権の取り扱い方法を学ぶ。情報セキュリティに関する事例を紹介し、対策などをグループ討議する。
第10回	マナーとモラルをもう一度	個人情報保護、著作権の侵害などの情報モラルや情報セキュリティに関する内容を改めて詳しく解説する。仮想卒業論文をネタにWordの使い方を演習する。
第11回	グラフの作成	Excelを使ったグラフ作成方法の基本と応用を習得する。自己PR資料を作成する。
第12回	困ったときにどうするか？	Officeの利用方法をインターネット検索で調べる方法のこつを学ぶ。仮想エントリーシートを作成して、自己アピールを作成する。
第13回	パワーポイント演習と実践	PowerPointを使ってプレゼン作成の演習。自己PRを例に良いプレゼントは何かを学ぶ。
第14回	授業時間内テスト	授業時間内で提示されたデータを元にOfficeで資料を作成する課題を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書は基本的に自習用となっており、事前に独習して進める。授業中は基本的な使い方は教科書で自習している前提で演習を行う。
講義資料は授業の数日前にHoppiiよりダウンロードできるように準備し、PDFで配布する。
演習課題は、残りを時間外に復習も兼ねて完成させ、レポートにまとめ期日までに提出する。

【テキスト（教科書）】
講義資料は授業の数日前にHoppiiよりダウンロードできるように準備し、PDFで配布する。
下記書籍を生協では準備してもらっている。
書籍名：30時間でマスター　Office2021
出版社：実教出版
定価　：本体1150円
ISBN　：978-4-407-35937-4

【参考書】
書籍名：サイエンス・ライティング入門
著者名：落合洋文
出版社：ナカニシヤ出版
定価　：本体1500円
ISBN978-4-7795-0139-5
書籍名：理科系の作文技術
著者名：木下是雄
出版社：中公新書
定価　：本体700円
ISBN4-12-100624-0
情報モラルや情報セキュリティの最新情報は下記のWebなどで収集して欲しい。
https://www.ipa.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
評価方法：　演習や課題の提出物(40%)、中間テスト(20%)、最終課題(20%)、授業内テスト(20%)で総合的に評価する。
評価基準：　本科目において設定した達成目標を60％以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
日本語に限らず、情報を発信するために必要な事柄を身につけて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
貸与されたノートパソコンまたはOfficeが使えるノートパソコン。

【その他の重要事項】
授業形態は大学からの指示に従い、対面が禁止されない限りは対面で実施の方向で考えています。
基本的にOfficeのアプリの基本的な使い方は教科書を読みながら自習して事前に進めておく事。授業内では自習でわからなかった部分の質問に対応する形とする。

【Outline (in English)】
[Course outline] Acquire the ability to express yourself appropriately for scientific and technical reports and how to give effective presentations.
[Learning Objectives] In this course, you will acquire the ability to express yourself appropriately for writing scientific and technical reports, and learn how to create effective reports and make impactful presentations using Microsoft Word, Excel, and PowerPoint.
[Learning outside of class hours] Approximately 4 hours of study is required for preparation and review for each class in order to understand the course content.
[Grading Criteria] Grades will be based on the following criteria and a score of 60% or above will be considered a pass.
< Exercises and assignment submissions: 40%, midterm exams: 20%, final assignments: 20%, in-class exams: 20%>

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

基礎ドイツ語コミュニケーション

高橋　完治

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近なテーマについて話す・聞く・読む・書く練習をする．ドイツ語コミュニケーション能力の基礎を身につけることが目的である．

【到達目標】
日常生活のなかでよく使われる平易な表現や言い回しを理解し，運用できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
どのテーマも，写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める．ビデオを観て，これをテーマへの導きとする場合もある．この導入部の後，手本となる会話を多角的に理解し，これをもとに，互いにインタビューをしたり紹介文を書いたり，班同士で情報を交換して隠れた事柄を見つけ出したりなど，さまざまな内容のペア作業やグループ作業を展開する．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Kontakte (1)	あいさつを交わす／名前を訊く・答える
2	Kontakte (2)	出身地を訊く・答える／ペアで簡単なDialogを作る
3	Kontakte (3)	国名に親しむ／duとSieの使い分けに慣れる
4	Kontakte (4)	「お元気ですか」の表現を使う／人を紹介する
5	Personalien (1)	名前のつづりを伝える／職業を訊く・答える
6	Personalien (2)	配偶関係・子供の有無について話す
7	Personalien (3)	居住地と年齢を訊き合う／人物の紹介文を書く
8	Familie (1)	家族のことを尋ねる・答える
9	Familie (2)	家族について簡単な記事を書く
10	Einkaufen, Möbel (1)	買い物をする時の表現を学ぶ／家具の値段を訊く・答える
11	Einkaufen, Möbel (2)	「すてきだ，モダンだ」など家具を評価する
12	Gegenstände, Produkte	身の回りの物の名を訊く／物を形容する言葉（色・形・素材）に親しむ
13	Wie viele ...?	物をいくつ持っているか，物がいくつ必要かを表現する
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，1時間を標準とする】
音声教材に繰り返し接し，発音の質や聞き取り能力の向上に努める．復習用の課題と取り組む．

【テキスト（教科書）】
Franz Specht u. a.: Menschen A1/1, Kursbuch. Hueber

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する．

【学生の意見等からの気づき】
ペア作業やグループ作業は，理解度やモティベーションの向上につながったようだ．

【Outline (in English)】
By developing the four skills of speaking, listening, reading, and writing, this German course aims to equip students with basic communicative abilities necessary for simple everyday situations. By the end of the course, students should be capable of understanding and using familiar everyday expressions and very basic phrases.
After each class meeting, students are expected to review the learning content, listen to the native speakers on audio, and practice speaking along with them. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be determined based on the usual performance score (60%) and the term-end examination (40%).

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

基礎ドイツ語コミュニケーション

高橋　完治

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語に初めて触れる学生諸君を対象とし，身近なテーマについて話す・聞く・読む・書く練習をする．ドイツ語コミュニケーション能力の基礎を身につけることが目的である．

【到達目標】
日常生活のなかでよく使われる平易な表現や言い回しを理解し，運用できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
どのテーマも，写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める．ビデオを観て，これをテーマへの導きとする場合もある．この導入部の後，手本となる会話を多角的に理解し，これをもとに，互いにインタビューをしたり紹介文を書いたり，班同士で情報を交換して隠れた事柄を見つけ出したりなど，さまざまな内容のペア作業やグループ作業を展開する．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Kontakte (1)	あいさつを交わす／名前を訊く・答える
2	Kontakte (2)	出身地を訊く・答える／ペアで簡単なDialogを作る
3	Kontakte (3)	国名に親しむ／duとSieの使い分けに慣れる
4	Kontakte (4)	「お元気ですか」の表現を使う／人を紹介する
5	Personalien (1)	名前のつづりを伝える／職業を訊く・答える
6	Personalien (2)	配偶関係・子供の有無について話す
7	Personalien (3)	居住地と年齢を訊き合う／人物の紹介文を書く
8	Familie (1)	家族のことを尋ねる・答える
9	Familie (2)	家族について簡単な記事を書く
10	Einkaufen, Möbel (1)	買い物をする時の表現を学ぶ／家具の値段を訊く・答える
11	Einkaufen, Möbel (2)	「すてきだ，モダンだ」など家具を評価する
12	Gegenstände, Produkte	身の回りの物の名を訊く／物を形容する言葉（色・形・素材）に親しむ
13	Wie viele ...?	物をいくつ持っているか，物がいくつ必要かを表現する
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，1時間を標準とする】
音声教材に繰り返し接し，発音の質や聞き取り能力の向上に努める．復習用の課題と取り組む．

【テキスト（教科書）】
Franz Specht u. a.: Menschen A1/1, Kursbuch. Hueber

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する．

【学生の意見等からの気づき】
練習のための練習にならないよう演習方法にさまざまな工夫を凝らしたことが功を奏し，学生諸君はドイツ語でやりとりすることを楽しいと感じたようだ．

【Outline (in English)】
This course is designed for students with no prior knowledge of the German language. It aims to equip students with basic communicative abilities needed in simple everyday situations by developing the four skills of speaking, listening, reading, and writing. By the end of the course, students should be able to understand and use familiar everyday expressions and very basic phrases.
After each class meeting, students are expected to review the learning content, listen to the native speakers on audio, and practice speaking along with them. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be determined based on the usual performance score (60%) and the term-end examination (40%).

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

中級ドイツ語リーディング

高橋　完治

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常のさまざまな場面との関連のもとに，ドイツ語読解能力の向上を図る．

【到達目標】
日常的なテーマについて書かれた平易なテクストの要点をつかむことができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
どのテーマも，写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める．ビデオを観て，これをテーマへの導きとする場合もある．この導入部の後，問いに答えるという仕方で，テクストの内容を大まかにあるいは細かく把握してゆく．この作業に付随する種々のタスクをこなすことで，語彙と文法事項の復習・拡充を図り，聴く能力と書く能力の強化もおこなう．テクストに対する質問を自分で作成して訊き合うなどのペア作業やグループ作業も織り交ぜる．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Vergangenes (1)	人物の過去の行動を叙述する
2	Vergangenes (2)	経験を語る
3	Beruf und Arbeit	経歴についてのメールを読み，質問を作成する
4	Wer ist der Täter?	複数の人物の供述を読んで比較し，虚偽を見つける
5	Arbeitsalltag	企業実習についてのブログを読む
6	Orte und Richtungen	通勤・通学についてのテクストを読む／場所・移動に関する前置詞について学ぶ
7	Briefe	手紙の書き方の基本を学ぶ／招待状を読んで返信を書く
8	Fit und gesund (1)	健康的な生活についての意見を読む／体調不良を訴える表現を学ぶ
9	Fit und gesund (2)	健康上の問題について助言する
10	Fit und gesund (3)	健康に関する広告を理解する／問い合わせのメールを書く
11	Wohnung (1)	居住空間についての意見を読む／住まいの広告を理解する
12	Wohnung (2)	どの部屋に何を置くのか，部屋のどこに何を置くのかを表現する／居住空間や家具を評価する
13	Wohnung (3)	ドイツのさまざまな住宅様式の長所と短所を整理する／自分の住まいを描写する
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，1時間を標準とする】
復習用の課題と取り組む．

【テキスト（教科書）】
Stefanie Dengler u.　a.: Netzwerk neu A1.2, Kurs- und Übungsbuch mit Audios und Videos. Ernst Klett Sprachen

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する．

【学生の意見等からの気づき】
理解度は高かったようだ．

【Outline (in English)】
This German course is designed to further improve students' reading skills in relation to everyday situations.　By the end of the course, students should be able to comprehend the main points of simple texts on familiar topics.
After each class meeting, students are expected to review the learning content. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be determined based on the usual performance score (60%) and the term-end examination (40%).

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

中級ドイツ語コミュニケーション

鈴木　淳子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本文法の習得とともにドイツ語によるコミュニケーション能力を養う.

【到達目標】
文法の知識をしっかり身に付けたうえで、それを適切に運用し、簡単な内容をドイツ語で表現できるようになる。読む・聞く・書く・話す力をバランスよく学習する。ドイツ語検定試験4級受験にも対応できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
文法の詳しい説明をした後、教科書の課題に取り組む。音読・対話を重視する。
折にふれて独検問題もしくはその模擬問題にも挑戦する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎ドイツ語コミュニケーションの学習内容の確認	L.1-4 (p.2-25)
2	前置詞の格変化	L.5 (p.26-27)
3	3・4格支配の前置詞	L.5 (p.26-27)
4	動詞・形容詞の前置詞支配、前置詞と人称代名詞・疑問代名詞の融合系	L.5 (p.28-31)
5	話法の助動詞 未来形	L.6 (p.32-33)
6	分離動詞 非分離動詞	L.6 (p.34-35)
7	接続詞	L.6 (p.34-35)
8	読みもの	L.6 (p.36-37)
9	独検問題	別プリント
10	動詞の3基本形 過去人称変化	L.7 (p.38-39)
11	過去人称変化（続）	L.7 (p.38-39)
12	現在完了形	L.7 (p.40-43)
13	現在完了形（続）	L.7 (p.40-43)
14	総復習	L.5-7 (p.26-43)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，1時間を標準とする】
授業の後、学習事項を振り返る。音読の他、音声教材も使って聞き取り能力を高める。

【テキスト（教科書）】
前田良三・高木葉子著『ドイツ語ナビゲーション 3.0』、朝日出版社

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70%）、平常点および授業態度（30%）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の多くがドイツおよびドイツ語に強い関心をもっているのが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve german communicative skills of students. They learn the basic grammer and then learn to use it properly in various situations. They practice hearing, reading, writing and speaking german language. This practice will be helpful to them when they take a certification examination [Diplom Deutsch].
After each class meeting, students will be expected to review the last lesson. The required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

中級ドイツ語コミュニケーション

高橋　完治

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語技能検定試験も視野に入れながら，下記のテーマについて話す・聞く・読む・書く練習をする．ドイツ語コミュニケーション能力の向上が目的である．

【到達目標】
日常生活に必要な表現や言い回しを理解し，運用できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
どのテーマも，写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める．ビデオを観て，これをテーマへの導きとする場合もある．この導入部の後，手本となる会話を多角的に理解し，これをもとに，互いにインタビューをしたりメールを書いたり，班同士で情報を交換して隠れた事柄を見つけ出したりなど，さまざまな内容のペア作業やグループ作業を展開する．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Freizeit (1)	「スキーは得意」「料理は苦手」など得手不得手を話す
2	Freizeit (2)	余暇活動について話す
3	Uhrzeiten	時刻を訊く・答える
4	Verabredungen	誘い・受諾・断りの表現を学ぶ
5	Ein Tag in Berlin	ベルリン見物の日程を組む
6	Essen und Trinken (1)	食料品の名前に親しむ
7	Essen und Trinken (2)	食習慣について話す
8	Essen und Trinken (3)	「おいしく召し上がれ」「コーヒーはいかが」など食卓で使う表現を学ぶ
9	Reisen, Verkehrsmittel (1)	交通機関の名称，乗車・降車の表現，駅や車内のアナウンスに親しむ
10	Reisen, Verkehrsmittel (2)	交通機関を利用する際に必要となる情報をやり取りする
11	Vergangenes (1)	過去の行動について話す
12	Feste	ドイツの祭りやイベントについて知る／地元の祭りについてドイツ語で質疑応答する
13	Vergangenes (2)	人物の行動を描写する／経験の有無を訊き合う
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，1時間を標準とする】
音声教材に繰り返し接し，発音の質や聞き取り能力の向上に努める．復習用の課題と取り組む．

【テキスト（教科書）】
Franz Specht u. a.: Menschen A1/1, Kursbuch. Hueber

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する．

【学生の意見等からの気づき】
ドイツ語でやりとりすることを大いに楽しんだようだ．

【Outline (in English)】
This German course aims to enhance students' speaking, listening, reading, and writing skills so that they can attain communicative competence at an intermediate level. The course also provides support for students preparing for the DDJ (Diplom Deutsch in Japan) tests. By the end of the course, students should be capable of understanding and using a broader range of everyday expressions and basic phrases.
After each class meeting, students are expected to review the learning content, listen to the native speakers on audio, and practice speaking along with them. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be determined based on the usual performance score (60%) and the term-end examination (40%).

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

中級ドイツ語ライティング

高橋　完治

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常のさまざまな場面との関連のもとに，ドイツ語で書く力を向上させる．

【到達目標】
日常的な事柄に関する平易で短い文章（たとえば祭りや街の紹介文，旅の思い出話など）を，文法的に正確なドイツ語で書くことができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
視聴覚資料を活用するなどしてテーマと取り組み易くしたうえで，語彙や文法事項を復習・拡充し，テクストを書き換える，ひな形に沿って書く，ペアでやり取りするなど，さまざまなタスクをこなしてゆく．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Jobsuche (1)	仕事を得るに至った経緯が書かれたテクストを読み，内容をドイツ語で纏める／求人広告を理解する
2	Jobsuche (2)	求人について電話で照会するためのひな型を学ぶ
3	Jobsuche (3)	経歴を書く
4	Telefonieren	ビジネス電話でよく使われる表現を学ぶ
5	Feste und Arbeit	ドイツの祭りとそこで働く人々について書かれた記事を読む／地元の祭りを紹介するテクストを書く
6	Kleidung (1)	衣服に関する表現を学ぶ／〈どの～？〉〈この～〉を言い表す
7	Kleidung (2)	服装を描写する
8	Im Kaufhaus	デパートのどこで何が買えるのかを訊く・教える
9	Berlin	ベルリンについて書かれた記事を読む／街を紹介するテクストを書く
10	Städtereise (1)	ホテルの受付でチェックインする際の表現を学ぶ
11	Städtereise (2)	旅先での行動を順序立てて述べる／旅の思い出話を読み，内容について問いを作成する
12	Städtereise (3)	旅の思い出話を創作する
13	Wetter / Reiseziele	天気を言い表す／ドイツ人の好む観光地とそこでの行動について書かれた記事を読む／日本人の好む観光地とそこでの行動について書く
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，1時間を標準とする】
復習用の課題と取り組む．

【テキスト（教科書）】
Stefanie Dengler u.　a.: Netzwerk neu A1.2, Kurs- und Übungsbuch mit Audios und Videos. Ernst Klett Sprachen

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する．

【学生の意見等からの気づき】
理解度は高かったようだ．

【Outline (in English)】
This German course is designed to further enhance students' writing skills in everyday situations. By the end of the course, students should be capable of composing short and simple texts in grammatically correct German on familiar topics, such as descriptions of festivals and cities, as well as travel stories.
After each class meeting, students are expected to review the learning content. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be determined based on the usual performance score (60%) and the term-end examination (40%).

LANd100LC（ドイツ語 / German language education 100）

基礎ドイツ語コミュニケーション

鈴木　淳子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本文法の習得とともにドイツ語によるコミュニケーション能力を養う.

【到達目標】
文法の知識をしっかり身に付けたうえで、それを適切に運用し、簡単な内容をドイツ語で表現できるようになる。読む・聞く・書く・話す力をバランスよく学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
文法の詳しい説明をした後、教科書の課題に取り組む。音読・対話を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルファベート 発音	補助プリント
2	発音復習、挨拶表現 主語になる人称代名詞 規則動詞の現在人称変化	L.1 (p.ii-iii, 2-5)
3	定動詞の位置 sein,habenの現在人称変化	L.1 (p.2-7)
4	名詞の性 定冠詞と名詞の格変化 不定冠詞と名詞の格変化	L.2 (p.8-9)
5	疑問代名詞 名詞の複数形 男性弱変化名詞	L.2 (p.10-11)
6	読みもの	L.2 (p.12-13)
7	不規則動詞の現在人称変化	L.3 (p.14-15)
8	命令形	L.3 (p.14-15)
9	人称代名詞１・３・４格 非人称主義es 不定代名詞man	L.3 (p.16-19)
10	これまでの復習	L.1-3 (p.2-19)
11	定冠詞類 不定冠詞類	L.4 (p.20-21)
12	nichtの位置 ja,nein,dochの用法	L.4 (p.22-23)
13	読みもの	L.4 (p.24-25)
14	総復習	L.1-4 (p.2-25)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，1時間を標準とする】
授業の後、学習事項を振り返る。音読の他、音声教材も使って聞き取り能力を高める。

【テキスト（教科書）】
前田良三・高木葉子著『ドイツ語ナビゲーション 3.0』、朝日出版社

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70%）、平常点および授業態度（30%）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の多くがドイツおよびドイツ語に強い関心をもっているのが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to improve german communicative skills of students. They learn the basic grammar and then learn to use it properly in various situations. They practice hearing, reading, writing and speaking german language.
After each class meeting, students will be expected to review the last lesson. The required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANf100LC（フランス語 / French language education 100）

基礎フランス語コミュニケーション

CELESTE GUILLEMOT

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてフランス語コミュニケーションを学ぶ人を対象とした授業である。主に会話的な表現を学ぶ。具体的にはフランス・フランス語圏での日常生活に必要な自己表現力を養う。

【到達目標】
主な目標は以下の通りである：
- フランス語で簡単な自己紹介ができること
- フランス語の基礎コミュニケーション力を身につけること
- フランス・フランス語圏の文化・習慣や価値観について理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎週フランスの日常生活の様々なシチュエーションをテーマにして授業を行う。その際に、文法を学習・復習しながら、新しい語彙と役に立つ表現を身につけ、ロールプレイやインタービュー等の授業内活動によってそれらの使い方を練習する。また、正しい発音はフランス語話者との効果的なコミュニケーションに必要不可欠であるため、毎週フランス語の子音・母音やリズム等の音声的特徴の説明・練習をする。
課題等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	挨拶
	Leçon 0	フランス語の綴りと発音(1)
		授業でよく使う表現
第2回	Leçon 0-1	挨拶をする
		名前を尋ねる
		名前の綴りを言う
		職業・身分を言う
第3回	Leçon 1-2	話せる言語を言う
		住んでいる所を尋ねる・言う
		数字(0-19)
第4回	Leçon 2	話せる言語を言う
		住んでいる所を尋ねる・言う
		数字(0-19)
第5回	Leçon 3	家族について話す
		年齢を尋ねる・言う
		数字（20-100）
第6回	Leçon 4	好みを言う
		理由を尋ねる・言う
第7回	Leçon 4	綴りと発音(2)
	Graphie et sons	Leçon 0～4まとめ
	第一部まとめ	復習
第8回	Leçon 5	物について尋ねる・説明する
		一致や場所を尋ねる・言う
第9回	Leçon 6	容姿や服装を尋ねる・説明する
		持ち主を言う
第10回	Leçon 7	移動について説明する
		交通手段を言う
第11回	Leçon 8	天候について話す
		時刻を尋ねる・言う
第12回	Civilisation	フランス語地理と気候
	第二部のまとめ	Leçon 5～8まとめ
		復習
第13回	Leçon 9	食習慣について話す
		値段を尋ねる・言う
第14回	まとめ、期末テスト	まとめ、期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 毎週の宿題（教科書の問題や授業支援システム上の読解・文法練習）
- 教科書内容を予習・復習　（オーラルテストを定期的に行う）
- 語彙の復習
- 分からない単語は事前に辞書で意味や発音を確認すること

【テキスト（教科書）】
エマニュエル アンティエ 著, 三上 純子 著, ミシェル サガズ (2020) フラッシュ！ 三訂版,駿河台出版社, 2400円+税

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60％　（授業参加、小テスト）
期末試験 40％
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
学習をより効果的に行うため、授業のペースを調整し、中級フランス語コミュニケーションにつながりやすい構成としました。

【その他の重要事項】
授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
This class is designed for students learning French communication for the first time. It primarily focuses on conversational expressions. Specifically, it aims to develop the ability to express oneself in everyday situations in France and other French-speaking regions.
The main objectives of this course are as follows: to enable students to introduce themselves in simple French, to develop basic communication skills in the language, and to gain an understanding of culture, customs and values in France and French-speaking regions.
Work to be done outside of class:
Students are expected to complete regular homework and review the course materials before class. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading criteria:
In class activities and assignments 60％, Final exam 40%

LANf100LC（フランス語 / French language education 100）

中級フランス語リーディング

伊藤　玲子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、既にフランス語の初級文法を学んだ学生を対象とする。文法や語彙・表現の理解を深め、様々なフランス語の文章を読む能力を発展させる。さらにフランス文化や地域性についての理解を深める。

【到達目標】
- 既に学んだ文法を応用して、フランス語で書かれた会話文や長文の読解力を養うこと
- 語彙や表現を身につけること
- 読解を通して、フランス文化や地域性について理解を深めること
- 実用フランス語技能検定資格4級を取得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎週、会話文や長文を読む。その際に、必要となる文法を復習し、新たに語彙や表現を導入する。練習問題で文法や文章の理解を確認する。さらに実用フランス語技能検定試験4級の過去問等を解く。課題等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介	授業紹介
第2回	Unité 1	不定冠詞・定冠詞、名詞の性と数、主語人称代名詞、être、縮約を用いた文章を読む。
第3回	Unité 2	avoir、疑問文、形容詞、強勢形、否定文、否定の de を用いた文章を読む。
第4回	Unité 3	-er動詞、指示形容詞、-ir動詞、所有形容詞、部分冠詞を用いた文章を読む。
第5回	Unité 4	aller、venir、faire、非人称主語、prendre、命令法、時間の表し方を用いた文章を読む。
第6回	Unité 5	人称代名詞（直接目的補語）、比較級、人称代名詞（間接目的補語）、最上級を用いた文章を読む。
第7回	Unité 1-5復習	Unité 1-5復習
第8回	Unité 6	代名動詞、疑問形容詞、pouvoir、vouloir、devoir、il faut を用いた文章を読む。
第9回	Unité 7	複合過去（avoir + 過去分詞）、複合過去（être + 過去分詞）を用いた文章を読む。
第10回	Unité 8	半過去、関係代名詞、強調構文、受動態、接続詞 que を用いた文章を読む。
第11回	Unité 9	単純未来、ジェロンディフ、感嘆文、y や en を用いた文章を読む。
第12回	Unité 10	条件法現在、接続法現在を用いた文章を読む。
第13回	Unité 6-10復習	Unité 6-10復習
第14回	まとめ 期末試験	まとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間以上を標準とする】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 宿題（文法練習、和訳、読解等）
- 授業の復習・予習（分からない単語は事前に辞書で意味や発音を調べる）
- 随時実施される小テストの準備

【テキスト（教科書）】
『アミカルマン〈プリュス〉－フランス語・フランス文化への誘い－（二訂版）』、澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著、駿河台出版社、2025年、2,600円＋税

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60%（授業への積極的な参加）
小テスト 10%（随時実施）
期末試験 30%
以上によって総合的に評価される。
＊正当な理由なく5回以上欠席した場合は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業の進度によってシラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
This course is intended for students who have already studied basic French grammar. It aims to deepen understanding of grammar, vocabulary, and expressions, and to develop the ability to read a variety of French texts. Additionally, students deepen their understanding of French culture and regional characteristics. Students are required to complete their homework and assignments after each class. The required study time is at least one hour for each class meeting. Final grades are calculated based on the following process:
Final exam (30%), Small tests (10%) and in-class participation (60%).

LANf100LC（フランス語 / French language education 100）

基礎フランス語コミュニケーション

瀬谷　グ゛ロンダ゛ン　アンヌオレリ

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてフランス語コミュニケーションを学ぶ人を対象とした授業である。主に会話的な表現を学ぶ。具体的にはフランス・フランス語圏での日常生活に必要な自己表現力を養う。

【到達目標】
主な目標は以下の通りである：
- フランス語で簡単な自己紹介ができること
- フランス語の基礎コ
ミュニケーション力を身につけること
- フランス・フランス語圏の文化・習慣や価値観について理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎週フランスの日常生活の様々なシチュエーションをテーマにして授業を行う。その際に、文法を学習・復習しながら、新しい語彙と役に立つ表現を身につけ、ロールプレイやインタービュー等の授業内活動によってそれらの使い方を練習する。また、正しい発音はフランス語話者との効果的なコミュニケーションに必要不可欠であるため、毎週フランス語の子音・母音やリズム等の音声的特徴の説明・練習をする。
課題等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	フランス語の綴りと発音(1)
	Leçon 0	授業でよく使う表現
第2回	Leçon 0-１	挨拶をする
		名前を尋ねる
		名前の綴りを言う
		職業・身分を言う
第3回	Leçon 1-２	話せる言語を言う
		住んでいる所を尋ねる・言う
		数字(0-19)
第4回	Leçon 2	話せる言語を言う
		住んでいる所を尋ねる・言う
		数字(0-19)
第5回	Leçon 3	家族について話す
		年齢を尋ねる・言う
		数字（20-100）
第6回	Leçon 4	好みを言う
		理由を尋ねる・言う
第7回	Leçon 4	綴りと発音(2)
	Graphie et sons	Leçon 0～4まとめ
	第一部まとめ	復習
第8回	Leçon 5	物について尋ねる・説明する
		一致や場所を尋ねる・言う
第9回	Leçon 6	容姿や服装を尋ねる・説明する
		持ち主を言う
第10回	Leçon 7	移動について説明する
		交通手段を言う
第11回	Leçon 8	天候について話す
		時刻を尋ねる・言う
第12回	Civilisation	フランス語地理と気候
	第二部のまとめ	Leçon 5～8まとめ
		復習
第13回	Leçon 9	食習慣について話す
		値段を尋ねる・言う
第14回	まとめ、期末テスト	まとめ、期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 毎週の宿題（教科書の問題や授業支援システム上の読解・文法練習）
- 教科書内容を予習・復習 （オーラルテストを定期的に行う）
- 語彙の復習
- 分からない単語は事前に辞書で意味や発音を確認すること

【テキスト（教科書）】
エマニュエル アンティエ 著, 三上 純子 著, ミシェル サガズ (2020) フラッシュ！ 三訂版,駿河台出版社, 2400円+税

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60％ （授業参加、小テスト）
期末試験 40％
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
NA

【その他の重要事項】
授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
This class is designed for students learning French communication for the first time. It primarily focuses on conversational expressions. Specifically, it aims to develop the ability to express oneself in everyday situations in France and other French-speaking regions.
The main objectives of this course are as follows: to enable students to introduce themselves in simple French, to develop basic communication skills in the language, and to gain an understanding of culture, customs and values in France and French-speaking regions.
Work to be done outside of class:
Students are expected to complete regular homework and review the course materials before class. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading criteria:
In class activities and assignments 60％, Final exam 40%

LANf100LC（フランス語 / French language education 100）

中級フランス語コミュニケーション

CELESTE GUILLEMOT

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、今までのフランス語の授業によって学んできた文法や語彙を応
用・復習し、その理解を深めながら、様々な授業内活動を通じて言語知識とコミュニケーション能力をを発展させ、活かしていく。

【到達目標】
主な目標は以下の通りである：
- フランス語のコミュニケーション力を高めること
- フランス・フランス語圏の文化・習慣や価値観について理解すること
- 実用フランス語技能検定資格5級以上を取得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎週フランスの日常生活の様々なシチュエーションをテーマにして授業を行う。その際に、文法を学習・復習しながら、新しい語彙と役に立つ表現を身につけ、ロールプレイやインタービュー等の授業内活動によってそれらの使い方を練習する。それに加えて、フランス語技能検定試験の過去問等でも練習する。
また、正しい発音はフランス語話者との効果的なコミュニケーションに必要不可欠であるため、毎週フランス語の子音・母音やリズム等の音声的特徴の説明・練習をする。
課題等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介 復習	授業の説明 復習
第2回	Leçon 10	習慣について話す 日常の活動について話す 数（100～999 999）
第3回	Leçon 10-11	過去のことを話す（1） いつのことだったかを言う
第4回	Leçon 11	過去のことを話す（1） いつのことだったかを言う
第5回	Leçon 12	過去の話をする（2） 期間を言う
第6回	Leçon 12-13	過去の習慣について話す 変化を表す
第7回	Civilisation p.74-75 第3部のまとめ 復習	フランスの食習慣 第3部のまとめ 復習
第8回	Leçon 14	人を誘う 出来ること・しなければならないことを言う 目的を言う 許可を求める・許可する・禁止する
第9回	Leçon 14-15	未来の出来事について話す 条件・仮定を述べる
第10回	Leçon 15	未来の出来事について話す 条件・仮定を述べる（1）
第11回	Leçon 15-16	願望を述べる（1） 条件・仮定を述べる（2） 比較する
第12回	Leçon 16	願望を述べる（1） 条件・仮定を述べる（2） 比較する
第13回	Civilisation p.90-91 第4部のまとめ 復習	フランスの教育制度 第4部のまとめ 復習
第14回	まとめ 期末試験	まとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 毎週の宿題（教科書の問題や授業支援システム上の読解・文法練習）
- 教科書内容を予習・復習
- 語彙の復習
- 分からない単語は事前に辞書で意味や発音を確認すること

【テキスト（教科書）】
エマニュエル アンティエ 著, 三上 純子 著, ミシェル サガズ (2020) フラッシュ！　三訂版,駿河台出版社, 2400円+税

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点70％　（授業参加、小テスト）
期末試験30％
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
教科書をより分かりやすいものに変更しました。また、基礎フランス語コミュニケーションと同一の教科書を使用することで、学生の学習負担の軽減を図ります。

【その他の重要事項】
授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
In this course, students will apply and review the grammar and vocabulary they have learned in previous French classes, deepening their understanding of these concepts. Through various in-class activities, they will further develop their linguistic knowledge and communication skills, putting them into practical use.
The main objectives of this course are as follows: to enhance students' communication skills in French, to deepen their understanding of the culture, customs, and values of France and other French-speaking regions, and to prepare them to obtain Level 5 or higher in the APEF Test.
Work to be done outside of class:
Students are expected to complete regular homework and review the course material before class. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading criteria:
In class activities and assignments 70％, Final exam 30%

LANf300LC（フランス語 / French language education 300）

中級フランス語ライティング

國末　薫

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級で学んだ文法事項を確認しつつ、フランス語での作文力を養成します。手紙、メール、案内文、招待状、日記など様々な文の形に触れます。

【到達目標】
①仏検４級レベルの文法知識を用いて、自己表現することができる。
②手紙、メール、案内文、招待状、日記など様々な文の形を知っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
文法のポイントを押さえながら、自分自身や身の回りのことについてフランス語で書き、自己表現する練習を重ねます。
問題演習やライティングタスクを通じて、手紙、メール、レシピ、招待状、様々な文の形を学びます。
受講者の負担を減らすため、中間と期末に分けて確認テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介	授業の紹介。 自己紹介文を書く。
第2回	現在時制	現在時制を復習し、メールの文体を学ぶ。
第3回	il と c'est	il と c'est を復習し、紹介文を書く。
第4回	疑問文	疑問文を復習し、インタビューの質問を書く。
第5回	否定文	様々な否定文を復習し、否定文のメールを作成する。
第6回	中間まとめ	文法の確認と親しい友達にメールを書くタスクをテストとして行う。
第7回	名詞と冠詞	名詞と冠詞を復習し、買い物リストを作成する。
第8回	部分冠詞と命令形	部分冠詞と命令形を復習し、レシピを書く。
第9回	形容詞	形容詞を復習し、案内文を書く。
第10回	時間の表現	時間の表現を復習し、パーティーの招待状を書く。
第11回	関係代名詞 qui と que	関係代名詞 qui と que を復習し、なぞなぞを書く。
第12回	過去時制	過去時制を復習し、日記を書く。
第13回	未来時制	未来時制を復習し、将来の展望を書く。
第14回	総復習	文法の確認とライティングタスク（自身の経験と将来の展望）をテストとして行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とします】
各回で学ぶ文法内容をよく見直し、指示されたライティングタスクに取り組む。

【テキスト（教科書）】
適宜プリント配布を行います。

【参考書】
Anne Akyuz『アン・コンテクスト　フランス語文法A1』Hachette Japon (2024)

【成績評価の方法と基準】
確認テスト 40%、課題 40 %、授業への参加 20%

【学生の意見等からの気づき】
本年度から新しく担当するため、フィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞典（紙または電子辞書）を持参してください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students develop writing skills in French.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Your study time will be more than one hour for a class.
Final grade will be calculated according to the following process:Examinations (40%), Writing tasks (40%)and in-class contribution(20%).

LANf100LC（フランス語 / French language education 100）

中級フランス語コミュニケーション

伊藤　玲子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、今まで学んできたフランス語の文法・語彙と新しく学習する語彙や表現を応用して、コミュニケーション能力を発展させる。さらにフランス・フランス語圏の文化についての理解を深める。

【到達目標】
- フランス語のコミュニケーション力を高めること
- フランス・フランス語圏の文化や習慣について理解すること
- 実用フランス語技能検定資格5級以上を取得こと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎週フランス語の日常生活の様々なシチュエーションをテーマにして、コミュニケーション能力を高めるための授業を行う。その際に、既習の文法を復習しながら、新しい語彙や表現を身につけ、ロールプレイなどの授業内活動によってそれらの使い方を練習する。フランス語の発音の説明や練習も随時取り入れる。さらに実用フランス語技能検定試験の過去問等でも練習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	授業の説明
第2回	Leçon 10	習慣について話す 日常の活動について話す 数（100～999）
第3回	Leçon 10-11	過去のことを話す (1) いつのことだったかを言う
第4回	Leçon 11	過去のことを話す (1) いつのことだったかを言う
第5回	Leçon 12	過去のことを話す (2) 期間を言う
第6回	Leçon 12-13	過去の習慣について話す 変化を表す
第7回	Civilisation p.74-75 第3部のまとめ 復習	フランスの食習慣 第3部のまとめ 復習
第8回	Leçon 14	人を誘う 出来ること・しなければならないことを言う 目的を言う 許可を求める・許可する・禁止する
第9回	Leçon 14-15	未来の出来事について話す 条件・仮定を述べる (1)
第10回	Leçon 15	未来の出来事について話す 条件・仮定を述べる (1)
第11回	Leçon 15-16	願望を述べる (1) 条件・仮定を述べる (2) 比較する
第12回	Leçon 16	願望を述べる (1) 条件・仮定を述べる (2) 比較する
第13回	Civilisation p.90-91 第4部のまとめ 復習	フランスの教育制度 第4部のまとめ 復習
第14回	まとめ 期末試験	まとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間が標準となる】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 宿題（教科書の練習問題など）
- 授業の復習・予習（分からない単語は事前に辞書で意味や発音を調べる）
- 随時実施される小テストの準備

【テキスト（教科書）】
『フラッシュ！　三訂版』、エマニュエル・アンティエ、三上純子、ミシェル・サガズ著、駿河台出版社、2020年、2,400円＋税

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60%（授業への積極的な参加）
小テスト 10%（随時実施）
期末試験 30%
以上によって総合的に評価される。
＊正当な理由なく5回以上欠席した場合は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業の進度によってシラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
In this course, students will develop their communication skills by applying newly acquired vocabulary and expressions, in addition to the French grammar and vocabulary they have already learned. Additionally, it deepens understanding of French and Francophone cultures and customs. Students are required to complete their homework and assignments after each class. The required study time is at least one hour for each class meeting. Final grades are calculated based on the following process: Final exam (30%), Small tests (10%) and in-class participation (60%).

LANf100LC（フランス語 / French language education 100）

基礎フランス語コミュニケーション

木下　晴美

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてフランス語コミュニケーションを学ぶ人を対象とした授業である。主に会話的な表現を学ぶ。具体的にはフランス・フランス語圏での日常生活に必要な自己表現力を養う。

【到達目標】
主な目標は以下の通りである：
- フランス語で簡単な自己紹介ができること
- フランス語の基礎コ
ミュニケーション力を身につけること
- フランス・フランス語圏の文化・習慣や価値観について理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎週フランスの日常生活の様々なシチュエーションをテーマにして授業を行う。その際に、文法を学習・復習しながら、新しい語彙と役に立つ表現を身につけ、ロールプレイやインタービュー等の授業内活動によってそれらの使い方を練習する。また、正しい発音はフランス語話者との効果的なコミュニケーションに必要不可欠であるため、毎週フランス語の子音・母音やリズム等の音声的特徴の説明・練習をする。
課題等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Leçon 0	フランス語の綴りと発音(1) 授業でよく使う表現
第2回	Leçon 0- 1	挨拶をする 名前を尋ねる 名前の綴りを言う 職業・身分を言う
第3回	Leçon 1- 2	話せる言語を言う 住んでいる所を尋ねる・言う 数字(0-19)
第4回	Leçon 2	話せる言語を言う 住んでいる所を尋ねる・言う 数字(0-19)
第5回	Leçon 3	家族について話す 年齢を尋ねる・言う 数字（20-100）
第6回	Leçon 4	好みを言う 理由を尋ねる・言う
第7回	Leçon 4 Graphie et sons 第一部まとめ	綴りと発音(2) Leçon 0～4まとめ 復習
第8回	Leçon 5	物について尋ねる・説明する 一致や場所を尋ねる・言う
第9回	Leçon 6	容姿や服装を尋ねる・説明する 持ち主を言う
第10回	Leçon 7	移動について説明する 交通手段を言う
第11回	Leçon 8	天候について話す 時刻を尋ねる・言う
第12回	Civilisation 第二部のまとめ	フランス語地理と気候 Leçon 5～8まとめ 復習
第13回	Leçon 9	食習慣について話す 値段を尋ねる・言う
第14回	まとめ、期末テスト	まとめ、期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
授業の理解を深めるために、以下の授業時間外の学習が必要となる：
- 毎週の宿題（教科書の問題や授業支援システム上の読解・文法練習）
- 教科書内容を予習・復習 （オーラルテストを定期的に行う）
- 語彙の復習
- 分からない単語は事前に辞書で意味や発音を確認すること

【テキスト（教科書）】
エマニュエル アンティエ 著, 三上 純子 著, ミシェル サガズ (2020) フラッシュ！ 三訂版,駿河台出版社, 2400円+税

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60％（授業参加、小テスト）
期末試験 40％
※正当な理由なく5回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
NA

【その他の重要事項】
授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがある。

【Outline (in English)】
This class is designed for students learning French communication for the first time. It primarily focuses on conversational expressions. Specifically, it aims to develop the ability to express oneself in everyday situations in France and other French-speaking regions.
The main objectives of this course are as follows: to enable students to introduce themselves in simple French, to develop basic communication skills in the language, and to gain an understanding of culture, customs and values in France and French-speaking regions.
Work to be done outside of class:
Students are expected to complete regular homework and review the course materials before class. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading criteria:
In class activities and assignments 60％, Final exam 40%

LANs100LC（スペイン語 / Spanish language education 100）

基礎スペイン語コミュニケーション

渡辺　雅哉

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ごく基本的なスペイン語へのアプローチ。このクラスでは、文法事項の説明は必要最小限に留め、むしろスペイン語の豊かな表現になるべく多く触れてみたい。

【到達目標】
文法を逐一正確に理解することよりも、日常的によく用いられる表現をなるべくたくさん身につけること。それにより、ごく基本的なレベルのスペイン語で自分自身の意志を表現できるようになること。挨拶や簡単な自己紹介の仕方はもちろん、ホテルやレストランでの、あるいはショッピングの際の遣り取りに必要と思われる表現その他を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
概ね教科書に沿って授業を進める。会話のページでは、初等文法の知識だけでは理解が困難なものもいくつか含まれている。それらについても、ある程度の説明を加える。理屈抜きでの暗記が求められることはない。なお、扱われる動詞の時制はすべて直説法現在。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス。アルファベットと発音	授業の進め方についての説明。スペイン語の発音。アクセントの位置の見定め
第２回 教科書第1課	名詞。冠詞	男性名詞と女性名詞。単数形と複数形。定冠詞と不定冠詞
第３回 教科書第2課	主格人称代名詞。規則動詞	yo（私は）その他の主格人称代名詞。規則動詞の3つのパターン（ar動詞・er動詞・ir動詞）
第４回 教科書第3課	冠詞。挨拶その他の表現	定冠詞と不定冠詞。日常生活に必要な表現のあれこれ
第５回 教科書第2課	主格人称代名詞。規則動詞	yo（私は）その他の主格人称代名詞。規則動詞の３つのパターンの活用と用い方（１）
第６回 教科書第3課	２つのbe動詞。動詞hay	２つのbe動詞serとestarの使い分け。動詞hayとestarの違い
第７回 教科書第3課	形容詞	英語とは異なった形容詞の扱い
第８回 教科書第4課	不規則動詞（１）	yoに対応する活用のみが不規則な動詞hacerその他の用い方
第９回 教科書第4課	目的格人称代名詞	やはり英語とは異なった直接目的格人称代名詞（～を）と間接目的格人称代名詞（～に）の用い方
第10回 教科書第5課	不規則動詞（２）。所有形容詞の前置形	quererその他の語幹母音変化動詞の用い方。前から名詞を修飾する所有形容詞（～の）の扱い
第11回 教科書第6課	不規則動詞（３）	irその他、活用が複雑な不規則動詞の用い方
第12回 教科書第7課	gustar型の動詞。所有形容詞の後置形	使用頻度の高い動詞gustarの扱い。前置形に比べてやや難しい所有形容詞の後置形の用い方
第13回 春学期の復習	教科書第１課～第７課	特に重要な事項についての復習。挨拶・自己紹介その他【到達目標】に記した表現の確認。
第14回 春学期試験	試験。まとめと解説	春学期の学習の成果をを問う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に教科書に目を通しておくこと。復習の際には、特に動詞の扱いに時間を割くこと。本授業の準備・復習時間は１回につき１時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】
田村さと子『アニモ！』白水社、2021年、2200円（＋税）　ISBN978-4-560-01677-0　C3087

【参考書】
授業中に紹介する。なお、まだ持っていない学生は早めに辞書を１冊用意すること（辞書については、初回のガイダンスの折に何冊か紹介する）。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、定期試験70％の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

【学生の意見等からの気づき】
堅苦しい文法用語の類はなるべく使わない。

【その他の重要事項】
わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

【Outline (in English)】
A class for the achivement of basic skills of Spanish communication.　Emphasis is placed on the daily expressions rather than detaild knowledge of grammer.
By the end of the course,students should be able to speak and write Spanish with basic vocabulary in the present tense.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is more than one hour.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:　Term-end examination; 70% and in-class contribution; 30%.

LANs100LC（スペイン語 / Spanish language education 100）

基礎スペイン語コミュニケーション

日高　憲三

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は４億人を超えています。このクラスではスペイン語の表現の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】
スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが…。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて○○国に行ってみたい、○○をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語表現の実力は自然と身につくものです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを復習をしながら、ゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力再発見！	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	第１課（前半）	アファベット、母音、子音
第3回	第１課（後半）	音節の分け方、アクセントのルール
第4回	第２課（前半）	名詞の性、名詞の数 挨拶表現
第5回	第２課（後半）	冠詞、形容詞
第6回	第３課（前半）	主格人称代名詞、ser動詞
第7回	第３課（後半）	文の構造、指示語
第8回	第４課（前半）	estar動詞、所有形容詞
第9回	第４課（後半）	Hayの用法、HayとEstarの比較
第10回	第５課（前半）	直説法現在形・規則動詞
第11回	第５課（後半）	直説法現在形・規則動詞
第12回	第６課（前半）	現在形不規則動詞１
第13回	第６課（後半）	直接目的格人称代名詞
第14回	第７課	現在形不規則動詞２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日常的に目についた、あるいは耳にしたスペイン語をメモをしたりするなど、常にスペイン語やスペイン語圏のニュース、話題にアンテナを張ってみてください。また、自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。例えばタコスを自分で作って家族や友人に振る舞ってみる、スペイン料理のお店に行って食レポを書いてみる、スペイン語の歌に挑戦してみる、など。そうすることで、これまで見えてこなかった新しい世界、自分自身に気が付くかもしれません。なんだかワクワクしませんか？

【テキスト（教科書）】
岡田敦美 那須まどり著「改訂版 エスピギータ～実りのスペイン語」朝日出版社、2022年、2530円

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小レポートの提出を含む平常点 ５０％
期末試験 ５０％

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんからは、「英語は苦手で好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「春休みか夏休みを利用してスペイン語圏に絶対行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思います。

【その他の重要事項】
出席の回数そのものは平常点としてカウントされません。ただ漫然と教室に来てイスに座ってスマートフォンをいじっているだけ、というのが一番意味がなく時間の無駄、人生の無駄、なので質を重視します。
これまで未知の世界だったスペイン語、その豊かで多様性に満ちた文化、人々の暮らし、考え方などを知ることで、何か一つでも二つでも「これ面白いな」と思うことがあれば、それがあなたにとっての「大収穫」です。そして、それは点数とか成績評価とは全く無縁のものです。

【Outline (in English)】
This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and learning Spanish can help you expand your vision of the world!
Preparation:Let’s Learn more about Latin American culture!
Grading Criteria
Usual performance score and short reports：５０％
Term-end examination：５０％

LANs100LC（スペイン語 / Spanish language education 100）

中級スペイン語コミュニケーション

日高　憲三

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は４億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】
スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが…。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて○○国に行ってみたい、○○をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。５級、６級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
前期に引き続き基礎的な文法事項や会話表現などを復習をしながら、ゆっくり学んでいきます。またスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解をさらに深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第８課（前半）	gustar動詞
第2回	第８課（後半）	前置詞格人称代名詞
第3回	第９課（前半）	再帰動詞
第4回	第９課（後半）	無人称文、接続詞
第5回	第１０課（前半）	点過去１（規則動詞）
第6回	第１０課（後半）	点過去２（規則動詞）
第7回	第１１課（前半）	点過去（不規則動詞）
第8回	第１１課（後半）	関係代名詞 所有形容詞
第9回	第１２課（前半）	現在分詞
第10回	第１２課（後半）	不定語、否定語
第11回	第１３課（前半）	過去分詞、現在完了
第12回	第１３課（後半）	受動態
第13回	第１４課	比較級
第14回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日常的に目についた、あるいは耳にしたスペイン語をメモをしたりするなど、常にスペイン語やスペイン語圏のニュース、話題にアンテナを張ってみてください。また、自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。例えばタコスを自分で作って家族や友人に振る舞ってみる、スペイン料理のお店に行って食レポを書いてみる、スペイン語の歌に挑戦してみる、など。そうすることで、これまで見えてこなかった新しい世界、自分自身に気が付くかもしれません。なんだかワクワクしませんか？

【テキスト（教科書）】
岡田敦美 那須まどり著「改訂版 エスピギータ～実りのスペイン語」朝日出版社、2022年、2530円

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小レポートの提出を含む平常点 ５０％
期末試験 ５０％

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんからは、「英語は苦手で好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「春休みか夏休みを利用してスペイン語圏に絶対行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思います。

【その他の重要事項】
出席の回数そのものは平常点としてカウントされません。ただ漫然と教室に来てイスに座ってスマートフォンをいじっているだけ、というのが一番意味がなく時間の無駄、人生の無駄、なので質を重視します。
これまで未知の世界だったスペイン語、その豊かで多様性に満ちた文化、人々の暮らし、考え方などを知ることで、何か一つでも二つでも「これ面白いな」と思うことがあれば、それがあなたにとっての「大収穫」です。そして、それは点数とか成績評価とは全く無縁のものです。

【Outline (in English)】
This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and learning Spanish can help you expand your vision of the world!
Preparation:Let’s Learn more about Latin American culture!
Grading Criteria
Usual performance score and short reports：５０％
Term-end examination：５０％

LANs100LC（スペイン語 / Spanish language education 100）

中級スペイン語コミュニケーション

渡辺　雅哉

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「基礎スペイン語コミュニケーション」と同じテキストを用いながら、筆記と会話の両面にわたってスペイン語での表現の幅をいっそう広めることに努める。文法の知識の習得はもちろん大切だが、「中級」とはいえ、あまり細かいことに拘泥する必要はない。なお、テキストは第８課から始めるが、第７課までの内容に関して不明なこと、学んでいないことがあった場合には、その旨申し出ること。

【到達目標】
直説法の現在・過去・未来の3つの時制を織り交ぜながら、スペイン語で自身を表現できるようになること。コミュニケーションのクラスであるから、特に会話の能力の向上に努める。時間が許せば、接続法にも触れてみたい。概ね事実を素直に表現するために用いられるのが直説法なのに対し、主観が強く投影された表現方法が接続法である。日本スペイン協会が実施しているスペイン語技能検定の6級（入門）と5級（初級）はもちろん、4級（中級）が狙えるレベルを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
概ね教科書に沿って授業を進める。日常生活に必要と思われる語彙や表現については、教科書で扱われていないものでも紹介していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回 ガイダンス。教科書第8課	ガイダンス。再帰動詞	秋学期の授業の進め方についての説明。再帰動詞の基本的な用い方
第２回 教科書第9課	過去分詞。現在完了	過去分詞の作り方と用い方。現在完了の扱い。
第3回 教科書第10課	無人称文。不定語と否定語	特定の主語を取らない無人称表現（人は〜する）。「何か」「誰か」を意味する不定語と、「誰も」「何も」を意味する否定語の扱い
第４回 教科書第11課	現在分詞。時刻の表現	現在分詞の作り方。進行形の扱い。時刻に関する３つの表現（「何時ですか」「何時に〜しますか」「何時間〜しますか」）
第５回 教科書第12回	点過去（１）。使役・放任その他の表現	点過去の規則活用。使役（強いて〜させる）と放任（〜させておく）の用い方
第６回 教科書第13課	点過去（２）	点過去の不規則活用
第７回 教科書第13課	比較の表現	形容詞と副詞の比較級と最上級の作り方
第８回 教科書第14課	線過去。日付その他の表現	線過去の規則活用と不規則活用。日付や曜日や西暦その他の表現
第９回 教科書第14課	点過去と線過去。過去完了	点過去と線過去の使い分け。過去完了の用い方
第10回 教科書第15課	未来。時間の経過を表すhacer	未来の用い方。時間の経過に関するhacerの２つの表現の仕方
第11回 教科書第16課	過去未来。過去未来完了	過去未来と過去未来完了の用い方
第12回	総復習	動詞の用い方を中心とした、秋学期の総復習
第13回 秋学期の試験	秋学期の試験	秋学期の学習の成果を問う
第14回	試験の見直し	試験結果の個別のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に教科書に目を通しておくこと。特に動詞に関して、活用と用法をともに念入りに復習すること。

【テキスト（教科書）】
田村さと子『アニモ！』白水社、2200円（＋税）　ISBN978-4-560-01677-0　C3087

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、定期試験70％の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

【学生の意見等からの気づき】
堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

【学生が準備すべき機器他】
わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

【Outline (in English)】
An intermediate class of Spanish communication. Students are also required to improve their capability of speaking and writing.
By the end of the course, students should be able to speak and write Spanish to a certain degree in the past, present and future tenses.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the textbook. Your required study time is more than one hour.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination; 70% ando in-class contribution; 30%.

LANs100LC（スペイン語 / Spanish language education 100）

基礎スペイン語コミュニケーション

日高　憲三

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は４億人を超えています。このクラスではスペイン語の表現の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】
スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが…。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて○○国に行ってみたい、○○をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語表現の実力は自然と身につくものです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを復習をしながら、ゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力再発見！	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	第１課（前半）	アファベット、母音、子音
第3回	第１課（後半）	音節の分け方、アクセントのルール
第4回	第２課（前半）	名詞の性、名詞の数 挨拶表現
第5回	第２課（後半）	冠詞、形容詞
第6回	第３課（前半）	主格人称代名詞、ser動詞
第7回	第３課（後半）	文の構造、指示語
第8回	第４課（前半）	estar動詞、所有形容詞
第9回	第４課（後半）	Hayの用法、HayとEstarの比較
第10回	第５課（前半）	直説法現在形・規則動詞
第11回	第５課（後半）	直説法現在形・規則動詞
第12回	第６課（前半）	現在形不規則動詞１
第13回	第６課（後半）	直接目的格人称代名詞
第14回	第７課	現在形不規則動詞２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日常的に目についた、あるいは耳にしたスペイン語をメモをしたりするなど、常にスペイン語やスペイン語圏のニュース、話題にアンテナを張ってみてください。また、自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。例えばタコスを自分で作って家族や友人に振る舞ってみる、スペイン料理のお店に行って食レポを書いてみる、スペイン語の歌に挑戦してみる、など。そうすることで、これまで見えてこなかった新しい世界、自分自身に気が付くかもしれません。なんだかワクワクしませんか？

【テキスト（教科書）】
岡田敦美 那須まどり著「改訂版 エスピギータ～実りのスペイン語」朝日出版社、2022年、2530円

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小レポートの提出を含む平常点 ５０％
期末試験 ５０％

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんからは、「英語は苦手で好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「春休みか夏休みを利用してスペイン語圏に絶対行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思います。

【その他の重要事項】
出席の回数そのものは平常点としてカウントされません。ただ漫然と教室に来てイスに座ってスマートフォンをいじっているだけ、というのが一番意味がなく時間の無駄、人生の無駄、なので質を重視します。
これまで未知の世界だったスペイン語、その豊かで多様性に満ちた文化、人々の暮らし、考え方などを知ることで、何か一つでも二つでも「これ面白いな」と思うことがあれば、それがあなたにとっての「大収穫」です。そして、それは点数とか成績評価とは全く無縁のものです。

【Outline (in English)】
This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and learning Spanish can help you expand your vision of the world!
Preparation:Let’s Learn more about Latin American culture!
Grading Criteria
Usual performance score and short reports：５０％
Term-end examination：５０％

LANs100LC（スペイン語 / Spanish language education 100）

中級スペイン語リーディング

日高　憲三

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は４億人を超えています。このクラスではスペイン語の読解力を鍛えつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。世界遺産人気ナンバーワンのマチュピチュ（ペルー）や奇跡の絶景と言われている天空の鏡ウユニ塩湖（ボリビア）が決して「遠い世界」ではなくなるでしょう。

【到達目標】
スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが…。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて○○国に行ってみたい、○○をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語読解力は自然と身につくものです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
科目名に「中級」とありますが、教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを繰り返しながらゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力とは？	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	第１課（前半）	アファベット、母音、子音
第3回	第１課（後半）	音節の分け方、アクセントのルール
第4回	第２課（前半）	名詞の性、名詞の数
第5回	第２課（後半）	冠詞、形容詞
第6回	第３課（前半）	主格人称代名詞、ser動詞
第7回	第３課（後半）	文の構造、指示語
第8回	第４課（前半）	estar動詞、所有形容詞
第9回	第４課（後半）	Hayの用法、HayとEstarの比較
第10回	第５課（前半）	直説法現在形・規則動詞
第11回	第５課（後半）	直説法現在形・規則動詞
第12回	第６課（前半）	現在形不規則動詞１
第13回	第６課（後半）	直接目的格人称代名詞
第14回	第７課	現在形不規則動詞２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日常的に目についた、あるいは耳にしたスペイン語をメモをしたりするなど、常にスペイン語やスペイン語圏のニュース、話題にアンテナを張ってみてください。また、自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。例えばタコスを自分で作って家族や友人に振る舞ってみる、スペイン料理のお店に行って食レポを書いてみる、スペイン語の歌に挑戦してみる、など。そうすることで、これまで見えてこなかった新しい世界、自分自身に気が付くかもしれません。なんだかワクワクしませんか？

【テキスト（教科書）】
岡田敦美 那須まどり著「改訂版 エスピギータ～実りのスペイン語」朝日出版社、2022年、2530円

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小レポートの提出を含む平常点 ５０％
期末試験 ５０％

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんからは、「英語は苦手で好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「春休みか夏休みを利用してスペイン語圏に絶対行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思います。

【その他の重要事項】
出席の回数そのものは平常点としてカウントされません。ただ漫然と教室に来てイスに座ってスマートフォンをいじっているだけ、というのが一番意味がなく時間の無駄、人生の無駄、なので質を重視します。
これまで未知の世界だったスペイン語、その豊かで多様性に満ちた文化、人々の暮らし、考え方などを知ることで、何か一つでも二つでも「これ面白いな」と思うことがあれば、それがあなたにとっての「大収穫」です。そして、それは点数とか成績評価とは全く無縁のものです。

【Outline (in English)】
This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and learning Spanish can help you expand your vision of the world!
Preparation:Let’s Learn more about Latin American culture!
Grading Criteria
Usual performance score and short reports：５０％
Term-end examination：５０％

LANs100LC（スペイン語 / Spanish language education 100）

中級スペイン語ライティング

日高　憲三

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は４億人を超えています。このクラスではスペイン語で書く力を鍛えつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。世界遺産人気ナンバーワンのマチュピチュ（ペルー）や奇跡の絶景と言われている天空の鏡ウユニ塩湖（ボリビア）が決して「遠い世界」ではなくなるでしょう。

【到達目標】
スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが…。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて○○国に行ってみたい、○○をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語で作文する力は自然と身につくものです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
科目名に「中級」とありますが、教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを繰り返しながらゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力とは？	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	第１課（前半）	アファベット、母音、子音
第3回	第１課（後半）	音節の分け方、アクセントのルール
第4回	第２課（前半）	名詞の性、名詞の数
第5回	第２課（後半）	冠詞、形容詞
第6回	第３課（前半）	主格人称代名詞、ser動詞
第7回	第３課（後半）	文の構造、指示語
第8回	第４課（前半）	estar動詞、所有形容詞
第9回	第４課（後半）	Hayの用法、HayとEstarの比較
第10回	第５課（前半）	直説法現在形・規則動詞
第11回	第５課（後半）	直説法現在形・規則動詞
第12回	第６課（前半）	現在形不規則動詞１
第13回	第６課（後半）	直接目的格人称代名詞
第14回	第７課	現在形不規則動詞２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
日常的に目についた、あるいは耳にしたスペイン語をメモをしたりするなど、常にスペイン語やスペイン語圏のニュース、話題にアンテナを張ってみてください。また、自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。例えばタコスを自分で作って家族や友人に振る舞ってみる、スペイン料理のお店に行って食レポを書いてみる、スペイン語の歌に挑戦してみる、など。そうすることで、これまで見えてこなかった新しい世界、自分自身に気が付くかもしれません。なんだかワクワクしませんか？

【テキスト（教科書）】
岡田敦美 那須まどり著「改訂版 エスピギータ～実りのスペイン語」朝日出版社、2022年、2530円

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小レポートの提出を含む平常点 ５０％
期末試験 ５０％

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんからは、「英語は苦手で好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「春休みか夏休みを利用してスペイン語圏に絶対行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思います。

【その他の重要事項】
出席の回数そのものは平常点としてカウントされません。ただ漫然と教室に来てイスに座ってスマートフォンをいじっているだけ、というのが一番意味がなく時間の無駄、人生の無駄、なので質を重視します。
これまで未知の世界だったスペイン語、その豊かで多様性に満ちた文化、人々の暮らし、考え方などを知ることで、何か一つでも二つでも「これ面白いな」と思うことがあれば、それがあなたにとっての「大収穫」です。そして、それは点数とか成績評価とは全く無縁のものです。

【Outline (in English)】
This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and learning Spanish can help you expand your vision of the world!
Preparation:Let's Learn more about Latin American culture!
Grading Criteria
Usual performance score and short reports：５０％
Term-end examination：５０％

LANs100LC（スペイン語 / Spanish language education 100）

基礎スペイン語Ⅰ

塩﨑　公靖

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語は世界中で多く話されている言語のうちのひとつである。スペイン、ラテンアメリカ諸国での公用語であるほか、近年では、日本にもスペイン語を話す旅行者や生活者も多く見かけられる。本講義では、スペイン語の文法を中心に学びながら、スペイン語圏の文化や習慣への関心・理解を促していく。

【到達目標】
①スペイン語への興味・関心の向上。
②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
文法中心に講義に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。
学習支援システムを通じたヒアリングや各回実施する練習問題を通じて、
理解度を把握し、内容/進め方を適宜修正する。
※本講義は基本的には、大学の方針に倣って対面形式で実施する予定です。
　ただし、状況により、オンラインに切り替えるなども検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容説明。
第2回	名詞	性と数
第3回	定冠詞／不定冠詞	un/una, el/la unos/unas, los/las
第4回	形容詞	スペイン語の形容詞の特徴、性と数
第5回	数詞	数の数え方、序数
第6回	所有格	所有形容詞／所有代名詞
第7回	指示詞	指示形容詞／指示代名詞
第8回	疑問詞	疑問詞の種類、疑問文の作り方
第9回	規則動詞・現在形①	動詞の使い方、ar型の動詞
第10回	規則動詞・現在形②	er型/ir型の動詞
第11回	不規則動詞：serとestar	英語のbe動詞に相当する２つの動詞
第12回	動詞hay・否定語・不定語	英語のthere is/areに相当する動詞、そのほか文章作りに便利なごく
第13回	時間の言い方	時刻、時間などの言い方
第14回	試験・まとめと解説	試験の実施と、その解説を行い、今学期の学習内容のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。また、スペイン語は発音が非常に大事な言語です。授業内外で発音をしっかり練習することを求めます。

【テキスト（教科書）】
それぞれの課に合わせプリントを配布。

【参考書】
『超入門スペイン語』(大学書林)

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 65%、平常点35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】
スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Improve comprehension of Spanish language communication skill, mainly through grammar but also with introducing the cultures and customs of hispanophone countries.
【Learning Objectives】
Improve comprehension of Spanish language communication skill.
【Learning activities outside of classroom】
Students don’t have to prepare for next class but review what you studied in classroom. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 65%, and in-class contribution: 35%.

LANk100LC（朝鮮語 / Korean language education 100）

基礎朝鮮語コミュニケーション

松本　ジュン

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身につけるようにする。特に日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】
ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。
毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。
春学期の授業形態は全14回のうち、対面授業7回とオンライン授業7回の両方を組み合わせて実施する。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第1課 ハングルと発音を覚える（1）	母音（1）,子音（1）
2	第2課 ハングルと発音を覚える（2）	子音（2）
3	第3課 ハングルと発音を覚える（3）	母音（2）,終声,連用化
4	第4課 私は山田ユリです。	自己紹介をする
5	第5課 この近所にスーパーマーケットがありますか。	場所を尋ねる/教える
6	第6課 ヤンニョムチキン1つください。	物を頼む/数を言う
7	中間試験	第1課～第6課の内容で中間試験をおこなう
8	第7課 写真１枚撮ってください。	何かを頼む
9	第8課 週末は何をしますか。	行動を言う
10	第9課 遠くありません。	否定する
11	第10課 コーヒー1杯召し上がってください。	目上の人と話す
12	第11課 私は地下鉄できました。	過去のことを話す
13	第12課 今度是非行きたいです。	希望を言う
14	期末試験	第7課～第12課の内容で期末試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声を聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。
語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてもってほしい。

【テキスト（教科書）】
『根と幹　改訂版』生越直樹　生越まり子　池ミン京　朝日出版社　2022年
（本体2100円+税10%）

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。
中間試験　20％
期末試験　30％
課題　20％
授業への貢献度　30％

【学生の意見等からの気づき】
「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。
教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。
語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【学生が準備すべき機器他】
赤色のペン

【Outline (in English)】
This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing,and then introduces students to basic expressions in korean usingbasic grammar rules.Emphasis is placed on similarities and differencesbetween Korean and Japanese throughout the course.
The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.
Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Midterm exam　20％
Finals　30％
Assignment　20％

Class contribution　30％
A passing score is 60 or up.

LANk100LC（朝鮮語 / Korean language education 100）

基礎朝鮮語コミュニケーション

魏　聖銓

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：楽しく韓国語の表現を学ぼう
韓国語の文字の読み書きができるようにする。
韓国語は日本語と7割以上似ているため、単語や表現、簡単な文法などが身につきます。

【到達目標】
ハングルの読み・書きを覚えて初歩的な文法に基づいた表現を習得し、韓国旅行などに使える簡単な会話能力を身につけることを目標にしています。 ハングル能力検定試験5級についてもガイドします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の授業形態については，事前に学習支援システムでその都度提示する.
韓国語を学びたい人を対象にし、韓国語の文字であるハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を楽しく学び、それに基づいた表現を身に付けるようにします。
簡単なフレーズ、会話表現も練習します。また、K-POP、韓国の文化、ソウルの風景についても随時紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	韓国語と文字について	自分の名前が書ける！ 韓国語と文字の紹介
2	基本母音字	基本母音字＆単語練習 アンニョンハセヨ（こんにちは）
3	基本子音字１	単語ゲームにチャレンジ/　カムサハムニダ（ありがとうございます）
4	基本子音字２	基本子音字２＆単語練習 トマンナヨ　（また会いましょう）
5	重母音	重母音＆単語練習
6	パッチム（終声）	パッチム（終声）＆単語練習 チョンマネヨ（どういたしまして）
7	文字のまとめ	文字に関する　　単語ゲーム　２つ チャルモッケスムニダ（いただきます）
8	発音の変化について	７つの発音変化の簡単法則
9	発音の変化の活用例	パッチムの７グループも覚えましょう！
10	会話1　私は日本人です。	会話1　私は日本人です。 ハングルの表記と発音の間は？
11	会話2　ツツジではありません。	名詞の否定表現／期末テストのプレビュー
12	会話3　時間ありますか。	＜韓国体験１＞ 韓国の料理「サムゲタン」の紹介
13	簡単文法	＜韓国体験２＞　ソウルの風景
14	応用会話の練習	買い物の場面での会話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『NEW!　韓国語＆会話』改訂版　魏 聖銓　亜細亜大学購買部

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。
クイズ＆小テストなど　20％
課題　30％
クラスでの発言　20％
総まとめ　30％
合格点は60以上です。

【学生の意見等からの気づき】
韓国語は楽しく、継続すれば、自分のものになる

【学生が準備すべき機器他】
赤色のペン

【Outline (in English)】
Korean expression
Students will review the writing system, pronunciation, and grammar learned at the elementary level while acquiring elementary communication skills.One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] It is recommended to familiarize yourself with the text with audio.Your overall grade in the class will be decided based on the following
Quiz　10％
Midterm exam　20％
Finals　30％
Assignment　20％
Class contribution　20％
A passing score is 60 or up.

LANk100LC（朝鮮語 / Korean language education 100）

中級朝鮮語コミュニケーション

魏　聖銓

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：楽しく韓国語を学ぼう

【到達目標】
初級で学んだ文字・発音・文法などをしっかり再確認し、次のステップの発音変化の練習・文法を強化し、現地ですぐに使える会話ができるようにするのが目標です。
連体形と不規則変則が理解できるように学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　各回の授業形態については，事前に学習支援システムでその都度提示する.
　ハングル5級から4級レベルの文法・単語・表現を学習しながら、日常の会話に活用できるような授業を展開していきます。読む・聞くのインプット学習と「文を書く」、「自分で思ったことを話す」アウトプット学習がうまくリンクできるように、ペアワーク、グループワークも多く取り入れて授業を行います。
提出された課題のうち、いくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体の授業のガイダンス	自己紹介 前期の復習、後期の授業について
2	7☒☒☒☒ ☒☒☒ 外来語とアルファベット	表現：－（☒）☒☒ ☒☒ ／動詞語幹＋てください (☒/☒ ☒☒☒と(☒)☒☒の違い） 韓国の名所：水原　単語練習：外来語
3	アルファベットの表記について　／会話練習：☒☒☒ ☒☒☒	音読コーナー：新大久保とホットク　異文化紹介：韓国の匙と箸
4	8☒☒☒☒ 慶州旅行　／ようだ、そうだ水量表現：(☒)☒☒ ☒☒。	間接話法の中での「依頼」表現：☒/☒ ☒☒☒ ☒☒ 韓国の名所：慶州　／　単語練習：交通機関　／応用コーナー：建物とマップ
5	☒変則の学習	短文:アルバイト　／　異文化紹介：カルビとプルゴギ
6	9　☒☒☒ ☒☒☒☒ ☒ ホワイトクリスマス 表現　(☒)☒☒☒☒ ／「-☒+形容詞」	「-☒+形容詞」表現：☒ ☒☒☒ ☒ /☒ ☒☒☒ 韓国の名所：安東　☒☒ 単語練習：スポーツ
7	韓国映画　☒☒☒☒	会話練習：美味しいパン屋さん 美味しいパン屋へ行く行き方　／　異文化紹介：韓国のデリバリー文化
8	総復習とおさらい	ハングル能力検定試験5級＆4級について
9	10☒☒☒☒ ☒☒☒ ☒ソウルタワーと東京タワー ☒/☒☒ 原因・理由、事柄の順序	表現：☒/☒ ☒ ☒☒/☒☒（し）たことがある/ない 韓国と日本の名所：ソウルタワー＆東京タワー　単語練習：果物
10	疑問代名詞と縮約形 ☒変則	☒変則の学習 応用短文：道を教える　／異文化：韓国のアパート（マンション）
11	11　☒☒☒☒ ☒☒ 釜山で買い物　／(し)てもよい　☒/☒ ☒ ☒☒	表現：-☒ ☒☒ /-☒ ☒☒, -☒☒ ☒　韓国の名所：釜山　単語練習：野菜
12	色、服装を表す表現について　／☒変則	☒変則の学習 音読コーナー　応用短文：:私が好きな色　／　異文化紹介：韓服と着物
13	12　☒☒☒ ☒☒☒☒ ☒ 韓国語スピーチ大会　／－ている２　-☒ ☒☒	逆接表現　☒☒　／韓国と日本のことわざ　／韓国の名所：仁川　単語練習：装身具、アクセサリー
14	まとめと振り返り	まとめと振り返り 韓国紙幣の人物　／　新幹線と富士山　／異文化紹介：　ソウル城郭

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】学習動画や音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『韓国と日本くらべて学ぶ中級韓国語』　魏 聖銓　朝日出版社

【参考書】
辞書は『朝鮮語辞典』(小学館）をはじめ、『コスモス朝和辞典』(白水社)、『韓日辞典』(民衆書林出版／三修社販売)・『ポータブル日韓・韓日辞典』(小学館)を勧めますが、電子辞書の方もお勧めします。

【成績評価の方法と基準】
クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。
クイズなど　10％
課題　20％
中間試験　20％
まとめ　30％
クラス貢献　20％
合格点は60以上です。

【学生の意見等からの気づき】
楽しく、継続すれば、楽しい韓国語は自分のものになる！
韓国の会話をより楽しもう！

【学生が準備すべき機器他】
赤色のペン

【Outline (in English)】
Korean expression
Students will review the writing system, pronunciation, and grammar learned at the elementary level while acquiring elementary communication skills.One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] It is recommended to familiarize yourself with the text with audio.Your overall grade in the class will be decided based on the following
Quiz　10％

Midterm exam　20％
Finals　30％
Assignment　20％
Class contribution　20％
A passing score is 60 or up.

LANk100LC（朝鮮語 / Korean language education 100）

中級朝鮮語コミュニケーション

松本　ジュン

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、朝鮮語の基礎文法を習得している人が対象となる。
中級レベルの文法事項、慣用表現について解説しながら進める。具体的には教科書に沿って、各課のテーマごとの話題を日常生活で用いられる会話と結び付けて学んでいく。受講に際してハングルの読み書きはもちろん、簡単なあいさつ、自己紹介ができることが望ましい。

【到達目標】
・初級の内容を定着させ、朝鮮語の実践的な運用能力を伸ばしていきます。
・毎回の授業のテーマから日常で使用する簡単な会話ができることをめざします。
・ハングル能力検定試験4級、韓国語能力試験中級レベルの実力養成を目標に授業をすすめます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の授業の内容については事前に学習支援システムでその都度提示します。
また提出される課題についても教員が確認をして、次回の授業で全体に対してフィードバックをおこなう予定です。春学期の授業形態は全14回のうち、対面授業7回、オンライン授業7回と2つの形態を組み合わせて実施します。
週一回の春学期のみの授業のため、予習が大前提で大切なので欠かさずにおこないましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと第1課①どこに行かれますか。	授業のすすめ方と☒☒☒体の叙述・疑問・尊敬表現を習い、丁寧に話す練習をする。
第2回	第1課②練習問題と応用練習にチャレンジ	練習問題と応用練習を解きながら会話力を身につける。
第3回	第2課①あそこに見える建物は何ですか。	動詞・存在詞の連体形（1）を習い、詳しく説明する練習をする。
第4回	第2課②練習問題と応用練習にチャレンジ	練習問題と応用練習を解きながら会話力を身につける。
第5回	第3課①映画を見るつもりです。	動詞・存在詞の連体形（2）を習い、詳しく説明する練習をする。
第6回	第3課②練習問題と応用練習にチャレンジ	練習問題と応用練習を解きながら会話力を身につける。
第7回	中間試験	教室に全員集まり、第1課～第3課の内容で中間試験をおこなう。
第8回	第4課①もう少し大きいのはありませんか。	形容詞・指定詞の連体形を習い、詳しく説明する練習をする。
第9回	第4課②練習問題と応用練習にチャレンジ	練習問題と応用練習を解きながら会話力を身につける。
第10回	第5課①簡単なのでよく作ります。	☒語幹用言のまとめと理由を言う場合の表現を習う。
第11回	第5課②練習問題と応用練習にチャレンジ	練習問題と応用練習を解きながら会話力を身につける。
第12回	第6課カラオケに行くとよく歌います。	☒変則と場所を教える場合に使う表現を練習する。
第13回	期末試験	教室に全員集まり、第4課～第6課の内容で期末試験をおこなう。
第14回	作文の発表	自分で事前に準備した文をすらすら読み上げてみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では事前に予習をして授業に臨むことが前提になります。教科書の音声を聴くことも効果的です。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められます。
語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる一番近い道になります。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてもってほしいです。

【テキスト（教科書）】
『韓国朝鮮語中級テキスト　改訂版　花と実』生越直樹・生越まり子・池ミン京、朝日出版社、2023年、2310円

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。

中間試験	20％
期末試験	30％
課題	20％
授業への貢献度	30％

【学生の意見等からの気づき】
教員は受講者がたくさんの文に触れることができる場面をもうけ、楽しく授業に参加できる環境づくりにつとめます。
語学の授業では、受講者自身が積極的に授業に参加することが前提となります。毎回の授業のための予習はもちろん、日々の復習にも力を入れて授業に臨んでください。

【Outline (in English)】
This course is for students who have already mastered the basic Korean grammar.
The aim of this class is to acquire the conversational level Korean based on the text book theme.
Students are expected to prepare for the class and it is desirable to have four(reading,listening, writing,speaking) basic skills.

Midterm exam	20％
Finals	30％
Assignment	20％
Class contribution	30％

A passing score is 60 or up.

LANk100LC（朝鮮語 / Korean language education 100）

基礎朝鮮語コミュニケーション

魏　聖銓

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：楽しく韓国語を学ぼう
韓国語の文字の読み書きができるようにする。また、韓国の文化などにも触れていきます。
韓国語は日本語と7割以上似ているため、単語や表現、簡単な文法などが身につきます。

【到達目標】
初級で学んだ文字・発音・文法などをしっかり再確認し、次のステップの発音変化の練習・文法を強化し、現地ですぐに使える会話ができるようにするのが目標です。
韓国語の文法、連体形や不規則変則が使えるように学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の授業形態については，事前に学習支援システムでその都度提示する.
提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う
　ハングル5級から4級レベルの文法・単語・表現を学習しながら、日常の会話に活用できるような授業を展開していきます。読む・聞くのインプット学習と「文を書く」・「自分で思ったことを話す」アウトプット学習がうまくリンクできるように、ペアワーク、グループワークも多く取り入れて授業を行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体の授業のガイダンス	授業の流れの説明、初級の復習、ガイダンス
2	1 □□ 桜 形容詞・指定詞の現在	連体形／形容詞・指定詞の過去・未来の連体形
3	韓国の名所：ソウル１□梁津水産市場、 単語練習：花	-ている１ □/□ □□(12-3□ □□参)　／韓国と日本の四字熟語 □変則の説明と練習　／異文化紹介：花見
4	2 □□□ □□□ 韓国の記念日 動詞・存在詞の連体形	伝聞　引用文　/韓国の名所：済州道　　単語練習：趣味
5	□語幹説明　□□□□□ 会話：□梁津□□□□	□語幹説明と練習問題　異文化紹介：韓国の記念日について
6	3 □□□ ピビンパ /　接続詞　原因理由から・ので：(□)□□	接続詞　順接・逆接の表現　-□□　/韓国の名所：全州　単語練習：韓国の食べ物 韓国語の漢字の理解
7	□変則の学習	応用問題：短文□ □□（私の日記）　/ 異文化紹介：のり巻きと韓国のキンパ
8	復習　中間まとめ	復習　中間まとめ
9	4 □□□□ □□□□ デザートとダイエット □□体（普通体）ぞんざいな言い方	動詞の禁止の表現　-□ □□ 韓国の名所：ソウル２　□□□□（広場市場）,□□□（東大門）　単語練習：スイーツ
10	韓国のスイーツ /　会話：キンパと海苔巻	音読コーナー：誕生日とケーキ屋さん　/　異文化紹介： 誕生日の朝にわかめスープ
11	5 □□□ □ □□? 週末に何をしますか。	仮定表現　（□）□　　/　役に立つ表現：　-□□□/ -□□□/ -(□)□□□ 韓国の名所：ソウル３ 汝矣島(□□□) 漢江遊覧船　/　単語練習：場所
12	作文：□□ □□私の一日/ 応用作文コーナー：週末の過ごし方	□ 変則と応用問題：短文 □□（ヒーリング）　異文化紹介：日韓共同開催2002年ワールドカップと日韓友好
13	6 □□□ □□ 韓国のお盆と暦　/　敬語表現：(□)□□/位置名詞 韓国の名所：平昌(□□)と江陵(□□)	家族名称と家族写真　／　可能・不可能表現　(□)□ □ □□/□□ 会話：KTX　アメリカーノ（カード文化）
14	プレゼン：韓国旅行に役立つ表現 まとめと振り返り	プレゼン：韓国旅行に役立つ表現 まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『韓国と日本くらべて学ぶ中級韓国語』　魏 聖銓　朝日出版社

【参考書】
辞書は『朝鮮語辞典』（小学館）をはじめ、『コスモス朝和辞典』(白水社)、『韓日辞典』(民衆書林出版／三修社販売)・『ポータブル日韓・韓日辞典』(小学館)を勧めますが、電子辞書の方もお勧めします。

【成績評価の方法と基準】
クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。
クイズ10％
課題30％
クラスでの発言20％
期末総まとめ　40％
合格点は60以上です。

【学生の意見等からの気づき】
韓国語は、楽しく、継続すれば、自分のものになる！
韓国の会話をより楽しもう！

【学生が準備すべき機器他】
赤色のペン

【Outline (in English)】
Intermediate Korean
Students will master basic Hangul grammar, vocabulary, and knowledge of expressions as well as daily conversation and composition skills.One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] It is recommended to familiarize yourself with the text with audio.Your overall grade in the class will be decided based on the following
Quiz　　10％

Midterm exam　20％
Finals　30％
Assignment　20％
Class contribution　20％
A passing score is 60 or up.

LANk100LC（朝鮮語 / Korean language education 100）

中級朝鮮語リーディング

魏　聖銓

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、朝鮮語の基礎文法を習得している人が対象となる。朝鮮語の読解を通じて語彙力を高めながら文章が解釈できることを目指し、総合的な朝鮮語の力を身につけていく。受講に際してハングルの読み書きはもちろん、簡単なあいさつ、自己紹介などができることが望ましい。

【到達目標】
・初級の内容を定着させ、韓国語の実践的な運用能力を伸ばしていく。
・授業でおこなう読解を通じて日常で使用する簡単な文章を理解できるようになることをめざす。
・韓国語の文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の文化等についても触れることができる。
・ハングル能力検定試験4級、韓国語能力試験初級・中級にチャレンジできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　各回の授業の進め方としては、教員が事前に配布した韓国語の資料を各自が授業の前に講読しておき、考えてきた韓国語の解釈を授業中にみんなと共有し、理解を深めていく。
　毎回の課題は、いくつかのテーマから自由に選んで、その文章を読み、理解すること。提出される課題は教員がその都度確認をして、次回の授業で全体に対してフィードバックをおこなう予定である。
　春学期の授業形態は全14回のうち、対面授業10回、オンライン授業4回と2つの形態を組み合わせて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと授業の流れについて 自己紹介	授業のすすめ方、注意点の説明 自己紹介をしてみましょう
第2回	日本語と韓国語について	日本語と韓国語について考えてみましょう
第3回	韓国にも花見はありますか？！	韓国語で書かれている「花見」についての文を読み、日本語訳しながら理解を深める。
第4回	韓国にも日本と同じように「花火」をやるの？	韓国語で書かれている「花火大会」についての文を読み、日本語訳しながら理解を深める。
第5回	異文化コミュニケーション「食事のマナー」	韓国語で書かれている「食事マナー」についての文を読み、日本語訳しながら理解を深める。
第6回	日韓の食べ物の異文化について	韓国語で書かれている「韓国料理」などについての文を読み、日本語訳しながら理解を深める。
第7回	韓国の映画を見てみましょう。	韓国語で書かれている「韓国の映画」を鑑賞して、皆で話しながら理解を深める。
第8回	日韓のカレンダーの違いについて	韓国語で書かれている「祝日や記念日」についての文を読み、日本語訳しながら理解を深める。
第9回	中間テスト	これまで学んだ内容の総まとめとして
第10回	K-POPは聞いたことありますか	韓国語で書かれている「K-POP」を見ながら、皆で話しながら理解を深める。
第11回	韓国ドラマについて	韓国語で書かれている「韓流ドラマ」を見て、皆で話しながら理解を深める。
第12回	韓国のクリスマス	韓国語で書かれている「クリスマス」についての文を読み、日本語訳しながら理解を深める。
第13回	力試し	朝鮮語で書かれているお正月についての文を訳しながら理解を深める。
第14回	総まとめ＆振り返り	総まとめ＆振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では事前に予習をしておくと、授業の理解度がアップする。また、配られた資料は繰り返し音読することで韓国語に慣れ、韓国語の授業が楽しくなる。毎回課題を提出することで。課題ポイントがどんどん貯まる。語学の学習はその言語に触れる時間を多増やせば増やすほど、上手くなる！ 楽しくなる！

【テキスト（教科書）】
『韓国と日本　くらべて学ぶ中級韓国語』魏聖銓　朝日出版社
また、ハンドアウト（資料）なども随時配布する。

【参考書】
『韓日辞典』(民衆書林出版／三修社販売)・『ポータブル日韓・韓日辞典』(小学館)

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。
中間試験　20％
期末試験　20％
課題　40％
授業への貢献度　20％

【学生の意見等からの気づき】
中級朝鮮語リーディングは2024年度に新設された講義です。
教員は受講者がたくさんの文に触れることができる場面を設け、楽しく授業に参加できる環境づくりにつとめます。
語学の授業では、受講者自身が積極的に授業に参加することが前提となります。毎回の授業のための予習・復習にも力を入れて楽しい授業にしていきましょう。

【学生が準備すべき機器他】
ドリルなどのチェック、日本語訳の訂正などに、赤ペンを使いますので、毎回持参してください。

【Outline (in English)】
This course is for students who have already mastered the basic Korean grammar.
The aim of this class is to acquire comprehensive Korean proficiency through reading comprehension.
Students are expected to prepare for the class and it is desirable to have four(reading,listening,writing,speaking) basic skills.
Midterm exam　20％
Finals　30％
Assignment　20％
Class contribution　30％
A passing score is 60 or up.

LANk100LC（朝鮮語 / Korean language education 100）

中級朝鮮語ライティング

魏　聖銓

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が自ら韓国語で作文し、発信することで日本語と韓国語の比較ができ、語学の面白さが発見できる。今まで習ってきたさまざまな文型・語彙、表現を日常生活のいろいろな場面を想定してアクティブに実践練習を行います。

【到達目標】
自分の身近な話題を見つけ日本語にしたものを韓国語にするスキルを身につけると同時に自分で作った作文を使って会話ができるようにすることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　教科書の文章をベースに模倣・書き換え練習を通して、韓国語の文章力を着実に習得します。文章能力の基礎となる口頭表現の能力を重視し、文体的には書き言葉よりも話し言葉のほうに重点を置きます。
　授業内では、LINEなどを使用し、翻訳ソフトも活用していきます。
　提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 自己紹介＆趣味 私の学科と専攻	自己紹介の表現で使われる単語や表現について。
2	食べ物について	日本の自慢したい日本の食べ物、気になる韓国の食べ物
3	料理を作ってみましょう。	料理をつくってみましょう。
4	SNSと私	Facebook、LINEなどのSNSやインタネットの利用状況について書く
5	デザートとダイエット	食べてみたいデザートは何ですか。
6	外国旅行、国内旅行、留学などについて	行ってみたい国やすでに旅行に行ったところについて文を書いてみましょう。
7	作文の発表 文法と誤用例の確認	作文の発表 作文したものを会話に仕上げてみる。 文法と誤用例の確認
8	週末の過ごし方、趣味	趣味も様々、週末の過ごし方もいろいろ。
9	韓国の記念日と日本の記念日の違いについて	文化が違うと、祝日や記念日もかなり異なる。
10	韓国にも漢字はありますか？	韓国人と漢字で筆談はできるのかな。
11	面白い話、怖い話、ためになる話を書いてみましょう。	面白い話、怖い話、ためになる話を話してみましょう。
12	新大久保へいってみましょう。	コリアタウンと言われている新大久保に行って買い物をしたことはありますか。
13	期末作文発表会	学生が書いた作文を口頭で発表する。
14	学習の総括＆振り返り	学習の総括＆振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、1時間を標準とします。】学生は基本的な朝鮮語の読み書きを身につけ、教科書の音源を授業の前後に聞いてみてください。韓国語をパソコンで入力する体験や、ハングルでのネット検索もやってみましょう。

【テキスト（教科書）】
1.『韓国と日本　くらべて学ぶ中級韓国語』魏聖銓　朝日出版社
2.『NEW!　韓国語＆会話』改訂版　魏 聖銓　亜細亜大学購買部
　上記の１，２のいずれか一冊の中から自分のレベルにある教科書を用意してください。

【参考書】
資料は随時配布する

【成績評価の方法と基準】
受講状況と作文や課題など50%、
異文化のクイズ、学習発表30％、
会話文のペアワーク20％とします。

【学生の意見等からの気づき】
朝鮮語ライティングは朝鮮語リーディングと連動することで、読み方や表現の習得が容易になります。また、会話が上達するためには、自分で作った作文が一番効果的だと思います。

【学生が準備すべき機器他】
ドリルなどのチェックなどに赤ペンを使用します。

【Outline (in English)】
The course aims to help students develop their language skills. Students actively practice writing in a variety of imaginary daily scenarios using the sentence patterns and vocabulary they have learned.Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Assignments are graded based on reading and writing materials (50%), presentations (30%), and short reports (20%).

LANk100LC（朝鮮語 / Korean language education 100）

基礎朝鮮語Ⅰ

松本　ジュン

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身につけるようにする。特に日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】
ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。
毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。
春学期の授業形態は全14回のうち、対面授業7回とオンライン授業7回の両方を組み合わせて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと第1課　母音（1）	朝鮮語の語順、語彙、分かち書きと基本母音10個について学習
第2回	第2課　子音□□□	基本子音のうち平音の□□□について学習
第3回	第3課　子音□□□	基本子音のうち平音の□□□について学習
第4回	第4課　子音□□□　□・母音	鼻音の□□□□と複合母音の□□について学習
第5回	第5課　子音□□□　□・母音　□□	激音の□□□□と複合母音の□□について学習
第6回	第6課　子音□□□　□□	濃音の□□□□□について学習
第7回	第7課　母音（2）	複合母音7個について学習
第8回	第8課　終声（パッチム）	教室で全員集まり、終声であるパッチム7個について学習
第9回	中間試験	教室で全員集まり、これまで学習した内容で中間試験をおこなう。
第10回	第9課　発音の変化①	連音化・□音弱化・鼻音化について学習
第11回	第9課　発音の変化②	激音化・濃音化・流音化・口蓋音化について学習
第12回	第10課　単語の調べ方および日本語のハングル表記方法	辞書の引き方・日本語のハングル表記について学習
第13回	期末試験	教室で全員集まり、春学期に学習した内容で期末試験をおこなう
第14回	作文の発表	自分で事前に準備した文をすらすら読み上げてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声を聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。
語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてもってほしい。

【テキスト（教科書）】
『韓国語の初歩　三訂版』厳基珠　金三順　金天鶴　申鉉竣　吉川友丈　白水社　2019年　2200円+税

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業の成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。
中間試験　20％
期末試験　30％
課題　20％
授業への貢献度　30％

【学生の意見等からの気づき】
「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。
教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。
語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【Outline (in English)】
This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing,and then introduces students to basic expressions in Korean using basic grammar rules.Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.
The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.
Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Midterm exam 20％
Finals　30％

Assignment　20％
Class contribution　30％
A passing score is 60 or up.

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

基礎中国語コミュニケーション

景　旻

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は基礎的中国語を学習した学生を対象としています。学生が挨拶言葉、例文、対話文と短文などの復習と学習を通じて、中国語の基礎力（音読、聞き取り、基本的語彙の応用、文法事項の理解など）を固め、着実にレベルアップできるように図ります。具体的には学生が (1)より正確な発音を身につける、(2) 孤立語の特徴を持つ中国語の語順と基本的な構造をきちんと理解する、(3)基礎的な中国語を聞いて理解できることを目指します。

【到達目標】
学生はピンインをしっかりマスターすること。
所定の話題について確実に中国語で会話や表現ができるようになること。
6月後半実施の中国検定試験準4級あるいは11月実施の4級をクリアすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少しまとまった文章にも触れつつ、内容理解、発話練習、作文練習を行い、すでに学習してきた内容の定着をめざします。必要に応じて中国語検定問題も扱います。適宜、中国文化の紹介をします。
毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと復習	授業計画 復習と確認 挨拶言葉と発音チェック
第2回	第1課、第2課 自己紹介・家族の紹介	ポイント（人称代名詞、動詞述語文、～☒?）指示代詞、的」、疑問詞疑問文、也） ドリル
第3回	第3課 第4課	ポイント（量詞、所有の「有」、几、多少）、（形容詞述語文、反復疑問文、名詞＋呢? ） ドリル
第4回	第5課 第6課	ポイント（場所指示代詞、存在の「有・在」、助動詞「想・要」、（日付・時の言葉、名詞述語文、「了」、「吧」） ドリル
第5回	第7課 第8課	ポイント（主述述語文・二重目的語、持続・分離動詞） (「☒」、動詞の重ね型、選択疑問文「A☒是 B) ドリル
第6回	第9課 第10課	ポイント(比較文、二重目的をとる動詞、様態補語、お金の数え方)、(「V了/V＋了」、「是…的」、「会/能/可以」 ドリル
第7回	第11課 第12課	ポイント（在V…呢、V着、快V)、方向補語、結果補語、動量補語、有点儿） ドリル
第8回	第13課	ポイント（自然現象を表す無主語文、一点儿＋都/也＋否定、一…就～、越…越～） ドリル
第9回	第14課	ポイント（たとえの表現、像…一☒ 、禁止表現　別/不要、有点儿＋…、動作の同時進行の表現　一☒…一☒ ドリル
第10回	中間復習	文法のまとめと点検
第11回	講読 新教科書 第５課 初対面の自己紹介文	文型の練習と翻訳
第12回	第６課	文型の練習と翻訳
第13回	第７課	文型の練習と翻訳
第14回	期末試験	期末試験とフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』保坂律子・郭雲輝著、朝日出版、2011年
『すぐ読める中国語』胡金定ほか著、朝日出版社、2016年。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介。
語学電子辞書、たとえばCASIO　EX-word、『広辞苑/英和・和英/中日・日中辞典』などを持っていると便利です。
中国検定試験に挑戦するために以下の本
中検(R)公式ガイドブック 準4級・4級 日本中国語検定協会2022/5
中検(R)公式ガイドブック 3級 日本中国語検定協会2022/8

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。平常点30%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験70%を総合して評価します。
初回授業のガイダンスで平常点（特に出席）を計算する方法を紹介しますので、初回授業を欠席となる方は、必ず後で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
提示した学習の要点を中心に予習し、欠かさず授業に出席する人とそうでない人の語学力の差が拡大するので、学習のモチベーションは不可欠です。
こまめに輪読や復習することが有効だと思われるので、本授業でも行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
ＤＶＤ、ＣＤ。スマートフォンのLINGの音声機能を活用して、発音のチェックをすることがある。

【その他の重要事項】
教科書を必ず購入してください。

【Outline (in English)】
This course is intended for students with basic knowledge of Chinese language. It focuses on simple and compound sentences, reinforcing language knowledge and developing students' language proficiency.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Evaluation will be based on a comprehensive assessment: 30% from regular performance (attendance, class participation, etc.) and 70% from the final exam.

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

基礎中国語コミュニケーション

杉本　公子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎中国語をひととおり学習した学生を対象としています。受講者がこれまで学んだことを基に、少しまとまった文章に触れながら、「読む」「書く」「聞く」を中心に、自信をもって表現できるようになることを目標とします。また、中国語検定試験にも対応します。
漢字を使う別の言語を知ることで、他者理解・自己理解の幅を広げることが目的です。

【到達目標】
受講者が以下の学力を習得できることを到達目標とします。
(1)学んだ基礎事項が応用できる。
(2)少しまとまった中国語が読める。聞ける。
(3)会話、作文で、自信をもって表現できる。
(4)希望者は、中国語検定試験（準４級以上）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少しまとまった文章にも触れつつ、内容理解、発話練習、作文練習を行い、すでに学習してきた内容の定着をめざします。必要に応じて中国語検定問題も扱います。適宜、中国文化の紹介をします。
課ごとに課題を出します。提出とフィードバックは「学習支援システム」と授業内で、内容ごとに分けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
	第1〜4課・復習1	これまでの復習：発音・数字・簡単な作文練習
第2回	中国語検定案内	中国語検定試験問題
	第5課(1)	第5課：動詞述語文・形容詞述語文・疑問文
第3回	第5課(2)	第5課：動詞述語文・形容詞述語文・疑問文 練習問題
第4回	第6課(1)	第6課：量詞・日時・名詞述語文・「在」の用法
第5回	第6課(2)	第6課：量詞・日時・名詞述語文・「在」の用法 練習問題
第6回	第7課(1)	第7課：助動詞「会」と「想」・助詞「了」・連動文
第7回	第7課(2)	第7課：助動詞「会」と「想」・助詞「了」・連動文 練習問題
第8回	第8課(1)	第8課：前置詞・助詞・「〜なのだ」構文・数量補語
第9回	第8課(2)	第8課：前置詞・助詞・「〜なのだ」構文・数量補語 練習問題
第10回	復習2	復習2：第5課から第8課までの文法のまとめ、確認練習問題
第11回	第9課(1)	第9課：助動詞・動詞の重ね型・方向補語
第12回	第9課(2)	第9課：助動詞・動詞の重ね型・方向補語 練習問題
第13回	期末試験1	筆記・リスニング
第14回	期末試験2	音読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
教科書の予習・復習。付属の音声教材を使っての音読練習、リスニング練習。

【テキスト（教科書）】
『すぐ読める中国語　改訂版』、胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016年。

【参考書】
『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』、相原茂・石田知子・戸沢市子著、同学社、2016年。
中国語検定協会ホームページ。

【成績評価の方法と基準】
出席を基本とし、平常点（受講態度・発声音量）10%、課題内容30%、期末試験60%（筆記40%、音読20%）として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】
学習の要点がつかめるように課題を取り入れます。

【Outline (in English)】
Basic Chinese Communication
[Course Outline] Students are offered training in listening, reading, and writing. Special emphasis will be placed on developing accurate pronunciation.
[Learning Objectives] The goal is to consolidate the foundation of Chinese communication skills.
[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.
[Grading Criteria] Term-end examination: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%), weekly assignments: 30%, in-class contribution: 10%.

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

基礎中国語コミュニケーション

渡辺　浩司

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は基礎的な中国語を学習した学生を対象としています。受講者が「読む」・「話す」・「書く」ことを練習し、中国語の基礎力を固め、着実に中国語のレベルアップを図ります。

【到達目標】
(1)正確な発音を身につけること、(2) 中国語の語順と基本的な構造をきちんと理解すること、(3)基礎的な中国語を聞いて理解できること、(4)日常的な話題について中国語で表現できること、を目標とします。
6月後半に実施される中国検定試験で、準4級以上を取得できるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
少しまとまった文章に触れつつ、内容理解、発話練習、作文練習を行い、すでに学習してきた内容を定着させ、無理なく新しい内容を勉強します。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。
小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、希望者に、後日、個別の学習ポイントを指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、第一課、第二課	授業計画 声調・単母音・複合母音 子音(1)・第三声
第2回	第二課続き、第三課	子音(2)・“不”の変調
第3回	第四課、復習１、あいさつ用語・教室用語	鼻母音・児化音・“一”の変調ピンイン表記上の注意点・数字（年月日・曜日）・確認テスト あいさつ用語、教室用語
第4回	第五課	“是”の用法・動詞述語文・形容詞述語文・構造助詞“的”・疑問文
第5回	第五課	人称代詞・本文・練習
第6回	第六課	量詞・日時の語順・名詞述語文・前置詞“□”・“在”の用法
第7回	第六課	指示代詞・本文・練習
第8回	第七課	助動詞“会”・助詞“了”・前置詞“□”・助動詞“想”・連動文
第9回	第七課	時刻・本文・練習
第10回	第八課	前置詞“离”・前置詞“从”“到”・助詞“□”・“是～的”構文・数量補語
第11回	第八課	回数・本文・練習
第12回	第九課	助動詞“能”・助動詞“可以”・助動詞“要”・動詞の重ね型・方向補語
第13回	第九課	方向補語・本文・練習
第14回	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の出版社が公開している音声アプリを十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。音声アプリを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『すぐよめる中国語　改訂版』胡金定・吐山明月著、朝日出版社、本体価格2500円

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験70％、平常点30％で評価します。欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない。（遅刻、早退は二回で欠席一回とする、忌引による公欠は認めない）
中国語検定試験の合格者は加点します。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】
教科書の出版社が公開している音声アプリをダウンロードして利用するのに、インターネット環境と、パソコンかスマートフォンが必要です。

【その他の重要事項】
「学習支援システム」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This is a class for students who have already learned basic Chinese pronunciation and short sentence structure.
This course focuses on pronunciation, listening, expression and composition practice in order to cultivate verbal expression and listening ability.
At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:
- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of texts.
- understand and use natural conversational expressions.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%.

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

中級中国語コミュニケーション

杉本　公子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎中国語をある程度学んだ方を対象としています。受講者がこれまで学んだ基礎的文法を用いた中国語について、聞くのも話すのも、自信をもってできるようになることを目標に学びます。通じる中国語が話せるよう、発音と声調を磨きます。
これまで学んだ中国語にさらになじむことで、中国語の世界を体感し、他者理解・自己理解の幅を広げることが目的です。

【到達目標】
受講者が以下の学力を習得できることを到達目標とします。
・基本文法・語順を理解している。
・基礎的な中国語が聴きとれる。
・正確な発音と声調で音読できる。
・中国語で自分のことが表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
リスニングに重点を置いた教科書を使用します。音読と聞き取りをしながらリスニング力の向上をはかります。長文が聞き取れるよう、穴埋めや書き取りなどをします。
音読を繰り返し、発音と声調を正確に読めるよう訓練します。
課ごとに課題を出します。提出は「学習支援システム」で、フィードバックは授業内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について
	発音	発音の復習
	第1課	人名、出身地
第2回	第1課	人物紹介
	第2課	親族呼称
		年齢
第3回	第2課	家族の紹介
第4回	第3課	曜日、予定
第5回	第4課	時刻、動作の持続時間
第6回	第5課	年月日、誕生日
第7回	第6課	場所、所在地
第8回	第7課	交通手段、行き方
第9回	第7課	所要時間
	第8課	値段、色
第10回	第8課	買い物
第11回	第9課	飲食、食事の注文
第12回	第9課	食事の注文
	第10課	勉強、趣味
第13回	第10課	勉強、趣味
		出来具合
第14回	期末試験	筆記・リスニング
		音読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
意味や構造が不明な文がないかを確認しましょう。
原稿を見ながら音声を繰り返し聴きましょう。

【テキスト（教科書）】
『聴力UP！ 中国語リスニングトレーニング』、胡金定・陳敏・吐山明月著、朝日出版社、2016年。

【参考書】
『ケンタ君の中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011年。
『すぐ読める中国語　改訂版』、胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016年。
『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』、相原茂・石田知子・戸沢市子著、同学社、2016年。
中国語検定協会ホームページ、検定試験問題。

【成績評価の方法と基準】
出席を基本とし、平常点（音読、取り組み）30％、課題20％、期末筆記・リスニング試験30％、音読試験20％で総合評価します。
各種中国語検定試験の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】
音読試験を実施することにしました。

【Outline (in English)】
Intermediate Chinese Communication
[Course Outline] This Chinese course aims at improving student's listening and speaking skills.
[Learning Objectives] The goal is to consolidate the foundation of Chinese communication skills and to enjoy cultural aspects of the Chinese-speaking world.
[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.
[Grading Criteria] Term-end examination: 50% (written test: 30%, oral reading: 20%), weekly assignments: 20%, in-class contribution: 30%.

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

基礎中国語コミュニケーション

呉　暁林

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。受講者が中国語の基礎的な読み（発音）、書き、聞き、話す（会話）力を習得できることを目指します。語学学習に加えて、中国文化の紹介なども適宜とり入れていきます。
なお、本授業は「基礎中国語Ⅰ」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。また、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】
受講者が以下の学力を習得できることを到達目標とします。
(1)正確な発音を身につける。
(2)発音表記が正確に読める。
(3)基礎的な文法を理解する。
(4)初歩的な会話ができる。
(5)基礎的な作文ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業ではスマホ、ノートPCなどを使う書き読みの練習、アプリを使う録音と発音の検証，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。
本授業は教科書の前半部分（発音篇、本篇：第1課～第6課）を学びます。ピンインの読み書き、基礎語彙の発音、簡体字（中国語の漢字）の読み書き、文法の学習を行いながら、基礎的な日常会話を学びます。また、中国文化にも親しみます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 発音(1)：単母音と日常会話	授業の進め方について 発音(1)：発音表記・単母音 発音練習とあいさつ言葉。練習問題。
第2回	発音(2)：複母音と日常会話	発音(2)：複母音 発音練習とあいさつ言葉。練習問題
第3回	発音(3)：子音と日常会話	発音(3)：子音 発音練習とあいさつ言葉。練習問題。
第4回	発音(4)：鼻音と日常会話	発音(4)：鼻音 発音練習とあいさつ言葉。練習問題。
第5回	発音(5)：声調の組み合わせ	発音(5)：声調の組み合わせ 発音練習とあいさつ言葉。練習問題。
第6回	表現と語彙(1) 第1課	動詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第7回	表現と語彙(2) 第2課	疑問詞疑問文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第8回	表現と語彙(3) 第3課	所有の表現 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第9回	表現と語彙(4) 第4課	形容詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第10回	表現と語彙(5) 第5課	存在の表現 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第11回	表現と語彙(6) 第6課	名詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第12回	復習	復習（第1～6課）
第13回	期末試験1	期末試験（筆記）
第14回	期末試験2・まとめと復習	期末試験（音読） 第1課～第6課の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
中国語によるコミュニケーション能力を養うには、できるだけ多く練習することが大切です。教科書付録のCDも活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの聞き取りや発音の反復練習をしてみましょう。
漢字に頼らず、耳を慣らしてください。

【テキスト（教科書）】
丸尾誠・勝川裕子・李軼倫『初級中国語　この一冊ー4技能の習得を目指してー　改訂版』金星堂。

【参考書】
『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』同学社、2016年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（受講態度・発声音量）20％、課題内容30％、期末試験50％（筆記30％、音読20％）として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
漢字は、見て理解できても、いざ書こうとするとわからなくなるもの。書いて覚えましょう。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC、スマホを持参してください。

【Outline (in English)】
Chinese Communication
[Course Outline]
This course is intended for students with no prior knowledge of Chinese. It develops basic skills in listening, speaking, reading, and writing, with particular emphasis on accurate pronunciation. Students are encouraged to enroll in Basic Chinese 1 offered in the spring semester.
[Learning Objectives]
To develop students' foundational skills in listening, speaking, reading, and writing.
[Learning Activities Outside the Classroom]
Weekly assignments requiring approximately one hour of independent study.
[Grading Criteria]
Final examination: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%)
Weekly assignments: 30%
In-class participation: 10%

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

中級中国語コミュニケーション

景　旻

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は基礎中国語と中国語中級（前期）を学習した学生を対象としています。日記風の文章の講読を行います。受講者が文章を読み、書くために必要な基本表現を身につけ、読解力と表現力の強化をします。

【到達目標】
中国語の理解力、表現力を身につけることを目指します。
11月後半に実施される中国語検定（4級）の合格を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
さまざまな出来事を記述する文章を題材に、音読、リスニング、作文と翻訳の訓練を通して、基本的表現を習得します。また、過去問題などを使い、中国語検定（4級）対策も行います。
毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発音の復習と日常用語	教科書発音編
第2回	第８課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第3回	文法の復習	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第4回	第９課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第5回	第１０課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第6回	第１１課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第7回	第１２課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第8回	第１３課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第9回	第１４課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第10回	文法の復習と確認	文型と表現の復習、リスニング、作文、
第11回	中国語検定試験対策	過去問を解く
第12回	中国語検定試験対策	過去問を解く
第13回	後期試験	試験時間60分
第14回	試験公評	答え合わせと問題発見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

【テキスト（教科書）】
『すぐ読める中国語』胡金定ほか著、朝日出版社、2013年。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。平常点30%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験70%を総合して評価します。なお資格取得者には追加点を与えます。
初回授業のガイダンスで平常点（特に出席）を計算する方法を紹介しますので、初回授業を欠席となる方は、必ず後で確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
語学の勉強は日々の積み重ねが大切です。
期待できる教育効果を得るには、学生が欠かさず授業に出席し、積極的に授業参加すること、授業中、教員が学習要点を提示し、発音指導と練習を繰り返すこと、どちらも必要です。
こまめに輪読や復習することが有効だと思われるので、本授業でも行う予定です。

【Outline (in English)】
This course is designed for students who have completed both basic and intermediate Chinese courses in previous semesters. The course is expected to develop students' proficiency in reading comprehension, listening and writing.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Evaluation will be based on a comprehensive assessment: 30% from regular performance (attendance, class participation, etc.) and 70% from the final exam.

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

中級中国語コミュニケーション

杉本　公子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎中国語を学習した学生を主な対象としています。少しまとまった文章に触れながら、語彙を増やしつつ基礎文法の再確認をし、中国語を正確に理解し、表現する力を養います。また、中国語検定試験にも対応します。
漢字を使う別の言語を知ることで、他者理解・自己理解の幅を広げることが目的です。

【到達目標】
受講者が以下の学力を習得できることを到達目標とします。
(1)学んだ基礎事項が応用できる。
(2)少しまとまった中国語が読める。聞ける。
(3)会話、作文で、大胆にとりくみ、自信をもって表現できる。
(4)新しい文法事項が理解できる。
(5)希望者は、中国語検定試験（準4級以上）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
音読、作文、リスニング練習を行い、すでに学習してきた内容の定着をめざします。
必要に応じて中国語検定対策も行います。適宜、中国文化の紹介をします。
課ごとに課題を出します。提出とフィードバックは「学習支援システム」を通じて、内容ごとに分けて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国語検定案内	中国語検定問題紹介
	第10課(1)	助詞「了」・兼語文・疑問詞の用法
第2回	第10課(2)	助詞「了」・兼語文・疑問詞の用法 練習問題
第3回	第11課(1)	接続詞・二重目的語・語気助詞
第4回	第11課(2)	接続詞・二重目的語・語気助詞 練習問題
第5回	第12課(1)	「～なので」・結果補語・「～を」
第6回	第12課(2)	「～なので」・結果補語・「～を」 練習問題
第7回	中間テスト	筆記・リスニング
第8回	第13課(1)	比較・受け身・可能性
第9回	第13課(2)	比較・受け身・可能性 練習問題
第10回	第14課(1)	「もうすぐ～」・「少しも～」・可能補語
第11回	第14課(2)	「もうすぐ～」・「少しも～」・可能補語 練習問題
第12回	復習3	復習3：第9課から第14課までの文法のまとめ 確認練習問題
第13回	期末試験1	筆記・リスニング
第14回	期末試験2	音読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
教科書の予習・復習。付属の音声教材を使っての音読練習、リスニング練習。

【テキスト（教科書）】
『すぐ読める中国語　改訂版』、胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016年。

【参考書】
『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』、相原茂・石田知子・戸沢市子著、同学社、2016年。
中国語検定協会ホームページ。

【成績評価の方法と基準】
出席を基本とします。平常点（受講態度・発声音量）10％、課題内容30％、試験60％（筆記・リスニング40％、音読20％）として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】
中間テストを実施し、学びの重点がつかめるようにします。

【Outline (in English)】
Intermediate Chinese Communication
[Course Outline] Students are offered training in listening, reading, and writing, and will be introduced to more complex grammatical structures.
[Learning Objectives] The goals are to improve students' comprehensive Chinese language skills and lay a solid foundation for further Chinese language study.
[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.
[Grading Criteria] Examinations: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%), weekly assignments: 30%, in-class contribution: 10%.

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

中級中国語コミュニケーション

渡辺　浩司

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は基礎中国語コミュニケーション（春学期）を学習した学生を対象とします。文章を読む・書くために必要な基本表現を身につけ、読解力と表現力の強化を図ります。

【到達目標】
受講者が中国語の文章表現を口（声に出して読める）、音（耳から聴きとれる）、手（漢字と単語を書ける）ようにマスターすることを目指します。
3月に実施される中国語検定（4級）の合格を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教材の文章を題材に、音読、リスニング、作文と翻訳の訓練を通して、基本的表現を習得します。また、必要に応じて中国語検定（4級）対策も行います。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。
小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、希望者に、後日、個別の学習ポイントを指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと復習２	授業計画 文法のまとめ・確認テスト
第2回	第10課	動態助詞“了”・構造助詞“得”・兼語文・“☒”の用法・疑問詞の用法
第3回	第10課	疑問詞・離合動詞・本文・練習
第4回	第11課	接続詞“要是”・動態助詞“了”・二重目的語・助詞“着”・語気助詞“吧”
第5回	第11課	方位詞・乗り物・本文・練習
第6回	第12課	“因☒～，所以…”・構造助詞“地”・結果補語・“把”構文・助詞“着”
第7回	第12課	結果補語・本文・練習
第8回	第13課	前置詞“比”・“A没有B～”・“被”構文・“一～，就…”・助動詞“会”
第9回	第13課	病気・天候・本文・練習
第10回	第14課	“快要～了”・“一点儿都(/也)”＋否定文・二つの“了”の併用・お金の言い方・可能補語
第11回	第14課	可能補語・通貨・本文・練習
第12回	復習３	文法のまとめ・確認テスト
第13回	第10課からの応用練習	第10課～第14課の文法や単語を利用した作文
第14回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は1時間を標準とします。教科書の出版社が公開している音声アプリを活用して，授業で学んだ教科書各課の新出単語や会話文、短文などの音読の反復練習をしてみましょう。NHKで放送される「テレビで中国語」や中国語のドラマ・映画を見てみましょう。中国語語学関連の携帯アプリも使ってみましょう。

【テキスト（教科書）】
『すぐよめる中国語　改訂版』胡金定・吐山明月著、朝日出版社、本体価格2500円

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験70％、平常点30％で評価します。欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない。（遅刻、早退は二回で欠席一回とする、忌引による公欠は認めない）
中国語検定試験の受験者および合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】
教科書の出版社が公開している音声アプリをダウンロードして利用するのに、インターネット環境とパソコンかスマートフォンが必要です。

【その他の重要事項】
「学習支援システム」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This is a class for students who have already learned "Basic Chinese Communication".
This course will focus on Chinese pronunciation, how to read pronunciation notation, reading and writing kanji(simplified letters),and provide practice applying basic vocabulary, grammar and conversation patterns.
At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:
- pronounce words and sentences accurately.
- acquire basic grammar and read the contents of texts.
- understand and use natural conversational expressions.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%.

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

中級中国語リーディング

呉　暁林

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、中級レベルの中国語を習得した学生を対象とします。まとまった文章を読む力が無理なく着実に身につくことを目指します。本文の音読、重要な文法事項と表現をまとめたポイントの理解、練習問題の取り組みを通して学びます。

【到達目標】
受講者が以下の学力を習得できることを到達目標とします。
・長文の構造を理解し、意味がつかめる。
・声に出して読める。
・簡体字の文がある程度難なく読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・初級文法を復習して無理なくレベルアップしていきます
・本文の音読をしてピンインの力を固めていきます。
・本文の文の構造をしっかり理解し、意味をとります。
・日本語に訳して日本語と中国語の変換、多様な表現を理解していきます。
・三課ごとに異なる形式の練習問題に取り組み、学習内容をを確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について 初級中国語文法の復習
第2回	第１課大学生の週末	音読 読解のポイント 練習問題 読解と翻訳
第3回	第２課飲食習慣	音読 読解のポイント 練習問題 読解と翻訳
第4回	第３課　北京の交通	音読 読解のポイント 練習問題 読解と翻訳
第5回	第４課　好まれる数字	音読 読解のポイント 練習問題 読解と翻訳
第6回	第５課　大学生のアルバイト	音読 読解のポイント 練習問題 読解と翻訳
第7回	第６課　集団生活	音読 読解のポイント 練習問題 読解と翻訳
第8回	第７課　値段の交渉	音読 読解のポイント 練習問題 読解と翻訳
第9回	第８課　プレゼントと風習	音読 読解のポイント 練習問題 読解と翻訳
第10回	第９課　中国的結婚式	音読 読解のポイント 練習問題 読解と翻訳
第11回	第10課　とも働きの家庭	音読 読解のポイント 練習問題 読解と翻訳
第12回	第11課　中国人の呼称	音読 読解のポイント 練習問題 読解と翻訳
第13回	第12課　理想的な職業	音読 読解のポイント 練習問題 読解と翻訳
第14回	期末試験	文章の読解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は１時間を標準とする】
教科書についているCDを聞けるようにスマホやクラウトに変換しておく。
必ず声に出して音読するようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
吉田泰謙・相原里美・葛婧『知っておきたい中国事情改訂版』白水社2022年第9刷。

【参考書】
中国語検定協会ホームページ、HSKホームページ
『ケンタ君の中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011年。
『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』、相原茂・石田知子・戸沢市子著、同学社、2016年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（音読、取り組み）40％、期末試験60％として総合評価します。
中国語スピーチコンテストや作文コンテストの参加や各種中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度アンケート実施の対象外。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（スマホ利用も可）。情報機器。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course aims to improve students' reading and expressive skills in Chinese.
[Learning Objectives]
The objective of this course is to strengthen students' foundational skills in Chinese reading comprehension and to enhance their understanding of Chinese society and social life.

This course is intended for students who have acquired an intermediate level of Chinese. It aims to enable students to develop the ability to read coherent texts steadily and naturally. Instruction will be conducted through reading texts aloud, analyzing key grammatical points and expressions, and completing practice exercises.
[Learning Activities Outside the Classroom]
The standard study time outside of class for preparation and review is approximately one hour per session.
[Grading Criteria]
Examinations: 40%
In-class participation:60%

LANc100LC（中国語 / Chinese language education 100）

中級中国語ライティング

呉　暁林

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が自ら表現し、発信する立場から中国語を捉え直し、今まで習ってきたさまざまな文型・語彙、表現を日常生活のいろんな場面を想定してアクティブに使う訓練を行います。

【到達目標】
学習者が教科書の内容を学び、アプリとソフトを活用して確実に中国語で自分の身近な話題を発信できることを到達目標とします。実践的に中国語スピーチコンテストや中国語作文コンクールなどにい積極的に参加することで実績を残していくことを勧めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業ではスマホ、ノート PC などを使う書き読みの練習を行います。手本となる文章をベースに模倣・書き換え練習を通して、中国語の文章力を着実に習得します。また、中国人のコミュニケーションツールや LINE などを使用し、翻訳ソフトも活用していきます。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：中国語で作文しましょう！	授業計画と学習方法の紹介、アプリとソフトの案内。
第2回	自己紹介	作文の形式と標点符号の使い方、主語の省略、人称代名詞と指示代名詞。
第3回	我的好朋友	人物の描写、接続詞
第4回	做海☒	ポスターの書き方 書き言葉と話し言葉
第5回	我的拿手菜	プロセスを説明する文種の書き方 順番を表す表現 「把」構文
第6回	充☒快☒的一天	記述文を書くときの注意点 動作の順番、動作を行う時間 引用するときの書き方
第7回	我的☒好	文章の書き出し 使役表現
第8回	打工	出来事の書き方 文章の最後の書き方
第9回	☒☒旅行	旅行記を書く時の注意点 五感に訴える表現 理由の書き方
第10回	我☒的大学	四字熟語 修飾語と補語
第11回	我的故☒	場所の紹介文を書く時の注意点 比喩表現 自分の考え方や気持ちを表すときの書き方
第12回	我喜☒的一本☒	作品を紹介する文章の書き方 作品を紹介するときの表現 薦めるときの書き方
第13回	期末発表	学生が書いた作文を口頭で発表する。ライティングとスピーキングの総合訓練。
第14回	まとめと解説	期末レポート（小作文）のフィードバック、及び文法と誤用例の総復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は 1 時間を標準とする】学生は基本的な中国語簡体字の読み書きを身につけ、教科書についている CD を授業前と後に聞いてみてください。中国語を使ってインターネットを利用してみてください。パソコン、スマホの中国語入力法を覚えてみてください。

【テキスト（教科書）】
楊彩虹・趙晴・陳敏著『文章力アップ　伝わる中国語作文』朝日出版2021年

【参考書】
及川淳子著『2年めの伝える中国語ー自分のこと日本のこと』白水社2019年
郭春貴著『誤用から学ぶ中国語』
相原茂著『作文ルール 66 日中翻訳技法』

【成績評価の方法と基準】
受講状況と作文宿題などの平常点は50%、学習発表30%、期末レポートは20%とします。
中国語スピーチコンテストや中国語作文コンクールなどに参加した学生には追加点を与えます。

【学生の意見等からの気づき】
積極的にアプリやソフトを使って習いましょう。実験、課題など取り組まなければならないことが多い中で、効率的な学習を如何に工夫するのか、一緒に考えていきたいです。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンやスマートフォンを授業に持参してください。

【Outline (in English)】
This course aims to help students develop their language skills. Students will actively practice writing in a variety of simulated everyday situations using the sentence patterns and vocabulary they have learned.
Students are expected to spend approximately two hours per session on preparation and review.
Final grades will be determined as follows: reading and writing assignments (50%), presentations (30%), and short reports (20%).

LANe100LC（英語 / English language education 100）

SAプログラム

ＦＲＩＴＺ　ＥＲＩＫ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a 4-week study abroad course at the University of California, Davis (UCD) campus in the United States. There is also a mandatory three-day course at Hosei University in addition to required orientation meetings.
The study abroad course is meant to help students experience US culture and academic life.

【到達目標】
Students will be able to get to know their fellow UCD study abroad participants in English.
Students will be able to learn about California and US culture and customs.
Students will be able to learn new English vocabulary and practice their communication skills.
Students will be able to share and reflect on their study abroad experiences in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP3」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Group and pair discussions will occur throughout the course. The professors will lecture about relevant content. Presentations will be used to evaluate students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Study Abroad Preparation at Hosei University	Host Families California Culture Campus Life
第2回	Study Abroad Preparation at Hosei University	Davis Area Local Events Weekend Trips & Surrounding Areas US cultural tips
第3回	Coursework at University of California Davis	Students attend classes at UCD either focused on science and technology or US culture and basic communication skills.
第4回	Coursework at University of California Davis	Students attend classes at UCD either focused on science and technology or US culture and basic communication skills.
第5回	Coursework at University of California Davis	Students attend classes at UCD either focused on science and technology or US culture and basic communication skills.
第6回	Coursework at University of California Davis	Students attend classes at UCD either focused on science and technology or US culture and basic communication skills.
第7回	Coursework at University of California Davis	Students attend classes at UCD either focused on science and technology or US culture and basic communication skills.
第8回	Coursework at University of California Davis	Students attend classes at UCD either focused on science and technology or US culture and basic communication skills.
第9回	Coursework at University of California Davis	Students attend classes at UCD either focused on science and technology or US culture and basic communication skills.
第10回	Coursework at University of California Davis	Students attend classes at UCD either focused on science and technology or US culture and basic communication skills.
第11回	Coursework at University of California Davis	Students attend classes at UCD either focused on science and technology or US culture and basic communication skills.
第12回	Coursework at University of California Davis	Students attend classes at UCD either focused on science and technology or US culture and basic communication skills.
第13回	Coursework at University of California Davis	Students attend classes at UCD either focused on science and technology or US culture and basic communication skills.
第14回	Study Abroad Reflection at Hosei University	Student Presentations Reflections

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be required to make their presentations outside of class in addition to completing the required coursework at UCD.

【テキスト（教科書）】
All materials will be provided by the professor online or in class.

【参考書】
The professor will provide any references in class.

【成績評価の方法と基準】
This is a pass/not pass course. Students are required to attend and participate in the three-day course as well as the 4-week UCD course.

【学生の意見等からの気づき】
This is a new course.

【Outline (in English)】
Outline: Before students study abroad, they will take 2 classes that will help them to meet and speak with their fellow study abroad participants in English. Students will then travel to Davis California where they will take 4 weeks of classes (Monday-Friday) on either science and technology or US culture and basic communication skills.
After returning from abroad, students will take one final class where they present, share and reflect on their study abroad experiences.
Learning Objectives: Students will be able to learn about and experience US culture while improving their English skills.
Learning Activities Outside the Classroom: There are many chances for students to learn outside the classroom by joining a club at UCD, interacting with host families, going on optional trips around California, and socializing in English with students from around the world.
Grading Criteria: Students need to attend and complete the 4-week course at UCD and the 3-day course at Hosei University in order to pass and earn credit.

法政大学
HOSEI University